

日本医科大学研究業績年報

第 47 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 47



平成 12 (2000) 年度

April 2000 | March 2001

日本医科大学研究業績年報

第 47 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 47

平成 12 (2000) 年度

April 2000—March 2001

まえがき

学長 浅野 伍朗

20世紀も最後となり、新しい世紀での医学領域における教育・研究・医療の改革には大きな期待が寄せられています。

ここに本学における2000年度〔平成12年度〕の研究業績年報が完成しました。これは基礎科学、基礎医学、臨床医学、老人病研究所など全学各施設からの研究成果をまとめたもので原著論文〔欧文・和文〕、学会発表〔国際・国内〕、特別講演、総説、著書等広い範囲に及んでいます。これらの論文の掲載誌をみると国際的にも評価されている専門誌が多く、研究の質の向上がみられます。論文総数は1964編と増加すると共にその中の欧文論文数の比率をみても35.64%と前年度に比較して上昇をみます（図1）。

新世紀には大学改革の中でのさらなる情報化、国際化の推進が求められています。これからの競争社会の中での研究の実施にあたり、充実した研究環境の整備とその支援体制が必要であります。そして優れた独創的な研究成果を発信することで社会への貢献に期待があります。

本学では学術研究の高度化推進経費「ハイテク・リサーチセンター整備事業、学術フロンティア推進事業、バイオベンチャー研究開発等経費、リサーチアシスタント・ポストドクター等支援費」等を取得して研究の活性化が図られております。

これらの研究実績は私立大学等経常費補助金、科学研究費（図2）、厚生省科学研究費など各種補助金の取得にも関連するものと考えられ、本学における各専門領域におけるこれからの研究成果がたのしみです。

終わりに、この業績集の編集にご尽力下さいました芝崎研究委員会委員長、大学事務局の皆様には謝意を表します。

図1 論文発表総数・和文・欧文論文数推移

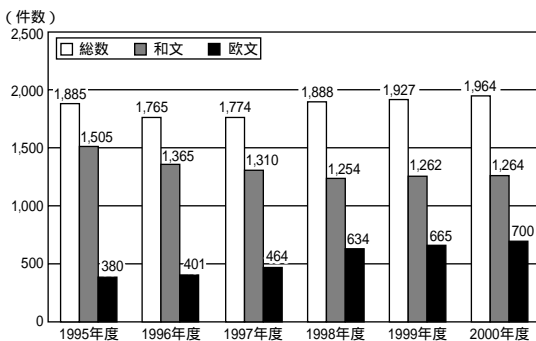
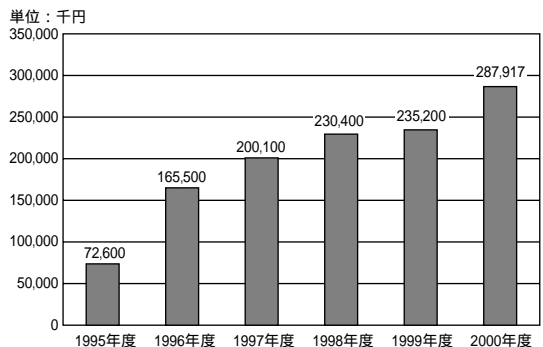


図2 科学研究費補助金取得推移



目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[哲学・倫理学]	1
[心理学]	2
[歴史学]	3
[文化人類学]	4
[経済学]	4
2. 自然科学	5
[数 学]	5
[物理学]	6
[化 学]	7
[生物学]	8
3. 外国語	11
[英 語]	11
[ドイツ語]	12
4. スポーツ科学	12
[スポーツ科学]	12

〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座	17
2. 解剖学第二講座	20
3. 生理学第一講座	23
4. 生理学第二講座	26
5. 生化学第一講座	29
6. 生化学第二講座	32
7. 薬理学講座	36
[薬理学]	36
[臨床薬理センター]	38
8. 病理学第一講座	41
9. 病理学第二講座	48
10. 微生物学・免疫学講座	55
11. 衛生学・公衆衛生学講座	60
12. 法医学講座	62
13. 医療管理学講座	65
14. 基礎医学共同研究利用施設	69
[実験動物管理室]	69
[中央電子顕微鏡研究施設]	71
[情報科学センター]	73

〔3〕臨床医学

1. 内科学第一講座	81
〔 付属病院第 1 内科 〕	81
〔 付属病院老人科 〕	95
〔 第二病院内科 〕	99
〔 多摩永山病院内科 〕(一般内科, 循環器内科)	101
2. 内科学第二講座	106
〔 付属病院第 2 内科 〕	106
〔 付属病院リウマチ外科 〕	119
3. 内科学第三講座	124
〔 付属病院第 3 内科 〕(血液, 消化器, 内分泌代謝内科)	124
4. 内科学第四講座	136
〔 付属病院第 4 内科 〕	136
5. 精神医学講座	145
〔 付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科 〕	145
〔 付属病院東洋医学科 〕	151
6. 小児科学講座	153
〔 付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科 〕	153
7. 放射線医学講座	163
〔 付属病院放射線科 〕	163
〔 第二病院放射線科 〕	175
〔 多摩永山病院放射線科 〕	177
〔 千葉北総病院放射線科 〕	180
8. 皮膚科学講座	183
〔 付属病院皮膚科 〕	183
〔 第二病院皮膚科 〕	190
〔 多摩永山病院皮膚科 〕	190
〔 千葉北総病院皮膚科 〕	192
9. 外科学第一講座	193
〔 付属病院第 1 外科 〕	193
〔 多摩永山病院外科 〕	217
〔 多摩永山病院消化器科 〕	224
〔 千葉北総病院外科 〕	227
10. 外科学第二講座	231
〔 付属病院第 2 外科 〕	231
〔 第二病院外科 〕	246
〔 多摩永山病院内視鏡科 〕	248
〔 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科 〕	251

11. 脳神経外科学講座	253
[付属病院脳神経外科]	253
[第二病院脳神経外科]	270
[多摩永山病院脳神経外科]	274
[千葉北総病院脳神経外科]	277
12. 整形外科科学講座	283
[付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科]	283
13. 産婦人科学講座	293
[付属病院産婦人科]	293
[第二病院産婦人科]	306
[多摩永山病院産婦人科]	309
[千葉北総病院産婦人科]	313
14. 耳鼻咽喉科学講座	316
[付属病院耳鼻咽喉科]	316
[第二病院耳鼻咽喉科]	327
[多摩永山病院耳鼻咽喉科]	328
[千葉北総病院耳鼻咽喉科]	329
15. 泌尿器科学講座	332
[付属病院泌尿器科]	332
[第二病院泌尿器科]	338
[多摩永山病院泌尿器科]	340
[千葉北総病院泌尿器科]	341
16. 眼科学講座	344
[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科]	344
[千葉北総病院眼科]	349
17. 麻酔科学講座	352
[付属病院麻酔科]	352
[第二病院麻酔科]	357
[多摩永山病院麻酔科]	359
[千葉北総病院麻酔科]	361
18. 救急医学講座	365
[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック]	365
[多摩永山病院救命救急センター]	381
[千葉北総病院救命救急センター]	387
19. 形成外科学講座	393
[付属病院形成外科]	393
[第二病院形成外科]	398
[千葉北総病院形成外科]	400

20 . 付属病院付置施設等	401
[付属病院集中治療室]	401
[付属病院病理部]	406
[付属病院中央検査部]	409
[付属病院薬剤部]	413
[付属病院生理機能センター]	416
[付属病院看護部]	417
[付属病院放射線科技師室]	419
[日本医科大学腎クリニック]	420
[ワクチン療法研究施設]	421
21 . 第二病院付置施設等	423
[第二病院消化器病センター]	423
[第二病院リハビリテーションセンター]	427
[第二病院病理部]	431
[第二病院中央検査室]	438
[第二病院薬剤科]	438
22 . 多摩永山病院付置施設等	440
[多摩永山病院病理部]	440
[多摩永山病院中央検査室]	445
[多摩永山病院薬剤科]	446
[多摩永山病院看護部]	448
23 . 千葉北総病院付置施設等	449
[千葉北総病院内科]	449
[千葉北総病院集中治療部]	457
[千葉北総病院病理部]	460
[千葉北総病院中央検査室]	465
[千葉北総病院薬剤科]	466
[千葉北総病院中央画像検査室]	467
[千葉北総病院歯科]	470
〔4〕付置研究施設	
1 . 老人病研究所	475
[病理学部門]	475
[生化学部門]	477
[疫学部門]	480
[分子生物学部門]	483
[臨床部門]	493

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況	499
1. 平成12年度科学研究費補助金交付決定一覧	499
2. 平成12年度科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況	505
3. 平成12年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況	505
4. 平成12年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況	507
5. 平成12年度各種補助金の交付状況一覧 [内訳]	509

〔 1 〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

[哲学・倫理学]

研究概要

現在取り組んでいるテーマは二つある。一つは、古典研究であり、もう一つが生命倫理研究である。

1. 「ドイツ観念論における（シェリングとヘーゲルを中心とする）自然哲学の研究」というテーマのもとでこれまでの研究をまとめる方向で仕事をしている。1) とくに資料収集に関しては、レシュラウプ、プファフなど当時のガルヴァニズム、ブラウン説論争に係る文献をマイクロフィルムで集めている。現在集中的にレシュラウプを分析し、有名なフーフェラントとの論争という形で成果をまとめる予定である。2) 理論的研究にかんしては、まだ刊行されていないが、哲学事典において、若干長めに「自然哲学」という項目を書き、それによって見通しを確定した。つまり、ドイツ観念論内部においては、A. フィヒテーシェリング対立が、理論的な基本線を確定すること。B. シェリング派内では、エッセンマイヤーの存在が、シェリングのカントからの乖離を確定する役割を果たしていること。C. このドイツ観念論の形成史全体にたいしてヤコービ・ケッペン・フリースの線が常に批判者の位置にいること。そしてこの線が現代哲学の基本対立を形成することである。この理論研究では、「紀要」にBを発表始めている。3) 研究動向のフォローに関しては、ドイツ内の二つの研究集団をフォローしている。この点は次年度まとめる予定である。さらに上記の研究との関連で、ヘーゲルの論理学がやはり研究の要になる予感がするために、その研究に着手始めている。さらに2) - Cとの関連もあり、今年発足した現代の新カント派の研究会「カッシーラー研究会」にも加わった。なお3月にはドイツに行き、研究上の交流と仕事の打ち合わせを行った。

2. 生命倫理に関しては、当該学会の理事になり、そのために現在の最先端の議論をフォローする作業が中心となっている。私自身のこの方面で持続的にフォローしているテーマは「医療情報と倫理」の問題と「出生にかんする諸問題」である。外国との交流がこの面でも生じてきている。本年度は「学術振興会」の招聘でMarburg大学 Johannes Reiter 教授を囲んでのシンポジウム、および東京での2回の講演をプロデュースした。とくに生命倫理の問題では、研究ネット形成が重要なので、研究発表などは、重視している。またドイツ及び日本の研究者とはメールや書簡のやりとり、インターネットを活用して情報交換を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 長島 隆：エッセンマイヤーの「有機体」論：カント、シェリングそしてブラウン説。自然哲学研究 2000；(11)：1-20。
- 2) 長島 隆：シェリングとエッセンマイヤー：往復書簡の中から、シェリングの思想発展におけるエッセンマイヤーとの論争の位置・付録「シェリングーエッセンマイヤー往復書簡」整理対照表。日本医科大学基礎科学紀要 2001；(29)：47-70。
- 3) 長島 隆：生殖医学をめぐる議論と「子どもの権利」：不妊治療における「子どもの権利」と「子ども」の過程的性格。医療と倫理（医学哲学倫理学会関東支部機関誌）2001；(3)：53-65。

(2) 研究報告書：

- 1) 長島 隆：イェルク・ミヒャエリス「連邦癌登録法の実施とその長期間の諸結果の評価」(翻訳)。『厚生科学研究費補助金・厚生科学研究事業・疫学的手法を用いた研究などにおける生命倫理問題および個人情報保護の在り方にかんする調査研究』(主任研究者・丸山英二)平成12年度総括研究報告書 2001；pp97-106。

著 書

- 1) Nagashima T : [自著] Aufklärung und Selbstbestimmung. Patient und Arzt in Japan . Berliner Medizinische Schriften (hvsg. v. Uwe Körner), 2000 ; pp1-40 , Humanitas Verlag .
- 2) 長島 隆 : [共著] ヘーゲルの「有機体」論 体系期ヘーゲル自然哲学の構造 . ヘーゲルを学ぶ人のために (加藤尚武編), 2000 ; pp102-115 , 世界思想社 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 長島 隆 : ヒトゲノム解析研究における個人情報と個人 (患者) のプライバシー . 京都 Fine 医療情報研究会 (日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」「情報倫理の構築」プロジェクト (京大文学研究科 , 広島大学文学部 , 千葉大学文学部) 学術振興会未来開拓「情報倫理の構築」プロジェクト (京都)), 2000 . 10 .
- 2) 伊藤高司¹⁾, 長島 隆 (¹⁾ 日本医科大学情報科学センター): 臨床治験におけるモニターシステムと情報倫理 . 京都 Fine 医療情報研究会 (日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」「情報倫理の構築」プロジェクト (京大文学研究科 , 広島大学文学部 , 千葉大学文学部) 学術振興会未来開拓「情報倫理の構築」プロジェクト (京都)), 2000 . 10 .

(2) シンポジウム :

- 1) 長島 隆 : 特定質問 (「着床前診断への倫理的視座」). バイオエシックスセミナー富山 , 2000 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) 長島 隆 : 生命倫理教育の在り方について : 若干の経験の中から . 日本医学哲学倫理学会関東支部会総合部会研究発表会 , 2000 . 9 .
- 2) 長島 隆 , 伊藤高司¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学情報科学センター): 医療情報と患者の権利 : CIOMS の議論とリスボン宣言から . 第 20 回医療情報学連合大会 , 2000 . 11 .
- 3) 長島 隆 : ヘーゲルの「化学過程」論 : 体系期ヘーゲルの「化学」認識の進化について . 京都ヘーゲル読書会 , 2001 . 1 .
- 4) 長島 隆 : アンドレアス・レシュラウプの「病気」概念について . 自然哲学研究会第 38 回研究発表会 , 2001 . 1 .

[心理学]

研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に加えて、星と波テストの創案者である Ursula Ave = Lallemand の「心理療法におけるワルテック描画テスト」と「バウムテスト」の翻訳の責任編集を平行して行った。これらの翻訳本は 2001 年に出版の予定である。「アヴェ・ラルマン星と波テスト・サマーセミナー」を企画し、8月にドイツ・ミュンヘンで開催した。日本から 10 名の研究者が参加した。

1. 「日本における星と波テストの試み - その III」を国士舘大学の鈴木康明氏と学会発表した。また「星と波テストサマーセミナー」をこのはな心理臨床ジャーナルに海外レポートとして掲載した。

2. 7月の日本健康心理学会で「防音具がノイズ環境において気分と作業に与える影響について」を発表した。本学紀要に原著としてまとめた。

3. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動を本年度も行った。東京コラージュ療法研究会を6月、9月、11月、2001年1月、3月の5回行った。病院臨床 (小児科) , 教育 2 回 (高校保健室 , 小学校) , 学生相談 , 司法 (裁判所) の各領域からの事例研究を行った。長野県教育センター , 法務省研修センター , 全国学生相談研修会 , 全国学校教育相談研修会 , 広島県・千葉県臨床心理士会などで講師を務めた。また日本学生相談学会 , 日本心理臨床学会で研修会の

講師や座長を，日本芸術療法学会で指定討論者や座長を務めた．

4. 学生相談室が開室以来6年目となった．新入生全員にUPI（学生健康調査）テストを行った．

1999年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第5号を発行した．また日本学生相談学会の理事として資格問題を検討する特別委員会委員を務めた．

研究業績

論文

(1) 原著：

1) 杉浦京子，増沢隆太，森 秀都：防音具がノイズ環境において気分と作業に与える影響について．日本医科大学基礎科学紀要 2000；(29)：1-8．

(2) コメント：

1) 杉浦京子：芳野さんの論文を読んで．全国学校教育相談研究会研究紀要 2001；(35)：19-19．

(3) 海外リポート：

1) 杉浦京子：アベ・ラルマン 星と波描画テスト ミュンヘン・サマーセミナー．このはな心理臨床ジャーナル 2001；6(1)：124-127．

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 杉浦京子，森谷寛之，中村勝治，萩原ゆかり，三輪友木子：コラージュ療法におけるアセスメントとその用い方．日本心理臨床学会，2000．9．

2) 杉浦京子，高良 聖：芸術療法におけるイメージと言語．日本芸術療法学会，2000．10．

(2) ワークショップ：

1) 杉浦京子：コラージュ療法入門．日本心理臨床学会，2000．9．

(3) ポスターセッション：

1) 杉浦京子，増沢隆太：防音具がノイズ環境において気分と作業に与える影響について．日本健康心理学会，2000．8．

2) 杉浦京子，鈴木康明：日本における星と波テストの試み：そのIII：人格診断テストとして．日本心理臨床学会，2000．9．

(4) 分科会：

1) 杉浦京子，畠山朝子：学生相談で用いる心理・適正検査．全国学生相談研修会，2000．12．

[歴史学]

研究概要

本年は，とにかく北条時宗，北条時宗で，終始した感がある．

北条時宗あるいは蒙古襲来に関する小説は多数あり，現に今も数多く書かれている．しかし昭和20年の敗戦以来の約半世紀余の間，第二次世界大戦中の軍国主義的風潮への反動の故か，北条時宗および蒙古襲来などに関する研究は，とにかく少なかった．

そのような風潮の中で，ひとり鎌倉北条氏について研究してきたのが，どうやら小生だけだったらしい．そのようなわけで，NHK・TV大河ドラマ「北条時宗」の時代考証を担当することになると，そのドラマの下敷としての『時頼と時宗』（NHK出版）をはじめとして，とにかく時宗関係の調査・研究・執筆および講演が相い続くことになった．

しかし地道な鎌倉研究なども、多忙な間隙を縫って行なってきたことも、やはり付言しておきたい。朝日カルチャーなどでの成人教育も、もちろん行なっている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 奥富敬之：陰謀の府鎌倉と北条氏．別冊歴史読本 2000；25(22)：1-5．
- 2) 奥富敬之：北条時宗の基礎知識．歴史研究 2001；(476)：18-24．
- 3) 奥富敬之：偉大なる巖父五代執権時頼．歴史と旅 2001；28(2)：74-79．
- 4) 奥富敬之：東国武士たちの結集した鎌倉幕府を再評価する．歴史と旅 2001；28(3)：100-105．

著書

- 1) 奥富敬之：〔分担〕軍記研究と歴史学．軍記文学とその周縁（梶原正昭編），2000；pp181-198，汲古書院．
- 2) 奥富敬之：〔自著〕時頼と時宗，2000；pp1-410，NHK出版．
- 3) 奥富敬之：〔自著〕北条時宗：史上最強の帝国に挑んだ男，2000；pp1-320，角川書店．
- 4) 奥富敬之：〔分担〕中世鎌倉材木座の風景．時と文化：日本史攷究の視座（日本史攷究会編），2000；pp101-114，歴研．
- 5) 奥富敬之：〔分担〕北条時宗とその時代．北条時宗の時代（奥富敬之監修），2000；pp37-43，日本放送出版協会．
- 6) 奥富敬之：〔監修〕北条の本拠地鎌倉をめぐる／絵で見るドラマの時代／ドラマの時代年表．NHK大河ドラマ・ストーリー北条時宗前編（向坂好生編），2001；pp145-185，日本放送出版協会．

[文化人類学]

研究概要

文化・文明の構造と機能，人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性，生活の豊かさの本質，理想的社会像とその方向性等について究明している。

研究業績

論文

(1) 研究報告

- 1) 伊藤末博：理想社会への第一歩：意識の変革．日本医科大学基礎科学紀要 2000；(29)：77-83．

[経済学]

研究概要

これまでと同様に，経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し，これまでの研究を継続，発展させてきた。

経済理論研究では電子マネー理解の基礎となる貨幣論・信用論の理論研究を進めた．従来の実証実験や導入の事例および電子マネーのマネーサプライ・コントロールへの影響などとあわせて報告書にまとめた（文部省科学研究費補助金を受けた）。

現状分析に関する研究会では，本年度はとくに重点を世界経済におき，グローバル化と日本経済というテ

ーマで研究を進めた。

日本経済に関しては、雇用・能力開発機構の委託を受け、「現下の雇用環境の悪化に対応した雇用政策の在り方に関する調査研究」を進めるため、研究会を組織し、報告書を取りまとめた。

さらに、厚生省老人保健事業推進等補助金をえて「介護保険制度導入後の高齢者の受療機会の変化と医療費の推移」に関する研究を行った（総括・東海大学教授三浦紘一）。この調査研究では、昨年度の高齢者医療費の動向に関する調査研究を受けて、介護保険制度導入後の高齢者の受療機会の変化と医療費の推移について明らかにした。報告書は現在取りまとめ中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 三輪春樹：電子マネーが拓く社会。新世紀・序章（第2版）2000；310-346。
- 2) 三輪春樹：東アジアの通貨・金融危機と日本。新世紀・序章（第2版）2000；269-309。
- 3) 三輪春樹：電子マネーの可能性。日本医科大学基礎科学紀要 2001；29-45。
- 4) 三輪春樹：電子マネー貨幣・信用論の意義と金融システム・金融政策への影響に関する研究。電子マネー貨幣・信用論の意義と金融システム・金融政策への影響に関する研究 2001；1-78。

(2) 研究報告書：

- 1) 三浦紘一¹⁾、太田保世²⁾、境 秀人²⁾、三輪春樹、伊藤純逸³⁾（¹⁾東海大学文明研究所、²⁾東海大学医学部、³⁾産業立地研究所）：長期入院高齢者及び医療必要度の高い施設入所高齢者への対策のあり方に関する報告書：老人医療患者の受診形態別医療費に関する調査研究。長期入院患者及び医療必要度の高い施設入所高齢者への対策のあり方に関する報告書：老人医療患者の受診形態別医療費に関する調査研究 2000；pp1-107。
- 2) 唐津 一¹⁾、竹内 宏²⁾、山田勝久³⁾、三浦宏一⁴⁾、樋口美雄⁵⁾、森永卓郎⁶⁾、今村 肇⁷⁾、デイビス、スコット⁸⁾、三輪春樹、伊藤純逸⁹⁾、中島克紀¹⁰⁾（¹⁾東海大学・電通、²⁾竹内経済工房、³⁾上五島石油備蓄（株）、⁴⁾先端技術調査会、⁵⁾慶應義塾大学商学部、⁶⁾（株）三和総合研究所、⁷⁾東洋大学経済学部、⁸⁾麗澤大学国際経営学部、⁹⁾産業立地研究所、¹⁰⁾日本能率協会）：現下の雇用環境に悪化に対応した雇用政策の在り方に関する調査研究報告書。現下の雇用環境の悪化に対応した雇用政策の在り方に関する調査研究報告書 2001；pp1-177。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 三輪春樹：電子マネーのインパクト。経済理論学会第48大会，2000．10。

2．自然科学

[数 学]

研究概要

三宅：十数年来統計授業にパソコンを導入し、演習、教材作成、成績・出席管理などに活用してきた。この2・3年来MS-DOSシステムからWINDOWSへの変換を試みて来た。前年度までは、演習にEXCEL導入を試み、教材のWORD転換に努力してきた。今年度はシステム全体の統括を、BASICからWINDOWS上のVisual BASICへの変換を試みた。

儀我：Lipschitz領域における，楕円型偏微分作用素と analytic semigroup の関係において，Laplacian の場合の結果に改良を加え，Laplacian+1階微分の項という場合についての考察を進めた．また，フラクタル図形の生長と生物の進化の間の関係のモデルを考えた．

渡辺：強結合繰り込み群の特性関数法のさらなる応用として，hierarchical $O(N)$ model のくり込み群軌道を， $N=$ の場合に exact に計算した．また，高校用文部省検定教科書「数学基礎」の編集に携わった．この教科書は，今回の指導要領改訂に伴って新規に構想されたもので，従来の高校数学には存在しなかった応用数学的視点が大幅に採り入れられている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Giga M : Fractal, the Variety, Bulletin for Mathematics education study . Special issue 2000 ; 77-80 .
- 2) Watanabe H : Renormalization group method in constructive field theory . International Journal of Modern Physics B 2000 ; 1363-1398 .

(2) 研究報告書：

- 1) Giga M : The Elliptic Differential Operator with First Order Terms in Lipschitz Domain and Analytic Semigroup . 第9回関数空間セミナー報告集 pp108-111 .

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 儀我真理子：1階微分を含む楕円型作用素と解析半群．2000．

(2) 一般講演：

- 1) Giga M : Fractal, the Variety, The 9th International Congress on Mathematical Education . 2000 .
- 2) 三宅章彦，氷野洋一¹⁾(¹⁾コオリカンパニー)：統計CAIの改良について．2000．
- 3) 儀我真理子：シラバスとイントロダクション．2000．
- 4) 三宅章彦，氷野洋一¹⁾(¹⁾コオリカンパニー)：統計教育へのEXCELの導入．2001．

[物理学]

研究概要

1) 1. 半経験的分子軌道法によって計算される分極率の原子分極率補正パラメータを求めた．2. 前年度フロンティア分子軌道がミオシンによるATP加水分解の初期過程を示唆するという結果を得たが，それと関連して，リン酸などの酸解離の量子化学計算を行っている．3. トロポロンおよびそのハロゲン置換体の最低励起状態におけるトンネル効果によるプロトン移動の理論的研究を行っている．[香川]

2) 米国シアトルワシントン大学医学部に留学中．当教室で行っていた研究の延長として，1. 光捕集タンパク質複合体内で起こる非常に速いエネルギー伝達の機構解明を目指して，励起エネルギー移動の理論的考察を行っている．2. 光合成反応中心で電子移動反応が起こるときに生じる静電的なエネルギーギャップの揺らぎの意味を検討し始めた．[菊地]

3) 量子領域でのカオスの存在について検討している．また，カオスの倍化分岐の生体系との関わりについてモデルを検討している．更に，神経系についてシミュレーションを継続している．量子カオスについての若干の成果は投稿中である．[須田]

4) クォーク模型の中でも成分クォーク模型は実際の素粒子の低エネルギーレベルでの性質を定量的に議論すると

き有効に働くことが分かっている。LFQCD (light front quantum chromodynamics) はこれを指導原理としている。ライトコーン上での力学の研究はかなり長い歴史を持っているが、勉強したことがないため、3、4年前から時々勉強している。これは、通常的时间と空間の4次元座標を、時間と空間の一部(例えば、第3成分)を組み合わせ和を時間、差を空間のように扱って4次元空間を考え、その空間における力学を構築するものである。[三浦]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kikuchi H, Wako H¹⁾, Yura K²⁾, Go M²⁾, Mimuro M³⁾ (¹⁾ School of Social Science, Waseda Univ. , ²⁾ Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya Univ. , ³⁾ Department of Physics, Biology, and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ.): Significance of a Two-Domain Structure in Subunits of Phycobiliproteins Revealed by the Normal Mode Analysis . Biophys. J. 2000 ; 79 : 1587-1600 .
- 2) 梅崎馨章¹⁾, 菊地浩人 (¹⁾ 東京医科歯科大物理学教室): 生体分子における励起エネルギー移動機構に対する理論的考察: Forster 公式の検討と拡張へ向けて . 日本医科大学基礎科学紀要 2000 ; (28): 1-21 .
- 3) 梅崎馨章¹⁾, 菊地浩人 (¹⁾ 東京医科歯科大物理学教室): 輻射場における弱結合分子間励起エネルギー移動の理論: 双極子近似に基づく定式化 . 日本医科大学基礎科学紀要 2000 ; (29): 9-27 .

(2) 研究ノート:

- 1) 三浦公雄: LFQCDの閉じこめ力とSS力, LS力, テンソル力 . 日本医科大学基礎科学紀要 2000 ; (29): 71-76 .

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Odai K¹⁾, Kikuchi H, Suzuki H²⁾ (¹⁾ Department of Electronics and Informatics, North Shore College , ²⁾ Department of Physics, Waseda Univ.): Retinal Model during Photoisomerization in Bacteriorhodopsin . 13th International Congress on Photobiology (San Francisco), 2000 . 7 .
- 2) Kagawa H, Tamura Y¹⁾, Kawauchi S²⁾, Mori K³⁾, Suzuki K⁴⁾ (¹⁾ Scalable Systems Technology Center, SGI Japan, Ltd. , ²⁾ Department of Polymer Chemistry, Tokyo Institute of Technology , ³⁾ WCSC , ⁴⁾ Information Media Center, Takachiho University): Molecular Orbital Study of Proton Affinity for Biomolecules . 2000 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Honolulu), 2000 . 12 .
- 3) 香川 浩, 立川仁典¹⁾, 森 和英²⁾ (¹⁾ 理化学研究所分子光化学 , ²⁾ WCSC): トロポロンおよびそのハロゲン置換体のS1状態におけるプロトン移動の理論的研究 . 日本物理学会第55回年次大会, 2000 . 9 .

[化 学]

研究概要

石田:

シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム(IV), ハフニウム(IV), 及び他の金属の三成分分離
- (2) 塩類 - 有機溶媒 - 水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明

菅原:

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び、不飽和酸とジクロロカルベン反応によるジ

クロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中：

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

- (1) 水素結合の関与した金属錯体のプロトン付加及び酸化還元反応
中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

- (1) 生体内微量元素及び化合物含有量と疾患，環境等との関係

永井：

2, 2'-ピピリジンまたは1, 10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

CMセルロースTLC及びゼオライトTLCに関する研究

- (1) 塩類水溶液系 - 有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動
- (2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討
- (3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明

貴金属元素の分離および定量に関する研究

- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 重田明子¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 内藤英二¹⁾, 三樹 勝²⁾, 田中幹夫 (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター, ²⁾白石中央病院): 胆嚢胆汁中の微量元素クロム量の意義：日・タイ両国の比較．第86回日本消化器病学会総会，2000．
- 2) 仁平 信¹⁾, 林田眞喜子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 田中幹夫, 山田丈士¹⁾, 早川秀幸¹⁾(¹⁾日本医科大学法医学): マススペクトロメトリーによるマウス臓器からのアコニチン分析．第25回日本医用マススペクトル学会年会，2000．
- 3) 重田明子¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 内藤英二¹⁾, 三樹 勝²⁾, 田中幹夫 (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター, ²⁾白石中央病院): 胆石中の微量元素クロミウムの意義：日・タイ両国の比較から．第42回日本消化器病学会大会，2000．

[生物学]

研究概要

1) 北極圏の植物を用いて生態学的な研究を行っている．北極圏の環境は年毎の変動が激しいことが特徴であり，こうした環境への植物の適応を研究する上で理想的なフィールドである．特にプレフォーメーション（植物が，翌春の成長のために芽の中に葉や繁殖器官を準備する現象）に焦点をあて，その意義を明らかにするための研究を行っている．本年度から科学研究費補助金を受け，ノルウェー領スバルパール諸島での現地調査と，栽培実験を開始した．

また、北極域の植物の繁殖特性について紹介した本（分担執筆）が出版された。（西谷）

2) カロテノイド色素に関して、カロテンの分析同定方法の確立、大腸菌を用いた代謝工学的手法により種々のカロテノイド生合成遺伝子を組み合わせて発現させて生合成酵素と生産物の性質の検討（Nature Biotechnology 掲載）、紅色光合成細菌 *Rubrivivax* のカロテノイド生合成遺伝子の単離と生合成酵素の性質および生合成経路の解明、新規光合成細菌の色素分析と生合成経路の研究、ハロバクテリアのレチナルとカロテノイドの同時定量法の開発、シアノバクテリアのカロテノイド配糖体の化学構造と生理学的機能の研究、原始的緑藻の進化と色素組成の変化との関係、などを研究している（国際、国内共同研究）。（高市）

3) 日本脂質生化学会が主体となって生理活性脂質のデータベースを構築しつつあり、そのカロテノイド部門の責任者となった。原核光合成細菌国際会議（2003年、東京）の組織委員になった。他大学の大学院生などに対する研究指導も行っている。（高市）

4) 棘皮動物の体腔細胞について引き続き検討を行った。今までの培養法は細胞増殖に必ずしも適したものでないため検討を開始した。ウニ類の4種の体腔細胞の発生学的な由来と微細構造の研究を継続した。また医学教育の一般教育においてチュートリアル教育を導入する大学が増加傾向にあることから、この教育法を検討し、1年生のセミナーで試みた。（関）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Albrecht M¹⁾, Takaichi S, Steiger S¹⁾, Wang Z-Y²⁾, Sandmann G¹⁾ (¹⁾Goethe Univ. , ²⁾Tohoku Univ.): Novel hydroxycarotenoids with improved antioxidative properties produced by gene combination in *Escherichia coli*. Nature Biotechnol. 2000 ; 18 (8): 843-846 .
- 2) Takaichi S : Characterization of carotenes in a combination of a C₁₈ HPLC column with isocratic elution and absorption spectra with a photodiode-array detector . Photosynth. Res. 2000 ; 65 (1): 93-99 .
- 3) Harada J¹⁾, Takaichi S, Nagashima KVP¹⁾, Matsuura K¹⁾, Shimada K¹⁾ (¹⁾Tokyo Metropolitan Univ.): Spheroidene monooxygenase (CrtA) from purple photosynthetic bacterium, *Rubrivivax gelatinosus* . Carotenoid Sci. 2001 ; 4 (1): 66-67 .
- 4) Takaichi S, Maoka T¹⁾, Hanada S²⁾, Imhoff JF³⁾ (¹⁾Kyoto Pharmaceutical Univ. , ²⁾Natl. Inst. Biosci. Human-Technol. , ³⁾Univ. Kiel): Dihydroxylycopene diglucoside diester : a novel class of carotenoids from the phototrophic purple sulfur bacteria *Halorhodospira abdelmalekii* and *Halorhodospira halochloris* . Arch. Microbiol. 2001 ; 175 (3): 161-167 .

(2) 研究報告書：

- 1) 嶋田敬三¹⁾, 伊藤 繁²⁾, 井上和仁³⁾, 小林正美⁴⁾, 高市真一, 高宮建一郎⁵⁾, 永島賢治¹⁾, 平石 明⁶⁾, 松浦克美¹⁾, 三室 守⁷⁾, 若尾紀夫⁸⁾ (¹⁾東京都立大学・院, ²⁾名古屋大学・院, ³⁾神奈川大学, ⁴⁾筑波大学, ⁵⁾東京工業大学・院, ⁶⁾豊橋技術科学大学, ⁷⁾山口大学, ⁸⁾岩手大学): 亜鉛バクテリオクロフィルを持つ細菌の光合成機構の研究 . 平成9-12年度科学研究費補助金 [基盤研究 (A) (1)] 研究成果報告書 2001 ; pp1-134 .

著書

- 1) 西谷 里美：〔分担〕ツンドラ植物の種子繁殖と栄養繁殖．高山植物の自然史：お花畑の生態学（工藤 岳 編），2000；pp145-159，北海道大学図書刊行会．

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 嶋田敬三¹⁾, 高市真一⁽¹⁾ (東京都立大学・院): 色素の多様性: 酸素非発生型と酸素発生型との非連続性. 藍色細菌の誕生過程に関するシンポジウム, 2000. 10.

(2) 一般講演 :

- 1) Takaichi S : The spirilloxanthin pathway in purple bacteria . The 10th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Barcelona, Spain), 2000 . 8 .
- 2) Harada J¹⁾, Nagashima KVP¹⁾, Takaichi S , Misawa N²⁾, Matsuura K¹⁾, Shimada K¹⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Univ. , ²⁾ Kirin Brewery): Phytoene desaturase, CrtI, of the purple photosynthetic bacterium, *Rubrivivax gelatinosus* . The 10th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Barcelona, Spain), 2000 . 8 .
- 3) Hanada S¹⁾, Takaichi S , Matsuura K²⁾, Nakamura K¹⁾ (¹⁾ Natl. Inst. Biosci. Human-Technol. , ²⁾ Tokyo Metropolitan Univ.): A new thermophilic filamentous anoxygenic phototroph which lacks chlorosomes . The 10th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Barcelona, Spain), 2000 . 8 .
- 4) Harada J¹⁾, Nagashima KVP¹⁾, Shimada K¹⁾, Takaichi S (¹⁾ Tokyo Metropolitan Univ.): Functional analysis of phytoene desaturase CrtI of the purple photosynthetic bacterium *Rubrivivax gelatinosus* . Gordon Research Conference "Carotenoids" (Ventura, USA), 2001 . 1 .
- 5) 高市真一 : HPLCと吸収スペクトルによる光合成細菌などのカロテンの同定 . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー VIII , 2000 . 6 .
- 6) 吉井幸恵¹⁾, 高市真一 , 井上 薫¹⁾ (¹⁾ 筑波大学・院): 緑色植物門プラシノ藻綱におけるカロテノイドの分布とその進化的意義 . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー VIII , 2000 . 6 .
- 7) 原田二郎¹⁾, 永島賢治¹⁾, 高市真一 , 三沢典彦²⁾, 松浦克美¹⁾, 嶋田敬三¹⁾ (¹⁾ 東京都立大学・院 , ²⁾ キリンビール基盤研): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* のカロテノイド合成酵素の解析 . 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー VIII , 2000 . 6 .
- 8) 高市真一 : 逆相HPLCと吸収スペクトルによるカロテンの同定 . 日本植物学会第64回大会 , 2000 . 9 .
- 9) 吉井幸恵¹⁾, 高市真一 , 井上 薫¹⁾ (¹⁾ 筑波大学・院): 緑色植物にみられるシホナキサンチンシリーズの分布と系統的意義 . 日本植物学会第64回大会 , 2000 . 9 .
- 10) 高市真一 , Albrecht M¹⁾, Steiger S¹⁾, Wang Z-Y²⁾, Sandmann G¹⁾ (¹⁾ Goethe Univ. , ²⁾ 東北大学・院): 代謝工学的に大腸菌内で生産させた新規・水酸化カロテノイドとそれらの抗酸化活性 . 第14回カロテノイド研究談話会 , 2000 . 10 .
- 11) 原田二郎¹⁾, 高市真一 , 永島賢治¹⁾, 松浦克美¹⁾, 嶋田敬三¹⁾ (¹⁾ 東京都立大学・院): 紅色光合成細菌 *Rubrivivax gelatinosus* のカロテノイド・ケト化酵素 (CrtA) . 第14回カロテノイド研究談話会 , 2000 . 10 .
- 12) 西谷里美 , 増沢武弘¹⁾ (¹⁾ 静岡大理): 雪解けの傾度に沿ったムカゴトラノオのプレフォーメーション . 第23回極域生物シンポジウム , 2000 . 12 .
- 13) 高市真一 , 眞岡孝至¹⁾, 正元和盛²⁾ (¹⁾ 京都薬科大学 , ²⁾ 熊本大学): *Synechocystis* sp. PCC6803 のミキソール・ジメチルラムノシド (ミキソキサントフィル) . 日本植物生理学会2001年度年会および第41回シンポジウム , 2001 . 3 .
- 14) El-Sayed W¹⁾, 高市真一 , 才田春夫²⁾, 関 文威²⁾, 桑原朋彦²⁾ (¹⁾ Ain Shams Univ. , ²⁾ 筑波大学・院): 高度好塩アーキア *Holobacterium salinarum* の色素組成における光の影響 . 日本植物生理学会2001年度年会および第41回シンポジウム , 2001 . 3 .
- 15) 西谷里美 , 増沢武弘¹⁾ (¹⁾ 静岡大理): 北極圏のムカゴトラノオ : 環境条件による , プレフォーメーションの比較 . 第48回日本生態学会 , 2001 . 3 .

3. 外国語

[英 語]

研究概要

The members of the department continued to offer what we considered to be a well-balanced program of training in the four major language skills during the second year of the new curriculum. Although significant reductions had been made in the number of regular classroom hours, specifically in the second-year program, we were able to expand the scope of our teaching through the seminars we offered. Instruction in areas not normally covered in regular lectures, such as comparative culture, literature, and media English, was given to small groups of motivated students. Research in both the linguistic and literary fields continued. A supplementary listening textbook for university students was published at the beginning of 2001. Collaborative work on an oral communications textbook for senior high school students is almost complete, and this book will be published in time for the 2002 academic year, subject to approval by the Ministry of Education. Another reference work on English grammar is scheduled for publication later this year. Active contributions were made by the department to the work of a research group investigating "Body Medicine and Culture", in connection with which research into Maria Edgeworth will be published this year. Research into the post-medieval reception of Chaucerian tales also continued.

研究業績

論 文

(1) 原著 :

- 1) 中村哲子 : 英国ルネサンス期の庶民の抱いたグリセルダ像をめぐって : グリセルダの散文物語を中心に . 日本医科大学基礎科学紀要 2000 ; (28) : 23-35 .

著 書

- 1) Lowe G , gen ed¹⁾ , Nakamura T (¹⁾ Cambridge University) : [分担編集] Annual Bibliography of English Language and Literature for 1998, Vol. 73 , 2000 ; Modern Humanities Research Association .
- 2) Lowe G , gen ed¹⁾ , Nakamura T (¹⁾ Cambridge University) : [分担編集] Annual Bibliography of English Language and Literature for 1999, Vol. 74 , 2000 ; Modern Humanities Research Association .
- 3) Minton T : [自著] Listening Corner , 2001 ; 成美堂 .
- 4) Minton T : [自著] Listening Corner, 教授用資料 , 2001 ; 成美堂 .
- 5) Minton T : [分担] ライティング中級者を目指す . 英語をモノにするためのカタログ 2000-'01年版 (高比良哲明他編) , 2000 ; pp204-207 , アルク .
- 6) 木村恒夫 , Minton T : [分担] 新装版 TOEIC テスト速聴特訓プログラム , 2000 ; アルク .

学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 中村哲子 : 女性が描く女性のからだ : 18世紀末から19世紀初頭の女性作家をめぐって . 身体医文化論研究会 第1回ワークショップ , 2001 . 3 .

[ドイツ語]

研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く"Kommunikativer Sprachunterricht"が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 安藤 勉：ウィーン時代の茂吉点描．日本独学史学会，2000．11．
- 2) 国信浩洋：オーストリア・ハンガリー帝国使節公館．日本独学史学会，2000．11．

4．スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) メロン由来抗酸化物質の摂取が運動トレーニング時の抗酸化能に及ぼす影響についてコンビ株式会社と共同研究を行い、上記の抗酸化物質の摂取が生体内の抗酸化酵素スーパーオキシドディスムターゼ活性を上昇させ生体運動トレーニング時の過酸化脂質生成を抑制することを明らかにした。2) 「運動トレーニング時におけるビタミンEの摂取の必要性」および「運動時におけるペプチド摂取のエネルギー代謝に及ぼす影響」について、本学第二学年（昨年度のセミナー受講者）が学会発表した。3) 「運動時のストレスタンパク質の発現に関する研究」では、運動トレーニングがストレスタンパク質（HSP72）の合成増加とmRNA発現抑制をもたらす結果を得て、現在この結果をまとめている。4) 鉄欠乏の初期段階における小腸での鉄級に及ぼす腸管粘膜中の鉄含量の影響に関するこれまでの研究結果をまとめ論文として発表した。

武藤：幼児から高齢者にわたる体格と体力について継続して研究している。今年度は特に青少年を中心に研究を行った。1) 昨年度から改訂された文部省新体力テスト（20～64歳用）を医科学生に実施し、測定結果および評価方法についてのいくつかの問題点を指摘した。従来のスポーツテストでは医科学生の持久力は低く評価されたが、新体力テストでは異なり高く評価され、さらに総合評価と体力年齢については評価基準が厳しいことが示唆された。2) 教育課程の異なる看護学生の生活習慣と自覚症状愁訴については、2年課程学生（95%勤務有、既准看免許取得）が3

年課程学生に比較して、生活習慣では欠食、喫煙、運動をしていないなどの問題点が多く、自覚症状愁訴も多い傾向がみられ、生活の改善と運動の必要性が示唆された。3) 高校生における体格と体力について3年間縦断的に測定調査を行い、体力の低下原因について検討中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mikami T, Hisayasu S¹⁾, Ikeda-More Y²⁾, Yoshino Y³⁾(¹⁾ Second Department of Biochemistry, Nippon Medical School, ²⁾ Howard Hughes Medical Institute, University of Texas Southwestern Medical Center at Dallas, Center for Immunology, ³⁾ Department of Life Science, Faculty of Life Science, Showa Women's University): Decreased mucosal iron induces an increase in intestinal iron absorption in the early stage of iron-deficiency. Nutr. Res. 2000; 20(10): 1457-1465.
- 2) 武藤三千代, 白石まりも¹⁾, 大内哲彦²⁾(¹⁾ 二松学舎大学, ²⁾ 日本体育大学): 教育課程の異なる看護学生の生活習慣と自覚症状愁訴について. 日本体育学会測定評価専門分科会機関誌サーキュラー 2000; (61): 207-212.

(2) 研究報告：

- 1) 武藤三千代: 本学学生における文部省新体力テスト結果について. 日本医科大学基礎科学紀要 2000; (28): 37-44.

著書

- 1) 武藤三千代: [分担] I 現代生活と運動 A 大学生と体力 3. 発育・発達 4. 健康・体力の維持増進 B 運動の科学 5. トレーニング. 大学生の健康・スポーツ科学(大学生の健康・スポーツ科学研究会編), 2000; pp32-45, 道和書院.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 三上俊夫: 低尿酸血症における活性酸素消去機構. 第34回日本通風・核酸代謝学会総会, 2000. 2.

(2) 一般講演：

- 1) 武藤三千代, 白石まりも¹⁾(¹⁾ 二松学舎大学): 医科学生における新体力テストの結果について. 日本体育学会測定評価専門分科会例会, 2000. 4.
- 2) 武藤三千代, 白石まりも¹⁾, 大内哲彦²⁾(¹⁾ 二松学舎大学, ²⁾ 日本体育大学): 医科学生における文部省新体力テストの結果について. 第7回日本運動・スポーツ科学学会総会, 2000. 6.
- 3) 鈴木慈子¹⁾, 行徳求馬¹⁾, 三田浩一¹⁾, 三上俊夫(¹⁾ 日本医科大学2年): 運動トレーニング時におけるビタミンEの摂取の必要性の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 4) 行徳求馬¹⁾, 鈴木慈子¹⁾, 三田浩一¹⁾, 三上俊夫: 運動時におけるペプチド摂取のエネルギー代謝に及ぼす影響. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 5) 三上俊夫: 尿酸は運動ストレス時の抗酸化物質として作用する. 第56回日本体力医学会, 2000. 9.
- 6) 武藤三千代, 高橋修和¹⁾(¹⁾ ホリスティック健康医学センター): 看護学生における生活習慣および身体的愁訴について. 第59回日本公衆衛生学会総会, 2000. 10.
- 7) 反町 誠, 三上俊夫, 福生吉裕¹⁾, 伊地知哲生²⁾(¹⁾ 日本医科大学第2内科, ²⁾ コンビ(株)新規開発室バイオ研究所): 運動時の体内抗酸化能におよぼすメロン由来抗酸化物質の影響. 第121回日本体力医学会関東地方会, 2001. 3.

〔 2 〕 基 礎 医 学

1. 解剖学第一講座

研究概要

本年度も引き続き、教室構成員の従来からの多様な研究テーマに従って研究が進められ、成果をあげるとともに、将来をみすえて研究を続ける基盤の整備も進められた。

内皮細胞の抗ストレス応答をストレスファイバー形成とストレスタンパク質発現の面から研究を進め、伸展刺激時におけるHSP25やHSP90の発現程度はHSP70に比べ明らかに低いことを示した。また、各HSPの発現やストレスファイバーの形成をそれぞれの阻害剤で阻止した実験結果から、内皮細胞における伸展刺激によるストレスファイバー形成ではHSP70が分子シャペロンとして機能していることを推測した(杉本ら)。

呼吸筋の機能と形態を調べる目的でマウスおよびmdxマウスの横隔膜を調べる研究においては、anabolic steroidが筋の再生を促し、筋繊維の増大を引き起こすことを示すことができた。このことについては筋衛星細胞が大きな役割を持つと考え更に調べている(後藤ら)。

鳥肉腫(musculoaponeurotic fibrosarcoma)ウイルスより発見されたmafV遺伝子のラットのホモロジーであるmaf-2(c-maf)mRNAの発現について、腎近位尿管に発現することを明らかにするとともに、c-maf knock out mouseを入手し、wild-typeと、knock out mouseとの比較を始めた。また、ラットCRFレセプターI型(CRFRI)mRNAの発生段階の発現を下垂体で明らかにし、発現は、胎生15日から始まり、生後まで続くことを示した。発現量の形態定量的な検討も進めており、その方法論においても進展をみている(今城ら)。

連続切片再構築法とレーザー顕微鏡を用いて、組織の三次元構造を明らかにすることは、二次元観察からでは決定的でないことを確定し、また、二次元観察では分らなかったことを見いだすことができる。肝小葉の構造単位についてはRappaportの平面幾何学的な発想に基づく学説が教科書などに採用されているが、肝小葉細胞の部位的差異と血管構築との関係を、生理的および病理的な条件下で、連続切片再構築法で立体幾何学的に分析すると、小葉中心静脈側組織は中心静脈を囲む円筒樹を形成し、門脈側はその間を埋める不整形を示し、古典的小葉の考え方が合理的であるとした。肝類洞、系球体旁装置の構成についても研究を進めているが、組織の三次元構築法の方法論はほぼ確立の域に達することができ、三次元構築とそのコンピュータグラフィック的観察の能率化が視野に入ってきた(山下、石川、森ら)。

糖尿病動物の膵臓の観察から、膵島及び膵導管の再生能の強さを観察し、その実験条件下での再現を目論んでいる(市川、山下ら)。

研究業績

論文

(1)原著:

- 1) Sugimoto K, Fujii S, Takemasa T, Yamashita K: Detection of intracellular nitric oxide using a combination of aldehyde fixatives with 4, 5-diaminofluorescein diacetate. *Histochem Cell Biol* 2000; 113: 341-347.
- 2) Imaki J, Onodera H, Tsuchiya K¹⁾, Imaki T²⁾, Mochizuki T¹⁾, Mishima T, Yamashita K, Yoshida K³⁾, Sakai M⁴⁾ (¹⁾ Kidney Center, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Bioregulation, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, ⁴⁾ Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine): Developmental expression of maf-1 messenger ribonucleic acids in rat kidney by in situ hybridization histochemistry. *Biochem Biophys Res Commun* 2000; 272: 777-782.
- 3) Satoh T, Gotoh T, Yamashita K: Morphological effects of an anabolic steroid on muscle fibers of the di-

aphragm in mice . J Electron Microsc 2000 ; 49 (4) : 531-538 .

- 4) Ishikawa T , Mori M , Ichikawa Y , Kitoh J¹⁾ , Yamashita K (¹⁾ Nagoya University School of Medicine) : Three-dimensional observations of spatial arrangement of hepatic zonation and vein system in mice and house musk shrews . Anat Rec 2000 ; 260 (3) : 228-237 .
- 5) Hamada T¹⁾ , Ui-Tei K¹⁾ , Imaki J , Miyata Y¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmacology) : Molecular cloning of SCDGF-B, a novel growth factor homologous to SCDGF/PDGF-C/fallotein . Biochem Biophys Res Commun 2001 ; 26 : 733-737 .
- 6) Sakai M¹⁾ , Serria SM¹⁾ , Ikeda H¹⁾ , Yoshida K²⁾ , Imaki J , Nishi S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine , ²⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Regulation of c-maf gene expression by Pax6 in cultured cells . Nucleic Acids Res 2001 ; 29 : 1228-1237 .

(2) グラビア :

- 1) Ishikawa T , Mori M , Abe Y , Yamashita K : Three-dimensional observations of histological architectures : Hepatic sinusoids and juxtaglomerular complex . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1) : 2-3 .

(3) 総説 :

- 1) 杉本啓治 , 藤井幸子 , 武政 徹¹⁾ , 山下和雄 (¹⁾ 筑波大学・体育科学系) : 血管内皮における機械的刺激によるストレスタンパク質の発現 . 生体の科学 2000 ; 51 : 562-566 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 松田英彦¹⁾ , 吉田和彦¹⁾ , 原田高幸¹⁾ , 原田知加子¹⁾ , 大木一隆¹⁾ , 西堀宗樹¹⁾ , 酒井正春²⁾ , 西 信三²⁾ , 今城純子 , 萩原正敏³⁾ , 田中光一⁴⁾ , 和田圭司⁵⁾ , Karin M⁶⁾ , Yinling H⁶⁾ (¹⁾ 北大・医・眼科 , ²⁾ 北大・医・生化学 , ³⁾ 東京医科歯科大学・難治研研究所・形質発現 , ⁴⁾ 東京医科歯科大学・難治研研究所・分子神経科学 , ⁵⁾ 国立精神神経センター神経研究所疾病研究第四部 , ⁶⁾ Department of Pharmacology, University of California, San Diego) : 遺伝子発現と眼の発生・生理・病理 . 第105回日本眼科学会総会 , 2000 . 5 .

(2) シンポジウム :

- 1) 武政 徹¹⁾ , 山口隆美²⁾ , 杉本啓治 , 山下和雄 (¹⁾ 筑波大学・体育科学系 , ²⁾ 名工大) : 律動的伸縮刺激に対する血管内皮細胞の細胞骨格リモデリング : (生体の硬・軟組織のリモデリング現象) . 日本機械学会 : 日本バイオメカニクス研究連絡協議会第6回ジョイント講演会 , 2000 . 6 .

(3) 一般講演 :

- 1) Tsuchiya K¹⁾ , Imaki J , Onodera H , Yoshida K²⁾ , Sakai M³⁾ , Mochizuki T¹⁾ , Nihei H¹⁾ (¹⁾ Kidney Center, Tokyo Women's Medical University , ²⁾ Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine , ³⁾ Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine) : Study of the Expression of Maf, a Family of Oncogenes, in the Rat Kidney by In Situ Hybridization Histochemistry . 第33回アメリカ腎臓学会 (Toronto) , 2000 . 10 .
- 2) Mishima T , Imaki J , Onodera H¹⁾ , Imaki T²⁾ , Yamashita K (¹⁾ Department of Anesthesiology , ²⁾ Institute of Gerontology) : DEVELOPMENTAL PROFILE OF THE CORTICOTROPIN RELEASING FACTOR RECEPTOR TYPE I (CRF-R1) IN THE RAT ANTERIOR PITUITARY . 11th International Congress of Endocrinology (Sydney) , 2000 . 10 .
- 3) Minami S¹⁾ , Tokita R¹⁾ , Nakata T¹⁾ , Sakai Y¹⁾ , Imaki J , Imaki T¹⁾ (¹⁾ Institute of Gerontology) : Growth hormone induces cytokine-inducible SH2 protein 3 (CIS3/SOCS3) gene expression in the rat hypothalamus . 11th International Congress of Endocrinology (Sydney) , 2000 . 10 .

- 4) Tokita R¹⁾, Imaki J, Nakata T¹⁾, Imaki T¹⁾, Minami S¹⁾ (¹⁾ Institute of Gerontology): Microinjection of dihydrotestosterone into the preoptic area masculinizes GH secretory profiles in ovariectomized rats . 11th International Congress of Endocrinology (Sydney), 2000 . 10 .
- 5) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹¹⁾, 山下和雄 (¹⁾ 筑波大学・体育科学系): アルデヒド基とDAF-2DAによる内皮細胞内NOの検出 . 第39回日本エム・イー学会大会, 2000 . 5 .
- 6) 南 史朗¹⁾, 時田玲子¹⁾, 中田朋子¹⁾, 今城純子, 小野寺英貴²⁾, 今城俊浩¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所, ²⁾ 麻酔科): ラット脳内のCIS3 mRNA . 成長ホルモンによる発現調節 . 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 7) 時田玲子¹⁾, 今城純子, 中田朋子¹⁾, 小西俊一郎¹⁾, 今城俊浩¹⁾, 南 史朗¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所): アンドロゲンは視索前野に作用してラットの雄型の成長ホルモン拍動性分泌を形成する . 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 8) 浜田 剛¹⁾, 程久美子¹⁾, 今城純子, 小野寺英貴, 宮田雄平¹⁾ (¹⁾ 薬理): ニワトリ胚脊髄より単離した新規細胞増殖因子SCDGFの構造と活性の解析 . 第23回日本神経科学大会 : 第10回日本神経回路学会大会合同大会, 2000 . 9 .
- 9) 南 史朗¹⁾, 笠木陽子¹⁾, 時田玲子¹⁾, 中田朋子¹⁾, 今城純子, 栄 兼作¹⁾, 今城俊浩¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所): 成長ホルモンcytokine-inducible SH2 proteinsの発現誘導 . 第26回日本神経内分泌学会, 2000 . 10 .
- 10) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹¹⁾, 山下和雄 (¹⁾ 筑波大学・体育科学系): Diaminofluorescein diacetate (DAF-2DA) とアルデヒド基による細胞内NOの固定検出 . 第53回日本細胞生物学会大会, 2000 . 10 .
- 11) 浜田 剛¹⁾, 程久美子¹⁾, 今城純子, 小野寺英貴, 三嶋拓也, 宮田雄平¹⁾ (¹⁾ 薬理): 成熟ラットの脊髄で発現する新規細胞増殖因子 : SCDGF-B . 第23回日本分子生物学会年会, 2000 . 12 .

2. 解剖学第二講座

研究概要

解剖学第二講座の研究は神経解剖学と人体肉眼解剖学の二つの分野からなっている。神経解剖学の分野では、系統発生と進化を土台とした比較神経学を主体としている。研究の基本的なアイデアは、全ての脊椎動物の脳は共通の基本設計に基づいて形成され、各々の種が獲得した生態的地位によって修飾されている、というものである。これまで、種に特有な脳構造をその種のもつ生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在、大脳新皮質の進化の解明、特に無層性皮質の成立証明、二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での関連機構の解明、各種感覚系上行路の系統発生的な解析、脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、視床下部の進化、中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性感覚投射の解析と機能の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRPやDilを用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行っている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系、などである。

平成12年度は、前倒しとなった新カリキュラムの第2学年と旧カリキュラムのまま進む第3学年の講義と実習が重なったため、十分な研究時間がとれず、業績が著しく落ち込んでしまった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tsutsui H¹⁾, Yamamoto N, Ito H, Oka Y¹⁾ (¹⁾ Univ. of Tokyo): Encoding of different aspects of afferent activities by two types of cells in the corpus glomerulosum of a teleost brain . J. Neurophysiol. 2000 ; 85 (3): 1167-1177 .
- 2) Yamamoto N , Ito H : Afferent sources to the ganglion of the terminal nerve in teleosts . J. Comp. Neurol. 2000 ; 428 (2): 355-375 .
- 3) Saito T , Den S¹⁾, Cheema Sarinder PS²⁾, Tanuma K , Carlsson C³⁾, Richardson J²⁾ (¹⁾ National Cancer Center Hospital, Dept Anesthesiology , ²⁾ University of Bradford, Dept Anesthesiology, UK. , ³⁾ University of Malmö, Dept Anesthesiology, Sweden.) : A single-injection, multisegmental paravertebral block-extension of somatosensory and sympathetic block in volunteers . Acta Anaesthesiol Scand. 2001 ; 45 (1) : 30-33 .
- 4) Saito T : Characteristics of extended unilateral (paravertebral) anesthesia . Anesthesia and analgesia. 2001 ; 92 (2) : 558-558 .
- 5) 浅川光夫, 酒主敦子¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学・学生): 本邦胎児腎臓の形態学的研究 . 解剖学雑誌 2000 ; 75 (2) : 181-186 .

(2) 総説：

- 1) 伊藤博信：人間はなぜ考えるか。祈月書院報 2000；(17)：2-5。

(3) 話題 :

- 1) 伊藤博信 : 大脳新皮質は哺乳類に特有か? . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3) : 219-219 .
- 2) 山本直之 : 脳・鼻・下垂体国際シンポジウムに参加して . 日本比較内分泌学会ニュース 2001 ; (100) : 35-37 .

著 書

(1) 分担 :

- 1) Masuda R¹⁾, Inoue T¹⁾, Tanuma K, Kanda N²⁾, Yamaguchi M¹⁾, Ikeda K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Anesthesia, Chiba-Hokuso Hospital, ²⁾ Dept. of Anatomy, Veterinary Med., Faculty of Agr. Tokyo University of Agriculture & Technology): [分担] Gene related periodic arthralgia in childhood : A possible autosomal dominant arthralgia in japanese family . Management of Pain : A world Perspective (Yanagida, H., Hanaoka, K., and Yuge, O.), 2000 ; pp177 -181 , Monduzzi Editore S. P. A. -Medimond Inc. .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 伊藤博信 : 人間はなぜ考えるか . 名古屋大学医学部 , 2000 . 10 .

(2) シンポジウム :

- 1) Saito T, Shulan D¹⁾, Tanuma K, Hiraga K¹⁾, Carlsson C²⁾ (¹⁾ National Cancer Center Hospital, Dept. Anaesthesiology. , ²⁾ University of Malmo, Dept. Anaesthesiology, Sweden.): Post-operative pain control with thoracic paravertebral analgesia for herniorrhaphy . 5th International Symposium of regional anaesthesiology (Quebec City, Canada), 2000 . 3 .
- 2) Saito T, Tanuma K : Pathway of the body fluid from thoracic paravertebral region to celiac ganglion made by attachment of the crus of diaphragm . 3rd Joint meeting of American and British Association of Clinical Anatomists (Cambridge University in Cambridge UK), 2000 . 6 .
- 3) Masuda R¹⁾, Inoue T¹⁾, Tanuma K, Kanda N²⁾, Yamaguchi M¹⁾, Ikeda K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Anesthesia, Chiba-Hokuso Hospital, , ²⁾ Dept. of Anatomy, Veterinary Med., Faculty of Agr. Tokyo University of Agriculture & Technology): Gene related periodic arthralgia in childhood : A case report involving a japanese family . International Symposium Satellite of 9th Congress of the Pain Clinic (Tokyo), 2000 . 7 .
- 4) Yamamoto N, Ito H : Afferent sources to the terminal nerve ganglion in percomorph teleosts . International Symposium on Brain, Nose, and Pituitary (Tokyo), 2000 . 12 .
- 5) 伊藤博信 : 魚類神経学研究の歴史と展望 . 東京大学海洋研究所シンポジウム「魚類神経科学研究の現状と展望」, 2000 . 11 .
- 6) 吉本正美 : 終脳 (端脳) の構造と機能 . 東京大学海洋研究所シンポジウム「魚類神経科学研究の現状と展望」, 2000 . 11 .
- 7) 齋藤敏之, 田沼久美子, 田沼 裕¹⁾ (¹⁾ 帝京大・医学部・解剖学): ショック時副腎皮質ステロイドのカテコールアミン受容体 up-regulation 作用 . (ショックにおけるステロイド治療のセッション Pros & Cons). 第28回日本集中治療医学会年会 , 2001 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) 新井 哲, 浅川光夫 : 本邦成人肝静脈の形態計測学的研究 . 第68回日本医科大学医学会総会 , 2000 . 9 .
- 2) 国松淳和¹⁾, 中嶋信人¹⁾, 浅川光夫 (¹⁾ 日本医科大学・学生): 解剖学実習で認められた嚢胞腎の形態計測学的検索 . 第68回日本医科大学医学会総会 , 2000 . 9 .
- 3) 中嶋信人¹⁾, 国松淳和¹⁾, 浅川光夫 (¹⁾ 日本医科大学・学生): 本邦成人における骨盤腎の1例 . 第68回日本医

科大学医学会総会，2000．9．

- 4) 山本直之，吉本正美，伊藤博信：コイ科魚類における非膝状体系視覚路．第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会合同大会，2000．9．
- 5) 吉本正美，山本直之，伊藤博信：硬骨魚類テラピアの延髄の一次一般臓性領域からの上行系．第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会合同大会，2000．9．
- 6) 山本直之，吉本正美，伊藤博信：コイ科魚類における視覚上行路．第71回日本動物学会，2000．9．
- 7) 二見長一郎，田沼久美子，田沼 裕¹⁾，齋藤敏之⁽¹⁾帝京大学，医学部，解剖)：房室結節と房室束の形態と動脈分布．第88回日本解剖学会関東地方会，2000．10．
- 8) 野呂晋一¹⁾，井尻憲一¹⁾，山本直之，伊藤博信⁽¹⁾東京大学，アイソトープセンター)：メダカ突然変異体haの前庭神経系の解析．第14回日本宇宙生物科学会，2000．10．

3. 生理学第一講座

研究概要

本講座の主要な課題は生殖生理学を中心とする神経内分泌学で、思春期の発動機序や思春期の問題行動に代表される情動の中樞調節を研究している。キーワードにはGnRH, エストロゲン, 受容体, 転写調節, 生殖行動, イオンチャンネル, トランスジェニックなどがある。器官生理学を担当する学部教育では新カリキュラムに対応して実習機器の一部を更新し、優れた学生の参加を得て自主学習の成果もあがっている。従来の研究教育スタッフに加え、本年度から私学振興・共済事業団の助成事業として博士研究員の制度が新設され、大学院修了者を採用することができた。待望の制度の導入を決断された各位に感謝する。科学研究費補助金では基盤(B), (C)の各1件の継続課題に加えて8件を申請し、新たに基盤(C), 萌芽的研究, 奨励研究計3件の新規採択を果たした。学内外のご支援を得て、大学院重点特別経費研究科分の「エストロゲン受容体陽性ニューロンによる脳機能の調節」の計画が発足した。本年度から開始された日本学術振興会日米科学協力事業「脳研究」分野(代表, 佐々木和夫)に、「性成熟と情動行動の調節にGnRHが果たす役割」が採択され、ロックフェラー大学D. W. パフ教授との共同研究の公的助成が始まった。9月には日米共同シンポジウム「脳の発達および可塑性とステロイドホルモンの作用」に学部学生を招待し、自主学習の成果を発表させた。その他の共同研究として、新たに豊田理化学研究所特別研究「ガス性化合物NOの生体機能」(指導者, 伊藤正男)と科学技術振興事業団の領域探索プログラム「情と意を科学する - 人とは何か」(代表, 松本元)に参加した。引き続き進行しているプロジェクトには日本学術振興会の未来開拓学術研究推進事業「生命体の形成機構」, 岡崎国立研究機構生理学研究所計画共同研究「個体レベルの遺伝子操作を用いた生理学的研究」, 工業技術院生命工業技術研究所競争特研などがある。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kato A, Sakuma Y: Neuronal activity in female rat preoptic area associated with sexually motivated behavior. *Brain Research* 2000; 862: 90-102.
- 2) Kiyama R¹⁾, Onishi Y¹⁾, Wanpirak C¹⁾, Wada-Kiyama Y (¹National Institute of Bioscience and Human-Technology): Regulation of transcription by bent DNA through chromatin structure. *Gene Therapy and Molecular Biology* 2000; 4: 363-368.
- 3) Shuto Y, Shibasaki T, Wada K, Parhar IS, Kamegai J, Sugihara H, Oikawa S, Wakabayashi I: Generation of polyclonal antiserum against the growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) Evidence that the GHS-R exists in the hypothalamus, pituitary and stomach of rats. *Life Sciences* 2000; 68: 991-996.
- 4) Shepherd BS¹²⁾, Eckert SM³⁾, Parhar IS, Vijayan MM⁴⁾, Wakabayashi I, Hirano T³⁾, Grau EG³⁾, Chen TT¹⁾ (¹Biotechnology Center, University of Connecticut, ²T. H Morgan School of Biological Sciences, University of Kentucky, ³Hawaii Institute of Marine Biology, University of Hawaii, ⁴Department of Biology, University of Waterloo): The hexapeptide KP-102 (D-Ala-D- -Nal-Ala-Trp-D-Phe-Lys-NH₂) stimulates growth hormone release in a cichlid fish (*Oreochromis mossambicus*). *Journal of Endocrinology* 2000; 167: 7-10.
- 5) Uchiyama M, Nakajima Y, Sakuma Y, Kato M: Purinergic regulation of intracellular Ca²⁺ concentration of rat pituitary folliculo-stellate cells in primary culture. *Journal of Neuroendocrinology* 2001; 13: 378-385.
- 6) Nakajima Y, Uchiyama M, Shirai Y, Sakuma Y, Kato M: Acetylcholine increases intracellular Ca²⁺ in the

rat pituitary folliculostellate cells in primary culture . American Journal of Physiology : Endocrinology and Metabolism 2001 ; 280 : E608-E615 .

- 7) Sogami M^{1,2)}, Era S²⁾, Murakami M³⁾, Seo Y^{3,4)}, Watari H³⁾, Uyesaka N (¹⁾ Department of Physiology, School of Health Sciences, Fujita Health University , ²⁾ Department of Physiology, Gifu University school of Medicine , ³⁾ Department of Molecular Physiology, National Institute for Physiological Sciences , ⁴⁾ Department of Physiology, Kyoto Prefectural University of Medicine): Application of the transition state theory to water transport across cell membranes . Biochimica et Biophysica Acta 2001 ; 1511 : 42-48 .

(2) 総説 :

- 1) 佐久間康夫 : 性行動を支える神経回路 . 第14回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編「ステロイドホルモンと脳科学 : 性・ストレス・脳をめぐって」 2000 ; 95-104 .
- 2) 佐久間康夫 : 性行動 . 甘利俊一・外山敬介編 脳科学大事典 2000 ; 248-254 .
- 3) 佐久間康夫 : 生殖機能と脳 . 日本ME学会雑誌 2000 ; 14 (11) : 29-36 .
- 4) 佐久間康夫 : エストロゲンと脳の発達 . クリニカルニューロサイエンス 2000 ; 18 (10) : 1220-1221 .
- 5) 佐久間康夫 : 性行動を制御する神経回路 . 山内兄人 , 新井康允編「ヒューマンサイエンスシリーズ第1巻 : 性を司る脳とホルモン」 2001 ; 19-28 .
- 6) 上坂伸宏 : 赤血球のレオロジー特性 . レオロジー工学とその応用技術 2001 ; 601-608 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Kondo Y , Sakuma Y : Mediation of the medial amygdala in emotion and sexual behavior of the rats . Brain, Nose & Pituitary International Symposium , 2000 . 12 .
- 2) Oriyasa C , Hayashi S¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ Faculty of Science and Graduate School of Integrated Science, Yokohama City University): Sex difference in ER mRNA expression in the developing rat forebrain . Brain, Nose & Pituitary International Symposium , 2000 . 12 .
- 3) Pahar IS , Sakuma Y : Differential expression and regulation of GnRH forms and receptors in the teleost brain . Brain, Nose & Pituitary International Symposium , 2000 . 12 .
- 4) Hamada T , Sakuma Y : Estrogen-Receptor positive neurons in the ventromedial hypothalamic nucleus project to the periaqueductal gray . Brain, Nose & Pituitary International Symposium , 2000 . 12 .

(2) 一般講演 :

- 1) Kondo Y , Ishigami H , Kato A , Sakuma Y : Ventral premammillary and midbrain ventral tegmental regions regulate female sexual behavior . The Society for Behavioral Neuroendocrinology (Madrid, Spain), 2000 . 8 .
- 2) Parhar IS : Spatio-temporal expression of gonadotropins, GnRH and GnRH receptors . 4th International Symposium on Fish Endocrinology (Seattle, USA), 2000 . 8 .
- 3) Kiyama R¹⁾, Onishi Y¹⁾, Wada-Kiyama Y (¹⁾ National Institute of Bioscience and Human-Technology): Periodic bent DNA is a key element for nucleosome alignment and modulates enhancer activity of the human LCR . 42nd The American Society of Hematology (San Francisco, USA), 2000 . 12 .
- 4) 小山哲司¹⁾, 河野あゆみ, 小田敦子, 賀羽常道¹⁾, 塩 栄夫²⁾, 上坂伸宏 (¹⁾(株) 司測研, ²⁾滋賀県成人病センター研究所): 連続減衰負圧を用いた赤血球変形能計測装置の開発 : 第二報 . 日本バイオレオロジー学会 , 2000 . 6 .
- 5) 近藤保彦, 佐久間康夫 : 雌ラットの発する嗅覚信号と雄の性行動 . 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会 , 2000 . 9 .

- 6) 折笠千登世, 林しん治¹⁾, 佐久間康夫⁽¹⁾ (横浜市立大学・大学院総合理学研究科): ラット脳内エストロゲン受容体の性差. 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会, 2000. 9.
- 7) Li XM¹⁾, Wada-Kiyama Y, Kuwabara K, Sakuma Y, Kiyama R¹⁾ (¹⁾ NIBH/MITI): Modulation of human ER gene expression by DNA curvature. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 8) 大西芳秋¹⁾, 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工技院・生命研・分子生物): ヒト β -グロビン遺伝子 LCR の H2 領域における周期性 bent DNA によるヌクレオソーム位相を介した転写調節機構. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 9) 加藤 愛¹⁾, チャネーンワナピラック²⁾, 大西芳秋¹⁾, 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工技院・生命研・分子生物, ²⁾ チェンマイ大): グロビン遺伝子における bent DNA と silencer 活性の関係. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 10) 大西芳秋¹⁾, 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工学院・生命研): ヒト β -グロビン遺伝子 LCR の HS2 におけるヌクレオソーム位相とエンハンサー機能. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 11) 加藤 愛¹⁾, チャネーンワナピラック²⁾, 大西芳秋¹⁾, 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工技院・生命研, ²⁾ チェンマイ大学): グロビン遺伝子における bent DNA と silencer 活性の関係. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 12) 木山裕子, 大西芳秋¹⁾, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工技院・生命研): ヒト β -グロビン遺伝子 LCR の H2 領域における周期性 bent DNA の転写調節機能. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 13) 李 曉曼¹⁾, 木山裕子, 佐久間康夫, 木山亮一¹⁾ (¹⁾ 工技院・生命研): ヒトエストロゲンレセプター 遺伝子における bent DNA による転写調節. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 14) 上坂伸宏, 小山哲司¹⁾, 賀羽常道¹⁾, 塩 栄夫²⁾ (¹⁾ 司測研, ²⁾ 滋賀県立成人病センター): 連続減衰負圧を用いた赤血球変形能測定装置. 第78回日本生理学会大会, 2001. 3.
- 15) 近藤保彦, 佐久間康夫: 雌ラットの性的動機づけの新しい評価方法と扁桃体内側野の役割. 第78回日本生理学会大会, 2001. 3.
- 16) 濱田知宏, 佐久間康夫: 中脳灰白質に投射する視床下部腹内側核ニューロンはエストロゲン受容体を発現している. 第78回日本生理学会大会, 2001. 3.

4. 生理学第二講座

研究概要

現在当教室では、中枢神経系内におけるストレス関連ペプチドの機能やその発現調節、さらにそれらの機能発現に関与する受容体サブタイプの特異性、ストレス下での摂食行動の変化が生じる機序、エネルギー代謝における脂肪細胞の機能変化、てんかんの発症機序に関する研究が進行中である。

今年度の我々の教室において論文として発表された主な研究内容は、ストレス、摂食調節機構、下垂体腫瘍の病態に関してである。corticotropin-releasing factor (CRF) ファミリーに属するウロコルチンが摂食抑制効果をもたらすための作用部位が視床下部腹内側核に存在すること、条件性恐怖ストレス下で視床下部室傍核内のノルアドレナリンの分泌増加を証明し、さらにその機序にCRFタイプ1受容体が関与していること、fibroblast growth factorのラット脳室内投与が摂食抑制のみならず行動量も長時間にわたって抑制すること、ヒト各種下垂体腫瘍のthyrotropin-releasing hormone (TRH) 受容体遺伝子発現を解析し、先端巨大症において認められるTRHに対する成長ホルモンの奇異反応の出現機序に腫瘍細胞におけるTRH受容体発現量が関与していること等を明らかにした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohata H, Suzuki K, Oki Y¹⁾, Shibasaki T (¹⁾Second Division, Department of Medicine, Hamamatsu University School of Medicine): Urocortin in the ventromedial hypothalamic nucleus acts as an inhibitor of feeding behavior in rats . Brain Res 2000 ; 861 (1): 1-7 .
- 2) Ishii S¹⁾, Shibasaki T, Murakami T²⁾, Shima K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾Department of Laboratory Medicine, School of Medicine, University of Tokushima): Response of leptin mRNA to 24-h food deprivation and refeeding is influenced by age in rats . Regul Pept 2000 ; 92 (1-3): 45-50 .
- 3) Otagiri A, Wakabayashi I¹⁾, Shibasaki T (¹⁾Department of Medicine, Nippon Medical School): Selective corticotropin-releasing factor type 1 receptor antagonist blocks conditioned fear-induced release of noradrenaline in the hypothalamic paraventricular nucleus of rats . J Neuroendocrinol 2000 ; 12 (10): 1022-1026 .
- 4) Shuto Y¹⁾, Shibasaki T, Wada K¹⁾, Parhar I²⁾, Kamegai J¹⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾Department of Physiology I, Nippon Medical School): Generation of polyclonal antiserum against the growth hormone secretagogue receptor (GHS-R): evidence that the GHS-R exists in the hypothalamus, pituitary and stomach of rats . Life Sci 2001 ; 68 (9): 991-996 .
- 5) Kim K, Arai K, Sanno N¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shibasaki T (¹⁾Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): The expression of thyrotropin-releasing hormone receptor 1 messenger ribonucleic acid in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 (3): 309-316 .
- 6) Hotta M¹⁾, Kuriyama H, Arai K, Takano K¹⁾, Shibasaki T (¹⁾Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University): Fibroblast growth factor inhibits locomotor activity as well as feeding behavior of rats . Eur J Pharm 2001 ; 416 (1-2): 101-106 .

(2) 研究報告書：

- 1) 芝崎 保：神経性過食症の病態におけるCRFの解析：ラットテイルピンチストレスを用いた検討．厚生省特定

疾患対策研究事業中枢性摂食異常症に関する調査研究平成11年度研究報告書 2000 ; pp11-16 .

- 2) 芝崎 保, 新井桂子, 大畠久幸: ニコチンによる食欲抑制機序に関する解析. 平成11年度喫煙科学研究財団研究年報 2000 ; pp581-586 .

(3) 総説:

- 1) 新井桂子, 芝崎 保: レプチン. *Clinical Neuroscience* 2000 ; 18 (5): 6-7 .
- 2) 新井桂子, 芝崎 保: レプチンと下垂体機能. *内分泌・糖尿病科* 2000 ; 11 (6): 547-554 .
- 3) 丸 栄一: てんかん発作に伴うニューロン回路の可塑性. *Brain Medical* 2000 ; 12 (4): 31-38 .
- 4) 新井桂子, 芝崎 保: 中枢システムの異常による食欲調節障害. *日本臨牀* 2001 ; 59 (3): 449-455 .

著 書

- 1) Yamagata K, Sugiura H, Irie Y, Maru E, Kato H, Matsumura K, Worley PF (¹) Dept. Molec. Neurobiol., Tokyo Metropol. Insti. Neurosci., Japan, ²) Dept. Molec. Neurobiol., Tokyo Metropol. Insti. Neurosci., Japan, ³) Dept. Pharmacol., Osaka Uni. School Med., Japan, ⁴) Dept. Physiol., Nippon Medical School, Japan, ⁵) Dept. Physiol., Yamagata Uni. School Med., Japan, ⁶) Dept. Bioinformatics, Kyoto Uni. School Med., Japan, ⁷) Dept. Neurosci., Johns Hopkins Uni., USA): [分担] Activity-regulated gene expression in the brain. Slow synaptic responses and modulation (Higashida, H., Kuba, K., Brown, D. A. and Yoshioka, T.), 1999 ; pp341-348, Springer-Verlag Press .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 芝崎 保, 曾我朋子, 小田切あすか, 大畠久幸: 視床下部室傍核とストレス. 第78回日本生理学会大会, 2001 . 3 .
- 2) 丸 栄一: てんかん発作に伴うニューロン回路の可塑性. 第34回日本てんかん学会, 2000 . 9 .

(2) 一般講演:

- 1) Arai K, Nakagomi Y¹⁾, Amemiya S¹⁾, Oyama K¹⁾, Shibasaki T (¹) Department of Pediatrics, Yamanashi Medical University): Mutation in the Kozak sequence of mineralocorticoid receptor gene in a Japanese sporadic case with pseudohypoaldosteronism . 82th Annual Meeting of the Endocrine Society (Toronto, Canada), 2000 . 6 .
- 2) Kim K, Arai K, Sanno N¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shibasaki T (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): The expression of thyrotropin-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid (TRHR mRNA) in human pituitary adenomas . 82nd Annual Meeting of the Endocrine Society (Toronto), 2000 . 6 .
- 3) Sugihara H¹⁾, Kamegai J¹⁾, Ishii S¹⁾, Tamura H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Shibasaki T, Wakabayashi I¹⁾ (¹) Department of Medicine, Nippon Medical School): Ghrelin acts synergistically with GHRH on GH secretion in urethan anesthetized rats . 82nd Annual Meeting of the Endocrine Society (Toronto, Canada), 2000 . 6 .
- 4) Kim K, Arai K, Sanno N¹⁾, Teramoto A¹⁾, Shibasaki T (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): The analysis of the TRH receptor mRNA in the pituitary adenomas by RT-PCR . The Second Pyongyang Joint Medical Symposium, 2000 . 10 .
- 5) 新井桂子, 中込美子¹⁾, 雨宮 伸¹⁾, 大山健司¹⁾, 芝崎 保 (¹) 山梨医科大学小児科): 本邦の偽性低アルドステロン症孤発例におけるミネラルコルチコイド受容体の遺伝子解析. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 6) 大畠久幸, 新井桂子, 芝崎 保: Corticotropin-releasing factor (CRF) type1 受容体選択的拮抗薬連続投与の摂食行動に及ぼす作用. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 7) 鈴木健治, 芝崎 保: 視床下部室傍核を介した成長ホルモン放出ペプチド (GHRP) の摂食促進作用. 第73回

日本内分泌学会学術総会，2000．6．

- 8) 小田切あすか，芝崎 保：条件性恐怖ストレスによる視床下部室傍核（PVN）のnoradrenaline（NA）分泌亢進に対するニューロステロイドの効果．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 9) 山内直子，新井桂子，金 景成，小田切あすか，芝崎 保：ニコチン慢性投与によるラット脂肪組織のグルココルチコイド（GC）受容体の発現動態．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 10) Samarghandian S，大畠久幸，芝崎 保：テイルピンチストレスによる摂食亢進機序へのCRFの関与．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 11) 栗山秀樹，周東祐仁¹⁾，若林一²⁾，芝崎 保（¹⁾日本医科大学内科第三）：成長ホルモン分泌促進ペプチド受容体（GHRP-R）アンチセンス導入トランスジェニックラットの摂食行動の検討．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 12) 金 景成，新井桂子，山王なほ子¹⁾，寺本 明¹⁾，芝崎 保（¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科）：各種ヒト下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 13) 小田切あすか，芝崎 保：ストレス下における視床下部室傍核（PVN）でのnoradrenaline（NA），GABAの分泌パターン及びNA分泌に対するallopregnanolone（AP）の効果について．第27回日本神経内分泌学会，2000．10．
- 14) 金 景成，新井桂子，山王なほ子¹⁾，寺本 明¹⁾，芝崎 保（¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科）：各種ヒト下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第27回日本神経内分泌学会，2000．10．
- 15) 金 景成，新井桂子，山王なほ子¹⁾，寺本 明¹⁾，芝崎 保（¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科）：ヒト下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第59回脳神経外科総会，2000．10．
- 16) 金 景成，新井桂子，山王なほ子¹⁾，寺本 明¹⁾，芝崎 保（¹⁾日本医科大学付属病院脳神経外科）：先端巨大症を始めとするヒト下垂体腫瘍におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第11回日本間脳下垂体腫瘍学会，2001．1．
- 17) 新井桂子，中込美子¹⁾，雨宮 伸¹⁾，大山健司¹⁾，芝崎 保（¹⁾山梨医科大学小児科）：ミネラルコルチコイド受容体遺伝子のコザックシークエンス部位に点変異を認めた偽性低アルドステロン症の本邦孤発例．第11回臨床内分泌Update，2001．3．

5. 生化学第一講座

研究概要

本教室では、NOやスーパーオキシドなど近年情報伝達や病態などに広くかかわっている分子の生成と制御機能を中心として、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因など幅広い問題に取り組んでいる。それらに関与するのは主に金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質である。それらの蛋白質について分子生物学的手法、分光光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1. スーパーオキシドや一酸化窒素などのラジカル分子の生成と制御の機構：低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。

a) スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素（脱水素酵素）については分光学的解析や反応速度論的解析を継続的に展開しており、バキュロウイルス/昆虫細胞系を用いた発現系を用い種々の変異酵素を作成し、その解析を行っている。また、X線結晶解析による三次元構造の解析を行い、高分解能の構造解析をめざしている。現在2.1の構造をえているが、さらに高分解能および種々の複合体の解析を行っている。

b) 一酸化窒素合成酵素については、一酸化窒素合成酵素の活性制御物質の検討を行ってきた。一酸化窒素合成酵素自身については、cDNA発現系によって得たマウス小脳の天然の変異酵素や野性型酵素の特にヘム周囲の分光学的検討、分子的性質の検討を行ってきた。

2. 細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質であろうと予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その変異体の作成とその性質の検討をおこなった。また、その蛋白質の結晶を得て、立体構造の解明を行ったが、引き続き変異体の構造とヘム結合の様式につき他大学・研究機構との共同研究も行ってきた。

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Iwasaki T, Okamoto K, Nishino T, Mizushima J, Hori H, Nishino T : Sequence Motif-specific Assignment of Two [2Fe-2S] Clusters in Rat Xanthine Oxidoreductase Studied by Site-directed Mutagenesis . J. Biochem. 2000 ; 127 : 771-778 .
- 2) Enroth C¹⁾, Eger BT²⁾, Okamoto K, Nishino T, Nishino T, Pai EF²⁾ (¹⁾ Ontario Cancer Institute , ²⁾ University of Toronto): Crystal Structures of Bovine Milk Xanthine Dehydrogenase and Xanthine Oxidase : Structure-Based Mechanism of Conversion . Proc. Natl. Acad. Sci. USA 2000 ; 97 : 10723-10728 .
- 3) Okamoto K, Eger BT¹⁾, Enroth C²⁾, Sato M, Nishino T, Pai EF¹⁾, Nishino T (¹⁾ University of Toronto , ²⁾ Ontario Cancer Institute): Purification, crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of xanthine Dehydrogenase and xanthine Oxidase isolated from bovine milk . Acta Cryst. 2000 ; D56 : 1656-1658 .
- 4) Iwasaki T, Watanabe E¹⁾, Ohmori D²⁾, Imai T¹⁾, Urushiyama A¹⁾, Akiyama M¹⁾, Hayashi-Iwasaki Y³⁾, Cosper NJ⁴⁾, Scott RA⁴⁾ (¹⁾ Rikkyo University , ²⁾ Juntendo University , ³⁾ Tokyo University of Pharmacy and Life Science , ⁴⁾ University of Georgia): Spectroscopic investigation of the selective cluster conversion of archaeal zinc-containing ferredoxin from Sulfolobus sp. strain 7 . J. Biol. Chem. 2000 ; 275 : 25391-25401 .
- 5) Katayama A, Fujita N, Ishihama A (¹⁾ National Institute of Genetics): Mapping of Subunit-Subunit Contact Surfaces on the b' Subunit of Escherichia coli RNA Polymerase . J. Biol. Chem. 2000 ; 275 : 3583-3592 .

- 6) Ichida K¹⁾, Matsumura T, Sakuma R²⁾, Hosoya T¹⁾, Nishino T (¹⁾Jikei University school of Medicine , ²⁾ Toranomon Hospital): Mutation of human molybdenum cofactor sulfuryase gene is responsible for classical xanthinuria type II . Biochem. Biophys. Res. Commun. 2001 ; 282 : 1194-1200 .
- 7) Iwasaki T , Oshima T¹⁾(¹⁾ Tokyo University of Pharmacy and Life Science): Ferredoxin and related enzymes from *Sulfolobus* . Methods Enzymol (in a volume of Hyperthermophilic Enzymes, Part C) 2001 ; 334 : 191-198 .
- 8) Coper N¹⁾, Scott RA¹⁾, Hori H , Iwasaki T (¹⁾ University of Georgia): X-ray absorption spectroscopic analysis of the high-spin ferriheme site in substrate-bound neuronal nitric-oxide synthase . J. Biochem. 2001 ; in press .
- 9) Park J¹⁾, Higuchi T¹⁾, Kikuchi K¹⁾, Urano Y¹⁾, Hori H , Nishino T , Aoki J¹⁾, Inoue K¹⁾, Nagano T¹⁾ (¹⁾ The University of Tokyo): Selective inhibition of human inducible nitric oxide synthase by S-alkyl-L-isothiocitrulline-containing dipeptides . Brithish J. Pharm. 2001 ; 132 : 1876-1882 .

(2) 総説 :

- 1) Kitagawa T¹⁾, Morisima M , Nishino T²⁾, Kimura E³⁾(¹⁾ Institute for Molecular Science , ²⁾ Kyoto University , ³⁾ Hiroshima University): Progress on "Molecular Biometallics" as a Project of the Priority Areas for Research under the Auspices of Japanese Government (1996-2000). J. Biol. Inorg. Chem. 2000 ; 5 : 410-415 .
- 2) Nishino T , Okamoto K : The Role of the [2Fe-2S] Cluster Centers in Xanthine Oxidoreductase . J. Inorg. Biochem. 2000 ; 82 : 43-49 .
- 3) 広津晶子¹⁾, 阿部靖子, 西野武士, 箱嶋敏雄²⁾(¹⁾ 東北大学, ²⁾ 奈良先端技術大学院大学): ペルオキシレドキシンの分子機能の構造的基盤 . 蛋白質核酸酵素 2000 ; 11 : 2463-2474 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Brayan TE¹⁾, Emil FP¹⁾, Okamoto K , Iwasaki T , Nishino T , Hori H , Nishino T (¹⁾ University of Toronto): Crystal structure of Xanthine Oxidoreductase and EPR Assignment of Fe/S Centers . 13th International Congress FLAVINS AND FLAVOPROTEINS (Konstanz, Germany), 2000 . 8 .
- 2) Nishino T : Mechanism of conversion of xanthine dehydrogenase to xanthine oxidase . the 3rd International Conference on Oxygenases (Kyoto), 2000 . 11 .
- 3) Nishino T : Crystal structure of bovine milk xanthine dehydrogenase/oxidase and mechanism of conversion from the dehydrogenase to the oxidase . International Symposium on Advances in Bioinorganic Chemistry (Mumbai, India), 2000 . 11 .
- 4) Abe Y : An Unusual Active-Site Disulfide Bond in Rat Liver Heme Binding Protein, HBP23 . The 5th international Porphyrin-Heme symposium (Sendai), 2000 . 11 .
- 5) Nishino T : Reactivity of the flavin moiety toward molecular oxygen in xanthine oxidoreductase . 7th Tokyo Oxygen Forum Structural Biology of Oxygen Activation Systems (Tokyo), 2001 . 3 .
- 6) 西野武士 : 尿酸づくりに必要なモリブデン酵素 : 痛風のくすりのねらいどころ . 第5回「大学と科学」公開シンポジウム , 2000 . 10 .
- 7) 西野武士 : キサンチン脱水素酵素・酸化酵素のX線立体構造と分子内電子伝達と活性制御機構「シグナルおよび電子伝達における蛋白質の機能的カップリング」. 大阪大学蛋白質研究所セミナー , 2000 . 12 .
- 8) 西野武士 : 尿酸生成阻害剤の作用機構 . 第34回日本痛風・核酸代謝学会総会 , 2001 . 2 .

(2) シンポジウム :

- 1) 岡本 研, 岩崎敏雄, Enroth C¹⁾, Eger B¹⁾, Pai E¹⁾, 堀 弘幸²⁾, 西野朋子, 西野武士¹⁾ トロント大学生化

- 学,²⁾愛媛大工学部): キサンチン脱水素酵素, 酸化酵素における鉄硫黄中心の役割. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 2) 西野朋子, 岡本 研, Cris E¹⁾, Bryan ET¹⁾, Pai EF¹⁾, 堀 弘幸, 西野武士 (¹⁾University of Toronto): キサンチン脱水素酵素の酸化酵素への変換機構: 結晶解析および変異酵素の解析. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 3) 岩崎俊雄: 神経型NO合成酵素: テトラヒドロピオプテリン結合および二量体形成による活性化. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 4) 西野朋子, 岡本 研, 堀 弘幸, 西野武士, Enroth C¹⁾, Bryan TE¹⁾, Pai EF¹⁾ (¹⁾University of Toronto): キサンチン脱水素酵素の酸化酵素への変換機構: 結晶解析および変異酵素の解析. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 5) 西野朋子, 岡本 研, 西野武士, Enroth C, Bryan TE¹⁾, Pai EF¹⁾ (¹⁾University of Toronto): ミルクキサンチン脱水素酵素から酸化酵素への構造変化の機構, および阻害剤複合体構造. 文部省科学研究費特定領域 (A) 「シンクロトロン放射光による生物マシナリーの構造生物学」第2回公開シンポジウム「生物マシナリー構造生物学の新展開」, 2001. 1.
- 6) 岡本 研, 西野朋子, 堀 弘幸¹⁾, 西野武士, Enroth C²⁾, Eger B²⁾, Pai E²⁾¹⁾ 愛媛大工学部, ²⁾トロント大学生化学): 結晶構造からみたキサンチン脱水素酵素, 酸化酵素の活性変換機構の検討. 第34回日本痛風核酸代謝学会, 2001. 2.
- 7) 松村智裕, 市田公美¹⁾ (¹⁾東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科): キサンチン尿症 typeII の原因遺伝子. 第34回日本痛風核酸代謝学会, 2001. 2.
- 8) 岩崎俊雄: 酸素呼吸系の進化と成立. 第1回極限環境微生物学会年会, 2000. 9.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 鴻巣麻子, 岩崎俊雄, 青島美穂¹⁾, 西野武士 (¹⁾東京大学・農学部): 好熱性古細菌電子伝達系タンパク質の発現と解析. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 2) 岩崎俊雄, 鴻巣麻子, 黒沢則夫¹⁾, Sergei AD²⁾ (¹⁾創価大学・生物工学, ²⁾イリノイ大学・EPR研究センター): 好熱性古細菌の新規リステ型鉄硫黄タンパク質の発現と性質. 日本アーキバクテリア研究会第13回講演会, 2000. 11.
- 3) 松村智裕, 岡本 研, 西野武士: キサンチン脱水素酵素のsulfo型モリブデンコファクター合成に關与する遺伝子のヒトcDNA ホモログの解析. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- (4) ワークショップ:
- 1) 西野朋子, 岡本 研, 堀 弘幸, 西野武士, Enroth C¹⁾, Bryan TE¹⁾, Pai EF¹⁾ (¹⁾University of Toronto): キサンチン脱水素酵素及びキサンチン酸化酵素の結晶構造と機能解析. 文部省科学研究費特定領域 (A) 「シンクロトロン放射光による生物マシナリーの構造生物学」第3回ワークショップ, 2000. 8.
- (5) ポスター:
- 1) 阿部靖子: HBP23 と peroxidase 活性. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.

6. 生化学第二講座

研究概要

日本医科大学ハイテクリサーチプロジェクト・高度先端医療技術開発センター遺伝子治療研究部門の中核研究機関として、学内外の研究グループと共同で遺伝子治療の臨床応用を目指した広い範囲の研究に取り組んでいる。主な研究課題を以下に述べる。詳細はハイテクリサーチ中間報告書を参照されたい。

< 遺伝子治療 > 基礎研究としては、各種ウイルスベクターの生産法の改良を進めている。ウイルスベクターを使って特定の細胞・組織に遺伝子導入を行う標的遺伝子導入技術を開発した。染色体に組み込まれたレトロウイルスゲノムは逆転写酵素の不正確さのために、高頻度に遺伝子変異が起きていることを明らかにした。正確な遺伝子を導入するための逆転写酵素を介しない遺伝子導入系の開発を行っている。臨床応用を前提とした動物実験を臨床各科と共同で進めている。化学発癌による動物モデルを作製し、アデノウイルスベクターを使った自殺遺伝子治療の有用性を示した。リソソーム病の一つである Fabry 病のモデルマウスを使った実験では、AAV ベクターの筋肉内注射により全身の臓器の脂質代謝が著明に改善されることを示した。コラーゲン投与により作製したラットの関節炎が血管新生抑制遺伝子を組み込んだ HIV ベクターの関節内注射により抑制できることを明らかにした。リウマチ様関節炎の治療法として有望であると考えられる。

< 分子遺伝 > 体系的遺伝子発現の情報解析として SAGE (Serial analysis of gene expression) 技術を使って、成人 T 細胞白血病 (ATL) 細胞に特異的に発現している遺伝子の検索を行っている。アルカリホスファターゼ (ALP) 遺伝子の変異解析に加え、ALP 遺伝子の骨特異的転写調節機構についての解析を進めている。DNA 修復機構の一つであるミスマッチ修復蛋白質の研究の一環として、オリゴヌクレオチドを利用したミスマッチ修復による遺伝子治療の可能性を検討している。

< 臨床遺伝 > 平成 10 年度より、臨床各科と協力して本格的な遺伝子診療を開始している。学内外から紹介された遺伝性疾患の患者や家族の遺伝カウンセリングを行うとともに、必要に応じて遺伝子検査も実施している。今後は遺伝子治療も視野に入れた診療体制に発展させていきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ichikawa M¹⁾, Nakane H¹⁾, Marra G²⁾, Corti C²⁾, Jiricny J²⁾, Fitch M³⁾, Ford J, M³⁾, Ikejima M, Shimada T, Yoshino M¹⁾, Takeuchi S¹⁾, Nakatsu Y¹⁾, Tanaka K¹⁾(¹⁾Osaka University, ²⁾University of Zurich, ³⁾Stanford University School of Medicine): Decreased UV sensitivity, mismatch repair activity and abnormal cell cycle checkpoints in skin cancer cell lines derived from UVB-irradiated XPA-deficient mice. *Mutation Res.* 2000 ; 459 (4): 285-298 .
- 2) Suzuki S, Shimada T : A retroviral vector capable of targeted gene transfer into cells expressing HIV envelope glycoprotein. *Biochem Biophys Res Commun.* 2000 ; 271 (3): 672-676 .
- 3) Orimo H, Nakajima E, Yamamoto M, Ikejima M, Emi M¹⁾, Shimada T (¹⁾Inst. of Gerontology, Nippon Medical School): Association between single nucleotide polymorphisms in the hMSH3 gene and sporadic colon cancer with microsatellite instability. *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 (4): 228-230 .
- 4) Fujii I¹⁾, Suzuki S, Igarashi T, Matsukura M²⁾, Miike T¹⁾(¹⁾Department of Child Development, Kumamoto University, School of Medicine, ²⁾First Department of Surgery): Targeted and stable gene delivery into muscle cells by a two transfer system. *Biochem Biophys Res Commun.* 2000 ; 275 (3): 931-935 .

- 5) Satoh W , Hirai Y , Tamayose K , Shimada T : Site-specific integration of an an adeno-associated virus vector plasmid mediated by regulated expression of Rep based on Cre-loxP recombination . J Virol 2000 ; 74 (22): 10631-10638 .
- 6) Nishiyama Y¹²⁾ , Nejima J¹⁾ , Watanabe A , Kotani E¹⁾ , Sakai N , Hatamochi A³⁾ , Shinkai H³⁾ , Kiuchi K¹⁾ , Tamura K⁴⁾ , Shimada T , Takano T¹⁾ , Katayama Y²⁾ (¹⁾ Department of Coronary and Intensive , ²⁾ Second Department of Internal Medicine , ³⁾ Department of Dematology, Chiba University School of Medicine, Chiba , ⁴⁾ First Department of Pathology): Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis . J Intern Med 2001 ; 249 (1): 103-108 .
- 7) Miyake K , Iijima O¹⁾ , Suzuki N , Matsukura M²⁾ , Shimada T (¹⁾ Tsukuba Laboratories, Hisamitsu Pharmaceutical , ²⁾ Department of Development Pediatrics, Kumamoto University): Selective killing of HIV infected cells by targeted gene transfer and inducible gene expression using a recombinant HIV vector . Hum. Gene Ther. 2001 ; 12 (5): 227-233 .
- 8) Ikezono T¹⁾ , Omori A²⁾ , Ichinose S²⁾ , Pawankar R¹⁾ , Watanabe A , Yagi S¹⁾ (¹⁾ Department of Otorhinolaryngology , ²⁾ Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences): Identification of the protein product of the Coch gene (hereditary deafness gene) as the major component of bovine inner ear protein . Biochim Biophys Acta 2001 ; 1535 (3): 258-265 .
- 9) Shimizu H¹⁾ , Akasaka S¹⁾ , Suzuki S , Akimoto M¹⁾ , Shimada T (¹⁾ Department of Urology): Preferential gene transfer to BBN-induced rat bladder tumor by simple instillation of adenoviral vector . Urology 2001 ; 57 (3): 579-584 .
- 10) 島田 隆 : 新しい遺伝子導入/遺伝子治療技術の開発 (特集 : 遺伝子医療の発展). 最新医学 2000 ; 55 : 51-58 .
- 11) 島田 隆 : 遺伝子治療 : 21世紀への展望 (特集 : 21世紀に期待される医学・医療). 医学のあゆみ 2000 ; 195 : 889-892 .
- 12) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と問題点 . 日本臨床免疫学会誌 2000 ; 23 : 519-522 .
- 13) 島田 隆 : カラー図説 : 遺伝子修復技術の進歩 . 日本臨床 2001 ; 59 : 2-5 .

著 書

- 1) 中島英逸 , 島田 隆 : [分担] 遺伝子の組換えと修復 . 臨床遺伝子医学ガイドス (小澤敬也編), 2000 ; pp26-33 , 南山堂 .
- 2) 島田 隆 , 渡辺 淳 , 平沼多加志 : [分担] 遺伝病の治療 . 新女性医学大系「遺伝の基礎と臨床」(武谷雄二総編集), 2000 ; pp395-413 , 中山書店 .
- 3) 島田 隆 : [自著] 遺伝子治療のためのウイルスベクター . 「バイオミメティクスハンドブック」(長田義仁編), 2000 ; pp846-854 , エヌティーエス .
- 4) 島田 隆 : [分担] レトロウイルスベクター (第2部第1章第1節 遺伝子治療用医薬品の品質・安全性評価法). 「バイオ医薬品の品質・安全性評価」(早川 , 山崎 , 延原編集), 2001 ; pp351-363 , LIFE-SCIENCE INFORMATION CENTER .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Miyake K , Suzuki N , Koyanagi Y¹⁾ , Shimada T (¹⁾ Department of Virology, Tohoku University): IN VIVO TARGETED GENE TRANSFER INTO CD4+ T-CELLS BY HIGH TITER RECOMBINANT HIV VEC-

- TORS . 3rd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (Denver, CO, USA), 2000 . 5 .
- 2) Takahashi H , Hirai Y , Takahashi K , Sakuraba H¹⁾ , Kase R¹⁾ , Shimada T (¹⁾Department of Clinical Genetics, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science): Enzymatic Correction of Fibroblasts from Fabry Patients by Adeno-Associated Virus mediated gene transfer of the α -galactosidase A gene . 3rd Annual Meeting of The American Society of Gene Therapy (San Francisco, CA, USA), 2000 . 5 .
 - 3) Igarashi T , Miyake K , Suzuki N , Takahashi H¹⁾ , Shimada T (¹⁾Department of Ophthalmology , ⁴⁾): IN VIVO GENE TRANSFER INTO CORNEAL EPITHELIAL PROGENITOR CELLS BY VIRAL VECTORS . Third International Conference on the Lacrimal Gland, Tear Film and Dry Eye Syndromes : Basic Science and Clinical Relevance (Hawaii, USA), 2000 . 11 .
 - 4) Miyake K , Suzuki N , Hirai Y , Shimada T : A NEW STRATEGY FOR LARGE SCALE PREPARATION OF HIGH-TITER HIV VECTORS USING ADENOVIRUS-BASED EXPRESSION VECTORS . 42nd Annual Meeting of The American Society of Hematology (San Francisco, CA, USA), 2000 . 12 .
 - 5) Suzuki N , Miyake K , Inokuchi K , Shimada T : IN VIVO GENE THERAPY FOR ADULT T-CELL LEUKEMIA USING HIV VECTOR ; A MODEL OF ATL GENE THERAPY . 42nd Annual Meeting of The American Society of Hematology (San Francisco, CA, USA), 2000 . 12 .
 - 6) Miyake K , Suzuki N , Koyanagi Y¹⁾ , Shimada T (¹⁾Department of Virology, Tohoku University): In vivo TARGETED GENE TRANSFER INTO CD4 POSITIVE T-CELLS BY HIGH TITER RECOMBINANT HIV VECTORS . The 6th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy , 2000 . 6 .
 - 7) Takahashi H , Hirai Y , Takahashi K , Sakuraba H¹⁾ , Kase R¹⁾ , Shimada T (¹⁾Department of Clinical Genetics, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science): Efficient enzymatic cross-correction of Fabry patient's fibroblasts by adeno-associated virus vector mediated transfer of the α -galactosidase A gene . The 6th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy , 2000 . 6 .
 - 8) Igarashi T , Miyake K , Suzuki N , Takahashi H¹⁾ , Shimada T (¹⁾Department of Ophthalmology): In vivo gene transfer into corneal epithelial stem cell by lentiviral vectors . The 6th Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy , 2000 . 7 .
 - 9) Nakajima E , Sakai N , Yamamoto M , Tanabe H , Miyake K , Shimada T : Mutation rate and spectrum of HIV and MLV vectors . The 6th annual meeting of JSGT (Tokyo), 2000 . 7 .
 - 10) Miyake K , Suzuki N , Koyanagi Y , Shimada T : In vivo TARGETED GENE TRANSFER INTO CD4 POSITIVE T-CELLS BY HIGH TITER RECOMBINANT HIV VECTORS . The 6th Annual Meeting of Japanese Society of gene Therapy , 2000 . 7 .
 - 11) 島田 隆 : 癌の遺伝子治療 : 国内・国外の現状 . 8th Tokyo Cancer Chemotherapy Symposium , 2000 . 1 .
 - 12) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と展望 . バイオサミットシンポジウム2000in 沖縄 (那覇), 2000 . 1 .
 - 13) 島田 隆 : 遺伝子治療技術の新しい展望 . 第40回日本呼吸器学会総会 (広島), 2000 . 3 .
 - 14) 島田 隆 : 米国とわが国における遺伝子治療の現状と問題点 . 第73回日本整形外科学会学術集会 (神戸), 2000 . 4 .
 - 15) 神田佳和 : RA 及び MGF の大腸ガン細胞に対する作用 . 日本ビタミン学会第52回大会 , 2000 . 5 .
 - 16) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と未来 . 第19回日本歯科医学会総会 , 2000 . 5 .
 - 17) 島田 隆 : 遺伝子治療技術・最近の進歩 . 第2回血液治療研究会 (東京), 2000 . 6 .
 - 18) 池島三与子 , 島田 隆 : ミスマッチ修復を利用した遺伝子治療技術の基礎的研究 . Workshop on DNA Repair and Mutagenesis 2000 , 2000 . 9 .
 - 19) 江見 充 , 島田 隆 : 遺伝子解析研究の倫理対応 : 遺伝子診断と遺伝子研究の区分化 . 第10回 Medical Genetics 研究会プログラム , 2000 . 9 .

- 20) 島田 隆：Overview：遺伝子治療のための遺伝子導入技術の課題．第59回日本癌学会総会，2000．9．
- 21) 中島英逸，堺 則康，田辺浩子，三宅弘一，島田 隆：ウイルスベクターの不安定性の検討．第59回日本癌学会総会，2000．9．
- 22) 高橋 啓，平井幸彦²⁾，高橋久美，右田 真²⁾，桜庭 均³⁾，加瀬良一³⁾，島田 隆²⁾(¹⁾高度先端医療技術開発センター，遺伝子治療研究部門，²⁾東京都臨床医学総合研究所臨床遺伝)：AAVベクターによるFabry病遺伝子治療の基礎的検討．日本先天代謝異常学会，2000．10．
- 23) 神田佳和：MGFにおける細胞P19に対する作用．第73回日本生化学会大会，2000．10．
- 24) 折茂英生，Girschick H¹⁾，五関・曾根正江²⁾，島田 隆(¹⁾Wuerzburg大・小児科，²⁾日本女子大・食物)：ドイツ人小児型低ホスファターゼ症の遺伝子診断と機能解析．第73回日本生化学会大会，2000．10．
- 25) 内木場庸子¹⁾，右田 真¹⁾，松本多恵¹⁾，福永慶隆¹⁾，折茂英生，島田 隆，斉藤真紀子²⁾(¹⁾日本医大・小児科，²⁾東京大・医・小児科)：Werdnig-Hoffmann病(spinal muscular atrophy；SMAI型)にKlinefelter症候群を合併した1例．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 26) 高橋 啓，平井幸彦，高橋久美，右田 真，桜庭 均，加瀬良一，島田 隆：AAVベクターによるFabry病遺伝子治療の基礎的検討．日本先天代謝異常学会，2000．10．
- 27) 高橋 啓，平井幸彦¹⁾，高橋久美，右田 真¹⁾，桜庭 均²⁾，加瀬良一²⁾，島田 隆¹⁾(¹⁾高度先端医療技術開発センター，遺伝子治療研究部門，²⁾東京都臨床医学総合研究所臨床遺伝学研究部門)：AAVベクターによるFabry病遺伝子治療の基礎的検討．日本リビドーシス研究会，2000．11．
- 28) 高橋 啓，平井幸彦¹⁾，高橋久美，右田 真¹⁾，桜庭 均²⁾，加瀬良一²⁾，島田 隆¹⁾(¹⁾高度先端医療技術開発センター，遺伝子治療研究部門，²⁾東京都臨床医学総合研究所臨床遺伝学研究部門)：AAVベクターによるFabry病遺伝子治療の基礎的検討．第45回日本人類遺伝学会，2000．11．
- 29) 鈴木紀子，三宅弘一，島田 隆：HIV-LTRの遺伝子導入法によるプロモーター活性の検討．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 30) 池島三与子，中島英逸，渡辺 淳，島田 隆：ヘアピン構造を持つRNA/DNAキメラオリゴヌクレオチドと相同塩基配列を持つ二本鎖DNAとの複合体の形成．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 31) 五関 曾根正江¹⁾，折茂英生，渡辺 淳，濱谷亮子¹⁾，横関雅彦²⁾，大山紀美栄³⁾，黒田敬之³⁾，渡辺 久⁴⁾，宮崎英隆⁵⁾，島田 隆，大井田新一郎⁶⁾(¹⁾日本女子大・食物，²⁾徳島大・歯・矯正，³⁾東京医歯大・歯・2矯正，⁴⁾東京医歯大・歯・2保存，⁵⁾東京医歯大・歯・1口腔外科，⁶⁾鶴見大・歯・生化)：鎖骨・頭蓋異形成症におけるPCR-SSCP法による遺伝子診断．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 32) 田辺浩子，中島英逸，山本基子，堺 則康，島田 隆：レトロウイルスベクターゲノムの遺伝子変異．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 33) 五十嵐勉，三宅弘一，鈴木紀子，加藤 興，高橋 浩，大原國俊¹⁾，島田 隆(¹⁾日本医科大学眼科学)：角膜上皮幹細胞，TA細胞への遺伝子導入．角膜カンファレンス，2001．2．
- 34) 島田 隆：遺伝子医学の現状と将来．第53回東海地区歯科医学大会，2001．2．

7. 薬理学講座

[薬理学]

研究概要

当教室では、A) 神経細胞死の機構の解明と治療法の開発、B) シナプス伝達機構の検索、C) 脊髄発生分化関連遺伝子の検索、D) 神経因性疼痛の発生機序解明、E) 気管支拡張薬の薬理作用の解明を目的とし、以下の研究を行っている。

A) (1) 運動ニューロンの生存、神経突起伸展活性を示す物質が骨格筋中に存在するとの仮定のもとに、ニワトリ胚後肢筋抽出物よりこの物質の分離精製をおこなってきた。諸種の実験結果から、その物質は蛋白質ではなく RNA であると結論した。RNA を直接抽出する方法によっても RNA に生存因子活性があることを明らかにした。活性を有する RNA の構造解析を行っている。(2) ショウジョウバエ中枢神経系より樹立した細胞株においてアポトーシスを誘導する系を確立し、神経細胞のアポトーシスの細胞内機構を解析している。(3) すでに新生ラットを用いた研究で明らかにした運動ニューロン生存の臨界期における神経栄養因子とアポトーシス関連遺伝子の相互関係の解析を行っている。

B) 抑制性シナプス伝達を修飾する機構について、特に神経ペプチドを中心に検討している。

C) ニワトリ胚を用いた脊髄発生分化関連遺伝子の検索を行い、2つの新規細胞成長因子 (SCDGF, SCDGF-B と命名) を含め、幾つかの遺伝子を単離した。現在これらの遺伝子の発現パターンと機能について解析を行っている。

D) ラット神経因性疼痛モデルを用い、各種栄養因子の分布、発現を調べ、神経因性疼痛発症における神経栄養因子の関与と作用機序の解析を行っている。

E) 平滑筋の収縮・弛緩機構解明の目的で、モルモット摘出回腸縦走筋および摘出気管筋の膜透過性標本を作成し、Ca²⁺ 濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応における細胞内収縮タンパク系や small G タンパクの関与を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ui-Tei K, Nagano M, Sato S¹⁾, Miyata Y (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches): Calmodulin-dependent and -independent apoptosis in cells of a *Drosophila* neuronal cell line . Apoptosis 2000 ; 5 : 133-140 .
- 2) Nagano M, Ui-Tei K, Suzuki H, Piao ZF, Miyata Y : CDK inhibitors suppress apoptosis induced by chemicals and by excessive expression of a cell death gene, *reaper*, in *Drosophila* cells . Apoptosis 2000 ; 5 : 543-550 .
- 3) Hamada T, Ui-Tei K, Miyata Y : A novel gene derived from developing spinal cords, *SCDGF*, is a unique member of the PDGF/VEGF family . FEBS Lett. 2000 ; 475 : 97-102 .
- 4) Ui-Tei K, Zenno S¹⁾, Miyata Y, Saigo K¹⁾ (¹⁾ Department of Biophysics and Biochemistry, Graduate School of Science, University of Tokyo): Sensitive assay of RNA interference in *Drosophila* and chinese hamster cultured cells using firefly luciferase gene as target . FEBS Lett. 2000 ; 479 : 79-82 .
- 5) Takagi Y¹⁾, Ui-Tei K, Hirohashi S¹⁾ (¹⁾ Hirohashi Cell Contiguration Project, ERATO, JST): Adhesion-dependent tyrosine phosphorylation of Enabled in *Drosophila* neuronal cell line . Biochem. Biophys. Res. Commun. 2000 ; 270 : 482-487 .

- 6) Usui-Aoki K¹⁾, Ito H¹⁾, Ui-Tei K, Takahashi K¹⁾, Lukacsovich T¹⁾, Awano W¹⁾, Nakata H¹⁾, Piao ZF, Nilsson EE¹⁾, Tomida J¹⁾, Yamamoto D¹⁾(¹⁾School of Human Sciences and Advanced Research Institute for Science and Engineering, Waseda University): Formation of the male-specific muscle in female *Drosophila* by ectopic *fruitless* expression. Nat. Cell Biol. 2000 ; 2 : 500-506 .
- 7) Matsuda K¹⁾, Kashimoto K²⁾, Higuchi T¹⁾, Yoshida T¹⁾, Uchiyama M¹⁾, Shioda S³⁾, Arimura A⁴⁾, Okamura T (¹⁾Toyama University, ²⁾ItohHam Foods Incorporation, ³⁾Showa University, School of Medicine, ⁴⁾Tulane University, Hebert Center): Presence of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP) and its relaxant activity in the rectum of a teleost, the stargazer, *Uranoscopus japonicus*. Peptides 2000 ; 21 : 821-827 .
- 8) Hamada T, Ui-Tei, K, Imaki J¹⁾, Miyata Y (¹⁾Department of Anatomy): Molecular cloning of *SCDGF-B*, a novel growth factor homologous to SCDGF/PDGF-C/fallotin. Biochem. Biophys. Res. Commun. 2001 ; 280 : 733-737 .
- 9) 二宮宣文¹⁾, 根本香代, 岡村忠夫, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): Lipopolysaccharideのモルモット腸管収縮抑制作用. 日救急会誌 2000 ; 11 : 1-9 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 程久美子: ショウジョウバエ神経系細胞株を用いた変態ホルモンによる細胞死誘導機構の解析. 平成8~11年度文部省科学研究費特定領域研究(A)(1)成果報告書 2001 ; pp163-165 .
- (3) 総説 :
- 1) 宮田雄平: 「くすりと薬理学」バラツキの概念. 日薬理誌 2000 ; 115 : 362 .
- 2) 宮田雄平: 損傷神経の再生に伴うシナプス伝達の変化. Clinical Neuroscience 2000 ; 18 : 1278-1279 .

学会発表

- (1) ワークショップ :
- 1) 高宮正也¹⁾, 程久美子, 永野昌俊, 鈴木秀典, 蒔田幸正¹⁾, 鈴木昭憲²⁾, 宮田雄平, 片岡宏誌¹⁾(¹⁾東京大学大学院新領域・先端生命, ²⁾秋田県立大学): 骨格筋由来の新規運動神経栄養因子の精製. 日本農芸化学会2000年度大会, 2000 . 4 .
- (2) 一般講演 :
- 1) Suzuki H²⁾, Konishi S¹⁾, ²⁾(¹⁾Mitsubishi Kasei Inst Life Sci, ²⁾CREST (JST)): Selective enhancement of GABA-mediated transmission by substance P in the rat amygdala. Federation of European Neuroscience Societies (FENS) Millennium Meeting (Brighton, UK), 2000 . 6 .
- 2) Konishi S¹⁾, ²⁾, Saitow F¹⁾, ²⁾, Satake S¹⁾, ²⁾, Yamada J¹⁾, Suzuki H²⁾(¹⁾Mitsubishi Kasei Inst Life Sci, ²⁾CREST (JST)): Mechanisms of monoaminergic facilitation of GABAergic transmission in the cerebellum. Satellite Meeting, Society for Neuroscience 30th Annual Meeting (New Orleans, La. USA), 2000 . 11 .
- 3) Song SY¹⁾, ²⁾, Suzuki H²⁾, Nakano A¹⁾, Konishi S¹⁾, ²⁾(¹⁾Mitsubishi Kasei Inst Life Sci, ²⁾CREST (JST)): Tachykinins selectively enhance GABA-mediated transmission in the rat amygdala. Society for Neuroscience 30th Annual Meeting (New Orleans, La. USA), 2000 . 11 .
- 4) 程久美子, 浜田 剛, 宮田雄平: ショウジョウバエ培養細胞における変態ホルモンによる細胞死誘導と、それに伴う細胞死関連遺伝子の発現変化と受容体の関与. アポトーシス研究会 第9回研究集談会, 2000 . 8 .
- 5) 永野昌俊, 程久美子, 鈴木秀典, 宮田雄平: 2種類のCDK阻害薬はショウジョウバエの2つの細胞株に誘導したアポトーシスを抑制する. アポトーシス研究会 第9回研究集談会, 2000 . 8 .
- 6) 朴 正福, 程久美子, 宮田雄平: ショウジョウバエ細胞死誘導遺伝子, *reaper*, によるアポトーシスにおけるプロテインキナーゼの関与. アポトーシス研究会 第9回研究集談会, 2000 . 8 .

- 7) 程久美子, 浜田 剛, 永野昌俊, 実川佐智恵, 太田成男¹⁾, 宮田雄平⁽¹⁾ (老人病研究所・生化学): 運動ニューロン生存活性を示すRNA 同定の試み. 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会合同大会, 2000. 9.
- 8) 浜田 剛, 程久美子, 今城純子¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 宮田雄平⁽¹⁾ (解剖学第一): ニワトリ胚脊髄より単離した新規細胞増殖因子SCDGFの構造と活性の解析. 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会合同大会, 2000. 9.
- 9) 鈴木秀典³⁾, 田岡万悟¹⁾, 羽田栄輔²⁾, 中野朝彩子²⁾, 池上司郎²⁾, 小西史朗^{2,3)} (¹⁾ 東京都立大学大学院生物化学, ²⁾ 三菱化学生命科学研究所, ³⁾ 科学技術振興事業団): 恐怖条件づけ連合学習に伴ってラット扁桃体で発現変動するタンパク分子の探索. 第23回日本神経科学大会・第10回日本神経回路学会大会合同大会, 2000. 9.
- 10) 二宮宣文¹⁾, 根本香代, 岡村忠夫, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学): Lipopolysaccharideのモルモット腸管収縮抑制作用機序. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 11) 高橋直樹¹⁾, 鈴木秀典, 永野昌俊, 宮田雄平, 海野雅浩¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学大学院麻酔・生体管理学): ニューロパシックペインモデルにおけるNGF発現分布の検討. 第28回日本歯科麻酔学会総会, 2000. 10.
- 12) 高橋直樹¹⁾, 永野昌俊, 塔依尔阿不都哈德尔, 鈴木秀典, 海野雅浩¹⁾, 宮田雄平⁽¹⁾ (東京医科歯科大学大学院麻酔・生体管理学): 慢性疼痛モデルラットにおける神経成長因子の発現変化. 第103回日本薬理学会関東部会, 2000. 11.
- 13) 朴 正福, 程久美子, 宮田雄平: ショウジョウバエ細胞死誘導遺伝子, *reaper*, によるアポトーシス経路に関与するプロテインキナーゼの薬理的検討. 第103回日本薬理学会関東部会, 2000. 11.
- 14) 善野修平¹⁾, 程久美子, 山下敦士²⁾, 土井 昇¹⁾, 東野亜沙美¹⁾, 宮田雄平, 上田 龍²⁾, 西郷 薫¹⁾ (¹⁾ 東京大学大学院理学系研究科, ²⁾ 三菱化学生命科学研究所): ショウジョウバエ及び哺乳類細胞でのDNA型RNAi手法の開発とその評価. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 15) 浜田 剛, 程久美子, 今城純子¹⁾, 小野寺英貴¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 宮田雄平⁽¹⁾ (解剖学第一): 成熟ラットの脊髄で発現する新規細胞増殖因子: SCDGF-B. 第23回日本分子生物学会年会, 2000. 12.
- 16) 高橋直樹¹⁾, 鈴木秀典, 永野昌俊, 海野雅浩¹⁾, 宮田雄平⁽¹⁾ (東京医科歯科大学大学院麻酔・生体管理学): 慢性絞扼性障害モデルにおける神経栄養因子の発現分布. 第74回日本薬理学会年会, 2001. 3.

[臨床薬理センター]

研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokineticsの研究: NONMEM (Non-Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能なpopulation pharmacokinetics理論を応用した薬物動態解析プログラムで, その臨床的有用性を研究している。
2. センター長の大橋は, 新GCPに関する平成9年度, 10年度, 厚生科学研究の"モニタリングと監査のあり方"に参加し, また平成11年度"医療機関におけるモニタリング受け入れガイドライン"作成のため厚生省の作業班に参加し, この方面の研究を重ねてきた。平成11年11月より日本医科大学付属病院に治験支援室が新設され臨床薬理センターもその業務を担当している。特に治験データの品質管理, 品質保証部門を臨床薬理センターが担当し, モニタリングのあり方についての研究成果を実地に役立てているが, 今後更にモニタリング特にデータマネジメントについて研究を進めていく。
3. 本学で行われている治験の重篤な有害事象報告・通知が適切に行われているかどうかについて調査した。
4. *Helicobacter pylori* (HP) urease 蛋白を精製し, マウスに免疫することにより抗HPurease活性を有するhybridoma

を誘導した。またHPureaseを構成する重複した合成ペプチド群を作成してELISA法により中和抗体の認識部位と最小抗原決定基を同定した。さらにこれらの同定部位のペプチドを合成し、それぞれウサギに免疫して得られた血清よりIgGを精製し、HPureaseに対する中和能を比較検討した。

5. 自然発症慢性膵炎モデルのWBN / Kobラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究。開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せて検討している。
6. 臨床薬理学の教育の一環として、学生が患者および病院職員を対象に意識調査を行い、治験の認知度、必要性、印象などを調査、考察した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 大橋和史, 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 奈良弘恵¹⁾, 太田詩穂子¹⁾(¹⁾薬物治験審査委員会事務局): 医療機関における治験データマネジメント: 照合率から見た治験データの評価. 臨床薬理 2001 ; 32 (1): 169S-170S .
- 2) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 大橋和史, 奈良弘恵¹⁾, 太田詩穂子¹⁾(¹⁾薬物治験審査委員会事務局): 治験依頼者の医療機関に対する有害事象報告に関する調査: 継続審査における重篤な有害事象報告を検討して. 臨床薬理 2001 ; 32 (2): 371S-372S .
- 3) 阿曾亮子, 大須賀恵美子, 大橋和史, 植松卓哉¹⁾, 大村真理子¹⁾, 小坂素子¹⁾(¹⁾学生): 「治験 (臨床試験) に関する意識調査」をテーマとした医学部3年生の臨床薬理学教育: 患者と医療関係者を対象としたアンケート. 臨床薬理 2001 ; 32 (2): 387S-388S .

(2) 総説：

- 1) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: アトピー性皮膚炎とステロイド. NIC STUDY 2000 ; 22-24 .
- 2) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 抗悪性腫瘍薬. NIC STUDY 2000 ; 22-24 .
- 3) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 剤形と相互作用の関係. NIC STUDY 2000 ; 22-24 .
- 4) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 薬の臨床試験. NIC STUDY 2000 ; 22-24 .
- 5) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: インフルエンザウイルス感染症に対する予防と治療. NIC STUDY 2001 ; 22-24 .
- 6) 奈良弘恵: 目で見えるクスリ: 鎮咳薬と去痰薬. NIC STUDY 2001 ; 22-24 .

著書

- 1) 大橋和史: [分担] くすりとの上手なつきあい方: つきあう, 創る, 育てる: くすりが市販された後に必要なこと: 市販後調査とは?. 現代のエスプリ (中野重行), 2000 ; pp190-199, 至文堂 .

学会発表

(1) プレナリーセッション：

- 1) 廣田 薫, 野呂瀬彦¹⁾, 長田久美子²⁾, 二神生爾³⁾, 大橋和史, 小林正文³⁾, 高橋秀実¹⁾(¹⁾微生物学・免疫学, ²⁾兵庫医大・細菌, ³⁾内科第三): *Helicobacter pylori* ureaseに対する中和抗体とそのエピトープの同定. 第8回日本消化器関連学会週間DDW-Japan 2000, 2000 . 10 .

(2) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子, 大須賀恵美子, 奈良弘恵¹⁾, 太田詩穂子¹⁾, 大橋和史: 日本医科大学付属4病院薬物治験審査委員会 (IRB) 年間報告 (平成11年度). 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 2) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 奈良弘恵¹⁾, 大橋和史: 日本医科大学付属4病院薬物治験審査委員会 (IRB) 年間報告 (2): 平成10, 11年度の継続審査案件のまとめ. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 3) 植松卓哉¹⁾, 大村真理子¹⁾, 小坂素子¹⁾, 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 大橋和史: 医学部3年生の自主学習で行っ

た「治験に関する意識調査」：一般外来患者と病院職員を対象としたアンケート．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 4) 大橋和史，大須賀恵美子，阿曾亮子，奈良弘恵¹⁾，太田詩穂子¹⁾：医療機関における治験データマネジメント：照合率から見た治験データの評価．第21回日本臨床薬理学会年会，2000．9．
- 5) 大須賀恵美子，阿曾亮子，大橋和史，奈良弘恵¹⁾，太田詩穂子¹⁾：治験依頼者の医療機関に対する有害事象報告に関する調査：継続審査における重篤な有害事象報告を検討して．第21回日本臨床薬理学会年会，2000．9．
- 6) 阿曾亮子，大須賀恵美子，大橋和史，植松卓哉¹⁾，大村真理子¹⁾，小坂素子¹⁾：「治験（臨床試験）に関する意識調査」をテーマとした医学部3年生の臨床薬理学教育：患者と医療関係者を対象としたアンケート．第21回日本臨床薬理学会年会，2000．9．
- 7) 高橋秀実¹⁾，廣田 薫，野呂瀬嘉彦¹⁾，長田久美子²⁾(¹⁾微生物学・免疫学，²⁾兵庫医大・細菌)：*Helicobacter pylori* urease 特異的中和抗体とそのエピトープ．第30回日本免疫学会総会・学術集会，2000．11．

8. 病理学第一講座

研究概要

本年度も基礎的研究としては肺臓病理学、腎臓病理学を中心に行われた。肺では、胎生期肺発生における MMP の役割、肺線維症の形成機序解明のためのエピモルフィンの検索、MMP-9 欠損マウスでの検討が行われた。その他に肺癌の弾性線維症と予後との関連、過敏性肺臓炎の肺胞洗浄液、びまん性肺疾患における肺胞構造の改築、肺の先天奇形、肺脈管筋腫症などが報告された。また、現在難病指定疾患として問題となっている特発性間質性肺炎の病理学的病型分類の提示、治療への提言が行われた。

腎臓では、糸球体腎炎におけるアポトーシス、糸球体腎炎に対する HGF・VEGF の治療効果、腎障害における尿細管上皮細胞および間質毛細血管障害、糸球体腎炎への高血圧の影響、糖尿病性腎症における糸球体門部毛細血管、単離糸球体の共焦点レーザー顕微鏡観察などが報告された。また、腎移植実験における急性拒絶、慢性拒絶、免疫寛容、毛細血管の変化などが研究報告された。

その他の臓器として消化器では、胃潰瘍穿孔腹膜炎における COX-2 の誘導、肝線維症における弾性線維の変化が、骨髄組織における MMP とそのインヒビターの研究、大動脈二尖弁の臨床病理学的検討が報告された。

本年度も、国内外の研究者との共同研究が盛んに行われた。特にワシントン大学、マサチューセッツ総合病院、米国 NIH、熊本大学、北海道大学、東京女子医科大学、慶應大学などで、人的交流も含め今後のさらなる発展が期待される。

その他に、学内の臨床各科との共同研究も多く行われ、間質性肺炎、肺癌、血管炎、閉塞性気管支炎、気管支性嚢胞、溶血性尿毒症などの症例、細胞診における問題点が検討報告された。特に4内科合同CPCの症例については、詳細に検討された内容がまとめられている。これらは、人体病理学のこれからの一つの方向性を示しているといえる。さらに、医学部3年生の自主学習の成果が報告されている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tatsuguchi A¹⁾, Sakamoto C¹⁾, Fukuda Y, Wada K¹⁾, Akamatsu T¹⁾, Tsukui T¹⁾, Miyake K¹⁾, Futagami S¹⁾, Yamanaka N, Kobayashi M¹⁾ (¹⁾内科第3): Induction of cyclooxygenase-2 in mesothelial cells in peritonitis caused by perforated ulcers-an immunohistochemical study in humans. *Alim Pharmacol Therapeutic, Supple* 2000 ; 14 : 58-63 .
- 2) Terasaki Y, Fukuda Y, Ishizaki M, Yamanaka N : Increased expression of epimorphin in bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice. *Am J Respir Cell Mol Biol* 2000 ; 23 : 168-174 .
- 3) Fukuda Y, Ishizaki M, Okada Y¹⁾, Seiki M²⁾, Yamanaka N (¹⁾慶應大学医学部病理, ²⁾東京大学医科学研究所癌細胞研究部) Matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases-2 in fetal rabbit lung. *Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol* 2000 ; 279 : 555-561 .
- 4) Fukushima M, Fukuda Y, Kawamoto M, Yamanaka N : Elastosis in lung carcinoma : Immunohistochemical, ultrastructural and clinical studies. *Pathol Intern* 2000 ; 50 : 626-635 .
- 5) Miyamoto H¹⁾, Azuma A, Taniguchi Y¹⁾, Takahashi T¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Hemmi S, Fukuda Y, Kudoh S¹⁾ (¹⁾内科第4): Interstitial pneumonia complicated by sjögren's syndrome, Hashimoto's disease, rheumatoid arthritis and primary biliary cirrhosis. *Intern Med* 2000 ; 39 : 970-975 .
- 6) Seike M¹⁾, Gemma A¹⁾, Hosoya Y¹⁾, Hemmi S, Taniguchi Y¹⁾, Fukuda Y, Yamanaka N, Kudoh S¹⁾

- (¹内科第4): Increase in the frequency of P16INK4 gene inactivation by hypermethylation in lung cancer during the process of metastasis and its relation to the status of p53 . Clin Cancer Res 2000 ; 6 : 4307-4313 .
- 7) Endo T¹⁾, Katsuta Y¹⁾, Kimura Y¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Aramaki T¹⁾, Takano T¹⁾, Tajima H²⁾, Fukuda Y, Sugisaki Y³⁾(¹内科第1, ²⁾放射線科, ³⁾付属病院病理部): A variant form of Churg-Straus syndrome : Initial temporal non giant cell arteritis followed by asthma. Is this a distinct clinicopathologic entity? . Hum Pathol 2000 ; 31 : 1169-1171 .
- 8) Tsujino I¹⁾, Nishimura M¹⁾, Ohira K¹⁾, Yoshimura H¹⁾, Fukuda Y, Kawakami Y¹⁾(¹北海道大学第1内科): A case of idiopathic constrictive bronchiolitis in a middle-aged male smoker . Respiratology 2000 ; 5 : 305-307 .
- 9) Shimizu A, Yamada K¹⁾, Sachs DH¹⁾, Colvin RB²⁾(¹Transplantation, Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, ²⁾Department of pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School): Intragraft events preceding chronic renal allograft rejection in a modified tolerance protocol . Kidney International 2000 ; 58 : 2546-2558 .
- 10) Shimizu A, Yamada K¹⁾, Meehan SM²⁾, Sachs DH¹⁾, Colvin RB²⁾(¹Transplantation, Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, ²⁾Department of pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School): The acceptance reaction : Intragraft events associated with tolerance to renal allografts in miniature swine . Journal of the American Society of Nephrology 2000 ; 11 : 2371-2380 .
- 11) Shimizu A, Meehan SM¹⁾, Kozlowski T²⁾, Sablinski T²⁾, Ierino FL²⁾, Cooper DKC²⁾, Sachs DH²⁾, Colvin RB¹⁾(¹Department of pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, ²⁾Transplantation, Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School): Acute humoral xenograft rejection : Destruction of the microvascular capillary endothelium in pig-to-nonhuman primate renal grafts . Laboratory Investigation 2000 ; 80 : 815-830 .
- 12) Sato S¹⁾, Adachi A¹⁾, Wakamatsu K, Sasaki Y¹⁾, Satomura K¹⁾, Asano G¹⁾(¹中央電子顕微鏡研究施設): Abnormal elastic system fibers in fibrotic human liver . Med Electron Microscopy 2000 ; 33 : 135-142 .
- 13) Betsuyaku T¹⁾, Fukuda Y, Parks WC²⁾, Shipley JM¹⁾, Senior RM¹⁾(¹Dept Medicine, Washington University of Medicine, ²⁾Dept Pediatrics, Washington University of Medicine): Gelatinase B is required for alveolar bronchiolization after intratracheal bleomycin . Am J Pathol 2000 ; 157 (2): 525-535 .
- 14) Ogawa M¹⁾, Kawamoto M, Yamanaka N(¹Division of Pathology, Tokyo Metropolitan Police Hospital): Matrix Metalloproteinase and Tissue Inhibitor of Metalloproteinase in Human Bone Marrow Tissues . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 235-241 .
- 15) Shimizu A, Masuda Y, Kitamura H, Ishizaki M, Ohashi R, Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N(¹付属病院病理部): Complement-mediated killing of mesangial cells in experimental glomerulonephritis : Cell death by a combination of apoptosis and necrosis . Nephron 2000 ; 86 (2): 152-160 .
- 16) Ishii Y¹⁾, Shimizu A, Sawada T¹⁾, Tojimbara T¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾, Yamaguchi Y²⁾, Yamanaka N(¹The Third Department of Surgery, Tokyo Women's Medical University, ²⁾Department of Pathology, Kashiwa Hospital, Jikei University): Injury of peritubular capillaries correlates with graft function in chronic renal allograft nephropathy . Transplantation Proceedings 2001 ; 33 : 1213-1214 .
- 17) Nishiyama Y¹⁾, Komaba Y¹⁾, Kitamura H, Katayama Y¹⁾(¹Second Department of Internal Medicine): Hemolytic uremic syndrome with intracranial hemorrhage following Mitomycin C administration . Internal Medicine 2001 ; 40 (3): 237-240 .
- 18) 清水 章, 益田幸成: 腎障害を合併した Castelman's disease の1例 . 腎と透析 2000 ; 48 (4): 552-561 .

- 19) 吉村明修¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 田村浩一²⁾, 高野照夫¹⁾, 清野精彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高崎雄司¹⁾, 高山守正¹⁾¹⁾, 木内 要¹⁾, 川本雅司, 岸田 浩¹⁾(¹⁾内科, ²⁾付属病院病理部): 慢性反復性肺血栓栓症による肺高血圧症により卵円孔開存を介した右 左シャントを生じた1例. 内科 2000 ; 86 (2): 389-398 .
- 20) 松原美幸¹⁾, 川本雅司, 渡會泰彦¹⁾, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾付属病院病理部): 過敏性肺臓炎の気管支洗浄液に出現する異型リンパ球の検討. J Jpn Soc Clin Cytol 2000 ; 39 (5): 408-409 .
- 21) 片山泰朗¹⁾, 石井新哉¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 高野照夫¹⁾, 吉村明修¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 坂本静樹¹⁾, 川本雅司 (¹⁾内科): ACTH非依存性両側副腎皮質過形成によるCushing症候群の兄妹例. 内科 2000 ; 86 (4): 784-791 .
- 22) 清野精彦¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 福岡長知¹⁾, 阿部信二¹⁾, 吉村明修¹⁾, 山崎峰雄¹⁾, 坂本静樹¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 田村浩一²⁾, 高野照夫¹⁾, 山中宣昭, 川本雅司, 佐藤直樹¹⁾(¹⁾内科, ²⁾付属病院病理部): 間質性肺炎・心機能低下など多彩な臨床症状を呈し筋ジストロフィーと考えられた1例. 内科 2001 ; 87 (2): 356-367 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 福田 悠: ウサギ胎生肺におけるマトリックスメタロプロテアーゼとそのインヒビターの役割. 厚生省科学研究費補助金特発性間質性肺炎の細胞分子病態に基づく疾病の病態に応じた治療法の開発研究, 平成11年度報告書 2001 ; pp26-29 .
- (3) 総説 :
- 1) Shimizu A , Colvin RB¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ Department of pathology, Massachusetts General Hospital/Harverd Medical School): Peritubular capillaries in renal allo-and xeno-graft rejection . Clinical Transplantation 2000 ; 14, Suppl 3 : 6-14 .
- 2) Shimizu A , Colvin RB¹⁾(¹⁾ Department of pathology, Massachusetts General Hospital/Harverd Medical School): Determining the histologic and Immunopathologic features of acute humoral xenograft rejection . Graft 2001 ; 4 (1): 44-46 .
- 3) 福田 悠: 特発性間質性肺炎の診断基準・病型分類. 内科 2000 ; 85 : 1055-1060 .
- 4) 山中宣昭, 清水 章: 糸球体疾患におけるアポトーシスの意義. 内科 2000 ; 86 (1): 131-135 .
- 5) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 原口秀司¹⁾, 平井恭二¹⁾, 三上 巖¹⁾, 福島光浩¹⁾, 窪倉浩敏¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 川村雅司, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 嚢胞性縦隔腫瘍の診断と治療: 特に気管支性嚢胞について. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 65-68 .
- 6) 大橋隆治, 山中宣昭: 腎障害の進展とperitubular capillary . Annual review腎臓2001 2001 ; 88-93 .
- (4) 追加分研究報告書 :
- 1) 八木聰明¹⁾, 池園哲郎¹⁾, Pawankar R¹⁾, 富山俊一¹⁾, 石崎正通, 大久保公裕¹⁾, 相原康孝¹⁾, 陣内 賢¹⁾(¹⁾耳鼻科): リンパ球受け身移入による自己免疫性迷路炎: リンパ球の内耳へのホーミング. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会 平成10年度報告書 1999 ; 15-17 .

著 書

- 1) Yamanaka N , Wen M¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院病理部): [分担] Properties of diabetic glomerulosclerosis . Diabetic Nephropathy : From Bench to Bedside (Arakawa M), 2001 ; pp18-27, 旭光社 .
- 2) 福田 悠: [分担] 間質性肺炎の形態的特性からみた治療への提言. 呼吸器疾患最新の治療. 2001-2003 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博), 2000 ; pp6-10, 南江堂 .
- 3) 福田 悠: [分担] 気管, 気管支, 肺の正常構造と発生. 標準呼吸器病学 (泉 孝英), 2000 ; pp2-14, 医学書院 .
- 4) 川本雅司, 福田 悠: [分担] 肺胞, 気管支系の異常拡張・閉塞をきたす疾患: 発育異常. 標準呼吸器病学 (泉 孝英), 2000 ; pp225-230, 医学書院 .
- 5) 川本雅司, 福田 悠: [分担] SIDE MEMO : 1 アンチトリプシン欠損症. 標準呼吸器病学 (泉 孝英),

2000 ; p229 , 医学書院 .

6) 川本雅司, 福田 悠 : [分担] SIDE MEMO : 先天性嚢胞性腺腫様奇形 . 標準呼吸器病学 (泉 孝英), 2000 ; p229 , 医学書院 .

7) 川本雅司, 福田 悠 : [分担] SIDE MEMO : 気管支肺異形成 (BPD : bronchopulmonary dysplasia). 標準呼吸器病学 (泉 孝英), 2000 ; p231 , 医学書院 .

学会発表

(1) 追加分一般講演 :

1) 池園哲郎¹⁾, Pawankar R¹⁾, 富山俊一¹⁾, 石崎正通, 大久保公裕¹⁾, 相原康孝¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 八木聡明¹⁾
(¹⁾耳鼻科) : 自己免疫性内耳炎 : recipient マウスの内耳の組織学的変化 . 第17回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 1999 .

(2) 特別講演 :

1) 福田 悠 : 肺気腫・ブラ・ブレブにおける細胞外基質障害 . 第4回日本気胸学会総会 , 2000 . 7 .

(3) 招待講演 :

1) 山中宣昭, 温 敏¹⁾(¹⁾付属病院病理部) : 糖尿病性腎症 . 第15回新潟腎シンポジウム , 2000 . 7 .

(4) 教育講演 :

1) 清水 章, 岡本日出数¹⁾, 吉沢信行²⁾(¹⁾東京慈恵医科大学腎臓高血圧内科, ²⁾防衛医科大学校公衆衛生) : 溶連菌感染後急性腎炎 (Garland type). 第30回日本腎臓学会東部学術大会 , 2000 . 11 .

(5) パネルディスカッション :

1) 清水 章 : アポトーシス . 第1回腎とバイオロジー研究会 , 2000 . 7 .

(6) ワークショップ :

1) Fukuda Y : Structural remodelling in BO/BOOP . COPD2 International Meeting (Birmingham, UK), 2000 . 6 .

(7) 一般講演 :

1) Terasaki Y , Fukuda Y , Kudoh S¹⁾, Koizumi K²⁾, Ando M³⁾, Yamanaka N (¹⁾内科第4, ²⁾外科第2, ³⁾熊本大学第1内科) : Expression of epimorphin in human lung diseases . 2000 Int Conf Am Thoracic Society (Toronto, Canada), 2000 . 5 .

2) Tatsuguchi A¹⁾, Matsui K¹⁾, Yu X¹⁾, Valencia JC¹⁾, Fukuda Y , Moss J²⁾, Ferrans VJ¹⁾(¹⁾Pathol Section, NHLBI, NIH, USA , ²⁾Pulmonary Branch, NHLBI, NIH, USA) : Immunohistochemical localization of contractile proteins in pulmonary lymphangiomyomatosis (LAM). 2000 Int Conf Am thoracic Society (Toronto, Canada), 2000 . 5 .

3) Kawamoto M , Matsubara M¹⁾, Sugisaki Y¹⁾(¹⁾Division of Surgical Pathology) : Cytological evaluation of atypical lymphocytes in bronchoalveolar lavage fluid of hypersensitivity pneumonitis . American Thoracic Society 2000. 96th International Conference (Toronto, Canada), 2000 . 5 .

4) Fukuda Y , Mochimaru H , Terasaki Y , Hemmi S , Kawamoto M , Kudo S¹⁾(¹⁾内科第4) : Mechanism of structural remodeling in pulmonary fibrosis . Thomas L. Petty Aspen Lung Conference 43 Annual Meeting (Aspen, USA), 2000 . 6 .

5) Terasaki Y , Fukuda Y , Ishizaki M , Yamanaka N : Epimorphin in bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice . Thomas L. Petty Aspen Lung Conference 43 Annual Meeting (Aspen, USA), 2000 . 6 .

6) Betsuyaku T¹⁾, Fukuda Y , Parks WC²⁾, Shipley JM¹⁾, Senior RM¹⁾(¹⁾Dept Medicine, Washington University, USA , ²⁾Dept Pediatrics, Washington University, USA) : Gelatinase B is required for alveolar bronchiolization after intratracheal bleomycin . Thomas L. Petty Aspen Lung Conference 43 Annual Meeting

- (Aspen, USA), 2000 . 6 .
- 7) Fukuda Y , Terasaki Y , Hemmi S , Kawamoto M , Yamanaka N : Mechanism of structural remodeling in idiopathic interstitial pneumonia . 23 International Congress of the International Academy of Pathology (名古屋), 2000 . 7 .
 - 8) Ishii Y¹⁾, Shimizu A , Sawada T¹⁾, Tojimbara T¹⁾, Nakajima I¹⁾, Fuchinoue S¹⁾, Teraoka S¹⁾, Yamaguchi Y²⁾, Yamanaka N (¹⁾ The Third Department of Surgery, Tokyo Women's Medical University , ²⁾ Department of Pathology, Kashiwa Hospital, Jikei University): Injury of peritubular capillaries (PTCs) correlates with renal function in chronic allograft rejection . XVIII International congress of the transplantation society (Rome, Italy), 2000 . 7 .
 - 9) Ohashi R , Shimizu A , Masuda Y , Ishizaki M , Yamanaka N : Angiogenesis and subsequent regression of peritubular capillaries in the UO model . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 11 .
 - 10) Shimizu A , Masuda Y , Ohashi R , Mori T , Ishizaki M , Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ 付属病院病理部): Caspase-3 independent apoptotic DNA fragmentation in tubular epithelial cell necrosis after ischemia-reperfusion injury . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 11 .
 - 11) Mori T , Shimizu A , Masuda Y , Ohashi R , Ishizaki M , Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ 付属病院病理部): Hepatocyte growth factor (HGF) stimulates endothelial cell proliferation and accelerates angiogenic glomerular capillary repair in experimental progressive glomerulonephritis (GN) . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 11 .
 - 12) Shimizu A , Masuda Y , Mori T , Ohashi R , Ishizaki M , Sugisaki Y¹⁾, Yamanaka N (¹⁾ 付属病院病理部): Vascular endothelial cell growth factor 165 (VEGF165) enhances glomerular capillary repair and accelerates the recovery from experimental progressive glomerulonephritis (GN) . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 11 .
 - 13) 福田 悠, 持丸 博, 逸見しのぶ, 寺崎泰弘, 川本雅司, 山中宣昭: 線維化形成機序からみた特発性間質性肺炎の分類 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 14) 寺崎泰弘, 福田 悠, 石崎正通, 山中宣昭: プレオマイシン肺臓炎におけるエピモルフィンの局在と動態 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 15) 温 敏¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 王 培榮, 山中宣昭 (¹⁾ 付属病院病理部): 糸球体門部小血管増生と糖尿病性腎症の病理所見の連続性 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 16) 王 培榮, 益田幸成, 清水 章, 石崎正通, 山中宣昭: 増殖性糸球体腎炎の進展に対する高血圧の影響 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 17) 杉崎祐一¹⁾, 温 敏¹⁾, 石崎正通, 益田幸成, 清水 章, 大橋隆治, 山中宣昭 (¹⁾ 付属病院病理部): 共焦点レーザー顕微鏡による腎糸球体の三次元的解析: 単離糸球体, ブロック法による検討 . 第43回日本腎臓学会学術総会, 2000 . 5 .
 - 18) 益田幸成, 清水 章, 大橋隆治, 森 貴博, 石崎正通, 杉崎祐一¹⁾, 山中宣昭 (¹⁾ 付属病院病理部): Thy-1+ ハブ毒腎炎における傷害糸球体の硬化進展過程 . 第43回日本腎臓学会学術総会, 2000 . 5 .
 - 19) 大橋隆治, 益田幸成, 清水 章, 森 貴博, 王培榮, 石崎正通, 山中宣昭: ラット尿管結紮モデルにおける peritubular capillary (PTC) 傷害 . 第43回日本腎臓学会学術総会, 2000 . 5 .
 - 20) 新井孝司, 石川吾利美, 清水 章, 益田幸成, 山中宣昭: 急性尿管細管壊死における腎尿管上皮細胞死 . 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000 . 9 .
 - 21) 橋本網子¹⁾, 福田 悠, 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾ (¹⁾ 皮膚科): ケラトアカントーマにおける弾性線維の経表皮の排泄と MMP-1 の関与について . 日本研究皮膚科学会 第25回年次学術大会総会, 2000 . 9 .

- 22) 清水 章, 益田幸成, 北村博司, 石崎正通, 大橋隆治, 森 貴博, 山中宣昭, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾ 付属病院病理部): 補体依存性糸球体メサンギウム細胞死 apoptotic DNA fragmentation を伴った cell necrosis . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 23) 杉崎祐一¹⁾, 温 敏¹⁾, 石崎正通, 清水 章, 益田幸成, 山中宣昭, 山下和雄²⁾(¹⁾ 付属病院病理部, ²⁾ 解剖第1): 共焦点レーザー顕微鏡による病態の三次元解析: 実験腎炎 (Thy-1 腎炎) に見る糸球体構造の特異性 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 24) 山西未穂¹⁾, 倉品隆平¹⁾, 武内 進¹⁾, 川本雅司, 岡田大輔, 山中宣昭, 原口秀司²⁾, 小泉 潔²⁾, 田中茂夫²⁾, 吉村明修³⁾, 弦間昭彦³⁾, 澁谷昌彦³⁾, 工藤翔二³⁾(¹⁾ 医学部4年, ²⁾ 外科学第2, ³⁾ 内科学第4): 当院における肺大細胞神経内分泌癌切除例の検討: 小細胞癌型集学的治療の可能性 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 25) 岡野哲也¹⁾, 植松和嗣¹⁾, 細見幸生¹⁾, 栗本太嗣¹⁾, 清家正博¹⁾, 持丸 博¹⁾, 竹中 圭¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 吉村明修¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 逸見しのぶ, 福田 悠 (¹⁾ 内科第4): 肺癌合併特発性間質性肺炎 (IIP) における FHIT 遺伝子異常の解析 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 26) 釜口晴美¹⁾, 松原美幸¹⁾, 尾崎正行¹⁾, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 川本雅司 (¹⁾ 付属病院病理部): 術中迅速診断時に捺印細胞診の併用が有用であった顆粒膜細胞腫の1例 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 27) 谷地 織¹⁾, 酒井 拓¹⁾, 吉田有里¹⁾, 北村光信¹⁾, 田村浩一²⁾, 杉崎祐一²⁾, 山中宣昭 (¹⁾ 医学部4年, ²⁾ 付属病院病理部): 横紋筋融解症: 部検例における臨床病理学的検討 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 28) 王 恒維¹⁾, 森 貴博, 大沢弘和²⁾, 清水 章, 葉山修陽¹⁾, 飯野靖彦²⁾(¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 内科第2): 膜性腎症に IgA 腎症が合併したと考えられた1例 . 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000 . 11 .
- 29) 栗原 怜¹⁾, 小野田教高¹⁾, 桜井祐成¹⁾, 大和田一博¹⁾, 須賀 優¹⁾, 大園英一¹⁾, 葉山修陽²⁾, 清水 章 (¹⁾ 春日部秀和病院腎臓内科, ²⁾ 千葉北総病院内科): シクロホスファミドパルス療法で急速に呼吸不全が悪化した ANCA 関連腎炎の1例 . 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000 . 11 .
- 30) 武井寛之¹⁾, 大沢弘和¹⁾, 駒場祐一¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 清水 章, 森 貴博, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾(¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 内科第2): クモ膜下出血を合併した Wegener 肉芽腫症の1例 . 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000 . 11 .
- 31) 小貫純一¹⁾, 斉藤博紀¹⁾, 石山明寛¹⁾, 高澤和永¹⁾, 高木正雄¹⁾, 山中宣昭, 木村健二郎²⁾(¹⁾ 東京警察病院内科, ²⁾ 東京大学腎臓内分分泌内科): 急速進行性糸球体腎炎様の経過を辿った, 高齢者腎硬化症の1例 . 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000 . 11 .
- 32) 浅野貴子¹⁾, 元吉八重子²⁾, 瀧本浩幸¹⁾, 宇田川淳子³⁾, 倉山英昭³⁾, 秋草文四郎⁴⁾, 山中宣昭 (¹⁾ 東京医科歯科大学小児科, ²⁾ 千葉市立海浜病院小児科, ³⁾ 国立療養所千葉東病院小児科, ⁴⁾ 千葉大学第2病理): 伝染性単核球症を契機に発見されたステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の1例 . 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000 . 11 .
- 33) 平田知己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 福島光浩¹⁾, 窪倉浩敏¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平井恭二¹⁾, 原口秀司¹⁾, 天神敏博¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 川本雅司 (¹⁾ 外科学第2): 原発性肺癌術後の肺移転手術症例の検討 . 第41回日本肺癌学会総会, 2000 . 11 .
- 34) 北村博司: ステロイド治療により蛋白尿の減少と組織像の改善 (MPGN からメサンギウム増殖性腎炎) を認めた Immunotactoid glomerulopathy の1例 . 第19回東京腎生検カンファランス, 2000 . 12 .
- 35) 清水 章: 初回腎生検で細動脈周囲の肉芽腫形成を, 2ヶ月後に再生検で糸球体へのアミロイド蛋白の急速な集積を認めた1例 . 第19回東京腎生検カンファランス, 2000 . 12 .
- 36) 中山智子, 川本雅司, 土屋真一¹⁾, 杉崎祐一²⁾(¹⁾ 長野県がん検診・救急センター, ²⁾ 付属病院病理部): Invasive micropapillary carcinoma の component を認めた乳癌の2例 . 第119回東京病理集談会, 日本病理学会関東支部交見会, 2000 . 12 .

- 37) 中野純子¹⁾, 平井恭二¹⁾, 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平田知己¹⁾, 原口秀司¹⁾, 天神敏博¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 川本雅司 (¹⁾外科学第2): 肺原発 MALT lymphoma の1切除例 . 第116回日本胸部外科学学会関東甲信越地方会, 2000 . 12 .
- 38) 野村可之¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 鈴木康友¹⁾, 清水宏之¹⁾, 木村 剛¹⁾, 坪井成美¹⁾, 吉田和弘¹⁾, 秋元成太¹⁾, 川本雅司 (¹⁾泌尿器科): 左鼠径部の angiomyo fibroblastoma like tumor . 第543回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000 . 12 .
- 39) 池園哲郎¹⁾, 大森 彬²⁾, 新藤 晋¹⁾, 石崎正通, パワンカールピー¹⁾, 八木聰明¹⁾(¹⁾耳鼻科, ²⁾三菱化学生命科学研究所): 遺伝性難聴 DFNA9 病因遺伝子 COCH の heterogeneity . 第102回日本耳鼻咽喉科学会総会, 2001 . 5 .

9. 病理学第二講座

研究概要

1) 細胞の増殖・分化には、間質の血管や細胞外基質が関与し、細胞に存在する各受容体を介して増殖を制御している。本教室では、癌細胞や非腫瘍性上皮細胞、血管内皮細胞、中膜平滑筋細胞の増殖・分化における細胞外基質の関与について検討している。種々の病態の進展に関わるフィブロネクチン・グリコサミノグリカンなどの細胞外基質の役割を蛋白質の合成、各細胞外基質の受容体の局在の変化としてとらえ mRNA の発現についても各種 PCR や in situ hybridization 法を用い確認している。また、病態進展には、上皮細胞、癌細胞、線維芽細胞などによる細胞外基質の生合成の変化に加えて FGF, VEGF などの増殖因子やカドヘリンなどの接着因子の変化も関与している。これら細胞外基質、成長因子、接着因子の各種細胞における作用機構を解明する目的で、細胞内骨格を介したシグナル伝達系、細胞内における遺伝子情報発現や遺伝子制御機構の修飾についても検討している。なかでも Hsp (Heat shock protein), Integrin-カテニン, DNAase-1, カテプシン B, MAPK の関与を中心に作用機構の解明を進めている。

2) 最近、動脈硬化症の発症に高脂血症、高血圧、糖尿病などの病態が深く関与していることが注目される。これまで、動脈硬化症の病態発生に関与する内皮細胞の再生過程に、様々な細胞外基質と増殖因子がどのような役割を果たしているか、さらにこのような病態でのエンドセリン、一酸化窒素 (NO) の産生動態についても検討してきた。また、動脈硬化の発生、進展に関わる内皮細胞、平滑筋細胞の増殖機序を明らかにするためにこれらの細胞における高血糖の影響、さらに AGEs (Advanced glycation endproducts), RAGE (AGE receptor) の細胞内シグナル伝達系への関与についても研究を進めている。教室では、動脈硬化の治療と予防の可能性を検討するため、平滑筋細胞の増殖、形質転換に関与する遺伝子を探索し、その遺伝子の高発現する実験系の作製や発現抑制実験も試みている。また、動脈硬化の促進因子や冠状動脈の疎水性環境の特異性につき

ADH (Alcohol dehydrogenase), Apo A (Apoprotein A), HP (Hematoporphyrin) などを指標に、レーザー顕微鏡や蛍光偏光顕微鏡を中心とした観察と多次元画像解析的手法を用いて検討している。

3) 虚血性病変の発生機序の解明を目的として、心臓の機能不全や血管障害時における、フリーラジカル、NO, Hsp, MAPK の産生を介した細胞機能障害に着目し、アポトーシスの出現を指標にその制御機構について検討している。

4) 神経病理学的には、アルツハイマー病など変性疾患を中心に、その発生病理につき、ADH との関連に注目し、解明を進めている。

5) *Helicobacter pylori* 菌感染と胃前癌病変とされる腺萎縮、腸上皮化生の関係を解明するため、過去6年間に集積した三定点生検17,000例(海外2,000例を含む)の解析を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著:

1) Mori O, Yamazaki M¹⁾, Ohaki Y²⁾, Arai Y¹⁾, Oguro T²⁾, Shimizu H²⁾, Asano G (¹⁾Second Department of Internal Medicine, ²⁾Division of Pathology, Chiba -Hokusou Hospital): Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes (MELAS) with prominent degeneration of the intestinal wall and cactus-like cerebellar pathology. Act Neuropathol. 2000; 100: 712-717.

2) Kornmann M¹⁾, Ishiwata T, Kleeff J¹⁾, Beger HG, Korc M¹⁾ (¹⁾Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Department of Medicine, Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, ²⁾De-

partment of General Surgery, University of Ulm, Germany): Fas and Fas-ligand expression in human pancreatic cancer . *Ann Surg* 2000 ; 231 : 368-379 .

- 3) Imai J , Ghagizade M , Naito Z , Asano G : Immunohistochemical expression of T, Tn and Sialyl-Tn antigens . *Anticancer Res.* 2000 .
- 4) Yoshioka T¹⁾ , Nakajima A²⁾ , Akiba H³⁾ , Ishiwata T , Asano G , Yoshino S¹⁾ , Yagita H³⁾ , Okumura K³⁾ (¹⁾ Department of Joint Disease and Rheumatism , ²⁾ Department of Immunology, Juntendo University, School of Medicine , ³⁾ CREST, Japan Science and Technology Corporation (JST)) : Contribution of OX40/OX40 ligand interaction to the pathogenesis of rheumatoid arthritis . *Eur. J. Immunol.* 2000 ; 30 : 2815-2823 .
- 5) Qin H , Ishiwata T , Wang R , Kudo M , Yokoyama M , Naito Z , Asano G : Effects of extracellular matrix on phenotype modulation and MAPK transduction of rat aortic smooth muscle cell in vitro . *Exp. Mol. Pathol.* 2000 ; 69 : 79-90 .
- 6) Umehara M¹⁾ , Watanabe A¹⁾ , Matsumoto S¹⁾ , Umehara M¹⁾ , Naito Z (¹⁾ Department of Surgery, Umehra Hospital) : G-CSF producing malignant fibrous histiocytoma in the jejunum : A case report . *Hepato-Gastroenterology* 2000 ; 47 : 1630-1632 .
- 7) Itakura J¹⁾ , Ishiwata T , Shen B²⁾ , Kornmann M¹⁾ , Korc M¹⁾ (¹⁾ Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Department of Medicine, Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, USA , ²⁾ Department of Pharmacokinetics and Metabolism, Genentech Inc, USA) : Concomitant over-expression of vascular endothelial growth factor and its receptors in pancreatic cancer . *Int. J. Cancer.* 2000 ; 1 (85) : 27-34 .
- 8) Nagashima M¹⁾ , Asano G , Yoshino S¹⁾ (¹⁾ Department of Joint Disease and Rheumatism) : Imbalance in production between vascular endothelial growth factor and endostatin in patients with rheumatoid arthritis . *J. Rheumatol.* 2000 ; 27 : 2339-2342 .
- 9) Zhang J¹⁾ , You H²⁾ , Wang T¹⁾ , Wang B²⁾ , Jia J²⁾ , Katayama H³⁾ , Maeda S³⁾ , Wang R , Asano G , Ishiwata T , Naito Z , Yokoyama M (¹⁾ China-Japan Friendship Hospital , ²⁾ Beijing Friendship Hospital, Beijing, P. R. China , ³⁾ Division of Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : Triple-staining to apoptosis of hepatic cells in situ carcinoma . *J. Nippon Med Sch* 2000 ; 67 : 280-283 .
- 10) Ogata M , Naito Z , Tanaka S , Moriyama Y , Asano G : Overexpression and localization of heat shock protein mRNA in pancreatic carcinoma . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 : 177-185 .
- 11) Mwanatambwe M , Fukunishi Y¹⁾ , Yajima M²⁾ , Suzuki K²⁾ , Asiedu K³⁾ , Etuafel S⁴⁾ , Yamada N , Asano G (¹⁾ National Sanatorium, Matuoka Hoyo-en , ²⁾ National (Sanatorium, Tama-Zenshoen) , ³⁾ Global Tuberculosis Program, WHO, Geneva, Switzerland , ⁴⁾ St. Martin Hospital, Agroyesum, Ashanti Country, Ghana) : Clinico-histopathological findings of bururi Ulcer . *Jpn. J. Leprosy* 2000 ; 69 : 93-100 .
- 12) Naito Z , Kudo M , Guang X , Nisigaki R , Yokoyama M , Yamada N , Asano G : Immunohistochemical localization of mitogen-activated protein kinase (MAPK) family and morphological change in rat heart after ischemia-reperfusion injury . *Med. Electron. Microsc.* 2000 ; 33 : 74-81 .
- 13) Kornmann M¹⁾ , Ishiwata T , Maruyama H¹⁾ , Beger HG²⁾ , Korc M¹⁾ (¹⁾ Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Department of Medicine, Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, USA , ²⁾ Department of General Surgery, University of Ulm, Germany) : Coexpression of FAS and FAS-ligand in chronic pancreatitis : correlation with apoptosis . *Pancreas* 2000 ; 20 : 123-128 .
- 14) Watanabe M¹⁾ , Ishiwata T , Nishigai K , Moriyama Y¹⁾ , Asano G (¹⁾ Center for Digestive Diseases, Second Affiliated Hospital) : Overexpression of keratinocyte growth factor in cancer cells and enterochromaffin cells

- in human colorectal cancer . *Pathol Int.* 2000 ; 50 : 363-372 .
- 15) Lu YP , Nishigai K , Ishiwata T , Asano G : Differential expression of hepatocyte growth factor and its receptor (c-Met) in a rat artificial anus model . *Wound Repair Regen* 2000 ; 8 : 59-67 .
 - 16) Lina W , Guo F , Kudo M , Asano G : Epithelial and stromal changes after castration and testosterone treatment in rat prostate . *Connective Tissue* 2000 ; 32 : 17-23 .
 - 17) Yoshida T¹⁾ , Kiuchi K¹⁾ , Nejima J¹⁾ , Kudo N , Asano G , Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine) : Expression of endothelin-1 after endothelial denudation of thoracic aortas in experimental hypercholesterolemic rats . *J. Nippon Med. Sch.* 2000 ; 67 (3) : 342-351 .
 - 18) Imai J¹⁾ , Ghazizadeh M¹⁾ , Naito Z , Asano G (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology) : Tn and sialyl-Tn antigens and clinical outcome in human breast carcinoma . *Anticancer Res* 2001 ; 21 : 1327-1334 .
 - 19) Arai Y¹⁾ , Yamazaki M²⁾ , Mori O , Muramatsu H , Asano G , Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Second Department of Internal Medicine , ²⁾ Department of Neurology, Hatuishi Hospital) : -Synuclein-positive structures in cases with sporadic Alzheimer's disease : morphology and its relationship to tau aggregation . *Brain Res.* 2001 ; 888 : 287-296 .
 - 20) Obara K , Yokoyama M , Asano G , Tanaka S : Evaluation myc and chromosome 8 copy number in colorectal using interphase cytogenetics . *Int. J. Oncology* 2001 ; 18 : 233-239 .
 - 21) Baba H , Ishiwata T , Takashi E , Xu G , Asano G : Expression and localization of lumican in the ischemic and reperfused rat heart . *Jpn. Circ. J.* 2001 ; 65 : 445-450 .
 - 22) Matsuike A , Ishiwata T , Watanabe M¹⁾ , Asano G (¹⁾ Center for Digestive Diseases, Second Affiliated Hospital) : Expression of fibroblast growth factor (FGF) -10 in human colorectal adenocarcinoma cell . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 (5) : 1-9 .
 - 23) Naito Z , Nishigaki R , Kawahara K , Yokoyama M , Yamada N , Asano G , Shimizu-Suganuma M¹⁾ , Shichinohe K¹⁾ (¹⁾ Department of Laboratory animal Science) : Localization of extracellular matrix and mitogen-activated protein kinase (MAPK) in aorta of streptozotocin treated mongolian gerbils . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 : 37-44 .
 - 24) Nakamura H¹⁾ , Mukai E²⁾ , Hirano D²⁾ , Matuhisa T³⁾ , Yamada N , Yoshino S²⁾ (¹⁾ Institute of Medical Science, St. Marianna University , ²⁾ Department of Joint Disease and Rheumatism , ³⁾ Department of Gastrointestinal Endoscopy) : Gastrointestinal disorder and helicobacter pylori infection in patients with rheumatoid arthritis . *Mod. Rheumatol.* 2001 ; 11 : 23-27 .
 - 25) Aida N¹⁾ , Yamada N , Asano G , Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Second Department of Surgery) : Three-dimensional analysis of vascular and capsular invasion in thyroid follicular carcinoma . *Pathol Int.* 2001 ; 51 (6) : 425-430 .
 - 26) 松倉則夫¹⁾ , 恩田昌彦¹⁾ , 加藤俊二¹⁾ , 沖野哲也¹⁾ , 李 榮浩¹⁾ , 徳永 昭¹⁾ , 山田宣孝 (¹⁾ 外科学第一) : H. pylori 除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討 . *Ther. Res.* 2000 ; 21 (10) : 2548-2550 .
 - 27) 山田宣孝 , 張 亜歴¹⁾ (¹⁾ 第一軍医大学 , 中国) : ヘリコバクターピロリ菌感染と胃十二指腸病変の発生に関する中日民族間比較研究 . *日中医学* 2000 ; 15 (4) : 29-31 .
 - 28) 王 春梅¹⁾ , 百束比古¹⁾ , 淺野伍朗 (¹⁾ 形成外科学) : 肥厚性癭痕及びケロイド体質の分子遺伝学的解析 . *日形会誌* 2000 ; 21 : 241-246 .
 - 29) 山田宣孝 , 松倉則夫¹⁾ , 松久威史²⁾ (¹⁾ 外科学第一 , ²⁾ 多摩永山病院内視鏡科) : 上部消化管 H. Pylori 感染症 ; 内視鏡下三定点生検法 . *日本臨牀* 2000 ; 59 (2) : 252-257 .
 - 30) 亀山孝二 , 長谷場健¹⁾ , 王 若皎 , 町田 幹²⁾ , 町田 稔²⁾ , 恩田宗彦 , 森 修 , 淺野伍朗 (¹⁾ 法医学 , ²⁾ 放射線科ハイテクリサーチセンター) : 冠動脈平滑筋細胞の膜傷害とアルコール脱水素酵素 (ADH) の発現 .

脈管学 2000 ; 40 : 259-266 .

- 31) 町田 幹¹⁾, 亀山孝二, 恩田宗彦, 浅野伍朗, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線学ハイテクリサーチセンター): 血管壁と動脈硬化病変でのHDL (Apo-A1), LDL (Apo-B) の局在の変化 . 脈管学 2000 ; 40 (5) .
- 32) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾多摩永山病院病理部): 悪性リンパ腫 : 穿刺吸引細胞診材料とフローサイトメトリーの併用による組織型判定の試みとその限界 . 臨床検査 2000 ; 11 : 1381-1387 .
- 33) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾多摩永山病院病理部): 細胞診 現状の問題点と今後の方向性 : 9. 国際交流 . 臨床検査 2000 ; 11 : 1201-1204 .
- 34) 岡井隆広¹⁾, 横山喜恵¹⁾, 田所昌夫¹⁾, 横山宗伯, 浅野伍朗 (¹⁾河北総合病院内科): 腹痛, 下痢にて発症し, 劇症型抗リン脂質抗体症候群と考えられた1例 . 内科 2000 ; 86 (11): 1037-1040 .
- 35) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 岩切 致¹⁾, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): ケロイド及び肥厚性癬痕におけるp53遺伝子多形性の解析 . 第五回ケロイド・肥厚性癬痕研究会記録集 2001 .
- 36) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾形成外科学): 肥厚性癬痕素因およびケロイド体質の分子遺伝学的解析 . 日形会誌 2001 ; 2 .

著 書

- 1) 内藤善哉 : [分担] 大腸発癌における疫学的, 遺伝的背景 . 大腸癌 (恩田昌彦, 浅野伍朗), 2000 ; pp14-33 , メディカグループ .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Yokoyama M : Fine needle aspiration cytology (FNAC) in 68 cases of superficial lymphadenopathy . 6th Japan-Thai Dagnostic Cytology Workshop , 2000 . 1 .
- 2) Yokoyama M , Asakawa K¹⁾ , Watarai Y¹⁾ , Tamura K¹⁾ , Sugisaki Y¹⁾ , Asano G (¹⁾ Division of Pathology, Nippon Medical School Hospital): Fine needle aspiration cytology (FNAC) in breast tumor, three interesting cases . 1st Japan-Thai Breast Cancer Conference , 2000 . 6 .
- 3) Yokoyama M , Tamura K¹⁾ , Sugisaki Y¹⁾ , Asano G (¹⁾ Division of Pathology, Nippon Medical School Hospital): Fine needle aspiration cytology (FNAC) in superficial lymphadenopathy . 23rd International Congress of International Academy of Pathology , 2000 . 10 .
- 4) Wang C , Ishimaru S , Hyakusoku H , Asano G : Predisposition of P53 gene polymorphism to risk against keloid and hypertrophic scar . China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (JINAN), 2000 . 10 .
- 5) Lu YP , Ishiwata T , Naito Z , Asano G : Expression and localization of lumican in human pancreatic cancer . Joint Meeting of the American Pancreatic Association and the International Association of Pancreatology (Chicago, USA), 2000 . 11 .
- 6) Qin H , Ishiwata T , Yokoyama M , Naito Z , Asano G : Expression of lumican and its mRNA in vascular smooth muscle cells of rats . XXIII International Congress of The International Academy of Pathology and 14 th World Congress of Academic and Environmental Pathology (Nagoya), 2000 . 11 .
- 7) Liu AM¹⁾ , Azuma K¹⁾ , Hosone M¹⁾ , Maeda S¹⁾ , Naito Z , Yokoyama M , Asano G (¹⁾ Division of Pathology, Tama-Nagayama Hospital): Utility of electron microscopic evaluation (EM) in fine needle aspiration cytology (FNAC). XXIII International Congress of The International Academy of Pathology and 14 th World Congress of Academic and Environmental Pathology . (Nagoya), 2000 . 11 .
- 8) Mchida M¹⁾ , Kameyam K , Onda M , Asano G , Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ 1. Department of Radiology, High technology research center): Spectroscopic analysis using hematoporphyrin as a microenvironmental probe for ath-

- erosclerotic change in the human aorta . European Congress of Radiology (Vienna, Austria), 2001 . 3 .
- 9) 劉 愛民¹⁾, 東 敬子¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診材料に対する電顕的検索が有用であった原発性副腎皮質癌の1例 . 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000 . 9 .
 - 10) 秦 漢娟, 王 若皎, 石渡俊行, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞の細胞外マトリックスによるlumican発現制御の検討 . 第32回日本臨床電子顕微鏡学会, 2000 .
 - 11) 渡辺昌則¹⁾, 石渡 俊行, 塩谷 猛¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾外科学第1): 大腸癌におけるKeratinocyte growth factor (KGF) 及びレセプターの過剰発現の意義 . 第100回日本外科学会, 2000 . 4 .
 - 12) 福原宗久¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 呂 毅¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 山村 進¹⁾, 井上松応¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横山 正¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗, 石渡俊行 (¹⁾外科学第1): 痔瘻の転移浸潤形態の生物学的特性: VEGF発現及び増殖能に関する実験的検討 . 第100回日本外科学会, 2000 . 4 .
 - 13) 前田昭太郎, 磯部宏昭, 片山 博徳, 細根 勝, 浅野伍朗: The utility of intraoperativer apid diagnosis by FNA cytology for pancreatic tumors : Two poinp uncture method . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 14) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾多摩永山病院病理部): A simple cell blok method for an endometrial cytologic diagnosis . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 15) 秦 漢娟, 王 若皎, 工藤光洋, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞の形質変換への細胞外基質の役割とMAPK伝達経路 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 16) 喬 炎, アシユラフM, 徐 光, 工藤光洋, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗: 心臓における虚血・再灌流障害の進展についての実験的研究 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 17) 王 若皎, 横山宗伯, 秦 漢娟, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞増殖制御におけるMCP_1の役割 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 18) 石渡俊行, 西海けい子, 呂 月平, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 痔瘻組織におけるルミカンの発現とその局在の検討 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 19) 孫 宇良¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 澤田名美枝, 片山博徳¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾多摩永山病院病理部): 大量胸水を契機に発見され, 濾胞性からびまん性への移行が示唆されたB細胞性複合リンパ腫の一剖検例 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 20) 松本光司¹⁾, 山本泰一¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾第二病院病理部): 腺カルチノイド腫瘍2例の免疫組織学的検討 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 21) 恩田宗彦, 亀山孝二, 町田 幹, 浅野伍朗: 糖尿病症例の動脈硬化病巣内のセロイド様自家蛍光物質の形態と蛍光特性についての病理学的検討 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 22) 戴 威¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 劉 效蘭¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾中央電子顕微鏡研究施設): 実験的急性肝障害に対する促肝細胞増殖因子 (pHGF) の治療効果2. Kupffer細胞の動態 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 23) 山田宣孝, 浅野伍朗, 温 敏¹⁾, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 松久威史²⁾ (¹⁾付属病院病理部, ²⁾多摩永山病院病理部): 地域, 民族差によるH, Pylori感染と粘膜萎縮, 腸上皮化生の関係の組織学的検討 (第3報) . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 24) 姜 景濤¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 佐々木喜広¹⁾, 浅野伍朗: 反復性一過性脳虚血による海馬CA1領域のAstrocytesとOligodendrocytesの動態_免疫組織学的観察 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 25) 内藤善哉, 横山宗伯, 石渡俊行, 浅野伍朗: 残胃癌発症に関する背景因子 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
 - 26) 菊地伊豆実¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 平井 隆¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾皮膚科学): 皮下に発症した高

- 分化型脂肪肉腫の1例．第99回日本皮膚科学会，2000．4．
- 27) 沼野香世子¹⁾，畑三恵子¹⁾，北村 伸¹⁾，川名誠司¹⁾，松本光司²⁾，内藤善哉，淺野伍朗^(¹⁾皮膚科学，²⁾第二病院病理部)：Ross syndromeの1例．第99回日本皮膚科学会，2000．4．
- 28) 秦 漢娟，石渡俊行，横山宗伯，内藤善哉，淺野伍朗：血管平滑筋細胞におけるlumican発現の検討．第32回日本結合組織学会総会，2000．5．
- 29) 永島正一¹⁾，吉野槇一¹⁾，田中秀和¹⁾，和宇慶晃一¹⁾，石渡俊行，淺野伍朗^(¹⁾付属病院リウマチ科)：SCIDマウスへの移植滑膜組織における血管新生と増殖のメカニズム．第44回日本リウマチ学会総会，2000．5．
- 30) 和宇慶晃一¹⁾，永島正一，田中秀和，吉野槇一¹⁾，石渡俊行，淺野伍朗^(¹⁾付属病院リウマチ科)：関節リウマチの関節滑膜におけるVEGF-CおよびVEGFR-3遺伝子の発現について．第44回日本リウマチ学会総会，2000．5．
- 31) 角本土幸，平野大地，永島正一，吉野槇一，石渡俊行，淺野伍朗^(¹⁾付属病院リウマチ科)：関節リウマチに合併したProtein S欠損症：人工関節置換術後肺塞栓症をおこした1例．第44回日本リウマチ学会総会（横浜），2000．5．
- 32) 沼野藤雅¹⁾，恩田昌彦¹⁾，長谷川博一¹⁾，内藤善哉，小野寺浩之¹⁾，吉行俊郎¹⁾，松倉則夫¹⁾，徳永 昭¹⁾，末岡伸夫¹⁾，西垣 均¹⁾(¹⁾外科学第一)：胃底腺ポリープが併存した胃微小胃癌（印環細胞癌）の1例．第13回日本消化器内視鏡学会，2000．6．
- 33) 加藤俊二¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内藤善哉，江上 聡¹⁾，徳永 昭¹⁾，清水宏之¹⁾，木村 剛²⁾，秋元成太²⁾，淺野伍朗^(¹⁾外科学第一，²⁾泌尿器科学)：転移巣の病理診断にて原発巣を診断し得た前立腺癌の後腹膜腫瘍の1例．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
- 34) 田中秀和¹⁾，吉野槇一¹⁾，永島正一¹⁾，和宇慶晃一，石渡俊行，淺野伍朗^(¹⁾付属病院リウマチ科)：関節リウマチ滑膜組織におけるopioid peptide及びそのreceptorの産生と局在．第21回日本炎症学会，2000．7．
- 35) 永島正一¹⁾，吉野槇一¹⁾，田中秀和¹⁾，石渡俊行，淺野伍朗^(¹⁾付属病院リウマチ科)：関節リウマチにおけるHGF-activator, HGF及びc-Metの役割．第21回日本炎症学会，2000．7．
- 36) 横山宗伯，松原美幸¹⁾，杉崎祐一¹⁾，淺野伍朗，北川泰之²⁾，白井康正²⁾(¹⁾付属病院病理部，²⁾整形外科科学)：中足骨に発生した平滑筋肉腫の1例．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術大会，2000．7．
- 37) 北川泰之¹⁾，白井康正¹⁾，角田 隆¹⁾，丸山晴久¹⁾，淺野伍朗，前田昭太郎²⁾，横山宗伯^(¹⁾整形外科科学，²⁾多摩永山病院病理部)：粘液型脂肪肉腫の治療と問題点．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術大会，2000．7．
- 38) 北川泰之¹⁾，白井康正¹⁾，玉井健介¹⁾，淺野伍朗，前田昭太郎²⁾，横山宗伯^(¹⁾整形外科科学，²⁾多摩永山病院病理部)：臀部軟部腫瘍の1例．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術大会，2000．7．
- 39) 町田 稔¹⁾，林 宏光¹⁾，田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，亀山孝二，恩田宗彦，淺野伍朗^(¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター)：光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いたヒト大動脈の動脈硬化巣における微小環境の蛍光スペクトル解析．第51回心臓血管放射線研究会，2000．7．
- 40) 喬 炎，徐 光，王 若皎，山田宣孝，淺野伍朗：心筋梗塞区域に出現したTUNEL陽性細胞の電顕的観察．第32回日本臨床電子顕微鏡学会，2000．9．
- 41) 徐 光，喬 炎，石渡俊行，山田宣孝，淺野伍朗：高血糖状態の虚血再灌流傷害進展への影響．第32回日本臨床電子顕微鏡学会，2000．9．
- 42) 藤井雄文，西海けい子，手塚 潔，河本陽子，川原清子，西垣龍太郎，石渡俊行，横山宗伯，内藤善哉，山田宣孝，淺野伍朗：糖尿病動物モデルにおける大動脈の微細構造変化とフィブロネクチン，ラミニンの局在．第32回日本臨床電子顕微鏡学会，2000．9．
- 43) 秦 漢娟，王 若皎，石渡俊行，横山宗伯，内藤善哉，淺野伍朗：平滑筋細胞の細胞外マトリックスによるlumican発現制御の検討．第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会，2000．9．
- 44) 喬 炎：虚血後心筋細胞傷害の形態学的評価とその予防法の開発．第68回日本医科大学医学会総会，2000．

9.

- 45) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): p53 遺伝子 cxon-4, nodon72 の多型性とケロイドおよび肥厚性癬痕について. 第 68 回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 46) 菊地伊豆実¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 平井 隆¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾皮膚科学): 皮下に発生した高分化型脂肪肉腫の 1 例. 第 68 回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 47) 松生愛彦¹⁾, 石渡俊行, 渡辺昌則¹⁾, 呂 月平, 内藤善哉, 森山雄吉¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾外科学第一): 大腸癌における Fibroblast growth factor-10 (FGF-10) の発現の検討. 第 59 回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 48) 古力娜尔庫尔班, 石渡俊行, 呂 月平, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 培養臍臓癌細胞と臍臓癌組織における lumican の発現とその局在の検討. 第 59 回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 49) 内藤善哉, 横山宗伯, 石渡, 俊行, 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫, ¹⁾, 徳永昭, ¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾外科学第一): 残胃癌の発生に関わる背景因子の臨床病理学的検討. 第 59 回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 50) 加藤俊二¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松田範子¹⁾, 長澤重直¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 徳永昭¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾外科学第一): 胃切除後の胃がん, 食道がん二次がん早期発見における Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) 遺伝子多型性分析の有用性. 第 59 回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 51) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): ケロイド及び肥厚性癬痕における p53 遺伝子多型性の解析. 第 9 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000 . 10 .
- 52) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): ケロイド, 肥厚性癬痕と p53 タンパク及びその関連因子の発現動態. 第 9 回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000 . 10 .
- 53) 徐 光, 喬 炎, 石渡俊行, 横山宗伯, 山田宣孝, 浅野伍朗: 高血糖状態の虚血再灌流傷害進展への影響, 特に分子形態マーカーによる形態学的観察. 第 11 回日医大外国人研究者研究会, 2000 . 11 .
- 54) 亀山孝二, 長谷場健, 王 若皎, 町田 幹, 町田 稔, 恩田宗彦, 森 修, 浅野伍朗: 冠動脈硬化病変とアルコール脱水素酵素 (ADH) の発現状態との関連. 第 41 回日本脈管学会総会, 2000 . 11 .
- 55) 町田 幹¹⁾, 亀山孝二, 恩田 宗彦, 内藤善哉, 横山宗彦, 山田宣孝, 町田 稔¹⁾, 浅野伍朗, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター): 動脈硬化病変における HDL と ApoA の同一 marker による局在状態の観察. 第 41 回日本脈管学会総会, 2000 . 11 .
- 56) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二, 町田 幹, 恩田 宗彦, 浅野伍朗, 林 宏光¹⁾, 田嶋廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター): 動脈硬化巣における微小環境変化のヘマトポルフィリン蛍光・吸光スペクトル法を用いた解析. 第 41 回日本脈管学会総会, 2000 . 11 .
- 57) 河本陽子, 横山宗伯, 浅野伍朗, 小黑辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 大秋美治¹⁾, 鴨井青龍²⁾, 河村 堯²⁾ (¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾千葉北総病院産婦人科): Placental trophoblastic tumor (PSTT) が疑われた子宮体部腫瘍の 1 例. 第 41 回日本臨床細胞学会総会, 2000 . 11 .
- 58) 徐 光, 馬場維雄, 秦 漢娟, 呂 月平, 喬 炎, 石渡俊行, 浅野伍朗: 心虚血再灌流モデルにおける lumican の発現とその局在の検討. 創傷治癒学会, 2000 . 12 .
- 59) 山下倫世¹⁾, 山本宗宏, 山崎純司, 金子弘志, 阿部信二, 喬 炎, 工藤翔二, 浅野伍朗, 吉野慎一: ニューモシチス・カリーニ, カンジタ, サイトメガロウイルス肺炎により死亡した関節リウマチの一部検例. 第 11 回日本リウマチ学会関東地方会, 2000 . 12 .
- 60) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋¹⁾, 石丸さやか¹⁾, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): p53 タンパクおよびその関連因子の発現動態とケロイド・肥厚性癬痕の発生プロセス. 第 30 回日本創傷治癒学会, 2000 . 12 .
- 61) 秦 漢娟, 石渡俊行, 王 若皎, 横山宗伯, 内藤善哉, 山田宣孝, 浅野伍朗: 血管平滑筋細胞における lumican 発現と細胞外マトリックスの関連. 第 41 回日本脈管学会, 2000 . 12 .
- 62) 王 春梅¹⁾, 百束比古¹⁾, 石渡俊行, 浅野伍朗, 中沢南堂 (¹⁾形成外科学): 肥厚性癬痕素因と耳ケロイド体質の分子遺伝学的解析. 第 7 回日本未病システム学会, 2001 . 1 .

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、教職員および大学院生が一丸となって感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などの研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。また講座主任高橋が、昨年6月より客員教授として赴任している京都大学においても、京都大学大学院生ならびに助手の福島らとともにサルを用いたHIV感染抵抗性の解明に向けた研究を進めている。また、ハーバード大学医学部より結核菌脂質の抗原提示研究者として世界的に著明な杉田昌彦博士を教授として迎え、益々の充実をめざしている。

感染症学および感染免疫学：[A]HIVに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1)千葉大学齋藤研究室との共同研究でHIVウイルス特異的キラーT細胞(CTL)のT細胞レセプター遺伝子を導入発現させ、キラーT細胞の機能を発揮するトランスジェニックマウスの開発に成功した。(2)血中に遊離したウイルス蛋白断片が血清中酵素によって機能ペプチド断片となりCTLの活性を特異的に抑制すること、また抑制されたCTLより種々の細胞障害性因子が放出されることを突き止めた。(3)こうしたCTLを構成するT細胞群が局所麻酔薬によりApoptosisに陥る可能性を見出した。(4)更に、京都大学との共同研究において、従来のような大腸菌に組み込まれたウイルス遺伝子断片ではなく、ウイルスより直接に取り出した遺伝子断片を直接サルに接種することによって感染抵抗性が誘導されることを見出すとともに、こうしたサルの体内よりウイルス感染細胞の制御を担うCTLの誘導に成功した。(5)現在、これらCTLの認識抗原を同定する目的で、HIVのGag/Pol領域遺伝子を効率よく移入することのできるベクターを開発している。(6)また、麻疹ウイルスをモデルとしてウイルス持続感染が誘発される機序の解明をめざしている。[B]C型肝炎ウイルスの発症機序に関与するウイルス特異的CTLの実体を解明するため、都臨床研の小原博士らと共同研究を展開している。[C](1)ヘリコバクター・ピロリのウレアーゼを不活性化する抗体の認識部位を同定し、同部位に対する抗体を有した患者の病態を追跡している。[D]結核菌の脂質抗原がCD1分子によって免疫系に提示される仕組みを解析中であり、本結果をもとに現在のBCGワクチンよりも更に強力な活性を有する結核菌を制御するための新たなワクチン開発を展開中である。

腫瘍免疫学：(1)腫瘍細胞表面より弱酸抽出法により腫瘍特異抗原分離・採取した抗原物質の実体を解明したところ、糖脂質が抗原物質の一部になっていることを見出し、これらの糖脂質を特異的に認識するCTLが抗腫瘍作用を有することを確認した。(2)丸山ワクチンなどの結核菌由来の免疫賦活物質の本体が蛋白ではなく、糖や脂質から構成されること、(3)およびこうした物質が樹状細胞を介してNKT細胞やT細胞を活性化することを見出した。(4)また、これらT細胞が粘膜に発生した腫瘍を制御するのみならず細胞の成長そのものに強く関与することを見出した。

アレルギー・膠原病学：[A](1)卵白OVAをコレラ毒素とともに経口投与した場合には、糞便中の分泌型IgAならびにアレルギーの原因である特異的IgE抗体産生が誘発されること、そしてこの分泌には粘膜由来のT細胞が強く関与することを見出し、アレルギー制御におけるT細胞の役割を解明する研究に着手している。

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Osono E, Takahashi M, Kurihara S¹⁾, Ohwada K¹⁾, Sakurai Y¹⁾, Onoda N¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Yoneshima H¹⁾, Hayama N²⁾, Iino Y²⁾, Saji M³⁾, Shikita R³⁾, Takahashi H, Ohkuni H (¹⁾ Department of Nephrology, Kasukabe Shuwa Hospital, ²⁾ Second Internal Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Committee for Infection

- Control of First Hospital, Nippon Medical School): Effects of "isolating hemodialysis" on prevention of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* cross-infection in a hemodialysis unit . *Clin. Nephrol.* 2000 ; 54 (2) : 128-133 .
- 2) Gumperz JE¹⁾, Roy C¹⁾, Makowska A²⁾, Lum D¹⁾, Sugita M , Podrebarac T¹⁾, Koezuka Y³⁾, Porcelli SA¹⁾, Cardell S²⁾, Brenner MB¹⁾, Behar SM (¹⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School , ²⁾ Department of Cell and Molecular Biology, Lund University , ³⁾ Pharmaceutical Research Laboratory, Kirin Brewery): Murine CD1d-restricted T cell recognition of cellular lipids . *Immunity* 2000 ; 12 (2) : 211-221 .
- 3) Spada FM¹⁾, Grant EP¹⁾, Peters PJ²⁾, Sugita M , Melian A¹⁾, Leslie DS¹⁾, Lee HK³⁾, van Donselaar E²⁾, Hanson DA⁴⁾, Krensky AM⁵⁾, Majdic O⁶⁾, Porcelli SA¹⁾, Morita CT³⁾, Brenner MB¹⁾ (¹⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School , ²⁾ The Netherlands Cancer Institute , ³⁾ Department of Internal Medicine and Interdisciplinary Graduate Program in Immunology, University of Iowa , ⁴⁾ Virginia Mason Research Center , ⁵⁾ Department of Pediatrics, Stanford University , ⁶⁾ Institute of Immunology, University of Vienna): Self-recognition of CD1 by gamma/delta T cells : implications for innate immunity . *J. Exp. Med.* 2000 ; 191 : 937-948 .
- 4) Kato C¹⁾, Sato K¹⁾, Wakabayashi A , Eishi Y²⁾ (¹⁾ Department of Food and Nutrition, Japan Women's University , ²⁾ Department of Pathology, Tokyo Medical and Dental University): The effects of allopurinol on immune function in normal BALB/c and SCID mice . *Int. J. Immunopharmacol.* 2000 ; 22 : 547-556 .
- 5) Terabe M , Kuramochi T²⁾, Ito M³⁾, Hatabu T¹⁾, Sanjoba C⁴⁾, Chang KP⁴⁾, Onodera T¹⁾, Matsumoto Y¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Immunology, School of Agriculture and Life Science, University of Tokyo , ²⁾ Laboratory of Immunology, Central Institute for Experimental Animals , ³⁾ 8th Laboratory, Kanagawa Academy of Science and Technology , ⁴⁾ Department of Microbiology/Immunology, University of Health Science, Chicago Medical School): CD4⁺ cells are indispensable for ulcer development in murine cutaneous leishmaniasis . *Infect. Immun.* 2000 ; 68 : 4574-4577 .
- 6) Nakagawa Y , Takeshita T , Berzofsky JA¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Molecular Immunogenetics and Vaccine Research Section, NIH): Analysis of the mechanism for extracellular processing in the presentation of human immunodeficiency virus-1 envelop protein-derived peptide to epitope-specific cytotoxic T lymphocytes . *Immunology* 2000 ; 101 : 76-82 .
- 7) Sugita M , van Der Wel N¹⁾, Rogers RA²⁾, Peters PJ¹⁾, Brenner MB³⁾ (¹⁾ The Netherlands Cancer Institute, Antoni van Leeuwenhoek Hospital , ²⁾ Department of Environmental Health, Harvard School of Public Health , ³⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School): CD1c molecules broadly survey the endocytic system . *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 2000 ; 97 (15) : 8445-8450 .
- 8) Terabe M , Shimizu M , Mabuchi A , Matsui S , Morikawa H¹⁾, Kaneda K¹⁾, Kakiuchi T²⁾, Yokomuro K (¹⁾ Department of Anatomy, Osaka City Medicine , ²⁾ Department of Immunology, School of Medicine, Toho University): Unresponsiveness of intrahepatic lymphocytes to bacterial superantigen : rapid development of suppressive Mac-1 (high) cells in the mouse liver . *Hepatology* 2000 ; 32 : 507-513 .
- 9) Akahata W¹⁾, Ido E¹⁾, Shimada T¹⁾, Katsuyama K²⁾, Yamamoto H²⁾, Uesaka H¹⁾, Ui M¹⁾, Kuwata T¹⁾, Takahashi H , Hayami M¹⁾ (¹⁾ Institute for Virus Research, Kyoto University , ²⁾ Laboratory Animal Research Center, Toyama Medical and Pharmaceutical University): DNA vaccination of macaques by a full genome HIV-1 plasmid which produces non-infectious virus particles . *Virology* 2000 ; 275 : 116-124 .
- 10) Nakajima Y , Takahashi M , Norose Y , Ogawa R¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Anesthesiology, Nippon

Medical School): Induction of apoptosis in mice thymocytes by tetracaine . Biomedical Res. 2000 ; 21 (5): 297-303 .

- 11) Spada FM¹⁾, Borriello F²⁾, Sugita M , Watts GF³⁾, Koezuka Y⁴⁾, Porcelli SA¹⁾(¹⁾ Department of Microbiology and Immunology, Albert Einstein College of Medicine , ²⁾ Genetics Institute, Cambridge , ³⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School , ⁴⁾ Pharmaceutical Research Laboratory, Kirin Brewery): Low expression level but potent antigen presenting function of CD1d on monocyte lineage cells . Eur. J. Immunol. 2000 ; 30 : 3468-3477 .
- 12) Terabe M , Matsui S , Noben-Trauth N²⁾, Chen H²⁾, Watson C²⁾, Donaldson DD³⁾, Carbone DP⁴⁾, Paul WE³⁾, Berzofsky JA¹⁾(¹⁾ Molecular Immunogenetics and Vaccine Research Section, NIH , ²⁾ Laboratory of Immunology National Institute of Allergy and Infectious diseases, NIH , ³⁾ Genetics Institute, Andover , ⁴⁾ Vanderbilt University School of Medicine): NKT cell-mediated repression of tumor immunosurveillance by IL-13 and the IL-4R-STAT 6 pathway . Nature Immunology 2000 ; 1 (6): 515-520 .
- 13) Takahashi M , Nakagawa Y , Berzofsky JA¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Immunogenetics and Vaccine Research Section, NIH): Counter-regulation of cytolytic activity and cytokine production in human immunodeficiency virus (HIV) -1-specific murine CD8⁺ cytotoxic T lymphocytes by free antigenic peptide . Int. Immunol. 2001 ; 13 (1): 43-51 .

(2) 研究報告書 :

- 1) 高橋秀実 , 高橋めぐみ , 中川洋子 : HIV ペプチド断片による CTL 活性抑制とそのメカニズムの解析 . 平成 12 年度厚生省 HIV 感染予防に関する研究報告書 2001 ; pp132-136 .

(3) 総説 :

- 1) Sugita M , Peters PJ¹⁾, Brenner MB²⁾(¹⁾ The Netherlands Cancer Institute, Antoni van Leeuwenhoek Hospital , ²⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School): Pathways for lipid antigen presentation by CD1 molecules : Nowhere for intracellular pathogens to hide . Traffic. 2000 ; 1 : 295-300 .
- 2) Sugita M , Brenner MB¹⁾(¹⁾ Division of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School): T lymphocyte recognition of human group 1 CD1 molecules : Implications for innate and acquired immunity . Semin. Immunol. 2000 ; 12 : 511-516 .
- 3) 高橋秀実 : エイズワクチン開発への指標 . Medical Briefs in virus infection. 2000 ; 13 (1): 1-11 .
- 4) 高橋秀実 : HIV エピトープとキラー T 細胞 . 臨床免疫 2000 ; 34 (2): 204-213 .
- 5) 高橋秀実 : ウィルス感染に対する新たなワクチン : DNA ワクチン . 化学と生物 2000 ; 38 (5): 292-300 .
- 6) 杉田昌彦 : CD1 を介した脂質抗原提示 : 結核菌感染免疫における重要性 . 医学のあゆみ 2000 ; 193 : 776-780 .
- 7) 高橋秀実 : HIV に対する感染抵抗性とは . Confronting HIV 2000 2000 ; 15 : 7-9 .
- 8) 高橋秀実 : アレルギーとワクチンの最近の話題 : 身体に内在する防衛機構 . 静岡県小児科医師会会報 2000 ; 16 : 7-10 .
- 9) 高橋秀実 : HIV ワクチン開発の展望 : DNA ワクチンによる細胞性免疫賦活 . カレントセラピー 2000 ; 19 (2): 73-76 .
- 10) 高橋秀実 : HIV 感染症の病態 2) 免疫学的側面から . 治療学 2000 ; 35 (2): 123-128 .
- 11) 杉田昌彦 : CD1 と抗原提示 . Bio Science 新用語ライブラリー免疫 2000 ; 86-87 .
- 12) 高橋秀実 : 樹状細胞による細胞性免疫の賦活 . 感染・炎症・免疫 2001 ; 31 (1): 21-28 .
- 13) 熊谷善博 : Biotechnology を有効に利用したモノクローナル抗体の作製法 . 臨床消化器内科 2001 ; 16 .

著 書

- 1) 高橋秀実：〔共著〕ワクチン接種・免疫学イラストレイティッド(多田富雄), 2000 ; pp263-272, 南江堂 .
- 2) 高橋秀実：〔共著〕易感染性症候群・免疫症候群(矢田純一), 2000 ; pp537-540, 日本臨床社 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：細胞性免疫による肝疾患制御の可能性．第36回日本肝臓学会総会，2000．6．
- 2) 熊谷善博：動物細胞工学の進歩．JAICA 国際セミナー，2000．6．
- 3) 高橋秀実：アレルギーとワクチンの最近の話題：身体に内在する防御機構．静岡県医師会平成12年度第一回研修会，2000．7．

(2) シンポジウム：

- 1) Hiasa Y¹⁾, Takahashi H, Takaku S, Shimizu M, Kohara K¹⁾, Taya C¹⁾, Yanaka T¹⁾, Yonekawa H¹⁾, Horiike N²⁾, Onji M²⁾, Kohara M¹⁾(¹⁾ Department of Microbiology and Cell Biology, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ²⁾ Third Department of Internal Medicine, Ehime University School of Medicine): Inhibition of T cell stimulation of dendritic cells caused by hepatitis C virus . XI International Symposium on Molecular Cell Biology of Macrophages 2000 (Kyoto), 2000 . 6 .
- 2) 廣田 薫¹⁾, 野呂瀬嘉彦, 長田久美子²⁾, 二神生爾¹⁾, 大橋和史³⁾, 小林正文¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学・第3内科, ²⁾ 兵庫医大・細菌, ³⁾ 日本医科大学・臨床薬理センター): Helicobacter pylori urease に対する中和抗体とそのエピトープの同定 . 第42回日本消化器学会大会, 2000 . 10 .
- 3) 高橋秀実：HIV 感染防御における感染抵抗性の実体：細胞性免疫の重要性とその賦活．第14回日本エイズ学会総会，2000．11．

(3) 海外留学生講演：

- 1) 新谷英滋：In vivo delivery of therapeutic proteins . 第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

(4) 一般講演：

- 1) Nakajima Y, Takahashi M, Ogawa R¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): Induction of apoptosis in mice thymocytes by tetracaine . 12th World Congress of Anesthesiologists. (Canada), 2000 . 6 .
- 2) Takahashi H, Uesaka H¹⁾, Fukushima T, Shimizu M, Ui M¹⁾, Hayami M¹⁾(¹⁾ Institute for Viral Research, Kyoto University): Induction of CTL specific for SHIV-infected CD4⁺ T cells from SHIV-resistant rhesus monkeys . Japan-US Cooperative Medical Science Program : The 13th Joint Scientific Meeting of AIDS . , 2001 . 3 .
- 3) 若林あや子, 宇津山正典¹⁾, 熊谷善博, 高橋秀実, 広川 勝¹⁾(¹⁾ 東京医歯大・分子免疫病理): 免疫寛容における抗原の腸管通過の必要性：OVA の門脈投与により抗原特異的免疫反応は亢進する . 第54回日本栄養食糧学会大会, 2000 . 5 .
- 4) 飯泉 匡, 津久井拓¹⁾, 多田教彦¹⁾, 松坂 聡¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 檜原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 名和志子¹⁾, 吉本 均¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 内藤義哉²⁾, 浅野伍朗²⁾, 金沢寿典¹⁾, 黒田肇¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 小林正文¹⁾(¹⁾ 内科第3, ²⁾ 病理第2): Evans 症候群を合併した自己免疫様肝炎の1例 . 第261回日本消化器病学会関東支部会例会, 2000 . 9 .
- 5) 福島達伸, 千葉 充¹⁾, 中川洋子, 速水正憲²⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日清精油, ²⁾ 京都大学・ウイルス研究所): 経口インフルエンザワクチン投与による粘膜防御免疫の誘導 . 第48回日本ウイルス学会総会, 2000 . 10 .
- 6) Sugiyama H, Yanagie H¹⁾, Takaku S, Takahashi H (¹⁾ Tumor Surgery Institute of Medical Sciences, University of Tokyo): Cellular analysis of cytotoxicity of hepatitis C virus nonstructural protein 2 . 第30回日本

免疫学会総会，2000．11．

- 7) 熊谷善博，澤田信一郎¹⁾，大脇敦子，高橋秀実¹⁾(¹⁾埼玉医大・精神神経科): 抗体超可変部へ分子移植したヒト免疫不全ウイルスエピトープを用いた感染防御．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 8) 渡理英二，福島達伸，渡辺くほみ，高橋秀実: Cyclosporin A の麻疹ウイルス持続感染細胞に及ぼす効果．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 9) 西山康裕，石丸 薫¹⁾，高橋秀実，石川博通¹⁾(¹⁾慶大・医・微生物): 型上皮細胞間T細胞による腸管上皮細胞の再生統御．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 10) 若林あや子，中川洋子，清水真澄，熊谷善博，高橋秀実: OVA に対する免疫寛容における胃液処理の関与．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 11) 高橋めぐみ，中川洋子，新谷英滋，高橋秀実: 浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞のアポトーシス誘導．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 12) 高橋秀実，廣田 薫¹⁾，野呂瀬嘉彦，長田久美子²⁾(¹⁾日本医科大学・第3内科，²⁾兵庫医大・細菌): *Helicobacter pylori* urease 特異的中和抗体とそのエピトープ．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 13) 中川洋子，清水真澄，栗林秀樹，高橋秀実: D-アミノ酸を含むエピトープペプチドを特異的に認識するキラーT細胞の誘導．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 14) 鈴木順一郎¹⁾，横須賀忠¹⁾，高瀬 完¹⁾，高橋秀実，荒瀬 尚¹⁾，斉藤 隆¹⁾(¹⁾千葉大・遺伝子制御): TCR 鎖のCDR3領域に非依存的なT細胞の抗原認識．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 15) 平松太一¹⁾，黒沢 大¹⁾，斉藤哲也¹⁾，熊谷善博，佐藤健人²⁾，垣生園子²⁾，小寺 洋¹⁾，廣戸三左雄¹⁾，松島瑞子¹⁾，稲田祐二¹⁾，西村裕之¹⁾(¹⁾桐蔭横浜大・人間科学工学センター，²⁾東海大・医・免疫): ポリエチレングリコール修飾抗原による抗原特異的免疫寛容の誘導．第30回日本免疫学会総会，2000．11．
- 16) Shinya E, Klatzmann D¹⁾, Takahashi H (¹⁾UPMC/CNRS ESA 7087, CERVI, Hopital de la Pitie-Salpetriere, Paris): Plasmo-Lentivirus : Nonviral/viral．第14回エイズ学会総会，2000．11．
- 17) 上坂浩実¹⁾，福島達伸，清水真澄，宇井雅弘¹⁾，速水正憲¹⁾，高橋秀実(¹⁾京大・ウイルス研): SHIV 感染防御能獲得サルを用いた感染抵抗性の解析: 感染細胞によるCTL誘導の試み．第14回日本エイズ学会総会，2000．11．
- 18) 宇井雅弘¹⁾，鈴木 元²⁾，桑田岳夫¹⁾，榎瀬良美¹⁾，上坂浩実¹⁾，宮崎恭行¹⁾，伊吹謙太郎¹⁾，高橋秀実，速水正憲¹⁾(¹⁾京大・ウイルス研，²⁾放影研・臨床): nef 遺伝子欠損 HIV-1/SIVmac キメラウイルス (SHIV) 接種アケザルにおける抗原性の異なる SHIV89. 6P の静脈及び経膈攻撃接種に対する感染防御．第14回日本エイズ学会総会，2000．11．

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

昨年度に続き(1) サリン被曝時におけるコンタミナントに関する研究,(2) ジエチルアニリンの免疫毒性に関する研究,(3) 有機リンによるNK細胞の活性の阻害とグランザイムとの関連に関する研究,(4) 有機リンによる可逆的なアセチルコリンエステラーゼの阻害機構に関する研究,(5) 喫煙の身体的影響およびコチニンを指標にしたバイオロジカル・モニタリングに関する研究,(6) C型肝炎の疫学,(7) クレゾールのバイオロジカル・モニタリングに関する研究,(8) 鉛中毒に関連するポルフォビリノーゲン合成酵素のクローニングおよび発現と酵素学的,分子生物学的研究,(9) シアンに対する防御因子であるメルカプトビルビン酸硫黄転移酵素の酵素学的,分子生物学的研究など多彩に研究が展開している。我々の目的は中毒,疾患の発生機序を明らかにすることである。中毒学の研究には単なる方法論の羅列に過ぎないものも多いが,我々は常にproblem-orientedであることを心がけている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Li Q, Hirata Y, Piao S, Minami M: The by-products generated during sarin synthesis in the Tokyo sarin disaster induced inhibition of natural killer and cytotoxic T lymphocyte activity. *Toxicology* 2000; 146 (2-3): 209-220.
- 2) Li Q, Hirata Y, Piao S, Minami M: Immunotoxicity of *N, N*-diethylaniline in mice: Effect on natural killer activity, cytotoxic T lymphocyte activity, lymphocyte proliferation response and cellular components of the spleen. *Toxicology* 2000; 150 (1-3): 181-191.
- 3) Hui DM, Minami M: Monitoring of fluorine in urine samples of patients involved in the Tokyo sarin disaster, in connection with the detection of other decomposition products of sarin and the by-products generated during sarin synthesis. *Clin. Chim. Acta* 2000; 302 (1-2): 171-188.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Li Q, Hirata Y, Nagahara N, Minami M: Organophosphorus pesticides strikingly decrease the activities of natural killer, cytotoxic T lymphocyte and lymphokine-activated killer: A proposed inhibition mechanism via granzyme inactivation. 40th 2001 Annual meeting of Toxicology of SOT (Society of Toxicology) (San Francisco), 2001. 3.
- 2) 李 卿, 平田幸代, 朴 順愛, 南 正康: 有機リン農薬によるNK細胞及び細胞傷害性T細胞活性への影響. 第73回日本産業衛生学会, 2000. 4.
- 3) 平田幸代, 李 卿, 朴 順愛, 南 正康: *N, N*-diethylanilineによる急性毒性と血液毒性. 第73回日本産業衛生学会, 2000. 4.
- 4) 永原則之, 中川淑郎¹⁾, 南 正康⁽¹⁾ Technische Univ. Darmstadt): ラット mercaptopyruvate sulfurtransferaseの反応機構(2): chloropyruvateは異なる2つの経路で活性を阻害する. 第73回日本生化学会大会, 2000. 10.
- 5) 勝又聖夫, 斎藤麗子¹⁾, 南 正康⁽¹⁾ 東京都村山大和保健所): 医学部及び看護専門学校の女子学生の喫煙の健康影響に関する知識と態度の比較. 第59回日本公衆衛生学会総会, 2000. 10.

- 6) 若山葉子, 植田悠紀子¹⁾(¹⁾長崎シーボルト大): 肝炎流行地区の予後の検討: 肝疾患死亡時年齢の推移. 第59回日本公衆衛生学会総会, 2000. 10.
- 7) 稲垣弘文, 玉木紀子, 中台亜里, 勝又聖夫, 南 正康: ヒト尿中クレゾール類のHSS-GC/MS分析. 日本薬学会第121年会, 2001. 3.
- 8) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 南 正康: 固相抽出法を用いたヒト血漿中コチニンの定量. 日本薬学会第121年会, 2001. 3.

12. 法医学講座

研究概要

当教室では、以下のような研究を主に行っている。法医学実務としては、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。また、親子鑑定を行い得るよう、DNA分析を含め検査能力の維持を計っている。

1. 臨床法医中毒学

救急医学教室と共同で急性薬毒物中毒の疑われる入院患者の緊急薬毒物分析法を開発し、GC/MS・LC/MS等を用いたより精度の高い分析システムの開発に取り組んでいる。また、覚醒剤・コカイン・麻薬等の不法薬物の分析も行っている。さらに、毛髪からの覚醒剤・パラコート等の薬毒物分析に取り組んでいる。

2. アルコール代謝

アルコール代謝における中心的酵素であるアルコール脱水素酵素・アルデヒド脱水素酵素のisozymeレベルでの代謝調節を検討し、アルコール感受性に対する個体差の解明に取り組んでいる。また、アルコールの臓器障害の機序やアルコールの溶液構造の影響を究明するため、培養細胞などを用いて生理学的・生化学的実験を行っている。さらに、アルコール脱水素酵素の遺伝子改変によるmolecular toxicologyの研究を進めている。

3. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・病理学第2と共同研究を行っている。

4. その他の研究

- 1) 医事法や生命倫理に関わる種々の問題を法医学的・社会医学的な立場から調査検討している。
- 2) 将来の司法解剖実施を睨み、病理組織学的手法による組織の死後変化を検討している。また、死後経過時間推定に関する研究等の実務的研究を行っている。さらに、トリカブト毒の薬物動態に関する研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 仁平 信：中毒にかかわる法律と医師の義務。Medical Practice 2000；17(9)：1495-1498。
- 2) 王 春梅¹⁾、百束比古¹⁾、岩切 致¹⁾、青木 律¹⁾、三橋 清¹⁾、平川慶子、植草協子、大野曜吉⁽¹⁾ (日本医科大学形成外科学)：¹H-NMR法を用いた癒痕組織の代謝学的分析：ケロイドと肥厚性癒痕の分類。Progress in Medicine 2000；20(11)：198-200。
- 3) 仁平 信、大野曜吉、梶原正弘¹⁾、早川秀幸、林田眞喜子、山田文士、崔 範来⁽¹⁾ (杏林大学医学部法医学)：Rocky Mountain Poison and Drug Centerを見学して。法医学の実際と研究 2000；43：359-364。
- 4) 金浦佳雅¹⁾、大野曜吉⁽¹⁾ (日本医科大学6年)：Casperの法則に関する'Practisches Handbuch der gerichtlichen Medicin' (J. L. Casper 著)の邦訳。法医学の実際と研究 2000；43：365-375。

(2) 判例診断：

- 1) 野村好弘¹⁾、杉田雅彦²⁾、池田幸穂³⁾、伊藤文夫⁴⁾、平沼高明⁵⁾、大野曜吉、高取健彦⁶⁾、山内春夫⁷⁾ (¹⁾ 東京都立大学法学部教授、²⁾ 静岡県弁護士会・弁護士、³⁾ 昭和大学医学部助教授、⁴⁾ 自動車保険料率算定会、⁵⁾ 第一東京弁護士会・弁護士、⁶⁾ 前東京大学医学部教授、⁷⁾ 新潟大学医学部教授)：交通事故と医療過誤の競合。賠償科学 2000；25：75-93。

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 大野曜吉：日本の法医学と事件例紹介．中国吉林省長春市公安局招待講演（中国吉林省長春市），2000．8．
- 2) 仁平 信：日本医科大学法医学教室における薬毒物分析．第12回日本中毒学会中国四国地方会学術集会，2000．12．

(2) 一般講演：

- 1) Kawahara S¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Inoue S¹⁾, Yamamura M¹⁾, Hirakawa K (¹⁾Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School): New diagnostic method and surgical treatment for the patients with late complications after augmentation mammoplasty. Japan-Korea congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2000. 4.
- 2) Haseba T, Kameyama K¹⁾, Mashimo K, Ohno Y (¹⁾Dept. of Pathology II, Nippon Medical School): Dose-dependent change in pharmacokinetics of ethanol in mice due to shifting the dominant metabolizing enzyme from liver Class I ADH to Class III ADH. The 10th Congress of the International Society for Biomedical Research on Alcoholism (ISBRA2000)(横浜), 2000. 7.
- 3) 林田眞喜子, 仁平 信, 山田丈士, 早川秀幸, 大野曜吉：生体試料中アコニチンアルカロイドのLC/MS分析．第84次日本法医学会総会，2000．4．
- 4) 植草協子, 平川慶子, 井上幸彦¹⁾, 津野久幸²⁾, 櫻井智司²⁾, 仁平 信, 百束比古¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾日本医科大学形成外科学, ²⁾日本電子株式会社): SR-MAS NMR法による体内埋入異物の分析．第84次日本法医学会総会，2000．4．
- 5) 真下啓子, 長谷場健, 佐藤 茂¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設): エタノールの培養心筋細胞に対する細胞障害性．第84次日本法医学会総会，2000．4．
- 6) 森 修¹⁾, 長谷場健, 亀山孝二¹⁾, 大秋美治¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 新井裕至²⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学, ²⁾内科第2): Alzheimer病老人斑 -amyloid (A)と共発現するclassIII alcohol dehydrogenase (ADH)の役割：A凝集と細胞障害への関与．第56回日本電子顕微鏡学会，2000．5．
- 7) 河原理子¹⁾, 百束比古¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 平川慶子 (¹⁾形成外科学): 乳房埋入物質のMRI画像による識別法の開発．第43回日本形成外科学会総会・学術集会，2000．5．
- 8) 山田丈士, 林田眞喜子, 仁平 信, 早川秀幸, 大野曜吉, 中原雄二¹⁾(¹⁾国立医薬品食品衛生研究所): 覚醒剤の体内動態に及ぼすエタノールの影響．日本法中毒学会第19年会，2000．6．
- 9) 仁平 信, 林田眞喜子, 大野曜吉, 田中幹夫¹⁾, 山田丈士, 早川秀幸 (¹⁾化学): マススペクトロメトリーによるマウス臓器からのアコニチンの分析．第25回日本医用マススペクトル学会年会，2000．9．
- 10) 早川秀幸¹⁾, 那谷雅之¹⁾, 美作宗太郎¹⁾, 矢嶋幸仁¹⁾, 橋谷田真樹¹⁾, 舟山真人¹⁾, 大野曜吉, 仁平 信, 林田眞喜子, 山田丈士 (¹⁾東北大学大学院医学系研究科医科学専攻社会医学講座法医学分野): LC/MSでのみ検出できたBenzodiazepine中毒の剖検例．第1回日本法医学会北日本地方会，2000．9．
- 11) 河原理子¹⁾, 百束比古¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 平川慶子 (¹⁾形成外科学): わが国における乳房異物合併症の総括と新たなチェックリスト作成の提唱．第23回日本美容外科学会総会，2000．9．
- 12) 林田眞喜子, 仁平 信, 山田丈士, 早川秀幸, 大野曜吉, 宮内雅人¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 大気圧イオン化法を用いたLC/MSによる微量ベンゾジアゼピン系薬物スクリーニング．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 13) 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 長谷場健, 亀山孝二¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 新井裕至²⁾, 清水秀樹¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 片山博徳¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2, ²⁾内科第2): Alzheimer病 (AD) 脳内 A -peptideと共発現するclassIII alcohol dehydrogenase (ADH3). 第19回日本痴呆学会，2000．9．
- 14) 河原理子¹⁾, 百束比古¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 平川慶子 (¹⁾形成外科学): MRI画像による乳房埋入異物の識別法の開

発と化学分析との照合結果についての考察．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 15) 仁平 信，林田眞喜子，早川秀幸，大野曜吉，山田丈士，崔 範来，那谷雅之¹⁾，美作宗太郎¹⁾，舟山眞人¹⁾ (¹⁾東北大学大学院医学系研究科医科学専攻社会医学講座法医学分野): Triage[®]で陰性を示したベンゾジアゼピン急性中毒の1例．第69回日本法医学会関東地方会，2000．10．
 - 16) 川添真紀¹⁾，神野清勝¹⁾，齊戸美弘¹⁾，林田眞喜子 (¹⁾豊橋技術科学大学): ファイバーインチューブ固相マイクロ抽出を用いた試料前処理法．第11回クロマトグラフィー科学会議，2000．10．
 - 17) 林田眞喜子，仁平 信，山田丈士，早川秀幸，大野曜吉，崔 範来，宮内雅人¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾救急医学): LC/MS/ESIを用いたベンゾジアゼピン系薬物スクリーニング．第69回日本法医学会関東地方会，2000．10．
 - 18) 亀山孝二¹⁾，長谷場健，王 若皎¹⁾，町田 幹¹⁾，町田 稔¹⁾，恩田宗彦¹⁾，森 修¹⁾，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学): 冠動脈硬化病変とアルコール脱水素酵素 (ADH) の発現状態との関連．第41回日本脈管学会総会，2000．11．
 - 19) 早川秀幸，仁平 信，林田眞喜子，山田丈士，大野曜吉，宮内雅人¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾救急医学): 稀な薬物による急性中毒の2症例．第15回日本中毒学会東日本地方会，2001．1．
- (3) 依頼講演：
- 1) 林田眞喜子，仁平 信，山田丈士，早川秀幸，大野曜吉：法医中毒学におけるGC/MS，LC/MS分析のための試料前処理の検討．第11回クロマトグラフィー科学会議，2000．10．

13. 医療管理学講座

研究概要

教育

医療管理学は学部教育で大きな位置を占めてきた。平成13年から医師国家試験にプライマリ・ケアや医療倫理等の必修項目が100題入り、その内の約40%が医療管理学と直接間接に関連する項目となった。学部教育は、当教室のテーマである「医療そのものの質」を教えることと共に、旧カリキュラムと新カリキュラムの整合性を図り、求められている医師としての素養を身に着けさせる為に、EBM、医師患者関係、面接技法、リスクマネジメント等臨床の基礎である医療管理の部門を中心に行なった。

研究

公的研究基金による研究活動として、教室木村を中心として厚生科学研究、介護保健を含めた障害等級の医学評価、アウトカムに準拠した病院リハビリテーション部門の評価、中枢神経疾患の介護機器の開発、腰痛のEBM、さらに、(財)テクノエイド協会基金による、高齢骨折患者のADL向上と自立のための調査研究等数多くの調査、研究、開発をおこなった。また、等教室独自の研究として、高柳を中心に付属病院の院長をはじめとする臨床科教授と共に「癒しの医療を考える会」が設立され、第1回会合が2000年6月26日にもたれた。医療管理学教室では、既にICUや高圧酸素室という閉鎖医療環境での免疫能の研究をおこなっているが、今回は入院患者に選択した絵画を見せ、精神免疫系変化をみている。精神免疫系の科学研究は近年学外でも注目され、今後学際的に飛躍的に進む学問体系であると思料される。医療環境での患者安全管理のためのセンチネルイベント研究、14の救命救急センターによる救命救急医療のアウトカムの質に関する同僚評価研究を行った。

教室には、医療管理学教室発足時より「医療の質に関する研究会」が活動を続けており、太田が中心になって活発に活動が続けられている。特記すべきは感染の質の評価と同時に、救急医療の質の評価、看護の質の評価基準を構築し、さらに大学院の北川も加わりリハビリテーション医療の質の評価基準を策定し始めている。「癒しの環境研究会」は高柳を中心に精神安寧の科学研究を行い全国展開を行っている。

なお、教室外活動として木村は厚生労働省、文部科学省、経済産業省関連委員会、国土交通省、高柳は東京都衛生局の患者権利章典策定に深くかかわり社会貢献をしている。

教室の今後

医療管理学は医師教育で大きな位置を占めると共に、世の中の情報化、医療の一般市民参加の流れと患者の権利擁護の中で、社会の注目を浴びニーズも大きい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ota H, Tanimoto S, Takayanagi K, Kimura T, Oida T : A. Preliminary Study on the knowledge and Attitudes of Physicians at Two University Hospitals towards the Medical Insurance System of Japan . Tohoku J. Exp. Med 2000 ; (190): 143-155 .
- 2) Ota H, Kitahara M¹⁾, Nishioka M²⁾, Kanno Y²⁾, Shibata K³⁾, Satake S⁴⁾, Endo K⁵⁾, Takeda Y⁶⁾, Aoki M⁷⁾, Hirose C⁸⁾, Kanbayashi S⁹⁾, Kobayashi J¹⁰⁾, Gunji A, Iwasaki S, Kimura T (¹⁾ 東京都済生会中央病院, ²⁾ 東京大学, ³⁾ 聖路加国際病院, ⁴⁾ 群馬大学, ⁵⁾ 沖縄県立中部病院, ⁶⁾ 琉球大学, ⁷⁾ サクラ精機, ⁸⁾ 日本看護協会, ⁹⁾ (財) 日本医療機能評価機構, ¹⁰⁾ 医療の質に関する研究会, 聖学院大学): Standards for the Evaluation of Hospital Infection Control Policies and Procedures . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5): 396-399 .

- 3) 松村純也¹⁾, 中西一浩¹⁾, 小川 龍¹⁾, 高柳和江, 金子栄子²⁾, 高岡雅子²⁾, 長谷川幸子²⁾, 田辺真理子²⁾
(¹⁾日本医科大学麻酔科,²⁾日本医科大学付属病院看護部): 手術室におけるClinical Pathwayの考察. 日手術
医学会誌 2000 ; 21 (3): 342-344 .
 - 4) 針田 哲¹⁾, 大井田隆²⁾, 太田久彦, 谷本佐理名, 木村哲彦, 高柳和江 (¹⁾厚生省,²⁾国立公衆衛生院): 救急
搬送システムに関する一考察. 病院管理 2000 ; 37 (1): 25-33 .
 - 5) 田中秀和¹⁾, 永島正一¹⁾, 吉野楨一¹⁾, 高柳和江, 木村哲彦 (¹⁾日本医科大学リウマチ外科): 当科における
RA患者の治療とケア, プランニング, 医療費などについて. リウマチ 2000 ; 40 (2): 270-273 .
 - 6) 石田健司¹⁾, 山本博司¹⁾, 木村哲彦, 王 碩玉²⁾, 四宮葉一³⁾(¹⁾高知医科大学,²⁾高知工科大学,³⁾松下電
工): 乗馬ロボットによる訓練効果の意義 体幹筋力と平衡機能保持能力の観点より. 運動療法と物理療法
2000 ; 11 (3): 213-217 .
 - 7) 木村哲彦: 乗馬療法シュミレータと臨時への応用の可能性. 埼玉脊椎研究会会誌 2000 ; 6 (1): 20-25 .
 - 8) 石田健司¹⁾, 山本博司¹⁾, 木村哲彦, 四宮葉一²⁾(¹⁾高知医科大学,²⁾松下電工): 乗馬ロボットを用いた健康
増進訓練の試み. リハビリテーション医学 2000 ; 37 (9): 614-614 .
- (2) 研究報告書:
- 1) 谷本佐理名, 太田久彦, 大井田隆, 高柳和江, 木村哲彦: カルテ開示の影響についての医師の意識調査. 日公
衛誌 2000 ; 47 (4): pp364-374 .
 - 2) 谷本佐理名, 太田久彦, 高柳和江, 木村哲彦, 大井田隆¹⁾, 長谷川敏彦²⁾(¹⁾国立公衆衛生院,²⁾国立医療・病
院管理研究所): 医療情報の患者のコントロール権. 日内会誌 2000 ; 89 (臨時増刊号): pp224-228 .
 - 3) 関根 修¹⁾, 四宮葉一¹⁾, 仲島了治¹⁾, 王 碩玉²⁾, 石田健司³⁾, 木村哲彦 (¹⁾松下電工,²⁾高知工科大学,
³⁾高知医科大学): 乗馬療法システムの開発. ライフサポート学会誌大会講演予稿集 2000 ; 16 : pp94-96 .
- (3) 総説:
- 1) Ota H, Inamaka Y¹⁾(¹⁾京都大学): National Society Updates : Japan Society for Quality in Health Care
(JSQua). The ISQua Bulletin 2000 ; (3): 3 .
 - 2) 木村哲彦: Develop ment of Horseback Riding Simulator and Prossibility of application to Clinical Use .
ICBME学会誌 1999 ; 8 (3 (臨時増刊)): 1-2 .
 - 3) 高柳和江: 癒しの概念と環境づくり. 癒しの環境 2000 ; 5 (1): 27-33 .
 - 4) 高柳和江: 患者のエンパワーメント. 病院管理 2000 ; 37 (1): 1-1 .
 - 5) 高柳和江: 医療におけるリスク. Nurse Data 2000 ; 21 (4): 97-100 .
 - 6) 高柳和江: これからの病院に求められる癒しの環境 健康・医療とトイレ. WMA 2000 ; 42 (6): 30-31 .
 - 7) 高柳和江: ストレス. アポロニア21 2000 ; 76 (4): 90-91 .
 - 8) 高柳和江: 手術後の早期入浴. 治療 2000 ; 82 (4): 114-115 .
 - 9) 高柳和江: ヒトゲノム解析. アポロニア21 2000 ; 77 (5): 90-91 .
 - 10) 高柳和江: 看護婦数. アポロニア21 2000 ; 78 (6): 90-91 .
 - 11) 高柳和江: ガイドライン, マニュアルの作成の実際. Nurse Data 2000 ; 21 (6): 97-101 .
 - 12) 木村哲彦, 高柳和江, 太田久彦, 谷本佐理名, 北川恒実, 王 徳宏, 熊田朝子, 鈴木圭子: 要介護認定の評価
日常生活不自由の新しい評価方法のひとつとして. 病院管理 2000 ; 37 (3): 253-254 .
 - 13) 谷本佐理名, 太田久彦, 高柳和江, 木村哲彦, 針田 哲, 大井田隆¹⁾, 長谷川敏彦²⁾(¹⁾国立公衆衛生院,
²⁾国立医療・病院管理研究所): カルテの開示に関する意識調査: 一般病院勤務医に対するアンケート調査から.
厚生指標 2000 ; 47 (7): 22-27 .
 - 14) 高柳和江: Sentinel Event. Nurse Data 2000 ; 21 (7): 104-112 .
 - 15) 高柳和江: 17歳. アポロニア21 2000 ; 79 (7): 86-87 .
 - 16) 木村哲彦: 医用生体工学の新しい研究の流れと実用化研究 介護と福祉機器. BME 2000 ; 14 (8): 25-30 .

- 17) 太田久彦, 北原光夫¹⁾, 郡司篤晃²⁾, 木村哲彦, 岩崎 榮 (¹⁾東京都済生会中央病院, ²⁾聖学院大学総合研究所): 自己評価によって得られた病院感染管理の現状について. 病院管理 2000 ; 37 (Supplement): 76 .
- 18) 高柳和江: EBMとクリニカルパス. Nurse Data 2000 ; 21 (8): 97-100 .
- 19) 高柳和江: リハビリとは. アポロニア21 2000 ; 80 (8): 86-87 .
- 20) 高柳和江: 患者満足度調査を業務改善にフィードバックする視点. 看護 2000 ; 52 (10): 54-57 .
- 21) 高柳和江: 高齢者“受身の時代”に決別を. アポロニア21 2000 ; 82 (10): 72-73 .
- 22) 高柳和江: 情報が癒し. 病院 2000 ; 59 (10): 905-906 .
- 23) 高柳和江: リスクマネジメントと感染管理. Nurse Data 2000 ; 21 (11): 49-57 .
- 24) 高柳和江: 危機対処. アポロニア21 2000 ; 83 (11): 72-73 .
- 25) 高柳和江: パッチアダムスの伝言. 助産婦雑誌 2000 ; 54 (11): 5-6 .
- 26) 高柳和江: 山梨県の牧丘町. アポロニア21 2000 ; 84 (12): 72-75 .
- 27) 高柳和江: I will be happy. アポロニア21 2000 ; 81 (9): 72-73 .
- 28) 高柳和江: 4M4Eマトリックス. Nurse Data 2000 ; 21 (12): 65-70 .
- 29) 高柳和江: 4M4Eマトリックス. Nurse Data 2001 ; 22 (1): 65-70 .
- 30) 高柳和江: 愛と笑いで病気を予防. Kinari 2001 ; 2 (2): 1-1 .
- 31) 高柳和江: 医療も経営も魅力ある病医院づくりのために. 医療経営情報 2001 ; 1 (126): 20-25 .
- 32) 高柳和江: リスクマネジメントとクリニカルパス. Nurse Data 2001 ; 22 (3): 33-38 .
- 33) 高柳和江: 結婚生活. アポロニア21 2001 ; 87 (3): 94-95 .
- 34) 高柳和江: 医療事故をどう防ぐか. 家の光 2001 ; 27 (3): 92 .
- 35) 高柳和江: 最期まで上手に生き, そして上手に死ぬためのコツ教えます. デジタルハイシーン 2001 ; 21 (3): 228-235 .
- 36) 高柳和江: ストレスが消え, 免疫力が上がる! 最も手軽な健康法 笑いの効果. 日経ヘルス 2001 ; 21 (3): 76-81 .
- 37) 高柳和江: 笑いの処方箋. alde 2001 ; 5 (2): 176-179 .

著 書

[1999 年度追加分]

原著:

- 1) 木村哲彦: [分担] 障害分類. 障害者CW執務必携, 2000 ; pp63-79, 中央法規出版 .
- 2) 木村哲彦: [共著] 形態別介護技術. 介護福祉士, 2000 ; pp2-5, 中央法規出版 .

- 1) 高柳和江, 松田 朗: [分担] クウェートの医療体系. 世界の公衆衛生体系, 2000 ; pp71-82, 日本公衆衛生協会 .
- 2) 木村哲彦, 白井康正, 山本博司¹⁾, 他 (¹⁾高知医科大学): [分担] 理学診療マニュアル改定2版. 装具, 2000 ; pp142-148, 全日本病院出版会 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 木村哲彦: 乗馬療法シュミレータと臨床への応用の可能性. 埼玉脊椎研究会, 2000 . 5 .

(2) 招待講演:

- 1) 木村哲彦: 福祉機器の現状. 高知リハビリテーション研究会, 2001 . 1 .

(3) シンポジウム :

- 1) 木村哲彦 : 身体障害者スポーツ . スポーツ整形外科学会 , 2000 . 5 .
- 2) 木村哲彦 : 体操療法「運動療法」に関するEBM的視点に基づく考察 . 日本腰痛学会 , 2000 . 11 .
- 3) 箕輪良行¹⁾, 有賀 徹²⁾, 菅野由貴子³⁾, 坂本哲也³⁾, 堀 進悟⁴⁾, 石原 哲⁵⁾, 太田久彦⁶⁾, 郡司篤晃⁶⁾, 山本修三⁷⁾ (¹⁾船橋市立医療センター , ²⁾昭和大学 , ³⁾東京大学 , ⁴⁾慶応大学 , ⁵⁾白鬚橋病院 , ⁶⁾聖学院大学 , ⁷⁾済生会神奈川県病院): 救急医療評価スタンダード案の開発 . 第28回日本救急医療学会 , 2000 . 11 .

(4) 一般講演 :

- 1) Takayanagi K : QOL Value Shift in Vitreoretinal Diseases . Schepens Interational Society (イギリス) , 1999 . 4 .
- 2) Takizawa S¹⁾, Kimura T (¹⁾21世紀リハビリテーション研究会): THE CASE REPORT OF THE ACQUISITION OF WALKING FROM BEDRIDDEN BY RAKU WALKER . Rehabilitation Engineering (RESNA) (米国) , 2000 . 6 .
- 3) Takayanagi K , Tanimoto S , Kimura T , Hoshi K¹⁾ (¹⁾青梅市立総合病院): Inter disciplinary scientific based stress manegeme nts for patients by healing environment by improving immunity : A new wave for reducing health care social cost . The 7th international Conference on System Science in Health Care (Budapest Hungary) , 2000 . 6 .
- 4) Takayanagi K , Koseki K¹⁾, Aruga T²⁾ (¹⁾川口市立医療センター救急救命センター , ²⁾昭和大学病院救命救急センター): Preventable Trauma Death : Evaluation by peer review and a guide for quality measurement . The 7th international Conference on System Science in Health Care (Budapest Hungary) , 2000 . 6 .
- 5) 高柳和江 : 病院における癒しの環境 . 地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究 , 2000 .
- 6) 太田久彦 , 北原光夫¹⁾, 柴田 清²⁾, 佐竹幸子³⁾, 上林三郎⁴⁾, 遠藤和郎⁵⁾, 武田裕子⁶⁾, 郡司篤晃⁷⁾, 岩 榮 (¹⁾東京都済生会中央病院 , ²⁾聖路加国際病院 , ³⁾群馬大学 , ⁴⁾(財)日本医療機能評価機構 , ⁵⁾沖縄県立中部病院 , ⁶⁾琉球大学 , ⁷⁾聖学院大学): 感染管理の質の評価と追跡調査 . 第50回日本病院学会 , 2000 . 6 .
- 7) 藤原ゆり¹⁾, 河合由紀²⁾, 高柳和江 (¹⁾日本医科大学6年生 , ²⁾東京女子医科大学6年生): 医療のハード (医療環境) に関する学生の学術的研究 . 第32回医学教育学会 , 2000 . 7 .
- 8) 吉住寿美香¹⁾, 千原和夫²⁾, 高柳和江 (¹⁾神戸大学医学部6年生 , ²⁾神戸大学第三内科): マレーシア国民大学臨床実習に参加して “ Why don't you usa your hand ” . 第32回医学教育学会 , 2000 . 7 .
- 9) 高柳和江 , 坂野真理¹⁾, 木村哲彦 , 寺本 明²⁾ (¹⁾日本医科大学5年生 , ²⁾脳神経外科): 医学教育と学生のアドボカシー . 第32回医学教育学会 , 2000 . 7 .
- 10) 高柳和江 : 癒しの医療づくりのために . サイコオンコロジー学会 , 2000 . 7 .
- 11) 高柳和江 : 授乳室の色環境と母乳量の関係 . 第59回日本公衆衛生学会 , 2000 . 10 .
- 12) 木村哲彦 , 高柳和江 , 太田久彦 : 腰痛の体操療法 . 腰痛学会 , 2000 . 11 .
- 13) 高柳和江 : 笑いと死 , 死ぬ前に患者さんに笑いが必要か . 第6回臨床死生学会 , 2000 . 11 .
- 14) 高柳和江 : Sentinel Eventsに関する大学病院院長 , 看護部長の意識 . 第38回日本病院管理学会学術総会 , 2000 . 11 .
- 15) 高柳和江 : 自己評価によって得られた病院感染管理の現状について . 第38回日本病院管理学会学術総会 , 2000 . 11 .
- 16) 小関一英¹⁾, 高柳和江 (¹⁾川口市立医療センター救急救命センター): 外傷治療の質の検討 . 第28回日本救急医療学会 , 2000 . 11 .
- 17) 杉本勝彦¹⁾, 高柳和江 (¹⁾昭和大学救病院救命救急センター): 外傷治療の TRISS 評価 . 第28回日本救急医療学会 , 2000 . 11 .
- 18) 太田久彦 , 北原光夫¹⁾, 郡司篤晃²⁾, 木村哲彦³⁾, 岩 榮 (¹⁾東京都済生会中央病院 , ²⁾聖学院大学): 自己評価によって得られた病院感染管理の現状について . 第38回日本病院管理学会学術総会 , 2000 . 11 .

14．基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

実験動物管理室では、疾患モデル動物の開発および実験動物の特性の解析を行っている。WBN/Kob ratは糖尿病発症時期が9ヶ月齢以降であることから、その発症時期を早めるために、leptin receptorの異常により肥満を誘起する突然変異遺伝子 *Lepr^{fa}* を WBN/Kob rat に導入した congenic 系を作成している。N3世代では

Lepr^{fa}/Lepr^{fa} 個体が生後3ヶ月齢で糖尿病発症を認めている。一方、WBN/Kob rat由来のWBN系ラットに *Ht* 遺伝子を導入した Hairless rat は、その原因遺伝子 *Ht* が被毛および胸腺の形成に関与する転写調節因子 *whn* をコードしている遺伝子の近傍にあることを明らかにし、現在この遺伝子の機能について解析中である。ピロリ菌感染モデルとして注目されているスナネズミについて、寄生虫感染性・臭腺の存在・麻酔薬への感受性などの生物学的特性を解明した。また、補完・代替医療の医学的有効性について、動物モデルを用いて実験的に検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akimoto T, Suzuki H¹⁾, Nakama K, Suzuki K¹⁾ (¹⁾ Department of Veterinary Physiology, Nippon Veterinary and Animal Science University): Locus of dominant hairless gene (*Ht*) causing abnormal hair and keratinization maps to rat chromosome 10 . *Exp Anim* 2000 ; 49 (2) : 137-140 .
- 2) Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Tsukidate S¹⁾, Fujita K¹⁾ (¹⁾ Department of International Environmental Parasitology, Tokyo Medical and Dental University): Differential susceptibility to *Brugia pahangi* infection in Mongolian gerbils (*Meriones unguiculatus*) of different coat colour . *Lab Anim* 2000 ; 34 (3) : 290-297 .
- 3) Naito Z¹⁾, Nishigaki R¹⁾, Kawahara K¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K (¹⁾ Department of Pathology): Localization of extracellular matrix and mitogen-activated protein kinase (MAPK) in aorta of streptozotocin treated Mongolian gerbils . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 (1) : 37-44 .
- 4) Mwanatambwe M¹⁾, Ilunga M²⁾, Kasongo K³⁾, Yajima M¹⁾, Suganuma M, Shichinohe K, Shirota K⁴⁾, Yamada N¹⁾, Kalengayi M⁵⁾, Asano G¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology , ²⁾ Ministry of Public Health, Democratic Republic of Congo , ³⁾ Department of Clinical Biology, Kinshasa University , ⁴⁾ Tobu Comedical College , ⁵⁾ Department of Pathology, Kinshasa University): Leprosy in the Democratic Republic of Congo . *Bull Tobu Comed Coll* 2001 ; 5 (1) : 21-28 .
- 5) 西垣龍太郎¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼眞澄, 七戸和博, 荒牧琢己²⁾ (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 内科学第1): ストレプトゾトシン投与後の大動脈における Advanced glycation end products (AGEs), Receptor of AGEs (RAGE), Nitric oxide synthase (NOS) の免疫組織化学的局在 . *脈管学* 2000 ; 40 (4) : 219-225 .
- 6) 橋本晴夫¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (¹⁾ 茨城大・農・動物増殖管理): 泌乳牛の成長ホルモンに対する暑熱の影響 . *東武医技専紀要* 2001 ; 5 (1) : 7-13 .

(2) 総説：

- 1) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 橋本晴夫¹⁾, 刈田 毅²⁾, 刈田貴久²⁾ (¹⁾ 東医歯大・遺伝子疾患研究センター,

2) アロマ研究所): 新規DDSとしてのドラッグ・ガス・デリバリー・システム (DGDS) について. 東武医技
専紀要 2001; 5(1): 15-19.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Zhang X-J¹⁾, Akimoto T, Ohsuga M¹⁾, Shimizu S¹⁾, Nagano T¹⁾, Komeichi H¹⁾, Terada H¹⁾, Satomura K¹⁾, Katsuta Y¹⁾, Aramaki T¹⁾(¹⁾Department of Internal Medicine): Nitric oxide and oxygenation of arterial blood in chronic bile duct ligated rats. IASL-APASL Joint Meeting 2000, 2000. 6.
- 2) Mwanatambwe M¹⁾, Yajima M²⁾, Suzuki K²⁾, Etuafel S³⁾, Hibiya K¹⁾, Shichinohe K, Shimizu-Suganuma M, Asiedu K⁴⁾, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾(¹⁾Department of Pathology, ²⁾National Leprosy Research Institute, ³⁾St. Martin Hospital, ⁴⁾Global Tuberculosis Program, WHO): Immunohistochemical identification of phenolic glycolipid-1 (PGL-1) in tissues of Buruli ulcer patients. 第41回日本熱帯医学会大会, 2000. 11.
- 3) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄: ガン細胞移植マウスにおけるサメ軟骨の影響. 第54回日本栄養・食糧学会大会, 2000. 5.
- 4) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 芳賀克也¹⁾, 藤田紘一郎¹⁾(¹⁾東医歯大院・国際環境寄生虫): 寄生虫感染モデルとしてのスナネズミの特性 (1). 第47回日本実験動物学会総会, 2000. 5.
- 5) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 家所哲夫¹⁾, 藤田紘一郎¹⁾(¹⁾東医歯大院・国際環境寄生虫): 寄生虫感染モデルとしてのスナネズミの特性 (2). 第47回日本実験動物学会総会, 2000. 5.
- 6) 秋元敏雄, 鈴木浩悦¹⁾, 仲間一雅, 鈴木勝士¹⁾(¹⁾日獣畜大・獣医生理): Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の原因遺伝子のラット第10染色体上へのマッピングおよびヌードラットとの相補性試験. 第47回日本実験動物学会総会, 2000. 5.
- 7) 北村由梨¹⁾, 田蔭基行¹⁾, 吉田結富子¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (¹⁾第4学年): サメ軟骨とガン. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 8) 桐山智成¹⁾, 三科 香¹⁾, 手塚 潔²⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (¹⁾第4学年, ²⁾病理学第2): 当施設のスナネズミ臭腺の特徴. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 9) 手塚 進, 浦山利巳, 白石政明, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅: 基礎医学動物室SPF飼育エリアにおける微生物モニタリングおよび空中落下細菌検査について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 10) 白石政明, 浦山利巳, 手塚 進, 山崎邦広, 秋元敏雄, 仲間一雅: 基礎医学動物室コンベンショナル飼育エリアにおけるクリーンアップ効果について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 11) 菅沼 (清水) 眞澄, 柳沢康男¹⁾, 芳賀克也¹⁾, 藤田紘一郎¹⁾, 七戸和博 (¹⁾東医歯大院・国際環境寄生虫): アロマオイルの抗アレルギー作用. 第130回日本獣医学会学術集会, 2000. 10.
- 12) 七戸和博, 柳沢康男¹⁾, 芳賀克也¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄 (¹⁾東医歯大院・国際環境寄生虫): 担ガンマウスに対するサメ軟骨の影響. 第130回日本獣医学会学術集会, 2000. 10.
- 13) 秋元敏雄, 鈴木浩悦¹⁾, 仲間一雅, 鈴木勝士¹⁾(¹⁾日獣畜大・獣医生理): Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の原因遺伝子 *Ht* とヌードラットとの相補性試験.(F1およびF2の表現型について). 第130回日本獣医学会学術集会, 2000. 10.
- 14) 菅沼 (清水) 眞澄, 橋本晴夫¹⁾, 七戸和博 (¹⁾東医歯大・遺伝子疾患研究センター): ガンに対するサメ軟骨. 第3回日本補完・代替医療学会学術集会, 2000. 11.
- 15) 張 雪君¹⁾, 秋元敏雄, 大須賀勝¹⁾, 長戸孝道¹⁾, 清水秀治¹⁾, 古明地弘和¹⁾, 里村克章¹⁾, 勝田悌実¹⁾, 荒牧琢己¹⁾(¹⁾内科学第1): 二次性胆汁性肝硬変ラット (CBDL) の動脈血酸素化に及ぼす一酸化窒素 (NO) の影響. 第37回日本臨床生理学会総会, 2000. 11.
- 16) 秋元敏雄, 鈴木浩悦¹⁾, 仲間一雅, 鈴木勝士¹⁾(¹⁾日本獣医畜産大学・獣医生理): ヘアレスラット (WBN/IIa-

Ht rat) の病態解析と原因遺伝子の染色体マッピング．第2回ラット研究者会議，2001．1．

17) 菅沼(清水)眞澄，橋本晴夫¹⁾，七戸和博⁽¹⁾東医歯大・遺伝子疾患研究センター): スナズミにおけるイソフルレン吸入麻酔の影響．第74回日本薬理学会年会，2001．3．

[中央電子顕微鏡研究施設]

研究概要

本研究施設では，ヒト組織の電顕診断と動物実験による研究と共に基礎医学並びに臨床医学各講座との共同研究や電顕技術の提供が行われている．

平成12年9月，従来の二次電子の他に反射電子で観察することが出来る日立H-3000N型走査電子顕微鏡が設置された．この電子顕微鏡の特性を利用して，臨海点乾燥法・白金蒸着等の複雑な試料作製をせずとも，ウ・ロン茶抽出物による導電染色で同等の観察が可能な技術を開発している．この方法では，従来3～7日要した試料作製が1日で完了，迅速な血液細胞の電顕検索も可能となる．

平成13年3月には，臨床数科の共同申請(文施設)による日立H-7500型透過型電子顕微鏡が設置された．この電子顕微鏡は，広い視野を高いコントラストで観察可能であることに加え，パソコンとの連動による多機能化・高拡張性・OA機器並の簡易性が確保され，共利研の中心的機器として活用されることが期待される．

研究面では，ヒト生検組織を用いた研究の成果が論文として纏められた．肝線維化では他の組織と異なり正常の弾性線維が形成されないが，弾性線維の前駆体であるオキシタレンの異常とそれに引き続く正常のエラウニンが合成されないことに起因することを明確にした．また，自己免疫性肝障害は明確な超微形態による病理診断基準がなく，診断困難な疾患群であるが，AIH，PBCに高頻度に出現する粗面小胞体の脱顆粒像を見つけた．

動物実験では，肺胞被覆層が無構造物により構成されていること，従来知られている格子構造には界面活性がなく，肺胞孔の構造支持機構であることを明確した．

過酸化水素を尾静脈からの注入により肺の空気-血液関門部が傷害を受けること，促肝細胞増殖因子(HGF産生因子)がその傷害を抑制することを報告した．

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Sato S, Adachi A, Wakamatsu K¹⁾, Sasaki Y, Satomura K²⁾, Asano G⁽¹⁾ First Department of Pathology, ²⁾ First Department of Internal Medicine): Abnormal elastic system fibers in fibrotic human liver. Med Electron Microsc 2001; 33(3): 135-142.

(2) 総説：

1) 前田昭太郎¹⁾，劉 愛民，小黒辰夫²⁾，Asano G⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 千葉北総病院病理部): 新技術・周辺領域技術の応用と展開 6. 電子顕微鏡．臨床検査 増刊号 2000; 44(11): 1445-1449.

学会発表

(1) ワークショップ：

1) Liu AM, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Isobe H¹⁾ ⁽¹⁾ Department of Pathology): A case of small cell neuroendocrine carcinoma in the vulva. The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology (Thailand), 2001. 1.

2) 市来やよい¹⁾，吉田光孝²⁾，広畑泰久⁽¹⁾ 防衛医大・共利研電顕室，²⁾ 順天堂大・医・中央電顕室): 5. 長期間保存した場合の違い(電顕技術フォーラム「脱水・置換における諸問題」). 日本電子顕微鏡学会第56回学術講

演会，2000．5．

(2) 一般講演：

- 1) Liu AM, Azuma K¹⁾, Katayama H¹⁾, Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾, Sawada N²⁾, Sun Y²⁾, Naito Z²⁾, Yokoyama M²⁾, Asano G²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部,²⁾病理学第2): Utility of Electron Microscopic Evaluation (EM) in Fine Needle Aspiration Cytology (FNAC). XXIII International Congress of the IAP (名古屋), 2000．10．
- 2) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 澤田名美枝²⁾, 孫 宇良²⁾, 越野立夫³⁾, 十蔵寺新⁴⁾, 劉 愛民, 淺野伍朗²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部,²⁾病理学第2,³⁾多摩永山病院産婦人科,⁴⁾東府中病院産婦人科): A SIMPLE CELL BLOCK METHOD FOR AN ENDOMETRIAL CYTOLOGIC DIAGNOSIS．第89回日本病理学会総会, 2000．4．
- 3) Ghazizadeh M¹⁾, Sasaki Y, Inoue K, Shimizu H¹⁾, Egawa S¹⁾, Jin E. J¹⁾, Todome Y²⁾, Ohkuni H²⁾, Kawanami O¹⁾(¹⁾Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology,²⁾Dept. of Immunology and Infectious Diseases Institute of Gerontology): Transmission Electron Microscopic Ultrastructure of Human Chromosomes．第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000．9．
- 4) 劉 愛民, 東 敬子¹⁾, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 澤田名美枝²⁾, 孫 宇良²⁾, 淺野伍朗²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部,²⁾病理学第2): 穿刺吸引細胞診 (FNAC) における電顕の有用性．第89回日本病理学会総会, 2000．4．
- 5) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広, 淺野伍朗: ウーロン茶のポリフェノールブロック染色による肺表面活性物質の観察．第89回日本病理学会総会, 2000．4．
- 6) 姜 景涛, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 淺野伍朗: 反復性一過性脳虚血による海馬CA1領域のAstrocytesとOligodendrocytesの動態: 免疫組織学的観察．第89回日本病理学会総会, 2000．4．
- 7) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 淺野伍朗: 実験的急性肝障害に対する促肝細胞増殖因子 (pHGF) の治療効果 2. Kupffer細胞の動態．第89回日本病理学会総会, 2000．4．
- 8) 朝倉健太郎¹⁾, 広畑泰久, 相原 薫²⁾, 坂井康友³⁾(¹⁾東京大・工,²⁾徳洲会病院,³⁾茨城医療大): 計装化ウルトラミクロトームの設計と製作．日本電子顕微鏡学会第56回学術講演会, 2000．5．
- 9) 広畑泰久, 朝倉健太郎¹⁾, 斉藤 実²⁾(¹⁾東京大・工,²⁾大妻女子大・人間生活科学): 計装化ウルトラミクロトームによる応用解析と切削例．日本電子顕微鏡学会第56回学術講演会, 2000．5．
- 10) 秋元 剛¹⁾, 広畑泰久, 鈴木季直¹⁾, 島田光世¹⁾, 杉 晴夫¹⁾(¹⁾帝京大・医): ガス雰囲気試料室用TAC-SiO₂隔膜の機械的強度に関する検討．日本電子顕微鏡学会第56回学術講演会, 2000．5．
- 11) 劉 愛民, 淺野伍朗¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 小黒辰夫²⁾, 東 敬子³⁾, 前田昭太郎³⁾(¹⁾病理学第2,²⁾千葉北総病院病理部,³⁾多摩永山病院病理部): 電顕検索の併用が有用であった穿刺吸引細胞診の症例．第68回日本医科大学医学会総会, 2000．9．
- 12) 戴 威, 劉 效蘭, 佐藤 茂, 淺野伍朗: 四塩化炭素投与によるラットの急性肝障害に対する促肝細胞増殖因子 (pHGF) の治療効果II, 細胞膜障害の抑制．第68回日本医科大学医学会総会, 2000．9．
- 13) 佐藤 茂, 里村克章¹⁾, 安達彰子, 佐佐木喜広, 広畑泰久, 淺野伍朗(¹⁾内科学第1): 自己免疫性肝疾患に出現する粗面小胞体の形態像: 生検標本を用いて．第32回日本臨床電子顕微鏡学会, 2000．9．
- 14) 劉 愛民, 東 敬子¹⁾, 片山博徳¹⁾(¹⁾多摩永山病院病理部): 穿刺吸引細胞診材料に対する電顕的検索が有用であった原発性副腎皮質癌の1例．第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000．9．
- 15) 安達彰子, 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 西村雅子¹⁾, 壇 紫¹⁾(¹⁾(株)日立サイエンスシステムズ テクノリサーチセンタ): チルドSEMの生検診断への有用性: 2. 血球細胞の観察．第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000．9．
- 16) 佐佐木喜広, 安達彰子, 佐藤 茂, 西村雅子¹⁾, 壇 紫¹⁾, 淺野伍朗(¹⁾(株)日立サイエンスシステムズ テクノリサーチセンタ): チルドSEMの生検診断への有用性．第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000．9．

- 17) 劉 效蘭, 佐藤 茂, 戴 威, 佐佐木喜広, 淺野伍朗: 過酸化水素投与による肺機能障害に対するpHGFの治療効果. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 18) 志村俊郎¹⁾, 足立好司¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 山王直子¹⁾, 寺本 明¹⁾, 安達彰子, 淺野伍朗²⁾(¹⁾脳神経外科学,²⁾病理学第2): 各種治療を施した頭蓋内原発性悪性リンパ腫におけるアポトーシスの超微形態. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 19) 前田昭太郎¹⁾, 東 敬子¹⁾, 山王直子²⁾, 志村俊郎²⁾, 劉 愛民, 淺野伍朗³⁾(¹⁾多摩永山病院病理部,²⁾同脳神経外科学,³⁾病理学第2): 後頭蓋窩のhemangiopericytoma-like tumorの1例. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 20) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 山本英希²⁾, 山王直子³⁾, 志村俊郎³⁾, 劉 愛民, 淺野伍朗⁴⁾(¹⁾多摩永山病院病理部,²⁾同 外科,³⁾同 脳神経外科,⁴⁾病理学第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 21) 佐藤 茂, 岸川テル子, 淺野伍朗: ウーロン茶抽出物のブロック染色による肺胞被覆層と気管支粘膜層の電顕観察: 種々サーファクタント物質の役割. 第36回日本界面医学学会学術研究会, 2000. 10.

[情報科学センター]

研究概要

世界的な情報化, ネットワーク化の普及, 進展と高齢化社会を迎える我が国では, 医療画像の電子保存, 診療記録の電子保存, 遠隔医療の認可と規制緩和に伴って多くの医療情報が電子化されてネットワーク上を動き, かつ保存される時代となり始めている. 一方, ゲノム情報の解析の進展とともに, 医療, 医学で取り扱う「個人情報」の保護について, 世界的に大きな関心と規制が進んでいる. 世界医師会ではヘルシンキ宣言の改訂が行われ, 医療における個人情報の保護に関しての見解が盛り込まれた. 国内では, 旧厚生省の研究班が「疫学的研究などにおける生命倫理問題及び個人情報保護のあり方に関する指針(案)」が出され, 従来以上に個人情報への関心, 保護を行う動きとなっている. この規制緩和と規制の強化は, 情報化社会での安全な生活には不可欠な動きといえよう. 情報科学センターでは, 数年以前からこの問題に関心を持ち, 検討を重ねていたが, 平成12年度において, 日本学術振興会 未来開拓学術研究推進事業 における「情報倫理の構築プロジェクト」(京大, 広島大, 千葉大)の京都fine医療情報研究会で招待講演の機会を与えられた事は, 大きな進展と認識している. 特に2001年初頭より, 電子メールウイルスの跋扈がみられ, 学内でのセキュリティに大きな危機感を抱かせる事態も生じており, 医学部における最重要な情報教育は, 医師として, 医療者としての職業倫理として「医療情報に対する倫理」の啓発で有ることをますます, 確信した次第である. 従来からの医用工学的の立場で行ってきた研究活動もそれぞれに成果を上げており, 東海大学開発工学部との連携も進展しているといえよう. 微力ながら本年はMRIのトレーサー法による脳血流計測に関与し国際会議での発表に寄与できた事は喜ばしい. また, 日本医科大学医学会誌の電子ジャーナル化について, 医療情報学会で発表する機会があった.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kikuchi H, Wako H¹⁾, Yura K²⁾, Go M²⁾, Mimuro M³⁾(¹⁾School of Social Science, Waseda Univ, ²⁾Division of Biological Science, Graduate School of Science, Nagoya Univ, ³⁾Department of Physics, Biology, and Informatics, Faculty of Science, Yamaguchi Univ): Significance of a Two-Domain Structure in Subunits of Phycobiliproteins Revealed by the Normal Mode Analysis. Biophys. J. 2000; 79: 1587-1600.
- 2) 梅崎馨章¹⁾, 菊地浩人(¹⁾東京医科歯科大・物理学教室): 生体分子における励起エネルギー移動機構に対する

理論的考察：Forster 公式の検討と拡張へ向けて．日本医科大学基礎科学紀要 2000；28：1-21．

- 3) 梅崎馨章¹⁾, 菊地浩人⁽¹⁾ (東京医科歯科大・物理学教室)：輻射場における弱結合分子間励起エネルギー移動の理論：双極子近似に基づく定式化．日本医科大学基礎科学紀要 2000；29：9-27．
- 4) 戸田貴之¹⁾, 木村達洋¹⁾, 早坂明哲¹⁾, 川村智一¹⁾, 長島圭子¹⁾, 伊藤高司, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾ (東海大学開発工学部)：重心動揺のランダム性とその発達の特徴．東海大学紀要開発工学部 2001；10：239-242．
- 5) 大矢誠司, 大橋俊彦¹⁾, 木村達洋¹⁾, 早坂明哲¹⁾, 川村智一¹⁾, 伊藤高司, 岡本克郎¹⁾, 山崎清之¹⁾, 東海大学開発工学部：視野闘争の交代パターンにおよぼす誘導刺激の影響．東海大学紀要開発工学部 2001；10：215-219．
- 6) 松本裕孝¹⁾, 小川修平¹⁾, 大橋俊彦¹⁾, 木村達洋¹⁾, 早坂明哲¹⁾, 伊藤高司, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾ (東海大学開発工学部)：視野闘争の成立時間に関する研究．東海大学紀要開発工学部 2001；10：221-225．

(2) 研究報告書：

- 1) 長島 隆：イェルク・ミヒャエリス「連邦癌登録法の実施とその長期間の諸結果の評価」．『厚生科学研究費補助金・厚生科学研究事業・疫学的手法を用いた研究などにおける生命倫理問題及び個人情報保護の在り方にかんする調査研究』(主任研究者・丸山英二) 平成12年度総括研究報告書 2000；pp97-106．

(3) 研究報告：

- 1) Tanaka M¹⁾, Kokubo H¹⁾, Kokado T²⁾, Yamamoto M²⁾, Kawano K, Soma T³⁾ (1) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 2) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan), 3) Tokyo Metropolitan College (Tokyo, Japan)：Physiological Measurements during Qigong Training (II)．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2000；18(2)：383-394．
- 2) Kawano K, Yamamoto M¹⁾, Kokubo H²⁾, Tanaka M²⁾, Zhang T²⁾, Parkhomtchouk DV¹⁾, Kokado T¹⁾, Nakamura H²⁾, Soma T³⁾ (1) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan), 2) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 3) Tokyo Metropolitan College (Tokyo, Japan)：EEG a Waves of a Receiver in a Remote Action Experiment．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2000；18(2)：395-399．
- 3) Zhang T¹⁾, Sakaida H²⁾, Kawano K, Yamamoto M³⁾, Machi Y²⁾ (1) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 2) Tokyo Denki University (Tokyo, Japan), 3) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan)：An Experiment on the Cerebral Activity during Visual Imagery．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2000；18(2)：400-406．
- 4) Zhang T¹⁾, Sakaida H²⁾, Kawano K, Kokubo H¹⁾, Wang L¹⁾, Yamamoto M³⁾, Machi Y²⁾ (1) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 2) Tokyo Denki University (Tokyo, Japan), 3) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan)：An Experiment on Cerebral Activity during Visual Imagery (II)．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001；19(1)：126-133．
- 5) Yamamoto M¹⁾, Kokubo H²⁾, Kawano K, Kido M³⁾ (1) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan), 2) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 3) Tohoku Gakuin University (Sendai, Japan)：Report of European Activities Institutes Related to Human Potential in the UK, Netherlands and Germany and the Fifth European Meeting of the Society for Scientific Exploration．J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001；19(1)：146-151．
- 6) Nakamura H¹⁾, Haraguchi S¹⁾, Chen W¹⁾, Tanaka M¹⁾, Kokubo H¹⁾, Zhang T¹⁾, Kokado T²⁾, Kawano K, Soma T³⁾, Yamamoto M²⁾ (1) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 2) National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan), 3) Tokyo Metropolitan College (Tokyo, Japan)：Skin Surface Temperature Changes of the Human Hand by Concentration．J. Intl. Soc. Life Info. Sci. 2001；19(1)：159-163．
- 7) Chen W¹⁾, Kokubo H¹⁾, Nakamura H¹⁾, Tanaka M¹⁾, Haraguchi S¹⁾, Zhang T¹⁾, Kokado T²⁾, Yamamoto M²⁾, Kawano K, Soma T³⁾ (1) The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan), 2) National Institute of

- Radiological Sciences (Chiba, Japan), ³⁾ Tokyo Metropolitan College (Tokyo, Japan)): Skin Temperature Changes of Receiver's Hand in Remote Action Experiment . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001 ; 19 (1): 179-186 .
- 8) Kawano K , Higuchi Y¹⁾ , Kotani Y¹⁾ (¹⁾ Tokyo Institute of Technology (Tokyo, Japan)): EEG Changes of Qigong Masters and Their Receivers in Remote Qi Emission . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001 ; 19 (1): 210-215 .
- 9) Higuchi Y¹⁾ , Kawano K , Kotahi Y¹⁾ , Hayashi Y²⁾ , Higuchi H³⁾ , Sato T⁴⁾ , Momose S⁵⁾ (¹⁾ Tokyo Institute of Technology (Tokyo, Japan) , ²⁾ Musashino Treatment Center (Saitama, Japan) , ³⁾ College of Tohoku Medical Technology (Miyagi, Japan) , ⁴⁾ Sato Qigong Center (Tokyo, Japan) , ⁵⁾ Momose Clinic (Tokyo, Japan)): Endocrine Responses during Remote Qi Emission . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2001 ; 19 (1): 216-222 .
- 10) 小久保秀之¹⁾ , 河野貴美子 , 山本幹男²⁾ (¹⁾ (財) 未来工学研究所 , ²⁾ 放射線医学総合研究所): 催眠・気功におけるイメージ想起 . 催眠と科学 2000 ; 15 (1): 15-20 .
- 11) 河野貴美子 : 脳の科学 . 日本の科学者 2001 ; 36 (1): 33-37 .

著 書

- 1) 河野貴美子 : [分担] 各種リラクゼーション療法を脳波から考える . (別冊・医学のあゆみ): 代替医学のいま (今西二郎編集), 2000 ; pp98-103 , 医歯薬出版株式会社 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 長島 隆 : ヒトゲノム解析研究における個人情報と個人 (患者) のプライバシー . 京都Fine医療情報研究会 (日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」「情報倫理の構築プロジェクト (京大文学研究科 , 広島大学文学部 , 千葉大学文学部) , 2000 . 10 .
- 2) 伊藤高司 , 長島 隆 : 臨床治験におけるモニターシステムと情報倫理 . 京都Fine医療情報研究会 (日本学術振興会「未来開拓学術研究推進事業」「情報倫理の構築プロジェクト (京大文学研究科 , 広島大学文学部 , 千葉大学文学部) , 2000 . 10 .

(2) 一般講演 :

- 1) Odaï K¹⁾ , Kikuchi H , Suzuki H²⁾ (¹⁾ Department of Electronics and Informatics, North Shore College , ²⁾ Department of Physics, Waseda Univ): Retinal Model during Photoisomerization in Bacteriorhodopsin . 13th the International Congress on Photobiology, San Francisco (the U. S.), 2000 . 7 .
- 2) Igarashi H¹⁾ , Hamamoto M¹⁾ , Yamaguchi H¹⁾ , Okubo S¹⁾ , Itoh T , Katayama Y¹⁾ : CBF index can be a good predictor for the outcome of hyper-acute stage ischemic lesion in calculated parameters of dynamic T2* perfusion MRI . 4Th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 3) Yamaguchi H¹⁾ , Igarashi H¹⁾ , Hamamoto M¹⁾ , Okubo S¹⁾ , Nagashima J¹⁾ , Itoh T , Kataoka Y (¹⁾ Medicine II): Prediction of cerebral infarction evolution with Peak Delay to Input Function (PDIF) value calculated by dynamic enhanced perfusion MRI . 4Th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 4) Igarashi H¹⁾ , Nakada T¹⁾ , Kwee Ingrid L¹⁾ , Nagashima J¹⁾ , Itoh T , Katayama Y¹⁾ (¹⁾ Medicine II): 1H Magnetic Resonance Spectroscopic Imaging of MCA occluded rat : Time and identification of unresolved peaks . 4Th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 5) Davis SM¹⁾ , Zafar KS¹⁾ , Vohora SB¹⁾ , Okubo S¹⁾ , Nagashima J¹⁾ , Itoh T , Katayama Y (¹⁾ Medicine II): Efficacy and safety of GV150526 in primary intracerebral haemorrhage : Data from the Gain trials (Glycine Antagonist in neuroprotection). 4Th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .

- 6) Kawano K, Yamamoto M¹⁾, Kokubo H²⁾(¹⁾ National Institute of Radiological Sciences (Chiba, Japan),
²⁾ The Institute for Future Technology (Tokyo, Japan)): A Study of a Waves on the Frontal Area . Inter-
national Society for Brain Electromagnetic Topography 12th World Congress (Utsunomiya), 2001 . 3 .
- 7) 近喰ふじ子¹⁾, 河野貴美子, 増沢隆太²⁾(¹⁾ 東京家政大学 文学部心理教育学科, ²⁾ 日本シイベルヘグナー
KK): 騒音によるストレスへの影響 . 第41回日本心身医学会総会, 2000 . 6 .
- 8) 田中昌孝¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 古角智子²⁾, 山本幹男²⁾, 河野貴美子, 相馬隆郎³⁾(¹⁾(財) 未来工学研究所, ²⁾ 放
射線医学総合研究所, ³⁾ 東京都立短期大学): 練功者の生理測定 (II) . 第10回生命情報科学シンポジウム,
2000 . 8 .
- 9) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之²⁾, 田中昌孝²⁾, 張 トウ²⁾, デミトリパルホモチュク¹⁾, 古角智子²⁾,
中村広隆²⁾, 相馬隆郎³⁾(¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾(財) 未来工学研究所, ³⁾ 東京都立短期大学): 対人遠
隔作用実験における受け手の 波 . 第10回生命情報科学シンポジウム, 2000 . 8 .
- 10) 張 トウ¹⁾, 境田英昭²⁾, 河野貴美子, 山本幹男³⁾, 町 好雄²⁾(¹⁾(財) 未来工学研究所, ²⁾ 東京電機大学,
³⁾ 放射線医学総合研究所): 視覚的イメージ想起時の脳活動に関する一研究 . 第10回生命情報科学シンポジウ
ム, 2000 . 8 .
- 11) 河野貴美子, 近喰ふじ子¹⁾(¹⁾ 東京家政大学 文学部心理教育学科): 騒音環境下における思考活動と脳波 . 第
16回日本催眠学会学術大会, 2000 . 9 .
- 12) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之²⁾(¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾(財) 未来工学研究所): 盲検的手法に
よる対人遠隔作用時の脳波 . 人体科学会第10回大会, 2000 . 11 .
- 13) 渡部 昇, 大坂元久, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: Web上のマニュアルとリンクさせた情報
科学テキスト . 第20回医療情報学連合大会 (第1回日本医療情報学会学術大会), 2000 . 11 .
- 14) 長島 隆, 伊藤高司: 医療情報と患者の権利: CIOMSの議論とリスボン宣言から . 第20回医療情報学連合大
会 (第1回日本医療情報学会学術大会), 2000 . 11 .
- 15) 伊藤高司, 殿崎正明¹⁾, 市村慎一郎²⁾, 川並汪一³⁾(¹⁾ 日本医科大学中央図書館, ²⁾(株) 杏林舎, ³⁾ 日本医科
大学老人病研究所): 日本医科大学医学会誌のオンラインフルテキスト電子ジャーナル出版について . 第20回
医療情報学連合大会 (第1回日本医療情報学会学術大会), 2000 . 11 .
- 16) 張 トウ¹⁾, 境田英昭²⁾, 河野貴美子, 大久保秀之¹⁾, 王 力群²⁾, 山本幹男³⁾, 町 好雄²⁾(¹⁾(財) 未来工学
研究所, ²⁾ 東京電機大学, ³⁾ 放射線医学総合研究所): 視覚的イメージ想起時の脳活動に関する一研究 (その II) .
第11回生命情報科学シンポジウム, 2001 . 2 .
- 17) 山本幹男¹⁾, 小久保秀之²⁾, 河野貴美子, 木戸真美³⁾(¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾(財) 未来工学研究所,
³⁾ 東北学院大学): 第5回科学的探索学会欧州会議と英蘭独の潜在能力関連研究機関視察報告 . 第11回生命情
報科学シンポジウム, 2001 . 2 .
- 18) 中村広隆¹⁾, 原口鈴恵¹⁾, 陳 偉中¹⁾, 田中昌孝¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 張 トウ¹⁾, 古角智子²⁾, 河野貴美子, 相
馬隆郎³⁾, 山本幹男²⁾(¹⁾(財) 未来工学研究所, ²⁾ 放射線医学総合研究所, ³⁾ 東京都立短期大学): 意識集中
による人の手の皮膚表面温度変化 . 第11回生命情報科学シンポジウム, 2001 . 2 .
- 19) 陳 偉中¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 中村広隆¹⁾, 田中昌孝¹⁾, 張 トウ¹⁾, 古角智子²⁾, 原口鈴恵¹⁾, 河野肝子, 相馬
隆郎³⁾, 山本幹男²⁾(¹⁾(財) 未来工学研究所, ²⁾ 放射線医学総合研究所, ³⁾ 東京都立短期大学): 対人遠隔作
用における受信者の手の表面温度の変化 . 第11回生命情報科学シンポジウム, 2001 . 2 .
- 20) 河野貴美子, 樋口雄三¹⁾, 小谷泰則¹⁾(¹⁾ 東京工業大学大学院): 遠隔送気時における送信者および受信者の脳
波変化 . 第11回生命情報科学シンポジウム, 2001 . 2 .
- 21) 樋口雄三¹⁾, 河野貴美子, 小谷泰則¹⁾, 林 義貢²⁾, 樋口博信³⁾, 佐藤真志⁴⁾, 百瀬真一⁵⁾(¹⁾ 東京工業大学大
学院, ²⁾ 武蔵野治療センター, ³⁾ 東北大学医療技術短大, ⁴⁾ 佐藤気功センター, ⁵⁾ 百瀬医院): 遠隔送気時
における内分泌動態 . 第11回生命情報科学シンポジウム, 2001 . 2 .

- 22) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男²⁾, 河野貴美子, 福田信男²⁾(¹⁾(財)未来工学研究所, ²⁾放射線医学総合研究所): 変性意識状態におけるイメージ想起と生理変化. 第48回応用物理学関係連合講演会, 2001. 3.
- 23) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之²⁾(¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾(財)未来工学研究所): 特異集中状態における 波. 第48回応用物理学関係連合講演会, 2001. 3.

〔 3 〕 臨 床 医 学

1. 内科学第一講座

[付属病院第 1内科]

研究概要

内科学第一教室では循環器病学, 肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的, 基礎的研究を行った。

循環器病学では, 不整脈に関する研究として, 1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法, 薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈, 突然死発生との関連の検討, 2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用, 臨床効果の検討, 3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療, 4) 失神患者における自律神経機能の評価, 5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討ならびに抗不整脈薬の評価, 6) 単相性活動電位記録による不整脈発生機序の検討。

虚血性心疾患, 心筋疾患に関する研究として, 1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium, 心筋虚血の検出, 2) 虚血性心疾患における圧受容体反射, 自律神経機能との関連, 3) 急性心梗塞後の左室リモデリング, 4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連, 5) 虚血心筋保護法の検討, 6) 虚血性心疾患, 心筋疾患における成長因子, 細胞増殖因子の検討, 7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討。

肝臓病学では, 1) 門脈圧亢進症の病態, 薬物療法に関する検討 2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態, 3) SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生, 4) 慢性肝疾患における肺循環異常, 5) 二次性換羽従性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化と NO の関係。

糖尿病学では, 1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性, 2) 糖尿病患者における自律神経機能, 3) 無症候性心筋虚血の病態, を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Ino T, Atarashi H: Identification of the Slow Conduction Zone in Idiopathic Left Ventricular Tachycardia. PACE 2000; 23 (4): 481-487.
- 2) Endo T, Katoh T, Kiuchi K, Shimizu S, Takano T: Famotidine and Acquired Long QT Syndrome. Am J Med 2000; 108: 438-439.
- 3) Hayashi M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Morita N, Iwasaki Y, Yashima M, Atarashi H, Takano T, Nitta T¹⁾, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ The Second Department of Surgery): Analysis of Posterior Mitral Annular Activation During Entrainment and Catheter Ablation of Mitral Isthmus Ventricular Tachycardia Using a Coronary Sinus Catheter. Journal of Interventional Cardiac Electrophysiology 2000; 4: 427-434.
- 4) Shimizu S, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Ohmura K, Atarashi H, Takano T: Temporal and spatial dispersion of repolarization during premature impulse propagation in human intact ventricular muscle: Comparison between single vs double premature stimulation. Europace 2000; 2: 201-206.
- 5) Atarashi H¹⁾, Kuruma A, Yashima M, Saitoh H, Ino T, Endoh Y, Hayakawa H (¹⁾ First Department of Internal Medicine Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital): Pharmacokinetics of landiolol Hydrochloride, a new ultra-short-acting β -blocker, in patients with cardiac arrhythmias. Clin Pharmacol Ther 2000; 68 (8): 143-150.
- 6) Endo T, Katsuta Y, Kimura Y¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Aramaki T, Takano T, Tajima H²⁾, Fukuda Y²⁾, Sugisaki Y²⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Department of Pathology): A Variant form of Churg-Strauss Syn-

- drome : Initial Temporal Non-Giant Cell Arteritis Followed by Asthma-is this a distinct clinicopathologic Entity? . Human Pathology 2000 ; 31 (9): 1169-1171 .
- 7) Saitoh H , Ogata K , Nomura A , Hirayama Y , Atarashi H¹⁾ , Munakata K (¹⁾ Dept. of Internal Med. Tama-Nagayama Hospital): Mechanism of constant u-volt level T-wave alternans-role of intracellular calcium cyclin regulated by sarcoplasmic reticulum . 心電図 2000 ; 20 : 73-75 .
- 8) Yoshida T , Kiuchi K , Nejima J , Kudo M , Asano G¹⁾ , Takano T (¹⁾ Department of Pathology : Expression of Endothelin-1 After Endothelial Denudation of Thoracic Aortas in Experimental Hypercholesterolemic Rats . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5): 342-351 .
- 9) Fukushima M , Seino Y , Yoshikawa M , Ueda Y , Takano T : A Case of Penetrating Aortic Atherosclerotic Ulcer with Hemoptysis . Jpn Heart J 2000 ; 41 (6): 781-785 .
- 10) Shimizu S , Osaka M , Saitoh H , Atarashi H¹⁾ , Takano T (¹⁾ First Department of Internal Medicine Nippon Medical School, Tama-Nagayama Hospital): Mutual information discloses organization of multiple wavelets toward the termination of atrial fibrillation . Jpn Circ J 2001 ; 65 : 111-116 .
- 11) Taniguchi H , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Seino Y , Takano T : Case Report : Pulmonary Embolism from Thrombosis in a Duplicated Inferior Vena Cava Developing After an Electrophysiologic Procedure . J Interventional Cardiac Electrophysiology 2001 ; 5 : 75-79 .
- 12) 小林義典 : 心房細動における薬物および非薬物併用療法, いわゆる Hybrid Therapy について . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2): 156-157 .
- 13) 上村竜太¹⁾, 高山守正, 関戸司久¹⁾, 木内 要, 高野照夫 (¹⁾ 集中治療室): 急性心筋梗塞における責任冠動脈内圧測定の意義: 慢性期左室機能の回復に關与する因子の検討 . J Cardiol 2000 ; 35 (4): 247-255 .
- 14) 西垣龍太郎, 工藤光洋¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼眞澄²⁾, 七戸和博²⁾, 荒牧琢己 (¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 実験動物管理室): ストレプトゾトシン投与後の大動脈における Advanced glycation end products, Receptor of AGEs, Nitric oxide synthase の免疫組織化学的局在 . 脈管学 2000 ; 40 (4): 219-225 .
- 15) 新 博次¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 小林義典, 早川弘一 (¹⁾ 多摩永山病院内科): 新しい III 群抗不整脈薬 Sotalol の心房細動への使用経験 . Ther Res 2000 ; 21 : 912-914 .
- 16) 宮本新次郎¹⁾, 井野 威²⁾, 平澤泰宏¹⁾, 壬生倉徹志¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 大野忠明¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 田寺 長¹⁾, 長澤絏一¹⁾, 小林義典, 新 博次¹⁾, 早川弘一 : 頻拍中の心房への 2 : 1 伝導を示した上大静脈起源心房頻拍の 1 例 . 臨床心臓電気生理 2000 ; 23 : 149-155 .
- 17) 新 博次¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 野村敦宣, 松本 真, 小野寺威夫, 北山活気, 井上 浩²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科, ²⁾ 富山医科大学第二内科): アスピリンを投与された心房細動例の血栓梗塞症の危険因子: 多施設共同後ろ向き調査 . J Cardiol 2000 ; 35 (5): 373-379 .
- 18) 林 明聡, 小林義典, 相澤瑞穂, 阿部純子, 森田典成, 岩崎雄樹, 宮内靖史, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次²⁾, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一 (¹⁾ 第二病院内科, ²⁾ 多摩永山病院内科): 心臓電気生理学的検査による致死性心室性不整脈誘発性の経時的変動と自然発症との関係 . 臨床心臓電気生理 2000 ; 23 : 85-92 .
- 19) 宮本新次郎, 井野 威¹⁾, 平澤泰宏, 壬生倉徹志, 丸山光紀, 大野忠明, 遠藤康実, 田寺 長, 長澤絏一, 小林義典, 新 博次, 早川弘一 : 頻拍中に心房への 2 : 1 伝導を示した上大静脈起源心房頻拍の 1 例 . 臨床心臓電気生理 2000 ; 23 : 149-155 .
- 20) 高野照夫, 太田眞夫, 馬淵浩輔, 高山守正, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 川名正敏²⁾, 笠貫 宏²⁾, 中村 泰³⁾, 相良耕一⁴⁾, 内山隆史⁵⁾, 癸生川恵一⁶⁾, 木村 満⁷⁾, 斎藤 徹⁸⁾, 上嶋権兵衛⁸⁾, 住吉徹哉⁹⁾, 斎藤克巳¹⁰⁾, 中西成元¹¹⁾, 坂井 誠¹²⁾, 村上幹高¹³⁾, 一色高明¹⁴⁾, 林田憲明¹⁵⁾, 長尾 健¹⁶⁾, 上松瀬勝男¹⁶⁾, 本江純子¹⁷⁾, 山口 徹¹⁸⁾, 田村 勤¹⁹⁾, 吉野秀朗²⁰⁾, 本宮武司²¹⁾, 木村佑介²²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 東京女子医科大学病院,

3) 順天堂大学医学部附属順天堂医院, 4) 心臓血管研究所附属病院, 5) 東京医科大学附属八王子医療センター, 6) 立正佼成会附属佼成病院, 7) 東京都済生会中央病院, 8) 東邦大学医学部附属大森病院, 9) 財団法人日本心臓血圧研究振興会附属榊原記念病院, 10) 医療法人社団成和会西新井病院, 11) 虎の門病院, 12) 東京都老人医療センター, 13) 昭和大学医学部附属病院, 14) 帝京大学医学部附属病院, 15) 財団法人聖路加国際病院, 16) 日本大学医学部附属駿河台病院, 17) 日本大学医学部附属板橋病院, 18) 東邦大学医学部附属大橋病院, 19) 社会福祉法人三井記念病院, 20) 杏林大学医学部附属病院, 21) 東京都立広尾病院, 22) 東京都医師会): 急性心筋梗塞患者における prehospital care の進歩: 東京都 CCU ネットワーク (1982 年 ~ 1998 年) における検討. 心臓 2000 ; 32 (10): 763-772 .

- 21) 荒尾正人¹⁾, 説田浩一¹⁾, 清野精彦, 高野照夫 (¹⁾ 東京都立駒込病院循環器内科): シピリダモール負荷心筋シンチグラフィにおける洗い出し率の不均一性に関する臨床的検討: 冠動脈インターベンション適応判定のための新指標. J Cardiol 2000 ; 36 (5): 285-293 .
- 22) 斉藤寿一¹⁾, 村井和夫²⁾, 井上洋西²⁾, 横山英明¹⁾, 吉田謙一郎³⁾, 松岡博昭³⁾, 堀江考至⁴⁾, 荒牧琢己, 壇原高⁵⁾, 二瓶 宏⁶⁾, 高野加寿恵⁶⁾, 伊藤泰雄⁷⁾, 高原二郎⁸⁾, 斉藤 厚⁹⁾ (¹⁾ 自治医科大学, ²⁾ 岩手医科大学, ³⁾ 獨協医科大学, ⁴⁾ 日本大学医学部, ⁵⁾ 順天堂大学医学部, ⁶⁾ 東京女子医科大学, ⁷⁾ 杏林大学医学部, ⁸⁾ 香川医科大学, ⁹⁾ 琉球大学医学部): 医科大学提出試験問題の医師国家試験での利用についての基礎検討: フィールド試験結果の解析. 医学教育 2001 ; 32 (1): 13-18 .

(2) 研究報告書:

- 1) 横山光宏¹⁾, 杉下靖郎²⁾, 増田善昭³⁾, 友池仁暢⁴⁾, 中野 赴⁵⁾, 玉木長良⁶⁾, 野原隆司⁷⁾, 中嶋憲一⁸⁾, 岸田浩, 延吉正清⁹⁾, 吉川純一¹⁰⁾, 児玉和久¹¹⁾, 似鳥俊明¹²⁾ (¹⁾ 神戸大学第一内科, ²⁾ 筑波記念病院, ³⁾ 千葉大学第三内科, ⁴⁾ 山形大学第一内科, ⁵⁾ 三重大学第一内科, ⁶⁾ 北海道大学大学院医学研究科核医学科, ⁷⁾ 京都大学大学院医学研究科循環器病態学, ⁸⁾ 金沢大学核医学講座, ⁹⁾ 社会保険小倉記念病院, ¹⁰⁾ 大阪市立大学大学院医学研究科循環器病態内科学, ¹¹⁾ 大阪警察病院内科, ¹²⁾ 杏林大学放射線医学): 慢性虚血性心疾患の診断と病態把握のための検査法の選択基準に関するガイドライン. Jpn Circ J 2000 ; 64 (Suppl. V): pp1285-1387 .
- 2) 岸田 浩, 草間芳樹, 川久保清¹⁾, 久保田功²⁾, 中屋 豊³⁾, 長嶋正實⁴⁾, 前原和平⁵⁾, 武者春樹⁶⁾, 村山正博⁷⁾ (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科健康増進科学, ²⁾ 山形大学医学部第一内科, ³⁾ 徳島大学医学部特殊栄養学, ⁴⁾ 愛知県衛生部, ⁵⁾ 福島県立医科大学第一内科, ⁶⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科, ⁷⁾ 聖マリアンナ医科大学循環器内科): 運動負荷試験実施のガイドラインに関する委員会報告: 外見上健常者における運動負荷心電図評価法の指針. Jpn. J. Electrocardiology 2001 ; 21 (2): pp215-226 .

(3) 総説:

- 1) 岩崎雄樹, 小林義典, 宮内靖史, 森田典成, 林 明聡, 大野則彦, 高山英男, 八島正明, 平山悦之, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 高野照夫: 左冠尖からの高周波通電により焼灼に成功した特発性心室頻拍の1例. 不整脈 2000 ; 16 (4): 514-517 .
- 2) 横山広行, 高山守正: 薬物療法と問題点 (特集: 急性心筋梗塞: 高齢者の特徴). ICU と CCU 2000 ; 24 (1): 31-36 .
- 3) 加藤貴雄: Critical Care における Sicilian Gambit の適用 (特集: 不整脈 新しい治療戦略). 集中治療 2000 ; 12 (5): 477-487 .
- 4) 清野精彦: 急性心不全に強心薬をどう使うか. 心臓 2000 ; 32 (5): 455-457 .
- 5) 松本 真, 斎藤寛和¹⁾, 加藤貴雄, 高野照夫 (¹⁾ 第二病院内科): T wave alternans. 臨床検査 2000 ; 44 (6): 602-607 .
- 6) 加藤貴雄, 森田典成: 右脚ブロック + ST 上昇 (いわゆる Brugada 型心電図?). JPN. J. Electrocardiology 2000 ; 20 (6): 643-645 .
- 7) 草間芳樹, 本間 博, 高橋直人, 清宮康嗣, 酒井俊太, 斎藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩: ドブタミン負荷心工

- コー法の有用性と問題点：有意冠動脈病変の検出能，梗塞部壁運動改善予測能のついて．心臓 2000；32 (Suppl. 2)：42-44．
- 8) 平盛勝彦¹⁾，岸田 浩⁽¹⁾岩手医科大学第二内科)：長期薬物療法をいつ中止するか(虚血性心疾患におけるうっ血心不全の治療)．心臓 2000；32(7)：598-600．
- 9) 岸田 浩，山中博之¹⁾，鈴木 健¹⁾，草間芳樹⁽¹⁾多摩永山病院内科)：日本における抗狭心症薬開発の現状と臨床試験について．Jpn J Clin Pharmacol Ther 2000；31(4)：547-555．
- 10) 加藤貴雄：労作性狭心症と不整脈(虚血性心疾患の不整脈とその対策)．心臓 2000；32(8)：671-672．
- 11) 清野精彦：心不全治療におけるEBM(特集：Common diseaseのEvidence based-MedicineとExperience-based Medicine)．臨床成人病 2000；30(10)：1323-1328．
- 12) 三浦洋司，木内 要，高野照夫：急性心不全の強心薬治療ホスホジエステラーゼIII阻害薬の役割と限界．Current Topics in Cardiology 2000；25：2-12．
- 13) 清野精彦：マルファン症候群と妊娠(特集：妊娠と他科連携)．日本医師会雑誌 2000；124(7)：1012-1012．
- 14) 小林義典：植え込み型除細動器(不整脈治療の実際)．診断と治療 2000；88(10)：1881-1887．
- 15) 清野精彦：心不全治療における静注強心薬について(特集：心不全の薬物療法：患者QOLを重視した治療とは?)．今月の治療 2000；8(11)：114-119．
- 16) 高山守正，清水 淳¹⁾(¹⁾麻酔科学)：非心臓手術における冠動脈疾患評価．Lisa 2000；7(11)：1064-1068．
- 17) 高山守正：<弁膜疾患の診断・治療・予後> [感染性心内膜炎] 予防，病態，内科治療(特集：心臓弁膜症)．内科 2001；87(1)：103-109．
- 18) 清野精彦，池田真人，清水秀治，高木啓倫，説田浩一¹⁾(¹⁾東京都立駒込病院循環器科)：Ongoing Myocardial Damage(特集：うっ血性心不全の治療 新世紀への展開)．Heart View 2001；5(1)：86-91．
- 19) 高野照夫：21世紀の集中治療医学：とくに心疾患患者治療の新しい方向(特集：集中治療医学21世紀の展望)．ICUとCCU 2001；25(1)：21-24．
- 20) 小林義典：心臓突然死の予防：植え込み型除細動器とは?．Medical Practice 2001；18(2)：245-250．
- 21) 田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，高野照夫⁽¹⁾放射線科)：II．診断の進歩 5．肺動脈造影(特集：急性肺動脈血栓梗塞症)．日本内科学会雑誌 2001；90(2)：64-67．
- 22) 緒方憲一，斎藤寛和，亀山幹彦，丸山光紀，清水秀一，大野則彦，松本 真，平山悦之，小林義典，新 博次，加藤貴雄，高野照夫：T wave alternansの機序(細胞内カルシウムサイクリングの影響)．心臓 2001；33 (Suppl. 1)：26-31．
- 23) 高野照夫：急性肺動脈血栓梗塞症(特集：急性肺動脈血栓梗塞症)．日本内科学会雑誌 2001；90(2)：1-2．
- 24) 岸田 浩：患者携帯型心電計に纏わる話し．心電図 2001；21(2)：206-208．
- 25) 加藤貴雄：QT延長症候群のメカニズムとマクロライド．The Japanese Journal of Antibiotics 2001；54 (suppl. A)：118-122．
- 26) 清野精彦：急性心筋梗塞の全血迅速診断法：外来で簡単にできる生化学検査(特集：急性心筋梗塞：プレホスピタルケアからCCU搬送まで)．日本医師会雑誌 2001；125(5)：679-682．
- 27) 加藤貴雄：薬剤選択とCD-ROM版ガイドラインの有効利用(特集：日常診療における不整脈：ガイドラインに基づいた薬物治療の実際)．Current Therapy 2001；19(3)：55-62．
- 28) 小林義典：心房細動のレートをいかにコントロールするか(特集：心房細動：治療の最前戦)．Heart View 2001；5(3)：78-84．
- 29) 草間芳樹，馬淵浩輔，酒井俊太，本間 博，高野照夫：心筋梗塞領域誘導での運動誘発ST上昇の原因および上昇パターンの分析による検討．心電図 2001；21(3)：263-269．

著 書

- 1) Honma H, Hayakawa H : [分担] Non-Invasive Quantification/Localization of Myocardial Ischemia . Kluwer Academic Publishers (Osterhues H-H. , Hombach V, Moss A J), 2000 ; pp211-215 , Kluwer Academic Publishers .
- 2) 加藤貴雄 : [分担] 不整脈 : 加算平均心電図法 . 改定版 目でみる循環器病シリーズ (笠貫 宏), 2000 ; pp94-102 , メジカルレビュー社 .
- 3) 高野照夫 , 西松能子¹⁾ , 黒澤 尚¹⁾ (¹⁾神経科) : [分担] 心筋梗塞症状の合併症 CCUにおける急性心筋梗塞患者の精神症状 . 改訂版 目でみる循環器病シリーズ3 心筋梗塞症 (平盛勝彦), 2000 ; pp155-163 , メジカルレビュー社 .
- 4) 清野精彦 : [分担] 心不全 . 認定医・専門医のための内科学レビュー2001 (酒井 紀 , 早川弘一 , 西崎 統 , 小林祥泰 , 福井次矢), 2001 ; pp40-44 , 総合医学社 .
- 5) 高野照夫 : [分担] 不安定狭心症 , 非Q波梗塞 . 今日の治療指針2001年版 (多賀須幸男 , 尾形悦郎 , 山口 徹 , 北原光夫), 2001 ; pp353-355 , 医学書院 .
- 6) 岸田 浩 : [分担] 無症候性心筋虚血 . 今日の治療指針2001年版 (多賀須幸男 , 尾形悦郎 , 山口 徹 , 北原光夫), 2001 ; pp358-359 , 医学書院 .
- 7) 加藤貴雄 : [分担] 動悸・脈拍異常 . 診察の技法と考え方 (寺本民生 , 秋葉 隆), 2001 ; pp296-298 , 中外医学社 .
- 8) 加藤貴雄 , 高野照夫 : [分担] 特発性心室頻拍 . 別冊・医学のあゆみ 循環器疾患 - state of arts ver. 2 (矢崎義雄 , 島田和幸 , 井上 博 , 永井良三), 2001 ; pp581-583 , 医歯薬出版株式会社 .
- 9) 清野精彦 : [分担] 虚血性心疾患の新しい生化学的診断法 . 別冊・医学のあゆみ 循環器疾患 state of arts ver. 2 (矢崎義雄 , 島田和幸 , 井上 博 , 永井良三), 2001 ; pp262-264 , 医歯薬出版株式会社 .
- 10) 木内 要 , 高野照夫 : [分担] 急性心筋梗塞 : ショック・心不全合併例 . 別冊・医学のあゆみ 循環器疾患 state of arts ver. 2 (矢崎義雄 , 島田和幸 , 井上 博 , 永井良三), 2001 ; pp502-504 , 医歯薬出版株式会社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 早川弘一 : 体表心臓微小電位研究会を振り返って . 第11回体表心臓微小電位研究会 , 2001 . 2 .
- 2) 高野照夫 : 21世紀に向けての急性心筋梗塞の診断と治療 . 第28回日本集中治療医学会総会 , 2001 . 3 .

(2) シンポジウム :

- 1) Seino Y : Pathophysiology of Acute Heart Failure . 7th Indonesian International Symposium on Shock and Critical Care (Bali, Indonesia), 2000 . 8 .
- 2) Takayama M, Takano T : A Current Role of Coronary Thrombolysis and PTCA in Reperfusion Therapy for Acute Myocardial Infarction : Analysis of Patients Registry in Tokyo CCU Network . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 3) 草間芳樹 , 福間祐美子 , 及川恵子 , 塚田弥生 , 佐野純子 , 福間長知 , 岸田 浩 , 高野照夫 : 先行虚血発作による後続発作に対する虚血重症度軽減効果 : 異型狭心症における検討 (虚血性心疾患の診断と治療におけるホルター心電図の有用性とその限界) . 第21回ホルター心電図研究会 , 2000 . 6 .
- 4) 草間芳樹 , 馬淵浩輔 , 酒井俊太 , 岸田 浩 , 高野照夫 : 心筋梗塞領域誘導での運動負荷時ST上昇の成因およびST上昇パターンの分析による検討 . 第17回日本心電学会学術集会 , 2000 . 10 .

(3) パネルディスカッション :

- 1) 中西一浩¹⁾ , 清水 淳¹⁾ , 池崎弘之²⁾ , 竹田晋浩²⁾ , 安武正弘²⁾ , 本間 博 , 高山守正 , 田中啓治²⁾ , 小川 龍¹⁾ , 高野照夫 (¹⁾麻酔科 , ²⁾集中治療室) : 周術期循環変動に対するドブタミン負荷心エコー法の有用性 (心疾患

患者の非心臓手術). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

- 2) 畑 典武¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治²⁾, 草間芳樹, 水野杏一¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 掃部弘行¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 高野照夫 (¹⁾千葉北総病院循環器センター, ²⁾付属病院集中治療室): Economy Class Syndromeの集中治療と長期予後 (肺血栓塞栓症への対策). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

(4) ワークショップ:

- 1) 磯田麻里, 里村克章, 荒牧琢巳: 急性肝炎 (AH) 様発症を示す原発性胆汁性肝硬変 (PBC) 3例に関する臨床病理学的検討. 第4回日本肝臓学会大会, 2000. 10.
- 2) 池崎弘之¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 高野照夫, 小川 龍²⁾, 田中啓治¹⁾(¹⁾集中治療室, ²⁾麻酔科): 背側肺障害に対する Intrapulmonary Percussion Ventilationの効果 (急性肺循環). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 3) 笠神康平¹⁾, 安武正弘¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 高山英男¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 亀山幹彦¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高山守正, 清野精彦, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 重症心不全例のドブタミン, 塩酸コルホルシンドロハートに対する反応: 治療指針の指標として (心不全の治療). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 4) 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 安武正弘¹⁾, 山本 剛¹⁾, 笠神康平¹⁾, 高山英男¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 難治性心不全に対する成長ホルモン急性投与の効果 (心不全の治療). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

(5) 一般講演:

- 1) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Morita N, Hayashi M, Ohmura K, Atarashi H, Katoh T, Takano T: Electrophysiological Characteristics of the Posterior Border of Koch's Triangle in Relation to the Development of Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia. 21st Annual Scientific Sessions of North American Society of Pacing and Electrophysiology (Washington DC, USA), 2000. 5.
- 2) Morita N, Kobayashi Y, Iwasaki Y, Hayashi M, Miyauchi Y, Ohmura K, Atarashi H, Katoh T, Takano T: Bidirectional Conduction Property of the Right Atrial Lower Isthmus in Patients with Both Common and Reversed Common Atrial Flutter as Compared to Those with Only Common Flutter. 21st Annual Scientific Sessions of North American Society of Pacing and Electrophysiology (Washington DC, USA), 2000. 5.
- 3) Zhang XJ, Akimoto M¹⁾, Ohsuga M, Shimizu S, Nagano T, Komeichi H, Terada H, Satomura K, Katsuta Y, Aramaki T (¹⁾Department of Laboratory Animal Science): Nitric oxide and oxygenation of arterial blood in chronic bile duct ligated rats. IASL-APASL Joint Meeting 2000 (Fukuoka, Japan), 2000. 6.
- 4) Ohno T, Honma H, Matsuzaki T, Ohtsuka T, Sakurai K, Nishigaki R, Kusama Y, Munakata K, Kishida H, Takano T: Usefulness of Ultrasonic Tissue Characterization and Dobutamine Stress Echocardiography for Prediction of Functional Recovery in Chronic Left Ventricular Ischemic Dysfunction. 11th Annual Scientific Sessions American Society of Echocardiography (Chicago, USA), 2000. 6.
- 5) Takagi H, Yasutake M, Jia D, Ishii K, Kusama Y, Kishida H, Takano T: Mexiletine Reduces the Severity of Myocardial Stunning via Glivenclamide-Nondependent Mechanism in Isolated Rat Hearts. International Society for Heart Research American Section XXII Annual Scientific Sessions (Louisville, USA), 2000. 6.
- 6) Tsukada Y, Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Kishida H, Takano T: Determination of Nitric Oxide by Luminol-H₂O₂ Reaction in Crystalloid Perfused Rat Heart. International Society for Heart Research American Section XXII Annual Scientific Sessions (Washington DC, USA), 2000. 6.
- 7) Sutovsky I, Wu XY, Yodogawa H, Takayama H, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Hayakawa H: Change in Filtered QRS Duration During Class I Antiarrhythmic Therapy-An Instantaneous and non-invasive Marker of Drug Serum Concentrations. XXVII International Congress on Electrophysiology (Milan, Italy),

2000 . 6 .

- 8) Takayama H , Sutovsky I , Wu XY , Katoh T , Takano T , Hayakawa H : Time-Frequency Analysis of the Difference of Pharmacological Actions on Electrocardiogram Between Pilsicainide and Amiodarone in Patients with Ventricular Arrhythmias . XXVII International Congress on Electrocardiology (Milan, Italy), 2000 . 6 .
- 9) Wu XY , Seino Y , Ogura H , Katoh T , Yajima T , Tanaka S , Hayakawa H : Measurement of Plasma Brain Natriuretic Peptide Levels and Evaluation of Physical Activity in Patients with Implanted Pacemaker . XXVII International Congress on Electrocardiology (Milan, Italy), 2000 . 6 .
- 10) Morita N , Atarashi H , Hayashi M , Miyauchi Y : QT Dispersion in Premature Beats Produced by Extrastimuli From the Right Atrium and Right Ventricle . XXVII International Congress on Electrocardiology (Milan, Italy), 2000 . 6 .
- 11) Takayama M : Septal Ablation in HOC : Japanese Results . Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Conference (Washington DC, USA), 2000 . 10 .
- 12) Fujioka M : Is Silent Myocardial Ischemia in Diabetes Mellitus Attributable to Diffuse Coronary Artery Disease? Evaluation with ²⁰¹Tl Stress Test and Coronary Angiogram Assessed by the Extent Score . 17th International Diabetes Federation Congress (Mexico City, Mexico), 2000 . 11 .
- 13) Fujita N : Estimation of Multivessel and Diffuse Coronary Artery Disease by Treadmill Exercise Test in Patients with Diabetes Mellitus and Impaired Glucose Tolerance . 17th International Diabetes Federation Congress (Mexico City, Mexico), 2000 . 11 .
- 14) Hayashi M , Kobayashi Y , Iwasaki Y , Morita N , Miyauchi Y , Ohmura K , Atarashi H , Katoh T , Takano T : Long-Term Variability in Induced Ventricular Tachyarrhythmias, Incidence, Background, and Clinical Significance in Relation to the Spontaneous Occurrence of Arrhythmias . American Heart Association 73rd Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2000 . 11 .
- 15) Fukuma N , Oikawa K , Tuchida T , Kimura Y , Aisu N , Mabuchi K , Sano J , Kusama Y , Munakata K , Takano T , Kumita S , Kumazaki T : Sympathetic Denervation in Skeletal Muscle as a Cause of Excessive Blood Pressure Response to Exercise . American Heart Association 73rd Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2000 . 11 .
- 16) Ogata K , Seino Y , Kiuchi K , Satoh N , Ikezaki H , Yasutake M , Iwahara S , Takayama M , Takano T : Whole Blood Rapid Panel Test of Heart-Type Fatty Acid-Binding Protein for Earlier Risk Stratification in Patients with Acute Coronary Syndrome . American Heart Association 73rd Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2000 . 11 .
- 17) Seino Y , Ogata K , Takano T , Ishii J , Hishida H , Morita H , Takeshita H , Takagi Y , Sugiyama H , Tanaka T , Kitaura Y : Emergency Room Triage of Patients with Acute Chest Pain by Whole Blood Rapid Assay for Heart-Type Fatty Acid Binding Protein : Multicenter Study in Cardiac Emergency Room in Japan . American Heart Association 73rd Scientific Sessions (New Orleans, USA), 2000 . 11 .
- 18) Asai K , Sato N , Tanaka K , Takano T , Vatner DE¹⁾ , Vatner SF (¹⁾ The Cardiovascular Research Institute, University of Medicine and Dentistry of New Jersey) : Why is chronic administration of α -adrenergic receptor blockade useful in cardiomyopathy . COE International Symposium : Cardiac Function-Osaka2001 (Osaka), 2001 . 2 .
- 19) Sato N , Tanaka K , Asai K , Takano T : Comparison of inotropic agents that act on components of α -adrenergic receptor signaling pathway in conscious dogs with heart failure . COE International Symposium : Cardiac Function Osaka 2001 (Osaka), 2001 . 2 .
- 20) He Y , Yasutake M , Timita Y , Kusama Y , Takayama M , Munakata K , Takano T : Endothelial Constitu-

tional Nitric Oxide Synthase Gene Polymorphism is Associated with Coronary Vasospasm . American College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Anaheim, USA), 2001 . 3 .

- 21) Nakagomi A , Aoki S , Yamane Y , Yamamoto T , Fujita N , Ibuki C , Kusama Y , Takayama M , Nagasawa K , Takano T : Exercise Thallium-201 Myocardial Image is Useful for Predicting Adverse Outcomes in Patients with Vasospastic Angina . American College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Anaheim, USA), 2001 . 3 .
- 22) Nakagomi A , Aoki S , Katou K , Fujita N , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Kishida H , Takano T : Upregulated Monocytes Tissue Factor Induction by C-Reactive Protein Contributes to the Exacerbation into Acute Coronary Syndrome from Stable Angina Pectoris . American College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Anaheim, USA), 2001 . 3 .
- 23) Katoh T , Ohno T , Yodogawa K , Hayakawa H , Kanazawa M¹⁾ , Shimizu S¹⁾ (¹⁾ NEC Co. Ltd.) : Improvement of the Computer-Assisted Differential Diagnosis for Wide QRS Premature Complexes . American College of Cardiology 50th Annual Scientific Session (Anaheim, USA), 2001 . 3 .
- 24) Ohno T : Detection of microvascular integrity in infarcted area by low dose dobutamine stress myocardial contrast echocardiography . 10th International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy Congress (Kyoto), 2001 . 3 .
- 25) Yoshikawa M : Serial change of systolic anterior motion of mitral valve in patients received septal myocardial ethanol ablation for hypertrophic obstructive cardiomyopathy . 10th International Society of Cardiovascular Pharmacotherapy Congress (kyoto), 2001 . 3 .
- 26) Matsumoto S , Hirayama Y , Iwasaki Y , Kobayashi Y , Seino Y , Takano T , Saitoh H¹⁾ , Ogata K¹⁾ , Ohno N²⁾ , Osaka M²⁾ , Atarashi H³⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, 2nd Hospital , ²⁾ Department of Health Case Hospital, 2nd Hospital, ³⁾ Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital) : T-wave alternans can detect cardiac involvement in sarcoidosis . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2000 . 3 .
- 27) Seino Y , Ikeda M , Kashiwagi M , Takano T , Setsuta K¹⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Komagome Hospital) : Aiming suppression of ongoing myocardial damage in patients with advanced heart failure : assessment by Myocardial Subset . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2000 . 3 .
- 28) Ogata K , Seino Y , Kiuchi K , Takayama M , Takano T , Satoh N¹⁾ , Yasutake M¹⁾ , Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Coronary Care Unit) : Semiquantitative positivity in whole blood rapid assay of heart-type fatty acid-binding protein identifies higher risk group for cardiac emergency triage . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 29) Aoki S , Nakagomi A , Yamane Y , Fujita N , Yoshikawa M , Shiiba K , Tajika K , Fujioka M , Takagi H , Kusama Y , Takayama M , Takano T , Katoh K¹⁾ (¹⁾ The Department of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital) : Age and sex differences influence monocyte tissue factor induction by C-Reactive Protein . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 30) Ohno N¹⁾ , Saitoh H¹⁾ , Ogata K¹⁾ , Osaka M¹⁾ , Munakata K¹⁾ , Matsumoto S , Takano T (¹⁾ Department of Internal Medicine, Second Hospital) : Temporal fluctuation of QT interval and ventricular arrhythmia : QT variability index (QTVI) and frequency analysis of QT interval . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 31) Oikawa K , Fukuma N , Kimura Y , Mabuchi K , Miura K , Aisu N , Tsuchiya T , Kusama Y , Munakata K , Takano T , Kumita S¹⁾ , Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology) : Sympathetic denervation of the motor muscle plays an important role in excessive blood pressure response to exercise . The 65th Annual Scientific

- Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 32) Morita N , Kobayashi Y , Yamashina I , Taniguchi H , Hirasawa Y , Aizawa M , Abe J , Iwasaki Y , Hayashi M , Ohmura K , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Termination effect of intravenous ibutilide on common atrial flutter and its mechanism . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 33) Nakagomi A , Aoki S , Yamane Y , Yamamoto T , Fujita N , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Takano T , Ibuki C¹⁾ , Nagasawa K¹⁾ , Katoh K²⁾ , Tanaka K²⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital , ²⁾ Department of Cardiology, Hakujuikai Memorial Hospital): Exercise thallium-201 myocardial image is useful for predicting adverse outcomes in patients with vasospastic angina . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 34) Yamamoto T¹⁾ , Kasagami Y¹⁾ , Akutsu K¹⁾ , Takayama H¹⁾ , Satoh N¹⁾ , Yasutake M¹⁾ , Tanaka K¹⁾ , Nakagomi A , Fujita N , Aoki S , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Takano T , Munakata K²⁾ (¹⁾ Division of CCU and ICU , ²⁾ Department of Internal Medicine, The Second Hospital): Acute coronary syndromes develop in proportion to atherosclerotic plaque burden . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 35) Shimizu S , Seino Y , Takagi H , Katsuta Y , Aramaki T , Takano T : Is an ongoing myocardial damage detected in patients with chronic HCV hepatitis? . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 36) Satoh N¹⁾ , Tanaka K¹⁾ , Yasutake M¹⁾ , Yamamoto T¹⁾ , Kasagami Y¹⁾ , Takayama H¹⁾ , Akutsu K¹⁾ , Kameyama M¹⁾ , Takano T (¹⁾ Intensive and Coronary Care Unit): Effectiveness of the adjunctive therapy with growth hormone in severe heart failure patients . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 37) Tanaka K¹⁾ , Yasutake M¹⁾ , Satoh N¹⁾ , Akutsu K¹⁾ , Yamamoto T¹⁾ , Kasagami Y¹⁾ , Kameyama M¹⁾ , Takano T (¹⁾ Division of CCU and ICU): Analysis of clinical course in patients with pericardial hematoma following acute aortic dissection . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 38) 加藤貴雄 , Sutovsky I , Wu XY , 高山英男 , 清野精彦 , 高野照夫 , 早川弘一 : 心臓体液性因子と心室性不整脈重症度の関係 . 第97回日本内科学会講演会 , 2000 . 4 .
- 39) 清水秀治 , 古明地弘和 , 大須賀勝 , 関山達也 , 里村克章 , 勝田悌実 , 荒牧琢己 : 肝硬変における食道静脈瘤 , 肝循環 , 全身血行動態の加齢変化に関する検討 . 第97回日本内科学会講演会 , 2000 . 4 .
- 40) 佐野純子 , 櫻井 薫 , 福間長知 , 本間 博 , 草間芳樹 , 宗像一雄 , 岸田 浩 , 高野照夫 : ドブタミン負荷^{99m}Tc-Sestamibi心拍同期心筋シンチグラフィによる心筋虚血診断 . 第97回日本内科学会講演会 , 2000 . 4 .
- 41) 藤田進彦 , 田中古登子 , 藤岡幹雄 , 中込明裕 , 草間芳樹 , 太田眞夫 , 橋本英洋 , 高野照夫 : トレッドミル運動負荷試験による耐糖能異常症例の多枝・び慢性冠動脈病変の推定 . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会 , 2000 . 5 .
- 42) 藤岡幹雄 , 藤田進彦 , 田中古登子 , 中込明裕 , 草間芳樹 , 太田眞夫 , 橋本英洋 , 高野照夫 , 洪 基哲¹⁾ (¹⁾ 稲田登戸病院循環器内科): 糖尿病における慢性冠動脈病変と無症候性心筋虚血の関連 : event scoreを用いた冠動脈病変の検討 . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会 , 2000 . 5 .
- 43) 山本 剛 , 中込明祐 , 大野忠明 , 藤田進彦 , 高野照夫 , 山根吉人¹⁾ , 青木 聡¹⁾ , 雪吹周生¹⁾ , 鈴木 健¹⁾ , 長澤絏一¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科): 糖尿病患者の冠動脈病変は瀰漫性動脈硬化性病変が多い (新しいextent scoreを用いた検討) . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会 , 2000 . 5 .
- 44) 木村祐子 , 平山悦之 , 清野精彦 , 荒牧琢己 , 天野浩文¹⁾ , 山口 博²⁾ (¹⁾ リウマチ科 , ²⁾ 第二内科): 横断性脊

- 髄症で発症し，MRIで縦走病巣を認めた全身性エリテマトーデスの1例．第481回日本内科学会関東地方会，2000．5．
- 45) 藤田進彦，谷口宏史，阿部純子，福間長知，大須賀勝，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己：カンピロバクター菌による特発性膿胸を合併した肝硬変の1例．第259回日本消化器病学会関東支部例会，2000．5．
- 46) 宮内靖史，小林義典，相澤瑞穂，阿部純子，新 博次，加藤貴雄，高野照夫，新田 隆¹⁾，田中茂夫¹⁾(¹⁾第二外科)：Radial Incision術後に出現した心房頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した2例．第30回臨床心臓電気生理研究会，2000．5．
- 47) 清水秀治，里村克章，古明地弘和，大須賀勝，関山達也，勝田悌実，荒牧琢己，大本安一¹⁾(¹⁾大塚製薬医薬第一研究所)：肥満細胞由来ヒトキマーゼの測定法の確立．第36回日本肝臓学会総会，2000．6．
- 48) ズレイガート・ジハド¹⁾，田中啓治¹⁾，上村竜太¹⁾，高山英男¹⁾，笠神康平¹⁾，山本 剛¹⁾，石井庸平¹⁾，佐藤直樹¹⁾，安武正弘¹⁾，矢島俊巳²⁾，落 雅美²⁾，田中茂夫²⁾，高野照夫，布施 明³⁾(¹⁾集中治療室，²⁾外科第二，³⁾川口市立医療センター)：剥離内膜の左室内嵌頓により仮性大動脈弁閉鎖不全をきたした急性大動脈解離．日本循環器学会関東甲信越地方会第176回学術集会，2000．6．
- 49) 美浦和代，宮内靖史，加藤浩司，福間長知，本間 博，高山守正，清野精彦，岸田 浩，高野照夫：大動脈弁疣贅の弁様作用により逆流が消失し術前血行動態が保たれた感染性心内膜炎の1例．日本循環器学会関東甲信越地方会第176回学術集会，2000．6．
- 50) 富村正登，斉藤 勉，岸田 浩，高野照夫：冠攣縮性狭心症のVasoreactivityに対するMacrophage-Colony Stimulating Factorの寄与．第42回日本老年医学会学術集会，2000．6．
- 51) 竹永清人，高山守正，吉川雅智，加藤浩司，石川正也，藤田進彦，本間 博，関戸司久，上村竜太，櫻井 薫，中込明裕，草間芳樹，高野照夫，山本 剛¹⁾，笠神康平¹⁾，佐藤直樹¹⁾，安武正弘¹⁾(¹⁾集中治療室)：閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔心筋焼灼術の臨床成績．第9回日本心血管インターベンション学会学術集会，2000．6．
- 52) 石川正也，高山守正，森田典成，櫻井 薫，上村竜太，加藤浩司，藤田進彦，笠神康平，藤岡幹雄，佐藤直樹，安武正弘，中込明裕，田中啓治，高野照夫：いわゆる“たこつぼ心筋症”の成因の検討：回復期アセチルコリン(Ach)負荷による多枝冠動脈攣縮を生じた3例．第9回日本心血管インターベンション学会学術集会，2000．6．
- 53) 加藤浩司，高山守正，上村竜太，関戸司久，小谷英太郎，吉川雅智，石川正也，藤田進彦，櫻井 薫，笠神康平，佐藤直樹，安武正弘，中込明裕，草間芳樹，田中啓治，高野照夫：冠動脈ステント留置術の長期成績：各種ステントにおける急性冠病変(ACS)と慢性冠狭窄(非ACS)との差異．第9回日本心血管インターベンション学会学術集会，2000．6．
- 54) 吉川雅智，加藤浩司，高山守正，石川正也，藤田進彦，櫻井 薫，関戸司久，小谷英太郎，藤岡幹雄，中込明裕，草間芳樹，高野照夫，山本 剛¹⁾，笠神康平¹⁾，上村竜太¹⁾，佐藤直樹¹⁾，安武正弘¹⁾，田中啓治¹⁾(¹⁾集中治療室)：慢性冠狭窄例における待期的冠動脈ステント留置術の長期成績の検討：ステント世代による長期成績の比較．第9回日本心血管インターベンション学会学術集会，2000．6．
- 55) 掃部弘行¹⁾，今泉孝敬¹⁾，畑 典武¹⁾，緒方憲一²⁾，田中啓治²⁾，岩原信一郎³⁾，清野精彦，木内 要，高野照夫(¹⁾千葉北総病院集中治療部，²⁾付属病院集中治療室，³⁾海老名総合病院循環器センター)：H-FABP測定による急性心筋梗塞の診断・迅速判定法カットオフ値に関する検討．第20回心筋梗塞研究会，2000．7．
- 56) 舘岡克彦，福間長知，清水秀治，古明地弘和，大須賀勝，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己，小池淳樹¹⁾(¹⁾聖マリアンナ医科大学病理学)：肝組織学的にgranulomatous hepatitisを呈した原発性胆汁性肝硬変の1例．第260回日本消化器病学会関東支部例会，2000．7．
- 57) 木村祐子，福間長知，及川恵子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，佐野純子，草間芳樹，宗像一雄，岸田 浩，高野照夫：予後不良の指標である最大酸素摂取量低下と換気応答亢進が表す病態の差異．第6回日本心臓リハ

ピリテーション学会, 2000 . 9 .

- 58) 小林義典, 森田典成, 阿部純子, 相澤瑞穂, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 林 明総, 宮内靖史, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科): 純III群薬 Ibutilideの心房粗動に対する効果. 第8回不整脈薬物療法研究会, 2000 . 9 .
- 59) 高野仁司: 心筋虚血再灌流時の Ischemic Preconditioningの Delayed Effect (Late Preconditioning) とそのメカニズムに関する研究. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 60) 大内基司¹⁾, 猪狩吉雅¹⁾, 網代由美子¹⁾, 岡崎恭次¹⁾, 佐藤周三¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾, 岩崎雄樹, 高野照夫, 木村 剛²⁾, 清水宏之²⁾, 秋元成太²⁾(¹⁾老人科, ²⁾泌尿器科): 虚血性心疾患を合併した, 老年者インフルエンザA型感染症により生じた急性心筋炎の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 61) 林 明聡, 加藤貴雄, 小林義典, 阿部純子, 相澤瑞穂, 岩崎雄樹, 森田典成, 宮内靖史, 新 博次, 高野照夫: 植え込み型除細動器治療におけるアミオダロン併用のメリット. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 62) 清野精彦, 緒方憲一, 高野照夫, 石井潤一¹⁾, 菱田 仁¹⁾, 森田 大¹⁾, 竹下 仁¹⁾, 高木 靖¹⁾, 杉山 弘¹⁾, 田中孝生¹⁾, 北浦 泰¹⁾(¹⁾H-FABP迅速判定法共同研究(MET-HFABP)グループ): H-FABP全血迅速判定法による超急性期心筋梗塞の診断: Multicenter Emergency riage by H-FABP rapid panel test (MET-HFABP). 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 63) 掃部弘行¹⁾, 畑 典武¹⁾, 水野杏一¹⁾, 緒方憲一, 田中啓治, 清野精彦, 高野照夫(¹⁾千葉北総病院内科, 集中治療部): 急性心筋梗塞におけるH-FABP高値遷延症例の臨床像と予後に関する検討. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 64) 中込明裕, 青木 聡, 山本 剛, 藤田進彦, 高野照夫, 山根吉人¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 長澤紘一¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科): 冠攣縮性狭心症患者における薬物療法抵抗性の機序(特に炎症反応, 高インスリン血症, 冠予備能の関与). 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 65) 竹永清人, 高山守正, 吉川雅智, 加藤浩司, 藤田進彦, 佐藤直樹, 藤岡幹雄, 中込明裕, 安武正弘, 草間芳樹, 高野照夫: 経皮的中隔心筋焼灼術前後の血清BNP値減少は左室内圧較差減少を反映する. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 66) 吉川雅智, 高山守正, 竹永清人, 加藤浩司, 笠神康平, 中込明裕, 安武正弘, 本間 博, 草間芳樹, 高野照夫: 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔心筋焼灼術による左室構築ならびに心エコー図所見の水位. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 67) 笠神康平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 大野則彦¹⁾, 高山英男¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高山守正, 田中啓治¹⁾, 高野照夫(¹⁾集中治療室): 最近5年間の急性心筋炎の短期および長期予後について. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 68) 及川恵子, 福間長知, 木村祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 佐野純子, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 運動負荷時の catecholamine 反応性による chronotropic incompetenceの機序の分類. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 69) 中込明裕, 青木 聡, 草間芳樹, 高山守正, 高野照夫: 安定狭心症患者において末梢単球組織因子活性は上昇しており, C-Reactive Proteinが急性冠症候群進展に関与する. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 70) 大野忠明, 本間 博, 西垣龍太郎, 草間芳樹, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫, 松崎つや子¹⁾(¹⁾生理機能センター): 経静脈的コントラスト心エコー法による局所心筋内灌流の定量的評価の検討. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .
- 71) 木村祐子, 福間長知, 及川恵子, 土田貴也, 愛須紀子, 馬淵浩輔, 佐野純子, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 高野照夫: 心房細動患者における Exercise-induced vasodilationの除細動による改善. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .

- 72) 遠藤康実¹⁾, 新 博次¹⁾, 壬生倉徹志¹⁾, 田寺 長¹⁾, 宮本新次郎¹⁾, 川口直美¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 小林義典, 高野照夫 (¹⁾多摩永山病院内科): 新しいIII群抗不整脈薬 Sotalolの心房細動抑制効果. 第21回日本臨床薬理学会年会, 2000. 9.
- 73) 大野則彦, 斎藤寛和¹⁾, 加藤貴雄, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫, 長澤紘一²⁾, 早川弘一 (¹⁾第二病院内科, ²⁾多摩永山病院内科): 抗アレルギー剤エバスタチン投与前後におけるQT間隔の検討: 測定法の影響. 第21回日本臨床薬理学会年会, 2000. 9.
- 74) 高山英男, 淀川頭司, 黒木伸一, 加藤貴雄: QRS高周波成分の一過性変化と心室性不整脈の関連性: 任意加算平均法とウェーブレット変換法による解析. 第16回心電図信号情報処理ワークショップ, 2000. 10.
- 75) 阿部純子, 小林義典, 相澤瑞穂, 平澤泰宏, 森田典成, 岩崎雄樹, 林 明総, 宮内靖史, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 早川弘一, 高野照夫: 特発性拡張型心筋症における左脚ブロック型持続性心室頻拍出現の背景: 右室構造的および機能的障害の検討. 第17回日本心電学会学術集会, 2000. 10.
- 76) 山科育子, 加藤貴雄, 及川恵子, 福間長知, 小林義典, 高野照夫: トレッドミル運動負荷試験中の不整脈誘発と虚血性変化の関連性. 第17回日本心電学会学術集会, 2000. 10.
- 77) Sutovsky I, 加藤貴雄, Wu XY, 清野精彦, 高野照夫, 早川弘一: 血中ANP, BNP濃度と心室期外収縮数および重症度の関係. 第17回日本心電学会学術集会, 2000. 10.
- 78) 龜山幹彦¹⁾, 平山悦之, 品田卓郎²⁾, 丸山光紀³⁾, 清水秀一, 緒方憲一³⁾, 小林義典, 斎藤寛和⁴⁾, 新 博次³⁾, 高野照夫 (¹⁾ 稲田登戸病院内科, ²⁾ 千葉北総病院集中治療部, ³⁾ 多摩永山病院内科, ⁴⁾ 第二病院内科): 交感神経が Alternans 発生に及ぼす影響: イヌ生体位心における検討. 第17回日本心電学会学術集会, 2000. 10.
- 79) 長戸孝道, 加藤良人, 磯田麻里, 張 雪君, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: B-RTOを施行した慢性肝性脳症の8例. 第4回日本肝臓学会大会, 2000. 10.
- 80) 及川恵子, 福間長知, 木村祐子, 愛須紀子, 土田貴也, 馬淵浩輔, 佐野純子, 宗像一雄, 高野照夫: 糖尿病患者における末梢交感神経機能障害と運動負荷時下肢易疲労性. 第37回日本臨床生理学会総会, 2000. 11.
- 81) 高山英男¹⁾, 田中啓治¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 笠神康平¹⁾, 大野則彦¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 石井康介¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野照夫 (¹⁾ 集中治療室): 過去20年間に集中治療室に収容された慢性心不全増悪患者死亡112例の検討. 第37回日本臨床生理学会総会, 2000. 11.
- 82) 張 雪君, 秋元敏雄¹⁾, 大須賀勝, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 (¹⁾ 実験動物管理室): 二次性胆汁性肝硬変ラット (CBDL) の動脈血酸素化に及ぼす一酸化窒素 (NO) の影響. 第37回日本臨床生理学会総会, 2000. 11.
- 83) 岩崎雄樹, 小林義典, 谷口宏史, 山科育子, 阿部純子, 相澤瑞穂, 森田典成, 林 明総, 松本 真, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫: 房室結節速伝導路の複数心房入力存在が示唆された1例. 第12回カテーテル・アブレーション委員会公開研究会, 2000. 11.
- 84) 及川恵子, 福間長知, 小林義典, 草間芳樹, 清野精彦, 高野照夫: 腎尿管障害に伴うマグネシウム欠乏が冠攣縮性狭心症の誘因となった2例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第178回学術集会, 2000. 12.
- 85) 小林 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 高山英男¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 山本 剛¹⁾, 笠神康平¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 高野照夫 (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科): 重症虚血性心不全に対するドブタミン反応性をモバイルガンマカメラにより評価した1症例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第178回学術集会, 2000. 12.
- 86) 村上大介, 中込明裕, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 1年8ヶ月の間に急性発症を繰り返したHGV-RNA陽性原発性胆汁性肝硬変の1例. 第262回日本消化器病学会関東支部例会, 2000. 12.
- 87) 村上大介, 中込明裕, 福島正人, 青木 聡, 藤岡幹雄, 小林義典, 清野精彦, 高野照夫, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科): 意識障害にて発症し, 汎下垂体機能低下症を認めたリンパ球性下垂体炎と考えられた1例. 第487回日本内科学会関東地方会, 2000. 12.

- 88) 時田祐吉, 大村和子, 金澤宏美, 塚田弥生, 古明地弘和, 小林義典, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫: センナ系下剤の大量長期服用が原因と考えられたばち指の1例. 第488回日本内科学会関東地方会, 2001. 2.
- 89) 松本 真, 平山悦之, 岩崎雄樹, 小林義典, 清野精彦, 加藤貴雄, 高野照夫, 斎藤寛和¹⁾, 大野則彦¹⁾, 大坂元久¹⁾, 緒方憲一²⁾, 新 博次²⁾(¹⁾第二病院内科, ²⁾多摩永山病院内科): T波 alternans (TWA) のサルコイドーシス患者における心筋障害, 持続性心室頻拍診断の有用性. 第11回体表心臓微小電位研究会, 2001. 2.
- 90) 高山英男, 淀川顕司, 小原俊彦, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一¹⁾(¹⁾久我山病院): ウェーブレット変換法による肥大型大型心筋症の心室頻拍の解析. 第11回体表心臓微小電位研究会, 2001. 2.
- 91) 清宮康嗣¹⁾, 水野杏一¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 富村正登¹⁾, 上村竜太¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 井野 威¹⁾, 田中啓治²⁾, 高山守正, 高野照夫 (¹⁾千葉北総病院循環器センター, ²⁾付属病院集中治療室): 急性冠症候群におけるブランク破裂部位および形態の検討. 第11回体表心臓微小電位研究会, 2001. 2.
- 92) 中込明裕, 青木 聡, 山根吉人, 加藤浩司, 藤田進彦, 藤岡幹雄, 草間芳樹, 高山守正, 坏 宏一¹⁾, 笠神康平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 安定狭心症患者においてC-Reactive Proteinが急性冠症候群進展に関与する. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 93) 藤田宏子¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 四維東州¹⁾, 鈴木かやの¹⁾, 二神生爾¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野照夫, 小川 龍²⁾, 田中啓治¹⁾(¹⁾集中治療室, ²⁾麻酔科): 多臓器不全をともなった血球貧食症候群を集中治療により救命し得た1症例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 94) 山本 剛¹⁾, 笠神康平¹⁾, 高山英男¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 亀山幹彦¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高山守正, 高野照夫, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾集中治療室, ²⁾放射線科): 血栓の色調からみた急性肺血栓塞栓症の臨床的特徴. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 95) 佐藤 越¹⁾, 徳山権一¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 山科育子¹⁾, 洪 基哲¹⁾, 岡松健太郎, 亀山幹彦, 三浦洋司, 高野照夫 (¹⁾稲田登戸病院循環器科): 心臓カテーテル検査合併症の大腿部動静脈瘻に対し用手圧迫が有用であった1例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 96) 坏 宏一¹⁾, 子島 潤²⁾, 木内 要, 高山守正, 亀山幹彦¹⁾, 高山英男¹⁾, 笠神康平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室, ²⁾戸田市健康管理センター): B型大動脈解離慢性期管理: いつ, どのような症例に手術をするか?. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 97) 笠神康平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 高山英男¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 亀山幹彦¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 池崎弘之¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高山守正, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 当院CCUにおける最近10年間の急性心筋炎の短期および長期予後について. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 98) 高山英男¹⁾, 田中啓治¹⁾, 大野則彦¹⁾, 山本 剛¹⁾, 笠神康平¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 加藤貴雄, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 緊急治療の必要な頻脈性上室性不整脈に対するNifekalantの使用経験. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 99) 森田典成, 小林義典, 相澤瑞穂, 阿部純子, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 林 明総, 宮内靖史, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 大野則彦¹⁾, 高山英男¹⁾, 田中啓治¹⁾(¹⁾集中治療室): 長時間持続した上室性頻拍症による心不全に対し緊急カテーテルアブレーションが奏効した1例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 100) 谷口宏史, 小林義典, 林 明聡, 相澤瑞穂, 阿部純子, 森田典成, 岩崎雄樹, 大村和子, 平山悦之, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科): 抗頻拍ペーシングにより頻拍化する心室頻拍例の臨床的検討. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 101) 山科育子¹⁾, 徳山権一¹⁾, 高橋保裕¹⁾, 佐藤 越¹⁾, 洪 基哲¹⁾, 亀山幹彦, 岡松健太郎, 三浦洋司, 高野照夫 (¹⁾稲田登戸病院循環器科): 広範肺出血を合併した若年発症の特発性再発型肺血栓塞栓症の1例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 102) 張 雪君, 本間 博, 加藤良人, 長戸孝道, 清水秀治, 古明地弘和, 大須賀勝, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢

- 己：肝肺症候群における低酸素血症と接触時間．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 103) Otsuka T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Suzuki T¹⁾, Mibukura T¹⁾, Yoshida H¹⁾, Ishii K¹⁾, Yamane Y¹⁾, Asai K¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Nagasawa K¹⁾, Takano T (¹Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital): Inhibition of Rho-kinase induces potent coronary dilatation in patients with vasospastic angina . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 104) Taniguchi H , Kobayashi Y , Hayashi M , Yamashina I , Aizawa M , Abe J , Iwasaki Y , Morita N , Miyauchi Y , Ohmura K , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Clinical and electrophysiological background of rate acceleration of induced ventricular tachycardia during anti-tachycardia pacing . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 105) Kasagami Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Takayama H¹⁾, Akutsu K¹⁾, Kameyama M¹⁾, Satoh N¹⁾, Yasutake M¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takayama M , Takano T (¹Coronary Care Unit): Long-term outcome of acute viral myocarditis : comparison between fulminant and nonfulminant cases . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 106) Ogata K¹⁾, Saitoh H¹⁾, Ohno N¹⁾, Munakata K¹⁾, Kameyama M , Shimizu S , Matsumoto S , Yashima M , Hirayama Y , Takano T , Maruyama M²⁾, Atarashi H²⁾(¹Department of Internal Medicine, Dai-ni Hospital , ²Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital): Role of intracellular calcium cycling by sarcoplasmic reticulum (SR) in constant high heart rate in micro-volt T-Wave alternans . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 107) Yamashina I , Takayama M , Tokuyama K , Takano T , Kameyama M¹⁾, Akutsu K¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Takayama H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Satoh N¹⁾, Yasutake M¹⁾, Tanaka K¹⁾, Kasagami Y³⁾, Tajima H³⁾(¹Coronary Care Unit , ²Division of CCU and ICU): Acute stage strategy of treating acute pulmonary thromboembolism : effect of temporary inferior vena caval filter, thrombolysis and transcatheter thrombectomy . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 108) Iwasaki Y , Miyauchi Y , Osaka M , Aizawa M , Abe J , Morita N , Hayashi M , Ohmura K , Hirayama Y , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T , Saitoh H¹⁾(¹Department of Internal Medicine, 2nd Hospital): Spectral analysis of RR interval variability during paroxysmal spraventricular tachycardia . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 109) Shiiba K , Takayama M , Yoshikawa M , Takenaga K , Katoh K , Takagi H , Fujita N , Ohno T , Nakagomi A , Honma H , Kusama Y , Takano T , Yasutake M¹⁾(¹Coronary and Intensive Care Unit): Electrocardiographic change of septal myocardial ethanol ablation in patients with hypertrophic obstructive cardiomyopathy . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 110) Ohmura K , Kobayashi Y , Taniguchi H , Aizawa M , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Hayashi M , Miyauchi Y , Hirayama Y , Katoh T , Takano T : Electrophysiological characteristics of atrial fibrillation organized into atrial flutter by oral administration of class I antiarrhythmic agents . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 111) Otsuka T¹⁾, Ibuki C¹⁾, Suzuki T¹⁾, Mibukura T¹⁾, Yoshida H¹⁾, Ishii K¹⁾, Yamane Y¹⁾, Asai K¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Nagasawa K¹⁾, Takano T (¹Department of Internal Medicine, Tama-Nagayama Hospital): Abnormal response to low dose acetylcholine is associated with predominance of calcium-independent vascular contraction . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 112) Kimura Y , Fukuma N , Oikawa K , Miura K , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Munakata K , Takano T , Kumita S¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹Department of Radiology): Accelerated ventilatory response to VCO₂ during exercise reflecting activation of sympathetic nerve distribution to the motor muscle . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .

tific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .

- 113) Hayashi M , Kobayashi Y , Taniguchi H , Yamashina I , Abe J , Aizawa M , Iwasaki Y , Morita N , Ohmura K , Miyauchi Y , Hirayama Y , Katoh T , Atarashi H , Takano T : Long-term variability in induced ventricular tachyarrhythmias. Incidence, background, and clinical significances in relation to the spontaneous occurrence of arrhythmias . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 114) Aizawa M , Kobayashi Y , Hirasawa Y , Abe J , Morita N , Iwasaki Y , Hayashi M , Yashima M , Hirayama Y , Katoh T , Takano T , Yasutake M¹⁾ , Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Coronary Care Unit) : Emergent catheter ablation for various tachyarrhythmias. -Indications, results and patients' prognosis . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 115) Sano J¹⁾ , Mizuno K¹⁾ , Inami S¹⁾ , Okamatsu K¹⁾ , Sakai S¹⁾ , Takano T (¹⁾ Department of Medicine, Chiba-Hokuso Hospital) : Effects of green tea intake on the prevention of coronary artery disease . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .

(6) Featured Research Session :

- 1) Takayama H¹⁾ , Tanaka K¹⁾ , Katoh T , Takano T , Hayakawa H (¹⁾ Coroary Care Unit) : Usefulness of nifekalant, a new lkr blocker, for refractory, life-threatening arrhythmias . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 2) Nakagomi A , Yamane Y , Fujita N , Fujioka M , Kusama Y , Takayama M , Kishida H , Takano T : Up-regulated monocyte tissue factor induction by C-Reactive Protein contributes to the exacerbation into acute coronary syndrome from stable angina pectoris . The 65th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .

(7) ミニレクチャー :

- 1) 福岡長知 : 心拍応答と交感神経 (運動心臓病学) . 第6回日本心臓リハビリテーション学会 , 2000 . 9 .

[付属病院老人科]

研究概要

老年者の糖尿病, 動脈硬化および脂質代謝異常などに関する臨床的研究を行った .

糖尿病に関しては, 1) グリベンクラミドの至適投与法を血糖日内変動の面より検討した . 2) スルホニル尿素薬の併用薬としての - グルコシダ - ゼ阻害薬の有用性を明らかにした . 3) 経口血糖降下薬療法時の血糖コントロール - ル指標としての各時間血糖値の臨床的意義を明らかにした . 4) 早期腎症の指標としての尿中 NAG 指数の問題点を明らかにした . 5) 尿中 NAG 指数が, 大血管病変進展の指標となることを経年観察成績から明らかにした . 6) 老年2型糖尿病患者の食後血糖値に及ぼす加齢の影響を明らかにした . 7) 厚生省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究」の患者登録を開始した . 7) 老年女性糖尿病患者の無症候性尿路感染症の実態とその背景因子を明らかにした . 8) 老年糖尿病患者の食事療法上の問題点を検討した .

動脈硬化に関しては, 1) 末梢血 NOx 値の測定意義を動脈内皮機能と総頸動内膜中膜複合体厚との関連から検討した . 2) 総頸動脈血流速度の左右差が心血管病変進展の予測因子になることを明らかにした .

脂質代謝に関しては, 1) 低分子量 Lp (a) の糖尿病性網膜症の危険因子としての重要性を明らかにした . 2) 糖尿病性腎症と血清 Lp (a) との関係性を Lp (a) のフェノタイプ別に比較検討した . 3) The Pravastatin Antiatherosclerosis in the Elderly (PATE) 研究において, 高齢者の高コレステロール血症治療の重要性を証明した .

その他に, 1) 在宅老人の心理的評価とそれに影響する諸因子の検討を行った . 2) 痴呆専門病院における痴呆患者の行動と心理面の症状について検討した . 3) 老年者造血管器疾患研究会の班員として高齢者多発性骨髄腫の骨病変の臨床的検討を行った .

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Oba K, Nishihara A, Okamura K, Ajiro Y, Yamaguchi Y, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Two cases of acute myositis associated with influenza A virus infection in the elderly . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2): 126-129 .
- 2) Oba K, Igari Y, Matsumura N, Watanabe K, Inuzuka Y, Ajiro Y, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Effect of control of blood glucose on urinary excretion of N-acetyl-beta-D-glucosaminidase in elderly type 2 diabetes mellitus . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2): 143-145 .
- 3) Oba K, Igari Y, Takai E, Soya S, Matsumura N, Watanabe K, Ajiro Y, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Age-related changes in postprandial plasma glucose in type 2 diabetes . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 284-286 .
- 4) Oba K, Kudo R, Yano M, Watanabe K, Ajiro Y, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Ileus after administration of cold remedy in an elderly diabetic patient treated with acarbose . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 61-64 .
- 5) 岡村弘次郎, 猪狩吉雅, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 山田宣孝¹⁾(¹⁾病理第2): 胸膜病変を合併した高齢者原発性マクログロブリン血症の1例 . 老年者造血管器疾患研究会会誌 2000 ; 9 (1): 46-48 .
- 6) 山下直子, 山口 寛, 岡崎恭次, 工藤律子, 犬塚有紀, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : デキサメサゾン投与によりうつ状態の著明な増悪をみた高齢者多発性骨髄腫の1例 . 老年者造血管器疾患研究会会誌 2000 ; 9 (2): 20-23 .

(2) 研究報告書：

- 1) 大庭建三 : 末梢血NOx値測定の臨床的意義：動脈内皮機能と総頸動脈内膜中膜複合体厚（IMT）との関連からの検討 . 長寿科学総合研究平成12年度研究報告：高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究 2001 ; pp93-97 .

(3) 総説：

- 1) 大庭建三 : 高齢者診療の注意点：生活習慣病の治療を中心に . 横須賀市医師会報 2000 ; 232 : 31-34 .
- 2) 妻鳥昌平 : かかりつけ医として的高齢者糖尿病への対応 . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 302 .
- 3) 大庭建三 : 高齢者糖尿病の病態と治療：診断と経口血糖降下薬療法の実際 . 東京都医師会雑誌 2000 ; 53 (9): 966-972 .
- 4) 妻鳥昌平 : 老年医学の軌跡よりみた新世紀高齢者医療 . 日老医誌 2001 ; 38 (1): 73 .
- 5) 鈴木達也, 大庭建三 : 高Lp (a) 血症 . 日本臨床 2001 ; 59 (臨時増刊号): 102-106 .

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 大庭建三 : 高齢者糖尿病の病態と治療：診断と経口血糖降下薬療法の実際 . 日本医師会生涯教育講座, 2000 . 5 .
- 2) 大庭建三 : 老年者糖尿病の経口血糖降下薬療法 . 第42回日本老年医学学会学術集会, 2000 . 6 .
- 3) 鈴木達也 : 血清Lp (a) の臨床的意義 . 第4回高齢者糖尿病研究会, 2001 . 2 .

(2) シンポジウム：

- 1) Nakano H, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Oba K, Metori S : Asymmetry of common carotid artery velocity is a marker for cardiovascular disease . 12th International symposium on atherosclerosis (Stockholm), 2000 . 6 .

- 2) Suzuki T, Okazaki K, Sato S, Nakano H, Oba K, Metori S : Apolipoprotein (a) phenotype and retinopathy in diabetic patients . 12th International symposium on atherosclerosis (Stockholm), 2000 . 6 .
- 3) Oba K, Okazaki K, Sato S, Suzuki T, Nakano H, Metori S : Urinary excretion of N-acetyl-beta-D-glucosaminidase is related to diabetic macroangiopathy in elderly type 2 diabetes mellitus . 12th International symposium on atherosclerosis (Stockholm), 2000 . 6 .

(3) 一般講演 :

- 1) Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Oba K : Asymmetry of common carotid artery velocity is a marker for cardiovascular disease in type 2 diabetic patients . 17th International Diabetes Federation congress (Mexico City), 2000 . 11 .
- 2) Suzuki T, Okazaki K, Nakano H, Oba K : Apolipoprotein (a) phenotype and retinopathy in diabetic patients . 17th International Diabetes Federation congress (Mexico City), 2000 . 11 .
- 3) Oba K, Okazaki K, Suzuki T, Nakano H : Age-related changes in postprandial plasma glucose in type 2 diabetes . 17th International Diabetes Federation congress (Mexico City), 2000 . 11 .
- 4) 中野博司, 渡邊健太郎, 山口 祐, 岡崎恭次, 佐藤周三, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 心血管病変の指標としての総頸動脈血流速左右比の臨床的有用性 : 経年観察による検討 . 第97回日本内科学会講演会, 2000 . 4 .
- 5) 鈴木達也, 網代由美子, 松村典昭, 木川好章, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 糖尿病性網膜症に及ぼす血清 Lp (a) の影響について : フェノタイプ別の検討 . 第97回日本内科学会講演会, 2000 . 4 .
- 6) 大庭建三, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 鯉淵 仁, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年糖尿病患者の α -グルコシダーゼ阻害薬併用療法の有用性 : 血糖コントロールの安全性の面より . 第97回日本内科学会講演会, 2000 . 4 .
- 7) 山下直子, 山本浩之, 伊藤 民, 岡村弘次郎, 高井恵美子, 矢野 誠, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 急速な経過で四肢麻痺に進展した脳底動脈閉塞症の1例 . 日本医科大学医学会第101回例会, 2000 . 5 .
- 8) 鈴木達也, 永井信也, 網代由美子, 松村典昭, 斎藤好史, 山下直子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 糖尿病性腎症に及ぼす血清 Lp (a) の影響について : フェノタイプ別の検討 . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会, 2000 . 5 .
- 9) 中野博司, 鈴木達也, 岡崎恭次, 犬塚有紀, 矢野 誠, 猪狩吉雅, 鯉淵 仁, 高井恵美子, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 糖尿病患者における総頸動脈血流速左右比の臨床的有用性 . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会, 2000 . 5 .
- 10) 岡崎恭次, 大庭建三, 高井恵美子, 鯉淵 仁, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年糖尿病患者のグリベンクラミドの至適投与法に関する検討 : 血糖日内変動からの比較 . 第43回日本糖尿病学会年次学術集会, 2000 . 5 .
- 11) 永井信也, 板垣真一, 渡邊威之, 安室尚樹, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 在宅老人の心理的評価とそれに影響する因子の検討 . 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 12) 中野博司, 高井恵美子, 鯉淵 仁, 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 矢野 誠, 岡崎恭次, 鈴木達也, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 老年者における総頸動脈血流速左右比の臨床的有用性 . 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 13) 高井恵美子, 大庭建三, 伊藤 民, 板垣真一, 岡崎恭次, 網代由美子, 佐藤周三, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : グリベンクラミド療法中の老年糖尿病患者における朝食前血糖値測定の意義 . 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 14) 鈴木達也, 永井信也, 網代由美子, 松村典昭, 斎藤好史, 山下直子, 木川好章, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 老年者糖尿病腎症に及ぼす血清 Lp (a) の影響について : フェノタイプ別の検討 . 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 15) 猪狩吉雅, 大庭建三, 鯉淵 仁, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 網代由美子, 鈴木達也, 平井眞明, 中野博司, 妻鳥昌平 : 糖尿病患者の食後血糖値と年齢との関係 : 食事療法例の血糖日内変動からの検討 . 第42回日本老年医学会

学術集会, 2000 . 6 .

- 16) 佐藤周三, 大庭建三, 岡村弘次郎, 増谷祐人, 水野重芳, 山口 寛, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 中野博司, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病の尿中N-acetyl-beta-D-glucosaminidase (NAG) 指数と大血管障害. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 17) 山下直子, 山口 寛, 岡崎恭次, 工藤律子, 犬塚有紀, 猪狩吉雅, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: デキサメサゾン投与によりうつ状態の著明な増悪をみた高齢者多発性骨髄腫の1例. 第24回老年者造血器研究会, 2000 . 6 .
- 18) 伊藤 民, 佐藤周三, 中谷千瑞子, 岡本弘次郎, 山口 寛, 網代由美子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 佐野和史¹⁾, 百束比古¹⁾, 山田宣孝²⁾(¹⁾美容形成外科, ²⁾病理第2): 多発性骨転移を認めた胃原発性低分化型腺癌. 第32回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2000 . 9 .
- 19) 村松典昭, 増谷祐人, 岡崎俊哉¹⁾, 岡崎恭次, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平(¹⁾岡崎病院外科): 高度の頭蓋内動脈粥状硬化を認めたインスリン抵抗性症候群の1例. 第32回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2000 . 9 .
- 20) 斎藤好史, 岡村弘次郎, 高井恵美子, 水野重芳, 松村典昭, 犬塚有紀, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年女性糖尿病患者の無症候性尿路感染症. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 21) 工藤律子, 山下直子, 矢野 誠, 渡邊健太郎, 岡崎恭次, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: アカルボース投与中にイレウスを合併した高齢者2型糖尿病の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 22) 中谷千瑞子, 佐藤周三, 山下直子, 伊藤 民, 山口 寛, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 鈴木康友¹⁾, 大澤秀一¹⁾, 秋元成太¹⁾(¹⁾泌尿器科): 非外傷性腎被膜下血腫の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 23) 大内基司, 猪狩吉雅, 網代由美子, 岡崎恭次, 佐藤周三, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 岩崎雄樹¹⁾, 高野照夫¹⁾, 木村 剛²⁾, 清水宏之²⁾, 秋元成太²⁾(¹⁾内科第1, ²⁾泌尿器科): 虚血性心疾患を合併したインフルエンザA型感染症により生じた急性心筋炎の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 24) 梅田正法¹⁾, 足立山夫²⁾, 高崎 優³⁾, 森真由美⁴⁾, 村井善郎⁵⁾, 武藤良知⁶⁾, 川戸正文⁷⁾, 中村典子⁸⁾, 妻鳥昌平(¹⁾東邦大一内, ²⁾墨東病院内科, ³⁾東京医大老年科, ⁴⁾都老人医療センタ - 血液科, ⁵⁾都多摩老人医療センタ - 血液内科, ⁶⁾虎ノ門病院血液内科, ⁷⁾東京医療センタ - 血液内科, ⁸⁾立川相互病院血液内科): 高齢者多発性骨髄腫における骨病変の臨床的検討. 第42回日本臨床血液学会総会, 2000 . 11 .
- 25) 工藤律子, 岡崎恭次, 中野博司, 渡邊健太郎, 中谷千瑞子, 大内基司, 網代由美子, 鈴木達也, 大庭建三, 妻鳥昌平: 末梢血NOxと動脈内皮機能検査の臨床的有用性について. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 26) 工藤律子: 末梢血NOx測定の意味. 第4回高齢者糖尿病研究会, 2001 . 2 .
- 27) 中谷千瑞子: 自己抗体が陰性であった高齢発症1型糖尿病の1例. 第4回高齢者糖尿病研究会, 2001 . 2 .
- 28) 増谷祐人: 高度の頭蓋内動脈硬化を認めたインスリン抵抗性症候群の1例. 第4回高齢者糖尿病研究会, 2001 . 2 .
- 29) 斎藤好史: Pulse wave velocityの臨床的有用性; 断面調査と経年観察の両面からの検討. 第4回高齢者糖尿病研究会, 2001 . 2 .
- 30) 木川好章, 木川暁子¹⁾, 竹澤健司¹⁾, 鈴木英朗¹⁾, 鈴木達也(¹⁾精神医学): 痴呆における行動障害の治療: 抗精神薬(Levomepromazine)を用いた2症例. 第33回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001 . 3 .
- 31) 中谷千瑞子, 佐藤周三, 岡村弘次郎, 山下直子, 山口 寛, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 自己抗体が陰性であった高齢発症1型糖尿病の1例. 第33回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001 . 3 .
- 32) 小倉久代¹⁾, 萬里小路直樹¹⁾, 網代由美子, 岡崎恭次, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平(¹⁾昭和女子大学): 老年糖尿病患者の栄養指導の問題点: 食事摂取量のばらつきの面からの検討. 第33回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001 . 3 .

[第二病院内科]

研究概要

虚血性心疾患に対する診療の中で遭遇した比較的稀な症例について報告した。また不整脈領域については、T wave alternans についての今までの研究の成果を発表または論文とした。アルツハイマー病および脳循環についての研究または報告をした。透析など血液浄化療法と不整脈との関連についての研究が続けられている。呼吸器、腎関連疾患や消化器疾患においても稀な症例についての報告が行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Saitoh H, Ogata K, Nomura A¹⁾, Hirayama Y¹⁾, Atarashi H²⁾, Munakata K, Kishida H¹⁾(¹⁾ First Dept. of Intern. Med. ,²⁾ Dept. of Intern. Med. Tama-Nagayama Hosp): Mechanism of constant u-volt level T-wave alternans-role of intracellular calcium cycling regulated by sarcoplasmic reticulum- 心電図 2000 ; 20 : 73-75 .
- 2) 網谷賢一, 山口朋貞, 高橋直人, 内田高浩, 榎方美文, 宗像一雄, 増田 栄¹⁾, 織井恒安¹⁾, 家所良夫¹⁾, 日置正文¹⁾, 山本 彰 (¹⁾ 第二病院外科, ²⁾ 同放射線科): 心筋ブリッジ心筋虚血に関与した2症例. J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3): 206-209 .
- 3) 北村 伸: Creutzfeldt-Jakob 病の脳血流量の経時的変化. 神経内科 2000 ; 496-497 .
- 4) 山口 朋貞, 鮎澤理人, 高橋直人, 網谷賢一, 榎方美文, 宗像一雄, 織井恒安¹⁾(¹⁾ 第二病院外科): 心房内残存カテーテルのカテーテルによる抜去に成功した1例. 川崎市医師会医学会誌 第17回 別冊 2000 ; 102-105 .

(2) 総説：

- 1) Saitoh H : BIORHYTHMS IN ISCHEMIC HEART DISEASE, CARDIAC SUDDEN DEATH, AND ARRHYTHMIA . Reprinted from the Asian Medical Journal 2000 ; 43 (5): 199-206 .
- 2) 齋藤寛和: 発作性心房細動の薬物治療. Therapeutic Research 2000 ; 21 (3): 508-515 .
- 3) 齋藤寛和: T wave alternans . 臨床検査 2000 ; 44 (6): 602-607 .
- 4) 北村 伸: アルツハイマー型痴呆に関する最近の知見の進歩. 画像診断について Geriatric Medicine 2000 ; 38 (8): 1135-1140 .
- 5) 齋藤寛和: T波オルタナンスの現状と展望. 循環器情報処理 2000 ; 15 : 97-105 .
- 6) 齋藤寛和: 循環系とアデノシン・ATP受容体. LiSA 2000 ; 7 (12): 1178-1181 .
- 7) 齋藤寛和: T波オルタナンス. 別冊・医学のあゆみ 循環器疾患 - sate of arts Ver. 2 2001 ; 234-236 .

著書

- 1) 齋藤寛和: [分担] 電解質異常と不整脈. 不整脈を読み解く, 2000 ; pp134-140, 文光堂 .
- 2) 北村 伸, 赫 彰朗¹⁾(¹⁾ 日本医科大学常務理事): [分担] ピンスワンガー型痴呆. 看護のための最新医学講座 第13巻痴呆, 2000 ; pp1135-1140, 中山書店 .
- 3) 齋藤寛和: [分担] T-wave Alternans . 不整脈 (笠貫 宏), 2000 ; pp124-129, メジカルビュー社 .

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 齋藤寛和: 心臓性急死の予知を巡って: QT dispersionとT wave alternans . 第64回日本循環器学会総会・学術集会 サテライトセミナー, 2000 . 4 .

(2) 一般講演:

- 1) 沼野香世子¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 北村 伸, 川名誠司²⁾, 松本光司³⁾, 内藤善哉³⁾, 浅野伍朗³⁾(¹⁾第二病院皮膚科, ²⁾同皮膚科, ³⁾同病理部): Ross syndromeの1例. 第99回 日本皮膚科学会総会, 2000. 5.
- 2) 村澤恒男, 斎藤寛和, 網谷賢一, 山口朋貞, 酒井行直, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴うQT dispersionの変動について. 第43回日本腎臓学会学術総会, 2000. 5.
- 3) 宜保陽介, 寺田秀人, 伊佐治剛, 保倉利江, 網谷賢一, 山口朋貞, 高橋直人, 酒井行直, 西垣朝裕, 鯨澤理人, 内田高浩, 山室 学, 榎方美文, 斎藤寛和, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄, 畑三恵子¹⁾, 沼野香世子¹⁾(¹⁾第二病院皮膚科): 成人病 Still病の1例. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 4) 北村 伸, 石渡明子¹⁾, 駒場祐一¹⁾, 酒寄 修¹⁾, 片山泰郎¹⁾(¹⁾付属病院神経内科): Benzodiazepine 受容体イメージとAlzheimer病患者の予後についての検討. 第41回日本神経学会総会, 2000. 5.
- 5) 高橋直人, 網谷賢一, 山口朋貞, 内田高浩, 榎方美文, 斎藤寛和, 宗像一雄: ジギトキシン中毒によると思われる血小板減少症の1例. 第176回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 6.
- 6) 村澤恒男, 斎藤寛和, 伊佐治剛, 宜保陽介, 保倉利江, 網谷賢一, 山口朋貞, 酒井行直, 西垣朝裕, 宗像一雄: 維持透析患者の血液透析に伴うQT dispersionの変動と血液データについて. 第45回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2000. 6.
- 7) 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 川村 純¹⁾, 家所良夫¹⁾, 日置正文¹⁾, 飯野靖彦²⁾(¹⁾第二病院外科, ²⁾付属病院第二内科): 遅発性の促進型拒絶反応が疑われたABO血液型不一致腎移植の1例. 第45回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2000. 6.
- 8) 網谷賢一, 山口朋貞, 酒井行直, 西垣朝裕, 村澤恒男, 宗像一雄, 門松 豊¹⁾, 稲葉敦彦²⁾(¹⁾第二病院血液浄化療法室): 維持透析患者の血液透析前後における体内水分量の変動と血液データとの関連性の検討. 第45回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2000. 6.
- 9) 稲葉敦彦¹⁾, 門松 豊¹⁾, 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄(¹⁾第二病院血液浄化療法室): HDおよびHDFにおける好中球接着分子への影響. 第45回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2000. 6.
- 10) 門松 豊¹⁾, 稲葉敦彦¹⁾, 酒井行直, 村澤恒男, 小川富雄²⁾, 宗像一雄(¹⁾第二病院血液浄化療法室, ²⁾小川クリニック): ビタミンE固定化ダイアライザー(CL-EE)の赤血球に及ぼす影響について. 第45回(社)日本透析医学会学術集会・総会, 2000. 6.
- 11) 菊池真理¹⁾, 佐藤雅史¹⁾, 梶原景子¹⁾, 菊竹晴子¹⁾, 南部春江¹⁾, 林 敏彦¹⁾, 山本博人¹⁾, 小俣 香¹⁾, 高橋政之¹⁾, 山本 彰¹⁾, 山口朋貞(¹⁾第二病院放射線科): 多発性結節影を呈したMPO-ANCA関連肺疾患の2例. 第23回胸部放射線研究会東京部会, 2000. 6.
- 12) 保倉利江, 酒井行直, 榎方美文, 寺田秀人, 斎藤寛和, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: 著明な肺出血を伴ったANCA関連性糸球体腎炎の1例. 第65回神奈川県内科医学会集談会, 2000. 10.
- 13) 内田高浩, 網谷賢一, 山口朋貞, 高橋直人, 榎方美文, 斎藤寛和, 宗像一雄, 勝部康弘¹⁾, 関 隆志¹⁾(¹⁾第二病院小児科): 大動脈弁置換術1年後に急性心筋梗塞を若年発症した1例. 第177回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 10.
- 14) 山口 朋貞, 高橋直人, 内田高浩, 鯨澤理人, 斎藤寛和, 北村 伸, 宗像一雄, 佐藤雅史¹⁾(¹⁾第二病院放射線科): 最近当院で経験した肺感染症の数例. 日本医科大学第102回例会, 2000. 12.
- 15) 鯨澤理人, 山口朋貞, 網谷賢一, 中村俊彦, 伊佐治剛, 宜保陽介, 宗像一雄: 熱い液体で剥離性食道炎を来した糖尿病患者の1例. 第18回川崎市医師会医学会, 2001. 2.
- 16) 保倉利江, 山口朋貞, 酒井行直, 寺田秀人, 斎藤寛和, 村澤恒男, 北村 伸, 宗像一雄: 肺病変を契機として診断されたANCA関連性糸球体腎炎の2例. 第66回神奈川県内科医学会集談会, 2001. 2.

[多摩永山病院内科 (一般内科 , 循環器内科)]

研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが、多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている。臨床研究が主体となるが、実験的研究にも積極的に従事している。

- 1) 虚血性心疾患に関する経皮的カテーテル治療に関連したインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究。
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断・治療に関する研究。
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究。
- 4) 心不全における 受容体, レニン・アンジオテンシン系の役割に関する研究。

上記の循環器領域における虚血, 不整脈, 心不全といった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている。また, 当院薬剤部との協力により慢性肺疾患, 心疾患患者のQOL改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる。

研究業績

論 文

(1) 原著:

- 1) Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Ino T, Atarashi H (¹⁾ First Department of Internal Medicin): Identification of slow conduction zone in idiopathic left ventricular tachycardia . PACE 2000 ; 23 (Pt, 1) : 481-487 .
- 2) Vatner DE¹⁾, Yang GP¹⁾, Geng YJ¹⁾, Asai K, Yun JS¹⁾, Wagner TE¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Bishop SP¹⁾, HOMCY CJ¹⁾, Vatner SF (¹⁾ the Cardiovascular Reserch Institute University of Medicine and Dentistry of NewJersey, NewJerseyMedical School): Determinants of the Cardiomyopathic Phenotype in Chimeric Mice Overexpressing Cardiac Gs . Circ Res 2000 ; 86 : 802-806 .
- 3) Asai K, Kudej RK¹⁾, Shen YT¹⁾, Yang GP¹⁾, Takagi G, Kudej AB¹⁾, Geng YJ¹⁾, Sato N, Nazareno JB¹⁾, Vatner DE¹⁾, Natividad F¹⁾, Bishop SP¹⁾, Vatner SF¹⁾ (¹⁾ the Cardiovascular Reserch Institute University of Medicine and Dentistry of NewJersey, NewJerseyMedical School): Peripheral vascular endothelial dysfunction and apoptosis in old monkeys . Arterioscler Thromb Vasc Biol 2000 ; 20 (6) : 1493-1499 .
- 4) Atarashi H, Kuruma A¹⁾, Yashima M¹⁾, Saitoh H²⁾, Ino T, Endoh Y, Hayakawa H¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): Pharmacokinetics of landiolol hydrochloride, a new ultra-short-acting β -blocker, in patients with cardiac arrhythmias . Clin Pharmacol Ther 2000 ; 68 (8) : 143-150 .
- 5) Inoue H¹⁾, Atarashi H (¹⁾ The Second Department of Internal Medicine, Torama Medical and Pharmaceutical University : Risk factors for thromboembolism in patients with paroxysmal atrial fibrillation . Am J Cardiol 2000 ; 86 : 852-855 .
- 6) Shimizu S¹⁾, Osaka M¹⁾, Saitoh H¹⁾, Atarashi H, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): Mutual information discloses organization of multiple wavelets toward the termination of atrial fibrillation . Jpn Circ J 2001 ; 65 (2) : 111-116 .
- 7) Asai K, Kudej RK¹⁾, Takagi G, Kudej AB¹⁾, Natividad F¹⁾, Shin YT¹⁾, Vatner DE¹⁾, Vatner SF¹⁾ (¹⁾ the Cardiovascular Research Institute, University of Medicine and Dentistry of New Jersey, New Jwrsey Medical School): Paradoxically enhanced endothelin-B Receptor-Mediated Vasoconstriction in Conscious Old Monkeys . Circulation 2001 ; 103 (19) : 2382-2386 .
- 8) 新 博次, 遠藤康実, 小林義典¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 付属病院第一内科): 新しいIII群抗不整薬 Sotalol の心房細動への使用経験 . Ther Res 2000 ; 21 (4) : 912-914 .

- 9) 宮本新次郎, 井野 威¹⁾, 平澤泰宏, 壬生倉徹志, 丸山光紀, 大野忠明, 遠藤康実, 田寺 長, 長澤紘一, 小林義典²⁾, 新 博次, 早川弘一²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾付属病院第一内科): 頻拍中に心房への2:1伝導を示した上大静脈起源心房頻拍の1例. 臨床心臓電気生理 2000; 23: 149-155.
- 10) 林 明総¹⁾, 小林義典¹⁾, 相澤瑞穂¹⁾, 阿部純子¹⁾, 森田典成¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 斉藤寛和²⁾, 新 博次, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 早川弘一¹⁾(¹⁾付属病院第一内科, ²⁾第二病院内科): 心臓電気生理学的検査による致死性心室性不整脈誘発性の経時的変動と自然発症との関係. 臨床心臓電気生理 2000; 23: 85-92.
- 11) 柴田明佳¹⁾, 田所久子¹⁾, 鈴木純子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健, 荻原利彦²⁾, 福山正文³⁾(¹⁾多摩永山病院中央検査室, ²⁾麻布大学獣医学部基礎科学部門, ³⁾麻布大学環境保健学部微生物部門): 酵母様真菌選択分離培養地の有用性. 医学検査 2000; 49(5): 808-813.
- 12) 新 博次, 遠藤康実, 野村敦宣¹⁾, 松本 真¹⁾, 小野寺威夫¹⁾, 北山浩気¹⁾, 井上 浩²⁾(¹⁾付属病院第一内科, ²⁾富山医科大学第二内科): アスピリンを投与された心房細動例の血栓塞栓症の危険因子: 多施設共同後ろ向き調査. J Cardiol 2000; 35(5): 373-379.

(2) 総説:

- 1) 新 博次: PDE-III 阻害薬 (Cilostazol) の抗徐脈作用と房室伝導に及ぼす効果. 心電図 2000; 20 (Suppl2): 32-41.
- 2) 新 博次: 心房細動の薬物治療. 臨床成人病 2000; 30(5): 583-587.
- 3) 新 博次: 洞不全症候群. 臨床医 2000; 26(5): 918-919.
- 4) 新 博次: 心房性不整脈. 循環器科 2000; 47(6): 488-489.
- 5) 新 博次: 薬剤選択の基本と実際 不整脈. 薬のサイエンス 2000; 5(7): 70-72.
- 6) 新 博次: 新薬の開発状況. 治療 2000; 82(8): 2181-2184.
- 7) 新 博次: Naチャンネル遮断薬 (I群薬). medicina 2000; 37(8): 1359-1361.
- 8) 新 博次: 心房細動に対する抗不整脈薬の使い分け. ハートナーシング 2000; 13(13): 1616-1619.
- 9) 新 博次: 上室性頻脈性不整脈の薬物療法. Current Topics in Cardiol 2001; 26: 42-49.
- 10) 丸山光紀, 新 博次: 電氣的除細動と薬理的除細動. 循環器科 2001; 19(2): 130-134.
- 11) 新 博次, 丸山光紀: 警告不整脈の判定. カレントセラピー 2001; 19(3): 16-19.

著 書

- 1) 新 博次: [分担] メナテトレンとワルファリン. この薬の多剤併用副作用 第2版 (松田重三), 2000; pp320-323, 医歯薬出版.
- 2) 新 博次: [分担] 心房細動. 不整脈を読み解く (井上 博), 2000; pp19-23, 文光堂.
- 3) 新 博次: [分担] 不整脈. 内科学レビュー2001 (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢), 2001; pp35-39, 総合医学社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 新 博次: 心房細動と血栓塞栓症. 第15回日本心臓ペースング・電気生理学会, 2000. 5.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 佐藤綾子¹⁾, 井上一夫¹⁾, 久保田稔¹⁾, 田所久子¹⁾, 手冢浩恵¹⁾, 杉原秀人¹⁾, 水谷幸伸¹⁾, 酒井貴史¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池谷廣幸¹⁾, 鈴木 健, 沖浜裕司²⁾, 松田 健²⁾(¹⁾多摩永山病院中央検査室, ²⁾同 消化器科): 臍頭部に仮性嚢胞を伴った慢性膵炎の1例. 第68回日本医科大学医学総会, 2000. 9.
- 2) 井口輝彦¹⁾, 浅井信治¹⁾, 手塚尚美¹⁾, 相澤泰与¹⁾, 恩田怜子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健(¹⁾多摩永山病院中央検査室): 第三世代のHCV抗体試薬における判定保留例の検討. 第63回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.

- 3) 中澤 宏¹⁾, 渡部百合子¹⁾, 恩田怜子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健 (¹⁾多摩永山病院中央検査室): 巨大血小板を呈したITPの血小板直径曲線 . 第68回日本医科大学医学会総会 , 2000 . 9 .
- 4) 井上 淳¹⁾, 菅野由紀¹⁾, 藤木直美¹⁾, 相澤 正¹⁾, 徳原美子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健 (¹⁾多摩永山病院中央検査室): 総IgE値/特異IgE値乖離例の検討 . 第68回日本医科大学医学会総会 , 2000 . 9 .
- 5) 徳原美子¹⁾, 井上 淳¹⁾, 菅野由紀¹⁾, 藤木直美¹⁾, 相澤 正¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健 (¹⁾多摩永山病院中央検査室): 糖尿病検査項目自動分析機「DM-JACK」の基本的検討 . 第68回日本医科大学医学会総会 , 2000 . 9 .
- (3) 一般講演 :
- 1) Morita N¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hayashi M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Ohmura K¹⁾, Atarashi H , Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): Bidirectional conduction property of right atrial lower isthmus in patients with both common and reversed common atrial flutter as compared to those with only common flutter . 21st Annual Scientific Sessios, North American Society of Pacing and Electrophysiology (Washington DC, USA), 2000 . 5 .
- 2) Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Morita N¹⁾, Hayashi M¹⁾, Ohmura K¹⁾, Atarashi H , Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): Electrophysiological characteristics of the posterior border of Koch's triangle in relation to the development of atrioventricular nodal reentrant tachycardia . 21st Annual Scientific Sessions, North American Society of Pacing and Electrophysiology (Wachinton DC USA), 2000 . 5 .
- 3) Morita N¹⁾, Atarashi H , Hayashi M¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Endoh Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Saitoh H²⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): QT dispersion in premature beats produced by extrastimuli from the right atrium and right ventricle . XXVII International Congress on Electrocardiology (Milan, Italy), 2000 . 6 .
- 4) Hayashi M¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Morita N¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Ohmura K¹⁾, Atarashi H , Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin): Long-term variability in induced ventricular tachyarrhythmias. Incidence, background, and clinical significance in relation to the spontaneous occurrence of arrhythmias . Scientific Sessions 2000, American Heart Association (New Orleans), 2000 . 11 .
- 5) Asai K , Takagi G¹⁾, Kudej RK²⁾, Shen YT²⁾, Tang GP²⁾, Kudej AB²⁾, Bishop SP²⁾, Vatner DE²⁾, Vatner SF²⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicin , ²⁾ the Cardiovascular Reserch Institute University of Medicine and Dentistry of NewJersey, NewJerseyMedical School): Depressed baroreflex sensitivity correlates with increased vascular stiffness in old males, but not in old female monkeys . Scientific Sessions 2000 American Heart Associatuon (New Orleans), 2000 . 11 .
- 6) Asai k , satou N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takano T¹⁾, Vatner DE²⁾, Vatner SF²⁾ (¹⁾ First Department of InternalMedicin , ²⁾ the Cardiovascular Research Institute, University of Medicine and Dentistry of New Jersey, New Jersey Medical School): Why is chronic administration of β -adrenergic receptor blockade useful in cardiomyopathy . COE 国際シンポジウム心機能 大阪2001 : ゲノム , 蛋白 , フジオームにおけるトピックス , 2001 . 2 .
- 7) Atarashi H , Inoue H¹⁾, Sugi K²⁾, Fukunami M³⁾, Origasa H⁴⁾, Hamada C⁵⁾ (¹⁾ Toyama Medical & Pharmaceutical University , ²⁾ Toho University of Medicine , ³⁾ Osaka Prefectural General Hospital , ⁴⁾ Toyama Medical & Pharmaceutical University , ⁵⁾ Kyoto University): A randomized placebo controlled double-blind trial of aprindine, digoxin for the maintenance of sinus rhythm in patients with atrial fibrillation . 第65回日本循環器学会学術集会 , 2001 . 3 .
- 8) Matsumoto S¹⁾, Hirayama Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Seino Y¹⁾, Takano T¹⁾, Saitoh H²⁾, Ogata K²⁾, Ohno N³⁾, Ohsaka M³⁾, Atarashi H (¹⁾ First Department of InternalMedicin , ²⁾ Department of Inter-

- nalMedicin, Dai-ni Hospital, ³⁾ Department of Health Care Center, Dai-ni Hospital): T-wave Alternans can detect cardiac involvement in sarcoidosis. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
- 9) Otsuka T, Ibuki C, Suzuki T, Mibukura T, Yoshida H, Ishii K, Yamane Y, Asai K, Ishikawa M, Nagasawa K, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): Inhibition of Rho-kinase induces potent coronary dilatation in patients with vasospastic angina. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
- 10) Nakagomi A¹⁾, Aoki S¹⁾, Yamane Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Fujita N¹⁾, Fujioka M¹⁾, Kusama Y¹⁾, Takayama M¹⁾, Takano T¹⁾, Ibuki C, Nagasawa K, Katoh K²⁾, Tanaka K²⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine, ²⁾ The Department of Cardiology, Hakujikai Memorial Hospital): Exercise thallium-201 myocardial image is useful for predicting adverse outcomes in patients with vasospastic angina. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
- 11) Otsuka T, Ibuki C, Suzuki T, Mibukura T, Yoshida H, Ishii K, Yamane Y, Asai K, Ishikawa M, Nagasawa K, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): Abnormal response to low dose acetylcholine is associated with predominance of calcium-independent vascular contraction. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
- 12) Ogata K¹⁾, Ohno N¹⁾, Munakata K¹⁾, Kameyama M²⁾, Shimizu S²⁾, Matsumoto S²⁾, Yashima M²⁾, Hiramatsu Y²⁾, Takano T²⁾, Maruyama M, Atarashi H (¹⁾ Department of Internal Medicine, Dai-ni hospital, ²⁾ First Department of Internal Medicine): Role of intracellular calcium cycling by sarcoplasmic reticulum (SR) in constant high heart rate in micro-volt T-Wave alternans. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
- 13) 大塚俊昭, 雪吹周生, 吉川雅智, 石川正也, 山根吉人, 浅井邦也, 鈴木 健, 長澤紘一: Rho-Kinase阻害薬の冠動脈拡張効果(冠攣縮部位/非攣縮部位の相違). 第28回日本集中治療医学会, 2000. 3.
- 14) 中込明裕¹⁾, 山本 剛¹⁾, 高野照夫¹⁾, 青木 聡¹⁾, 山根吉人¹⁾, 雪吹周生, 鈴木 健, 長澤紘一, 田中邦夫²⁾ (¹⁾ 付属病院第一内科, ²⁾ 博慈会記念病院循環器科): 冠攣縮性狭心症患者におけるアセチルコリン誘発試験時の冠攣縮形態とその成因の検討(特に高インスリン血症と冠予備能ノ関与について). 第64回日本循環器学会学術集会, 2000. 4.
- 15) 田寺 長, 井野 威, 丸山光紀, 宮本新次郎, 川口直美, 長澤紘一: 左側副伝導路を介する房室伝導中に記録される冠静脈洞心房分裂電位の意義(人における冠静脈洞内刺激伝導心筋の存在). 第64回日本循環器学会学術集会, 2000. 4.
- 16) 森田典成¹⁾, 小林義典¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 堀江 格¹⁾, 山科育子¹⁾, 新 博次 (¹⁾ 付属病院第一内科): 通常型心房粗動における下位右房解剖学的狭部の伝導様式の検討(反時計回転方向単独誘発例と両回転方向心房粗動誘発例の比較). 第15回日本心臓ペースング・電気生理学学会, 2000. 5.
- 17) 相澤瑞穂¹⁾, 小林義典¹⁾, 阿部純子¹⁾, 森田典成¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 新 博次, 他8名 (¹⁾ 付属病院第一内科): 心房不応期に対する短時間高頻度刺激の影響(とくに自立神経の関与について). 第15回日本心臓ペースング・電気生理学学会, 2000. 5.
- 18) 川嶋修司, 田寺 長, 遠藤康実, 山中博之, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 長澤紘一, 伊藤敬雄¹⁾, 山寺博史¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院神経科): 精神症状と共に発症した成人スチール病の1例. 第481回日本内科学会関東地方会, 2000. 5.
- 19) 山根吉人, 川嶋修司, 雪吹周生, 大塚俊昭, 青木 聡, 鈴木 健, 長澤紘一: 高齢者急性心筋梗塞の医療経済的分析. 第42回日本老年病学会学術集会, 2000. 6.
- 20) 雪吹周生, 山根吉人, 大塚俊昭, 川嶋修司, 石川正也, 青木 聡, 浅井邦也, 長澤紘一: 右冠動脈CTO病治療に5つのstentを要した狭心症の1例. 第12回多摩地区虚血性心疾患研究会, 2000. 6.
- 21) 大塚俊昭, 遠藤康実, 浅井邦也, 田寺 長, 山中博之, 雪吹周生, 鈴木 健, 新 博次, 長澤紘一: 心不全で発症し, 経過中に肺出血, 胆嚢炎を合併した甲状腺機能亢進症の1例. 第177回日本循環器学会関東甲信越地方

- 会，2000．7．
- 22) 雪吹周生，山根吉人，石川正也，川嶋修司，大塚俊昭，浅井邦也，鈴木 健，長澤統一：急性心筋梗塞治療戦略の医療経済的分析（血栓溶解療法とdirectPTCAの比較）．第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2000．8．
- 23) 遠藤康実，新 博次，壬生倉徹志，川口直美，浅井邦也，田寺 長，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，長澤統一：ASOおよびASKが高値で経過したリウマチ性多発筋痛症の1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 24) 藤中祐美子¹⁾，澤井規己¹⁾，亀山明美¹⁾，伊藤淳雄¹⁾，村田和也¹⁾，雪吹周生，鈴木 健，長澤統一（¹⁾多摩永山病院薬剤科）：薬剤師による成人気管支喘息患者への教育指導．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 25) 中込昭裕¹⁾，青木 聡¹⁾，山本 剛¹⁾，藤田進彦¹⁾，高野照夫¹⁾，山根吉人，雪吹周生，長澤統一（¹⁾付属病院第一内科）：冠攣縮性狭心症患者における薬物療法抵抗性の機序（特に炎症反応，高インスリン血症，冠予備能の関与）．第48回日本心臓病学会学術集会，2000．9．
- 26) 雪吹周生，青木 聡，山根吉人，大塚俊昭，川嶋修司，川口直美，山中博之，鈴木 健，長澤統一：負荷心筋SPECTにて定量評価した局所心筋血流増加反応は脂肪酸を反映する．第48回日本心臓病学会学術集会，2000．9．
- 27) 遠藤康実，新 博次，壬生倉徹志，田寺 長，宮本新次郎，川口直美，丸山光紀，小林義典¹⁾，長澤統一（¹⁾付属病院第一内科）：新しいIII群抗不整脈薬Sotalolの心房細動抑制効果．第21回日本臨床薬理学会，2000．9．
- 28) 壬生倉徹志，川口直美，田寺 長，浅井邦也，遠藤康実，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤統一：高齢発症Bechet病の1例．第484回日本内科学会関東地方会，2000．9．
- 29) 大塚俊昭，石川正也，川嶋修司，山根吉人，青木 聡，浅井邦也，雪吹周生，鈴木 健，長澤統一：冠攣縮性狭心症におけるRho-kinase阻害薬の冠動脈拡張効果．第21回日本臨床薬理学会，2000．9．
- 30) 吉川雅智，丸山光紀，山中博之，雪吹周生，鈴木 健，新 博次，長澤統一，松田 健¹⁾，沖濱祐司（¹⁾多摩永山病院消化器科）：腸管外合併症の発症を契機に診断に至った潰瘍性大腸炎の1例．第485回日本内科学会関東地方会，2000．10．
- 31) 丸山光紀，井野 威，田寺 長，遠藤康実，川口直美，宮本新次郎，新 博次，長澤統一：全リエントリー回路を推定し得たペラパミル感受性右脚ブロック左軸偏位型突発性心室頻拍の1例．第12回カテーテル・アブレーション委員会公開研究会，2000．11．
- 32) 森田茂英¹⁾，雪吹周生，村田和也²⁾，鈴木 健，新 博次，長澤統一，寺澤孝明¹⁾（¹⁾東京薬科大学総合医療薬学講座，²⁾薬剤科）：狭心症患者の薬物療法とQOL（PCI・CABGの既往の有無による相違）．第35回日本成人病学会，2001．1．

2. 内科学第二講座

[付属病院第 2内科]

研究概要

内科学第二講座は、神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。

神経内科では、脳血管障害、特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んで居ります。研究にあたっては、動物実験に基く基礎的なアプローチと臨床データに基いた臨床的アプローチの両面から行っています。実験的にはラット中大脳動脈閉塞モデルを使用して脳梗塞の病態の解明を行っている。また、これらのモデルを用いて各種脳保護薬の効果や作用機序についても検討を行っている。近年、当教室で力を注いでいる研究テーマの一つは、免疫抑制薬の脳の保護作用や脳低体温療法の脳保護効果である。その他、ウィルスベクターを用いた遺伝子治療も試みている。臨床的には脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組んでおり、MRIを用いたDiffusion, Perfusion Weighted Imageによる診断法の開発に力を注いでいる。また、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究を活発に行っている。

腎臓内科では、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生労働省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。また、平成元年度より開始された腎移植は現在症例数も増加し、その内容も充実しつつある。

また、当教室は腎クリニックを始め、千葉北総病院内科および附属第二病院内科に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの業績をあげている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ueda M, Iwabuchi K, Mishina M, Kamiya T, Nagatomo H, Senda M, Terashi A, Katayama Y : Benzodiazepine receptor binding in Japanese subtype of hereditary spastic paraplegia with a thin corpus callosum . Physiological Imaging of the Brain with PET. Academic Press 2000 ; 57 : 389-393 .
- 2) Katsura K, Rodriguez de Turco EB, Kristian T, Folbergrova J, Bazan NG, Siesjö BK : Alterations in lipid and calcium metabolism associated with seizure activity in the postischemic brain . J. Neurochem 2000 ; 75 : 2521-2527 .
- 3) Gondo Y, Shimonaka Y, Senda M, Mishina M, Toyama H : The role of prefrontal cortex in the GO / NO-GO task in humans. A PET study . Japanese Psychological Research 2000 ; 42 : 36-44 .
- 4) Tatsumi IF, Senda M, Ishii K, Mishina M, Ohyama M, Toyama H, Oda K, Tanaka M, Gondo Y : Brain regions responsible for word retrieval, speech production and deficient word-fluency in elderly people. A PET activation study . Proceeding of ICSLP 2000 ; II : 5-10 .
- 5) Ueda M, Muramatsu H, Kamiya T, Muramatsu A, Mori T, Terashi A, Katayama Y : Pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolite levels following bilateral common carotid artery occlusion in rat brain . Life Sciences 2000 ; 67 : 821-826 .
- 6) Amemiya S, Hamamoto M, Goto Y, Komaki H, Nishino I, Nonaka I, Katayama Y : Psychosis and progressing dementia : presenting features of a mitochondriopathy . Neurology 2000 ; 55 : 600-601 .

- 7) Mori O , Yamazaki M , Ohaki Y , Arai Y , Oguro T , Shimizu H , Asano G : Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes (MELAS) with prominent degeneration of the intestinal wall and cactus-like cerebellar pathology . *Acta Neuropathol* 2000 ; 100 : 712-717 .
- 8) Uchihara T , Nakamura A , Yamazaki M , Mori O : Tau-Positive Neurons in Corticobasal Degeneration and Alzheimer's Disease-Distinction by Thiazin Red and Silver Impregnations . *Acta Neuropathol* 2000 ; 100 : 385-389 .
- 9) Mori O , Ohaki Y , Oguro T , Shimizu H , Yamazaki M , Arai Y , Asano G : Adhesion molecule detection in a case of early cerebral malaria : immunohistochemical and electron microscopic findings . *Human Pathology* 2000 ; 31 : 1175-1178. .
- 10) Uchihara T , Nakamura A , Nagaoka U , Yamazaki M , Mori O : Specific dual enhancement of double immunofluorescent signals by CARD Application to postmortem human brain tissue . *Histochemistry and Cell Biology* 2000 ; 114 : 447-451 .
- 11) Yamaguchi H , Igarashi H , Hamamoto M , et al : Evaluation of acute ischemic stroke using echoplanar dynamic contrast enhanced perfusion MRI . *J Stroke Cerebrovasc Dis* 2000 ; 9 : 293-294 .
- 12) Ohyama M , Senda M , Mishina M , Kitamura S , Tanizaki K , Ishii Y , Katayama Y : Semi-automatic ROI placement system for analysis of brain PET images based on elastic model : application to diagnosis of Alzheimer's disease . *Keio J Med* 2000 ; 49 : A105-A106 .
- 13) Mishina M , Senda M , Kiyosawa M , A De V , Toyama H , Ishiwata K , Oda K , Kimura Y , Nakano H , Ohyama M , Kitamura S , Katayama Y : Benzodiazepine receptor distribution and cerebral blood flow in early blindness- a PET study . *Keio J Med* 2000 ; 49 : A114-A116 .
- 14) Ohmori K , Kuno S , Kimura Y , Mizuno M , Nakamura Y , Muraoka I , Ohta F , Mishina M , Toyama H , Senda M : Assessment of regional change of glucose metabolism after high intensity exercise in exercise muscle using positron emission tomography . *Advanced Exercise Sports Physiology (Adv. Exerc. Sports Physiol)* 2000 ; 6 : 81-84 .
- 15) Mishina M , Senda M , Kimura Y , Toyama H , Ishiwata K , Ohyama M , Nariai T , Ishii K , Oda K , Sasaki T , Kitamura S , Katayama Y : Intrsubject correlation between static scan and distribution volume images for [C] flumazenil PET . *Annals of Nuclear Medicine* 2000 ; 14 : 193-198 .
- 16) Okubo S , Ueda M , Kamiya T , Misumura A , Terashi A , Katayama Y : Neurological and neuroradiological progression in hereditary spastic paraplegia with a thin corpus callosum . *Acta Neurol Scand* 2000 ; 102 : 196-199. .
- 17) Nagao T , Katayama Y : Japanese nonvalvular atrial fibrillation-Embolism secondary prevention cooperative study Group : Optimal intensity of warfarin therapy for secondary prevention of stroke in patients with non-valvular atrial fibrillation. A multicenter, prospective randomized study . *Stroke* 2000 ; 31 : 817-821 .
- 18) Hagiwara M , Pantoni L , Gutierrez JA , Liu KK , Inamura K , Katayama Y , Terashi A , Garcia JH : Clinical and pathological responses to permanent middle cerebral artery occlusion in the winstar rat . *Brain Pathology* 2000 ; 10 : 561-561 .
- 19) Yamazaki M , Arai Y , Baba M , Iwatsubo T , Mori O , Katayama Y , Oyanagi K : α -synuclein inclusions in amygdala in the brains of patients with parkinsonism-dementia complex of Guam . *J Neuropathol Exp Neurol* 2000 ; 59 : 585-591 .
- 20) Katsumata T , Katayama Y , Yonemori F , Muramatsu H , Otori T , Nishiyama Y , Yamada H , Nakamura H , Terashi A : Delayed administration of JTP-2942, a novel thyrotropin-releasing hormone analogue, improves cerebral blood flow and metabolism in rat postischemic brain . *Clin. Exp. Pharmacol. Physiol.* 2001 ;

- 28 : 48-54 .
- 21) Arai Y , Yamazaki M , Mori O , Muramatsu H , Asano G , Katayama Y : -synuclein-positive structures in cases with sporadic Alzheimer's disease : morphology and its relationship to tau aggregation . Brain Res 2001 ; 888 : 287-296 .
- 22) Nishiyama Y , Komaba Y , Kitamura H , Katayama Y : Hemolytic uremic syndrome with intracranial hemorrhage following mitomycin C administration . Intern Med 2001 ; 40 : 237-240 .
- 23) Kaneko T , Kudo M , Okumura T , Kashiwagi T , Turuoka S , Simizu M , Iino Y , Katayama Y : Successful treatment of digoxin intoxication by haemoperfusion with specific columns for 2-microglobulin-adsorption (Lixelle) in a maintenance haemodialysis patient . Nephrol Dial Transplant 2001 ; 16 : 195-196 .
- 24) Oyanagi K , Tsuchiya K , Yamazaki M , Ikeda K : Substantia nigra in progressive supranuclear palsy, corticobasal degeneration and Parkinsonism-dementia complex of Guam : specific pathological feature . J Neuropathol Exp Neurol 2001 ; 60 : 393-402 .
- 25) 勝又俊弥 , 石渡明子 , 片山泰朗 : 脳梗塞後に出現した cortical laminar necrosis . 神経内科 2000 53 ; Suppl. 2 : 356-357 .
- 26) 山崎峰雄 , 柳下 章 , 中野今治 , 小田雅也 , 片山泰朗 : 脳梗塞後の凝固壊死 . 神経内科 / 特別増刊号 2000 ; 53 : 338-339 .
- 27) 北村 伸 , 山室 学 , 宗像一雄 : Creutzfeldt-Jakob 病の脳血流量の経時的変化 . 神経内科 2000 ; 53 : 496-497 .
- 28) 仁藤智香子 , 神谷達司 , 上田雅之 , 有井孝子 , 片山泰朗 : ラット局所脳虚血モデルにおける低体温療法の脳保護効果増強の試み 低体温 + 免疫抑制剤 FK506 併用療法 . 脳卒中 2000 ; 22 : 423-428 .
- 29) 山県邦弘 , 石黒 望 , 富野康日己 , 山崎 徹 , 田村克彦 , 柏木哲也 , 島田憲明 , 林 利史 , 高橋祐吾 : 近未来的 CAPD 電話回線による遠隔操作インターネットを利用した多施設病診連携システムの構築 . 腎と透析 2000 ; 49 : 64-67 .
- 30) 児玉美樹 , 柏木哲也 , 岡野麻由美 , 金子朋広 , 松信精一 , 飯野靖彦 , 片山泰朗 : 右半身麻痺にて CAPD を導入する患者の在宅に向けてのアプローチ . 腎と透析 2000 ; 49 : 435-438 .
- 31) 有井孝子 , 神谷達司 , 有井一正 , 坂本静樹 , 片山泰朗 : 慢性期脳梗塞患者に対する aniracetam 投与の検討 : 脳循環および長谷川式簡易知能評価スケールに及ぼす効果について . Progress in Medicine 2000 ; 20 : 163-168 .
- 32) 長尾毅彦 , 大内昌和 , 井田正博 , 横地正之 : Wernicke 脳症急性期の MRI . 神経内科 2000 ; 9 : 426-428 .
- 33) 酒巻雅典 , 西山 穰 , 五十嵐博中 , 萩原 浩 , 安藤 順 , 知識鉄郎 , 片山泰朗 : 大梗塞病変での glycerol mass effect 悪化の可能性と , その抗浮腫作用の MRI を用いての評価 . Progress in Research on Brain Edema and ICP 2001 ; 3 : 93-99 .
- (2) 症例報告 :
- 1) Usuda K , Katayama Y : Brain MRI findings in cryptococcal meningocephalitis . Journal of Nippon Medical School 2000 ; 67 (4) : 226-227 .
- 2) 片山泰朗 , 石井新哉 , 杉原 仁 , 高野照夫 , 吉村明修 , 工藤翔二 , 坂本静樹 , 川本雅司 : 《Conference Room》 ACTH 非依存性両側副腎非質過形成による Cushing 症候群の兄妹例 . 内科 2000 ; 86 (4) : 784-791 .
- 3) 吉村明修 , 田辺潤 , 田村浩一 , 高野照夫 , 清野精彦 , 片山泰朗 , 草間芳樹 , 高崎雄司 , 高山守正 , 木内要 , 川本雅司 , 岸田 浩 : 《Conference Room》 慢性反復性肺血栓栓塞症による肺高血圧症により卵円孔開存を介した右 左シャントを生じた1例 . 内科 2000 ; 86 (2) : 389-398 .
- 4) 菊地 修 , 富田真智子 , 天野浩文 , 永島正一 , 吉野慎一 , 柏木哲也 , 飯野靖彦 : 上部消化管穿孔を起こした P-ANCA 陽性悪性関節リウマチ (MRA) の1例 . 関東リウマチ 2000 ; 34 : 134-144 .
- 5) 清野精彦 , 石川昌弘 , 福岡長知 , 阿部信二 , 吉村明修 , 山崎峰雄 , 坂本静樹 , 杉原 仁 , 田村浩一 , 高野照夫 ,

山中宣昭, 川本雅司, 佐藤直樹: 《Conference Room》間質性肺炎, 心機能低下など多彩な臨床症状を呈し, 筋ジストロフィーと考えられた1例. 内科 2001; 87: 356-367.

(3) 総説:

- 1) 村山繁雄, 笠畑尚喜, 愛敬直雄, 杉浦幸子, 前田雅子, 下村七生貴, 山崎峰雄, 山之内博, 斎藤祐子: 老年痴呆の神経病理学的研究: Alzheimer 病の臨床神経病理学的研究. 長期特別プロジェクト「老人性痴呆に関する総合的研究」 2000; 15-18.
- 2) 片山泰朗, 勝又俊弥, 神谷達司: 糖尿病と血管: 脳血管障害患者における脳ブドウ糖代謝. Complication 糖尿病と血管 2000; (5): 113-118.
- 3) 片山泰朗: 脳血管性うつ状態の薬物療法. Therapeutic research 2000; (11): 62-67.
- 4) 坂本静樹: 頭蓋内圧亢進の是正輸液法. Medical Practice 2000年臨時増刊号「輸液実践ガイド」 2000; (17): 309-311.
- 5) 金子朋広, 松信精一, 飯野靖彦: 慢性腎不全のすべて: 出血性病変. 腎と透析 2000; (49): 710-711.
- 6) 中沢 勝, 片山泰朗: 脳卒中急性期における高血圧管理: 内科の立場から. 脳と循環 2000; 5: 227-231.
- 7) 白田和弘: 暮らしと健康相談室 読書時の頭痛. 暮らしと健康 2000; (11): 74-75.
- 8) 柏木哲也: VIII 腎不全 腎移植. 泌尿器科外来処方マニュアル 2000; (1): 112-113.
- 9) 柏木哲也, 松信精一, 飯野靖彦: 慢性腎不全のすべて: 2000長期透析合併症・偶発症の病態と治療 血液凝固系 血小板減少症. 腎と透析 2000; (49): 708-709.
- 10) 柏木哲也, 飯野靖彦: 症例から学ぶ 水電解質 酸塩基平衡異常 著明な浮腫を伴うネフローゼ症候群. Medicina 2000; (6): 982-985.
- 11) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之: 超音波診断: 経頭蓋ドップラー・頸動脈エコー・経食道心エコー. Medicina 2000; (37): 1096-1099.
- 12) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之: 脳梗塞急性期治療薬の有効性(海外との比較). Bloclinica 2000; (15): 580-584.
- 13) 萩原万里子: 第2回P-drugワークショップに参加して. Journal of Integrated Medicine 2000; (10): 72-75.
- 14) 神谷達司, 片山泰朗: 脳虚血と ischemic penumbra. 神経治療 2000; 17: 103-110.
- 15) 片山泰朗: 脳虚血の病態と急性期治療の考え方. キッセイクール 2000; (19): 15-16.
- 16) 金子朋広, 飯野靖彦: 「電解質輸液」輸液薬の種類と特徴. 治療薬 2000; (5): 31-37.
- 17) 柏木哲也, 飯野靖彦: 「電解質輸液」体液分布と組成. 治療薬 2000; (5): 19-22.
- 18) 有井一正, 片山泰朗: 脳出血 病態からみた神経疾患の治療(1). 医学と薬学 2000; (44): 415-422.
- 19) 岡田牧子, 柏木哲也, 飯野靖彦: 急性腎不全のすべて: 2000急性腎不全の治療 薬物療法. 腎と透析 2000; (49): 414-417.
- 20) 坂本静樹, 片山泰朗: アルツハイマー型痴呆と治療薬. J Nippon Med Sch 2000; (67): 412-412.
- 21) 中村秀紀, 片山泰朗: 脳血管障害の鑑別と救急処置. 総合臨床 2000; (49): 945-946.
- 22) 井田正博, 長尾毅彦, 山口 博, 五十嵐博中, 豊田圭子, 福田国彦: 脳梗塞急性期のMR診断. 臨床画像 2000; (16): 492-506.
- 23) 片山泰朗: 脳保護薬. 第11回関東脳卒中研究会 Therapeutic research 2000; (21): 1603-1607.
- 24) 井田正博, 大西貴弘, 長尾毅彦, 山口 博, 五十嵐博中, 豊田圭子, 福田国彦: MR最新技術の活用 脳虚血性疾患のMR拡散画像と灌流画像 形態診断から機能診断へ. 月刊新医療 2000; (27): 64-68.
- 25) 北村 伸: アルツハイマー型痴呆に関する最近の知見の進歩6) 画像診断について. Geriatric Medicine 2000; (38): 1135-1140.
- 26) 柏木哲也, 飯野靖彦: 腎移植の予後とQOL. 臨床成人病 2000; (30): 1665-1670.
- 27) 井田正博, 大西貴弘, 豊田圭子, 長尾毅彦, 三枝裕和, 菊池 悟, 小林 剛, 福田国彦: 拡散画像と灌流画像

- 脳虚血超急性期の診断．臨床画像 2000；(16)：1416-1426．
- 28) 五十嵐博中，山口 博，濱本 真，片山泰朗：脳梗塞急性期のdiffusion，perfusion MRI．MEDICO 2000；(31)：18-24．
- 29) 片山泰朗，山崎峰雄：特集 神経編：脳卒中急性期の最新診断と最新治療 脳梗塞急性期の原因・病態．Mebio 2001；(18)：64-69．
- 30) 桂研一郎，片山泰朗：標準治療と最新治療：メリット・デメリット．Clinical Neuroscience 2001；(19)：244-245．
- 31) 長尾毅彦，井田正博，片山泰朗，横地正之：特殊な脳梗塞の診断と治療 脳静脈洞静脈血栓症．現代医療 2001；(33)：607-612．

著 書

- 1) 片山泰朗：(単著)脳・用心 脳梗塞とボケの予防．，2000；pp1-107，ヴァンメディカル(東京)．
- 2) 片山泰朗，福地孝明：Clinical Case-Oriented 症例に学ぶ高血圧治療 専門医のみるポイント49 脳出血急性期の高血圧，2000；pp5-7，メディカルビュー社(東京)．
- 3) 北村 伸，赫 彰郎：ピンスワンガー型痴呆”看護のための最新医学講座”．第13巻(日野原重明，井村裕夫監修)，2000；pp143-149，中山書店(東京)．
- 4) 仁藤智香子，片山泰朗：画像で見る脳卒中の病型(脳卒中の画像診断，CT，MRIなど)からだの科学216，2000；pp40-45，日本評論社(東京)．
- 5) 柏木哲也：泌尿器科外来処方マニュアルVIII腎不全腎移植，2000；pp112-113，医学書院(東京)．
- 6) 柏木哲也，飯野靖彦，赫 彰郎：透析合併症 感染症 透析患者にとってヘリコバクターピロリとは？透析フロンティア 透析療法における様々な疑問に答える，2000；pp26-41，メディカルビュー社(東京)．
- 7) 金子朋広，飯野靖彦：F生化学検査[d]Ca．臨床検査マニュアル，2000；pp513-515，永井書店(東京)．
- 8) 柏木哲也：生化学検査IP．臨床検査マニュアル，2001；pp516-518，永井書店(東京)．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 長尾毅彦：神経内科領域の診断と薬物情報．都立荏原病院・地域薬剤師会との勉強会(東京)，2000．6．
- 2) 永積 惇：無症候性脳梗塞への対応，痴呆性疾患の診断．第3回大分県脳ドック研究会(大分)，2000．7．
- 3) 長尾毅彦：神経内科の疾患について．田園調布，大森歯科医師会勉強会(東京)，2000．7．
- 4) 片山泰朗：脳梗塞急性期の診断と治療．第11回山陰脳卒中研究会(米子)，2001．2．

(2) 教育講演：

- 1) 片山泰朗：脳梗塞急性期の診断と治療．日本内科学会第23回生涯教育講演会(東京)，2000．12．
- 2) 片山泰朗：内科領域から診ためまい．日本医師会生涯教育講演(東京)，2001．2．

(3) シンポジウム：

- 1) Usuda K，Katayama Y：The effect of doxazosin on cerebral blood flow in hypertensive patients with chronic cerebral infarction．East /West Summit Meeting in Hawaii (Kohala Coast, Island of Hawaii, USA)，2001．3．
- 2) 仁藤智香子，神谷達司，上田雅之，有井孝子，片山泰朗：ラット局所脳虚血モデルにおける低体温療法の脳保護効果増強の試み 低体温+免疫抑制剤FK506併用療法．第25回日本脳卒中学会総会(東京)，2000．4．
- 3) 長尾毅彦：アンギオテンシンII受容体拮抗薬の臓器保護作用について．城南地区学術講演会，2000．7．
- 4) 五十嵐博中，濱本 真，山口 博，大久保誠二，有井一正，酒巻雅典，永島淳一，片山泰朗：Diffusion MRI，Perfusion MRIによる脳塞栓急性期所見と病巣の進展・急性期脳灌流画像と慢性期所見との比較．第19回The

- Mt. Fuji Workshop on CVD (高崎), 2000 . 9 .
- 5) 柏木哲也, 飯野靖彦, 片山泰朗, 右田 真, 島田 隆, 石橋正彦: 多発性嚢胞腎 (ADPKD) 治療におけるカウンセリングの重要性. 東部腎臓学会 (東京), 2000 . 10 .
 - 6) 臼田和弘, 片山泰朗: Post Stroke Depression に対する SSRI の使用経験. 第1回 Post Stroke Depression 研究会 (東京), 2000 . 10 .
 - 7) 桂研一郎, Sieesjö BK, 赫 彰郎, 片山泰朗: 脳虚血中および再灌流時の虚血性神経細胞障害のメカニズム: 増強したアシドーシスの影響. 第19回日本蘇生学会 (東京), 2000 . 11 .
 - 8) 坂本静樹: 「脳血管障害からみた血圧の管理」. 第7回動脈硬化危険因子研究会 (大宮), 2000 . 11 .
 - 9) 柏木哲也: 「多発性嚢胞腎におけるカウンセリングの重要性」厚生科学研究費補助金 特定疾患対策研究事業. 進行性腎障害に関する調査研究 講演会 (東京), 2001 . 1 .
 - 10) 五十嵐博中: 「脳梗塞～超急性期の診断～」. オザグレル研究会 (東京), 2001 . 1 .
 - 11) 神谷達司: 「脳梗塞～超急性期の治療～」. オザグレル研究会 (東京), 2001 . 1 .
 - 12) 北村 伸: 痴呆の鑑別診断. 第9回関東脳SPECT研究会, 2001 . 3 .
- (4) 一般講演:
- 1) Komaba Y, Kaneko T, Okumura T, Takei H, Hayama N, Iino Y, Katayama Y: A hemodialysis patient with oral-facial-digital syndrome type1 (OFD-1). The 8th Asian pacific congress of nephrology (Taipei, Taiwan), 1999 . 3 .
 - 2) Iino Y: Role of kidney in the management of parenteral nutrition for chronic renal failure . 17th Expert Meeting (Jakarta, Indonesia), 2000 . 2 .
 - 3) Midorikawa A, Nagao T, Kawamura M, Mizobuchi A: A case of picture agnosia . 27th International Congress of Psychology (Stockholm, Sweden), 2000 . 7 .
 - 4) Igarashi H, Hamamoto M, Yamaguchi H, Okubo S, Nagashima J, Ito T, Katayama Y: CBF index can be a good predictor for the outcome of hyper-acute stage ischemic lesion on calculated parameters of dynamic T2 perfusion MRI . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 5) Igarashi H, Nakada T, Kweel L, Katayama Y: ¹H Magnetic resonance spectroscopic imaging of MCA occluded rat: Time course and identification of unresolved peaks . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 6) Kamiya T, Ueda M, Nito C, Arai T, Muramatsu A, Terashi H, Terashi A, Katayama Y: Effect of FK506, immunosuppressant, on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 7) Katsumata T, Nakamura H, Muramatsu H, Kikuchi Y, Katayama Y: Post-ischemic administration of NS-7, a novel Na⁺ and Ca²⁺ channel blocker, improves infarct volume and neurological deficits in the rat focal ischemic model . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 8) Yamaguchi H, Igarashi H, Hamamoto M, Okubo S, Watanabe M, Tabuchi N, Nagashima J, Katayama Y: Prediction of cerebral infarction evolution with peak delay to input function (PDIF) value calculated by dynamic contrast enhanced perfusion MRI . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 9) Nakamura H, Katsumata T, Nishiyama Y, Katsura K, Katayama Y: The mechanism of ischemic tolerance phenomenon in gerbils: an approach of regional cerebral blood flow . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
 - 10) Okubo S, Igarashi H, Hamamoto M, Nagashima J, Katayama Y: Mechanism of small deep infarcts evaluated by T2*-weighted dynamic MRI . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .

- 11) Mizukoshi G , Nagao T , Okada M , Ida M , Katayama Y , Yokochi M : Dissection of vertebrobasilar artery in brainstem infarction . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 12) Shimo Y , Urabe T , Hattori N , Nagao T , Yokochi M , Hamamoto M , Mizuno Y : NADH/NADPH oxidase mutation and lipoprotein lipase mutation with risk for atherothrombotic cerebral infarction in Japanese population . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 13) Nagao T , Mizukoshi G , Katayama Y , Yokochi M : Correlation among therapeutic range, patients profile and hemostatic molecular marker in patients with cardioembolic stroke due to nonvalvular atrial fibrillation . 4th International Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 14) Nito C , Kamiya T , Ueda M , Arii T , Katayama Y : Mild hypothermia enhances neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 following transient focal ischemia in rats . 4th International Stroke Congress Melbourne (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 15) Arii K , Igarashi H , Arii T , Katayama Y : Heparin sodium/ozagrel sodium combined therapy and ozagrel sodium is effective on photochemical cerebral infarct in rat . 4th International Stroke Congress Melbourne (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 16) Nagao T , Ida M , Mizukoshi G , Katayama Y , Yokochi M : Diagnostic time window of diffusion weighted MRI in ischemic stroke . 6th International symposium on acute stroke and thrombolytic therapy (Hamilton Island Australia.), 2000 . 11 .
- 17) Hagiwara M , Pantoni L , Gutierrez JA , Liu KK , Inamura K , Katayama Y , Terashi A , Garcia JH : Clinical and pathological responses to permanent middle cerebral artery occlusion in the wistar rat . The XIVth International Congress of Neuropathology (England), 2000 . 3 .
- 18) Katsura K , Kurihara J , Hiraide T , Terashi A , Kato H , Katayama Y : Effects of ischemic preconditioning on the translocation of protein kinase C and CaM kinase II following lethal ischemia in the gerbil hippocampal CA1 neurons . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 19) Hiraide T , Katsura K , Katayama Y : Adenosine receptor has a protective role in ischemic tolerance phenomenon . 4th World Stroke Congress (Melbourne, Australia), 2000 . 11 .
- 20) 五十嵐博中 , 濱本 真 , 山口 博 , 大久保誠二 , 永山 寛 , 雨宮志門 , 永島淳一 , 赫 彰郎 , 片山泰朗 : Perfusion MRI による脳塞栓急性期における病巣進展予測 . 第97回日本内科学会総会 (京都), 2000 . 4 .
- 21) 山口 博 , 五十嵐博中 , 濱本 真 , 大久保誠二 , 永島淳一 , 雨宮志門 , 永山 寛 , 井田正博 , 片山泰朗 : 急性期脳梗塞における perfusion MRI の虚血部位診断能についての検討 . 第97回日本内科学会総会 (京都), 2000 . 4 .
- 22) 永山 寛 , 濱本 真 , 雨宮志門 , 大久保誠二 , 片山泰朗 : 高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態 . 第97回日本内科学会総会 (京都), 2000 . 4 .
- 23) 永積惇 : 無症候性脳梗塞の発現率 年齢・基礎疾患に関する検討 . 第25回日本脳卒中学会総会 (東京), 2000 . 4 .
- 24) 岡田牧子 , 長尾毅彦 , 井田正博 , 萩原万里子 , 片山泰朗 , 横地正之 : 脳幹梗塞における椎骨脳底動脈解離の関与の検討 . 第25回日本脳卒中学会総会 (東京), 2000 . 4 .
- 25) 長尾毅彦 , 片山泰朗 , 横地正之 : 心原性脳塞栓症における慢性期抗凝固療法の治療域に関する検討 : 年齢 , 治療年数 , 心房細動病型による分析 . 第25回日本脳卒中学会総会 (東京), 2000 . 4 .
- 26) 山口 博 , 五十嵐博中 , 濱本 真 , 大久保誠二 , 雨宮志門 , 田淵紀子 , 渡辺めぐみ , 永島淳一 , 片山泰朗 : Perfusion MRI : Peak Delay to Input Function (PDIF) 値を用いた脳梗塞急性期における虚血部位の進展予測 . 第25回日本脳卒中学会総会 (東京), 2000 . 4 .
- 27) 大久保誠二 , 五十嵐博中 , 濱本 真 , 永島淳一 , 片山泰朗 : 急性期脳梗塞における Perfusion MRI と HMPAO

- SPECTの局所脳血流量の定量法の比較．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
- 28) 田淵紀子，濱本 真，大久保誠二，渡辺めぐみ，片山泰朗：高齢者虚血性脳血管障害と抗カルジオリピン抗体の関連について．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 29) 中村秀紀，勝又俊弥，西山穰，大鳥達雄，片山泰朗：局所脳血流（rCBF）から見た虚血耐性現象～PreconditioningがrCBFに及ぼす影響～．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 30) 神谷達司，上田雅之，仁藤智香子，有井孝子，赫 彰郎，片山泰朗：Gerbil 60分重度前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用 mitochondrial enzyme, energy metabolitesに及ぼす影響．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 31) 駒場祐一，北村 伸，片山泰朗：大脳皮質脳血管障害患者におけるCrossed cerebellar diaschisisを生じる病巣部位の検討 SPECT study．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 32) 勝又俊弥，中村秀紀，村松浩美，片山泰朗：新規Na⁺, Ca²⁺チャンネルブロッカー（NS-7）の虚血後投与効果についての検討．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 33) 平出智晴，桂研一郎，村松浩美，片山泰朗，浅野伍朗：虚血耐性現象におけるアデノシン受容体の関与について．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 34) 桂研一郎，栗原順一，平出智晴，赫 彰郎，片山泰朗：免疫抑制剤FK506虚血後投与の脳保護作用のメカニズムProtein phosphorylationへの影響．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 35) 下 由美，卜部貴夫，服部信孝，長尾毅彦，横地正之，水野美邦：虚血性脳血管障害における内頸動脈病変と遺伝子多型との関連についての検討．第25回日本脳卒中学会総会（東京），2000．4．
 - 36) 北村 伸，石渡明子，駒場祐一，酒寄 修，片山泰朗：Benzodiazepine受容体イメージングとAlzheimer病患者の予後についての検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 37) 三品雅洋，大山雅史，駒場祐一，北村 伸，片山泰朗，三谷和子，石井賢二，千田道 雄：Parkinson病と舞踏様運動におけるドパミン系節前後機能ブドウ糖代謝比・PETによる検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 38) 上田雅之，三品雅洋，岩淵潔，神谷達司，千田道雄，片山泰朗：脳梁菲薄化を伴う遺伝性痙性麻痺における脳糖代謝とベンゾジアゼピン受容体分布．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 39) 駒場祐一，北村 伸，片山泰朗：SPECTを用いた大脳皮質脳血管障害患者における同側thalamic diaschisisを生じる病巣部位の詳細な検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 40) 中村秀紀，勝又俊弥，西山穰，大鳥達雄，片山泰朗：局所脳血流（rCBF）から見た虚血耐性現象．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 41) 大山雅史，三品雅洋，北村 伸，片山泰朗，千田道雄，石渡喜一，石井賢二：Alzheimer病におけるPET（¹¹C-flumazenil）を用いたbenzodiazepine受容体，脳血流，糖代謝の評価．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 42) 五十嵐博中，濱本 真，大久保誠二，山口 博，片山泰朗：脳梗塞急性期におけるDiffusion MRI, Perfusion MRIによる脳梗塞血流閾値の検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 43) 神谷達司，上田雅之，仁藤智香子，有井孝子，赫 彰郎，片山泰朗：Gerbil 60分重度前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討：mitochondrial enzyme, energy metabolitesに及ぼす影響．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 44) 勝又俊弥，中村秀紀，片山泰朗：新規Na⁺, Ca²⁺チャンネルブロッカー（NS-7）の脳虚血後の投与効果について．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 45) 長尾毅彦，北見聡章，森 豊，越村 勲，平林久吾，横地正之：脳幹梗塞における椎骨脳底動脈解離の関与の検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
 - 46) 仁藤智香子，神谷達司，上田雅之，有井孝子，片山泰朗：Rat局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506と

- 低体温の併用療法による therapeutic window 延長効果の検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 47) 永山 寛，濱本 真，雨宮志門，大久保誠二，片山泰朗：高齢者パーキンソン病診断における補助検査としての MIBG 心筋シンチの位置付け．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 48) 新井裕至，山崎峰雄，片山泰朗，森 修，村松浩美，浅野伍朗： α -synuclein 陽性構造物を辺縁系に局限して認めた Alzheimer 型痴呆（ATD）の臨床病理学的検討：Lewy 小体型痴呆（DLB）との異同．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 49) 大久保誠二，濱本 真，永山 寛，永島淳一，片山泰朗：Cine MRI を用いた中脳水道髄液流速の tap test による変化の検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 50) 萩原 浩，酒巻雅典，西山 穰，片山泰朗：失神発作を主訴とする患者群と脳血管障害との関連についての検討．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 51) 越村 勲，菅野和彦，長尾毅彦，平林久吾，萩原万里子，横地正之，石黒紀昭：パーキンソン病患者の血中 Dopa 濃度：日常測定による治療管理の有用性．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 52) 三谷和子，山之内博，石井賢二，千田道雄，三品洋洋：後頭葉におけるブドウ糖代謝の低下の臨床的意義．第41回日本神経学会総会（松本），2000．5．
- 53) 奥村ともみ，桂研一郎，高田大輔，柏木哲也，金子朋広，清水光義，福地孝明，神谷達司，飯野靖彦，片山泰朗：腎静脈血栓症，肺梗塞を合併した微小変化型ネフローゼ症候群の1例．第481回日本内科学会関東地方会（東京），2000．5．
- 54) 五十嵐博中，濱本 真，大久保誠二，山口 博，有井一正，永島淳一，片山泰朗：Diffusion MRI, Perfusion MRI による脳塞栓急性期所見と病巣の進展：血栓溶解療法の適応決定の指針としての MRI．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 55) 神谷達司，上田雅之，仁藤智香子，有井孝子，赫 彰郎，片山泰朗：Gerbil 60分前脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 の神経保護作用の検討：mitochondrial enzyme, energy metabolites に及ぼす影響．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 56) 勝又俊弥，中村秀紀，片山泰朗：新規 Na⁺, Ca²⁺ チャンネルブロッカー（NS-7）の脳虚血後の投与効果について．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 57) 長尾毅彦，片山泰朗，横地正之：心房細動由来の心原性脳塞栓症における慢性期抗凝固療法の治療域に関する検討（第二報）：基礎疾患，心臓超音波所見による分析．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 58) 永山 寛，濱本 真，雨宮志門，大久保誠二，片山泰朗：高齢パーキンソン病患者のレボドーパ動態の検討．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 59) 雨宮志門，濱本 真，永山 寛，大久保誠二，片山泰朗：高齢脳塞栓症急性期における低容量ヘパリン療法．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 60) 渡辺めぐみ，田淵紀子，濱本 真，永島淳一，大久保誠二，永山 寛，片山泰朗：Cine MRI を用いた中脳水道髄液流速の tap test による変化の検討（2）神経心理検査との関連について．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 61) 仁藤智香子，神谷達司，上田雅之，有井孝子，赫 彰郎，片山泰朗：ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 と軽度低体温の併用療法による therapeutic window 延長効果の検討．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 62) 諏訪 浩，土井永史，中村 満，石倉菜子，伊藤逸生，藤井 潤，一瀬邦弘，長尾毅彦，平林久吾，横地正之：精神症状を伴う parkinsonism に対する電気けいれん療法（ECT）の効果．第18回日本神経治療学会総会（札幌），2000．6．
- 63) 山崎峰雄，山崎昌子，森 修，新井裕至，大秋美治，浅野伍朗，金澤一郎，片山泰朗，中野今治：精神症状，緩徐進行性失語で発症した上位運動ニューロン障害優位の ALS の1剖検例：痴呆を伴う ALS の1型か？．第41

- 回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 64）山崎峰雄，卷淵隆夫，K. -M. Chen，森 修，片山泰朗，高橋 均，小柳清光：パーキンソンニズム，痴呆，眼球運動障害を呈し，視床下核，淡蒼球外節，黒質に神経細胞脱落と神経原線維変化を認め，tuft-shaped astrocytes，argyrophilic grainsを認めた1980年剖検Guam症例．第41回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 65）新井裕至，山崎峰雄，森 修，村松浩美，浅野伍朗，片山泰朗： α -synuclein陽性構造物を辺縁系に局限して認めたAlzheimer型痴呆の臨床病理学的検討 Lewy小体型痴呆との異同．第41回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 66）内原俊記，中村綾子，山崎峰雄，森 修：アルツハイマー病海馬におけるタウ蛋白沈着の多様性：Thiazin Redを用いた蛍光免疫二重染色によるpretangle neuronの特徴．第41回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 67）中村綾子，内原俊記，山崎峰雄，森 修：Thiazin Redを用いた蛍光三重染色の試みタウ蛋白線維化に関連するエピトープの同定をめざして．第41回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 68）森 修，大秋美治，長谷場健，浅野伍朗，亀山孝二，新井裕至，山崎峰雄：Class III alcohol dehydrogenaseのヒト脳における免疫組織化学的局在．第41回日本神経病理学会総会学術研究会（米子），2000．6．
- 69）永積惇，高橋真理子，孟祥英，金内秀士，石井慎二，赫 彰郎，片山泰朗：無症候性脳梗塞の発現率 年齢を中心とした基礎疾患との関係．第9回日本脳ドック学会総会（松江），2000．6．
- 70）孟祥英，永積惇，高橋真理子，金内秀士，石井慎二，赫 彰郎，片山泰朗：無症候性脳梗塞の発現率 性・年齢・基礎疾患・嗜好品との関係．第9回日本脳ドック学会総会（松江），2000．6．
- 71）田中伸幸，臼田和弘，坂本静樹，神谷達司，永積惇，片山泰朗，寺本明：脳ドックで指摘された重篤な脳室内出血をきたした片側性”モヤモヤ”病の1例．第9回日本脳ドック学会総会（松江），2000．6．
- 72）山口 博，五十嵐博中，濱本 真，大久保誠二，渡辺めぐみ，田淵紀子，永島淳一，片山泰朗：脳梗塞急性期におけるperfusion MRIの虚血部位診断能についての検討．第42回日本老年医学会学術集会（仙台），2000．6．
- 73）永山 寛，濱本 真，五十嵐博中，坂本静樹，片山泰朗：心臓MRIで左房内に病変が認められた脳塞栓症の1例．第153回日本神経学会関東地方会（東京），2000．6．
- 74）越村 勲，水越元気，釣巻ゆずり，長尾毅彦，横地正之：皮質梗塞によって生じた”偽性末梢神経障害型”の2例．第153回日本神経学会関東地方会（東京），2000．6．
- 75）岡本淳一，桂研一郎，福地孝明，勝又俊弥，神谷達司，杉崎祐一，中溝宗永，片山泰朗：sIL-2Rの高値を認め悪性リンパ腫との鑑別に苦慮したIIC型早期胃癌の1例．第482回日本内科学会関東地方会（東京），2000．6．
- 76）金子朋広，工藤正道，奥村ともみ，王恒維，鎌野千佐子，柏木哲也，鶴岡秀一，飯野靖彦，片山泰朗： β_2 ミクログロブリン吸着カラム（リクセル）使用の直接血液吸着が有効であったジギタリス中毒症の一透析例．第45回日本透析医学会学術総会（福岡），2000．6．
- 77）柏木哲也，鎌野千佐子，松信精一，奥村ともみ，高田大輔，王恒維，片山泰朗，藤田進彦，高野照夫：心嚢液貯蓄による心不全を繰り返したmultiple myelomaの1例．第45回日本透析医学会学術総会（福岡），2000．6．
- 78）奥村ともみ，松信精一，高田大輔，金子朋広，柏木哲也，清水光義，飯野靖彦，片山泰朗：早期に免疫吸着療法を施行した完全寛解したBickerstaff型脳幹脳炎の1例．第45回日本透析医学会学術総会（福岡），2000．6．
- 79）高田大輔，金子朋広，内海甲一，奥村ともみ，柏木哲也，清水光義，神谷達司，飯野靖彦，片山泰朗：Fabry病を原疾患とする血液透析患者にWeber症候群を合併した1例．第45回日本透析医学会学術総会（福岡），2000．6．
- 80）鎌野千佐子，松信精一，奥村ともみ，高田大輔，王恒維，柏木哲也，金子朋広，清水光義，片山泰朗：efonidipineの投与により薬剤性の腹膜透析液混濁が疑われた1例．第45回日本透析医学会学術総会（福岡），2000．6．

- 81) 酒井行直, 村澤恒男, 宗像一雄, 川村純, 家所良夫, 日置正文, 飯野靖彦: 連発性の促進型拒絶反応が疑われた ABO 血液型不一致腎移植の 1 例. 第 45 回日本透析医学会学術総会 (福岡), 2000 . 6 .
- 82) 石渡明子, 酒寄 修, 北村 伸, 片山泰朗: 加齢に伴う記憶障害患者の臨床および脳血流の経時的変化: 続報. 第 15 回日本老年精神医学会総会 (神奈川), 2000 . 7 .
- 83) 田中伸幸, 桂研一郎, 小島康正, 福地孝明, 神谷達司, 永積 惇, 片山泰朗: 脳ドックにて頭蓋内病変を指摘され, 診断に苦慮した 1 例. 第 483 回日本内科学会関東地方会 (東京), 2000 . 7 .
- 84) 雨宮志門, 大久保誠二, 永山 寛, 濱本 真, 桂研一郎, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: ミトコンドリア脳筋症 (C3256T) の 1 例. 第 68 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2000 . 9 .
- 85) 斎藤サビーネ京子, 水越元気, 五十嵐博中, 臼田和弘, 桂研一郎, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗: 自己免疫性肝炎に合併した重症筋無力症の 1 例. 第 68 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2000 . 9 .
- 86) 田中伸幸, 桂研一郎, 小島康正, 福地孝明, 神谷達司, 永積 惇, 片山泰朗: 無症状, 無治療にて縮小を認め, 診断に苦慮した頭蓋内病変の 1 例. 第 68 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2000 . 9 .
- 87) 大塚美穂, 桂研一郎, 鎌野千佐子, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 勝又俊弥, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: 肺異所性石灰化の著明な改善が認められた慢性維持透析患者の 1 例. 第 68 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2000 . 9 .
- 88) 酒巻雅典, 西山 穰, 五十嵐博中, 萩原 浩, 安藤 順, 知識鉄郎, 片山泰朗: 大梗塞病変での glycerol による mass effect 悪化の可能性と, その抗浮腫作用の MRI を用いての評価. 第 68 回日本医科大学医学会総会 (東京), 2000 . 9 .
- 89) 森 修, 大秋美治, 長谷場健, 亀山孝二, 山崎峰雄, 新井裕至, 清水秀樹, 手塚 潔, 片山博徳, 浅野伍朗: Alzheimer 病 (AD) 脳内 A β -peptide と共発現する class III alcohol dehydrogenase (ADH3). 第 19 回日本痴呆学会総会 (木更津), 2000 . 9 .
- 90) 田中伸幸, 櫻澤 誠, 福地孝明, 坂本静樹, 片山泰朗: トルエン吸入による低カリウム性ミオパチーの 1 例. 第 154 回日本神経学会関東地方会 (東京), 2000 . 9 .
- 91) 大塚美穂, 桂研一郎, 鎌野千佐子, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 勝又俊弥, 神谷達司, 片山泰朗: Ca²⁺ IP 値のコントロールにより肺胃所性石灰化の著明な改善が認められた 1 例. 第 484 回日本内科学会関東地方会, 2000 . 9 .
- 92) 岸雄一郎, 柏木哲也, 桂研一郎, 福地孝明, 神谷達司, 金子朋広, 林 美穂, 飯野靖彦, 大橋隆治, 片山泰朗: Unusual light chain deposition disease pattern を呈した多発性骨髄腫の 1 例. 第 485 回日本内科学会関東地方会 (東京), 2000 . 10 .
- 93) 菅沼恵美子, 臼田和弘, 熊谷智昭, 山口 博, 福地孝明, 桂研一郎, 五十嵐博中, 片山泰朗: 頸部 MRI で硬膜外静脈の拡張を認めた特発性低髄液圧症候群 (SIH) の 1 例. 第 28 回頭痛学会総会 (岡山), 2000 . 11 .
- 94) 瀬田健博, 桂研一郎, 福地孝明, 永山 寛, 内海甲一, 神谷達司, 片山泰朗: ウエルニッケ脳症後の遷延した傾眠傾向, 意欲低下に対し, ヒルトニン (TRH) が著効を示した 1 例. 第 486 回日本内科学会関東地方会 (東京), 2000 . 11 .
- 95) 三品雅洋, 大山雅史, 北村 伸, 片山泰朗, 石井賢二, 織田圭一, 石井信一, 佐々木徹, 石渡喜一, 千田道雄, 駒場祐一: 非痴呆 Parkinson 病における脳ブドウ糖代謝の検討. 第 40 回日本核医学会総会 (神戸), 2000 . 11 .
- 96) 大山雅史, 三品雅洋, 千田道雄, 石井賢二, 織田圭一, 木村裕一, 片山泰朗: SPM における異なる template による解剖学的標準化の検討. 第 40 回日本核医学会総会 (神戸), 2000 . 11 .
- 97) 王 恒維, 森 貴博, 大沢弘和, 清水 章, 葉山修陽, 飯野靖彦: 慢性腎症に IgA 腎症が合併したと考えられた 1 例. 第 30 回日本腎臓学会東部学術大会 (東京), 2000 . 11 .
- 98) 武井寛之, 大沢弘和, 駒場祐一, 葉山修陽, 清水 豊, 森 貴博, 飯野靖彦, 片山泰朗: クモ膜下出血を合併した Wegener 肉芽腫の 1 例. 第 30 回日本腎臓学会東部学術大会 (東京), 2000 . 11 .

- 99) 鎌野千佐子, 松信精一, 柏木哲也, 橋本和政, 清水光義, 五十嵐博中, 飯野靖彦, 片山泰朗: 若年性上矢状静脈洞血栓症を合併した血液透析患者の症例. 第30回日本腎臓学会東部学術大会(東京), 2000. 11.
- 100) 岡田牧子, 高田大輔, 王 恒維, 中村 正, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 松信精一, 河辺満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: サルコイドーシスの腹膜病変によって腹膜透析の施行が困難となった1例. 第30回日本腎臓学会東部学術大会(東京), 2000. 11.
- 101) 岸雄一郎, 柏木哲也, 金子朋広, 林 美穂, 清水光義, 飯野靖彦, 片山泰朗, 大橋隆治: Unusual light chain deposition disease patternを呈した多発性骨髄腫の1例. 第30回日本腎臓学会東部学術大会(東京), 2000. 11.
- 102) 五十嵐博中, 片山泰朗, I. L. Kwee, 中田力: 脳虚血急性期におけるNAA, lactateの動態と慢性期病理所見の比較. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 103) 福地孝明, 桂研一郎, 五十嵐博中, 松信精一, 神谷達司, 片山泰朗: ネフローゼ症候群患者での局所脳血流量に関する検討. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 104) 桂研一郎, 栗原順一, 平出智晴, 赫 彰郎, 片山泰朗: 免疫抑制剤FK506の虚血直後投与の脳保護作用: Protein phosphorylationへの影響. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 105) 勝又俊弥, 中村秀紀, 片山泰朗: 新規Na⁺, Ca²⁺チャンネルブロッカー(NS-7)の脳虚血後の投与効果について. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 106) 駒場祐一, 三品雅洋, 千田道雄, 石井賢二, 小林士郎, 北村 伸, 片山泰朗: 脳底椎骨動脈系の形成不全を伴う脳血管遺残動脈症例の脳循環代謝の検討. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 107) 平出智晴, 桂研一郎, 村松浩美, 浅野伍朗, 片山泰朗: 虚血耐性現象のメカニズム: アデノシン受容体の関与について. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 108) 酒巻雅典, 西山 穰, 五十嵐博中, 萩原 浩, 安藤 順, 知識鉄郎, 片山泰朗: 脳梗塞におけるglycerol抗浮腫効果: MRIを用いた検討. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 109) 仁藤智香子, 神谷達司, 上田雅之, 有井孝子, 赫 彰郎, 片山泰朗: Rat局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506と軽度低体温の併用療法によるtherapeutic window延長効果の検討. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 110) 中村秀紀, 勝又俊弥, 片山泰朗: 局所脳血流(rCBF)から見た虚血耐性現象~PreconditioningがrCBFに及ぼす影響~. 第12回日本脳循環代謝学会総会(仙台), 2000. 12.
- 111) 和泉里江子, 雨宮志門, 五十嵐博中, 坂本静樹, 片山泰朗, 石井賢二: Clobazamが有効であった難知性単純部分てんかんの1例. 第155回日本神経学会関東地方会(東京), 2000. 12.
- 112) 岡田牧子, 桂研一郎, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 松信精一, 福地孝明, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: ネフローゼ症候群とT細胞性前リンパ球性白血病を併発した1例. 第487回日本内科学会関東地方会(東京), 2000. 12.
- 113) 藤田有子, 雨宮守正, 岸雄一郎, 金子明弘, 新井弘一, 高橋秀明, 池田裕美, 浅野 泰, 飯野靖彦, 片山泰朗: メトヘモグロビン血症に対しメチレンブルーの経口投与が有効であった症例. 第487回日本内科学会関東地方会(東京), 2000. 12.
- 114) 片倉珠樹, 桂研一郎, 柏木哲也, 鎌野千佐子, 橋本和政, 松信精一, 福地孝明, 神谷達司, 飯野靖彦, 片山泰朗: 好酸球性血管性浮腫が疑われた症例. 第488回日本内科学会関東地方会(東京), 2001. 2.
- 115) 福地孝明, 桂研一郎, 五十嵐博中, 松信精一, 神谷達司, 片山泰朗: 局所脳血流量のネフローゼ症候群患者での検討. 第26回日本脳卒中学会総会(大阪), 2001. 3.
- 116) 桂研一郎, 栗原順一, 片山泰朗: アシドーシスの脳虚血再灌流障害に及ぼす影響: protein phosphorylationへの影響. 第26回日本脳卒中学会総会(大阪), 2001. 3.
- 117) 仁藤智香子, 神谷達司, 上田雅之, 有井孝子, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける低体温療法の脳保護効果増強の試み: 低体温+免疫抑制剤FK506併用療法. 第25回日本脳卒中学会総会(大阪), 2001. 3.

- 118) 神谷達司, 仁藤智香子, 村松浩美, 上田雅之, 雨宮志門, 加藤健吾, 片山泰朗: ラット局所脳虚血モデルにおける選択的抗トロンピン薬アルガトロパンの神経保護作用の検討: 35 °C 軽微低体温との併用療法. 第25回日本脳卒中学会総会 (大阪), 2001. 3.
- 119) 勝又俊弥, 片山泰朗: 新規 Na⁺, Ca²⁺ チャンネルブロッカー (NS-7) の脳虚血後投与の時間的閾値について. 第26回日本脳卒中学会総会 (大阪), 2001. 3.
- 120) 山口 博, 五十嵐博中, 濱本 真, 大久保誠二, 雨宮志門, 田淵紀子, 渡辺めぐみ, 永島淳一, 片山泰朗: Diffusion/Perfusion MRI による脳塞栓急性期所見と病巣の進展: 急性期脳灌流画像と慢性期所見との比較. 第26回日本脳卒中学会総会 (大阪), 2001. 3.
- 121) 田中紀子, 中沢 勝, 桂研一郎, 坂本静樹, 片山泰朗: r-グロブリン静注と免疫吸着が奏功した脳幹脳炎の1例. 第156回日本神経学会関東地方会 (東京), 2001. 3.
- 122) 櫻井 淳, 萩原万里子, 横地正之, 井田正博, 船田信顕: 広範な脳底動脈解離を来し, 急激に死亡に至った若年女性の1例. 第156回日本神経学会関東地方会 (東京), 2001. 3.
- 123) 菅沼恵美子, 桂研一郎, 山口 博, 福地孝明, 五十嵐博中, 神谷達司, 片山泰朗: 硬膜外静脈拡張が頸部MRI で認められた特発性低髄液圧症候群 (SIH) の1例. 第489回日本内科学会関東地方会 (横浜), 2001. 3.
- 1) 長尾毅彦: アルツハイマー型痴呆の診断と治療. 田園調布医師会学術講演会特別講演 (東京), 2000. 1.
 - 2) 越村 勲, 清水宏泰, 長尾毅彦, 横地正之: 先行感染, 深部腱反射消失, 小脳失調症状を認めたが, 血漿交換療法を適応しなかった1例. 第5回湾岸地区神経学フォーラム, 2000. 2.
 - 3) 加藤健吾, 小南修史, 駒場祐一, 三品雅洋, 酒井直之, 山崎道生, 寺尾 健, 斎藤寛浩, 村井保夫, 鈴木紀成, 水成隆之, 小林士郎, 岡田 進, 片山泰朗, 寺本 明: 脳底動脈塞栓症に対する急性期血栓溶解療法の1例. 第40回東葛地区脳神経外科研究会 (浦安), 2000. 3.
 - 4) 酒井直之, 村井保夫, 山崎道生, 寺尾 健, 雨宮志門, 斎藤寛浩, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 駒場祐一, 水成隆之, 小林士郎: 内頸動脈解離に対してRA graftを施行した1例. 第40回東葛地区脳神経外科研究会 (浦安), 2000. 3.
 - 5) 駒場祐一, 酒井直之, 山崎道生, 寺尾 健, 雨宮志門, 斎藤寛浩, 村井保夫, 鈴木紀成, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 寺本 明, 岡田 進: 小脳脳血管障害患者におけるcrossed cerebello cerebral diaschisisの検討・SPECT study. 第31回千葉核医学研究会 (千葉), 2000. 4.
 - 6) 緑川 晶, 河村 満, 長尾毅彦: 画像失認の病態と機序. 第11回関東臨床神経心理研究会 (東京), 2000. 4.
 - 7) 渡辺綾子, 柏木哲也, 金子朋広, 飯野靖彦, 片山泰朗, 石黒 望, 窪田 実: 多発性嚢胞腎 (ADPKD) のCAPD症例について. 第10回東京PD (腹膜透析) 研究会 (東京), 2000. 5.
 - 8) 森 修, 長谷場健, 亀山孝次, 大秋美治, 山崎峰雄, 新井裕至, 浅野伍朗: Alzheimer病老人斑 -amyloid (A β) と共発現するclass III alcohol dehydrogenase (ADH) の役割: A β 凝集と細胞障害への関与. 第56回日本電子顕微鏡学会学術講演会 (東京), 2000. 5.
 - 9) 長尾毅彦: 血液からみた脳梗塞. 第13回大田区脳血管障害研究会 (東京), 2000. 6.
 - 10) 酒巻雅典, 西山 穰, 五十嵐博中, 萩原 浩, 安藤 順, 知識鉄郎, 片山泰朗: 大梗塞病変でのglycerolによるmass effect悪化の可能性と, その抗浮腫作用のMRIを用いての評価. 脳浮腫・頭蓋内圧研究会 (東京), 2000. 7.
 - 11) 岡田牧子, 高田大輔, 臼田和弘, 柏木哲也, 中村 正, 清水光義, 坂本静樹, 河辺満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: サルコイドーシスの腹膜病変によってCAPDの施行が困難となった1例. 第21回腹膜透析研究会 (徳島), 2000. 9.
 - 12) 長尾毅彦: 脳梗塞の血栓止血学的治療戦略. 第19回城南神経内科懇和会 (東京), 2000. 10.
 - 13) 石渡明子: 加齢に伴う記憶障害患者の臨床及び脳血流の経時的変化. 第4回アルツハイマー病脳SPECT研究会 (東京), 2000. 10.

- 14) 五十嵐博中, 片山泰朗, I. L. Kwee, 中田 力: 脳虚血急性期における NAA, lactate の動態と慢性期病理所見の比較. 第 16 回 ¹³C 医学応用研究会 (新潟), 2000. 11.
- 15) 三品雅洋, 駒場祐一, 萩原 浩, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗, 三谷和子, 石井賢二, 千田道雄: SPM99 を用いた痴呆のない Parkinson 病患者のブドウ糖代謝の検討. 第 32 回千葉核医学研究会 (千葉), 2000. 11.
- 16) 長尾毅彦: 痴呆の患者さんを診るときに気をつけていること. 田園調布医師会勉強会特別講演 (東京), 2000. 11.

[付属病院リウマチ外科]

研究概要

リウマチ外科における研究課題は, 関節リウマチ (RA) ・全身性変形性関節症 (JOA) などのトータルマネージメントと, 滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究, 全身性エリテマトーデス, 強皮症, 多発性筋炎等の膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御に関する検討を行っている.

より具体的に述べれば, 臨床研究として 1) 根治的他関節滑膜切除術 (RaMs) による関節リウマチの集学的治療法, 2) より大きな可動域を追及した人工膝関節システムの開発, 3) 慢性関節リウマチ患者さんの全人的ケアのため 心と病の関係を客観的に知る目的で精神・神経・内分泌システムの相関に関する研究を中心として行っている.

一方, 基礎的研究としては, 1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与, 2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用, 3) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御, 4) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析, Th1/Th2 誘導に関する分子群の同定とその機能, 5) JOA 発症における免疫学的機序の解明, などを行っている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nakamura H, Nagashima M, Ishigami S, Wauke K, Yoshino S: The Anti-rheumatic effect of multiple synovectomy in patients with refractory rheumatoid arthritis. *International Orthopaedics* 2000; 24 (5): 242-245.
- 2) Hirohata S¹⁾, Yanagida T¹⁾, Nakamura H, Yoshino S, Tomita T²⁾, Ochi T²⁾ (¹⁾ Dept. of Internal Medicine, Teikyo Univesity School of Medicine, ²⁾ Dept. of Orthopedic Surgery, Osaka University Medical School): Bone marrow CD34⁺ progenitor cells from rheumatoid arthritis patients support spontaneous transformation of peripheral blood B cells from healthy individuals. *Rheumatol Int* 2000; 19 (4): 153-159.
- 3) Yamashita T, Yoshino S, Nagashima M, Saitou K, Shu G, Matsuoka T, Yamahatsu S, Yamamoto K, Nakamura H: Prevalence of cervical lesions in rheumatoid arthritis: cross-sectional study on 263 patients. *Mod Rheumatol* 2000; 10 (7): 211-215.
- 4) Nakajima A, Oshima H¹⁾, Nohara C²⁾, Morimoto S³⁾, Yoshino S, Kobata T³⁾, Yagita H³⁾, Okumura K³⁾ (¹⁾ 東大・第一外科, ²⁾ 順天堂大・医・神経内科, ³⁾ 順天堂大・医・免疫): Involvement of CD70 / CD27 interactions in the induction of experimental autoimmune encephalomyelitis. *J. Neuroimmunol.* 2000; 109 (2): 188-196.
- 5) Mukai E, Nagashima M, Hirano D, Yoshino S: Comparative study of symptoms and neuroendocrine-immune network mediator levels between rheumatoid arthritis patients and healthy subjects. *Clinical and Experimental Rheumatology* 2000; 18 (5): 585-590.

- 6) Yoshioka T , Nakajima A , Akiba H¹²⁾ , Ishiwata T³⁾ , Asano G³⁾ , Yoshino S , Yagita H¹²⁾ , Okumura K¹²⁾ (¹⁾Dept. of Immunology, Jyuntendo University, School of Medicine , ²⁾CREST, Japan Science and Technology Corporation , ³⁾Dept. of Pathology, Nippon Medical School): Contribution of OX40 / OX40 ligand interaction in the pathogenesis of rheumatoid arthritis . Eur. J. Immunol. 2000 ; 30 (10) : 2815-2823 .
- 7) Nagashima M , Asano G¹⁾ , Yoshino S (¹⁾Dept. of Pathology Nippon Medical School): Imbalance in Production Between Vascular Endothelial Growth Factor and Endostatin in Patients with Rheumatoid Arthritis . J Rheumatol 2000 ; 27 (10) : 2339-2342 .
- 8) Nagashima M , Wauke K , Hirano D , Ishigami S , Aono H¹⁾ , Takai M¹⁾ , Sasano M¹⁾ (¹⁾Developmental Research Division, Santen Pharmaceutical Co. , Ltd): Effects of combinations of anti-rheumatic drugs on the production of vascular endothelial growth factor and basic fibroblast growth factor in cultured synoviocytes and patients with rheumatoid arthritis . Rheumatology 2000 ; 39 (11) : 1255-1262 .
- 9) Nakazawa M¹⁾ , Ishi H , Nakamura H¹⁾ , Yoshino S , Fukamizu A²⁾ , Nishioka K¹⁾ , Nakajima T¹²⁾ (¹⁾Rheumatology, Immunology and Genetics Program, Institute of Medical Science, St. Marianna University, School of Medicine , ²⁾Institute of Applied Biochemistry, University of Tsukuba): NFkB2 (p52) promoter activation via Notch signaling pathway in rheumatoid synoviocytes . International Journal of Molecular Medicine 2001 ; 7 (1) : 31-35 .
- 10) Nakamura H¹⁾ , Mukai E , Hirano D , Matsuhisa T²⁾ , Yamada N³⁾ , Yoshino S (¹⁾Institute of Medical Science, St. Marianna University , ²⁾Dept. of Gastrointestinal Endoscopy, Nippon Medical School , ³⁾Dept. of Pathology, Nippon Medical School): Gastrointestinal disorder and *Helicobacter pylori* infection in patients with rheumatoid arthritis . Mod Rheumatol 2001 ; 11 (1) : 23-27 .
- 11) Nohara C¹²⁾ , Akiba H²⁾ , Nakajima A , Inoue A³⁾ , Koh Chang-S³⁾ , Ohshima H⁴⁾ , Yagita H²⁾ , Mizuno Y¹⁾ , Okumura K²⁾ (¹⁾順天堂大・医・神経内科 , ²⁾順天堂大・医・免疫 , ³⁾信州大・医・第三内科 , ⁴⁾東大・医・第一外科): Amelioration of Experimental Autoimmune Encephalomyelitis with Anti-OX 40 Ligand Monoclonal Antibody : A Critical Role for OX 40 Ligand in Migration, But Not Development, of Pathogenic T Cells . J. Immunol. 2001 ; 166 (3) : 2108-2115 .
- 12) Morishita M , Yamahatsu S , Ohkuni H¹⁾ , Nagashima M (¹⁾Division of Immunology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, Kanagawa): Streptococcal toxic shock syndrome in a patient with rheumatoid arthritis . Clinical and Experimental Rheumatology 2001 ; 19 (2) : 231-232 .
- 13) Hirano D , Nagashima M , Ogawa R¹⁾ , Yoshino S (¹⁾Dept. of Anesthesia Nippon Medical School): Serum Levels of Interleukin 6 and Stress Related Substances Indicate Mental Stress Condition in Patients with Rheumatoid Arthritis . The Journal of Rheumatology 2001 ; 28 (3) : 490-495 .
- 14) 田中秀和 , 吉野槇一 , 永島正一 : 人工膝関節全置換術 . リウマチ科 2001 ; 25 (2) : 130-135 .
- 15) 和宇慶晃一 , 永島正一 , 吉野槇一 : 下肢手術における深部静脈血栓症と肺塞栓症 . リウマチ科 2001 ; 25 (3) : 263-268 .
- (2) 総説 :
- 1) 吉野槇一 , 小山泰朗 : 楽しい笑いと慢性関節リウマチ患者 . リウマチ 2000 ; 40 (3) : 651-658 .
- 2) 吉野槇一 , 田中秀和 , 石神 伸 , 永島正一 : 慢性関節リウマチ診療と病診連携 . 最新医学 2000年 別冊 (慢性関節リウマチ病因・病態解明と治療の最前線) 2000 ; 206-210 .
- 3) 田中秀和 , 永島正一 , 吉野槇一 : もっと知りたいあの病気「関節リウマチ」 . 看護技術 2000 ; 46 (11) : 7-13 .
- 4) 平野大地 , 永島正一 , 吉野槇一 : 肘から手関節 , 手指に痛みを訴える骨・関節疾患 . 痛みと臨床 2001 ; 1 (1) : 17-23 .

著 書

- 1) 永島正一, 吉野横一: [共著] NSAIDsとニューキノロン系抗菌剤: 痙攣の発現. 第2版 この薬の多剤併用副作用 (松田重三), 2000; pp262-265, 医歯薬出版.
- 2) 永島正一: [共著] コラーゲン, パンヌス. リウマチナビゲーター (中村耕三・山本一彦・原まさ子), 2001; pp44-47, メディカルレビュー社.
- 3) 吉野横一, 山崎純司: [共著] 滑膜切除術. リウマチナビゲーター (中村耕三, 山本一彦, 原まさ子), 2001; pp232-233, メディカルレビュー社.
- 4) 志賀弘朗, 立原章年, 松岡利明, 吉野横一: [共著] リウマチのQOLと心理. リウマチナビゲーター (中村耕三, 山本一彦, 原まさ子), 2001; pp278-279, メディカルレビュー社.
- 5) 和宇慶晃一, 吉野横一: [共著] 5. 関節液 (第2部 臨床検査値の読み方と位置づけ C. 穿刺液検査). 臨床検査診断マニュアル (古澤新平・金山正明・橋本博史), 2001; pp178-180, 永井書店.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 吉野横一, 永島正一, 田中秀和, 和宇慶晃一, 小川 龍¹⁾, 加藤信也¹⁾(¹⁾麻酔科): RA手術 術前 術後管理 (慢性関節リウマチの外科的治療). 第73回日本整形外科学会学術集会, 2000. 4.
- 2) 吉野横一, 永島正一, 田中秀和, 和宇慶晃一, 石神 伸: リウマチセンターに求められるもの, 特に当科に診療情報提供書をも持って来院されたRAならびにその近似疾患患者の実態 (リウマチ診療体制: 地域・リウマチセンター). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 3) 吉野横一, 永島正一, 平野大地, 高橋 央, 相川幸彦¹⁾(¹⁾富山化学工業総合研究所): 関節リウマチ患者ならびにアジュバント関節炎ラットの神経, 内分泌, 免疫系に対する精神的ストレス刺激の影響 (リウマチ性疾患と神経・内分泌・免疫系について). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 4) 田中秀和, 永島正一, 吉野横一, 高柳和江¹⁾, 木村哲彦¹⁾(¹⁾医療管理学): 当科におけるRA患者の治療とケア, プランニング, 医療費などについて (リウマチのクリティカルパスを中心に). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.

(2) ワークショップ:

- 1) 吉野横一: 社会保険委員会の立場をふまえてRA, MRAの医学用語変更に関する私見 (RA, MRA, JRAの医学用語変更に関して). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 2) 田中秀和, 倉井年幸, 菊池 修, 小山泰朗, 富田真智子, 永島正一, 吉野横一: 当科における長期メソトレキセート (MTX) 投与患者のsurvival rateについて (RAの治療: MTX). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 3) 永島正一, 吉野横一, 田中秀和, 和宇慶晃一, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第二): SCIDマウスへの移植滑膜組織における血管新生と増殖のメカニズム (R: 滑膜の血管増殖). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 4) 和宇慶晃一, 永島正一, 田中秀和, 吉野横一, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第二): 関節リウマチの関節滑膜におけるVEGF-CおよびVEGFR-3遺伝子の発現について (R: 滑膜の血管増殖). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- 5) 富田真智子, 菊池 修, 倉井年幸, 小山泰朗, 田中秀和, 永島正一, 吉野横一, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科第二): ヘパーデン結節患者における各種甲状腺自己抗体の陽性率について (変形性関節症の基礎と臨床). 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.

(3) 一般講演:

- 1) Wauke K, Nagashima M, Tachihara A, Yoshino S: Expression and localization of VEGF-C and VEGFR-3

- in the synovial tissues of rheumatoid arthritis . The 9th APLAR Congress of Rheumatology (北京), 2000 . 5 .
- 2) Nagashima M , Yoshino S , Wauke K , Hirano D : Imbalance in producton between vascular endothelial growth factor and endstation in patients with rheumatoid arthritis-significance of angiogenesis inhibitor therapy . The 9th APLAR Congress of Rheumatology (北京), 2000 . 5 .
 - 3) Nagashima M , Yoshino S , Ishigami S : Hy-Flex II Total Knee and Ligament Balancing System : Design and Clinical Results in the Rheumatoid knee . British Orthopaedic Association Japanese Orthopaedic Association Combined Congress 2000 (ロンドン), 2000 . 10 .
 - 4) Nagashima M , Wauke K , Kato S¹⁾ , Ogawa R¹⁾ , Yoshino S (¹⁾ Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Thromboembolism and Total knee arthroplasty with or without tourniquet . 6th Combined Symposium of ARO with the Japanese Society for Rheumatoid Arthritis Surgery (JSRAS)(神戸), 2000 . 10 .
 - 5) Wauke K , Nagashima M , Kato S¹⁾ , Ogawa R¹⁾ , Yoshino S (¹⁾ Dept. of Anesthesiology, Nippon medical School): Thromboembolism and Total knee Arthroplasty with or without tourniquet . American college of Rheumatology 64th Annual Scientiic Meeting (Philadelphia), 2000 . 10 .
 - 6) Tanaka H , Nagashima M , Hasegawa J , Hirano D , Yoshino S : Effects of intermittent cyclical etidronate therapy (ICET) on bone resorption and osteogenesis in patients with rheumatoid Arthritis . American College of Rheumatology 64th Annual Scientific Meeting (Philadelphia), 2000 . 10 .
 - 7) Ishii H , Nakazawa M¹⁾ , Yoshino S , Nakamura H , Nishioka K¹⁾ , Nakajima T¹⁾ (¹⁾ Dep. of Genome Science, Institute of Medical Science, St. Marianna University School Medicine): Notch-1 signal activation in rheumatoid synoviocytes . American College of Rheumatology 64th Annual Scientific Meeting (Philadelphia), 2000 . 10 .
 - 8) Hirohata S¹⁾ , Yanagida T¹⁾ , Nakamura H , Yoshino S , Tomita T²⁾ , Ochi T²⁾ (¹⁾ Dep. of Internal Medicine, Teikyo University , ²⁾ Dep. of Orthopedics, Osaka University): Induction of type B synoviocyte-like cells from CD34+ progenitor cells of the bone marrow in rheumatoid arthritis : The role of tumor necrosis factor- . American College of Rheumatology 64th Annual Scientific Meeting (Philadelphia), 2000 . 10 .
 - 9) Nakajima A , Seroogy CM¹⁾ , Tarner IH¹⁾ , Costa GL¹⁾ , Sandora MR¹⁾ , Taylor-Edwards C¹⁾ , Fathman CG¹⁾ (¹⁾ Division of Immunology & Rheumatology Stanford University School of Medicine): Retrovirus-mediated transduction of interleukin-12 p40 subunit into T lymphocytes ameliorates collgen-induced arthritis . 64 st National Meting, american College of Rheumatology (Philadelphia), 2000 . 10 .
 - 10) 石井博泰 , 中澤美奈子¹⁾ , 吉野槇一 , 小端哲二²⁾ , 西岡久寿樹¹⁾ , 中島利博³⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター臨床遺伝 , ²⁾ 独協医科大学医学総合研究所免疫学 , ³⁾ 筑波大学応用生物化学系): 慢性関節リウマチ (RA) 滑膜でのNotch-1の発現とその活性化 . 第44回日本リウマチ学会総会 , 2000 . 5 .
 - 11) 菊池 修 , 富田真智子 , 天野浩文 , 永島正一 , 吉野槇一 , 柏木哲也¹⁾ , 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科第二): 上部消化管穿孔を起こしたP-ANCA陽性悪性関節リウマチ (MRA) の1例 . 第41回関東リウマチ研究会 , 2000 . 6 .
 - 12) 加藤 興 , 吉野槇一 , 永島正一 , 加藤 正¹⁾ (¹⁾ 聖テレジア病院): 当院におけるアンケート調査からみた外反母趾 . 第25回日本足の外科学会 , 2000 . 6 .
 - 13) 永島正一 , 吉野槇一 , 田中秀和 , 石渡俊行¹⁾ , 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理第二): 関節リウマチにおけるHGF-activator, HGFおよびc-Metの役割 . 第21回日本炎症学会 , 2000 . 7 .
 - 14) 田中秀和 , 吉野槇一 , 永島正一 , 和宇慶晃一 , 横山宗伯¹⁾ , 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理第二): 関節リウマチ滑膜組織におけるopioid peptideおよびそのreceptorの産生と局在 . 第21回日本炎症学会 , 2000 . 7 .
 - 15) 石井博泰 , 吉野槇一 , 永島正一 , 和宇慶晃一 , 富田真智子 , 倉井年幸 : 関節リウマチ患者における人工膝関節全置換術後早期に合併した深部静脈血栓症および肺塞栓症の1例 . 第29回リウマチの外科研究会 , 2000 . 8 .

- 16) 永島正一, 吉野慎一, 長谷川潤, 加藤 興, 山崎純司, 石井博泰: Etidronate投与による関節リウマチ患者の骨吸収および炎症抑制効果. 第2回ビスフォスフォネートフォーラム, 2000. 8.
- 17) 金子礼志, 小笠原均¹⁾, 内藤俊夫²⁾, 秋元広明¹⁾, 菱川隆史¹⁾, 関川 巖³⁾, 丸山直記⁴⁾, 金子有太郎⁵⁾, 奥村康⁶⁾, 吉野慎一 (¹⁾順天堂大学・医・膠原病内科, ²⁾順天堂大学・医・総合診療科, ³⁾順天堂伊豆長岡病院・内科, ⁴⁾東京都老人病研究所・分子病理, ⁵⁾味ノ素株式会社・医薬部): 自己免疫疾患におけるヒト内在性レトロウイルス病学. 第1回熊本エイズセミナー, 2000. 9.
- 18) 石井博泰, 吉野慎一, 永島正一, 田中秀和, 和宇慶晃一, 平野大地, 山崎純司: 人工関節置換術後の肺血栓症について. 第3回東京リウマチ膠原病研究会, 2000. 10.
- 19) 山崎純司, 石神 伸, 永島正一, 和宇慶晃一, 倉井年幸, 小山泰朗, 吉野慎一: Hy-Flex II 人工膝関節の術後成績: full flexion症例を中心に. 第28回日本リウマチ・関節外科学会, 2000. 10.
- 20) 平野大地: IL-6とコルチゾールはストレスマーカーとして利用できるか. 第7回日本医科大学内分泌懇話会, 2000. 11.
- 21) 丹野 亮, 佐野茂夫¹⁾, 木村雅弘¹⁾, 石井桂輔¹⁾, 荒居聖子¹⁾, 横田直正¹⁾(¹⁾三楽病院 整形外科): 慢性関節リウマチの腰椎病変に対する脊椎インストゥルメンテーション. 第49回東日本整形災害外科学会, 2000. 12.
- 22) 吉岡太郎, 山崎隆志¹⁾, 斯波卓哉¹⁾, 小久保吉恭¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 岩瀬育男²⁾(¹⁾武蔵野赤十字病院整形外科, ²⁾松井外科病院整形外科): 高齢者の大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術後の大腿骨骨折の治療. 第49回東日本整形災害外科学会, 2000. 12.
- 23) 山下倫世, 山本宗宏, 山崎純司, 金子礼志, 阿部信二¹⁾, 喬 炎²⁾, 工藤翔二¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 吉野慎一 (¹⁾内科第四, ²⁾病理第二): ニューモシシス・カリーニ, カンジダ, サイトメガロウイルス肺炎により死亡した関節リウマチの1例. 第11回日本リウマチ学会関東地方会, 2000. 12.
- (4) ポスター:
- 1) 金子礼志, 内藤俊夫³⁴⁾, 小笠原均²⁾, 関川 巖⁵⁾, 奥村 康⁶⁾, 吉野慎一, 橋本博史²⁾, Danuta K¹⁾(¹⁾Dept. Microbiol. & Immunol. Temple Univ., ²⁾順天堂大・医・膠原病, ³⁾順天堂大・医・総合診療, ⁴⁾Cent. Neurovirol. & Cancer Biol. Temple Univ., ⁵⁾順天堂大・伊豆長岡病院・内科, ⁶⁾順天堂大・医・免疫): 経口DNAワクチンによるHIV抵抗性腸管粘膜免疫能の誘導. 第30回日本免疫学会総会, 2000. 11.
- 2) 永島正一, 吉野慎一, 平野大地, 石井博泰: SCIDマウスへのヒト移植滑膜組織の血管新生と滑膜細胞増殖のメカニズム. 第30回日本免疫学会総会, 2000. 11.
- 3) 石井博泰, 中澤美奈子¹⁾, 吉野慎一, 西岡久寿樹¹⁾, 中島利博^{1, 2)}(¹⁾聖マリアンナ医大・難治研・臨床遺伝, ²⁾筑波大・応用生物化学系): 慢性関節リウマチ(RA)の滑膜細胞におけるNotchホモログの発現について. 第30回日本免疫学会総会, 2000. 11.
- (5) 指定発言:
- 1) 永島正一, 郡司直哉, 田中秀和, 吉野慎一: 関節リウマチ患者におけるオピオイドレセプターの発現と炎症との関連. 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.
- (6) 症例報告:
- 1) 角本土幸, 平野大地, 永島正一, 吉野慎一, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第二): 関節リウマチに合併したProtein S欠損症: 人工関節置換術後肺血栓症をおこした1例. 第44回日本リウマチ学会総会, 2000. 5.

3. 内科学第三講座

[付属病院第 3内科 (血液 , 消化器 , 内分泌代謝内科)]

研究概要

血液学領域の基礎的研究では

(1) 造血器悪性腫瘍の発症メカニズム, 遺伝子異常と病態との関連に関する研究, (2) 急性白血病の微小残存病変に関する研究, (3) 骨髄異形成症候群の病態に関する細胞生物学的研究, (4) 造血機構, 特に巨核球・血小板造血に関する基礎的研究, などを重点的に行い,

臨床研究では

(1) 造血器腫瘍に対する造血細胞移植療法に関する検討, (2) 急性白血病の予後因子に関する研究, (3) 造血器腫瘍の治療成績に関する検討, などを行い, また積極的に開発治験に参加した.

消化器病学の領域では臨床研究と基礎研究がなされている.

臨床研究としては

食道運動機能の病態生理学的解析に関する研究, *Helicobacter pylori* 胃炎の除菌治療後の変化に関する研究, 門脈圧亢進症に対する TIPS 治療の病態に及ぼす影響に関する研究, 大腸腺腫の病態に関する研究がある.

基礎研究としては

胃炎や大腸腺腫に発現する cyclooxygenase-2 (COX-2) の胃炎, 胃潰瘍修復反応に及ぼす影響や, 大腸腺腫から癌化に至る過程での役割に関する研究などが行われている.

内分泌代謝領域の基礎的研究では

(1) Growth hormone-releasing hormone (GHRH) と性ステロイドの関係 (2) Growth hormone secretagogue (GHS) 受容体の同定, 発現調節 (3) グレリンの中枢作用, 特に摂食促進物質との関係 (4) 甲状腺腫瘍と FGF の関係 (5) レプチンの発現調節 (6) apo E Sendai の変異体である apo E Sendai 高発現の病態 (7) 脂質過酸化の増加について報告した.

臨床的研究では厚生省特定疾患調査研究班-原発性高脂血症調査研究, 健康科学総合研究事業・多施設共同糖尿病研究, 慢性疾患総合研究事業に参加した.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tatsuguchi A, Sakamoto C, Wada K, Akamatsu T, Tsukui T, Miyake K, Futagami S, Kishida T, Fukuda Y, Yamanaka N, Kobayashi M: Localisation of cyclooxygenase 1 and cyclooxygenase 2 in *Helicobacter pylori* related gastritis and gastric ulcer tissues in humans. *Gut* 2000; 46 (6): 782-789.
- 2) Tatsuguchi A, Sakamoto C, Fukuda Y¹⁾, Wada K, Akamatsu T, Tsukui T, Miyake K, Futagami S, Kishida T, Yamanaka N¹⁾, Kobayashi M (¹⁾Department of Pathology): Induction of cyclooxygenase-2 in mesothelial cells in peritonitis caused by perforated ulcers - an immunohistochemical study in humans. *Aliment Pharmacol Ther* 2000; 14 (Suppl. 1): 58-63.
- 3) Yasukawa M¹⁾, Ohminami H¹⁾, Kojima K²⁾, Inokuchi K, Nishimura Y³⁾, Fujita S¹⁾ (¹⁾1st Dept. of Internal Medicine, Ehime Univ. School of Medicine, Ehime, Japan, ²⁾Division of Hematology, Ehime Prefectural Central Hospital, Ehime Japan, ³⁾Division of Immunogenetics, Dept. of Neuroscience and Immunology, Kumamoto Univ. Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan): Analysis of HLA-DRB1 alleles in Japanese

- Patients with Chronic Myelogenous Leukemia . American Journal of Hematology 2000 ; 63 (2): 99-101 .
- 4) Tajika K , Nakamura H , Nakayama K , Dan K : Thrombopoietin can influence mature megakaryocytes to undergo further nuclear and cytoplasmic maturation . Exp Hematol 2000 ; 28 (2): 203-209 .
 - 5) Nakamura K , Ogata K , An E , Dan K : Flow cytometric assessment of CD15+CD117+ cells for the detection of minimal residual disease in adult acute myeloid leukaemia . British Journal of Haematology 2000 ; 108 (4): 710-716 .
 - 6) Kamikubo K , Ogata K , An E , Dan K : Low proportion of G₀-phase cells during induction chemotherapy correlates with subsequent remission in acute myeloid leukemia . International Journal of Hematology 2000 ; 71 (3): 249-255 .
 - 7) Tamura H , Sugihara H , Kamegai J , Minami S¹⁾ , Wakabayashi I (¹⁾ Institute of Gerontology): Masculinizing effect of dihydrotestosterone on growth hormone secretion is inhibited in ovariectomized rats with anterolateral deafferentation of the medial basal hypothalamus or in intact female rats . J Neuroendocrinol 2000 ; 12 (4): 369-376 .
 - 8) Tamura H , Kamagai J , Sugihara H , Kineman RD¹⁾ , Frohman LA¹⁾ , Wakabayashi I (¹⁾ Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): Glucocorticoids regulate pituitary growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) gene expression . J Neuroendocrinol 2000 ; 12 (6): 481-485 .
 - 9) Ishii S , Shibasaki T¹⁾ , Murakami T²⁾ , Shima K²⁾ , Wakabayashi I (¹⁾ Department of Physiology , ²⁾ Department of Laboratory Medicine, School of Medicine, University of Tokushima): Response of leptin mRNA to 24-h food deprivation and refeeding is influenced by age in rats . Regul Pept 2000 ; 92 (1-3): 45-50 .
 - 10) Kinoshita M¹⁾ , Oikawa S , Hayasaka K²⁾ , Sekikawa A²⁾ , Nagashima T¹⁾ , Toyota T²⁾ , Miyazawa T¹⁾ (¹⁾ Biodynamic Chemistry Laboratory, Tohoku University Graduate School of Life Science and Agriculture , ²⁾ The Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine): Age-related increases in plasma phosphatidylcholine hydroperoxide concentrations in control subjects and patients with hyperlipidemia . Clin Chem 2000 ; 46 (6): 822-828 .
 - 11) Frohman LA¹⁾ , Kineman RD¹⁾ , Kamegai J , Park S¹⁾ , Teixeria LT¹⁾ , Coschigano KT¹⁾ , Kopchick JJ¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): Secretagogues and the somatotrope : signaling and proliferation . Recent Prog Horm Res 2000 ; 55 : 269-291 .
 - 12) Otagiri A¹⁾ , Wakabayashi I , Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology): Selective corticotropin-releasing factor type 1 receptor antagonist blocks conditioned fear-induced release of noradrenaline in the hypothalamic paraventricular nucleus of rats . J Neuroendocrinol 2000 ; 12 (10): 1022-1026 .
 - 13) Yamada T , Tagai T¹⁾ , Dan K (¹⁾ University Museum, Univ. of Tokyo): An *In vitro* Model of a Hemopoietic-Inductive Microenvironment Using Sintered Hydroxyapatite . Biomedical Research 2000 ; 21 (4): 177-184 .
 - 14) Nakamura H , Inokuchi K , Yamaguchi H , Tajika K , Dan K : A case of chronic myeloid leukemia with minor bcr-abl transcript following fluorouracil therapy for esophageal carcinoma . Annals of Hematology 2000 ; 79 (9): 396-401 .
 - 15) Watanabe A , Inokuchi K , Mizuki T , Yamaguchi H , Yokose N , Dan K : Repeated efficacy of All-trans retinoic acid in an acute promyelocytic leukemia patient . American Journal of Hematology 2000 ; 65 (1): 87-89 .
 - 16) Shepherd BS¹⁾ , Eckert SM , Parhar IS , Vijayan MM , Wakabayashi I , Hirano T , Grau EG , Chen TT : The hexapeptide KP-102 (D-Ala-D-&Beta ; -Nal-Ala-Trp-D-Phe-Lys-NH₂) stimulates growth hormone release in a cichid fish (*Oreochromis mossambicus*). J Neuroendocrinol 2000 ; 167 (3): R7-R10 .

- 17) Matsui K¹⁾, Tatsuguchi A, Valencia J¹⁾, Yu Zx¹⁾, Bechtle J¹⁾, Beasley MB¹⁾, Avila N¹⁾, Travis WD¹⁾, Moss J¹⁾, Ferrans VJ¹⁾ (¹⁾National Institute of Health): Extrapulmonary lymphangioliomyomatosis (LAM): clinicopathologic features in 22 cases . *Hum Pathol* 2000 ; 31 (10): 1242-1248 .
- 18) Ferrans VJ¹⁾, Yu ZX¹⁾, Nelson WK¹⁾, Valencia JC¹⁾, Tatsuguchi A, Avila NA¹⁾, Riemenschn W¹⁾, Matsui K¹⁾, Travis WD¹⁾, Moss J¹⁾ (¹⁾National Institute of Health): Lymphangioliomyomatosis (LAM): a review of clinical and morphological features . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (5): 311-329 .
- 19) Park S¹⁾, Kamegai J, Johnson TA¹⁾, Frohman LA¹⁾, Kineman RD¹⁾ (¹⁾Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): Modulation of pituitary somatostatin receptor subtype (sst1-5) messenger ribonucleic acid levels by changes in the growth hormone axis . *Endocrinology* 2000 ; 141 (10): 3556-3563 .
- 20) Emoto N, Shimizu K¹⁾, Onose H, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I (¹⁾Department of Surgery): A subpopulation of fibroblast growth factor-2-binding heparan sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas . *Thyroid* 2000 ; 10 (10): 843-849 .
- 21) Ishigaki Y¹⁾, Oikawa S, Suzuki T²⁾, Usui S²⁾, Magoori K³⁾, Kim DH³⁾, Suzuki H³⁾, Sasaki J⁴⁾, Sasano K²⁾, Okazaki M²⁾, Toyota T¹⁾, Saito T⁴⁾, Yamamoto T¹⁾ (¹⁾Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine, ²⁾Department of Pathology, Tohoku University School of Medicine, ³⁾Tohoku University Gene Research Center, ⁴⁾Department of Internal Medicine, Fukuoka University School of Medicine): Virus-mediated transduction of apolipoprotein E (ApoE)-Sendai develops lipoprotein glomerulopathy in ApoE-deficient mice . *J Biol Chem* 2000 ; 275 (40): 31269-31273 .
- 22) Fujita M¹⁾, Fukui H¹⁾, Kusaka T¹⁾, Morita K¹⁾, Fujii S²⁾, Ueda Y¹⁾, Chiba T²⁾, Sakamoto C, Kawamata H¹⁾, Fujimori T¹⁾ (¹⁾Department of Pathology, Dokkyo University School of Medicine, ²⁾Department of Gastroenterology and Hepatology, Kyoto University Graduate School of Medicine): Relationship between cyclooxygenase-2 expression and K-ras gene mutation in colorectal adenomas . *J Gastroenterol Hepatol* 2000 ; 15 (11): 1277-1281 .
- 23) Kishida T, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Shinozawa I, Hoshino T, Tatsuguchi A, Feng L, Sato J, Fujimori S, Yoshida Y, Sakamoto C, Kobayashi M : Risk of colorectal cancer in patients with hematologic disease . *J Gastroenterol Hepatol* 2000 ; 15 (11): 1272-1276 .
- 24) Shinozawa I, Inokuchi K, Wakabayashi I, Dan K : Disturbed expression of the anti-apoptosis gene, Survivin, and EPR-1 in hematologic malignancies . *Leukemia Research* 2000 ; 24 (11): 965-970 .
- 25) Kamegai J, Tamura H, Shimizu T, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I : Central effect of ghrelin, an endogenous growth hormone secretagogue, on hypothalamic peptide gene expression . *Endocrinology* 2000 ; 141 (12): 4797-4800 .
- 26) Tsukui T, Kashiwagi R¹⁾, Sakane M¹⁾, Tabata F¹⁾, Akamatsu T, Wada K, Futagami S, Miyake K, Sueoka N, Hirakawa T, Kobayashi M, Fujimori T²⁾, Sakamoto C (¹⁾Tabata Gastrointestinal Hospital, ²⁾The second division of pathology, Dokkyo Medical School): Aging increases and duodenal ulcer reduces the risk for intestinal metaplasia of the gastric corpus in Japanese patients with dyspepsia . *Journal of Gastroenterology and Hepatology* 2001 ; 16 : 15-21 .
- 27) Shuto Y, Shibasaki T¹⁾, Wada K, Parhar I¹⁾, Kamegai J, Sugihara H, Oikawa S, Wakabayashi I (¹⁾Department of Physiology): Generation of polyclonal antiserum against the growth hormone secretagogue receptor (GHS-R): Evidence that the GHS-R exists in the hypothalamus, pituitary and stomach of rats . *Life Sci* 2001 ; 68 (9): 991-996 .
- 28) Kamegai J, Tamura H, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I : Thyroid hormones regulate pituitary growth hormone secretagogue receptor (GHS-R) gene expression . *J Neuroendocrinol* 2001 ; 13 (3): 275-278 .

- 29) Kamagei J, Tamura H, Shimizu T, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I: Estrogen receptor (ER) , but not ER , gene is expressed in growth hormone releasing hormone neurons of the male rat hypothalamus. *Endocrinology* 2001; 142 (2): 538-543.
- 30) Yokose N, Ogata K, Sugisaki Y¹⁾, Mori S²⁾, Yamada T, An E, Dan K (¹⁾Department of surgical Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Institute of Medical Science, University of Tokyo): CD20-positive T cell leukemia/lymphoma: case report and review of the literature. *Ann Hematol* 2001; 80 (6): 372-375.
- 31) 間宮康貴, 金沢秀典, 榎原義之, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 小泉信人, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 門脈血栓性完全閉塞による portal hypertensive gastropathy からの出血を TIPSにより治療し得た肝硬変の1例. *日消病会誌* 2000; 97 (4): 60-65.
- 32) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 小林正文: 食事中につかえ感を訴える患者の食道運動異常について. *Journal of Smooth Muscle Research* 2000; 4 (2): 45-51.
- 33) 鴛田克久¹⁾, 小林英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症 (下巻) 高脂血症診療ガイドライン: 高トリグリセリド血症. *日臨* 2001; 59 (増刊号3): 505-507.
- 34) 及川眞一: リポ蛋白糸球体症. *腎と透析* 2001; 3 (50): 333-340.

(2) 総説:

- 1) Ogata K, Tamura H: Thrombopoietin and myelodysplastic syndromes. *International Journal of Hematology* 2000; 72 (2): 173-177.
- 2) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症の治療: 腎疾患合併例の取り扱い. *Modern Physician* 2000; 20 (10): 1247-1251.
- 3) 津久井拓, 辰口篤志, 和田 謙, 赤松知憲, 二神生爾, 三宅一昌, 末岡伸夫, 福田 悠, 山中宣昭, 坂本長逸, 小林正文: ヒト胃潰瘍におけるシクロオキシゲナーゼ陽性細胞の局在に関する組織学的検討. *THERAPEUTIC RESEARCH* 2000; 21 (suppl. 1): 103-105.
- 4) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 糖尿病と動脈硬化. *医学の歩み* 2000; 193 (4): 398-403.
- 5) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 糖尿病性脂質代謝異常の臨床: エビデンスとガイドラインの設定. *Diabetes Frontier* 2000; 11 (8): 517-522.
- 6) 小林正文, 岩切勝彦: 胃食道逆流関連疾患: 逆流性食道炎と胃食道逆流症 (GERD) の異同. *臨消内科* 2000; 15 (7): 897-902.
- 7) 森田賀津雄¹⁾, 藤盛孝博¹⁾, 富田茂樹¹⁾, 上田善彦¹⁾, 石川羊男²⁾, 田畑文平²⁾, 坂本長逸, 酒井太郎¹⁾, 寺野彰³⁾ (¹⁾獨協医科大学病理学, ²⁾仁愛会田畑胃腸病院, ³⁾獨協医科大学消化器内科): "pre-linitis"状態における癌細胞の特性: 癌細胞の粘液形質ならびに細胞増殖活性. *胃と腸* 2000; 35 (7): 927-936.
- 8) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 小林正文: 食道内圧検査による食事中的つかえ感と食道運動異常との関連の解明. *消化器科* 2000; 30 (6): 679-681.
- 9) 田村秀樹, 中野忠澄¹⁾, 井藤英喜¹⁾ (¹⁾東京都多摩老人医療センター): 高齢者の肥満は有害か. *内分泌・代謝科* 2000; 10 (4): 327-333.
- 10) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 糖尿病と脂質代謝. *医薬ジャーナル* 2000; 36 (6): 1659-1663.
- 11) 及川眞一, 佐藤和美¹⁾, 金井良幸¹⁾, 近藤秀士¹⁾, 大塚千波¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院栄養科): 高脂血症を呈した各種症例. *臨床栄養* 2000; 96 (6): 594-600.
- 12) 及川眞一: 糖尿病と動脈硬化. *Diabetes Frontier* 2000; 11 (3): 289-294.
- 13) 二神生爾, 坂本長逸: 日本における *H. pylori* と疾患との関連性. *臨床と薬物治療* 2000; 19 (7): 638-641.

- 14) 二神生爾, 平塚哲郎, 坂本長逸: *H. pylori*感染とNSAIDの相互作用におけるCOX-2蛋白の役割. PROGRESS IN MEDICINE 2000; 20(8): 1667.
- 15) 猪口孝一, 檀 和夫: 骨髄増殖症候群. 総合臨 2000; 49(8): 2305-2306.
- 16) 檀 和夫: 悪性貧血, 巨赤芽球性貧血. 日本医師会雑誌特別号(生涯教育シリーズ54 血液疾患診療マニュアル)2000; 124(8): 152-155.
- 17) 小林正文, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 林 良紀: 食道アカラシアの治療: 内科的治療. 胃と腸 2000; 35(10): 1267-1272.
- 18) 坂本長逸: 慢性胃炎とシクロオキシゲナーゼ. 日消病会誌 2000; 97(12): 1466-1471.
- 19) 厚川正則, 及川眞一, 小竹英俊: 高中性脂肪の治療方針. 臨成人病 2000; 30: 1615-1620.
- 20) 坂本長逸: NSAIDsの消化管傷害: 発症機序と予防. 医学のあゆみ 2001; 196(3): 184-188.
- 21) 亀谷 純, 杉原 仁: 成長ホルモンとGHRH. Annual Review 内分泌, 代謝 2001 2001; 152-156.
- 22) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症合併糖尿病のコントロール. 治療学 2001; 35: 57-61.
- 23) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症治療. Anual Review 内分泌代謝 2001; 86-92.
- 24) 及川眞一: Lipoprotein glomerulopathy. 症例に学ぶ高脂血症治療: 専門医のみるポイント48+ (Medical View) 2001; 86-93.
- 25) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): インスリン抵抗性と血栓形成. 血栓と循環 2001; 9(1): 49-53.
- 26) 田近賢二: 21世紀への造血細胞移植: ミニ移植. J Nippon Med Sch 2001; 68(1): 92-92.
- 27) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 糖尿病における心血管疾患のガイドライン. Complication 2001; 5(2): 272-279.
- 28) 谷村恭子, 及川眞一: 高齢者の摂取エネルギーと栄養素. Geriatric Medicine 2001; 39(2): 249-256.
- 29) 津久井拓, 三浦崇幣, 辰口篤志, 竹山裕樹, 篠木 啓, 水野 寿, 和田 謙, 坂本長逸: 胃線維芽細胞に発現するシクロオキシゲナーゼ(COX)と血管内皮細胞増殖因子(VEGF). Progress in Medicine 2001; 21(3): 608-611.
- 30) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症下巻: 高脂血症各論: 内因性高トリグリセリド血症. 日臨 2001; 59(増刊号3): 63-65.
- 31) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症下巻: 高脂血症各論: 特異性高トリグリセリド血症. 日臨 2001; 59(増刊号3): 79-87.
- 32) 及川眞一: 高脂血症下巻: 高脂血症各論: リポ蛋白系球体症. 日臨 2001; 59(増刊号3): 353-360.
- 33) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): 高脂血症(下巻): 高脂血症診療ガイドライン: 治療適用基準と治療目標値設定の意義. 日臨 2001; 59(増刊号3): 493-499.
- 34) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一⁽¹⁾東北大学大学院分子代謝病態学糖尿病代謝科): わが国の循環器疾患におけるマルチブルリスクファクター. Heart View 2001; 5(4): 8-14.

著 書

- 1) 小林正文: [分担] 食道アカラシア. 今日の治療指針〔ポケット判〕(多賀須幸男他編), 2001; pp394-394, 医学書院.
- 2) 小林正文: [分担] 食道アカラシア. 今日の治療指針(多賀須幸男他編), 2001; pp394-394, 医学書院.
- 3) 檀 和夫: [分担] 赤血球の機能. 図解血液学テキスト(古澤新平, 長澤俊郎, 檀 和夫), 2001; pp28-29, 中外医学社.

- 4) 檀 和夫：〔分担〕ヘモグロビンの合成・構造・機能・分解．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp30-32，中外医学社．
- 5) 檀 和夫：〔分担〕鉄・ビタミンB12・葉酸の代謝．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp33-34，中外医学社．
- 6) 檀 和夫：〔分担〕免疫グロブリンの構造・合成・機能．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp42-44，中外医学社．
- 7) 檀 和夫：〔分担〕貧血・発熱・リンパ節腫脹・脾腫．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp54-57，中外医学社．
- 8) 檀 和夫：〔分担〕鉄欠乏性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp96-98，中外医学社．
- 9) 檀 和夫：〔分担〕鉄芽球性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp99-100，中外医学社．
- 10) 檀 和夫：〔分担〕サラセミア．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp101-102，中外医学社．
- 11) 檀 和夫：〔分担〕異常ヘモグロビン．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp103-103，中外医学社．
- 12) 檀 和夫：〔分担〕ポルフィリア．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp104-104，中外医学社．
- 13) 檀 和夫：〔分担〕巨赤芽球性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp105-108，中外医学社．
- 14) 檀 和夫：〔分担〕溶血性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp109-111，中外医学社．
- 15) 檀 和夫：〔分担〕遺伝性球状赤血球症．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp112-113，中外医学社．
- 16) 檀 和夫：〔分担〕赤血球酵素異常症．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp114-115，中外医学社．
- 17) 檀 和夫：〔分担〕免疫性溶血性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp116-118，中外医学社．
- 18) 檀 和夫：〔分担〕発作性夜間血色素尿症．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp119-120，中外医学社．
- 19) 檀 和夫：〔分担〕赤血球破碎症候群．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp121-121，中外医学社．
- 20) 檀 和夫：〔分担〕再生不良性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp122-124，中外医学社．
- 21) 檀 和夫：〔分担〕赤芽球癆．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp125-126，中外医学社．
- 22) 檀 和夫：〔分担〕二次性貧血．図解血液学テキスト（古澤新平，長澤俊郎，檀和夫），2001；pp127-128，中外医学社．
- 23) 坂本長逸：〔分担〕全体像を把握する 治療／薬物治療．看護のための最新医学講座第4巻消化管疾患，2001；pp101-109，中山書店．
- 24) 坂本長逸：〔分担〕胃粘膜病変 非ステロイド系抗炎症薬（NSAID）による胃粘膜傷害．プロスタグランジン研究の新展開，2001；pp79-82，東京化学同人．

- 25) 檀 和夫：〔分担〕溶血性貧血に関する検査．臨床検査診断マニュアル（古澤新平，金山正明，橋本博史），2001；pp226-229，永井書店．
- 26) 檀 和夫：〔分担〕巨赤芽球性貧血に関する検査．臨床検査診断マニュアル（古澤新平，金山正明，橋本博史），2001；pp230-231，永井書店．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 及川眞一：危険因子重複例の「管理の実際」；効果的な見方を工夫する．第35回日本循環器管理協議会，2000．5．
- 2) 及川眞一：細小血管障害と大血管障害との関連：腎症と動脈硬化．第43回日本糖尿病学会総会，2000．5．
- 3) 及川眞一：動脈硬化の危険因子としての高トリグリセリド血症：インスリン抵抗性と動脈硬化．第32回日本動脈硬化学会，2000．6．
- 4) 津久井拓，三浦崇幣，坂本長逸：胃潰瘍修復過程における cyclooxygenase (COX)-2の血管新生におよぼす影響：胃線維芽細胞の産生する vascular endothelial growth factor (VEGF) と COX-2．第42回日本消化器病学会大会，2000．9．
- 5) 山口博樹，猪口孝一，佐久間洋子¹⁾，檀 和夫⁽¹⁾ (日本歯科大学)：慢性骨髄性白血病における p51A/ Tap63?，p53 遺伝子の変異解析．第59回日本癌学会総会，2000．10．
- 6) 及川眞一：糖尿病の治療と危険因子：過酸化脂質の面から．第5回日本糖尿病合併症学会，2000．10．
- 7) 杉原 仁：稀な Cushing 症候群．第11回臨床内分泌代謝 Update，2001．3．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 二神生爾，坂本長逸： *H. pylori* 感染と NSAID の相互作用に果たす COX-2 蛋白の役割．第86回日本消化器病学会総会，2000．4．
- 2) 三宅一昌，坂本長逸，小林正文： *H. pylori* 除菌後の胃びらん増悪を予測する因子の検討（除菌前の内視鏡および組織所見を中心に）．第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2000．12．

(3) セミナー：

- 1) 及川眞一：高脂血症と臓器障害：動脈から膵・腎へ．第14回日本臨床内科医会，2000．9．

(4) ワークショップ：

- 1) 辰口篤志，坂本長逸：胃癌における COX-2, VEGF の局在と血管新生に関する免疫組織化学的検討．第42回日本消化器病学会大会，2000．9．
- 2) 及川眞一：糖・脂質のながれとその異常：脂肪細胞の役割．第37回日本臨床生理学会総会，2000．11．

(5) 一般講演：

- 1) Yonezawa M, Uchida T, Wada K, Akamatsu T, Mizoguchi A, Sakamoto C, Tsukui T, Shinoki K, Satou J : A novel epidermal growth factor-like molecule containing two follistatin modules stimulates tyrosine phosphorylation of ERBB-4 in MKN28 gastric cancer cells . DDW (San Diego, U. S. A), 2000 . 5 .
- 2) Miura S, Tsukui T, Wada K, Tatsuguchi A, Akamatsu T, Takeyama H, Iizumi T, Shinoki K, Hiratsuka T, Futagami S, Miyake K, Sueoka N, Sakamoto C, Kobayashi M : Cyclooxygenase-2 (COX-2) regulates vascular endothelial-growth factor (VEGF) production by gastric fibroblasts stimulated with Interleukin-1 (IL-1) and transforming growth factor- (TGF-). DDW (San Diego, U. S. A), 2000 . 5 .
- 3) Sueoka N, Nishigaki H, Yonezawa M, Tsukui T, Sakamoto C, Tabuchi M : Usefulness of double dye staining (methylene blue and crystal violet) for the magnifying observation of intestinal metaplasia in Barrett's esophagus . DDW (San Diego, U. S. A), 2000 . 5 .
- 4) Miyake K, Sakamoto C, Hiratsuka T, Shinoki K, Futagami S, Wada K, Tsukui T, Kobayashi M : Endo-

- scopic and histological features of gastric erosion after Helicobacter Pylori eradication . DDW (San Diego, U. S. A), 2000 . 5 .
- 5) Futagami S , Hiratsuka T , Wada K , Tatsuguchi A , Tsukui T , Miyake K , Akamatsu T , Hosone M , Sakamoto C , Kobayashi M : COX-2 protects gastric mucosa against damage caused by NSAID in Helicobacter Pylori-infected mongolian gerbils . DDW (San Diego, U. S. A), 2000 . 5 .
 - 6) Kamegai J , Tamura H , Ishii S , Shuto Y , Sugihara H , Wakabayashi I : Central effect of ghrelin, an endogenous growth hormone secretagogue, on hypothalamic peptide gene expression . The 82th Annual Meeting, The Endocrine Society (Toronto), 2000 . 6 .
 - 7) Sugihara H , Kamegai J , Ishii S , Tamura H , Shuto Y , Oikawa S , Shibasaki T¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾Department of Physiology): Ghrelin acts synergistically with GHRH on GH secretion in urethan anesthetized rats . The 82th Annual Meeting, The Endocrine Society (Toronto), 2000 . 6 .
 - 8) Park S¹⁾, Kamegai J , Frohman LA¹⁾, Kineman RD¹⁾(¹⁾Department of Medicine, University of Illinois at Chicago): Pituitary somatostatin receptor subtype 2 and 5 mRNA levels are regulated by growth hormone-releasing hormone *in vivo* and *in vitro* . The 82th Annual Meeting, The Endocrine Society (Toronto), 2000 . 6 .
 - 9) Oikawa S , Hirayama Y¹⁾, Sekikawa A²⁾, Tokita Y²⁾, Hara T²⁾, Ishigaki Y²⁾, Kotake H²⁾, Takayoshi T²⁾, Miyazawa T¹⁾(¹⁾Laboratory of Biodynamic Chemistry Divison of Life Science Research, Graduate School of Agriculture, Tohoku University , ²⁾The Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine): Oxidative stress in cholesterol fed rabbits . 第12回国際動脈硬化学会 (ヘルシンキ), 2000 . 6 .
 - 10) Ishigaki Y¹⁾, Oikawa S , Tokita Y¹⁾, Hara S¹⁾, Sekikawa A¹⁾, Kotake H¹⁾, Magoori K²⁾, Kim D. H²⁾, Suzuki H²⁾, Suzuki T⁴⁾, Usui S⁵⁾, Saito T³⁾, Sasaki J¹⁾, Sasano K⁴⁾, Okazaki M⁵⁾, Toyota T¹⁾, Yamamoto T²⁾(¹⁾The Third Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine , ²⁾Gene Reserach Center , ³⁾Department of Blood Purification , ⁴⁾Department of Digestive Pathology , ⁵⁾Department of Biochemistry, Fukuoka University): Apo lipoprotein E-sendai (R145p): Its characterization and affect to lipoprotein glomerulopathy . 第12回国際動脈硬化学会 (ヘルシンキ), 2000 . 6 .
 - 11) Yamaguchi H , Inokuchi K , Tarusawa M , Nakamura K , Nomura T , Dan K : Mutation of p51/p63 gene is associated with blastic crisis in chronic myelogenous leukemia . 29th Annual Scientific Meeting of the International Society for Experimental Hematology, Tampa, 2000 (Florida, USA), 2000 . 7 .
 - 12) Emoto N , Onose K , Shimizu K¹⁾, Wakabayashi I (¹⁾Department of Surgery): A subpopulation of FGF-2 binding heparan sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas . 12th International Thyroid Congress (Kyoto), 2000 . 10 .
 - 13) Yamaguchi H , Inokuchi K , Shimada T¹⁾, Dan K (¹⁾Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School): Mutation of p51/p63 gene is associated with blastic crisis in chronic myelogenous leukemia . The 42nd ASH Annual Meeting of the American Society of Hematology, 2000 (San Francisco, California USA), 2000 . 12 .
 - 14) 内田直也 , 谷村恭子 , 片倉玲樹 , 進士陽子 , 中村佳代 , 中村恭子 , 安 恵美 , 山田 隆 , 田近賢二 , 緒方清行 , 檀 和夫 : 間欠的に出現する溶血性貧血と血小板減少症で発症した thrombotic thrombocytopenic purpura の1 症例 . 第137回臨床血液学会例会 , 2000 . 2 .
 - 15) 三浦崇幣 , 津久井拓 , 和田 謙 , 赤松知憲 , 竹山裕樹 , 二神生爾 , 三宅一昌 , 末岡伸夫 , 坂本長逸 , 小林正文 : 培養ヒト胃線維芽細胞における血管内皮細胞増殖因子の産生に対する cyclooxygenase (COX) の役割 . 第86回日本消化器病学会総会 , 2000 . 4 .
 - 16) 柴田喜明 , 山口博樹 , 田中 周 , 赤松知憲 , 米沢真興 , 三浦崇幣 , 佐藤 順 , 和田 謙 , 津久井拓 , 猪口孝一 , 岸田輝幸 , 坂本長逸 , 小林正文 : 大腸癌における Smad4 gene mutation の検討 . 第86回日本消化器病学会総会 ,

2000 . 4 .

- 17) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 石川久木, 琴寄 誠, 林 良紀, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 若年者逆流性食道炎と高齢者逆流性食道炎の食道運動機能の違い. 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 18) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 健診受診者における胸やけに関する検討. 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 19) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 石川久木, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: Barrett's esophagus (BE) の発生頻度, 背景, 食道運動機能. 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 20) 長田祐二, 榎原義之, 間宮康貴, 吉本 均, 小泉信人, 中塚雄久, 斉藤 整, 金沢秀典, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 門脈圧亢進症性胃炎 (PHG) に対する TIPS の効果に関する検討. 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 21) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 名知志子, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: Refractory Ascites の特徴と TIPS による治療. 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 22) 西垣 均, 末岡伸夫, 米沢真興, 津久井拓, 青木正明, 香川隆男, 坂本長逸, 小林正文: 十二指腸異所性胃粘膜 (gastric heterotopia) と逆流性食道炎, および short segment Barrett's esophagus (SSBE) との関連についての検討. 第59回日本消化器内視鏡学会総会, 2000 . 5 .
- 23) 滝 保彦, 金沢秀典, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 小泉信人, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: TIPS に成功した門脈血栓性完全閉塞を伴った肝硬変の1例. 第259回日本消化器病学会関東支部例会, 2000 . 5 .
- 24) 藤森俊二, 岸田輝幸, 柴田喜明, 米澤真興, 篠澤 功, 田中 周, 佐藤 順, 吉田 豊, 坂本長逸, 小林正文: 大腸腺腫および大腸進行癌患者の平均赤血球容積を中心とした赤血球容積の検討. 第97回日本内科学会総会, 2000 . 5 .
- 25) 末岡伸夫: 拡大内視鏡による *H. pylori* gastritis の診断: 過形性ポリープ, 胃底腺ポリープ, non ulcer dysplasia を対象として. 第59回日本消化器内視鏡学会総会, 2000 . 5 .
- 26) 高橋秀美代¹⁾, 田村秀樹, 藤浪謙至¹⁾, 宮川高一¹⁾, 中野忠澄¹⁾(¹⁾多摩老人医療センター): 高齢者糖尿病患者の骨量. 日本糖尿病学会年次学術集会, 2000 . 5 .
- 27) 田中 周, 及川眞一, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 若林一二, 村野武義¹⁾, 白井厚治¹⁾, 田辺義博²⁾(¹⁾東邦大学臨床検査, ²⁾下館市民病院内科): 原発性高カイトロミクロン血症例のインスリン分泌能について. 第482回日本内科学会地方会, 2000 . 6 .
- 28) 瀬尾継彦, 末岡伸夫, 飯泉 匡, 米澤真興, 柴田喜明, 西垣 均, 佐藤 順, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: HIV 感染者にみられたCMV 胃炎の1例. 第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000 . 6 .
- 29) 二俣 健, 岡島史宜, 楠 正典, 稲見光春, 三井啓吾, 橘美紀子, 榎原義之, 琴寄 誠, 小野瀬裕之, 藤森俊二, 吉沢雅史, 岸田輝幸: 直腸潰瘍, 直腸腔瘻を形成し, 出血性ショックを来した1例. 第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000 . 6 .
- 30) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 小林正文: multiple rapid swallow による食道体部運動. 第17回臨床嚥門研究会, 2000 . 6 .
- 31) 大磯義一郎, 田近賢二, 橋本充弘, 中村弘之, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 小腸原発 Isolated Chloroma の1症例. 第138回臨床血液学会例会, 2000 . 6 .
- 32) 亀谷 純, 田村秀樹, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 若林一二: Growth hormone secretagogue (GHS) による homologous desensitization ; 下垂体初代培養細胞による検討. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 33) 田村秀樹, 亀谷 純, 石井新哉, 周東祐仁, 杉原 仁, 若林一二: Agouti-related peptide (AGRP) のGH分泌におよぼす効果. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000 . 6 .
- 34) 周東祐仁, Parhar I¹⁾, 田村秀樹, 亀谷 純, 杉原 仁, 小野瀬裕之, 石井新哉, 江本直也, 芝崎 保²⁾, 若

- 林一二 (1)生理第1, (2)生理第2): 成長ホルモン分泌惹起物質 (GHS ; growth hormone secretagogue) 受容体に対する新しい抗体. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 35) 江本直也, 清水一雄¹⁾, 小野瀬裕之, 石井新哉, 杉原 仁, 若林一二 (1)外科第2): 甲状腺乳頭癌における FGF 活性制御因子として作用するヘパラン硫酸の組成解析. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 36) 中野忠澄¹⁾, 田村秀樹, 高橋秀美代¹⁾, 宮川高一¹⁾, 藤浪謙至¹⁾, 井藤英喜¹⁾ (1)多摩老人医療センター): 新しい手法による高齢糖尿病患者に対する糖尿病教室の効果. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 37) 高橋秀美代¹⁾, 田村秀樹, 藤浪謙至¹⁾, 宮川高一¹⁾, 中野忠澄¹⁾, 井藤英喜¹⁾ (1)多摩老人医療センター): 高齢糖尿病患者の骨量. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 38) 杉原 仁, 周東祐仁, 亀谷 純, 石井新哉, 田村秀樹, 小野瀬裕之, 江本直也, 及川眞一, 若林一二: Micropenisを呈したアンドロゲン不応症のマレーシアの家系. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 39) 小野瀬裕之, 石井新哉, 江本直也, 清水一雄¹⁾, 若林一二 (1)外科第2): 甲状腺手術の血中FGF-2濃度に与える効果. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 40) 西垣 均, 末岡伸夫, 飯泉 匡, 瀬尾利彦, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文, 長谷川博一¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 田淵正文²⁾ (1)外科第1, (2)中目黒消化器クリニック): 色素法を用いた電子拡大内視鏡による早期胃癌微細粘膜構造に関する検討. 第60回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 9.
- 41) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 石川久木, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 難治性逆流性食道炎 (RE) の食道運動機能と治療. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 42) 石川久木, 岩切勝彦, 林 良紀, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文: 逆流性食道炎 (RE) のPPI投与による治療前後の食道運動機能の変化について. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 43) 平塚哲郎, 二神生爾, 津久井拓, 飯泉 匡, 篠木 啓, 三宅一昌, 和田 謙, 坂本長逸, 小林正文: マウスを用いた Ischemia-Reperfusion 実験における COX-2 蛋白誘導と胃粘膜傷害. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 44) 二神生爾, 平塚哲郎, 津久井拓, 飯泉 匡, 篠木 啓, 赤松知憲, 和田 謙, 三宅一昌, 坂本長逸, 小林正文: HP 菌体成分を用いた T cell の活性化と T cell 由来の COX-2 蛋白誘導について. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 45) 三宅一昌, 飯泉 匡, 平塚哲郎, 篠木 啓, 二神生爾, 和田 謙, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: H. pylori 除菌後の内視鏡所見の変化に関連する組織所見の検討: 除菌後のびらんを中心に. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 46) 間宮康貴, 金沢秀典, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 長田祐二, 名知志子, 中塚雄久, 吉本 均, 斉藤 整, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文: 肝硬変における高 Endothelin-1 血症に関する臨床的検討. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 47) 名知志子, 金沢秀典, 吉本 均, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 斉藤 整, 坂本長逸, 黒田 肇, 小林正文: 肝硬変における腎動脈 Resistive Index 測定の意義. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 9.
- 48) 飯泉 匡, 津久井拓, 多田教彦, 松坂 聡, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 名知志子, 吉本 均, 三宅一昌, 金沢秀典, 黒田 肇, 坂本長逸, 小林正文, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1)病理第2): Evans 症候群を合併した自己免疫性肝炎の1例. 第261回日本消化器病学会関東支部例会, 2000. 9.
- 49) 長田祐二, 金沢秀典, 榎原義之, 間宮康貴, 名知志子, 中塚雄久, 吉本 均, 斉藤 整, 黒田 肇: Portal hypertensive gastropathy (PHG) に対する TIPS の効果: TIPS の適応を考える. 第7回日本門脈圧亢進症学会総会, 2000. 9.
- 50) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 名知志子, 小泉信人, 斉藤 整, 黒田 肇,

- 坂本長逸，小林正文：難治性腹水に対する TIPS の適応と治療成績．第 7 回日本門脈圧亢進症学会総会，2000 . 9 .
- 51) 名知志子，金沢秀典，斉藤 整，吉本 均，榎原義之，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，黒田 肇，坂本長逸，小林正文：Octreotide の食後門脈血行動態へ及ぼす影響．第 7 回日本門脈圧亢進症学会総会，2000 . 9 .
- 52) 山手裕一郎，金沢秀典，滝 保彦，木村 祐，榎原義之，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，吉本 均，斉藤 整，黒田 肇，坂本長逸，小林正文：TIPS 後の肝性脳症に関する検討．第 7 回日本門脈圧亢進症学会総会，2000 . 9 .
- 53) 柴田喜明，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，篠澤 功，田中 周，辰口篤志，佐藤 順，藤森俊二，吉田 豊，岸田輝幸：内視鏡的大腸ポリペクトミー後クリッピング症例の検討．第 18 回日本大腸検査学会総会，2000 . 9 .
- 54) 津久井拓，三浦崇幣，和田 謙，坂本長逸：胃潰瘍修復過程における cyclooxygenase (COX) -2 の血管新生に果たす役割：胃線維芽細胞の vascular endothelial growth factor (VEGF) 産生と COX-2 . 第 7 回胃の炎症を考える会，2000 . 9 .
- 55) 末岡伸夫，田淵正文¹⁾，西垣 均 (¹⁾ 中目黒消化器クリニック) : Barrett 食道の拡大内視鏡診断：色素法 (methylene blue, crystal violet) を用いて . 第 60 回日本消化器内視鏡学会総会，2000 . 10 .
- 56) 佐久間洋子¹⁾，山口博樹，猪口孝一，内田 稔¹⁾，檀 和夫 (¹⁾ 日本歯科大学) : p51A, p53 遺伝子の頭頸部扁平上皮癌における変異解析 . 第 59 回日本癌学会総会，2000 . 10 .
- 57) 横溝英奈，山口博樹，橋本充弘，中山一隆，田近賢二，緒方清行，山田 隆，猪口孝一，檀 和夫：4 倍体染色体を呈した Philadelphia 染色体陽性急性骨髄性白血病 . 第 139 回臨床血液学会例会，2000 . 10 .
- 58) 亀谷 純，田村秀樹，石井新哉，周東祐仁，杉原 仁：ラット視床下部 GHRH 神経細胞にはエストロゲン受容体が存在する . 第 27 回日本神経内分泌学会，2000 . 10 .
- 59) 江本直也，清水一雄¹⁾，小野瀬裕之，若林一二 (¹⁾ 外科第 2) : 甲状腺乳頭癌細胞外マトリックスにおける FGF-2 結合性ヘパラン硫酸の組成変化と FGF-2 の動員 . 第 59 回日本癌学会総会，2000 . 10 .
- 60) 篠澤 功，佐藤 順，藤森俊二，岸田輝幸：下部消化管悪性リンパ腫病変の臨床的及び病理学的検討 . 第 55 回日本大腸肛門病学会総会，2000 . 11 .
- 61) 山口博樹，猪口孝一，足澤 美樹，中村佳代，檀 和夫：慢性骨髄性白血病における p51 遺伝子の発現および変異解析 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .
- 62) 足澤美樹，山口博樹，中村佳代，中村弘之，中山一隆，田野崎栄，山田 隆，田近賢二，緒方清行，猪口孝一，檀 和夫：性骨髄性白血病における癌関連遺伝子と予後に関する検討 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .
- 63) 塩井由美子，横瀬紀夫，中村恭子，安 恵美，田近賢二，山田 隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫，坂巻 壽¹⁾，石田陽治²⁾，厨信一郎²⁾ (¹⁾ 都立駒込病院内科，²⁾ 岩手医大第三内科) : 急性骨髄性白血病における CD7 発現と染色体異常との関連：CD7 発現の臨床的意義の再検討 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .
- 64) 横瀬紀夫，羅 善順，塩井由美子，中村恭子，橘 美紀子，兵働英也，田近賢二，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫，： IgG 型 M 蛋白血症を認めた白血化リンパ形質細胞様リンパ腫 (LPL) の 1 例 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .
- 65) 橋本充弘，田近賢二，水木太郎，中村弘之，中山一隆，山口博樹，山田 隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫，： Ph 陽性 ALL (L2) の第一寛解期に一卵性双生児間骨髄移植を行い長期寛解を維持している 1 症例 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .
- 66) 田近賢二，山口博樹，橋本充弘，水木太郎，中村弘之，中山一隆，山田 隆，猪口孝一，緒方清行，檀 和夫，：第 2 寛解期にブスルファン・フルダラビン・ATG による骨髄非破壊の前処置後 HLA 一座不一致同胞より造血細胞移植を実施した急性骨髄性白血病の 1 例 . 第 42 回日本臨床血液学会総会，2000 . 11 .

- 67) 中村弘之, 田近賢二, 中山一隆, 水木太郎, 橋本充弘, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫, : 脊髄腫瘍を合併した造血管腫瘍の10例. 第42回日本臨床血液学会総会, 2000. 11.
- 68) 水木太郎, 田近賢二, 橋本充弘, 塩井由美子, 中山一隆, 中村弘之, 山口博樹, 中村佳代, 中村恭子, 横瀬紀夫, 安 恵美, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 当科における急性リンパ性白血病治療の現況. 第42回日本臨床血液学会総会, 2000. 11.
- 69) 山田 隆, 田野崎栄, 横瀬紀夫, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: 当科における本態性血小板血症の検討. 第42回日本臨床血液学会総会, 2000. 11.
- 70) 竹内雅文, 佐藤 順, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米沢真興, 篠澤 功, 柴田喜明, 田中 周, 小泉信人, 藤森俊二, 津久井拓, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸, 小林正文: 腸管動静脈奇形 (AVM) の血栓性塞栓により大腸炎をきたした1例. 第262回日本消化器病学会関東支部例会, 2000. 12.
- 71) 林 良紀, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 石川久木, 岩切勝彦, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文, 松田明久¹⁾, 野村努¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 恩田宗彦²⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾病理第2): 早期 Barrett 腺癌の1例. 第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000. 12.
- 72) 角岡真帆, 二保 健, 楠 正典, 三井啓吾, 榎原義之, 琴寄 誠, 中塚雄久, 藤森俊二, 吉沢雅史, 岸田輝幸, 柏原 元¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 石川紀行¹⁾, 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 原発性胆汁性肝硬変と大腸癌を合併した1例. 第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000. 12.
- 73) 津久井拓, 三浦崇幣, 辰口篤志, 和田 謙, 赤松知憲, 二神生爾, 三宅一昌, 末岡伸夫, 坂本長逸, 小林正文: 胃潰瘍底線維芽細胞に発現する cyclooxygenase (COX) -2 と vascular endothelial growth factor (VEGF). 第30回創傷治療学会, 2000. 12.
- 74) 周東祐仁, 江本直也, 田村秀樹, 石井新哉, 小野瀬裕之, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川真一, 若林一二: 1型糖尿病とGrave病を同時期に発症, ケトアシドーシスと甲状腺クリーゼを来した症例. 第38回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 2001. 1.
- 75) 小林 剛, 三宅一昌, 杉浦敏昭, 滝 保彦, 榎原義之, 田中 周, 長田祐二, 津久井拓, 坂本長逸, 小林正文: コイルによる塞栓術にて止血し得た左胃動脈瘤破裂の1例. 第263回日本消化器病学会関東支部例会, 2001. 2.
- 76) 田村秀樹, 厚川正則, 中島 泰, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純, 杉原 仁, 赤須東樹¹⁾, 清水一雄¹⁾, 及川真一(¹⁾外科第2): ¹³¹I-iodosterol が取り込まれない副腎 black adenoma によるクッシング症候群の2例. 第一回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2001. 2.
- 77) 城所 葉, 小野瀬裕之, 江本直也: 甲状腺機能の改善とともに血糖コントロールが改善したバセドウ病合併1型糖尿病の1例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 78) 中島 泰, 石井新哉, 田村秀樹, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川真一: 高度の肥満を合併したCushing症候群の症例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 79) 片倉玲樹, 石井新哉, 関田祥久, 亀谷 純, 周東祐仁, 田村秀樹, 杉原 仁, 及川 真一: 異所性 ACTH 症候群にノカルジア腫瘍と下肢静脈血栓症を合併した症例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 80) 石井新哉, 杉原 仁, 亀谷 純, 田村秀樹, 周東祐仁, 及川真一: 出産後甲状腺機能異常症に続発性副腎皮質機能低下症を合併した症例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 81) 吉澤徹樹, 田村秀樹, 周東祐仁, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川真一: 汎下垂体機能低下症の症例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 82) 金澤弥千代¹⁾, 吉川栄省¹⁾, 岸 泰博¹⁾, 小野瀬裕之, 江本直也(¹⁾日本医科大学千葉北総病院神経科): 甲状腺ホルモン補充後も鬱状態からの改善に無痙攣性通電療法を必要とした橋本病の1例. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.

4. 内科学第四講座

[付属病院第 4内科]

研究概要

呼吸器疾患を対象に平成12年度に以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究； 特発性肺線維症（IPF）、慢性過敏性肺臓炎、膠原病関連肺疾患、血管炎、サルコイドーシス（サ症）、などについての症例検討報告、 IPF患者に対する高血糖の与える影響についての研究、 マクロライドの抗炎症作用を期待したIPFの急性増悪防止及びIPF合併肺癌の術後増悪防止に対する効果の検討、 IPFに対する抗線維化剤Pirfenidone臨床治験、NAC吸入試験（全国共同研究）、 高齢者慢性閉塞性肺疾患患者における患者指導に関する研究、テレメディスンによる病診連携、 睡眠時無呼吸症候群患者のADLに及ぼす治療効果の評価、 慢性閉塞性肺疾患患者と類瘦、成長ホルモンの検討、 びまん性肺疾患の肺音の音響学的解析、 咳嗽音の音響学的解析と咳カウンターの開発、 離島における大気汚染と呼気中NOとの関係の研究、 肺癌科学療法臨床研究 [非小細胞肺癌：weekly CDDP+CPT-11 (phase II), CDDP+TXT vs CDDP+VDS (phase III), CDDP+TXT+UFT (phase I, II), CDDP+UFT+concurrent RT (phase II), GEM+VNR (phase I, II), second line CBDCA+TXL (phase I, II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞癌：alternating chemotherapy], 各種制吐剤の臨床試験等を行った。

基礎研究； プレオマイシン誘発肺線維症モデルマウスを用いた肺傷害機序に関わる物質（活性酸素種、メタロプロテアーゼなど）や接着分子の解明、各段階を阻止しうる薬剤の検討、 インターフェロンの線維化抑制機序の解明、

新規薬剤の実験的間質性肺炎抑制効果の検討、 DPB関連気道病変についての疾患感受性遺伝子の探究（共同研究）、マクロライド作用機序の解明、 ヒト肺腺癌株（PC-9）由来多臓器高転移株を用いたIntegrinと転移臓器特異性に関する検討、 Laminin 5 chainのG-domain由来peptidesの腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、

新規MMP inhibitor FK-2によるヒト肺腺癌高転移株PC-9/multiの転移及び増殖に及ぼす効果、 ヒト肺腺癌細胞株PC-9の高転移能獲得に伴う血管新生能および血管新生因子の変化に関する検討、 サルコイドーシスにおけるApoptosis抑制因子の関与、 肺癌における網羅的遺伝子発現解析とオーダーメイド化学療法への応用、 細胞周期調節因子のクローニングとゲノム構造の決定、 ヒト肺癌における癌抑制遺伝子候補の変異解析、 肺線維症の癌発生母地としての分子生物学的研究等の研究を推進した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takizawa H, Abe S, Ohtoshi T, Kawasaki S, Takami K, Desaki M, Sugawara I, Hashimoto S, Azuma A, Nakahara A, Kudoh S : Diesel exhaust particles (DEP) up-regulate expression of intercellular adhesion molecule (ICAM)-1 in human bronchial epithelial cells. *J Clin Immunol* 2000 ; 120 (2): 356-362 .
- 2) Kitamura T, Uchida K, Tanaka N, Tsuchiya T, Watanabe J, Yamada Y, Hanaoka K, Seymour JF, Schoch OD, Doyle I, Inoue Y, Sakatani M, Kudoh S, Azuma A, Nukiwa T, Tomita T, Katagiri M, Fujita A, Kurashima A, Kanegasaki S, Nakata K : Serological diagnosis of idiopathic pulmonary alveolar proteinosis. *AJRCCM* 2000 ; 162 ((2pt1)): 658-662 .
- 3) Ebe Y, Ikushima S, Yamaguchi T, Kohno K, Azuma A, Sato K, Ishige I, Usui Y, Takemura T, Eishi Y : Proliferative response of peripheral blood mononuclear cells and levels of antibody to recombinant protein from propionibacterium acnes DNA expression library in Japanese patients with sarcoidosis. *Sarcoidosis Vasculitis and Diffuse Lung Disease* 2000 ; 17 (3): 256-265 .

- 4) Miyamoto H , Azuma A , Taniguchi Y , Takahashi T , Yoshimura A , Hemmi S¹⁾ , Fukuda Y¹⁾ , Kudoh S (¹⁾ The 1st department of Pathology, Nippon Medical School): Interstitial Pneumonia complicated by Sjogren's syndrome, Hashimoto's disease, rheumatoid arthritis and primary biliary cirrhosis . Internal Medicine 2000 ; 39 (11): 970-975 .
- 5) Gemma A , Hosoya Y , Uematsu K , Seike M , Kurimoto F , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Mutation analysis of the gene encoding the human mannose 6-phosphate/insulin-like growth factor 2 receptor (M6P/IGF2R) in human cell lines resistant to growth inhibition by transforming growth factor b1 (TGF b1) . Lung Cancer 2000 ; 30 (2): 91-98 .
- 6) Gemma A , Seike M , Seike Y , Uematsu K , Hibino S , Kurimoto F , Yoshimura A , Shibuya M , Harris CC¹⁾ , Kudoh S (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis, NCI/NIH): Somatic mutation of the hBUB1 mitotic checkpoint gene in primary lung cancer . Genes chromosomes and cancer 2000 ; 29 (3): 213-218 .
- 7) Seike M , Gemma A , Hosoya Y , Hemmi S¹⁾ , Taniguchi Y , Fukuda Y¹⁾ , Yamanaka N¹⁾ , Kudoh S (¹⁾ 1st Department of Pathology, Nippon Medical School): Increase in the frequency of p16INK4 gene inactivation by hypermethylation in lung cancer during the process of metastasis and its relation to the status of p53 . Clinical Cancer Research. 2000 ; 6 (11): 4307-4313 .
- 8) Takenaka K , Shibuya M , Takeda Y²⁾ , Hibino S , Gemma A , Ono Y , Kudoh S (²⁾ Department of Pulmonology, International Medical Center of Japan): Altered expression and function of $\alpha 1$ integrins in a highly metastatic human lung adenocarcinoma cell line . International Journal of Oncology 2000 ; 17 (17 (6)): 1187-1194 .
- 9) Azuma A , Takahashi T , Kudoh S , Henmi S , Fukuda Y : The Value and Limitation of Transbronchial Lung Biopsy for the Diagnosis of Diffuse Interstitial Lung Diseases . J Jpn Society for Brouchol (JJSB) 2000 ; 22 : 647-649 .
- 10) Keicho N , Emi M , Kajita M , Matsushita I , Nakata K , Azuma A , Ohishi N , kudoh S : Overestimated frequency of a possible emphysema-susceptibility allele when microsomal epoxide hydrolase is genotyped by the conventional polymerase chain reaction-based method . J Hum Genet 2001 ; 46 (2): 96-98 .
- 11) 倉根修二 : 厚生省モデル事業としての一般病棟内結核病室1年を振り返って . 結核 2000 ; 75 (2): 55-60 .
- 12) 弦間昭彦 , 植松和嗣 , 萩原弘一¹⁾ , 竹之下誠一²⁾ , 工藤翔二 (¹⁾ 東北大学加齢研 , ²⁾ 福島医大第二外科): 原発性肺癌におけるTGFb1耐性のメカニズムと治療標的について . 癌と化療 2000 ; 27 (8): 1253-1259 .
- 13) 村田 朗 , 工藤翔二 , 高崎雄司 , 渋谷惇夫¹⁾ , 村竹虎和²⁾ , 中島槇男²⁾ (¹⁾ 日本女子大学家政学会 , ²⁾ ケンツメディコ株式会社): 新しいLUNG SOUNDS ANALYZER . CLINICAL PHARMACOLOGY AND THERAPY 2000 ; 10 (4): 355-361 .
- 14) 村田 朗 , 金子泰之 , 伊藤永喜 , 望月裕子 , 高崎雄司 : ライフコーダイを用いた在宅患者における客観的日常生活度の解析 . Jpn J Cancer Chemother 2000 ; 27 : 717-720 .
- 15) 柏木征三郎¹⁾ , 工藤翔二 , 渡辺 彰²⁾ , 吉村 功³⁾ (¹⁾ 九州大学医学部付属病院総合診療部教授 (現 国立九州医療センター院長) , ²⁾ 東北大学加齢医学研究所腫瘍制御研究部門呼吸器腫瘍研究分野助教授 , ³⁾ 東京理科大学工学部経営工学科教授): リン酸オセルタミビルのインフルエンザ発症抑制予防効果に関する検討 : プラセボを対照とした第III相二重盲検並行群間比較試験成績 . 感染症誌 2000 ; 74 (12): 1062-1076 .
- 16) 柏木征三郎¹⁾ , 工藤翔二 , 渡辺 彰²⁾ , 吉村 功³⁾ (¹⁾ 九州大学医学部付属病院総合診療部教授 (現 国立九州医療センター院長) , ²⁾ 東北大学加齢医学研究所腫瘍抑制研究部門呼吸器腫瘍研究部門助教授 , ³⁾ 東京理科大学工学部経営工学科教授): インフルエンザウイルス感染症に対するリン酸オセルタミビルの有効性及び安全性の検討 : プラセボを対照とした第III相二重盲検並行群間比較試験成績 . 感染症誌 2000 ; 74 (12): 1044-1061 .
- 17) 村田 朗 , 工藤翔二 : COPDに対する薬物療法 . 医学のあゆみ 2001 ; 196 (9): 651-655 .

- 18) 吾妻安良太, 屋部登志雄, 古川 宏, 慶長直人, 阿部信二, 新原礼子, 榎本達治, 宮本晴子, 高橋卓夫, 臼杵二郎, 井上啓文, 山本一彦, 十字猛夫, 工藤翔二: エリスロマイシン少量長期療法が奏効したBare Lymphocyte Syndromeの1例. Jpn J Antibiotics 2001; 54: 114-117.
- 19) 石井健男, 松瀬 健, 慶長直人, 寺本信剛, 吾妻安良太, 工藤翔二, 福地義之助, 大内 義: NADH/NADPH oxidaseの遺伝子多型とびまん性汎細気管支炎(DPB), 慢性閉塞性肺疾患(COPD)との関連. 日呼吸会誌 2001; 39(5): 328-332.
- (2) 研究報告書:
- 1) 榎本達治, 臼杵二郎, 松田久仁子, 青山昭徳, 高橋卓夫, 宮本晴子, 阿部信二, 吾妻安良太, 工藤翔二: 肺線維症に与える高血糖の影響. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班平成11年度研究報告書 2000; pp74-77.
 - 2) 高崎雄司, 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 菅野トシエ¹⁾, 小森邦子¹⁾, 久保博信²⁾, 青木実雄²⁾, 須藤秀明³⁾, 鍛冶哲也⁴⁾(¹⁾日本医科大学付属病院看護部, ²⁾帝人株式会社, ³⁾足立区医師会理事, ⁴⁾東日本電信電話株式会社): 地域の医師会及び開業医との連携による高齢, 重症慢性閉塞性肺疾患の包括ケアに関する研究. 大気汚染による健康影響に関する総合的研究成果集(公害健康被害補償予防協会)2000; pp74-88.
- (3) 患者情報誌:
- 1) 村田 朗: ちょっと散歩でもいかがですか. J-BREATH 2001; 396.
- (4) 症例報告:
- 1) 清家正博, 榎本達治, 植松和嗣, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 逸見しのぶ¹⁾, 持丸 博¹⁾, 福田 悠¹⁾, 工藤翔二(¹⁾日本医科大学病理第一): アルミニウム肺に顕微鏡的多発動脈炎による間質性肺炎の合併が疑われた1例. 日呼吸会誌 2000; 38(5): 408-412.
 - 2) 谷口泰之¹⁾, 古田和行¹⁾, 三宅康弘¹⁾, 内田八重子¹⁾, 宮永忠彦¹⁾, 工藤翔二(¹⁾慈生会等潤病院): 複視を伴ったマイコプラズマ肺炎の1例. 胸部臨床 2000; 59(10): 790-795.
- (5) 総説:
- 1) 村田 朗, 工藤翔二: 慢性閉塞性肺疾患(慢性気管支炎・肺気腫). The Journal of Practical Pharmacy 2000; 52(増刊号): 701-708.
 - 2) 清家正博, 植松和嗣, 弦間昭彦: 高齢者肺癌のBiology. 肺癌の臨 2000; 3(2): 187-191.
 - 3) 竹中 圭, 渋谷昌彦: 腫瘍マーカーの選び方, 使い方: 呼吸器系癌. PRACTICAL ONCOLOGY 2000; 13(3): 4-5.
 - 4) 村田 朗, 工藤翔二: 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態, 診断, 治療をめぐる最近の進歩: 21世紀への展望: COPD患者の呼吸管理. Progress in Medicine 2000; 20(4): 823-826.
 - 5) 吾妻安良太, 工藤翔二: 内科治療のグローバルスタンダードIV-5びまん性汎細気管支炎. 臨床医 増刊号 2000; 26(増刊号): 211-215.
 - 6) 倉根修二, 工藤翔二: オセルタミビル. 感染と抗菌薬 2000; 3(3): 342-347.
 - 7) 村田 朗, 工藤翔二: 目で見る肺の聴診所見, 図解 病態のメカニズム: 呼吸器疾患. medicina 2000; 37(12): 1863-1867.
 - 8) 赤座英之¹⁾, 相羽恵介²⁾, 磯西成治³⁾, 小川 修⁴⁾, 渋谷昌彦, 曾根三郎⁵⁾, 鶴尾 隆⁶⁾, 野口真三郎⁷⁾, 桶之津史郎⁸⁾, 古野純典⁹⁾, 三上 修¹⁰⁾, Blackledge G¹¹⁾, Vose B¹¹⁾, Stribling D¹⁰⁾(¹⁾筑波大学臨床医学系・泌尿器科, ²⁾(財)癌研究会癌化学療法センター・臨床部, ³⁾東京慈恵会医科大学・産婦人科, ⁴⁾京都大学医学部・泌尿器科, ⁵⁾徳島大学医学部・第三内科, ⁶⁾東京大学分子細胞生物学研究所, ⁷⁾大阪大学医学部・腫瘍外科, ⁸⁾東京大学医学部・生物統計学/疫学予防保健学教室, ⁹⁾九州大学医学部・公衆衛生学, ¹⁰⁾アストラゼネカ株式会社, ¹¹⁾英国アストラゼネカ社): 分子標的治療薬の臨床開発における日本と世界の比較. 癌と化療 2000; 27(11): 1681-1693.

- 9) 神尾孝一郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: DPBと気管支拡張症, 副鼻腔気管支症候群. 今月の治療・臨時増刊号 2000; 8.
 - 10) 倉根修二, 工藤翔二: 肺結核の症候学・活動性分類. 化療の領域 2001; (増刊号): 89-94.
 - 11) 村田 朗, 工藤翔二: 特集: COPD (慢性閉塞性肺疾患)をどうするか? 気道感染合併時の治療. 今月の治療 2001; 9(4): 424-425.
 - 12) 村田 朗, 工藤翔二: COPDをどうするか?: 外来での対応と在宅酸素療法気道感染合併時の治療. 今月の治療 2001; 9(4): 72-74.
- (6) 特集:
- 1) 工藤翔二, 牧野国義¹⁾(¹⁾東京都立衛生研究所環境保健部): わが国の大気環境の現状と微小粒子状物質の生体影響. 呼吸と循環 2000; 48(7): 655-659.

著 書

- 1) 武村 明, 渋谷昌彦: [分担] 非小細胞肺癌: VP (CDDP+VDS) 療法. 実践・癌化学療法別副作用対策 (古江 尚), 2000; pp42-43, メディカルレビュー社.
- 2) 武村 明, 渋谷昌彦: [分担] 非小細胞肺癌: CDDP/UFT 療法. 実践・癌化学療法別副作用対策 (古江 尚), 2000; pp44-45, メディカルレビュー社.
- 3) 武村 明, 渋谷昌彦: [分担] 非小細胞肺癌: CDDP/docetaxel 療法. 実践・癌化学療法別副作用対策 (古江 尚), 2000; pp48-49, メディカルレビュー社.
- 4) 渋谷昌彦: [分担] 効果判定. 抗悪性腫瘍薬ハンドブック (西條長宏), 2000; pp20-27, 中外医学社.
- 5) 渋谷昌彦: [分担] 新しい薬物有害反応判定基準: NCI-CTC version 2.0. がんの化学療法 (前編) (西條長宏), 2000; pp150-158, 最新医学社.
- 6) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患 64章肺機能検査. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp525-535, 日経BP社.
- 7) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患 65章特別な手技. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp536-547, 日経BP社.
- 8) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第70章気管支拡張症. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp587-593, 日経BP社.
- 9) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第63章呼吸器疾患患者へのアプローチ. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp515-524, 日経BP社.
- 10) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第66章呼吸不全. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp547-554, 日経BP社.
- 11) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第67章成人呼吸促進症候群. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp554-558, 日経BP社.
- 12) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第68章慢性閉塞性肺疾患. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp558-586, 日経BP社.
- 13) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第69章急性気管支炎. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp586-587, 日経BP社.
- 14) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第71章無気肺. メルクマニュアル第17版 日本語版 (日経BP社), 2000; pp593-596, 日経BP社.
- 15) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第72章肺塞栓症. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M. D., and Robert Berkow, M. D.), 2000; pp597-604, 日経BP社.
- 16) 村田 朗: [翻訳] 第6節呼吸器疾患第73章肺炎. メルクマニュアル第17版 日本語版 (Mark H. Beers, M.

- D., and Robert Berkow, M. D.), 2000 ; pp604-619, 日経BP社 .
- 17) 森山 寛, 山中 昇, 石戸谷淳一, 吾妻安良太, 小沢 仁 : [共著]「第1回 探求, マクロライド療法」マクロライド療法の適応症例をどう見極めるか: 成人症例を中心に. 耳鼻咽喉科展望, 2000 ; pp336-343, 耳鼻咽喉科展望会 .
 - 18) 弦間昭彦 : [分担] 肺癌と癌抑制遺伝子. Annual Review 呼吸器 2000 (工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田健), 2000 ; 中外出版社 .
 - 19) 渋谷昌彦, 日比野俊 : [分担] 非小細胞肺癌の集学的治療. 呼吸器疾患-最新の治療 2001-2003 (工藤翔二・中田紘一郎・貫和敏博), 2001 ; pp376-381, 南江堂 .
 - 20) 村田 朗, 工藤翔二 : [分担] 胸水. 臨床検査ガイド 2001 ~ 2002 (和田攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄), 2001 ; pp1043-1046, 文光堂 .
 - 21) 吉村明修, 工藤翔二 : [分担] 特集 呼吸器疾患の治療 肺癌. 医学と薬学, 2001 ; pp59-69, 自然科学社 .
 - 22) 村田 朗, 工藤翔二 : [分担] 検査・診断・治療への流れ 診察・看護のための最新医学講座 第2巻呼吸器疾患 (日野原重明, 井村裕夫), 2001 ; pp51-58, 中山書店 .
 - 23) 工藤翔二, 吉村明修 : [分担] 胸・腹部, 内蔵疾患の痛み呼吸器疾患に由来する痛みの特徴: 診断と治療. 痛みと臨床, 2001 ; pp3-11, 先端医学社 .
- (1) 著書 :
- 1) 森山 寛, 山中 昇, 石戸谷淳一, 吾妻安良太, 小沢 仁 : [共著]「第2回 探求, マクロライド療法」マクロライド療法の標準化を目指して: 成人症例を中心に. 耳鼻咽喉科展望, 2000 ; pp429-438, 耳鼻咽喉科展望会 .

学会発表

[1999 年度追加分]

セミナー :

- 1) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション. 呼吸療法士認定更新のための講習会, 2000 . 2 .

(1) 特別講演 :

- 1) 工藤翔二 : 慢性気道炎症とマクロライド療法. 第11回三地区合同肺癌・呼吸器研究会, 2000 . 4 .
- 2) 工藤翔二 : 慢性気道炎症とマクロライド. 盛岡講演会, 2000 . 5 .
- 3) 工藤翔二 : 慢性気道炎症とマクロライド. 秋田講演会, 2000 . 6 .
- 4) 工藤翔二 : びまん性肺疾患 最近の進歩. 第3回徳島呼吸器感染症研究会, 2000 . 8 .
- 5) 工藤翔二 : DPBとマクロライドをめぐる最近の話題. 第28回埼玉呼吸器病研究会, 2000 . 9 .
- 6) 工藤翔二 : 慢性気道炎症とマクロライド. 宮崎講演会, 2000 . 10 .
- 7) 工藤翔二 : 慢性気道炎症の病態とマクロライド療法. 第1回南栃木肺研究会, 2001 . 1 .
- 8) 工藤翔二 : 慢性気道炎症とマクロライド. 長岡講演会, 2001 . 2 .

(2) 教育講演 :

- 1) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション. 世田谷区主催「呼吸器勉強会」, 2000 . 6 .

(3) シンポジウム :

- 1) Kudoh S : Diffuse panbronchiolitis in Asia-clinicopathological, epidemiological and genetic aspects . 13 th International Congress of the International Academy of Pathology and 14 th World Congress of Academic and Environmental Pathology (Nagoya), 2000 . 10 .
- 2) 吾妻安良太 : 眼サルコイドーシスのすべて (内科の立場から). 第34回日本眼炎症学会, 2000 . 7 .
- 3) 吾妻安良太 : ANCA 関連肺疾患をめぐる ; Churg-Strauss 症候群を中心に . 第20回日本サルコイドーシス学

会, 2000 . 10 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) 弦間昭彦, 竹中 圭, 細谷曜子, 持丸 博, 清家正博, 栗本太嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 西村訓弘¹⁾ (¹⁾ Genetic Lab): 肺癌関連遺伝子発現プロファイル解析の汎用臨床応用システムの構築 . 第 41 回日本肺癌学会総会, 2000 . 11 .

(5) セミナー :

- 1) 村田 朗 : 包括的呼吸リハビリテーション . 呼吸療法士認定更新のための講習会, 2001 . 2 .

(6) ワークショップ :

- 1) 木村和義¹⁾, 平松久弥子¹⁾, 海老沢雅子¹⁾, 野村浩一郎¹⁾, 杉山 彰²⁾, 梅本琢也³⁾ (¹⁾ 国立東静病院呼吸器科, ²⁾ 同 放射線科, ³⁾ 同 心臓血管外科): 進行非小細胞肺癌患者の入院診療における医療経済的検討 . 日本肺癌学会総会, 2000 . 11 .

(7) 一般講演 :

- 1) Gemma A , Seike Y , Seike M , Uematsu K , Kurimoto F , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Genomic structure of the gene encoding the human MAD2 and mutation analysis in human lung cancer . 90th annual meeting of American Association for Cancer Research (USA), 2000 . 4 .
- 2) Saito Y , Sugawara I¹⁾, Abe S , Takizawa H²⁾, Azuma A , Kudo S (¹⁾ Dept. Mol. Pathol. The Research Institute of Tuberculosis , ²⁾ Dept. Labo. Med. Univ. of Tokyo): Effects of Diesel Particles and BCG on Alveolar Macrophages . Experimental Biology , 2000 . 4 .
- 3) Miyamoto H , Abe S¹⁾, Sugawara I¹⁾, Matsuda K , Azuma A , Kudoh S (¹⁾ The Research Institute of Tuberculosis): Differential secretion of cytokine by HUVEC stimulated with low concentration of Bleomycin . ATS 2000 Toronto, 96th International Conference American Lung Association/Canadian Lung Association. (Toronto, Canada.), 2000 . 5 .
- 4) Enomoto T , Usuki J , Azuma A , Miyamoto H , Takahashi T , Aoyama A , Kudoh S : THE INFLUENCE OF HYPERGLYCEMIA TO THE SEVERITY OF BLEOMYCIN INDUCED LUNG FIBROSIS IN MICE . 2000 INTERNATIONAL CONFERENCE, AMERICAN THORACIC SOCIETY (TRONTO, ON, CANADA), 2000 . 5 .
- 5) Seike M , Gemma A , Seike Y , Taniguchi Y , Henmi S , Kurimoto F , Uematsu K , Hibino S , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Inactivation of the p16 gene by hypermethylation in lung cancer during the process of metastasis and its relation to the status of p53 . 2000 American thoracic society international conference (Tronto), 2000 . 5 .
- 6) Azuma A , Kamio K , Keityou N , Tokunaga K , Aoyama M , Kudoh S : Genetic Analysis For Familial Clustering of Diffuse Panbronchiolitis in Japan . ATS 2000 (Toronto), 2000 . 5 .
- 7) Usuki J , Enomoto T , Azuma A , Matsuda K , Aoyama A , Kudoh S : Influence of hyperglycemia to the severity of pulmonary fibrosis . Thomas L. Petty 43rd Annual Aspen Lung Conference (Aspen, CO. USA), 2000 . 6 .
- 8) Usuki J , Enomoto T , Azuma A , Miyamoto H , Takahashi T , Matsuda K , Aoyama A , Kudoh S : The Influence Of Hyperglycemia To The Severity Of Pulmonary Fibrosis . Aspen Lung Conference, 43rd Annual Meeting (Aspen, Colorado), 2000 . 6 .
- 9) Takenaka K , Gemma A , Uematsu K , Hibino S , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S , Yoshimori K¹⁾, Mizutani S¹⁾, Sugita H¹⁾, Niitani H²⁾ (¹⁾ Department of Pulmpnology, Tuberculosis Prevention association, Fukujujji Hospital , ²⁾ Tokyo Cancer Chemotherapy Reserch Group): Pilot study of combination chemotherapy with CDDP (Cisplatin) , Docetaxel (DTX) and UFT in patients with advanced non-small cell lung can-

- cer . World Congress of Lung Health and 10th ERS Annual Congress (Florence), 2000 . 8 .
- 10) Murata A , Kaneko Y , Itoh E , Mochizuki H , Takasaki Y : The study for the objective evaluation of treatments for Sleep Apnea Syndrome . 10th European Respiratory Society Annual Congress, 2000/8-30-9/3Florence, Italy (Florence, Italy), 2000 . 9 .
 - 11) Murata A , Shibuya A¹⁾ , Tnahashi H¹⁾ , Kudoh S (¹⁾Japan Women's University): Study of Features of Cough Sound Waves and the Detection of Cough . 25th International Conference on Lung Sounds 2000, 9, 21 (Chicago, Illinois), 2000 . 9 .
 - 12) Hosomi Y^{1,2)} , Yokose T¹⁾ , Hirose Y¹⁾ , Nakajima R^{1,2)} , Nagai K²⁾ , Nishiwaki Y²⁾ , Ochiai A¹⁾ , Kudoh S (¹⁾Pathology Division, National Cancer Center Research Institute East, Kashiwa, Chiba, Japan , ²⁾ Division of Thoracic Oncology, National Cancer Center Research Institute East, Kashiwa, Chiba, Japan): Cyclooxygenase 2 (COX2) expression in multistep carcinogenesis of human adenocarcinoma of the lung . 2001 International Association of for the Study of Lung cancer (Tokyo, Japan), 2000 . 9 .
 - 13) Gemma A , Hosoya Y , Uematsu K , Seike M , Kurimoto F , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Mechanism of resistance to growth inhibition by transforming growth factor 1 (TGF 1) in lung cancer and new molecular targets in therapy . The 9th World Conference on Lung Cancer (Tokyo), 2000 . 9 .
 - 14) Gemma A , Hosoya Y , Uematsu K , Seike M , Kurimoto F , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Mechanism of resistance to growth inhibition by transforming growth factor 1 (TGF 1) in lung cancer and new molecular targets in therapy . World congress on lung health/10th ERS congress (Italy), 2000 . 10 .
 - 15) Kurimoto F , Gemma A , Seike Y , Seike M , Takenaka K , Uematsu K , Yoshimura A , Shibuya M , Kudoh S : Allelic Deletion Analysis of Chromosome 8p and 3p in stage IV Lung Cancer . 92th American Association for Cancer Research (New Orleans), 2001 . 3 .
 - 16) Seike M , Gemma A , Hosoya Y , Kudoh S : Mutation analysis of mitotic checkpoint genes in lung cancer . 92nd American association of cancer research international conference (New Orleans), 2001 . 3 .
 - 17) Hosomi Y , Seike M , Gemma A , Hosoya Y , Kudoh S : Mutation Analysis of Mitotic Checkpoint Genes In Lung Cancer . 2000 American thoracic society international conference (San Francisco), 2001 . 5 .
 - 18) 吉岡央子¹⁾ , 安藤真弘¹⁾ , 神尾孝一郎¹⁾ , 奈良道哉¹⁾ , 長谷川浩一¹⁾ , 羽生忠義¹⁾ , 坪井栄孝¹⁾ , 吉村明修 , 弦間昭彦 , 渋谷昌彦 , 工藤翔二 , 小林国彦²⁾ (¹⁾慈恵会医学研究所坪井病院 , ²⁾ 埼玉県立がんセンター): 既治療肺癌に対するイリノテカン (CPT-11) とシスプラチン (CDDP) の分割投与法の検討 . 第16回東北肺癌研究談話会 , 2000 . 1 .
 - 19) 宮本晴子 , 阿部信二¹⁾ , 菅原 勇¹⁾ , 松田久仁子 , 白杵二郎 , 高橋卓夫 , 榎本達治 , 青山昭徳 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 (¹⁾ 結核研究所分子病理科): プレオマイシンの低濃度暴露によるヒト臍帯静脈血管内皮細胞のサイトカイン発現について . 第40回日本呼吸器学会総会 , 2000 . 3 .
 - 20) 竹中 圭 , 弦間昭彦 , 植松和嗣 , 日比野俊 , 吉村明修 , 渋谷昌彦 , 工藤翔二 , 吉森浩三¹⁾ , 奥村昌夫¹⁾ , 水谷清二¹⁾ , 杉田博宣¹⁾ (¹⁾ 結核予防会複十字病院呼吸器科): 非小細胞肺癌に対する Cisplatin (CDDP) + Docetaxel (TXT) + UFT 併用療法の第一相試験 . 第40回日本呼吸器学会総会 , 2000 . 3 .
 - 21) 弦間昭彦 , 清家曜子 , 栗本太嗣 , 清家正博 , 植松和嗣 , 吉村明修 , 渋谷昌彦 , 工藤翔二 : 原発性肺癌における mitotic checkpoint 遺伝子 hBUB1 遺伝子の変異 . 第39回日本呼吸器学会総会 , 2000 . 4 .
 - 22) 斉藤好信 , 阿部信二 , 菅原 勇¹⁾ , 滝沢 始²⁾ , 吾妻安良太 , 工藤翔二 (¹⁾ 結核研究所分子病理学科 , ²⁾ 東京大学付属病院検査部): 肺胞マクロファージ活性化に及ぼすディーゼル排気微粒子と BCG の影響 . 第75回結核病学会 , 2000 . 4 .
 - 23) 清家正博 , 弦間昭彦 , 谷口泰之 , 逸見しのぶ , 栗本太嗣 , 植松和嗣 , 吉村明修 , 渋谷昌彦 , 工藤翔二 : 肺癌の転移過程 , p53 変異と p16 の不活性化 . 第97回日本内科学会講演会 , 2000 . 4 .

- 24) 吾妻安良太, 神尾孝一郎, 慶長直人, 渡邊和子, 徳永勝士, 青山昭徳, 長谷川浩一, 工藤翔二: 中国残留孤児家系におけるびまん性汎細気管支炎 (DPB) の家族集積例: 疾患感受性遺伝子の検討. 第97回日本内科学会, 2000. 4.
- 25) 弦間昭彦, 植松和嗣, 萩原弘一¹⁾, 竹之下誠一²⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 東北大学加齢研, ²⁾ 福島医大第二外科): 原発性肺癌におけるTGFβ1耐性のメカニズムと治療標的について. 第4回がん分子標的治療研究会総会・第12回日本臨床腫瘍研究会総会, 2000. 6.
- 26) 斉藤 均¹⁾, 久勝章司¹⁾, 篠田欣也¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 博慈会記念総合病院 第一内科): 咯血をきたした炎症性ポリープの1例. 日本気管支学会関東支部会, 2000. 6.
- 27) 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 高崎雄司: Lifecorderを用いた在宅患者における客観的日常生活度の解析: CPAP治療に伴う睡眠時無呼吸症候群の解析から. 第11回日本在宅医療研究会学術集会, 2000. 6.
- 28) 安藤真弘¹⁾, 奈良道哉¹⁾, 吉岡央子¹⁾, 堀江秀治¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 日吉晴久¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 羽生忠義¹⁾, 坪井栄孝¹⁾ (¹⁾ 慈山会医学研究所坪井病院): 当院において診断目的に行われた開胸肺生検症例の検討. 第23回日本気管支学会総会, 2000. 6.
- 29) 斉藤好信, 宇田川忠¹⁾, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 結核研究所分子病理学科, ²⁾ 東京大学附属病院検査部): 肺胞マクロファージのサイトカイン産生に及ぼすディーゼル排気ガスの影響. 日本職業アレルギー学会, 2000. 7.
- 30) 斉藤 均¹⁾, 久勝章司¹⁾, 小野 靖¹⁾, 篠田欣也¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 博慈会記念総合病院第一内科): 異型麻疹肺炎の1例. 日本内科学会関東地方会, 2000. 9.
- 31) 村田 朗, 金子泰之, 伊藤永喜, 望月裕子, 高崎雄司, 工藤翔二: Lifecorder[®]を用いた在宅患者における客観的日常生活度の解析: CPAP治療に伴う睡眠時無呼吸症候群の解析から. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 32) 斉藤好信, 阿部信二, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 結核研究所分子病理学科, ²⁾ 東京大学附属病院検査部): マウス肺胞マクロファージによるサイトカイン産生に及ぼすディーゼル排気ガスの影響; in vitro study. 第41回大気環境学会, 2000. 9.
- 33) 斉藤好信, 阿部信二, 宇田川忠¹⁾, 菅原 勇¹⁾, 滝沢 始²⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 結核研究所分子病理学科, ²⁾ 東京大学附属病院検査部): マウスへのディーゼル排気ガス暴露実験: 肺胞マクロファージに及ぼす影響について in vitro study. 第41回大気環境学会, 2000. 9.
- 34) 栗本太嗣, 植松和嗣, 武村 明, 清家正博, 竹中 圭, 日比野俊, 弦間昭彦, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌化学療法の効果判定における2方向測定と1方向測定の比較検討. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 9.
- 35) 栗本太嗣, 弦間昭彦, 竹中 圭, 清家正博, 清家曜子, 植松和嗣, 吉村明修, 胡 雪君, 渋谷昌彦, 工藤翔二: IV期肺癌における8番染色体短腕および3番染色体短腕のアレル欠失の検討. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 9.
- 36) 森山 岳¹⁾, 小野 靖¹⁾, 本橋典久¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小俣雅隆¹⁾, 木山 知行¹⁾, 小久保豊¹⁾, 日野光紀¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 葉山修陽²⁾, 中村 正²⁾, 王 恒維²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院呼吸器センター, ²⁾ 同 腎臓内科): MPO-ANCA陽性びまん性肺胞出血3例の検討. 膠原病セミナー, 2000. 9.
- 37) 弦間昭彦, 清家正博, 清家曜子, 栗本太嗣, 竹中 圭, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 江見 充¹⁾, 清家正博, 清家曜子, 栗本太嗣, 竹中 圭, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 江見 充 (¹⁾ 日医大・老研): 原発性肺癌におけるM期チェックポイント関連遺伝子の異常解析. 第59回日本癌学会総会, 2000. 9.
- 38) 水谷英明, 宮本晴子, 榎本達治, 清家正博, 三上礼子, 阿部信二, 高橋卓夫, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 吉村明修, 工藤翔二, 逸見しのぶ¹⁾, 川本雅司¹⁾, 寺崎泰弘¹⁾, 福田 悠¹⁾, 角 勇樹²⁾, 吉澤靖之²⁾ (¹⁾ 日本医科大

- 学第一病理,²⁾東京医科歯科大学呼吸器科): インコが原因と考えられた慢性過敏性肺臓炎の1例. 第142回日本呼吸器学会関東地方会, 2000. 10.
- 39) 斉藤好信, 宇田川忠¹⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二, 菅原 勇¹⁾(¹⁾結核研究所分子病理学科): ディーゼル排気ガス暴露と感染症. 日本薬学会主催 フォーラム2000: 衛生薬学・環境トキコロジー, 2000. 10.
- 40) 吉岡央子¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 堀江秀治¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 羽生忠義¹⁾, 坪井栄孝¹⁾, 奈良道哉, 神尾孝一郎, 竹中 圭, 工藤翔二(¹⁾慈山会医学研究所坪井病院): 切除不能非小細胞肺癌に対する Docetaxel (DOC) + Cisplatin (CDDP) 併用療法の検討. 第1回福島呼吸器フォーラム, 2000. 10.
- 41) 村田 朗, 工藤翔二, 渋谷惇夫¹⁾, 棚橋ひとみ¹⁾, 太田奈緒¹⁾(¹⁾日本女子大学家政学科): 咳嗽音の波形の特徴と識別法の研究. 第25回肺音(呼吸音)研究会, 2000. 11.
- 42) 安藤真弘¹⁾, 奈良道哉¹⁾, 吉岡央子¹⁾, 堀江秀治¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 日吉晴久¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 羽生忠義¹⁾, 坪井栄孝¹⁾(¹⁾慈山会医学研究所坪井病院): 当院において診断目的に行われた開胸肺生検症例の検討. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 43) 清家正博, 弦間昭彦, 栗本太嗣, 竹中 圭, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 原発性肺癌におけるM期チェックポイント関連遺伝子の異常解析. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 44) 森山 岳, 阿部信二, 榎本達治, 宮本晴子, 三上礼子, 高橋卓夫, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 平田和己¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 中川高志²⁾, 新藤 昇²⁾(¹⁾日本医科大学外科第2,²⁾大宮クリニック): 人間ドックにて発見された先天性気管支食道ろう. 日本気管支学会, 2000. 12.
- 45) 堀江秀治¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 吉岡央子¹⁾, 野呂林太郎¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 立花正徳¹⁾, 日吉晴久¹⁾, 和知栄子¹⁾, 赤沼弘勝¹⁾, 羽生忠義¹⁾, 坪井栄孝¹⁾(¹⁾慈山会医学研究所坪井病院): 若年者に閉塞性肺炎にて発症した定型的気管支カルチノイドの1例. 第72回日本呼吸器学会東北地方会第102回日本結核病学会東北地方会, 2001. 2.
- 46) 野呂林太郎¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 吉岡央子¹⁾, 堀江秀治¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾, 羽生忠義¹⁾, 坪井栄孝¹⁾(¹⁾慈山会医学研究所坪井病院): 当院における肺癌症例の在宅酸素療法の検討. 第15回呼吸不全講演会, 2001. 3.
- 47) 村田 朗, 工藤翔二: 咳嗽音の波形の特徴と識別法の研究. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 48) 村田 朗, 伊藤永喜, 金子泰之, 望月裕子, 高崎雄司: 携帯型加速度計内蔵歩数計による睡眠時無呼吸症候群患者の日常生活活動量の評価. 第41回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.
- 49) 細見幸生, 清家正博, 弦間昭彦, 細谷曜子, 岡野哲也, 栗本太嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 原発性肺癌におけるM期チェックポイント関連遺伝子の異常解析. 第40回日本呼吸器学会総会, 2001. 4.

5. 精神医学講座

[付属病院神経科・千葉北総病院神経科・多摩永山病院神経科]

研究概要

教室の研究は、精神生理学、コンサルテーション・リエゾン精神医学をはじめ、精神内分泌学、力動精神医学など多岐に亘る。精神生理学の分野では、従来の気分障害に対する脳波分析、事象関連電位、フラクタル解析のほか、今年度はSPECTによるvascular depressionとnon-vascular depressionの比較研究が開始され、とくに寛解時の差異が明らかされた。また、無けいれん性電気けいれん療法による脳血流の変化についての研究が開始された。体感症の脳画像解析により明らかにされた視床を中心としたSPECT高集積については、さらに検討を重ねている。フラクタル解析に関する研究では、バイアスの同定とその除去法について優れた業績が挙げられた。また、頭皮上脳波では認められなかった催眠深度に対応するフラクタル次元の変化が見られることを明らかにした。時間生物学的研究では、従来の気分障害や抗うつ薬のほかアルツハイマー型老年痴呆についてリズム異常、認知機能、深部体温、メラトニンさらに高照度光療法の効果などの研究が続けられ、さらにtriazolamを中心とした睡眠薬効果の時間生物学的研究も行われた。アイオワ大学との共同研究では、poststroke depressionについて認知機能との関連、性機能障害との関連の研究があるが、さらに、治療面での検討が行われるようになった。また、ニューヨーク州立大学との共同研究であるアルコール依存症者の聴覚性事象関連電位(P3a)についての研究が行われた。精神内分泌学では、うつ病のデキサメサゾン-CRH負荷試験および健常人を用いた基礎的研究が始まった。コンサルテーション・リエゾンの領域では、自殺の問題を中心に総合病院における精神科をめぐる諸問題が活発に研究されたほか、今年はとくに重篤な身体疾患を合併する患者の治療のための病棟の問題が研究された。また、psychooncologyについて研究が進んだ。力動精神医学の分野ではとくに万能感をめぐって暗示や境界性人格障害との関連が検討された。催眠療法や行動療法の分野では臨床的研究が活発になり本年度はとくに多くの業績が挙げられている。犯罪精神医学の領域では、本年度の日本犯罪学会を当教室が担当し、若年者の非行に関わる精神科的疾患についての検討をおこなった。その他、多剤乱用者の脳画像とERPの特徴、一過性てんかん性健忘(TEA)などの症例研究が行われた。

研究業績

論文

[1999年度追加分]

原著：

- 1) Kishi Y, Robinson RG, Kosier JT : Integrating medical and psychiatric treatment in an inpatient medical setting, The type IV program . Psychosomatics 1999 ; (40): 345-355 .
- 2) 唐沢淳一¹⁾, 大野桂司¹⁾, 森 隆夫, 高木 香¹⁾, 堀込和利¹⁾(¹⁾三井製薬生物科学研究所) : 塩酸sultoprideとzotepineの相互作用に関する研究：動物モデルを用いた基礎研究．臨床精神薬理 2000 ; 9 (3): 887-895 .
- 3) 三浦貞則, 山下 格, 浅井昌弘, 遠藤俊吉 : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬パロキセチンのうつ病およびうつ状態に対する臨床評価：塩酸イミプラミンを対照とした容量設定試験．薬理と臨 2000 ; 28 (suppl): 137-160 .
- 4) 三浦貞則, 小山 格, 浅井昌弘, 遠藤俊吉 : 選択的セロトニン再取り込み阻害薬パロキセチンのうつ病およびうつ状態に対する臨床評価：塩酸イミプラミンを対照とした二重盲験群間比較試験．薬理と治療 2000 ; 28 (suppl): 187-210 .

(1) 原著 :

- 1) Yamadera H , Ito T , Asayama K , Ito R , Endo S : Effects of bright light on cognitive and sleep-wake (circadian) rhythm disturbances in Alzheimer-type dementia . Psychiatry and Clinical Neurosciences 2000 ; 54 : 352-353 .
- 2) Matsubara M¹⁾ , Suzuki S¹⁾ , Miura K¹⁾ , Terashima M²⁾ , Sugita S¹⁾ , Kimura H¹⁾ , Hatsuda S¹⁾ , Mori T , Hayashi T¹⁾ , Ohta T²⁾ , Ohara M¹⁾ (¹⁾ Department of Neuropsychiatry, Aichi Medical College , ²⁾ Department of Psychiatry, Nagoya University : Electrophysiologic Analysis of Antidepressant Drug Effects on the GABA-A Receptor Complex Based upon Antagonist-Induced Encephalographic Power Spectrum Changes . Neuropsychobiology 2000 ; 42 : 149-157 .
- 3) Kitoh S , Kimura M , Mori T , Takezawa K , Endo S : A fundamental bias in calculating dimensions from finite data sets . Physica D 2000 ; 141 : 171-182 .
- 4) Hayakawa T¹⁾ , Uchiyama M¹⁾ , Enomoto T¹⁾ , Nakajima T¹⁾ , Kim K¹⁾ , Shibui K¹⁾ , Kudo Y , Ozaki S¹⁾ , Nakajima T¹⁾ , Suzuki H¹⁾ , Urata J¹⁾ , Okawa M¹⁾ (¹⁾ National Institute of Mental Health National Center of Neurology and Psychiatry) : Effects of small dose of brotizolam on P300 . Psychiatry and Clinical Neuroscience 2000 ; 54 : 319-320 .
- 5) Kimura M , Robinson RG¹⁾ , Kosier JT¹⁾ (¹⁾ Department of Psychiatry, The University of Iowa College of Medicine) : Treatment of cognitive impairment after poststroke depression : a double-blind treatment trial . Stroke 2000 ; 31 (7) : 1482-1486 .
- 6) Hada M , Porjesz B¹⁾ , Begleiter H¹⁾ , Polich J²⁾ (¹⁾ The Department of Psychiatry, SUNY Health Science Center at Brooklyn , ²⁾ Cognitive Electrophysiology Laboratory, Department of Neuropharmacology, The Scripps Research Institute, LaJolla, California) : Auditory P3a Assessment of Male Alcoholics . Biological Psychiatry 2000 ; 48 : 276-286 .
- 7) Kishi Y , Kathol RG : Integrating medical and psychiatric treatment in an inpatient medical setting . Psychosomatics 2000 ; (41) : 367-369 .
- 8) Takaishi N : A Comparative Study of autogenic training and Progressive Relaxation as Methods for Teaching Clients to Relax . Sleep & Hypnosis 2000 ; 2 (3) : 132-136 .
- 9) Liu X¹⁾ , Uchiyama M¹⁾ , Kim K¹⁾ , Okawa M¹⁾ , Shibui K¹⁾ , Kudo Y , Doi Y¹⁾ , Minowa M¹⁾ , Ogihara R¹⁾ (¹⁾ National Institute of Mental Health National Center of Neurology and Psychiatry) : Sleep loss and daytime sleepiness in the general adult population of Japan . Psychiatry research 2000 ; 93 : 1-11 .
- 10) Murata Y , Kimura M , Robinson RG¹⁾ (¹⁾ Department of Psychiatry, The University of Iowa College of Medicine) : Does cognitive impairment cause post-stroke depression? . American Journal of Geriatric Psychiatry 2000 ; 8 (4) : 310-317 .
- 11) Liu X¹⁾ , Uchiyama M¹⁾ , Shibui K¹⁾ , Kim K¹⁾ , Kudo Y , Tagaya H¹⁾ , Suzuki H¹⁾ , Okawa M¹⁾ (¹⁾ National Institute of Mental Health National Center of Neurology and Psychiatry) : Diurnal preference, sleep habits circadian sleep propensity and melatonin rhythm in healthy human subjects . Neuroscience letters 2000 ; 280 : 190-202 .
- 12) Yamadera H , Okawa M¹⁾ , Takahashi K²⁾ (¹⁾ Shiga University of Medical Science, ²⁾ National Center of Neurology and Psychiatry) : Open study of alprazolam on seasonal affective disorder . Psychiatry and Clinical Neurosciences 2001 ; 55 : 27-30 .
- 13) 遠藤幸彦 , 鈴木博子 , 森 隆夫 , 遠藤俊吉 : 万能感と暗示 . 催眠と科学 2000 ; 15 (1) : 21-25 .
- 14) 遠藤幸彦 , 鈴木博子 , 森 隆夫 , 遠藤俊吉 : 境界性人格障害の精神療法 : 万能感の取り扱いについて . 精神科治療学 2000 ; 15 (7) : 757-763 .

- 15) 岸 泰宏, 村岡真理, 黒澤 尚, 小井土雄一, 山本保博, 矢崎誠一, 長尾 健, 小島卓也: 救命救急センターに勤務する救急医の燃え尽き (burnout), うつ症状, 並びにクオリティー・オブ・ライフ (QOL). 総合病院精神医学 2000 ; 135-143 .
- 16) 高石 昇: 催眠療法. 臨精医 2000 ; 29 (増刊号).
- 17) 山寺博史, 鈴木英朗, 朝山健太郎, 伊藤敬雄, 工藤吉尚, 遠藤俊吉: トリアゾラムとプロチゾラムの睡眠の脳波および翌朝の眠気に関する研究. 診断と治療 2001 ; 89 : 703-709 .
- 18) 高石 昇: 臨床催眠の今日的意義と本学会の基本姿勢. 臨床催眠学 2001 ; 2 : 10-13 .
- 19) 工藤吉尚, 山田滋雄¹⁾, 中島常夫¹⁾, 中西かおる, 塚田和美 (¹⁾国立国府台病院): 単純ヘルペス脳炎のCT出血像. 神経内科 2001 ; 54 : 193-194 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 鈴木博子, 木村真人, 鈴木英朗, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 抗精神薬投与による便秘に対する乙字湯の効果の検討. 東洋医学 2000 ; 28 (4) : pp34-37 .
- (3) その他 :
- 1) 山寺博史: 平成12年第3回医学講座「睡眠について考える」1. 睡眠障害についての最近の知見. 日本医師会生涯教育講座 2000 .
- (4) 症例報告 :
- 1) 竹澤健司, 森 隆夫, 木村真人, 鈴木博子, 遠藤俊吉: 催眠施行中における脳波変化. 催眠と科学 2000 ; 15 (1) : 27-30 .
- (5) 総説 :
- 1) Koh M, Nishimatsu Y, Endo S : Dissociative Disorder . Journal of International Society of Life Information Science (ISLIS) 2000 ; 18 (2) : 495-501 .
- 2) 吉川栄省, 黒澤 尚 : 急性精神症状 . 今月の治療 臨時増刊号 1999 ; 7 : 116-117 .
- 3) 明智龍男¹⁾, 吉川栄省²⁾, 北野聖子³⁾, 秋月伸哉⁴⁾, 中野智仁⁵⁾, 岡村 仁⁶⁾, 内富庸介⁷⁾ (¹⁾国立がんセンター 中央病院, ²⁾日本医科大学付属千葉北総病院, ³⁾国立がんセンター 中央病院, ⁴⁾国立がんセンター 東病院, ⁵⁾国立がんセンター 研究支所, ⁶⁾国立がんセンター 研究支所, ⁷⁾国立がんセンター 研究支所): 終末期がん患者が死を望むとき サイコオンコロジーの視点から . ターミナルケア 2000 ; 10 (3) : 189-193 .
- 4) 森 隆夫 (¹⁾医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): これからの医師教育: 医療現場ではこんな臨床医が必要になる. 病院経営新事情 2000 ; 209 (4) : 39-47 .
- 5) 岸 泰宏: Common diseaseのEvidence-based MedicineとExperience-based Medicine. せん妄. 臨床成人病 2000 ; 1431-1435 .
- 6) 鈴木博子: 大学病院精神科の時間外診療における自殺企図の実態. 医学のあゆみ 2000 ; 194 (6) : 541-544 .
- 7) 鈴木博子, 山本保博: 日本医科大学付属病院高度救命救急センターにおける自殺企図者の実態. 医学のあゆみ 2000 ; 194 (6) : 560-562 .
- 8) 吉川栄省, 岸 泰宏, 黒澤 尚: 悪性腫瘍, 長期入院患者の心理, 精神医学的問題. 産婦人科の実際 2000 ; 49 (11) : 1655-1661 .
- 9) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 自殺企図による中毒患者の精神科的アプローチ. Medical Practice 2000 ; 17 : 1573-1575 .
- 10) 岸 泰宏, 保坂 隆, 黒澤 尚: 救急救命センターでの自殺統計表についての提案. 医学のあゆみ 2000 ; (194) : 555-559 .
- 11) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 心因性咽頭痛. JOHNS 2000 ; 16 : 915-918 .
- 12) 鈴木博子: 特集・救急医療の知識 プライマリーケアより専門治療へ 精神疾患. クリニカ 2000 ; 27

(5): 62 (338) -66 (342).

13) 鈴木博子, 森 隆夫: 精神障害における自殺企図. 臨精医 2000 ; 29 (増刊号): 403-407 .

14) 山寺博史: 特集 急性中毒的確な治療のためにメラトニン. 救急医 2001 ; 25242-25243 .

15) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 21世紀の精神病床のあり方: 地域に根ざした医療改革. 日精病協誌 2001 ; 20 (2): 31-35 .

(6) 連載:

1) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 活力ある職場づくりのための人間関係論: 職場のモラルや価値観と人間関係 (1). 病院経営新事情 2000 ; 211 (5): 67-71 .

2) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 活力ある職場づくりのための人間関係論: 職場のモラルや価値観と人間関係 (2). 病院経営新事情 2000 ; 213 (6): 67-71 .

3) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 活力ある職場づくりのための人間関係論: 集団と人間関係. 病院経営新事情 2000 ; 215 (7): 80-84 .

4) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 活力ある職場づくりのための人間関係論: 集団の中での人間関係 (1). 病院経営新事情 2000 ; 217 (8): 107-111 .

5) 森 隆夫 (1) 医療法人愛精会, 日本医科大学精神医学): 活力ある職場づくりのための人間関係論: 集団の中での人間関係 (2). 病院経営新事情 2000 ; 219 (9): 73-77 .

著 書

[1999 年度追加分]

1) 岸 泰宏: [翻訳] 自殺患者. MGJH 総合病院精神医学マニュアル (黒澤 尚, 保坂 隆), 1999 ; pp65-81, メディカル・サイエンス・インターナショナル .

1) 工藤吉尚, 内山 真: [自著] すやすやねむる. ぎょうせい, 2000 ; pp12-17, 東京都 .

2) 田川一郎, 黒澤 尚: [共著] 精神科疾患. Emaemergency Bible: 救急診療のすべて, 2000 ; pp188-189, (株) メヂカルレビュー社 .

3) 森 隆夫, 遠藤俊吉: [分担] うつ病とその臨床症状. 現代の抑うつ (編集 風祭 元), 2000 ; pp55-68, 日本評論社 .

4) 田川一郎, 黒澤 尚: [共著] ソフトな精神科救急にみられる精神科疾患. 救急現場のピットフォール (1): 症状・形態からみた観察と処置 内因性疾患, 2001 ; pp242-251, 株式会社 荘道社 .

5) 高石 昇: [翻訳] アンコモンセラピー ミルトン・エリクソンのひらいた世界 (監訳 高石 昇), 2001 ; 二瓶社 .

6) 森 隆夫: [分担] 抗不安薬. 治療薬ガイド2001-2002 (Medical Practice編集委員会編), 2001 ; pp32-44, 文光堂 .

7) 森 隆夫: [自著] 精神科医が見た職場の人間関係: 会社で協調できる人できない人, 2001 ; 経営書院 .

8) 遠藤俊吉, 森 隆夫: [共著] 専門医が語る: よくわかる心の病気 (新版), 2001 ; 成美堂出版 .

学会発表

(1) 特別講演:

1) 高石 昇: 精神療法短期化とブリーフセラピー. 第19回東海リエゾン精神医学研究会, 2000 . 5 .

2) 黄 珉淑, 西松能子, 遠藤俊吉: 解離性障害. 第10回生命情報科学シンポジウム, 2000 . 8 .

(2) 教育講演:

1) 高石 昇: 解離性障害と催眠. 日本臨床催眠研究会: 第二回学術大会, 2001 . 2 .

(3) シンポジウム :

- 1) Yamadera H, Suzuki H : The study of sleep effect in the night and next morning of triazolam and brotizolam on the polysomnography and subjective sleep rating scale. In imaging of sleep . International society for brain electromagnetic topography 12th world congress (Utunomiya), 2001 . 3 .
- 2) 遠藤幸彦, 鈴木博子, 森 隆夫, 木村真人, 遠藤俊吉 : 催眠と心理療法 : 精神分析の立場から . 第16回日本催眠学会大会, 2000 . 9 .
- 3) 高石 昇 : 催眠と心理療法 : 行動療法の立場から . 第16回日本催眠学会大会, 2000 . 9 .
- 4) 西松能子 : 青少年の非社会的行動 : その病理と背景 . 第37回日本犯罪学会総会, 2000 . 11 .
- 5) 鈴木博子, 木村真人, 鈴木英朗, 葉田道雄, 下田健吾, 小宅理佳子, 村田雄一, 木村美保, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 特定機能病院精神科における平均在院日数の短縮過程(総合病院精神科における短期入院化とその問題点). 第13回総合病院精神医学会総会, 2000 . 12 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) 高石 昇 : 催眠療法から見る性虐待および虐待の予後 . 第18回日本小児心身医学会, 2000 . 8 .
- 2) 鈴木博子, 木村真人, 竹澤健司, 池森紀夫, 森 隆夫, 黒澤 尚, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): コンサルテーション・リエゾン活動の実状からみた問題点とその対策 . 第28回日本救急医学会総会, 2000 . 11 .

(5) セミナー :

- 1) 高石 昇 : プライマリーコース . 日本臨床催眠研究会 : 第六回研修会, 2001 . 2 .
- 2) 高石 昇 : 行動療法 : 臨床場面における技法の実際 . 関西カウンセリングセンター, 2001 . 3 .

(6) ワークショップ :

- 1) 小井土雄一, 岸 泰宏, 大友康裕, 木村昭夫, 犬塚 祥, 勝見 敦, 松田 潔, 広間久雄, 今 明秀, 高橋 聡, 山本保博 : 救急医の労働環境とメンタルヘルスの検討 . 第3回 日本臨床救急医学会総会, 2000 . 4 .

(7) 一般講演 :

- 1) Suzuki H, Yamadera H, Asayama K, Ito T, Kudo Y, Endo S, Kanno O¹⁾(¹⁾Aoba Hospital) : The study of sleep effect and carry over effect of triazolam and brotizolam on polysomnography, sleep propensity test and subjective sleep rating scale . 11th INTERNATIONAL PHARMACO-EEG SOCIETY (Vienna, Austria), 2000 . 9 .
- 2) Kishi Y, Robinson RG : Suicidal ideation in medically ill . Academy of Psychosomatic Medicine, 47th Annual Meeting (Palm Springs, California), 2000 . 11 .
- 3) Hosaka T, Sugiyama Y, Okuyama T, Kishi Y : A structured intervention for caregivers and its effects on immune function among Japanese . Academy of Psychosomatic Medicine, 47th Annual Meeting (Palm Springs, California), 2000 . 11 .
- 4) Kimura M, Robinson RG¹⁾(¹⁾Department of Psychiatry, The University of Iowa College of Medicine) : Treatment of poststroke generalized anxiety disorder : a double-blind trial nortriptyline . 12th American neuropsychiatry association annual meeting (Fort myers, Florida), 2001 . 2 .
- 5) Shimoda K, Kimura M, Suzuki H, Murata Y, Tateno A, Mizumura S¹⁾, Endo S (¹⁾Department of Radiology) : Changes in regional blood flow on recovery from depression : comparison of vascular depression and non-vascular depression . 12th American neuropsychiatric association annual meeting (Fort myers, Florida), 2001 . 2 .
- 6) Shimoda K, Kimura M, Mori T, Hada M, Suzuki H, Endo S : Changes in regional blood flow on recovery from depression-comparison of vascular depression and non-vascular depression . International society for brain electromagnetic topography 12th world congress (Utsunomiya, Japan), 2001 . 3 .
- 7) 渋井佳代¹⁾, 内山 真¹⁾, 金 圭子¹⁾, 工藤吉尚, 亀井雄一¹⁾, 早川達郎¹⁾, 太田克也¹⁾, 赤松達也¹⁾, 大川匡

- 子¹⁾(¹⁾国立精神神経センター国府台病院): 女性の月経周期に伴うsleep propensityとホルモンリズムの変動. 第25回日本催眠学会定期学術集会, 2000. 6.
- 8) 舘野 周, 木村真人, 下田健吾, 葉田道雄, 森 隆夫, 鈴木博子, 遠藤俊吉, 水村 直¹⁾(¹⁾日本医科大学放射線医学): セネストパチー症状の123 I-IMP SPECT 所見について. 第21回日本生物学的精神医学会, 2000. 4.
- 9) 小川 令¹⁾, 荒川亮介, 青木 律¹⁾, 三橋 清¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 形成外科領域におけるデジタルカメラ利用法の光学的検討. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 10) 小宅理佳子, 木村真人, 鈴木博子, 原田章子, 下田健吾, 葉田道雄, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 健常者におけるデキサメサゾン: CRH負荷試験とストレスコーピング試験の関係. 第96回日本精神神経学会総会, 2000. 5.
- 11) 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 金 圭子¹⁾, 多賀谷裕邦¹⁾, 工藤吉尚, 亀井雄一¹⁾, 早川達郎¹⁾, 浦田重治郎¹⁾(¹⁾国立精神神経センター国府台病院): 概日リズム睡眠障害における睡眠とメラトニンリズムの関連. 第25回日本睡眠学会定期学術集会, 2000. 6.
- 12) 田邊 綾, 下田健吾, 舘野 周, 村田雄一, 遠藤俊吉: 頻回に一過性健忘を繰り返した1症例. 第59回東京精神医学会学術集会, 2000. 7.
- 13) 黒木宣夫, 長谷川久見子, 青嶋和宏, 田川一郎, 岸 泰宏, 黒澤 尚⁽¹⁾東邦大学佐倉病院精神医学研究室,²⁾東邦大学佐倉病院精神神経科,³⁾日本医科大学付属千葉北総病院神経科): 救急外来における精神科と他診療科との連携に関する研究. 第8回 日本精神科救急医学会, 2000. 9.
- 14) 小川 令¹⁾, 荒川亮介, 青木 律¹⁾, 三橋 清¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 形成外科の視点から検討したデジタルカメラの選択. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 15) 竹澤健司, 森 隆夫, 鬼頭 諭, 木村真人, 下田健吾, 鈴木博子, 遠藤俊吉: 催眠施行中における脳波変化(2): フラクタル次元値の時間変動. 第16回日本催眠学会, 2000. 9.
- 16) 池森紀夫, 鈴木博子, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 精神科救急における電話相談の実態. 第8回日本精神科救急学会総会, 2000. 9.
- 17) 坂本篤裕¹⁾, 小川 龍¹⁾, 鈴木博子, 木村真人, 藤屋哲夫²⁾(¹⁾日本医科大学麻酔科学,²⁾すずき病院): 維持期電気痙攣療法に対する日帰り麻酔の安全性見当. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 18) 野村俊明, 青島多津子¹⁾, 奥村雄介¹⁾, 遠藤俊吉⁽¹⁾関東医療少年院): ADHDと診断された非行少年の2事例. 第37回日本犯罪学会総会, 2000. 11.
- 19) 石井吉秋, 田辺文夫¹⁾, 西松能子, 遠藤俊吉⁽¹⁾府中刑務所医務部): F 刑務所における外国人受刑者の精神衛生状況. 第37回日本犯罪学会総会, 2000. 11.
- 20) 渡 路子, 葉田道雄, 下田健吾, 竹澤健司, 小宅理佳子, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 多剤乱用者と単剤乱用者のERPおよびNeuro-imagingによる比較. 第30回日本臨床神経生理学会学術大会, 2000. 12.
- 21) 下田健吾, 木村真人, 森 隆夫, 鈴木博子, 村田雄一, 田邊 綾, 遠藤俊吉: 気分障害におけるm-ECT前後の123I-IMP SPECT 所見: 再燃再発群の特徴. 第30回日本臨床神経生理学会学術大会, 2000. 12.
- 22) 鈴木英朗, 山寺博史, 朝山健太郎, 伊藤敬雄, 工藤吉尚, 遠藤俊吉: TriazolamとBrotizolamの終夜睡眠ポリグラフィに対する影響と持ち越し効果について. 第30回日本臨床神経生理学会学術大会, 2000. 12.
- 23) 田邊 綾, 下田健吾, 木村真人, 森 隆夫, 鈴木博子, 村田雄一, 舘野 周, 遠藤俊吉: 一過性てんかん性健忘 (TEA) の1例: 臨床経過と脳波所見. 第30回日本臨床神経生理学会学術大会, 2000. 12.
- 24) 工藤吉尚, 中島常夫¹⁾, 亀井雄一¹⁾, 中西かおる¹⁾, 塚田和美¹⁾, 樋口輝彦¹⁾(¹⁾国立精神神経センター国府台病院): 慢性腎不全に伴うspike-wave stuporを呈した症例. 第61回東京精神医学会定期学術集会, 2001. 3.
- 25) 中西かおる¹⁾, 中島常夫¹⁾, 榎本哲朗¹⁾, 亀井雄一¹⁾, 工藤吉尚, 塚田和美¹⁾, 樋口輝彦¹⁾(¹⁾国立精神神経センター国府台病院): 当院における進行麻痺の治療経験. 第61回東京精神医学会定期学術集会, 2001. 3.

26) 木川好章¹⁾, 竹澤健司, 木川暁子¹⁾, 鈴木英朗, 鈴木達也²⁾(¹⁾飯能友好病院, ²⁾日本医科大学付属病院老人科): 痴呆における行動障害の治療: 抗精神病薬 (Levomepromazine) を用いた2症例. 第33回日本老年医学会関東甲信越地方会, 2001. 3.

(8) 指定討論演題:

1) 遠藤幸彦: 転移の取り扱いについて. 第46回日本精神分析学会, 2000. 11.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

東洋医学の有用性の研究と病態概念の科学的実証, これが当科の研究目標である. 本年度は, 自律神経失調症に見られる梅核気, 月経痛の唾病態である湿熱病態の検討, 弓肩調血飲の病態の検討, 大建中湯の病態の検討などを研究した.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 武島英人¹⁾, 三浦於菟(¹⁾武島内科医院): 大建中湯にて月経痛が軽快した1例. 漢方研究 2000 ; 1 (346): 23-24 .
- 2) 三浦於菟: いわゆる癌 (Cancer) の東洋医学的認識と治療法. Santi Margah 2000 ; 3 (11): 16-19 .

(2) 総説:

- 1) 三浦於菟: 実践漢薬学第六回: 去風湿薬. 漢方研究 2000 ; 338 : 27-32 .
- 2) 三浦於菟: 実践漢薬学第七回: 利水滲湿薬. 漢方研究 2000 ; 339 : 86-89 .
- 3) 三浦於菟, 加藤三千尋¹⁾(¹⁾健生堂薬局): 漢方薬 Q&A : 正しく使うための基礎知識. 東洋医学 2000 ; 28 (7): 30-31 .
- 4) 三浦於菟: 実践漢薬学第八回: 香化化湿薬. 漢方研究 2000 ; 348 : 84-86 .
- 5) 三浦於菟: 実践漢薬学第九回: 温裏薬. 漢方研究 2000 ; 348 : 84-86 .

著書

- 1) 三浦於菟: [監修] 新健康の知恵, 2000 ; pp1-127, サンライフ企画 .
- 2) 三浦於菟: [自著] 漢方上手, 2000 ; pp1-287, 源草社 .
- 3) 三浦於菟, 福生吉裕¹⁾, 浪平恵美子²⁾, 土屋喬(¹⁾本学内科学第二, ²⁾御茶ノ水女子大学文教学部): [共著] 未病息災, 2001 ; pp1-191, 源草社 .

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 三浦於菟: 東洋医学では心身症をどう考えるか. 第三十六回日本東洋心身医学研究会, 2001. 1.

(2) 一般講演:

- 1) 三浦於菟, 篠原明德, 興津 寛, 武島英人¹⁾, 齋藤輝夫, 白石佳正, 渡邊 裕(¹⁾武島医院): 梅核気の3例. 第五十三回日本東洋医学学会学術総会, 2000. 5.

- 2) 興津 寛, 篠原明德, 武島英人¹⁾, 三浦於菟, 齋藤輝夫, 白石佳正, 土屋 喬, 渡邊 裕 (¹⁾武島医院): 皮膚疾患に加味逍遙散を使用した症例の検討. 第五十一回日本東洋医学学会学術総会, 2000. 5.
- 3) 武島英人¹⁾, 興津 寛, 赤池正博²⁾, 岡田研吉³⁾, 三浦於菟, 齋藤輝夫, 白石佳正, 渡邊 裕 (¹⁾武島医院, ²⁾赤池医院, ³⁾岡田医院): 湿熱が病態と考えられた月経痛の症例. 第五十一回日本東洋医学学会学術総会, 2000. 5.
- 4) 三浦於菟: 弓婦調血飲の1例. 第五十七回日本東洋医学学会学術総会, 2000. 10.

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室では血液・腫瘍性疾患，膠原病・免疫性疾患，内分泌・代謝性疾患，循環器疾患，腎・泌尿器疾患，神経・筋疾患，新生児・未熟児，アレルギー疾患，呼吸器疾患を対象として，主に下記の研究を行っている．業績は付属4病院一括して報告する．

付属病院では，遺伝相談部門を開設し，第二生化学教室との協力のもと，遺伝子治療の臨床応用にむけての基礎的研究を行っている．

血液・悪性腫瘍：小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子の解析，晩期障害の検討．思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討．

膠原病・免疫：不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義．自己抗体産出機序の検討．

内分泌・代謝：肥満児の病態解析．小人症の治療と随伴する微量元素の代謝．先天性代謝異常時の遺伝子解析．

循環器：各種評価法を用いた心筋虚血病変の検討．川崎病後の血管リモデリングに対する遺伝子および分子生物学的検討．心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する分子生理学・分子生物学を用いた検討．

神経・筋：けいれん性疾患脳波学的解析．各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析．筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析．

腎・泌尿器：各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の免疫学的臨床的検討．乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け．

アレルギー：アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討．食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討．

呼吸器：小児の呼吸音の解析．各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Toyoda Y¹⁾, Manabe A²⁾, Tsuchida M³⁾, Hanada R⁴⁾, Ikuta K⁵⁾, Okimoto Y⁶⁾, Ohara A⁷⁾, Ohkawa Y⁸⁾, Mori T⁹⁾, Ishimoto K¹⁰⁾, Sato T¹¹⁾, Kaneko T¹²⁾, Maeda M, Koike K¹³⁾, Shitara T¹⁴⁾, Hoshi Y¹⁶⁾, Hosoya R¹⁷⁾, Tsunematsu Y¹⁸⁾, Bessho F¹⁹⁾, Nakazawa S²⁰⁾, Saito T²¹⁾ (1) Kanagawa Children's Medical Center, 2) University of Tokyo, 3) Ibaraki Children's Hospital, 4) Saitama Children's Medical Center, 5) Yokohama City University, 6) Chiba Children's Hospital, 7) Toho University, 8) Tokyo Medical and Dental University, 9) Keio University, 10) Juntendo University, 11. Chiba University, 12. Tokyo Metropolitan Kiyose Children's Hospital, 13 University of Shinshu, 14. Gunma Children's Medical Center, 16. Jikei University, 17. St. Luke's International Hospital, 18. National Children's Hospital. 19. Kyorin University, 20. Yamanashi Medical University, 21. National Children's Medical Research Center): Six months of maintenance chemotherapy after intensified treatment for acute lymphoblastic leukemia of children. J Clin Oncol 2000; 18 (7): 1508-1516.
- 2) Itoh Y, Igarashi T, Tatsuma N, Imai T, Yoshida J, Tsuchiya M, Murakami M, Fukunaga Y: Immunogenetic background of patients with autoimmune fatigue syndrome. Autoimmunity 2000; 32(3): 193-197.

- 3) Akagi T¹⁾, Ogawa S, Ino T²⁾, Iwasa M³⁾, Echigo S⁴⁾, Kato H⁵⁾ (¹⁾ Dep. Pediatrics, Kurume University School of Medicine, ²⁾ Dep. Pediatrics, Junntendo University School of Medicine, ³⁾ Dep. Pediatrics, Nagoya Daini Red Cross Hospital, ⁴⁾ Dep. Pediatrics, National Cardiovascular Center, ⁵⁾ Dep. Pediatrics, Kurume University School of Medicine): Catheter interventional treatment in Kawasaki disease : A report from the Japanese Pediatric Interventional Cardiology Investigation Group . The Journal of Pediatrics 2000 ; 137 (2): 181-186 .
- 4) Maeda M , Hamada H , Tsuda A , Kaneko K , Fukunaga Y (¹⁾ Nippon Medical School): High rate of TTV Infection in multitransfused patients with pediatric malignancy and hematological disorders . Am J Hematol 2000 ; 65 (1): 41-44 .
- 5) Yokoshiki H¹⁾, Seki T , Sunagawa M²⁾, Sperelakis N²⁾ (¹⁾ Hokkaido University , ²⁾ University of Cincinnati): Inhibition of Ca²⁺-activated K⁺ channels by tyrosine phosphatase inhibitors in rat mesenteric artery . Can J Physiol Pharmacol 2000 ; 78 (9): 745-750 .
- 6) Kuramochi Y , Ohkubo T , Takechi N , Fukumi D , Uchikoba Y , Ogawa S : Hemodynamic factors of thrombus formation in coronary aneurysm associated with Kawasaki disease . Pediatrics International 2000 ; 42 : 470-475 .
- 7) Pugia MJ¹⁾, Murakami M , Lott JA²⁾, Ohta Y³⁾, Kitagawa T⁴⁾, Yamauchi K⁴⁾, Sahara Y⁵⁾, Kajima J⁴⁾ (¹⁾ Bayer Corporation , ²⁾ Ohio state University , ³⁾ Bayer Medical , ⁴⁾ Tokyo Association of Health Service , ⁵⁾ Nihon University Surugadai Hospital): Screening for Proteinuria in Japanese Schoolchildren : a New Approach . Clin Chem Lab Med 2000 ; 975-982 .
- 8) Tsuchida M¹⁾, Ikuta K²⁾, Hanada R³⁾, Saito T⁴⁾, Isoyama K⁵⁾, Sugita K⁶⁾, Toyoda Y⁷⁾, Manabe A⁸⁾, Koike K⁹⁾, Kinoshita A¹⁰⁾, Maeda M , Ishimoto K¹¹⁾, Sato T¹²⁾, Okimoto Y¹³⁾, Kaneko T¹⁴⁾, Kajiwara M¹⁵⁾, Sotomatsu M¹⁶⁾, Hayashi Y¹⁷⁾, Yabe H¹⁸⁾, Hosoya R¹⁹⁾, Hoshi Y²⁰⁾, Ohira M²¹⁾, Bessho F²²⁾, Tsunematsu Y²³⁾, Tsukimoto I²⁴⁾, Nakazawa S²⁵⁾ (¹⁾ Ibaraki Children's Hospital , ²⁾ Yokohama City University , ³⁾ Saitama Children's Medical Center , ⁴⁾ National Children's Medical Research Center , ⁵⁾ Showa University , ⁶⁾ Dokkyo Medical College , ⁷⁾ Kanagawa Children's Medical Center , ⁸⁾ University of Tokyo , ⁹⁾ University of Shinshu , ¹⁰⁾ Keio University , 11. Juntendo University, 12. Chiba University, 13. Chiba Children's Hospital, 14. Tokyo Metropolitan Kiyose Children's Hospital, 15. Tokyo Medical and Dental University, 16. University of Gunma, 17. University of Tokyo, 18. Tokai University, 19. St. Luke's Internatinal Hospital, 20. Jikei University, 21. Natinal Cancer Center, 22. Kyorin University, 23. Natinal Children's Hospital. 24. Toho University, 25. Yamanashi Medical University): Long-term follow-up of childhood acute lymphoblastic leukemia in Tokyo Children's Cancer Study Group 1981-1995 . Leukemia 2000 ; 14 : 2295-2306 .
- 9) Asano T , Ogawa S : Expression of interleukin-8 in Kawasaki disease . Clin Exp Immunol 2000 ; 122 (3): 514-519 .
- 10) Yamauchi H¹⁾, Fujii M²⁾, Iwaki H³⁾, Saji Y⁴⁾, Maruyama Y⁵⁾, Yamashita H⁶⁾, Uchikoba Y , Fukazawa R , Ohkubo T , Ogawa S , Tanaka S⁷⁾ (¹⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery , ²⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery , ³⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery , ⁴⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery , ⁵⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery , ⁶⁾ Dep. Surgery II • Division of Cardiovascular Surgery): Surgical Treatment of Coarctation Complex in Neonates and Infants . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (6): 455-458 .
- 11) Kishi M , Ohki Y , Ohkawa T , Orimo H , Irie M : Prevalence rates of complications associated with obesity in schoolchildren-Results of a 15-year survey in Setagaya ward, Tokyo . Clin Pediatr Endocrinol 2000 ; 9 (2): 83-88 .

- 12) Fujimatsu M , Fujita T , Hashimoto K , Nakagawa H : Contact pressure distribution in the supine position in low-birth weight infants analyzed by a photoelastic method . *Pediatric International* 2001 ; 43 (1): 29-35 .
- 13) 林 泰秀¹⁾, 井田孔明¹⁾, 小林美由紀¹⁾, 別所文雄²⁾, 土田昌宏³⁾, 日比成美⁴⁾, 伊藤悦朗⁵⁾, 杉田憲一⁶⁾, 前田美穂, 豊田恭徳⁷⁾, 渋谷 温⁸⁾, 川上哲夫⁹⁾, 岡 敏明¹⁰⁾, 須磨崎亮¹¹⁾, 馬淵 理¹²⁾, 大川 洋二¹³⁾, 月本 一郎¹⁴⁾ (¹⁾ 東京大学, ²⁾ 杏林大学, ³⁾ 茨城県立こども病院, ⁴⁾ 京都府立医科大学, ⁵⁾ 弘前大学, ⁶⁾ 獨協医科大学, ⁷⁾ 神奈川こども医療センター, ⁸⁾ 埼玉医科大学, ¹⁰⁾ 札幌徳修会病院, 11. 筑波大学, 12. , 13. 東京医科歯科大学, 14. 東邦大学): 小児治療関連白血病と骨髄異形成症候群における MLL, RAS, p16 および p53 遺伝子の解析 . *日小児血液会誌* 2000 ; 14 (1): 72-76 .
- 14) 千葉 隆, 福永慶隆 : 小児気管支喘息患児における Air Leak Syndrome . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 68 (1): 78-80 .
- 15) 倉持雪穂, 五十嵐徹, 永井雄一, 藤田武久, 橋本 清 : 対称性視床梗塞を認めた肺炎球菌性髄膜炎の1例 . *小児科* 2000 ; 41 (9): 1669-1673 .
- 16) ドリクムザペル, 高瀬真人 : 小児喘息発作の回復期における睡眠時無呼吸 . *日小児呼吸器会誌* 2000 ; 22-28 .
- 17) 大橋隆治, 吉田順子, 立麻典子, 安保和俊, 土屋正己, 村上睦美, 宗像恵美子¹⁾, 今井丈英, 安田 正¹⁾, 石崎正通²⁾, 杉崎祐一²⁾, 山中宣昭²⁾ (¹⁾ 大宮赤十字病院, ²⁾ 日本医科大学病理第1): 特異な経過を取った IgA 腎症の1例 . *Seminars in Pediatric Nephrology* 2000 ; 6-9 .
- 18) 藤野 修, 羽鳥誉之, 藤松真理子 : 心臓腫瘍, 点頭てんかんを合併した結節性硬化症の1例 . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 : 473-476 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 大木由加志, 岸 恵, 大川拓也, 大和田操¹⁾, 佐々木望²⁾, 松浦信夫³⁾ (¹⁾ 日本大学, ²⁾ 埼玉医科大学, ³⁾ 北里大学): 18歳未満発症の小児・思春期糖尿病に関する全国アンケート調査 : 平成12年度厚生科学研究・子ども家庭総合研究事業「小児糖尿病・生活習慣病の発症要因, 治療, 予防に関する研究」. 平成12年度厚生科学研究報告書 2000 .
- 2) 村上睦美 : Off-label 医薬品および新薬に関する日本小児腎臓病学会の priority list, 厚生科学研究・厚生省医薬安全総合研究事業「小児薬物療法における医薬品の適正使用の問題点の把握および対策に関する研究」平成11年度研究報告書 2000 ; p175 .
- 3) 前田美穂 : 思春期における鉄欠乏性貧血の実態と検査の重要性および平成11年度の貧血検査の実施成績について . *東京都予防医学協会年報* 2001 ; 30 : pp60-64 .
- (3) 総説 :
- 1) 福永慶隆 : 原発性免疫不全症 . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (2): 83-91 .
- 2) 前田美穂 : 脳腫瘍 : 晩期障害とその対策 . *小児看護* 2000 ; 23 (4): 445-448 .
- 3) 浅野 健 : DNA チップまたはマイクロアレイ : トピックス・用語解説 . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (5): 406-406 .
- 4) 浅野 健 : Infection Control Team : トピックス・用語解説 . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (5): 411-411 .
- 5) 前田美穂, 金子清志, 竹田幸代, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 福永慶隆 : 乳児白血病に関する臨床的検討 . *厚生省がん研究助成金平成11年度研究報告書* 2000 ; 51-53 .
- 6) 小川俊一 : 薬剤性心筋障害 . *小児科* 2000 ; 41 (7): 1253-1262 .
- 7) 大木由加志, 折茂裕美 : 小児期2型糖尿病 : EBM に基づいた糖尿病の診療 . *今月の治療* 2000 ; 8 (6): 76-78 .
- 8) 福永慶隆 : 慢性疲労症候群 . *日小児会誌* 2000 ; 104 (6): 639-642 .
- 9) 飛田正俊 (¹⁾ 多摩永山病院小児科): 小児気管支喘息の薬物治療 : わが国と欧米との相違 . *小児耳鼻* 2000 ; 21 (1): 73-78 .

- 10) 浅野 健, 福永慶隆: 出血傾向. 小児看護 2000 ; 23 (9): 1207-1211 .
- 11) 村上睦美: クリニカル・サインのチェックポイント: 浮腫. 小児看護 2000 ; 1215-1218 .
- 12) 立麻典子, 村上睦美: クリニカル・サインのチェックポイント: 多尿・頻尿. 小児看護 2000 ; 1222-1225 .
- 13) 大木由加志, 折茂裕美: 経口糖尿病薬の最近の進歩: 糖尿病治療の最近の進歩. 小児科 2000 ; 41 (12): 2081-2086 .
- 14) 村上睦美, 土屋正己, 飯高喜久雄¹⁾(¹⁾大和市立病院): 二十世紀から二十一世紀への腎臓病学: 学校検尿システム: 現状と将来. 腎と透析 2000 ; 931-937 .
- 15) 大木由加志, 岸 恵: 小児・思春期生活習慣病について: 肥満の合併症を中心に. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (2): 190-193 .
- 16) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 非ステロイド性抗炎症薬および抗リウマチ薬の使い方. Progress in Medicine 2001 ; 21 (4): 905-908 .

著 書

- 1) 前田美穂: [分担] 貧血. 学校医マニュアル (大国真彦, 小池麟一郎編), 2000 ; pp237-243, 文光堂 (東京).
- 2) 前田美穂: [分担] 鉄欠乏性貧血. 今日の小児治療指針 (矢田純一, 柳沢正義, 山口規容子, 大関武彦編), 2000 ; pp357-358, 医学書院. 東京 .
- 3) 小川俊一: [分担] 不整脈・問題となる疾患の対応. 学校医マニュアル第4版 (大国真彦, 小池麟一郎), 2000 ; pp293-304, 文光堂 .
- 4) 村上睦美: [分担] 腎臓検診. 学校医マニュアル (第4版) (大国真彦, 小池麟一郎), 2000 ; pp147-157, 文光堂 .
- 5) 前田美穂, 山本正生: [分担] 小児癌の治療と晩期障害・11 晩期障害. 小児がん (赤塚順一, 土田嘉明, 藤本孟男, 山崎洋次編), 2000 ; pp373-384, 文光堂 .
- 6) 村上睦美: [分担] 食に関する指導の実際. 第3巻子どもの身体と栄養指導, 2000 ; pp36-43, 小学館 .
- 7) 深澤隆治: [自著] Anthracycline 系薬剤による心毒性とアポトーシス. 小児科, 2000 ; pp1726-1736, 金原出版 .
- 8) 福永慶隆: [分担] 貧血. 児童・生徒の食生活, 2000 ; pp53-54, 社団法人 日本小児保健協会 .
- 9) 福永慶隆: [分担] 貧血. 赤ちゃんの栄養と食事, 2000 ; pp69-70, 社団法人 日本小児保健協会 .
- 10) 西澤善樹: [分担] 妊娠中のウイルス感染・麻疹. 産科と婦人科 特大号: 産婦人科感染症のすべて, 2000 ; pp1568-1572, 診断と治療社 .
- 11) 小川俊一: [分担] 心疾患をもつ児童・生徒の学校管理下での取り扱い方・小児疾患. 今日の治療指針2001 (多賀須幸男, 尾形悦郎, 山口徹, 北原光夫), 2001 ; pp816-818, 医学書院 .
- 12) 大木由加志, 折茂裕美: [分担] 2型糖尿病. 小児・思春期糖尿病管理の手引き, 2001 ; pp101-128, 南江堂 .
- 13) 伊藤保彦: [分担] 慢性疲労症候群. 小児科診療増刊号「小児の症候群」(小児科診療編集委員会), 2001 ; pp368-368, 診断と治療社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 村上睦美: 小児腎疾患におけるアルブミンクレアチニンについて. 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 2) 村上睦美: 学校検尿の現状と実態. 高松小児腎臓疾患研究会, 2000 . 5 .
- 3) 福永慶隆: 小児の慢性疲労症候群. 川崎市小児科医会第34回定時総会, 2000 . 6 .
- 4) 村上睦美: 学校検尿の現状と問題点. 第29回名古屋腎カンファレンス, 2000 . 6 .
- 5) 福永慶隆: 易感染性と免疫不全症. 千葉県小児科医会地方例会, 2000 . 7 .

- 6) 千葉 隆：小児の反復性・遷延性肺野異常症例における気管支内視鏡検査，気管支肺胞洗浄検査の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 7) 植田高弘：ヒト造血肝細胞の増幅法の研究．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 8) 村上睦美：学校検尿の現状と将来．第13回新潟小児腎・循環器フォーラム，2000．10．
- (2) 招待講演：
- 1) 伊藤保彦：小児の慢性疲労症候群．横浜市港北区医師会第218回学術講演会，2000．7．
- (3) 教育講演：
- 1) 大木由加志：小児成人病（生活習慣病）における高脂血症：肥満を中心に．平成12年度第2回日本医師会生涯教育講座，2000．7．
- 2) 村上睦美：学校検尿のあり方．第22回日本小児腎不全学会，2000．9．
- 3) 大木由加志：小児生活習慣病の合併症について：肥満・2型糖尿病の治療を中心に．平成12年度国立療養所・厚生省成育医療研修会，2000．10．
- (4) シンポジウム：
- 1) Kida K¹⁾，Kikuchi N²⁾，Ohki Y，Owada M³⁾，Sasaki N⁴⁾，Matsuura N⁵⁾(¹⁾Ehime University，²⁾Yokohama Municipal University，³⁾Nihon University，⁴⁾Saitama Medical School，⁵⁾Kitazato University)：Type 2 diabetes in Japanese youth (Type 2 diabetes in high risk populations). The 26th Annual meeting of International Study Group of Diabetes in Children and Adolescents (Los Angels, USA), 2000．10．
- 2) 伊藤保彦：慢性疲労と自己免疫．第5回慢性疲労症候群（CFS）研究会，2000．2．
- 3) 村上睦美：学校検尿は子どもの腎臓病をどう変えたか：25年の評価と今後の課題「25年の評価」．第35回日本小児腎臓病学会，2000．6．
- 4) 村上睦美：小児期の色々なマス・スクリーニング「尿を用いるマス・スクリーニング」．第28回日本マス・スクリーニング学会，2000．9．
- 5) 高瀬真人：間質性肺炎（呼吸器疾患診断法の進歩）．第33回日本小児呼吸器疾患学会，2000．11．
- 6) 大木由加志：小児・思春期2型糖尿病の疫学と増加への対策（小児・若年者糖尿病 小児・若年2型糖尿病）．第35回糖尿病学の進歩，2001．2．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 小川俊一，深澤隆治，上砂光裕，関 隆志，大久保隆志，倉持雪穂，内木場庸子，福見大地，勝部康弘：川崎病後の冠動脈狭窄性病変に対するPTCAの有用性およびその適応基準について：無症候性心筋虚血に対するPTCAの有用性を主体に．第12回日本Pediatrics Interventional Cardiology研究会，2001．1．
- (6) ワークショップ：
- 1) 飛田正俊¹⁾，名知尚子¹⁾，竹田幸代¹⁾，村上由加里¹⁾，岡部俊成¹⁾，向後俊昭¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科)：アトピー性皮膚炎患児におけるAlaSTAT法による黄色ブドウ球菌エンテロトキシンA（SEA）およびB（SEB）特異IgEの測定意義．第12回日本アレルギー学会春期臨床大会，2000．4．
- 2) 伊藤保彦，立麻典子，五十嵐徹，福永慶隆：急性外陰潰瘍（Lipschutz潰瘍）の1例．第44回日本リウマチ学会総会，2000．5．
- 3) 伊藤保彦，立麻典子，五十嵐徹，福永慶隆：抗Ro/SSA抗体陽性の自己免疫性疲労症候群とsubclinical Sjogren症候群．第44回日本リウマチ学会総会，2000．5．
- 4) 生田孝一郎¹⁾，土田昌宏¹⁾，花田 良二¹⁾，豊田恭徳¹⁾，真部 淳¹⁾，沖本由理¹⁾，磯山恵一¹⁾，金子 隆¹⁾，木下明俊¹⁾，佐藤武幸¹⁾，上條岳彦¹⁾，熊谷昌明¹⁾，外松 学¹⁾，小原 明¹⁾，梶原道子¹⁾，菊地 陽¹⁾，矢部普正¹⁾，野口 靖¹⁾，内山浩志¹⁾，森本 克¹⁾，杉田憲一¹⁾，林 泰秀¹⁾，小池健一¹⁾，船曳哲典¹⁾，杉田完爾¹⁾，柳辺安秀¹⁾，石本浩市¹⁾，前田美穂，気賀沢寿人¹⁾，斉藤友博¹⁾(¹⁾東京小児がん研究グループ)：TCCSG ALL L95-14の治療成績．第42回日本小児血液学会（総会），2000．9．

- 5) 伊藤保彦：血管炎症候群．第10回日本小児リウマチ研究会，2000．10．
- 6) 前田美穂，土田昌宏¹⁾，菊地 陽²⁾，野口 靖³⁾，小原 明⁴⁾，石本浩市⁵⁾，杉田憲一⁶⁾，恒松由記子⁷⁾，別所文雄⁸⁾，細谷亮太⁹⁾，福永慶隆，中澤真平¹⁰⁾(¹⁾茨城こども病院，²⁾埼玉小児医療センター，³⁾千葉大学，⁴⁾東邦大学，⁵⁾順天堂大学，⁶⁾獨協医科大学，⁷⁾国立小児病院，⁸⁾杏林大学，⁹⁾聖路加病院，¹⁰⁾山梨医科大学)：白血病治療後の脳腫瘍の検討．第16回日本小児がん学会(総会)，2000．11．

(7) 一般講演：

- 1) Maeda M, Kaneko K, Asano T, Migita M, Ueda T, Fukunaga Y : TH1/TH2 balance in children recovers after chemotherapy for acute leukemia . 1st SIOP-ASIA Congress (Singapol), 2000 . 4 .
- 2) Maeda M, Tsuchida M¹⁾, Sugita K²⁾, Ishimoto K³⁾, Hosoya R⁴⁾, Tsunematsu Y⁵⁾(¹⁾Ibaraki Children's Hospital , ²⁾Dokkyo Medical College , ³⁾Juntendo University , ⁴⁾St. Luke's Internatinal Hospital , ⁵⁾Natinal Children's Hospital) : Neurologic complications in long-term survivors of childhood acute lymphoblastic leukemia treated to the TCCSG protocol . 6th Internatinal conference for long-term complications of treatment of children and adolescents for cancer (Niagara-on-the-lake, Canada), 2000 . 6 .
- 3) Ogawa S, Uchikoba Y, Katsube Y, Fukazawa R, Seki T, Kuramochi Y, Fukumi D, Hino Y : Longitudinal evaluation of Anthracycline carditotoxicity by signal-averaged electrocardiographic late potentials in children with cancer . XXII Congress of the European Society of Cardiology (Amsterdam), 2000 . 8 .
- 4) Maeda M, Fukunaga Y, Ueda T, Migita M, Asano T : Analysis of cytokine profile, Th1/Th2 balance in patients with aplastic anemia . 28th World Congress of the International Society of Hematology (Toronto, Canada), 2000 . 8 .
- 5) Takase M, Imai T, Shirota K, Inaba Y, Imai T : Short and long term lung sound variability in asthmatic children . 25th International Conference on Lung Sounds (Chicago), 2000 . 9 .
- 6) Ohki Y, Kishi M, Ohkawa T, Orimo H, Irie M : Current status of frequently observed type 2 diabetes in Japanese children and adolescents-with reference to obesity . The 26th Annual meeting of International Study Group of Diabetes in Children and Adolescents (Los Angels, USA), 2000 . 10 .
- 7) Fukazawa R, Ogawa S : Differential Signaling by Epidermal Growth Factor and Neuregulin in Rat Cardiac Myocytes and Cardiac Microvascular Endothelial Cells . 73rd Scientific Session of American Heart Association (New Orleans), 2000 . 11 .
- 8) Katsube Y, Jing S¹⁾, Ogawa S, Nakanishi T²⁾(¹⁾Dep. Pediatrics, Heart Institute of Japan , ²⁾Dep. Pediatrics, Heart Institute of Japan) : Effect of Hypoxia on Na-Ca Exchange in Smooth Muscle Cells of the Pulmonary Resistance Artery in Neonatal and Adult Rabbits . 73rd Scientific Session of American Heart Association (New Orleans), 2000 . 11 .
- 9) Fukazawa R, Uchikoba Y, Hino Y, Katsube Y, Seki T, Kuramochi Y, Ogawa S : Vascular Remodeling Related Genes Polymorphism and Coronary Artery Stenosis in Kawasaki Disease . 73rd Scientific Session of American Heart Association (New Orleans), 2000 . 11 .
- 10) Jing S¹⁾, Katsube Y, Ogawa S, Okada K¹⁾, Nakanishi T¹⁾(¹⁾Tokyo Women's Medical University, The Heart Institute of Japan, Dept. of Pediatric Cardiology) : Developmental Changes in Voltage-Gated Potassium Channels and ATP-Dependent Potassium Channels in the Ductus Arteriosus of Fetal Rat . American Heart Association Scientific Sessions 2000 (New Orleans), 2000 . 11 .
- 11) Asano T, Asano AT : Methylation of the human topoisomerase IIa gene promoter might be associated with decreased expression of topoisomerase IIa in etoposide-resistant MDA-VP cells . American Association of Cancer Research (アメリカ・ニューオリンズ), 2001 . 3 .
- 12) 関 隆志，深澤隆治，日野佳昭，勝部康弘，倉持雪穂，内木場庸子，小川俊一：川崎病既往児の血管リモデリ

- ングに関する遺伝子多型についての検討．第48回日本心臓病学会，2000．9．
- 13) Fukazawa R, Kuramochi Y, Katsube Y, Seki T, Fukumi D, Uchikoba Y, Ogawa S : Gene expression analysis by cDNA micro-array after myocardial infarction in mice . 第65回日本循環器学会，2001．3．
 - 14) 沈 菁¹⁾, 勝部康弘, 小川俊一, 呉 桂栄¹⁾, 岡田久美子¹⁾, 門間和夫¹⁾, 中西敏雄¹⁾(¹⁾東京女子医科大学 附属日本心臓研究所循環器小児科): ATP-dependent K channels in the ductus arteriosus of premature fetal rat . 第65回日本循環器学会，2001．3．
 - 15) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学 : GHD 児のGH補充療法前後の耐糖能についての検討 (第二報 : 3年間の変化について) . 第103回日本小児科学会学術集会 (総会), 2000．4．
 - 16) 門脇弘子¹⁾, 原 一雄²⁾, 戸辺一之³⁾, 大木由加志, 門脇 孝⁴⁾, 赤沼安夫⁵⁾(¹⁾朝日生命糖尿病研究所, ²⁾朝日生命糖尿病研究所, ³⁾東京大学, ⁴⁾東京大学, ⁵⁾朝日生命糖尿病研究所): PPAR と肥満, インスリン感受性, レプチンとの関係について . 第103回日本小児科学会学術集会 (総会), 2000．4．
 - 17) 早川 潤, 藤野 修, 立麻典子, 今井大洋, 土屋正己, 羽鳥誉之, 関 隆志, 伊藤保彦, 高石康子, 村上睦美 : 急性壊死性脳症様画像所見を呈し予後良好であった1例 . 第103回日本小児科学会学術集会 (総会), 2000．4．
 - 18) 今井丈英, 高瀬真人, 竹田幸代, 五十嵐徹 : 麻疹症例の呼吸器合併症の重症度と血清 KL 6 値の相関に関する検討 . 第103回日本小児科学会学術集会 (総会), 2000．4．
 - 19) 前田美穂, 福永慶隆, 山内邦昭¹⁾, 北川照男¹⁾(¹⁾東京都予防医学協会): 鉄欠乏時の尿中カテコラミンの動態 . 第103回日本小児科学会学術集会 (総会), 2000．4．
 - 20) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学 : 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) のGH補充療法前後の耐糖能について (第二報 : 3年間の変化について) . 第43回日本糖尿病学会総会, 2000．5．
 - 21) 三木裕子¹⁾, 兼松幸子²⁾, 大木由加志, インスリン研究会 (¹⁾東京大学, ²⁾松戸クリニック): コントロール不良1型糖尿病患者の病気の受容に関する解析 . 第43回日本糖尿病学会総会, 2000．5．
 - 22) 宮本茂樹¹⁾, 佐藤浩一²⁾, 大木由加志, インスリン研究会 (¹⁾千葉県こども病院, ²⁾千葉県こども病院): 1型糖尿病患者の突然死 : 本邦における ' dead in bed syndrome ' について . 第43回日本糖尿病学会総会, 2000．5．
 - 23) 土屋正己, 林田真理, 柳原 剛, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 継 仁, 日野佳昭, 宗像恵美子 : 先天性腎尿路疾患の腎エコースクリーニングに関する検討 . 第43回日本腎臓学会, 2000．5．
 - 24) 立麻典子, 林田真理, 柳原 剛, 吉田順子, 大橋隆治, 土屋正己, 芦田光則¹⁾, 山本博章, 村上睦美 (¹⁾勝榮堂病院): 乳幼児期発症糸球体腎炎の臨床ならびに病理組織学的検討 . 第43回日本腎臓病学会, 2000．5．
 - 25) 浅野 健, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 松岡和彦, 福永慶隆 : 鼠頸リンパ節腫脹により診断されたホジキン病の一男児例 . 小児科学会東京地方会, 2000．6．
 - 26) 吉田順子, 土屋正己, 日野佳昭, 立麻典子, 林田真理, 柳原 剛, 大橋隆治, 村上睦美, 宗像恵美子¹⁾(¹⁾大宮赤十字病院): 乳児期における超音波診断装置を用いた先天性腎尿路異常スクリーニングの基準作成の試み . 第35回日本小児腎臓病学会, 2000．6．
 - 27) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 川上康彦, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子, 羽鳥誉之 : 後頭部に突発波をもつ小児てんかんとそのSPECT所見の検討 . 第42回日本小児神経学会総会, 2000．6．
 - 28) 今井大洋, 伊藤保彦, 吉田順子, 羽鳥誉之, 倉持雪穂, 桑原健太郎, 土屋正己, 藤野 修 : 肺炎軽快後も胸水貯留が持続し, その後失後にSLEと診断された1例 . 第156回日本小児科学会千葉地方会, 2000．6．
 - 29) 沼田朋子, 伊藤 正, 藤田武久, 平山恒憲, 藤野 修, 橋本 清 : 重症心身障害児施設開設1年目の報告 . 第42回日本小児神経学会総会, 2000．6．
 - 30) 藤村樹里, 右田 真 : レフレル症候群の新生児例 . 第36回日本新生児学会, 2000．7．
 - 31) 深澤隆治, 倉持雪穂, 勝部康弘, 関 隆志, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一 : 川崎病既往児の血管リモデリ

- ングに関する遺伝子の遺伝子多型についての検討．第36回日本小児循環器学会，2000．7．
- 32) 深澤隆治，小川俊一：ラット培養心筋細胞における Daunorubicin 誘導性 Apoptosis と Neuregulin の抗 Apoptosis 作用．第36回日本小児循環器学会，2000．7．
- 33) 飛田正俊¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科)：小児気管支喘息児の副腎皮質機能におよぼす吸入ステロイド剤の影響について．第6回多摩小児アレルギー懇話会，2000．7．
- 34) 太田美紀，城田和彦，向後俊昭，藤田武久，川上康彦，平山恒憲，橋本 清：広範な大脳病変を認めた HHV6 脳炎の1例．第26回神奈川小児神経懇話会，2000．7．
- 35) 勝部康弘，沈 菁¹⁾，中西敏雄¹⁾，門間和夫¹⁾，小川俊一(¹⁾東京女子医科大学付属日本心臓研究所循環器小児科)：家兔末梢肺動脈血管平滑筋細胞における Na-Ca 交換輸送の酸素による変化．第36回日本小児循環器学会，2000．7．
- 36) 沈 菁¹⁾，中西敏雄¹⁾，岡田久未子¹⁾，勝部康弘，小川俊一，門間和夫¹⁾(¹⁾東京女子医科大学付属日本心臓研究所循環器小児科，⁶⁾東京女子医科大学付属日本心臓研究所循環器小児科)：酸素による動脈管収縮におけるエンドセリンの役割．第36回日本小児循環器学会，2000．7．
- 37) 中西敏雄¹⁾，沈 菁¹⁾，呉 佳栄¹⁾，勝部康弘，小川俊一，岡田久未子¹⁾，松岡留美子¹⁾，門間和夫¹⁾(¹⁾東京女子医科大学付属日本心臓研究所循環器小児科)：酸素による未熟動脈管収縮における ATP 感受性 K チャネルの関与．第36回日本小児循環器学会，2000．7．
- 38) 太田美紀，西沢善樹，藤田武久，松岡和彦，林 康子¹⁾，佐伯守洋²⁾(¹⁾日本医科大学第二病院産婦人科，²⁾国立小児病院外科)：胎内で多房性嚢腫を発見され診断・治療に難渋した出血性卵巣嚢腫の1例．第36回日本新生児学会，2000．7．
- 39) 海津聖彦：気管支肺胞洗浄 (BAL) により診断された特発性肺へモジデロシスの1歳男児例．第487回日本小児科学会東京都地方会，2000．9．
- 40) 深澤隆治：川崎病罹患児における血管炎，血管再構築，動脈硬化と Gene Polymorphism との関係．川崎病治療懇話会，2000．9．
- 41) 松本多絵，伊藤保彦，藤田武久，松岡和彦：左側頭葉に広範な梗塞巣を伴った CNS ループスの1例．第248回日本小児科学会神奈川県地方会，2000．9．
- 42) 桑原健太郎，藤田敦士，羽鳥誉之，倉持雪穂，今井大洋，土屋正己，藤野 修：けいれんを契機に発見された脳動静脈奇形の一男児例：3D-CTA (三次元CT血管造影)の有用性について．第158回日本小児科学会千葉地方会，2000．9．
- 43) 桑原健太郎，羽鳥誉之，川上康彦，藤田武久，高石康子，藤野 修：てんかんを契機に発見された脳動静脈奇形の一男児例：3D-CTA (三次元CT血管造影)の有用性について．第33回日本小児神経学会関東地方会，2000．9．
- 44) 高石康子，藤野 修，桑原健太郎：ビル服用中ではてんかん発作をおこさなかった1症例．第34回日本てんかん学会，2000．9．
- 45) 内木場庸子，前田美穂，浅野 健，右田 真，植田高弘，早川 潤，初鹿野見春，福永慶隆：胸腺原発 Langerhans' cell histiocytosis (LCH) の一乳児例．第42回日本小児血液学会 (総会)，2000．9．
- 46) 浅野 健，早川 潤，植田高弘，右田 真，前田美穂，福永慶隆：DNA チップを用いた薬剤耐性機序の解析：アドリアマイシン耐性白血病細胞株をもちいて．第42回日本小児血液学会 (総会)，2000．9．
- 47) 金子 隆¹⁾，生田孝一郎¹⁾，土田昌宏¹⁾，花田良二¹⁾，豊田恭徳¹⁾，真部 淳¹⁾，沖本由理¹⁾，磯山恵一¹⁾，木下明俊¹⁾，佐藤武幸¹⁾，上條岳彦¹⁾，熊谷昌明¹⁾，外松 学¹⁾，小原 明¹⁾，梶原道子¹⁾，菊地 陽¹⁾，矢部普正¹⁾，野口 靖¹⁾，内山浩志¹⁾，森本 克¹⁾，杉田憲一¹⁾，林 泰秀¹⁾，小池健一¹⁾，船曳哲典¹⁾，杉田完爾¹⁾，柳辺安秀¹⁾，石本浩市¹⁾，前田美穂，気賀沢寿人¹⁾，斉藤友博¹⁾(¹⁾東京小児がん研究グループ)：TCCSG ALL L95-14 プロトコールにおける DNA index の予後因子としての意義．第42回日本小児血液学会 (総会)，2000．9．

- 48) 木下明俊¹⁾, 生田孝一郎¹⁾, 土田昌宏¹⁾, 花田良二¹⁾, 豊田恭徳¹⁾, 真部 淳¹⁾, 沖本由理¹⁾, 磯山恵一¹⁾, 金子隆¹⁾, 佐藤武幸¹⁾, 上條岳彦¹⁾, 熊谷昌明¹⁾, 外松 学¹⁾, 小原 明¹⁾, 梶原道子¹⁾, 菊地 陽¹⁾, 矢部普正¹⁾, 野口 靖¹⁾, 内山浩志¹⁾, 森本 克¹⁾, 杉田憲一¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 小池健一¹⁾, 船曳哲典¹⁾, 杉田完爾¹⁾, 柳辺安秀¹⁾, 石本浩市¹⁾, 前田美穂, 気賀沢寿人¹⁾, 斉藤友博¹⁾(¹⁾東京小児がん研究グループ): TCCSG ALL L92-13におけるDNA indexの検討. 第42回日本小児血液学会(総会), 2000. 9.
- 49) 内木場庸子: Werdnig-Hoffmann病にKlinefelter症候群を合併した1例. 日本人類遺伝学会, 2000. 10.
- 50) 浅野 健: エトポシド耐性乳癌細胞における薬剤耐性のメカニズムの検討. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 51) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学: GHD児のGH補充療法前後の耐糖能およびインスリン抵抗性の検討(3年間の変化について). 第33回日本小児内分泌学会, 2000. 10.
- 52) 門脇弘子¹⁾, 原 一雄¹⁾, 赤沼安夫¹⁾, 菊地 透²⁾, 内山 聖²⁾, 大木由加志(¹⁾朝日生命糖尿病研究所, ²⁾新潟大学): PPAR 遺伝子の肥満と糖尿病発症における役割. 第33回日本小児内分泌学会, 2000. 10.
- 53) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学: 肥満児の動脈硬化危険因子の合併症に対する肥満度の影響. 第21回日本肥満学会, 2000. 10.
- 54) 岡部俊成¹⁾, 飛田正俊¹⁾, 竹田幸代, 名知尚子¹⁾, 向後俊昭, 福永慶隆²⁾, 加藤隆司³⁾(¹⁾多摩永山病院小児科, ²⁾付属病院小児科, ³⁾加藤クリニック): 気管支喘息児の夏季短期転地療養中の発作頻度とダニ抗原. 第47回日本小児保健学会, 2000. 10.
- 55) 伊藤保彦, 今井大洋, 藤野 修, 福永慶隆: 肺炎後胸水貯留持続の後SLEと診断された1例. 第10回日本小児リウマチ研究会, 2000. 10.
- 56) 内田高浩¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 榎方美文¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 勝部康弘, 関 隆志(¹⁾第二病院内科): 大動脈弁置換術1年後に急性心筋梗塞を若年発症した1例. 第177回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 10.
- 57) 千葉 隆, 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 前田美穂, 福永慶隆, 今井丈英, 高瀬真人: 難治性肺炎の治療にBALが有用であったKostmann型先天性無顆粒症の1例. 第33回日本小児呼吸器疾患学会, 2000. 11.
- 58) 高瀬真人, 今井丈英, 松平登志子, 城田和彦: 喘息児の肺音スペクトルの長期的・短期的変動と気道安定性の評価. 第33回日本呼吸器疾患学会, 2000. 11.
- 59) 高瀬真人, 今井丈英, 今井登志子, 稲葉八興, 城田和彦: 喘息児の肺音スペクトルの長期的・短期的変動と気道安定性の評価. 第25回肺音(呼吸音)研究会, 2000. 11.
- 60) 桑原健太郎, 羽鳥誉之, 藤野 修: 川崎病のアスピリン治療中止後に左顔面けいれんを呈した1症例. 第12回千葉県小児神経談話会, 2000. 11.
- 61) 今井大洋, 伊藤保彦, 吉田順子, 藤野 修: 肺炎, 胸膜炎後に胸水貯留が持続し, その消失後にSLEと診断された1例. 第33回日本小児呼吸器疾患学会, 2000. 11.
- 62) 前田美穂, 大久保隆志, 右田 真, 中山総一郎, 早川 潤, 植田高弘, 浅野 健, 福永慶隆, 小泉 潔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 宮本哲也¹⁾(¹⁾外科第2): 化学療法, 胸腔鏡補助下手術, 放射線療法が奏効したDumbbell型Small round cell tumorの1例. 第16回日本小児がん学会(総会), 2000. 11.
- 63) 海津聖彦, 大川拓也, 林田真理, 前田美穂, 福永慶隆, 中嶋征子¹⁾(¹⁾上尾中央総合病院): 巨大脾腫を呈したaggressive NK cell leukemia/lymphomaの1例. 第42回日本臨床血液学会(総会), 2000. 11.
- 64) 菊地 陽¹⁾, 前田美穂, 花田良二¹⁾, 石本浩市²⁾, 佐藤武幸³⁾, 金子 隆⁴⁾, 生田孝一郎⁵⁾, 土田昌宏⁶⁾, 中澤真平⁷⁾(¹⁾埼玉小児医療センター, ²⁾順天堂大学, ³⁾千葉大学, ⁴⁾都立清瀬小児病院, ⁵⁾横浜市立大学, ⁶⁾茨城こども病院, ⁷⁾山梨医科大学): 小児急性リンパ性白血病(ALL)に続発したもやもや病様病変. 第42回日本臨床血液学会(総会), 2000. 11.
- 65) 西澤善樹, 藤田武久, 松岡和彦: 胎内で感作された疑いのある新生児ミルクアレルギーの1例. 第45回日本未熟児新生児学会, 2000. 11.

- 66) 藤田武久, 稲葉八興, 向後俊昭, 川上康彦, 橋本 清: チャイルドシートが原因と思われた乳児脳梗塞の1例. 第27回神奈川小児神経懇話会, 2001. 1.
- 67) 内木場庸子: 肺小動脈血栓型の組織所見を呈する重度の肺高血圧症を合併した, 心房中隔欠損症の1例. 小児肺循環研究会, 2001. 2.
- 68) 早川 潤, 植田高弘, 右田 真, 浅野 健, 前田美穂, 福永慶隆, 石川久美子¹⁾, 田中竜平¹⁾, 真部 淳¹⁾, 辻浩一郎¹⁾ (¹⁾東京大学医科学研究所小児細胞移植科): AMLを発症したKostmann症候群の1例. 関東甲信越地区小児がん登録研究会, 2001. 2.
- 69) 内木場庸子, 早川 潤, 前田美穂, 桑原健太郎, 今井大洋, 羽鳥誉之, 上砂光裕, 土屋正己, 藤野 修: 胸腺原発ランゲルハンス組織球症(LCH)の1乳児例. 第158回日本小児科学会千葉地方会(地方会), 2001. 2.
- 70) 前田美穂, 松岡和彦, 福永慶隆: 血液疾患・悪性腫瘍患児における肝炎関連ウイルスの検討. 第3回神奈川県小児肝疾患研究会, 2001. 2.
- 71) 伊藤保彦, 立麻典子, 五十嵐徹, 福永慶隆: 抗Ro/SSA抗体陽性の自己免疫性疲労症候群とsubclinical Sjogren症候群. 第6回慢性疲労症候群(CFS)研究会, 2001. 2.
- 72) 松本多絵, 伊藤保彦, 藤田武久, 松岡和彦: 左側頭葉に広範な梗塞像を伴ったCNSループスの1例. 第248回日本小児科学会神奈川県地方会, 2001. 2.
- 73) 海津聖彦, 大川拓也, 前田美穂, 福永慶隆: 巨大脾腫を呈したaggressive NK cell leukemia/lymphoma. 第14回日本小児脾臓研究会, 2001. 3.
- 74) 川上康彦, 平山恒憲, 橋本 清, 羽鳥誉之, 桑原健太郎, 藤田武久, 高石康子, 藤野 修: ゴニサミドが著効した, 過呼吸で誘発される異常眼球運動を示す, てんかんと考えられた一女兒例. 第34回日本小児神経学会関東地方会, 2001. 3.
- (8) ポスター:
- 1) 倉持雪穂, 日野佳昭, 勝部康弘, 深澤隆治, 関 隆志, 大久保隆志, 福見大地, 内木場庸子, 小川俊一: 過粘度症候群を有するチアノーゼ性心疾患患児に対する部分交換輸血療法の有効性. 第36回小児循環器学会, 2000. 7.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科]

研究概要

- 1) 一般撮影部門では、CRによる下肢静脈造影、フラットパネルによる乳房撮影において精度向上の検討がなされ成果が得られた。
- 2) CT部門では、3次元CT診断法は血管や中枢神経系を中心とした低侵襲診断法として定着した。多列検出器型CTの導入に伴い、腫瘍性病変の血行動態解析、脳パーフュージョン、広範囲に及ぶ高精度の3次元血管造影法が開発され、研究が進んでいる。
- 3) MRI部門では血液疾患や位相画像の基礎的検討を続行し、高速撮像法の検討にも着手している。本法は躯幹部や循環器系の機能解析に必須で、広く内外で認識されるに至った。
- 4) 超音波部門では、静脈疾患に対する高精度超音波診断の開発が進み、静脈瘤、深部静脈血栓に対し臨床応用されている。
- 5) 血管造影IVR部門では、大動脈ステントグラフト、肺塞栓症に対する血栓破砕吸引療法などの研究を引き続き行っている。コンビーム3次元CTの研究、気管支ステントやCTガイド下肺生検が成果をあげている。骨盤内悪性腫瘍に対する閉鎖循環による高濃度抗癌剤治療も臨床応用が進んでいる。
- 6) 核医学部門では、gated SPECTデータから解析するQGSプログラムを用いた虚血性心疾患の評価の研究が進んでいる。また本邦で初めて導入されたモバイル型半導体検出器を用いた心機能解析に関する臨床研究が行われている。中枢神経領域では統計的画像解析が可能となり、視覚的に評価困難な初期痴呆の機能異常の検出を試みている。
- 7) 放射線治療部門では、頭頸部腫瘍と子宮頸癌のlate effect in normal tissueに関する研究は引き続き行われ、その理論はCT-based planning systemにより応用されている。超音波検査は扁平上皮癌の他に従来対象外とされていたものも対象となってきた。化学療法同時併用治療は頭頸部腫瘍、肺癌などで共同研究が進んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tuboi N¹⁾, Horiuchi K¹⁾, Kimura G¹⁾, Kondoh Y¹⁾, Yoshida K¹⁾, Nishimura T¹⁾, Akimoto M¹⁾, Miyashita T, Subosawa T²⁾ (¹⁾Dept. Urology, ²⁾President, Toma Hospital): Renal masses detected by general health check up. International Journal of Urology 2000 ; 404-408 .
- 2) Hayashi H, Uchiyama N, Kawamata H, Takagi R, Abe Y, Kumazaki T : Interaction between non-ionic contrast medium and prostaglandin E1 incorporated in Lipid Microspheres : In-vitro comparative study of direct and non-direct mixing . Radiation Medicine 2000 ; 18 (4): 219-225 .
- 3) Kawamata H, Kumazaki T, Tajima H, Niggemann P : Peripheral directional atherectomy evaluated with a rotational angiography system . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5): 335-341 .
- 4) Kawamata H, Kumazaki T, Kanazawa H¹⁾, Takahashi S²⁾, Tajima H, Hayashi H (¹⁾ Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology, Kyorin University Hospital): Trans-jugular intrahepatic portosystemic shunt in a patient with cavernous portal vein occlusion . Cardiovascular Intervent Radiol 2000 ; 23 (2): 145-149 .
- 5) Kumita S, Cho K¹⁾, Nakajo H, Toba M²⁾, Kijima T¹⁾, Mizumura S, Kumazaki T, Sano J³⁾, Munakata K³⁾, Kishida H³⁾, Takano T³⁾ (¹⁾ Dept of Radiology, Chiba-hokuso Hospital, ²⁾ Dept of Radiology, Nagayama Hos-

- pital, ³⁾ First Dept of Internal Medicine): Simultaneous assessment of Tc-99m-sestamibi and I-123-BMIPP myocardial distribution in patients with myocardial infarction: Evaluation of left ventricular function with ECG-gated myocardial SPECT. *Ann Nucl Med* 2000; 14(6): 453-459.
- 6) Endo T¹⁾, Katsuta Y¹⁾, Kimura Y¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Aramaki T¹⁾, Takano T¹⁾, Tajima H, Fukuda Y²⁾, Sugizaki Y²⁾ (¹⁾ Internal Medicine I, ²⁾ Pathology): A variant form of Churg-Strauss syndrome; Initial temporal non-giant cell arteritis followed by asthma-Is this a distinct clinicopathologic entity?. *Hum Pathol* 2000; 31(9): 1169-1171.
- 7) Ebata Y¹⁾, Karasawa K¹⁾, Maebayashi K¹⁾, Kurosaki H¹⁾, Ishikawa H¹⁾, Kaizu T¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Akagi K¹⁾, Masuda G¹⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Komagome Hospital experience, dermatology and infectious disease): Radiation therapy for Kaposi's sarcoma associated with acquired immunodeficiency Syndrome. *International Journal of Clinical Oncology* 2000; 5(6).
- 8) Miyashita T, Tateno A, Horiuchi J¹⁾, Nakamizo M²⁾, Sugizaki K³⁾, Kumazaki T (¹⁾ Dept. Radiology, Hakuji-kai Memorial Hospital, ²⁾ Dept. Otolaryngology, ³⁾ Dept. Radiology, Tamanambu Regional Hospital): Short-time ultrasound of head and neck squamous cell carcinoma under radiotherapy. *Ultrasound in Medicine & Biology* 2001; 27: 13-19.
- 9) Amano Y, Takagi R, Takahama K, Kumazaki T: Contrast-enhanced T1-weighted black-blood fast spin-echo imaging of the brain: technique for suppression of enhancing venous signal. *Acta Radiologica* 2001; 42: 27-32.
- 10) Uchiyama N¹⁾, Miyashita K¹⁾, Moriyama N¹⁾, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Diagnostic Radiology, National Cancer Center Hospital): Radiographic features of invasive lobular carcinoma of the breast. *Radiation Medicine* 2001; 19(1): 19-25.
- 11) 館野 温, 宮下次廣, 隈崎達夫: 子宮に隣接する腸管のMR画像による検討: 子宮頸癌腔内照射による腸管合併症軽減を目的として. *日放線腫瘍会誌* 1999; 11(4): 255-262.
- 12) 吉村明修¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 渡 潤²⁾, 田島廣之, 隈崎達夫, 松本満臣³⁾, 矢野 侃³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁵⁾ (¹⁾ 第4内科, ²⁾ 下谷病院放射線科, ³⁾ 東京都立保健科学大学, ⁴⁾ 荒川区がん予防センター, ⁵⁾ 放射線医学総合研究所): 低線量らせんCTによる肺癌1次検診のパイロット・スタディー. *肺癌* 2000; 40(2): 99-105.
- 13) 町田 幹¹⁾, 亀山孝二¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 病理第2): 血管壁と動脈硬化病変でのHDL (Apo A-I), LDL (Apo B) の局在の変化. *脈管学* 2000; 40(5).
- 14) 村上隆介¹⁾, 小林由子¹⁾, 小倉順子¹⁾, 中澤 賢, 玉井 仁¹⁾, 山本 鼎¹⁾, 細根 勝²⁾, 町田 稔, 隈崎達夫 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 同病理部): 後腹膜気管支原性嚢腫の1例. *腹部画像診断アトラス* 2000; 5: 112-113.
- 15) 小林由子¹⁾, 村上隆介¹⁾, 小倉順子¹⁾, 杉崎健一¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 山本 鼎¹⁾, 三田俊二²⁾, 前田昭太郎³⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 同産婦人科, ³⁾ 同病理部): 卵巣Hepatoid Carcinomaの1例. *腹部画像診断アトラス* 2000; 5: 190-191.
- 16) 内山史生¹⁾, 岡田 進¹⁾, 大秋美治²⁾, 河村 堯³⁾, 鴨井青龍³⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 同産婦人科): 子宮内膜Adenoacanthomaに合併した子宮筋層内Sex-Cord Like Tumorの1例. *腹部画像診断アトラス* 2000; 5: 192-193.
- 17) 成松芳明¹⁾, 平松京一¹⁾, 隈崎達夫, 山口昂一²⁾, 安達真人²⁾, 白 玉美²⁾, 田島廣之, 後藤慎介, 佐々木康人³⁾, 南 学³⁾, 林 直人³⁾, 中塚誠之¹⁾, 片山 仁⁴⁾, 熊本正博⁴⁾, 直居 豊⁴⁾, 小野由子⁵⁾, 石垣武男⁶⁾, 石口恒男⁶⁾, 中村仁信⁷⁾, 友田 要⁷⁾, 高橋 哲⁷⁾, 打田日出夫⁸⁾, 松尾尚樹⁸⁾, 河野通雄⁹⁾, 松本真一⁹⁾, 梶原康正¹⁰⁾, 今井茂樹¹⁰⁾, 増田康治¹¹⁾, 橋口典久¹¹⁾ (¹⁾ 慶応大学, ²⁾ 山形大学, ³⁾ 東京大学, ⁴⁾ 順天堂大学, ⁵⁾ 東京女子

- 医科大学,⁶⁾名古屋大学,⁷⁾大阪大学,⁸⁾奈良県立医科大学,⁹⁾神戸大学,¹⁰⁾川崎医科大学,¹¹⁾九州大学):
イオヘキゾール300のIADSAにおける用量設定試験. Progress in Medicine 2000; 20(10): 2051-2062.
- 18) 鈴木康友¹⁾, 近藤幸尋¹⁾, 橋本義孝¹⁾, 松沢一郎¹⁾, 千賀康弘¹⁾, 秋元成太¹⁾, 田島廣之, 隈崎達夫, 沖 守²⁾, 長谷川潤²⁾(¹⁾泌尿器科,²⁾長谷川病院): 外傷後の遅発性流入過剰型持続勃起症の1例. 泌尿紀要 2000; 46(4): 279-281.
- 19) 林 敏彦¹⁾, 加藤友康²⁾, 荷見勝彦²⁾, 山下 孝²⁾, 佐藤雅史¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾第二病院放射線科,²⁾癌研究会附属病院放射線治療部): 卵巣類内膜腺癌のMRI. 臨床放射線 2000; 45(12): 1543-1548.
- 20) 篠原広行¹⁾, 尾川浩一¹⁾, 中川原譲二¹⁾, 富口静二¹⁾, 中嶋憲一¹⁾, 飯田秀博¹⁾, 汲田伸一郎, 植原敏勇¹⁾, 西川潤一¹⁾, 西村恒彦¹⁾, 山本智明¹⁾, 本田 実¹⁾, 久慈一英¹⁾, 山田正人¹⁾, 福田利雄¹⁾, 木下富士美¹⁾, 井上登美夫¹⁾, 橋本雄幸¹⁾, 池谷憲生¹⁾, 高橋宗尊¹⁾(¹⁾日本核医学会SPECT定量ワーキンググループ): 多施設共同ファントム実験による99mTc SPECTの散乱・吸収補正の定量性評価. 核医学 2000; 37: 143-162.
- 21) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 中條秀信, 鳥羽正浩²⁾, 隈崎達夫, 佐野純子³⁾, 桜井 薫³⁾, 宗像一雄³⁾, 岸田 浩³⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科,²⁾多摩永山病院放射線科,³⁾内科第1): 心電図同期心筋シンチグラフィを用いた心筋血流, 心機能評価: 負荷時機能解析を含めた臨床応用. 進歩する心臓研究 2000; 20: 56-61.
- 22) 亀山孝二¹⁾, 長谷場健²⁾, 王 若皎¹⁾, 町田 幹¹⁾, 町田 稔, 恩田宗彦¹⁾, 森 修¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2,²⁾法医学): 冠動脈平滑筋細胞の膜障害とアルコール脱水素酵素(ADH)の発現. 脈管学 2000; 40(5): 259-266.
- 23) 内山菜智子, 宮川国久¹⁾, 松江寛人¹⁾, 森山紀之¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾国立がんセンター放射線診断部): 吸引脂肪細胞注入法による豊胸術施行後の画像所見. 臨床放射線 2000; 45: 687-691.
- 24) 谷口拓樹¹⁾, 後藤良洋¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫(¹⁾日立メディコ技術研究所): Cruising Eye View法を応用したCurvedplanar Reconstruction法との開発と臨床応用. Medix 2000; 33: 36-41.
- 25) 天野康雄, 高木 亮, 館野展之, 高濱克也, 松本 剛¹⁾, 榎 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾付属病院放射線科技師): 頭部造影T1強調像におけるblack-blood法を用いた静脈洞信号抑制の試み. 日磁医誌 2000; 20: 93-96.
- 26) 保坂純郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 高性能超音波装置による静脈弁機能の評価: 正常例と下肢深部静脈血栓症例および下肢静脈瘤症例の比較. 静脈学 2001; 12(1): 71-76.
- 27) 清水康弘, 林 宏光, 町田 稔, 隈崎達夫, 赤沼弘勝¹⁾, 坪井孝栄¹⁾, 武藤芳樹²⁾, 和知栄子³⁾(¹⁾坪井病院放射線科,²⁾同内科,³⁾同病理): 原発性腎血管肉腫の1例. 臨床放射線 2001; 46(3): 380-383.
- 28) 高木 亮, 天野康雄, 内山菜智子, 古川一博, 林 宏光, 寺本 明¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾脳神経外科): 下垂体微小腺腫の診断におけるMultiphase Helical CT(MHCT)の有用性. 日医放射会誌 2001; 61(4): 33-35.
- (2) 研究報告書:
1) 隈崎達夫, 林 宏光: 大動脈解離診療のガイドライン: 診断. 日本循環器学会誌 2000; 64: pp1258-1259.
- (3) 総説:
1) 保坂純郎¹⁾, 隈崎達夫, 渡邊典男²⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科,²⁾同中央画像診断室): IV, CRによる検査・診断の落とし穴: 造影検査 診断のポイント. INNERVISION 2000; 15(1): 56-59.
- 2) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 天野真紀, 高濱克也, 町田 稔, 古川一博, 川俣博志, 隈崎達夫, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 血管疾患の診断におけるCT angiographyの有用性. 画像診断 2000; 20(5): 516-529.
- 3) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 高山守正²⁾, 田中啓治³⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター,²⁾内科第1,³⁾集中治療室): IVRとニューテクノロジー. 血栓溶解療法とthrombectomy. 急性肺血栓塞栓症を中心として. 臨床放射線 2000; 45(6): 719-724.
- 4) 隈崎達夫: 分枝ステントグラフト留置による大動脈弓構築. Vascular Diseases and Therapies Update

2000 ; 1 : 5 .

- 5) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 大動脈瘤と大動脈解離: 画像診断を中心として. 循環制御 2000 ; 21 (2): 144-149 .
- 6) 田島廣之¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): Meeting topics. ECRにおける学術展示: Highlighted poster walking tourを中心として. Views Radiology 2000 ; 2 (2): 22-23 .
- 7) 田島廣之¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): マンモグラフィを用いた乳癌検診読影テスト. Views Radiology 2000 ; 2 (2): 24-25 .
- 8) 林 宏光, 隈崎達夫: 脈管疾患に対する3次元CT. 組織培養工学 2000 ; 26 (7): 258-262 .
- 9) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 急性肺血栓塞栓症に対するIVR. 医学のあゆみ 2000 ; 194 (1): 47-50 .
- 10) 高木 亮, 市川和雄, 隈崎達夫, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科): CTスキャンの進歩3D-CT脳腫瘍. CLINICAL NEUROSCIENCE 2000 ; 18 (9): 19-22 .
- 11) 林 宏光, 隈崎達夫: 高速らせんCTによる血管内超音波, 血管内視鏡イメージングの3次元的統合CT画像の開発. INNERVISION 2000 ; 15 (18): 85-86 .
- 12) 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾千葉北総病院放射線科): 腎機能廃絶術. Radiology Frontier 2000 ; 3 (3): 27-31 .
- 13) 中條秀信¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 心電図同期法を併用した心筋SPECT/MRI統合画像に関する研究. INNERVISION 2000 ; 15 (18): 68 .
- 14) 市川和雄¹⁾, 高木 亮¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): Cone-beam CT脳血管性病変. CLINICAL NEUROSCIENCE 2000 ; 18 (9): 31-34 .
- 15) 林 宏光, 湯浅祐二¹⁾(¹⁾慶応義塾大学放射線科): マルチスライスCTの現況と今後の問題点. 映像情報 2000 ; 32 (16): 1-2 .
- 16) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 中條秀信, 鳥羽正浩²⁾, 隈崎達夫, 佐野純子³⁾, 桜井 薫³⁾, 宗像一雄³⁾, 岸田 浩³⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾多摩永山病院放射線科, ³⁾内科第1): 心電図同期心筋血流心機能評価: 負荷時機能解析を含めた臨床応用. 進歩する心臓研究 2000 ; 10 (2): 56-61 .
- 17) 林 宏光, 隈崎達夫: 三次元CT血管造影. The Lipid 2000 ; 11 (5): 7-11 .
- 18) 林 宏光, 隈崎達夫: 3次元CT血管造影法による閉塞性動脈硬化症の低侵襲的診断: 表紙解説. 今日の高血圧治療 2000 ; 4 (3): 1 .
- 19) 林 宏光, 隈崎達夫: Multidetector-row CTによる3次元CT血管造影. Vascular Diseases and Therapies Update 2000 ; 2 : 1-3 .
- 20) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 町田 稔, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: Multidetector-row CTの臨床的意義. Clinilal presentation of multidetecotr-row CT 2000 ; 4 : 1 .
- 21) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 町田 稔, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: 交通外傷による多臓器損傷. Clinical presentation of Multidetector-row CT 2000 ; 4 : 6-7 .
- 22) 田村浩一¹⁾, 町田 幹¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾病理第2): 大動脈解離におけるulcer-like projectionの病理学的検討. ICUとCCU 2000 ; 24 : 421-429 .
- 23) 林 宏光, 隈崎達夫: Clinical quiz : hepatic adenoma. Japan Clipping Today 2000 ; 1 : 19-20 .
- 24) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 町田 稔, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: 慢性肺血栓塞栓症再発. Clinical presentation of Multidetector-row CT 2000 ; 4 : 4-5 .
- 25) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 町田 稔, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: 門脈圧亢進症に伴う門脈: 体循環短絡. Clinical presentation of Multidetector-row CT 2000 ; 4 : 8-9 .
- 26) 田島廣之¹⁾, 高木 亮¹⁾, 川俣博志¹⁾, 村田 智¹⁾, 林 宏光¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腹部救急21世紀の夢. 画像診断. 急性腹症(血管). 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 (1): 69-72 .

- 27) 林 宏光, 村上隆介¹⁾, 高木 亮, 内山菜智子, 町田 稔, 高濱克也, 天野真紀, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫⁽¹⁾ 多摩永山病院放射線科): 特集 急性腹症・腹部炎症性疾患の画像診断. 血管系領域 CTを中心に. 臨床画像 2001; 17(1): 84-92.
- 28) 林 宏光, 天野康雄, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 古川一博, 清水康弘, 隈崎達夫: 大動脈疾患のMR angiography. INNERVISION 2001; 16(2): 55-60.
- 29) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾内科第1): 急性肺動脈血栓塞栓症II: 診断の進歩: 肺動脈造影. 日内会誌 2001; 90(2): 254-257.
- 30) 田島廣之: 急性肺動脈血栓塞栓症: 認定内科医トレーニング問題. 日内会誌 2001; 90(2): 312-319.
- 31) 林 宏光¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田島廣之¹⁾, 川俣博志¹⁾, 市川和雄¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 21世紀における画像診断法の進歩: X線の新たな展開. 日本血管内治療学会誌 2001; 2(1): 24-27.

著 書

- 1) 汲田伸一郎, 佐野純子, 桜井 薫: [分担] 薬剤負荷心電図同期心筋SPECT法. 心電図同期心筋SPECT法 - その基礎と臨床応用(中田智明, 中嶋憲一編), 2000; pp69-73, メジカルセンス.
- 2) 中條秀信: [分担] アイソトープ, X線造影剤. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝編), 2001; pp116-118, 医学書院.
- 3) 中條秀信: [分担] QGS, QPS, QBSの原理と特徴. 心電図同期SPECTの理論と実際(西村恒彦, Guido Germano), 2001; pp9-15, 南江堂.

学会発表

(1) 追加分特別講演:

- 1) 林 宏光: MultiDetector-row CT. 基礎, 技術: CTAにおける進歩を中心に. 第22回Radiology Update学術講演会, 2000. 2.

(2) 追加分一般講演:

- 1) Tajima H: Peripheral lung cancer: screening and detection with low-dose spiral CT versus computed radiography. European Congress of Radiology'2000 (Vienna), 2000. 3.

(3) 特別講演:

- 1) Hayashi H: Multidetector-row CT: Principles, techniques, and clinical applications. Taiwan National Radiology Conference (台北), 2000. 7.
- 2) 高木 亮: 脳血管性病変の三次元CT診断: 現状と展望. 第4回Intravascular joint forum, 2000. 4.
- 3) 林 宏光: multidetector-row CTの基礎および実践的活用. 第5回私立大学放射線技師会学術講演会, 2000. 9.
- 4) 隈崎達夫: 救急血管疾患の画像診断とIVR: 患者さんの救命の為に果たすべき役割. 第15回 高知県放射線科医会学術講演会, 2000. 10.
- 5) 宮下次廣: 上腹部超音波断層法. 千駄木カンファレンス, 2000. 11.
- 6) 林 宏光: 血管疾患のMRA. 第19回日本画像医学会, 2000. 12.
- 7) 隈崎達夫: 最新の画像診断の進歩と新しい脈管疾患診療への展開. 第15回山口県循環器画像診断研究会, 2001. 1.
- 8) 隈崎達夫: IVRの現状と夢: IVRセンター設立を経て思うこと. 第10回福島県IVR研究会, 2001. 1.
- 9) 汲田伸一郎: Gated SPECTの臨床応用と今後の展望. 第5回愛媛循環器核医学研究会, 2001. 2.
- 10) 隈崎達夫: 新しい13次元画像システムの開発と非侵襲的治療への展開. 日本ノルウェーメディカルテクノロジーセミナー, 2001. 3.

(4) 招待講演：

- 1) 汲田伸一郎，趙 圭一，中條秀信，鳥羽正浩，上森真里子¹⁾，隈崎達夫，佐野純子²⁾，酒井俊太²⁾，宗像一雄²⁾
(¹⁾ 付属病院放射線科技師，²⁾ 内科第1)：Tc-99m-tetrofosmin Gated SPECTにおけるR-R多分割収集の試み．第2回心電図同期SPECT研究会，2000．5．

(5) 教育講演：

- 1) 汲田伸一郎：Work in Progressシンチカメラの最近の進歩：心臓核医学を中心に．第21回心臓核医学研究会，2000．5．
- 2) 隈崎達夫：血管疾患の3次元画像診断：現状と展望．第2回画像診断セミナー，2000．10．
- 3) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，中條秀信，鳥羽正浩²⁾，福嶋善光，木島鉄仁¹⁾，桜井 実³⁾，齋藤晴美³⁾，隈崎達夫，佐野純子⁴⁾，宗像一雄⁴⁾，高野照夫⁴⁾(¹⁾ 千葉北総病院放射線科，²⁾ 多摩永山病院放射線科，³⁾ 千葉北総病院放射線科技師，⁴⁾ 内科第1)：Gated SPECTにおける左室容積，LVEF算出の問題点．第40回日本核医学会総会，2000．11．

(6) シンポジウム：

- 1) Tajima H¹⁾，Kumazaki T¹⁾，Murata S¹⁾，Kawamata H¹⁾，Okajima Y¹⁾，Ichikawa K¹⁾，Abe Y¹⁾，Matsuda R²⁾，Niggemann P¹⁾(¹⁾ Department of Radiology and Center for Advanced Medical Technology, Nippon Medical School，²⁾ Cancer Institute Hospital)：Satellite symposia. Therapies of impaired peripheral circulation. Superselective peripheral thrombolysis with a coaxial catheter system．XVth International congress on fibrinolysis and proteolysis (浜松)，2000．6．
- 2) Takagi R：CT perfusion and CT angiography in intracranial vasospasm．First International symposium on CT and MR brain perfusion (Germany)，2000．10．
- 3) Amano Y，Takahama K，Kumazaki T，Kabasawa H¹⁾(¹⁾ GEYMS)：Comparison of black-blood fast STIR and CHESS fat-saturation MR Imaging for fat, myocardial, and flow signals suppression and cardiac structure visualization．第3回国際磁気共鳴シンポジウム，2001．1．
- 4) 隈崎達夫：IVR・血栓溶解療法．第8回抗血栓療法シンポジウム，2000．3．
- 5) 隈崎達夫：骨盤のTranscatheter Arterial Embolization (TAE)．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．
- 6) 林 宏光¹⁾，高木 亮¹⁾，天野康雄¹⁾，内山菜智子¹⁾，町田 稔¹⁾，天野真紀¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：21世紀におけるヘリカルCTの新しい展開「3次元CT Angiography：RevolutionそしてEvolution」．第59回日本医学放射線学会総会，2000．4．
- 7) 隈崎達夫：インターベンショナルラジオロジー：21世紀を見据えたIVR戦略「出血性疾患に対するIVR」．第9回造影剤と放射線シンポジウム，2000．5．
- 8) 川俣博志¹⁾，隈崎達夫¹⁾，田島廣之¹⁾，市川和雄¹⁾，落 雅美²⁾，田中茂夫²⁾(¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：末梢動脈疾患のInterventional Radiology：腸骨動脈領域の閉塞性動脈硬化症に対するステント治療を中心として．第25回日本外科系連合学会学術集会，2000．6．
- 9) 田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，村田 智¹⁾，川俣博志¹⁾，岡島雄史¹⁾，市川和雄¹⁾，高山守正²⁾，高野照夫²⁾(¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター，²⁾ 内科第1)：急性肺血栓塞栓症の血管内治療：カテーテルの回転による塊状血栓の破碎．第6回日本血管内治療学会総会，2000．7．
- 10) 田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，村田 智¹⁾，川俣博志¹⁾，岡島雄史¹⁾，市川和雄¹⁾，高山守正²⁾，田中啓治³⁾，高野照夫²⁾(¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター，²⁾ 内科第1，³⁾ 集中治療室)：シンポジウム．IVRの現況と新しい展開．IVRの現況と新しい展開3．肺血管．第36回日本医学放射線学会秋季臨床大会，2000．9．
- 11) 林 宏光：multidetector-row CTの基礎および実践的活用．第5回私立大学放射線技師会学術講演会，2000．9．
- 12) 林 宏光¹⁾，高木 亮¹⁾，内山菜智子¹⁾，町田 稔¹⁾，天野真紀¹⁾，川俣博志¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター)：Single-detectorおよびmultidetector-row CTによる骨盤・下肢血管病変の低侵襲

的診断．第41回日本脈管学会総会，2000．11．

- 13) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，中條秀信，鳥羽正浩²⁾，隈崎達夫，佐野純子³⁾，草間芳樹³⁾，田中啓治⁴⁾，岸田 浩³⁾，高野照夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾多摩永山病院放射線科，³⁾内科第1，⁴⁾集中治療室): 高感度撮影．第5回日本心臓核医学会総会，2001．3．

- 14) 川俣博志¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 末梢血管ステント：閉塞性動脈硬化症に対する治療を中心として(主題：新世紀のステント治療とその展開)．第28回日本集中治療学会総会，2001．3．

(7) パネルディスカッション：

- 1) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，中條秀信，鳥羽正浩，隈崎達夫，佐野純子²⁾，桜井 薫²⁾，宗像一雄²⁾，岸田 浩²⁾，高野照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾内科第1): 心電図同期心筋シンチグラフィを用いた心筋血流，心機能評価：負荷時機能解析を含めた臨床応用．第51回東京心臓の会，2000．5．

- 2) 田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾，村田 智¹⁾，川俣博志¹⁾，岡島雄史¹⁾，市川和雄¹⁾，町田 稔¹⁾，ニゲマン バスカル¹⁾，阿部 豊¹⁾，中澤 賢¹⁾，駒田康成¹⁾，高山守正²⁾，田中啓治³⁾，高野照夫²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター，²⁾内科第1，³⁾集中治療室): カテーテルの回転による急性塊状肺血栓の破碎治療．第41回日本脈管学会総会，2000．11．

- 3) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，中條秀信，鳥羽正浩²⁾，尾科隆司³⁾，上森真里子³⁾，小菅 豊³⁾，隈崎達夫，佐野純子⁴⁾，草間芳樹⁴⁾，佐藤直樹⁴⁾，安武正弘⁴⁾，田中啓治⁵⁾，高野照夫⁴⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾多摩永山病院放射線科，³⁾付属病院放射線科技師，⁴⁾内科第1，⁵⁾集中治療室): 半導体検出器搭載 Digirad 2020tc Imager を用いた心筋血流，心機能評価．第26回ニュータウンカンファレンス，2001．2．

(8) セミナー：

- 1) 汲田伸一郎，中條秀信，鳥羽正浩，隈崎達夫，佐野純子¹⁾，桜井 薫¹⁾，宗像一雄¹⁾，高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): Tc-99m-tetrofosmin を用いた薬剤負荷時の血流 / 心機能評価．第4回日本心不全学会総会，2000．10．

- 2) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，中條秀信，鳥羽正浩²⁾，隈崎達夫，佐野純子³⁾，草間芳樹³⁾，安武正弘³⁾，佐藤直樹³⁾，田中啓治⁴⁾，岸田 浩³⁾，高野照夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾多摩永山病院放射線科，³⁾内科第1，⁴⁾集中治療室): 心電図同期 SPECT による心筋灌流，心機能評価：モバイル型半導体検出器を用いた SPECT データ収集も含めて．第65回日本循環器学会学術総会，2001．3．

(9) 一般講演：

- 1) Amano Y, Takagi R, Takahama K, Matsumoto T, Amano M, Tsuchihashi T, Kumazaki T: Contrast-enhanced T1-weighted black-blood fast spin echo MR imaging for suppression of enhancing venous signal and flow artifact in the brain. 8th meeting of ISMRM (Denver), 2000. 4.

- 2) Niggemann P: The Japanese-German Exchange Program-my personal experience. 10th Workshop of the Japanese-German Radiological Affiliation. (Heidelberg), 2000. 8.

- 3) Matsumoto T¹⁾, Miyamoto T¹⁾, Suzuki K²⁾, Nagao K³⁾, Suzuki T⁴⁾, Kuroda C⁴⁾, Tajima H⁵⁾, Yoshimura Y⁵⁾, Yano K⁶⁾, Nakagawa T⁷⁾, Kusaka T⁸⁾, Yamamoto S⁹⁾, Fujino Y¹⁰⁾, Kanki K¹¹⁾(¹⁾National Institute of radiological Sciences, ²⁾Chiba, Chiba Anti-Tuberculosis Association, ³⁾Chiba University, ⁴⁾Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, Osaka, ⁵⁾Nippon Medical School, ⁶⁾Arakawa City Cancer Prevention Center, ⁷⁾Hitachi Health Care Center, ⁸⁾Fukui Medical School, ⁹⁾Toyohashi University of Technology, ¹⁰⁾NTT Cyber Solution Laboratories): Co-operative study on establishment of lung cancer screening system using CT units-A project of the National Institute of Radiological Sciences. 第9回世界肺癌会議 (tokyo), 2000. 9.

- 4) Kawamata H¹⁾, Kumazaki T, Tajima H, Ichikawa K, Okajima Y, Machida M, Ochi M²⁾, Tanaka S²⁾, Kichikawa K³⁾, Uchida H³⁾(¹⁾Department of Radiology, Chiba-hokuso hospital, ²⁾2nd Department of Surgery, Nippon Medical School, ³⁾Department of Radiology, Nara Medical University): Endovascular re-

- pair of penetrating atherosclerotic ulcers causing pseudo-aneurysms in abdominal aorta . CIRSE 2000 (Maastricht) , 2000 . 9 .
- 5) Kumita S , Cho K¹⁾ , Nakajo H , Toba M²⁾ , Mizumura S , Kijima T¹⁾ , Kumazaki T , Sano J³⁾ , Sakurai K³⁾ , Munakata S³⁾ (¹⁾ Dept of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital , ²⁾ Dept of Radiology, Tama-Nagayama Hospital , ³⁾ First Dept of Internal Medicine) : Serial assessment of left ventricular function at rest and during bicycle means of ECG-gated myocardial perfusion SPECT . Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 6) Nakajo H , Kumita S , Cho K¹⁾ , Toba M²⁾ , Mizumura S , Kumazaki T (¹⁾ Dept of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital , ²⁾ Dept of Radiology, Tama-Nagayama Hospital) : Evaluating myocardial distribution of Iodine-123-iodophenyl-9-methyl pentadecanoic acid in patients with acute myocardial infarction : assessment revascularized myocardium using dynamic SPECT data acquisition . Asia Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 7) Cho K¹⁾ , Kumita S , Nakajo H , Okada M¹⁾ , Kumazaki T (¹⁾ Dept of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital) : The Prevalence of Referral to cardiac catheterization revascularization after thrombolytic treatment of myocardial infarction . Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 8) Toba M¹⁾ , Kumita S , Cho K²⁾ , Mizumura S , Nakajo H , Kumazaki T (¹⁾ Dept of Radiology, Tama-Nagayama Hospital , ²⁾ Dept of Radiology, Chiba-Hokuso Hospital) : Prognostic Value of I-123 BMIPP Myocardial Images at Rest for Patients with Angina Pectoris . Comparison with Rest Thallium-201 Myocardial Perfusion Images . Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 9) Arita K¹⁾ , Sakurai M¹⁾ , Nakamura A¹⁾ , Saitoh H¹⁾ , Makino H¹⁾ , Kawamura Y¹⁾ , Cho K¹⁾ , Kumita S , Okada S¹⁾ , Kumazaki T (¹⁾ Chiba-hokuso Hospital) : Left Ventricular volume determination using ECG-gated 123 BMIPP dual myocardial SPECT and QGS program . Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 10) Saitoh H¹⁾ , Sakurai M¹⁾ , Nakamura A¹⁾ , Arita K¹⁾ , Makino H¹⁾ , Kawamura Y , Cho K¹⁾ , Kumita S (¹⁾ Chiba-Hokuso Hospital) : Relationship between wall thickness and count density of left ventricle myocardial SPECT images . Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine (Turkey) , 2000 . 10 .
 - 11) Mizumura S , Nakajo H , Kojima T , Toba M , Takasu M , Akiyama K , Kumita S : Evaluation of abnormal Hemodynamic in intracranial Artery Occlusion using Dynamic Spect . 26th International Stroke Conference. (Florida) , 2001 . 2 .
 - 12) Takagi R , Hayashi H , Uchiyama N , Amano Y , Kumazaki T : CT perfusion and CT angiography of the brain : new clinical application in acute cerebral ischemic lesion . ECR 2001 (Vienna) , 2001 . 3 .
 - 13) Machida M¹⁾ , Kameyama K²⁾ , Onda M²⁾ , Asano G²⁾ , Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Dept of Radiology, Center for Advanced Medical Technology , ²⁾ Department of Pathology) : Spectroscopic analysis using hematoporphyrin as a microenvironmental probe for atherosclerotic change in the human aorta . ECR2001 (Vienna) , 2001 . 3 .
 - 14) 宮下次廣 , 箱野 温 , 中澤 賢 , 吉田太郎 , 隈崎達夫 , 中溝宗永¹⁾ (¹⁾ 耳鼻科) : 頭頸部扁平上皮癌の超音波断層検査 : 放射線治療期間における有用性の検討 . 第59回日本医学放射線学会総会 , 2000 . 4 .
 - 15) 田島廣之¹⁾ , 隈崎達夫¹⁾ , 村田 智¹⁾ , 川俣博志¹⁾ , 岡島雄史¹⁾ , 市川和雄¹⁾ , 徐 向英¹⁾ , ニゲマン バスカル¹⁾ , 高山守正²⁾ , 高野照夫²⁾ (¹⁾ 放射線科・ハイテクリサーチセンター , ²⁾ 内科第1) : Rotatable pigtail catheter による塊状肺血栓の破碎治療 . 第59回日本医学放射線学会総会 , 2000 . 4 .
 - 16) 汲田伸一郎 , 趙 圭一 , 中條秀信 , 鳥羽正浩 , 水村 直 , 木島鉄仁 , 秋山一義 , 吉田太郎 , 福嶋善光¹⁾ , 隈崎達夫 (¹⁾ 坪井病院放射線科) : 心筋梗塞症例における心電図同期併用の Tc-99m-sestamibi , I-123-BMIPP2 核種同時心筋SPECT . 第59回日本医学放射線学会総会 , 2000 . 4 .

- 17) 保坂純郎¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): 超音波検査による下肢深部静脈弁機能評価の試み. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 18) 林 宏光¹⁾, 高木 亮¹⁾, 天野真紀¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 高濱克也¹⁾, 古川一博¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 後藤良洋²⁾, 谷口 拓樹²⁾, 青木祐子²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾日立メディコ技術開発研究所): 仮想CT内視法を用いたCurvedplanar Reconstruction Imagesの開発: 血管病変への応用. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 19) 高木 亮¹⁾, 井上幸平²⁾, 林 宏光¹⁾, 天野康雄¹⁾, 高濱克也¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 町田 稔¹⁾, 館野展之¹⁾, 福永 毅¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾千葉北総病院放射線科): Pituitary microadenomaにおけるdynamic volumetric CTの有用性. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 20) 村上隆介¹⁾, 小林由子¹⁾, 小倉順子¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 市川太郎¹⁾, 町田 稔²⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾, 秋田 誠³⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ³⁾日本シェーリング): 造影剤の血管内皮細胞に対する影響について: 血管造影検査直後における血管作動性物質の変化の検討. 第59回日本医学放射線学会学術発表会, 2000. 4.
- 21) 水村 直, 汲田伸一郎, 小島豊之¹⁾, 中條秀信, 石原眞木子²⁾, 木島鉄仁³⁾, 鳥羽正浩, 秋山一義, 吉田太郎, 隈崎達夫(¹⁾脳神経外科, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾大洗海岸病院放射線科): Dynamic SPECTを用いた未破裂脳動脈瘤の脳内血行動態の評価. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 22) 町田 稔, 亀山孝二¹⁾, 町田 幹¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 林 宏光, 田島廣之, 館野展之, 福永 毅, 隈崎達夫(¹⁾病理第2): 光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いたヒト大動脈の動脈硬化巣における微小環境変化の蛍光スペクトル法を用いた解析. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 23) 内山菜智子¹⁾, 林 宏光¹⁾, 川俣博志¹⁾, 高木 亮¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 高濱克也¹⁾, 古川一博¹⁾, 井上幸平²⁾, 松田 亮³⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾癌研究会附属病院放射線治療診断部): 非イオン性ヨード造影剤とLipo-PGE1製剤との間に生ずる配合変化: 直接および非直接混合試験による検討. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 24) 内山菜智子, 宮川国久¹⁾, 村松幸男¹⁾, 松江寛人¹⁾, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立がんセンター放射線診断部): 経過観察が可能であった脂肪注入による豊胸術後の画像所見. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 25) 高濱克也¹⁾, 林 宏光¹⁾, 石原眞木子²⁾, 天野康雄¹⁾, 高木 亮¹⁾, 趙 圭一²⁾, 山田 明³⁾, 松田 亮⁴⁾, 市川太郎⁵⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾脳神経外科, ⁴⁾癌研究会附属病院放射線治療診断部, ⁵⁾多摩永山病院放射線科): 肝腫瘍性病変におけるFerumoxides造影MRIとDynamic CTとの診断能の比較. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 26) 阿部 豊¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 川俣博志¹⁾, 高橋修司²⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 古川一博¹⁾, 中澤賢¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾杏林大学付属病院放射線科): 急性四肢動脈閉塞症に対する緊急血管造影と動注血栓溶解療法. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 27) 岡島雄史¹⁾, 田島廣之¹⁾, 石王道人¹⁾, 渡 潤²⁾, 松田 亮³⁾, 中澤 賢¹⁾, 館野展之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾下谷病院放射線科, ³⁾癌研究会附属病院放射線治療診断部): 肺野結節性に対するCT下肺生検: IVRセンターにおける診断成績. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 28) 石原眞木子²⁾, 岡田 進²⁾, 趙 圭一²⁾, 井上幸平²⁾, 内山史生²⁾, 保坂純郎²⁾, 伊藤公一郎²⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾千葉北総病院放射線科): 拡散テンソル解析を用いた照射後の白質障害評価の試み: 第1報. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 29) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 石原眞木子¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 鳥羽正浩, 秋山一義, 吉田太郎, 隈崎達夫(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾大洗海岸病院放射線科): 心拍同期心筋SPECTおよびcoronary MRAの3次元統合システムの開発. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 30) 市川和雄, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司¹⁾, 村田 智, 岡島雄史, ニゲマンパスカル, 隈崎達夫, 倉本憲明²⁾

- (¹杏林大学付属病院放射線科,²国立東京災害医療センター放射線科): 緊急動脈ステントグラフト留置例の検討。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 31) 古川一博¹, 隈崎達夫¹, 田島廣之¹, 川俣博志¹, 村田 智¹, 岡島雄史¹, 市川和雄¹, 山田 明², 阿部 豊¹, 中澤 賢¹(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター,²脳神経外科): 閉塞性動脈硬化症に対する金属ステント治療: 3年以上の長期観察例を中心として。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 32) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一¹, 木島鉄仁², 中條秀信, 秋山一義, 吉田太郎, 福嶋善光³, 隈崎達夫(¹千葉北総病院放射線科,²大洗海岸病院放射線科,³坪井病院放射線科): Transient Ischemic Dilatation (TID) index は心内膜下虚血を反映するか? : Emory Cardiac Tool を用いた検討。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 33) 松田 亮¹, 田島廣之, 隈崎達夫, 川俣博志, 村田 智, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 中沢 賢, 徐 向英(¹癌研究会附属病院放射線治療部): 経大腿動脈的コアキシャルシステムによる末梢血管造影と血栓溶解療法。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 34) 中澤 賢¹, 田島廣之¹, 隈崎達夫¹, 川俣博志¹, 岡島雄史¹, 市川和雄¹, 村田 智¹, ニゲマン パスカール¹, 高山守正², 田中啓治³, 高野照夫²(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター,²内科第1,³集中治療室): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓吸引療法: 手技法の工夫と適応の拡大。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 35) ニゲマン パスカール¹, 村田 智¹, 田島廣之¹, 隈崎達夫¹, 岡島雄史¹, 市川和雄¹, 川俣博志¹, 秋元成太², 近藤幸尋², 松沢一郎²(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター,²泌尿器科): 骨盤部腫瘍に対する両側大腿部タニケット圧迫下抗癌剤動脈内注入療法: AngioCT による評価。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 36) 神田哲朗¹, 小林尚志, 大曲淳一, 林 宏光, 高木 亮, 隈崎達夫(¹古賀病院放射線科): コーンビーム3次元CT専用機種の使用経験。第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
- 37) 岡島雄史¹, 田島廣之¹, 石王道人¹, 渡 潤², 村田 智¹, 市川和雄¹, 阿部 豊¹, 松田 亮³, 中澤 賢¹, 館野展之¹, ニゲマン パスカール¹, 隈崎達夫¹(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター,²下谷病院放射線科,³癌研究会附属病院放射線治療部): IVRセンターにおけるCT下肺生検。第29回日本血管造影・IVR学会総会, 2000. 5.
- 38) 天野康雄¹, 高木 亮¹, 高濱克也¹, 館野展之¹, 隈崎達夫¹(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター): 頭部造影T1強調画像におけるblack-blood法を用いた静脈信号とフローアーチファクト抑制の試み。第8回MRA研究会, 2000. 5.
- 39) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹, 中條秀信, 隈崎達夫(¹千葉北総病院放射線科): 安静時123I-BMIPP dual心筋SPECTを用いた狭心症例の予後評価。第21回心臓核医学研究会, 2000. 5.
- 40) 保坂純郎¹, 隈崎達夫(¹千葉北総病院放射線科): 高性能超音波装置による静脈弁機能の評価: 正常例と下肢深部静脈血栓/静脈瘤症例の比較。第20回日本静脈学会総会, 2000. 6.
- 41) 阿部 豊¹, 隈崎達夫¹(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター): 急性四肢動脈閉塞症に対する緊急血管造影とIVR。第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 42) 清水康弘, 林 宏光, 田島廣之, 町田 稔, 隈崎達夫, 赤沼弘勝¹, 坪井栄孝¹(¹坪井病院放射線科): 原発性腎血管肉腫の1例。第417回日本医学放射線学会関東地方会, 2000. 6.
- 43) 市川和雄¹, 田島廣之¹, 川俣博志¹, 村田 智¹, 岡島雄史¹, 阿部 豊¹, ニゲマン パスカール¹, 隈崎達夫¹, 小笠原英継²(¹放射線科・ハイテクリサーチセンター): ステント・グラフト治療が奏功した胸部下行大動脈瘤切迫破裂の1例。第4回大動脈ステント・グラフト症例検討会, 2000. 7.
- 44) 町田 稔, 林 宏光, 田島廣之, 隈崎達夫, 亀山孝二¹, 恩田宗彦¹, 浅野伍朗¹(¹病理第2): 光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いたヒト大動脈硬化巣における微小環境の蛍光スペクトル解析。第51回心臓血管放射

線研究会, 2000 . 7 .

- 45) 阿部 豊¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, ニゲマン パスカル¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): BRTOにより改善した meso-caval shunt による高アンモニア血症の1例. 第12回関東IVR研究会, 2000 . 7 .
- 46) 松田 亮, 田島廣之, 隈崎達夫, 村田 智, 川俣博志, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 中澤 賢, ニゲマン パスカル(¹⁾癌研究会附属病院放射線治療部, ²⁾放射線科「ハイテクリサーチセンター」): 経大腿動脈のコアキシアルシステムによる末梢血管造影と血管内治療. 第6回日本血管内治療学会総会, 2000 . 7 .
- 47) ニゲマン パスカル¹⁾, 川俣博志¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 駒田康成¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾内科第1): 腎動脈下腹大動脈狭窄性病変に対して Palmaz Stent 留置術が有用であった1例. 第17回日本 Metallic Stents & Grafts 研究会, 2000 . 7 .
- 48) 館野展之, 田島廣之, 隈崎達夫, 村田 智, 川俣博志, 岡島雄史, 町田 稔, 市川和雄, ニゲマン パスカル, 阿部 豊, 中澤 賢, 駒田康成, 福永 毅, 田中 茂²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾外科第2): 急性深部静脈血栓症に対するIVR. 第10回救急放射線研究会, 2000 . 9 .
- 49) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 林 宏光¹⁾, 天野康雄¹⁾, 高木 亮¹⁾, 水村 直¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 町田 稔¹⁾, 高濱克也¹⁾, 古川一博¹⁾, 市川和雄¹⁾, 鈴木 健²⁾, 北川松雄²⁾, 土橋俊男²⁾, 尾科隆司²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾附属病院放射線科技師): 附属病院におけるCT/MRIを中心とした画像ネットワークの構築と臨床応用. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 50) 高須 勝, 水村 直, 汲田伸一郎, 中條秀信, 鳥羽正浩¹⁾, 秋山一義, 隈崎達夫(¹⁾多摩永山病院放射線科): ダイナミックSPECTを用いた脳動脈狭窄症の潜在的な虚血評価: SPMによる非平衡時SPECT画像の統計学的评价. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 51) 岡島雄史¹⁾, 田島廣之¹⁾, 石王道人¹⁾, 徐 向英¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅²⁾, 館野展之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾多摩永山病院放射線科): 肺野結節性病変に対するCT下生検: IVRセンターにおける診断成績の向上. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 52) 古川一博, 村田 智, 田島廣之, 高濱克也, 岡島雄史, 市川和雄, 阿部 豊, 隈崎達夫: PTOにより改善した左胃静脈-奇静脈短絡に起因した高アンモニア血症の1例. 第36回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2000 . 9 .
- 53) 林 宏光¹⁾, 高木 亮¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 町田 稔¹⁾, 高濱克也¹⁾, 天野真紀¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 谷口 拓樹²⁾, 後藤良洋²⁾, 青木祐子²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾日立メディコ技術開発研究所): 高速らせんCTによる血管病変の3D診断: Volume visualization and analysis. 第11回医用デジタル画像研究会, 2000 . 10 .
- 54) 岡島雄史¹⁾, 田島廣之¹⁾, 石王道人¹⁾, 渡 潤²⁾, 徐 向英¹⁾, 福永 毅¹⁾, 館野展之¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 宮本安盛¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾下谷病院放射線科): IVRセンターにおけるCT肺生検の診断成績. 第1回肺生検研究会, 2000 . 10 .
- 55) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 中條秀信, 鳥羽正浩²⁾, 上森真理子³⁾, 隈崎達夫, 佐野純子⁴⁾, 酒井俊太⁴⁾, 宗像一雄⁴⁾, 岸田 浩⁴⁾, 高野照夫⁴⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾多摩永山病院放射線科, ³⁾附属病院放射線科技師, ⁴⁾内科第1): 心電図同期心筋SPECTにおけるR-R多分割収集に関する検討. 第40回日本核医学学会総会, 2000 . 11 .
- 56) 水村 直, 汲田伸一郎, 小島豊之¹⁾, 趙 圭一²⁾, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 秋山一義, 鳥羽正浩³⁾, 隈崎達夫(¹⁾脳神経外科, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾多摩永山病院放射線科): Dynamic SPECTによる未破裂脳動脈瘤の脳内初期灌流評価. 第40回日本核医学学会総会, 2000 . 11 .
- 57) 趙 圭一¹⁾, 汲田伸一郎, 木島鉄仁¹⁾, 中條秀信, 鳥羽正浩²⁾, 櫻井 実³⁾, 齋藤春美³⁾, 有馬光一³⁾, 牧野仁美³⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾多摩永山病院放射線科, ³⁾千葉北総病院放射線科

- 技師): TI-201/I-123 BMIPP 2核種同時心拍同期心筋SPECTを用いた心機能評価: 臨床例の検討. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 58) 中條秀信, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 鳥羽正浩²⁾, 福嶋善光³⁾, 隈崎達夫, 佐野純子⁴⁾, 宗像一雄⁴⁾, 岸田 浩⁴⁾, 高野照夫⁴⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾多摩永山病院放射線科, ³⁾坪井病院放射線科, ⁴⁾内科第1): 99mTc-sestambi/-123IBMIPP Gated Dual SPECTを用いた急性心筋梗塞の予後予測. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 59) 鳥羽正浩¹⁾, 汲田伸一郎, 趙 圭一²⁾, 水村 直, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信, 福嶋善光³⁾, 隈崎達夫, 佐野純子⁴⁾, 高野照夫⁴⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾坪井病院放射線科, ⁴⁾内科第1): 安静時BMIPP心筋SPECTによる狭心症例の予後評価. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 60) 福嶋善光, 汲田伸一郎, 鳥羽正浩, 趙 圭一, 水村 直, 木島鉄仁, 中條秀信, 秋山一義, 隈崎達夫(¹⁾坪井病院放射線科, ²⁾多摩永山病院放射線科, ³⁾千葉北総病院放射線科): 心電図同期心筋SPECTにおける解析アルゴリズムおよび核種の相違に基づく左室容積算出値の乖離. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 61) 館野 温, 宮下次廣, 上玉麻子, 隈崎達夫, 百束比古¹⁾, 堀内淳一²⁾(¹⁾形成外科, ²⁾博慈会記念総合病院放射線科): 難治性胸骨部ケロイドの放射線治療成績. 第13回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2000. 11.
- 62) 上玉麻子, 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫, 百束比古¹⁾, 堀内淳一²⁾(¹⁾形成外科, ²⁾博慈会記念総合病院放射線科): 肩部ケロイドの放射線治療成績. 第13回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2000. 11.
- 63) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二²⁾, 恩田宗彦²⁾, 町田 幹²⁾, 浅野伍朗²⁾, 林 宏光¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾病理第2): 動脈硬化巣における微小環境変化のヘマトポルフィリン蛍光スペクトル・吸光度を用いた解析. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 64) 町田 幹¹⁾, 亀山孝二¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 町田 稔²⁾, 内藤善哉¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾病理第2, ²⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 動脈硬化性病変におけるHLLとApoAの同一markerによる局在状態の観察. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 65) 村上隆介¹⁾, 町田 稔²⁾, 田島廣之²⁾, 小倉順子¹⁾, 小林由子¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 市川太郎¹⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 水溶性ヨード造影剤投与に伴う血管作動性物質の関与: 腹部血管造影における検討. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 66) 亀山孝二¹⁾, 長谷場健²⁾, 王 若咬¹⁾, 町田 幹¹⁾, 町田 稔³⁾, 恩田宗彦¹⁾, 森 修¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2, ²⁾法医学, ³⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 冠動脈硬化病変とアルコール脱水素酵素(ADH)の発現状態との関連. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 67) 谷口拓樹¹⁾, 永尾朋洋¹⁾, 後藤良洋¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫(¹⁾日立メディコ技術開発研究所): Curved planar Reconstructionシステムの開発. 第18回日本医用画像工学会, 2000. 12.
- 68) 宮本安盛, 清水康弘, 町田 稔, 天野真紀, 林 宏光, 田島廣之, 隈崎達夫: Atypical carcinoid of Papilla Vaterの1例. 第418回日本医学放射線学会関東地方会, 2000. 12.
- 69) 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 村田 智¹⁾, 川俣博志²⁾, 岡島雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 町田 稔¹⁾, ニゲマン パスカール¹⁾, 阿部 豊¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 駒田康成¹⁾, 高山守正³⁾, 田中啓治⁴⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾千葉北総病院放射線科, ³⁾内科第1, ⁴⁾集中治療室): 急性塊状肺血栓塞栓症に対する低侵襲的治療法. 第9回クリニカル・ビデオフォーラム, 2001. 2.
- 70) 林 宏光, 高木 亮, 内山菜智子, 高濱克也, 古川一博, 隈崎達夫: Multidetector-row CTを用いた血管病変の3次元CT. 第10回東京血管外科画像診断治療懇話会, 2001. 2.
- 71) 峯田 章¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 平方敦史¹⁾, 隈崎達夫(¹⁾外科第1): Seldinger法による鎖骨下動脈アプローチの安全性. 第22回リザーバー研究会, 2001. 2.
- 72) 木島鉄仁¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡田 進¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 石原眞木子¹⁾, 内山史生¹⁾, 松下径広²⁾, 河

村 堯²⁾, 隈崎達夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾同産婦人科, ³⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腸骨静脈閉塞性病変に対してWallstent留置が奏効した深部静脈血栓症の1例. 第18回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 2001. 2.

73) 小林由子¹⁾, 村上隆介¹⁾, 鳥羽正浩¹⁾, 中澤 賢²⁾, 玉井 仁¹⁾, 市川太郎¹⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腹部救急疾患に対するMRCPの臨床応用. 第36回腹部救急医学会, 2001. 3.

74) 林 宏光¹⁾, 古川一博¹⁾, 清水康弘¹⁾, 駒田康成¹⁾, 高濱克也¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 高木 亮¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 福見大地²⁾, 小川俊一²⁾, 福永慶隆²⁾, 山内仁紫³⁾, 田中茂夫³⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾小児科, ³⁾外科第2): Multidetector-row CTを用いた小児複雑心血管奇形の評価. 第6回3次元CT・MRI研究会, 2001. 3.

75) 高木 亮, 宮本安盛, 中原 圓, 内山菜智子, 高濱克也, 林 宏光, 隈崎達夫: CT angiography (CTA) と CT perfusion (CTP) を用いた急性期脳虚血性病変の評価. 第6回3次元CT・MRI研究会, 2001. 3.

76) 谷口拓樹¹⁾, 青木祐子¹⁾, 後藤良洋¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫(¹⁾日立メディコ技術開発研究所): 3次元画像再構成のための半自動しきい値決定方法の検討. 第6回3次元CT・MRI研究会, 2001. 3.

[第二病院放射線科]

研究概要

放射線診断学: 1) 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている. 2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし, 結核, 癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている. 肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している. 3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)および粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する. いわゆるFunctional radiologyに目標をおき, また*H. Pylori*の胃の胃粘膜変化についても研究中である. 4) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し, より効率の良い, より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である. 5) MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用, 乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる. また, 高分解能MRIによる膵の微小病変の描出, 2次膵管描出の研究, dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究中である.

Interventional radiology: 1) 悪性胆道閉塞患者に対し, 減黄およびQOL向上を目的とし, スtent挿入および放射線治療を施行している. さらにこの分野での研究に取り組んでいる. 2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術, 経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる.

放射線治療学: 1) 肺癌に対して, 放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる.

核医学: 1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる. 2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる.

研究業績

論文

(1) 原著:

1) 林 敏彦, 加藤友康¹⁾, 荷見勝彦¹⁾, 山下 孝²⁾, 佐藤雅史, 隈崎達夫³⁾(¹⁾癌研究会附属病院婦人科, ²⁾癌研究会附属病院放射線科, ³⁾附属病院放射線科): 卵巣類内膜腺癌のMRI. 臨床放射線 2000; 45(12): 1543-1548.

(2) 総説：

- 1) 佐藤雅史：胸痛（症状と症候からみた胸部画像診断1）. 臨床画像 2000；16（2）：203-208.
- 2) 佐藤雅史：咯血・血痰（症状と症候からみた胸部画像診断2）. 臨床画像 2000；16（3）：297-303.
- 3) 松島秀和¹⁾, 高柳 昇¹⁾, 金沢 実¹⁾, 佐藤雅史（¹⁾埼玉県立循環器・呼吸器病センター呼吸器内科）：血痰が出現した63歳の女性（演習 胸部X線写真の読み方：肺疾患篇 第6回）. メディチーナ 2000；37（4）：661-665.
- 4) 細根 勝¹⁾, 佐藤雅史, 前田昭太郎¹⁾（¹⁾多摩永山病院病理部）：悪性リンパ腫の病理分類：分類の基本理念と新WHO分類. 画像診断 2000；20（4）：460-476.
- 5) 佐藤雅史：咳嗽・喀痰（症状と症候からみた胸部画像診断3）. 臨床画像 2000；16（4）：453-458.
- 6) 佐藤雅史：呼吸困難（症状と症候からみた胸部画像診断4）. 臨床画像 2000；16（5）：589-597.
- 7) 林 敏彦：多列検出器型CTについて. J Nippon Med Sch 2000；67（3）：222-223.
- 8) 佐藤雅史：無症状：若年者（症状と症候からみた胸部画像診断5）. 臨床画像 2000；16（6）：713-721.
- 9) 山本 彰, 山本博人：胸痛と呼吸困難を訴える20歳の女性（演習 胸部X線写真の読み方 肺疾患篇 第8回）. メディチーナ 2000；37（6）：1017-1022.
- 10) 網谷賢一¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 内田高浩¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 増田 栄²⁾, 織井恒安²⁾, 家所良夫²⁾, 日置正文²⁾, 山本 彰（¹⁾第二病院内科, ²⁾同外科）：心筋ブリッジが心筋虚血に関与した2症例. J Nippon Med Sch 2000；67（3）：206-209.
- 11) 菊池敏樹¹⁾, 佐藤雅史（¹⁾昭和大学藤が丘病院呼吸器内科）：カルチノイドと気管支腺癌（特集 胸部腫瘍の画像診断）. 臨床画像 2000；16（7）：782-787.
- 12) 久吉隆郎¹⁾, 佐藤雅史（¹⁾第二病院外科）：胸膜・胸壁腫瘍（特集 胸部腫瘍の画像診断）. 臨床画像 2000；16（7）：815-822.
- 13) 佐藤雅史：無症状：成人（症状と症候からみた胸部画像診断6）. 臨床画像 2000；16（7）：839-847.
- 14) 林 敏彦, 隈崎達夫¹⁾, 加藤友康²⁾（¹⁾付属病院放射線科, ²⁾癌研究会附属病院婦人科）：4子宮体部に生じる悪性疾患のMRI. 日本医学放射線学会誌雑誌付録 2000；60（9）：14-18.
- 15) 佐藤雅史：喘鳴と喘息（症状と症候からみた胸部画像診断7）. 臨床画像 2000；16（8）：973-979.
- 16) 佐藤雅史：好酸球増多（症状と症候からみた胸部画像診断8）. 臨床画像 2000；16（9）：1091-1098.
- 17) 梶原景子, 佐藤雅史：突然の呼吸苦と胸痛で来院した26歳の男性（演習 胸部X線写真の読み方 肺疾患篇 第11回）. メディチーナ 2000；37（9）：1559-1563.
- 18) 佐藤雅史：腎病変と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断9）. 臨床画像 2000；16（10）：1235-1241.
- 19) 菊竹晴子, 佐藤雅史：卵巣癌の術前検査で胸部異常陰影を指摘された49歳女性（演習 胸部X線写真の読み方：肺疾患篇 第12回）. メディチーナ 2000；37（10）：1695-1698.
- 20) 佐藤雅史：血液・造血器疾患と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断10）. 臨床画像 2000；16（11）：1361-1367.
- 21) 佐藤雅史：心疾患と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断11）. 臨床画像 2000；16（12）：1493-1499.
- 22) 佐藤雅史：内分泌疾患と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断12）. 臨床画像 2001；17（1）：93-99.
- 23) 佐藤雅史：皮膚病変と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断13）. 臨床画像 2001；17（2）：203-210.
- 24) 佐藤雅史：骨関節疾患と胸部（症状と症候からみた胸部画像診断14）. 臨床画像 2001；17（3）：329-337.

著 書

- 1) 佐藤雅史, 山本 彰：〔翻訳〕13. 気管支, 14. 肺血管異常, 15. 縦隔：正常解剖と局所性縦隔異常の評価のためのアプローチ, 16. 縦隔腫瘍. 必修 胸部画像診断（蜂屋順一監訳）, 2001；pp373-459, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 佐藤雅史: 肺結核の胸部X線と鑑別すべき疾患. 第18回千駄木臨床研修会, 2000. 11.

(2) 一般講演:

- 1) Kikutake H, Sato M, Kajiwara K, Kikuchi M, Nanbu H, Hayashi T, Yamamoto H, Komata K, Takahashi M, Yamamoto A: Azygos (hemiazygos) continuation of the interrupted inferior vena cava: report of six cases and review of the literature. 30th Annual Conference on Chest Disease (神戸), 2000. 5.
- 2) 菊池真理, 佐藤雅史, 山口朋禎¹⁾, 梶原景子, 菊竹晴子, 南部春江, 林 敏彦, 山本博人, 小俣 香, 高橋政之, 山本 彰^{(1)第二病院内科}): 多発性結節影を呈したMPO-ANCA関連肺疾患の2例. 第23回胸部放射線研究会東京部会, 2000. 6.
- 3) 林 敏彦: 卵巣原発癌肉腫の1例. The 1st Annual Symposium Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging, 2000. 6.
- 4) 山本博人, 山本 彰, 高橋政之, 菊竹晴子, 菊池真理, 南部春江, 林 敏彦, 佐藤雅史, 渡部英之¹⁾(¹⁾大宮共立病院放射線科): 無水エタノール注入ではコントロール困難で, 炭酸ガス注入による硬化療法が奏効した巨大肝嚢胞の1例. 第417回日本医学放射線学会関東地方会, 2000. 6.
- 5) 野本恵子¹⁾, 鈴木憲康¹⁾, 坂倉剛志¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 松岡和彦¹⁾, 久吉隆郎²⁾, 日置正文²⁾, 佐藤雅史(¹⁾第二病院中央検査室, ²⁾同外科): 非定型抗酸菌症 Mycobacterium Xenopi の1症例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 6) 大石卓爾¹⁾, 弦間和仁¹⁾, 堀内淳一¹⁾, 吉安正行²⁾, 谷口善郎²⁾, 堀場光二²⁾, 岡田憲明³⁾, 長田祐二³⁾, 小倉篤³⁾, 水木太郎³⁾, 林 敏彦, 天野康雄⁴⁾, 隈崎達夫⁴⁾(¹⁾博慈会記念総合病院放射線科, ²⁾同外科, ³⁾同内科, ⁴⁾付属病院放射線科): Wandering tumor-腹腔内を移動した小腸平滑筋肉腫の1例. 第36回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2000. 9.
- 7) 林 敏彦, 佐藤雅史, 隈崎達夫¹⁾, 加藤友康²⁾, 宇津木久仁子²⁾, 荷見勝彦²⁾(¹⁾付属病院放射線科, ²⁾癌研究会附属病院婦人科): 乳癌の転移性卵巣腫瘍のMRI. 第28回日本磁気共鳴医学会大会, 2000. 10.
- 8) 林 敏彦, 菊竹晴子, 梶原景子, 菊池真理, 南部春江, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰, 佐藤雅史: 検診にて発見された乳房原発悪性リンパ腫の1例. 第418回日本医学放射線学会関東地方会, 2000. 12.
- 9) 佐藤雅史, 菊竹晴子, 梶原景子, 南部春江, 菊池真理, 林 敏彦, 山本博人, 高橋政之, 山本 彰: 縦隔気腫をきっかけに発見されたPoland症候群の1例. 第24回胸部放射線研究会東京部会, 2000. 12.
- 10) 山口朋禎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 内田高浩¹⁾, 鯨澤理人¹⁾, 斉藤寛和¹⁾, 村沢恒男¹⁾, 北村 伸¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 佐藤雅史(¹⁾第二病院内科): 最近当院で経験した肺感染症の数列. 第102回日本医科大学医学会例会, 2000. 12.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

1. 当院, 救命救急センターと行動で頭部外傷, 胸, 腹部臓器損傷におけるMRI診断の有用性について研究を続けている.
2. 非イオン性造影剤の腎機能に及ぼす影響について検討を継続している.
3. コンピュータを活用した医療画像処理の研究を続けている.
4. 悪性腫瘍に対するIVRによる集学的治療, 救急患者のカテーテル治療について研究を行っている.
5. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断についての研究, 検討が行われている.
6. CT, MRIを用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている.
7. CTにおける経静脈造影の至適タイミング, 方法について研究を行っている.

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著 :

- 1) Murakami R, Taniai N, Kumazaki T¹⁾, Kobayashi Y, Ogura J, Ichikawa T (¹⁾ Department of Radiology Nippon Medical School): Rupture of a hepatic metastasis from renal cell carcinoma . Journal of Clinical Imaging 2000 ; 24 (2): 72-74 .

(1) 原著 :

- 1) Ichikawa T , Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Department of Radiology Nippon Medical School): Clinical Usefulness of Computed Tomography Arteriography and Computed Tomography during Artrial Portography for the Diagnosis of Early Advanced Hepatocellular Carcinoma . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2): 105-109 .
- 2) Toba M , Fukuchi K¹⁾, Hayashida K¹⁾, Takeda Y²⁾, Fukushima K¹⁾(¹⁾ Department of Radiology National Cardiovascular Center , ²⁾ Division of Cardiology National Cardiovascular Center): Intrathoracic Mass Simulated by Ectopic Kidney . Clinical Nuclear Medicine 2000 ; 25 (4): 289-290 .
- 3) Toba M , Ishida Y¹⁾, Fukuchi K¹⁾, Noguchi T²⁾, Itoh A²⁾, Nonogi H²⁾, Takamiya M¹⁾(¹⁾ Department of Radiology National Cardiovascular Center , ²⁾ Division of Cardiology National Cardiovascular Center): Use of ECG-gated Single-photon Emission Tomography to Assess the Evolution of Perfusion after Acute Myocardial Infarction . European Journal of Nuclear Medicine 2000 ; 27 (5): 517-523 .
- 4) Ichikawa T , Kumazaki T¹⁾, Mizumura S¹⁾, Kijima T¹⁾, Motohashi S²⁾, Gocho G²⁾(¹⁾ Department of Radiology Nippon Medical School , ²⁾ Nerima Medical Association): Intracranial Lipomas : Demonstration by Computed Tomography and Magnetic Resonance imaging . J Nippon med Sch 2000 ; 67 (5): 388-391 .
- 5) Toba M , Kumita S¹⁾, Cho K²⁾, Mizumura S¹⁾, Kijima T²⁾, Nakajo H¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Department of Radiology Nippon Medical School , ²⁾ Department of Radiology Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital): Comparison of Emory and Cedars-Sinai methods for assessment of left ventricular function from gated myocardial perfusion SPECT in patients with a small heart . Annals of Nuclear Medicine 2000 ; 14 (6): 421-426 .
- 6) 村上隆介, 小林由子, 小倉順子, 玉井 仁, 山本 鼎, 細根 勝¹⁾, 町田 稔²⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾ 多摩永山病院 病理部, ²⁾ 付属病院放射線科): 後腹膜気管支性嚢腫の1例 . 腹部画像診断アトラス〔V〕 2000 ; 5 : 112-113 .
- 7) 小林由子, 村上隆介, 小倉順子, 杉崎健一, 中澤 賢, 玉井 仁, 山本 鼎, 三田俊二¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 隈崎達夫³⁾(¹⁾ 多摩永山病院産婦人科, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 付属病院放射線科): 卵巣hepatoid carcinomaの1例 . 腹部画像診断アトラス〔V〕 2000 ; 5 : 190-191 .

(2) 総説 :

- 1) 市川太郎, 中原 圓, 鳥羽正浩, 小林由子, 玉井 仁, 村上隆介, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): 肝の偽リンパ腫 . 消化器画像 (別冊) 2001 ; 3 (1): 103-105 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 鳥羽正浩 : 心電図同期心筋 SPECT による心機能解析技術の進歩と今後の発展 . 第9回多摩核医学技術検討会, 2001 . 2 .

(2) 一般講演 :

- 1) Toba M , Kumita S¹⁾, Cho K²⁾, Mizumura S¹⁾, Nakajo H¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Department of Radiology

- Nippon Medical School, ²⁾ Department of Radiology Nippon Medical School Chiba-Hokuso Hospital): Prognostic Value of I-123 BMIPP Myocardial Images at Rest for Patients with Angina Pectoris: Comparison with Rest Thallium-201 Myocardial Perfusion Images. The 7th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology. (Istanbul), 2000. 10.
- 2) 玉井 仁, 小倉順子, 小林由子, 村上隆介, 市川太郎, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): Dynamic 3D MRA をどう表示するか: 四次元ワークステーションに望まれる機能. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
 - 3) 村上隆介, 小林由子, 小倉順子, 玉井 仁, 市川太郎, 町田 稔¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 秋田 誠²⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 日本シェーリング): 造影剤の血管内皮細胞に対する影響について: 血管造影検査直後における血管作動性物質の変化の検討. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
 - 4) 小林由子, 村上隆介, 小倉順子, 玉井 仁, 市川太郎, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): 3D Fresh Blood Imaging 法を用いた骨盤部 MR Venography. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
 - 5) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎¹⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直¹⁾, 中條秀信¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): Transient Ischemic Dilatation (TID) index は心内膜下虚血を反映するか?: Emory Cardiac Tool を用いた検討. 第59回日本医学放射線学会総会, 2000. 4.
 - 6) 小林由子, 村上隆介, 小倉順子, 吉田太郎, 玉井 仁, 市川太郎, 中村慶春¹⁾, 細根 勝¹⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 付属病院放射線科): Solid cystic tumor を合併した腓体尾部低形成症の1例. 第14回腹部放射線研究会, 2000. 5.
 - 7) 小林由子, 村上隆介, 小倉順子, 吉田太郎, 玉井 仁, 市川太郎, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): 骨盤部 MR Venography: 3D Fresh Blood Imaging (FBI) 法の有用性. 第29回日本血管造影・インターベンショナルラジオロジー学会総会, 2000. 5.
 - 8) 小倉順子, 小林由子, 村上隆介, 玉井 仁, 市川太郎, 杉崎健一¹⁾(¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科): EPI 法による拡散強調画像が残存腫瘍の評価に有用であった類上皮腫の1例. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
 - 9) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎¹⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直¹⁾, 中條秀信¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 佐野純子³⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科, ³⁾ 付属病院第一内科): 安静時 I-123 BMIPP 心筋 SPECT による狭心症症例の予後評価: 安静時 Tl-201 心筋血流イメージとの比較. 第21回心臓核医学研究会, 2000. 5.
 - 10) 玉井 仁, 市川太郎, 福田和也¹⁾(¹⁾ 公立岩瀬病院放射線科): パソコン上での MRI 三次元処理の開発とインターネットで公表. 第19回日本医用画像工学会大会, 2000. 8.
 - 11) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 小林由子, 長澤紘一²⁾, 浅野伍朗³⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 同内科, ³⁾ 病理第2): Radiologic-pathologic correlation による心膜中皮腫剖検例の解析. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
 - 12) 高須 勝¹⁾, 水村 直¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 中條秀信¹⁾, 鳥羽正浩, 秋山一義¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): ダイナミック SPECT を用いた脳動脈狭窄症の潜在的な虚血評価: SPM による非平衡時 SPECT 画像の統計学的評価. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
 - 13) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎¹⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直¹⁾, 中條秀信¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 安静時 BMIPP 心筋 SPECT による狭心症例の予後評価. 第40回日本核医学総会, 2000. 11.
 - 14) 福嶋善光¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 鳥羽正浩, 趙 圭一²⁾, 水村 直¹⁾, 木島鉄仁²⁾, 中條秀信¹⁾, 秋山一義¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 心電図同期心筋 SPECT における解析アルゴリズムおよび核種の相違に基づく左室容積算出値の乖離. 第40回日本核医学総会, 2000. 11.
 - 15) 中條秀信¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直¹⁾, 鳥羽正浩, 福嶋善光¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 佐野純子³⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾ 付属病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科, ³⁾ 付属病院第一内科): Tc-99m sestamibi/I-123

BMIPP Gated Dual SPECT を用いた急性心筋梗塞の予後評価．第40回日本核医学総会，2000．11．

- 16) 趙 圭一¹⁾，汲田伸一郎²⁾，木島鉄仁¹⁾，中條秀信²⁾，鳥羽正浩，櫻井 実³⁾，齋藤晴美³⁾，有馬光一³⁾，牧野仁美³⁾，岡田 進¹⁾，隈崎達夫²⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾付属病院放射線科，³⁾千葉北総病院中央画像室)：TI-201/I-123 BMIPP 2核種同時心拍同期心筋SPECTを用いた心機能評価：臨床例の検討．第40回日本核医学総会，2000．11．
- 17) 汲田伸一郎¹⁾，趙 圭一²⁾，中條秀信¹⁾，鳥羽正浩，上森真理子¹⁾，隈崎達夫¹⁾，佐野純子³⁾，酒井俊太³⁾，宗像一雄³⁾，岸田 浩³⁾，高野照夫³⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾千葉北総病院放射線科，³⁾付属病院第一内科)：心電図同期心筋SPECTにおけるR-R多分割収集に関する検討．第40回日本核医学総会，2000．11．
- 18) 水村 直¹⁾，汲田伸一郎¹⁾，小島豊之²⁾，趙 圭一³⁾，木島鉄仁³⁾，中條秀信¹⁾，秋山一義¹⁾，鳥羽正浩，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾同脳神経外科，³⁾千葉北総病院放射線科)：Dynamic SPECTによる未破裂脳動脈瘤の脳内初期灌流評価．第40回日本核医学総会，2000．11．
- 19) 村上隆介，町田 稔¹⁾，田島廣之¹⁾，小倉順子，小林由子，玉井 仁，市川太郎，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科/ハイテクリサーチセンター)：水溶性ヨード造影剤投与に伴う血管作動性物質の関与：腹部血管造影における検討．第41回日本脈管学会総会，2000．11．
- 20) 鳥羽正浩，汲田伸一郎¹⁾，趙 圭一²⁾，水村 直¹⁾，中條秀信¹⁾，隈崎達夫¹⁾，佐野純子³⁾，高野照夫³⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾千葉北総病院放射線科，³⁾付属病院第一内科)：安静時201TI/123I-BMIPP心筋SPECTによる狭心症例の予後評価．心筋脂肪酸代謝画像研究会，2000．12．
- 21) 小林由子，村上隆介，中澤 賢，鳥羽正浩，玉井 仁，市川太郎，金澤隆三郎¹⁾，山王直子¹⁾，志村俊郎¹⁾，細根 勝²⁾，前田昭太郎²⁾，隈崎達夫³⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾同病理部，³⁾付属病院放射線科)：頭蓋骨に発生した軟骨芽細胞腫の1例．第12回日本医学放射線学会骨軟部放射線研究会，2001．1．
- 22) 山本 鼎，田島廣之¹⁾，渡 潤¹⁾，隈崎達夫¹⁾，田中 順²⁾，石井 宏²⁾，長村好章²⁾，進士雄二²⁾，中本 讓²⁾，阿部敏尚²⁾，衛藤公治²⁾，高尾昭一郎²⁾，高原満男²⁾，野田正剛²⁾，平間石根²⁾，深沢伯英²⁾，八島 顕²⁾，武藤敬²⁾，塩原一英²⁾，木田勝美³⁾，岩崎義信³⁾，河野正美³⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾豊島区医師会，³⁾豊島健康診査センター)：高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌一次検診の経験．第8回胸部CT検診研究会大会，2001．2．
- 23) 小林由子，村上隆介，鳥羽正浩，中澤 賢¹⁾，玉井 仁，市川太郎，田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科/ハイテクリサーチセンター)：腹部救急疾患に対するMRCPの臨床応用．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．3．
- 24) 鳥羽正浩，汲田伸一郎¹⁾，趙 圭一²⁾，水村 直¹⁾，中條秀信¹⁾，尾科隆司³⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾千葉北総病院放射線科，³⁾付属病院放射線科技師室)：モバイル型ガンマカメラDigirad 2020tcによる座位心筋血流SPECTの臨床応用．心臓核医学フォーラム，2001．3．

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

研究分野としては，MRIに関するもの，インターベンショナル・ラジオロジーに関するもの，核医学分野に関するもの，婦人科系腫瘍の病理と画像との対比に関するものがある．

MRIに関するものとして，中枢神経系の最も新しいシークエンスであるテンソル・イメージングを用いて，脳梗塞の早期での変化および脳腫瘍の放射線治療前後での変化を調べる研究を行った．脳梗塞では，従来の報告よりも早い時期から拡散異方向性の変化があることをみだした．今後，拡散強調像や血流イメージングとあわせて，早期脳梗塞の有用な診断法となることが示唆された．脳腫瘍の放射線治療後では，腫瘍および神経線維の拡散異方向性の変化を検出し，放射線治療後の評価法として有用であることが示唆された．

また、MRアンジオグラフィーにおいて、下肢動脈閉塞性疾患における造影剤使用の研究を行った。下肢動脈閉塞性疾患では広い範囲の評価が必要であり、造影剤を分割投与して数回に分けて広い範囲の撮像を行うためのシークエンスの検討を行った。これにより、非浸襲的に血管閉塞・狭窄の評価が可能となった。インターベンショナル・ラジオロジーの分野においては、肝硬変患者における経皮経肝てきなシャント形成術（TIPS）、動脈および静脈の閉塞症にたいするステント留置術に関するものおよび、これらの手技における回転立体DSAの有用性に関するものなど多くの技術的・臨床的な検討を行った。いずれも、臨床的にきわめて有用な結果を得ることができた。

核医学分野においては、心筋梗塞亜急性期および慢性期の梗塞部の血流、脂肪酸代謝低下領域を核医学手法により定量し、血流・脂肪酸代謝乖離と心機能改善、心事故発生率等の中・長期予後との関連を検討した。また、心拍同期法による心機能解析が困難であったTI-201、I-123標識心筋イメージング製剤を2核種同時収集した後合算することで、心機能値解析の精度の向上が得られるかをファントム、臨床データから検証した。心筋SPECT像の画質の向上を目的に、Tc-99m標識心筋血流製剤使用時に出現する前壁中隔の偽欠損の原因を究明し、腹部散乱線除去のためのOSEM再構成法の有用性を検証した。

放射線と病理の対比も重要な研究分野であるが、特に婦人科系腫瘍において症例を重ねた。卵巣甲状腺腫などいろいろな腫瘍につき、病理と画像を比較検討することにより、画像診断の質的な向上を目指している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawamata H, Kumazaki T¹⁾, Tajima H¹⁾, Niggemann P¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School): Peripheral directional atherectomy evaluated with a rotational digital angiography system. J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5): 335-341 .
- 2) Okada S, Ohaki Y¹⁾, Kawamura T²⁾, Hayashi T³⁾, Kumazaki T⁴⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 千葉北総病院産婦人科, ³⁾ 第二病院放射線科, ⁴⁾ 付属病院放射線科): Cystic Struma Ovarii : Imaging Findings. JCAT 2000 ; 24 (6): 413-415 .
- 3) Kawamata H, Kumazaki T¹⁾, Kanazawa H²⁾, Takahashi S³⁾, Tajima H¹⁾, Hayashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School, ²⁾ Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ Department of Radiology, Kyorin University Hospital): Transjugular intrahepatic portosystemic shunt in a patient with cavernous portal vein occlusion. Cardiovasc Intervent Radiol 2000 ; 23 (2): 145-149 .
- 4) Ito K, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科): Sequential Gadolinium-Enhanced Magnetic Resonance Angiography of the Aortoiliac and the Femoropopliteal Arteries with Repetitive Administration of Low-Dose Contrast Agent. J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (6): 421-428 .

(2) 総説：

- 1) 川俣博志, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科): 腎機能廃絶術. Radiology Frontier 2001 ; 3 (3): 139-143 .

著書

- 1) 趙 圭一：〔分担〕IV今後の展開：新たな臨床応用の可能性 心電図同期2核種同時心筋SPECT. 心電図同期SPECTの理論と実際 Principles and Practice of Gated SPECT (西村恒彦, Guido Germano), 2001 ; pp104-108, 南江堂 .

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 川俣博志, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科, ハイテクリサーチセンター): 末梢血管ステント：閉塞性動脈硬

化症に対する治療を中心として（主題：新世紀のステント治療とその展開）．第28回日本集中治療学会総会，2000．3．

- 2) 川俣博志，隈崎達夫¹⁾，田島廣之¹⁾，市川和雄¹⁾，落 雅美²⁾，田中茂雄²⁾(¹⁾ 付属病院放射線科，ハイテクリサーチセンター，²⁾ 付属病院外科第2)：末梢動脈疾患のInterventional Radiology：腸骨動脈領域の閉塞性動脈硬化症に対するステント治療を中心として．第25回日本外科系連合学会学術集会．，2000．6．

(2) 一般講演：

- 1) Kawamata H，Kumazaki T¹⁾，Tajima H¹⁾，Ichikawa K¹⁾，Okajima Y¹⁾，Machida M¹⁾，Ochi M²⁾，Tanaka S²⁾，Kichikawa K³⁾，Uchida H³⁾(¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School，²⁾ Second Department of Surgery, Nippon Medical School，³⁾ Department of Radiology, Nara Medical University)：Endovascular repair of penetrating atherosclerotic ulcers causing pseudo-aneurysms in abdominal aorta．CIRSE 2000, Annual Meeting and Postgraduate Course of the Cardiovascular and Interventional Radiological Society of Europe．(Maastricht)，2000．9．
- 2) Cho K，Kumita S¹⁾，Nakajo H¹⁾，Toba M¹⁾，Ishihara M，Okada S，Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Department of Radiology, Main Hospital, Nippon Medical School)：The prevalence of referral to cardiac catheterization or revascularization after thrombolytic treatment of acute myocardial infarction．The VII. Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Istanbul)，2000．10．
- 3) 石原眞木子，岡田 進，趙 圭一，井上幸平，内山史生，保坂純郎，伊藤公一郎，隈崎達夫¹⁾，椋沢宏之²⁾，高橋良行²⁾(¹⁾ 付属病院放射線科，²⁾ GE-YMS)：拡散テンソル解析を用いた照射後の白質障害評価の試み：第一報．第59回日本医学放射線学会学術発表会，2000．4．
- 4) 趙 圭一，汲田伸一郎¹⁾，水村 直¹⁾，木島鉄仁，中條秀信¹⁾，鳥羽正浩¹⁾，井上幸平，石原眞木子，岡田 進，隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科)：201TI/123I-BMIPP dual SPECT を用いた急性心筋梗塞例の血流/脂肪酸代謝乖離量評価：未治療時間，左室機能の改善との比較．第59回日本医学放射線学会学術発表会，2000．4．
- 5) 内山史生，岡田 進，西村泰司¹⁾，阿部裕行¹⁾，横井公良²⁾，大秋美治³⁾，隈崎達夫⁴⁾(¹⁾ 千葉北総病院泌尿器科，²⁾ 同外科，³⁾ 同病理部，⁴⁾ 付属病院放射線科)：精嚢腺から発生した malignant phyllodes tumor の1例．第14回腹部放射線研究会，2000．5．
- 6) ニゲマン バスカル¹⁾，川俣博志，田島廣之¹⁾，村田 智¹⁾，岡島雄史¹⁾，市川和雄¹⁾，阿部 豊¹⁾，駒田康成¹⁾，中澤 賢¹⁾，隈崎達夫¹⁾，高山守正²⁾，高野照夫²⁾(¹⁾ 付属病院放射線科，ハイテクリサーチセンター，²⁾ 付属病院内科第1)：腎動脈下腹部大動脈狭窄性病変に対して Palmaz Stent 留置術が有用であった1例．第17回日本 Metallic Stents & Grafts 研究会，2000．7．
- 7) 内山史生，岡田 進，石原眞木子，石原眞木子，小林士郎¹⁾，椋沢宏之²⁾，高橋良行²⁾，隈崎達夫³⁾(¹⁾ 千葉北総病院放射線科，²⁾ GE-YMS application res-gr. 3，³⁾ 付属病院放射線科)：MRI 拡散テンソル解析を用いた急性期脳梗塞における梗塞周囲白質の評価．第26回日本磁気共鳴医学会大会，2000．9．
- 8) 岡田 進，内山史生，井上幸平，石原眞木子，大秋美治¹⁾，河村 堯²⁾，隈崎達夫³⁾(¹⁾ 千葉北総病院病理部，²⁾ 同産婦人科，³⁾ 付属病院放射線科)：卵巣類皮嚢胞腫に合併した腫瘍の検討．第28回日本磁気共鳴学会大会，2000．10．
- 9) 趙 圭一，汲田伸一郎¹⁾，木島鉄仁，中條秀信¹⁾，鳥羽正浩¹⁾，櫻井 実¹⁾，斎藤晴美²⁾，有馬光一²⁾，牧野仁美²⁾，岡田 進，隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科，²⁾ 千葉北総病院中央画像検査室)：TI-201/I-123 BMIPP 2 核種同時心拍同期心筋 SPECT を用いた心機能評価：臨床例の検討．第40回日本核医学会総会，2000．11．
- 10) 木島鉄仁，川俣博志，岡田 進，伊藤公一郎，趙 圭一，石原眞木子，内山史生，松下径広¹⁾，河村 堯¹⁾，隈崎達夫²⁾(¹⁾ 千葉北総病院産婦人科，²⁾ 付属病院放射線科，ハイテクリサーチセンター)：腸骨静脈閉塞性病変に対して Wallstent 留置が奏功した深部静脈血栓症の1例．第18回日本 Metallic Stents and Grafts 研究会，2001．2．

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

- 1 皮膚の炎症反応におけるストレス関連ホルモン. 免疫担当細胞, マスト細胞, 自律神経, 微小循環系に対するCRHの作用メカニズム. CRHが及ぼす情動, 異常搔破行動への影響. アトピー性皮膚炎患者への精神医学的, 心理学的アプローチ.
- 2 自己免疫性水疱症の発症機序. 免疫担当細胞 (特にランゲルハンス細胞, マスト細胞) の動態について.
- 3 腫瘍免疫機構の解明. 皮膚腫瘍の免疫組織化学, 電顕解析, 特にマスト細胞の動態について. 悪性腫瘍におけるin vitro制癌剤感受性試験および温熱感受性試験法の開発.
- 4 蕁疹, 接触皮膚炎の原因抗原の解析. 他抗原物質との交叉反応, 抗原決定基の研究, 遅延型過敏反応のinvitro測定法の開発.
- 5 ヘリコバクタ. ピロリ感染症と難治性皮膚疾患との関係. 慢性蕁麻疹, 掌蹠膿疱症, 乾癬, アトピー性皮膚炎が対象.
- 6 紫外線照射による免疫抑制機構の解明, low zone toleranceについて. 皮膚ランゲルハンス細胞の動態を中心に研究.
- 7 真菌感染と生体防御機構.
- 8 レーザーによる非侵襲的invivoimagingの開発.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 金子勝美, 楠 俊雄¹⁾, 川名誠司⁽¹⁾ (清瀬市): Symmetrical lividities of the soles of the feet. 皮膚診療 2000; 22 (10): 939-940.
- 2) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 畑三恵子, 淺野伍朗, 山本一哉¹⁾ (愛育病院): レーザー脱毛における免疫病理組織学的観点から見た効果. Aesthetic Dermatology 2000; 10 (3): 7-11.
- 3) 佐々木りか子¹⁾ (国立小児皮膚科): 新生児の皮膚の特徴と出生後の変化. 周産期医 2000; 30 (5): 559-562.
- 4) 佐々木りか子¹⁾ (国立小児皮膚科): 長く続く病気と子どもの生活 アトピー性皮膚炎. チャルドヘルス 2000; 13 (6): 469-471.
- 5) 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司: Hallopeau 稽留性肢端皮膚炎. 臨皮 2000; 54 (8): 582-583.
- 6) 佐々木りか子¹⁾ (国立小児皮膚科): 皮膚科の医師から見た最近の子どもの気になる傾向. 健康教室 2000; 51 (12): 8-10.
- 7) 加藤陽子, 青木見佳子, 川名誠司: Nonepisodic angioedema associated with eosinophiliaの1例. 皮膚診療 2000; 22 (10): 951-954.
- 8) 濱崎せり¹⁾, 佐々木りか子¹⁾ (国立小児病院皮膚科): 当科における最近の小児の皮膚細菌感染症についての検討. 日小児皮会誌 2000; 19 (2): 189-194.
- 9) 佐々木りか子¹⁾ (国立小児皮膚科): 目で見える皮膚疾患第20回, 麻疹・風疹・伝染性紅斑・手足口病. 調剤と情報 2000; 6 (12): 12-15.
- 10) 佐々木りか子¹⁾ (国立小児皮膚科): 外用薬の副作用. 小児感染免疫 2000; 19 (2): 113-117.
- 11) 加藤陽子, 吉野 恵, 鈴木かやの, 青木見佳子, 川名誠司: 皮下型環状肉芽腫の1例. 小児皮膚科学会雑誌

2000 ; 19 (2) : 118-120 .

- 12) 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 青木見佳子 (¹⁾日本医科大学形成外科): 皮膚腫瘍のExcisional Biopsyにおける人口真皮の有用性 . 日形会誌 2000 ; 20 (11) : 665-670 .
- 13) 佐々木りか子¹⁾(¹⁾国立小児皮膚科): トリコフィトンおよびその他の皮膚感染症 . 小児感染免疫 2000 ; 12 (4) : 419-421 .
- 14) 川名誠司 : 皮膚症状からみた血管炎 . 日本醫事新報 2001 ; 4005 : 16-22 .
- 15) 佐々木りか子¹⁾(¹⁾国立小児皮膚科): 小児におけるアトピー性皮膚炎外用薬の副作用 . 小児科 2001 ; 20 (1) : 19-22 .
- 16) 岩切加奈, 青木見佳子, 川名誠司, 中村健一¹⁾, 田中道雄²⁾, 楠 俊雄³⁾(¹⁾千葉市, ²⁾江戸川区, ³⁾清瀬市): Superficial Granulomatous Pyodermaの2例 . 西日本皮膚科 2001 ; 63 (1) : 8-10 .
- 17) Aramaki J, Happle R¹⁾(¹⁾Hautklinik der Philipps-Universitat Mardurg): Prurigo Pigmentosa . Der Hautarzt 2001 ; 2 : 111-115 .

(2) 研究報告書 :

- 1) Wu K¹⁾, Higashi N²⁾, Hansen ER¹⁾, Lund M¹⁾, Bang K¹⁾, Thestrup-Pedersen K¹⁾(¹⁾Aarhus大学 Marselisborg 病院皮膚科, ²⁾日本医科大学皮膚科): Telomerase activity is increased and Telomere length shortened in T cells from blood of patients with atopic dermatitis and psoriasis . Journal of Immunology 2000 ; 165 (8) : pp4742-4747 .
- 2) Higashi N²⁾, Bang K¹⁾, Gesser B¹⁾, Lund M¹⁾, Thestrup-Pedersen K¹⁾(¹⁾Aarhus大学 Marselisborg 病院皮膚科, ²⁾日本医科大学皮膚科): Cytokine expression of skin T lymphocytes from patients with atopic dermatitis . Acta Derm. Venerol 2001 ; 81 : pp3-7 .
- 3) 畑三恵子, 沼野香世子, 立原利江子, 川名誠司 : ヒョウヒダニ抗原の混入によるネコ抗原特異的IgE抗体測定結果の偽陽性 . 日本アレルギー学会 2000 ; 49 (4) : pp365-368 .
- 4) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 畑三恵子, 山本一哉¹⁾(¹⁾愛育病院): ウルトラパルス炭酸ガスレーザーを用いた陥入爪の手術療法 . 日小児皮会誌 2000 ; 19 (2) : pp121-124 .

(3) 症例報告 :

- 1) Aoki M, Kawana S : Birt-Hogg-Dube syndrome . European journal of dermatology 2000 ; 10 : 407-409 .
- 2) Niimi Y, Kawana S, Kusunoki T¹⁾(¹⁾kusunoki Dermatology Clinic): IgA pemphigus : A case report and its characteristic clinical features compared with subcorneal pustular dermatosis . J Am Acad Dermatol 2000 ; 43 (3) : 546-549 .
- 3) 青木見佳子, 新見やよい, 竹崎伸一郎, 川名誠司 : 急性進行性に発症し lymphomatoid papulosis として慢性に経過する皮膚原発CD30陽性anaplastic large cell lymphoma . 皮膚のリンフォーマ 2000 ; 21 : 107-110 .
- 4) 野尻陽子, 岩切加奈, 堺 則康, 三浦祐理子, 伊東文行, 川名誠司 : 脛骨前粘液水腫の1例 . 皮膚科の臨床 2000 ; 42 (6) : 958-959 .
- 5) 竹内淳子, 新見やよい, 齋藤 裕¹⁾, 川名誠司 (¹⁾文京区): 薬剤誘発性天疱瘡の1例 . 皮臨 2000 ; 42 (6) : 893-895 .
- 6) 野尻陽子, 山西貴仁, 立原利江子, 川名誠司 : Rheumatoid Papulesの1例 . 皮臨 2000 ; 42 (8) : 1244-1245 .
- 7) 新見やよい, 川名誠司, 早田考敬¹⁾, 宮田 新²⁾(¹⁾早田医院, ²⁾吾妻橋クリニック): Folliculosebaceous cystic hamartoma : まれな前腕発生例を含む2例の報告 . 臨皮 2000 ; 54 (6) : 443-445 .
- 8) 竹山玲子, 青木恵理, 立原利江子, 新見やよい, 川名誠司, 齋藤 裕¹⁾(¹⁾齋藤皮膚科): 深在性エリテマトーデスの2例 . 皮臨 2001 ; 43 : 307-310 .

(4) 症例報告・ミニレポート :

- 1) 高田香織, 荒牧 純, 新見やよい, 川名誠司, 国松志保¹⁾(¹⁾東京大学皮膚科): 緑内障を伴った太田母斑の1

例．皮臨 2000；42(9):1414-1415．

(5) 総説：

- 1) 川名誠司：老人性紫斑から Churg-Strauss 症候群まで．メディチーナ 2000；37(4)：518-521．
- 2) 川名誠司：梅毒．JOHNS 2000；16(9)：1493-1494．
- 3) 川名誠司：クリオグロブリン血症．皮膚科の臨床 2000；42(10)：1546-1547．
- 4) 東 直行¹²⁾，Vestergaard C³⁾，松島綱治¹⁾(¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科分子予防医学，²⁾ 日本医科大学皮膚科，³⁾ Aarhus 大学 Marselisborg 病院皮膚科)：アトピー性皮膚炎モデルマウス (NC/Nga マウス) における ケモカイン・ケモカインレセプターの発現 (特に皮膚病変部)．アレルギー科 2000；10(3)：239-246．
- 5) 尾見徳彌，本田光芳，川名誠司，竹崎伸一郎，山本一哉¹⁾(¹⁾ 愛育病院)：レーザー装置における基本的な安全管理．日小児皮会誌 2000；19(2)：5-118．
- 6) 川名誠司：血管炎，血管炎の分類，腎炎との関連性．日皮会誌 2000；110(12)：1928-1931．

著 書

- 1) 川名誠司：〔自著〕特発性色素性紫斑：色が消えない．皮膚科診療プラクティス (橋本公二 宮地良樹 瀧川雅浩)，2000；pp78-81，文光堂．
- 2) 川名誠司：〔自著〕内科疾患とじんましん．じんましん Q & A (宮地良樹)，2000；pp62-63，医薬ジャーナル社．
- 3) 尾見徳彌，漆畑 修¹⁾(¹⁾ 東邦大皮膚科)：〔自著〕医療脱毛のこつ：レーザー脱毛・電気脱毛．メディカル・コア，2000；pp35-76，メデカイル・コア社．
- 4) 川名誠司：〔自著〕皮膚疾患・紫斑．今日の治療指針，2001；pp3-4，医学書院．
- 5) 岩切加奈：〔自著〕泌尿器科外来処方マニュアル．11 感染症 9 梅毒 (秋元成太，堀内和孝)，2001；pp27-29，医学書院．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 竹崎伸一郎：ホメオスターシス：からだと地球の恒常性の維持．第 16 回医学生物学電子顕微鏡技術学会学術講演会，2000．4．

(2) 教育講演：

- 1) 荒牧 純¹⁾(¹⁾ MARBURG 大学皮膚科)：日本人女性とドイツ人女性の皮膚刺激反応による違い；日本人女性は本当に刺激に敏感なのか？．独日協会 (Frankfurt)，2001．3．

(3) シンポジウム：

- 1) 青木 律¹⁾，百束比古¹⁾，青木見佳子，秋元正宇²⁾，岩切 致³⁾(¹⁾ 日本医科大学形成美容外科，²⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院形成外科，³⁾ 総合会津中央病院形成外科)：当科における皮膚悪性腫瘍の治療戦略 Strategy P (P 戦略) について．第 43 回日本形成外科学会・学術集会，2000．5．

(4) セミナー：

- 1) 楠 俊雄：ステロイド全盛時代の皮膚真菌症の現状．第 44 回日本真菌学会総会，2000．11．
- 2) 尾見徳彌：美容皮膚科の最先端：Laser による皮膚の再構築．第 1091 回最新医療セミナー，2001．1．

(5) ワークショップ：

- 1) Kimura Y，Pawankar R¹⁾，Aoki M，Niimi Y，Kawana S (¹⁾ Department of Otolaryngology, Nippon Medical School)：Mast cells in Kimera's disease express increased levels of IL-4 and IL-5．XVIII International Congress of Allergology and Clinical Immunology (ICACI)，2000．10．
- 2) 鈴木かやの，川名誠司，池谷精司¹⁾(¹⁾ 富士宮市)：抗生剤長期投与中の尋常性座瘡患者にする低濃度グリコー

ル酸を用いたChemical Peelingの有効性について．第64回東京支部学術大会，2001．2．

(6) 海外留学者講演：

- 1) 東 直行：アトピー性皮膚炎におけるTリンパ球の機能解析：サイトカイン誘導T cell Lineの解析とNotch Jaggedの発現解析．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

(7) 一般講演：

- 1) Nakajima E¹⁾, Noriyasu S, Yamamoto M¹⁾, Tanabe H¹⁾, Miyake K¹⁾, Shimada T¹⁾(¹⁾生化学第2): Mutation Rete and Spectrum of HIV and MLV vectors．The 3rd Annual Meeting (Colorado USA), 2000．6．
- 2) 新見やよい, 青木見佳子, 川名誠司, 斉藤 裕¹⁾(¹⁾文京区): Desmoplastic trichoepithelioma: 組織学的に母斑細胞母斑と骨形成を伴っていた2例．第99回日本皮膚科学会総会, 2000．5．
- 3) 河野美乃里, 川名誠司, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): Coexpression of corticotropin-releasing hormone (CRH), CRH-Receptor and Proopiomelanocortin (POMC)-derived peptide in human skin．I CHC, 2000．9．
- 4) 青木見佳子, 木村陽一, 新見やよい, 川名誠司, 田原重志¹⁾, 楠 俊雄²⁾(¹⁾付属病院脳神経外科, ²⁾清瀬市): 後頭動脈の病的拡張を伴ったangiolympoid hyperplasia with eosinophilia．第52回日本皮膚科学会西部支部総会学術大会, 2000．10．
- 5) 青木見佳子, Ruby P¹⁾, 木村陽一, 新見やよい, 川名誠司(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 皮膚基底細胞癌におけるマスト細胞の動態．第50回日本アレルギー学会総会, 2000．12．
- 6) 鈴木かやの, 金森幸男, 高田香織, 川名誠司(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 紫外線照射により接触過敏反応にトランスが誘導されるか．第50回日本アレルギー学会総会, 2000．12．
- 7) 東 直行, 川名誠司, 山本一哉¹⁾, Thestrup PK²⁾(¹⁾愛育病院, ²⁾Aarhus大学 Marselisbovg 病院): アトピー性皮膚炎病巣部由来T Cell lineにおけるサイトカイン発現パターンの解析．第762回日本皮膚科学会東京地方会, 2001．3．
- 8) 加藤篤衛, 尾見徳彌, 川名誠司, 平井 隆¹⁾, 内藤喜哉²⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾第二病院形成外科, ²⁾病理学第2): レーザー脱毛の機種間における相違点の組織学的検討．第762回日本皮膚科学会東京地方会, 2001．3．
- 9) 河野美乃里, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): CRH ACTH研究．第762回日本皮膚科学会東京地方会, 2001．3．
- 10) 河野美乃里, 川名誠司, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): Corticotropin Releasing Hormone (CRH) と Proopiomelanocortin (POMC) の皮膚での発現．第762回日本皮膚科学会東京支部研究会, 2001．3．
- 11) 後藤宙人¹⁾, 村上正洋¹⁾, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木見佳子, 服部怜美²⁾, 黒田周一³⁾(¹⁾日本医科大学形成美容外科, ²⁾日本医科大学付属千葉北総病院皮膚科, ³⁾北村山公立病院形成外科): アポクリン腺癌の2例．第22回日本形成外科学会東京地方会, 2000．2．
- 12) 榎原貴子, 菊地伊豆実, 畑三恵子, 川名誠司: アプレースRによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例．第755回日本皮膚科学会東京地方会, 2000．4．
- 13) 中川絵里, 金子勝美, 中村健一, 楠 俊雄, 川名誠司, 佐藤元泰¹⁾(¹⁾足立区): ステロイド外用がなされていたM. gypseumによる顔面の白癬．第755回日本皮膚科学会東京地方会, 2000．4．
- 14) 小坂祥子¹⁾, 川原田晴通¹⁾, 安原尚昭¹⁾, 藤本和久¹⁾, 川名誠司(¹⁾多摩永山病院皮膚科): Creeping diseaseの治療に用いたサイアベンダゾールによる薬疹と肝機能障害の1例．第755回日本皮膚科学会東京地方会, 2000．4．
- 15) 片山美玲, 新見やよい, 楠 俊雄, 川名誠司: Liner IgA Bullous Dermatitisの1例．第755回日本皮膚科学会東京地方会, 2000．4．
- 16) 三浦祐理子, 竹崎伸一郎, 川名誠司: 当科における糖尿病性壊疽38例の検討．第99回日本皮膚科学会総会, 2000．5．

- 17) 鈴木かやの, 青木見佳子, 竹崎伸一郎, 川名誠司, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科): 皮膚筋炎様, 顔面播種状粟粒性狼瘡(LMDF)様の皮膚症状を呈したヒトアジュバント病. 第99回日本皮膚科学会総会, 2000. 5.
- 18) 堺 則康, 弓削真由美, 青木見佳子, 川名誠司: 高齢者に発症したアナフィラクトイド紫斑の統計. 第99回日本皮膚科学会総会, 2000. 5.
- 19) 岩切 致¹⁾, 百束比古¹⁾, 三橋 清¹⁾, 糸井由里恵¹⁾, 岩切加奈(¹⁾形成外科): TFL穿通枝皮弁による大転子部褥瘡の再建. 日本褥瘡学会, 2000. 5.
- 20) 吉野 恵, 鈴木かやの, 弓削 真由美, 青木見佳子, 川名誠司: 糖尿病患者に合併したガス壊疽の2例. 第756回日本皮膚科学会東京地方会, 2000. 6.
- 21) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 畑三恵子, 山本一哉¹⁾(¹⁾愛育病院): ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる小児の陥入爪の治療効果. 第24回日本小児皮膚科学会, 2000. 6.
- 22) 金子勝美, 吉野公二, 秋田政彦, 川名誠司: HHV-6, マイコプラズマ抗体価の上昇を認めたHypersensitivity syndromeの1例. 第756回日本皮膚科学会東京地方会, 2000. 6.
- 23) 片山美玲, 木村陽一, 菊地伊豆実, 川名誠司: 明らかな水痘の既往のない小児汎発性帯状疱疹の1例. 第24回日本小児皮膚科学会, 2000. 6.
- 24) 濱崎せり¹⁾, 佐々木りか子¹⁾(¹⁾国立小児病院皮膚科): 当科における最近の小児の皮膚細菌感染症についての検討. 第24回日本小児皮膚科学会, 2000. 6.
- 25) 佐々木りか子¹⁾(¹⁾国立小児病院皮膚科): 外用薬の副作用. 第24回日本小児皮膚科学会, 2000. 6.
- 26) 濱崎せり¹⁾, 佐々木りか子¹⁾(¹⁾国立小児病院皮膚科): 当科における最近の小児の皮膚細菌感染症についての検討. 第24回日本小児皮膚科学会, 2000. 6.
- 27) 高田香織, 木村陽一, 久保田智樹, 川名誠司: Inflammatory liner verrucous epidermal nevusの1例. 第756回日本皮膚科学会東京地方会, 2000. 6.
- 28) 高田香織, 木村陽一, 久保田智樹, 川名誠司: livedoid vasculitisの1例. 第64回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2000. 6.
- 29) 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾, 岩切 致²⁾, 青木見佳子, 五十嵐司, 川名誠司, 青木恵理, 岩切加奈³⁾(¹⁾日本医科大学形成美容外科, ²⁾総合会津中央病院形成外科, ³⁾総合会津中央病院皮膚科): 皮膚悪性腫瘍のexcisional biopsy後皮膚欠損創に対する人口真皮の有用性. 第16回日本皮膚悪性腫瘍学会・学術大会, 2000. 6.
- 30) 岩切加奈, 五十嵐司, 青木見佳子, 竹崎伸一郎, 川名誠司, 仲田幸世¹⁾, 糸井里恵¹⁾, 岩切 致¹⁾(¹⁾付属病院形成外科): 多発する皮膚悪性腫瘍から砒素中毒を疑った2例. 第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会, 2000. 7.
- 31) 秋田政彦, 竹崎伸一郎, 青木見佳子, 川名誠司: 銀皮症の1例. 第757回日本皮膚科学会東京地方会, 2000. 7.
- 32) 木村陽一, 青木見佳子, 川名誠司: セファクロル(ケフラルR)と塩化リゾチーム(ノイチームR)のDrug combinationによるアナフィラキシー型薬疹の1例. 第30回日本皮膚アレルギー学会, 2000. 7.
- 33) 二神綾子, 青木見佳子, 石丸さやか¹⁾, 山本 達¹⁾, 百束比古¹⁾, 川名誠司(¹⁾形成外科): 皮膚腫瘍の2例: 類血管線維性組織球腫か?. 日本皮膚病理組織学会, 2000. 7.
- 34) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 加藤篤衛, 平井 隆¹⁾(¹⁾第二病院形成外科): レーザー脱毛におけるルビーレーザーとアレキサンドライトレーザーの組織学的効果の相違. 第18回日本美容皮膚科学会・学術大会, 2000. 8.
- 35) 尾見徳彌, 本田光芳, 川名誠司, 畑三恵子: Long pulsed dye laser (N-liteR)による非侵襲的な皮膚の再構築. 第18回日本美容皮膚科学会・学術大会, 2000. 8.
- 36) 畑三恵子, 榊原貴子, 菊地伊豆実, 川瀬容子, 沼野香世子, 秋本真喜雄, 川名誠司, 尾見徳彌: イオントフォーシスの皮膚に対する効果. 第18回日本美容皮膚科学会学術大会, 2000. 8.
- 37) 尾見徳彌, 川名誠司, 加藤篤衛, 浅野伍朗¹⁾, 平井 隆²⁾(¹⁾病理学第2, ²⁾第二病院形成外科): レーザー脱

- 毛における病理組織学的観点から見た機種間の効果の相違点．第23回日本美容外科学会総会，2000．9．
- 38) 尾見徳彌，本田光芳，川名誠司：Long pulsed dye laser (N-Lite) による非侵襲的なシワ，癍痕の除去．第23回日本美容外科学会総会，2000．9．
- 39) 新見やよい：皮膚腺病の1例．第52回日本皮膚科学会西部支部学術大会，2000．10．
- 40) 木下順平，森本健介，青木恵理，中村健一¹⁾，楠 俊雄²⁾，川名誠司⁽¹⁾千葉市，²⁾清瀬市)：顔面に生じたスボトリコーシスの1例．第758回日本皮膚科学会東京地方会，2000．10．
- 41) 矢部朋子，新見やよい，川名誠司：Bullous Lichen planusの2例．第758回日本皮膚科学会東京地方会，2000．10．
- 42) 吉野公二，青木見佳子，川名誠司：腱巨細胞腫の2例．第758回日本皮膚科学会東京地方会，2000．10．
- 43) 久保田智樹，青木恵理，五十嵐司，川名誠司：Solid-cystic hidradenomaの1例．第758回日本皮膚科学会東京地方会，2000．10．
- 44) 安本美奈子，三浦祐理子，川名誠司：Lichen Planus-like Keratosisの3例．第758回日本皮膚科学会東京地方会，2000．10．
- 45) 中島英逸¹⁾，堺 則康，田辺浩子¹⁾，三宅弘一¹⁾，島田 隆¹⁾(¹⁾生化学第2)：ウイルスベクターの不安定性の検討．第59回日本癌学会総会，2000．10．
- 46) 中川絵里，金子勝美，中村健一¹⁾，楠 俊雄²⁾，川名誠司，佐藤元泰：ステロイド外用がなされていたM. gypeumによる顔面の白癬．第?回日本真菌学会総会，2000．11．
- 47) 菊地伊豆実，高田香織，片山美玲，川名誠司：抗けいれん剤ゾニサミドによるとと思われるSteavens-Johnson症候群の1例．第759回日本皮膚科学会東京地方会，2000．11．
- 48) 山西貴仁，青木恵理，五十嵐司，川名誠司：Drug combinationによる固定薬疹．第759回日本皮膚科学会東京地方会，2000．11．
- 49) 加藤陽子，吉野 恵，鈴木かやの，青木見佳子，川名誠司：皮下型環状肉芽腫の1例．第24回小児皮膚科学会，2000．11．
- 50) 尾見徳彌，川名誠司，本田光芳，山本一哉¹⁾，KThestrup P²⁾，RW H³⁾(¹⁾愛育病院，²⁾Aarhns大学，³⁾保健科学研究所)：皮膚固有培養Tリンパ球のアトピー性皮膚炎におけるIL-2, IL-4のmRNAレベルでの解析．第50回日本アレルギー学会総会，2000．12．
- 51) 加藤篤衛，尾見徳彌，川名誠司，平井 隆¹⁾，内藤喜哉²⁾，浅野伍朗²⁾(¹⁾第二病院形成外科，²⁾病理学第2)：レーザー脱毛における組織学的変化の検討．第23回日本美容学会総会，2000．12．
- 52) 加藤篤衛，尾見徳彌，川名誠司，平井 隆¹⁾，浅野伍朗²⁾(¹⁾第二病院形成外科，²⁾病理学第2)：アレキサンドライトレーザーを用いたレーザー脱毛における組織学的変化．第64回日本皮膚科学会東部支部総会学術大会，2000．12．
- 53) 池村暁子，新見やよい，青木見佳子，川名誠司，本田 昇¹⁾(¹⁾足立区)：シクロスポリンが奏効した再発性環状紅斑様乾癬の1例．第756回日本皮膚科学会東京地方会，2000．12．
- 54) 池村暁子，鈴木かやの，弓削真由美，川名誠司：アンピロキシカムによる光線過敏型薬疹の1例．第25回日本接触皮膚学会総会学術大会，2000．12．
- 55) 河野美乃里，永田英孝¹⁾，長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学)：Expression of corticotropin Releasing Hormone (CRH)，CRH receptor, proopiomelanocortin (POMC) in human skin．日本組織細胞医学会，2000．12．
- 56) 吉野 恵，山西貴仁，藤本和久¹⁾，川名誠司⁽¹⁾多摩永山病院皮膚科)：ムコダインRによる固定薬疹の1例．第761回日本皮膚科学会東京地方会，2001．1．
- 57) 矢部朋子，青木見佳子，川名誠司：爪に限局する扁平苔癬の2例．日本皮膚科学会第761回東京地方会，2001．1．

- 58) 佐々木りか子¹⁾(¹国立小児病院皮膚科): こどものアトピー性皮膚炎の外用療法とスキンケアの実際. 第53回小児アレルギー同好会, 2001. 1.
- 59) 安本美奈子, 新見やよい, 川名誠司: バザン硬結性紅斑の2例. 第761回日本皮膚科学会東京地方会, 2001. 1.
- 60) 加藤陽子, 青木見佳子: 全身性強皮症の経過中に出現した蕁麻疹様血管炎の1例. 第24回皮膚脈管・膠原病研究会, 2001. 1.
- 61) 小坂祥子¹⁾, 川原田晴通¹⁾, 安原尚昭¹⁾, 藤本和久¹⁾, 川名誠司, 雪吹周生²⁾, 飯田信也³⁾(¹多摩永山病院皮膚科, ²⁾同内科, ³⁾同外科): 多発性筋炎に合併した男性乳癌の1例. 第64回日本皮膚科学会東京支部, 2001. 2.
- 62) 濱崎せり¹⁾, 佐々木りか子¹⁾(¹国立小児病院皮膚科): 低亜鉛母乳による亜鉛欠乏症の1例. 第64回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2001. 2.
- 63) 佐々木りか子¹⁾(¹国立小児病院皮膚科): 家庭でのぬり薬の使い方. 第24回小児皮膚科学セミナー, 2001. 3.
- (8) ポスター:
- 1) Loffler H¹⁾, Aramaki J, Effendy I¹⁾, Happle R¹⁾(¹Hautklinik der Philipps-Universität Marburg): Epokutane Testung mit naturiumlaurylsulfat 1: Kinetik irritativer Hautreaktionen. 130 TAGUNG DFR VEREINIGUNG SUDWEST DEUTSCHER DERMATOLOGY (MARBURG), 2001. 3.
 - 2) Aramaki J, Loffler H¹⁾, Effendy I¹⁾, Happle R¹⁾(¹Hautklinik der Philipps - Universität Marburg): Epikutane Testung mit Natriumlaurylsulfat II: Die Wahl der Evaluationsmethode hängt vom Studoendesign ab. 130 TAGUNG DER VEREINIGUNG SUDWESTDEUTSCHER DERMAOLOGYEN (MARBURG), 2001. 3.
 - 3) Aramaki J, Loffler H¹⁾, ¹⁾, Effendy I¹⁾, Happle R¹⁾(¹Hautklinik der Philipps - Universität Marburg): Subjektive und Objektive Hautempfindlichkeit bei japanischen und deutscher Frauen. 130 TAGUNG DER VEREINIGUNG SUDWESTDEU TSCHER DERMATOLOGEN (MARBURG), 2001. 3.
 - 4) Aramaki J, Loffler H¹⁾, Effendy I¹⁾, Happle R¹⁾(¹Hautklinik der Philipps - Universität marburg): Prurigo Pigmentosa. 130 TAGUNG DER VEREINIGUNG SUDWESTDEUTSCHER DERMATOLOGEN (MARBURG), 2001. 3.
- (9) 展示:
- 1) Omi T, Honda M, Kawana S, Hata M: Immunohistological Study of Long-pulsed Ruby Laser Hair Removal. 20th American Society for Laser Medicine and Surgery (Reno, Nevada), 2000. 4.
 - 2) Kimura Y, Pawankar R¹⁾, Aoki M, Niimi Y, Kawana S (¹Department of Otolaryngology, Nippon Medical School): #934 Mast Cells in Lesions of Kimura's Disease Express Eotaxin, RANTES and IL-5. 57th Annual Meeting of American Academy of Allergy, Asthma & Immunology (American), 2001. 3.
 - 3) 橋本網子, 福田 悠, 青木見佳子, 川名誠司: ケラトアカントーマにおける弾性線維の経表皮の排泄とMMP-1の関与について. 第25回日本研究皮膚科学会年次学術大会総会, 2000. 9.
 - 4) 青木見佳子, 川名誠司: Birt-Hogg-Dube 症候群. 第16回日本臨床皮膚科医学会総会臨床学術大会, 2000. 10.
 - 5) 菊地伊豆実, 畑三恵子, 川名誠司: Bloch-Sulzberger 症候群. 第16回日本臨床皮膚科医学会総会・臨床学術大会, 2000. 4.
 - 6) 濱崎せり¹⁾, 佐々木りか子¹⁾, 立澤 宰²⁾, 坂巻豊教³⁾, 金田一純子⁴⁾(¹国立小児病院皮膚科, ²⁾同感染リウマチ科, ³⁾同整形外科, ⁴⁾同歯科): 2歳男児に生じた壊疽性膿皮症の1例. 第99回日本皮膚科学会総会, 2000. 5.
 - 7) 五十嵐司, 川名誠司, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾(¹付属病院形成外科): 鼻翼の基底細胞癌の1手術例. 第16回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2000. 6.

[第二病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚腫瘍の臨床診断，病理組織的検索，電顕，酵素抗体法，形成外科的治療
2. ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断．HIV感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索．T．Pallidumのcrossreactivityの検討
3. GUPのPCRを用いた早期診断
4. 接触皮膚炎，薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする．
5. アトピー性皮膚炎の増悪因子としてのブドウ球菌やM．furfurの果たす役割を特に成人型について検討する．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sakakibara T, Hata M, Kawase Y, Kikuchi I, Kawana S¹⁾(¹⁾Nippon Medical School hospital): Disseminated orythematos papular drug exanthema by troxipide (Aplace[®]). The Japanese Journal of Dermatol-
lergology 2000 ; 8 : 116-119 .

(2) Short Communication：

- 1) Sakakibara T, Hata M, Numano K, Kawase Y, Yamanisi T, Kawana S¹⁾, Tsuboi N¹⁾(¹⁾Department of
Urology, Nippon Medical School): Fixed-drug eruption caused by allylisopropylacetylurea . Contact der-
matitis 2001 ; 44 (3): 189-190 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 宜保陽介¹⁾，寺田秀人¹⁾，伊佐治剛¹⁾，保倉利江¹⁾，網谷賢一¹⁾，山口友禎¹⁾，高橋直人¹⁾，酒井行直¹⁾，西垣朝
裕¹⁾，鮎澤理人¹⁾，内田高浩¹⁾，山室 学¹⁾，櫛方美文¹⁾，齋藤寛和¹⁾，北澤恒男¹⁾，北村 伸¹⁾，宗像一雄¹⁾，
畑三恵子，沼野香世子 (¹⁾第二病院内科): 成人型Still病の1例．日本医科大学医学会第101回例会，2000．4．
- 2) 川瀬容子，畑三恵子，川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院): シプロフロキサシンによる播種状紅斑丘疹型薬疹の1例．日
本皮膚科学会第755回東京地方会神奈川地区分会，2000．4．
- 3) 榊原貴子，菊地伊豆見，畑三恵子，川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): アブレースによる播種状紅斑丘疹型薬疹
の1例．日本皮膚科学会第755回東京地方会，2000．4．
- 4) 榊原 貴子，沼野香世子，畑三恵子，川名誠司¹⁾，詫間由一²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科，²⁾都立清瀬
小児病院神経科): 基底細胞母斑症候群の1例．第24回日本小児皮膚科学会，2000．6．

(2) 展示：

- 1) 菊地伊豆実，畑三恵子，平井 隆¹⁾，川名誠司²⁾，内藤善哉³⁾，浅野伍朗⁴⁾(¹⁾第二病院形成外科，²⁾付属病院
皮膚科，³⁾第二病院病理部): 皮下に発生した高分化型脂肪肉腫の1例．第99回日本皮膚科学会総会，2000．5．
- 2) 沼野香世子，畑三恵子，北村 伸¹⁾，川名誠司²⁾，松本光司³⁾，内藤善哉³⁾，浅野伍朗³⁾(¹⁾第二病院内科，
²⁾付属病院皮膚科，³⁾第二病院病理部): Ross syndromeの1例．第99回日本皮膚科学会総会，2000．5．

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. 薬疹，接触皮膚炎：パッチテスト，プリックテスト，チャレンジテスト，光パッチテストによる原因物質の確認と

交叉感作，抗原決定基の検索，アレルギーカードの発行．

2. 動物性皮膚疾患：疥癬，Creeping disease等に対する新しい内服療法の研究

3. 褥創，難治性潰瘍：新しい素材，薬剤を用いた保存的，外科的治療法の研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 菊地伊豆実¹⁾，山西貴仁¹⁾，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：ジアゼパム（ダイアップ坐剤）による固定薬疹．皮膚病診療 2000；22(2)：137-140．
- 2) 藤本和久：ムカデ咬傷の治療．日本医事新報 2000；3990：110-111．
- 3) 山本一哉¹⁾，中原優子¹⁾，内田美香⁽¹⁾ 愛育病院皮膚科)：アトピー性皮膚炎の新しいスキンケア法．日小皮会誌 2000；19(3)：203-209．
- 4) 沼野香世子，畑三恵子，藤本和久，川名誠司：固定薬疹の最近の傾向と皮膚検査法の有用性．日皮アレルギー 2001；9：33-36．
- 5) 沼野香世子¹⁾，畑三恵子¹⁾，藤本和久，川名誠司²⁾(¹⁾ 第二病院皮膚科，²⁾ 付属病院皮膚科)：固定薬疹の最近の傾向と皮膚検査法の有用性．日皮アレルギー 2001；9(1)：33-36．

学会発表

[1999 年度追加分]

一般講演：

- 1) 川原田晴通，藤本和久，安原尚昭，山西貴仁¹⁾，川名誠司¹⁾，菅野徹夫²⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 八王子市)：仙骨部に発生した有棘細胞癌の1例．日本皮膚科学会第749回東京地方会，1999．9．

(1) 一般講演：

- 1) 安原尚昭，小坂祥子，川原田晴通，藤本和久，細根 勝¹⁾，川名誠司²⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部，²⁾ 付属病院皮膚科)：Trichoblastomaの1例．日本皮膚科学会第755回東京地方会，2000．4．
- 2) 小坂祥子，川原田晴通，安原尚昭，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：Creeping diseaseの治療に用いたサイアベンダゾールによる薬疹と肝機能障害の1例．日本皮膚科学会第755回東京地方会，2000．4．
- 3) 川原田晴通，小坂祥子，安原尚昭，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：エトドラク（ハイペン[®]）による薬疹の1例．日本皮膚科学会第756回東京地方会，2000．6．
- 4) 藤本和久，小坂祥子，川原田晴通，安原尚昭，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：抗酒癬剤ジスルフィラム（ノックピン[®]）による接触皮膚炎の1例．第30回日本皮膚アレルギー学会，2000．7．
- 5) 安原尚昭，川原田晴通，小坂祥子，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：フッ化水素含有シミ抜き剤（レブライト[®]）による化学熱傷の2例．日本皮膚科学会第757回東京地方会，2000．7．
- 6) 安原尚昭，川原田晴通，小坂祥子，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：フッ化水素含有シミ抜き剤（レブライト[®]）による化学熱傷の2例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 7) 吉野 恵¹⁾，山西貴仁¹⁾，藤本和久，川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科)：ムコダイン[®]による固定薬疹の1例．日本皮膚科学会第761回東京地方会，2001．1．
- 8) 小坂祥子，川原田晴通，安原尚昭，藤本和久，川名誠司¹⁾，雪吹周生²⁾，飯田信也³⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 同内科，³⁾ 同外科)：多発性筋炎に合併した男性乳癌の1例．第64回日本皮膚科学会東京支部学術大会，2001．2．

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: patch scratch test, challenge testによる原因物質の確認と, アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究: とくに電顕, 酵素抗体法を用いた研究
- 3) 肉芽腫形成に関する病理学的研究

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 落合廣武: ソフラチュールによる接触皮膚炎. 皮膚病診療 2001; 23(1): 29-32.

著書

- 1) 服部怜美: [分担] 異汗性湿疹. 皮膚疾患最新の治療(新村真人, 龍川雅浩), 2001; pp15-15, 南光堂.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 栗原和久, 池村暁子, 落合廣武, 森本健介, 服部怜美, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): Yellow Nail Syndromeの1例. 第16回 日本臨床皮膚科医学会総会臨床学術大会, 2000. 4.
- 2) 服部怜美, 落合廣武, 栗原和久, 森本健介, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): aspirin alminumによる蕁麻疹, 血管浮腫の1例. 第30回日本皮膚アレルギー学会, 2000. 7.
- 3) 森本健介, 落合廣武, 栗原和久, 服部怜美, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): セファクロルによるアナフィラキシーショックの1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 4) 木下順平¹⁾, 青木恵理¹⁾, 中村健一¹⁾, 楠 俊雄¹⁾, 川名誠司¹⁾, 森本健介, 服部怜美, 田中道雄²⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科, ²⁾ 流山市): 顔面に生じたスポロトリコーシスの1例. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000. 12.
- 5) 落合廣武, 服部怜美, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): ムコソルバンによる薬疹の1例. 日本皮膚科学会第762回東京地方会, 2001. 1.

9. 外科学第一講座

[付属病院第 1外科]

研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている．

1. 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている．
2. 急性腹症の病態の解析，イレウスの新しい診断と治療の開発は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている．
3. 腹腔鏡下手術は，その適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎，早期胃癌，早期大腸癌，癒着性イレウス，門脈圧亢進症にも応用され，良好な成績を得ている．患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている．
4. 進行食道癌，胃癌，大腸癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，患者の延命とQOLの向上を図っている．
5. 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績をあげている．
6. 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌，早期大腸癌に対するEMR，また，総胆管結石，臍石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる．
7. ヘリコバクター・ピロリの胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係の臨床的および基礎的な研究が進められている．
8. 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している．
9. 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的，臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある．
10. 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績をあげており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている．教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記のごとく内外の学会誌，専門誌に発表された．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Bando K, Nagai H¹⁾, Matsumoto S, Koyama M¹⁾, Kawamura N¹⁾, Tajiri T, Onda M, Emi M¹⁾(¹⁾老研・分子生物): Identification of a 1-Mb Common Region at 16q24. 1-24. 2 Deleted in Hepatocellular Carcinoma. Genes Chromosomes Cancer 2000 ; 28 : 38-44 .
- 2) Harihara Y¹⁾, Makuuchi M¹⁾, Kawarasaki H¹⁾, Takayama T¹⁾, Kubota K¹⁾, Ito M¹⁾, Mizuta K¹⁾, Yoshino H¹⁾, Hirata M¹⁾, Kita Y¹⁾, Sano K¹⁾, Hisatomi K¹⁾, Kusaka K¹⁾, Miura Y¹⁾, Taniiai N, Asato H¹⁾, Nakatsuka T¹⁾, Hashizume K¹⁾(¹⁾東京大学・移植グループ): Living-related liver transplantation in adult compared with children . Transplant Proc 2000 ; 32 : 2160-2161 .
- 3) Hirata M¹⁾, Harihara Y¹⁾, Hisatomi S¹⁾, Miura Y¹⁾, Yoshino H¹⁾, Miura Y¹⁾, Mizuta K¹⁾, Ito M¹⁾, Sano K¹⁾, Taniiai N, Kusaka K¹⁾, Kita Y¹⁾, Kawarasaki H¹⁾, Kubota K¹⁾, Takayama T¹⁾, Hashizume K, Makuuchi M¹⁾(¹⁾東京大学・移植グループ): Living-related liver transplantation for patients with primary biliary cirrhosis . Transplant Proc 2000 ; 32 : 2208-2209 .

- 4) Hirata M¹⁾, Harihara Y¹⁾, Hisatomi S¹⁾, Miura Y¹⁾, Yoshino H¹⁾, Mizuta K¹⁾, Ito M¹⁾, Sano K¹⁾, Taniai N, Kusaka K¹⁾, Kita Y¹⁾, Kawarasaki H¹⁾, Kubota K¹⁾, Takayama T¹⁾, Makuuchi M¹⁾ (¹⁾ 東京大学・移植グループ): A cases of esophageal variceal rupture following acute portal vein thrombosis three days living-related liver transplantation . *Transplant Proc* 2000 ; 32 : 2266-2268 .
- 5) Ikezaki H, Akhter SR, Hong D, Suzuki H, Gao X-p, Rubinstein I : Tyrosine kinase inhibitors modulate agonist-induced vasodilation in the hamster cheek pouch . *J. Appl. Physiol* 2000 ; 88 : 857-862 .
- 6) Iwama H, Kato M, Ohmori S, Akimaru K, Tsutsumi K, Tohma J, Nakamura N : Measurement of soluble Fas antigen and ligand in circulating serum and intra-abdominal or cerebrospinal fluid during gastrointestinal or cerebrovascular surgery . *J Crit Care* 2000 ; 15 : 119-125 .
- 7) Koyama M²⁾, Nagai H¹⁾, Bando K, Matsumoto S, Tajiri T, Onda M, Ito M²⁾, Moriyama Y²⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ 東京都老人病研究所・臨床病理部門, ²⁾ 消化器センター): New target of allelic loss in hepatocellular carcinomas within a 1-cM interval on chromosome 6q23 . *Journal of Hepatology* 2000 ; 32 .
- 8) Lu Y, Onda M, Uchida E, Yamamura S, Yanagi K, Matsushita A, Kobayashi T, Fukuhara M, Aida K, Tajiri T : The Cytotoxic Effects of Bile Acids in Crude Bile on Human Pancreatic Cancer Cell Lines . *Surg. Today* 2000 ; 30 : 903-909 .
- 9) Maruyama H, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Matsutani T : Role of tumor necrosis factor-alpha in the increase of nitric oxide in surgical stress and sepsis . *5th World Congress on Trauma, Shock, Inflammation and Sepsis*. 2000 ; 179-182 .
- 10) Minobe K, Bando K, Fukino K, Soma S, Kaumi F, Sakamoto G, Furukawa K, Higuchi K, Onda M : Somatic Mutation of the PTEN/MMACLoss of heterozygosity at 3p24-p25 as Gene in Breast Cancers with Microsatellite Instability . *Cancer Letters* 2000 ; 152 : 63-69 .
- 11) Miyashita M, Onda M, Nomura T, Matsutani T, Sasajima K : Inhibited serum phospholipase A2 activity in hyperbilirubinemia . *HepatoGastroenterol* 2000 ; 47 : 1223-1226 .
- 12) Murakami R¹⁾, Taniai N, Kumazaki T¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Ogura J¹⁾ (¹⁾ 放射線科): Rupture of ahepatic metastasis from renal cell carcinoma . *Clin Imaging* 2000 ; 24 : 72-74 .
- 13) Nagasawa S, Onda M, Sasajima K, Takubo K¹⁾, Miyashita M (¹⁾ Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Multiple primary malignant neoplasms in patients with esophageal cancer . *Dis Esophagus* 2000 ; 13 (3): 226-230 .
- 14) Nakamura K¹⁾, Furugori E¹⁾, Esaki Y¹⁾, Arai T¹⁾, Sawabe M¹⁾, Okayasu I¹⁾, Fujiwara M¹⁾, Kammori M¹⁾, Mafune K¹⁾, Kato M¹⁾, Oshimura M¹⁾, Sasajima K, Takubo K¹⁾ (¹⁾ 東京都老人病研究所・臨床病理部門): Correlation of telomere lengths in normal and cancers tissue in the large bowel . *Cancer Lett* 2000 ; 1 (158): 179-184 .
- 15) Sakurazawa N, Tanaka N, Onda M, Esumi H : Instability of X Chromosome Methylation in Aberrant Crypt Foci of the Human Colon . *Cancer Research* 2000 ; 60 : 3165-3169 .
- 16) Suzuki H, Ikezaki H, Hong D, Rubinstein I : PGH2-TxA2-receptor blockade restores vasoreactivities in a new model of genetic hypertension . *J. Appl. Physiol* 2000 ; 88 : 1983-1988 .
- 17) Takubo K¹⁾, Nakamura K¹⁾, Izumiyama N¹⁾, Furugori E¹⁾, Sawabe M¹⁾, Arai T¹⁾, Esaki Y¹⁾, Mafune K¹⁾, Kammori M¹⁾, Fujiwara M¹⁾, Kato M¹⁾, Oshimura M¹⁾, Sasajima K (¹⁾ 東京都老人病研究所・臨床病理部門): Telomere shortening with aging in human liver . *J Gerontol A Biol Sci Med Sci* 2000 ; 55 : 533-536 .
- 18) Taniai N, Harihara Y¹⁾, Kita Y¹⁾, Hirata M¹⁾, Sano K¹⁾, Kusaka K¹⁾, Kubota K¹⁾, Takayama T¹⁾, Kawarasaki H¹⁾, Makuuchi M¹⁾, Yoshida H, Akimaru K, Tajiri T, Onda M (¹⁾ 東京大学・移植グループ): Persistent pleural and peritoneal fluid discharge after adult-to-adult living-related liver transplantation .

Transplant Proc 2000 ; 32 : 2213-2214 .

- 19) Taniai N , Harihara Y¹⁾ , Kita Y¹⁾ , Akune T¹⁾ , Tanaka K¹⁾ , Hirata M¹⁾ , Sano K¹⁾ , Kusaka K¹⁾ , Kubota K¹⁾ , Takayama T¹⁾ , Kawarasaki H¹⁾ , Makuuchi M¹⁾ , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T , Onda M (¹⁾東京大学・移植グループ): Pretransplant evaluation of bone mineral density in adult patients with end-stage cholestatic liver disease . Transplant Proc 2000 ; 32 : 2187-2188 .
- 20) Taniai N , Harihara Y¹⁾ , Kita Y¹⁾ , Hirata M¹⁾ , Sano K¹⁾ , Kubota K¹⁾ , Takayama T¹⁾ , Kawarasaki H¹⁾ , Makuuchi M¹⁾ , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T , Onda M (¹⁾東京大学・移植グループ): Rupture of newly developed esophageal varices after adult-adult living-related liver transplantation . Transplant Proc 2000 ; 32 : 2264-2265 .
- 21) Yanagi K , Onda M , Uchida E : Effect of angiostatin on liver metastasis of pancreatic cancer in hamsters . Jpn J Cancer Res 2000 ; 91 : 723-730 .
- 22) Tajiri T , Onda M , Yoshida H , Namada Y , Taniai N , Umehara M , Toba M , Yamashita K¹⁾ (¹⁾千葉北総病院外科): Long-term Results of Modified Distal Splenorenal Shunts for the Treatment of Esophageal Varices . Hepato-Gastroenterology 2000 ; 47 : 720-723 .
- 23) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Itoh S , Uchida E , Arima Y , Mamada Y , Yaniai N , Yamashita K , Kumazaki T : Colonic varices ruptured via drainage catheter after extended right hepatectomy . Hepato-Gastroenterology 2000 ; 47 : 718-719 .
- 24) Yokomura S , Tsuji H , John L III , Sakamoto T , Ezure T , Murase N , Anthony J D : The effect of interleukin-6 (IL-6) /gp130 signalling on biliary epithelial cell growth, in vitro . Cytokine 2000 ; 12 (6): 727-730 .
- 25) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Umehara M , Mamada Y , Taniai N , Kaneko M , Mizuguchi Y , Uchida E : Hepatocellular carcinoma responding to chemotherapy with 5-FU . Hepato-Gastroenterology 2000 ; 47 : 1120-1121 .
- 26) Yokomuro S , Tsuji H , John L III , Sakamoto T , Ezure T , Murase N , Anthony J. D : Growth control of human biliary epithelial cells by interleukin 6, hepatocyte growth factor, transforming growth factor beta1, and activin A : comparison of a cholangiocarcinoma cell line with primary cultures of nonneoplastic biliary epithelial cells . Hepatology 2000 ; 32 (1): 26-35 .
- 27) Kaneko M , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Kumita S¹⁾ , Kumazaki T¹⁾ (¹⁾Radiol): A New Method of Functional Scintiphotosplenopography using Technetium-99m-DTPA-galactosylated Human Serum Albumin . Hepato-Gastroenterology 2000 ; 47 (36): 1636-1641 .
- 28) Tajiri T , Onda M , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Yamashita K¹⁾ (¹⁾千葉北総病院外科): Comparison of the Long-term Results of Distal Splenorenal Shunt and Esophageal Transection for the Treatment of Esophageal Varices . Hepato-Gastroenterology 2000 ; 47 (36): 1619-1621 .
- 29) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Yoshioka M , Mineta S : Reconstruction of the Vena Cava with the Peritoneum . Am J Surg 2001 ; 174 : 289-293 .
- 30) Harada H¹⁾ , Nagai H¹⁾ , Mine N¹⁾ , Terada Y , Fujiwara H¹⁾ , Mikami I¹⁾ , Tsuneizumi M¹⁾ , Yabe A¹⁾ , Miyazaki K¹⁾ , Yokota T¹⁾ , Imoto I²⁾ , Inazawa J²⁾ , Emi M¹⁾ (¹⁾老研・分子生物学部門 , ²⁾Tokyo Med. Dent. Univ.): Molecular cloning, tissue expression, and chromosomal assignment of a novel gene encoding a subunit of the human signal-recognition particle . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 70-75 .
- 31) Hirano A¹⁾ , Nagai H¹⁾ , Harada H¹⁾ , Terada Y , Haga S²⁾ , Kajiwara T²⁾ , Emi M¹⁾ (¹⁾老研・分子生物学部門 , ²⁾Tokyo Women's Med. Univ.): Nine novel single-nucleotide polymorphisms of the Intergrin beta4 gene in the Japanese population . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 35-37 .
- 32) Matsushita A , Onda M , Uchida E , Maekawa R , Yoshioka T : Antitumor effect of a new selective matrix

- metalloproteinase, MMI-166, on experimental pancreatic cancer . Int. J. Cancer 2001 ; 92 : 434-440 .
- 33) Taniai N, Onda M, Tajiri T, Yoshida H, Mamada Y : Interventional radiology and endoscopic therapy for recurrent esophageal varices . Hepato-gastroenterol 2001 ; 48 : 133-136 .
- 34) Yokota T¹⁾, Nagai H¹⁾, Harada H¹⁾, Mine N¹⁾, Terada Y, Fujiwara H¹⁾, Yabe A¹⁾, Miyazaki K¹⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ 老研・分子生物学部門): Identification, tissue expression, and chromosomal position of a novel gene encoding human ubiquitin-conjugating enzyme E2-230k . Gene 2001 ; 267 : 95-100 .
- 35) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Taniai N, Uchida E, Arima Y, Akimaru K : Spontaneous disappearance of a hepatic cyst . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1) : 58-60 .
- 36) 金沢義一, 恩田昌彦, 田中宣威, 瀬谷知子 : 大腸sm癌におけるPCNA, p53蛋白発現 . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4) : 242-249 .
- 37) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 加藤俊二, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 丸山 弘, 野村 務, 勝田美和子, 徳永 昭 : Open abdomen 法が有用であった重症腹膜炎症例の検討 . 日本外科感染症研究 2000 ; 12 : 113-115 .
- 38) 高橋 翼, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫 : Gastrointestinal stromal tumor と早期胃癌を合併した1例 . 日臨外会誌 2000 ; 61 (8) : 2032-2036 .
- 39) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦 : 肝臓移植 . Medical Technology 2000 ; 28 : 272-279 .
- 40) 松久威史¹⁾, 松倉則夫, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科, ²⁾ 病理第2): タイ王国における *Helicobacter pylori* 感染と背景胃粘膜の観察 : 日本との比較 . Prog. Dig. Endosc 2000 ; 56 : 29-33 .
- 41) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 吉村和泰, シリカン山田, 右田 真¹⁾, 池崎弘之²⁾, 設楽敏朗²⁾, 寺嶋克幸 (¹⁾ 小児科, ²⁾ 集中治療室): 本学第1例目の生体部分肝移植 . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5) : 384-388 .
- 42) 牧野浩司, 古谷政一, 清水康仁, 野村 務, 恩田昌彦 : 右側腹部に転移をきたした胃内分泌細胞癌の1例 . 日臨外会誌 2000 ; 61 .
- 43) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛 : 原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の経験 . 日臨外会誌 2000 ; 61 (4) : 1040-1043 .
- 44) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 田尻 孝 : 肝硬変の発癌を促進するアルコールの影響 . 消化器科 2000 ; 31 (1) : 50-55 .
- 45) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷合信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田章, 平方敦史, 寺田淑恵, 山下精彦¹⁾, 荒牧琢己²⁾, 小林正文³⁾, 金沢秀典²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 内科第1, ³⁾ 内科第3): 難治性腹水に対する腹腔 : 鎖骨下静脈シャント術の経験 . 日門亢会誌 2000 ; 6 (1) : 21-25 .
- 46) 池田研吾, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 徳永 昭 : 高度進行胃癌に対する術前化学療法の評価 2つのレジメを用いた抗腫瘍効果, 術後合併症, 生存率の検討 . 日外科系連会誌 2000 ; 25 (4) : 612-619 .
- 47) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 小川芳雄, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 寺田淑恵, 小林正文¹⁾, 黒田 肇¹⁾, 杉浦敏昭¹⁾ (¹⁾ 内科第3): 胆道出血を合併した原発性肝癌の1例 . 胆と膵 2000 ; 21 (10) : 811-814 .
- 48) 柳 健, 恩田昌彦, 田尻 孝, 内田英二, 斎藤忠生, 高橋 健 : 成人に見られた産生性成熟型巨大後腹膜奇形種の1例 . 日臨外会誌 2000 ; 61 (12) : 3385-3389 .
- 49) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫, 古川清憲 : 特集 : 合併症を有する腹部救急疾患の治療 : ステロイド投与患者の腹部救急疾患の治療 . 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 (3) : 535-541 .
- 50) 加藤俊二, 恩田昌彦, 内藤善哉¹⁾, 江上 聡, 田中元子, 松倉則夫, 徳永 昭, 清水宏之²⁾, 木村 剛²⁾, 秋元

成太²⁾(¹⁾病理第2,²⁾泌尿器科):後腹膜転移巣の病理診断にて原発巣を診断し得た前立腺癌の1例.日本外科学系連合学会雑誌 2001;26:110-114.

- 51) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琉甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 川野陽一, 水口義昭, 吉村和泰, 幕内雅敏¹⁾, 河原崎秀雄¹⁾(¹⁾東京大学・移植グループ):外国人の生体部分肝移植における問題点.今日の移植 2001;14(1):112-113.
- 52) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 谷谷信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝:C型肝炎抗体陽性者における Acetaldehyde dehydrogenase (ALDH 2) 酵素の遺伝的個体差と肝癌発生との関連.肝臓 2001;42:150-151.
- 53) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 山村 進, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 内田英二, 田尻 孝, 恩田昌彦(¹⁾多摩永山病院病理部):膵・胆管合流異常に合併した胆嚢 adenomyomatosis の3例.日消外会誌 2001;34(3):229-233.

(2) 総説:

- 1) 宮下正夫, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 徳永 昭:残胃癌.外科 2000;62:1399-1402.
- 2) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋田行宏, 会田邦晴, 吉村和泰, 高崎秀明:大腸手術, 周術期における抗菌薬投与の実際:われわれはこう行っている.外科治療 2000;82(5):548-551.
- 3) 古川清憲, 恩田昌彦, 丸山 弘, 鈴木英之, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭:術後感染発症阻止薬の選択理論と実際・上部消化管手術.臨床外科 2000;55(7):847-851.
- 4) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 秋谷行宏, 高崎秀明:腸内細菌と大腸疾患.外科治療 2000;83(2):235-236.
- 5) 古川清憲, 恩田昌彦, 丸山 弘, 鈴木英之, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭:術後感染治療薬の選択理論と実際;上部消化管手術.臨床外科 2000;55:847-851.
- 6) 高崎秀明, 恩田昌彦, 古川清憲, 会田邦晴:特集 イレウス 理学的所見とモニタリング;基本的な徴候と見落としてはならない所見.救急医学 2000;24:753-760.
- 7) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭:穿孔性潰瘍.消化器の臨床 2000;3:179-183.
- 8) 松倉則夫, 加藤俊二, 恩田昌彦, 斉藤大三¹⁾(¹⁾国立がんセンター内視鏡科):*Helicobacter pylori*除菌による高位胃癌発生リスク.消化器内視鏡 2000;12:431-434.
- 9) 松倉則夫, 恩田昌彦:残胃癌と*Helicobacter pylori*.消化器外科 2000;23:1133-1138.
- 10) 松倉則夫:初回*Helicobacter pylori*除菌失敗した場合の2次,3次除菌法.*Helicobacter Res* 2000;4:92-94.
- 11) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 鈴木 聡, 島田 隆¹⁾(¹⁾生化第2):進行がんに対する遺伝子治療:現状と見通し.総合臨床 2000;49:2437-2440.
- 12) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹, Sirikan Y, 田尻 孝:胆汁中*Helicobacter bilis*と胆道系悪性腫瘍.*J Nippon Med Sch* 2000;67(5):411.
- 13) 松倉則夫:ピロリ菌と胃病変:臨床サイドから.*J Nippon Med Sch* 2000;67(5):358-359.
- 14) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 沖野哲也, 李 栄浩, 徳永 昭, 山田宣孝:*H. pylori*除菌治療による腸上皮化生の可逆性の検討.*Therapeutic Res* 2000;21:62-63.
- 15) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 的場康徳¹⁾, 森山雄吉¹⁾(¹⁾第二病院, 消化器病センター):大網被覆術と創傷治癒.消化性潰瘍:基礎と臨床 2000;19:104-109.
- 16) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 山本保博¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 松本 尚¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 益子邦洋²⁾, 大塚敏文³⁾, 辺見 弘⁴⁾(¹⁾高度救命救急センター,²⁾千葉北総病院救命救急センター,³⁾日本医科大学理事長,⁴⁾国立病院東京災害医療センター):上部消化管損傷の処置:とくに十二指腸損傷に対するpyloric exclusionの有用性について.救急医学 2000;24:1567-1571.
- 17) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎, 飯田信也, 吉行俊郎, 松倉則夫:増殖因子と消化管創傷治癒.細胞 2000;

32 (8): 299-302 .

- 18) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎, 小野寺浩之, 松倉則夫, 的場康德: 消化管創傷治療: 消化管潰瘍修復および吻合創治療. *Connective Tissue* 2000 ; 32 : 351-359 .
- 19) 宮島伸宜, 田尻 孝, 山川達郎: 十二指腸静脈瘤 (特集; 知っておくべき疾患: 十二指腸). *臨床消化器内科* 2000 ; 15 (9): 1243-1248 .
- 20) 田尻 孝, 恩田昌彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 秋丸琥甫, 隈崎達夫¹⁾(¹放射線科): IVRの適応疾患と実際: 門脈圧亢進症 部分的脾動脈塞栓術 (PSE)(特集・消化器疾患のIVR). *消化器の臨床* 2000 ; 3 (5): 555-559 .
- 21) 秋丸琥甫, 恩田昌彦, Hans JS, 田尻 孝: 肝移植後のモニタリングー移植肝の穿刺吸引細胞診 (肝移植に関する臨床検査: 病理を中心に (3)). *臨床病理 (Jpn J Clin Pathol)* 2000 ; 48 (11): 1014-1021 .
- 22) 吉岡正智, 江上 格, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 松田 健, 内田英二, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 田中宣威, 恩田昌彦 (¹多摩永山病院病理部): 膵 Solid-Pseudopapillary Tumorの臨床病理学的特徴と外科的治療: 本邦報告302例と自験6例について (特集; 見直される膵腫瘍: 2001年). *胆と膵* 2001 ; 22 (1): 45-52 .
- 23) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏, 会田邦晴, 吉村和泰, 高崎秀明: 大腸手術における予防的抗菌薬投与方法, よくわかる術後感染の予防と対策. *外科* 2001 ; 63 : 153-156 .
- 24) 古川清憲, 恩田昌彦, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏: 消化器外科における耐性菌感染症の対策. *外科治療* 2001 ; 84 : 317-322 .
- 25) 高崎秀明, 恩田昌彦: 特集: 患者さんへの情報提供とインフォームドコンセント: プライマリケアで働く医師のために: イレウス. *治療* 2001 ; 83 : 925-928 .
- 26) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 島田 隆¹⁾(¹生化第2): 胃癌: 新しい胃癌遺伝子治療戦略. *日本臨床* 2001 ; 59 : 90-93 .
- 27) 田尻 孝, 恩田昌彦, 内田英二, 有馬保生, 横室茂樹, 相本隆幸: ENBD, ERBD[内視鏡的アプローチ] (特集; 総胆管結石治療の最前線: 手技と周辺機器の進歩). *臨床外科* 2001 ; 53 (3): 299-303 .

(3) 臨床報告:

- 1) 中西一浩¹⁾, 小川 龍¹⁾, 高柳和江²⁾, 徳永 昭, 長谷川幸子 (¹麻酔科, ²医療管理学): 本学におけるクリティカルパスの現状. *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (6): 468-472 .

著 書

- 1) Pongchairerks P, Matsukura N : [分担] Overview of treatment of early gastric cancer . *Gastric cancer- Post graduate course on gastric cancer*, 2000 ; pp18-43, Bangkok Medical Publisher (Bangkok, Thailand).
- 2) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生: [分担] 最近の内視鏡手術の動向と周術期合併症: 消化器外科領域. *内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング* (監修小川 龍, 編著坂本篤裕), 2000 ; pp53-68, 真興交易 (株) 医書出版部 (東京).

学会発表

(1) 追加分一般講演:

- 1) Matsuhisa T¹⁾, Matsukura N, Yamada T²⁾(¹Dept. Endoscopy, Tama Nagayama Hospital, ²2nd dept. Pathology): An endoscopic observation of *Helicobacter pylori* in infection and gastric mucosa in Asian people . 11th Asian Pacific Congress of Gastroenterology (Hong Kong, China), 1999 . 3 .
- 2) Tajiri T, Onda M, Yoshida H, Akimaru K, Uchida E, Arima Y, Mamada Y, Kobayashi T, Taniyai N, Yamamoto K, Kaneko M, Yamashita K¹⁾, Kumazaki T²⁾(¹千葉北総病院外科, ²付属病院放射線科): Splenic Artery Embolization followed by Intraarterial Infusion Chemotherapy for the Treatment of Pancreat-

ic Cancer . 9th World Congress of the International Gastro-Surgical Club (Nagasaki Japan), 1999 . 10 .

- 3) Nagai H¹⁾, Mine N¹⁾, Mikami I¹⁾, Fujiwara H¹⁾, Terada Y, Mlyazaki K¹⁾, Yabe A¹⁾, Kaita M¹⁾, Yokota T¹⁾, Harada H¹⁾, Iida A¹⁾, Sugano S²⁾, Emi M¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): Isolation of novel candidate genes in TOC region at 17q25. 1 . The 92nd AACR (New Orleans), 2000 . 3 .
- 4) 牧野浩司, 宮下正夫, 笹島耕二, Cawley HM¹⁾, Trivers GE¹⁾, 松谷 毅, 土屋喜一, 萩原信敏, 長澤重直, 山下精彦²⁾, Harris CC¹⁾(¹⁾National Cancer Institute, USA): 食道癌患者の血清抗p53抗体の臨床応用について . 第5回食道癌生物学的特性の臨床応用に関するセミナー, 2000 . 1 .
- 5) 山本一仁, 木内博之¹⁾, 小川芳雄, 瀧田雅仁, 坂東功一, 長澤重直, 恩田昌彦 (¹⁾北村山公立病院外科): 巨大食道粘膜下血腫をきたした特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) の1例 . 第169回日本消化器病学会東北支部例会, 2000 . 2 .

(2) 特別講演 :

- 1) 松田範子, 恩田昌彦, 平方敦史, 秋丸琥甫, 森山雄吉, 田尻 孝, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉村成子, 内藤善哉: 障害肝ラット肝切除後の残肝再生に及ぼす高圧酸素療法と脾摘の効果 . 第35回 日本高気圧環境医学会総会, 2000 . 11 .
- 2) 田尻 孝: 腹部外科領域における内視鏡下手術 . (ビデオによる各科領域の内視鏡下手術の実際) . 日本医師会生涯教育講座, 平成12年度第4回医学講座, 2001 . 2 .
- 3) 田尻 孝: 胃静脈瘤破裂とPHG出血 (急性腹症: この症例をどう扱うか) . 平成12年日本外科学会生涯教育セミナー (関東地区), 2001 . 2 .

(3) 招待講演 :

- 1) Tajiri T, Onda M, Arima Y, Yokomuro S, Uchida E, Saitoh T, Yoshida H, Mamada H, Taniyai N, Mineta S, Hirakata A, Yamashita K¹⁾(¹⁾千葉北総病院): Evaluation of Pre-operative splenic artery embolization for Laparoscopic splenectomy for ITP . 5th Asia-Pacific Congress of Endoscopic Surgery (ELSA) (Manila, Mandaluyong City, Philippine), 2001 . 2 .

(4) シンポジウム :

- 1) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Mamada Y, Mineta S, Yoshioka M, Hirakata A, Arima Y, Uchida E, Akimaru K, Yamashita K : Comparison of bleeding esophageal varices and bleeding gastric varices with respect to characteristics and endoscopic findings . 12th Asian pacific association for the study of the liver (APASL)(Fukuoka), 2000 . 6 .
- 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾, 稲田健一²⁾, 立松正衛²⁾(¹⁾生化第2, ²⁾愛知県がんセンター病理): 胃癌遺伝子治療の戦略 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 3) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫, 田尻 孝: 胃癌術後肝障害発生の術式による差とグルタチオン解毒酵素 (GSTM1) 欠損の遺伝子診断の有用性 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 4) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 廣井 信, 柳 健, 中村慶春, 会田邦晴, 相本隆幸, 古川清恵, 田尻 孝: 重症急性膵炎の臓器不全と Bacterial translocation の予防と対策 . 第15回日本ショック学会, 2000 . 5 .
- 5) 松倉則夫: ピロリ菌と胃病変: 臨床サイドから . 日本医科大学医学会第10回公開シンポジウム, 2000 . 6 .
- 6) 沖野哲也, 恩田昌彦, 松倉則夫, 李 栄浩, 小野寺浩之, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 徳永 昭: 長期予後からみた *H. pylori* 感染と穿孔性十二指腸潰瘍 . 第6回日本ヘリコバクター学会, 2000 . 6 .
- 7) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 藤田逸郎, 小野寺浩之, 李 栄浩, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 木山輝郎, 飯田信也, 水谷 崇, 吉行俊郎, 松倉則夫: 手術・外傷後の免疫抑制の解明と制御: 健常人NK細胞活性に対する創浸出液の抑制作用 . 第55回日本消化器外科学会, 2000 . 7 .

- 8) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 松下 晃, 柳 健, 福原宗久, 廣井 信, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 江上 格 (¹⁾千葉北総病院外科): 重症急性膵炎早期治療のストラテジー (急性膵炎重症化の予知と対策). 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
 - 9) 沖野哲也, 恩田昌彦, 松倉則夫, 長谷川博一, 徳永 昭, 五十嵐健人¹⁾, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾, 稲田健一²⁾, 立松正衛²⁾ (¹⁾生化第2, ²⁾愛知県癌センター第1病理): MNNG誘発ラット胃癌モデルを用いた遺伝子治療 . 第11回日本消化器癌発生学会, 2000 . 9 .
 - 10) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 水口義昭, 川野陽一 : 当科における胃静脈瘤症例の手術適応 . 第7回日本門脈圧亢進症学会総会, 2000 . 9 .
 - 11) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫 : 胃癌症例からみたペプシノーゲン法の感度と陰性症例の血清 *H. pylori* IgG 抗体価, ガストリン値の特徴 . 第42回日本消化器病学会大会 (DDW-2000), 2000 . 10 .
 - 12) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一 : 十全大補湯の術前術後投与による術後感染症の予防 . 第10回外科漢方研究会, 2000 . 11 .
 - 13) 野村 務, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 二見良平, 山下精彦¹⁾, 杉浦敏昭 : 縦隔鏡を用いた Transhiatal esophagectomy の2例 . 第779回外科集談会, 2000 . 12 .
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 松下 晃, 柳 健, 福原宗久, 廣井 信, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 江上 格 : 重症急性膵炎における動注療法およびCHDF : 重症度スコアの推移からの検討 (重症急性膵炎の治療戦略). 第12回日本肝胆膵外科学会総会, 2000 . 5 .
 - 2) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 秋丸琥甫, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線科): 原発性肝癌破裂例に対する肝動脈塞栓術の適応と限界 . 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000 . 9 .
 - 3) 加藤俊二, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾病理第2): 肝癌発生におけるアルコールおよびチトクローム系代謝酵素の関与と発癌感受性の遺伝的個体差 . 第33回肝臓学会東部会, 2000 . 12 .
 - 4) 松倉則夫, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 木山輝郎, 水谷 崇, 徳永 昭 : 残胃の癌発生における *Helicobacter pylori* の役割 . 第73回日本胃癌学会総会, 2001 . 3 .
- (6) ランチョンセミナー :
- 1) 宮下正夫 : 手術侵襲とステロイド . 日本麻酔学会第47回大会, 2000 .
- (7) ワークショップ :
- 1) 笹島耕二, 恩田昌彦, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘, 野村 務, 松谷 毅, 土屋喜一, 萩原信敏, 長澤重直 : インターロイキン-6による生体反応の制御 . 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
 - 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾, 稲田健一²⁾, 立松正衛²⁾ (¹⁾生化第2, ²⁾愛知がんセンター研究所病理): 胃癌の遺伝子治療の展望と問題点 . 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
 - 3) 内田英二, 恩田昌彦, 松下 晃, 相本隆幸, 柳 健, 福原宗久, 廣井 信, 山村 進, 田尻 孝, 中村慶春, 江上 格 : 重症急性膵炎における腸管の病因的意義 . (急性膵炎の病態に対する基礎的研究). 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000 . 9 .
 - 4) 内田英二, 恩田昌彦, 柳 健 : 膵癌に対する抗血管新生治療実験 . DDW大会, 2000 . 10 .
 - 5) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 徳永 昭, 笹島耕二, 宮下正夫 : 上部消化管手術における周術期感染対策 . 第62回日本臨床外科学会総会, 2000 . 11 .
 - 6) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 川野陽一, 水口義昭 : 当科における胃静脈瘤による大量出血患者の診療手順 . 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001 . 3 .
 - 7) 内田英二, 恩田昌彦, 松下 晃, 相本隆幸, 柳 健, 福原宗久, 廣井 信, 山村 進, 田尻 孝, 中村慶春,

江上 格：重症急性膵炎における局所療法および全身療法（重症急性膵炎の治療）．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．3．

- 8) 峯田 章，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，山下精彦¹⁾，水村 直²⁾，汲田伸一郎²⁾，隈崎達夫²⁾（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾付属病院放射線科）：硬変肝における脾静脈血流分布の変化．第6回肝循環懇話会，2001．3．

(8) プレナリーセッション：

- 1) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，徳永 昭：術後在院死症例の反省と対策：胃癌手術後の在院死症例数の変遷とその特徴．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 2) 田尻 孝，恩田昌彦，有馬保生，内田英二，樋口勝美，小川芳雄，斎藤忠生，吉田 寛，水谷 崇，真々田裕宏，野村 務，谷合信彦，相本隆幸，秋丸琥甫：肝硬変合併例に対する内視鏡外科手術（肝胆膵疾患に対する内視鏡外科手術）．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 3) 峯田 章，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，山下精彦¹⁾，水村 直²⁾，汲田伸一郎²⁾，隈崎達夫²⁾（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾付属病院放射線科）：^{99m}Tc-GSA-SSPの臨床的意義．日本肝臓学会東部会，2000．12．

(9) クリニカルディベイト：

- 1) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，梅原松臣，秋丸琥甫：胃静脈瘤に対する血管塞栓術併用内視鏡的結紮術の有用性．第33回日本肝臓学会東部会，2000．12．

(10) サージカルフォーラム：

- 1) 徳永 昭，恩田昌彦，木山輝郎，平本義浩，池田研吾，白川 毅，小野寺浩之，李 栄浩，瀧田雅仁，飯田信也，水谷 崇，吉行俊郎，松倉則夫，山下精彦¹⁾（¹⁾千葉北総病院外科）：消化管吻合創治癒を創傷治癒機転から解析する．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 2) 松下 晃，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，福原宗久，柳 健，山村 進，井上松心，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格，内藤善哉¹⁾，淺野伍朗¹⁾，前川隆司²⁾，吉岡貴幸²⁾（¹⁾病理第2，²⁾塩野義製薬中央研究所）：ハムスター実験膵癌における MMP 阻害剤（MMI-166）の抗腫瘍効果の検討．第100回日本外科学会総会，2000．4．

(11) 一般講演：

- 1) Yokomuro S M. D., Onda M M. D., Tajiri T M. D., Anthony J. D, M. D. : GROWTH CONTROL IN CHOLANGIOCARCINOMA. A study of IL6/gp130 and HGF/met Stimulation and Activin and TGF- 1 Inhibition . Sixth congress of Asian Society of Hepato-biliary-Pancreatic Surgery ,
- 2) Maruyama H , Onda M , Sasajima K , Miyashita M , Nomura T , Makino H , Matsutani T , Nagasawa S , Tsuchiya Y , Hagiwara N : Role of tumor necrosis factor-alpha and its soluble receptors after major surgery and sepsis . 5th International Congress on shock, trauma, inflammation and sepsis (Munich, Germany) , 2000 .
- 3) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Taniai N , Mineta S , Yoshioka M , Kawano Y , Mizuguchi Y , Yokomuro S , Uchida E , Arima Y , Akimaru K : Acute cholecystitis caused by a cholesterol polyp . 6th Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Hongkong, China) , 2000 . 2 .
- 4) Kawahigashi Y , Onda M , Arima Y , Tajiri T : A Case of Elevated Serum CA19-9 with Cholecystolithiasis . Sixth congress of Asian society of hepato- biliary- pancreatic surgery (Hongkong China) , 2000 . 2 .
- 5) Makino H , Onda M , Miyashita M , Maruyama H , Nagasawa S , Tsuchiya Y , Hagiwara N , Yamashita K¹⁾ , Takubo K²⁾ , Sasajima K (¹⁾千葉北総病院外科 , ²⁾東京都老人病研究所・臨床病理部門) : Detection of micrometastases in lymph nodes in esophageal carcinoma by RT-PCR . 91st Annual Meeting of American Association of Cancer Research (San Francisco, USA) , 2000 . 4 .
- 6) Kato S , Onda M , Matsuda N , Matsukura N , Tokunaga A , Tajiri T , Yamashita K , Shields PG : ALCO-

HOL METABOLIC ENZYME ACTIVITIES DUE TO THE GENETIC POLYMORPHISMS AND LIVER CANCER RISKS . 91th Annual Meeting of American Association for Cancer Research (Philadelphia, Pennsylvania), 2000 . 4 .

- 7) Tanaka M , Onda M , Tanaka N , Hurukawa M , Takasaki H , Kato S , Yoshimura K , Kiyama T , Merk HF¹⁾ , Takahashi Y , Sugiura A , Koizumi M , Matsukura N , Naito Z , Blomeke B¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology, University Hospital RWTH Aachen, Germany): Prediction for Antitumor Effects of 5-Fluorouracil (5-FU) Based on Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNA Levels in Biopsy Specimens from Colorectal Cancer Patients . AACR , 2000 . 4 .
- 8) Kiyama T , Onda M , Tokunaga A , Efron DT¹⁾ , Barbul A¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Johns Hopkins University, Baltimore, U. S. A): Effect of matrix metalloproteinase inhibition on colonic anastomotic healing in rats . The forty-first annual meeting of the society for surgery of the alimentary tract (San Diego, CA, USA), 2000 . 5 .
- 9) Tani ai N , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Akimaru K : Synchronous carcinoma of the gallbladder in a patient with intrahepatic bile duct carcinoma (APASL) . 12th Asian Pacific Association for the study of the liver (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 10) Tani ai N , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Akimaru K : Transcatheter arterial embolization (TAE) for liver metastasis of colorectal cancer . 12th Asian Pacific Association for the study of the liver (APASL)(Fukuoka), 2000 . 6 .
- 11) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Mizuguchi Y , Kawano Y , Arima Y , Uchida E , Akimaru K , Yamashita K : Hepatocellular carcinoma responding to chemotherapy with 5-FU . 12th Asian pacific association for the study of the liver (APASL)(Fukuoka), 2000 . 6 .
- 12) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Mizuguchi Y , Kawano Y , Arima Y , Uchida E , Akimaru K , Yamashita K : Colonic varices ruptured via drainage catheter after hepatectomy . 12th Asian pacific association for the study of the liver (APASL), 2000 . 6 .
- 13) Tajiri T , Onda M , Arima Y , Uchida E , Higuchi K , Ogawa Y , Saitoh T , Yokomuro S , Yoshida H , Mizutani T , Mamada Y , Nomura T , Tani ai N , Aimoto T , Akimaru K , Ito S , Yamashita K¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): Laparoscopic versus Open Cholecystectomy for Patients with Liver Chirrhosis . 7th World congress of endoscopic surgery. 8th Annual International Scientific Meeting of the Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia (Singapore), 2000 . 6 .
- 14) Hirakata A , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Akimaru K , Yamashita K¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): A case report of rare porto-systemic shunt successfully treated by surgical ligation . IASL-APASL joint meeting 2000 (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 15) Tajiri T , Onda M , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakaya A , Yamamoto K , Kaneko M , Akimaru K , Yamashita K¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): Long-term evaluation of partial splenic embolization as a treatment of liver cirrhosis . IASL-APASL joint meeting 2000 (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 16) Yamamoto K , Onda M , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Yamashita K¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): Correlation between angiographic features of esophageal varices and recurrence after endoscopic treatment . IASL-APASL joint meeting 2000 (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 17) Yoshioka M , Onda M , Tajiri T , Akimaru K , Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Mineta S , Hirakata A , Terada Y , Yamashita K¹⁾ , Kumazaki T²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科 , ²⁾ 付属病院放射線科): Embolization and endoscopic injection sclero-ligation for the treatment of solitary gastric varices : Two case report . IASL-

APASL joint meeting 2000 (Fukuoka), 2000 . 6 .

- 18) Akimaru K , Onda M , Tajiri T , Matsuda N , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Taniai N , Moriyama Y , Yamashita K (¹ 千葉北総病院外科): Effects of hyperbaric oxygen on liver regeneration after carbon tetrachloride administration and hepatectomy . IASL-APASL joint meeting in June 2-7, 2000 : International association for the study of the liver (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 19) Nakamura Y , Onda M , Uchida E , Matsushita A , Yanagi K , Aimoto T , Kobayashi T , Arima Y , Tajiri T , Yamamura S , Miyamoto M , Wada M , Yoshioka M , Egami K : K-ras mutation and carcinoembryonic antigen level in duodenal lavage fluid for diagnosis of pancreatic carcinoma . International Hepato-Pancreato- Biliary Association 4th World Congress (Brisbane Australia), 2000 . 6 .
- 20) Onodera H , Onda M , Tokunaga A , Kiyama T , Yoshiyuki T : SPONTANEOUS GASTROINTESTINAL PERFORATION IN PATIENTS RECEIVING CHEMOTHERAPY AND STEROIDS . 17th World congress of International Society of Digestive Surgery (Hamburg, Germany), 2000 . 9 .
- 21) Matsukura N , Kato S , Okino T , Onda M : Cardia cancer risk and *Helicobacter pylori* eradication . The 17th congress of pan-pacific surgical association Japan chapter (Bali, Indonesia), 2000 . 11 .
- 22) Okino T , Matsukura N , Onda M , Shimada T¹⁾ (¹ Biochemistry and Molecular Biology): *In situ* gene transfer and suicide gene therapy of gastric cancer induced by MNNG in rats . The 17th congress of pan-pacific surgical association Japan chapter (Bali, Indonesia), 2000 . 11 .
- 23) Shimizu K¹⁾ , Kitagawa W¹⁾ , Akasu H¹⁾ , Tajiri T , Akira S¹⁾ , Arima Y , Onda M , Tanaka S¹⁾ (¹ 外科第 2): Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using totally gasless anterior neck skin lifting method with a benefit of cosmesis-an experience of 100 cases . 5th Asia-Pacific Congress of Endoscopic Surgery (ELSA) (Manila, Mandaluyong City, Philippine), 2001 . 2 .
- 24) Yoshida H , Onda M , Mamada Y , Taniai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Kawano Y , Mizuguchi Y , Yokomuro S , Uchida E , Arima Y , Akimaru K : Spontaneous disappearance of a hepatic cyst . 6th Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Hongkong, China), 2001 . 2 .
- 25) Yoshida H , Onda M , Tajiri T , Mamada Y , Taniai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A , Kawano Y , Mizuguchi Y , Yokomuro S , Uchida E , Arima Y , Akimaru K : Intracystic hemorrhage of a simple hepatic cyst . 6th Asian society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Hongkong, China), 2001 . 2 .
- 26) Hiroi M , Onda M , Uchida A , Aimoto T , Matsushita A , Fukuhara M , Yanagi K , Yamamura S , Nakamura Y , Yokoyama T , Tajiri T , Egami K , Naito Z¹⁾ , Asano G¹⁾ (¹ 2nd Dept. of Pathology): Neural Cell Adhesion Molecule (NCAM) and p53 expressions in pancreatic cancer ; Correlations among these two factors and perineural invasion . 6th CONGRESS OF ASIAN SOCIETY OF HEPATO-BILIARY-PANCREATIC SURGERY (HongKong, China), 2001 . 2 .
- 27) Aimoto T , Onda M , Uchida E , Hiroi M , Yanagi K , Fukuhara M , Matushira A , Kobayashi T , Aida K , Arima Y , Tajiri T : The Efficacy of Intraarterial %FU Continuous Chemotherapy in Term of Clinical Benefit in Unresectable Pancreatic Cancer . Sixth congress of Asian society of hepato- biliary- pancreatic surgery (Hongkong China), 2001 . 2 .
- 28) Uchida E , Onda M , Yanagi K , Matsushita A , Aimoto T , Hiroi M , Fukuhara M , Aida K , Nakamura Y , Yamamura S , Tajiri T : Effect of Antiangiogenetic substances on Experimental Pancreatic Cancer . Sixth congress of Asian society of hepato- biliary- pancreatic surgery (Hongkong China), 2001 . 2 .
- 29) Tajiri T , Onda M , Akimaru K , Yoshida H , Yokomuro S , Mamada Y , Taniai N , Mineta S , Yoshioka M , Hirakata A : Graft survival following three occurrences of hepatic arterial thrombosis after living-related liver transplantation . Sixth congress of Asian society of hepato-biliary-pancreatic surgery (Hongkong China),

2001 . 2 .

- 30) Shimizu K¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Akasu H¹⁾, Takatsu K¹⁾, Ishii R¹⁾, Yamada K¹⁾, Tajiri T, Akira S²⁾, Onda M, Araki T²⁾, Tanaka S¹⁾(¹⁾ Surg 2, ²⁾ Gunec): Totally Gasless Video-assisted Endocrine Neck Surgery with a very Minimal Neck Wound-an experience of 120 cases . 第14回アジア太平洋内分泌会議20th All Nepal Medical Conference of the Nepal Medical Association (Kathmandu, Nepal), 2001 . 2 .
- 31) Fukuhara M, Onda M, Uchida E, Hiroi M, Matsukura N, Yanagi K, Yamamura S, Nakamura Y, Yokoyama T, Aimoto T, Tajiri T, Egami K, Naitou Z¹⁾, Asano G¹⁾, Isiwata T¹⁾(¹⁾ Pathol): COMPARISON OF VEGF EXPRESSION AMONG DIFFERENT TYPES OF METASTATIC TUMOR IN PANCREATIC CANCER EXPERIMENTAL MODEL . 第6回アジア肝胆膵外科学会, 2001 . 2 .
- 32) Makino H, Sasajima K, Miyashita M, Furami R, Onda M, Gabrielson E¹⁾, Anbazhagan A¹⁾(¹⁾ Johns Hopkins University): cDNA array analysis of differential gene expression between esophageal carcinoma and normal esophageal mucosa . 92nd Annual Meeting, American Association of Cancer Research (New Orleans), 2001 . 3 .
- 33) Miyashita M, Cawley H¹⁾, Hagiwara N, Futami R, Makino H, Maruyama H, Nomura T, Sasajima K, Yamashita K²⁾, Onda M, Harris CC¹⁾, Trivers GE¹⁾(¹⁾ National Cancer Institute, USA): Serum anti-p53 antibodies and p53 mutation in esophageal cancer . 92nd Annual Meeting, American Association of Cancer Research (New Orleans), 2001 . 3 .
- 34) Makino H, Anbazhagan R, Johnston J, Sasajima K, Miyashita M, Hutami R, Onda M, Gabrielson E : CDNA array analysis of differential gene expression between esophageal carcinoma and normal esophageal mucosal . 92th American association for cancer research , 2001 . 3 .
- 35) Kato S, Onda M, Tanaka M, Yoshiyuki T, Matsukura N, Tokunaga A, Naito Z¹⁾, Merk HT²⁾, Blomeke B²⁾(¹⁾ 病理第2, ²⁾ アーヘン大学, ドイツ): Modulation of the Intratumoral Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD) and Thymidylate Synthase (TS) mRNA after Treatments of S-1 in Stomach Cancer . 92th Annual Meeting of American Association for Cancer Research , 2001 . 3 .
- 36) Mamada Y, Onda M, Akimaru K, Umehara M, Yoshida H, Taniai N, Yoshioka M, Mineta S, Hirakata A, Yamashita K : Peritoneovenous Shunts in Patients with Refractory Ascites . APASL (Fukuoka), 2000 . 6 .
- 37) Yamada S, Sundo T¹⁾, Sirivanichai C¹⁾, Wuthikan S¹⁾, Chakrabandhu T¹⁾, Ariyakachorn W¹⁾, Onda M, Matsukura N, Tokomuro S, Matsuda N, Kato S, Tajiri T, Fox JG²⁾(¹⁾ Dept. of Surgery, Faculty of Med. Chiang Mai Univ, ²⁾ Div. Comparative Med., MIT. USA): Detection of *Helicobacter bilis* in bile from Thai patients with adenocarcinoma of biliary tract by PCR and DNA sequencing . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 38) Yamada S, Onda M, Matsukura N, Sundo T¹⁾, Yokomuro S, Matsuda N, Kato S, Wuthikan S¹⁾(¹⁾ Dept. of Surgery, Faculty of Med. Chiang Mai Univ): Detection of *Helicobacter bilis* in bile from Thai patients with cholangiocarcinoma by PCR and DNA sequencing . 第42回日本消化器病学会大会, 2000 . 10 .
- 39) 沖野哲也, 恩田昌彦, 松倉則夫, 島田 隆¹⁾(¹⁾ 生化第2): MNNG誘発ラット胃癌モデルを用いた遺伝子治療 . 第17回太平洋外科系学会日本支部会, 2000 .
- 40) 林 良記¹⁾, 杉浦敏昭¹⁾, 山田久木¹⁾, 琴寄 誠¹⁾, 中川義也¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川上明彦¹⁾, 小林正文¹⁾, 松田明久, 野村 務, 宮下正夫, 笹島耕二: 早期 Barrett 腺癌の1例 . 第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000 .
- 41) Mineta S, Onda M, Tajiri T, Akimaru K, Yoshida H, Yokumuro S, Mamada Y, Taniai N, Kaneko M, Toshioka M, Hirakata A, Kawano Y, Mizuguchi Y, Yoshimura K, Mizumura S¹⁾, Kumita S¹⁾, Kumazaki

- T¹)⁽¹⁾ Department of diology): Utility of 99mTc-GSA-SSP (Scintiphotosplenoportography) for Comprehension of Preoperative Status of Liver Transplantation on Pediatric Case . Sixth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery , 2000 . 2 .
- 42) 坂東功一, 江見 充¹⁾, 田尻 孝, 永井尚生¹⁾, 小川芳雄, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 寺田淑恵, 恩田昌彦⁽¹⁾ (老研・分子生物学部門): 4q欠失領域と肝癌の特性. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 43) 福原宗久, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 石渡俊行¹⁾ (病理第2): 膵癌の転移浸潤形態の生物学的特性: VEGF 発現及び増殖能に関する実験的検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 44) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 李 栄浩, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫, 宮下正夫, 山下精彦¹⁾ (千葉北総病院外科): 心疾患を有する胃癌患者の術前評価: 血中ノルエピネフリン, ナトリウム利尿ペプチドを用いた心機能の評価. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 45) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 有馬保生, 内田英二, 秋丸琥甫, 山下精彦: 遠位脾胃静脈吻合術の術式変遷と長期成績. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 46) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 松下 晃, 柳 健, 相本隆幸, 田尻 孝, 中村慶春, 江上格: ハムスター膵癌腹膜播種におよぼす RGD peptide の転移抑制効果の検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 47) 小泉岐博, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 田中元子, 浅野伍朗¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (病理第2): 直腸 neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 細胞株に対する octreotide の増殖抑制効果の検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 48) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 秋丸琥甫: 肝硬変症に対する治療法としてのPSEの位置づけ. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 49) 長澤重直, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (千葉北総病院外科): 食道癌の cyclin D1 発現と臨床病理学的特徴. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 50) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 松下 晃, 柳 健, 福原宗久, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 江上 格: 重症度スコアの推移からみた重症急性膵炎に対する動注療法のストラテジー. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 51) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, Barbul A¹⁾ (JohnsHopkins Uni): 創傷治癒過程の分子機構 HSP70 誘導による線維芽細胞の活性化. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 52) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 呂 毅, 福原宗久, 松下 晃, 山村 進, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (病理第2): Angiostatin による実験膵癌肝転移に対する抗血管新生療法. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 53) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (千葉北総病院外科): 幽門側胃切除後障害と機能検査. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 54) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 加藤俊二, 吉行俊郎, 鈴木英之, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 松倉則夫, 徳永 昭: 生検材料の DPD (Dihydro Pyrimidine Dehydrogenase) mRNA 発現レベルによる抗癌剤効果予測の可能性; 5`-DFUR 術前投与による大腸癌切除組織内5-FU濃度とDPD活性との関連. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 55) 徳永 昭, 恩田昌彦, 平本義浩, 池田研吾, 木山輝郎, 飯田信也, 小野寺浩之, 李 栄浩, 水谷 崇, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (千葉北総病院外科): 消化管の創傷治癒における増殖因子の発現. 第86回日本消

化器病学会総会，2000．4．

- 56) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，沖野哲也，小野寺浩之，李 栄浩，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，山下精彦¹⁾，徳永 昭⁽¹⁾千葉北総病院外科): 慢性萎縮性胃炎から胃癌への進展：血清H. pylori IgG抗体価からみた胃癌発生におよぼす免疫学的宿主因子の関与の可能性．第86回日本消化器病学会総会，2000．4．
- 57) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，内田英二，有馬保生，秋丸琥甫，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 静脈瘤破裂例の検討：食道，噴門部，穹隆部静脈瘤の比較．第86回日本消化器病学会総会，2000．4．
- 58) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，古川清憲：消化管における組織修復と微小循環制御．第86回日本消化器病学会総会，2000．4．
- 59) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 血管塞栓術合併内視鏡治療は直達手術に近づき得たか？．第12回日本肝胆膵外科学会，2000．5．
- 60) 峯田 章，恩田昌彦，山下精彦¹⁾，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，水村 直¹⁾，汲田伸一郎¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科): 遠位脾腎静脈シャント術(DSRs)前後における^{99m}Tc GSA SSPの有用性．第12回日本肝胆膵外科学会，2000．5．
- 61) 相本隆幸，恩田昌彦，内田英二，小林 匡，会田邦晴，柳 健，松下 晃，福原宗久，廣井 信，進士誠一，有馬保生，田尻 孝：副乳頭近傍の背側膵に膵癌を合併した膵管非癒合の1例．第12回日本肝胆膵外科学会，第29回日本胆道外科研究会，第27回日本膵切研究会，2000．5．
- 62) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，有馬保生，内田英二，秋丸琥甫：胃静脈瘤出血に対する内視鏡的硬化結紮術の検討．第12回日本肝胆膵外科学会総会，2000．5．
- 63) 加藤俊二，恩田昌彦，松田範子，松倉則夫，徳永 昭，田尻 孝：アルコール代謝酵素の遺伝的個体差と肝がんの発症．第1回がん分子疫学研究会，2000．5．
- 64) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，鳥羽昌仁¹⁾，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，金子昌裕，峯田章，平方敦史，寺田淑恵，山下精彦²⁾，隈崎達夫³⁾(¹⁾鳥羽クリニック，²⁾千葉北総病院外科，³⁾付属病院放射線科): 塞栓術に内視鏡硬化結紮術を併用した胃静脈瘤の2例．第59回日本消化器内視鏡学会総会，2000．5．
- 65) 源河敦史，恩田昌彦，古川清憲，樋口勝美，美濃部かおり，古川恵子，有馬保生：再発乳癌に対するTaxane系薬剤の使用成績．第8回日本乳癌学会総会，2000．5．
- 66) 古川清憲，恩田昌彦，源河敦史，美濃部かおり，古川恵子，有馬保生，樋口勝美：教室における炎症性乳癌の治療成績．第8回日本乳癌学会総会，2000．5．
- 67) 古川恵子，恩田昌彦，古川清憲，源河敦史，美濃部かおり，有馬保生，樋口勝美，内藤善哉¹⁾，杉崎祐一¹⁾(¹⁾付属病院病理部): 男性乳房アポクリン癌の1例．第8回日本乳癌学会総会，2000．5．
- 68) 美濃部かおり，恩田昌彦，古川清憲，樋口勝美，有馬保生，源河敦史，古川恵子，内藤善哉¹⁾，杉崎祐一¹⁾(¹⁾付属病院病理部): のう胞内液CEAが高値を示したPapillary carcinomaの1例．第8回日本乳癌学会総会，2000．5．
- 69) 廣井 信，恩田昌彦，内田英二，進士誠一，福原宗久，松下 晃，柳 健，相本隆幸，有馬保生，田尻 孝，内藤善哉¹⁾，杉崎祐一¹⁾，淺野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2): 十二指腸狭窄をきたした膵癌2症例の検討．日本肝胆膵外科関連会議，2000．5．
- 70) 平方敦史，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，吉岡正人，峯田 章，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科): 左鎖骨下動脈におけるSeldinger法によるリザーバー留置法．第21回リザーバー研究会，2000．6．
- 71) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，李 栄浩，木山輝郎，小野寺浩之，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫：胃切

- 除後のQOLと逆流現象：アンケート調査，24hr pH・胆汁逆流モニタリングによる検討．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
- 72) 加藤俊二，恩田昌彦，内藤善哉¹⁾，江上 聡，徳永 昭，清水宏之²⁾，木村 剛²⁾，秋元成太²⁾，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理第2，²⁾泌尿器科)：転移巣の病理診断にて原発巣を診断し得た前立腺癌の後腹膜腫瘍の1例．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
- 73) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，小野寺浩之，李 栄浩，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫：膠原病合併胃切除患者における周術期管理．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
- 74) 沼野藤雅，恩田昌彦，徳永 昭，松倉則夫，宮下正夫，加藤俊二，長谷川博一，吉行俊郎，木山輝郎，李 栄浩，小野寺浩之，増田剛太郎：心嚢液貯留または胸水貯留が発見契機となった早期胃癌の2例．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
- 75) 加藤俊二，恩田昌彦，松田範子，谷谷信彦，真々田裕宏，吉田 寛，松倉則夫，徳永 昭，山下精彦¹⁾，田尻孝 (¹⁾千葉北総病院外科)：肝予備能の指標としてのグルタチオン解毒酵素 (glutathione-S-transferase M1 : GSTM1) 欠損の遺伝子診断の有用性．第36回日本肝臓学会，2000．6．
- 76) 牧野浩司，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，丸山 弘，長澤重直，山下精彦¹⁾，田久保海誉²⁾ (¹⁾千葉北総病院外科，²⁾東京都老人病研究所・臨床病理部門)：食道癌切除標本から検討したT1b癌の診断，治療法．第54回日本食道疾患研究会，2000．6．
- 77) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，沖野哲也，小野寺浩之，李 栄浩，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，徳永昭：血清 *H. pylori* IgG抗体価を指標とした慢性萎縮性胃炎から胃癌への進展におよぼす免疫学的宿主因子の関与．第6回日本ヘリコバクター学会，2000．6．
- 78) 松久威史¹⁾，松倉則夫，山田宣孝²⁾ (¹⁾多摩永山病院内視鏡科，²⁾病理第2)：アジア人 (中国，タイ，ベトナム人) と日本人における *Helicobacter pylori* 感染，背景胃粘膜の観察．第6回日本ヘリコバクター学会，2000．6．
- 79) 沼野藤雅，恩田昌彦，長谷川博一，内藤善哉¹⁾，小野寺浩之，吉行俊郎，松倉則夫，徳永 昭，末岡伸夫²⁾，西垣 均²⁾，山田久木²⁾，小林正文²⁾ (¹⁾病理第1，²⁾内科第3)：胃底腺ポリープが併存した胃微小胃癌 (印環細胞癌) の1例．第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2000．6．
- 80) 鈴木英之，足立憲治，田中宣威，宮下正雄，古川清憲，恩田昌彦：腸閉塞に対する腹腔鏡下手術．中国ハルビン医科大学招待講演，2000．6．
- 81) 倉持晋久，山下直行，木内博之¹⁾，小川芳雄，瀧田雅仁，秋谷行宏，坂東功一，玉橋信彰²⁾ (¹⁾北村山公立病院外科，²⁾日本外科病理研究所)：proton pump inhibitor (PPI) 投与にて著しい形態変化を来たした，リンパ節転移を認める早期胃癌の1例．第168回日本消化器病学会東北支部例会，2000．7．
- 82) 谷谷信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，吉村和泰，河原崎秀雄¹⁾，幕内雅敏¹⁾ (¹⁾東京大学・移植グループ)：消化管穿孔，肝動脈血栓，胆汁漏出にて術直後4回再手術を行った生体部分肝移植の1例．第18回日本肝移植研究会，2000．7．
- 83) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，会田邦晴，源河敦史，美濃部かおり，田中宣威：高齢者大腸癌症例の臨床病理学的検討．第53回大腸癌研究会，2000．7．
- 84) 田中元子，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，加藤俊二，吉村和泰，鈴木英之，高橋由至，杉浦 篤，小泉岐博：5-FU系抗癌剤感受性予測の試み：生検材料のDPD，TS mRNA発現レベルと5-DFUR術前投与による腫瘍内5-FU濃度および組織学的効果との関係．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 85) 牧野浩司，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，丸山 弘，長澤重直，山下精彦¹⁾，山口敏和²⁾，野山智子²⁾ (¹⁾千葉北総病院外科，²⁾BML総合研究所)：cytokeratin19のRT-PCR法による食道癌微小転移の新しい検査法．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 86) 松下 晃，恩田昌彦，内田英二，呂 毅，廣井 信，福原宗久，柳 健，山村 進，井上松応，中村慶春，横山 正，相本隆幸，小林 匡，会田邦晴，田尻 孝，江上 格：重症急性膵炎の感染症合併のリスクファク

- ターと Selective Digestive Decontamination の治療効果の検討．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 87) 横室茂樹，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，Anthony D：胆管細胞癌と正常胆管細胞の比較：Interleukin-6 (IL-6)，HGF の役割．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 88) 沖野哲也，恩田昌彦，松倉則夫，長谷川博一，李 栄浩，小野寺浩之，木山輝郎，吉行俊郎，加藤俊二，徳永昭，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：50 代に兄弟で十二指腸潰瘍穿孔をおこした症例．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 89) 吉岡正人，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，平方敦史，寺田淑恵，田久保海誉(¹⁾東京都老人病研究所・臨床病理部門)：自己腹膜パッチによる下大静脈および門脈再建．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 90) 吉行俊郎，徳永 昭，小野寺浩之，李 栄浩，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，宮下正夫，松倉則夫，恩田昌彦：消化器癌患者の術前心機能評価：血中ナトリウム利尿ペプチド ANP，BNP，ノルエピネフリン NE の測定を用いて．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 91) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，真々田裕宏，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，水口義昭，秋丸琥甫，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化療法と結紮術併用療法の検討：血管内注入法の有無による比較検討．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 92) 宮下正夫，恩田昌彦，柳 健，清水哲也，長澤重直，牧野浩司，丸山 弘，笹島耕二，徳永 昭：消化器癌肝転移の VEGF/Endostatin Balance と Tumor Dormancy Therapy の可能性．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 93) 金沢義一，吉田初雄，湖山信篤，相楽浩哉，左近司光明，瀬谷知子，徳永 昭，田中宣威，山下精彦¹⁾，恩田昌彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：胃内内分泌細胞癌の臨床病理学的特徴．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 94) 山下直行，倉持晋久，木内博之¹⁾，小川芳雄，瀧田雅仁，秋谷行宏，坂東功一，内藤委伸¹⁾，玉橋信彰²⁾，恩田昌彦(¹⁾北村山公立病院外科，²⁾日本外科病理研究所)：腹腔内出血にて発症した胃 hemangiopericytoma の 1 例．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 95) 小泉岐博，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，会田邦晴，瀬谷知子，高橋由至，田中元子：肝切除断端に使用されるフィブリン接着剤の体内動態に対する実験的検討．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 96) 小野寺浩之，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，李 栄浩，池田研吾，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫：胃癌における TS 及び DPD 活性測定の意義．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 97) 真々田裕宏，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，谷合信彦，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，寺田淑恵，水谷 孝，増田剛太郎：中肝静脈浸潤を伴う大腸癌肝転移に対し中肝静脈合併切除後再建に腹膜パッチを用いた 1 例．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 98) 清水哲也，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，加藤俊二，鈴木英之，会田邦晴，源河敦史，丸山 弘，野村 務，勝田美和子，徳永 昭：Open Peritoneal Drainage が有用であった汎発性腹膜炎の 2 症例．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 99) 相本隆幸，恩田昌彦，有馬保生，内田英二，廣井 信，福原宗久，柳 健，松下 晃，小林 匡，横室茂樹，斎藤忠生，秋丸琥甫，田尻 孝：胆管結石症に対する腹腔鏡下胆管切石手術例の検討：特に ENBD tube の有用性について．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 100) 中村慶春，恩田昌彦，内田英二，松下 晃，柳 健，相本隆幸，有馬保生，田尻 孝，山村 進，鈴木成治，江上 格：脾癌診断における十二指腸洗浄液の有用性：K-ras 変異解析および CEA 濃度測定．第 55 回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 101) 長谷川博一，恩田昌彦，吉行俊郎，小野寺浩之，李 栄浩，沖野哲也，木山輝郎，水谷 崇，加藤俊二，松倉

- 則夫, 徳永 昭: 早期胃癌に対する腹腔鏡補助下および開腹下幽門側胃切除術の比較検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 102) 長澤重直, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 土屋喜一, 萩原信敏, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾東京都老人病研究所・臨床病理部門): 食道癌における cyclinD1 の発現と臨床病理学的検討: 術前化学療法の効果. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 103) 二見良平, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 土屋喜一, 長澤重直, 山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 術前化学療法が奏効した食道基底細胞癌の1症例. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 104) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 長澤重直, 江上 格, 山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 食道癌手術でのステロイド投与における術後栄養状態の変化. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 105) 福原宗久, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 井上松応, 相本隆幸, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2): 転移浸潤形態による膵癌の生物学的特性の変化: VEGF 発現と腫瘍増殖能の実験的解析. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 106) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田章, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科): 上腸間膜静脈: 右腎静脈巨大短絡路による肝性脳症に対し塞栓療法が有効であった1例. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 107) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 金子昌裕, 吉岡正人, 平方敦史, 秋丸琥甫, 山下精彦¹⁾, 水村 直²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾付属病院放射線科): 肝における脾静脈血流分布と各種肝機能検査および肝容積との比較. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 108) 柳 健, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2): 膵癌腹膜播種に対するサリドマイドの血管新生抑制効果の実験的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 109) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 小林 匡, 有馬保生, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 伊藤誠二, 樋口勝美¹⁾(¹⁾総合会津中央病院外科): 超高齢者(80歳以上)胆石症症例における腹腔鏡下手術の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 110) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 田中宣威: イレウスに対する腹腔鏡下手術の応用. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 111) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 李 栄浩, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫: 膠原病合併胃癌患者における術前術後管理の問題点. 第95回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 112) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 小野寺浩之, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫: 胃切除後愁訴と機能検査; アンケート調査, 24hrpH. 胆汁逆流モニタリングによる検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 113) 前澤勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏: マウス重症腹膜炎モデルにおける Th1/Th2 の動向と生存率の検討 BRM を用いて. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 114) 高崎秀明, 恩田昌彦, 求嶋裕司, 佐々部一, 横山滋彦, 美濃部かおり, 源河敦史, 会田邦晴, 鈴木英之, 吉村和泰, 古川清憲, 田中宣威, 森山雄吉: イレウス全国集計の概要. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 115) 前澤勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 秋谷行宏: マウス重症腹膜炎モデルにおける脾 Th1/Th2 の変化と血中サイトカインの検討: Biological Response Modifire を用いて. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 8.
- 116) 沖野哲也, 恩田昌彦, 松倉則夫, 李 栄浩, 小野寺浩之, 長谷川博一, 加藤俊二, 木山輝郎, 吉行俊郎, 徳永

- 昭：十二指腸潰瘍穿孔に対し保存治療後に除菌治療し6年後に再穿孔をきたした1例．潰瘍病態研究会第9回フォーラム，2000．8．
- 117) 古川大輔，恩田昌彦，二見良平，小野寺浩之，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫，徳永 昭，落 雅美¹⁾，田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 右胃大網動脈を用いたCABG(冠動脈バイパス術)後の胃癌手術の1例．外科集談会，2000．9．
- 118) 峯田 章，恩田昌彦，山下精彦¹⁾，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，水村 直¹⁾，汲田伸一郎¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科): 肝における脾静脈血流分布の検討．千駄木肝カンファレンス，2000．9．
- 119) 永井尚生¹⁾，寺田淑恵，峯 伸也¹⁾，藤原博通¹⁾，宮崎久美¹⁾，矢部 彩¹⁾，梶尾満子¹⁾，横田 隆¹⁾，原田晴仁¹⁾，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): ゲノムシークエンスによる第4番染色体長腕の肝癌関連遺伝子．第10回メディカルジェネティクス研究会，2000．9．
- 120) 寺田淑恵，永井尚生¹⁾，井本逸勢²⁾，稲澤誠治²⁾，桃井真理子³⁾，坂東功一，田尻 孝，恩田昌彦，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門，²⁾東京医歯大・難治研，³⁾自治医大・小児科): 小児肝腫瘍における染色体4番長腕のintestinal deletionの分子解析．第10回メディカルジェネティクス研究会，2000．9．
- 121) 加藤俊二，恩田昌彦，松田範子，松倉則夫，徳永 昭，田尻 孝: アルコールの代謝に關する酵素の遺伝的個体差と肝硬変，肝がん発生におよぼす影響．第11回日本消化器発癌学会，2000．9．
- 122) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，吉村和泰: 院内肝移植体制と第1例目の症例をいかにして成功に導いたか．第2回私立大学肝移植ミーティング，2000．9．
- 123) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，小野寺浩之，長谷川博一，松倉則夫，源河敦史，古川清憲: 膠原病合併腹部救急患者における周術期管理の問題点．第35回日本腹部救急学会，2000．9．
- 124) 沖野哲也，恩田昌彦，松倉則夫，李 栄浩，小野寺浩之，長谷川博一，加藤俊二，木山輝郎，吉行俊郎，徳永昭: 十二指腸潰瘍穿孔に対し保存治療後に除菌治療し6年後に再穿孔をきたした1例．第35回日本腹部救急学会総会，2000．9．
- 125) 永井尚生¹⁾，峯 伸也¹⁾，寺田淑恵，藤原博通¹⁾，宮崎久美¹⁾，矢部 彩¹⁾，梶田満子¹⁾，古口智子¹⁾，阿竹智子¹⁾，横田 隆¹⁾，原田晴仁¹⁾，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 第4番染色体長腕の肝癌関連遺伝子の検索．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 126) 古口智子¹⁾，永井尚生¹⁾，峯 伸也¹⁾，藤原博通¹⁾，寺田淑恵，宮崎久美¹⁾，矢部 彩¹⁾，阿竹智子¹⁾，横田隆¹⁾，坂東功一，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 肝癌における4q21欠失領域のゲノムシークエンシング．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 127) 江上 聡，恩田昌彦，田尻 孝，古川清憲，高崎秀明，鈴木英之，会田邦晴，源河敦史，美濃部かおり，松田明久，勝野 暁: 緊急血管造影施行し緊急手術にて救命し得た大腸憩室大量出血の2例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 128) 坂東功一，永井尚生¹⁾，寺田淑恵，松本智司，田尻 孝，恩田昌彦，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 肝癌における第16番染色体長腕の欠失地図の作製．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 129) 寺田淑恵，永井尚生¹⁾，井本逸勢²⁾，稲澤誠治²⁾，桃井真理子³⁾，坂東功一，田尻 孝，恩田昌彦，江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門，²⁾東京医歯大・難治研，³⁾自治医大・小児科): 小児肝腫瘍における遺伝子異常の解析．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 130) 内田英二，恩田昌彦，松下 晃，中村慶春，山村 進，相本隆幸，柳 健，福原宗久，廣井 信，田尻 孝，山下精彦¹⁾，江上 格(¹⁾千葉北総病院外科): 急性膵炎の早期集学的治療．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 131) 福原宗久，恩田昌彦，内田英二，廣井 信，松下 晃，柳 健，山村 進，中村慶春，横山 正，相本隆幸，

- 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 石渡俊行¹⁾(¹⁾病理第2): 実験膵癌の生物学的特性の変化: 転移浸潤形態の違いからみた VEGF 発現及び増殖能について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 132) 矢部 彩¹⁾, 永井尚生¹⁾, 寺田淑恵, 峯 伸也¹⁾, 宮崎久美¹⁾, 古口智子¹⁾, 阿竹智子¹⁾, 藤原博通¹⁾, 横田隆¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 17q25. 1上の TOC (Tylosis with oesophageal cancer) 原因遺伝子領域のゲノムシーケンシング. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 133) 里見操緒¹⁾, 武内 務¹⁾, 平泉良枝¹⁾, 米山剛一¹⁾, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 田尻 孝, 山川達郎²⁾(¹⁾付属病院産婦人科, ²⁾帝京大学溝口病院外科): 腹腔鏡下補助下でのS状結腸を利用した造脛術の経験. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 134) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 吉村和泰, シリカン山田, 右田 真¹⁾, 池崎弘之²⁾, 設楽敏朗²⁾, 寺嶋克幸²⁾(¹⁾小児科, ²⁾集中治療室): 本学第1例目の生体部分肝移植. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 135) 水口義昭, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 川野陽一, 金沢秀典¹⁾, 吉本 均¹⁾(¹⁾内科第3): 治療に難渋した門脈圧亢進症性胃腸症の1例. 第7回日本門脈圧亢進症学会総会, 2000. 9.
- 136) 松下 晃, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 廣井 信, 柳 健, 井上松応, 中村慶春, 会田邦晴, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 江上 格: 重症急性膵炎の治療戦略(臓器不全と Bacterial translocationの予防と対策). 第31回日本膵臓学会大会, 2000. 10.
- 137) 福原宗久, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 柳 健, 松下 晃, 山村 進, 中村慶春, 井上松応, 小林 匡, 相本隆幸, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 石渡俊行¹⁾(¹⁾病理第2): 膵癌の進展過程で生じる腫瘍細胞の生物学的変化: VEGF 発現および, 腫瘍増殖能に関して. 第31回日本膵臓学会大会, 2000. 10.
- 138) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 小林 匡, 会田邦晴, 有馬保生, 田尻 孝: 切除不能膵癌に対する5-FU持続動注療法の意義: clinical benefit からみた有用性. 第31回日本膵臓病学会大会 (DDW2000), 2000. 10.
- 139) 谷合信彦, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 河原崎秀雄¹⁾, 幕内雅敏¹⁾(¹⁾東京大学・移植グループ): 肝動脈血栓症を術直後3回合併した生体部分肝移植の1例. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 140) 吉行俊郎, 徳永 昭, 小野寺浩之, 田中元子, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫, 恩田昌彦: 進行・再発胃癌に対するTS-1の効果. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 141) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 小野寺浩之, 李 栄浩, 長谷川博一, 松倉則夫: 膠原病合併胃癌患者における外科手術適応の問題点. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 142) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎: ステロイド投与における創感染・創傷治癒障害: 腹膜炎ラットを用いた実験モデル. 第42回日本消化器病学会, 2000. 10.
- 143) 高橋 翼, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理第2): 硬化型と肉腫様変化を伴う肝細胞癌の1切除例. 第42回日本消化器病学会総会 (DDW-Japan2000), 2000. 10.
- 144) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 田久保海誉¹⁾(¹⁾東京都老人病研究所・臨床病理部門): 腹膜による門脈再建法. 第42回日本消化器病学会総会 (DDW2000), 2000. 10.
- 145) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 松田範子, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田章, 吉岡正人, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理第2): ラット障害肝・肝切除モデルの残肝再生における高圧酸素療法の効果: 形態学的検討から. 第42回日本消化器病学会総会 (DDW2000), 2000. 10.

- 146) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 李 栄浩, 小野寺浩之, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 徳永 昭: H. pylori除菌治療で十二指腸潰瘍穿孔は防げない. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 147) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 田尻 孝, 有馬保生, 山下精彦: 膠原病類縁疾患と消化器手術. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 148) 峯田 章, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 谷合信彦, 山本一仁, 金子昌裕, 吉岡正人, 平方敦史, 水村 直¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): 99mTc-GSA-SSPの有用性: 肝機能と脾静脈血行動態の同時評価. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 149) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 小野寺浩之, 李 栄浩, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫, 古川清憲: メタロプロテアーゼ阻害剤 (BE16627B) の消化管吻合部治癒における促進効果. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 150) 松田範子, 恩田昌彦, 秋丸琥甫, 田尻 孝, 平方敦史, 徳永 昭, 松倉則夫, 加藤俊二, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 内藤善哉: 障害肝ラット肝切除後の残肝再生に及ぼす高圧酸素療法の影響. 第4回 日本肝臓学会大会, 2000. 10.
- 151) 寺田淑恵, 永井尚生¹⁾, 坂東功一, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾(¹⁾ 老研・分子生物学部門): 小児肝腫瘍における遺伝子異常. 第4回日本肝臓学会大会, 2000. 10.
- 152) 横室茂樹, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, デメトリスアソニイ¹⁾(¹⁾ Department of Pathology, University of Pittsburgh): 胆管細胞癌と正常胆管細胞の比較: Interleukin-6 (IL-6), HGF, TGF- の役割. 第4回日本肝臓学会総会 (DDW2000), 2000. 10.
- 153) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 古川清憲: 大腸吻合部における組織修復と微小循環. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 10.
- 154) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 松田範子, 長澤重直, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾ 病理第2): 胃切除後の胃がん, 食道がん2次がん早期発見における Cytochrome p450 2E1 (CYP2E1) 遺伝子多型性分析の有用性. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 155) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小野寺浩之, 李 栄浩, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫: 胃癌根治手術不能例に対する積極的手術: 意義と問題点. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 156) 福原宗久, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 松下 晃, 柳 健, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 江上 格, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾ 病理第2): Farnesyl transferase inhibitor (FTI277), Geranylgeranyl transferase inhibitor (GGTI287), S-trans-farnesylthiocyclic acid (FTS) のハムスター膀胱癌細胞株 PGHAM-1 に対する増殖抑制効果の検討. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 157) 永井尚生¹⁾, 峯 伸也¹⁾, 藤原博通¹⁾, 寺田淑恵, 宮崎久美¹⁾, 矢部 彩¹⁾, 梶田満子¹⁾, 横田 隆¹⁾, 原田晴仁¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾ 老研・分子生物学部門): 4q21領域のゲノムシークエンシングによる肝癌関連遺伝子の検索. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 158) 松倉則夫, 恩田昌彦, 横室茂樹, シリカン山田, 加藤俊二, 松田範子, 田尻 孝, ウッティカンスポット¹⁾(¹⁾ チェンマイ大学医学部外科): 胆汁中 *Helicobacter bilis* と胆道系悪性腫瘍. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 159) 杉浦 篤, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 小泉岐博, 田中元子, 田中宣威, 瀬谷知子: 大腸癌における Thymidine Phosphorylase (TP) 活性及び術中腫瘍還流静脈 (DV) 血の検討. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 160) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 相本隆幸, 田尻 孝, 山村 進, 鈴木成治, 江上 格, ユン暁青¹⁾, 山口敏和¹⁾(¹⁾ ピーエムエル研究開発): 十二指腸洗浄液中の K-ras 変異解析および CEA 濃度測定: 膀胱癌診断における有用性. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 161) 内田英二, 恩田昌彦, 相本隆幸, 柳 健, 松下 晃, 福原宗久, 廣井 信, 会田邦晴, 斎藤忠生, 横室茂樹,

- 中村慶春, 吉田 寛, 田尻 孝: 膵頭領域腫瘍切除不能症例における消化管バイパス術の効果. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 162) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 水谷 崇, 小野寺浩之, 李 栄浩, 長谷川博一, 松倉則夫: 膠原病合併胃癌患者における手術適応の問題点. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 163) 廣井 信, 恩田昌彦, 内田英二, 福原宗久, 松下 晃, 柳 健, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 江上 聡, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 淺野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2): 膵癌の神経浸潤における神経細胞接着分子およびp53蛋白発現の関連性. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 164) 寺田淑恵, 永井尚生¹⁾, 坂東功一, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 肝芽腫における4q欠失のDNA解析. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 165) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 有馬保生, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 原発性肝癌に対する腹腔鏡下肝切除術の有用性. 第60回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 10.
- 166) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 吉田茂樹, 水谷 崇, 真々田裕宏, 相本隆幸, 中村慶春, 松下 晃, 山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 悪性胆道狭窄に対するExpandable Metallic Stent (EMS) の問題点: 特に留置方法と合併症について. 第60回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 10.
- 167) 吉行俊郎, 徳永 昭, 小野寺浩之, 李 栄浩, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 恩田昌彦, 末岡伸夫¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 小林正文¹⁾(¹⁾内科第3): 表層拡大型胃癌の内視鏡診断と胃切除範囲. 第60回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 10.
- 168) 永井尚生¹⁾, 藤原博通¹⁾, 峯 伸也¹⁾, 寺田淑恵, 宮崎久美¹⁾, 矢部 彩¹⁾, 梶田満子¹⁾, 古口智子¹⁾, 横田隆¹⁾, 原田晴仁¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 4q21領域における肝癌関連遺伝子の検索. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 169) 坂東功一, 永井尚生¹⁾, 寺田淑恵, 松本智司, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門): 肝癌における第16番染色体長腕の欠失地図の作製. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 170) 寺田淑恵, 永井尚生¹⁾, 井本逸勢²⁾, 稲澤誠治²⁾, 桃井真理子³⁾, 坂東功一, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分子生物学部門, ²⁾東京医歯大・難治研, ³⁾自治医大・小児科): 小児にみられた肝腫瘍における染色体異常の検索. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 171) 松倉則夫, 恩田昌彦, 李 栄浩, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 木山輝郎, 水谷 崇, 沖野 哲也, 小野寺浩之, 沼野藤雅, 徳永 昭: *Helicobacter pylori*感染と残胃炎, 残胃の癌. 第30回胃外科・術後障害研究会, 2000. 11.
- 172) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小野寺浩之, 野村 務, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦: 胃噴門部癌の臨床病理学的検討. 第30回胃外科・術後障害研究会, 2000. 11.
- 173) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 加藤俊二, 吉村和泰, 鈴木英之, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理第2): 5*DFUR投与によるThymidine Synthase (TS) mRNAレベルの変化と5FU系抗癌剤の投与効果. 第38回日本癌治療学会, 2000. 11.
- 174) 加藤俊二, 恩田昌彦, 田中元子, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭: 高度進行胃癌症例に対するTS1投与効果とThymidine Synthase (TS), Dihydro Pyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNAレベルの経時的変化. 第38回日本癌治療学会, 2000. 11.
- 175) 松田明久, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 源河敦史, 会田邦晴, 江上 聡, 隈崎達夫¹⁾, 田中宣威(¹⁾付属病院放射線科): 当科における下部消化管出血の診断・治療指針. 第55回日本大腸肛門病学会, 2000. 11.

- 176) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 鈴木英之, 源河敦史, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子, 小泉岐博: 切除大腸癌腫瘍内PyNPase活性の検討. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 11.
- 177) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中宣威: 潰瘍性大腸炎症例の長期経過と臨床的特徴. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 11.
- 178) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 徳永 昭: 胃癌手術後の在院死症例を減らすための反省と提言. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 179) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 長谷川博一, 加藤俊二, 高崎秀明, 宮下正夫, 古川清憲, 松倉則夫, 徳永 昭, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 虚血性心疾患を合併した胃癌症例: CABGと胃切除の一次的施行2例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 180) 金沢義一, 吉田初雄, 湖山信篤, 山下直行, 岸本昌浩, 左近司光明, 瀬谷知子, 徳永 昭, 田中宣威, 山下精彦¹⁾, 竹之下誠一, 恩田昌彦(¹⁾千葉北総病院外科): 胃内分泌細胞癌4例とその臨床. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 181) 高橋 翼, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 峯田 章, 平方敦史, 寺田淑恵: 悪性が疑われた多発性肝嚢胞の1切除例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 182) 勝野 暁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 斎藤忠生, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 福岡 猛, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 落 雅美¹⁾(¹⁾外科第2): 腹腔動脈瘤の1切除例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 183) 小野寺浩之, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 水谷 崇, 加藤俊二, 長谷川博一, 松倉則夫: SM胃癌再発例の検討. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 184) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾(¹⁾生化第2): 胃癌の遺伝子治療の現状と見通し. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 185) 松田明久, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 勝田美和子, 杉崎祐一¹⁾, 逸見しのぶ²⁾(¹⁾付属病院病理部, ²⁾病理第1): 高ガストリン血症を伴い胃癌と胃カルチノイドが同一病巣内に共存した1例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 186) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 秋丸琥甫, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵: 肝癌治療切除例における術前肝動脈塞栓術の評価. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 187) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 廣井 信, 福原宗久, 柳 健, 松下 晃, 吉岡正人, 峯田 章, 平方敦史, 小林 匡, 会田邦晴, 有馬保生, 田尻 孝: 切除不能脾癌における5-FU持続動注療法への検討: clinical benefitからみた意義. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 188) 長澤重直, 恩田昌彦, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 丸山 弘, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 土屋喜一, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 食道癌における多臓器悪性疾患の臨床病理学的検討. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 189) 内田英二, 恩田昌彦, 相本隆幸, 柳 健, 松下 晃, 福原宗久, 廣井 信, 会田邦晴, 斎藤忠生, 横室茂樹, 中村慶春, 吉田 寛, 小林 匡, 真々田裕宏, 田尻 孝: 切除不能脾頭領域腫瘍における消化管狭窄に対するバイパス手術の工夫. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 190) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 内田英二, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 相本隆幸: 胆管結石に対する標準術式: 腹腔鏡下総胆管切石術(以下LAP-CBD)における一次的連続縫合. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 191) 木山輝郎, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 吉村和泰, 谷合信彦, 真々田裕宏, 丸山 弘: 教育病院における鼠径ヘルニアの標準術式確立をめざして内鼠径輪縫縮, prosthesis onlay graft. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 192) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美, 田中宣威: エンドトキシンの血管運動性障

- 害とNOの関与．第6回日本エンドトキシン研究会，2000．11．
- 193) 丸山 弘，恩田昌彦，古川清憲，鈴木英之：大腸手術の術前抗菌薬投与の検討．第13回日本外科感染症研究会，2000．12．
- 194) 古川清憲，恩田昌彦，丸山 弘，鈴木英之：消化器外科におけるCandidaの抗真菌薬に対する感受性．第13回日本外科感染症研究会，2000．12．
- 195) 長谷川博一，恩田昌彦，吉行俊郎，沖野哲也，木山輝郎，水谷 崇，加藤俊二，松倉則夫，徳永 昭：早期胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における周術期因子の検討．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 196) 有馬保生，恩田昌彦，田尻 孝，小川芳雄，斎藤忠生，横室茂樹，野村 務，水谷 崇，相本隆幸，中村慶春：総胆管結石に対する腹腔鏡下手術の適応．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 197) 里見操緒¹⁾，明楽重夫¹⁾，竹下俊行¹⁾，荒木 勤¹⁾，田尻 孝，山川達郎²⁾(¹⁾付属病院産婦人科，²⁾帝京大学溝病院外科)：腹腔鏡補助下でのS状結腸を利用した造瘻術の経験．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 198) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，高崎英之，吉村和泰，会田邦晴，源河敦史，美濃部かおり，有馬保生，田尻 孝，田中宣威：腹腔鏡手術を施行した開腹歴のないイレウス4例．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 199) 柿沼大輔，恩田昌彦，会田邦晴，水口義昭，峯田 章，源河敦史，鈴木英之，吉村和泰，高崎秀明，古川清憲，有馬保生，内田英二，田尻 孝，田中宣威，山下精彦¹⁾，進藤智隆²⁾，二神生爾²⁾，三宅一昌²⁾，小林正文²⁾(¹⁾千葉北総病院外科，²⁾内科第3)：術前に診断し得た胆石イレウスの1例．第262回日本消化器病学会関東支部例会，2000．12．
- 200) 小野寺浩之，恩田昌彦，徳永 昭，木山輝郎，吉行俊郎：ステロイド投与により創感染・創傷治癒障害が頻発するか：腹膜炎ラットを用いた実験モデル．第30回日本創傷治癒学会，2000．12．
- 201) 平方敦史，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，松田範子，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，峯田章，吉岡正人：ラット障害肝・肝切除の肝再生における高圧酸素療法(HBO)の効果．第30回日本創傷治癒学会，2000．12．
- 202) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，小野寺浩之，李 栄浩，長谷川博一，加藤俊二，松倉則夫，古川清憲：メタロプロテアーゼ阻害剤(BE16627B)の消化管吻合部治癒における促進効果．第30回日本創傷治癒学会，2000．12．
- 203) 飯田信也，恩田昌彦，徳永 昭，池田研吾，平本義浩，吉行俊郎，松倉則夫，江上 格，山下精彦¹⁾，前田昭太郎²⁾(¹⁾千葉北総病院外科，²⁾多摩永山病院病理部)：消化管の創傷治癒：ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおける線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討．第30回日本創傷治癒学会総会，2000．12．
- 204) 松田範子，恩田昌彦，加藤俊二，平方敦史，峯田 章，吉岡正人，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，梅原松臣，田尻 孝：C型肝炎抗体陽性症例におけるp53遺伝子および薬物代謝酵素cytochrome p450 1A1(CYP1A1)遺伝子の遺伝的多様性(single nucleotide polymorphism：SNP)と肝発癌リスクとの関連．第33回日本肝臓学会東部会，2000．12．
- 205) 水口義昭，恩田昌彦，田尻 孝，有馬保生，横室茂樹，吉田 寛，真々田裕宏，水谷 崇，谷合信彦，峯田章，吉岡正人，平方敦史，川野陽一，川東 豊，内田英二，秋丸琥甫，山下精彦，山田智彦¹⁾(¹⁾厚生病院)：高CA19-9血症を示した胆石症の1例．第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2000．12．
- 206) 進士誠一，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，丸山浩司，長澤重直，土屋喜一，萩原信敏，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：術前化学放射線療法が奏効した食道扁平上皮癌の2例．外科集談会，2001．
- 207) 源河敦史，恩田昌彦，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，会田邦晴，鈴木英之，美濃部かおり，増田剛太郎，田中宣威：大腸印環細胞癌の6例．第54回大腸癌研究会，2001．1．
- 208) 加藤俊二，恩田昌彦，松倉則夫，Sirikan Y，松田範子，徳永 昭：胃酸分泌を制御するInterleukin-1(IL-1)

遺伝子多型性と胃粘膜萎縮，胃癌との関連．第2回がん分子疫学研究会，2001．3．

- 209) 山初和也，恩田昌彦，田尻 孝，秋丸琥甫，有馬保生，内田英二，横室茂樹，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，相本隆幸，松下 晃：術前に診断した胆嚢捻転症による急性胆嚢炎の1例．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．3．
- 210) 木山輝郎，恩田昌彦，徳永 昭，吉行俊郎，水谷 崇，小野寺浩之，李 栄浩，長谷川博一，松倉則夫：膠原病合併胃癌患者における外科手術適応．第73回日本胃癌学会，2001．3．
- 211) 吉行俊郎，徳永 昭，小野寺浩之，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，松倉則夫，恩田昌彦：胃癌患者の術前心機能の評価：血液検査を用いた心疾患スクリーニングの試み．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．
- 212) 山下直行，吉田初雄¹⁾，湖山信篤¹⁾，金沢義一，岸本昌浩¹⁾，左近司光明¹⁾，遠藤 濟²⁾，渡邊光行²⁾，和知栄子³⁾，竹之下誠⁴⁾，恩田昌彦⁽¹⁾慈山会医学研究所付属坪井病院 外科，²⁾同内科，³⁾同病理，⁴⁾福島県立医科大学第二外科)：胃空腸吻合術後29年目に発生した胃癌の1例．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．
- 213) 水谷 崇，恩田昌彦，徳永 昭，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，加藤俊二，宮下正夫，松倉則夫，笹島耕二：胃噴門部癌の臨床病理学的検討．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．
- 214) 徳永 昭，恩田昌彦，田尻 孝，小野寺浩之，藤田逸郎，奥田武志，牧野浩司，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，松倉則夫，峯田 章，吉田 寛：教室における肝硬変合併胃癌患者治療の現況．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．
- 215) 重原健吾，恩田昌彦，柳 健，斎藤忠生，高橋 健，相本隆幸，内田英二，田尻 孝，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：CA19-9産生性成熟型巨大後腹膜奇形種の1例．第780回外科集談会，2001．3．
- 216) 坂東功一，恩田昌彦，小川芳雄，山下直行，瀧田雅仁，秋谷行宏，倉持晋久，木内博之¹⁾(¹⁾北村山公立病院外科)：大腸癌肝転移に対する外来Weekly High Dose 5-Fluorouracil 肝動注療法の検討．第167回日本消化器病学会東北支部例会，2001．7．
- (12) サーオジカルフォーラム：
1) 沖野哲也，恩田昌彦，松倉則夫，長谷川博一，徳永 昭，五十嵐健人，鈴木 聡¹⁾，島田 隆¹⁾，稲田健一²⁾，立松正衛²⁾(¹⁾生化第2，²⁾愛知がんセンター研究所病理)：MNNG誘発ラット胃癌モデルを用いた遺伝子治療．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- (13) パラレルシンポジウム：
1) 峯田 章，恩田昌彦，山下精彦¹⁾，田尻 孝，秋丸琥甫，吉田 寛，横室茂樹，真々田裕宏，谷合信彦，山本一仁，金子昌裕，吉岡正人，平方敦史，水村 直¹⁾，汲田伸一郎¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科)：肝における脾静脈血流分布の検討．(肝画像診断法の進歩)．第36回日本肝臓学会総会，2000．6．
- (14) ビデオシンポジウム：
1) 清水一雄¹⁾，田尻 孝，北村 裕¹⁾，北川 亘¹⁾，赤須東樹¹⁾，田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2)：吊り上げ法を応用した甲状腺，上皮小体腫瘍に対する内視鏡下手術60例の経験．(乳腺・甲状腺疾患に対する内視鏡下手術)．第100回日本外科学会総会，2000．4．
2) 宮下正夫，恩田昌彦，丸山 弘：EMRSを用いた上部消化管粘膜切除．第59回日本消化器内視鏡学会総会，2000．5．
3) 田尻 孝，恩田昌彦，吉田 寛：食道・胃静脈瘤の理論的治療戦略としてのIVR(食道・胃静脈瘤の理論的治療戦略)．第59回日本消化器内視鏡学会総会，2000．5．
- (15) ビデオセッション：
1) 谷合信彦，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，峯田 章，吉岡正人，平方敦史，山下精彦¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科)：血管塞栓術合併内視鏡治療は直達手術に近づき得たか？：食道静脈瘤の長期予後における検討から．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．

- 2) 古川清憲, 恩田昌彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり: 内痔核に対する PPHの使用経験と工夫. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 10.
- (16) ミニシンポジウム:
- 1) 清水哲也, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり, 杉浦篤, 小泉岐博, 田中元子: 下血で緊急手術を施行した小腸腫瘍の1例. 第777回外科集談会, 2000. 6.
- (17) ラウンドテーブルディスカッション:
- 1) Sirikan Y, Onda M, Matsukura N, Sundo T¹⁾, Yokomuro S, Matsuda N, Kato S, Tajiri T, Wutthikan S¹⁾ (¹⁾Dep. of Surgery, Faculty of Med., Chiang Mai Univ): Detection of *Helicobacter bilis* in bile from Thai patients with adenocarcinoma of biliary tract by PCR and DNA sequencing. 第11回日本消化器癌発生学会総会, 2000. 9.
- 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 沖野哲也, 李 栄浩, 小野寺浩之, 木山輝郎, 長谷川博一, 吉行俊郎, 徳永昭, 斉藤大三¹⁾ (¹⁾国立がんセンター内視鏡科): *H. pylori*感染と高位胃癌発生リスク. 第11回日本消化器癌発生学会総会, 2000. 9.
- (18) 追加シンポジウム:
- 1) 松倉則夫, 恩田昌彦, 沖野哲也, 長谷川博一, 徳永 昭, 五十嵐健人¹⁾, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾, 稲田健一²⁾, 立松正衛²⁾ (¹⁾生化第2, ²⁾愛知県がんセンター病理): 胃癌の遺伝子治療に向けて: イヌ, ラットからのメッセージ. 第72回日本胃癌学会総会, 2000. 2.
- (19) 要望ビデオ:
- 1) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 斎藤忠生, 横室茂樹, 吉田 寛, 水谷 崇, 真々田裕宏, 野村 務, 谷合信彦: 肝硬変合併例に対する腹腔鏡下手術.(腹腔鏡手術). 第12回日本肝胆膵外科学会, 第29回日本胆道外科研究会, 第27回日本膵切研究会, 2000. 5.
- (20) 要望演題:
- 1) 真々田裕宏, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 谷合信彦, 峯田 章, 吉岡正人, 平方敦史, 寺田淑恵, 秋丸琉甫, 有馬保生, 内田英二: 原発性肝癌に対する選択的門脈塞栓術の評価. 第12回日本肝胆膵外科学会, 2000. 5.
- 2) 平方敦史, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 吉岡正人, 峯田 章, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾付属病院放射線科): B-RTO, PSE同時施行症例における食道静脈瘤に対する影響. 第7回日本門脈圧亢進症学会総会, 2000. 9.

[多摩永山病院外科]

研究概要

- (1) 臨床における問題点を研究課題として, 研究結果を臨床へフィード・バックすることにより治療成績の向上をめざしている. 研究成果を学会発表し論評をうけ, さらにこれを学術雑誌に論文掲載することにより知識の整理, 問題解決の探究心を培う.
- 1) 中心的研究対象は肝・胆・膵疾患であるが消化管, 乳腺疾患, 侵襲による生体反応である.
- 2) 基礎的研究は病理学的, 分子生物学的手法を用い病理部との共同研究により消化器疾患を対象として行っている.
- 3) 内視鏡下手術は胆石症をはじめ大腸の腫瘍, 胃疾患, 肝腫瘍, 食道疾患などほとんどすべての外科領域に行っている.
- (2) 胸部外科は平成9年に外科に併設され, 胸部疾患ならび血管病変(大動脈, 末梢動脈, 静脈疾患)に対する外科治療を中心とした臨床的研究を行っている. 胸部疾患は肺癌, 肺良性腫瘍, 縦隔腫瘍(胸腺腫など), 肺気腫, 自然気胸など年々増加の傾向を示し, 各疾患に対する鏡視下手術も積極的に取り入れ治療成績の向上を目指している.

血管病変は大動脈瘤をはじめ、閉塞性動脈硬化症、Buerger病、深部静脈血栓症、下肢静脈瘤など血管外科領域に対する治療および臨床的研究を行い治療成績の向上に努めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nisimura T¹⁾, Abe H¹⁾, Miura T¹⁾, Uchikoba T¹⁾, Tsuboi N¹⁾, Yamamoto H²⁾, Kobayashi K³⁾(¹⁾ Department of Urology Nippon Medical school, ²⁾ Department of Surgery Nippon Medical school, ³⁾ Ultrasonic Laboratory Toma Hospital): Post-voiding repeated renal ultrasonography for slight hydronephrosis detected during screening for asymptomatic microhematuria. International Journal of Urology 2000; 7: 133-138.
- 2) Nakamura Y, Egami K, Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Onda M²⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 外科学第1): Primary leiomyoma of the pancreas. International Journal of Pancreatology 2000; 28: 235-238.
- 3) Suzuki S, Moore DH¹⁾, Ginzinger DG¹⁾, Godfrey TE¹⁾, Barclay J¹⁾, Powell B¹⁾, Pinkel D¹⁾, Zaloudek C¹⁾, Lu K²⁾, Milla G²⁾, Berchuck A³⁾, Gray JW¹⁾(¹⁾ University of California San Francisco Cancer Center, ²⁾ MD Anderson Cancer Center, ³⁾ Duke University Medical Center): An approach of analysis of large-scale correlations between genome changes and clinical endpoints in ovarian cancer. Cancer Research 2000; 60: 5382-5385.
- 4) Ginzinger DG¹⁾, Godfrey TE¹⁾, Nigro J¹⁾, Suzuki S, Pallavicini MG¹⁾, Gray JW¹⁾, Jensen RH¹⁾(¹⁾ University of California San Francisco Cancer Center): Measurement of DNA copy number at microsatellite loci using quantitative PCR analysis. Cancer Research 2000; 60: 5405-5409.
- 5) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 飯田信也, 江上 格, 浅野伍朗²⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 病理学第2): 乳腺疾患の術中迅速診断: 今日的意義と問題点. 病理と臨 2000; 19: 32-40.
- 6) 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾(¹⁾ 外科学第1): 高度進行胃癌に対する術前化学療法の評価: 2つのレジメンを用いた抗腫瘍効果, 術後合併症, 生存率の検討. 日外科系連会誌 2000; 25(4): 612-6.
- 1) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 山村 進, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 内田英二²⁾, 田尻 孝²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 外科学第1): 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢 adenomyomatosis の3例. 日消外会誌 2001; 229-233.
- 2) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 恩田昌彦(¹⁾ 外科学第1): 術前診断しえた閉鎖孔ヘルニアの1例. 臨床雑誌 外科 2001; 487-489.

(2) 総説：

- 1) 吉岡正智, 江上 格, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 松田 健²⁾, 秋丸琥甫³⁾, 田尻 孝³⁾, 田中宣威⁴⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 外科学第1, ⁴⁾ 千葉北総病院外科): 膵 Solid-Pseudopapillary Tumor の臨床病理学的特徴と外科的治療: 本邦報告302例と自験6例について. 胆と膵 2001; 22(1): 45-52.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 鈴木成治, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 天神敏博¹⁾, 坂本 優²⁾, 天神美夫²⁾, 恩田昌彦³⁾, 田中茂夫¹⁾, Ginzinger JW⁴⁾, Jensen RH⁴⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院第2外科, ²⁾ 佐々木研究所附属杏雲堂病院婦人科, ³⁾ 日本医科大学外科学第1, ⁴⁾ University of San Francisco Cancer Center): CGHと定量的 real time マイクロサテライト分析法を用いた固形腫瘍の新しい遺伝子診断. 第10回日本サイトメトリー学会総会(第18回癌DNA研究会との合同シンポジウム), 2000. 8.
- 2) 萩原信敏, 江上 格, 松田 健¹⁾, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾(¹⁾ 多摩永山病院

消化器科,²⁾外科学第1): 幼児急性虫垂炎における手術のタイミング. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.

3) 宮本昌之, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 早期胃癌: 鏡視下手術の適応と問題点について. 第20回多摩消化器シンポジウム, 2001. 1.

4) 松田 健¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 高島良樹¹⁾, 柳 健¹⁾, 江上 格, 吉岡正智, 前田昭太郎²⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): 当科における胃内視鏡的粘膜切除術の検討. 第20回多摩消化器シンポジウム, 2001. 1.

(2) ワークショップ:

1) 宮本昌之, 恩田昌彦¹⁾, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本忠, 小栗 剛, 中村慶春, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 江上 格, 吉岡正智(¹⁾外科学第1): 総胆管結石症に対する腹腔鏡下総胆管切開・Tチューブ法の基本術式としての意義. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.

2) 渡邊秀裕, 江上 格, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 多重癌の臨床(胃癌例での検討). 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.

3) 渡邊秀裕, 江上 格: 高齢者胃癌症例の特徴と治療上の問題点(予後をふまえて). 第3回日本高齢消化器医学会議, 2001. 1.

(3) 一般講演:

1) Suzuki S, Ginzinger DG¹⁾, Godfrey TE¹⁾, Moore DH¹⁾, Barclay J¹⁾, Powell B¹⁾, Pinkel D¹⁾, Zaloudek C¹⁾, Berchuck A²⁾, Gray JW (¹⁾University of California San Francisco Cancer Center, ²⁾Duke University Medical Center): Genomic copy number changes measured by CGH and quantitative PCR are correlated with clinical outcome in ovarian cancer patients. AACR 91st Meeting (San Francisco), 2000. 4.

2) Egami K, Watanabe H, Wada M, Miyamoto M, Iida S, Fujita I, Suzuki S, Nakamura Y, Teramoto T, Oguri T, Yamamura S, Ishizuka T, Ikeda K, Hagiwara N, Kato K, Yoshioka M, Onda M: Laparoscopic Choledochotomy for BD-Stone. 7th World Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2000. 4.

3) Egami K, Watanabe H, Wada M, Iida S, Fujita I, Teramoto T, Nakamura Y, Yamamura S, Yoshioka M, Maeda S¹⁾, Isobe H¹⁾, Uchida E²⁾, Onda M²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾外科学第1): A Modified Procedure of Intraoperative Fine-Needle Aspiration Cytology for Pancreatic Tumors. 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association (Australia), 2000. 5.

4) Miyamoto M, Egami K, Yoshioka M, Wada M, Watanabe H, Iida S, Fujita I, Suzuki S, Nakamura Y, Teramoto T, Oguri T, Ikeda K, Ishizuka T, Yamamura S, Hagiwara N, Yoshida H¹⁾, Tajiri T¹⁾, Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): Treatment of hepatic cyst by injection of minocycline hydrochloride. 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association (Australia), 2000. 5.

5) Nakamura Y, Egami K, Yoshioka M, Wada M, Watanabe H, Miyamoto M, Iida S, Fujita I, Suzuki S, Teramoto T, Oguri T, Ikeda K, Ishizuka T, Yamamura S, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): A case of papillary cystic tumor of the pancreas complicated with aplasia of the pancreatic body and tail. 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association (Australia), 2000. 5.

6) Nakamura Y, Onda M¹⁾, Uchida E¹⁾, Matsushita A¹⁾, Yanagi K¹⁾, Aimoto T¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Arima Y¹⁾, Tajiri T¹⁾, Yamamura S, Miyamoto M, Wada M, Yoshioka M, Egami K(¹⁾外科学第1): K-ras mutations and the carcinoembryonic antigen level in duodenal lavage fluid for diagnosis of pancreatic carcinoma. 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association (Australia), 2000. 5.

- 7) Yamamura S , Onda M¹⁾, Uchida E¹⁾, Egami K , Nakamura Y (¹⁾外科学第1): The study of dissemination patterns of pancreatic cancer cells in a hamster model . 4th world congress International Hepato-Pancreato-Biliary association (Australia), 2000 . 5 .
- 8) Matsushima S , Egami K , Yamamoto H , Suzuki S , Ishizuka T , Yamamura S , Teramoto T , Hagiwara N , Miyamoto M , Hosome M¹⁾, Maeda S¹⁾, Yoshioka M , Tanaka S²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部 , ²⁾外科学第2): Evaluation of VATS for the mediastinal tumor . 7th World Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2000 . 6 .
- 9) Watanabe H , Egami K , Wada M , Miyamoto M , Iida S , Fujita I , Suzuki S , Nakamura Y , Teramoto T , Oguri T , Ishizuka T , Ikeda K , Yamamura S , Hagiwara N , Yoshioka M , Onda M¹⁾, (¹⁾外科学第1): Experience of Laparoscopic Coagulation Therapy for Hepatic Carcinoma . 7th World Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2000 . 6 .
- 10) Iida S , Egami K , Sasajima K¹⁾, Watanabe H , Miyashita M¹⁾, Wada M , Makino K¹⁾, Maruyama H¹⁾, Fujita I , Suzuki S , Nakamura Y , Teramoto T , Hagiwara N , Okihama Y²⁾, Matsuda T²⁾, Yoshioka M , Yamashita K¹⁾, Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1 , ²⁾多摩永山病院消化器科): Mediastinoscopy-assisted transhiatal esophagectomy for esophageal cancer . 7th World Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2000 . 6 .
- 11) Teramoto T , Egami K , Matsushima S , Watanabe H , Wada M , Miyamoto M , Yamamoto H , Iida S , Fujita I , Suzuki S , Nakamura Y , Oguri T , Ikeda K , Ishizuka T , Yamamura S , hagiwara N , Yoshioka M : Laparoscopically assisted colorectal surgery : seven-year experience . 7th World Congress of Endoscopic Surgery (Singapore), 2000 . 6 .
- 12) Iida S , Egami K , Maeda S¹⁾, Yoshioka M , Onda M²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部 , ²⁾外科学第1): Our Strategy for Adequate Diagnosis and Therapy of Breast Cancer . Thai-Japanese Breast Cancer Conference (Chiang Mai), 2000 . 6 .
- 13) Miyamoto M , Egami K , Yoshioka M , Wada M , Watanabe H , Iida S , Fujita I , Suzuki S , Nakamura Y , Teramoto T , Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): Laparoscopic radiofrequency ablation (RFA) for the treatment of hepatic cancer . 6th Congress of Asian Society of Epato-Biliary-Pancreatic Surgery (Hong Kong), 2001 . 2 .
- 14) Nakamura Y , Egami K , Yoshioka M , Watanabe H , Iida S , Miyamoto M , Suzuki S , Teramoto T , Yamamura S , Matsushita A¹⁾, Yanagi K¹⁾, Aimoto T¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Arima Y¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾, Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): Diagnosis of inflammatory pancreatic mass by conventional diagnostic images and K-ras mutations in duodenal lavage fluid . 6th Congress of Asian Society of Epato-Biliary-Pncreatic Surgery (Hong Kong), 2001 . 2 .
- 15) Nakamura Y , Egami K , Yoshioka M , Matsushima S , Watanabe H , Yamamoto H , Iida S , Miyamoto M , Suzuki S , Teramoto T , Ishizuka T , Yamamura S , Hagiwara N , Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): A case of adenosquamous carcinoma of the gall bladder presenting as neoplastic fever . 6th Congress of Asian Society of Epato-Biliary-Pncreatic Surgery (Hong Kong), 2001 . 2 .
- 16) Yamamura S , Egami K , Wada M , Watanabe H , Iida S , Miyamoto M , Fujita I , Suzuki S , Teramoto T , Nakamura Y , Ishizuka T , Ikeda K , Hagiwara N , Yoshioka M , Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): Laparoscopic assisted operation for congenital bile duct dilatation in child . 6th Congress of Asian Society of Epato-Biliary-Pncreatic Surgery (Hong Kong), 2001 . 2 .
- 17) Yamamura S , Egami K , Wada M , Watanabe H , Iida S , Miyamoto M , Fujita I , Suzuki S , Teramoto T , Nakamura Y , Ishizuka T , Ikeda K , Hagiwara N , Yoshioka M , Onda M¹⁾(¹⁾外科学第1): A case of long survival with MCT+EIT treatment for recurrent HCC located at right hepatic vein . 6th Congress of Asian Society of Epato-Biliary-Pncreatic Surgery (Hong Kong), 2001 . 2 .

- 18) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾, 平本義浩¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 江上 格, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 片山博徳²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾多摩永山病院病理部): 消化管の創傷治癒; ヒト十二指腸潰瘍治癒過程における増殖因子およびその受容体の局在・発現の解析. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 19) 鈴木成治, 江上 格, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 天神敏博¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾外科学第2, ²⁾外科学第1): Dual color FISH法による胃癌組織の8番染色体数異常とc-myc遺伝子コピー数増幅率の検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 20) 山村 進, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 福原宗久¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 中村慶春, 江上 格(¹⁾外科学第1): ハムスター膵癌腹膜播種におよぼすRGD peptideの転移抑制効果の検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 21) 藤田逸郎, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡辺秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 佐々部一, 山田岳史, 池田研吾, 加藤圭介, 石塚朋樹, 山村 進, 前田昭太郎¹⁾, 山下精彦²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾外科学第1): 23歳男性に発生した巨大食道平滑筋肉腫の1例. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 22) 中村慶春, 江上 格, 渡辺秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 山田岳史, 池田研吾, 山村 進, 石塚朋樹, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 膵胆管合流異常に合併した胆嚢adenomyomatosis3症例の検討. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 23) 寺本 忠, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 藤田逸郎, 中村慶春, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原 信敏: 腹腔鏡補助下大腸切除術の検討. 第13回多摩大腸疾患懇話会, 2000. 4.
- 24) 寺本 忠, 江上 格, 飯田信也, 佐々部一, 吉岡正智, 前田昭太郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院病理部): 胃癌を合併した左腋窩異所性乳癌の1例. 第8回日本乳癌学会総会, 2000. 5.
- 25) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 山村 進, 松田 健¹⁾, 内田英二²⁾, 田尻 孝²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1): 膵solid and cystic tumorの2例および本邦報告406例の臨床的検討. 第12回日本肝胆膵外科学会, 2000. 5.
- 26) 山村 進, 江上 格, 和田雅世, 渡邊秀裕, 飯田信也, 藤田逸郎, 寺本 忠, 中村慶春, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 膵胆管合流異常症を伴う先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡補助下手術の1小児例. 第12回日本肝胆膵外科学会, 2000. 5.
- 27) 宮本昌之, 恩田昌彦¹⁾, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 小栗 剛, 中村慶春, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 江上 格, 吉岡正智(¹⁾外科学第1): 消化器癌患者に対するインフォームドコンセントについて. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 28) 松島申治, 山本英希, 鈴木成治, 江上 格, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 急性完全閉塞を来した腹部大動脈例の1手術例. 第28回日本血管外科学会, 2000. 5.
- 29) 松島申治, 山本英希, 鈴木成治, 江上 格, 吉岡正智, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 胸腺腫手術例に対する予後因子の検討. 第17回日本呼吸器外科学会総会, 2000. 5.
- 30) 萩原信敏, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 中村慶春, 石塚朋樹, 山村 進, 池田研吾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 非閉塞性壊死型虚血性腸炎の1例. 第777回外科集談会, 2000. 6.
- 31) 飯田信也: 原発性肺癌と鑑別困難であった乳癌肺転移の1例. 第6回多摩乳腺懇話会, 2000. 6.
- 32) 松島申治, 山本英希, 鈴木成治, 江上 格, 吉岡正智, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 再発胸腺腫に対する臨床的検討. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 33) 松島申治, 江上 格, 山本英希, 鈴木成治, 平井恭二, 吉野直之, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 宮本昌之, 吉岡正智, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 両側自然気胸に対する臨床的検討. 第25回日本外科系連合学術集会,

2000 . 6 .

- 34) 渡邊秀裕, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 小栗 剛, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 超高齢者胃癌手術例の特徴と問題点. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000 . 6 .
- 35) 池田研吾, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 小栗 剛, 山村 進, 石塚朋樹, 吉岡正智, 谷合信彦¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 大腸癌肝転移に対する治療法の比較・検討. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000 . 6 .
- 36) 石塚朋樹, 江上 格, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡下凝固療法の実験. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000 . 6 .
- 37) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 小栗 剛, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡下凝固療法の実験. 第3回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2000 . 7 .
- 38) 寺本 忠, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 小栗 剛, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における腹腔鏡補助下結腸・直腸切除術の検討. 第3回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2000 . 7 .
- 39) 渡邊秀裕, 江上 格, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 総合的根治度 A の胃癌再発死亡例の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
- 40) 中村慶春, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 有馬保生¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山村 進, 鈴木成治, 江上 格(¹⁾外科学第1): 膵癌診断における十二指腸洗浄液の有用性: K-ras変異解析およびCEA濃度測定. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
- 41) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 松久威史¹⁾, 山田宣孝²⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾多摩永山病院内視鏡科, ²⁾病理学第2, ³⁾外科学第1): 胃癌組織における低レベルc-myc遺伝子コピー数増幅とHelicobacter pylori感染の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
- 42) 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 長澤重直¹⁾, 江上 格, 山下精彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道癌手術でのステロイド投与における術後の栄養・免疫状態の変化. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000 . 7 .
- 43) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 山村 進, 池田研吾, 石塚朋樹, 萩原信敏, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢adenomyomatosisの3例および本邦報告例の検討. 第23回日本膵管胆道合流異常研究会, 2000 . 9 .
- 44) 山村 進, 江上 格, 和田雅世, 渡邊秀裕, 飯田信也, 藤田逸郎, 寺本 忠, 中村慶春, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 先天性胆道拡張症の膵胆管合流異常例に対する腹腔鏡補助下手術の1小児例. 第23回日本膵管胆道合流異常研究会, 2000 . 9 .
- 45) 宮本昌之, 江上 格, 松島申治, 和田雅世, 渡邊秀裕, 山本英希, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における腹腔鏡下胆石症手術例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 46) 寺本 忠, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 鈴木成治, 藤田逸郎, 中村慶春, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における腹腔鏡補助下大腸切除術の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 47) 菅野華子¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 前田昭太郎³⁾, 細根 勝³⁾, 片山博徳³⁾, 磯部宏昭³⁾, 柳田裕美³⁾, 飯田信也, 江上

- 格¹⁾医学部4年,²⁾病理学第2,³⁾多摩永山病院病理部): 乳腺腫瘍に対する針生検. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 48) 松田 健¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 高島良樹¹⁾, 柳 健¹⁾, 江上 格, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科,²⁾外科学第1): 胃食道逆流症診断における自記式質問表の有用性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 49) 藤田逸郎, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 山本英希, 飯田信也, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 小栗 剛, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 特発性食道破裂の2例. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- 50) 中村慶春, 江上 格, 吉岡正智, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 内田英二¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 膵胆管合流異常に合併した高齢者重症急性膵炎の1例. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- 51) 池田研吾, 江上 格, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 中村慶春, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 外傷性十二指腸狭窄の1例. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- 52) 鈴木成治, 江上 格, 松島申治, 渡邊秀裕, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 天神敏博¹⁾, 松久威史²⁾, 山田宣孝³⁾, 田中茂夫¹⁾, 恩田昌彦⁴⁾(¹⁾外科学第2,²⁾多摩永山病院内視鏡科,³⁾病理学第2,⁴⁾外科学第1): 胃癌組織における8番染色体数の不安定性及びc-myc遺伝子コピー数増幅と*Helicobacter pylori*感染の検討. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 53) 中村慶春, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 松下 晃¹⁾, 柳 健¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山村 進, 鈴木成治, 江上 格, ユン暁青, 山口敏和(¹⁾外科学第1): 十二指腸洗浄液中のK-ras変異解析およびCEA濃度測定: 膵癌診断における有用度. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 54) 山村 進, 江上 格, 吉岡正智, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 山本英希, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 中村慶春, 池田研吾, 石塚朋樹, 萩原信敏, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 肝癌に対する腹腔鏡下凝固療法への検討. 第19回 Microwave Surgery 研究会, 2000. 10.
- 55) 渡邊秀裕, 江上 格, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 中村慶春, 寺本 忠, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1): リンパ節転移からみた早期胃癌. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 56) 鈴木成治, 江上 格, 渡邊秀裕, 和田雅世, 宮本昌之, 飯田信也, 藤田逸郎, 中村慶春, 寺本 忠, 天神敏博¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾外科学第2,²⁾外科学第1): 胃癌における低レベル及び高レベルc-myc遺伝子コピー数増幅から見た腫瘍内heterogeneityについて. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 57) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾, 平本義浩¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下精彦¹⁾, 江上 格, 吉岡正智, 沖浜裕司²⁾, 松田 健²⁾, 前田昭太郎³⁾, 細根 勝³⁾, 片山博徳³⁾(¹⁾外科学第1,²⁾多摩永山病院消化器科,³⁾同病理部): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおける線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 58) 中村慶春, 江上 格, 恩田昌彦¹⁾, 吉岡正智, 渡邊秀裕, 和田雅世, 飯田信也, 宮本昌之, 藤田逸郎, 鈴木成治, 寺本 忠, 小栗 剛, 池田研吾, 石塚朋樹, 山村 進, 萩原信敏, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 有馬保生¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 腫瘍形成性膵炎の画像所見による検討. 第31回日本膵臓学会大会, 2000. 10.
- 59) 松島申治, 江上 格, 山本英希, 鈴木成治, 吉岡正智, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 膠原病を合併した肺癌の臨床病理学的検討. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 60) 山本英希, 松島申治, 江上 格, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科学第2): 高齢者(80歳以上)に対する肺癌治療. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 61) 山本英希, 松島申治, 渡邊秀裕, 和田雅世, 江上 格: 大腸癌肺転移切除症例の検討. 第55回日本大腸肛門病

学会総会，2000．11．

- 62) 中村慶春，江上 格，渡邊秀裕，和田雅世，飯田信也，宮本昌之，藤田逸郎，鈴木成治，寺本 忠，小栗 剛，細根 勝¹⁾，前田昭太郎¹⁾，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾外科学第1)：不明熱により発症した胆嚢腺扁平上皮癌の1例．第62回日本臨床外科学会総会，2000．11．
- 63) 松田 健¹⁾，江上 格，沖浜裕司¹⁾，松島申治，渡邊秀裕，和田雅世，山本英希，飯田信也，宮本昌之，藤田逸郎，鈴木成治，中村慶春，寺本 忠，吉岡正智，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科，²⁾外科学第1)：小児虫垂炎手術例の検討：とくに5歳以下の幼児例を中心として．第62回日本臨床外科学会総会，2000．11．
- 64) 寺本 忠，江上 格，吉岡正智，松島申治，渡邊秀裕，和田雅世，山本英希，宮本昌之，飯田信也，鈴木成治，藤田逸郎，中村慶春，池田研吾，石塚朋樹，山村 進，萩原信敏：腹腔鏡下大腸手術の検討．第13回多摩大腸疾患懇話会，2000．11．
- 65) 飯田信也，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，池田研吾，平本義浩¹⁾，吉行俊郎¹⁾，松倉則夫¹⁾，江上 格，山下精彦¹⁾，前田昭太郎²⁾(¹⁾外科学第1，²⁾多摩永山病院病理部)：ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおける線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討．第30回日本創傷治癒学会，2000．12．
- 66) 松島申治，江上 格，山本英希，鈴木成治，山村 進，石塚朋樹，萩原信敏，寺本 忠，宮本昌之，池田研吾，前田昭太郎¹⁾，吉岡正智，田中茂夫²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾外科学第2)：縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下治療の検討．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 67) 中村慶春，江上 格，渡邊秀裕，石塚朋樹，松島申治，和田雅世，山本英希，飯田信也，宮本昌之，藤田逸郎，鈴木成治，寺本 忠，池田研吾，萩原信敏，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1)：肝癌に対する腹腔鏡下凝固療法の実験．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 68) 寺本 忠，江上 格，吉岡正智，渡邊秀裕，和田雅世，宮本昌之，飯田信也，鈴木成治，藤田逸郎，中村慶春，池田研吾，石塚朋樹，山村 進，萩原信敏，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1)：当科での腹腔鏡補助下大腸切除術の検討．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 69) 山村 進，江上 格，和田雅世，渡邊秀裕，飯田信也，宮本昌之，藤田逸郎，鈴木成治，寺本 忠，中村慶春，石塚朋樹，池田研吾，萩原信敏，吉岡正智，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1)：先天性胆道拡張症の膵胆管合流異常例に対する腹腔鏡補助下手術の2小児例．第13回日本内視鏡外科学会総会，2000．12．
- 70) 石塚朋樹，江上 格，松島申治，渡邊秀裕，長谷川博一，山本英希，飯田信也，宮本昌之，中村 孝，鈴木成治，中村慶春，寺本 忠，下村隆保，山村 進，萩原信敏，川原理子，吉岡正智：腹腔鏡下胃手術例の臨床的検討．第4回日本医科大学内視鏡手術懇話会，2001．1．
- 71) 飯田信也，江上 格，松島申治，渡邊秀裕，長谷川博一，山本英希，宮本昌之，中村 孝，鈴木成治，中村慶春，寺本 忠，下村隆保，石塚朋樹，山村 進，萩原信敏，吉岡正智：当科における大腸吻合．第1回多摩消化器手術手技研究会，2001．2．
- 72) 渡邊秀裕，江上 格，宮本昌之，飯田信也，藤田逸郎，鈴木成治，中村慶春，寺本 忠，石塚朋樹，山村 進，萩原信敏，吉岡正智，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科学第1)：残胃における発癌：臨床例での検討．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．
- 73) 鈴木成治，江上 格，渡邊秀裕，宮本昌之，飯田信也，藤田逸郎，中村慶春，寺本 忠，細根 勝¹⁾，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾外科学第1)：非MALT型胃原発性悪性リンパ腫5例の検討．第73回日本胃癌学会総会，2001．3．

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし，それらに関する研究と，幅広い視野・能力を有する

臨床医の養成を目指している。現在、地域中核病院の診療科として、消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている。

- 1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管の内視鏡検査件数も増え続けているが、それらの検査診断技術の向上に努めている。
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている。早期癌の内視鏡的治療、総胆管結石・肝内結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努力している。
- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法（5-ASA注腸療法など）を中心とした臨床研究を続けている。
- 4) イレウス、腹膜炎等、急性腹症の病態と治療について、研究を継続中である。
- 5) 肝硬変症、門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により、放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている。
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法、肝細胞癌に対する治療についても、症例を蓄積中である。
- 7) GERD (Gastro-esophageal Reflux Disease) についての臨床研究を継続している。

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著：

- 1) 高橋由至¹⁾、恩田昌彦¹⁾、松田 健、内田英二¹⁾、田尻 孝¹⁾、山下精彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 胆管、胃、脾に同時発生した三重複癌の1切除例。臨床外科 1999 ; 54 : 829-832 .

(1) 原著：

- 1) Yanagi K , Onda M¹⁾ , Uchida E¹⁾ (¹⁾ First Department of Surgery, Nippon Medical School): Effect of angiostatin on liver metastasis of pancreatic cancer in hamsters . Jpn. J. Cancer Res. 2000 ; 91 : 723-730 .
- 2) Okihama Y , Onda M¹⁾ , Fujita I , Teramoto T , Matsuda T , Iida S²⁾ , Wada M²⁾ , Egami K²⁾ , Yoshioka M²⁾ (¹⁾ Department of Surgery I, Nippon Medical School , ²⁾ Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School): Successful removal of a stone and an expandable metallic stent from the biliary tract of a patient with acute occlusive pyogenic cholangitis . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (5) : 380-383 .
- 3) Matsuda T , Okihama Y , Egami K¹⁾ , Wada M¹⁾ , Yoshioka M¹⁾ , Maeda S²⁾ , Onda M³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , ²⁾ Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School , ³⁾ First Department of Surgery, Nippon Medical School): Complete cure of malignant lymphoma of the stomach with a huge adrenal lesion achieved by preoperative chemotherapy and surgery . Surgery Today 2001 ; 31 : 62-67 .
- 4) 佐々部一、沖浜裕司、松田 健、金沢義一、江上 格¹⁾、和田雅世¹⁾、吉岡正智¹⁾、恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科、²⁾外科学第1): 消化性潰瘍手術症例の検討。多摩消化器シンボ誌 2000 ; 14 : 21-29 .
- 5) 佐々部一、恩田昌彦¹⁾、田中宣威¹⁾、横山滋彦¹⁾(¹⁾外科学第1): 癒着性イレウスにおける選択的小腸内圧測定の意義。日消外会誌 2000 ; 33 : 1473-1482 .
- 6) 柳 健、恩田昌彦¹⁾、田尻 孝¹⁾、内田英二¹⁾、斎藤忠生¹⁾、高橋 健¹⁾(¹⁾外科学第1): 成人にみられたCA19-9産生性成熟型巨大後腹膜奇形腫の1例。日臨外会誌 2000 ; 61 : 3385-3389 .

(2) 総説：

- 1) 沖浜裕司：潰瘍性大腸炎の5-aminosalicylic acid (5-ASA) 療法。J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2) : 158-158 .
- 2) 吉岡正智¹⁾、江上 格¹⁾、前田昭太郎²⁾、片山博徳²⁾、松田 健、内田英二³⁾、秋丸琥甫³⁾、田尻 孝³⁾、田中

宣威³⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): 膵solid-pseudopapillary tumorの臨床病理学的特徴と外科的治療: 本邦報告302例と自験6例について. 胆と膵 2001; 22: 45-52.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 萩原信敏¹⁾, 江上 格¹⁾, 松田 健, 松島申治¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 幼児急性虫垂炎における手術のタイミング. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- 2) 松田 健, 沖浜裕司, 高島良樹, 柳 健, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): 当科における胃内視鏡的粘膜切除術の検討. 第20回多摩消化器シンポジウム, 2001. 1.

(2) 一般講演:

- 1) Egami K¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Wada M¹⁾, Watanabe H¹⁾, Iida S¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Fujita I¹⁾, Suzuki S¹⁾, Teramoto T¹⁾, Yamamura S¹⁾, Matsuda T, Yoshioka M¹⁾, Uchida E²⁾, Onda M²⁾(¹⁾Departments of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ²⁾Department of Surgery I, Nippon Medical School): Solid and cystic tumor of the pancreas (SCT): Report of 2 cases and clinical analysis of 406 cases collected from the Japanese literature. 6th Congress of Asian Society of Hepat-Biliary-Pancreatic Surgery (Hong Kong), 2001. 2.
- 2) 沖浜裕司, 松田 健, 松谷 毅, 土屋喜一: 腹腔: 鎖骨下静脈シャント術が奏効した難治性腹水の1例. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 3) 中村慶春¹⁾, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 和田雅世¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 飯田信也¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 山村進¹⁾, 松田 健, 内田英二²⁾, 田尻 孝²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 膵solid cystic tumorの2例および本邦報告406例の臨床的検討. 第12回肝胆膵外科学会総会, 2000. 5.
- 4) 柳 健, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 廣井 信¹⁾, 福原宗久¹⁾, 松下 晃¹⁾, 山村 進¹⁾, 中村慶春¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾病理学第2): 膵癌腹膜播種に対するサリドマイドの血管新生抑制効果の実験的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 5) 松田 健, 沖浜裕司, 沖浜裕司, 高島良樹, 柳 健, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1)(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 胃食道逆流症診断における自記式質問表の有用性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 6) 佐藤綾子¹⁾, 井上一夫¹⁾, 久保田稔¹⁾, 田所久子¹⁾, 手嶋浩恵¹⁾, 杉原秀人¹⁾, 水谷行伸¹⁾, 酒井貴史¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木 健¹⁾, 沖浜裕司, 松田 健(¹⁾多摩永山病院中央検査室): 膵頭部に仮性嚢胞を伴った慢性膵炎の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 7) 沖浜裕司, 松谷 毅, 土屋喜一, 松田 健, 渡邊秀裕¹⁾, 和田雅世¹⁾, 飯田信也¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 中村慶春¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 内視鏡用画像データベースシステムを汎用コンピュータで構築した運用経験と実用性. 第60回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 10.
- 8) 吉川雅智¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 山中博之¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 鈴木 健¹⁾, 新 博次¹⁾, 長澤絏一¹⁾, 松田 健, 沖濱裕司(¹⁾多摩永山病院内科): 腸管外合併症の発症を契機に診断に至った潰瘍性大腸炎の1例. 第485回日本内科学会関東地方会, 2000. 10.
- 9) 飯田信也¹⁾, 恩田昌彦²⁾, 徳永 昭²⁾, 池田研吾²⁾, 平本義浩²⁾, 木山輝郎²⁾, 吉行俊郎²⁾, 松倉則夫²⁾, 山下精彦²⁾, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 沖浜裕司, 松田 健, 前田昭太郎³⁾, 細根 勝³⁾, 片山博徳³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1, ³⁾多摩永山病院病理部): 消化管の創傷治癒: ヒト十二指腸潰瘍治癒メカニズムにおけ

る線維芽細胞増殖因子およびその受容体の役割の検討。第42回日本消化器病学会，2000。10。

- 10) 松田 健, 江上 格¹⁾, 沖浜裕司, 松島申治¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 和田雅世¹⁾, 山本英希¹⁾, 飯田信也¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 中村慶春¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 小児虫垂炎手術例の検討: とくに5歳以下の幼児例を中心として。第62回日本臨床外科学会総会, 2000。11。
- 11) 松久威史¹⁾, 松田 健, 桑原健太郎²⁾, 松倉則夫³⁾, 山田宣孝⁴⁾, Boonyaritichai Kij S⁵⁾(¹⁾多摩永山病院内視鏡科, ²⁾千葉北総病院小児科, ³⁾外科学第1, ⁴⁾病理学第2, ⁵⁾Chiang Mai 大学家庭医学): タイ王国における小児の *Helicobacter pylori* 感染。第5回日本小児ヘリコバクター・ピロリ研究会, 2001。3。
- 12) 中村慶春¹⁾, 恩田昌彦²⁾, 内田英二²⁾, 松下 晃²⁾, 福原宗久²⁾, 廣井 信²⁾, 山村 進²⁾, 相本隆幸²⁾, 有馬保生²⁾, 田尻 孝²⁾, 山下精彦²⁾, 吉岡正智¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 飯田信也¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 松田 健, 江上 格¹⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 十二指腸洗浄液中 K-ras 変異解析および CEA 濃度測定: 痔瘻診断における有用性。第61回日本消化器内視鏡学会総会, 2001。5。
- 13) 高島良樹, 沖浜裕司, 松田 健, 永嶋裕司, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 山下精彦²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 盲腸憩室出血に対して緊急動脈塞栓術が奏功した1例。第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001。6。
- 14) 松田 健, 沖浜裕司, 永嶋裕司, 高島良樹, 江上 格¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 山下精彦²⁾, 恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 5アミノサリチル酸注腸療法が奏功した潰瘍性大腸炎の1例: 内視鏡所見を中心として。第72回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2001。6。

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い, 治療成績を中心としてその成果を学会および学会誌で報告している。開院後7年目であるが, 外来・入院患者とも徐々に増加し, それに伴い本年度年間手術件数は約700例であった。来年度はさらに増える見通しで地域における基幹病院として, また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し, その重責を担っていると自負している。

1) 胃癌, 大腸癌さらに肝胆膵の癌を中心とした消化器癌に乳癌, 甲状腺癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で, 特に食道, 胃, 大腸癌が多く, これらに対し手術, 化学療法を組み合わせた集学的治療を行っている。また胃, 大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行なっているが, 腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ胃, 大腸腫瘍にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている。

2) 良性疾患には従来の手技・手法を基本に, 新しい手技を取り入れている。

3) 院内において内科と合同 conference を定期的に行っており, 個々の症例について臨床的検討をより深めている。

研究業績

論文

(1) 原著:

1) Galateau-Salle FB, Lana RE, Horiba K, Sheppard MN, Hayashi T, Fleming MV, Colby TV, Bennett W, Harris CC, Stetler-Stevenson WG, Liotta L, Ferrans VJ, Trais WD: Matrix metalloproteinases and tissue inhibitors of metalloproteinases in bronchial squamous preinvasive lesions. Human Pathology 2000; 31(3): 296-305。

2) Fujimori S¹⁾, Kisida T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Shibata Y¹⁾, Shinozawa I¹⁾, Tanaka S¹⁾, Hoshino T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sato J¹⁾, Yoshida Y¹⁾, Yokoi K²⁾, Tanaka N²⁾, Ohaki Y³⁾, Sakamoto C¹⁾, Kobayashi M¹⁾(¹⁾3rd

Dept. of Internal Medicine , ²⁾ 1st Dept. of Surgery , ³⁾ Dept. of Pathology) : Mean Corpuscular Volume May Be a Useful Index of Risk for Colorectal Adenoma in Middle-Aged Japanese . The American Journal of Gastroenterology 2000 ; 95 (3) : 793-797 .

- 3) Sakurazawa N¹⁾ , Tanaka N²⁾ , Onda M²⁾ , Esumi H¹⁾ (¹⁾ Investigative Treatment Division, National Cancer Res. Inst. , ²⁾ 1st Dept. of Surgery, Nippon Med. School) : Instability of X Chromosome Methylation in Aberrant Crypt Foci of the Human Colon . Cancer Research 2000 ; 60 (6) : 3165-3169 .
- 4) Takahashi Y , Onda M , Tanaka N , Seya T : Establishment and characterization of two new rectal neuroendocrine cell lines . Digestion 2000 ; 62 (4) : 262-270 .
- 5) 高橋由至 , 恩田昌彦 , 田中宣威 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 吉村和泰 , 会田邦晴 : 上行結腸に発生した内分泌細胞癌の1例 . 日臨外会誌 2000 ; 61 (6) : 1497-1501 .

(2) 総説 :

- 1) 吉岡正智¹⁾ , 江上 格¹⁾ , 前田昭太郎²⁾ , 片山博徳²⁾ , 松田 健³⁾ , 内田英二⁴⁾ , 秋丸琥甫⁴⁾ , 田尻 孝⁴⁾ , 田中宣威⁵⁾ , 恩田昌彦⁴⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科 , ²⁾ 同病理 , ³⁾ 同消化器科 , ⁴⁾ 外科第1 , ⁵⁾ 千葉北総病院外科) : 膵 Solid-Pseudopapillary Tumor の臨床病理学的特徴と外科的治療 : 本邦報告302例と自験6例について . 胆と膵 2001 ; 22 (1) : 45-52 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Tanaka N , Seya T , Yamashita K , Kyohno S , Yokoi K , Ishikawa N , Koizumi M , Takahashi Y , Yoshimura K¹⁾ , Takasaki H¹⁾ , Onda M¹⁾ (¹⁾ 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School) : Autonomic Nerve Preservation Combined to Extended Lateral Lymphadenectomy for Advanced Rectal Cancer . 35th Congress of the European Society for Surgical Research (ESSR) (Malmö, Sweden) , 2000 . 6 .
- 2) Seya T , Tanaka N , Yamashita K , Yokoi K , Ishikawa N , Takahashi Y , Koizumi M , Yamada T¹⁾ , Kanazawa Y¹⁾ , Kan H¹⁾ , Yoshimura K¹⁾ , Takasaki H¹⁾ , Onda M¹⁾ , Asano G²⁾ , Naitoh Z²⁾ (¹⁾ 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School , ²⁾ 2nd Dept. of Pathology, Nippon Medical School) : P53, P21 and P27 expression in colorectal advanced cancer . 8th United European Gastroenterology Week (Brussels, Belgium) , 2000 . 11 .
- 3) Tanaka N , Seya T , Ishikawa N , Yokoi K , Kyono S , Yamashita K , Koizumi M , Takahashi Y , Yoshimura K¹⁾ , Takasaki H¹⁾ , Onda M¹⁾ , Naitoh Z²⁾ , Asano G²⁾ (¹⁾ 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School , ²⁾ 2nd Dept. of Pathology, Nippon Medical School) : Expression of Type IV Collagen and Matrix Metalloproteinase-9 in Colorectal Cancer . 8th United European Gastroenterology Week (Brussels, Belgium) , 2000 . 11 .
- 4) Seya T , Tanaka N , Yamashita K , Yokoi K , Ishikawa N , Takahashi Y , Koizumi M , Takasaki H¹⁾ , Yoshimura K¹⁾ , Kanazawa Y¹⁾ , Kan H¹⁾ , Yamada T¹⁾ , Onda M¹⁾ , Naitoh Z²⁾ , Asano G²⁾ (¹⁾ 1st Dept. of Surgery, Nippon Medical School , ²⁾ 2nd Dept. of Pathology, Nippon Medical School) : Effect of Octreotide and 5-Fluorouracil on the Human Rectal Neuroendocrine Carcinoma in Nude Mice . 8th United European Gastroenterology Week (Brussels, Belgium) , 2000 . 11 .
- 5) 瀬谷知子 , 田中宣威 , 山下精彦 , 京野昭二 , 横井公良 , 石川紀行 , 小泉岐博¹⁾ , 高橋由至¹⁾ , 山田岳史¹⁾ , 金沢義一¹⁾ , 吉村和泰¹⁾ , 恩田昌彦¹⁾ , 内藤善哉²⁾ , 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 外科第1 , ²⁾ 病理第2) : 大腸癌における p21 , p53 の発現 . 第100回日本外科学会総会 , 2000 . 4 .
- 6) 田中宣威 , 恩田昌彦¹⁾ , 瀬谷知子 , 石川紀行 , 横井公良 , 京野昭二 , 山下精彦 , 古川清憲¹⁾ , 高崎秀明¹⁾ , 高橋由至¹⁾ , 小泉岐博¹⁾ , 内藤善哉²⁾ , 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 外科第1 , ²⁾ 病理第2) : 大腸癌における MMP-9 の発現と予後 . 第100回日本外科学会総会 , 2000 . 4 .

- 7) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 加藤俊二, 吉行俊郎, 鈴木英之, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 松倉則夫, 徳永 昭: 生検材料の Dihydro Pyrimidine Dehydrogenase (DPD) mRNA 発現レベルによる抗癌剤効果予測の可能性. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 8) 小泉岐博, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 田中元子, 浅野伍朗¹⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理第2): 直腸 neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 細胞株における octreotide の増殖抑制効果の検討. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 9) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): イレウスに対する腹腔鏡下手術の応用. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 10) 高崎秀明, 恩田昌彦, 永嶋裕司, 佐々部 一, 横山滋彦, 美濃部かおり, 源河敦史, 会田邦晴, 鈴木英之, 吉村和泰, 古川清憲, 田中宣威, 森山雄吉: イレウス全国集計の概要. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 11) 小泉岐博, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 鈴木英之, 杉浦 篤, 田中元子, 田中宣威¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 高橋由至¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 肝切除断端にしようされるフィブリン接着剤の体内動態に対する実験的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 12) 金沢義一¹⁾, 吉田初雄¹⁾, 湖山信篤¹⁾, 相楽浩哉¹⁾, 左近司光明¹⁾, 瀬谷知子²⁾, 徳永 昭³⁾, 田中宣威²⁾, 山下精彦²⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾坪井病院外科, ²⁾日本医科大学付属千葉北総病院 外科, ³⁾日本医科大学外科第1): 胃内分泌細胞癌の臨床病理学的特徴. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 13) 田中元子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 加藤俊二, 吉村和泰, 鈴木英之, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理第2): 5Fu系抗癌剤感受性予測の試み: 生検材料の DPD, TSmRNA レベルと 5'FU 術前投与による効果. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 14) 小泉岐博¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 田中宣威²⁾, 瀬谷知子²⁾, 高橋由至²⁾(¹⁾付属病院第1外科, ²⁾千葉北総病院外科): 肝切除断端に使用されるフィブリン接着剤の体内動態に対する実験的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 15) 松田明久, 恩田昌彦, 田尻 孝, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 源河敦史, 会田邦晴, 江上 聡, 隈崎達夫¹⁾, 田中宣威²⁾(¹⁾放射線科, ²⁾千葉北総病院外科): 当科における下部消化管出血の診断・治療指針. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 9.
- 16) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 会田邦晴, 源河敦史, 美濃部かおり, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中元子, 江上 聡, 松田明久, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 潰瘍性大腸炎症例の長期経過と臨床的特徴. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 9.
- 17) 吉村和泰, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 会田邦晴, 鈴木英之, 源河敦史, 美濃部かおり, 杉浦 篤, 小泉岐博, 田中宣威¹⁾千葉北総病院外科): 切除大腸癌腫瘍内 PyNPase 活性の検討. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 9.
- 18) 石川紀行, 田中宣威, 京野昭二, 横井公良, 瀬谷知子, 山下精彦: 手の軟部組織に転移を来した直腸癌の1症例. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 9.
- 19) 田中宣威, 瀬谷知子, 横井公良, 山下精彦, 田中元子¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 高橋由至¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 古川清憲¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾病理第2): 大腸癌における MMP-9 および IV 型 collagen の発現と予後との関係. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 20) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 山下精彦, 小泉岐博¹⁾, 高橋由至¹⁾, 金沢義一¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 古川清憲¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾病理第2): ノードマウス可移植性ヒト直腸内分泌細胞癌に対する Octreotide acetate, 5-Fu の抗腫瘍効果. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 21) 杉浦 篤, 恩田昌彦, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 小泉岐博, 田中元子, 田中宣威¹⁾, 瀬谷知子¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 大腸癌における Thymidine Phosphorylase (TP) 活性および術中腫瘍還流静脈 (DV) 血の

検討．第59回日本癌学会総会，2000．10．

- 22) 横井公良，山下精彦，田中宣威，京野昭二，石川紀行，瀬谷知子，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科第1): GIST に対する術式の検討．第62回日本臨床外科学会総会，2000．11．
- 23) 京野昭二，山下精彦，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，奥田武志，堀場光二，松本智司，桜澤信行，高橋由至，小泉岐博，李 栄浩，増田剛太郎，柏原 元(¹⁾千葉北総病院外科): 早期胃癌の治療法の選択：EMRの適応拡大に必要な指標は．第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2000．12．
- 24) 瀬谷知子，田中宣威，京野昭二，横井公良，樋口勝美，石川紀行，堀場光二，松本智司，高橋由至，桜沢信行，小泉岐博，李 栄浩，山下精彦，恩田昌彦¹⁾(¹⁾外科第1): 成人腸重積症の2例．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．2．

10．外科学第二講座

[付属病院第 2外科]

研究概要

外科学第二講座は付属病院第二外科，付属第二病院外科，付属第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部外科，多摩永山病院胸部外科，多摩永山病院内視鏡センターの各施設において教育，研究，診療を担っている。

付属病院第二外科では以下の項目を重点的に研究している。

1) 心臓血管外科では年間約250例の開胸術を行い，虚血性心疾患が最も多く，続いて先天性心疾患，心臓弁膜疾患，胸部大動脈瘤がこれに次ぐ。したがって，心筋保護領域の研究が多い。また，不整脈外科の研究は教室では特に力を注いでおり，新しい研究発表も多い。胸部大動脈瘤の手術症例数も多く，脳保護，骨髄神経保護の研究も多い。

2) 呼吸器外科領域では，悪性腫瘍の手術症例が多い。近年，QOLの改善を目的とした低侵襲手術に注目し，Video assisted thoracoscopic surgery (VATS) による手術成績の評価は，外部からも注目されている。臨床例における randomized study も計画している。腫瘍学の領域では従来からの FISH 法による研究も継続しており，研究発表も多数おこなっている。

3) 内分泌外科領域では年間約150例の手術をおこなっている。特に内視鏡下手術として，甲状腺腫瘍摘出術に，Video assisted neck surgery (VANS) を国内では最も早く取り組み，全国各地からの紹介患者も多い。また，海外からの問い合わせも多く，世界各地での学会発表も頻回におこなっている。その他，8名の海外留学者が，それぞれ異なった分野で研究活動を継続している。研究分野は，心筋保護，不整脈の発生，停止のメカニズム，臓器移植の基礎的研究などである。いずれの領域も世界的にも最先端を行く施設での研究であり，将来的には帰国後の成果は十分に期待しうるものと思われる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ochi M, Ogasawara H, Ishii Y, Fujii M, Saji Y, Tanaka S : Coronary bypass surgery using the internal thoracic artery after reconstruction of the occluded subclavian artery . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2000 ; 48 : 524-527 .
- 2) Kitamura Y, Shimizu K, Tanaka S, Ito K, Emi M : Allelotyping of Anaplastic Thyroid Carcinoma : Frequent Allelic Losses on 1q. 9p. 11. 17. 19p. and 22q . Genes Chrom Cancer 2000 ; 27 : 244-251 .
- 3) Emoto N, Shimizu K, Onose H, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I : A subpopulation of FGF-2-binding heparin sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas . Thyroid 2000 ; 10 : 843-849 .
- 4) Hayashi M, Kobayashi Y, Miyauchi Y, Morita N, Iwasaki Y, Yashima M, Atarashi H, Takano T, Nitta T, Tanaka S (¹ 第一内科) : Analysis of posterior mitral annular activation during entrainment and catheter ablation of mitral isthmus ventricular tachycardia using a coronary sinus catheter . J Interv Cardiac Electrophysiology 2000 ; (4) : 427-434 .
- 5) Kitamura Y, Shimizu K, Tanaka S, Ito K, Emi M : Association of Allelic Loss on 1q. 4p. 7q. 9p. 9q. and 16q with Postoperative Death in Papillary Thyroid Carcinoma . Clinical Cancer Research 2000 ; 6 : 1819-1825 .
- 6) Yamauchi H : Efficacy of leukocyte depleted terminal blood cardioplegia in congenital heart disease . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2000 ; 48 (7) : 435-439 .
- 7) Hatori N, Segawa D¹⁾, Hinokiyama K¹⁾, Kimura T¹⁾, Iizuka Y¹⁾, Ochi M, Tanaka S (¹ National Defense

- Medical College): Effects of Ischemic Preconditioning and Synchronized Coronary Venous Retroperfusion in an Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting Model . *Artificial Organs* 2000 ; 25 (1): 47-52 .
- 8) Ochi M , Yamada K , Ishii Y , Okasawara H , Fujii M , Yajima T , Kanno S , Tanaka S : Impact of sequential grafting of the internal thoracic or right gastroepiploic arteries on multiple coronary revascularization . *Cardiovascular Surgery* 2000 ; 8 (5): 386-392 .
- 9) Hatori N , Takeshima S¹⁾ , Aoki T¹⁾ , Hinokiyama K¹⁾ , Haraguchi S , Ochi M , Yoshizu H¹⁾ , Tanaka S¹⁾ (¹⁾ National Defense Medical College): Effectiveness of Prostaglandin E1 on Pulmonary Hypertension and Right Cardiac Function Induced by Single-Lung Ventilation and Hypoventilation . *Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery* 2000 ; 6 (4): 236-241 .
- 10) Hatori N , Havu N¹⁾ , Hofman-Bang C¹⁾ , Clyne N¹⁾ , Pehrsson SK¹⁾ (¹⁾ Karolinska Institute): Myocardial Morphology and Cardiac Function in Rats With Renal Failure . *Japanese Circulation Journal* 2000 ; 64 (8): 606-610 .
- 11) Fujita M¹⁾ , Hatori N , Shimizu M¹⁾ , Yoshizu H¹⁾ , Segawa D¹⁾ , Kimura T¹⁾ , Iizuka Y¹⁾ , Tanaka S¹⁾ (¹⁾ National Defense Medical College): Neutralization of Prostaglandin E1 Intravenous Solution Reduces In-fusion Phlebitis . *Angiology* 2000 ; 51 (9): 719-723 .
- 12) Bessho R , Chambers DJ¹⁾ (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital.): Experimental study of intermittent crossclamping with fibrillation and myocardial protection : reduced injury from shorter cumulative ischemia or intrinsic protective effect? . *J Thorac Cardio-vasc Surg* 2000 ; 120 (3): 528-537 .
- 13) Yamauchi H , Fujii M , Iwaki H , Ishii Y , Saji Y , Maruyama Y , Yamashita H , Uchikoba Y¹⁾ , Fukazawa R¹⁾ , Okubo T¹⁾ , Ogawa S¹⁾ , Tanaka S (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School): Surgical treatment of coarctation complex in neonates and infants . *J Nippon Med sch* 2000 ; 67 (6): 455-458 .
- 14) Tenjin T , Kubokura H , Yoshino N , Mikami I , Obara K , Tanaka S : A study of HER-2/neu gene amplification in breast cancer by dual color fluorescence in situ hybridization (FISH) . *Cytometry Reseach* 2000 ; 10 (2): 13-17 .
- 15) Hatori N , Yoshizu H¹⁾ , Shimizu M¹⁾ , Hinokiyama K¹⁾ , Takeshima S¹⁾ , Kimura T¹⁾ , Iizuka Y¹⁾ , Tanaka S¹⁾ (¹⁾ National Defense Medical College): Prognostic Factors in the Surgical Treatment of Ruptured Abdominal Aortic Aneurysms . *Surgery Today* 2000 ; 30 : 785-790 .
- 16) Nitta T¹⁾ , Mitsuno M¹⁾ , Rokkas CK¹⁾ , Lee R¹⁾ , Schuessler RB¹⁾ , Boineau JP¹⁾ (¹⁾ Washington Univ.): Cryoablation of ventricular tachycardia guided by return cycle mapping after entrainment . *J Thorac Cardio-vasc Surg* 2001 ; (121): 249-258 .
- 17) Ishii Y , Nitta T , Fujii M , Ogasawara H , Iwaki H , Ohkubo N , Tanaka S : Serial change in the atrial transport function after the radial incision approach . *Ann Thorac Surg* 2001 ; (71): 572-576 .
- 18) Meifeng X , Yigang W , Hirai K , Ahmar A , Muhammad A : Calcium preconditioning inhibits mitochondrial permeability transition and apoptosis . *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 2001 ; 280 : H899-H908 .
- 19) Ishii Y , Nitta T , Fujii M , Ogasawara H , Iwaki H , Ohkubo N , Tanaka S : Serial Change in the Atrial Transport Function After the Radial Incision Approach . *Annals of Thoracic Surgery* 2001 ; 71 : 572-576 .
- 20) Imura H , Caputo M , Parry A , Pawade A , Angelini G , Suleiman S (¹⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ³⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁴⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁵⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁶⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University): Age-Dependent and Hypoxic-Related Differences in Myocardial Protection During Pediatric Open Heart Surgery . *Circulation* 2001 ; 103 : 1551-1556 .

- 21) Mikami I, Koizumi K, Tanaka S : Changes in right ventricular performance in elderly patients who underwent lobectomy using video-assisted thoracic surgery for primary lung cancer . JJTCVS 2001 ; 49 : 153-159 .
- 22) 落 雅美, 林 宏光¹⁾, 高木 亮¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 天野真紀¹⁾, 高浜克也¹⁾, 町田 稔¹⁾, 古川一博¹⁾, 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾放射線科): 血管疾患の診断におけるCT angiographyの有用性: 血管外科医のコメント . 画像診断 2000 ; 20 (5): 516-529 .
- 23) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 吊り上げ法を応用した甲状腺腺腫に対する内視鏡下手術 (VANS法). ホと臨床 2000 ; 48 : 289-294 .
- 24) 清水一雄: 内視鏡下甲状腺および上皮小体手術 . 日本医事新報 2000 ; 3967 : 33-36 .
- 25) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 豊島宏二¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾宇沢整形外科病院): 原発性上皮小体機能亢進症に対して radio-guided parathyroidectomy を施行した2例 . 日臨外会誌 2000 ; 61 (11): 2885-2890 .
- 26) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 吊り上げ法 (VANS法) を応用した甲状腺微小癌に対する内視鏡補助下甲状腺片葉切除およびリンパ節郭清 . 内分泌外科 2001 ; 18 : 49-53 .
- 27) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾放射線科): ラジオナビゲーションによる上皮小体摘出術 . 臨床外科 2001 ; 56 : 813-816 .
- 28) 清水一雄, 北川 亘: 内分泌外科における鏡視下手術: 前頸部皮膚吊り上げ法による内視鏡下甲状腺手術 . 手術 2001 ; 55 : 605-609 .
- 29) 山内仁紫, 岩城秀行, 丸山雄二, 佐地嘉章, 藤井正大, 田中茂夫: 胸腔鏡を用いた心房中隔欠損直接縫合閉鎖手技 . 小児外科 2001 ; 33 (3): 273-277 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 田中茂夫, 清水一雄, 北村 裕, 三上 巖 : 22 . 甲状腺癌・肺癌の検討 . 文部省私立大学高度化推進事業による日本医科大学学術フロンティア事業 研究報告書 2001 ; pp74-75 .
- 1) 小林国彦, 秋山博彦: 肺癌治療におけるQELの評価 . 臨床成人病 2001 ; 123-128 .
- (3) Case report :
- 1) Yajima T, Suzuki S, Shimizu K, Tanaka S : A case with combined superior thyroid artery aneurysm and external carotid artery aneurysm . Thyroidol Clin Exp 2000 ; 12 : 29-31 .
- 2) Hama Y¹⁾, Kaji T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hatori N, Kusano S¹⁾ (¹⁾National Defense Medical College): Percutaneous treatment of brachiocephalic ischemic complications of a Stanford type A aortic dissection with use of endovascular stent . J Interventional Radiology 2000 ; 11 : 1303-1307 .
- (4) 研究会 :
- 1) 田中茂夫: 日本のICDの現状と将来 . HEART 心臓 2000 ; 32 (10): 801-802 .
- (5) 症例 :
- 1) 瀬川大輔¹⁾, 羽鳥信郎, 吉津 博¹⁾, 志水正史¹⁾, 木村民蔵¹⁾, 飯塚康弘¹⁾, 藤田真敬¹⁾, 田中 勸¹⁾ (¹⁾防衛医科大学校第2外科): シロスタゾールの投与で心拍数上昇を認めた精神分裂病患者および二弁置換術後の洞機能不全症候群の2例 . Therapeutic Research 2000 ; 21 (5): 1202-1204 .
- 2) 宇田川宏¹⁾, 神谷剛司¹⁾, 緒方貞夫¹⁾, 羽鳥信郎 (¹⁾愛敬会緒長病院): 超小型ジェネレーターの接触不良で引き起こされたペースメーキング不全の1症例 . Therapeutic Research 2000 ; 21 (5): 1159-1161 .
- (6) 症例報告 :
- 1) 山田研一, 矢島俊巳, 落 雅美, 新田 隆, 小笠原英継, 田中茂夫: 両側定型的乳房切断術後にペースメーカー植込み術を施行した1例 . 不整脈 2000 ; 15 : 534-536 .
- 2) 大久保直子, 新田 隆, 細田 進, 佐々木孝, 丸山雄二, 石井庸介, 岩城秀行, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 僧帽弁逆流と狭心症に伴う発作性心房細動に対してMap-guided心房細動手術を行なった1例 .

心臓 2000 ; 32 (Suppl. 4): 11-12 .

- 3) 山科昌平¹⁾, 山崎純一¹⁾, 正林浩高¹⁾, 田中茂夫, 新田 隆, 藤井正大, 榎本 豊 (¹⁾ 東邦医科大学第一内科): 脳梗塞, 腎梗塞を合併した慢性心房細動に対してRadial手術を施行した1例. 呼吸と循環 2000 ; 48 : 1183-1188 .

(7) 総説 :

- 1) 小野田教高¹⁾, 栗原 怜¹⁾, 櫻井祐成¹⁾, 大和田一博¹⁾, 大園英一¹⁾, 須賀 優¹⁾, 米島秀夫¹⁾, 清水一雄 (¹⁾ 春日部秀和病院): 甲状腺摘出後にparathyromatosisをきたし, エタノール注入および再手術にて良好なコントロールを得た, 副甲状腺機能亢進症合併透析患者の1例. 透析会誌 2000 ; 33 : 1267-1271 .
- 2) 清水一雄: 甲状腺良性腫瘍. 総合臨床 2000 ; 49 : 2257-2261 .
- 3) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 汲田伸一郎¹⁾, 豊島宏二²⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 宇沢整形外科病院): 局在不明瞭な原発性上皮小体機能亢進症に対して施行したRadio-guided parathyroidectomy . 内分泌外科 2000 ; 17 : 191-195 .
- 4) 新田 隆: 心房細動手術の最近の進歩と将来の展望. 集中治療 2000 ; 12 : 563-569 .
- 5) 新田 隆, 田中茂夫: 特集: ICDの適応を考える: わが国におけるICD適応の現状. Heart View 2000 ; 4 : 64-69 .
- 6) 清水一雄, 北村 裕¹⁾, 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 田中茂夫 (¹⁾ 湯河原厚生年金病院): 内分泌外科シリーズ 第8報 甲状腺悪性腫瘍の診断と治療. J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2): 134-138 .
- 7) 三上 巖, 永井尚生, 原田晴仁, 江見 充: 単一塩基多型解析法と遺伝性腫瘍への応用. 日本臨床 2000 ; 58 : 1220-1224 .
- 8) 峯 伸也¹⁾, 北村 裕²⁾, 江見 充³⁾ (¹⁾ 産婦人科, ²⁾ 湯河原厚生年金病院外科, ³⁾ 老人病研究所分子生物): 子宮筋腫, 甲状腺乳頭癌における融合遺伝子異常. Molecular Medicine, Vol37 2000 ; 806-812 .
- 9) 清水一雄: 内分泌頸部外科領域における内視鏡下手術の現況と将来への展望. J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 228-234 .
- 10) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹: 乳頭癌, 濾胞癌, 髄様癌. 診断と治療 2001 ; 89 : 299-303 .
- 11) 新田 隆: Expert interview #18 : 心房細動手術の最近の進歩と将来の展望. リズム&ハート 2001 ; 32 (20): 2-3 .
- 12) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 循環器科 2001 ; 49 : 164-170 .
- 13) 清水一雄, 赤須東樹: IX . 内視鏡的甲状腺切除術: 前頸部皮膚吊り上げ法 (VANS法) による美容上観点を重視した新術式. 外科 2001 ; 63 : 42-46 .
- 14) 平田知己, 小泉 潔, 原口秀司, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 吉野直之, 田中茂夫, 川本雅司¹⁾ (¹⁾ 病理学第1): 胞性縦隔腫瘍の診断と治療. J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 65-68 .

著 書

- 1) 新田 隆: [分担] 手術療法. 目で見る循環器病シリーズ1 : 不整脈 (笠貫 宏), 2000 ; pp182-193, メジカルビュー社 .
- 2) 矢島俊巳, 田中茂夫: [分担] ICDの適応と現況. 今月の治療 別冊, 2000 ; pp60-64, 総合医学社 .
- 3) 小泉 潔: [共著] 4 . 胸腔鏡による治療. 呼吸器疾患-専門医にきく最新の臨床, 2000 ; pp85-87, 中外医学社 .
- 4) 清水一雄: [分担] 9 . クッシング症候群. 経静脈治療オーダーマニュアル VII 内分泌疾患 (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明, 島崎修次, 飯野靖彦), 2000 ; pp298-302, メディカルレビュー社 .
- 5) 清水一雄: [分担] 94問題解説書. 医師国家試験 (医学評論社), 2000 ; 医学評論社 .
- 6) 清水一雄: [分担] 乳腺切除断端の診断 (術前・術中・術後) 甲状腺・上皮小体疾患における整容的治療法について (鏡視下手術). 乳腺・甲状腺外科 (渡辺 弘, 藤本吉秀, 山本 浩, 霞富士雄, 田島知郎, 福田 護,

- 須田 嵩, 清水 哲, 吉田 明, 竹中晴幸), 2000 ; pp70-74, インターメルク .
- 7) 天神敏博 : [分担] Comparative genmic hybridization (CGH) その他の応用 . 応用サイトメトリー (天神美夫, 河本圭司, 井上勝一, 中内啓光), 2000 ; pp342-345, 医学書院 .
 - 8) 田中茂夫 : [分担] 4 . ペースメーカー治療 . 心臓血管外科 (川島康生), 2000 ; pp581-596, 朝倉書店 .
 - 9) 清水一雄 : [分担] 3 . 最近の内視鏡手術の動向と周術期合併症 : 内分泌外科領域 . 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (小川 龍, 坂本篤雄), 2000 ; pp85-93, 真興交易 (株) 医書出版部 .
 - 10) 小泉 潔 : [共著] 胸部外科領域 . 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング, 2000 ; pp68-76, 真興交易医書出版部 .
 - 11) 清水一雄 : [分担] 甲状腺機能亢進症 . プライマリケア/主要疾患・症候群「改訂第3版」(伊藤 洋, 庄司進一), 2000 ; pp157-162, 医学評論社 .
 - 12) 清水一雄 : [分担] クッシング症候群 . プライマリケア/主要疾患・症候群「改訂第3版」(伊藤 洋, 庄司進一), 2000 ; pp279-280, 医学評論社 .
 - 13) 清水一雄 : [分担] 甲状腺機能低下症 . プライマリケア/主要疾患・症候群「改訂第3版」(伊藤 洋, 庄司進一), 2000 ; pp281-282, 医学評論社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 田中茂夫 : ICDの現状と将来 . 第一回九州重症不整脈研究会, 2000 . 6 .
- 2) 田中茂夫 : 不整脈外科の歴史 . 日本心臓ペースング・電気生理学学会, 2000 . 8 .
- 3) 清水一雄 : 前頸部皮膚吊り上げ法 (VANS法) を用いた甲状腺, 上皮小体腫瘍に対する内視鏡下切除術 : 100例の経験を振り返って . 第3回宮崎甲状腺疾患研究会, 2000 . 9 .
- 4) 新田 隆 : ランチョンセミナー : 心房細動手術の現況と将来の展望 . 第53回 日本胸部外科学会総会, 2000 . 10 .
- 5) 清水一雄 : 甲状腺微小乳頭癌に対する内視鏡下甲状腺片葉切除および非定型的頸部リンパ節郭清術 . 第37回静岡県癌治療研究会, 2000 . 11 .
- 6) 清水一雄 : 吊り上げ法による内視鏡下甲状腺, 上皮小体手術 : 100例を超えた経験から . 第72回北九州内分泌研究会, 2000 . 12 .
- 7) 清水一雄 : 前頸部皮膚吊り上げ法を応用した内視鏡下甲状腺, 上皮小体腫瘍切除術 : 112例の経験 . 第7回長崎内視鏡外科研究会, 2001 . 2 .
- 8) 清水一雄 : 内視鏡を用いた内分泌疾患の外科治療「甲状腺疾患」 . 第11回臨床内分泌代謝 : Update, 2001 . 3 .

(2) 招待講演 :

- 1) 新田 隆 : 心房細動手術の現況と将来の展望 . 佐賀不整脈を勉強する会, 2000 . 6 .
- 2) 新田 隆 : 僧帽弁疾患に合併した慢性心房細動の電気生理学的特徴 . 第10回 循環器セラピューティック・フォーラム, 2000 . 10 .
- 3) 新田 隆 : 心房細動の術中マッピング . 第7回 長手久不整脈勉強会, 2000 . 11 .
- 4) 清水一雄 : 甲状腺, 上皮小体腫瘍に対する minimally invasive surgery 内視鏡手術と Navigator を用いた Radio-guided parathyroidectomy . 野口病院医学セミナー, 2000 . 12 .
- 5) 新田 隆 : 心房細動手術の現況と将来の展望 . 第7回 北海道不整脈談話会, 2001 . 2 .

(3) 教育講演 :

- 1) 新田 隆 : ワークショップ : ペースメーカーのトラブルシューティング . 第1回 EPサマーセミナー, 2000 . 8 .
- 2) 落 雅美 : 川崎病冠動脈病変に対する外科治療成績 . 東京川崎病連絡会, 2000 . 12 .

(4) シンポジウム：

- 1) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫: 吊り上げ法による内視鏡下内分泌頸部外科90例の経験と評価。第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 2) 落 雅美, 佐地嘉章, 藤井正大, 石井庸介, 田畑美弥子, 田中茂夫: 両側内胸動脈を用いたcomposite T-graftによる左冠動脈系全体の再建: 術式の詳細と適応について。日本冠動脈外科学会, 2000. 7.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 新田 隆, 藤井正大, 石井庸介, 小笠原英継, 岩城秀行, 大久保直子, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 心房細動に対する外科的治療戦略: Radial Incision Approach (循環器疾患への外科的治療戦略の展開)。第64回 日本循環器学会学術集会, 2000. 4.

(6) ワークショップ：

- 1) 仁科 大, 足立秀行¹⁾, 鎌田 聡²⁾, 笠原勝彦²⁾, 本田二郎²⁾, 小柳俊哉²⁾, 加瀬川均²⁾, 川瀬光彦²⁾(¹⁾ エーザイ筑波研究所, ²⁾ 榊原記念病院心臓血管外科): 橈骨動脈に対するオルプリノンの弛緩効果。第31回日本心臓血管外科学会学術総会,
- 2) 天神敏博, 窪倉浩俊, 三上 巖, 小原邦彦, 小泉 潔, 田中茂夫: 細胞遺伝学より観察した悪性腫瘍と染色体異常の関係。第10回日本サイトメトリー, 2000. 8.
- 3) 北村 裕¹⁾, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 高橋真佐司¹⁾, 田中茂夫, 江見 充³⁾(¹⁾ 湯河原厚生年金病院外科, ²⁾ 伊藤病院, ³⁾ 日本医科大学老人病研究所): 甲状腺3胞癌における染色体欠失と術予後。第45回日本人類遺伝学会総会, 2000. 10.
- 4) 三上 巖, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 田中茂夫, 菅野純夫, 江見 充: 肺癌などの癌細胞株で発現異常を呈する17q25上の新規膜貫通タンパク遺伝子のクローニング。第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 5) 榎本 豊, 原口秀司, 小泉 潔, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 岡田大輔, 岡本淳一, 天神敏博, 田中茂夫 日本医科大学第二外科: 未小型肺癌(10mm以下)切除例の臨床的研究。第18回呼吸器外科学会, 2001. 5.

(7) 海外留学者講演：

- 1) 朽方規喜: ドイツでの血管外科臨床医学研修: 特に深大腿動脈形成術(Profundaplasty)を学んで。日本医科大学医学会第68回総会, 2000. 9.

(8) 一般講演：

- 1) Tanaka K, Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Morino K¹⁾, Tanaka S (¹⁾ 早稲田医院): Efficacy of bipolar scissors for the surgery in patient with pheochromocytoma. 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2000. 2.
- 2) Kitagawa W, Shimizu K, Akasu H, Kitamura Y, Iida T, Nakamura T, Emoto N, Yamada N, Asano G¹⁾, Tanaka S (¹⁾ 病理第2): Adrenal myelolipoma: A report of 2 cases. 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2000. 2.
- 3) Yamada K, Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Tanaka K, Ishii R, Kawase Y, Fukuda Y¹⁾, Tanaka S (¹⁾ 病理第1): Large liposarcoma arising from the retroperitoneal space. 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2000. 2.
- 4) Akasu H, Shimizu K, Akira S¹⁾, Kitagawa W, Tanaka S (¹⁾ 産婦人科): Experience of 30 cases of Video-Assisted Neck Surgery (VANS): Endoscopic resection of thyroid and parathyroid tumors with a minimal wound using the anterior neck lift method. 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Hawaii, Honolulu), 2000. 2.
- 5) Akasu H, Shimizu K, Kitagawa W, Naito Y¹⁾, Nakamura T²⁾, Tanaka S (¹⁾ 病理第2, ²⁾ 中村病院): Pathological examination of thyroid papillary carcinoma after PEIT. 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii), 2000. 2.

- 6) Kawase Y , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Takakusaki Y¹⁾ , Hirai K , Yamada K , Tanaka K , Ishii R , Tanaka S (¹⁾ 神経科): Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using anterior neck lifting method-A consecutive study of 70 cases . 13th annual meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Honolulu, Hawaii) , 2000 . 2 .
- 7) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hirai H , Takatsu K , Ishii R , Tanaka K , Tanaka S : Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using gasless anterior neck lifting method : A consecutive study of 78 cases . The 7th Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons (Adelaide, South Australia) , 2000 . 3 .
- 8) Imura H , Suleiman S (¹⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University): Is the cardioprotective action of hyperkalemia and hypothermia related to purine production during ischaemia? . the Physiological Society, joint meeting with the Hungarian Physiological Society (Budapest) , 2000 . 5 .
- 9) Ohki J¹⁾ , Nagai H¹⁾ , Shimizu K (¹⁾ 自治医科大学消化器外科): Endoscopic partial thyroidectomy with wall-lifting method . 3rd International Gasless Meeting (Gasless International 2000)(Singapore) , 2000 . 5 .
- 10) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hirai K , Ishii R , Tanaka S , Ohki J¹⁾ , Nagai H¹⁾ (¹⁾ 自治医科大学消化器外科): Subtotal lobectomy of the thyroid tumor using gasless anterior neck lifting method-The experience of more than 80 cases in endoscopic endocrine neck surgery . 3rd International Gasless Meeting (Gasless International 2000)(Singapore) , 2000 . 5 .
- 11) Tenjin T , Kubokura H , Tanaka S : HER-2/neu amplification in breast cancer as determined by dual color fluorescence in situ hybridization . XX International Society for Analytical Cytology (France) , 2000 . 5 .
- 12) Imura H , Caputo M , Parry A , Pawade A , Suleiman S , Raimond A , Angelini G (¹⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ³⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁴⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁵⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁶⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁷⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University): Cardiac troponin I is a predictor of early clinical outcome in arterial switch operation surgery . Cardiac Surgical Research Club Meeting (Liverpool) , 2000 . 6 .
- 13) Imura H , Caputo M , Raimond A , Parry A , Pawade A , Angelini G , Suleiman S (¹⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ³⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁴⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁵⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁶⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁷⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University): Age-related differences in myocardial ischaemic tolerance during congenital cardiac surgery . Cardiac Surgical Research Club Meeting (Liverpool) , 2000 . 6 .
- 14) Bessho R , Chambers DJ¹⁾ (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Is arrest with esmolol a viable alternative to intermittent cross-clamp fibrillation or cardioplegia? . Internatinal Society for Heart Research (ISHR) American section XXII Annual Scientific Sessions (Louisville, Kentucky, USA) , 2000 . 6 .
- 15) Bessho R , Chambers DJ¹⁾ (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Myocardial protection and esmolol arrest : efficacy compared to St Thomas'cardioplegia or infusion technique . Internatinal Society for Heart Research (ISHR) American section XXII Annual Scientific Sessions (Louisville, Kentucky, USA) , 2000 . 6 .
- 16) Bessho R , Chambers DJ¹⁾ (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Myocardial protection and esmolol arrest : importance of oxygenation compared to St Thomas'cardioplegia . Internatinal Society For Heart Research (ISHR) American section (Louisville, Ken-

- tucky, USA), 2000 . 6 .
- 17) Bessho R , Chambers DJ¹⁾(¹⁾Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Myocardial protection during prolonged norm othermic ischemia : efficacy of esmolol arrest . Internatinal Society for Heart Research (ISHR) American section (Louisville, Kentucky, USA), 2000 . 6 .
 - 18) Ochi M , Saji Y , Fujii M , Iwaki H , Hatori N , Tanaka S : Multiple coronary revascularization with a composite T-graft using bilateral internal thoracic arteries . Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery , 2000 . 9 .
 - 19) Ishii Y , Ochi M , Yamashita H , Maruyama Y , Miyawaki K , Nishina D , Saji Y , Iwaki H , Ohkubo N , Tanaka S , Ichikawa K¹⁾, Kawamata H¹⁾, Tajima H¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Radiology): " OPEN"stent-grafting to aneurysm of the distal arch . The 8th annual meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery (Fukuoka), 2000 . 9 .
 - 20) Fukushima M , Fukuda Y¹⁾, Koizumi K , Haraguchi S , Mikami I , Kubokura H , Okada D , Kawamoto M¹⁾, Yamanaka N¹⁾, Tanaka S (¹⁾Dept. Pathology): Elastosis of lung carcinoma . Abstracts 9th World Conference on Lung Cancer , 2000 . 9 .
 - 21) Kutsukata N , Ochi M , Tanaka S , Erichi-DS¹⁾(¹⁾Eslingen municipal Hospital, Eslingen, Germany): A FEMORO-POPLITEAL BYPASS WITH AN EXTENSIVE PROFUNDOPLASUTY USING A PTFE GRAFT . The 8th Annual Meeting of the Asian Society For Cardiovascular Surgery (ASCVS)(TOKYO), 2000 . 9 .
 - 22) Imura H , Caputo M , Raimond A , Pawade A , Suleiman S , Angelini G (¹⁾Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾Bristol Heart Institute, Bristol University , ³⁾Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁴⁾Royal Hospital for Sick Children , ⁵⁾Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁶⁾Bristol Heart Institute, Bristol University): Cardiac troponin I is a predictor of early clinical outcome in arterial switch operation . The European Association For Cardio-Thoracic Surgery (Frankfurt), 2000 . 10 .
 - 23) Emoto N¹⁾, Onose H¹⁾, Shimizu K , Wakabayashi I¹⁾(¹⁾内科第3): A subpopulation of FGF-2-binding heparan sulfate ls lost In human papillaty thyroid carcinoma . 12th International Thyroid Congress , 2000 . 10 .
 - 24) Shimizu K : Current questions of thyroidology : Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using anterior neck skin lifting method An experiencee of 100 cases . 2nd International Conference "Current question of thyroidology" in Minsk (Symposium)(Minsk, Belarus), 2000 . 11 .
 - 25) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Hatori N , Hirai K , Takatsu K , Ishii R , Tanaka S : Endoscopic thyroid and parathyroid surgery with a benefit of cosmesis-an experience of 90 cases . 12th International Thyroid Congress , 2000 . 11 .
 - 26) Nitta T , Sakamoto S , Saji Y , Ishii Y , Iwaki H , Ohkubo N , Yamauchi H , Ochi M , Tanaka S : Radial Procedure Restores Sufficient Atrial Contraction and Prevents Thromboembolism . 第73回 AHA (New Orleans, LA), 2000 . 11 .
 - 27) Nitta T , Sakamoto S , Saji Y , Ishii Y , Iwaki H , Ohkubo N , Yajima T , Ochi M , Tanaka S : Focal Activation Underlying Permanent Atrial Fibrillation in Patients with Mitral Valve Disease . 第73回 AHA (New Orleans, LA), 2000 . 11 .
 - 28) Nakano J , Kitagawa W , Shimizu K , Akasu H , Kumita S¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Tanaka S (¹⁾放射線科): Minimally Invasive Radio-guided Parathyroidectomy for Hyperparathyroidism-An experience of 10 cases . 20thALLNEPALMEDICALCONFERENCEinconjuctionwith 14thAasian-PacificEndocrineConference (APEC)(Kathmandu , Nepal), 2001 . 2 .
 - 29) Sasaki J¹⁾ , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka S (¹⁾外科第1): Endoscopic Hemithyroidectomy

- and Prophylactic Lymph Node Dissection Using Anterior Neck Skin Lifting Method-Report of 2 cases . 20th ALL NEPAL MEDICAL CONFERENCE (Kathmandu , Nepal) , 2001 . 2 .
- 30) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Takatsu K , Ishii R , Yamada K , Tajiri T¹⁾ , Akira S²⁾ , Onda M¹⁾ , Araki T²⁾ , Tanaka S (¹⁾ 外科第1 , ²⁾ 産婦人科): Totally Gasless Video-assisted Endocrine Neck Surgery with A Very Minimal Neck Wound-Anexperience of 120cases . 20th ALL NEPAL MEDICAL CONFERENCE (Kathmandu , Nepal) , 2001 . 2 .
- 31) Yamada K , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Tanaka S : The Mass screening on the Thyroid Cancer in Belarus Subsequent to the Chernobyl Reactor Disaster . 20th ALL NEPAL MEDICAL CONFERENCE (Kathmandu , Nepal) , 2001 . 2 .
- 32) Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Tajiri T¹⁾ , Akira S²⁾ , Arima Y¹⁾ , Onda M¹⁾ , Tanaka S (¹⁾ 外科第1 , ²⁾ 産婦人科): Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery Using Totally Gasless Anterior Neck Skin Lifting Method with a Benefit of Cosmesis-An experience of 100 cases . 5th Asia-Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Mandaluyong City , Manira , Philippines) , 2001 . 2 .
- 33) Kanbe M , Akasu H , Shimizu K , Kitagawa W , Tanaka S : Black Adenoma of the Adrenal in Cushing's Syndrome-A case report . 20th ALL NEPAL MEDICAL CONFERENCE (Kathmandu , Nepal) , 2001 . 2 .
- 34) Imura H , Caputo M , Modi P , Parry A , Pawade A , Suleiman S , Angelini G (¹⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ²⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ³⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁴⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁵⁾ Royal Hospital for Sick Children , ⁶⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University , ⁷⁾ Bristol Heart Institute, Bristol University): Myocardial Cell Damage After Repair of Congenital Heart Disease : Impact of Troponin I Release on Early Clinical Outcomes . American College of Cardiology (Orland) , 2001 . 3 .
- 35) Ochi M , Bessho R , Saji Y , Fujii M , Ishii Y , Sakamoto S , Tabata M , Nitta T , Hatori N , Tanaka S : Multiple off-pump coronary artery bypass grafting in an elderly patient with unstable angina . Annual meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery , 2001 . 3 .
- 36) Maruyama Y , Yamauchi H , Ochi M , Iwaki H , Saji Y , Fujii M , Ishii Y , Bessho R , Nitta T , Tanaka S : Video-assisted thoracic surgery in closure of atrial septal defect . Annual meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery , 2001 . 3 .
- 37) Kambe M , Akasu H , Shimizu K , Kitagawa W , Tanaka S : BLACK ADENOMA OF THE ADRENAL CUSHING'S SYNDROME-A CASE REPORT . 14th ASIA-PACIFIC ENDOCRINE CONFERENCE in joint with 20th ALL NEPAL MEDICAL CONFERENCE (Kathmandu , Nepal) , 2001 . 3 .
- 38) 別所竜蔵 , Chambers DJ¹⁾ , 落 雅美 , 田中茂夫 (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Myocardial protection and esmolol arrest . 第31回 日本心臓血管外科学会総会 , 2000 . 2 .
- 39) Yamada K , Shimizu K , Kitagawa W , Akasu H , Ishii R , Fukuda Y¹⁾ , Sugisaki Y²⁾ , Tanaka S (¹⁾ 病理第1 , ²⁾ 付属病院病理部): Liposarcoma rapidly growing In the retroperitoneal space-Its pathological consideration . 第12回日本内分秘外科学会総会 , 2000 . 6 .
- 40) Koizumi K , Haraguchi S , Yamashita K , Hirata T , Hirai K , Mikami I , Fukushima M , Kubokura H , Okada D , Yoshino N , Tanaka S : Effectiveness of VATS-lobectomy for elderly lung cancer patient with respect to preservation of pulmonary function . 7th World congress of endoscopic surgery , 2000 . 6 .
- 41) Emoto N¹⁾ , Onose H¹⁾ , Shimizu K , Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ 内科第3): A subpopulation of fgf-2-binding heparan sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas . 12th International Thyroid Congeress , 2000 . 10 .
- 42) 別所竜蔵 , Chambers DJ¹⁾ , 田中茂夫 (¹⁾ Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue In-

- stitute, St Thomas'Hospital): Does intermittent aortic cross-clamp with ventricular fibrillation provide optimal myocardial protection compared to cardioplegia? . 第53回 日本胸部外科学会総会, 2000 . 10 .
- 43) 別所竜蔵, Chambers DJ¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾Cardiac Surgical Research/Cardiothoracic Surgery, The Rayue Institute, St Thomas'Hospital): Esmolol Cardioplegia : superior myocardial protection to conventional cardioplegia during normothermic global ischemia . 第53回 日本胸部外科学会総会, 2000 . 10 .
- 44) 仁科 大, 鎌田 聡²⁾, 笠原勝彦²⁾, 本田二郎²⁾, 小柳俊哉²⁾, 加瀬川均²⁾, 川瀬光彦²⁾, 足立秀行¹⁾(¹⁾エーザイ筑波研究所, ²⁾ 榊原記念病院心臓血管外科): 骨動脈に対するオルプリノンの弛緩効果 . 第31回日本心臓血管外科学会学術総会,
- 45) 小笠原英継, 新浪 博, 市川誠一, 伴 哲雄, 東田隆治, 須田優司, 市川和雄, 田島廣之, 隈崎達夫, 竹内靖夫: 特異な形態を示した胸部下行大動脈仮性動脈瘤に対してステントグラフトが有効であった1例 . 第114回日本胸部外科学会関東甲信越地方会,
- 46) 小笠原英継, 新浪 博, 市川誠一, 伴 哲雄, 東田隆治, 須田優司, 竹内靖夫: 左内胸動脈を用いてsequential吻合を行った心拍動下冠動脈バイパス術4症例の検討 . 第5回冠動脈外科学会,
- 47) 小笠原英継, 新浪 博, 市川誠一, 伴 哲雄, 東田隆治, 須田優司, 山本真人, 曾根康之, 竹内靖夫: 左内胸動脈を用いてsequential吻合を行った心拍動下冠動脈バイパス術症例の検討 . 第14回日本冠疾患学会学術集会,
- 48) 丸山雄二, 新田 隆, 山内仁紫, 石井庸介, 別所竜蔵, 坂本俊一郎, 佐地嘉幸, 岡本淳一, 矢島俊巳, 田中茂夫: ファロー四徴症根治術30年後に心室中隔欠損遺残短格, 右室流出路狭窄, 心房粗動を合併し外科的治療を施行した1例 . 第178回日本循環器学会関東甲信越地方会,
- 49) 北村 裕¹⁾, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 高橋真佐司¹⁾, 田中茂夫, 江見 充³⁾(¹⁾湯河原厚生年金病院, ²⁾伊藤病院, ³⁾老人病研究所): 甲状腺濾胞癌における染色体欠失と術後予後 . 第45回日本人類遺伝学会, 2000 .
- 50) 清水一雄, 田尻 孝¹⁾, 赤須東樹, 田中茂夫 (¹⁾外科第1): 褐色細胞腫に対するバイポーラシザーズの有用性 . 第8回クリニカルビデオフォーラム, 2000 . 2 .
- 51) 落 雅美, 藤井正大, 佐地嘉章, 大久保直子, 石井庸介, 小笠原英継, 宮脇佳世, 田畑美弥子, 新田 隆, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 田中茂夫: 左内胸動脈の血流供給能: 両側内胸動脈を用いたT-graftによる左冠動脈系全体の血行再建は安全か? . 日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 52) 落 雅美, 藤井正大, 石井庸介, 小笠原英継, 山田研一, 田中茂夫: 両側内胸動脈を用いたcomposite T-graftによる多枝血行再建とその適応 . 日本外科学会, 2000 . 4 .
- 53) 清水一雄, 田尻 孝¹⁾, 北村 裕²⁾, 北川 亘, 赤須東樹, 田中茂夫 (¹⁾外科第1, ²⁾湯河原厚生年金病院): 吊り上げ法を応用した甲状腺, 上皮小体腫瘍に対する内視鏡下手術60例の経験 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 54) 北村 裕¹⁾, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 長浜充二²⁾, 伊藤公一²⁾, 田中茂夫, 江見 充³⁾(¹⁾湯河原厚生年金病院, ²⁾伊藤病院, ³⁾老人病研究所): 甲状腺未分化癌, 乳頭癌, 濾胞癌における染色体欠失と予後の検討 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 55) 天神敏博, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平井恭二, 小原邦彦¹⁾, 平田知己, 赤須東樹, 朽方規善, 北川 亘, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 小泉 潔, 落 雅美, 清水一雄, 田中茂夫 (¹⁾平塚胃腸病院): 細胞遺伝学による乳癌とHER-2/neu amplificationの関係 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 56) 窪倉浩俊, 岡田大輔, 福島光浩, 三上 巖, 秋山博彦¹⁾, 平井恭二, 平田知己, 天神敏博, 西村仁志¹⁾, 小泉 潔, 山本光伸¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾埼玉県立がんセンター胸部外科): I期肺腺癌におけるc-myc遺伝子とHER-2/neu遺伝子増幅率の検討 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 57) 北村 裕, 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 長浜充一¹⁾, 伊藤公一, 田中茂夫, 江見 充²⁾(¹⁾伊藤病院, ²⁾老人病研究所): 甲状腺未分化癌, 乳頭癌, 3胞癌における染色体欠失と予後の検討 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .

- 58) 石井庸介: Radial Incision Approach術後心房収縮能の経時的変化と血栓塞栓症の予防効果. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 59) 新田 隆, 丸山雄二, 田畑美弥子, 田中久美, 藤井正大, 小笠原英継, 石井庸介, 岩城秀行, 大久保直子, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: ビデオセッション: 僧房弁疾患に合併する慢性心房細動の術中マッピング所見とその外科治療. 第100回 日本外科学会総会, 2000. 4.
- 60) 岡本淳一, 桂研一郎, 福地孝明, 勝又俊弥, 神谷達司, 片山泰朗, 杉崎祐一¹⁾, 中溝宗永²⁾(¹⁾日本医科大学第2内科・同病理部, ²⁾同耳鼻咽喉科): sIL-2Rの高値を認め悪性リンパ腫との鑑別に苦慮したBorrmann3型胃癌の1例. 日本内科学会地方会, 2000. 5.
- 61) 平井恭二, 小泉 潔, 平田知己, 岡田大輔, 窪倉浩俊, 三上 徹, 天神敏博, 田中茂夫: 当科における気管支嚢胞切除例の臨床的検討. 第17回日本呼吸器外科学会総会, 2000. 5.
- 62) 小笠原英継, 新田 隆, 丸山雄二, 田畑美弥子, 藤井正大, 石井庸介, 岩城秀行, 山田研一, 大久保直子, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 左房内血栓症を伴う孤立性心房細動に対する外科治療. 第30回 日本心臓外科学会, 2000. 5.
- 63) 天神敏博, 小笠原英継, 平田知己, 赤須東樹, 北川 亘, 清水一雄, 田中茂夫: Dual color FISH法による乳癌とHER-2/neu amplificationの関係. 第8回日本乳癌学会, 2000. 5.
- 64) 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 相澤瑞穂¹⁾, 阿部純子¹⁾, 森田典成¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 林 明聡¹⁾, 大村和子¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 新田 隆, 田中茂夫(¹⁾内科第1): Radial Incision術後に出現した心房頻拍に対してカテーテルアブレーションを施行した2例. 第30回 臨床心臓電気生理研究会, 2000. 5.
- 65) 山内仁紫, 岩城秀行, 石井庸介, 藤井正大, 佐地嘉章, 佐々木孝, 丸山雄二, 田中茂夫: 小児期発症 Annulo-aortic ectasia に対する Bentall手術の検討. 第37回日本小児外科学会総会, 2000. 6.
- 66) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 内視鏡下甲状腺手術(VANS)から直視下手術に移行した症例の検討. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 67) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 炎症性乳癌術後2年半の集学的治療経過. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 68) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 平井恭二, 高津圭介, 石井律子, 大木 準¹⁾, 永井秀雄¹⁾, 田中茂夫(¹⁾自治医科大学消化器外科): 比較的大きな良性甲状腺腫瘍に対する内視鏡下片葉超亜全摘術. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 69) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 末永松彦¹⁾, 田中茂夫(¹⁾東京都立墨東病院内科): NAVIGATORを用いたRadio-guided parathyroidectomy. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 70) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 内視鏡下甲状腺手術(VANS)から直視下手術に移行した症例の検討. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 71) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 高津圭介, 石井律子, 末永松彦¹⁾, 田中茂夫(¹⁾東京都立墨東病院): NAVIGATORを用いたRadio-guided parathyroidectomy. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 72) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 高津圭介, 石井律子, 田中茂夫: 炎症性乳癌術後2年半の集学的治療経過. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 73) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 田中久美, 田中茂夫: 褐色細胞腫に対するパイポーラーシザーズの使用経験. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 74) 小野瀬裕之¹⁾, 石井新哉¹⁾, 江本直也¹⁾, 清水一雄, 若林一二¹⁾(¹⁾内科第3): 甲状腺手術の血中FGF-2濃度を与える効果. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 75) 江本直也¹⁾, 清水一雄, 小野瀬裕之¹⁾, 石井新哉¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 若林一二¹⁾(¹⁾内科第3): 甲状腺乳頭癌においてFGF生物活性制御因子として作用するヘパラン硫酸の組成解析. 第73回日本内分泌外科学会学術総会, 2000. 6.

- 76) 北村 裕, 清水一雄, 伊藤公一²⁾, 高橋真佐司¹⁾, 田中茂夫, 江見 充³⁾(¹⁾湯河原厚生年金病院 外科, ²⁾伊藤病院, ³⁾老人病研究所): 甲状腺3癌の染色体欠失の検討. 第12回日本内分泌外科学会総会, 2000. 6.
- 77) 天神敏博, 田中茂夫: 乳癌における細胞遺伝学によるHER-2/neu amplificationの観察. 第25回日本外科系連合会, 2000. 6.
- 78) 新田 隆, 丸山雄二, 宮脇佳世, 藤井正大, 佐地嘉章, 小笠原英継, 石井庸介, 岩城秀行, 大久保直子, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 田中茂夫: 心房細動に対する外科治療の意義と有効性. 第25回 日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 79) 若林武雄, 木下裕康, 大森裕也, 古川良弥: 門脈ガス血症を伴った絞扼性小腸閉塞の1例. 第25回日本外科系連合学会, 2000. 6.
- 80) 佐地嘉章, 落 雅美, 坂本俊一郎, 藤井正大, 石井庸介, 羽鳥信郎, 田中茂夫: 右胃大網動脈によるsequential graftingの経験: 術後造影からみた適応. 日本冠動脈外科学会, 2000. 7.
- 81) 松岡孝紀, 田中久美, 大森裕也, 吉田典行, 若林武雄, 神谷増三¹⁾(¹⁾SRL病理診断): 極めて稀な乳腺紡錘細胞癌の1例. 第9回福島県がん治療研究会, 2000. 8.
- 82) 北村 裕¹⁾, 高橋真佐司¹⁾, 江見 充²⁾, 清水一雄, 田中茂夫, 伊藤公一³⁾(¹⁾湯河原厚生年金病院, ²⁾老人病研究所, ³⁾伊藤病院): 甲状腺濾胞癌における染色体欠失の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 83) 平井恭二, 小泉 潔, 吉野直之, 岡田大輔, 窪倉浩俊, 福島光浩, 三上 巖, 天神敏博, 平田知己, 原口秀司, 田中茂夫: 当科における間質性肺炎(IP)合併肺癌切除例に対する検討. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 9.
- 84) 平田知己, 小泉 潔, 吉野直之, 岡田大輔, 福島光浩, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平井恭二, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫, 川本雅司¹⁾(¹⁾病理学第1): 原発性肺癌手術後の肺転移症例に対する外科的治療の意義. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 9.
- 85) 落 雅美, 岩城秀行, 石井庸介, 佐地嘉章, 別所竜蔵, 羽鳥信郎, 田中茂夫, 市川和雄¹⁾, 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科): 弓部大動脈瘤に対する低侵襲で安全なステントグラフト挿入術=我々の作成したグラフと挿入用鉗子の有用性=. 第53回日本胸部外科学会総会, 2000. 10.
- 86) 天神敏博, 窪倉浩俊, 三上 巖, 清水一雄, 田中茂夫: 乳癌における細胞遺伝子学よりのcyclin D1増幅の観察. 日本癌学会第59回総会, 2000. 10.
- 87) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 石井律子, 田中久美, 山田規予美, 伊藤公一¹⁾, 三村 孝¹⁾, 伊藤国彦¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾伊藤病院): 頸部吊り上げ法(VANS法)による甲状腺乳頭癌に対する内視鏡下片葉切除とリンパ節郭清. 第33回甲状腺外科研究会, 2000. 10.
- 88) 江本直也¹⁾, 清水一雄, 小野瀬裕之¹⁾, 若林一²⁾(¹⁾内科第3): 甲状腺乳頭癌細胞外マトリックスにおけるFGF-2結合性ヘパラン硫酸の組成変化とFGF-2の動員. 第59回日本癌学会総会, 2000. 10.
- 89) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 石井律子, 田中茂夫: 縦隔内甲状腺腫に対する手術手技の検討: 胸骨縦切開を余儀なくされる症例の条件について. 第33回甲状腺外科研究会, 2000. 10.
- 90) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 石井律子, 田中久美, 山田規予美, 伊藤公一¹⁾, 三村 孝¹⁾, 伊藤国彦¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾伊藤病院): 頸部吊り上げ法(VANS法)による甲状腺乳頭癌に対する内視鏡下片葉切除とリンパ節郭清. 第33回甲状腺外科研究会, 2000. 10.
- 91) 石井庸介, 新田 隆, 山下裕正, 岡本淳一, 坂本俊一郎, 藤井正大, 田中茂夫: 開心術後Incisional reentryの電気生理学的機序に関する実験的検討. 第53回日本胸部外科学会総会, 2000. 10.
- 92) 新田 隆, 丸山雄二, 坂本俊一郎, 佐地嘉章, 石井庸介, 岩城秀行, 大久保直子, 朽方規善, 山内仁紫, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 落 雅美, 田中茂夫: Radial手術の血栓塞栓症に対する予防効果. 第53回日本胸部外科学会総会, 2000. 10.
- 93) 三上 巖, 原田晴仁, 永井尚生, 田中茂夫, 菅野純夫, 江見 充: 肺癌などの癌細胞株で発現異常を呈する17q25上の新規膜貫通タンパク遺伝子のクローニング. 第59回日本肺学会, 2000. 10.

- 94) 三上 徹, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 小泉 潔, 田中茂夫, 菅野純夫, 江見 充: 癌細胞株で発現異常を呈する17q25上の新規癌関連候補遺伝子の単離. 第45回日本人類遺伝学会, 2000. 10.
- 95) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 石井律子, 田中茂夫: 鎖骨下切開による甲状腺腫瘍切除術6例の検討. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 96) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 豊島宏二¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾宇沢病院): 局在が不明瞭な原発性上皮小体機能亢進症に対しRadio-guided parathyroidectomyが有効であった1例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 97) 赤須東樹, 清水一雄, 北川 亘, 石井律子, 田中茂夫: 鎖骨下切開による甲状腺腫瘍切除術6例の検討. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 98) 北川 亘, 清水一雄, 赤須東樹, 豊島宏二¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾慶友整形外科病院): 局在が不明瞭な原発性上皮小体機能亢進症に対しRadio-guided parathyroidectomyが有効であった1例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 99) 原口秀司: 肺癌胸腔鏡下手術における術後肺合併症の検討. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 100) 朝山 功¹⁾, 石川隆志¹⁾, 山田 哲¹⁾, 北川 亘, 赤須東樹, 清水一雄 (¹⁾金地病院): 当院における結節性甲状腺腫に対する内視鏡下手術 (Video-Assisted Neck Surgery : VANS法). 第5回北区医師会学術集談会, 2000. 11.
- 101) 北川 亘: 原発性副甲状腺機能亢進症に対するradio-guided parathyroidectomy. 第7回日本医科大学内分泌懇話会, 2000. 11.
- 102) 朽方規喜, 落 雅美, 田畑美弥子, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 田中茂夫, Erichi-DS¹⁾ (¹⁾エスリンゲン市立病院血管外科): 深大腿動脈形成術を併用した大腿膝動脈バイパス術. 第41回日本脈管学会総会, 2000. 11.
- 103) 若林武雄, 大森裕也, 田中久美, 古川良弥: 労作時息切れを訴えた食道裂孔ヘルニアの1例. 第55回国立病院療養所総合医学会, 2000. 11.
- 104) 吉田典行, 松岡孝紀, 田中久美, 大森裕也, 若林武雄, 小野木仁, 安藤義郎, 古河良弥, 竹之下誠一: 慢性膵炎により左結腸曲の狭窄を呈した1例. 第62回日本臨床外科医学会, 2000. 11.
- 105) 秋山博彦, 山岸茂樹, 西村仁志²⁾, 山本光伸¹⁾ (¹⁾霞ヶ関ビル診療所, ²⁾埼玉県立がんセンター胸部外科): 腎癌肺転移症例に対する手術治療成績. 第41回日本肺癌学会総会, 2000. 11.
- 106) 清水一雄, 北川 亘, 赤須東樹, 明楽重夫¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾産婦人科): 吊り上げ法 (VANS法) による内視鏡下甲状腺, 上皮小体腫瘍切除術100例の検討. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 107) 大木 準¹⁾, 佐田尚宏¹⁾, 穂積康夫¹⁾, 永井秀雄¹⁾, 清水一雄 (¹⁾自治医科大学消化器外科): 鏡視下甲状腺切除. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 108) 鹿原 健¹⁾, 田村 功¹⁾, 松津賢一¹⁾, 分部 敏¹⁾, 熊切 寛¹⁾, 深野史晴¹⁾, 鈴木紳一郎¹⁾, 呉 吉煥²⁾, 清水一雄 (¹⁾藤沢湘南台病院外科, ²⁾呉クリニック): 甲状腺良性腫瘍に対する内視鏡下甲状腺切除術. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 109) 平田知己, 原口秀司, 平井恭二, 三上 徹, 岡田大輔, 福島光浩, 田中茂夫, 川本雅司¹⁾ (¹⁾病理学第1): 胸腔鏡補助下に切除した. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 110) 平井恭二, 小泉 潔, 吉野直之, 岡田大輔, 窪倉浩俊, 福島光浩, 三上 徹, 平田知己, 原口秀司, 田中茂夫: 当科における神経原性縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術症例の臨床的検討. 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000. 12.
- 111) 原口秀司: 肺癌胸腔鏡下手術における術後肺合併症の検討. 第13回内視鏡外科学会, 2000. 12.
- 112) 丸山雄二, 山内仁紫, 石井庸介, 別所竜蔵, 坂本俊一郎, 佐地嘉章, 岡本淳一, 矢島俊巳, 田中茂夫: ファロ一四微症根治術後30年後に心室中隔欠損遺残短絡, 右室流出路狭窄, 心房粗動を合併し外科的治療を施行した

- 1例．第178回日本循環器学会関東甲信越地方会，2000．12．
- 113) 川瀬康裕，新田 隆，落 雅美，矢島俊巳，別所竜蔵，石井庸介，藤井正大，佐地嘉章，坂本俊一郎，田畑美弥子，丸山雄二，岡本淳一，田中茂夫：VT頻発を伴う重症心不全症例に対するDor手術，僧帽弁置換術，三尖弁形成術．第116回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．12．
- 114) 仁科 大，鎌田 聡，笠原勝彦，鈴木龍介，本田次郎，小柳俊哉，加瀬川均，川瀬光彦：GEAを用いたOFF PUMP CABG11例の検討．第116回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．12．
- 115) 仁科 大，鎌田 聡¹⁾，笠原勝彦¹⁾，鈴木龍介¹⁾，本田二郎¹⁾，小柳俊哉¹⁾，加瀬川均¹⁾，川瀬光彦¹⁾(¹⁾榊原記念病院心臓血管外科)：GEAを用いたOFF PUMPG11例の検討．第116回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2000．12．
- 116) 岡本淳一：胸部下行大動脈：腸骨大腿動脈バイパスの2治験例．心臓血管外科ウインターセミナー，2001．1．
- 117) 岡本淳一：胸腔鏡補助下に切除した先天性気管食道瘻の1例．日本医科大学内視鏡外科懇話会，2001．1．
- 118) 山内仁紫，佐地嘉章，坂本俊一郎，丸山雄二，山下裕正，田畑美弥子，北川彰信，石井庸介，矢島俊巳，新田隆，落 雅美，田中茂夫：小児期発症 Annulo-aortic ectasia の外科治療．第31回日本心臓血管外科学会，2001．2．
- 119) 山内仁紫，石井庸介，川瀬康裕，神戸 将，田中茂夫：TA PA post central shunt MR III ° に対する人工腱索を用いた僧帽弁形成術+BCPS．第1回小児心臓外科手術手技研究会，2001．2．
- 120) 落 雅美，別所竜蔵，佐地嘉章，藤井正大，石井庸介，田畑美弥子，宮脇佳世，坂本俊一郎，羽鳥信郎，田中茂夫：Off-pump CABGにおけるinflow sourceとしての内胸動脈の重要性．第31回日本心臓血管外科学会総会，2001．2．
- 121) 宮脇佳世，落 雅美，別所竜蔵，佐地嘉章，藤井正大，石井庸介，田畑美弥子，坂本俊一郎，羽鳥信郎，田中茂夫：動脈グラフトのみを使用した多枝冠血行再建術例の検討．第31回日本心臓血管外科学会総会，2001．2．
- 122) 落 雅美，別所竜蔵，佐地嘉章，藤井正大，石井庸介，田畑美弥子，宮脇佳世，坂本俊一郎，羽鳥信郎，田中茂夫：多枝Off-pump CAB：Genzyme社 retractor と stabilizer の有用性．日本心臓血管外科学会総会，2001．2．
- 123) 新田 隆，丸山雄二，坂本俊一郎，石井庸介，大久保直子，山内仁紫，田中茂夫：心房中隔1次孔欠損，僧帽弁逆流に合併した心房細動に対する結節間伝導路を温存した心房細動手術．第15回 不整脈外科研究会，2001．2．
- 124) 山岸茂樹，秋山博彦，西村仁志¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター胸部外科)：胸腔鏡下生検にて診断した肺の末性腫瘍の検討．第38回埼玉県医学会総会，2001．2．
- 125) 赤須東樹，清水一雄，北川 亘，江本直也¹⁾，杉原 仁¹⁾，田中茂夫(¹⁾内科第3)：鎖骨下切開による甲状腺腫瘍切除の検討．第11回臨床内分泌代謝：Update，2001．3．
- 126) 北川 亘，清水一雄，赤須東樹，杉原 仁¹⁾，江本直也¹⁾，田中茂夫(¹⁾内科第3)：原発性上皮小体機能亢進症に対するRadio-guided parathyroidectomy：新しい治療戦略．第11回臨床内分泌代謝：Update，2001．3．
- 127) 石井庸介，新田 隆，坂本俊一郎，大久保直子，別所竜蔵，朽方規善，山内仁紫，矢島俊巳，羽鳥信郎，落 雅美，田中茂夫：Incisional Atrial Reentry Tachycardia：Conduction property through the isthmus between the incisions．日本循環器学会，2001．3．
- 128) 新田 隆，田畑美弥子，坂本俊一郎，石井庸介，大久保直子，別所竜蔵，朽方喜規，羽鳥信郎，落 雅美，田中茂夫：Focal and Reentrant Mechanisms Underlie Permanent Atrial Fibrillation in Patients with Mitral Valve Disease．第65回 日本循環器学会学術集会，2001．3．
- 129) 坂本俊一郎，田中久美，石井庸介，川瀬康裕，中野純子，神戸 将，新田 隆，田中茂夫：Concordant and Rapid Atrial Activation After the Radial Procedure．第65回 日本循環器学会学術集会，2001．3．
- 130) Maruyama Y, Yamauchi H, Nitta T, Iwaki H, Saji Y, Fujii M, Ishii Y, Yamada K, Bessyo R, Yazima

T, Ochi M, Tanaka S : Video-assisted thoracic surgery in closure of atrial septal defect . 9th ASCVS (Asian Society for Cardio-vascular surgery),

- 1) 榎本 豊¹⁾, 笹井 巧⁽¹⁾海老名総合病院呼吸器外科): 特発性縦隔気腫4例の臨床像 .
- 2) 榎本 豊¹⁾, 坊 英樹, 名取穰治, 内山喜一郎⁽¹⁾海老名総合病院外科): 後腹膜奇形腫の1例 . 第25回日本外科系連合学会, 2000 . 6 .

(9) Forum :

- 1) Hatori N, Ochi M, Segawa D¹⁾, Hinokiyama K¹⁾, Kimura T¹⁾, Tanaka S⁽¹⁾ National Defense Medical College): Effects Of ischemic preconditioning and synxhronized coronary venous retroperfusion in an off-pump coronary artery bypass grafting model (Ischemic heart disease). The 9th Annual Meeting of The Asian Society for Cardiovascular Surgery (Nagoya, Japan), 2001 . 3 .

(10) サ-ジカルフォーラム :

- 1) 羽鳥信郎, 落 雅美, 瀬川大輔, 檜山和弘¹⁾, 木村民蔵¹⁾, 飯塚康弘¹⁾, 田中茂夫⁽¹⁾防衛医科大学第2外科): Off-pump CABGモデルに対するIPおよびsynchronized coronary venous retroperfusion pumpの効果 . 日本外科学会総会, 2001 . 4 .

(11) ビデオ :

- 1) 朽方規喜, 落 雅美, 山内仁紫, 新田 隆, 矢島俊巳, 羽鳥信郎, 田中茂夫, Erichi-DS¹⁾⁽¹⁾エスリンゲン市立病院血管外科): 深大腿動脈形成術を併用した大腿膝動脈バイパス術 . 第28回日本血管外科学会総会, 2000 . 5 .

(12) ファイアサイドカンファランス :

- 1) 新田 隆, 坂本俊一郎, 石井庸介, 山田研一, 矢島俊巳, 山内茂生, 田中茂夫: ファイアサイドカンファランスI : 僧帽弁疾患に合併する慢性心房細動の術中マッピング所見と外科治療 . 第17回 日本心電学会学術集会, 2000 . 10 .

(13) ポスター :

- 1) Hirata T, Koizumi K, Haraguchi S, Yamashita H, Hirai K, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Yoshino N, Tanaka S : EFFECTIVENESS OF SUPPORTIVE THORACOSCOPY DUARING EXTENDED THORACIC SURGERY FOR PRIMARY LUNG CANCER . 世界内視鏡学会 (シンガポール), 2000 . 5 .
- 2) Koizumi K, Haraguchi S, Yamashita K, Tomomi T, Hirai K, Mikami I, Fukushima M : CLINICAL EVALUATION ON VATS-LOBECTOMY FOR OCTOGENARIAN WITH PRIMARY LUNG CANCER . 9th International association for the study of lung cancer , 2000 . 9 .
- 3) 平田知己, 小泉 潔, 岡田大輔, 福島光浩, 窪倉浩俊, 三上 巖, 平井恭二, 原口秀司, 天神敏博, 田中茂夫, 川本雅司¹⁾⁽¹⁾病理第1): 小細胞肺癌手術症例の検討 . 第17回 呼吸器外科学会総会, 2000 . 5 .
- 4) 小泉 潔, 原口秀司, 平田知己, 平井恭二, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 飯田竹美, 岡田大輔, 吉野直之, 田中茂夫, 川本雅司¹⁾⁽¹⁾病理第1): 肺癌に対するVATS肺葉切除の肺機能: 継時的変化の検討 . 第53回日本胸部外科学会総会, 2000 . 10 .

(14) 学術委員会報告 :

- 1) 新田 隆: 学術委員会ガイドライン班 (1999-2000) 中間報告 : 2 . 不整脈の非薬物治療ガイドライン : 非持続性心室頻拍を有する患者におけるICDの役割 . 日本循環器学会学術集会, 2000 . 4 .
- 2) 新田 隆: 不整脈の非薬物治療ガイドライン : 外科治療 . 第65回日本循環器学会学術集会, 2001 . 3 .

[第二病院外科]

研究概要

心臓血管外科，呼吸器外科，乳腺甲状腺内分泌外科領域の臨床研究を中心としている。

- (1) 心臓血管外科領域：開心術の周術期における心機能に対する諸種の薬剤の薬理効果についての研究を行っており，術後合併症に対する薬剤の効果，体内水分分布の分析を行い，術後管理における有効な心機能改善法の開発に努め，又，より有効な心筋保護法の確立にも力をいれている．高齢者や合併症を有する心血管手術例の分析も行っている．人工弁置換等に対する Minimally invasive surgery や心拍動下冠動脈バイパス術 (Off pump CABG) を行い手術手技の研究を行っている．
- (2) 呼吸器外科領域：肺癌症例で OK432 に対する Lymphocyte stimulation test を行い免疫療法の定量的な効果予測を研究中である．再発肺癌や二次肺癌に対して積極的に手術を行い成績を分析，非癌性肺腫瘍性疾患ではリンパ系腫瘍の検討を行い，stainless steel mesh を用いた胸壁再建術や胸腔鏡を併用した手術を行い，術後の呼吸機能の検討も行っている．
- (3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域：診断では，MRI を中心にした微細画像診断により，癌の進展形態を評価し，手術方針の決定に役立てている．手術では，非定型的乳房切断術・乳房温存療法に加えて，センチネルリンパ節生検，鏡視下手術を行うよう準備を進めている．化学療法は，外来通院投与を中心に積極的に行い，QOL を高めるように努力している．また，タキサン系薬剤の科学療法やハーセプチンの抗体療法について，その有効性をアポトーシス・サイトカインのレベルで検討する．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hioki M, Iedokoro Y, Kawamura J, Orii K, Masuda S, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery (II)): Aneurysm of the left Sinus of Valsalva Causing Aortic, Mitral Regurgitation and Myocardial Ischemia . The Japanese Journal of THORACIC AND CARDIOVASCULAR SURGERY 2000 ; 48 (7) : 476-479 .
- 2) Yoshino N¹⁾, Takizawa T¹⁾, Koike T¹⁾, Terashima M¹⁾, Honma K²⁾ (¹⁾ The Department of Thoracic Surgery Niigata Cancer Hospital , ²⁾ Pathology Niigata Cancer Hospital) : Vascular Tumor in the Mediastinum . The Japanese Journal of THORACIC AND CADIOVASCULAR SURGERY 2001 ; 49 (3) : 181-184 .
- 3) 吉野直之¹⁾, 小池輝明¹⁾, 滝沢恒世¹⁾, 寺島雅範¹⁾, 本間慶一²⁾, 小田純一³⁾ (¹⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院呼吸器外科 , ²⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院病理部 , ³⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院放射線科) : 特異な発育形態を示したカルチノイドの1例 . 肺癌 2000 ; 40 (2) : 129-132 .
- 4) 網谷賢一¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 高橋直人¹⁾, 内田高浩¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 増田 栄, 織井恒安, 家所良夫, 日置正文, 山本 彰²⁾ (¹⁾ 第二病院内科 , ²⁾ 同放射線科) : 心筋ブリッジが心筋虚血に關した2症例 . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3) : 206-209 .
- 5) 山口朋禎¹⁾, 鯨澤理人¹⁾, 高橋直人¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 櫛方美文¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 織井恒安 (¹⁾ 第二病院内科) : 心房内残存カテーテルのカテーテルによる抜去に成功した1例 . 川崎市医師会医学会誌 2000 ; 102-105 .

(2) 総説：

- 1) 久吉隆郎, 佐藤雅史¹⁾ (¹⁾ 第二病院放射線科) : 胸膜・胸壁腫瘍 (特集 胸部腫瘍の画像診断) . 臨床画像 2000 ; 16 (7) : 815-822 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 増田 栄, 日置正文, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 山下浩二, 家所良夫, 久吉隆郎, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): MNMSを合併した高齢者急性下肢動脈閉塞症(Leriche症候群)の1例. 第28回日本血管外科学会総会, 2000. 5.
- 2) 久吉隆郎, 日置正文, 家所良夫, 山下浩二, 増田 栄, 織井恒安, 山下康夫, 山岸茂樹, 川村 純, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 経過観察中に壁周辺の良性変化をとめない切除された肺嚢胞4例の検討. 第17回日本呼吸器外科学会総会, 2000. 5.
- 3) 山下浩二, 久吉隆郎, 家所良夫, 増田 栄, 山下康夫, 織井恒安, 山岸茂樹, 川村 純, 日置正文, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 肺嚢胞性疾患の手術症例の検討. 第17回日本呼吸器外科学会総会, 2000. 5.
- 4) 山岸茂樹, 久吉隆郎, 山下浩二, 川村 純, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 金属製メッシュとマーレックスメッシュで再建を行った胸壁軟骨肉腫の2例. 第17回日本呼吸器外科学会総会, 2000. 5.
- 5) 織井恒安, 日置正文, 家所良夫, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): ペースメーカー植え込み側に発症した乳癌の一治験例. 第15回日本心臓ペースング電気生理学学会学術大会, 2000. 5.
- 6) 酒井行直¹⁾, 村澤恒男¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 川村 純, 家所良夫, 日置正文, 飯野靖彦²⁾(¹⁾第二病院内科, ²⁾内科第2): 遅発性の促進型拒絶反応が疑われたABO血液型不一致腎移植の1例. 第45回日本透析医学会学術集会, 2000. 6.
- 7) 山下康夫, 久吉隆郎, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 下大静脈奇静脈結合で発見された若年者食道平滑筋腫の1手術例. 第114回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2000. 6.
- 8) 久吉隆郎, 日置正文, 家所良夫, 山下浩二, 増田 栄, 山下康夫, 織井恒安, 山岸茂樹, 川村 純, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 胸壁腫瘍に対する胸壁切除再建症例の術式と合併症の検討. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 9) 川村 純, 日置正文, 家所良夫, 久吉隆郎, 山下浩二, 増田 栄, 山下康夫, 織井恒安, 吉野直之, 山岸茂樹, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 開心術後胸骨感染・縦隔炎を来した6例の比較検討. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 10) 織井恒安, 日置正文, 家所良夫, 久吉隆郎, 山下浩二, 増田 栄, 山下康夫, 山岸茂樹, 川村 純, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 開心術後の腸管壊死症例の検討. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 11) 山下康夫, 久吉隆郎, 村野光和, 宅島美奈, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 下大静脈奇静脈結合のため難渋した胸腔鏡下, 食道平滑筋腫切除例. 第3回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2000. 7.
- 12) 増田 栄, 日置正文, 家所良夫, 久吉隆郎, 山下浩二, 山下康夫, 織井恒安, 吉野直之, 川村 純, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 開心術後における体内水分量の経時的変化についての考察. 第53回日本胸部外科学会総会, 2000. 10.
- 13) 久吉隆郎, 日置正文, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾外科第2): 金属製材料を用いた胸壁再建症例の検討. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 14) 織井恒安, 家所良夫, 宅島美奈, 村野光和, 川村 純, 吉野直之, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): MIDCAB後に3枝冠攣縮を同時に起こした1例. 第116回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2000. 12.
- 15) 山下康夫, 村野光和, 宅島美奈, 川村 純, 吉野直之, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾, 市川和雄²⁾, 田島紘之²⁾, 隅崎達夫²⁾, 坊 英樹³⁾, 小熊将之³⁾, 森山雄吉³⁾(¹⁾外科第2, ²⁾放射

線科, ³⁾第二病院消化器病センター): ハイリスク腹部大動脈瘤に対しステンドグラフト内挿術を施行し, 術後管理に難渋した1例. 第100回神奈川県臨床外科医学会集談会, 2001. 3.

- 16) 村野光和, 織井恒安, 宅島美奈, 川村 純, 吉野直之, 山下康夫, 増田 栄, 山下浩二, 久吉隆郎, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 急性動脈閉塞血行再建術後に早期血液浄化を要した2例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 17) 宅島美奈, 吉野直之, 村野光和, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 久吉隆郎, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 心臓手術周術期のPCPS使用例の検索. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 18) 山下康夫, 川村 純, 山岸茂樹, 織井恒安, 増田 栄, 山下浩二, 家所良夫, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): ITPを合併した僧帽弁閉鎖不全症の一手術例. 第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2001. 3.

[多摩永山病院内視鏡科]

研究概要

当科では従来より消化管全般に渡る研究を多数行っている. アジア人(中国, タイ王国, ベトナム)の *Helicobacter pylori* (*Hp*) 感染調査に加え, アフリカ(コンゴ民主共和国)においての調査も開始した(約100例の内視鏡検査を実施). さらに, 小児の *Hp* 感染調査も開始し, タイ王国(チェンマイ), ベトナム(ホー・チ・ミン)において便中抗原, 尿中抗体, ¹³C-尿素呼吸試験(UBT)を約200例の小児に行った. また, 消化性潰瘍, 胃炎症例の心理面からの研究も行われた.

- 1) *Hp* 感染の診断法, ¹³C-UBTの安全性と重要性, 小児の *Hp* 感染についてタイ王国, ベトナムで多数のシンポジウム講演を行った.
- 2) 日本人とアジア人の *Hp* 感染の相違, その他の特徴を国際学会, 国内学会, 論文に多数発表した.
- 3) *Hp* 陽性例で萎縮性胃炎, 腸上皮化生の多いことは周知の事実であるが, 日本人では陰性例においても萎縮性胃炎, 腸上皮化生が決して少なくないことを論文発表し注目された.
- 4) NSAIDs長期服用者の胃病変について, 多数の慢性関節リウマチ患者から得られた成績を, *Hp* 感染を含めた観点より発表した.
- 5) 学内他科との *Hp* に関する種々の観点よりの共同研究も多い.
- 6) *Hp* 除菌治療により消化性潰瘍の再発率が著明に低下するという長所はよく知られているが, 除菌後に発生する食道, 胃, 十二指腸病変の存在することをシンポジウム講演した.
- 7) 腹部愁訴と心理面の研究では, 消化性潰瘍, 種々の胃炎例を対象に研究し, 有意義な成績が得られている. 今後, NUDについての検討も加える予定である.
- 8) 上部, 下部消化管に関する症例報告も多数行った.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 山田宣孝²⁾(¹⁾付属病院第1外科, ²⁾病理第2): タイ王国における *Helicobacter pylori* 感染と背景胃粘膜の観察. 消内視鏡の進歩 2000; 56(2): 29-33.
- 2) 井上泰夫, 羽山享宏, 松久威史: 心理テスト, 嗜好品からみた胃炎の検討. 消内視鏡の進歩 2000; 56(2): 48-49.
- 3) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 山田宣孝²⁾(¹⁾付属病院第1外科, ²⁾病理第2): 日本とタイ王国における老年人, 高齢

者の胃十二指腸疾患：*Helicobacter pylori*感染を含めて．日高消医会誌 2000；2(2)：40-45．

- 4) 松久威史，羽山享宏，芳村昇治，山田宣孝¹⁾(¹⁾病理第2)：*Helicobacter pylori*陰性例における背景胃粘膜：萎縮，腸上皮化生を中心に．消内視鏡の進歩 2000；57(2)：34-39．
- 5) 羽山享宏，井上泰夫，松久威史：胃，十二指腸潰瘍における心理テスト成績の検討．消内視鏡の進歩 2000；57(2)：50-51．
- 6) 山田宣孝¹⁾，松倉則夫²⁾，松久威史(¹⁾病理第2，²⁾付属病院第1外科)：上部消化管*H. pylori*感染症：内視鏡下三点生検法．日本臨牀 2001；59(2)：252-257．

(2) 総説：

- 1) Nakamura H¹⁾，Mukai E¹⁾，Hirano D¹⁾，Matsuhisa T，Yamada N²⁾，Yoshino S¹⁾(¹⁾付属病院リウマチ外科，²⁾病理第2)：Gastrointestinal disorder and *Helicobacter pylori* infection in patients with rheumatoid arthritis．*Mod Rheumatol* 2001；11(1)：23-27．
- 2) 松久威史，吉野横一¹⁾，山田宣孝²⁾(¹⁾付属病院リウマチ外科，²⁾病理第2)：NSAIDs長期服用者の*Helicobacter pylori*感染と上部消化管病変．*Helicobacter Resarch* 2000；4(4)：314-319．

(3) 話題：

- 1) 松久威史：小児の*Helicobacter pylori*感染．*J Nippon Med Sch* 2000；67(3)：221-222．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 松久威史：*Helicobacter pylori*診断法：検査法の選択．町田市消化器内視鏡研究会，2001．3．

(2) シンポジウム：

- 1) Matsuhisa T：Diagnostic method of *Helicobacter pylori* infection in children．Pediatric symposium in Chiang Mai University (Chiang Mai, Kingdom of Thailand)，2001．1．
- 2) Matsuhisa T：*Helicobacter pylori* infection and gastric mucosa between Japan and other Asian countries．Pediatric symposium in Chaing Mai University (Chaing Mai, Kingdom of Thailand)，2001．1．
- 3) Matsuhisa T：*Helicobacter pylori* infection in Asian children：Chinese, Vietnamese and Japanese．Pediatric symposium in Chiang Mai University (Chaing Mai, Kingdom of Thailand)，2001．1．
- 4) 松久威史，日下部史郎，前田昭太郎¹⁾，山田宣孝²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾病理第2)：*Helicobacter pylori*除菌後にみられる食道，胃，十二指腸病変の観察．第16回胃炎研究会，2000．11．

(3) パネルディスカッション：

- 1) 松久威史，日下部史郎，山田宣孝¹⁾(¹⁾病理第2)：*Helicobacter pylori*感染診断，除菌判定における内視鏡検査の有用性．第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2000．12．

(4) セミナー：

- 1) Matsuhisa T：Diagnostic method of *Helicobacter pylori* infection in children．The 3rd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and Histological Diagnosis of Gastrointestinal Disease, Endoscopic Division (Ho Chi Minh, Viet Nam)，2001．3．
- 2) Matsuhisa T：Safety of ¹³C-Urea Breath Test (UBT) for the detection of *Helicobacter pylori* infection in children．The 3rd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and Histological Diagnosis of Gastrointestinal Disease, Endoscopic Division (Ho Chi Minh, Viet Nam)，2001．3．
- 3) Matsuhisa T：*Helicobacter pylori* infection in Thai, Vietnamese, Chinese and Japanese children．The 3rd Scientific Seminar in Ho Chi Minh City, Endoscopic and Histological Diagnosis of Gastrointestinal Disease, Endoscopic Division (Ho Chi Minh, Viet Nam)，2001．3．

(5) 一般講演：

- 1) Matsuhisa T, Matsukura N¹⁾, Yamada N²⁾, Dong En-Y³⁾, Tomtitchong P⁴⁾, Sang LK⁵⁾(¹⁾ 付属病院第1外科, ²⁾ 病理第2, ³⁾ 中日友好医院消化内科, 北京, 中国, ⁴⁾ Thammasat 大学外科, Bangkok, Kingdom of Thailand, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, Trung Vuong Emergency Center, Ho Chi Minh, Viet Nam): Observation of gastroduodenal disease and *Helicobacter pylori* infection in Japanese compared to other Asian people. The 1st Annual Meeting of Japan-Korea Joint Meeting on Helicobacter Infection. (Cheju Island, Korea), 2001. 2.
- 2) Matsuhisa T, Matsukura N¹⁾, Yamada N²⁾, Dong En-Y³⁾, Tomtitchong P⁴⁾, Sang LK⁵⁾(¹⁾ 付属病院第1外科, ²⁾ 病理第2, ³⁾ 中日友好医院消化内科, 北京, 中国, ⁴⁾ Thammasat 大学外科, Bangkok, Kingdom of Thailand, ⁵⁾ Department of Gastroenterology, Trung Vuong Emergency Center, Ho Chi Minh, Viet Nam): Study of grandular atrophy and intestinal metaplasia in accordance with *Helicobacter pylori* infection in Japanese compared to other Asian people. The 1st Annual Meeting of Japan-Korea Joint Meeting on Helicobacter pylori Infection (Cheju Island, Korea), 2001. 2.
- 3) Yamada S¹⁾, Matsukura N¹⁾, Kato S¹⁾, Matsuda N¹⁾, Onda M¹⁾, Matsuhisa T, Yamada N²⁾, Miki M¹⁾, Sando T³⁾, Chakrabandhu T³⁾, Ariyakachorn V³⁾, Wuthikan S³⁾(¹⁾ 付属病院第1外科, ²⁾ 第2病理学教室, ³⁾ Chiang Mai 大学外科, Chiang Mai, Kingdom of Thailand): Genetic difference of CYP2C19 single nucleotide polymorphosis in southern Asian countries. 第1回東京 UGI 研究会, 2001. 3.
- 4) 松久威史, 山田宣孝¹⁾(¹⁾ 病理第2): *Helicobacter pylori* 感染からみた慢性胃炎: 中国, タイ, ベトナム人との比較観察. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 5) 松久威史, 山田宣孝¹⁾(¹⁾ 病理第2): ベトナムと日本における *Helicobacter pylori* 感染, 胃十二指腸疾患の比較観察. 第59回日本消化器内視鏡学会総会, 2000. 5.
- 6) 芳村昇治, 井上泰夫, 松久威史: 内視鏡的切除後短期間に再発した食道血管腫の1例. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 7) 松久威史, 羽山享宏, 芳村昇治, 山田宣孝¹⁾(¹⁾ 病理第2): *Helicobacter pylori* 陰性例における背景胃粘膜: 腺萎縮, 腸上皮化生を中心に. 第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000. 6.
- 8) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 山田宣孝²⁾(¹⁾ 付属病院第1外科, ²⁾ 病理第2): アジア人(中国, タイ, ベトナム)と日本人における *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の観察. 第6回日本ヘリコバクター学会, 2000. 6.
- 9) 松久威史, 山田宣孝¹⁾(¹⁾ 病理第2): 日本とタイにおける老年者胃十二指腸疾患の比較検討: *Helicobacter pylori* 感染を含めて. 第41回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 10) 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史: 胃, 十二指腸潰瘍における心理テスト成績の検討. 第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000. 6.
- 11) 日下部史郎, 井上泰夫, 芳村昇治, 松久威史: 短期間に噴門狭窄を来した Borrmann4 型進行胃癌の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 6.
- 12) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 和田雅世¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 飯田信也¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 中村慶春¹⁾, 寺元忠¹⁾, 松久威史, 山田宣孝²⁾, 恩田昌彦³⁾(¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 病理第2, ³⁾ 付属病院第1外科): 胃癌組織における低レベル c-myc 遺伝子コピー数増幅と *Helicobacter pylori* 感染の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 13) 芳村昇治, 井上泰夫, 松久威史: 短期間に再発した食道血管腫に対する内視鏡的切除経験. 第260回日本消化器病学会関東支部例会, 2000. 7.
- 14) 松久威史, 羽山享宏, 芳村昇治, 山田宣孝¹⁾(¹⁾ 病理第2): *Helicobacter pylori* 陰性例における萎縮, 腸上皮化生の観察. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 15) 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史: 心理テストからみた胃, 十二指腸潰瘍の検討. 第68回日本医科大学医学会総

会，2000．9．

- 16) 井上泰夫，芳村昇治，日下部史郎，松久威史：短期間に形態が変化した胃腺管腺腫の1例．第68回日本医科大学医学学会総会，2000．9．
- 17) 芳村昇治，井上泰夫，松久威史，竹田幸代¹⁾，向後俊昭¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科)：虚血性大腸炎の1幼児例．第68回日本医科大学医学学会総会，2000．9．
- 18) 鈴木成治¹⁾，江上 格¹⁾，松島申治¹⁾，渡辺秀裕¹⁾，飯田信也¹⁾，藤田逸郎¹⁾，中村慶春¹⁾，寺本 忠¹⁾，天神敏博²⁾，松久威史，山田宣孝³⁾，田中茂夫²⁾，恩田昌彦⁴⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾付属病院第2外科，³⁾病理第2，⁴⁾付属病院第1外科)：胃癌組織における8番染色体数の不安定性及びc-myc遺伝子コピー数増幅と*Helicobacter pylori*感染の検討．第59回日本癌学会総会，2000．10．
- 19) 松久威史，羽山享宏，芳村昇治，山田宣孝¹⁾(¹⁾病理第2)：*Helicobacter pylori*陰性例における背景胃粘膜の観察．第60回日本消化器内視鏡学会総会，2000．10．
- 20) 松久威史，松倉則夫¹⁾，山田宣孝²⁾(¹⁾付属病院第1外科，²⁾病理第2)：*Helicobacter pylori*感染別にみた萎縮性胃炎：アジア近隣諸国との比較．第42回日本消化器病学会大会，2000．10．
- 21) 井上泰夫，羽山享宏，松久威史：心理テスト，嗜好品からみた胃炎の検討：表層性胃炎を中心に．第55回消化器心身医学研究会，2000．10．
- 22) 山田シリカン¹⁾，恩田昌彦¹⁾，松倉則夫¹⁾，加藤俊二¹⁾，松田範子¹⁾，三樹 勝¹⁾，松久威史，山田宣孝²⁾(¹⁾付属病院第1外科，²⁾病理第2)：薬物代謝酵素CYP2C19遺伝子個体差のアジア各国での差異：PPIを用いた*Helicobacter pylori*除菌治療の効果予測．第11回日本医科大学外国人留学者研究会，2000．11．
- 23) 日下部史郎，芳村昇治，井上泰夫，松久威史，前田昭太郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院病理部)：プロトンポンプ・インヒビターの投与により*Helicobacter pylori*疑陰性を示した胃潰瘍例の検討．日本医科大学医学部第102回例会，2000．12．
- 24) 松久威史：日本とベトナムにおける老年者胃十二指腸疾患，*Helicobacter pylori*感染の観察．第3回日本高齢消化器医学会議，2001．1．
- 25) 松久威史，松田 健¹⁾，桑原健太郎²⁾，松倉則夫³⁾，山田宣孝⁴⁾，Boonyaritchaikij S⁵⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科，²⁾千葉北総病院小児科，³⁾付属病院第1外科，⁴⁾第2病理学教室，⁵⁾Chiang Mai 大学家庭医学，Chiang Mai，Kingdom of Thailand)：タイ王国における小児の*Helicobacter pylori*感染．第5回日本小児*Helicobacter pylori*研究会，2001．3．
- 26) 井上泰夫，松久威史：食道神経鞘腫の1例．第40回多摩消化器病研究会，2001．3．

[千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

千葉北総病院胸部外科は循環器センターと呼吸器センターの外科部門の診療を行っている．循環器の手術では冠動脈バイパス術，心臓弁膜症，胸部大動脈瘤から閉塞性動脈疾患，静脈瘤，心臓ペースメーカー植込み術まで多彩な手術を行っており，これらに関する研究が主である．呼吸器の手術は肺癌や縦隔主要が中心で，気胸の手術も多い．肺手術の60%以上では胸腔鏡が用いられており，胸腔鏡手術の手技や工夫に関する研究も多かった．

1. 呼吸器手術の適応や工夫に関する研究も多かった．
2. 術後疼痛やQOL改善に関する研究．
3. 肺癌の発癌機序に関する研究．
4. 胸腔鏡手術の手技に関する研究．
5. 胸腔内播腫への温熱療法の研究．
6. 術後合併症に関する研究．

7. 開心術症例の心内電位についての研究 .

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 山内茂生, 藤井正大: 電気生理学的検査に基づいた心房細動手術の今後の展望 . 第15回日本心臓ペースング・電気生理学学会学術大会, 2000 . 5 .

(2) 一般講演 :

- 1) 鈴木世考, 宮本哲也, 藤井正大, 真崎義隆, 山内茂生, 五味淵誠: 急性大動脈解離の1症例 . 第14回東葛心臓血管研究会, 2000 . 5 .
- 2) 真崎義隆: 原発性肺癌のリンパ節転移巣における Epstein-Barr virus の検討 . 第18回日本呼吸器外科学会, 2000 . 5 .
- 3) 真崎義隆¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 藤井正大¹⁾, 鈴木世孝¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 山内茂生¹⁾, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 胸部・心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 外科第2): 胸腔鏡手術に対する我々の施設の工夫と経験 . 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000 . 6 .
- 4) 佐地嘉章, 山内仁紫, 岩城秀行, 藤井正大, 丸山雄二, 川瀬康裕, 八巻重雄¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 公立刈田総合病院循環器科): 肺生検にて70%の肺小動脈閉塞を伴った ASD, PH の2手術例 . 第36回日本小児循環器学会, 2000 . 7 .
- 5) 佐地嘉章, 落 雅美, 坂本俊一郎, 藤井正大, 石井庸介, 岩城秀行, 矢島俊巳, 新田 隆, 羽鳥信郎, 田中茂夫: 右胃大網動脈」による sequential grafting の経験: 術後造影からみた適応 . 第5回日本冠動脈外科学会, 2000 . 7 .
- 6) 佐地嘉章, 山内茂生, 鈴木世考, 田畑美弥子, 真崎義隆, 五味淵誠: 過去6年間における大動脈弁置換術の検討 . 第15回東葛心臓血管外科研究会, 2000 . 11 .
- 7) 佐地嘉章, 山内茂生, 真崎義隆, 鈴木世考, 田畑美弥子, 五味淵誠: 感染性心内膜炎による弁膜症に対して急性期に人工弁置換術を施行した2症例 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 8) 鈴木世考¹⁾, 真崎義隆¹⁾, 田畑美弥子¹⁾, 佐地嘉章¹⁾, 山内茂生¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 小野 靖²⁾, 加藤英治²⁾, 日野光紀²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科, ²⁾ 同内科): 急速に進行した肺膿瘍の1症例 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 9) 上野 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 小原俊彦, 今泉孝敬¹⁾, 畑 典武¹⁾, 山内茂生²⁾, 西村恭司³⁾, 益子邦洋⁴⁾ (¹⁾ 千葉北総病院集中治療部, ²⁾ 同胸部・心臓血管・呼吸器外科, ³⁾ 同血液浄化センター, ⁴⁾ 同救命救急センター): 感染性心内膜炎の1例 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 10) 佐地嘉章, 落 雅美, 坂本俊一郎, 石井庸介, 岩城秀行, 別所竜蔵, 山内仁紫, 矢島俊巳, 新田 隆, 羽鳥信郎, 田中茂夫: 緊急CABG例の成績と予後規定因子について: 周術期~術後中期成績からの検討 . 第31回日本心臓血管外科学会, 2001 . 2 .

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成12年度当教室における論文業績は、英文17編、和文50編の計67編であった。英文論文の内訳は、下垂体腫瘍7編、他の脳腫瘍8編、脳血管障害2編であり、基礎的研究8編、臨床的研究9編であった。一方、和文論文は下垂体腫瘍21編、他の脳腫瘍12編、脳血管障害8編、その他9編であり、基礎的研究10編、臨床的研究40編であった。これに、分担著書が、英文2編（下垂体腫瘍1編、他の脳腫瘍1編）と和文20編が加わる。学会発表は計225回あり、内国際学会18回、国内学会207回であった。

当教室の研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者数も多く基礎の教室や老人病研究所、更には他大学との関連が深く、従って業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎的及び臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告が多くみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に論文業績が不十分であるといわざるを得ない。特にこれらの分野での基礎的研究の核になるスタッフの不足が論文業績に反映している。しかし、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もあり、今後症例報告を含めて臨床的研究を進めていく予定である。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）を義務としている。勿論偏りはあるが、現教室員数からみるとこの条件は十分に満たしているものと思われる。

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

1) 佐々木光由：海外研究紹介：急性硬膜下血腫に伴う脳虚血。J Nippon Med Sch 2000；67（1）58-59。

(1) 原著：

1) Yoshida Y, Sanno N¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital): Multiple pituitary hormone gradients from cavernous sinus sampling in patients with Cushing's disease . Acta Neurochir (Wien) 2000 ; 142 (12): 1339-1344 .

2) Sanno N¹⁾, Shimura T¹⁾, Maeda S²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital , ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital): A case of chondroblastoma of temporal bone . Neuropathology 2000 ; 20 : 59 .

3) Takahashi H, Hamada H, Teramoto A : Usefulness of niravoline, an arginine vasopressin inhibitor, on tumour-origin brain oedema . Acta Neurochir (Wien) 2000 ; 76 (suppl): 323-327 .

4) Muramatsu H¹⁾, Nathan RD²⁾, Shimura T, Teramoto A (¹⁾ Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital , ²⁾ Department of Physiology, Texas Tech University Health Sciences Center, Lubbock, TX, USA): Recovery of stroke hemiplegia through neurosurgical intervention in the chronic stage . NeuroRehabilitation 2000 ; 15 : 157-166 .

5) Osamura RY¹⁾, Tahara S, Kurotani R¹⁾, Sanno N, Matsuno A²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ²⁾ Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital): Contributions of immunohistochemistry and in situ hybridization to functional analysis of pituitary ade-

- nomas . J Histochem 2000 ; 48 (4) : 445-458 .
- 6) Yoshida D , Hoshino S , Aihara K¹⁾ , Shimura T , Takahashi H , Teramoto A : Drug-induced apoptosis by anti-microtubule agent, estramustine phosphate on human malignant glioma cell line, U87M ; in vitro study . J Neurooncol 2000 ; 47 (2) : 133-140 .
 - 7) Yoshida D¹⁾ , Sugisaki Y²⁾ , Tamaki T , Saito N , Node Y , Shimura T , Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Daini Hospital , ²⁾ Department of Pathology) : Intracranial malignant meningioma with abdominal metastases associated with hypoglycemic shock : A case report . J Neurooncol 2000 ; 47 (1) : 51-58 .
 - 8) Noha M , Yoshida D , Watanabe K , Teramoto A : Suppression of cell invasion on human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27 ; in vitro study . J Neurooncol 2000 ; 48 (3) : 217-223 .
 - 9) Tamaki T , Takumi I , Kitamura T , Osamura RY¹⁾ , Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Pituitary stone case report . Neurol Med Chir 2000 ; 40 (7) : 383-386 .
 - 10) Matsuno A¹⁾ , Katakami H²⁾ , Nagashima T¹⁾ , Teramoto A , Osamura RY³⁾ , Kirino T⁴⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , ²⁾ Department of Internal Medicine 3, Miyazaki Medical College , ³⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ⁴⁾ Department of Neurosurgery, Faculty of Medicine, University of Tokyo) : Growth hormone-releasing hormone expression in pituitary somatotroph adenomas, studied by immunohistochemistry and in situ hybridization using catalysed signal amplification . Hum Pathol 2000 ; 31 (7) : 789-794 .
 - 11) Sanno N , Teramoto A , Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Long-term surgical outcome in 16 patients with thyrotropin pituitary adenoma . J Neurosurg 2000 ; 93 (2) : 194-200 .
 - 12) Kojima T , Mizumura S¹⁾ , Kumita S¹⁾ , Nakajo H¹⁾ , Kumazaki T¹⁾ , Kitamura T , Fukino K , Teramoto A (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Regional cerebral blood flow and vascular reserve in neuronal migration disorder assessed by Tc-99m-HMPAO SPECT with acetazolamide challenge . Clin Nucl Med 2000 ; 25 (9) : 749-750 .
 - 13) Tahara S , Kurotani R¹⁾ , Sanno N , Takumi I , Yoshimura S²⁾ , Osamura RY¹⁾ , Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ²⁾ Department of Molecular Life Science, Tokai University School of Medicine) : Expression of pituitary homeo box 1 (Ptx1) in human non-neoplastic pituitaries and pituitary adenomas . Mod Pathol 2000 ; 13 (10) : 1097-1108 .
 - 14) Kanazawa R¹⁾ , Kogure K¹⁾ , Kominami S¹⁾ , Kobayashi S¹⁾ , Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital) : Ependymal cyst producing alpha-fetoprotein . J Neurosurg 2000 ; 93 (4) : 682-685 .
 - 15) Murai Y , Kobayashi S , Mizunari T , Ohashi Y¹⁾ , Adachi K , Teramoto A (¹⁾ Advanced Emergency Critical Care Medicine) : Spontaneous regression of a germinoma in the pineal body after placement of a ventriculoperitoneal shunt : A case report . J Neurosurg 2000 ; 93 (5) : 884-886 .
 - 16) Yoshida S¹⁾ , Fukino K , Harada H¹⁾ , Nagai H¹⁾ , Imoto I²⁾ , Inazawa J²⁾ , Takahashi H , Teramoto A , Emi M¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology , ²⁾ Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : The c-Jun NH₂-terminal kinase3 (JNK3) gene : genomic structure, chromosomal assignment, and loss of expression in brain tumors . J Hum Genet 2001 ; 46 : 182-187 .
 - 17) Kim K , Arai K¹⁾ , Sanno N , Teramoto A , Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology) : The expression of thyrotrophin-releasing hormone receptor 1 messenger ribonucleic acid in human pituitary adenomas . Clin Endocrinol 2001 ; 54 (3) : 309-316 .

- 18) 山王なほ子, 梅村しのぶ¹⁾, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 5. mRNA in situ hybridization法の応用3) in situ RT-PCR. 病理と臨 2000 ; 18 (臨時増刊号): 293-298 .
- 19) 山王なほ子, 松野 彰¹⁾, 長村義之²⁾(¹⁾帝京大学医学部附属市原病院脳神経外科, ²⁾東海大学病態診断系病理学): 5. mRNA in situ hybridization法の応用4) in situ hybridization法と免疫組織科学の二重染色法. 病理と臨 2000 ; 18 (臨時増刊号): 299-302 .
- 20) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 加齢と性差 加齢に伴う疾患の性差 8) 脳下垂体腫瘍における性差. Geriat. Med 2000 ; 38 (12): 1813-1819 .
- 21) 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 長村義之¹⁾, 寺本 明(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): Pituitary incidentalomaの臨床・組織学的検討: 症候性非機能性腺腫との対比. 日内分泌会誌 2000 ; 76 (suppl): 34-36 .
- 22) 杉山 誠¹⁾, 岡田 崇¹⁾, 樋口皓史¹⁾, 矢部憲憲¹⁾, 小林直紀¹⁾, 寺本 明(¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター): 痙攣発作にて発症した脳囊虫症の1手術例. 脳神経外科 2000 ; 28 (9): 807-810 .
- 23) 田原重志, 大山健一, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 長村義之¹⁾, 寺本 明(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 同一組織内にGH産生腺腫からPRL産生腺腫への移行が観察された先端巨大症の1例. ホルモンと臨床・内分泌病理学最近の進歩 2000 ; 48 : 88-94 .
- 24) 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: 末梢性後下小脳動脈瘤の3例. Neurosurg Emerg 2000 ; 5 : 60-63 .
- 25) 大山健一, 黒谷玲子¹⁾, 田原重志, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるNeuro D1/b2の分子病理学的検討. ホルモンと臨床・内分泌病理学最近の進歩 2000 ; 48 (suppl): 79-83 .
- 26) 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治, 荒木 尚¹⁾, 大橋一善¹⁾, 原田尚重¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): 先天性胆道閉鎖症に合併したVitamin K欠乏による頭蓋内出血の1例. Neurosurg Emerg 2000 ; 5 : 77-88 .
- 27) 高野順子¹⁾, 高野幸路¹⁾, 寺本 明, 高倉公明²⁾, 山下直秀³⁾, 藤田敏郎¹⁾(¹⁾東京大学医学部第4内科, ²⁾東京女子医科大学脳神経センター, ³⁾東京大学医科学研究所): ヒトGH産生下垂体腺腫におけるgsp変異以外のGHRHシグナル伝達系の活性化変異. ホルモンと臨床 ('98特別増刊号) 2000 ; 46 (増刊号): 94-98 .
- 28) 足立好司, 朝倉隆之, 高橋 弘, 寺本 明: インターロイキン18の抗グリオーマ活性. 神免疫研 2000 ; 13 : 28-32 .
- 29) 高橋 弘¹⁾, 山田昌興¹⁾, 植松正樹¹⁾, 林 靖人¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 小児脳橋部グリオーマ治療の再検討. Neuro-Oncol 2000 ; 10 : 48-51 .
- 30) 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 脳腫瘍治療の進歩. 小児科 2000 ; 41 : 2290-2298 .
- 31) 金澤隆三郎, 水谷暢秀, 山王なほ子, 志村俊郎, 寺本 明: 髄膜腫と鑑別困難であった後頭蓋窩hemangiopericytomaの一治験例. CI研究 2000 ; 22 (3): 181-185 .
- 32) 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体細胞の分化機構 (特集: 下垂体疾患診療の進歩). 内分泌・糖尿病科 2000 ; 11 (6): 521-526 .
- 33) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 小児の下垂体腺腫. 小児外科 2000 ; 32 (4): 357-360 .
- 34) 山王なほ子¹⁾, 金澤隆三郎¹⁾, 水谷暢秀¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 腫瘍内出血にて発症した後頭蓋窩hemangiopericytoma: 術前腫瘍血管塞栓術の有用性について. 脳神経外科速報 2000 ; 10 (4): 315-320 .
- 35) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 特集 内分泌・代謝疾患と性差 脳下垂体腫瘍と性差. 内分泌・糖尿病科 2000 ; 11 (4): 359-365 .
- 36) 戸田茂樹¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 脳虚血再灌流におけるfree radicalの役割. J Nippon Med Sch

- 2000 ; 67 (6) : 487 .
- 37) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 下垂体インシデンタローマ : 偶然発見された下垂体腫瘍 . あなたはどうしますか . Medical Practice 2000 ; 17 (7) : 1240-1241 .
- 38) 玉置智規, 柴田泰史¹⁾, 野手洋治²⁾, 山本保博²⁾, 寺本 明 (¹⁾付属病院中央検査部 , ²⁾高度救命救急センター): 重症頭部外傷における代謝性アシドーシスの病態生理 : ケトン体と乳酸に注目して . 脳神経外科 2000 ; 28 (7) : 623-629 .
- 39) 野手洋治¹⁾, 高橋 弘²⁾, 志村俊郎³⁾, 寺本 明 (¹⁾高度救命救急センター , ²⁾第二病院脳神経外科 , ³⁾多摩永山病院脳神経外科): 画像上鑑別診断に苦慮した鞍上部神経膠腫の2例 . 臨床放射線 2000 ; 45 (8) : 953-957 .
- 40) 草 彌博昭¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 脳神経外科領域における真菌症 , 特に深在性真菌症に対する (1 3) - ¹-D-グルカン測定の有用性とフルコナゾール投与の重要性について . 脳神経外科 2000 ; 28 (8) : 685-690 .
- 41) 金 景成 : 北朝鮮における脳神経外科 . 脳神経外科 2000 ; 28 (8) : 745 .
- 42) 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明 : 経管栄養を開始する際の工夫 . 脳神経外科 2000 ; 28 (10) : 925 .
- 43) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 疾患における性差5 脳下垂体腫瘍における性差 . 医学のあゆみ 2000 ; 195 (6) : 413-416 .
- 44) 金澤隆三郎¹⁾, 水谷暢秀¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 尿閉を来した無菌性髄膜炎の1例 . 脳神経外科 2000 ; 28 (11) : 1029-1033 .
- 45) 寺本 明 : 脳下垂体腫瘍と性差 . 性差医学 2001 ; 7 : 15-19 .
- 46) 寺本 明 : Cushing 病の診断と治療 . 脳神経外科ジャーナル 2001 ; 10 (2) : 86-91 .
- 47) 前川正義¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 福田清輔¹⁾, 寺本 明 (¹⁾目白病院脳神経外科): 虚血・閉塞性血管障害に対する開頭の血管再建術 . 脳神経外科 2001 ; 29 (22) : 139-143 .
- 48) 桑原健太郎¹⁾, 高石康子¹⁾, 藤野 修¹⁾, 吉田陽一, 高木 亮²⁾ (¹⁾付属病院小児科 , ²⁾同放射線科): 小児脳動静脈奇形の三次元CT血管造影法 . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (2) : 96-97 .
- 49) 高橋 弘¹⁾ (¹⁾第二病院脳神経外科): グリオーマの新しい治療法の展開 ; 免疫療法 . Clinical Neurosci 2001 ; 19 (3) : 352-354 .
- 50) 草 彌博昭, 高橋 弘, 寺本 明 : 脳神経外科領域における MRSA 肺炎に対する補中益気湯の効果 . 漢方医学 2001 ; 25 : 76-77 .
- 51) 菅原 明¹⁾, 竹内和久¹⁾, 宇留野明¹⁾, Paul MY²⁾, Ronald ML³⁾, 山王なほ子, 長村義之⁴⁾, 永田 年⁵⁾, William W⁶⁾, 伊藤貞嘉¹⁾ (¹⁾東北大学大学院分子血管病態学分野 , ²⁾NIDDK, NIH , ³⁾New England Medical Center , ⁴⁾東海大学医学部病態診断系病理学 , ⁵⁾浜松医科大学微生物学 , ⁶⁾Harvard Medical School): 下垂体におけるレチノイド X (RXR): その発現 , 調節および機能に関する検討 (特集 : 分子甲状腺学の進歩2001). ホルモンと臨床 2001 ; 49 (2) : 35-43 .
- 52) 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治, 中林基明¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 山本保博¹⁾, 池田幸穂²⁾ (¹⁾高度救命救急センター , ²⁾昭和大学医学部脳神経外科): クモ膜下出血患者における脳脊髄液および血清中S-100 蛋白の測定 : 機能予測の予後 . 救急・集中治療 2001 ; 13 (1) : 147-148 .
- 53) 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾, 三橋 清¹⁾, 大木琴美¹⁾, 野手洋治 (¹⁾付属病院形成外科): 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫の1症例 . 形成外科 2001 ; 44 (3) : 257-264 .
- 54) 田原重志, 吉田陽一, 寺本 明 : 21 特殊検査1) 下垂体・海綿静脈洞サンプリング . ホルモンと臨床 臨床に役立つ内分泌診療マニュアル2001 2001 ; (増刊号).
- 55) 志村俊郎, 寺本 明, 吉田大蔵, 足立好司 : 悪性腫瘍における化学療法とアポトーシス . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1) : 74-77 .

- 56) 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): Pituitary incidentalomaの臨床・組織学的検討: 症候性非機能性腺腫との対比. 日内分泌会誌 2001; 77(増刊号): 144-146.
- 57) 大山健一, 黒谷玲子¹⁾, 田原重志, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるNeuro D1/ 2の発現に関する分子病理学的検討. 日内分泌会誌 2001; 77(増刊号): 63-64.
- 58) 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): Pituitary incidentalomaの臨床・組織学的検討. 日内分泌会誌 2001; 77(増刊号): 144-146.
- 59) 高木 亮¹⁾, 天野康雄¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 古川一博¹⁾, 林 宏光¹⁾, 寺本 明, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科): 下垂体微小腺腫の診断におけるMultiphase Helical CT (MHCT)の有用性. 日医放射会誌 2001; 61(4): 169-171.
- 60) 田原重志, 山王なほ子, 寺本 明: 非機能性下垂体腺腫の病態と治療. 内分泌・糖尿病科 2001; 12(3): 293-299.
- (2) 総説:
- 1) 高橋 弘¹⁾(¹⁾第二病院脳神経外科): 神経症候群: その他の神経疾患も含めて III. 髄上皮腫. 日本臨床 領域別症候群シリーズ 2000; 28: 103-104.
 - 2) 高橋 弘¹⁾(¹⁾第二病院脳神経外科): 神経症候群: その他の神経疾患も含めて III. 神経芽細胞腫. 日本臨床 領域別症候群シリーズ 2000; 28: 105-107.
 - 3) 高橋 弘¹⁾(¹⁾第二病院脳神経外科): 神経症候群: その他の神経疾患も含めて III. 上衣芽細胞腫. 日本臨床 領域別症候群シリーズ 2000; 28: 108-109.
 - 4) 喜多村孝幸: 片頭痛の診断と治療. TPHA 2000; 50: 34-40.
 - 5) 喜多村孝幸: 手術で治るだけ. BRAIN 2000; 58: 11.
 - 6) 喜多村孝幸: 片頭痛治療の進歩. BRAIN 2000; 61: 7-8.

著 書

- 1) Sanno N, Osamura RY¹⁾(¹⁾Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): [分担] Methods in cellular and molecular pathology. Molecular and Cellular Endocrine Pathology (Stefaneanu L, Sasano H, Kovacs K, Arnold pub. New York), 2000; pp17-39, 1.
- 2) Yoshida D: [分担] Drug-induced apoptosis by anti-microtubule agent, estramustine phosphate on human malignant glioma cell line, U87M; in vitro study. Current Awareness in Biomedicine; Apoptosis, 2000; pp125-129, Scheffield Academic Press, Scheffield, UK.
- 3) 山口文雄, 寺本 明: [分担] IV章主な症状と看護 7視力・視野障害. ナースのための脳神経外科 改訂第2版, 2000; pp121-126, メディカ出版.
- 4) 喜多村孝幸: [分担] 神経内視鏡手術の動向と周術期合併症. 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング(小川 龍監修), 2000; pp98-104, 真興交易(株) 医書出版部.
- 5) 山王なほ子: [分担] Neuroimaging Quiz: 下垂体腺腫(非機能性). Clin Neurosci, 2000; pp101-102, 中外医学社.
- 6) 喜多村孝幸: [分担] Neuroimaging Quiz: 中脳水道星細胞腫(Grade2)および小脳上部のくも膜嚢胞. Clin Neurosci, 2000; pp467-468, 中外医学社.
- 7) 山口文雄: [分担] Neuroimaging Quiz: pyogenic brain abscess. Clin Neurosci, 2000; pp597-598, 中外医学社.
- 8) 山口文雄, 寺本 明: [分担] 顔面と下顎の症候学 顔面の感覚異常の原因と病態 d) 脳外科的疾患. Clin

- Neurosci, 2000 ; pp552-553, 中外医学社 .
- 9) 高橋 弘 : [分担] Neuroimaging Quiz : encephalitis . Clin Neurosci , 2000 ; pp715-716 , 中外医学社 .
 - 10) 山王なほ子 : [分担] Neuroimaging Quiz : 大孔部髄膜腫 . Clin Neurosci , 2000 ; pp837-838 , 中外医学社 .
 - 11) 吉田大蔵 : [分担] Neuroimaging Quiz : 視床下部星状細胞腫 (grade 2) . Clin Neurosci , 2000 ; pp961-962 , 中外医学社 .
 - 12) 吉田大蔵, 寺本 明 : [分担] ニューロサイエンスの新しい研究方法, in vitro angiogenesis assay . Clin Neurosci , 2000 ; pp868-869 , 中外医学社 .
 - 13) 山口文雄, 寺本 明 : [分担] 特集 : 気になる予兆3 . 頭部外傷患者の場合 : 頭蓋内圧と全身の管理 . ブレインナーシング , 2000 ; pp851-855 , メディカ出版 .
 - 14) 志村俊郎 : [分担] Neuroimaging Quiz : 脳実質内血腫を伴った横およびS状静脈洞部硬膜動静脈瘻 . Clin Neurosci , 2000 ; pp1093-1094 , 中外医学社 .
 - 15) 足立好司 : [分担] Neuroimaging Quiz : 嗅窩髄膜腫 . Clin Neurosci , 2000 ; pp1213-1214 , 中外医学社 .
 - 16) 山王なほ子 : [分担] Pituitary and Hypothalamic Lesions . 脳神経外科レビュー8 2000年度版 (監修 菊池晴彦 , 編集 佐藤 潔 , 福井仁士 , 山浦 晶) , 2000 ; pp39-52 , 三輪書店 .
 - 17) 山口文雄 : [分担] Neuroimaging Quiz : 血管芽腫 . Clin Neurosci , 2000 ; pp1327-1328 , 中外医学社 .
 - 18) 山王なほ子 : [分担] Neuroimaging Quiz : 特発性頸椎硬膜外血腫 . Clin Neurosci , 2000 ; pp1445-1446 , 中外医学社 .
 - 19) 高橋 弘 : [分担] 中枢神経系先天奇形の手術 : 神経皮膚症候群 . 図説脳神経外科New Approach. 小児脳神経外科手術 (高倉公朋, 斉藤 勇, 佐藤 潔, 大井静雄編) , 2001 ; pp120-131 , メジカルビュー社 .
 - 20) 山王なほ子, 寺本 明 : [分担] 標準治療と最新治療 : メリット・デメリット 無症候性下垂体腫瘍 . Clin Neurosci , 2001 ; pp98-99 , 中外医学社 .
 - 21) 野手洋治 : [分担] Neuroimaging Quiz : pilocytic astrocytoma . Clin Neurosci , 2001 ; pp93-94 , 中外医学社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Kitamura T , Teramoto A : Pitfall of neuroendoscopic surgery . 42nd Ernst-Moritz-Arndt University Seminar (Greifswald, Germany) , 2000 . 9 .
- 2) 寺本 明 : Cushing 病の診断と治療 . 第20回日本脳神経外科コンgres, 2000 . 5 .
- 3) 寺本 明 : 治る痴呆, 治らない痴呆 . 第26回日本脳神経財団講演会, 2000 . 6 .
- 4) 喜多村孝幸 : 片頭痛の診断と治療 . 臨床薬学研究会, 2000 . 7 .
- 5) 志村俊郎 : 急性期脳卒中の前兆と対策 . 第9回健康セミナー, 2000 . 9 .
- 6) 寺本 明 : ホルモン産生下垂体腺腫の治療 . 第6回IZUMO脳と内分泌セミナー, 2000 . 11 .
- 7) 喜多村孝幸 : 頭痛? 脳神経外科の立場から . 第50回不定愁訴研究会, 2000 . 11 .
- 8) 寺本 明 : 脳下垂体腫瘍の診断と治療 : 最近の傾向 . 第15回徳島脳神経外科談話会, 2000 . 12 .
- 9) 寺本 明 : 脳腫瘍 . 在宅ホスピス協会定例勉強会, 2000 . 12 .
- 10) 寺本 明 : Pituitary incidentaloma の病態と手術適応 . 第14回福島内分泌懇話会, 2001 . 1 .
- 11) 寺本 明 : 下垂体腺腫 : 診断から治療まで . 第9回関東脳SPECT研究会, 2001 . 3 .
- 12) 寺本 明 : 脳下垂体腺腫の治療 : 治療困難な症例を中心に . 第7回鹿児島脳神経外科セミナー, 2001 . 3 .

(2) 教育講演 :

- 1) 志村俊郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科) : 悪性脳腫瘍におけるアポトーシスの電顕像 . 日本医師会生涯教育講座平成12年度第1回医学講座プログラム, 2000 . 5 .
- 2) 山王なほ子¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科) : 分子生物学から見た間脳下垂体腫瘍 . 日本医師会生涯教育講座平

成12年度第1回医学講座プログラム, 2000 . 5 .

3) 喜多村孝幸: 脳神経外科手術 . 第31回日本医科大学医療事務研究会, 2000 . 11 .

(3) シンポジウム:

1) 古川哲也, 星野 茂, 朝倉隆之, 小林士郎, 高橋正泰¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 山之内製薬): 実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果 . 第24回日本神経外傷学会, 2001 . 3 .

(4) セミナー:

1) 戸田茂樹¹⁾, 近藤達也²⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 国立国際医療センター): 当初転移性脊椎腫瘍を疑われた頸椎osteosarcomaの1例 . 第22回多摩脳神経外科懇話会, 2000 . 11 .

2) 木暮一成, 水成隆之, 寺本 明: Transcondylar approachにてtrappingに難渋した正中かつ低位VA-dissecting aneurysmの1例 . 第22回多摩脳神経外科懇話会, 2000 . 11 .

(5) ワークショップ:

1) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明: 水頭症を伴う脳室内病変に対する神経内視鏡手術の有用性 . 第13回日本内視鏡外科学会総会, 2000 . 12 .

(6) 一般講演:

1) Toda S¹⁾, Ikeda Y²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Showa University): A role of ascorbic acid and SOD-like substances in cerebral ischemia-reperfusion . 2000 Annual Meeting of The American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, USA), 2000 . 4 .

2) Yamaguchi F, Morrison SR¹⁾, Yamada MS, Takahashi H, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurological Surgery, University of Washington): Loss of FGF receptor2 expression in glioblastoma multiforme . 2000 Annual Meeting of The American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, USA), 2000 . 4 .

3) Noha M, Yoshida D, Watanabe K, Teramoto A : Novel MMP inhibitor, SI16627B affects on cell invasion of human glioblastoma cell line ; an in vitro study . 2000 Annual Meeting of American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, USA), 2000 . 4 .

4) Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Shimura T, Teramoto A : Establishment of cytostatic dosage of estramustine phosphate against glioma cell line : in vitro study . 2nd International Symposium of Brain Tumor Pathology (Nagoya, Japan), 2000 . 5 .

5) Kim K, Arai K¹⁾, Sanno N, Teramoto A, Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology): The analysis of the TRH receptor mRNA in the pituitary adenomas by RT-PCR . 3rd Pyongyang Joint Medical Symposium (Pyongyang), 2000 . 5 .

6) Kim K, Kitamura T, Teramoto A : Neuroendoscopic management of the third ventricular tumor . 3rd Pyongyang Joint Medical Symposium (Pyongyang), 2000 . 5 .

7) Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Teramoto A : Early evidence of microtubule depolymerization by estramustine . 2nd International Symposium of Brain Tumor Pathology (Nagoya, Japan), 2000 . 5 .

8) Sanno N, Tahara S, Oyama K, Osamura RY¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Clinicopathological features of the pituitary incidentalomas . The Endocrine Society's 82nd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 6 .

9) Kim K, Arai K¹⁾, Sanno N, Teramoto A, Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology): The expression of thyrotropin-releasing hormone receptor messenger ribonucleic acid (TRHR mRNA) in human pituitary adenomas . The Endocrine Society's 82nd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 6 .

10) Oyama K, Kurotani R¹⁾, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Expression of Neuro D1 in human pituitary adenomas . The Endocrine Society's

82nd Annual Meeting (Toronto, Canada), 2000 . 6 .

- 11) Noha M , Yoshida D , Watanabe K , Teramoto A : Suppression of cell invasion of human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27, in vitro study . 4th Congress of the European Association of Neuro-Oncology (Copenhagen, Denmark), 2000 . 6 .
- 12) Yoshida D , Noha M , Watanabe K , Teramoto A : Knob formation in the extracellular process of glioma cells by non-apoptotic dose of estramustine phosphate . 50th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 9 .
- 13) Noha M , Yoshida D , Watanabe K , Teramoto A : Suppression of cell invasion of human malignant glioma cell lines by a novel MMP Inhibitor, SI-27 ; in vitro study . 50th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 9 .
- 14) Watanabe K , Yoshida D , Noha M , Teramoto A : Suppression of matrix metalloproteinase-2 and -9 mediated cell invasiveness by a novel matrix metalloproteinase inhibitor, BE-16627B on human malignant glioma cell lines ; in vitro study . 50th Annual Meeting of the Congress of Neurological Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 9 .
- 15) Kitamura T : New therapy of migraine in Japan . World Headache 2000 (London, England), 2000 . 9 .
- 16) Takahashi H , Yamada MS , Hayashi Y , Uematsu M , Teramoto A : Reappraisal of the treatment for pontine glioma in children . 18th Annual Meeting of the International Society of Pediatric Neurosurgery , 2000 . 10 .
- 17) Teramoto A : Essentials of transsphenoidal pituitary surgery . 3rd Meeting of Asian Conference of Neurological Surgeons (Nagoya, Japan), 2000 . 11 .
- 18) 玉置智規, 植松正樹, 大山健一, 高橋 弘, 土屋喜哉¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東戸塚記念病院外科): 一市中病院における単純頭部打撲の臨床像 “ 重篤な経過に陥った3例の供覧と共に ” . 第23回日本神経外傷学会, 2000 . 4 .
- 19) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明 (¹⁾目白病院脳神経外科): コイル塞栓術にて治療した瘻が動脈瘤化した外傷性 dural AVF の1例 . 第23回日本神経外傷学会, 2000 . 4 .
- 20) 林 伸吉, 水成隆之, 小南修史, 星野 茂, 原島克之, 金澤隆三郎, 小林士郎, 佐藤秀貴¹⁾, 寺本 明 (¹⁾高度救命救急センター): 老年頭部外傷の問題点 : elderly abuse に認められた頭部外傷例の検討 . 第13回日本老年脳神経外科研究会, 2000 . 4 .
- 21) 寺本 明 : Restructuring of transsphenoidal surgery . 第9回脳神経外科手術と機器学会, 2000 . 4 .
- 22) 野手洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 大橋一善¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾高度救命救急センター): 重症くも膜下出血患者に対する治療成績の検討 . 第29回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 23) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): 前交通動脈瘤のドーム発育方向によるアプローチ法の選択 . 第29回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 24) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): Anterior temporal approach による破裂脳底動脈瘤急性期手術の検討 . 第29回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 25) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): Basilar bifurcation giant aneurysm に対する治療法の検討 . 第29回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 26) 小南修史¹⁾, 吉田陽一, 金澤隆三郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた Targetted Partial Embolization の有用性 . 第29回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 27) 村井保夫¹⁾, 水成隆之¹⁾, 齋藤寛浩¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 佐藤秀貴²⁾, 野手洋治²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾高度救命救急センター): 大脳円蓋部に比較的限局した出血原因不明のくも膜下

- 出血の3例．第29回日本脳卒中の外科学会，2000．4．
- 28) 佐藤秀貴¹⁾，池田幸穂²⁾，大橋一善¹⁾，村井保夫，荒木 尚¹⁾，野手洋治，山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター，²⁾昭和大学医学部脳神経外科): くも膜下出血患者における脳脊髄液及び血清中S-100 蛋白の測定: 予後の予測．第29回日本脳卒中の外科学会，2000．4．
- 29) 玉置智規，高橋 弘¹⁾，水成隆之²⁾，寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科，²⁾千葉北総病院脳神経センター): くも膜下出血後脳血管攣縮と頸部粥状動脈硬化の関連性: 超音波断層法による検討．第25回日本脳卒中学会，2000．4．
- 30) 野手洋治，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，荒木 尚¹⁾，大橋一善¹⁾，山本保博¹⁾，寺本 明(¹⁾高度救命救急センター): "Platform accident"の臨床的研究．第23回日本神経外傷学会，2000．4．
- 31) 野手洋治，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，荒木 尚¹⁾，大橋一善¹⁾，山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): "Platform accident"の臨床的検討．第3回臨床救急医学会総会，2000．4．
- 32) 野手洋治，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，荒木 尚¹⁾，大橋一善¹⁾，山本保博¹⁾，寺本 明(¹⁾高度救命救急センター): 脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血重傷患者に対する脳室ドレナージ術の検討．第25回日本脳卒中学会，2000．4．
- 33) 高橋 弘¹⁾，山田昌興¹⁾，植松正樹¹⁾，林 靖人¹⁾，寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 小児脳幹部グリオーマ治療の再検討．第19回ニューロ・オンコロジーの会，2000．4．
- 34) 志村俊郎¹⁾，高橋 弘²⁾，山王なほ子¹⁾，吉田大蔵²⁾，足立好司，星野 茂，寺本 明，松本光司³⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾第二病院脳神経外科，³⁾病理第2): 悪性神経膠腫の治療後の病理形態と画像: 特に種々の局所化学療法と比較検討を中心に．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 35) 山王なほ子，田原重志，大山健一，長村義之¹⁾，寺本 明(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体細胞の機能分化: 下垂体腺腫の機能発現における転写因子の役割．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 36) 山王なほ子¹⁾，志村俊郎¹⁾，前田昭太郎²⁾，長島和郎³⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾多摩永山病院病理部，³⁾北海道大学病理): 後頭蓋窩のMeningeal hemangiopericytomaの1例．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 37) 大山健一，山王なほ子，田原重志，長村義之¹⁾，寺本 明(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるNeuro D1/ 2の分子病理学的検討．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 38) 田原重志，山王なほ子，足立好司，喜多村孝幸，野手洋治，小林士郎，寺本 明: 急性発症群の下垂体卒中7症例の検討．第14回日本神経救急研究会，2000．5．
- 39) 荒木 尚¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，大橋一善¹⁾，松本多絵¹⁾，野手洋治，山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): 著しい頭蓋内圧亢進を呈しつつ生存し得た重症頭部外傷の1男児例．第14回日本神経救急研究会，2000．5．
- 40) 齋藤寛浩¹⁾，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，小南修史¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 治療に難渋した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の1例．第14回日本神経救急研究会，2000．5．
- 41) 志村俊郎¹⁾，山王なほ子¹⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 地域中核病院における脳外科疾患のインフォームド・コンセントについて．日本医科大学医学会第101回例会，2000．5．
- 42) 小南修史: 左中大脳動脈閉塞を伴った左中大脳動脈領域のAVM．第25回関東脳神経血管内手術セミナー，2000．5．
- 43) 金 景成，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Transcondylar approachが有用であったextracranial origin PICA末梢部動脈瘤の1例．第12回日本頭蓋底外科学会，2000．5．
- 44) 木暮一成，小林士郎，寺本 明，井須豊彦¹⁾: 外傷を契機に症状を呈したcervical polyostotic fibrous dysplasiaの1例．第15回日本脊髄外科学会，2000．5．
- 45) 野手洋治，山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): Platform accident．第14回日本外傷学会，2000．5．

- 46) 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾同病理部): 側頭骨に発生した chondroblastoma の1例. 第41回日本神経病理学会総会学術研究会, 2000. 6.
- 47) 水成隆之: 椎骨脳底動脈領域の閉塞性血管障害の治療. 第37回関東脳神経外科懇話会, 2000. 6.
- 48) 立山幸次郎¹⁾, 村井保夫¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Occipital trans-tentorial approach にて摘出した充実性小脳血管芽腫の1例. 第41回東葛地区脳神経外科研究会, 2000. 6.
- 49) 太組一朗, 大山健一, 田原重志, 小松原清光, 山王なほ子, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における VAMP-1 発現の免疫組織化学による解析. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 50) 田原重志, 山王なほ子, 大山健一, 小松原清光, 太組一朗, 黒谷玲子¹⁾, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 同一腫瘍細胞に ACTH と GH の発現が観察された Cushing 病の1例. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 51) 大山健一, 黒谷玲子¹⁾, 田原重志, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における Neuro D1/b2 の分子病理学的検討. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 52) 玉置智規, 高橋 弘¹⁾, 水成隆之²⁾, 野手洋治, 寺本 明 (¹⁾第二病院脳神経外科, ²⁾千葉北総病院脳神経センター): 高血圧性脳内出血と頸動脈アテローム性硬化病変の関連性. 第19回日本脳神経超音波学会, 2000. 6.
- 53) 村井保夫¹⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 未破裂脳動脈瘤術後に同側慢性硬膜下血腫を生じた1例. 第9回日本脳ドック学会, 2000. 6.
- 54) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明 (¹⁾目白病院脳神経外科): 脳血管撮影中に解離の進行を認めた, 解離性椎骨動脈瘤の1例. 第78回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 6.
- 55) 饒波正博¹⁾, 山田昌興¹⁾, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾第二病院脳神経外科): 組織診断による適切な補助療法選択が, 十分な Q. O. L. 獲得に有用であった転移性脳腫瘍の1例. 第78回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 6.
- 56) 田原重志, 喜多村孝幸, 星野 茂, 山口文雄, 寺本 明: 神経内視鏡手術が有効であった central neurocytoma の2例. 第78回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 6.
- 57) 金澤隆三郎¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 側頭骨に発生した chondroblastoma の1治療例. 第78回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 6.
- 58) 山崎道生¹⁾, 齋藤寛浩¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 水頭症を合併した脊髄神経鞘腫の1例. 第78回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000. 6.
- 59) 寺尾 健¹⁾, 齋藤寛浩¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 血管内手術手技による外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻治療中に SjO₂ モニタリングを行った1例. 第6回日本脳代謝モニタリング研究会, 2000. 7.
- 60) 喜多村孝幸, 田原重志, 金 景成, 寺本 明: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性. 第3回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2000. 7.
- 61) 荒木 尚¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 小池 薫¹⁾, 野手洋治, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾高度救命救急センター): 小児重症頭部外傷に対する低温療法: 長期施行例の検討. 第3回日本脳低温療法研究会, 2000. 7.
- 62) 猪鹿倉恭子¹⁾, 横田裕行¹⁾, 直江康孝¹⁾, 中林基明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 布施 明¹⁾, 野手洋治, 黒川 顕¹⁾, 山本保博²⁾, 寺本 明 (¹⁾多摩永山病院救命救急センター, ²⁾高度救命救急センター): 重症クモ膜下出血の primary brain damage に対する術後軽度脳低温療法の効果. 第3回日本脳低温療法研究会, 2000. 7.
- 63) 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明: インターロイキン18の抗グリオーマ活性. 第13回「脳と免疫」研究会, 2000. 9.
- 64) 河野 潤¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター

- 一): 出血で発症した medulloblastoma の1例. 第42回東葛地区脳神経外科研究会, 2000. 9.
- 65) 前田昭太郎¹⁾, 東 敬子¹⁾, 山王なほ子²⁾, 志村俊郎²⁾, 劉 愛民³⁾, 淺野伍朗⁴⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾同脳神経外科, ³⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁴⁾病理第2): Solitary fibrous tumor と考えられる後頭蓋窩腫瘍の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 66) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 山本英希²⁾, 江上 格²⁾, 山王なほ子³⁾, 志村俊郎³⁾, 森 修⁴⁾, 劉 愛民⁵⁾, 淺野伍朗⁶⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾同外科, ³⁾同脳神経外科, ⁴⁾千葉北総病院病理部, ⁵⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁶⁾病理第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕的検索を中心として. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 67) 村松 光¹⁾, 山王なほ子²⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明, 丸山正明³⁾, 野手洋治³⁾(¹⁾春日居リハビリテーション病院内科, ²⁾多摩永山病院脳神経外科, ³⁾高度救急救命センター): リハビリテーション治療におけるボタン式胃瘻造設の有用性と臨床的意義. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 68) 吉田大蔵: 悪性グリオーマ細胞に対する抗 microtubule 剤の治療. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 69) 佐々木光由¹⁾(¹⁾第二病院脳神経外科): A model of acute subdural hematoma in the mouse. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 70) 吉田祥子¹⁾, 原田晴仁¹⁾, 永井尚生¹⁾, 江見 充¹⁾, 吹野晃一, 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明(¹⁾老人病研究所分子生物学部門): 脳腫瘍株における JNK3A1 遺伝子のゲノムの構造と発現解析. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 71) 田原重志, 喜多村孝幸, 玉置智規, 星野 茂, 山口文雄, 寺本 明: 神経内視鏡手術が治療に有用であった central neurocytoma の2例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 72) 山崎道生¹⁾, 金澤隆三郎¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明, 細根 勝²⁾, 前田昭太郎²⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾同病理部): 側頭骨に発生した chondroblastoma の1治験例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 73) 勝野 亮, 竹井麻生, 酒井直之, 植松正樹, 渡辺国博, 田原重志, 玉置智規, 寺嶋克幸¹⁾, 小倉 明¹⁾, 大井良之¹⁾, 寺本 明(¹⁾付属病院麻酔科): 急激な意識障害を呈し治療に苦慮した特発性低髄圧症候群の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 74) 小菊 実, 星野 茂, 田原重志, 小島豊之, 寺本 明: 非典型的な出血形態を呈した小脳脳動脈奇形の1症例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 75) 北川 亮¹⁾, 饒波正博¹⁾, 山田昌興¹⁾, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 組織診断後の適切な補助療法選択により劇的なQOL改善を認めた転移性脳腫瘍の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 76) 土屋雅人, 酒井直之, 田原重志, 玉置智規, 寺本 明: 気脳症で発症した前頭洞骨腫の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 77) 森本大二郎¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Trap & suction法を用いて加療し得た内頸動脈大脳動脈瘤の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 78) 鈴木雅規, 山田 明, 吉田陽一, 山口文雄, 寺本 明: Meckel腔に発生した lipoma の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 79) 山田昌興¹⁾, 饒波正博¹⁾, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 遷延性意識障害を呈したにも関わらず, 予後良好な経過をたどった頭部外傷の1例. 第9回意識障害治療学会, 2000. 9.
- 80) 荒木 尚¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 大橋一善¹⁾, 野手洋治, 山本保博¹⁾, 寺本 明(¹⁾高度救命救急センター): 著しい頭蓋内圧亢進を呈しつつ生存し得た重症頭部外傷の1男児例. 第28回日本小児神経外科学会, 2000. 9.
- 81) 高橋 弘¹⁾, 山田昌興¹⁾, 植松正樹¹⁾, 林 靖人¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): 小児脳橋部グリオ-

- マに対する治療法選択の再検討．第28回日本小児神経外科学会，2000．9．
- 82) 山口文雄，寺本 明：術中皮質マッピングにおける筋電図モニタリングに与える影響因子．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 83) 杉山 誠¹⁾，岡田 崇¹⁾，樋口皓史¹⁾，矢部薫憲¹⁾，寺本 明⁽¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター)：術前診断が困難であったテント上に発生したcystic cavernous angiomaの1例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 84) 立山幸次郎¹⁾，村井保夫¹⁾，鈴木紀成¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：Occipital trans-tentorial approachにて摘出した小脳血管芽腫の1例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 85) 酒井直之¹⁾，村井保夫¹⁾，鈴木紀成¹⁾，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：Electromagnetic field systemの使用が効果的であった小脳橋角部髄膜腫の1症例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 86) 前川正義¹⁾，福田清輔¹⁾，粟屋 栄¹⁾，寺本 明⁽¹⁾目白病院脳神経外科)：当院における未破裂脳動脈瘤の検出率および対処法．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 87) 杉山 誠，岡田 崇¹⁾，樋口皓史¹⁾，矢部薫憲¹⁾，小林直紀¹⁾(⁽¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター)：開頭術後に帯状に発毛が障害された稀な2例．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 88) 石井雄道¹⁾，山王直子¹⁾，戸田茂樹¹⁾，志村俊郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：高齢者頭蓋咽頭腫の1治験例．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 89) 竹井麻生，植松正樹，田原重志，玉置智規，寺本 明：意識障害を呈した特発性低髄圧症候群の1例．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 90) 北川 亮¹⁾，山田昌興¹⁾，饒波正博¹⁾，佐々木光由¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾第二病院脳神経外科)：高齢者のcystic brain tumorへの外科的approach．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 91) 森本大二郎¹⁾，寺尾 健¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：Trap & suction法を用いて加療し得た内頸動脈large aneurysmの1例．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
- 92) 志村俊郎¹⁾，足立好司，寺本 明，浅野伍朗²⁾(⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾病理第2)：各種治療を施した頭蓋内原発性悪性リンパ腫におけるアポトーシスの超微形態．第32回日本臨床電子顕微鏡学会，2000．9．
- 93) 前田昭太郎¹⁾，東 敬子¹⁾，山王なほ子²⁾，志村俊郎²⁾，劉 愛民³⁾，浅野伍朗⁴⁾(⁽¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾同脳神経外科，³⁾中央電子顕微鏡施設，⁴⁾病理第2)：後頭蓋窩のhemangiopericytoma-like tumorの1例．第32回日本臨床電子顕微鏡学会，2000．9．
- 94) 野手洋治，寺本 明：前頭蓋底手術後の骨欠損に対してhydroxyapatite ceramicsを用いた頭蓋形成術．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 95) 山田昌興¹⁾，饒波正博¹⁾，佐々木光由¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾第二病院脳神経外科)：髄液播種を認めた乳癌転移性脳腫瘍の4例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 96) 喜多村孝幸，田原重志，金 景成，寺本 明：脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
- 97) 草 彌博昭¹⁾，小松原清光¹⁾，寺本 明⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：小児の脳神経外科疾患．第19回足立区合同医学集談会，2000．10．
- 98) 金 景成，新井桂子¹⁾，山王なほ子，寺本 明，芝崎 保¹⁾(⁽¹⁾生理第2)：各種ヒト下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討．第27回日本神経内分泌学会，2000．10．
- 99) 志村俊郎¹⁾，村松 光²⁾，渡辺 玲¹⁾，山王なほ子¹⁾，野手洋治³⁾，寺本 明，松本正博¹⁾(⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾春日居リハビリテーション病院内科，³⁾高度救命救急センター)：正常脳圧水頭症における脳室

- 腹腔シャント機能不全の対応：正常慢性期症例．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 100) 水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明，上山博康²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター，²⁾旭川赤十字病院脳神経外科)：脳底動脈遠位部動脈瘤に対する anterior temporal approach の有用性と限界．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 101) Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Teramoto A : The bleb formation of the extracellular pseudopodia ; early evidence of microtubule depolymerization by estramustine phosphate in glioma cell ; in vitro study . 第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 102) 小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：NBCA を用いた Targeted Partial Embolization による脳動静脈奇形の治療．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 103) 星野 茂，朝倉隆之，古川哲也，小林士郎，寺本 明：ラット実験頭部外傷後のC-terminal fragments of amyloid precursor protein の免疫発現について．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 104) 山王なほ子，田原重志，金 景成，大山健一，寺本 明：下垂体前葉機能検査後の合併症：刺激負荷試験における薬剤適量の検討．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 105) 山王なほ子，小松原清光，田原重志，大山健一，寺本 明：男性プロラクチン産生下垂体腫瘍における Telguride 治療の効果．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 106) 佐々木光由，Dunn LT¹⁾(¹⁾Department of Neurosurgery, University of Glasgow, Scotland UK)：マウス急性硬膜下血腫モデルと脳虚血病変．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 107) 草薨博昭¹⁾，志村俊郎¹⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：脳神経外科領域における深在性真菌症(1-3)-¹-D-glucan 測定的重要性．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 108) 草薨博昭¹⁾，志村俊郎¹⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：くも膜下出血における凝固系線溶能の検討．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 109) 山口文雄，Morrison RS¹⁾，山田昌興，林 靖人，高橋 弘，寺本 明(¹⁾Department of Neurological Surgery, University of Washington)：FGFR2-IIIc 欠損とグリオーマの予後．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 110) 戸田茂樹¹⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：ラット脳虚血再灌流における脳浮腫に対する活性酸素種の役割．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 111) 玉置智規，野手洋治，寺本 明：重症頭部外傷における代謝性アシドーシスの病態生理(動脈血中ケトン体比"AKBR"に着目して)．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 112) 吉田陽一，山王なほ子，寺本 明：海綿静脈洞サンプリングによるクッシング病患者下垂体前葉ホルモン濃度の検討．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 113) 杉山 誠，岡田 崇¹⁾，樋口皓史¹⁾，矢部薫憲¹⁾(¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター)：真珠腫性中耳炎から波及した小脳橋角部脳膿瘍の1例．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 114) 古川哲也，星野 茂，朝倉隆之，小林士郎，寺本 明，高橋正泰¹⁾(¹⁾山之内製薬)：実験頭部外傷に対するAMPA 受容体拮抗薬YM872 の効果．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 115) 木暮一成，寺本 明：神経移植におけるサイトカイン遺伝子の定量的解析．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 116) 鈴木紀成¹⁾，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：頭部外傷患者におけるMRI T2* 強調画像．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 117) 田原重志，山王なほ子，大山健一，梅岡克哉，金 景成，太組一朗，長村義之¹⁾，寺本 明(¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学)：高齢者非機能性下垂体腺腫の臨床・病理学的検討．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
- 118) 村井保夫¹⁾，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：超急性期脳内出血に対す

- る Three-dimensional CT angiography と造影 MRI の臨床的意義 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 119) 吹野晃一, 田原重志, 山王なほ子, 江見 充¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門): 日本人散発性下垂体腺腫における *MEN1* 遺伝子の解析 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 120) 原島克之, 田原重志, 吉田陽一, 高木 亮¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院放射線科): Multiphase helical CT を用いた pituitary adenoma の評価 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 121) 小島豊之, 水村 直¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 喜多村孝幸, 山王なほ子, 隈崎達夫¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 放射線科): Tc-99m MIBI SPECT による下垂体腺腫の評価 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 122) Watanabe K, Yoshida D, Noha M, Teramoto A : Suppression of matrix metalloproteinase-2 and -9 mediated cell invasiveness by a novel matrix metalloproteinase inhibitor, BE-16627B on human malignant glioma cell lines ; in vitro study . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 123) 金 景成, 新井桂子¹⁾, 山王なほ子, 寺本 明, 芝崎 保¹⁾ (¹⁾ 生理第 2): ヒト下垂体腺腫における TRH 受容体遺伝子発現の検討 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 124) 大山健一, 黒谷玲子¹⁾, 田原重志, 小松原清光, 太組一朗, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における Neuro D1/b2 の分子病理学的検討 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 125) 梅岡克哉, 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子¹⁾, 長村義之¹⁾, 渡辺 武²⁾, 中島 学²⁾, 生山祥一郎³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学, ²⁾ 九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門, ³⁾ 九州大学整体防御医学研究所臨床免疫学部門): ヒト下垂体腺腫における RCAS1 の発現 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 126) 寺尾 健¹⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 慢性硬膜下血腫の手術前後での xenon CT を用いた脳循環動態の変化について . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 127) 吉田祥子¹⁾, 吹野晃一, 足立好司, 原田晴仁¹⁾, 永井尚生¹⁾, 寺本 明, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門): 4q21 領域の JNK3A1 遺伝子構造と脳腫瘍株における発現異常 . 日本人類遺伝学会第 45 回大会 , 2000 . 10 .
- 128) 野手洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 中林基明¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 高度救命救急センター): Platform accident における頭部外傷患者の臨床的特徴 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 129) 野手洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 中林基明¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 高度救命救急センター): 高齢者脳血管障害患者のリハビリテーションとその転帰に関する検討 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 130) 渡辺 玲, 星野 茂, 喜多村孝幸, 高尾厚志¹⁾, 海老根博樹¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第一化学薬品株式会社薬物動態研究所): フィブリン接着剤の動態試験 125I 標識フィブリン接着剤のラット脳硬膜塗布後の分布 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 131) 高橋 弘¹⁾, 山田昌興¹⁾, 林 靖人¹⁾, 植松正樹¹⁾, 山口文雄, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): Reappraisal of the treatment for pontine glioma in children . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 132) 山田昌興¹⁾, 林 靖人¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): ヒト astrocytoma の悪性度と fibroblast growth factor receptor (FGFR) 4 の発現 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 133) 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明 : インターロイキン 18 のグリオーマ細胞に対する抗腫瘍効果の検討 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 134) 喜多村孝幸, 田原重志, 金 景成, 寺本 明 : Central neurocytoma に対する神経内視鏡手術 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 135) 喜多村孝幸, 田原重志, 金 景成, 寺本 明 : 脳室内病変に対する神経内視鏡手術に対する検討 . 第 59 回日本脳神経外科学会総会 , 2000 . 10 .
- 136) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 栗屋 栄¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 目白病院脳神経外科): クリッピングとコイリングの共存

- 時代における，未破裂脳動脈瘤の治療適応基準「動脈瘤の大きさ」のあり方について．第16回日本脳神経血管内治療学会，2000．11．
- 137) 吉田陽一，小南修史，金澤隆三郎，小林士郎，寺本 明：椎骨動脈解離性破裂動脈瘤に対する血管内手術の治療戦略．第16回日本脳神経血管内治療学会，2000．11．
- 138) 金澤隆三郎，吉田陽一，小南修史，寺本 明：血管内手術と開頭手術後脳血管攣縮の評価．第16回日本脳神経血管内治療学会，2000．11．
- 139) 竹井麻生¹⁾，村井保夫¹⁾，鈴木紀成¹⁾，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：未破裂動脈瘤術後に合併症を来した2症例．第43回東葛地区脳神経外科学研究会，2000．11．
- 140) 萩原 浩¹⁾，三品雅洋²⁾，駒場祐一²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター，²⁾千葉北総病院内科)：てんかん発作にて発見されたoral facial digital syndromeの1例．第43回東葛地区脳神経外科学研究会，2000．11．
- 141) 草彌博昭¹⁾，高橋 弘²⁾，寺本 明⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾第二病院脳神経外科)：脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果．第9回脳神経外科と漢方研究会，2000．11．
- 142) 田原重志，山王なほ子，大山健一，小松原清光，太組一朗，黒谷玲子¹⁾，長村義之¹⁾，寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学)：同一腫瘍細胞にACTHとGHの発現が観察されたCushing病の1例．第4回日本内分泌病理研究会・学術集会，2000．11．
- 143) 大山健一，周東祐仁¹⁾，田原重志，山王なほ子，杉原 仁¹⁾，寺本 明，若林一二¹⁾，長村義之²⁾(¹⁾内科第三，²⁾東海大学医学部病態診断系病理学)：下垂体腺腫における成長ホルモン分泌惹起物質受容体GHS-Rの発現に関する免疫組織化学的検討．第4回日本内分泌病理研究会・学術集会，2000．11．
- 144) 喜多村孝幸，田原重志，金 景成，寺本 明：脳室内腫瘍 (central neurocytoma) における神経内視鏡手術の有用性．第7回日本神経内視鏡研究会，2000．11．
- 145) 饒波正博¹⁾，佐々木光由¹⁾，山田 明¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾第二病院脳神経外科)：頭蓋骨浸潤部が原発部と異なる組織像を呈したmeningiomaの2例．第80回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．11．
- 146) 山崎道生¹⁾，山王なほ子¹⁾，戸田茂樹¹⁾，志村俊郎¹⁾，寺本 明⁽¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：高齢者頭蓋咽頭腫の1治療例．第80回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．11．
- 147) 酒井直之¹⁾，田原重志¹⁾，玉置智規，野手洋治²⁾，寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター，²⁾高度救命救急センター)：巨大な気脳症にて発症した前頭骨腫の1症例．第80回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．11．
- 148) 金 景成，新井桂子¹⁾，山王なほ子，寺本 明，芝崎 保¹⁾(¹⁾生理第2)：各種下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現：TRHへの奇異反応に関する考察．第7回日本医科大学内分泌懇話会，2000．11．
- 149) 野手洋治，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，荒木 尚¹⁾，山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター)：Platform accidentの臨床的研究．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
- 150) 林 靖人¹⁾，山田昌興¹⁾，高橋 弘¹⁾，寺本 明⁽¹⁾第二病院脳神経外科)：ヒトastrocytomaにおけるFGFR4発現とその予後．第9回日本脳腫瘍カンファランス，2000．11．
- 151) 足立好司，高橋 弘，寺本 明：グリオーマ細胞株に対するインターロイキン18の抗腫瘍効果の検討．第9回日本脳腫瘍カンファランス，2000．11．
- 152) 喜多村孝幸，竹井麻生，玉置智規，山口文雄，寺本 明：頭痛にて発症した特発性低髄圧症候群手術例の検討．第28回日本頭痛学会総会，2000．11．
- 153) 佐藤秀貴¹⁾，野手洋治，荒木 尚¹⁾，中林基明¹⁾，山本保博¹⁾，馬場元毅²⁾(¹⁾高度救命救急センター，²⁾東京警察病院脳神経外科)：内頸動脈：上下垂体動脈分岐部動脈瘤の1手術例．第39回関東脳神経外科懇話会，2000．12．
- 154) 小南修史：頭蓋外の椎骨動脈動脈瘤に対する血管内治療．第27回関東脳神経血管内手術セミナー，2000．12．

- 155) 梅岡克哉, 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子¹⁾, 長村義之¹⁾, 渡辺 武²⁾, 中島 学²⁾, 生山祥一郎³⁾, 寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学,²⁾九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門,³⁾九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門): ヒト下垂体腺腫におけるRCAS1の発現. 第41回日本組織細胞化学会総会, 2000. 12.
- 156) 古川哲也, 星野 茂, 朝倉隆之, 小林士郎, 寺本 明, 高橋正泰¹⁾(¹⁾山之内製薬): 実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果. 第12回日本神経損傷の基礎研究会, 2000. 12.
- 157) 田原重志, 喜多村孝幸, 寺本 明, 諫山和男¹⁾(¹⁾松江病院脳神経外科): 神経内視鏡による第三脳室開窓術が著効した閉塞性水頭症を呈した中脳被蓋部海綿状血管腫の1例. 第4回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 1.
- 158) 杉山 誠, 岡田 崇¹⁾, 樋口皓史¹⁾, 矢部薫憲¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター): 当院における下垂体病変に対するホルモン負荷試験の工夫. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 159) 田原重志, 山王 なほ子, 大山 健一, 梅岡 克哉, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 高齢者における非機能性下垂体腺腫の臨床・病理学的考察. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 160) 大山健一, 周東祐仁¹⁾, 田原重志, 山王なほ子, 杉原 仁¹⁾, 寺本 明, 若林一二¹⁾, 長村義之²⁾(¹⁾内科第3,²⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫における成長ホルモン分泌惹起物質受容体GHS-Rの発現に関する免疫組織化学的検討. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 161) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明: Pituitary incidentalomaの長期治療成績からみた治療選択. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 162) 小林由子¹⁾, 村上隆介¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 鳥羽正浩¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 市川太郎¹⁾, 金澤隆三郎, 山王直子, 志村俊郎, 細根 勝²⁾, 前田昭太郎²⁾, 隅崎達夫³⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科,²⁾同病理部,³⁾付属病院放射線科): 頭蓋骨に発生した軟骨芽細胞腫の1例. 日本医学放射線学会第12回骨軟部放射線研究会, 2001. 1.
- 163) 梅岡克哉, 黒谷玲子¹⁾, 大山健一, 田原重志, 山王なほ子, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾東海大学医学部病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるGATA-2の分子病理学的検討. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 164) 松野 彰¹⁾, 長島 正¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明, 桐野高明³⁾(¹⁾帝京大学市原病院脳神経外科,²⁾東海大学医学部病態診断系病理学,³⁾東京大学脳神経外科): 成長ホルモン産生下垂体腺腫における視床下部ホルモンGHRHの発現の意義. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 165) 高野順子¹⁾, 高野幸路¹⁾, 盛田幸司¹⁾, 寺本 明, 高倉公明²⁾, 藤田敏郎¹⁾(¹⁾東京大学腎臓内分泌内科,²⁾東京女子医科大学脳神経外科): GHRH受容体の点突然変異のGH産生下垂体腺腫における意義. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 166) 金 景成, 新井桂子¹⁾, 山王なほ子, 寺本 明, 芝崎 保¹⁾(¹⁾生理第2): 先端巨大症を始めとするヒト下垂体腺腫におけるTRH受容体遺伝子発現の検討. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 167) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾目白病院脳神経外科): 頭部外傷は予防できるか: 当院における過去3年間の頭部外傷入院症例の検討から. 第6回日本脳神経外科救急研究会, 2001. 1.
- 168) 竹井麻生¹⁾, 村井保夫¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 術後合併症を来した未破裂動脈瘤の2例. 第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 2.
- 169) 大山健一, 星野 茂, 小菊 実, 玉置智規, 寺本 明, 原島克之¹⁾, 水成隆之¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Subtemporal approachにてクリッピングを行った右P2P3動脈瘤の1例. 第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 2.
- 170) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾目白病院脳神経外科): クリッピングとコイル塞栓術の共存時代における, くも膜下出血に対する治療方針. 第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 2.
- 171) 小南修史: NBCAを用いて治療したMarginal SinusのDural AVFの1例. 第9回Intravascular Neurosurgery Winter Seminar, 2001. 2.

- 172) 吉田陽一：クッシング病患者における海綿静脈洞サンプリングによる下垂体前葉ホルモン濃度の検討．第9回 Intravascular Neurosurgery Winter Seminar, 2001. 2.
- 173) 杉山 誠, 吹野晃一, 岡田 崇¹⁾, 樋口皓史¹⁾, 矢部憲惠¹⁾(¹⁾海老名総合病院附属東病院脳神経センター): VPシャント術後患者における経皮内視鏡的胃瘻造設術の合併症について．第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 2.
- 174) 大山健一, 佐藤 俊, 渡辺国博, 玉置智規, 山王なほ子, 寺本 明：出産後尿崩症を呈し顕在化した成長ホルモン産生下垂体腺腫の1例．第1回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2001. 2.
- 175) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明：治療困難なGH産生下垂体腫瘍の1例．第1回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2001. 2.
- 176) 水成隆之：Bypass Surgery for Cerebral Aneurysm. 千駄木ニューロカンファレンス, 2001. 2.
- 177) 竹井麻生¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 術後合併症を来した未破裂脳動脈瘤の2症例．第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 2.
- 178) 酒井直之¹⁾, 田原重志¹⁾, 玉置智規, 野手洋治²⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾高度救命救急センター): 巨大な気脳症にて発症した前頭洞骨腫の1症例．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 179) 酒井直之¹⁾, 村井保夫¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): RA Graftが奏功した外傷性内頸動脈解離の1例．第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 180) 森本大二郎¹⁾, 山田 明¹⁾, 饒波正博¹⁾, 佐々木光由¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾第二病院脳神経外科): タリウムシンチグラムで取込みが見られた脳梗塞の2症例．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 181) 金澤隆三郎¹⁾, 水谷暢秀¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 側頭骨に発生したchondroblastomaの1治療例．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 182) 草 彌博昭, 小松原清光, 寺本 明：小児の脳神経外科疾患．第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 183) 村井保夫¹⁾, 水成隆之¹⁾, 斎藤寛浩¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 佐藤秀貴²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾高度救命救急センター): 大脳円蓋部に比較的限局した原因不明のクモ膜下出血の3例．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 184) 村井保夫¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): くも膜下出血後の脳血管攣縮に対するballoon angioplasty後の脳循環．第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 185) 竹井麻生, 小島豊之, 田原重志, 植松正樹, 玉置智規, 喜多村孝幸, 寺本 明：意識障害を呈した両側慢性硬膜下血腫合併低髄圧症候群における治療前後の脳血流変化の検討．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 186) 木暮一成, 石井雄道, 寺本 明：臨床経過から脳梗塞と鑑別が困難であった脳幹部膿瘍の1治療例．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 187) 木暮一成¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Transcondylar approach にも困難な椎骨：下部脳底動脈解離性動脈瘤手術例の検討．第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 188) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明：男性PRL産生腫瘍に対するtergurideの治療経験．第11回臨床内分泌代謝Update, 2001. 3.
- 189) 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 村井保夫¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 閉鎖性頭部外傷におけるMRI T2*強調画像の有用性．第24回日本脳神経CI学会総会, 2001. 3.
- 190) 小南修史, 吉田陽一, 金沢隆三郎, 布施 明¹⁾, 小林士郎, 寺本 明(¹⁾川口市立医療センター救命救急センター): NBCAを用いたTargeted Partial Embolizationによる脳動静脈奇形の段階的治療．第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 191) 村井保夫¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター)

- ー): くも膜下出血後の脳血管攣縮に対する balloon angioplasty 後の脳循環. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 192) 原島克之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 村井保夫¹⁾, 水成隆之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 破裂末梢性前大脳動脈瘤の予後に関する検討. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 193) 竹井麻生¹⁾, 村井保夫¹⁾, 水成隆之¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 原島克之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 未破裂脳動脈瘤の術後合併症を来した2症例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 194) 酒井直之, 村井保夫, 鈴木紀成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明, 上山博康¹⁾(¹⁾ 旭川赤十字病院): RA Graft が奏効した外傷性内頸動脈解離の1例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 195) 鈴木紀成¹⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 村井保夫¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 頭部外傷例に対する MRI T2* 強調画像. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.
- 196) 梅岡克哉, 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子¹⁾, 長村義之¹⁾, 渡辺 武²⁾, 中島 学²⁾, 生山祥一郎³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学, ²⁾九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門, ³⁾九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門): ヒト下垂体腺腫における RCAS1 の発現. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.
- 197) 梅岡克哉, 山王なほ子, 大山健一, 田原重志, 黒谷玲子¹⁾, 長村義之¹⁾, 渡辺 武²⁾, 中島学²⁾, 生山祥一郎³⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学, ²⁾九州大学生体防御医学研究所感染防御学部門, ³⁾九州大学生体防御医学研究所臨床免疫学部門): ヒト下垂体腺腫における RCAS1 の発現. 第12回 CRH-ACTH 研究会学術集会, 2001. 3.
- 198) 野手 洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎, 志村俊郎, 玉置智規, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター): テント上脳動脈瘤手術に合併した小脳出血の検討. 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001. 3.
- 199) 野手洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎, 志村俊郎, 玉置智規, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター): 天幕上脳動脈瘤手術に合併した小脳出血例の検討. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 200) 野手洋治, 佐藤秀貴¹⁾, 中林基明¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 村田憲一, 山本保博¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター): 高齢者脳血管障害患者の長期予後に関する検討. 第26回日本脳卒中学会総会, 2001. 3.
- 201) 小島豊之, 水村 直¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 喜多村孝幸, 隈崎達夫¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 付属病院放射線科): 虚血脳組織における 99mTc-ECD 静注後の動態: 安静時, Diamox 負荷時の血管相, 停滞相の乖離. 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001. 3.
- 202) 小島豊之, 渡辺国博, 田原重志, 星野 茂, 玉置智規, 喜多村孝幸, 寺本 明: 123I-IMP SPECT が診断に有用であった非典型的悪性リンパ腫の2例. 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001. 3.
- 203) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白病院脳神経外科): 市中救急病院における緊急画像検査の役割. 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001. 3.
- 204) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白病院脳神経外科): クリッピングとコイリングの共存時代における, くも膜下出血に対する治療方針. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 205) 前川正義¹⁾, 福田清輔¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 目白病院脳神経外科): 頭部外傷は予防できるか: 当院における過去3年間の頭部外傷入院症例の検討から. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.

[第二病院脳神経外科]

研究概要

第二病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら, 脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神

経系奇形・機能的疾患（顔面痙攣，三叉神経痛など）とあらゆる脳神経疾患の外科的治療を対象としているが，臨床的，基礎的研究も盛んで，毎年確実に国内外に論文を発表している．特に，悪性脳腫瘍に関しては，多くの基礎的研究に基づいて，腫瘍抗原に対するモノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種のBRM製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し，確実な効果をあげてきている．また，分子生物学的基礎研究も盛んで，一部文部省科学研究費補助金の援助を受けながら，脳腫瘍の悪性度にしたがって発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究，腫瘍血管新生抑制に関する基礎研究，癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の基礎的研究，さらには遺伝子銃を用いた新しい遺伝子導入の研究などが将来の遺伝子治療を目指して行われている．一方，臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい免疫化学療法を行い，良好な結果をおさめてきている．脳血管障害や頭部外傷に関しては，超音波ドップラーや脳血流測定法を用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである．小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経系奇形についても，形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる．

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Takahashi H , Hamada H , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital) : Usefulness of niravoline, an arginine vasopressin inhibitor, on tumour-origin brain oedema . Acta. Neurochir (wien) 2000 ; 76 (suppl) : 323-327 .
- 2) Noha M , Yoshida D , Watanabe K¹⁾ , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital) : Suppression of cell invasion on human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27 ; in vitro study . Neuro-oncology 2000 ; 48 (3) : 217-223 .
- 3) Yoshida D , Node Y¹⁾ , Shimura T²⁾ , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital , ²⁾Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Intracranial Malignant Meningioma with Hypoglycemic Shock : A Case Report . Journal of Neuro-oncology 2000 ; 47 (1) : 51-58 .
- 4) Yoshida D , Hoshino S¹⁾ , Aihara K²⁾ , Shimura T³⁾ , Takahashi H , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital , ²⁾Central Institute for Electron Microscopic Research , ³⁾Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital) : Drug-induced apoptosis by anti-microtubule agent : estramustine phosphate on human malignant glioma cell line, U87MG ; in vitro study . Journal of Neuro-oncology 2000 ; 47 (2) : 133-140 .
- 5) Noha M , Yoshida D , Watanabe K¹⁾ , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital) : Suppression of cell invasion of human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27 ; in vitro study . Neuro-oncology 2000 ; 2 (Sppl 27) : 562-564 .
- 6) Yoshida D , Noha M , Watanabe K¹⁾ , Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital) : Early evidence of microtubule depolymerization by estramustine . Journal of Neuro-Oncology 2000 ; 49 (2) : 11-13 .
- 7) 吉田大蔵 : Neuroimaging Quiz : 視床下部星状細胞腫 (grade2) . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 (8) : 961-962 .
- 8) 高橋 弘 : Neuroimaging Quiz : encephalitisの1例 . Clinical Neurosci 2000 ; 18 (6) : 97-98 .
- 9) 高橋 弘 , 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科) : 脳腫瘍治療の進歩 . 小児科 2000 ; 41 (13) : 2290-2298 .
- 10) 野手洋治¹⁾ , 高橋 弘 , 志村俊郎²⁾ , 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科 , ²⁾多摩永山病院脳神経外科) : 画像上鑑別診断に苦慮した鞍上部神経膠腫の2例 . 臨放 2000 ; 45 (8) : 953-957 .
- 11) 吉田大蔵 , 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科) : ニューロサイエンスの新しい研究方法 : in vitro angiogenesis assay . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 (8) : 868-869 .

- 12) 高橋 弘, 山田昌興, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 小児脳橋部グリオーマ治療の再検討. *Neuro-Oncol.* 2000 ; 10 (1): 48-51 .
- 13) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 吉田大蔵, 足立好司²⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾付属病院脳神経外科): 悪性腫瘍における化学療法とアポトーシス. *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 (1): 74-77 .

(2) 総説 :

- 1) 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): グリオーマの新しい治療法の展開 : 免疫療法. *Clinical Neurosci.* 2001 ; 19 (3): 352-354 .

著 書

- 1) Yoshida D, Noha M, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): [分担] Drug-induced apoptosis by anti-microtubule agent, estramustine phosphate on human malignant glioma cell line, U87MG ; in vitro study . *Current Awareness in Biomedicine*, 2000 ; pp125-129, Sheffield Academic Press, UK .
- 2) 高橋 弘 : [分担] 中枢神経系先天奇形の手術 : 神経皮膚症候群 . 図解脳神経外科 New Approach 小児脳神経外科手術 (高倉公朋, 斉藤 勇, 佐藤 潔, 大井静雄 編集), 2001 ; pp120-131, メジカルビュー社 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Noha M, Yoshida D, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Novel MMP Inhibitor, SI16627B Affects on Cell Invasion of Human Glioblastoma Cell Lines ; An In Vitro Study . The 68th Annual Meeting of American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, CA, USA), 2000 . 4 .
- 2) Yoshida D, Noha M, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Early evidence of microtubule depolymerization by estramustine . The Second International Symposium of Brain Tumor Pathology (Nagoya Japan), 2000 . 4 .
- 3) Yamaguchi F¹⁾, Morrison RS²⁾, Yamada SM, Takahashi H, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital, ²⁾Washington University): Loss of FGF receptor 2 expression in glioblastoma multiforme . The 68th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, CA, USA), 2000 . 4 .
- 4) Noha M, Yoshida D, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Suppression of cell invasion on human malignant glioma cell lines by a novel MMP inhibitor, SI-27, ; in vitro study . 4th Congress of the European Association of Neuro-Oncology (Copenhagen Denmark), 2000 . 6 .
- 5) Yoshida D, Noha M, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Knob Formation in the Extracellular Process of Glioma Cells by Non-Apoptotic Dose of Estramustine Phosphate . The 50th Annual meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 10 .
- 6) Noha M, Yoshida D, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Suppression of Cell Invasion of Human Malignant Glioma Cell Lines by a Novel MMP Inhibitor, SI-27 ; In Vitro Study . The 50th Annual meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 10 .
- 7) Watanabe K¹⁾, Yoshida D, Noha M, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Suppression of Matrix Metalloproteinase-2 and -9 Mediated Cell Invasiveness by a Novel Matrix Metalloproteinase Inhibitor, BE-16627B on Human Malignant Glioma Cell Lines ; In Vitro Study . The 50th Annual meeting of the Congress of Neurosurgical Surgeons (San Antonio, USA), 2000 . 10 .
- 8) Takahashi H, Yamada SM, Hayashi Y, Uematsu M, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Reappraisal of the treatment for pontine glioma in children . 18th Annual Meeting of the International Society

of Pediatric Neurosurgery (Istanbul Turkey), 2000 . 10 .

- 9) 高橋 弘, 山田昌興, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 小児脳幹部グリオーマ治療の再検討 . 第19回ニューロ・オンコロジーの会, 2000 . 4 .
- 10) 玉置智則¹⁾, 植松正樹, 大山健一¹⁾, 高橋 弘, 土屋喜哉¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 一市中病院における単純頭部打撲の臨床像 “ 重篤な経過に陥った3例の供覧と共に ” . 第23回日本神経外傷学会, 2000 . 4 .
- 11) 玉置智則¹⁾, 高橋 弘, 水成隆之²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科, ²⁾千葉北総病院脳神経外科): くも膜下出血後脳血管攣縮と頸部粥状動脈硬化の関連性: 超音波断層法による検討 . 第25回日本脳卒中学会総会, 2000 . 4 .
- 12) 志村俊郎¹⁾, 高橋 弘, 山王直子¹⁾, 吉田大蔵, 足立好司²⁾, 星野 茂²⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾付属病院脳神経外科): 悪性神経膠腫の治療後の病理形態と画像: 特に種々の局所化学療法の比較検討を中心に . 第18回日本脳腫瘍病理学会, 2000 . 5 .
- 13) 玉置智則¹⁾, 高橋 弘, 水成隆之²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科, ²⁾多摩永山病院脳神経外科): 高血圧脳内出血と頸動脈アテローム性硬化病変の関連性 . 第19回日本脳神経超音波学会, 2000 . 6 .
- 14) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): インターロイキン18の抗グリオーマ活性 . 第13回「脳と神経」研究会, 2000 . 9 .
- 15) 山田昌興, 饒波正博, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 遷延性意識障害を呈したにも関わらず, 予後良好な経過をたどった頭部外傷の1例 . 第9回意識障害学会, 2000 . 9 .
- 16) 山田昌興, 饒波正博, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 髄液播種を認めた乳癌転位性脳腫瘍の4例 . 第5回日本脳腫瘍の外科学会, 2000 . 9 .
- 17) 北川 亮, 饒波正博, 山田昌興, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 組織診断後の適切な補助療法選択により劇的なQOL改善を認めた転移性脳腫瘍の1例 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 18) 吉田祥子¹⁾, 原田春仁¹⁾, 永井尚生¹⁾, 江見 充¹⁾, 吹野晃一¹⁾, 足立好司²⁾, 高橋 弘, 寺本 明²⁾(¹⁾老人病研究所, ²⁾付属病院脳神経外科): 脳腫瘍株におけるJNK3A1遺伝子のゲノムの構造と発現解析 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 19) 北川 亮, 山田昌興, 饒波正博, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 高令者のcystic brain tumorへの外科的approach . 第79回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000 . 9 .
- 20) 高橋 弘, 山田昌興, 植松正樹, 林 靖人, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 小児脳橋部グリオーマに対する治療選択の再検討 . 第28回日本小児脳神経外科学会, 2000 . 9 .
- 21) Yoshida D, Noha M, Watanabe K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): The Bleb Formation Of The Extracellular Pseudopodia ; Early Evidence Of Microtubule Depolymerization By Estramustine Phosphate In Glioma Cell ; In Vitro Study . 第41回日本脳神経外科学会総会, 2000 . 10 .
- 22) Watanabe K¹⁾, Yoshida D, Noha M, Teramoto A¹⁾(¹⁾Nippon Medical School Hospital): Suppression of Matrix Metalloproteinase-2 and -9 Mediated Cell Invasiveness by a Novel Matrix Metalloproteinase Inhibitor, BE-16627B on Human Malignant Glioma Cell Lines ; In Vitro Study . 第41回日本脳神経外科学会総会, 2000 . 10 .
- 23) 高橋 弘, 山田昌興, 林 靖人, 植松正樹, 山口文雄¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Reappraisal of the treatment for pontine glioma in children . 第59回日本脳神経外科学会, 2000 . 10 .
- 24) 山田昌興, 林 靖人, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): ヒトastrocytomaの悪性度fibroblast growth factor receptor (FGFR) 4の発現 . 第59回日本脳神経外科学会, 2000 . 10 .
- 25) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): インターロイキン18のグリオーマ細胞に対する

抗腫瘍効果の検討．第59回日本脳神経外科学会，2000．10．

- 26) 山口文雄¹⁾，Morrison R²⁾，山田昌興，林 靖人，高橋 弘，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科，²⁾ワシントン大学)：FGFR2-IIIc欠損とグリオーマの予後．第59回日本脳神経外科学会，2000．10．
- 27) 饒波正博，佐々木光由，山田 明，高橋 弘，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科)：頭蓋骨浸潤部が原発部と異なる組織像を呈したmeningiomaの2例．第9回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．11．
- 28) 草薨博昭¹⁾，高橋 弘，寺本 明²⁾(¹⁾博慈会記念病院，²⁾付属病院脳神経外科)：脳神経外科領域におけるMRSA肺炎に対する補中益気湯の効果．第9回脳神経外科と漢方研究会，2000．11．
- 29) 林 靖人，山田昌興，高橋 弘，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科)：ヒトastrocytomaにおけるFGFR4発現とその予後．第9回日本脳腫瘍カンファレンス，2000．11．
- 30) 足立好司¹⁾，高橋 弘，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科)：グリオーマ細胞株に対するインターロイキン18の抗腫瘍効果の検討．第9回日本脳腫瘍カンファレンス，2000．11．
- 31) 森本大二郎，山田 明，饒波正博，佐々木光由，吉田大蔵，高橋 弘，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科)：タリウムシンチグラムで取り込みが見られた脳梗塞の2症例．第24回日本脳神経CI学会，2001．3．

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

多摩永山病院脳神経外科は，日本脳神経外科学会専門医訓練施設として，診療，教育，研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている．我々は以下の研究を，分子神経病理学，神経生理学等の幅広いニューロサイエンスの手法を用いて行っている．

当科の第1の研究テーマは，主として急性期脳血管障害と外傷性びまん性脳損傷の症例において，持続頭蓋内圧測定(光センサー硬膜下法)，脳血流測定(超音波ドップラー法)，SPECT，およびトレンドグラフを用いた電気生理学的検査(聴性脳幹反応，体性感覚誘発電位)，MRI・MRA等の多くの諸検査により経時的な測定をすることでその脳虚血および軸索損傷の病態解明を行っている．

第2のテーマは脳梗塞急性期患者において抗トロンピン薬投与によるSPECTと経頭蓋ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を検討している．

第3のテーマは悪性脳腫瘍の補助療法におけるタリウムSPECTによる核医学的研究および再手術標本よりの病理形態学的研究を行っている．

第4のテーマは脳下垂体腫瘍の臨床内分泌学的研究を行っている．

第5のテーマは付属病院中央電子顕微鏡施設に設置された共同利用H-7500電子顕微鏡を用いてびまん性軸索損傷の機序の解明および脳下垂体腫瘍の免疫電顕を行う．

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Yoshida D， Sugisaki Y， Tamaki T， Saitoh N， Node Y， Shimura T， Teramoto A： Intracranial malignant meningioma with abdominal metastases associated with hypoglycemic shock： A case report． Journal of Neuro-Oncology 2000； 47： 51-58．
- 2) Yoshida Y， Sanno N， Teramoto A： Multiple pituitary hormone gradients from cavernous sinus sampling in patients with Cushing's disease． Acta Neurochir (Wien) 2000； 142： 1339-1344．
- 3) Muramatsu H¹⁾， Nathan DR²⁾， Shimura T³⁾， Teramoto A³⁾(¹⁾Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital, ²⁾Department of Physiology, Texas Tech University Health Sciences Center, Lub-

- bock, TX, USA, ³⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Recovery of stroke hemiplegia through neurosurgical intervention in the chronic stage. *Neuro Rehabilitation* 2000; 15: 157-166.
- 4) Sanno N, Teramoto A, Osamura Y: Long-term surgical outcome in 16 patients with thyrotropin pituitary adenoma. *J Neurosurg* 2000; 93: 194-200.
- 5) 山王なほ子¹⁾, 田原重志¹⁾, 小松原清光¹⁾, 大山健一¹⁾, 沖 隆²⁾, 長村義之³⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科, ²⁾浜松医科大学第2内科, ³⁾東海大学病態診断系病理学): 不顕性 ACTH 産生下垂体腺腫から Cushing 病を発症した 1 例. *ACTH RELATED PEPTIDES* 2000; 11: 65-71.
- 6) 金澤隆三郎, 水谷暢秀, 山王なほ子, 志村俊郎, 寺本 明: 髄膜腫と鑑別困難であった後頭蓋窩 hemangiopericytoma の 1 治験例: 血管撮影所見上の特徴. *CI 研究* 2000; 22 (3): 181-185.
- 7) 山王なほ子, 寺本 明: 小児の下垂体腺腫. *小児外科* 2000; 32 (4): 357-360.
- 8) 山王なほ子, 金澤隆三郎, 水谷暢秀, 志村俊郎, 寺本 明: 腫瘍内出血にて発症した後頭蓋窩 hemangiopericytoma: 術前腫瘍血管塞栓術の有用性について. *脳神経外科速報* 2000; 10 (4): 315-320.
- 9) 山王なほ子, 寺本 明: 内分泌・代謝疾患と性差: 脳下垂体腫瘍と性差. *内分泌・糖尿病科* 2000; 11 (4): 359-365.
- 10) 山王なほ子, 寺本 明: 疾患における性差 5 脳下垂体腫瘍における性差. *医学のあゆみ* 2000; 195 (6): 413-416.
- 11) 山王なほ子¹⁾, 寺本 明²⁾, 長村義之³⁾(¹⁾日本医科大学付属多摩永山病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学脳神経外科, ³⁾東海大学病態診断系病理学部門): 下垂体細胞の分化機構 (特集: 下垂体疾患診療の進歩). *内分泌・糖尿病科* 2000; 11 (6): 521-526.
- 12) 山王なほ子, 寺本 明: 下垂体インシデンタローマ: 偶然発見された下垂体腫瘍. あなたは どうですか. *Medical Practice* 2000; 17 (7): 1240-1241.
- 13) 草 博昭, 志村俊郎, 寺本 明: 脳神経外科領域における真菌症, 特に深在性真菌症に対する (1 3)-D-グルカン測定の有効性とフルコナゾール投与の重要性について. *脳神経外科* 2000; 28 (8): 685-690.
- 14) 野手洋治, 高橋 弘, 志村俊郎, 寺本 明: 画像上鑑別診断に苦慮した鞍上部神経膠腫の 2 例. *臨床放射線* 2000; 45 (8): 953-957.
- 15) 金澤隆三郎, 水谷暢秀, 山王なほ子, 志村俊郎, 寺本 明: 尿閉を来した無菌性髄膜炎の 1 例. *脳神経外科* 2000; 28 (11): 1029-1033.
- 16) 戸田茂樹: 脳虚血再灌流における free radical の役割. *J Nippon Med Sch* 2000; 67 (6): 487.
- 17) 山王なほ子, 寺本 明: 加齢と性差 加齢に伴う疾患の性差 8) 脳下垂体腫瘍における性差. *Geriat. Med.* 2000; 38 (12): 1813-1819.
- 18) 山王なほ子¹⁾, 大山健一¹⁾, 田原重志¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科, ²⁾東海大学病態診断系病理学): Pituitary incidentaloma の臨床・組織学的検討: 症候性非機能性腺腫との対比. *日内分泌会誌* 2001; 77: 144-146.
- 19) 志村俊郎, 寺本 明, 吉田大蔵, 足立好司: 悪性腫瘍における化学療法とアポトーシス. *J Nippon Med Sch* 2001; 68 (1): 74-77.
- 20) 菅原 明¹⁾, 竹内和久¹⁾, 宇留野明¹⁾, Yen PM²⁾, Lechan RM³⁾, 山王なほ子⁴⁾, 長村義之⁵⁾, 永田 年⁶⁾, Chin WW⁷⁾, 伊藤貞嘉¹⁾(¹⁾東北大学大学院分子血管病態学分野, ²⁾NIDDK, NIH, ³⁾New England Medical Center, ⁴⁾日本医科大学脳神経外科, ⁵⁾東海大学医学部病態診断系病理学, ⁶⁾浜松医科大学微生物学, ⁷⁾Harvard Medical School): 下垂体におけるレチノイド X (RXR): その発現, 調節および機能に関する検討 (特集: 分子甲状腺学の進歩 2001). *ホルモンと臨床* 2001; 49 (2): 35-43.

著 書

- 1) 山王なほ子：〔分担〕Neuroimaging Quiz：大孔部髄膜腫．Clinical Neuroscience，2000；pp837-838，中外医学社．
- 2) 志村俊郎：〔分担〕Neuroimaging Quiz：脳実質内血腫を伴った横およびS状静脈洞部硬膜動静脈瘻．Clinical Neuroscience，2000；pp1093-1094，中外医学社．
- 3) 山王なほ子：〔分担〕Neuroimaging Quiz：特発性頸椎硬膜外血腫．Clinical Neuroscience，2000；pp1445-1446，中外医学社．
- 4) 山王なほ子，寺本 明：〔分担〕標準治療と最新治療：メリット・デメリット 無症候性下垂体腫瘍．Clinical Neuroscience，2001；pp98-99，中外医学社．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 志村俊郎：急性期脳卒中の前兆と対策．第9回健康セミナー，2000．9．

(2) 教育講演：

- 1) 志村俊郎：悪性脳腫瘍におけるアポトーシスの電顕像．日本医師会生涯教育講座平成12年度第1回医学講座，2000．5．
- 2) 山王直子：分子生物学から見た間脳下垂体腫瘍．日本医師会生涯教育講座平成12年度第1回医学講座，2000．5．

(3) セミナー：

- 1) 戸田茂樹，近藤達也¹⁾，志村俊郎，寺本 明⁽¹⁾国立国際医療センター)：当初転移性脊椎腫瘍を疑われた頸椎Osteosarcomaの1例．第22回多摩脳神経外科懇話会，2000．11．

(4) 一般講演：

- 1) Toda S, Ikeda Y¹⁾, Teramoto A⁽¹⁾ Department of Neurosurgery, Showa University): A role of ascorbic acid and SOD-like substances in cerebral ischemia-reperfusion. 2000 Annual Meeting of The American Association of Neurological Surgeons (San Francisco, CA), 2000. 4.
- 2) Yoshida D, Noha M, Watanabe K, Shimura T, Teramoto A: Establishment of cytostatic dosage of estramustine phosphate against glioma cell line: In vitro study. The 2nd International Symposium of Brain Tumor Pathology (Nagoya, Japan), 2000. 5.
- 3) 石井雄道，山王直子，戸田茂樹，志村俊郎，寺本 明：高齢者頭蓋咽頭腫の1治験例．第80回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．
- 4) 志村俊郎，山王直子，寺本 明：地域中核病院におけるインフォームド・コンセントについて．日本医科大学医学会第101回例会，2000．5．
- 5) 志村俊郎，高橋 弘，山王なほ子，吉田大蔵，足立好司，星野 茂，寺本 明，松本光司¹⁾(¹⁾日本医科大学病理)：悪性神経膠腫の治療後の病理形態と画像 特に種々の局所化学療法と比較検討を中心に．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 6) 山王なほ子，志村俊郎，前田昭太郎¹⁾，長嶋和郎²⁾，寺本 明⁽¹⁾日本医科大学附属多摩永山病院病理部，²⁾北海道大学医学部病理)：後頭蓋窩のMeningeal hemangiopericytoma of posterior fossa．第18回日本脳腫瘍病理学会，2000．5．
- 7) 山崎道生，戸田茂樹，山王なほ子，志村俊郎，寺本 明：側頭骨に発生したchondroblastomaの1治験例．第78回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．6．
- 8) 前田昭太郎¹⁾，東 敬子¹⁾，山王直子，志村俊郎，劉 愛民²⁾，淺野伍朗³⁾(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾中央電子顕微鏡施設，³⁾病理第2)：Solitary fibrous tumorと考えられる後頭蓋窩腫瘍の1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 9) 山崎道生, 金澤隆三郎, 山王直子, 志村俊郎, 寺本 明, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院病理部): 側頭骨に発生した chondroblastoma の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 10) 村松 光¹⁾, 山王直子, 志村俊郎, 寺本明, 丸山正明²⁾, 野手洋治²⁾(¹⁾春日居リハビリテーション病院内科, ²⁾付属病院高度救命救急センター): リハビリテーション治療におけるボタン式胃瘻増設の有用性と臨床的意義. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 11) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 山本英希²⁾, 江上 格²⁾, 山王直子, 志村俊郎, 森 修³⁾, 劉 愛民⁴⁾, 浅野伍朗⁵⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾同外科, ³⁾千葉北総病院病理部, ⁴⁾中央電子顕微鏡施設, ⁵⁾病理第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕的検索を中心として. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 12) 志村俊郎, 足立好司, 寺本 明, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理第2): 各種治療を施した頭蓋内原発性悪性リンパ腫におけるアポトーシスの超微形態. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会, 2000. 9.
- 13) 前田昭太郎¹⁾, 東 敬子¹⁾, 山王なほ子, 志村俊郎, 劉 愛民²⁾, 浅野伍朗³⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾中央電子顕微鏡施設, ³⁾病理第2): 後頭蓋窩の hemangiopericytoma-like tumor の1例. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会, 2000. 9.
- 14) 志村俊郎, 村松 光, 渡辺 玲, 山王直子, 野手洋治, 寺本 明, 松本正博: 正常脳圧水頭症における脳室腹腔シャント機能不全の対応: 正常慢性期症例. 第59回日本脳神経外科学会, 2000. 10.
- 15) 草 彌博昭, 志村俊郎, 寺本 明: 脳神経外科領域における深在性真菌症(1-3)-D-glucan 測定の重要性. 第59回日本脳神経外科学会, 2000. 10.
- 16) 草 彌博昭, 志村俊郎, 寺本 明: くも膜下出血における凝固系線溶能の検討. 第59回日本脳神経外科学会, 2000. 10.
- 17) 戸田茂樹, 寺本 明: ラット脳虚血再灌流における脳浮腫に対する活性酸素種の役割. 第59回日本脳神経外科学会総会, 2000. 10.
- 18) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明: Pituitary incidentaloma の長期治療成績からみた治療選択. 第11回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 1.
- 19) 小林由子¹⁾, 村上隆介¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 鳥羽正浩¹⁾, 玉井 仁¹⁾, 市川太郎¹⁾, 金澤隆三郎, 山王直子, 志村俊郎, 細根 勝²⁾, 前田昭太郎²⁾, 隅崎達夫³⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾同病理部, ³⁾付属病院放射線科): 頭蓋骨に発生した軟骨芽細胞腫の1例. 日本医学放射線学会 第12回骨軟部放射線研究会, 2001. 1.
- 20) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明: 治療困難な GH 産生下垂体腫瘍の1例. 第1回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2001. 2.
- 21) 大山健一, 佐藤 俊, 渡辺国博, 玉置智規, 山王なほ子, 寺本 明: 出産後尿崩症を呈し顕在化した成長ホルモン産生下垂体腺腫の1例. 第1回日本内分泌学会関東甲信越支部会, 2001. 2.
- 22) 山王なほ子, 田原重志, 大山健一, 梅岡克哉, 寺本 明: 男性 PRL 産生腫瘍に対する terguride の治療経験. 第11回臨床内分泌代謝 Update, 2001. 3.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設後7年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら, 脳血管障害・頭部外傷・脳腫瘍を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った. 平成11年4月より脳神経センターにおいて神経内科グループと合同の診療を開始. 昨年4月開設の Stroke care unit (SCU) および, 脳卒中ホットラインも順調に稼働中.

1) 脳血管障害: 前交通動脈瘤に対する新しい手術法である orbitocranial approach による手術症例の経験を重ね, 従来方法である interhemispheric approach および pterional approach との比較を行い, orbitocranial approach の

利点を報告した．血行再建術においてはradial artery graftを用いるhigh flow bypassを行った．頸部内頸動脈狭窄症に対するCEAを積極的に行った．

2) 頭部外傷：頭部外傷はアルツハイマー病のひとつの環境因子である．慢性期の振盪性脳外傷を研究するためラットのfluid percussion脳外傷2～6カ月後の組織学的検索を行った．外傷6カ月後，無数の正常神経細胞がリン酸化タウとアミロイドベーター蛋白免疫染色で陽性となった．大脳皮質の神経細胞数は徐々に外傷後減少し，外傷6カ月後には42%減少した．これらの結果，この動物モデルはアルツハイマー病などの神経変性疾患のよい動物モデルになる事を証明した．臨床例において小児頭部外傷例の脳血流量の検討を行った．

3) 脳腫瘍：種々の出血性脳腫瘍例に対する術前の人工塞栓術の有効性を確認した．新たに導入した骨メス(Midas Rex)を使用して行う頭蓋底外科のうち，lower lateral suboccipital approachの検討を行った．脳腫瘍手術に際してのPALの有効性を立証した．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kanazawa R, Kogre K, Kominami S, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Ependymal cyst producing alpha-fetoprotein. : case report. Journal of Neurosurgery 2000 ; 93 : 682-685 .
- 2) Murai Y, Kobayashi S, Mizunari T, Ohaki Y¹⁾, Adachi K²⁾, Teramoto A²⁾(¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Spontaneous regression of a germinoma in the pineal body after placement of a ventriculoperitoneal shunt. : case report. Journal of Neurosurgery 2000 ; 93 : 884-886 .
- 3) 金 景成¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 末梢性後下小脳動脈瘤の3例. Neurosurgical Emergency 2000 ; 5 : 60-63 .
- 4) 駒場祐一¹⁾, 酒井直之, 山崎道生, 雨宮志門¹⁾, 斉藤寛浩, 村井保夫, 鈴木紀成, 三品雅洋¹⁾, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗²⁾, 寺本 明³⁾, 岡田 進⁴⁾(¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 内科第2, ³⁾ 付属病院脳神経外科, ⁴⁾ 千葉北総病院放射線科): 小脳脳血管障害患者におけるcrossed cerebellocerebral diaschisisの検討：SPECT study. 千葉核医学研究会誌 2000 ; (16): 34-35 .
- 5) 金 景成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 経管栄養を開始する際の工夫. 脳神経外科 2000 ; (28): 925-925 .

著書

- 1) 小林士郎：〔分担〕Neuroimaging Quiz：外傷性末梢性前大脳動脈瘤. Clinical Neuroscience, 2001 ; pp239-240, 中外医学社 .
- 2) 小林士郎：〔分担〕頭部外傷. 脳神経外科(伊東 洋), 2000 ; pp221-264, 医学評論社 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳卒中について. 平成12年度財団法人千葉県老人クラブ連合会健康管理のあり方研修会, 2001 . 3 .
- 2) 小林士郎：日本医科大学付属千葉北総病院と病診連携について. 平成12年度鎌ヶ谷市医師会学術講演会, 2000 . 7 .

(2) シンポジウム：

- 1) 古川哲也¹⁾, 星野 茂¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 小林士郎, 高橋正泰²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 山

之内製薬株式会社): 実験頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬 YM872 の効果 . 第 24 回日本神経外傷学会 , 2001 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) Kominami S, Yoshida Y¹⁾, Kanazawa R, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Targeted Partial Embolization with NBCA for Brain Arteriovenous Malformations . The 3rd ISAVM-2000, 2000 . 4 .
- 2) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾(¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科): 前交通動脈瘤のドーム発育方向によるアプローチ法の選択 . 第 29 回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 3) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾(¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科): Anterior temporal approach による破裂脳底動脈瘤急性期手術の検討 . 第 29 回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 4) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾(¹⁾ 日本医科大学脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科): Basilar bifurcation giant aneurysm に対する治療法の検討 . 第 29 回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 5) 村井保夫, 水成隆之, 斎藤寛浩, 小林士郎, 寺本 明²⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 同脳神経外科): 大脳円蓋部に比較的限局した出血原因不明のクモ膜下出血の 3 例 . 第 29 回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 6) 小南修史, 吉田陽一¹⁾, 金澤隆三郎, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 脳動静脈奇形に対する NBCA を用いた Targetted Partial Embolization の有用性 . 第 29 回日本脳卒中の外科学会, 2000 . 4 .
- 7) 林 伸吉, 水成隆之, 小南修史, 佐藤秀貴¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾ 高度救命救急センター, ²⁾ 脳神経外科): 老年頭部外傷の問題点 : elder abuse に認められた頭部外傷例の検討 . 第 13 回日本老年脳神経外科研究会, 2000 . 4 .
- 8) 横田裕行¹⁾, 直江康孝¹⁾, 猪鹿倉恭子¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 野手洋治²⁾, 山本保博²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾(¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 同脳神経外科): 脳血管内皮損傷からみた高齢者急性期頭部外傷の特徴 . 第 13 回日本老年脳神経外科研究会, 2000 . 4 .
- 9) 小南修史, 吉田陽一¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 高齢者の脳動脈瘤に対する血管内治療 . 第 13 回日本老年脳神経外科研究会, 2000 . 4 .
- 10) 横田裕行¹⁾, 直江康孝¹⁾, 猪鹿倉恭子¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 中村基明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 野手洋治²⁾, 山本保博, 小林士郎, 寺本 明³⁾(¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 同脳神経外科): 脳血管内皮損傷からみた年齢層別頭部外傷の差異 . 第 23 回日本神経外傷学会, 2000 . 4 .
- 11) 駒場祐一, 雨宮志門, 三品雅洋, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 岡田 進¹⁾, 片山泰朗²⁾, 寺本 明³⁾(¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 付属病院内科第 2, ³⁾ 同脳神経外科): 小脳脳血管障害患者における crossed cerebello cerebral diaschisis の検討 . 第 31 回千葉核医学研究会, 2000 . 4 .
- 12) 斎藤寛浩, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 治療に難渋した外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻の 1 例 . 第 14 回日本神経救急研究会, 2000 . 5 .
- 13) 田原重志¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 足立好司¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 野手洋治²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科, ²⁾ 同高度救命救急センター): 急性発症群の下垂体卒中 7 症例の検討 . 第 14 回日本神経救急研究会, 2000 . 5 .
- 14) 金 景成¹⁾, 小林士郎, 水成隆之, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): transcondylar approach が有用であった extracranial origin PICA 末梢部動脈瘤の 1 例 . 第 12 回日本頭蓋底外科学会, 2000 . 5 .
- 15) 山崎道生, 斎藤寛浩, 鈴木紀成, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 水頭症を合併した脊髄神経鞘腫の 1 例 . 第 78 回日本脳神経外科学会関東地方会, 2000 . 6 .
- 16) 立山幸次郎, 村井保夫, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): Occipital trans tentorial approach に

- て摘出した充実性小脳血管芽腫の1例．第41回東葛地区脳神経外科研究会，2000．6．
- 17) 村井保夫，小林士郎，水成隆之，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤術後に同側慢性硬膜下血腫を生じた1例．第9回日本脳ドック学会，2000．6．
 - 18) 小南修史，村井保夫，鈴木紀成，水成隆之，小林士郎，追川孝雄¹⁾(¹⁾追川医院): GDCを用いた脳動脈瘤の治療成績．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
 - 19) 村井保夫，小林士郎，水成隆之，高木 亮¹⁾，寺本 明²⁾，追川孝雄³⁾(¹⁾付属病院放射線科，²⁾同脳神経外科，³⁾追川医院): 超急性期脳内出血に対する Three-dimensional CT angiography と造影 MRI の臨床的意義．第25回日本外科系連合学会，2000．6．
 - 20) 水成隆之: 椎骨脳底動脈領域の閉塞性血管障害の治療．第37回関東脳外科懇話会，2000．6．
 - 21) 寺尾 健，斎藤寛浩，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 血管内手術手技による外傷性頸動脈海綿静脈洞瘻治療中にSjO2モニタリングを行った1例．第6回日本脳代謝モニタリング研究会，2000．7．
 - 22) 立山幸次郎，村井保夫，鈴木紀成，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Occipital trans tentorial approach にて摘出した小脳血管芽腫の1例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
 - 23) 酒井直之，村井保夫，鈴木紀成，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Electromagnetic Field System の使用が効果的であった小脳橋角部髄膜腫の1症例．第5回日本脳腫瘍の外科学会，2000．9．
 - 24) 森本大二郎，寺尾 健，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Trap & Suction法を用いて加療し得た内頸動脈large Aneurysmの1例．第79回日本脳神経外科学会関東地方会，2000．9．
 - 25) 河野 潤，鈴木紀成，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 出血で発症したmedulloblastomaの1例．第42回東葛地区脳神経外科研究会，2000．9．
 - 26) 森本大二郎，寺尾 健，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Trap & Suction法を用いて加療し得た内頸動脈大脳動脈瘤の1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 27) 笠巻裕子¹⁾，宮浦美幸¹⁾，尾形友子¹⁾，出蔵かほり¹⁾，早瀬美奈¹⁾，吉鶴法世¹⁾，片野 薫¹⁾，水成隆之(¹⁾千葉北総病院看護部): 意識障害患者の夜間不眠に対する足浴の効果．第9回意識障害治療学会，2000．9．
 - 28) 水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾，上山博康²⁾(¹⁾付属病院脳神経外科，²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): 脳底動脈遠位部動脈瘤に対する anteriortemporal approach の有用性と限界．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 29) 村井保夫，小林士郎，水成隆之，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 超急性期脳内出血に対する Three-dimensional CT angiography と造影 MRI の臨床的意義．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 30) 鈴木紀成，小林士郎，水成隆之，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 頭部外傷患者における MRI T2* 強調画像．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 31) 寺尾 健，小林士郎，水成隆之，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 慢性硬膜下血腫の手術前後での Xenon CT を用いた脳循環動態の変化について．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 32) 小南修史，小林士郎，水成隆之，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): NBCAを用いた Targeted Partial Embolizationによる脳動静脈奇形の治療．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 33) 原島克之，田原重志¹⁾，吉田陽一¹⁾，高木 亮²⁾，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科，²⁾同放射線科): Multi-phase helical CTを用いた pituitary adenoma の評価．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 34) 古川哲也¹⁾，星野 茂¹⁾，朝倉隆之¹⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 実験頭部外傷に対する AMPA 受容体拮抗薬 YM872 の効果．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．
 - 35) 星野 茂¹⁾，朝倉隆之¹⁾，古川哲也¹⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): ラット実験頭部外傷後の(-terminal fragments of amyloid precursor protein)の免疫発現について．第59回日本脳神経外科学会総会，2000．10．

- 36) 竹井麻生, 村井保夫, 鈴木紀成, 小林士郎, 水成隆之, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 未破裂動脈瘤術後に合併症を来した2症例. 第43回東葛地区脳神経外科学研究会, 2000. 11.
- 37) 萩原 浩, 三品雅洋, 駒場祐一, 小林士郎, 水成隆之, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): てんかん発作にて発見されたoral facial degital syndoromeの1例. 第43回東葛地区脳神経外科学研究会, 2000. 11.
- 38) 小南修史, 吉田陽一¹⁾, 金澤隆三郎, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いたTargeted Partial Embolization. 第16回日本脳神経血管内治療学会, 2000. 11.
- 39) 吉田陽一¹⁾, 小南修史, 金澤隆三郎, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 椎骨動脈解離性破裂脳脈瘤に対する血管内手術の治療戦略. 第16回日本脳神経血管内治療学会, 2000. 11.
- 40) 金澤隆三郎¹⁾, 小南修史, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 血管内治療と開頭手術後脳血管攣縮の評価. 第16回日本脳神経血管内治療学会, 2000. 11.
- 41) 三品雅洋¹⁾, 駒場祐一¹⁾, 萩原 浩¹⁾, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗²⁾, 三谷和子³⁾, 石井賢二⁴⁾, 千田道雄⁴⁾(¹⁾日本医科大学付属千葉北総病院脳神経センター, ²⁾日本医科大学内科第2, ³⁾東京都老人医療センター, ⁴⁾東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究施設): SPM99を用いた痴呆のないParkinson病患者のブドウ糖代謝の検討. 第32回千葉核医学研究会, 2000. 11.
- 42) 古川哲也¹⁾, 星野 茂¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾, 高橋正泰²⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科, ²⁾山之内製薬株式会社): 実験頭部外傷に対するAMPA受容体拮抗薬YM872の効果. 第12回日本神経損傷の基礎研究会, 2000. 12.
- 43) 小南修史: 頭蓋外の椎骨動脈瘤に対する血管内治療. 第27回関東脳神経血管内手術セミナー, 2000. 12.
- 44) 村井保夫, 小林士郎, 水成隆之, 小南修史, 鈴木紀成, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 大脳円蓋部に比較的限局した原因不明のクモ膜下出血の3例. 第24回日本脳神経CI学会, 2001. 3.
- 45) 鈴木紀成, 小林士郎, 水成隆之, 小南修史, 村井保夫, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 閉鎖性頭部外傷におけるMRI T2*強調画像の有用性. 第24回日本脳神経CI学会, 2001. 3.
- 46) 小南修史, 吉田陽一¹⁾, 金澤隆三郎, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科, ²⁾同高度救命救急センター): NBCAを用いたTargeted Partial Embolizationによる脳動静脈奇形の段階的治療. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 47) 木暮一成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): Trans condylar approachにても困難な椎骨一下部脳底動脈解離性動脈瘤手術例の検討. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 48) 村井保夫, 小南修史, 水成隆之, 鈴木紀成, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): くも膜下出血後の脳血管攣縮に対するballoon angioplasty後の脳循環. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 49) 原島克之, 小林士郎, 鈴木紀成, 村井保夫, 水成隆之, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 破裂末梢性前大脳動脈瘤の予後に関する検討. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 50) 竹井麻生, 村井保夫, 水成隆之, 鈴木紀成, 原島克之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 未破裂脳動脈瘤の術後合併症を来した2症例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 51) 酒井直之, 村井保夫, 鈴木紀成, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾(¹⁾付属病院脳神経外科, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): RA Graftが奏効した外傷性内頸動脈解離の1例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 52) 竹井麻生, 村井保夫, 水成隆之, 鈴木紀成, 原島克之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 術後合併症を来した未破裂脳動脈瘤の2症例. 第81回日本脳神経外科学会関東地方会, 2001. 3.
- 53) 鈴木紀成, 小林士郎, 水成隆之, 小南修史, 村井保夫, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 頭部外傷例に対するMRI T2*強調画像. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.
- 54) 渡辺国博¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): アプローチ側決定に苦慮した右椎骨動脈解離性動脈瘤の1症例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.

- 55) 大山健一¹⁾, 水成隆之, 木暮一成, 粟屋 栄, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 前大脳動脈解離性動脈瘤の1例. 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 56) 瀧澤克己¹⁾, 上山博康¹⁾, 石川達哉¹⁾, 数又 研¹⁾, 牧野憲一¹⁾, 後藤 聡¹⁾, 氏家 弘²⁾, 堀 智勝²⁾, 水成隆之, 小林士郎 (¹⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科, ²⁾ 東京女子医科大学脳神経外科): Clipping 困難な posterior circulation aneurysm の治療 (血行再建術を組み合わせせた治療戦略とその成績). 第30回日本脳卒中の外科学会, 2001. 3.
- 57) 星野 茂¹⁾, 小林士郎, 古川哲也¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): ラット実験頭部外傷における外傷性軸索損傷の分布: アミロイド前駆蛋白とニューロフィラメント免疫染色による. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.
- 58) 林 伸吉¹⁾, 寺本 明¹⁾, 野手洋治²⁾, 山本保博²⁾, 小林士郎 (¹⁾ 付属病院脳神経外科, ²⁾ 同高度救命救急センター): 家庭内暴力の特殊例: elder abuse 5例の検討. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.

12. 整形外科科学講座

[付属病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

現代の整形外科科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っているので、そのすべてを網羅することは到底不可能であるが、出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている。研究項目は：

- 1) 電気生理学；脊髄電位，神経電位，交感神経電位，筋電図，電気刺激および電磁場刺激による骨・軟骨・神経の再生
- 2) Biomechanics；脊椎，膝関節，股関節，仙腸関節，肩関節などのBiomechanics
- 3) 軟骨再生と移植；将来には骨銀行のみではなく軟骨銀行をめざしている
- 4) 人工関節，人工靭帯，人工骨の開発実験および関節（主として股・膝関節）の同種移植
- 5) 脊椎管内血管の解剖学
- 6) 脊髄馬尾の解剖学
- 7) 手根骨動態
- 8) 職業性腰痛の疫学・予防対策
- 9) Back Schoolの実施
- 10) 交感神経電気活動状況
- 11) 疼痛発生の基礎研究およびレーザー治療による除痛効果の基礎研究
- 12) スポーツ医学外来（各種スポーツ障害・外傷の治療）
- 13) 脚および骨延長の基礎と臨床
- 14) 臨床的研究；伝統的に脊椎・脊髄疾患に対する治療例が圧倒的に多く，その手術法の開発と予後の検索を行っている。また，現代の流れで交通事故の外傷，老人の人工関節置換術や骨粗鬆症，若年者のスポーツ医学や近年急増している骨・軟部悪性腫瘍等に関して先進的，かつ独自のな治療法を試みている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Miyazaki T¹⁾, Takayanagi H¹⁾, Issiki M¹⁾, Fukui Y¹⁾, Oda H¹⁾, Nakamura K¹⁾, Kurokawa T, Tanaka S¹⁾
(¹⁾ Dept of Orthopaedic Surgery, Tokyo Univ): In vitro and in vivo suppression of osteoclast function by adenovirus vector-induced csk gene. J Bone Mineral Res 2000; 15: 41-51.
- 2) Ota N, Hunt S¹⁾, Nakajima T²⁾, Suzuki T³⁾, Hosoi T³⁾, Orimo H³⁾, Shirai Y, Emi M²⁾(¹⁾ Univ. Utah, ²⁾ Dept. Mol. Bio., Inst. Geront, ³⁾ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol): Linkage of human tumor necrosis factor-alpha to human osteoporosis by sib-pair analysis. Genes Immunity 2000; 1: 260-264.
- 3) Tsukamoto K¹⁾, Orimo H²⁾, Hosoi T²⁾, Miyao M²⁾, Ota N, Nakajima T¹⁾, Yoshida H³⁾, Watanabe S³⁾, Suzuki T³⁾, Emi M¹⁾(¹⁾ Dept. Mol. Bio., Inst. Geront, ²⁾ Univ. Tokyo, ³⁾ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol): Association of Bone Mineral density with Polymorphism of the Human Calcium-Sensing Receptor Locus. Calcif Tissue Int 2000; 66: 181-183.
- 4) Miyamoto M, Shirai Y, Nakayama Y, Gembun Y, Kaneda K: An Epidemiologic study of occupational low back pain in truck drivers. J Nippon Med Sch 2000; 67(3): 186-190.

- 5) Miyamoto M , Shirai Y , Nakayama Y , Gembun Y , Kitagawa Y , Nanbu A : A case report of Synovitis Acne Pustulosis Hyperostosis and Osteitis syndrome presenting with spondylodiscitis . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3): 191-197 .
- 6) Ito H , Shirai Y , Gembun Y : A case of congenital pseudoarthrosis of the tibia treated with pulsing electro-magnetic field ; 17-year follow-up . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3): 198-201 .
- 7) Nakayama Y , Shirai Y , Narita T , Mori A , Kobayashi K : Knee functions and a return to sports activity in competitive athletes following anterior cruciate ligament reconstruction . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3): 172-176 .
- 8) Hashiguchi H , Shirai Y , Sawaizumi T , Nanno M , Kodera N : Factors influencing the postoperative outcome in cases with bicondylar fracture of the distal end of the humerus . Journal of Japanese Elbow Society 2000 ; 7 (1): 13-14 .
- 9) Nanno M , Shirai Y , Sawaizumi T , Aoki T , Hashiguchi H , Kodera N : Surgical treatment of radial head and neck fractures . J Jpn Elbow Soc 2000 ; 7 (1): 141-142 .
- 10) Ozaki D , Shirai Y , Nakayama Y , Yoshihara K , Uesaka S : Multiple fish vertebra deformity in child with systemic lupus erythematosus : A case report . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 271-274 .
- 11) Nakayama Y , Shirai Y , Yoshihara K , Uesaka S : Evaluation of glycosaminoglycans levels in normal joint fluid of the knee . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 92-95 .
- 12) Ozaki D , Shirai Y , Nakayama Y , Yoshihara K , Fujita T¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics): A case report of insufficiency fracture of the fossa acetabuli in a patient with rheumatoid arthritis . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (4): 267-270 .
- 13) Nanno M , Shirai Y , Nakayama Y , Sawaizumi T , Hashiguchi H : Correlation Between Displacement and Clinical Results in the Distal Radius Fractures : The Comparative Study in the Radiological Parameters of the injured-and the uninjured Sides- . J Jpn Soc Surg Hand 2000 ; 17 (1): 16-20 .
- 14) Kitamura S : Septic Arthritis of the Hip Associated with Atopic Dermatitis . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (6): 464-467 .
- 15) Sawaizumi T , Shirai Y , Nanno M , Hashiguchi H , Ieda T , Nanbu A , Rokugo T , Kodera N : Significance of the anterior spike on X-ray after reduction of supracondylar fractures of the humerus in children . Journal of Japanese Elbow Society 2000 ; 7 (1): 131-132 .
- 16) Uematsu N , Nakayama Y , Shirai Y , Tamai K , Hashiguchi H , Banzai Y : Transient Osteoporosis of the Hip During Pregnancy . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (6): 459-463 .
- 17) Ito H , Takayama A , Shirai Y : Posterior dislocation of the shoulder with a large fracture segment . J Shoulder Elbow Surg 2000 ; 9 (3): 238-241 .
- 18) Ito H , Takayama A , Shirai Y : Radiographic evaluation of the Hill-Sachs lesion in patients with recurrent anterior shoulder dislocation . J Shoulder Elbow Surg 2000 ; 9 (6): 495-497 .
- 19) Nakayama Y , Shirai Y , Narita T , Mori A , Kobayashi K , Yoshihara K : Serial magnetic resonance imaging of anterior cruciate ligament grafts after reconstruction . Journal of Musculoskeletal Research 2000 ; 4 (1): 31-38 .
- 20) Iwasaki H¹⁾ , Ota N , Nakajima T¹⁾ , Shinohara Y¹⁾ , Kodaira M¹⁾ , Kajita M¹⁾ , Emi M¹⁾ (¹⁾ Dept. Mol. Bio. , Inst. Geront): Five novel single-nucleotide polymorphisms of human interferon gamma identified by sequencing the entire gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 32-34 .
- 21) Kajita M¹⁾ , Iwasaki H¹⁾ , Ota N , Shinohara Y¹⁾ , Kodaira M¹⁾ , Nakajima T¹⁾ , Emi M¹⁾ (¹⁾ Dept. Mol. Bio. , Inst. Geront): Novel single nucleotide polymorphisms of the human Colony-stimulating factor 2 (CSF2)

- identified by sequencing entire gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 48-49 .
- 22) Shinohara Y¹⁾, Iwasaki H¹⁾, Ota N, Nakajima T¹⁾, Kodaira M¹⁾, Kajita M¹⁾, Shiba T²⁾, Emi M¹⁾(¹⁾Dept. Mol. Bio. , Inst. Geront , ²⁾Dept. Mol. Bio. , Kitasato Univ): Novel single nucleotide polymorphisms of human nuclear factor kappa-B 2 identified by sequencing the entire gene . J. Hum. Genet 2001 ; 46 : 50-51 .
- 23) Narita T , Shirai Y , Nakayama Y , Mori A , Kobayashi K , Takeda T : The effect of accelerated rehabilitation on athletes after anterior cruciate ligament reconstruction using semitendinosus and gracilis tendon augmented by woven polyester . Journal of Japan Knee Society 2001 ; 25 : 216-221 .
- 24) Gembun Y , Nakayama Y , Shirai Y , Miyamoto M , Kitagawa Y , Yamada T : Surgical results of Lumbar disc herniation in the elderly . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 50-53 .
- 25) Kobayashi K , Nakayama Y , Shirai Y , Narita T , Mori A : Meniscal Tears After Anterior Cruciate Ligament Reconstruction . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 24-28 .
- 26) Nakayama Y , Shirai Y , Narita T , Mori A , Kobayashi K : The accuracy of MRI in assessing graft integrity after ACL reconstruction . J Nippon Med Sch 2001 ; 68 (1): 45-49 .
- 27) Kitagawa Y , Shirai Y , Nakayama Y , Narita T , Mori A : Liposarcoma of the Right Knee . Modern Surgical Challenges for Musculoskeletal Sarcoma 2001 ; 10 : 149-165 .
- 28) Nakajima Y , Uchiyama M¹⁾, Shirai Y , Sakuma Y¹⁾, Kato M¹⁾(¹⁾Department of Physiology): Acetylcholine increases intracellular Ca²⁺in the rat pituitary folliculostellate cells in primary culture . Am J Physiol Endocrinol Metab 2001 ; 280 : E608-E615 .
- 29) Sawaizumi T , Shirai Y , Aoki T , Hashiguchi H , Kitagawa Y , Ieda T : Distraction osteogenesis of distal phalanx using Ilizarov mini fixator for fingers . Journal of the Japanese Association of External Fixation 2001 ; 12 (1): 179-183 .
- 30) Sawaizumi T , Shirai Y , Nanno M , Nanbu A , Rokugo T : Application of Arthroscopy for Reduction of Intra-articular Fractures of the Distal End of the Radius . Journal of Japanese Society for Surgery of the Hand 2001 ; 17 (5): 585-589 .
- 31) Yoshihara K , Shirai Y , Nakayama Y , Uesaka S : Histochemical Changes in the Multifidus Muscle in Patients with Lumbar Intervertebral Disc Herniation . SPINE 2001 ; 26 (6): 622-626 .
- 32) Ito H , Shirai Y , Takayama A : An abduction and horizontal adduction technique for reduction of acute anterior shoulder dislocation ; simple technique and evaluated with radiographs . Am J Orthop 2001 ; 30 (3): 201-204 .
- 33) 白井康正 , 青木孝文 , 南部昭彦 , 萬歳祐子 , 金田琴恵 : 交感神経活動と前脛骨筋内血流量の相関について . 臨床脳波 2000 ; 42 : 434-437 .
- 34) 玉井健介 , 白井康正 , 中嶋隆夫 , 小林俊之 , 村田修二 : 特発性大腿骨頭壊死症の凝固 , 線溶系の検討 . Hip Joint 2000 ; 26 : 120-122 .
- 35) 杉本和也¹⁾, 成田哲也 , 梅ヶ枝健一²⁾, 佐藤勝彦³⁾, 三馬正幸⁴⁾, 高倉義典⁵⁾(¹⁾済生会奈良病院整形外科 , ²⁾梅ヶ枝整形外科 , ³⁾福島県立医科大学整形外科 , ⁴⁾三馬整形外科 , ⁵⁾奈良県立医科大学整形外科): 日本バスケットボールリーグ選手における足関節捻挫の調査 . 日整外スポーツ医会誌 2000 ; 20 : 29-33 .
- 36) 高山景範 , 伊藤博元 : 上腕骨近位端骨折に対する人工骨頭置換術 . 新OS NOW 2000 ; 6 : 15-21 .
- 37) 六郷知行 , 白井康正 , 伊藤博元 , 沢泉卓哉 , 青木孝文 , 南野光彦 : Zone IIIにおける長母指屈筋腱皮下断裂の1症例 . 骨・関節・靭帯 2000 ; 13 (5): 467-470 .
- 38) 青木孝文 , 白井康正 , 北川泰之 , 鈴木康之 , 山田哲士 , 掛川裕治 : 陥没型踵骨骨折の治療における吸収性骨接合材を用いた簡便な整復固定法 . 骨折 2000 ; 22 (2): 406-409 .
- 39) 成田哲也 , 白井康正 , 中山義人 , 森 淳 , 小林 薫 : 鏡視下膝前十字靭帯再建術の関節鏡所見とMRI像 . J

Nippon Med Sch 2000 ; 67 (3) : 162-163 .

- 40) 澤泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 南部昭彦, 六郷知行, 小寺訓江, 斉藤 善 : 関節鏡を利用した橈骨遠位端関節内骨折の治療経験 . 骨折 2000 ; 22 (2) : 596-600 .
- 41) 金 竜, 白井康正, 青木孝文, 北川泰之, 金田和容, 斉藤 善 : 中足骨に発生した亜急性骨髄炎の1症例 . 骨・関節・靭帯 2000 ; 13 : 561-565 .
- 42) 六郷知行, 白井康正, 武内俊次, 大野達朗 : 経皮的抹消神経電気刺激 (Transcutaneous Electrical Nerve Stimulation) におけるラット後根神経節内サブスタンスPの変化 . 運動療法と物理療法 2000 ; 11 (1) : 47-50 .
- 43) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 小林 薫, 家田俊也, 武田知通, 萬歳祐子 : スポーツ用膝装具・臨床評価面からの検討 : 膝前十字靭帯・回旋不安定性制御効果 . 臨スポーツ医 2000 ; 17 : 1475-1480 .
- 44) 小寺訓江, 白井康正, 澤泉卓哉, 橋口 宏, 南野光彦 : 内反肘に合併した滑膜ひだ障害の1例 . 日本肘関節研究会誌 2000 ; 7 : 127-128 .
- 45) 林 英俊, 江川慶長 : 肩関節不安定症に対する関節鏡視下Bankart法 (Caspari法) の小経験 . 信州医誌 2000 ; 48 (4) : 293 .
- 46) 林 英俊, 小寺訓江 : 肩関節不安定症に対する関節鏡視下Bankart法 (knotless anchors) の試み . 信州医誌 2000 ; 49 (1) : 48-49 .
- 47) 上坂真司, 武内俊次, 中山義人, 白井康正 : 変形性膝関節症における血中コンドロイチン硫酸濃度 . 関節の外科 2000 ; 27 (4) : 125-134 .
- 48) 間瀬泰克, 白井康正, 伊藤博元, 南 和文, 梶本陽司, 林 英俊 : 投球障害肩に対する鏡視下Bennett病変形成術の経験 . 関節鏡 2000 ; 25 (2) : 159-163 .
- 49) 橋口 宏, 白井康正, 南野光彦, 萬歳祐子, 北村繁行, 植松直子 : 肩鎖関節plateを用いた鎖骨遠位端骨折・肩鎖関節脱臼の治療成績 . 東日整災外会誌 2001 ; 13 (1) : 25-28 .
- 50) 縄井清志, 清水和彦¹⁾(¹⁾北里大学医療衛生学部) : 理学療法科教育における臨床実習生の自己評価と臨床実習指導者の評価の差の研究 . 理学療法進歩と展望 2001 ; 15 : 51-59 .

(2) 総説 :

- 1) 黒川高秀 : 生体医用工学の新しい展開 . BME 2000 ; 13 : 26-27 .
- 2) 青木孝文 : 整形外科領域における経皮吸収剤の使用法 . Clinic magazine 2000 ; 354 : 58-61 .
- 3) 中山義人, 白井康正 : 骨粗鬆症の鑑別診断 . 臨床成人病 2000 ; 30 : 909-914 .
- 4) 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳 : 日本整形外科スポーツ医学会 : この1年の進歩 . 臨床整形外科 2000 ; 35 : 1360-1362 .
- 5) 宮本雅史 : 急性腰痛症に対する装具療法 . Orthopaedics 2000 ; 13 (7) : 33-36 .

著 書

- 1) 白井康正 : [分担] 生理と病態 . 理学診療マニュアル ; 運動器疾病のリハビリテーション改訂第2版 (日本整形外科学会), 2000 ; pp4-10, 全日本病院出版会 .
- 2) 白井康正 : [分担] 牽引療法 . 理学診療マニュアル ; 運動器疾病のリハビリテーション改訂第2版 (日本整形外科学会), 2000 ; pp60-61, 全日本病院出版会 .
- 3) 白井康正 : [分担] 頸椎疾病 . 理学診療マニュアル ; 運動器疾病のリハビリテーション改訂第2版 (日本整形外科学会), 2000 ; pp157-160, 全日本病院出版会 .
- 4) 宮本雅史, 中澤一純¹⁾(¹⁾千葉大医学部付属病院薬剤部) : [分担] 腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症 . 臨床薬物治療学-疾病の解説と薬の使い方, 2000 ; pp166-172, アークメディア .
- 5) 宮本雅史, 白井康正 : [分担] 各種疾病・障害に対する運動療法・運動処方の実践 ; 腰痛疾患 . 運動療法ガイド第3版, 2000 ; pp314-319, 日本医事新報社 .

- 6) 成田哲也, 白井康正, 中山義人:〔分担〕整形外科領域・内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング, 2000; pp105-113, 真興交易(株)医書出版部.
- 7) 澤泉卓哉:〔分担〕変形性手・手関節症・整形外科有痛性疾患保存療法のコツ(上), 2000; pp215-220, 全日本病院出版会.
- 8) 澤泉卓哉:〔分担〕腱鞘炎・臨床薬物治療学, 2000; pp185-188, アークメディア.
- 9) 伊藤博元:〔分担〕頸肩腕症候群・臨床薬物治療学(市田隆文 他), 2000; pp182-184, 国際医書出版.
- 10) 伊藤博元:〔分担〕五十肩・臨床薬物治療学(市田隆文 他), 2000; pp177-181, 国際医書出版.
- 11) 伊藤博元:〔分担〕五十肩・神経ブロック関連疾患の整理と手技(宮崎東陽), 2000; pp97-98, 真興交易医書出版.
- 12) 伊藤博元:〔分担〕磁気治療器(電磁場刺激治療器).理学診療マニュアル(石井良章 他), 2000; pp63-67, 全日本出版会.
- 13) 玉井健介, 白井康正, 中嶋隆夫:〔分担〕大腿骨頸部骨折・NEW MOOK 整形外科 No8, 2000; pp133-141, 金原出版.

学会発表

〔1999年度追加分〕

特別講演:

- 1) 黒川高秀:メカニカルストレスと生体・日本医科大学医学会第99回例会, 1999. 11.

(1) 教育講演:

- 1) Shirai Y: Occupational Low Back pain. Meeting of Labour Ergonomics, Ministry of Indonesia (Jakarta, Indonesia), 2001. 1.
- 2) 白井康正:学生相撲選手の仙腸関節変化と腰痛.和歌山県立医科大学医学会, 2000. 3.
- 3) 白井康正:日本整形外科スポーツ医学会20年の歩み.第73回日本整形外科学会学術集会, 2000. 4.
- 4) 宮本雅史:職業性腰痛について.第11回荒川医師会産業医研修会, 2000. 5.
- 5) 黒川高秀:21世紀に向けた整形外科基礎研究;整形外科基礎研究の意義.第15回日本整形外科学会基礎学術集会, 2000. 9.
- 6) 中山義人:膝保存療法の限界.中野区医師会講演会(日本整形外科学会教育研修講演), 2000. 10.
- 7) 黒川高秀:整形外科21世紀のフィロソフィー.第54回高知整形外科集談会, 2000. 11.
- 8) 黒川高秀:整形外科のフィロソフィー.神奈川西湘地区整形外科症例検討会, 2000. 12.

(2) シンポジウム:

- 1) Gembun Y, Shirai Y, Nakayama Y, Miyamoto M: Lumber disc herniation in the elderly. 第10回Japanese-Taiwanese Orthopaedic Symposium (Fukushima), 2000. 5.
- 2) Shirai Y: Experimental study of slow-speed nerve elongation. The 10th Japanese-Taiwanese Orthopaedic Symposium (Fukushima), 2000. 5.
- 3) Miyamoto M: A case report of SAPHO syndrome presenting with spondy ldiscitis. The 10th Japanese-Taiwanese Orthopaedic Symposium (Fukushima), 2000. 5.
- 4) Aoki T: Clinical use of bioabsorbable osteosynthetic implants for fractures of the neck of the talus. The 10th Japanese-Taiwanese Orthopaedic Symposium (Oiso), 2000. 5.
- 5) 中山義人, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 川井 真¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): 骨盤輪骨折後の腰痛.第73回日本整形外科学会学術集会, 2000. 4.
- 6) 南 和文, 白井康正, 中嶋隆夫, 赤石文洋: 相撲における仙腸関節性腰痛の予防.第26回日本整形外科スポーツ医学会, 2000. 5.

7) 元文芳和：腰痛のEBM：椎間板性腰痛について．第8回日本腰痛学会，2000．11．

8) 宮本雅史：腰痛のEBM：職業性腰痛について．第8回日本腰痛学会，2000．11．

(3) パネルディスカッション：

1) 杉本和也¹⁾，成田哲也，梅ヶ枝健一²⁾，佐藤勝彦³⁾，三馬正幸⁴⁾，高倉義典⁵⁾(¹⁾済生会奈良病院整形外科，²⁾梅ヶ枝整形外科，³⁾福島県立医科大学整形外科，⁴⁾三馬整形外科，⁵⁾奈良県立医科大学整形外科)：日本バスケットボールリーグ選手における足関節捻挫の調査．第25回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，1999．5．

2) 成田哲也，白井康正，中山義人，森 淳，小林 薫，家田俊也，武田知通，萬歳祐子：膝前十字靭帯再建術後療法：スポーツ復帰における膝装具の考え方および回旋不安定性制御効果の検討．第2回スポーツ用装具を考える会，2000．5．

3) 澤泉卓哉，白井康正，今野俊介，中嶋隆夫，南野光彦，中原義人，六郷知行，小寺訓江：創外固定を用いた橈骨遠位端骨折の治療成績．第14回日本創外固定・骨延長学会，2001．2．

(4) 一般講演：

1) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Mori A, Kobayashi K : Meniscal tears after ACL reconstruction . The 10th Sino- Japanese Orthopaedic Symposium , 2000 . 5 .

2) Aoki T, Shirai Y, Kim Y, Suzuki Y, Banzai Y, Nanbu A : Power spectrum changes in surface EMG during sustained isometric contractions . The 13th Congress of ISEK (Sapporo), 2000 . 6 .

3) Ota N : Linkage of human tumor necrosis factor alpha to human osteoporosis by sib-pair analysis . American Society of Bone and Mineral Research 22 nd Annual Meeting (Toronto Canada), 2000 . 9 .

4) 玉井健介，白井康正，中嶋隆夫，小林俊之，掛川裕治：股関節の関節裂隙狭小化を伴わない骨棘について．第27回股関節学会，2000．

5) 高比良薫，白井康正，澤泉卓哉，河路秀巳：強直母指を疑わせた長母指屈筋破格の1例．第603回整形外科集談会東京地方会，2000．

6) 青木孝文，白井康正，河路秀巳，南部昭彦：足関節外果骨折に対する固定法の比較検討：吸収性骨接合材とプレートとの比較について．第26回日本骨折治療学会，2000．1．

7) 北村繁行，白井康正，宮本雅史，橋口 宏，北川泰之：乳児に発生した背部脂肪芽腫の1例．関東整形災害外科学会月例会，2000．3．

8) 橋口 宏，白井康正，澤泉卓哉，飯澤典茂，山田哲士：成人上腕骨遠位端関節内骨折の術後成績．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．

9) 元文芳和，白井康正，宮本雅史，北川泰之，金田和容，小野寺剛，山田哲士：高齢者腰椎椎間板ヘルニアの手術成績．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．

10) 伊藤博元，白井康正，元文芳和：四肢長管骨難治性骨折に対する電磁場刺激療法 (Pulsing Electromagnetic Fields) の有効性の検討．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．

11) 小林 薫，白井康正，中山義人，成田哲也，森 淳，武田知通：再建ACLの再構築過程におけるMRIの意義．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．

12) 玉井健介，白井康正，青木孝文，元文芳和，河路秀巳，南野光彦，橋口 宏，武田知通，山田哲士，石田良太，小寺訓江：大腿骨頸部内側骨折Garden分類の信頼性．第73回日本整形外科学会学術集会，2000．4．

13) 河路秀巳，白井康正，宮本雅史，元文芳和，山田哲士，六郷知行：リウマチ性椎間板炎により馬尾症状の急速な進行を呈した1例．第40回関東整形災害外科学会，2000．5．

14) 南野光彦，白井康正，澤泉卓哉，橋口 宏：橈骨遠位端骨折保存的治療例における転位と遺残変形の検討．第43回日本手の外科学会，2000．5．

15) 澤泉卓哉，白井康正，南野光彦，南部昭彦，六郷知行：橈骨遠位端関節内骨折に対する関節鏡視下整復術の適

- 応．第43回日本手の外科学会，2000．5．
- 16) 植松直子，白井康正，中山義人，玉井健介，橋口 宏：妊娠に合併した一過性股関節骨萎縮の4例．第40回関東整形災害外科学会，2000．5．
- 17) 尾崎大也，白井康正，武内俊次，井出勝彦，中瀬 猛：重量挙げによる両側第一肋骨骨折の1例．第26回日本整形外科スポーツ医学会，2000．5．
- 18) 青木孝文，白井康正，澤泉卓哉，星川裕一：イリザロフ骨穿孔術による閉塞性動脈性血行障害の治療経験．第6回日本イリザロフ法研究会，2000．5．
- 19) 橋口 宏，白井康正，南野光彦，萬歳祐子：人工骨を用いた上腕骨近位部骨折の治療成績．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 20) 河路秀巳，白井康正，青木孝文，橋口 宏，飯澤典茂，植松直子：距骨骨折に対する吸収性骨接合材の使用経験．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 21) 南野光彦，白井康正，澤泉卓哉，橋口 宏，今野俊介：橈骨頭骨折の治療経験．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 22) 山田哲士，白井康正，宮本雅史，元文芳和：中心性頸髄損傷の治療成績．第29回日本脊椎外科学会，2000．6．
- 23) 斉藤 善，白井康正，宮本雅史，元文芳和，北川泰之：脊髄硬膜外悪性リンパ腫の1例．第602回関東整形災害外科学会月例会，2000．6．
- 24) 縄井清志：臨床実習における学生の自己評価と指導者の評価の差．第19回東京都理学療法士学会，2000．6．
- 25) 村田修二，白井康正，南 和文，中嶋隆夫，小林俊之，吉原 潔，斉藤 善：チタン製肩鎖関節プレートによる鎖骨遠位端骨折の治療経験．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 26) 宮本雅史，白井康正，元文芳和，金田和容，小野寺剛，山田哲士：頸椎症性脊髄症に対する棘突起縦割式椎弓形成術の治療成績の評価．第29回日本脊椎外科学会，2000．6．
- 27) 中嶋隆夫，南 和文，小林俊之，吉原 潔，村田修二，斉藤 善，白井康正，澤泉卓哉：不安定型大腿骨転子部骨折に対するつば付き compression hip screw の使用経験：着脱式，非着脱式プレートの比較検討．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 28) 青木孝文，白井康正，宮本雅史，金 竜：頸椎症性脊髄症におけるF波出現様式の検討．第29回日本脊椎外科学会，2000．6．
- 29) 青木孝文，白井康正，高松 眞，鈴木康之，山田哲士，六郷知行：足関節果部骨折と脛腓間結合損傷との関連について．第25回日本足の外科学会，2000．6．
- 30) 北川泰之，白井康正，角田 隆，丸山晴久，淺野伍朗¹⁾，前田昭太郎²⁾，横山宗伯¹⁾(¹⁾病理学第2，²⁾多摩永山病院病理部)：粘液型脂肪肉腫の治療と問題点．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会，2000．7．
- 31) 服部幹彦，白井康正，武内俊次，青木孝文，南野光彦，江川慶長：間欠的頸椎牽引の体性感覚誘発電位に及ぼす影響．第12回理学診療学会，2000．7．
- 32) 北川泰之，白井康正，玉井健介，淺野伍朗¹⁾，前田昭太郎²⁾，横山宗伯¹⁾(¹⁾病理学第2，²⁾多摩永山病院病理部)：殿部軟部腫瘍の1例．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会，2000．7．
- 33) 横山宗伯¹⁾，淺野伍朗¹⁾，北川泰之，白井康正，松原美幸²⁾，杉崎祐一²⁾(¹⁾病理学第2，²⁾付属病院病理部)：中足骨に発生した平滑筋肉腫の1例．第33回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会，2000．7．
- 34) 南 和文，吉原 潔，斉藤 善，川角 浩¹⁾(¹⁾日本医学技術専門学校)：フットスプレー剤の靴内細菌に対する細菌学的検討．第14回日本靴医学会，2000．7．
- 35) 宮本雅史，白井康正，中山義人，元文芳和，青木孝文，河路秀巳，大野達朗：腰痛に対する低出力レーザーの治療効果について．第12回日本理学診療学会，2000．7．
- 36) 元文芳和，白井康正，中山義人，澤泉卓哉：環軸椎不安定症により脊髄障害を呈した spondyloepiphyseal dysplasia congenita の1例．第29回リウマチの外科研究会，2000．8．

- 37) 澤泉卓哉, 白井康正, 中山義人, 元文芳和, 河路秀巳: Sauve-kapandji法後の尺骨近位断端部痛: 尺側手根伸筋腱による尺骨近位の吊り上げ法. 第29回リウマチの外科研究会, 2000. 8.
- 38) 小寺訓江, 林 英俊: 肩鎖関節障害に対する鏡視下形成術の1例. 第86回信州整形外科懇談会, 2000. 8.
- 39) 林 英俊, 小寺訓江: 肩関節不安定症に対する関節鏡視下Bankart (knotless anchors)の小経験. 第86回信州整形外科懇談会, 2000. 8.
- 40) 尾崎大也, 安田雅弘¹⁾, 麻生定光¹⁾, 武内俊次, 白井康正, 太田成男¹⁾(¹⁾老人病研究所生化学): スーパーアポトーシス抑制因子Bcl-xFNK蛋白導入による軟骨組織変性抑制. 第9回アポトーシス研究会, 2000. 8.
- 41) 鈴木康之, 白井康正, 武内俊次, 澤泉卓哉, 青木孝文: 家兎坐骨神経を用いた動物モデルによるDouble crush syndromeの再現実験. 第15回日本整形外科学会基礎学術集会, 2000. 9.
- 42) 太田信孝, 中島敏晶¹⁾, 鈴木隆雄²⁾, 吉田英世²⁾, 細井孝之³⁾, 折茂 肇⁴⁾, 白井康正, 江見 充⁵⁾(¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用, ²⁾都老人研・疫学, ³⁾都老人医療センター・内分泌内科, ⁴⁾都老人研, ⁵⁾老研・分生): 骨粗鬆症のTNFA遺伝子座におけるsib-pair解析. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 43) 岩崎公典¹⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 梶田満子¹⁾, 井上 聡²⁾, 細井孝之³⁾, 鈴木隆雄³⁾, 中島敏晶⁴⁾, 井ノ上逸朗⁴⁾, 江見 充(¹⁾老研・分生, ²⁾東大老年化, ³⁾東京都老人総合研, ⁴⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨量規定候補遺伝子のSNPの解析. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 44) 梶田満子¹⁾, 岩崎公典¹⁾, 中島敏晶²⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 井ノ上逸朗²⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 一塩基伸長によるSNPタイピング法の検討. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 45) 篠原靖智¹⁾, 岩崎公典¹⁾, 太田信孝, 小平美奈¹⁾, 梶田満子¹⁾, 中島敏晶²⁾, 井ノ上逸朗²⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): ゲノムシーケンスによる骨粗鬆症候補遺伝子のSNPの検出. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 46) 太田信孝, 中島敏晶¹⁾, 鈴木隆雄²⁾, 吉田英世²⁾, 細川孝之³⁾, 折茂 肇⁴⁾, 白井康正, 江見 充⁵⁾(¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用, ²⁾都老人研・疫学, ³⁾都老人医療センター・内分泌内科, ⁴⁾都老人研, ⁵⁾老研・分生): sib-pair解析による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 47) 梶田満子¹⁾, 岩崎公典¹⁾, 中島敏晶²⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 井ノ上逸朗²⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 一塩基伸長法による骨粗鬆症候補遺伝子SNPタイピングの検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 48) 岩崎公典¹⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 梶田満子¹⁾, 井上 聡²⁾, 細井孝之²⁾, 鈴木隆雄³⁾, 中島敏晶⁴⁾, 井ノ上逸朗⁴⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大老年科, ³⁾東京都老人総合研, ⁴⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨粗鬆症候補遺伝子のSNPによる解析. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 49) 太田信孝, 江見 充¹⁾, 中島敏晶²⁾, 鈴木隆雄³⁾, 吉田英世³⁾, 細井孝之⁴⁾, 折茂 肇⁵⁾, 白井康正(¹⁾老研・分生, ²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用, ³⁾都老研・疫学, ⁴⁾都老人医療センター・内分泌内科, ⁵⁾都老人研): IL6遺伝子多型と骨密度との相関. 第15回日本整形外科学会基礎学術大会, 2000. 9.
- 50) 中嶋隆夫, 南 和文, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 斉藤 善, 白井康正, 澤泉卓哉: 骨折治療に対するバイオペックスの使用経験. 第1回千葉骨ペースト研究会, 2000. 9.
- 51) 林 英俊, 白井康正, 中山義人, 南 和文, 成田哲也, 森 淳, 間瀬泰克, 小寺訓江: Osgood-Schlatter病に対する新しい治療方針についての試み. 第11回日本臨床スポーツ医学会, 2000. 10.
- 52) 石田良太, 武内俊次, 小林 薫, 上坂真司, 中原義人, 田中功一: 慢性腎不全患者に発生した大腿骨頸部骨壊死症の1例. 第31回神奈川関節外科研究会, 2000. 10.
- 53) 中川泰彰¹⁾, 南 和文, 脇田重明¹⁾, 新井達也²⁾, 岡村良久³⁾, 松末吉隆¹⁾, 中村孝志¹⁾(¹⁾京都大学整形外科, ²⁾私立岸和田病院整形外科, ³⁾青森県立中央病院整形外科): 現場で目撃した相撲による頸髄損傷の検討. 第11回日本臨床スポーツ医学会, 2000. 10.

- 54) 岩崎公典¹⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 梶田満子¹⁾, 井上 聡²⁾, 細井孝之³⁾, 鈴木隆雄³⁾, 中島敏晶⁴⁾, 井ノ上逸朗⁴⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大老年科, ³⁾東京都老人総合研, ⁴⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): SNP開発による骨粗鬆症候補遺伝子の解析. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 55) 梶田満子¹⁾, 岩崎公典¹⁾, 中島敏晶²⁾, 太田信孝, 篠原靖智¹⁾, 小平美奈¹⁾, 井ノ上逸朗²⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老研・分生, ²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨粗鬆症候補遺伝子の一塩基伸長法によるSNPタイピングの検討. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 56) 太田信孝, 白井康正, 中島敏晶¹⁾, 鈴木隆雄²⁾, 吉田英世²⁾, 細井孝之³⁾, 折茂 肇⁴⁾, 江見 充⁵⁾(¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用, ²⁾都老人研・疫学, ³⁾都老人医療センター・内分泌内科, ⁴⁾都老人研, ⁵⁾老研・分生): 同胞対解析による骨粗鬆症とTNFA座の連鎖. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 57) 南 和文, 中嶋隆夫, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 斉藤 善: ALLO-GRIPを利用した股関節臼蓋形成術. 第1回千葉股関節研究会, 2000. 10.
- 58) 青木孝文, 白井康正, 澤泉卓哉: PIP関節骨折(掌側板付着部骨折)に対する動的副子固定. 第6回神奈川手・肘の外科研究会, 2000. 10.
- 59) 橋口 宏, 白井康正, 宮本雅史, 澤泉卓哉, 飯沢典茂, 掛川裕治, 山田哲士: 腰椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間板摘出術の術後成績. 第8回日本腰痛学会, 2000. 11.
- 60) 吉原 潔, 白井康正, 中山義人, 南 和文, 宮本雅史, 中嶋隆夫, 小林俊之: 腰椎椎間板ヘルニアにおける腰部多裂筋の病態とリハビリテーション. 第8回日本腰痛学会, 2000. 11.
- 61) 原口輝男, 清水要吉, 深井靖雄: 橈骨骨幹部に発生した内軟骨腫の1例. 第171回栃木県整形外科医会, 2000. 11.
- 62) 中山義人: 腰痛のEBM-椎間板性腰痛について. 第8回日本腰痛学会, 2000. 11.
- 63) 橋口 宏, 白井康正, 南野光彦, 萬歳祐子, 北村繁行, 植松直子: 肩鎖関節plateを用いた鎖骨遠位端骨折・肩鎖関節脱臼の治療成績. 第49回東日本整形災害外科学会, 2000. 12.
- 64) 林 英俊, 白井康正, 間瀬泰克, 植松直子: 肩関節不安定症に対する新しい関節鏡視下Bankart法. 第6回日本最小侵襲整形外科研究会, 2000. 12.
- 65) 尾崎大也, 安田雅弘¹⁾, 麻生定光¹⁾, 武内俊次, 白井康正, 太田成男¹⁾(¹⁾老人病研究所生化学): スーパーアポトーシス抑制因子Bcl-xFNK蛋白導入によるスライス培養軟骨細胞の維持. 第23回日本分子生物学会, 2000. 12.
- 66) 田中功一, 武内俊次, 小林 薫, 上坂真司, 中原義人, 太田信孝: 両側上腕骨大結節骨折同時受傷の1例. 第110回神奈川整形災害外科医会, 2000. 12.
- 67) 中嶋隆夫, 南 和文, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二, 斉藤 善, 白井康正, 澤泉卓哉: 骨折治療に対するリン酸カルシウム骨ペーストの使用経験. 第49回東日本整形災害外科学会, 2000. 12.
- 68) 青木孝文, 白井康正, 金 竜, 鈴木康之, 萬歳祐子, 南部昭彦, 江川慶長, 服部幹彦: 頸椎症性脊髄症に対する両側同時記録MEPの検討. 第30回日本臨床神経生理学会, 2000. 12.
- 69) 斉藤 善, 南 和文, 中嶋隆夫, 小林俊之, 吉原 潔, 村田修二: 高校陸上競技選手にみられた大腿骨頸部疲労骨折の1例. 第30回千葉スポーツ医学研究会, 2001. 1.
- 70) 橋口 宏, 白井康正, 澤泉卓哉, 南野光彦, 六郷知行: 肘部管症候群に対するstabilized subcutaneous transposition法の治療成績. 第13回日本肘関節研究会, 2001. 2.
- 71) 南野光彦, 白井康正, 澤泉卓哉: 橈骨遠位端骨折の治療成績に関する因子: 多変量解析による分析. 第15回東日本手の外科研究会, 2001. 2.
- 72) 南野光彦, 白井康正, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 橋口 宏: 橈骨頸部骨折に対する経皮的鋼線刺入固定法の治療経験. 第13回日本肘関節研究会, 2001. 2.
- 73) 澤泉卓哉, 白井康正, 南野光彦, 中原義人, 南部昭彦, 六郷知行, 江川慶長, 小寺訓江: 舟状骨偽関節に対し

て掌側に用いた血管柄付き第2中手骨基部骨移植術．第15回東日本手の外科研究会，2001．2．

- 74) 林 英俊，白井康正，中山義人，南 和文，成田哲也，森 淳，間瀬泰克，植松直子：中学生Osgood-Schlatter病の実態調査．第2回日本膝関節学会，2001．2．
- 75) 林 英俊，植松直子：肩関節上方関節唇損傷（SLAP）に対するknotless anchorsによる鏡視下修復術の小経験．第87回信州整形外科懇談会，2001．2．
- 76) 植松直子，林 英俊：スポーツ選手の腰椎分離症に対する治療：早期完治を目指して．第87回信州整形外科懇談会，2001．2．
- 77) 須藤賢太郎，白井康正，北川泰之，河路秀巳，友利裕二：下腿筋内に孤立性転移した甲状腺癌の1例．関東整形災害外科学会月例会，2001．2．
- 78) 小林 薫，白井康正，中山義人，成田哲也，森 淳，武田知通：膝前十字靭帯再建術におけるスティック型アイソメーターを用いたisometry計測法．第2回日本膝関節学会，2001．2．
- 79) 橋口 宏，白井康正，青木孝文，萬歳祐子：鎖骨骨折に対する吸収性pinを用いた経皮的pinning法の治療経験．骨軟部吸収性材料フォーラム2001，2001．3．
- 80) 上坂真司，武内俊次，小林 薫，中原義人，田中功一，白井康正：健康診断で偶然発見された胸椎砂時計型腫瘍の1例．第32回神奈川関節外科研究会，2001．3．
- 81) 村重良一，武内俊次，小林 薫，上坂真司，田中功一，中原義人：第一・第二楔状骨間離開の4例．第32回神奈川関節外科研究会，2001．3．
- 82) 中原義人，武内俊次，小林 薫，上坂真司，田中功一，太田信孝：手指に発生した血管平滑筋腫の1例．第32回神奈川関節外科研究会，2001．3．

(5) ポスター：

- 1) Suzuki Y, Shirai Y, Takeuchi T, Aoki T: An experimental study of the double crush syndrome using sciatic nerves in rabbits. The 13th Congress of International Society of Electrophysiology and Kinesiology (Sapporo), 2000. 5.
- 2) 縄井清志，広村 健，佐藤和男，伊東浩一，原崎淳子，長島真里：疾病利益が復職を遅らせた2例．第35回日本理学療法士学会，2000．5．
- 3) 高松 真，元文芳和，宮本雅史，伊藤博信¹⁾，白井康正⁽¹⁾解剖学第2): ラット最長筋筋紡錘における感覚神経終末の組織化学的観察．第29回日本脊椎外科学会，2000．6．
- 4) 橋口 宏，白井康正，伊藤博元，高山景範，萬歳祐子：Floating shoulder に対する鎖骨単独骨接合術の治療成績．第27回日本肩関節学会，2000．11．
- 5) 赤石文洋，白井康正，伊藤博元，宮本雅史：MRIによる腰部変性疾患の大腰筋・傍脊柱筋群変化．第49回東日本整形災害外科学会，2000．12．
- 6) 萬歳祐子，白井康正，武内俊次，青木孝文，藤井信人：外傷性頸部症候群におけるC反応および類似波形の検討．第30回日本臨床神経生理学会学術大会，2000．12．
- 7) 服部幹彦，白井康正，武内俊次，青木孝文，南野光彦，江川慶長：間欠的頸椎牽引による体性感覚誘発電位への影響．第30回日本臨床神経生理学会学術大会，2000．12．
- 8) 江川慶長，白井康正，武内俊次，青木孝文，金 竜，南部昭彦，萬歳祐子，服部幹彦：健常例におけるC反応の潜時及び出現率の検討．第30回日本臨床神経生理学会学術大会，2000．12．

13. 産婦人科学講座

[付属病院産婦人科]

研究概要

研究は周産期，婦人科腫瘍，生殖の3つの柱と手術を中心に本年度も活発に行われた。

周産期領域では，正常妊娠及び妊娠中毒症などとの病態における adenosine の役割に関する研究が高い評価を受けた。また，臨床研究では双胎妊娠の胎児予後や，超音波による子宮破裂の予知法や，妊娠悪阻の病態に関する研究などが外国雑誌に掲載された。

腫瘍学では皮様嚢腫から発生した扁平上皮癌の統計をまとめ，また，子宮筋腫や子宮頸癌の発生に関する遺伝子レベルでの解析が外国雑誌に掲載された。

不妊症関連では反復流産と抗リン脂質症候群との関連性が発表され，手術学では，腹腔鏡による子宮頸癌に対するリンパ節郭清法をまとめた。

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著：

- 1) 桑原慶充，島 義雄，竹内正人，林 隆，篠原継男，粟田口康一，進 純郎：徐脈性胎児不整脈を呈した純型肺動脈閉鎖の1例．日産婦人学東京会誌 2000；49(2)：187-190．

(1) 原著：

- 1) Asakura H, Watanabe S, Oya A, Power GG, Araki T : Severity of hyperemesis gravidarum correlates with serum reverse T3 . Arch Obstet Gynecol 2000 ; 264 : 57-62 .
- 2) Chihara H, Otsubo Y, Ohta Y, Araki T : Prenatal diagnosis of succenturiate lobe by ultrasonography and color Doppler imaging . Arch Gynecol Obstet 2000 ; 263 (3) : 137-138 .
- 3) Kurose K, Mine N, Doi D, Ota Y, Yoneyama K, Konishi H, Araki T, Emi M¹⁾(¹⁾老人病研究所分子生物学部門) : Novel gene fusion of COX6C at 8q22-23 to HMGIC at 12q15 in a uterine leiomyoma . Gene Chromosome Canc 2000 ; 27 (3) : 303-307 .
- 4) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Shin S, Araki T : Incidence of neonatal hypoglycemia in large-for-dates infants of dichorionic twin pregnancies . Acta Gynecol Obstet 2000 ; 264 : 27-28 .
- 5) Suzuki S : Vaginal delivery of twins and neonatal respiratory disorders . Am J Obstet Gynecol 2000 ; 183 : 780-781 .
- 6) Suzuki S, Sawa R, Yoneyama Y, Asakura H, Araki T : Preoperative diagnosis of dehiscence of the lower uterine segment in patients with a single previous Caesarean section . Aust N Z J Obstet Gynecol 2000 ; 40 : 402-404 .
- 7) Otsubo Y, Shinagawa T, Chihara H, Araki T : Coneservative Management of a Case of Placenta-Praevia Percreta . Aust NZ J. Obstet Gynecol 2000 ; 39 (4) : 518-519 .
- 8) Shen CH, Ghazizadeh M¹⁾, Kawanami O¹⁾, Shimizu H¹⁾, Jin E¹⁾, Araki T, Sugisaki Y²⁾(¹⁾老人病研究所病理部門，²⁾付属病院病理部) : Prognostic significance of vascular endothelial growth factor expression in human ovarian carcinoma . British Journal of Cancer 2000 ; 83 (2) : 196-203 .

- 9) Kurose K , Yia-PZ , Araki T , Eng C : Biallelic Inactivating Mutations and an Occult Germline Mutation of PTEN in Primary Cervical Carcinoma . GENES, CHROMOSOMES & CANCER 2000 ; 29 : 166-172 .
- 10) Suzuki S , Otsubo Y , Sawa R , Yoneyama Y , Araki T : Clinical trial of induction of labor versus expectant management in twin pregnancies . Gynecol Obstet Invest 2000 ; 49 : 24-27 .
- 11) Kiyokawa Y , Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Hayashi Z , Ishikawa A , Tateoka S , Araki T : Maternal plasma adenosine levels and platelet activation in preeclampsia . Hypertens Pregnancy 2000 ; 19 : 122-122 .
- 12) Yoneyama K , Takeshita T , Okino K , Kobayashi H , Arai M , Doi Y , Araki T : Clinical evaluation of squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma of the ovary . International Journal of Gynecology & Obstetrics 2000 ; 70 : 133-133 .
- 13) Akira S , Yamanaka A , Takeshita T , Araki T : New intra-abdominal fan retractor system for gasless laparoscopic surgery . International Journal of Gynecology & Obstetrics 2000 ; 70 : 100-100 .
- 14) Matsumoto J , Miyake H , Osozaki T , Koshino T , Araki T : Primary Aldosteronism in Pregnancy . J Nippon Med Sch 2000 ; 67-67 .
- 15) Nishi Y , Suzuki , Otsubo Y , Ishikawa G , Takei R , Sawa R , Yoneyama Y , Araki T : B-cell-type malignant lymphoma with placental involvement . J Obstet Gynecol Res 2000 ; 26 : 39-43 .
- 16) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T : Relation between serum uric acid and plasma adenosine levels in twin pregnancies . Obstet Gynecol 2000 ; 96 : 507-510 .
- 17) Nakai A , Asakura H , Taniuchi Y , Koshino T , Araki T , Siesjo K : Effect of α -Phenyl-N-tert-Butyl/ Nitone (PBN) on Fetal Cerebral Energy Metabolism during Intrauterine Ischemia and Reperfusion in Rats . Pediatr Res 2000 ; 47 : 451-456 .
- 18) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Takeuchi T , Shin S , Araki T : Fetal position associated with an increased risk of cesarean delivery in nulliparous twin gestations . Acta Obstet Gynecol scand 2000 ; 40 : 404-404 .
- 19) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Power GG , Araki T : Plasma adenosine levels increase in normal pregnant women . Am J Obstet Gynecol 2000 ; 182 : 1200-1203 .
- 20) Nakai A , Taniuchi Y , Asakura H , Ohya A , Yokota A , Koshino T , Araki T : Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in fetal and neonatal rat brain . Develop Brain Research 2000 ; 121 : 67-72 .
- 21) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Takeuchi K , Kiyokawa Y , Otsubo Y , Hayashi Z , Araki T : Changes in plasma adenosine concentrations during normal pregnancy . Gynecol Obstet Invest 2000 ; 50 : 145-148 .
- 22) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Shin S , Araki T : Clinical usefulness of maternal body mass index in twin pregnancies . Hypertens Pregnancy 2000 ; 19 : 273-279 .
- 23) Suzuki S , Okudaira S , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Shin S , Kaneko K , Araki T : Characteristics of monochorionic-diamniotic growth retarded twins during the third trimester . J Nippon Med Sch 2000 ; 66 (5): 300-305 .
- 24) Yoneyama Y , Kiyokawa Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Hayashi Z , Ishikawa A , Tateoka S , Araki T : Elevation of plasma adenosine inhibits aggregation in preeclampsia . Hypertens Preg nancy 2000 ; 19 : 123-123 .
- 25) Yokota A , Nakai A , Oya A , Koshino T , Araki T : Change in uterine and ovarian arterial impedance during the periovulatory period in conception and nonconception cycles . J. Obstet. Gynecol. Res. 2000 ; 26 (6): 435-440 .

- 26) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Araki T : Relationship between serum uric acid and plasma adenosine levels in twin pregnancies . *Obstet Gynecol* 2000 ; 96 : 507-510 .
- 27) Takei R , Suzuki S , Kijima K , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Araki T : First presentation of polymyositis following intrauterine fetal death . *Arch Gynecol Obstet* 2000 ; 1 : 47-48 .
- 28) Asakura H , Nakai A , Ishikawa G , Suzuki S , Araki T : Prediction of uterine dehiscence by measuring the lower uterine segment thickness prior to the onset of Labor . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (5) : 352-356 .
- 29) Asakura H , Ichikawa H , Nakabayashi M , Ando K , Kaneko K , Kawabata M , Tani A , Satoh M , Takahashi K , Sakamoto S : Perinatal risk factors related to neurologic outcome of term newborns who show asphyxia at birth : A prospective study . *J Obstet Gynecol Invest* 2000 ; 26 : 313-324 .
- 30) Akira A , Ishihara T , Ishihara A , Takeshita T , Kaseki H , Araki T : Laparoscopy with ultrasonographic guidance of intraamniotic methotrexate injection for ectopic pregnancy . *Journal of reproductive medicine* 2000 ; 45 (10) : 844-846 .
- 31) Nakai A , Taniuchi Y , Asakura H , Yokota A , Koshino T , Araki T : Secondary mitochondrial dysfunction after transient intrauterine ischemia in the fetal brain . *Obstet Gynecol Investigation* 2000 ; 26 : 383-387 .
- 32) Watanabe S , Otsubo Y , Shinagawa T , Araki T : Small bowel obstruction in early pregnancy treated by jejunostomy and total parenteral nutrition . *Obstet Gynecol* 2000 ; 812-813 .
- 33) Nakai A , Atsuko O , Kobe H , Asakura H , Yokota A , Koshino T , Araki T : Changes in maternal lipid peroxidation levels and antioxidant enzymatic activities before and after delivery . *J Nippon Med Sch* 2000 ; 67 (6) : 434-439 .
- 34) Kurose K , Mine N , Iida A , Harada H , Araki T , Emi M¹⁾(¹⁾老人病研究所分子生物学部門): Three aberrant splicing variants of the HMIC gene transcriber in uterine leiomyoma . *GENES CHROMOSOMES & CANCER* 2001 ; 30-30 .
- 35) Sawa R , Hayashi Z , Tanaka T , Hoshi K , Taketani Y , Kubo T , Aono T , Okamura H , Sapeta MJ , Estabrooks LL : Rapid detection of chromosome aneuploidies by prenatal interphase FISH (Fluorescence in situ Hybridization) and its clinical utility in Japan . *J. Obstet. Gynecol. Res* 2001 ; 1 : 41-47 .
- 36) Suzuki S , Watanabe S , Araki T : Acute fatty liver of pregnancy at 23 weeks of gestation . *BJOG* 2001 ; 108 : 223-224 .
- 37) Takeuchi T , Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Araki T : Regulation of platelet aggregation in vitro by plasma adenosine in preeclampsia . *Gynecol Obstet Invest* 2001 ; 51 : 36-39 .
- 38) Nishida N , Suzuki S , Hamamura Y , Igarashi K , Hayashi Z , Sawa R , Yoneyama Y , Asakura H , Kawabata K , Shima Y¹⁾ , Shin S¹⁾ , Araki T (¹⁾葛飾赤十字産院): Massive subchorionic hematoma (Breus' mole) complicated by intrauterine growth retardation . *J Nippon Med Sch* 2001 ; 68 (1) : 54-57 .
- 39) Mine N , Kurose K , Konishi H , Araki T , Nagai H¹⁾ , Emi M¹⁾(¹⁾老人病研究所分子生物学部門): Fusion of a sequence from HELIO (14q11) to the HMGIC gene at 12q15 in a uterine leiomyoma . *Jpn. J. Cancer Res* 2001 ; 92 : 135-139 .
- 40) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Power GG , Araki T : Plasma adenosine levels and the expression of P-selectin on platelets in preeclampsia . *Obstet Gynecol* 2001 ; 97 : 366-370 .
- 41) Suzuki S , Yoneyama Y , Sawa R , Murata T , Araki T , Power GG : Changes in fetal plasma adenosine and xanthine concentrations during fetal asphyxia with maternal oxygen administration in ewes . *Tohoku J Exp Med* 2001 ; 192 : 275-281 .
- 42) 澤倫太郎: 重症妊娠悪阻の管理 . *東京母性衛生学会誌* 2000 ; 16 (1) : 18-21 .
- 43) 武井麟太郎 , 荻原弘光 , 大坪保雄 , 鈴木俊治 , 澤倫太郎 , 米山芳雄 , 荒木 勤: 重症妊娠悪阻の管理 . *日本産*

- 科婦人科栄養・代謝研究会誌 2000 ; 6 (1) : 52-53 .
- 44) 渡辺昇一, 朝倉啓文, 関口敦子, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 米山芳雄, 荒木 勤 : 妊娠悪阻における脂肪酸代謝の特徴 (体温調節機能との関連性について). 日本産科婦人科栄養代謝研究会誌 2000 ; 16 : 60-61 .
- 45) 大下知子, 朝倉啓文, 鈴木俊治, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 河村 堯, 荒木 勤 : 妊婦血液凝固性のスクリーニングとしての超音波による胎盤所見の意義 . 日本産婦人科新生児血液学会誌 2000 ; 10 (1) : 31-32 .
- 46) 米山芳雄, 荒木 勤 : 妊娠前のカウンセリング . 産科と婦人科 2000 ; 67 (4) : 441-447 .
- 47) 石原楷輔, 武井麟太郎, 荒木 勤 : 前置胎盤における出血の予測 : 超音波画像からみた検討 . 産婦人科の実際 2000 ; 4 : 533-537 .
- 48) 荒木 勤, 中井章人 : 超音波カラー Doppler 法による腎血流所見 : 妊娠中毒症の病態胎児発育との関連 . 産婦人科の世界 2000 ; 52 (10) : 71-78 .
- 49) 奥平さやか, 渡辺美千明, 柴田浩之 : 術前に診断し, 無事手術を施行し得た肺塞栓症合併子宮腺筋症の1例 . 栃木県産婦人科医報 2000 ; 27 (2) : 172-175 .
- 50) 平泉良枝, 武内 務, 米山剛一, 川瀬里衣子, 村田知昭, 土居大祐, 太田雄治郎, 荒木 勤 : 転移性卵巣腫瘍で発見された若年性子宮体癌 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 : 467-470 .
- 51) 鈴木俊治, 峯 克也, 渡辺昇一, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 胎児頸部奇形種の出生前管理 . 日産婦会関東連会報 2000 ; 37 : 403-406 .
- 52) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄 : 癌性胸膜炎による呼吸困難から診断された正常大卵巣癌の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 (2) : 216-219 .
- 53) 峯 克也, 太田雄治郎, 伊藤尚子, 荏原弘光, 石川 源, 土居大祐, 米山剛一, 荒木 勤 : 子宮頸部病変に対するヒトパピローマウイルスの関与 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 : 174-177 .
- 54) 八木修立郎, 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄 : 尿管膿瘍の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 (4) : 412-415 .
- 55) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄 : 卵巣癌との鑑別が困難であった有茎子宮漿膜下平滑筋肉腫の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 (3) : 289-292 .
- 56) 館岡佐知, 鈴木俊治, 荏原弘光, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 妊娠14週で視床病変を認めたウエルニッケ脳症 . 日産婦東京会雑誌 2000 ; 49 (3) : 274-276 .
- 57) 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 大坪保雄, 荏原弘光, 荒木 勤 : 妊婦の安静時エネルギー代謝量の測定 . 日臨栄会誌 2000 ; 22 (3) : 3-5 .
- 58) 藤田千歳, 米山剛一, 荒木 勤, 杉崎祐一¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 病理部) : 子宮がん検診の頸部細胞診が発見の契機となった Normal-sized ovary carcinoma syndrome の1例 . 日臨細胞会誌 2000 ; 39 : 117-118 .
- 59) 清川寧子, 鈴木俊治, 木島一洋, 林 瑞成, 武井麟太郎, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤 : 胎児消化管狭窄症に対する羊水造影の有用性の再評価 . 産婦の実際 2000 ; 49 : 811-814 .
- 60) 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 清川寧子, 林 瑞成, 石川温子, 館岡佐知, 荒木 勤 : 妊娠中毒症による血漿アデノシン上昇が血小板活性化に及ぼす影響 . 日産婦新生児血会誌 2000 ; 10 (1) : 35-36 .
- 61) 明楽重夫 : 体外受精・胚移植法における着床不全の原因と対策 . 日本医事新報 2000 ; 3975 : 96-97 .
- 62) 明楽重夫, 荒木 勤 : 内視鏡外科の基礎と臨床, 婦人科疾患 . 日外会誌 2000 ; 101 (8) : 561-567 .
- 63) 竹下俊行, 荒木 勤 : 子宮卵管の検査と治療 . 産婦の実際 2000 ; 49 (9) : 171-177 .
- 64) 大下知子, 朝倉啓文, 鈴木俊治, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤 : 血液凝固性のスクリーニングにおける超音波胎盤所見の意義 . 日本産婦人科. 新生児血液学会誌 2000 ; 31-32 .
- 65) 林 瑞成 : 帝王切開後の出血 : OB/GYN 長期診療ピットフォール : その予防と対策 . 産婦の実際 2000 ; 49 (11) .
- 66) 明楽重夫, 竹下俊行, 可世木久幸, 荒木 勤 : わが教室における腹腔鏡手術 . 産婦治療 2000 ; 81 : 574-580 .

- 67) 明楽重夫, 荒木 勤: 悪性腫瘍と内視鏡下手術g適応と限界を中心に: 子宮癌に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術. 日産婦内視鏡会誌 2000; 16(2): 165-170.
- 68) 明楽重夫: 子宮癌に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術. 日産婦内視鏡雑誌 2000; 16: 165-170.
- 69) 明楽重夫, 荒木 勤: 腹腔鏡手術のカテゴリー分類に基づく研修プログラムと到達目標について. 日産婦内視鏡雑誌 2000; 16: 15-19.
- 70) 鴨井青龍, 土居大祐, 荒木 勤: 頸癌の術前動注化学療法: 病理組織標本による効果予知. 産婦治療 2001; 82: 200-203.
- 71) 川瀬里衣子, 渡辺美千明, 柴田浩之: 緊急子宮全摘術を要した子宮体部からの腹腔内大量出血の2症例. 栃木県産婦人科医報 2001; 28(1): 48-51.
- 72) 八木修立郎, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄: 子宮留膿腫を合併した子宮体癌の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 2001; 50(1): 103-106.
- 73) 太田雄治郎, 小林 肇, 桑島豊彦, 荒木 勤: 年齢層における月経不順の特徴と治療方針: 閉経前期の月経不順. 産婦の実際 2001; 50(2): 161-167.
- 74) 鴨井青龍, 土居大祐, 荒木 勤: 頸癌の術前動注科学療法: 病理組織標本による効果予知. 産婦治療 2001; 82(2): 200-203.
- 75) 桑島豊彦, 鈴木俊治, 林 瑞成, 五十嵐建治, 新井麻紀, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 下血を主訴とした重症貧血合併妊娠の経験. 日産婦東京会誌 2001; 50(1): 31-33.

(2) 総説:

- 1) 鈴木俊治, 西田直子, 荒木 勤: わが教室における妊娠中毒症の管理法. 産婦治療 2000; 81: 439-443.
- 2) 鈴木俊治, 三浦 敦, 荒木 勤: 産褥の検査. 周産期医学 2000; 30: 85-90.
- 3) 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 肥満妊婦に対する周産期母子保健指導. 周産期医学 2000; 30: 177-179.
- 4) 竹下俊行, 荒木 勤: 炎症と痛みの臨床(20)月経困難症 診断・治療. 日医師会誌 2000; 124(4): 58-60.
- 5) 明楽重夫, 荒木 勤: 内視鏡外科の基礎と臨床: 婦人科疾患. 日外会誌 2000; 101: 561-567.
- 6) 澤倫太郎, 武井麟太郎, 荒木 勤: 重症妊娠悪阻とウェルニッケ・コルサコフ症候群. 栄養・評価と治療 2000; 17: 29-34.
- 7) 荒木 勤: 妊娠中毒症の成因に関する考え方: 昔と今: The concepts for the pathogenesis of preeclampsia: The past and the present. 日本妊娠中毒症学会雑誌 2000; 8: 47-50.
- 8) 朝倉啓文, 渡辺昇一, 荏原弘光, 林 瑞成, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 荒木 勤: 重症妊娠悪阻の再検討. 産婦の実際 2000; 49: 1435-1440.
- 9) 竹下俊行: IVF-ET再考. 東京産婦人科医会誌 2000; 33: 40-42.
- 10) 澤倫太郎: 授乳期の母体に対応した栄養指導. 食生活 2001; 95(3): 14-19.

(3) 追加分総説:

- 1) 桑原慶充, 進 純郎: 分娩時出血と母体死亡. 周産期医学 1999; 29: 1334-1337.

著 書

- 1) 澤倫太郎: [分担] 胎児および新生児の生理. ガイトン臨床生理学, 2000; pp1057-1066, ガイトン臨床生理学.
- 2) 里見操緒, 米山芳雄, 荒木 勤: [共著] 第4章 過多月経と過少月経の診断と治療. 知っておきたい月経異常の診断と治療, 2000; pp57-63, 医書出版部.
- 3) 明楽重夫: [自著] 妊娠中毒症に気をつけて. 性と健康シリーズ, 第30巻(編集: 佐藤滋子), 2000; 自由企画.

- 4) 米山芳雄, 荒木 勤: [分担] 妊産婦の消化・吸収, 消化・吸収・基礎と臨床(武藤泰敏編), 2000; pp1057-1067, 第一出版.
- 5) 秋山敏夫, 朝倉啓文, 亀井 清, 上妻志郎, 白州和広, 谷 昭博, 塚崎克己, 栃木明人, 野崎雅裕, 平川俊夫, 福島和夫, 宮崎亮一郎, 力武義之: [分担] 産婦人科医のための社会保険ABC. 日本産科婦人科学会編, 2000; メジカルビュー社.
- 6) 越野立夫, 伊藤博之, 落合和徳, 浅井光興, 朝倉啓文, 中井章人, 落合和彦, 佐々木純一, 北川道弘: [分担] 妊娠中の運動ハンドブック. 妊娠中の運動ハンドブック(目崎登), 2000; 大修館社.
- 7) 明楽重夫, 荒木 勤: [分担] 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング. 産婦人科領域(監修: 小川龍, 編集: 坂本篤裕), 2000; pp77-84, 真興交易医書出版.
- 8) 進 純郎, 荒木 勤: [分担] 双胎 児死亡の取り扱い 産科手術と処置. 新女性医学大系 33(中野仁雄編), 2000; pp370-378, 中山書房.
- 9) 米山芳雄, 荒木 勤: [分担] 胎児の呼吸機能. 周産期生理学(寺尾俊彦編), 2000; pp85-92, メディカ出版.
- 10) 竹下俊行, 荒木 勤: [分担] 妊娠に伴う生理的变化 2. 呼吸器系. 周産期の生理学(寺尾俊彦編), 2000; pp16-20, メディカ出版.
- 11) 朝倉啓文, 荒木 勤: [分担] 妊娠に伴う生理的变化 9. 体温調節. 周産期の生理学(寺尾俊彦), 2000; pp67-74, メジカ出版.
- 12) 荒木 勤, 米山剛一: [分担] 広汎性子宮全摘出術. 産婦人科手術のコツ(日本産婦人科手術学会編), 2001; pp140-141, MEDICAL VIEW社.

学会発表

(1) 追加分一般講演:

- 1) 桑原慶充, 竹内正人, 進 純郎: 超音波にて陥入胎盤が疑われ, 古典的縦切開を施行した低置胎盤の1例. 第98回関東連合地方部会学術集会, 1999. 10.
- 2) 桑原慶充, 島 義雄, 竹内正人, 林 隆, 篠原継男, 栗田口康一, 進 純郎: 徐脈性胎児不整脈を呈した純型肺動脈閉鎖の1例. 第313回日本産科婦人科学会東京地方部会, 2000. 2.

(2) 会長講演:

- 1) 荒木 勤: 妊娠中毒症に成因に関する考え方: 昔と今. 第21回日本妊娠中毒症学会, 2000. 9.

(3) 特別講演:

- 1) 朝倉啓文: 神経学的予後不良児発生の周産期因子: 日母正常産仮死児調査報告より. 第127回日産婦学会茨城地方部会例会, 2000. 6.
- 2) 朝倉啓文: 児の予後と周産期因子: 日母正常産仮死児調査より. 日本母性保護産婦人科医会関東ブロック協議会, 2000. 10.
- 3) 荒木 勤: 生殖補助医療に関する倫理: 産婦人科の立場から. 平成13年度金沢大学産科婦人科学教室同門会, 2001. 3.

(4) 招待講演:

- 1) Asakura H: Alterations of thermoregulation in hyperemesis gravidarum. 6th Symposium in Japanese-German Society of Gynecology and Obstetrics (Graz), 2000. 6.
- 2) Sawa R: Plasma adenosine levels increase in normal pregnant women. 6th Symposium in Japanese-German Society of Gynecology and Obstetrics (Graz)(Germany), 2000. 6.

(5) シンポジウム:

- 1) Araki T: Ethical Aspects of Auxiliary reproductive Medicine. International Forum on Medical Ethics 2000 (Tokyo), 2000. 10.

- 2) Sumiyoshi Y¹⁾, Hirahara F²⁾, Asakura H, Ohmura H³⁾, Sakamoto S⁴⁾ (¹⁾横浜市立大学医学部産婦人科, ²⁾神奈川県労働衛生福祉協会婦人科, ³⁾東京都立母子保健院, ⁴⁾母子愛育会総合母子保健センター): Studies of the frequency of congenital malformation in Japan and China (Sichuan). 第6回国際先天異常学会連盟学術集会, 2000 . 10 .
 - 3) 鈴木俊治: 吸引分娩の立場から . 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000 . 6 .
 - 4) 竹下俊行: 妊娠中毒症における細胞間接着分子の関与 . 第21回日本妊娠中毒症学会, 2000 . 9 .
 - 5) 朝倉啓文: 帝王切開後血漿 endothelin-1 の推移: 産褥HELLP発症との関連性 . 第21回日本妊娠中毒症学会, 2000 . 9 .
 - 6) 新井麻紀, 鈴木俊治, 西田直子, 林 瑞成, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: Acute Intrapartum Fetoplacental Transfusion in Monochorionic Twin Pregnancy . 第16回分娩監視研究会, 2000 . 11 .
- (6) 一般講演:
- 1) Suzuki S, Yoneyama Y, Sawa R, Takeuchi T, Otsubo Y, Hayashi Z, Asakura H, Araki T : Relation between serum uric acid and plasma adenosine levels in women complicated by preeclampsia . 17th European congress of perinatal medicine (Portugal), 2000 . 6 .
 - 2) Kiyokawa Y, Yoneyama Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Hayashi Z, Ishikawa A, Tateoka S, Araki T : Maternal plasma adenosine levels and platelet activation in preeclampsia . The 12th World Congress of International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy. (Paris, France), 2000 . 6 .
 - 3) Yoneyama Y, Kiyokawa Y, Suzuki S, Sawa R, Otsubo Y, Hayashi Z, Ishikawa A, Tateoka S, Araki T : Elevation of plasma adenosine inhibits aggregation in preeclampsia . The 12th World Congress of International Society for the Study of Hypertension in Pregnancy. (Paris, France), 2000 . 8 .
 - 4) Takeshita T, Ishikawa G, Ishikawa A, Satomi M, Akira S, Kitagawa M, Matsumoto J, Araki T : Elevated NK cell activity is not associated with positive test of anticardiolipin antibodies in women with recurrent spontaneous abortions . 16th world Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington DC, USA), 2000 . 9 .
 - 5) Sasaki S, Isozaki T, Nakai A, Konishi T, Araki T : The standardized clinical management of gestational trophoblastic diseases in Japan . Xth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases, 2000 . 9 .
 - 6) Akira S, Yamanaka K, Takeshita T, Araki T : New intra-abdominal fan retractor system for gasless laparoscopic surgery . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C. USA), 2000 . 9 .
 - 7) Hayashi Z, Araki T : New Prenatal Diagnosis Method of Steroid 21 Hydroxylase Deficiency and Mutations in CYP21B Gene of Japanese Patients . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
 - 8) Kamoi S, Araki T : Pharmacokinetic Study of the Surgically Occluded Arterial Infusion Method . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
 - 9) Miyake H, Nakai A, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T : Pulsed doppler findings of maternal renal circulation in pregnancy induced hypertension . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
 - 10) Nakai A, Araki T : The Effect of Nicotine on In Vitro Contractility of term Pregnant Human Myometrium . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
 - 11) Nakai A, Oya A, Kobe H, Asakura H, Miyake H, Yokota A, Koshino T, Araki T : Changes in maternal lipid peroxidation levels and antioxidant enzymatic activities before and after delivery . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .

- 12) Takeshita T , Araki T : Elevated NK Cell Activity is Not Associated with Positive Test of Anticardiolipin Antibodies in Women with Recommended Spontaneous Abortion . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
- 13) Taniuchi Y , Nakai A , Asakura H , Yokota A , Koshino T , Araki T : Developmental changes in oxidative metabolism in immature rat brain mitochondria . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C.), 2000 . 9 .
- 14) Yoneyama K , Takeshita T , Okino K , Kobayashi H , Arai M , Doi D , Ohta Y , Araki T : Clinical evaluation of squamous cell carcinoma arising from mature cystic teratoma of the ovary . XVI FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Washington D. C. USA), 2000 . 9 .
- 15) Shimizu K¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Akasu H¹⁾, Takatsu K¹⁾, Ishii R¹⁾, Yamada K¹⁾, Tajiri T²⁾, Akira S , Onda M²⁾, Araki T , Tanaka S¹⁾(¹⁾ 外科第2, ²⁾ 外科第1): Totally gasless video-assisted endocrine neck surgery with a very minimal neck wound : An experience of 120 cases . 14th Asia-Pacific Endocrine Conference (Nepal), 2001 . 2 .
- 16) Shimizu K¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Akasu H , Takatsu K , Ishii R , Yamamada K¹⁾, Tajiri T²⁾, Akira S , Onda M²⁾, Araki T , Tanaka S¹⁾(¹⁾ 外科第2, ²⁾ 外科第1): Totally gasless Video-Assisted Endocrine Neck Surgery with a very Minimal Neck Wound-An experience of 120 Cases . 20th Akk Nepal Medical Conference of the Nepal Medical Association (Nepal), 2001 . 2 .
- 17) Shimizu K¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Akasu H¹⁾, Tajiri T²⁾, Akira S , Arima Y²⁾, Onda M²⁾, Tanaka S¹⁾(¹⁾ 外科第2, ²⁾ 外科第1): Endoscopic thyroid and parathyroid surgery using totally gasless anterior neck skin lifting method with a benefit of cosmesis : An experience of 100 cases . 5th Asia-Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Manila, Philippines), 2001 . 2 .
- 18) Akira S , Yamanaka A , Ishihara T , Takeshita T , Araki T : Gasless laparoscopic surgery using new intra-abdominal fan retractor system in the OB/GYN field . 5th Asia-Pacific Congress of Endoscopic Surgery (Manila, Philippines), 2001 . 2 .
- 19) Yoneyama Y , Suzuki S , Sawa R , Otsubo Y , Hayashi Z , Ishikawa A , Tateoka S , Kiyokawa Y , Araki T : Plasma adenosine levels and the expression of P-selectin on platelets in normal pregnancy and preeclampsia . The 48 th Annual Scientific Meeting of the Society for Gynecologic Investigation. (Toronto, USA), 2001 . 3 .
- 20) 鴨井青龍, 広末卓也, 阿部俊之, 里見操緒, 武内 務, 品川寿弥, 若月雅美, 河村 堯: 子宮頸部扁平上皮癌における術前動症化学療法 (BOAI) 生検組織標本を用いた効果予知の試み . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 21) 関谷隆夫, 小西英喜, 小田部徹, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 3次元超音波を用いた子宮腔内病変の多角的診断 . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 22) 三宅秀彦, 中井章人, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 超音波カラードップラによる妊娠中毒症の腎血管性病変の評価 . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 23) 小田部徹, 関谷隆夫, 小西英喜, 斉藤糧三, 貝原賢二, 深見武彦, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 新しい経膈的卵巣ドレナージ用バルーン・キットの開発と使用経験 . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 24) 松島 隆, 関谷隆夫, 三並伸二, 深見武彦, 吉松和彦, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: Cinememory を利用した3次元超音波断層法による妊娠初期胎児の観察 . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 25) 深見武彦, 関谷隆夫, 吉松和彦, 小田部徹, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中期の子宮頸部超音波波像からみた早産の前方視的検討 . 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000 . 4 .
- 26) 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 著音波画像からみた前置胎盤

の術中出血量．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．

- 27) 石川温子，明楽重夫，瀬戸真理子，石原珠紀，林 隆，竹下俊行，荒木 勤，今城純子¹⁾(¹⁾解剖学第1): ラット胎仔脳内CRF, CRF レセプターI型 mRNA の発現およびLPS負荷に対する応答様式．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 28) 石川 源，竹下俊行，里見操緒，石川温子，新井麻紀，明楽重夫，荒木 勤：抗リン脂質抗体陽性反復流産症例の末梢血NK細胞活性．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 29) 太田雄治郎，館岡佐知，八木修立郎，土居大祐，米山剛一，鴨井青龍，荒木 勤：婦人科腫瘍におけるTP, DPD活性の測定と応用．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 30) 谷内良成，中井章人，朝倉啓文，横田明重，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：ラット胎仔，新生仔脳のミトコンドリア機能とエネルギー代謝の発現機構．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 31) 竹下俊行，里見操緒，市川雅男，金 栄淳，清川寧子，明楽重夫，荒木 勤：抗ICAM-1/LFA-1抗体の流産抑制効果：Th1/Th2バランスの改善による機序の解析．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 32) 朝倉啓文，臼井文男，鈴木俊治，林 瑞成，館岡佐知，西田直子，澤倫太郎，米山芳雄，中井章人，越野立夫，荒木 勤：妊娠中毒症の帝王切開後 endothelin-1 と産褥 HELLP 症候群．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 33) 米山剛一，太田雄治郎，土居大祐，峯 克也，瀬戸真理子，伊藤尚子，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：子宮体部原発癌肉腫の予後因子に関する病理組織学的検討．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 34) 米山芳雄，澤倫太郎，鈴木俊治，大坪保雄，林 端成，伊藤尚子，新井麻紀，荒木 勤：正常妊娠における血小板活性化がアデノシン産生機構におよぼす影響およびその生理学的意義．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 35) 林 康子，可世木久幸，斉藤糧三，貝原賢二，三並伸二，斉藤 恵，小田部徹，松島 隆，関谷隆夫，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：三次元子宮卵管造影（3D-HSG）の子宮奇形診断に対する有用性．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 36) 鈴木俊治，米山芳雄，澤倫太郎，村田知昭，川瀬理衣子，清川寧子，Power GG，荒木 勤：アデノシン作動薬のヒツジ胎仔低酸素障害における脳保護効果の検討．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 37) 澤倫太郎，武井麟太郎，小林 肇，桑原慶充，米山芳雄，鈴木俊治，大坪保雄，荒木 勤：アデノシンによる胎仔心筋の虚血耐性獲得機構の解明．第52回日本産科婦人科学会総会，2000．4．
- 38) 瀬戸真理子，林 瑞成，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：低髄圧症候群合併妊娠の経験．日本医科大学医学会第101回例会，2000．5．
- 39) 館岡佐知，鈴木俊治，市川雅男，荏原弘光，林 瑞成，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠14週で視床病変を認めたウェルツケ脳症．第314回日本産科婦人科東京地方部会例会，2000．5．
- 40) 加藤久盛，八田充子，宮城悦子，小野瀬亮，松下径広，土居大祐，仲沢経夫，中山裕樹：閉経後の子宮頸部異形成の管理および長期追跡例の検討．第41回日本臨床細胞学会総会，2000．5．
- 41) 中山裕樹，八田充子，宮城悦子，小野瀬亮，加藤久盛，土居大祐，田村 猛，仲沢経夫：外注標本の低染色性は何に起因するのか：採取，塗沫，固定法による実験的検討．第41回日本臨床細胞学会総会，2000．5．
- 42) 八田充子，加藤久盛，宮城悦子，小野瀬亮，松下径広，土居大祐，仲沢経夫，岡島弘幸，中山裕樹：より細かい内膜吸引細胞診採取器具多孔デイカスの開発と有用性の検討．第41回日本臨床細胞学会総会，2000．5．
- 43) 米山剛一，中山裕樹，渡辺美千明，石川みずえ，高橋英彦，河合尚基，横田明重，沖野恵子，土居大祐，太田雄治郎，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤：卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーを中心とした診断法．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．6．
- 44) 大下知子，朝倉啓文，鈴木俊治，林 瑞成，澤倫太郎，米山芳雄，河村 堯，荒木 勤：妊婦血液凝固性のスクリーニングとしての超音波による胎盤所見の意義．第10回日本産科婦人科・新生児血液学会総会，2000．6．

- 45) 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 清川寧子, 林 瑞成, 石川温子, 館岡佐知, 荒木 勤: 妊娠中毒症による血漿アデノシン上昇が血小板活性化に及ぼす影響. 第10回日本産婦人科・新生児血液学会総会, 2000. 6.
- 46) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄: 癌性胸膜炎による呼吸困難から診断された正常大卵巣癌の1例. 第313回 日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2000. 6.
- 47) 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄: 卵巣癌との鑑別が困難であった有茎子宮漿膜下平滑筋肉腫の1例. 第314回日本産科婦人科東京地方部会例会, 2000. 6.
- 48) 八木修立郎, 加藤真紀子, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄: 尿管膿瘍の1例. 第315回日本産科婦人科東京地方部会例会, 2000. 6.
- 49) 八木修立郎, 品川志野, 河合尚基, 岡野匡雄: 子宮留膿腫を合併した子宮体癌の1例. 第316回日本産科婦人科東京地方部会例会, 2000. 6.
- 50) 渡辺美千明, 奥平さやか, 柴田浩之: Coming out of the dark...: 腔鏡手術で困ったこと. 第4回栃木県内視鏡外科研究会, 2000. 6.
- 51) 阿部俊之, 鴨井青龍, 弘末卓也, 大下知子, 武内 務, 松下径広, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤: 会陰部異所性子宮内膜症の1例. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 52) 関谷伊久乃, 横田明重, 中井章人, 三宅秀彦, 三田俊二, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠例と非妊娠例における排卵期の子宮および卵巣動脈血管インピーダンスの変化. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 53) 菊谷真理子, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮原発asenofibromaを強く疑った1例. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 54) 弘末卓也, 鴨井青龍, 阿部俊之, 大下知子, 武内 務, 松下径広, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤: 妊娠に合併した絞扼性イレウスの1例. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 55) 松島 隆, 関谷隆夫, 吉松和彦, 深見武彦, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 婦人科疾患における超音波造影剤レボピスト[®]の有用性. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 56) 清川寧子, 林 瑞成, 石川温子, 瀬戸真理子, 石野博嗣, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 出生前診断による胎児回腸症の管理. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 57) 峯 克也, 太田雄治郎, 伊藤尚子, 荻原弘光, 石川 源, 土居大祐, 米山剛一, 荒木 勤: 子宮頸部病変に対するヒトパピローマウイルスの関与. 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000. 6.
- 58) 米山剛一, 新井麻紀, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 竹下俊行, 杉崎祐一, 荒木 勤: 外陰発生悪性繊維性組織球腫. 日本婦人科腫瘍学会, 2000. 6.
- 59) 里見操緒, 石川温子, 林 瑞成, 明楽重夫, 竹下俊行, 河村 堯, 荒木 勤: 重症化したOHSSに対する腹水濾過濃縮再静注法の試み. 第18回日本受精着床学会, 2000. 7.
- 60) 吉松和彦, 斉藤 恵, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 切迫早産管理中に発症した常位胎盤早期剥離の2症例. 第23回日本産科婦人科ME学会, 2000. 7.
- 61) 鴨井青龍, 里見操緒, 武内 務, 松下径広, 太田雄治郎, 米山剛一, 河村 堯, 荒木 勤: Epithelioid trophoblastic tumorの1例. 第29回日本婦人科腫瘍学会, 2000. 7.
- 62) 杉浦 賢, 八田充子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 宮城悦子, 仲沢経夫, 松下径広, 土居大祐: 当科におけるレーザー円錐切除術の検討. 第29回日本婦人科腫瘍学会, 2000. 7.
- 63) 米山剛一, 新井麻紀, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 竹下俊行, 荒木 勤: 外陰発生悪性線維性組織球腫. 第29回日本婦人科腫瘍学会, 2000. 7.
- 64) 小林 肇, 澤倫太郎, 武井麟太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 荒木 勤: アデノシンによる胎仔心筋虚血耐性機構の獲得. 第36回日本新生児学会, 2000. 7.
- 65) 谷内良成, 中井章人, 朝倉啓文, 大屋敦子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 胎生期における遅発性神経細胞

- 死の発達過程に関する検討．第36回日本新生児学会，2000．7．
- 66) 三並伸二，丸山智美，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤，鈴江緑衣郎：無月経女性におけるレプチン濃度．第24回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，2000．8．
- 67) 渡辺昇一，大坪保雄，澤倫太郎，米山芳雄，荒木 勤：妊娠初期の拘扼性イレウスの1例：妊娠初期の輸液療法に関する文献的検討．第24回日本産科婦人科栄養・代謝研究会，2000．8．
- 68) 松島 隆，可世木久幸，関谷隆夫，石原楷輔，荒木 勤：子宮鏡検査・手術前スクリーニングとしての3D-USG．第40回日本産科婦人科内視鏡学会，2000．8．
- 69) 竹下俊行，新井麻紀，小林 肇，五十嵐健治，石川 源，土居大祐，米山剛一，明楽重夫，荒木 勤：子宮内病変に対するバイポーラ電極（Versapoint）を用いた子宮鏡下手術の有用性．第40回日本産科婦人科内視鏡学会，2000．8．
- 70) 明楽重夫，荒木 勤：腹腔鏡手術のカテゴリー分類に基づく研修プログラムと到達目標について．第40回日本産科婦人科内視鏡学会，2000．8．
- 71) 澤倫太郎：周産期のリスクマネージメント．第17回東京母性衛生学会学術集会，2000．9．
- 72) 鈴木俊治，峯 克也，岡田一郎，浜村幸恵，林 瑞成，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤：妊娠35週で肝機能障害を認めた大動脈炎症候群合併妊娠．第21回日本妊娠中毒症学会，2000．9．
- 73) 鈴木俊治，米山芳雄，澤倫太郎，荒木 勤：妊娠中毒症における母体血漿アデノシンと血小板活性化との関係．第21回日本妊娠中毒症学会，2000．9．
- 74) 平泉良枝，武内 務，米山剛一，川瀬里衣子，村田知昭，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：転移性卵巣腫瘍で発見された若年性子宮体癌．第315回日本産科婦人科東京地方部会例会，2000．9．
- 75) 小西英喜，太田雄治郎，土居大祐，関谷隆夫，塚田克也，松島 隆，吉松和彦，米山剛一，石原楷輔，荒木 勤，大坪保雄，河合尚基，中山裕樹：再発卵巣癌におけるPaclitaxel（TXL）とCarboplatin（CBDCA）Bi-weekly投与の至適投与量の検討．第38回 日本癌治療学会総会，2000．9．
- 76) 館岡佐知，武井麟太郎，西 弥生，木島一洋，米山芳雄，鈴木俊治，澤倫太郎，朝倉啓文，荒木 勤：産褥期多発性筋炎．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 77) 三宅秀彦，中井章人，関口敦子，越野立夫，朝倉啓文：超音波パルスドップラによる妊娠高血圧妊婦の腎血流評価．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 78) 西田直子，石川 源，林 瑞成，平泉良枝，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文，荒木 勤，山田浩子，紅葉良，会田邦晴，高崎秀明，古川清憲，田中宣威，恩田昌彦：妊娠初期に腸閉塞を発症した症例の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 79) 中井章人，谷内良成，越野立夫，柴崎敬乃，横山和子，朝倉啓文：母体体温変化が子宮内虚血再灌流による新生仔脳障害に及ぼす影響について．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 80) 浜村幸恵，鈴木俊治，峯 克也，岡田一郎，林 瑞成，澤倫太郎，米山芳雄，竹下俊行，朝倉啓文：妊娠35週にて急性増悪した大動脈炎症候群合併妊娠．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 81) 平泉良枝，武内 務，米山剛一，川瀬里衣子，村田知昭，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤：若年性子宮体癌：症例報告および過去10年間の自験例の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 82) 峯 伸也¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，永井尚生¹⁾，江見 充¹⁾，土居大祐，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤（¹⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門）：子宮平滑筋腫に新たに見出されたHMGIC遺伝子との遺伝子融合．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 83) 里見操緒，武内 務，平泉良枝，米山剛一，明楽重夫，竹下俊行，荒木 勤，田尻 孝¹⁾，山川達郎²⁾（¹⁾外科第1，²⁾帝京大学医学部外科）：腹腔鏡補助下でのS状結腸を利用した造脛術の経験．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 84) 吉村和彦，斉藤 恵，林 康子，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔，荒木 勤：切迫早産入院治療中に発症し

- た常位胎盤早期剥離の2症例．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 85) 五十嵐健治，明楽重夫，里見操緒，五十嵐俊夫，石川 源，竹下俊行，荒木 勤，若麻績佳樹¹⁾(¹⁾ 都立母子保健院): 下腿浮腫をきたした後腹膜子宮内膜症性嚢胞．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 86) 国重隆夫，横田明重，関谷伊久乃，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤: 分娩児に急激な血小板減少をきたした特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) 合併妊娠の経験: 最近の7症例を検討して．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 87) 佐藤浩一，松島隆，塚田克也，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤: 妊娠合併 clear cell carcinoma の1例．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 88) 三宅秀彦，国重隆生，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤，河田 興，西田 朗，平井みさ子，仁科孝子: 脳穿孔による胎便性腹膜炎を併発した胎児総排泄腔遺残の1例．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 89) 三田俊二，神戸 仁，永野玲子，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，片山博徳¹⁾，前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 病理部): 外陰部より発生した small cell carcinoma (neuroendocrine Jumaor) の1例．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 90) 松下径広，伊藤尚子，阿部俊之，弘末卓也，大下知子，五十嵐俊夫，若月雅美，鴨井青龍，河村 堯，荒木 勤: Wernicke脳症はなぜなくなるのか: 妊娠悪阻の点滴治療中に発生した自験例あを中心として．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 91) 浜村幸恵，鈴木俊治，西田直子，石川 源，大坪保雄，林 瑞成，澤倫太郎，米山芳雄，朝倉啓文，荒木 勤: 双胎妊娠における母体血清尿酸値と血漿アデノシン値の関係．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 92) 平泉良枝，武内 務，米山剛一，川瀬里衣子，村田知昭，土居大祐，太田雄治郎，荒木 勤: 転移性卵巣腫瘍で発見された若年性子宮体癌および過去10年間の自験例の検討．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 93) 米山剛一，中山裕樹¹⁾，渡辺美千明²⁾，石川みずえ³⁾，高橋英彦³⁾，河合尚喜⁴⁾，横田明重，沖野恵子，土居大祐，太田雄治郎，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤 (¹⁾ 神奈川がんセンター婦人科，²⁾ 下都賀総合病院産婦人科，³⁾ 南部地域病院婦人科，⁴⁾ 東部地域病院婦人科): 卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーを中心とした診断法．第100回日本産科婦人科学会関東地方部会，2000．10．
- 94) 鴨井青龍，土居大祐，松下径広，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，河村 堯，荒木 勤: 子宮頸癌に対する術前化学療法の新検組織標本を用いた効果予知の試み．第38回日本癌治療学会総会，2000．10．
- 95) 太田雄治郎，武内 務，土居大祐，米山剛一，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤: 婦人科PyNPase活性，DPD活性比の意義．第38回日本癌治療学会総会，2000．10．
- 96) 土居大祐，鴨井青龍，武内 務，太田雄治郎，米山剛一，小西英喜，荒木 勤: Ib-II期の子宮頸部腺癌におけるNAC (BOAI) の有効性の検討．第38回日本癌治療学会総会，2000．10．
- 97) 米山剛一，武内 務，土居大祐，太田雄治郎，小西英喜，鴨井青龍，荒木 勤: 婦人科腫瘍術後の血栓症発症因子に関する検討．第38回日本癌治療学会総会，2000．10．
- 98) 平原史樹¹⁾，住吉好雄²⁾，山中美智子³⁾，鈴木恵子⁴⁾，松本博子，朝倉啓文，田中政信⁵⁾，大村 浩⁶⁾，清川尚⁷⁾，前原大作⁸⁾，坂元正一⁹⁾ (¹⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科，²⁾ 神奈川県労働衛生福祉協会婦人科，³⁾ 県立こども医療センター産婦人科，⁴⁾ 鈴木レディースクリニック，⁵⁾ 東邦大学医学部附属大森病院第一産婦人科，⁶⁾ 東京都立母子保健院，⁷⁾ 船橋市立医療センター，⁸⁾ 北里大学医学部産婦人科，⁹⁾ 母子愛育会総合母子保健センター): 日本母性保護産婦人科医会先天異常モニタリング調査から: 本邦における先天性心疾患異常発生の現況．第40回日本先天異常学会，2000．10．
- 99) 川瀬里衣子，渡辺美千明，柴田浩之: 緊急手術を要した子宮体部からの腹腔内出血の2症例．第52回日産婦科

木地方部会, 2000 . 10 .

- 100) モハマッドガジザデ¹⁾, 川並汪一¹⁾, 荒木 勤, 清水 一¹⁾, 小西英喜, 永島幹夫 (¹⁾老人病研究所病理部門): Detection of differentially expressed genes in cisplatin-resistant ovaria carcinoma cells by CDNA microarray . 第59回日本癌学会, 2000 . 10 .
- 101) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 小西英喜, 荒木 勤, 永井尚生¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾日本医科大学分子生物学部門): 子宮平滑筋腫の発生へのHMGI-C遺伝子融合の関与 . 日本人類遺伝学会第54回大会, 2000 . 10 .
- 102) 里見操緒, 明楽重夫, 竹下俊行, 武内 務, 荒木 勤, 田尻 孝¹⁾, 山川達郎²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾帝京大学外科): 腹腔鏡補助下にS状結腸を用いた造脛術の1例 . 第13回日本内視鏡外科学会, 2000 . 11 .
- 103) 松下径広, 伊藤尚子, 阿部俊之, 弘末卓也, 大下知子, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 妊娠15週で発症したWernicke脳症の1例 . 第22回日本臨床栄養学会, 2000 . 11 .
- 104) 松島 隆, 可世木久幸, 佐藤浩一, 斉藤糧三, 石原楷輔, 荒木 勤: アイリスアクセスポート(ラップディスクミニ)による婦人科腹腔鏡手術 . 第23回日本産科婦人科手術学会, 2000 . 11 .
- 105) 明楽重夫, 浜村幸恵, 平泉良枝, 武内 務, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤, 山川達郎¹⁾(¹⁾帝京大学医学部外科): S状結腸を利用した腹腔鏡補助下造脛術 . 第23回日本産科婦人科手術学会, 2000 . 11 .
- 106) 杉浦 賢, 八田充子, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 松下径広, 土居大祐, 宮城悦子, 仲沢経夫: 子宮頸部細胞診に出現した転移性および腹腔内悪性腫瘍40例の検討 . 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000 . 11 .
- 107) 中山裕樹, 八田充子, 杉浦 賢, 小野瀬亮, 加藤久盛, 松下径広, 土居大祐, 宮城悦子, 仲沢経夫: 婦人科細胞診精度向上のための施策を再検討する: 採取から染色までの現状と問題点 . 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000 . 11 .
- 108) 八田充子, 杉浦 賢, 小野瀬亮, 加藤久盛, 中山裕樹, 松下径広, 土居大祐, 宮城悦子, 仲沢経夫: 子宮体部明細胞腺癌の細胞像の検討 . 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000 . 11 .
- 109) 里見操緒, 竹下俊行, 石川 源, 瀬戸真理子, 五十嵐健治, 石原珠紀, 石川温子, 明楽重夫, 荒木 勤: 反復流産症例における末梢血NK細胞活性と流産様式の関連性について . 第45回日本不妊学会, 2000 . 11 .
- 110) 明楽重夫, 土居大祐, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤: 子宮癌に対するリンパ節郭清術への腹腔鏡の応用 . 第99回日本医科大学医学会例会, 2000 . 11 .
- 111) 館岡佐知, 峯 克也, 八木修立郎, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行, 朝倉啓文, 荒木 勤: 悪性手術中に発症したたこつぼ型心筋症 . 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000 . 11 .
- 112) 石野博嗣, 林 瑞成, 石川温子, 清川寧子, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 胎児期に発見された後腹膜未分化奇形種 . 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000 . 11 .
- 113) 清水一雄¹⁾, 北川 亘¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 吊り上げ法(VANS)による内視鏡下甲状腺, 上皮小体腫瘍切除術100例の検討 . 第13回日本内視鏡外科学会, 2000 . 12 .
- 114) 市川雅男, 竹下俊行, 石川 源, 里見操緒, 五十嵐建治, 明楽重夫, 高橋秀実¹⁾, 荒木 勤 (¹⁾微生物学・免疫学): NK細胞活性が高値を示す反復流産症例の臨床的特徴についての検討 . 第15回日本生殖免疫学会, 2000 . 12 .
- 115) 桑島豊彦, 鈴木俊治, 林 端成, 五十嵐健治, 新井麻紀, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 荒木 勤: 下血を主訴とした重症貧血合併妊娠 . 第316回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2000 . 12 .
- 116) 山田 隆¹⁾, 渡辺昇一¹⁾, 大坪保雄¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤 (¹⁾大宮中央総合病院産婦人科): 当院におけるday-stay chemotherapyの試み . 第58回日産婦埼玉地方部会, 2000 . 12 .
- 117) 五十嵐建治, 明楽重夫, 新井麻紀, 五十嵐俊夫, 竹下俊行, 荒木 勤, 田尻 孝¹⁾, 山川達郎²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾帝京大学外科): 後腹膜子宮内膜症性嚢胞の2例 . 第22回エンドメトリオーシス研究会, 2001 . 1 .
- 118) 渡辺美千明, 柴田浩之, 川瀬里衣子: 婦人科内視鏡下手術における超音波凝固切開装置(ハーモニックスカルペル)の使用感とPitfall . 第4回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001 . 1 .

- 119) 里見操緒, 明楽重夫, 武内 務, 米山剛一, 竹下俊行, 荒木 勤: S状結腸を用いた腹腔鏡補助下造脛術の経験. 第4回日本医大内視鏡手術懇話会, 2001. 1.
- 120) 渡辺昇一¹⁾, 大坪保雄¹⁾, 山田 隆¹⁾, 小西英喜, 荒木 勤⁽¹⁾大宮中央総合病院産婦人科): タキソール使用による末梢神経障害の検討. 第11回埼玉県産婦人科医会婦人科癌研究会, 2001. 2.
- 121) 林 瑞成, 明楽重夫, 荒木 勤: 21-水酸化酵素欠損症における母体血中胎児細胞を用いたDNA診断の開発. 第4回母体血による胎児DNA診断研究会, 2001. 2.
- 122) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 明楽重夫, 荒木 勤, 永井尚生¹⁾, 江見充¹⁾(¹⁾老人病研究所分子生物学部門): 子宮平滑筋腫におけるHMGI-C遺伝子との再構築, 融合異常. 第5回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 2001. 2.
- 123) 林 瑞成, 明楽重夫, 荒木 勤: アリルスルファターゼAゲノム遺伝子の多型. 第5回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 2001. 2.
- 124) 三浦 敦, 土居大祐, 館岡佐知, 貝原賢二, 太田雄治郎, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤: 閉経後に増大傾向を示した卵巣原発平滑筋腫. 第317回日産婦東京地方部会, 2001. 3.

[第二病院産婦人科]

研究概要

- 1 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における, 胎児超音波診断に加え,
 1. 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究
 2. 超音波画像からみた前置胎盤の出血量の予測
 3. 子宮頸管無力症における超音波画像の変化
 4. 妊娠初期胎嚢像の三次元超音波断層像等の研究を行っている. 婦人科領域では, 日常的に腫瘍内血管血流を測定しており, 卵巣腫瘍では, 超音波画像による組織型診断の試みも行われている.
- 2 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や, 内視鏡手術による卵管通水と卵管内圧の研究等が行われている.
- 3 婦人科腫瘍学 抗ガン剤タキソールの臨床研究施設であり, 副作用等の解析, 研究発表を行っている. 子宮頸癌におけるHPV typingによる追跡調査を継続している.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 石原楷輔: 前置胎盤における出血の予測超音波画像から見た予測. 産婦の実際 2000; 49(4): 533-537.
- 2) 三並伸二, 丸山智美¹⁾, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 鈴江緑衣郎¹⁾(¹⁾昭和女子大学生生活機構研究科): 月経周期内におけるレプチン変動について. 日本産科婦人科栄養・代謝研究会誌 2000; 6(1): 96-97.
- 3) 石原楷輔: 婦人科におけるコントラスエコー. 日超音波医会誌 2000; 7(4): 6-7.
- 4) 小西英喜: 更年期の特徴と更年期障害の治療. 栄養日本 2001; 44(1): 4-6.
- 5) 三並伸二, 小西英喜, 吉松和彦, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 大島正行 島田洋一(1) 付属病院産婦人科: タキソールによる末梢神経障害の定量的評価の試み. 日産婦神奈川地方部会誌 2001; 37(2): 20-24.

(2) 研究報告書:

- 1) 石原楷輔: 超音波診断: 三次元表示(経膈法). 産と婦 2000; (7): pp839-846.

(3) 総説：

- 1) 石原楷輔：婦人科における経膈超音波診断の特異性．産婦治療 2000；80(4): 363-368．
- 2) 小西英喜：研修コーナー，閉経と自律神経，精神神経系の変化および管理．日産婦会誌 2000；52(10): 349-354．

著 書

- 1) 石原楷輔：〔分担〕産婦人科・子宮．新超音波医学（日本超音波医学会編），2000；pp4-11，医学書院．
- 2) 小西英喜，石原楷輔：〔分担〕正常妊娠，胎児の成長と発育，超音波による検査．看護のための最新医学講座，2001；pp38-49，中山書店．

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 石原楷輔：最新の超音波診断．山形産婦人科医会，2000．6．
- 2) 石原楷輔：最新の超音波診断．浜松産婦人科医会，2000．7．
- 3) 石原楷輔：最新の超音波診断．大阪産婦人科医会MEセミナー，2000．7．
- 4) 石原楷輔：経膈超音波による最新の超音波診断．福山市産婦人科医会，2000．11．
- 5) 石原楷輔：経膈超音波による最新の超音波診断．青森市産婦人科医会，2000．12．
- 6) 石原楷輔：妊娠初期からの超音波診断．東京産婦人科医会MEセミナー，2001．1．
- 7) 石原楷輔：経膈超音波による最新の超音波診断．松本市産婦人科医会，2001．1．

(2) シンポジウム：

- 1) 石原楷輔：産婦人科におけるコントラストエコー．第73回超音波医学会総会，2000．5．
- 2) 松島 隆：IUGR．第350回神奈川地方部会，2000．9．

(3) パネルディスカッション：

- 1) 佐藤浩一，松島 隆，塚田克也，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：妊娠合併のclear cell carcinomaの1例．第100回日本産婦人科学会，2000．10．

(4) セミナー：

- 1) 石原楷輔：婦人科内性器の基礎．日産婦ME学会セミナー；イアンドナルド超音波講座，2000．6．
- 2) 石原楷輔：多手法を駆使した超音波診断．日産婦関東連合地方部会ランチョンセミナー，2000．6．

(5) 一般講演：

- 1) Saito R, Kaseki H, Ishihara K: Iris Access Port. Australian Gynaecological Endoscopy Society Ltd (Australia), 2000. 4.
- 2) Fukami T, Sekiya T, Yoshimatsu K, Otabe T, Tsukada K, Ishihara K: Sonographic features of the cervix in the mid-trimester as a predictor of preterm delivery. 10th World Congress Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (Zagreb Croatia), 2000. 8.
- 3) Mathushima T, Saito R, Ishihara K, Araki T, Kaseki H, Valle RF: The Iris Access Port. the Global Congress of Gynecologic Endoscopy, AAGL 29th Annual Meeting (FURORIDA), 2000. 11.
- 4) Minami S, Matsushima T, Kaseki H, Tsukada K, Ishihara K, Araki T: A NOVEL ASSESSMENT FOR DETECTING FALLOPIAN TUBAL DISEASE USING LAPAROSCOPE AND HYSTEROSCOPE. Global Congress of Gynecologic Endoscopy 29th Annual Meeting of the American Association of Gynecologic Laparoscopists (Orlando, Florida), 2000. 11.
- 5) 松島 隆，関谷隆夫，三並伸二，深見武彦，吉松和彦，小西英喜，石原楷輔，荒木 勤：Cinememoryを利用した3次元超音波断層法による妊娠初期胎児の観察．第52回日本産婦人科学会総会，2000．4．

- 6) 林 康子, 可世木久幸, 斎藤糧三, 貝原賢二, 三並伸二, 斎藤 恵, 小田部徹, 松島 隆, 関谷隆夫, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 三次元子宮卵管造影 (3D-HSG) の子宮奇形診断に対する有用性. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000. 4.
- 7) 深見武彦, 関谷隆夫, 吉松和彦, 小田部徹, 塚田克也, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中期の子宮頸部超音波画像からみた早産の前方視的検討. 第52回日本産科婦人科学会総会, 2000. 4.
- 8) 斎藤糧三, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 超音波造影剤を用いた骨盤内腫瘍の血流の検討. 第348回日産婦神奈川地方部会, 2000. 5.
- 9) 松島 隆, 関谷隆夫, 吉松和彦, 深見武彦, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔, 荒木 勤: 婦人科疾患における超音波造影剤レボリストに有用性. 第99回日本産婦人科関東連合地方部会, 2000. 6.
- 10) 佐藤浩一, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔: 妊娠に合併した clear cell carcinoma の1例. 第349回日本産婦人科神奈川地方部会, 2000. 7.
- 11) 佐藤浩一, 可世木久幸, 斎藤糧三, 松島 隆, 石原楷輔, 荒木 勤: アイリス アクセス サポート (ラップディスクミニ) を用いる腹腔鏡手術. 第40回日本産婦人科内視鏡学会, 2000. 8.
- 12) 松島 隆, 可世木久幸, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮鏡検査・手術前スクリーニングとしての3D-USG. 第40回日本産科婦人科内視鏡学会, 2000. 8.
- 13) 三並伸二, 丸山智美¹⁾, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 鈴江緑衣郎¹⁾(¹⁾昭和女子大学生生活機構研究科): 無月経女性のレプチン変動について. 第24回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 2000. 8.
- 14) 佐藤浩一, 吉松和彦, 林 康子, 松島 隆, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中に発症した急性膀胱炎の1例. 第335回四水会, 2000. 9.
- 15) 佐藤浩一, 吉松和彦, 林 康子, 松島 隆, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠中に発症した急性膀胱炎の1例. 第288回川崎市産科婦人科医会, 2000. 10.
- 16) 小西英喜, 太田雄治郎¹⁾, 土居大祐¹⁾, 関谷隆夫, 塚田克也, 松島 隆, 吉松和彦, 米山剛一¹⁾, 石原楷輔, 荒木 勤, 大坪保雄²⁾, 河合尚基³⁾, 中山裕樹⁴⁾, 小川秀臣⁵⁾(¹⁾ 付属病院, ²⁾ 大宮中央総合病院, ³⁾ (財) 東京都保健医療公社東部地域病院, ⁴⁾ 神奈川県立ガンセンター, ⁵⁾ 国立横須賀病院): 再発卵巣癌における Paclitaxel (TXL) と Carboplatin (CBDCA) Biweekly 投与の至適投与量の検討. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 17) 菊谷真理子, 松島 隆, 塚田克也: 卵管原発 teratoma. 第352回神奈川地方部会, 2000. 12.
- 18) 松島 隆, 可世木久幸, 佐藤浩一, 斎藤糧三, 石原楷輔, 荒木 勤: アイリスアクセスポート (ラップディスクミニ) による婦人科腹腔鏡手術. 第23回産婦人科手術学会, 2000. 12.
- 19) 三並伸二, 小西英喜, 佐藤浩一, 斎藤糧三, 菊谷真理子, 深見武彦, 吉松和彦, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: One stay chemotherapy をめざした卵巣癌に対する Paclitaxel, Carboplatin 併用 Biweekly 投与方法の検討. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000. 12.
- 20) 三並伸二, 菊谷真理子, 深見武彦, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 石原楷輔: パクリタキセル+カルボプラチン併用 Biweekly 投与方法における副作用の検討: One stay chemotherapy を目指して. 第353回日産婦神奈川地方部会, 2001. 1.
- 21) 菊谷真理子, 深見武彦, 林 康子, 松島 隆: 常位胎盤早期剥離における超音波検査の有用性. 第287回川崎市産科婦人科医会, 2001. 2.
- 22) 三並伸二, 佐藤浩一, 深見武彦, 松島 隆, 塚田克也, 小西英喜, 可世木久幸, 石原楷輔: 腹水を伴った良性卵巣腫瘍. 第287回川崎市産科婦人科医会, 2001. 2.
- 23) 深見武彦, 三並伸二, 松島 隆, 佐藤浩一, 林 康子, 可世木久幸, 石原楷輔: ラップディスクミニを用いた腹腔鏡手術. 第354回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2001. 2.
- 24) 菊谷真理子, 吉松和彦, 松島 隆, 可世木久幸: 常位胎盤早期剥離と超音波画像. 第337回四水会, 2001. 3.

- 25) 三並伸二, 丸山智美¹⁾, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤, 鈴江緑衣郎¹⁾(¹⁾昭和女子大学生活機構研究科): 月経周期内におけるレプチン変動について. 第11回臨床内分泌代謝: Update, 2001. 3.
- 26) 深見武彦, 松島 隆, 三並伸二, 斎藤糧三, 菊谷真理子, 可世木久幸, 石原楷輔: ラップディスクミニを用いた腹腔鏡手術(2). 第355回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2001. 3.

[多摩永山病院産婦人科]

研究概要

研究概要本年度の当教室の研究内容は以下の如くである.

(1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神神経的側面から幅広く研究を行っている. 身体面では, 超音波パルスドブラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価を始め, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している. また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある.

(2) 出生前診断

従来より行っている羊水・絨毛染色体検査に加え, 非侵襲的な母体尿中hCG β -core fragment による出生前診断の可能性を検討している.

(3) 周産期領域

臨床面では妊娠中毒症, 子宮内胎児発育遅延に対し, 超音波断層装置, 生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている. 超音波断層装置による母体腎, 肝臓の観察では, 新たな視点から, 妊娠中毒症発症に関する有益なデータが集積しつつある. また, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内のエネルギー代謝やミトコンドリア機能と虚血再灌流傷害の関係を検討している.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Nakai A, Asakura H, Taniuchi Y, Koshino T, Araki T, Siesjo BO K¹⁾(¹⁾Center for the study of Neurologic Disease, The Queen's Medical Center, Honolulu, Hawaii): Effect of α -phenyl-N-tert-butyl nitron (PBN) on fetal cerebral energy metabolism during intrauterine ischemia and reperfusion in rat. *Pediatric Research* 2000; 47(4): 451-456.
- 2) Nakai A, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T: Developmental changes in mitochondrial activity and energy metabolism in fetal and neonatal rat brain. *Developmental Brain Research* 2000; (121): 67-72.
- 3) Asakura H, Nakai A, Ishikawa G, Suzuki S, Araki T: Prediction of uterine dehiscence by measuring lower uterine segment thickness prior to the onset of labor: Evaluation by transvaginal ultrasonography. *J Nippon Med Sch* 2000; 67(5): 352-356.
- 4) Nakai A, Taniuchi Y, Asakura H, Yokota A, Koshino T, Araki T: Secondary mitochondria dysfunction after transient intrauterine ischemia in the fetal rat brain. *J Obstet Gynaecol Res* 2000; 26(5): 383-387.
- 5) Nakai A, Oya A, Kobe H, Asakura H, Yokota A, Koshino T, Araki T: Changes in maternal lipid peroxidation levels and antioxidant enzymatic activities and after delivery. *J Nippon Med Sch* 2000; 67(6): 434-439.
- 6) Yokota A, Nakai A, Oya A, Koshino T, Araki T: Changes in uterine and ovarian arterial impedance dur-

ing the periovulatory period in conception and nonconception cycles . J Obstet Gynaecol Res 2000 ; 26 (6): 435-440 .

- 7) Shibazaki Y¹⁾, Nakai A, Koshino T, Yokoyama K¹⁾(¹⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): Effect of immunosuppressant drug FK 506 on neonatal cerebral mitochondrial function and energy metabolism after transient intrauterine ischemia in rats . Brain Research 2001 ; (892): 351-358 .
- 8) Nakai A, Taniuchi Y, Asakura H, Oya A, Yokota A, Koshino T, Araki T : Developmental changes in tolerance to transient intrauterine ischemia in rat cerebral mitochondria . Am J Obstet Gynecol 2001 ; (184): 731-735 .
- 9) 谷内良成, 中井章人, 神戸 仁, 大屋敦子, 三田俊二, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 多発性子宮筋腫に合併した卵管間質部妊娠の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 (2): 136-144 .
- 10) 永野玲子, 横田明重, 大屋敦子, 三田俊二, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫: 術前診断が困難であった卵巣 massive edema の1例 . 日産婦東京会誌 2000 ; 3 (49): 376-380 .
- 11) 大屋敦子, 谷内良成, 中井章人, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫: 献血依頼がチェーンメール化し対応に苦慮した稀少血液型前置胎盤の経験 . 日産婦東京会誌 2000 ; 49 (4): 503-506 .
- 12) 奥田直貴, 三田俊二, 中井章人, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 渡辺秀裕¹⁾(¹⁾ 多摩永山病院外科): 卵巣腫瘍と鑑別困難であった仙骨部付近より発生した後腹膜腫瘍の1例 . 日産婦東京会誌 2001 ; 50 (1): 66-69 .

(2) 総説 :

- 1) 平松祐司¹⁾, 長田尚夫²⁾, 落合和彦³⁾, 三橋直樹⁴⁾, 滝沢 憲⁵⁾, 越野立夫, 野澤志朗⁶⁾(¹⁾ 岡山大学産婦人科, ²⁾ 日本大学産婦人科, ³⁾ 慈恵医科大学産婦人科, ⁴⁾ 順天堂大学産婦人科, ⁵⁾ 東京大学産婦人科, ⁶⁾ 慶応大学産婦人科): 新しい切開・凝固器具 . 産婦手術 2000 ; 11 : 132-136 .
- 2) 三橋直樹¹⁾, 長田尚夫²⁾, 越野立夫, 落合和彦³⁾, 滝沢 憲⁴⁾, 平松祐司⁵⁾, 野澤志朗⁶⁾(¹⁾ 順天堂大学産婦人科, ²⁾ 日本大学産婦人科, ³⁾ 慈恵医科大学産婦人科, ⁴⁾ 東京大学産婦人科, ⁵⁾ 岡山大学産婦人科, ⁶⁾ 慶応大学産婦人科): 産婦人科手術における血栓症 . 産婦手術 2000 ; 11 : 138-141 .
- 3) 中井章人: 特集: アクアスポーツと健康: 妊産婦に対するアクアビクス . 体育の科学 2000 ; 50 (7): 540-544 .
- 4) 荒木 勤, 中井章人: 特集: 周産期医療の新しい知見: 超音波カラードブラ法による腎血流所見: 妊娠中毒症の病態, 胎児発育との関連 . 産婦の世界 2000 ; 52 (10): 887-894 .

著 書

- 1) 佐々木茂, 磯崎太一, 孔 北华¹⁾(¹⁾ 山東医科大学): [分担] 絨毛性疾患: IX 治療: 絨毛癌の遺伝子治療 . 新女性医学大系 37 腫瘍 (武谷雄二総編集, 半藤保担当編集), 2000 ; pp264-276, 中山書店 .
- 2) 中井章人: [翻訳] 運動処方と管理 . 妊娠中の運動ハンドブック (ジェームズ・クラブ著, 目崎登監修), 2000 ; pp148-175, 大修館書店 .
- 3) 越野立夫: [翻訳] はじめに . 妊娠中の運動ハンドブック (ジェームズ・クラブ著, 目崎登監修), 2000 ; pp1-3, 大修館書店 .
- 4) 越野立夫: [翻訳] 運動と妊娠をめぐる論点を明確にする . 妊娠中の運動ハンドブック (ジェームズ・クラブ著, 目崎登監修), 2000 ; pp14-26, 大修館書店 .
- 5) 越野立夫: [分担] 各種疾患・障害に対する運動療法・運動処方の実践: 妊娠 . 運動療法ガイド: 正しい運動処方を求めて, 2000 ; pp270-275, 日本医事新報社 .
- 6) 中井章人: [翻訳] 高齢女性のための運動 . 最新スポーツ医科学ハンドブック: スポーツの効果 (坂本静男監訳), 2001 ; pp107-124, 有限会社ナップ .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 越野立夫：女性の更年期障害とHRT．医療研究会，2000．11．

(2) 招待講演：

- 1) 越野立夫：胎教とは．平成12年度南多摩産婦人科医会学術講演会，2000．12．

(3) セミナー：

- 1) 中井章人：女性のライフサイクルとスポーツ：女性の身体特性．第11回女性スポーツ医学研究会教育セミナー，2000．7．

(4) 一般講演：

- 1) Shibazaki Y¹⁾, Nakai A, Yokoyama K¹⁾ (¹⁾ Department of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): -Phenyl-N-Tert-Butyl Nitron (PBN) improve recovery of brain energy state in immature rats following intrauterine ischemia . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal, Canada), 2000 . 6 .
- 2) Omi S¹⁾, Yokoyama K¹⁾, Iino O¹⁾, Nakai A (¹⁾ Department of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): Maternal and umbilical cord blood glucose under regional anaesthesia during cesarean section delivery . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal, Canada), 2000 . 6 .
- 3) Sasaki S, Isozaki T, Nakai A, Koshino T, Araki T : The standardized clinical management of gestational trophoblastic diseases in Japan . Xth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Tbilisi, Georgia), 2000 . 9 .
- 4) 谷内良成, 中井章人, 朝倉啓文, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤：ラット胎仔，新生仔脳のミトコンドリア機能とエネルギー代謝の発達過程．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，2000．4．
- 5) 佐々木茂, 根本将之, 三田俊二, 磯崎太一¹⁾, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤 (¹⁾ 海老名総合病院): 臍帯血リンパ球のsister chromatid exchangeに与える2, 3, 7, 8-tetrachlorodibenzo-p-dioxinの影響．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，2000．4．
- 6) 三宅秀彦, 中井章人, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤：超音波カラードプラによる妊娠中毒症の腎血管病変の評価．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，2000．4．
- 7) 朝倉啓文, 白井文男, 鈴木俊治, 林 瑞成, 館岡佐知, 西田直子, 澤倫太郎, 米山芳雄, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤：妊娠中毒症の帝王切開後 endothelin-I と産褥 HELLP 症候群．第52回日本産科婦人科学会学術講演会，2000．4．
- 8) 高橋 肇, 大屋敦子, 永野玲子, 横田明重, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫：インフォームドコンセントの難しさを痛感した卵巣未分化癌III期の1症例．日本医科大学医学会第101回例会，2000．5．
- 9) 永野玲子, 横田明重, 大屋敦子, 三田俊二, 中井章人, 佐々木茂, 越野立夫：術前診断が困難であった卵巣 massive edema の1例．第314回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2000．5．
- 10) 関谷伊久乃, 横田明重, 中井章人, 三宅秀彦, 三田俊二, 佐々木茂, 越野立夫, 荒木 勤：妊娠例と非妊娠例における排卵期の子宮および卵巣動脈血管インピーダンスの変化．第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．6．
- 11) 谷内良成, 中井章人, 朝倉啓文, 大屋敦子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤：胎生期における遅発性神経細胞死の発達過程に関する検討．第36回日本新生児学会総会，2000．7．
- 12) 大屋敦子, 谷内良成, 中井章人, 横田明重, 佐々木茂, 越野立夫：献血依頼がチェーンメール化し対応に苦慮した稀少血液型全前置胎盤の経験．第315回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2000．9．
- 13) 中井章人, 谷内良成, 柴崎敬乃¹⁾, 横山和子¹⁾, 朝倉啓文²⁾, 越野立夫 (¹⁾ 多摩永山病院麻酔科, ²⁾ 付属病院産婦人科): 母体体温変化が子宮内虚血再灌流による新生仔脳障害に及ぼす影響について．第68回日本医科大

学医学会総会，2000．9．

- 14) 永野玲子，神戸 仁，三田俊二，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：Normal sized ovarian carcinomaの1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 15) 川端伊久乃，横田明重，國重隆生，中井章人，佐々木茂，越野立夫：当科における特発性血小板減少性紫斑病（ITP）合併妊娠7症例の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 16) 三宅秀彦，中井章人，関口敦子，朝倉啓文¹⁾，越野立夫（¹⁾付属病院産婦人科）：超音波パルスドプラによる妊娠高血圧妊婦の腎血流評価．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 17) 國重隆生，三宅秀彦，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：胎便性腹膜炎を初発症状とした胎児総排泄腔遺残の1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 18) 高橋 肇，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：当科における癌告知の実態．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 19) 三田俊二，神戸 仁，永野玲子，中井章人，佐々木茂，越野立夫，磯部宏昭¹⁾，東 敬子¹⁾，片山博徳¹⁾，前田昭太郎¹⁾（¹⁾多摩永山病院病理部）：Small cell neuroendocrine carcinomaと診断された外陰癌の1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 20) 佐々木茂，三田俊二，横田明重，中井章人，越野立夫，荒木 勤：母乳中に含まれるダイオキシンの安全性を考える：臍帯血リンパ球の姉妹染色体交換に及ぼすダイオキシンの影響：試験管内の実験から．第41回日本母性衛生学会総会，2000．9．
- 21) 三田俊二，神戸 仁，永野玲子，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤，片山博徳¹⁾，前田昭太郎¹⁾（¹⁾多摩永山病院病理部）：外陰部より発生したsmall cell carcinoma（neuroendocrine tumor）の1例．第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．10．
- 22) 三宅秀彦，國重隆生，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤，河田 興¹⁾，西田 朗¹⁾，平井みさ子²⁾，仁科孝子²⁾（¹⁾東京都立八王子小児病院新生児科，²⁾同小児病院外科）：腸穿孔による胎便性腹膜炎を合併した胎児総排泄腔遺残の1例．第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．10．
- 23) 國重隆生，横田明重，関谷伊久乃，中井章人，佐々木茂，越野立夫，荒木 勤：分娩時に急激な血小板減少をきたした特発性血小板減少性紫斑病（ITP）合併妊娠の経験：最近7症例を検討して．第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．10．
- 24) 永野玲子，中井章人，神戸 仁，越野立夫，荒木 勤：妊婦水泳が母乳栄養確立に及ぼす影響．第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．10．
- 25) 米山剛一¹⁾，中山裕樹²⁾，渡辺美千明³⁾，石川みずえ⁴⁾，高橋英彦⁴⁾，河合尚基⁵⁾，横田明重¹⁾，沖野恵子⁶⁾，土居大祐¹⁾，太田雄治郎¹⁾，小西英喜¹⁾，鴨井青龍¹⁾，荒木 勤¹⁾（¹⁾日本医科大学産婦人科，²⁾神奈川県立がんセンター婦人科，³⁾下都賀総合病院産婦人科，⁴⁾南部地域病院婦人科，⁵⁾東部地域病院婦人科，⁶⁾下谷病院産婦人科）：卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化例の腫瘍マーカーを中心とした診断法．第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，2000．10．
- 26) 三田俊二，前田昭太郎¹⁾，細根 勝¹⁾，片山博徳¹⁾，磯部宏昭¹⁾，東 敬子¹⁾（¹⁾日本医科大学多摩永山病院病理部）：外陰部より発生したsmall cell neuroendocrine carcinomaの1例．第39回日本臨床細胞学会秋期大会，2000．11．
- 27) 永野玲子，中井章人，神戸 仁，越野立夫：妊婦水泳が母乳栄養管理に与える影響について．第14回女性スポーツ医学研究会学術集会，2000．12．
- 28) 奥田直貴，三田俊二，中井章人，横田明重，佐々木茂，越野立夫，渡邊秀裕¹⁾（¹⁾多摩永山病院外科）：卵巣腫瘍と鑑別困難であった仙骨部付近より発生した後腹膜腫瘍の1例．第316回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2000．12．
- 29) 高橋 肇，神戸 仁，大屋敦子，中井章人，横田明重，佐々木茂，越野立夫：壊死性リンパ節炎合併妊娠の1

例．第14回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第317回日産婦東京地方部会例会，2001．3．

[千葉北総病院産婦人科]

研究概要

医局の特徴は，産婦人科と新生児管理を切り離さず，母子センターとして総合的に機能させているところにある．周産期管理とそれに引き続く母児管理は，同施設内のGCU (Growing Care Unit) において行っている．現在，周産期管理の側からみた新生児管理と新生児管理の側からみた周産期管理の相互の観点から総合的研究を始めている．当病院には基礎的研究設備がないので臨床研究を主体としている．即ち，周産期の分野では超音波など画像診断を中心に臨床研究を，また生殖内分泌の分野では，不妊症の臨床研究やアンケートによる統計学的研究を，さらに腫瘍学の分野では，悪性腫瘍における抗癌剤やホルモン剤の効果を病理組織学的手法をもって解析を進めている．また，北総病院産婦人科は，臨床的には癌患者の終末医療にも力を入れており，精神的側面を含めて合併症の解析を行ないつつある．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mine N, Kurose K, Konishi H, Araki T, Nagai H¹⁾, Emi M¹⁾ (¹⁾ Institute of Gerontology): Fusion of a Sequence from HE110 (14q11) to the HMGIC gene at 12q15 in a Uterine Leiomyoma . Jpn. J. Cancer Res. 2001 ; 92 : 1325-1329 .
- 2) 平野 明¹⁾, 峯 伸也, 藤原博通¹⁾, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所): 性ホルモン依存性癌 . 老年医学 2000 ; 38 : 627-631 .
- 3) 峯 伸也, 北村 裕¹⁾, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所): 子宮筋腫, 甲状腺乳頭癌における融合遺伝子異常 . Molecular Medicine 2000 ; 37 : 806-812 .
- 4) 鴨井青龍, 土居大祐, 荒木 勤 : 頸癌の術前動注化学療法 : 病理組織標本による効果予知 . 産婦治療 2001 ; 82 (2): 200-203 .

著書

- 1) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所): [分担] がんと遺伝子 . 新女性医学体系 (武谷雄二), 2000 ; pp271-280, 中山書店 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kamoi S, Matsushita N, Ohta Y, Konishi H, Kawamura T, Araki T : Pharmacokinetic Study of the Surgically Occluded Arterial Infusion Method . XVI FIGO World Congress (Washington D. C. USA), 2000 . 9 .
- 2) Kamoi S, Ohaki Y¹⁾, Matsushita N, Kawamura T, Araki T (¹⁾ Dept. pathology Chiba Hokusoh Hospital): Predictors of Intra-Arterial Chemotherapy Response of Uterine Cervical Carcinoma in Biopsies Obtained Pre- And 3 days Post-Chemotherapy . XVI FIGO World Congress (Washington D. C. USA), 2000 . 9 .
- 3) Kamoi S, Ohaki Y¹⁾, Satomi M, Matsushita N, Kawamura T, Araki T (¹⁾ Dept. Pathology Chiba Hokusoh Hospital): Epithelioid Trophoblastic Tumor of The Uterus . XXIII International Congress of the International Academy of Pathology (Nagoya Japan), 2000 . 10 .

- 4) Kamoi S, Ohaki Y¹⁾, Satomi M, Kawamura T, Araki T (¹⁾Dept. Pathology Chiba Hokusoh Hospital): An Application of Alpha-Inhibin for the Diagnosis of Pulmonary Trophoblastic Embolism . XXIII International Congress of the International Academy of Pathology (Nagoya Japan), 2000 . 10 .
- 5) 鴨井青龍, 弘末卓也, 阿部俊之, 里見操緒, 武内 務, 品川寿弥, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤: 子宮頸部扁平上皮癌における術前動注化学療法 (BOAI): 生検組織標本を用いた効果予知の試み . 第52回日本産科婦人科学会学術講演会, 2000 . 4 .
- 6) 太田雄治郎, 館岡佐知, 八木修立郎, 土居大祐, 米山剛一, 鴨井青龍, 荒木 勤: 婦人科腫瘍におけるTP, DPD活性の測定と応用 . 第52回日本産科婦人科学会学術講演会, 2000 . 4 .
- 7) 米山剛一, 太田雄治郎, 土居大祐, 峯 克也, 瀬戸真理子, 伊藤尚子, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 子宮体部原発癌肉腫の予後因子に関する病理組織学的検討 . 第52回日本産科婦人科学会学術講演会, 2000 . 4 .
- 8) 大下知子, 阿部俊之, 弘末卓也, 武内 務, 松下径広, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯: アンケート調査による中高年女性の尿失禁の実態 . 第10回女性排尿障害研究会, 2000 . 5 .
- 9) 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 松下径広, 小西英喜, 河村 堯, 森 修¹⁾, 新井 悟¹⁾, 松本光司³⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾第二病院産婦人科, ³⁾同病理部): 高用量MPA療法中における子宮内膜癌の病理組織及び細胞所見の経時的変化 (第2報). 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000 . 6 .
- 10) 松下径広, 伊藤尚子, 阿部俊之, 弘末卓也, 大下知子, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: Wernicke脳症はなぜなくなるのか?: 妊娠悪阻の点滴治療中に発症した自験例を中心として . 第100回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 2000 . 6 .
- 11) 弘末卓也, 鴨井青龍, 阿部俊之, 大下知子, 武内 務, 松下径広, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤: 妊娠に合併した絞扼性イレウスの1例 . 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000 . 6 .
- 12) 阿部俊之, 鴨井青龍, 弘末卓也, 大下知子, 武内 務, 松下径広, 若月雅美, 河村 堯, 荒木 勤: 会陰部異所性子宮内膜症の1例 . 第99回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2000 . 6 .
- 13) 鴨井青龍, 里見操緒, 武内 務, 松下径広, 太田雄治郎, 米山剛一, 河村 堯, 荒木 勤, 大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): Epithelioid trophoblastic tumor の1例 . 第29回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2000 . 7 .
- 14) 阿部俊之, 鴨井青龍, 伊藤尚子, 弘末卓也, 大下知子, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 河村 堯, 新井 悟¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 人工造脛術後に子宮筋腫を合併したRokitansky症候群の1例 . 日本医科大学医学会第101回例会, 2000 . 7 .
- 15) 太田雄治郎, 武内 務, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 婦人科PyNPase活性, DPD活性比の意義 . 第38回日本癌治療学会総会, 2000 . 9 .
- 16) 鴨井青龍, 土居大祐, 松下径広, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 河村 堯, 荒木 勤: 子宮頸癌に対する術前化学療法の生検組織標本を用いた効果予知の試み (第2報). 第38回日本癌治療学会総会, 2000 . 9 .
- 17) 土居大祐, 鴨井青龍, 武内 務, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: Ib2-II期の子宮頸部腺癌におけるNAC (BOAI) の有効性の検討 . 第38回日本癌治療学会総会, 2000 . 9 .
- 18) 米山剛一, 武内 務, 土居大祐, 太田雄治郎, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤: 婦人科腫瘍術後の血栓症発症因子の検討 . 第38回日本癌治療学会総会, 2000 . 9 .
- 19) 峯 伸也, 黒瀬 圭輔, 土居 大祐, 太田雄治郎, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤, 永井 尚生¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老人病研究所): 子宮平滑筋腫に新たに見い出されたHMGIC遺伝子との遺伝子融合 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 20) 松下径広, 伊藤尚子, 阿部俊之, 弘末卓也, 大下知子, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 荒木 勤: 妊娠15週で発症したWernicke脳症の1例 . 第22回日本臨床栄養学会総会, 2000 . 10 .
- 21) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 小西英喜, 荒木 勤, 永井尚生¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾老人病研究所): 子宮平滑筋腫の発生へのHMGIC遺伝子融合の関与 . 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000 . 10 .

- 22) 鴨井青龍, 松下径広, 河村 堯, 大秋美治¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 赤坂久美¹⁾, 三枝順子¹⁾, 安藤 哲¹⁾, 松澤こず恵¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 乳頭状発育を示す子宮頸癌の細胞診断学的, 組織学的特徴: 乳頭状扁平上皮癌を中心に. 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000. 11.
- 23) 弘末卓也, 阿部俊之, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯, 新井 悟¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 高齢者に発症した卵巣類内膜癌合併卵黄嚢腫瘍の1例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成12年度冬季学術講演会, 2001. 1.
- 24) 阿部俊之, 弘末卓也, 里見操緒, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 鴨井青龍, 河村 堯¹⁾, 川俣博志¹⁾, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): 帝王切開後に発症した深部静脈血栓症の1例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成12年度冬季学術講演会, 2001. 1.
- 25) 鴨井青龍, 新井 悟, 森 修, 大秋美治: 希有な卵巣腫瘍の1例. 第15回日本病理学会関東支部千葉地区集会, 2001. 3.
- 26) 瀬戸真理子, 阿部俊之, 峯 伸也, 松下径広, 五十嵐俊夫, 若月雅美, 明楽重夫, 鴨井青龍, 竹下俊行, 河村 堯: 潜在性高プロラクチン血症のTRH負荷テストの15分値の有用性について. 第11回千葉県生殖内分泌懇話会, 2001. 4.
- 27) 阿部俊之, 若月雅美, 弘末卓也, 大下和子, 松下径広, 五十嵐俊夫, 鴨井青龍, 河村 堯: OHSSの2例. 第10回千葉県生殖内分泌懇話会, 2000. 10.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主研究テーマは、耳科学、聴覚学、平衡神経科学、免疫学、アレルギー学、頭頸部腫瘍学、音声言語学ならびに嚥下に関する研究などである。

本年度は、厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究事業の主任研究者として八木が3年間の2年度目の研究が行われ、メニエール病や遅発性内リンパ水腫に関する研究がさらに進捗した。一方、多くの教室員は、文部省の科学研究費や私立大学研究費補助金等の研究費を受けて研究を推進させており、その結果の一部が和文、英文論文として発表されている。耳科学のうち平衡覚に関しては、先に述べたメニエール病や遅発性内リンパ水腫の原因解明、前庭 眼反射の三次元解析などの研究が行われた。さらに基礎的な研究として内耳の構成蛋白とその遺伝子の解析が世界に先駆けて行われた。また、真珠腫性中耳炎の骨破壊機構を解明するための基礎的研究も軌道にのっている。

免疫学では、呼吸上皮の検討や内耳での免疫応答に関する研究が、新たな展開を見せている。

アレルギー学ではその基礎と薬物治療、免疫治療に関する研究も引き続き積極的に行われている。腫瘍の増殖に関する分子生物学的研究も進行しており、その一部が学会口演や原著とし発表されている。また、発声や嚥下に関する研究も着実に行われている。

教室全体の研究に対する姿勢が、着実に固まってきており、それが研究費の獲得やその成果の発表に繋がっている。今後、一層の研究推進とともに英文論文発表のさらなる増加に向かって進みたい。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Yagi T: Local IgE synthesis in allergic rhinitis-its functional significance and impact on the strategy of treatment. 日本鼻科学会誌 2000; 39(1): 69-73.
- 2) Ikezono T, Toimyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Suzuki Y¹⁾, Yagi T (¹⁾ Iseaki Municipal Hospital): Passive transfer of experimental autoimmune labyrinthitis. Audiol Neurootol 2000; 5: 292-299.
- 3) Yagi T, Yajima H, Sakuma A, Aihara Y: Influence of vibration to the neck, trunk and lower extremity muscles on equilibrium in normal subjects and patients with unilateral labyrinthine dysfunction. Acta Otolaryngol 2000; 120: 182-186.
- 4) Akimoto R, Pawankar R, Yagi T, Baba S: Acquired and congenital cholesteatoma Determination of tumor necrosis factor-alpha, intercellular adhesion molecule-1, interleukin-1-alpha and lymphocyte functional antigen-1 in the inflammatory process. ORL 2000; 62(5): 257-265.
- 5) Saji F¹⁾, Nonaka M, Pawankar R (¹⁾ 谷津保健病院耳鼻咽喉科): Expression of RANTES by IL-1 and TNF- stimulated nasal polyp fibroblasts. Auris Nasus Larynx 2000; 27: 247-252.
- 6) Pawankar R, Yamagishi S¹⁾, Takizawa R, Nonaka M, Yagi T (¹⁾ 下谷病院耳鼻咽喉科): Effect of SCF on the phenotype of nasal mast cells. 耳鼻免疫アレルギー 2000; 18(2): 124-125.
- 7) Kohno N¹⁾, Ikari T²⁾, Kawaida M²⁾, Tanaka K³⁾, Kawaura M⁴⁾, Kano S⁵⁾, Nakamizo M⁶⁾ (¹⁾ Dept. of Otolaryngol. National Defense Medical College, ²⁾ Dept. of Otolaryngol. Ohtsuka Metropolitan Hospital, ³⁾ Dept. of Otolaryngol. Yokohama Municipal Hospital, ⁴⁾ Dept. of Otolaryngol. Keiyu Hospital, ⁵⁾ Dept. of Otolaryngol. Tochigi National Hospital, ⁶⁾ Dept. of Otolaryngol. Nippon Medical School): Survival Results of Neoad-

- juvant Chemotherapy for Advanced Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck . *Jpn J Clin Oncol* 2000 ; 30 (6): 253-258 .
- 8) Watanabe K , Hess A¹⁾ , Bloch W¹⁾ , Michel O¹⁾ (¹⁾Dept. of ENT, University of Cologne): NOS-inhibitor blocks ototoxic side effect of CDDP in the guinea pigs . *Anti-Cancer Drugs* 2000 ; 11 : 401-406 .
 - 9) Watanabe K , Hess A¹⁾ , Zumegegen C¹⁾ , Stennert E¹⁾ , Bloch W¹⁾ , Addicks K¹⁾ , Michel O¹⁾ (¹⁾Dept. of to-laryngol, University of Cologne): Changes of the compound action potential (CAP) and the expression of in-ducible nitric oxide synthase (iNOS/NOS II) in the cochlea under experimental inflammatory condition . *Hearing Research* 2000 ; 145 : 149-155 .
 - 10) Watanabe K , Yagi T : Expression of myeloperoxidase (MPO) in the inner ear of cisplatinium (CDDP) treated guinea pigs . *Anti-Cancer Drugs* 2000 ; 11 : 727-730 .
 - 11) Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Yagi T : Mast Cell function modulating IgE-mediated allergic dis-ease . *耳鼻免疫アレルギー* 2000 ; 18 (2): 18-19 .
 - 12) Pawankar R , Yamagishi S , Takizawa R , Nonaka M , Yagi T , Saito H¹⁾ , Ahn K¹⁾ (¹⁾国立小児病院小児医療研究センター免疫アレルギー研究部門): Effect of SCF on the phenotype of nasal mast cells . *耳鼻免疫アレルギ-* 2000 ; 18 (2): 124-125 .
 - 13) Saji F , Nonaka M , Pawankar R : Expression of RANTES by I1-1 and TNF- stimulated nasal polyp fi-broblasts . *Auris Nasus Larynx* 2000 ; 27 (3): 247-252 .
 - 14) Watanabe K , Hess A¹⁾ , Bloch W¹⁾ , Michel O¹⁾ (¹⁾Dept. of to-laryngol, University of Cologne): Inhibition of inducible nitric oxide synthase (iNOS/NOS II) reduces the cochlear damage by lipopolysaccharide in guinea pigs . *Free Radical Research* 2000 ; 32 : 363-370 .
 - 15) Watanabe K , Hess A¹⁾ , Michel O¹⁾ , Yagi T (¹⁾Dept. of to-laryngol, University of Cologne): NOS inhibitor reduces the apoptotic change in the cisplatinium (CDDP) treated cochlea of guinea pigs . *Anti-Cancer Drugs* 2000 ; 11 : 731-735 .
 - 16) Ahn K¹⁾ , Takai S²⁾ , Pawankar R , Kuramasu A¹⁾ , Ohtsu H¹⁾ , Kempuraj D¹⁾ , Tomito M¹⁾ , Iida M¹⁾ , Mat-sumoto K¹⁾ , Akasawa A¹⁾ , Miyazaki M¹⁾ , Saito H¹⁾ (¹⁾Dept. of Allergy, Natl Childrens Hosp , ²⁾Dept. Pharmacology, Osaka Medical School): Regulation of chymase production in human mast cell progenitors . *J Allergy Clinical Immunology* 2000 ; 106 : 321-328 .
 - 17) Sekiya T¹⁾ , Miyamasu M¹⁾ , Imanishi M²⁾ , Yamada H¹⁾ , Nakajima T²⁾ , Yamaguchi M¹⁾ , Fujisawa T³⁾ , Pawankar R , Sano Y⁴⁾ , Ohta K⁵⁾ , Iishi A⁶⁾ , Morita Y⁶⁾ , Yamamoto K¹⁾ , Matsushima K²⁾ , Hirai K²⁾ (¹⁾Dept. Allergy & Immunology, Bioregulatory Func. , Univ of Tokyo , ²⁾Dept. Resp Medicine, University of Tokyo , ³⁾Dept. Pediatrics, Nat'l Mie Hospital , ⁴⁾Dept. Allergy & Resp Medicine, Doai Memorial Hospital , ⁵⁾Dept. Internal Medicine, Teikyo University , ⁶⁾Dept. Bacteriology, Kinki University School of Medicine): Inducible expression of a Th2-type CC chemokine Thymus-and Activation-Regulated chemokine by human bronchial epithelial cells . *J Immunology* 2000 ; 165 : 2205-2213 .
 - 18) Watanabe K , Tomiyama S , Jinnouchi K , Yagi T : Detection of single-strander DNA (ssDNA) in the hy-dropic vestibule after the direct injection of antigen into the endolymphatic sac of guinea pigs . *Neuroscience Letters* 2000 ; 293 : 57-60 .
 - 19) Cilchrist DP¹⁾ , Curthoys IS¹⁾ , Burgess AM¹⁾ , Cartwright AD¹⁾ , Jinnouchi K , MacDougall HG¹⁾ , Hal-magyi GM¹⁾ (¹⁾シドニー大学): Semicircular canal occlusion causes permanent VOR changs . *Neuroreport* 2000 ; 11 (11): 2527-2531 .
 - 20) Jinnouchi K : Mechanism of endothelin-1 production in the cochlea of rats . *ORL* 2001 ; 63 (1): 6-11 .
 - 21) Fujikura T , Shimosawa T , Yakuo I : Regulatory effect of histamine H1 receptr antagonist on the expres-

- sion of messenger RNA encoding CC chemokines in the human nasal musosa . J Allergy Clin Immunol 2001 ; 107 (1): 123-128 .
- 22) Pawankar R , Takizawa R , Goto M , Goto Y , Okuda M , Yamagishi S , Okubo K , Nonaka M , Otsuka H , Yagi T (¹ 東埼玉病院耳鼻科 , ² 臨床アレルギー研究所 , ³ 下谷病院耳鼻科 , ⁴ 大塚耳鼻科医院): Effect of modified immunotherapy with an allergen-pullulan conjugate in patients with Japanese cedar pollinosis . Allergology International 2001 ; 50 : 43-55 .
- 23) Ikezono T , Omori A¹ , Ichinose S¹ , Pawankar R , Watanabe A² , Yagi T (¹ Mitsubishi Kasei Institute of LifeSciences , ² Dept. of Molecular Biology, Nippon Medical School): Identification of the protein product of the *Coch* gene-hereditary deafness gene-as the major component of bovine inner ear protein . Biochimica Biophysica Acta-Molecular Basis of Disease 2001 ; 3 : 258-265 .
- 24) Kamura E , Yagi T : Three-dimensional analysis of eye movements during off vertical axis rotation in patients with unilateral labyrinthine loss . Acta Otolaryngol 2001 ; 121 (2): 225-228 .
- 25) 大久保公裕 , 奥田 稔 , 八木聰明 : ヒト鼻粘膜におけるペプチド分解酵素の活性ならびに遊離に関する研究 . 日本鼻科会誌 2000 ; 39 (1): 1-6 .
- 26) 八木聰明 : 圧迫眼振の三次元解析からみた半規管の機能軸に関する検討 . 東京医師会誌 2000 ; 53 (5): 611-615 .
- 27) 渡辺健一¹ , 野中 学 , 嘉村恵理子² , 青木秀治³ , 八木聰明 , 大秋美治⁴ (¹ 大宮中央総合病院耳鼻科 , ² 千葉北総病院耳鼻科 , ³ 第二病院耳鼻科 , ⁴ 千葉北総病院病理部): 舌根部に発生した骨腫の1症例 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (6): 339-341 .
- 28) 設楽明子 , 八木聰明 : 頭部傾斜-roll と pitch-における眼球運動の三次元解析 . 日耳鼻 2000 ; 103 (6): 748-753 .
- 29) 相原康孝 , 横島一彦 , 馬場俊吉 , 上野博史 , 陣内 賢 , 八木聰明 : 先天性真珠腫症例の検討 . Otol Jpn 2000 ; 10 (3): 181-185 .
- 30) 島田健一¹ , 渡辺健一² , 野中 学 , 八木聰明 (¹ 多摩永山病院耳鼻科 , ² 大宮中央総合病院耳鼻科): 両側ムンプス難聴の1症例 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (7): 409-411 .
- 31) 嘉村恵理子¹ , 小坂和己² , 野中玲子 , 野中 学 , 馬場俊吉¹ (¹ 千葉北総病院耳鼻科 , ² 小坂耳鼻科): 外耳道深部に発生した海綿状血管腫の1症例 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (7): 418-421 .
- 32) 小坂和己¹ , 野中玲子 , 野中 学 , 青木秀治² (¹ 小坂耳鼻科 , ² 第二病院耳鼻科): 眼窩内骨膜下血腫を伴った副鼻腔嚢胞の1例 . 耳鼻と臨 2000 ; 46 (2): 119-122 .
- 33) 野中 学 , Pawankar R , 佐地富佐子¹ , 八木聰明 (¹ 谷津保健病院耳鼻科): 鼻腔線維芽細胞の TGF- に対する反応性について . 耳鼻免疫アレルギー 2000 ; 18 (2): 114-115 .
- 34) 横島一彦 , 中溝宗永 , 矢嶋裕徳 , 滝沢竜太 , 粉川隆行 , 中嶋博史 , 八木聰明 : 死亡症例からみた頭頸部癌診療でのインフォームドコンセントの限界 . 頭頸部外科 2000 ; 10 (1): 85-88 .
- 35) 大久保公裕 , 八木聰明 , 奥田 稔 : 新しい鼻腔用デバイスによる鼻アレルギー治療 . 耳鼻展望 2000 ; 43 (補 1): 50-52 .
- 36) 滝沢竜太 , Ruby P , 山岸茂夫 , 八木聰明 : 鼻粘膜上皮細胞における HLA-DR および CD86 の発現とその調節因子 . 耳鼻免疫アレルギー 2000 ; 18 (2): 108-109 .
- 37) 野中 学 , Pawankar R , 佐地富砂子 , 八木聰明 : 鼻腔線維芽細胞の TGF- に対する反応性について . 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 2000 ; 18 (2): 114-115 .
- 38) 島田健一 , 渡辺健一 , 野中 学 , 八木聰明 : 両側ムンプス難聴の1症例 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (7): 409-411 .
- 39) 山岸茂夫 , 大西正樹 , Pawankar R : 鼻粘膜上皮細胞が産生する IL- と TNF- の自己誘導による IL-6, IL-8

GM-CSFの影響．日本耳鼻咽喉科学会会報 2000；103(7): 829-835．

- 40) 渡邊健一，三枝英人，陣内 賢，八木聰明：軟口蓋ミオクローネスによる他覚的耳鳴の1症例．耳鼻・頭頸外科 2000；72(8): 501-504．
- 41) 大久保公裕，八木聰明：オスラー病に対する超音波凝固治療．J Nippon Med Sch 2000；67(5): 306-307．
- 42) 大久保公裕，後藤 穰，山岸茂夫，奥田 稔，八木聰明：標準化スギ抗原エキスをを用いた抗原特異的免疫療法．耳鼻免疫アレルギー 2000；18(3): 26-27．
- 43) 福元 晃，池園哲郎，中溝宗永，粉川隆行，中嶋博史，横島一彦，大秋美治¹⁾，八木聰明(¹千葉北総病院病理部)：上顎洞血腫の3症例．耳鼻・頭頸外科 2000；72: 665-669．
- 44) 渡邊健一，陣内 賢，森下まき，中嶋博史，齋藤明彦，島田健一，粉川隆行，後藤 穰，秋元利香，大久保公裕，八木聰明：町立八丈病院における耳鼻咽喉科外来の統計的検討．耳鼻・頭頸外科 2000；46(5): 399-403．
- 45) 横山由希子，渡邊健一，中嶋博史，大久保公裕，八木聰明：急性副鼻腔炎より波及した前額部膿瘍の1症例．耳鼻・頭頸外科 2000；72(10): 655-658．
- 46) 藤倉輝道，秋元利香，佐地富砂子：スギ花粉症におけるステロイド点鼻剤ナイスピーの治療効果．耳鼻展望 2000；43(5): 475-480．
- 47) 大久保公裕，後藤 穰，山岸茂夫，奥田 稔，八木聰明：「標準化アレルギー治療エキス「トリイ」スギ花粉」を用いた抗原特異的免疫療法の検討．耳鼻免疫アレルギー 2000；18(4): 29-34．
- 48) 中溝宗永，横島一彦，鎌田信悦¹⁾，川端一嘉¹⁾，苦瓜知彦¹⁾(¹癌研究会病院・頭頸科)：両側頸部リンパ節転移症例への対応．頭頸部腫瘍 2000；26(3): 504-508．
- 49) 大久保公裕，奥田 稔：花粉防御器具の有用性．医薬ジャーナル 2001；37(1): 117-121．
- 50) 三枝英人，中溝宗永，新美成二¹⁾，八木聰明(¹東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室)：喉頭挙上に左右差があることに起因する嚥下障害とその対応．日本気管食道科学会会報 2001；52(1): 1-9．
- 51) 今野昭義¹⁾，竹中 洋²⁾，川内秀之³⁾，岡本美孝⁴⁾，大久保公裕(¹千葉大耳鼻科，²大阪医大耳鼻科，³島根医大耳鼻科，⁴山梨医大耳鼻科)：花粉症患者は治療に何を望んでいるか：花粉症治療後の患者満足度に関するアンケート調査の解析．診療と新薬 2001；38(2): 139-146．
- 52) 大久保公裕：季節性アレルギー性鼻炎の増加とその原因．耳鼻・頭頸外科 2001；73(2): 94-98．
- 53) 野中 学，Pawankar R，佐地富佐子¹⁾，福元 晃²⁾，八木聰明(¹谷津保健病院耳鼻科，²千葉北総病院耳鼻科)：鼻腔線維芽細胞のTGF- β に対する反応性について．耳鼻免疫アレルギー 2001；19(1): 1-4．
- 54) 小泉康雄：Arnold-Chiari I型奇形による嚥下障害の1例：嚥下障害に対するリハビリテーションについての一考察．耳鼻・頭頸外科 2001；73(3): 193-197．
- 55) 横島一彦，中溝宗永，矢嶋裕徳，粉川隆行，中嶋博史，森園徹志¹⁾(¹静岡済生会総合病院耳鼻科)：縦隔気管孔形成手術症例の検討．頭頸部腫瘍 2001；27(1): 62-66．

(2) 研究報告書：

- 1) 八木聰明，池園哲郎，新藤 晋，Pawankar R，大森 彬¹⁾，渡辺 淳²⁾(¹三菱化学生命科学研究所，²日本医科大学生化学第2)：内耳プロテオーム解析によるCOCH遺伝子発現の検討．厚生労働省特定疾患研究対策事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成12年度報告書 2001；pp42-44．
- 2) 八木聰明，Pawankar R，池園哲郎，愛野威一郎，馬場俊吉：感音難聴患者末梢血のリンパ球分画の変化：第2報．厚生労働省特定疾患研究対策事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成12年度報告書 2001；pp37-38．
- 3) 八木聰明，池園哲郎，齋藤明彦，新藤 晋，大久保公裕，Pawankar R，大森 彬¹⁾(¹三菱化学生命科学研究所)：2次元電気泳動法による内耳自己抗原の検索．厚生労働省特定疾患研究対策事業 前庭機能異常に関する調査研究班 平成12年度報告書 2001；pp39-41．

(3) 総説 :

- 1) Pawankar R, Yamagishi S, Yagi T : Revisiting the roles of mast cells in Allergic Rhinitis and its relation to local IgE synthesis . American J Rhinology 2000 ; 14 : 309-317 .
- 2) Miyashita T¹⁾, Tateno A¹⁾, Horiuchi J¹⁾, Nakamizo M²⁾, Sugizaki K¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾Dept. of Radiol. Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Otolaryngol. Nippon Medical School): Short-Time Ultrasound of Head and Neck Squamous Cell Carcinoma under Radiotherapy . Ultrasound in Medicine and Biology 2001 ; 27 (1): 13-19 .
- 3) Pawankar R : Anti-IgE treatment in allergic disease . Allergy and Clinical Immunology International 2001 ; 13 (1): 4-10 .
- 4) Pawankar R : Mast cells as orchestrators of the allergic reaction : The IgE-IgE mast cell network . Current Opinion in Allergy & Clinical Immunology 2001 ; 1 : 3-6 .
- 5) 大久保公裕 : リウマチと耳鼻咽喉科 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (5): 171-173 .
- 6) 八木聰明 : 原著を採る : 温度眼振検査 . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 (6): 730-731 .
- 7) 八木聰明 : めまいをめぐる最近のトピックス . Clinical Neuroscience 2000 ; 18 (7): 752-754 .
- 8) 青木秀治, 八木聰明 : めまいの検査 . 薬局 2000 ; 51 (9): 1982-1987 .
- 9) 大久保公裕 : 花粉症の薬物治療 . アレルギー科 2001 ; 11 (2): 163-168 .
- 10) 大久保公裕 : 好酸球増多性鼻炎の病態と治療 . アレルギーの臨床 2001 ; 21 (6): 432-435 .

著 書

- 1) Pawankar R : [自著] Evidence-based treatment of Allergic rhinitis . Current trends in Rhinology (Bhatt N & Verma J), 2001 ; pp14-23 , International Medical Press .
- 2) Pawankar R : [自著] Medical management of nasal polyposis . Current trends in Rhinology (Bhatt N & Verma J), 2001 ; pp61-68 , International Medical Press .
- 3) Pawankar R : [自著] Applied physiology and anatomy of the nose : its clinical implications in disease . Rhinology Update : Basics to Clinics (Bias A & Karnik P), 2001 ; pp32-41 , Vashist Publications .
- 4) Pawankar R : [自著] Etiopathogenesis and medical management of rhinosinusitis . Encyclopedia of Rhinology (Poona Medical Foundation), 2001 ; pp12-21 , Tata Press .
- 5) Pawankar R : [自著] Allergic rhinitis : Diagnosis and management . Encyclopedia of Rhinology (Poona Medical Foundation), 2001 ; pp42-56 , Tata Press .
- 6) 八木聰明 : [分担] 中耳手術後症への対応 . 難聴と慢性中耳炎 : 診断から手術適応まで (鈴木淳一 , 飯野ゆき子), 2000 ; pp168-174 , 日本医学館 .
- 7) 野中 学 , 並木徳之¹⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学第三病院薬剤部): [分担] 急性中耳炎 . 臨床薬物治療学 , 2000 ; pp829-832 , アークメディア .
- 8) 野中 学 , 並木徳之¹⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学第三病院薬剤部): [分担] 滲出性中耳炎 . 臨床薬物治療学 , 2000 ; pp833-835 , アークメディア .
- 9) 野中 学 , 並木徳之¹⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学第三病院薬剤部): [分担] 慢性中耳炎 . 臨床薬物治療学 , 2000 ; pp836-839 , アークメディア .
- 10) 中溝宗永 , 並木徳之¹⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学第三病院薬剤部): [分担] アデノイド増殖症 . 臨床薬物治療学 (2000年版) (市田文弘 , 黒岩幸雄), 2000 ; pp847-849 , アークメディア .
- 11) 中溝宗永 , 並木徳之¹⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学第三病院薬剤部): [分担] 喉頭癌 . 臨床薬物治療学 (2000年版) (市田文弘 , 黒岩幸雄), 2000 ; pp850-853 , アークメディア .
- 12) 八木聰明 : [分担] コンピュータによる眼球運動の検査 . 21世紀耳鼻咽喉科 : 機能検査 (小林俊光), 2000 ;

pp221-226, 中山書店 .

- 13) 八木聰明：〔分担〕前庭機能異常．難病の最新情報（大野良之，田中平三，中谷比呂樹，黒川清，齋藤英彦），2000；pp228-231，南山堂．
- 14) 大久保公裕：〔分担〕最近の内視鏡手術の動向と周術期合併症：耳鼻咽喉科領域．内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング（小川龍ほか），2000；pp123-130，真興交易．
- 15) 大久保公裕：〔分担〕初診の患者には副鼻腔のX線撮影をする．花粉症診療の質を高める（榎本雅夫ほか），2000；pp54-60，医学書院．
- 16) 大久保公裕：〔分担〕鼻アレルギー．2001年今日の治療指針（多賀須幸男ほか），2001；pp611-612，医学書院．
- 17) 大久保公裕：〔分担〕鼻骨骨折．2001年今日の治療指針（多賀須幸男ほか），2001；pp893-893，医学書院．
- 18) Pawankar R：〔自著〕炎症反応としての気道過敏症獲得メカニズム（1）Local IgE synthesis and its functional significance．第5回「那須ティーチン」学術集会記録集（財団法人 日本アレルギー協会），2001；pp8-16，協和企画．
- 19) 後藤 穰，大久保公裕，奥田 稔：〔分担〕空中スギ花粉飛散 スギ山から患者まで．progress in medicine 特集 花粉症 21世紀の門口に立って（奥田 稔），2001；pp2417-2420，ライフサイエンス・メディカ．

学会発表

（1）特別講演：

- 1) Pawankar R：Novel concepts on the pathogenesis of allergic rhinitis．2nd Congress of the Malaysian Society of Otolaryngology & Head and Neck Surgery (Kuala Lumpur, Malaysia), 2000．4．
- 2) Pawankar R：Update on the treatment of allergic rhinitis．2nd Congress of the Malaysian Society of Otolaryngology & Head and Neck Surgery (Kuala Lumpur, Malaysia), 2000．4．
- 3) Pawankar R：Research Strategies in Clinical Practice．International Seminar of the ENT Department, University of Malaysia (Kuala Lumpur, Malaysia), 2000．4．
- 4) Pawankar R：Update on Allergic Rhinitis：From pathogenesis to treatment strategies．3rd International Seminar of the ENT Society of Singapore (Singapore), 2000．4．
- 5) Pawankar R：Gamma delta T cells in the pathogenesis of allergic rhinitis．17th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma and Immunology (Beunos Aires, Argentina), 2000．8．
- 6) Pawankar R：Versatile role of mast cells in allergic disease．17th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma and Immunology (Beunos Aires, Argentina), 2000．8．
- 7) Pawankar R：Indications, safety and efficacy of second generation antihistamines．4th International Symposium on Allergy (Cordoba, Argentina), 2000．8．
- 8) Pawankar R：Allergic Rhinitis：What we know now from pathogenesis to treatment．International Congress on New Trends in Allergy V (Davos, Switzerland), 2000．9．
- 9) Pawankar R：Future therapies in allergic disease．International Congress on New Trends in Allergy V (Davos, Switzerland), 2000．9．
- 10) Pawankar R：Functional characteristics of gamma delta T cells in allergic disease．Allergy Seminar 2000, Swiss Institute of Allergy & Asthma (Davos, Switzerland), 2000．9．
- 11) Pawankar R：Recent update on the pathogenesis of allergic rhinitis．9th International Rhinology Congress (Washington DC, USA), 2000．9．
- 12) Pawankar R：Epithelial cells as immunomodulators in allergic disease．Allergy Seminar 2000, Swiss Institute of Allergy & Asthma (Davos, Switzerland), 2000．9．
- 13) Pawankar R：Pharmacotherapy of allergic rhinitis：especially safety profile．Annual Congress of the Royal

- College of Otolaryngologists of Thailand (Bangkok, Thailand), 2000 . 10 .
- 14) Pawankar R : Cytokine cascade in allergic rhinitis . Allergy Seminar, Faculty of Medicine, Mahidol University (Bangkok, Thailand), 2000 . 10 .
 - 15) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma 'ARIA' : WHO Initiative in Rhinitis . 2nd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2001 . 1 .
 - 16) Pawankar R : Novel concepts on the pathogenesis of allergic rhinitis . 2nd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2001 . 1 .
 - 17) Pawankar R : Evidence-based treatment of allergic rhinitis . 2nd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2001 . 1 .
 - 18) Pawankar R : Mast cell-T cell-epithelial cell interactions in allergic disease . 4th International Symposium on Experimental Rhinology and Immunology of the Nose (London, UK), 2001 . 2 .
 - 19) 八木聰明 : 日常診療におけるめまいの取り扱い . 第7回北東大阪耳鼻咽喉科臨床懇話会 , 2000 . 6 .
 - 20) 三枝英人 : 嚥下障害とその対応 : 主にリハビリテーションについて . 第2回中央 ブロック ENTカンファランス 東京 , 2000 . 10 .
 - 21) Pawankar R : アレルギー性疾患におけるマスト細胞の新たな役割 . 第27回関東喀痰研究会 , 2000 . 11 .
 - 22) Pawankar R : アレルギー性疾患 : 鼻から肺へ . 鼻アレルギー研究会 (東京), 2001 . 1 .
 - 23) 三枝英人 : 嚥下障害の診療とその対応について . 台東区耳鼻咽喉科医会勉強会 , 2001 . 2 .
 - 24) 三枝英人 : 嚥下障害の機序とその対応 . 平成13年度清春会 , 2001 . 3 .
 - 25) Pawankar R : 特異的IgE産生のメカニズム . ラウンドテーブル 「九州. 中国」鼻アレルギー , 2001 . 3 .

(2) 招待講演 :

- 1) 八木聰明 : 日常診療におけるめまいの診断 . 第135回臨床懇話会 , 2000 . 4 .
- 2) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の診療の実際 . アレルギー研修2000プログラム , 2000 . 4 .
- 3) 大久保公裕 : 眼科医のための鼻アレルギー . 東京都眼科医会学術講演会 , 2000 . 4 .
- 4) 大久保公裕 : 鼻アレルギーの診断と治療 . 川崎市耳鼻咽喉科医会学術講演会 , 2000 . 5 .
- 5) 八木聰明 : めまいと眼球運動解析 . 第93回日耳鼻秋田県地方部会学術講演会 , 2000 . 6 .
- 6) 八木聰明 : めまいの取り扱い . 旭耳会学術講演会 , 2000 . 6 .
- 7) 大久保公裕 : アラキドン酸カスケードとアレルギー性鼻炎 . 神奈川保険医協会研究会 , 2000 . 7 .
- 8) 八木聰明 : 外来におけるめまいの診療 . 三地区 (足立 , 葛飾 , 荒川区) 学術講演会 , 2000 . 9 .
- 9) 八木聰明 : 耳鼻咽喉科診療とめまい . 第213回日耳鼻山口県地方部会例会 , 2000 . 9 .
- 10) 大久保公裕 : 児童生徒のアレルギー性鼻炎について . 東京都医師会学校医研修会 , 2000 . 9 .
- 11) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎 . 医療研究会 , 2000 . 9 .
- 12) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の鼻閉に対する薬物療法 . 伊東市医師会学術講演会 , 2000 . 9 .
- 13) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLからみた治療 . アレルギー性鼻炎セミナー , 2000 . 9 .
- 14) 八木聰明 : めまいと眼球運動 . 徳島めまい研究会 , 2000 . 10 .
- 15) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLからみた治療 . 調布市耳鼻咽喉科医会学術講演会 , 2000 . 10 .
- 16) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLからみた治療 . 北信地区アレルギー性鼻炎セミナー , 2000 . 10 .
- 17) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の治療 . 福井県医師会学術講演会 , 2000 . 11 .
- 18) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の治療 . 北九州市医師会生涯教育講座 , 2000 . 11 .
- 19) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOLについて : 治療との関連 . 沖縄アレルギー性鼻炎フォーラム , 2000 . 12 .
- 20) 八木聰明 : めまいとその他覚的所見 . 平成13年耳友会定例総会・学術講演会 , 2001 . 1 .
- 21) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の治療とQOL . 水戸市医師会学術講演会 , 2001 . 1 .
- 22) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の治療 . 室蘭市医師会生涯教育講座 , 2001 . 1 .

- 23) 八木聰明：日常診療におけるめまいの取り扱い．第57回日耳鼻千葉県地方部会学術講演会，2001．2．
- 24) 大久保公裕：鼻アレルギーに対する減感作療法のEBM．関東甲信越鼻アレルギー，2001．2．
- 25) 大久保公裕：アラキドン酸カスケードとアレルギー性鼻炎．座間・綾瀬・海老名医師会共同学術講演会，2001．2．
- 26) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎の薬物療法．千葉県耳鼻咽喉科免疫アレルギー研究会，2001．3．
- 27) 大久保公裕：花粉症における免疫療法．第7回花粉症研究会（宇都宮），2001．3．

(3) 教育講演：

- 1) Pawankar R：Clinical application of the anatomy and physiology of the nose．17th International Congress of the Allergy and Clinical Immunology (Sydney, Australia), 2000．10．
- 2) Pawankar R：How to plan and do research as a clinician：Research highlights in Allergic disease．6th Asian Research Symposium in Rhinology (Hong Kong), 2001．3．
- 3) Pawankar R：International Guidelines：Allergic rhinitis and its impact on asthma (ARIA)．6th Asian Research Symposium in Rhinology (Hong Kong), 2001．3．
- 4) Pawankar R, Yamagishi S, Takizawa R, Nonaka M, Yagi T：Mast cells in allergic rhinitis：from fundamentals to clinical aspects．第39回日本鼻科学会総会，2001．9．
- 5) 三枝英人：“直接的”間接的嚥下訓練とその実際．第4回関東嚥下訓練技術者講習会，2000．10．
- 6) 大久保公裕：脂質メディエーターとアレルギー性鼻炎の成因．第50回日本アレルギー学会，2000．11．
- 7) 大久保公裕：Oral allergy syndrome (OAS) と花粉症．第37回日本小児アレルギー学会，2000．11．

(4) シンポジウム：

- 1) Pawankar R：Allergy a systemic disease its impact on QOL．2nd Annual Congress of the Malaysian Society of Allergy and Immunology (Kuala Lumpur, Malaysia), 2000．5．
- 2) Pawankar R, Yamagishi S, Takizawa R, Saito H, Iikura Y：Novel roles of mast cells in modulating IgE-mediated allergic inflammation．23rd Symposium of the Collegium International Allergologicum (Hakone, Japan), 2000．5．
- 3) Saito H¹⁾, Kempuraj D¹⁾, Pawankar R, Tomikawa M¹⁾, Ahn K¹⁾, Iikura Y²⁾(¹⁾Dept. of Allergy, National Children's Hospital, ²⁾Dept. of Pediatrics, Showa University School of Medicine): Human mast cell colony forming cells from adult peripheral blood．23rd Symposium of the Collegium International Allergologicum (Hakone, Japan), 2000．5．
- 4) Pawankar R：Impact of mast cells in the pathogenesis of nasal polyps．19th Annual Congress of the European Academy of Allergy & Immunology (Lisbon, Portugal), 2000．7．
- 5) Pawankar R：Pathophysiological link between Rhinitis and Asthma．17th Annual Congress of the Argentinian Society of Allergy Asthma and Immunology (Beunos Aires, Argentina), 2000．8．
- 6) Pawankar R：Anti-IgE treatment in allergic disease．9th International Rhinology Congress (Washington DC, USA), 2000．9．
- 7) Pawankar R：Pathogenesis of nasal polyps：Some novel concepts．IFOS Consensus Meeting on Nasal Polyposis (Siena, Italy), 2000．10．
- 8) Pawankar R：Mast cell-IgE-IgE receptor cascade in allergic disease．17th International Congress of the Allergy and Clinical Immunology (Sydney, Australia), 2000．10．
- 9) Pawankar R：Nasal Polyps：A multifactorial disease. World Allergy Forum．17th International Congress of the Allergy and Clinical Immunology (Sydney, Australia), 2000．10．
- 10) Takizawa R：Nasal epithelial cells express HLA-DR and CD86 and can present antigen to T cells．17th International Congress of Allergy and Clinical Immunology (Sydney, Australia), 2000．10．

- 11) Pawankar R : Allergic rhinitis : International versus Asian perspective on epidemiology and treatment . 6th Asian Research Symposium in Rhinology (Hong Kong), 2001 . 3 .
- 12) Pawankar R : Etiopathogenesis of nasal polyps : some novel concepts . 6th Asian Research Symposium in Rhinology (Hong Kong), 2001 . 3 .
- 13) 中溝宗永 : N2c 症例への対応 . 第 24 回日本頭頸部腫瘍学会 , 2000 . 6 .
- 14) Pawankar R : Local IgE synthesis and its functional significance . 第 5 回 那須ティーチイン , 2000 . 7 .
- 15) 大久保公裕 , 島田健一 , 奥田 稔 : アレルギー性鼻炎に対する舌下抗原特異的減感作療法 (シンポジウム 3 ; アレルギー性鼻炎 , アレルギー性結膜炎の病態と治療をめぐる最近の進歩) . 第 50 回日本アレルギー学会 , 2000 . 11 .
- (5) パネルディスカッション :
- 1) 大久保公裕 : 耳鼻咽喉科領域のステロイド薬の功罪 : 点鼻に関して . 第 37 回関東耳鼻咽喉科アレルギー懇話会 , 2000 . 9 .
- 2) 大久保公裕 : 花粉症 . リウマチ・アレルギー国際シンポジウム (平成 12 年度厚生科学研究) , 2001 . 3 .
- (6) セミナー :
- 1) 大久保公裕 : スギ花粉大量飛散時の対策と治療 . 第 19 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 2001 . 2 .
- (7) ワークショップ :
- 1) Nakamura S¹⁾ , Yamaji T¹⁾ , Tsunemastu M¹⁾ , Huh J¹⁾ , Okubo K , Gotoh M , Miyajima H²⁾ , Dairiki K²⁾ , Kino K²⁾ , Uchida M²⁾ , Tsunoo H²⁾ (¹⁾ 京大霊長類 , ²⁾ 明治乳業ヘルスサイエンス) : Effect of immunotherapeutic peptide with T-cell epitope to Japanese cedar (*Criptomeria japonica*, Cj) allergen in monkey Cj pollinosis model. (Immunotherapy) . 17th International Congress of Allergology and Clinical Immunology (Sydney) , 2000 . 10 .
- 2) 池園哲郎 , 大森 彬¹⁾ , 齋藤明彦 , 新藤 晋 , 大久保公裕 , Pawankar R (¹⁾ 三菱化学生命科学研究所) : 内耳自己抗原の同定 . 第 19 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 2001 . 2 .
- (8) 一般講演 :
- 1) Watanabe K , Hess A , Bloch W , Michel O : Expression of inducible nitric oxide synthase (iNOS) in vestibule of guinea pigs after the application of cisplatinum (CDDP) . 4th European Congress of Oto-Rhino-Raryngology Head and Neck Surgery (Berlin) , 2000 . 5 .
- 2) Shitara A , Yagi T : 3D analysis of nystagmus originating from the lateral canal in human subjects . 21st Barany Society Meeting (Uppsala, Sweden) , 2000 . 6 .
- 3) Pawankar R , Yamagishi S , Saito H¹⁾ , Takizawa R , Ahn K¹⁾ , Nonaka M , Yagi T (¹⁾ 国立小児病院小児医療研究センター免疫アレルギー) : Stem cell factor can regulate the phenotypes of nasal mast cells . 19th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (Barcelona, Spain) , 2000 . 6 .
- 4) Nonaka M , Pawankar R , Saji F , Yagi T : TGF- induces expression of smooth muscle -actin in human lung, but not nasal, fibroblasts . 19th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (Barcelona, Spain) , 2000 . 6 .
- 5) Yagi T , Kamura E : Three-dimensional analysis of eye movements during off vertical axis rotation in normals and patients with unilateral labyrinthine loss . Collegium Oto-Rhino-Laryngologicum Amicitiae Sacrum Meeting (Washington DC, USA) , 2000 . 8 .
- 6) Ikezono T , Omori A¹⁾ , Ichinose S¹⁾ , Ohkubo K , Pawankar R , Watanabe A²⁾ , Yagi T (¹⁾ Mitsubishi Kasei Institue of Life Sciences , ²⁾ Dept of Molecular Biology, Nippon Medical School) : 2-D gel electrophoresis to identify the inner ear antigen . 2000 Annual Meeting of the American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation (Washington DC, USA) , 2000 . 9 .

- 7) Yamagishi S , Pawankar R , Takizawa R , Yagi T : Nasal epithelial cells express the high-affinity IgE receptor of IgE . 9th International Rhinologic Congress (Washington DC, USA), 2000 . 9 .
- 8) Pawankar R : IL-4 upregulates SCF production from nasal epithelial cells . 9th International Rhinology Congress (Washington DC, USA), 2000 . 9 .
- 9) Watanabe K , Tomiyama S , Jinnouchi K , Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase in the cochlea of guinea pigs following immune reaction . 37th Workshop on Inner Ear Biology (Sweden), 2000 . 9 .
- 10) Nakagawa T¹⁾, Akiyama K²⁾, Hasegawa M²⁾, Iwasaki E³⁾, Ikezawa Z⁴⁾, Ohkubo K , Igawa T⁵⁾, Miyamoto T⁶⁾(¹⁾ 聖マリアンナ医大内科, ²⁾ 国立相模原病院臨床研究部, ³⁾ 同愛記念病院小児科, ⁴⁾ 横浜市大皮膚科, ⁵⁾ 日立化学, ⁶⁾ 東大内科): Evaluation of MAST-26, newly developed system for detection of IgE antibodies . 17th International Congress of Allergology and Clinical Immunology (Sydney), 2000 . 10 .
- 11) Takizawa R : Nasal epithelial cells express HLA-DR and CD86 and can present antigen to T cells . 17th International Congress of the Allergy and Clinical Immunology (Sydney, Australia), 2000 . 10 .
- 12) Nonaka M , Pawankar R , Fukumoto A¹⁾, Yagi T (¹⁾ 千葉北総病院耳鼻科): Heterogeneous Responsiveness of Airway Fibroblasts to TGF- . 57th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2001 . 3 .
- 13) Pawankar R , Takizawa R , Saito H¹⁾, Nonaka M , Okada N¹⁾, Yamagishi S²⁾, Yagi T (¹⁾ 国立小児病院小児医療研究センター免疫アレルギー): RANTES can regulate mast cell migration into the allergic nasal epithelium . 57th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2001 . 3 .
- 14) Yamagishi S , Pawankar R , Takizawa R , Yagi T : Increased expression of the Fc RI in nasal epithelial cells of allergic rhinitics : Its upregulation by IL-4 . 57th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New Orleans, U. S. A.), 2001 . 3 .
- 15) Pawankar R : DEP upregulates HLA-DR and CD86 expression in nasal epithelial cells . 57th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2001 . 3 .
- 16) Kimura Y¹⁾, Pawankar R , Aoki M¹⁾, Niimi Y¹⁾, Kawana S¹⁾(¹⁾ 皮膚科): Mast cells in Kimura's disease express eotaxin, RANTES, and IL-5 . 57th Annual Meeting of the American Academy of Allergy, Asthma and Immunology (New Orleans, USA), 2001 . 3 .
- 17) Ikezono T , Pawankar R , Yagi T , Omori A¹⁾, Ichinose S¹⁾(¹⁾ Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences): Proteomic analysis of inner ear proteins by 2-dimensional gel electrophoresis . 21st Barany Society Meeting (Uppsala, Sweden), 2000 . 6 .
- 18) 小山 守, 森園徹志, 後藤 稔, 小津千佳: 当科鼻アレルギー外来症例の検討 . 第60回静岡地方部会, 2000 . 4 .
- 19) 大久保公裕, 大井一雄¹⁾, 紀 光助¹⁾, 奥田 稔 (¹⁾ 明治乳業ヘルスサイエンス): スギ花粉症に対する舌下抗原特異的免疫療法 . 第12回日本アレルギー学会春期臨床大会, 2000 . 4 .
- 20) 三枝英人: 複数の嚙下リハビリテーションテクニックの組み合わせによる治療について . 第9回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 2000 . 4 .
- 21) 小津千佳, 森園徹志, 後藤 稔, 小山 守: 頭頸部腫瘍の術前診断における穿刺吸引細胞診の診断的価値 . 第60回静岡県地方部会, 2000 . 4 .
- 22) 池園哲郎, 大森 彬¹⁾, 一ノ瀬幸代¹⁾, 大久保公裕, Pawankar R , 八木聰明 (¹⁾ 三菱化学生命科学研究所): 2次元電気泳動法による内耳自己抗原同定の試み . 第101回 日本耳鼻咽喉科学会総会, 2000 . 5 .
- 23) 神尾友信¹⁾, 青柳美生, 嘉村恵理子¹⁾, 野中 学, 馬場俊吉¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院耳鼻科): 縦隔へ進展した深頸部感染の3症例 . 第55回千葉県地方部会, 2000 . 6 .

- 24) 横島一彦, 中溝宗永, 矢嶋裕徳, 中嶋博史, 滝沢竜太, 八木聡明, 森園徹志¹⁾(¹⁾静岡済生会総合病院耳鼻科): 上縦隔手術例の検討. 第24回日本頭頸部腫瘍学会, 2000. 6.
- 25) 大久保公裕, 滝沢竜太, 島田健一, 奥田 稔, 八木聡明: アレルギー性鼻炎に対する粘膜凝固法. 第45回臨床アレルギー研究会(東京), 2000. 6.
- 26) 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明: 耳閉塞感のVASによる評価: 突発性難聴新鮮症例における検討. 第5回耳閉塞感研究会, 2000. 7.
- 27) 後藤 稔^{1,2)}, 森園徹志^{1,2)}, 小山 守¹⁾, 小津千佳¹⁾(¹⁾静岡済生会総合病院耳鼻科, ²⁾静岡県花粉症調査委員会): 2000年春のスギ・ヒノキ科花粉飛散状況. 第61回日耳鼻静岡県地方部会学術講演会, 2000. 7.
- 28) 小山 守, 森園徹志, 後藤 稔, 小津千佳: 二次性上皮小体機能亢進症の術式と術後. 第61回静岡県地方部会, 2000. 7.
- 29) 渡邊健一, 富山俊一, 陣内 賢, 八木聡明: シスプラチンによる蝸牛障害とアポトシス single-stranded DNA (ssDNA) による検討. 第18回頭頸部自律神経研究会, 2000. 8.
- 30) 野中 学, Pawankar R, 佐地富佐子, 八木聡明: 気道線維芽細胞の TGF- β に対する反応性について: 上気道と下気道の違い. 第39回日本鼻科学会総会, 2000. 9.
- 31) 滝沢竜太, Pawankar R, 山岸茂夫, 八木聡明: HLA-DR, CD86を介した鼻粘膜上皮細胞のT細胞活性化とその調節. 第39回日本鼻科学会総会, 2000. 9.
- 32) 横山有希子, 渡邊健一, 中嶋博史, 大久保公裕, 八木聡明: 急性副鼻腔炎より波及した前額部膿瘍の1症例. 第101回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 2000. 10.
- 33) 新藤 晋, 池園 哲郎, 渡邊健一, 馬場俊一, 八木聡明: 外傷性難聴症例の検討. 第10回日本耳科学会総会, 2000. 10.
- 34) 秋元利香, Pawankar R, 八木聡明, 馬場俊吉: 先天性および後天性真珠腫における TNF- α , IL1- β , ICAM-1, LFA-1について. 第10回日本耳科学会総会, 2000. 10.
- 35) 渡邊健一, 富山俊一, 陣内 賢, 八木聡明: 内リンパ嚢局所免疫動物における誘導型一酸化窒素合合酵素の発現. 第10回日本耳科学会総会, 2000. 10.
- 36) 池園哲郎, 大森 彬¹⁾, Pawankar R, 渡辺 淳²⁾, 八木聡明(¹⁾三菱化学生命科学研究所, ²⁾生化学第2): 遺伝性難聴・めまい疾患(DFNA9)の原因遺伝子, COCHの蛋白発現について. 第59回日本平衡神経科学会総会, 2000. 11.
- 37) 小川千鶴子, 森園徹志, 後藤 稔, 小山 守: 気管に再発した甲状腺癌の1例. 第62回静岡県地方部会, 2000. 11.
- 38) 大久保公裕, 滝沢竜太, 島田健一, 奥田 稔: スギ花粉症に対する抗原特異的免疫療法: 従来品から標準化品への切り替え. 第50回日本アレルギー学会, 2000. 11.
- 39) 三枝英人, 山下和雄¹⁾, 後藤 忠¹⁾, 新美成二²⁾(¹⁾解剖学第1, ²⁾東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 内舌筋の組織解剖学的研究: 特に横舌筋について. 第45回日本音声言語医学学会総会・学術講演会, 2000. 11.
- 40) 三枝英人, 若旅 正¹⁾, 岩本容武²⁾, 新美成二²⁾, 八木聡明(¹⁾伊勢崎市民病院耳鼻咽喉科, ²⁾東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 喉頭乳頭腫に対する shaver system による喉頭直達鏡下手術の経験. 第52回日本気管食道科学会総会・学術講演会, 2000. 11.
- 41) 青木見佳子¹⁾, Pawankar R, 木村陽一¹⁾, 新見やよい¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾皮膚科): 皮膚基底細胞癌におけるマスト細胞の動態. 第50回日本アレルギー学会総会, 2000. 11.
- 42) 木村陽一¹⁾, Pawankar R, 青木見佳子¹⁾, 新見やよい¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾皮膚科): 木村病における RANTES および Eotaxin の発現についての検討. 第50回日本アレルギー学会総会, 2000. 11.
- 43) Pawankar R, Takizawa R, Yamagishi S, Yagi T: Role of mast cells in the late phase allergic reaction. 第

- 50回日本アレルギー学会総会，2000．11．
- 44) 森下まき，八木聰明：外側半規管型BPPVは外側半規管由来か．第59回めまい平衡医学会総会，2000．11．
- 45) Yamagishi S，Takizawa R，Pawankar R：Regulation of stem cell factor production in nasal epithelial cells．第50回日本アレルギー学会総会，2000．11．
- 46) 小泉康雄：振子様OVARによる眼球運動三次元解析．第59回めまい平衡医学会総会，2000．12．
- 47) 稲井俊太，横島一彦，中溝宗永，粉川隆行，中嶋博史，矢嶋裕徳，渡辺秀行，富山俊一，八木聰明：頭頸部癌手術の統計．第11回日本頭頸部外科学会，2001．1．
- 48) 森園徹志：静岡県花粉症調査委員会による2000年のスギ花粉症調査報告．第19回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー研究会，2001．1．
- 49) 野中 学，Pawankar R，福元 晃¹⁾，八木聰明⁽¹⁾千葉北総病院耳鼻咽喉科)：気道線維芽細胞のTGF- β に対する反応性について(第2報)：上気道と下気道の違い．第19回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2001．2．
- 50) 大久保公裕，滝沢竜太，島田健一，奥田 稔，八木聰明：花粉症に対する超音波メス粘膜凝固の効果．第19回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2001．2．
- 51) Pawankar R，Takizawa R，Yamagishi S，Yagi T：Role of nasal mast cells in the late phase allergic reaction．第19回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2001．2．
- 52) 滝沢竜太，Pawankar R，山岸茂夫，八木聰明：HLA-DR，CD86を介した鼻粘膜上皮細胞のT細胞活性化とその調節：DEPによる影響．第19回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2001．2．
- 53) 三枝英人，天田憲夫¹⁾，新美成二²⁾(¹⁾伊勢崎市民病院小児科，²⁾東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室)：重篤なチアノーゼを繰り返した小児胃食道逆流症の1例．第13回日本喉頭科学会総会・学術講演会，2001．3．
- 54) 粉川隆行，三枝英人，新美成二¹⁾，八木聰明⁽¹⁾東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室)：母音発声時の舌後方運動と咽頭収縮運動との関与．第13回日本喉頭科学会総会・学術講演会，2001．3．
- 55) 荻原 望，池園哲郎，粉川隆行，中溝宗永，右田 真¹⁾，小笠原有紀，矢内峻裕²⁾，八木聰明⁽¹⁾日本医科大学小児科，²⁾順天堂大学医学部小児外科)：保存的治療により治癒したリチウム電池誤飲後食道気管瘻の1例．第143回東京都地方部会，2001．3．

[第二病院耳鼻咽喉科]

研究概要

平衡神経学，鼻アレルギーを中心とした研究が行われている．平衡神経学では，めまい疾患に対する治療の現況とその評価として，「めまいを伴った突発性難聴」につき日本めまい平衡医学会総会のシンポジストとして発表した．また良性発作性頭位めまい症の理学療法についての講演も行われている．アレルギーについては小児のアレルギー性鼻炎と副鼻腔炎の合併について，また，アスピリン喘息に伴う副鼻腔炎の薬物療法について報告した．全体としては臨床的な研究が中心であるが，今後は基礎的な研究も視野に入れて計画している．

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) 渡邊健一，野中 学，嘉村恵理子，青木秀治，八木聰明，大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部)：舌根部に発生した骨腫の1症例．耳喉頭頸 2000；72(6)：339-341．
- 2) 黒崎貞行，青木秀治，山内陽子：ブランカストが奏効したアスピリン喘息に伴う副鼻腔炎症例．新薬と臨床 2001；50(1)：183-188．

(2) 総説：

- 1) 青木秀治, 八木聰明：めまいの検査．薬局 2000；51(9)：1982-1987．

著 書

- 1) 青木秀治：〔分担〕めまい，平衡障害・耳鼻咽喉疾患．今日の治療指針（八木聰明），2001；pp889-890，医学書院．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 青木秀治：良性発作性頭位めまい症の理学療法．川崎市耳鼻咽喉科医会学術講演会，2001．1．
- 2) 青木秀治：良性発作性頭位めまい症の理学療法．日本耳鼻咽喉科医会連合会．第25回臨床家フォーラム，2000．8．
- 3) 黒崎貞行：発症機序からみたアレルギー性鼻炎の治療法．熱海市医師会学術講演会，2001．2．

(2) シンポジウム：

- 1) 青木秀治：めまいを伴った突発性難聴（めまい疾患に対する治療の現況とその評価）．第59回日本めまい平衡医学会総会，2000．11．

(3) 一般講演：

- 1) 山内陽子，國友万由美，黒崎貞行，日賀一成，木下俊之，青木秀治：小児アレルギー性鼻炎患者における副鼻腔炎合併例の検討．第43回日本小児耳鼻咽喉科研究会，2000．12．

[多摩永山病院耳鼻咽喉科]

研究概要

- (1) 扁桃の加齢による変化について
- (2) 内耳の自己免疫の研究（特に抗体について）
- (3) 呼吸器粘膜傷害時の細胞変化について
- (4) 睡眠時無呼吸の手術による効果について

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Ikezono T, Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Yagi T : Passive transfer of experimental autoimmune labyrinthitis . *Audiol Nuerootol* 2000 ; 5 : 292-299 .
- 2) Watanabe K, Tomiyama S, Jinnouchi K, Yagi T : Detection of single-stranded DNA in the hydropic vestibule after the direct injection of antigen into the endolymphatic sac of guinea pigs . *Neuroscience Letter* 2000 ; 293 : 57-60 .

(2) 研究報告書：

- 1) 富山俊一：実験的自己免疫性迷路炎モデルの開発：自己免疫迷路炎介在リンパ球の免疫組織化学的解析．平成12年度厚生省特定研究 聴覚平衡系機能系疾患調査研究 2001；pp115-117．

(3) 総説：

- 1) 富山俊一：慢性（再発性）耳下腺炎．*JOHNS* 2000；16(9)：1416-1417．

著 書

- 1) Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Pawankar R : [分担] An animal model for autoimmune inner ear disease . New Frontiers in Immunobiology (Veldman JE, Passali D, Lim DJ), 2000 ; pp103-111 , Kulger Publications, .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 富山俊一 : 実験的内耳免疫傷害モデル動物に対する半夏百朮天麻湯 (TJ37) の抗免疫傷害効果テーマ : 耳鳴・眩暈の病態と治療 . 第28回 千葉東洋医学シンポジウム , 2000 . 11 .

(2) 一般講演 :

- 1) Tomiyama S : The profile of lymphocytes in experimental autoimmune labyrinthitis . 37th Work shop of inner ear biology (Uppsala), 2000 . 9 .
- 2) Watanabe K , Tomiyama S , JInnouchi K , Yagi T : Expression of inducible nitric oxide synthase (iNOS/NOS II) in the cochlea following immune response in the endolymphatic sac of huinea pigs . 37th Workshop on Inner ear biology (Uppsala), 2000 . 9 .
- 3) 富山俊一 : 実験的自己免疫性迷路炎 : 浸潤リンパ球の免疫組織化学的分析 . 第10回 日本耳科学会 , 2000 . 10 .
- 4) 渡辺健一 , 富山俊一 , 陣内 賢 , 八木聰明 : 内リンパ嚢局所免疫動物における誘導型一酸化窒素合成酵素の発現 . 第10回 日本耳科学会 , 2000 . 10 .
- 5) 立 雅容 , 富山俊一 , 頼 徳成 , 豊田雅基 , 島田健一 , 島田早苗 : 外歯瘻の1症例 . 第142回 日本耳鼻咽喉科東京都地方部会 , 2001 . 1 .
- 6) 富山俊一 : 実験的自己免疫性迷路炎における Th1 細胞の役割 . 第19回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 , 2001 . 3 .

[千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

耳科学, 聴覚学, 平衡神経学, アレルギー学, 頭頸部腫瘍学を中心に臨床にそくした研究が行われている。聴覚学では突発性難聴の臨床経過, 耳鳴の発生機序とマスクによる治療や客観的評価の研究が進んでいる。

平衡神経学では平衡機能検査など臨床を中心にした研究と基礎的研究として眼球運動の三次元解析を付属病院と共同で行っている。

アレルギー学ではアレルギーの発現機序や線維芽細胞に対する影響など組織培養を中心に基礎的研究を行っている。また, 頭頸部腫瘍学においては治療に対する統計学的検討を行っている。

研究業績

論 文

(1) 原著 :

- 1) 嘉村恵理子, 八木聰明¹⁾(¹⁾ 付属病院耳鼻咽喉科): Three-dimensional Analysis of Eye Monements during Off Vertical Axis Rotation in Patients with Unilateral Labirinthine Loss .Acta Otolaryngol 2001 ; 121 : 225-228 .
- 2) 横島一彦¹⁾, 中溝宗永, 矢嶋裕徳, 滝沢竜太, 粉川隆行, 中嶋博史, 八木聰明(¹⁾ 付属病院耳鼻咽喉科): 頭頸部腫瘍診療でのインフォームドコンセントの限界 . 頭頸部外科 2000 ; 10 (1): 85-88 .

- 3) 嘉村恵理子, 小坂和己¹⁾, 野中玲子, 野中 学, 馬場俊吉 (¹⁾こさか耳鼻咽喉科): 外耳道深部に発生した海綿状血管腫の1症例. 耳鼻・頭頸部科 2000 ; 72 (7): 418-421 .
- 4) 相原康孝¹⁾, 横島一彦²⁾, 馬場俊吉, 上野博史¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 先天性真珠腫症例の検討. Otology Japan 2000 ; 10 (3): 181-185 .
- 5) 福元 晃, 池園哲郎¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 中嶋博史¹⁾, 横島一彦¹⁾, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 上顎洞血管腫の3症例. 耳喉頭頸 2000 ; 72 (10): 665-669 .
- 6) 中溝宗永¹⁾, 横島一彦, 鎌田信悦²⁾, 川端一嘉²⁾, 苦瓜知彦²⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科, ²⁾癌研究会付属病院頭頸科): 両側頸部リンパ節転移症例への対応. 頭頸部腫瘍 2000 ; 26 (3): 504-508 .
- 7) 横島一彦, 中溝宗永¹⁾, 矢嶋裕徳¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 中嶋博史¹⁾, 滝沢竜太¹⁾, 森園徹志²⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科, ²⁾静岡済生会総合病院): 縦隔気管孔形成手術症例の検討. 頭頸部腫瘍 2001 ; 27 (1): 62-66 .
- 8) 野中 学, Pawankar R, 佐地富佐子, 福元 晃, 八木聡明: 鼻腔線維芽細胞のTGF- に対する反応性について. 耳鼻免疫アレルギー 2001 ; 19 (1): 1-4 .
- 9) 嘉村恵理子, 馬場俊吉, 神尾友信, 小津千佳, 福元 晃, 野中 学: 舌根部異所性甲状腺の1例. 耳鼻・頭頸外科 2001 ; 73 (4): 254-255 .

(2) 総説 :

- 1) 馬場俊吉: 突発性難聴治療の最前線: プロスタグランディン治療の動向. 耳鼻と臨床 2000 ; 46 (6): 506-508 .
- 2) 馬場俊吉: 高齢者医療と介護の実際: 高齢者の耳鳴とその対策. JOHNS 2000 ; 16 (12): 1877-1879 .
- 3) 馬場俊吉: 鼓膜形成術. 耳鼻・頭頸外科 2001 ; 73 (3): 241-244 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 馬場俊吉: アレルギー性鼻炎の診断と治療. 第9回千葉県病院薬学セミナー, 2000 . 12 .

(2) 教育講演 :

- 1) 馬場俊吉: 慢性中耳炎に対する手術療法. 日本耳鼻咽喉科連合会第25回臨床科フォーラム, 2000 . 8 .

(3) 一般講演 :

- 1) Nonaka M, Pawanker R, Fukumoto A, Yagi T : Heterogeneous responsiveness of air way fibroblasts to TGF- . 57th American academy of allergy, asthma and immunology (annual meeting) (New Orleans, Louisiana), 2001 . 3 .
- 2) 横島一彦, 中溝宗永, 中嶋博史, 粉川隆行, 矢嶋裕徳: 上縦隔手術症例の検討. 第24回日本頭頸部腫瘍学会, 2000 . 6 .
- 3) 神尾友信, 嘉村恵理子, 粉川美生¹⁾, 福元 晃, 野中 学¹⁾, 馬場俊吉 (¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 縦隔へ進展した深頸部感染の3症例. 日本耳鼻咽喉科学会第55回千葉県地方部会, 2000 . 6 .
- 4) 渡邊健一¹⁾, 馬場俊吉, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 耳閉塞感のVASによる経時的観察: 突発性難聴新鮮例の検討. 第5回耳閉塞感研究会, 2000 . 7 .
- 5) 福元 晃, 野中 学, 神尾友信, 嘉村恵理子, 小津千佳, 馬場俊吉, 大秋美治: 下咽頭梨状窩にみられた異所性副甲状腺の1症例. 日本耳鼻咽喉科学会第56回千葉県地方部会, 2000 . 9 .
- 6) 嘉村恵理子, 森下まき¹⁾, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): Subjective Visual Horizontalにおける耳石器の役割について. 第59回日本めまい平衡医学会, 2000 . 11 .
- 7) 稲井俊太¹⁾, 横島一彦, 中溝宗永¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 富山俊一²⁾, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科, ²⁾多摩永

山病院耳鼻咽喉科): 頭頸部癌手術症例の統計. 第11回日本頭頸部外科学会, 2001. 1.

- 8) 小津千佳, 嘉村恵理子, 粉川美生¹⁾, 馬場俊吉, 福元 晃, 神尾友信, 横島一彦, 八木聡明¹⁾(¹⁾付属病院耳鼻咽喉科): 上眼瞼向き眼振を認めた Wernicke脳症2例. 日本耳鼻咽喉科学会第57回千葉県地方部会, 2001. 2.
- 9) 野中 学, Pawankar R, 福元 晃, 八木聡明: 気道線維芽細胞のTGH- に対する反応性について(第2報): 上気道と下気道の違い. 第19回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2001. 2.

15．泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

泌尿器科学講座では尿路性器腫瘍学をはじめ、泌尿器内視鏡学、尿路感染症学、尿路結石学、尿路神経学、男性学（Andrology）、腎移植学、婦人科の泌尿器科学、血液浄化療法を中心に研究を行っている。

1) 尿路性器腫瘍学：腎癌に対して腹腔鏡下腎摘除術および腎温存手術、進行性腎癌に対する免疫療法、尿路上皮内癌および表在性膀胱腫瘍に対するBCG注入療法、浸潤性尿路腫瘍に対する化学療法・手術療法を中心とした集学的治療の研究を行っている。また、前立腺癌に対して超音波診断装置を用いたFusion3Dによる早期発見、腹腔鏡下手術を含めた外科的療法、化学療法、ホルモン療法を中心に研究している。また、泌尿器癌細胞におけるシクロオキシゲナーゼ2の役割についても研究している。更に尿路上皮腫瘍における低酸素応答と血管新生にかんする研究、尿路上皮腫瘍における遺伝子診断の基礎的研究も行っている。

2) 尿路結石学：体外衝撃波碎石装置、レザ、新型碎石装置を用いた治療法の臨床研究を行っている。

3) 泌尿器内視鏡学：ホルニウムYAGレザを用いた内視鏡手術、腹腔鏡下手術の臨床的研究、尿管疾患に対する細径プロブ超音波診断に関する基礎的並びに臨床的研究を行っている。

4) Andrology：雄ラットの性行動など基礎研究と共に勃起障害の病態と薬物療法についての研究を行っている。

5) 腎移植学：ブタ腎のヒトへの異種移植にかんする基礎的研究を行っている。

6) 婦人科泌尿器科学：腹圧性尿失禁に対す鶴薬物療法並びに外科適量についての研究を行っている。

7) 血液浄化療法：腎機能障害患者における薬物除去効果に関する研究及び、様々な疾患に対する各種血液浄化療法についての研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Watarai Y¹⁾, Satoh H¹⁾, Matsubara M¹⁾, Asakawa K¹⁾, Kamaguchi H¹⁾, Nagai S¹⁾, Murase Y¹⁾, Yokoyama M¹⁾, Kimura G, Tamura K¹⁾, Sugisaki Y¹⁾ (¹⁾病理部): Comparison of urine cytology between the ileal conduit and Indiana pouch . Acta Cytologica 2000 ; 44 (5) : 748-751 .

2) Horiuchi K, Tuboi N, Kimura G, Shimizu H, Matsuzawa I, Watanabe J, Ymagata K, Hattori T, Kondo Y, Yoshida K, Akimoto M : Usefulness of endoluminal ultrasonography in assessing the depth of tumor invasion in the upper urinary tract : Comparison with pathologic assessment . Jpn J Endourol ESWL 2000 ; 13 : 108-112 .

3) Yanagiya T¹⁾, Imura N¹⁾, Enomoto S¹⁾, Kondo Y, Himeno S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Public health, Kitasato University.) : Suppression of high-affinity transport system for manganese in cadmium-resistant metallothionein null cells . J. Pharmacol. Exp. Therap. 2000 ; 292 : 1080-1086 .

4) Horiuchi K, Tuboi N, Shimizu H, Matsuzawa I, Kimura G, Yoshida K, Akimoto M : High-frequency endoluminal ultrasonography for staging transitional cell carcinoma of the bladder . Urology 2000 ; 56 : 404-407 .

5) Hashimoto Y, Kimura G, Osawa S, Tuboi N, Akimoto M : A Clinical pathologic Study of Rnal cell Carcinoma Based on New TNM classification . 日外科系連会誌 2000 ; 25 (6) : 855-858 .

6) Osawa S¹⁾, Nishimura T¹⁾, Akimoto M²⁾, Abe H¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kuroda S²⁾ (¹⁾ Dep. of Urology Chiba-

Hokusou Hospital, ²⁾Dep. of Plastic Reconstructive Surgery Chiba-Hokusou Hospital): Repair of fistula between bladder and perineal skin by femoral gracilis flap interposition. Int J Urol 2001; 8(2): 80-82.

7) Shimizu H, Akasaka S, Suzuki S¹⁾, Akimoto M, Shimada T¹⁾ (¹⁾Department of Biochemistry and Molecular Biology Division of Gene Therapy research, Center for Advanced Medical Technology): Preferential gene transfer to BBN-induced rat bladder tumor by simple instillation of adenoviral vector. UROLOGY 2001; 57: 579-584.

8) 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 前立腺小細胞癌の1例. 泌紀 2000; 46(6): 425-427.

9) 木全亮二, 根本 勺, 松沢一郎, 山形健治, 木村 剛, 近藤幸尋, 堀内和孝, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 精巣腫瘍との鑑別が困難であった精巣上体結核の1例. 泌紀 2000; 46(8): 565-568.

10) 橋本義孝¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 黒田周一²⁾, 秋元成太 (¹⁾北村山公立病院泌尿器科, ²⁾同形成外科): フルニ工壊疽の1例. 北村山病医誌 2000; 5: 57-59.

11) 大澤秀一, 木村 剛, 木全亮二, 橋本義孝, 坪井成美, 秋元成太: 根治的腎摘除術における所属リンパ節郭清の意義について. 腎癌研究会会報 2001; 20: 58-59.

12) 大澤秀一, 木村 剛, 橋本義孝, 根本 勺, 坪井成美, 秋元成太: 進行性腎癌に対するインターフェロン投与の有用性についての検討. 腎癌研究会会報 2001; 19.

(2) 総説:

1) 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 特集: 泌尿器切除標本の取り扱い方 TUR 標本の取り扱い方. 臨泌 2000; 54(6): 423-428.

2) 木村 剛, 木全亮二, 秋元成太: 超音波ガイド下前立腺生検術 前立腺生検は果たして6針で十分か: 6針で十分という立場から. 臨泌 2000; 54(12): 955-961.

著 書

1) 堀内和孝: [分担] 第4部 高齢者に日常よくみられる病気や異常の基礎知識とその対応 尿失禁. 高齢者介護実践ガイド(主幹; 和田攻, 武富由雄 委員; 大國美智子, 津村智恵子, 長尾清子, 野崎香野), 2000; pp476-481, 文光堂.

2) 堀内和孝: [分担] 前立腺肥大症. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp46-49, 医学書院.

3) 堀内和孝: [分担] 排尿障害. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp40-41, 医学書院.

4) 堀内和孝: [分担] 腫瘍, 癌性疼痛. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp71-73, 医学書院.

5) 清水宏之: [分担] 腫瘍(自己血輸血). 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp76-78, 医学書院.

6) 木村 剛: [分担] 進行腎癌. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp56-57, 医学書院.

7) 木村 剛: [分担] 前立腺癌. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp63-67, 医学書院.

8) 大澤秀一: [分担] 精巣上体炎. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp13-14, 医学書院.

9) 坪井成美: [分担] 尿路結石. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋元成太, 堀内和孝), 2001; pp50-52, 医学書院.

10) 佐藤三洋: [分担] 抗癌剤使用に関する Informed consent (IC) の実施法. 泌尿器科外来処方マニュアル(秋

元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp54-55, 医学書院 .

- 11) 近藤幸尋 : [分担] 表在性膀胱癌 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp58-60, 医学書院 .
- 12) 近藤幸尋 : [分担] 進行性膀胱癌, 腎盂尿管癌 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp61-62, 医学書院 .
- 13) 佐藤三洋 : [分担] 陰茎腫瘍 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp68-70, 医学書院 .
- 14) 近藤幸尋 : [分担] 制吐剤の使い方 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp74-75, 医学書院 .
- 15) 吉田和弘 : [分担] 男子不妊症 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp91-92, 医学書院 .
- 16) 近藤幸尋 : [分担] 勃起不全 (ED). 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp93-95, 医学書院 .
- 17) 吉田和弘 : [分担] 精巣機能不全 (思春期精巣発育障害). 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp96-98, 医学書院 .
- 18) 佐藤三洋 : [分担] 性早熟 (男子). 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp99-100, 医学書院 .
- 19) 佐藤三洋 : [分担] 思春期遅発症 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp101-102, 医学書院 .
- 20) 吉田和弘 : [分担] 慢性腎不全 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp106-109, 医学書院 .
- 21) 大澤秀一 : [分担] シャント管理 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp110-111, 医学書院 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Kimura G, Akimoto M : ULTRASOUND FUSION THREE-DIMENSIONAL IMAGING IN THE DIAGNOSIS OF PROSTATE CANCER . annual scientific meeting of Formosan Medical Association (Taipei), 2000 . 11 .
- 2) 木村 剛 : 前立腺疾患における超音波診断 . Radiology Ultrasound 研究会, 2000 . 5 .
- 3) 木村 剛 : 前立腺癌診断 1 . -セミノプロテイン 2 . 超音波 Fusion3D 法 . 前立腺癌と腫瘍マーカー研究会, 2000 . 11 .

(2) パネルディスカッション :

- 1) 木村 剛 : 前立腺生検は6針で十分か? . 日本超音波学会総会, 2000 . 5 .

(3) ワークショップ :

- 1) 清水宏之, 坪井成美, 堀内和孝, 秋元成太 : 腎盂尿管腫瘍に対する腎温存 Endoluminal Surgery : Endoluminal Itrasound と Ho : YAG レーザーの有用性 . 第13巻日本内視鏡外科学会総会, 2000 . 12 .

(4) 一般講演 :

- 1) Kondo Y, Matsuzawa I, Kimura G, Hashimoto Y, Akimoto M, Imura N¹⁾, Hara S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Pharmacology, Kitasato university): Cyclooxygenase-2 expression in human bladder tumor . 91th American association of cancer reserach meeting (San Francisco), 2000 . 4 .
- 2) Hashimoto Y, Kondo Y, Kimura G, Matsuzawa I, Sato S¹⁾, Ishizaki M²⁾, Akimoto M (¹⁾ Central institute for Electron Microscopic Reserach, Nippon Medical School, ²⁾ Pathology I, Nippon Medical School): Novel

- biomarker "Cyclooxygenase-2" in human renal cell carcinoma . Annual meeting of American Urological Association (Atlanta), 2000 . 5 .
- 3) Hashimoto Y , Kondo Y , Kimura G , Matsuzawa I , Sato S¹⁾ , Ishizaki M²⁾ , Akimoto M (¹⁾中央電子顕微鏡研究施設 , ²⁾病理学第1): Novel biomarker : "cyclooxygenase-2" in human renal cell carcinoma . American Urological Association annual meeting (Atlanta), 2000 . 5 .
 - 4) Kimura G , Yoshida K , Matsuzawa I , Hashimoto Y , Kondo Y , Akimoto M : Localization of active enzyme form of metalloproteinases in urothelial cancer tissues examined by a novel method of film in situ zymography (FIZ) . American Urological Association annual meeting (Atlanta), 2000 . 5 .
 - 5) Kimura G , Fukugasako M¹⁾ , Ido M¹⁾ , Akimoto M (¹⁾東芝メディカル): Usefulness of ultrasound fusion 3D imaging in the diagnosis of prostate cancer . World Federation For Ultrasound In Medicine and Biology (Florence), 2000 . 5 .
 - 6) Kimura G , Kondo Y , Akimoto M : Prostate specific antigen, gamma-seminoprotein and transition zone volume are the best combination in distinguishing benign prostatic hyperplasia and early prostate cancer . Asian and Oceanic Congress of Andrology (Makuhari), 2000 . 5 .
 - 7) Matuzawa I¹⁾ , Kondo K , Kimura K , Hashimoto H , Tuboi N , Akimoto M (¹⁾Nippon Medical School 2nd hospital, Dept of Urology): Cyclooxygenase-2 expression and relation to malignant potential in human bladder cancer . 95th Annual Meeting of American Urological Association (Atlanta), 2000 . 5 .
 - 8) Matuzawa I¹⁾ , Kondo Y , Kimura G , Suzuki Y , Tuboi N , Akimoto M (¹⁾Nippon Medical School 2nd hospital, Dept of Urology): Cyclooxygenase-2 expression and relationship to malignant potential in human bladder cancer . 93rd Annual Scientific Meeting of Formosan Medical Association (Taipei), 2000 . 8 .
 - 9) Horiuchi K , Shimizu H , Matuzawa I , Suzuki Y , Osawa S , Kimura G , Yosida K , Akimoto M : Usefulness of endoluminal ultrasonography in assessing the depth of tumor invasion in the urinary tract . Society of International Urology (Singapore), 2000 . 11 .
 - 10) Kimata R , Kimura G , Nemoto K , Hashimoto Y , Osawa S , Akimoto M : Computed tomography characterization of renal cell carcinoma correlation with histological types . 93rd Annual Scientific Meeting of Formosan Medical Association (Taipei), 2000 . 11 .
 - 11) Matuzawa I¹⁾ , Kondo Y , Osawa S , Akimoto M , Yokoyama H²⁾ , Fukuma M²⁾ , Takano K²⁾ (¹⁾Nippon Medical School 2nd hospital, Dept of Urology , ²⁾Nippon Medical School, Dept of 1st Internal Medicine): Cardiac evaluation using treadmill test for ED patients before treatment with Sildenafil . 25th International Society Congress of Urology (Singapore), 2000 . 11 .
 - 12) Matuzawa I¹⁾ , Kondo Y , Horiuchi K , Akimoto M , Yokoyama H²⁾ , Takano T²⁾ (¹⁾Nippon Medical School 2nd hospital, Dept of Urology , ²⁾Nippon Medical School, Dept of 1st Internal Medicine): Cardiac evaluation using treadmill test for ED patients before treatment with Sildenafil Citrate . 9th World Meeting on Impotence Research (Perth), 2000 . 11 .
 - 13) 濱崎 務 , 橋本義孝 , 大垣憲司 , 山形健治 : 感染性腎嚢胞の1例 . 第71回山形泌尿器研究会 , 2000 . 4 .
 - 14) 根本 勺 , 木村 剛 , 橋本義孝 , 鈴木康友 , 大澤秀一 , 吉田和弘 , 秋元成太 : 腎細胞癌新取り扱い規約による組織型別CT所見の検討 . 第88回日本泌尿器科学会総会 , 2000 . 5 .
 - 15) 佐藤三洋 , 山形健治 , 近藤幸尋 , 堀内和孝 , 坪井成美 , 秋元成太 : 80歳以上の高齢者に対するTUR-Pの検討 . 第13回老人泌尿器科研究会 , 2000 . 5 .
 - 16) 松沢一郎¹⁾ , 近藤幸尋 , 堀内和孝 , 木全亮二 , 秋元成太 , 横山広行²⁾ , 高野照夫²⁾ (¹⁾第二病院泌尿器科 , ²⁾付属病院第1内科): Sildenafil 処方における負荷心電図の必要性 . 第88回日本泌尿器科学会総会 , 2000 . 5 .
 - 17) 橋本義孝 , 木村 剛 , 大澤秀一 , 坪井成美 , 秋元成太 : 新TNM分類における腎細胞癌の臨床病理学的検討 .

日本外科系連合学会学術集会, 2000 . 6 .

- 18) 橋本義孝¹⁾, 濱崎 務¹⁾, 木村 剛, 秋元成太⁽¹⁾ (北村山公立病院泌尿器科): 腎細胞癌の腫瘍径における生物学的特性とその予後. 北村山地区医師会勉強会, 2000 . 6 .
- 19) 橋本義孝, 近藤幸尋, 木村 剛, 松沢一郎, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 腎細胞癌における cyclooxygenase-2 (cox-2) 発現の検討. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 20) 近藤幸尋, 松沢一郎, 木村 剛, 鈴木康友, 藤原博通, 塩路 豪, 木全亮二, 秋元成太: 膀胱腫瘍における COX-2の発現. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 21) 近藤幸尋, 松沢一郎, 鈴木康友, 佐藤三洋, 渡辺 潤, 木村 剛, 堀内和孝, 坪井成美, 秋元成太: 高齢者膀胱腫瘍患者に対する動脈内注入療法の安全性に関する検討. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000 . 6 .
- 22) 佐藤三洋, 木村 剛, 根本 勺, 近藤幸尋, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: T3前立腺癌に術前ホルモン療法を施行しpT2であった症例の検討. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 23) 清水宏之, 根本 勺, 橋本義孝, 坪井成美, 秋元成太, 三浦剛史¹⁾, 内木場拓史¹⁾, 阿部裕行¹⁾, 西村泰司¹⁾, 田口雪江²⁾, 久島英二²⁾ (¹⁾千葉北総病院泌尿器科, ²⁾同血液浄化療法室): 来日時に急性腎不全を発症した外国人症例における問題点. 第45回日本透析医学会学術総会, 2000 . 6 .
- 24) 大澤秀一, 木村 剛, 橋本義孝, 根本 勺, 鈴木康友, 秋元成太: インターフェロン予防投与における腎癌再発症例の検討. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 25) 大澤秀一, 木村 剛, 橋本義孝, 根本 勺, 坪井成美, 秋元成太: 進行性腎癌に対するインターフェロン投与の有用性についての検討. 腎癌研究会, 2000 . 6 .
- 26) 大澤秀一, 木全亮二, 藤原博通, 松沢一郎, 鈴木康友, 佐藤三洋, 近藤幸尋, 堀内和孝, 吉田和弘, 梁 正彦¹⁾, 大和田豊裕¹⁾, 小倉千鶴子¹⁾ (¹⁾三ノ輪病院): シヤント閉塞に対するウロキナーゼ投与後血栓除去術のの治療成績. 第45回日本透析医学会学術総会, 2000 . 6 .
- 27) 堀内和孝, 清水宏之, 松沢一郎, 鈴木康友, 大澤秀一, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 尿路上皮腫瘍の深達度診断に対する High-Frequency Endoliminal Ultrasonography の有用性と問題点. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 28) 木村 剛, 福ヶ迫見和¹⁾, 井戸 誠, 吉田和弘, 清水宏之, 坪井成美, 秋元成太 (¹⁾東芝メディカル): 超音波 Fusion3Dによる前立腺癌診断. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 29) 木村 剛, 福ヶ迫見和¹⁾, 井戸 誠¹⁾, 吉田和弘, 清水宏之, 坪井成美, 秋元成太 (¹⁾東芝メディカル): 超音波 Fusion 3D法による前立腺癌診断の有用性. 第88回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 30) 塩路 豪¹⁾, 大澤秀一, 鈴木康友, 堀内和孝, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太 (¹⁾第二病院泌尿器科): 右腎切石術後39年を経過し, 術創部より1部排出を見た腎結石. 第540回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000 . 7 .
- 31) 小山行秀, 佐藤三洋, 鈴木康友, 根本 勺, 大澤秀一, 近藤幸尋, 秋元成太: 敗血症を合併した前立腺膿瘍. 第541回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000 . 7 .
- 32) 清水宏之, 坪井成美, 堀内和孝, 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 秋元成太: 当科におけるホルミウムレーザー (Ho : YAG) を用いた内視鏡手術の現状. 第3回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2000 . 7 .
- 33) 大垣憲司, 桐山 功¹⁾, 大場修司¹⁾ (¹⁾国立東静岡病院泌尿器科): 腎切石術後に発生した腎盂扁平上皮癌の1例. 第98回静岡県泌尿器科医会, 2000 . 7 .
- 34) 佐藤三洋, 近藤幸尋, 根本 勺, 秋元成太: 骨盤腔を占拠する malignant solitary fibrous tumor の1例. 第65回日本泌尿器科学会東部総会, 2000 . 9 .
- 35) 松沢一郎¹⁾, 近藤, 堀内, 吉田, 秋元, 横山広行²⁾, 藤岡幹雄²⁾, 及川恵子²⁾, 福間長知²⁾, 高野照夫²⁾ (¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾付属病院第1内科): Sildenafil 処方における負荷心電図の必要性. 第11回日本性機能学会, 2000 . 9 .

- 36) 清水宏之, 坪井成美, 堀内和孝, 秋元成太: Ho: YAGレーザーによる腎盂尿管腫瘍切除術: Endoluminal ultrasoundによる術前深達度診断. 第7回Ho: YAGレーザー研究会, 2000. 9.
- 37) 清水宏之, 橋本義孝, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 前立腺癌における唾液PSA測定の見直し. 第65回日本泌尿器科学会東部総会, 2000. 9.
- 38) 清水宏之, 堀内和孝, 木全亮二, 松沢一郎, 大澤秀一, 佐藤三洋, 近藤幸尋, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 表在性膀胱腫瘍の深達度はEndoluminal Ultrasonography (ELUS) で診断可能か. 第65回日本泌尿器科学会東部総会, 2000. 9.
- 39) 中谷千瑞子, 佐藤周三¹⁾, 山下直子¹⁾, 伊藤 民¹⁾, 山口 寛¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 妻鳥昌平¹⁾, 鈴木康友, 大澤秀一, 秋元成太 (¹⁾日本医科大学附属病院老人科): 非外傷性人被膜下血腫の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 40) 藤原博通¹⁾, 永井尚生²⁾, 江見 充²⁾, 大垣憲司, 秋元成太, 井本逸勢³⁾, 稲澤讓治³⁾, 羽淵友則⁴⁾, 小川 修⁵⁾ (¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ³⁾東京医科歯科大学難治研, ⁴⁾秋田大学泌尿器科, ⁵⁾京都大学泌尿器科): 膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失領域の9q32上1cMへの限定化. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 41) 木村 剛, 木全亮二, 渡辺 潤, 清水宏之, 坪井成美, 秋元成太: 肉芽腫性前立腺炎のパワードプラーエコー像の見直し. 第65回日本泌尿器科学会東部総会, 2000. 9.
- 42) 野村可之, 清水有二, 松沢一郎, 鈴木康友, 大澤秀一, 木村 剛, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 左鼠径部のAngiomyofibrosarcoma like tumorの1例. 会543回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000. 9.
- 43) 野村可之, 清水宏之, 堀内和孝, 鈴木康友, 大澤秀一, 秋元成太: 膀胱腫瘍に対する超音波内視鏡の使用経験. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 44) 齋藤友香, 清水宏之, 堀内和孝, 松沢一郎, 木全亮二, 秋元成太: 泌尿器科内視鏡手術におけるホルミウムヤグレーザー (Ho: YAG) の使用経験. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 45) 齋藤友香, 木村 剛, 木全亮二, 清水宏之, 鈴木康友, 坪井成美, 秋元成太: 精巣腫瘍と鑑別が困難だった梅毒毒性精巣炎の1例. 第542回日本泌尿器科学会東京地方会, 2000. 9.
- 46) 藤原博通¹⁾, 永井尚生²⁾, 井本逸勢³⁾, 稲澤讓治³⁾, 大垣憲司, 羽淵友規⁴⁾, 小川 修⁵⁾, 秋元成太, 江見 充²⁾ (¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ³⁾東京医科歯科大学, ⁴⁾秋田大学泌尿器科, ⁵⁾京都大学泌尿器科): 膀胱癌細胞株における9q32上1cMのホモ接合性欠失領域の同定化. 第10回メダイカルジェネテイクス研究会, 2000. 9.
- 47) 吉田和弘, 木村 剛, 木全亮二, 近藤幸尋, 鈴木康友, 堀内和孝, 秋元成太: パワードプラーエコー下標的の生検のみで前立腺癌の診断は可能か?. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 48) 桐山 功¹⁾, 大垣憲司¹⁾, 木全亮二, 清水宏之, 佐藤三洋, 大場修司¹⁾, 秋元成太 (¹⁾国立東静岡病院泌尿器科): 前立腺全摘術における術前補助ホルモン療法の検討. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 49) 松沢一郎, 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 清水宏之, 坪井成美, 秋元成太: 超音波ドップラー法による前立腺癌診断の意義. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 50) 松沢一郎¹⁾, 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 清水宏之, 坪井成美, 秋元成太 (¹⁾第二病院泌尿器科): 超音波パワードプラー法による前立腺癌診断の意義. 第38回日本癌治療学会総会, 2000. 10.
- 51) 清水宏之, 坪井成美, 堀内和孝, 松沢一郎, 木全亮二, 齋藤友香, 木村 剛, 秋元成太: 当科におけるHo: YAGレーザーの使用経験. 第14回日本Endourology ESWL学会総会, 2000. 10.
- 52) 大澤秀一, 木村 剛, 木全亮二, 橋本義孝, 坪井成美, 秋元成太: 根治的腎摘除術における所属リンパ節郭清の意義について. 腎癌研究会, 2000. 10.
- 53) 木全亮二, 木村 剛, 近藤幸尋, 清水宏之, 大澤秀一, 坪井成美, 秋元成太: 超音波ドップラー法による早期前立腺癌の正診率は血清PSA値前立腺体積を組み合わせることにより向上する. 第38回日本癌治療学会総会,

2000 . 10 .

- 54) 木村 剛, 近藤幸尋, 佐藤三洋, 渡辺 潤, 木全亮二, 松沢一郎, 秋元成太: 大きな前立腺肥大症は前立腺癌の進展を抑制している可能性がある. 第38回日本癌治療学会総会, 2000 . 10 .
- 55) 木村 剛, 木全亮二, 齋藤友香, 清水宏之, 松沢一郎, 秋元成太: 超音波 Fusion 3D 方による前立腺良性疾患及び癌における前立腺内部の血管構築パターンの解析. 第一回3次元局所解剖研究会, 2000 . 10 .
- 56) 藤原博通¹⁾, 永井尚生²⁾, 大垣憲司, 羽淵友規³⁾, 小川 修⁴⁾, 窪田吉信⁵⁾, 秋元成太, 江見 充²⁾(¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ³⁾秋田大学泌尿器科, ⁴⁾京都大学泌尿器科, ⁵⁾横浜国立大学泌尿器科): 膀胱癌細胞株における9q32-33 Homozygous deletion領域からの新規癌関連遺伝子の単離. 第59回日本癌学会, 2000 . 10 .
- 57) 藤原博通¹⁾, 永井尚生²⁾, 井本逸勢³⁾, 稲澤譲治³⁾, 大垣憲司, 羽淵友規⁴⁾, 小川 修⁵⁾, 秋元成太, 江見 充²⁾(¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ³⁾東京医科歯科大学泌尿器科, ⁴⁾秋田大学泌尿器科, ⁵⁾京都大学泌尿器科): 膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失領域の9q32上1cMへの限定化. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000 . 10 .
- 58) 清水宏之, 坪井成美, 堀内和孝, 秋元成太: 各種泌尿器科疾患に対するホルミウムヤグレーザー (Ho : YAG) の使用経験. 第21回日本レーザー医学会総会, 2000 . 11 .
- 59) 堀内和孝: 日常診療に見られる排尿障害: 診断と治療. 浅草医師会学術講演会, 2000 . 12 .
- 60) 近藤幸尋, 松沢一郎, 清水宏之, 木全亮二, 野村可之, 小山行秀, 坪井成美, 秋元成太: 尿管腫瘍に対する Hand assisted laparoscopic surgery (HALS). 第4回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001 . 1 .
- 61) 小山行秀, 木全亮二, 清水宏之, 齋藤友香, 大澤秀一, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 腎腫瘍と鑑別を要した右腎動静脈瘤の1例. 第544回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001 . 1 .
- 62) 近藤幸尋, 原俊太郎¹⁾, 鈴木康友, 松沢一郎, 秋元成太 (¹⁾北里大学薬学部公衆衛生学教室): 膀胱癌における低酸素応答転写因子HIFの役割. 第10回泌尿器科分子・細胞研究会, 2001 . 2 .
- 63) 藤原博通¹⁾, 永井尚生²⁾, 井本逸勢³⁾, 稲澤譲治³⁾, 大垣憲司, 羽淵友規⁴⁾, 小川 修⁵⁾, 秋元成太, 江見 充²⁾(¹⁾第二病院泌尿器科, ²⁾日本医科大学老人病研究所分子生物学部門, ³⁾東京医科歯科大学泌尿器科, ⁴⁾秋田大学泌尿器科, ⁵⁾京都大学泌尿器科): 膀胱癌細胞株におけるHomozygous deletion領域の9q32上1cMへの限定化. 第10回泌尿器科分子・細胞研究会, 2001 . 2 .
- 64) 齋藤友香, 佐藤三洋, 近藤幸尋, 木村 剛, 松沢一郎, 秋元成太, 米沢剛一¹⁾, 武内 務¹⁾, 平泉良枝¹⁾(¹⁾付属病院産婦人科): 腔異物に起因する膀胱腫瘍の1例. 第546回日本泌尿器科学会東京地方会, 2001 . 3 .

[第二病院泌尿器科]

研究概要

第二病院泌尿器科では, 尿路感染症, MRSA 感染症, 膀胱腫瘍, 特に膀胱腔内注入療法など主に臨床的各研究を行っている. 最近は男子不妊症, 尿失禁に関する臨床的研究にも力をいれている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ito H¹⁾, Nisimura T²⁾, Abe H²⁾, Oka F, Miura T³⁾, Uchikoba T³⁾(¹⁾多摩永山病院泌尿器科, ²⁾付属病院泌尿器科, ³⁾千葉北総病院泌尿器科): ADENOCARCINOMA OF THE PROSTATE WITH ECTOPIC ANTI-DIURETIC HORMONE PRODUCTION : A CASE REPORT . 泌紀 2000 ; 46 (7) : 499-503 .

(2) 総説：

- 1) 平野 明¹⁾, 峰 伸也¹⁾, 藤原博通, 江見 充¹⁾(¹⁾老人病研究所): 性ホルモン依存性癌．老年医学 2000 ; 38 : 627-631 .

著 書

- 1) 沼沢和夫：〔分担〕悪性腫瘍：陰茎癌の治療方針．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp136-138，医学書院．
- 2) 沼沢和夫：〔分担〕悪性腫瘍：尿道腫瘍の診断と治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp139-141，医学書院．
- 3) 引間規夫：〔分担〕感染症：尿路 MRSA 感染症の治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp192-193，医学書院．
- 4) 引間規夫：〔分担〕感染症：尖圭コンジローマ，性器ヘルペスの診断と治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp203-205，医学書院．
- 5) 富田 勝：〔分担〕救急疾患：膀胱損傷の重症度診断と治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp221-223，医学書院．
- 6) 廣瀬始之：〔分担〕神経因性膀胱および尿失禁：尿失禁の診断と保存的治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp248-253，医学書院．
- 7) 廣瀬始之：〔分担〕神経因性膀胱および尿失禁：尿失禁の手術療法．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp254-258，医学書院．
- 8) 廣瀬始之：〔分担〕神経因性膀胱および尿失禁：高齢者尿失禁とその対応．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp259-260，医学書院．
- 9) 矢島勇臣：〔分担〕疼痛，血尿，膿尿，細菌尿：疼痛の鑑別診断．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp286-288，医学書院．
- 10) 富田 勝：〔分担〕疼痛，血尿，膿尿，細菌尿：血尿の鑑別診断．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp289-292，医学書院．
- 11) 矢島勇臣：〔分担〕泌尿器科基本処置とトラブル対処法：亀頭包皮炎（小児包茎を含む）の処置．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp308-310，医学書院．
- 12) 富田 勝：〔分担〕感染症：結核．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp22-23，医学書院．
- 13) 廣瀬始之：〔分担〕排尿障害：蓄尿障害．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp36-39，医学書院．
- 14) 富田 勝：〔分担〕排尿障害：夜尿症．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp42-43，医学書院．
- 15) 富田 勝：〔分担〕腎不全：急性腎不全．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp104-105，医学書院．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 塩路 豪，大澤秀一⁴⁾，鈴木康友³⁾，堀内和孝²⁾，木村 剛²⁾，坪井成美¹⁾，吉田和弘¹⁾，秋元成太¹⁾(¹⁾付属病院泌尿器科，²⁾千葉北総病院泌尿器科，³⁾多摩永山病院泌尿器科，⁴⁾三輪病院): 右腎切石術後39年を経過し，術創部より一部排出をみた腎結石．第540回日本泌尿器科学会東京地方会，2000．4．
- 2) 藤原博通，永井尚生¹⁾，井本逸勢²⁾，稲澤讓治²⁾，大垣憲司³⁾，羽瀨友則⁴⁾，小川 修⁵⁾，秋元成太³⁾，江見

充¹⁾(¹⁾老人病研究所,²⁾東京医科歯科大・難治研,³⁾付属病院泌尿器科,⁴⁾秋田大・泌尿器科,⁵⁾京都大・泌尿器科):膀胱癌細胞株における9q32上1cMのホモ接合性欠失領域の同定化.第10回メディカルジェネティクス研究会,2000.9.

3)藤原博通,永井尚生¹⁾,井本逸勢²⁾,稲澤譲治²⁾,大垣憲司³⁾,羽瀨友則⁴⁾,小川 修⁵⁾,秋元成太³⁾,江見充¹⁾(¹⁾老人病研究所,²⁾東京医科歯科大・難治研,³⁾付属病院泌尿器科,⁴⁾秋田大・泌尿器科,⁵⁾京都大・泌尿器科):膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失領域の9q32上1cMへの限定化.第68回日本医科大学医学会総会,2000.9.

4)藤原博通,永井尚生¹⁾,大垣憲司²⁾,羽瀨友則³⁾,小川 修⁴⁾,窪田吉信⁵⁾,秋元成太²⁾,江見 充¹⁾(¹⁾老人病研究所,²⁾付属病院泌尿器科,³⁾秋田大・医科研・泌尿器科,⁴⁾京都大・医科研・泌尿器科,⁵⁾横浜市大・医科研・泌尿器科):膀胱癌細胞株における9q32-33 Homozygous deletion領域からの新規癌関連遺伝子の単離.第59回日本癌学会,2000.10.

5)藤原博通,永井尚生¹⁾,井本逸勢²⁾,稲澤譲治²⁾,大垣憲司³⁾,羽瀨友則⁴⁾,小川 修⁵⁾,秋元成太³⁾,江見充¹⁾(¹⁾老人病研究所,²⁾東京医科歯科大・難治研,³⁾付属病院泌尿器科,⁴⁾秋田大・泌尿器科,⁵⁾京都大・泌尿器科):膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失領域の9q32上1cMへの限定化.日本人類遺伝学会第45回大会,2000.10.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して12年になるが研究業績の主なものは次のようなものである.

前立腺肥大症:前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2000例を超えている.本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である.

前立腺癌:平岡式経尿道的前立腺剥離切除術(剥離TURP)は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある.この特徴を生かして,内腺を完全切除したあと,外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した.これにより,前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり,外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている.最近では早期前立腺癌に対して,輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘術を施行している.限局性進行前立腺癌に対するネオアジュバント療法として,ホルモンと放射線療法の併用を行っている.

膀胱癌:進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている.最近,治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCCDPと放射線照射との併用治療を行っている.

腎細胞癌:腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し,インターフェロンを動注し,腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている.3~6ヶ月後に腫瘍核出術,腎部分切除術が腎摘出術を行っている.今までの研究では,9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている.

副腎・腎腫瘍:副腎,腎腫瘍に対して腹腔鏡下手術を行っている.

研究業績

論文

(1)総説:

1)平岡保紀,岩本和矢:会陰式前立腺全摘除術.臨泌 2000;54:435-440.

著 書

- 1) 平岡保紀：〔分担〕前立腺肥大症の治療．year note 2001 SELECTED ARTICLES (医療情報科学研究所), 2000 ; pp707-717, MEDIC MEDIA .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 左 維, 平岡保紀, 岩本和矢, 高橋洋文, 清水有二, 沼沢和夫, 千賀康弘, 伊藤 博, 藤田和明：前立腺癌に対する剥離 TURP の臨床評価．第 88 回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 2) 岩本和矢, 平岡保紀, 清水有二, 高橋洋文, 沼沢和夫, 左 維, 千賀康弘, 伊藤 博, 藤田和明：剥離 TURP にて検出され, 全摘除術を行った前立腺偶発癌症例の検討．第 88 回日本泌尿器科学会総会, 2000 . 6 .
- 3) 平岡保紀, 岩本和矢, 清水有二, 高橋洋文, 沼沢和夫, 左 維, 千賀康弘, 伊藤 博, 藤田和明：前立腺肥大症に対する前立腺摘除術での腺腫の全摘は実証されているか．第 65 回日本泌尿器科学会東部総会, 2000 . 10 .

[千葉北総病院泌尿器科]

研究概要

1) 泌尿器内視鏡学・泌尿器腫瘍学：

- a) 経尿道的前立腺および膀胱腫瘍の切除において帯状電極は, 術中の出血が少ない, 水中毒や腫瘍の播種を防止できる, などから有用なことを論文発表したが, 出血に関しては差がないとの, 反対意見もあり, 説得できる臨床研究を行なっている .
- b) 尿路腫瘍のみならず子宮癌, 直腸癌の末期に尿路の通過障害のため水腎に腎瘻を置く必要のある症例は少なくないが, これらの症例において, 一期的に出血することなく直径 5-6mm の腎瘻造設する方法や, 経尿道的手術で膀胱に溜まった組織片を短時間に除去する方法を開発するなど, 尿路内視鏡学において常に新しく有用な手技を本邦で先駆けて行なっている .
- c) 当科で開発した吸引およびスネアーによる膀胱腫瘍の切除が有用なことはすでに海外誌に発表したが, 膀胱全摘の適応か否かを迷う症例の判断, すなわち画像診断でも難しい浸潤度判定に有用か否かを検討している .
- d) 尿路悪性腫瘍における上皮内癌は肉眼的に正常粘膜と判別に窮する場合が多く, その局在診断に膀胱内への薬物注入の有用性を検討している .
- e) 前立腺癌の進行症例により正確な骨浸潤を反映する腫瘍マーカーの研究を行い, 画像診断と併せ正確な病期診断をめざしている .

2) 尿路感染症学：1/4 世紀研究しても, 経過の長い前立腺炎における前立腺液中の白血球の長期存続の機序の解明は極めて難しいテーマであるが, 現在は bcl-2 のみならず Mcl-1 やさらに新しい A1 など抗アポトーシス因子による影響を検討している .

3) アンドロロジー：雄ラットの性行動の内, intromission において, 坐骨海綿体筋と球海綿体筋の筋電図の周波数変化を検討した結果, 膣から亀頭への刺激, さらにそれによる海綿体内圧の上昇が示唆された . 今後は薬物投与による解析を進めて行く .

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Nishimura T, Abe H, Miura T, Uchikoba T, Osawa S, Hamasaki T, Kimata R : Transurethral treatment of bladder cancer using a thick loop . Jpn J Endourol ESWL 2000 ; 13 (1) : 104-107 .

- 2) Nishimura T, Abe H, Miura T, Uchikoba T, Tsuboi N, Yamamoto H¹⁾, Kobayashi K²⁾(¹⁾ Department of Surgery, ²⁾ Ultrasonic Laboratory, Toma Hospital): Post-voiding repeated renal ultrasonography for slight hydronephrosis detected during screening for asymptomatic microhematuria. Int J Urol 2000; 7(4): 133-138.
 - 3) Ito H, Nishimura T, Abe H, Oka F, Miura T, Uchikoba T, Oaki Y¹⁾(¹⁾ Department of Pathology): Adenocarcinoma of the prostate with ectopic antidiuretic hormone production: a case report. Acta Urol Jpn 2000; 46(7): 499-503.
 - 4) Tsuboi N, Horiuchi K, Kimura G, Kondo Y, Yoshida K, Nishimura T, Akimoto M, Miyashita T, Subosawa T(¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ Toma Hospital): Renal masses detected by general health check-up. Int J Urol 2000; 7(11): 404-408.
 - 5) Osawa S, Nishimura T, Akimoto M¹⁾, Abe H, Hamasaki T, Kuroda S¹⁾(¹⁾ Department of Plastic Surgery): Repair of fistula between bladder and perineal skin by femoral gracilis flap interposition. Int J Urol 2001; 8(2): 80-82.
 - 6) 西村泰司, 三浦剛史: 成人の泌尿器科疾患に対する日帰り手術の実際と看護. Urological Nursing 2000; 5(1): 10-21.
- (2) 総説:
- 1) 西村泰司: 癌健診のあり方: 現状と展望: 膀胱・前立腺癌における癌健診. 日健診誌 2000; 27(2): 176-179.

著 書

- 1) 阿部裕行: [分担] 原発性副甲状腺(上皮小体)機能亢進症の診断と治療. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp178-179, 医学書院.
- 2) 阿部裕行: [分担] 結石に対する薬物溶解療法. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp180-181, 医学書院.
- 3) 阿部裕行: [分担] 尿道損傷に対する初期治療と2次の直視下内尿道切開術. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp224-226, 医学書院.
- 4) 阿部裕行: [分担] 精巣損傷の診断と治療. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp227-228, 医学書院.
- 5) 阿部裕行: [分担] 精巣捻転症におけるドブラ法の注意点. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp229-230, 医学書院.
- 6) 阿部裕行: [分担] 陰茎折症の診断と治療. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp234-234, 医学書院.
- 7) 西村泰司: [分担] 難治性非細菌性前立腺炎の治療. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp194-196, 医学書院.
- 8) 西村泰司: [分担] 尿路性器結核を見落とさないために. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp197-198, 医学書院.
- 9) 西村泰司: [分担] 腎損傷の程度と治療(重症度診断と治療). 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp214-217, 医学書院.
- 10) 西村泰司: [分担] 尿管損傷の重症度診断と治療. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp218-220, 医学書院.
- 11) 西村泰司: [分担] 経皮的膀胱瘻造設術. 泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版(秋元成太, 西村泰司), 2000; pp300-304, 医学書院.

- 12) 西村泰司：〔分担〕嚢胞腎の対策と予後．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp341-342，医学書院．
- 13) 西村泰司：〔分担〕膀胱腫瘍の診断と治療．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp352-354，医学書院．
- 14) 西村泰司：〔分担〕末期癌症例における水腎症への対応．泌尿器科ベッドサイドマニュアル第2版（秋元成太，西村泰司），2000；pp360-362，医学書院．
- 15) 西村泰司：〔分担〕前立腺炎．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp10-12，医学書院．
- 16) 阿部裕行：〔分担〕MRSA 対策．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp30-31，医学書院．
- 17) 西村泰司：〔分担〕灌流液．泌尿器科外来処方マニュアル（秋元成太，堀内和孝），2001；pp121-122，医学書院．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 西村泰司：前立腺肥大症．第88回日本泌尿器科学会総会，2000．6．
- 2) 西村泰司：(Debate) 前立腺肥大症．第88回日本泌尿器科学会総会，2000．6．

(2) 一般講演：

- 1) 内山史生¹⁾，岡田 進¹⁾，井上幸平¹⁾，阿部裕行，西村泰司，大秋美治²⁾，横井公良³⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科，²⁾千葉北総病院病理部，³⁾同外科)：精嚢腺から発生した malignant phyllodes tumor の1例．第14回腹部放射線研究会，2000．5．
- 2) 御園恒一郎¹⁾，片山靖史¹⁾，田口雪江¹⁾，久島英二¹⁾，阿部裕行，葉山修陽²⁾，西村泰司，工広紀斗司³⁾，益子邦洋³⁾(¹⁾千葉北総病院血液浄化療法室，²⁾同内科，³⁾同救急救命センター)：CHDF，エンドトキシン吸着併用療法により救命し得た広範囲な熱傷をきたした重症症例．第45回日本透析医学会総会，2000．6．
- 3) 清水宏之¹⁾，根本 勺¹⁾，橋本義孝¹⁾，木村 剛¹⁾，坪井成美¹⁾，秋元成太¹⁾，阿部裕行，西村泰司，田口雪江²⁾，久島英二²⁾(¹⁾付属病院泌尿器科，²⁾千葉北総病院血液浄化療法室)：来日時に急性腎不全を発症した外国人症例における問題点．第45回日本透析医学会学術総会，2000．6．
- 4) 阿部裕行，西村泰司，三浦剛史，内木場拓史，大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部)：精嚢腺に発生した葉状嚢肉腫の1例．第65回日本泌尿器科学会東部総会，2000．9．
- 5) 内木場拓史，三浦剛史，阿部裕行，西村泰司，秋元成太¹⁾(¹⁾付属病院泌尿器科)：スタイレット付き腎盂バルーンを用いた腎瘻造設の経験．第14回Endourology. ESWL 学会総会，2000．10．
- 6) 西村泰司，阿部裕行，三浦剛史，内木場拓史：TURPにおいて通常ループ，バンドループで片側づつ切除しての術中出血量の比較．第74回千葉泌尿器科集談会，2000．12．
- 7) 三浦剛史，内木場拓史，阿部裕行，西村泰司：左大腿静脈血栓に起因する側副血行路により膀胱変形を来した1例．第544回日本泌尿器科学会東京地方会，2001．1．

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

本年度も、眼サルコイドーシス(サ症)を中心としたぶどう膜炎の臨床(大原),角結膜疾患の臨床と基礎(高橋),白内障手術に関する臨床と基礎(大原,志和,茨木)をメインテーマとして研究を行った。

眼サ症の臨床研究については、診断、治療、病因をテーマとし、研究成果をシンポジウムなどでぶどう膜炎研究グループが発表した。結膜生検の診断的意義を検討し、サ症病因としてP. acnesの関与について東京医科歯科大学病理部と共同研究を継続した。大原は、日本サ症学会によるサルコイドーシス治療指針策定委員会の眼科部会責任者として策定部会を立ち上げ、ステロイド内服治療指針の策定作業を始めた。

角結膜疾患では、難治性角膜潰瘍や眼類天疱瘡に羊膜移植を開始した。角膜上皮修復機転について生化学的、遺伝子治療的研究を行った。白内障手術については、核分割法としてのPrechop法の有用性を検討した。新素材の眼内レンズについては術後の水晶体上皮細胞の挙動を指標として後発白内障の発症過程を追跡した。水晶体上皮細胞株を用いた基礎研究をおこなった。その他、多数の症例報告を行い、眼科臨床面における診断と治療法につき研究を継続した。

研究業績

論文

(1)原著:

- 1) Akahoshi T : Soft shell stain . Medical Video Productions Video Journal of Ophthalmology 2000 ; 16 (4) .
- 2) Takahashi H , Zieske JD¹⁾ , Hutcheon AEK¹⁾ , Dalbone AC¹⁾ (¹⁾ Harvard Medical School) : Activation of epidermal growth factor receptor during corneal epithelial migration . Invest Ophthalmol Vis Sci 2000 ; 41 (6) : 1346-1355 .
- 3) Takahashi H , Ohara K , Ohmura T , Takahashi R , Zieske JD¹⁾ (¹⁾ Harvard Medical School) : Glucose transporter 1 expression corneal wound repair high serum glucose level . Jpn J Ophthalmol 2000 ; 44 (5) : 470-474 .
- 4) Nakanishi F , Takahashi H , Ohara K : Acute retinal necrosis following contralateral herpes zoster ophthalmicus . Jpn J Ophthalmol 2000 ; 44 (5) : 561-564 .
- 5) 東 永子 , 李 俊哉 , 大原國俊 : 眼底に巨大隆起病変を認めた多発性骨髄腫の1例 . 臨眼 2000 ; 54 (4) : 653-656 .
- 6) 中嶋花子 , 山口恵子 , 大原國俊 : 急性前部ぶどう膜炎に対するステロイド内服適応 . 眼紀 2000 ; 51 (6) : 549-553 .
- 7) 赤星隆幸 : 白内障 . からだの科学 2000 ; 214 : 102-113 .
- 8) 東 永子 , 李 俊哉 , 山口恵子 , 中嶋花子 , 大原國俊 : 超音波水晶体乳化吸引術におけるPrechop法と超音波時間 . IOL&RS 2000 ; 14 (3) : 282-284 .
- 9) 北原由紀 , 大原國俊 , 山口 貴 : 多発性の網膜動脈閉塞所見を呈した抗リン脂質抗体症候群と思われる1例 . 眼紀 2000 ; 51 (11) : 1058-1063 .
- 10) 岩波美陽 , 沖理通子 , 大原國俊 : 薬物治療が著効した進行性真菌性眼内炎の1例 . 臨眼 2000 ; 54 (12) : 1787-1790 .
- 11) 若山かおり , 国松志保¹⁾ , 鈴木康之¹⁾ , 大原 國俊 , 荒巻 純²⁾ (¹⁾ 東京大学医学部眼科 , ²⁾ 皮膚科) : 線維柱

- 帯切開術が奏効した太田母斑に伴った開放隅角緑内障の1例．あたらしい眼科 2000 ; 17 (12): 1689-1693 .
- 12) Takahashi H , Akiba K¹⁾ , Noguchi T¹⁾ , Ohmura T¹⁾ , Takahashi R¹⁾ , Ezure Y¹⁾ , Ohara K , Zieake JD²⁾ (¹⁾Wakamoto Pharmaceutical Co. , Ltd , ²⁾Harvard Medical School): Matrix metalloproteinase activity is enhanced during corneal wound repair in high glucose condition . Current Eye Research 2000 ; 21 (2): 608-615 .
- 13) 山口恵子 , 大原國俊 , 東 永子 , 中嶋花子 , 矢口智恵美 , 茨木信博 : 眼サルコイドーシスにおける網膜新生血管の病型分類 . 臨眼 2001 ; 55 (2): 209-214 .

(2) 総説 :

- 1) 大原國俊 : 巻頭言 白内障手術と手術教育 . 眼科手術 2000 ; 13 (3): 339-340 .
- 2) 陳 軍 , 大原國俊 : I 細菌 : 各論 P. acnes とサルコイドーシスとの関連について教えてください . あたらしい眼科 2000 ; 17 (臨増): 87-89 .

著 書

- 1) 大原國俊 : ぶどう膜炎の長期例に白内障が進行してきたが , 虹彩前癒着なども見られるぶどう膜炎症例の併発白内障手術術式および術後管理 . 大野重昭編 . ケーススタディと解説で学ぶ眼科診療レスキュー , 難治ぶどう膜炎・難治白内障手術のレスキュー , 2001 ; pp120-123 .
- 2) 大原國俊 : 超音波生体顕微鏡 (UBM) のぶどう膜炎への応用 大野重昭編 . ケーススタディと解説で学ぶ眼科診療レスキュー , 難治ぶどう膜炎・難治白内障手術のレスキュー , 2001 ; pp236-237 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大原國俊 : ぶどう膜炎の続発緑内障とその治療 : 眼サルコイドーシスを中心に . 東京と眼科医学会学術講演会 , 2000 . 4 .
- 2) 大原國俊 : Phaco Prechop を導入して . 第3回 Visco Surgery Seminar , 2000 . 6 .
- 3) 高橋 浩 : 角膜上皮疾患治療の進歩 . 第125回岡山県眼科医学会生涯教育講座 , 2000 . 7 .
- 4) 志和利彦 : 患者さんの期待を裏切らない白内障手術 . 第715回東京眼科集談会 , 2000 . 10 .
- 5) 小林茂樹 : 知らずに進む緑内障 . 下館市民病院看護研究会 , 2000 . 10 .

(2) 教育講演 :

- 1) 山田幸永 : 眼精疲労 : 原因と治療 . 興和新薬眼科OTCセミナー , 2000 . 7 .
- 2) 山田幸永 : 緑内障の薬物治療とその限界 . 興和新薬眼科講演会 , 2000 . 9 .

(3) シンポジウム :

- 1) 大原國俊 : ぶどう膜炎診断 / 治療3. サルコイドーシス . 第38回北日本眼科学会 , 2000 . 6 .
- 2) 大原國俊 : 「眼サルコイドーシスのすべて」眼サ症の非典型例 . 第34回眼炎症学会 , 2000 . 7 .
- 3) 山口恵子 : 「眼サルコイドーシスのすべて」診断の現状と問題点 眼科から . 第34回眼炎症学会 , 2000 . 7 .
- 4) 志和利彦 : 「新しい Implant Technology」Hydroview の使用経験 : 水晶体上皮細胞の挙動 . 第24回日本眼科手術学会総会 , 2001 . 1 .

(4) 一般講演 :

- 1) Chen J¹⁾ , Eishil Y¹⁾ , Takahashi H , Ohara K (¹⁾Tokyo Medical and Dental University): Elevated serum levels of antibodies specific to propionibacterium acnes lipoteichoic acid in sarcoidosis . 2000ARVO (Fort Lauderdale) , 2000 . 4 .
- 2) Akahoshi T : Ultra high vacuum phaco with Legacy . 6th International congress of Cataract and Refractive Surgery (Brazil) , 2000 . 4 .

- 3) Akahoshi T : Phaco Prechop . 6th International congress of Cataract and Refractive Surgery (Brazil) , 2000 . 4 .
- 4) Akahoshi T : Clinical experience of 12. 000 Acrysof implantation . 6th International congress of Cataract and Refractive Surgery (Brazil) , 2000 . 4 .
- 5) Akahoshi T : Live Surgery. Capsular staining for the white mature cataract. 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 6) Akahoshi T : Live Surgery. Counter Prechop technique . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 7) Akahoshi T : Live Surgery. Multiple Prechop for brown hard cataract . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 8) Akahoshi T : Live Surgery. Phaco surgery of small pupil. 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 9) Akahoshi T : Live Surgery. Prechopper Prechop for soft nucleus . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 10) Akahoshi T : Recent trend in cataract surgery . 2000 Santa Cruz Hospital Cataract Live Surgery Meeting (Brazil) , 2000 . 4 .
- 11) Nakajima H , Yaguchi C , Ohara K : Glistening of Acrysof lenses . ASCRS (Boston) , 2000 . 5 .
- 12) Yamaguchi K , Ohara K , Azuma H , Yaguchi C , Nakamoto K , Nakamura H : Effect of latanoprost of inflammation in uveitic glaucoma . 6th Congress of the European Glaucoma Society Millenium Meeting (London) , 2000 . 6 .
- 13) Igarashi T , Miyake K¹⁾ , Suzuki N¹⁾ , Takahashi H , Shimada T¹⁾ (¹⁾ 生化第2) : In vivo gene transfer into corneal epithelial stem cell by lentiviral vectors . Japan Society of Gene Therapy (Tokyo) , 2000 . 7 .
- 14) Akahoshi T : Phaco Prechop/ Mechanical nucleofracture prior to the phacoemulsification . Lacar Impact All Asia International Medical Panel for the Advancement of Cataract Treatment (Monterrey) , 2000 . 8 .
- 15) Akahoshi T : Clinical experience with 16. 000 Acrysof implantation . Lacar Impact All Asia International Medical Panel for the Advancement of Cataract Treatment (Monterrey) , 2000 . 8 .
- 16) Akahoshi T : Ultimate Phaco . 18th ESCRS (Belgium) , 2000 . 9 .
- 17) Akahoshi T : Live Surgery. Phacoemulsification after Phaco Prechop with a paddle Prechopper . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 18) Akahoshi T : Live Surgery. Ultrahigh vacuum phacoemulsification after Prechopper Prechop technique . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 19) Akahoshi T : Live Surgery. Mechanical nucleofracture of a hard nucleus . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 20) Akahoshi T : Live Surgery. Phaco surgery of a case with weak ciliary zonules : 1 PE syndrome . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 21) Akahoshi T : Live Surgery. Phaco surgery of a case with weak ciliary zonules : 2 traumatic eye . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 22) Akahoshi T : Live Surgery. Capsular staining with visco-ICG technique . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 23) Akahoshi T : Management of incompletely Prechopped nucleus . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .
- 24) Akahoshi T : Live Surgery of small pupil . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico) , 2000 . 9 .

- 25) Akahoshi T : Personal experience of 16. 000 Acrysof implantation . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 26) Akahoshi T : Course : Phaco Prexhop/ Mechanical nucleofracture prior to the phacoemulsification . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 27) Akahoshi T : Soft shell stain technique for white mature cataract . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 28) Akahoshi T : Phaco surgery of complicated cases . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 29) Akahoshi T : Trouble management during phaco surgery . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 30) Akahoshi T : Comparison of new U/S tips for Phaco Prechop technique . 2000 Ophthalmology Actualization Course (Mexico), 2000 . 9 .
- 31) Igarashi T , Miyake K¹⁾, Suzuki N¹⁾, Takahashi H , Shimada T¹⁾(¹⁾生化第2): In vivo gene transfer into corneal epithelial progenitor cells by viral vectors . III International Conference on the Lacrimal Gland, Tear Film and Dry Eye Syndromes : Basic Science and Clinical Relevance (Hawaii), 2000 . 11 .
- 32) Takahashi H : Pre-Desemet's Dystrophy . 第8回 Cornea and Ocular surface (Tokyo), 2000 . 11 .
- 33) 陳 軍, 山口恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子, 東 永子, 大原國俊: 眼サルコイドーシス診断における結膜生検の意義 . 第104回日本眼科学会総会, 2000 . 4 .
- 34) 東 永子, 大原國俊, 山口恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子: Trabecular sarcoidosisによる続発緑内障 . 第104回日本眼科学会総会, 2000 . 4 .
- 35) 山口恵子, 東 永子, 中嶋花子, 矢口智恵美, 陳 軍, 中元兼二, 中村 弘, 大原國俊: 内因性ぶどう膜炎におけるラタノプロストの起炎性 . 第104回日本眼科学会総会, 2000 . 4 .
- 36) 高橋 浩, 大原國俊, 秋葉 清¹⁾, 野口敬康¹⁾, 大村武雄¹⁾, 高橋良樹¹⁾, 江連洋治¹⁾(¹⁾わかもと製薬研究所): 糖尿病状態は角膜上皮 Matrix metalloproteinase (MMP) 活性を上昇させる . 第104回日本眼科学会総会, 2000 . 4 .
- 37) 中元兼二, 南野麻美, 安田典子, 中村 弘: ラタノプロストの眼圧下降効果と副作用 . 第104回日本眼科学会総会, 2000 . 4 .
- 38) 北原由紀, 中山滋章, 山口 貴, 秋庭幹生, 岸岡美和子: コーツ病変とぶどう膜炎を合併した網膜色素変性の1例 . 第17回関東眼科学会, 2000 . 5 .
- 39) 松葉真里子, 清水暢夫, 佐藤雅史¹⁾, 大原國俊(¹⁾放射線科): 眼窩後壁欠損を伴った von Recklinghausen 病の1例 . 第17回関東眼科学会, 2000 . 5 .
- 40) 森瀬景子, 高橋 浩, 志和利彦, 大原國俊: アミオダロン角膜症の1例 . 第101回日本医大眼科症例検討会, 2000 . 6 .
- 41) 中嶋花子, 東 永子, 大原國俊: Mikulicz's症候群の臨床像を呈した眼窩炎性偽腫瘍の1例 . 第101回日本医大眼科症例検討会, 2000 . 6 .
- 42) 北原由紀, 中山滋章, 山口 貴, 秋庭幹生: コーツ様病変とぶどう膜炎を合併した網膜色素変性の1例 . 第101回日本医大眼科症例検討会, 2000 . 6 .
- 43) 陳 軍, 山口恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子, 東 永子, 大原國俊, 江石義信¹⁾, 南 順子¹⁾, 安藤 登¹⁾(¹⁾東京医科歯科大学病理部): 眼サルコイドーシスにおける Propionibacterium acnes の関与 . 第34回眼炎症学会, 2000 . 7 .
- 44) 中嶋花子, 山口恵子, 矢口智恵美, 東 永子, 陳 軍, 大原國俊: 眼サルコイドーシスに対するステロイド内服適応 . 第34回眼炎症学会, 2000 . 7 .

- 45) 中元兼二, 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 安田典子¹⁾(¹⁾東京警察病院): ラタノプロストへの変更投与前後についての検討. 第11回日本緑内障学会. 第11回日本緑内障学会, 2000. 9.
- 46) 中嶋花子, 高橋 浩, 大原國俊: 眼底に白点状病変を認めたLowe症候群の1例. 第715回東京眼科集談会, 2000. 10.
- 47) 森瀬景子, 志和利彦, 高橋 浩, 大原國俊: 日本医大附属病院におけるアミオダロン角膜症の検討. 第715回東京眼科集談会, 2000. 10.
- 48) 陳 軍, 山口恵子, 矢口智恵美, 中嶋花子, 東 永子, 大原國俊: 眼サルコイドーシス診断における結膜生検の意義. 第20回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2000. 10.
- 49) 東 永子, 山口恵子, 中嶋花子, 陳 軍, 大原國俊, 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾(¹⁾内科第4): 眼サ症疑診群の全身検査データ. 第20回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会. 第20回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2000. 10.
- 50) 中嶋花子, 大原國俊, 山口恵子, 矢口智恵美, 東 永子, 陳 軍: 眼サルコイドーシスに対するステロイド内服適応. 第20回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会, 2000. 10.
- 51) 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 阿部信二¹⁾, 李 英姫¹⁾, 宮本晴子¹⁾, 榎本達治¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 山口恵子, 大原國俊, 川並汪一²⁾, 工藤翔二¹⁾(¹⁾内科第4, ²⁾老人病研究所病理部門): 段階的気管支肺胞洗浄法による眼サルコイドーシス患者の肺病変の検討. 第20回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会, 2000. 10.
- 52) 李 俊哉, 滝本正子¹⁾, 築島謙次¹⁾, 林 弘美, 中嶋花子, 志和利彦, 大原國俊, 平上智子, 稲垣泰子²⁾, 脇大悟³⁾, 宗像夏樹⁴⁾(¹⁾国立身体障害者リハビリテーションセンター, ²⁾千種ニュータワービル眼科, ³⁾メニコン, ⁴⁾ナイツ): あたらしいコントラスト感度検査装置(CVC-1仮称)試作機の評価. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 53) 中村 弘, 若山かおり, 森瀬景子, 大原國俊: ポータブル経上眼瞼眼圧測定器(TGDc-01)の使用経験. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 54) 東 永子, 山口恵子, 大原國俊: 巨大なBusaccaを認めた眼サルコイドーシスの1例. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 55) 中嶋花子, 東 永子, 大原國俊: Mikulicz症候群の臨床像を呈した眼窩炎性偽腫瘍の1例. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 56) 山口恵子, 東 永子, 中嶋花子, 陳 軍, 大原國俊: 眼サルコイドーシスに対するメトトレキセート内服療法. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 57) 中元兼二, 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 安田典子¹⁾(¹⁾東京警察病院): ラタノプロストに対するカルテオロール及びニブラジロールの併用効果の交差試験による検討. 第54回日本臨床眼科学会, 2000. 11.
- 58) 東 永子, 山口恵子, 大原國俊, 高橋卓夫, 吾妻安良太, 工藤翔二: 典型的な肉芽腫性虹彩炎を呈した眼サ症の1例: ステロイド, MTX内服併用療法の経験. 第150回東京サルコイドーシス懇話会, 2000. 12.
- 59) 大原國俊: 眼サルコイドーシス臨床像: 他科専門医のために. 第150回東京サルコイドーシス懇話会, 2000. 12.
- 60) 東 永子, 高橋 浩, 志和利彦, 大原國俊: 副腎皮質ステロイド薬投薬中に中心性漿液性網脈絡膜症を発症した1例. 第102回日本医大眼科症例検討会, 2000. 12.
- 61) 森瀬景子, 若山かおり, 清水暢夫: 網膜白点症にコロボーマを合併した1例. 第102回日本医大眼科症例検討会, 2000. 12.
- 62) 下分章裕¹⁾, 赤星隆幸, 三好輝行²⁾(¹⁾幸塚眼科, ²⁾三好眼科): 角膜混濁を伴う白内障手術に対するインドシアングリーン染色. 第24回日本眼科手術学会総会, 2001. 1.
- 63) 赤星隆幸: 囊染色への粘弾性物質の応用. 第24回日本眼科手術学会総会, 2001. 1.
- 64) 堀口さおり, 東 永子, 志和利彦, 大原國俊: 逆Capsular block syndromeの1例. 第24回日本眼科手術学会

総会，2001．1．

- 65) 中嶋花子，東 佑美，大原國俊：両側涙腺腫大を呈した眼窩悪性リンパ腫の1例．第24回日本眼科手術学会総会，2001．1．
- 66) 五十嵐勉，三宅弘一，鈴木紀子，加藤 興，高橋 浩，大原國俊，島田 隆：角膜上皮幹細胞およびTA細胞への遺伝子導入．第25回角膜カンファランス，2001．2．
- 67) 進藤江里子，高橋 浩，大原國俊：Pre-descemet's dystrophyの1例におけるKerato-epithelin遺伝子解析．第25回角膜カンファランス，2001．2．
- 68) 高橋 浩，大原國俊，葛西洋芳¹⁾，秋葉 清¹⁾，菅谷葉子¹⁾，高橋良樹¹⁾，江連洋治¹⁾(¹⁾わかもと製薬相模研究所)：画像処理による強角膜片保存後の全内皮生体染色評価．第25回角膜カンファランス，2001．2．
- 69) 森瀬景子，高橋 浩，志和利彦，大原國俊，小林義典¹⁾(¹⁾内科第1)：アミオダロン投与量と角膜上皮色素沈着の相関解析．第25回角膜カンファランス，2001．2．

[千葉北総病院眼科]

研究概要

教室員全員で緑内障治療薬の効果，副作用に関する臨床研究を行った．また，斜視・弱視外来で斜視患者の臨床研究を行った．

後藤陽子医局長，深川 晃助手を中心に糖尿病網膜症の重症度と糖尿病のコントロールの関連について調査研究した．

茨木信博診療教授は，EBMに基づく白内障診療ガイドライン作成のために，白内障の薬物療法に関する文献データベースを構築した．

基礎研究では，茨木教授，後藤医局長を中心に，水晶体上皮細胞の培養実験で，白内障，後発白内障の成因，予防，治療法開発の研究を行った．さらに，偽水晶体黄斑症が点眼薬に含まれる防腐剤に起因することを培養実験で確認した．また，ヒトマイボーム腺細胞の株化細胞作成の前実験を行った．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shastry BS¹⁾，Hejtmancik JF¹⁾，Hiraoka M¹⁾，Ibaraki N，Okubo Y，Okubo A²⁾，Han DP³⁾，Trese MT¹⁾ (¹⁾Eye Research Institute, Oakland University, ²⁾Okubo Eye Clinic, ³⁾NIH)：Linkage and candidate gene analysis of autosomal-dominant familial exudative vitreoretinopathy．Clin Genet 2000；58(4)：329-332．
- 2) Miyake K¹⁾，Ota I¹⁾，Ibaraki N，Akura J¹⁾，Ichihashi S¹⁾，Shibuya Y¹⁾，Maekubo K¹⁾，Miyake S¹⁾ (¹⁾Miyake Eye Clinic)：Enhanced distribution of blood-aqueous barrier and the incidence of angiographic cystoid macular edema by topical timolol and its preservative in early postoperative pseudophakia．Arch Ophthalmol 2001；119(3)：387-394．
- 3) 茨木信博：ヒト水晶体上皮細胞株の作製．日白内障会誌 2000；12(1)：18-26．
- 4) 山口恵子¹⁾，大原國俊¹⁾，東 永子¹⁾，中嶋花子¹⁾，矢口智恵美¹⁾，茨木信博(¹⁾付属病院眼科)：眼サルコイドーシスにおける網膜新生血管の病型分類．臨眼 2001；55(2)：209-214．

著 書

- 1) 鈴木俊一¹⁾, 梯 彰弘²⁾, 茨木信博 (¹⁾ 救急救命東京研修所, ²⁾ 自治医科大学大宮医療センター: [共著] 視力障害. 救急現場のピットフォール1 (山本保博, 安田和弘), 2001 ; pp132-136, 荘道社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 茨木信博: 白内障予防に緑茶がいい? : 基礎的研究 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .

(2) 学術講演 :

- 1) 茨木信博: 最近の白内障手術の進歩 . 日本医科大学同窓会千葉県支部学術講演, 2000 . 4 .
- 2) 茨木信博: 後発白内障に対する基礎的研究 . 千葉県病診連携学術講演会, 2000 . 5 .

(3) シンポジウム :

- 1) 茨木信博: 後発白内障対策・基礎研究 . 第39回日本白内障学会シンポジウム, 2000 . 6 .

(4) セミナー :

- 1) 茨木信博: 緑内障点眼薬および防腐剤がヒト水晶体上皮細胞に及ぼす影響 . 第24回日本眼科手術学会ランチョンセミナー, 2001 . 1 .

(5) 一般講演 :

- 1) Ibaraki N, Fan W¹⁾, Lin LR¹⁾, Giblin F¹⁾, Reddy V¹⁾ (¹⁾ Eye Research Institute, Oakland University): Effects of green tea polyphenols in protecting lens epithelial cells against oxidative damage . ARVO meeting. (Fort Lauderdale, Florida, USA.), 2000 . 5 .
- 2) Usui T¹⁾, Amano T¹⁾, Oshita N¹⁾, Ibaraki N, Seki G¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo, School of Medicine): Functional and molecular evidence for Na+HCO3-contransporter (NBC) in human lens epithelial cells . ARVO meeting. (Fort Lauderdale, Florida, USA.), 2000 . 5 .
- 3) Ibaraki N, Yaguchi C¹⁾ (¹⁾ Nippon Medical School): Glistenings in silicon IOLs . ASCRS 2000 symposium on cataract, IOL and refractive surgery. (Boston, MA, USA), 2000 . 5 .
- 4) Ibaraki N : Prevention of posterior capsule opacification using RGD-peptide . XIV international congress of eye research. (Santa Fe, New Mexico, USA), 2000 . 10 .
- 5) Ibaraki N : Intraocular lens implantation in children . The third Asian cataract research conference. (Hong Kong, China.), 2000 . 11 .
- 6) 茨木信博, 高橋 浩¹⁾, Chylach L²⁾, Shinohara T²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院眼科, ²⁾ Harvard University): Lens epithelium derived growth factor が角膜内皮細胞に及ぼす影響 . 第105回日本眼科学会, 2000 . 4 .
- 7) 岡本仁史¹⁾, 弓削堅士²⁾, 茨木信博, Reddy V³⁾ (¹⁾ 大阪大学医学部, ²⁾ 関西医科大学付属病院, ³⁾ University of Michigan): 不死化ヒト水晶体上皮における細胞増殖因子受容体 . 第105回日本眼科学会, 2000 . 4 .
- 8) 茨木信博, 矢口智恵美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院眼科): アクリル眼内レンズの着色 . 第39回日本白内障学会・第15回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2000 . 6 .
- 9) 矢口智恵美¹⁾, 茨木信博, 坂西良彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院眼科, ²⁾ 坂西眼科医院): シリコン眼内レンズに認められた輝点 . 第39回日本白内障学会・第15回日本眼内レンズ屈折手術学会, 2000 . 6 .
- 10) 村上千穂¹⁾, 相川智絵¹⁾, 菅野郁子¹⁾, 平上智子¹⁾, 茨木信博 (¹⁾ 付属病院眼科): 幼児片眼 IOL 挿入術後に弱視訓練が視力獲得に有効であった1例 . 第56回日本弱視斜視学会総会, 2000 . 6 .
- 11) 神元垂希子, 村上千穂²⁾, 平上智子²⁾ (¹⁾ 付属病院眼科): 幼児片眼 IOL 挿入術後に固視訓練が有効であった1例 . 第54回日本臨床眼科学会, 2000 . 11 .

- 12) 後藤陽子, 鈴木輝彦, 神元亜希子, 深川 晃, 茨木信博: 当院における糖尿病網膜症について. 日本医科大学医学会例会第102回例会, 2000. 12.
- 13) 鈴木輝彦, 茨木信博: 小児の結膜色素性腫瘍状病変の1症例. 第102回日本医科大学眼科症例検討会, 2000. 12.
- 14) 後藤陽子, 茨木信博: ラタノプロスト, マレイン酸チモロールが水晶体上皮細胞のサイトカイン産生に及ぼす影響. 第27回水晶体研究会, 2001. 1.
- 15) 深川 晃, 後藤陽子, 鈴木輝彦, 神元亜希子, 茨木信博: 糖尿病網膜症発症と糖尿病コントロールについて. 第237回千葉眼科集談会, 2001. 3.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本年度も教室の研究テーマであるショックの病態生理と治療，手術侵襲機序の解明とその対策，麻酔と循環動態，周術期体液代謝管理，術後疼痛管理，ペインクリニック，外科系集中治療管理につき研究が行われ，さらに麻酔と呼吸生理，麻酔と中枢神経生理の基礎的研究や日帰り手術，内視鏡手術への麻酔管理等の新たなテーマも加わり，臨床および基礎的研究が幅広く行われた．以下に本年度の主な研究内容を示す．

臨床的研究：

- (1) ショック患者の麻酔と病態治療（ショック患者，敗血症患者への対策），
- (2) 外科侵襲とその対策（神経内分泌免疫系の総合評価，腹部救急患者への周術期対策），
- (3) 周術期の循環動態・心機能評価（経食道心エコー，ドブタミン負荷エコーによる評価），
- (4) 心疾患患者の周術期管理（新たな心筋虚血指標での解析），
- (5) 周術期の体液代謝管理（膠質浸透圧，循環血液量の臨床測定），
- (6) 外科系患者の集中治療（非侵襲的呼吸管理法，周術期侵襲指標の同定），
- (7) ペインクリニック（四肢虚血性疾患，多汗症治療，末梢神経機能の量的評価），
- (8) 内視鏡手術の麻酔管理（侵襲度の評価），
- (9) 日帰り手術の麻酔管理（麻酔法と認知機能障害の検討，VIMAとTIVAの比較検討）など．

基礎的研究：

- (1) 心臓灌流・血管灌流モデル（サイトカインと心機能，麻酔薬による虚血保護機構），
- (2) ショックモデル（ペントキシフィリンの抗ショック作用，サイトカインとガス状モノオキシドの関連），
- (3) 培養細胞研究（c-fos発現，ガス状モノオキシドとアポトーシス），
- (4) パッチクランプモデル（麻酔薬による呼吸中枢機能変化，中枢神経活動変化），
- (5) 神経原性疼痛モデル（脊髄c-fos発現と鎮痛薬による変化）など．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wajima Z¹⁾, Shitara T, Inoue T¹⁾, Ogawa R (¹⁾ Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital): Severe lightning pain after subarachnoid in a patient with neuropathic pain of central origin : Which drug is best to treat the pain? . The Clinical Journal of Pain 2000 ; 16 (3) : 265-269 .
- 2) Wajima Z¹⁾, Inoue T¹⁾, Yoshikawa T¹⁾, Imanaga K¹⁾, Ogawa R (¹⁾ Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital): Change in hemodynamic variables and catecholamine levels after rapid increase in sevoflurane or isoflurane concentration with or without nitrous oxide under endotracheal intubation . Journal of Anesthesia 2000 ; 14 : 175-179 .
- 3) Shiga T, Terajima K, Matsumura J, Sakamoto A, Ogawa R : Minor cardiac troponin T release in patients undergoing coronary artery bypass graft surgery on a beating heart . Journal of cardiothoracic and vascular anesthesia 2000 ; 14 (2) : 151-155 .
- 4) Shiga T, Terajima K, Matsumura J, Sakamoto A, Ogawa R : Local cardiac wall stabilization influences the reproducibility of regional wall motion during off-pump coronary artery bypass surgery . Journal of clinical

monitoring and computing 2000 ; 16 : 25-31 .

- 5) Kamuro H , Komoriya N , Ogawa R : Optimal dose and suration of glucose administration during fasting eriod receding surgery in rabbits . J Anesth 2000 ; 14 : 19-23 .
- 6) Kitamura A , Hoshino T , Ogawa R : Patients with diabetic Neuropathy are at risk of a greater intraoperative reduction in core temperature . Anesthesiolog 2000 ; 92 (5) : 1311-1318 .
- 7) Shiga T , Ogawa R : Five-grade scoring system is still confusing : dose ASE/SCA set up a double standrd? [letter] . Anesthesia and Analgesia 2000 ; 90 : 1248-1249 .
- 8) Oi Y , nemanA , Dahlqvist M , Swensson M , Evert S , Haljam 各 H : Hypertonic saline-dextran improves intestinal perfusion and survival during porcine endotoxin shock . Critical Care Medicine 2000 ; 28 (8) : 2843-2850 .
- 9) Ishida H , Fujii E¹⁾ , Irie K¹⁾ , Yoshioka T¹⁾ , Muraki T¹⁾ , Ogawa R (¹⁾ Department of Pharmacology, Tokyo Women's Medical University, School of Medicine) : Role of inflammatory mediators in lipid Aanalof (ONO-4007) -induced vascular permeability change in mouse skin . British Journal of Pharmacology 2000 ; 130 (6) : 1235-1240 .
- 10) Odenstedt H , Aneman A , Oi Y , Svensson M , Stenqvist O , Lundin S : Descending aortic blood flow and cardiac output : A clinical and xperimental study of continuous oesophageal echo-Doppler flowmetry . Acta Anaesthesiol Scand 2001 ; 45 (2) : 180-187 .
- 11) 小倉 明 , 今永和幸¹⁾ , 吉河達祐¹⁾ , 輪嶋善一郎¹⁾ , 益田律子¹⁾ , 井上哲夫¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院麻酔科) : 上腹部手術中に原因不明の高カリウム血症により心停止となり蘇生し得なかった1例 . 蘇生 2000 ; 19 (2) : 151-155 .
- 12) 大島正行¹⁾ , 稲木敏一郎¹⁾ , 横山健至¹⁾ , 杉本季久造¹⁾ , 島田洋一¹⁾ , 小川 龍 (¹⁾ 第二病院麻酔科) : 周術期を硬膜外ブロックで管理した特発性血小板減少性紫斑病合併帝王切開術の1症例 . 臨床麻酔 2000 ; 24 (7) : 1203-1205 .
- 13) 坂本篤裕 , 清水 淳 , 鈴木規仁 , 松村純也 , 小川 龍 : エンドトキシンショック時の一酸化窒素と一酸化炭素の関連 . 日集中治療医学会誌 2001 ; 8 (1) : 15-19 .
- 14) 杉本季久造¹⁾ , 島田洋一¹⁾ , 小川 龍 , 小河原美代子²⁾ , 内村洋子²⁾ , 増子ハルミ²⁾ (¹⁾ 第二病院麻酔科 , ²⁾ 同中央手術室) : 麻酔科医と医療廃棄物 . 日手術医学会誌 2001 ; 22 (1) : 69-70 .

(2) 総説 :

- 1) 坂本篤裕 : 多発外傷患者の緊急手術の麻酔 . Anesthesia Network 2000 ; 4 (2) : 25-27 .
- 2) 坂本篤裕 : 吸入麻酔薬 v. s. 静脈麻酔薬 pro 吸入麻酔薬 . 日本麻酔・薬理学会誌 2000 ; 12 (2) : 48-50 .
- 3) 小川 龍 : 敗血症性ショック : 最近の概念 . 小児科 2000 ; 41 : 2139-2145 .
- 4) 大井良之 : 人工膠質液の将来 . 日臨麻会誌 2000 ; 20 (6) : 284-286 .
- 5) 小川 龍 : 合併症を有する腹部救急疾患の治療 . 日腹部救急医学会誌 2000 ; 21 (3) : 499 .
- 6) 坂本篤裕 : 腹部救急患者の侵襲防御対策 . 日腹部救急会誌 2001 ; 21 (1) : 163-169 .
- 7) 坂本篤裕 : 電気痙攣療法 (ECT) の麻酔 , ペースメーカー患者への ECT . Life support and Anesthesia 2001 ; 8 (2) : 64-67 .
- 8) 坂本篤裕 : 泌尿器科手術における合併症管理のすべて ; 急性循環不全 . 臨泌 2001 ; 55 (4) : 227-231 .
- 9) 小川 龍 : 抗炎症薬は MODF を防止できるか . 医学のあゆみ 2001 ; 196 (1) : 77-80 .
- 10) 大井良之 , 小川 龍 : 合併症を有する腹部救急疾患の治療 ; 腹部救急疾患の合併症の実体 . 日腹部救急医学会誌 2001 ; 21 (3) : 501-506 .

著 書

- 1) 坂本篤裕 : [自著] 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (小川 龍) , 2000 ; pp1-206 , 真興交易

出版 .

- 2) 坂本篤裕 : [分担] 内視鏡手術と外科侵襲 . 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (坂本篤裕 , 小川 龍), 2000 ; pp17-26 , 真興交易出版 .
- 3) 坂本篤裕 : [分担] 内視鏡手術に伴う特殊な問題点 . 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (坂本篤裕 , 小川 龍), 2000 ; pp27-52 , 真興交易出版 .
- 4) 坂本篤裕 : [分担] 内視鏡手術の麻酔管理 . 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (坂本篤裕 , 小川 龍), 2000 ; pp131-202 , 真興交易出版 .
- 5) 坂本篤裕 : [分担] 麻酔薬 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋本成太 , 堀内和孝), 2001 ; pp119-120 , 医学書院 .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 坂本篤裕 : ガス状ラジカルの動向 . 第4回日本医療ガス学会学術大会 , 2000 . 9 .

(2) シンポジウム :

- 1) 大井良之 : 術中輸液を再評価する : 術中輸液の組織を再評価する . 第20回日本臨床麻酔学会 , 2000 . 11 .
- 2) 大井良之 : 脱血に対する輸液効果 : 腸管微小循環を指標として . 第14回自己輸血学会 , 2001 . 3 .

(3) パネルディスカッション :

- 1) 坂本篤裕 , 小泉 潔¹⁾(¹⁾ 付属病院第二外科): 胸部交感神経ブロックの変遷と適用 . 第23回日本美容外科学会総会 , 2000 . 9 .
- 2) 中西一浩 , 清水 淳 , 池崎弘之 , 竹田晋浩 , 安武正弘¹⁾ , 本間 博²⁾ , 高山守正²⁾ , 田中啓治¹⁾ , 小川 龍 , 高野照夫²⁾(¹⁾ 付属病院集中治療室 , ²⁾ 同内科第1): 周術期循環変動に対するドブタミン負荷心エコー法の有用性 . 第28回日本集中治療医学会総会 , 2001 . 3 .

(4) セミナー :

- 1) 坂本篤裕 : 生体侵襲における神経内分泌免疫反応と対策 . 第28回日本集中治療医学会総会 , 2001 . 3 .

(5) ワークショップ :

- 1) 坂本篤裕 : VIMA の実際 ; 8%セボフルレンによる麻酔導入 . 日本麻酔学会第47回大会 , 2000 . 4 .

(6) 一般講演 :

- 1) Ogura A , Inoue T¹⁾ , Wajima Z¹⁾ , Yoshikawa T¹⁾ , Imanaga K¹⁾ (¹⁾ Department of Anaesthesia, Chiba Hokusoh Hospital): Skin to Vertebral Lmina Distance as A Principal Landmark for The Epidural Puncture Using Pramedian Approach . 8th Annual Meeting European Society of Anaesthesiologists (ESA), 2000 . 4 .
- 2) Nakajima Y , Onodera H , Sakamoto A , Ogawa R : Effects of local anethetics on induction of thymocyte apoptosis . the 12th World congress of Anesthesiologists , 2000 . 6 .
- 3) Sakamoto A , Shimizu J , Suzuki N , Matsumura J , Ogawa R : Prostaglandin E2 receptor subtype EP4 agonist attenuates excessive production of cytokines and nitric oxide in septic shock . the 12th World congress of Anesthesiologists , 2000 . 6 .
- 4) Ohshima M¹⁾ , Inagi T¹⁾ , Yokoyama K¹⁾ , Shimada Y¹⁾ , Ogawa R (¹⁾ 第二病院麻酔科): CPT (Current Perception Threshold) decreases after delivery . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 5) Ikezaki H¹⁾ , Takano T²⁾ , Ogawa R (¹⁾ 付属病院集中治療室 , ²⁾ 同内科第1): Use of noninvasive ventilation for acute cardiogenic pulmonary edema in the intensive care unit . 12th World congress of Anaesthesiologist (Montreal, Canada), 2000 . 6 .
- 6) Ogura A , Wajima Z¹⁾ , Yoshikawa T¹⁾ , Imanaga K¹⁾ , Inoue T¹⁾ (¹⁾ Department of Anaesthesia, Chiba Hok-

- souh Hospital): Incidence of Complications Related to Epidural Catheterization Using the Pramedian Approach. 2000 Annual Meeting American Society of Anesthesiologists (ASA) (San Francisco), 2000. 10.
- 7) Wajima Z¹⁾, Yoshikawa T¹⁾, Ogura A, Imanaga K¹⁾, Inoue T¹⁾, Oawa R (¹⁾ Department of Anesthesia, Chiba Hokusoh Hospital): Intravenous colforsin daropate prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction. American Society of Anesthesiologists 2000 Annual Meeting (San Francisco, California), 2000. 10.
- 8) 岩崎かな子¹⁾, 足立 仁¹⁾, 横田哲也¹⁾, 上原 清¹⁾, 野本幸子¹⁾, 小川龍 (¹⁾ 関東労災病院麻酔科): 診断の確定していない運動ニューロン疾患の患者に3回の脊髄・硬膜外麻酔を施行した症例. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 9) 大井良之, 北澤由香, 寺嶋克幸, 小川 龍: 麻酔の導入で循環血液量は増加する?. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 10) 森山みちる, 大井良之, 坂本篤裕, 小川 龍: 帯状疱疹後疼痛 (PHN) 患者の交感神経系活動性について. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 11) 藤谷 仁, 小川 龍, 中西一浩, 金 徹, 中山暢子: 肺腫瘍摘出術中に起こった心停止にPCPSが有効であった1症例. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 12) 加藤信也, 中西一浩, 小川 龍: 人工全膝関節置換術はターニケット使用中でも肺塞栓の危険性がある. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 13) 岸川洋昭, 中島祐史, 坂本篤裕, 小川 龍: ラット肝細胞に対するフリーラジカルの影響. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 14) 坂本篤裕, 小野寺英貴, 中島祐史, 清水 淳, 河原裕泰, 鈴木規仁, 岸川洋昭, 小川 龍: エンドトキシンショックに対するEP4レセプターアゴニストの治療効果. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 15) 鈴木規仁, 清水 淳, 坂本篤裕, 小川 龍: 炎症性サイトカインによる心機能抑制と一酸化窒素の関与. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 16) 松村純也, 中西一浩, 小川 龍, 高柳和江¹⁾, 徳永 昭²⁾, 金子栄子³⁾, 高岡雅子³⁾, 田邊真理子³⁾ (¹⁾ 医療管理学, ²⁾ 外科第1, ³⁾ 付属病院看護部): 手術室におけるクリニカルパスの考察. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 17) 杖下隆哉, 本郷 卓, 小川 龍: 慢性関節リウマチ患者における挿管困難と下喉頭腔の広さとの関係. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 18) 小野寺英貴, 小川 龍, 今城純子¹⁾ (¹⁾ 解剖第1): Propofol投与によるラット小脳および延髄オリブ核におけるc-fos mRNA発現. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 19) 幸田修典, 清水 淳, 赤田信二, 小川 龍: 肺全摘出術中に喘息様症状を初発症状とした肺塞栓を来した1例. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 20) 中西一浩, 竹田晋浩, 寺嶋克幸, 小川 龍: 手術侵襲により活性化される交感神経副腎系と炎症性サイトカイン値の関係. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 21) 木村真理子, 藤田宏子, 中西一浩, 小川 龍: 腹腔鏡下脾臓摘出術中, 両側緊張性気胸を発症した1例. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 22) 石田浩康, 藤井恵美子¹⁾, 入江かをる¹⁾, 吉岡俊正¹⁾, 村木 篁¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学薬理学): LPS誘発マウス皮膚血管透過性亢進作用に対するlipid Aアナログ前投与の保護的效果. 第102回日本薬理学会関東部会, 2000. 4.
- 23) 河原裕泰, 小野寺英貴, 今城純子¹⁾, 坂本篤裕, 小川 龍 (¹⁾ 解剖第1): ラット坐骨神経結紮モデルにおけるEP1 antagonist (ono-8711) 投与の効果. 日本麻酔学会第47回大会, 2000. 4.
- 24) 大島正行¹⁾, 稲木敏一郎¹⁾, 横山健至¹⁾, 杉本季久造¹⁾, 島田洋一¹⁾, 小川 龍 (¹⁾ 第二病院麻酔科): 分娩前後においてCPT (Current Perception Threshold) は低下する. 日本麻酔科学会第47回大会, 2000. 4.

- 25) 寺嶋克幸, 設楽敏朗, 池崎弘之, 坂本篤裕, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 萩原信敏²⁾, 土屋喜一²⁾, 牧野浩司²⁾, 丸山 弘²⁾, 宮下正夫²⁾, 笹島耕二²⁾, 小川 龍^(¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 外科第1): 右開胸開腹食道亜全摘術後のソノクロットによる凝固機能の評価. 第15回日本ショック学会総会, 2000. 5.
- 26) 松村純也, 坂本篤裕, 小川 龍: ラット虫垂穿孔結紮モデルにおけるPentoxifylineの抗ショック作用の検討. 第15回日本ショック学会総会, 2000. 5.
- 27) 池崎弘之¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 井上哲夫²⁾, 小川 龍^(¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 千葉北総病院麻酔科): 心不全時の低酸素血症(危機的呼吸障害患者の管理). 第22回日本呼吸医学会学術総会, 2000. 6.
- 28) 小倉 明, 輪嶋善一郎¹⁾, 今永和幸¹⁾, 吉河達祐¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 小川 龍^(¹⁾ 千葉北総病院麻酔科): 旁正中法による硬膜外カテーテル挿入時の異なる椎間レベルでの合併症出現率の比較. 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 29) 輪嶋善一郎¹⁾, 吉河達祐¹⁾, 小倉 明, 井上哲夫¹⁾, 小川 龍^(¹⁾ 千葉北総病院麻酔科): 脊椎麻酔時におけるphantom sensationについて(第1報; a qualitative systematic review). 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 30) 北村 晶, Marszalec W¹⁾, Yeh J¹⁾, Narahashi T¹⁾(^(¹⁾ Northwestern University Medici School): ラット皮質ニューロンにおける興奮性および抑制性シナプス伝達へのハロタン, プロポフォルの作用. 第18回麻酔メカニズム研究会, 2000. 7.
- 31) 幸田修典, 池崎弘之, 竹田晋浩, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野照夫²⁾, 小川 龍, 田中啓治¹⁾(^(¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 同内科第1)): 集中治療室における非侵襲的人工呼吸器BiPAP使用に関する一考案. 第6回日本医科工科学治療学会, 2000. 8.
- 32) 斎藤京子¹⁾, 高山英男¹⁾, 竹田晋浩, 佐藤直樹¹⁾, 安武正弘¹⁾, 田中啓治¹⁾, 中込明裕²⁾, 高野照夫²⁾, 田島廣之³⁾, 林 宏光³⁾, 隈崎達夫³⁾(^(¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 同内科第1, ³⁾ 同放射線科)): 上腸間膜動脈単離による虚血性腸炎を呈した1例. 第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2000. 8.
- 33) 中山暢子, 池崎弘之, 竹田晋浩, 宮下正夫¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 高野照夫²⁾, 小川 龍, 田中啓治³⁾(^(¹⁾ 付属病院外科第1, ²⁾ 同内科第1, ³⁾ 同集中治療室)): 食道癌術後における呼吸気感染症起因菌の検出. 第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2000. 8.
- 34) 三井誠司, 大井良之, 加藤信也, 小川 龍: 閉鎖循環下骨盤内抗癌剤灌流法の麻酔経験. 第40回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 2000. 9.
- 35) 岩崎かな子¹⁾, 山下理恵子¹⁾, 横田哲也¹⁾, 上原 清¹⁾, 野本幸子¹⁾, 小川 龍^(¹⁾ 関東労災病院麻酔科): SevofuraneによるVIMA (volatile induction and maintenance of anesthesia) とpropofolの導入法の検討. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 36) 坂本篤裕, 小川 龍, 鈴木博子¹⁾, 木村真人¹⁾, 藤屋哲夫²⁾(^(¹⁾ 精神医学, ²⁾ すすき病院神経内科)): 維持期電気痙攣療法に対する日帰り麻酔の安全性検討. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 37) 赤田信二, 松村純也, 木村真理子, 小倉 忍¹⁾, 小川 龍, 西邑信男¹⁾(^(¹⁾ 博慈会記念病院麻酔科)): 帝王切開術後疼痛管理について(特に後陣痛に対して). 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 38) 笠井麻紀¹⁾, 金 正¹⁾, 小川 龍^(¹⁾ 海老名総合病院付属東病院麻酔科)): 医原性心タンポナーデを合併した緊急開頭血腫除去の麻酔経験. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 39) 中山暢子, 寺嶋克幸, 設楽敏朗, 池崎弘之, 中西一浩, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治, 小川 龍^(¹⁾ 集中治療室)): 食道癌術後における感染症病原菌の検出. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 40) 大井良之, 大坂元久¹⁾, 小川 龍^(¹⁾ 情報科学センター)): Romano-Ward症候群の帝王切開術における硬膜外リドカインとQT間隔. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 41) 清水 淳, 坂本篤裕, 小川 龍: 濃厚赤血球輸血時に白血球除去フィルターに起因すると思われるショック症状を示した1例. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.

- 42) 大島正行¹⁾, 稲木敏一郎¹⁾, 横山健至¹⁾, 杉本季久造¹⁾, 島田洋一¹⁾, 小川 龍 (¹⁾第二病院麻酔科): CPT の測定によるバクリタキセルの末梢神経障害の評価。日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000 . 10 .
- 43) 杉本季久造¹⁾, 島田洋一¹⁾, 小川 龍, 小河原美代子²⁾, 内村洋子²⁾, 増子ハルミ²⁾ (¹⁾第二病院麻酔科, ²⁾同中央手術室): 麻酔科医と医療廃棄物。第22回日本手術医学会総会, 2000 . 11 .
- 44) 松田明久¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 古川清憲¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 池崎弘之, 竹田晋浩, 田中啓治²⁾, 小川 龍 (¹⁾付属病院第一外科, ²⁾同集中治療室): 緊急手術にて救命しえた成人 Bochdalek 孔ヘルニア嵌頓の1例。第36回日本腹部救急医学会総会, 2001 . 3 .
- 45) 清水 淳, 坂本篤裕, 中西一浩, 竹田晋浩, 池崎弘之, 小川 龍 : 濃厚赤血球輸血時に白血球除去フィルターに起因すると思われるショック症状を示した1例。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 46) 笠神康平¹⁾, 山本 剛¹⁾, 高山英夫¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 亀山幹彦¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 池崎弘之, 竹田晋浩, 安武正弘¹⁾, 高山守正²⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾内科第1): 当院CCUにおける最近10年間の急性心筋炎の短期および長期予後について。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 47) 笠神康平¹⁾, 安武正弘¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 高山英夫¹⁾, 坏 宏一¹⁾, 亀山幹彦¹⁾, 竹田晋浩, 池崎弘之, 田中啓治¹⁾, 高山守正²⁾, 清野精彦²⁾, 高野照夫²⁾ (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾同内科第1): 重症心不全例のドブタミン, 塩酸コルホルシンドロートに対する反応: 治療指針として。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 48) 池崎弘之, 竹田晋浩, 安武正弘¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 高野照夫²⁾, 小川 龍, 田中啓治¹⁾ (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾同内科第1): 背側肺障害に対する Intrapulmonary percussion ventilation の効果。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 49) 藤田宏子, 池崎弘之, 竹田晋浩, 四維東州, 鈴木かやの¹⁾, 二神生爾²⁾, 佐藤直樹³⁾, 安武正弘³⁾, 高野照夫⁴⁾, 小川 龍, 田中啓治³⁾ (¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾同内科第3, ³⁾同集中治療室, ⁴⁾同内科第1): 多臓器不全を伴った血球貧食症候群を集中治療により救命し得た1症例。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 50) 大井良之: 低心拍出量モデルにおける消化管循環不全に対するエンドセリン1プロックの効果。第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .

[第二病院麻酔科]

研究概要

子宮内容除去術の麻酔, 法的観点をふまえた産科麻酔の周術期管理, 合併症帝王切開の麻酔方法, 帝王切開時の内臓痛, さらに無痛分娩の現況, 無痛分娩法の詳細, またその論拠となる産痛について, 引き続き従来通り産科麻酔の研究を継続した。

ニューロメーターを用いて, 予定帝王切開前後の感覚閾値の変化, 卵巣癌の標準的な化学療法薬であるバクリタキセルによる末梢神経障害の客観的評価を行った。

近年再評価されている低容量ケタミンは, オピオイドの鎮痛作用を増強する。硬膜外ブピバカイン, モルヒネを用いた術後鎮痛に対する超少量ケタミンの増強作用, さらにミダゾラムがケタミンの副作用を減少させる研究を行った。自己血輸血の現況, Auto Vue を用いた24時間対応輸血検査法の有用性を報告した。

さらに近年医療廃棄物の問題が社会的にも考慮されており, 麻酔を行う際の医療廃棄物の現況を検討し報告した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Suzuki M, Tsueda K¹⁾, Peter SL¹⁾, Merritt MT¹⁾, Thomas MF¹⁾, Rachel AS¹⁾, Harrell EH²⁾, Steven BL³⁾

(¹) Department of Anesthesiology University of Louisville School of Medicine , ²) Department of Pharmacology and Toxicology University of Louisville School of Medicine , ³) Department of Psychiatry University of Louisville School of Medicine): Midazolam attenuates ketamine-induced abnormal perception and thought process but not mood changes . CAN J ANESTH 2000 ; 47 (9): 866-874 .

- 2) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾(¹) 付属病院麻酔科): 周術期を硬膜外ブロックで管理した特発性血小板減少性紫斑病合併帝王切開術の1症例. 臨床麻酔 2000 ; 24 (7): 1203-1205 .
- 3) 島田洋一: 産痛 . 分娩と麻酔 2000 ; (80): 33 .
- 4) 島田洋一, 菊池三郎¹⁾(¹) 元日本医科大学産婦人科学教室): 無痛分娩法の種類とメリット・デメリット . 臨産 2000 ; 54 (8): 983-987 .
- 5) 島田洋一: 日本で無痛分娩が普及しない理由 . 日本医事新報 2001 ; (4004): 111-112 .
- 6) 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾, 小河原美代子²⁾, 内村洋子²⁾, 増子ハルミ²⁾(¹) 付属病院麻酔科, ²) 第二病院中央手術室): 麻酔科医と医療廃棄物 . 日手術医会誌 2001 ; 22 (1): 69-70 .
- 7) 三並伸二¹⁾, 小西英喜¹⁾, 吉松和彦¹⁾, 松島 隆¹⁾, 塚田克也¹⁾, 関谷隆夫¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 石原楷輔¹⁾, 大島正行, 島田洋一, 土居大佑²⁾, 太田雄治郎²⁾, 米山剛一²⁾, 荒木 勤²⁾(¹) 第二病院産婦人科, ²) 付属病院産婦人科): タキソールによる末梢神経障害の定量的評価の試み . 日産婦神奈川会誌 2001 ; 37 (2): 101-105 .

(2) 総説 :

- 1) 大島正行, 島田洋一: 子宮内容除去術の麻酔 . 周産期医学 2000 ; 30 (4): 503-508 .
- 2) 山本英明: 産科麻酔・周術期管理と医事紛争 . 周産期医学 2000 ; 30 (4): 509-513 .
- 3) 大島正行, 島田洋一: 帝王切開で脊髄麻酔が十分に効いているのに患者が子宮収縮痛や創部痛を訴える理由とその予防法についてご教示下さい . 臨床麻酔 2001 ; 25 (3): 529-530 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Ohshima M, Inagi T, Yokoyama K, Shimada Y, Ogawa R¹⁾(¹) Department of Anesthesiology): CPT (Current Perception Threshold) decreases after delivery . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 2) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾(¹) 付属病院麻酔科): 分娩前後においてCPT (Current Perception Threshold) は低下する . 日本麻酔科学会第47回大会, 2000 . 4 .
- 3) 井梅和美¹⁾, 井上雅則¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 島田洋一 (¹) 第二病院中央検査室): Auto Vueによる輸血検査の24時間体制 . 第48回日本輸血学会, 2000 . 5 .
- 4) 島田洋一: 硬膜外麻酔分娩を巡る基本的諸問題 . 第100回記念分娩と麻酔研究会, 2000 . 6 .
- 5) 内木亮介, 横山健至, 稲木敏一郎, 鈴木万三, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾(¹) 付属病院麻酔科): 長期硬膜外カテーテル留置により在宅疼痛管理が可能であった1症例 . 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000 . 7 .
- 6) 花出 豊¹⁾, 井上雅則¹⁾, 井梅和美¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 松岡和彦¹⁾, 島田洋一 (¹) 第二病院中央検査室): 自己血輸血の新たな試み . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 7) 大島正行, 稲木敏一郎, 横山健至, 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾(¹) 付属病院麻酔科): CPTの測定によるパクリタキセルの末梢神経障害の評価 . 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000 . 10 .
- 8) 鈴木万三, 稲木敏一郎, 横山健至, 木下隆央, 大島正行, 赤羽日出男, 菊谷健彦, 杉本季久造, 島田洋一: 硬膜外ブピバカイン, モルヒネ鎮痛における超少量ケタミンの関与 . 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000 . 10 .
- 9) 井梅和美¹⁾, 井上雅則¹⁾, 花出 豊¹⁾, 新宅孝征¹⁾, 島田洋一 (¹) 第二病院中央検査室): 全自動輸血検査System導入 (Auto Vue) による24時間体制 . 第41回東北医学検査学会, 2000 . 10 .

- 10) 杉本季久造, 島田洋一, 小川 龍¹⁾, 小河原美代子²⁾, 内村洋子²⁾, 増子ハルミ²⁾(¹⁾ 付属病院麻酔科, ²⁾ 第二病院中央手術室): 麻酔科医と医療廃棄物. 第22回日本手術医学会総会, 2000. 11.

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

脊椎麻酔, 硬膜外麻酔の臨床的研究は, 当麻酔科における重要な研究テーマであり, 長年に渡り様々な研究結果を報告してきた. 最近では産科麻酔に関する研究, 報告も活発にしている. 現在, 当院では帝王切開術は脊硬麻法(CSEA)で行っているが, 本年は脊椎麻酔薬として等比重ブピバカインを用いその有用性を検討, さらに帝王切開時の母体血, 臍帯血の血糖と電解質について報告した.

臨床研究に加えて, 当院産婦人科の協力の下, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験も継続して行っている. 硬膜外麻酔では, 気道内圧の薬液の広がりへの影響について報告した.

ペインクリニック領域では, 様々な治療困難な痛みに対して, 新しい神経ブロックの治療方法を考案している.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Shibazaki Y, Nakai A¹⁾, Koshino T¹⁾, Yokoyama K (¹⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology, Tama-nagayam Hosp.): Effect of the immunosuppressant drug FK506 on neonatal cerebral mitochondrial function and energy metabolism after transient intrauterine ischemia in rats. BRAIN RESEARCH 2001 ; 892 : 351-358 .
- 2) 横山和子: 眼球損傷: 注意深い十分な閉眼とテープ使用により角膜損傷は避け得る. LISA 2000 ; 7 (4): 390-394 .
- 3) 横山和子: 脊麻用塩酸ブピバカイン(マーカイン[®])注. 臨床麻酔 2000 ; 24 (5): 871-873 .
- 4) 横山和子: 脊椎麻酔は“学問”である. LISA 2000 ; 7 (5): 472-472 .
- 5) 横山和子: 外来手術の麻酔. 臨床スポーツ医学 2000 ; 17 (8): 907-914 .
- 6) 横山和子: 医療事故と医事紛争. 分娩と麻酔 80 2000 ; 26-32 .
- 7) 横山和子: 脊椎麻酔の歩み. LISA 2001 ; 8 (3): 260-262 .

(2) 研究報告書:

- 1) Yokoyama K, Omi S, Nasuhara H : Comparison of Glucose-free Bupivacaine 0.5% and Bupivacaine 0.5% with Preservatives in Spinal Anesthesia. Regional Anesthesia and Pain Medicine (Supplement) 2001 ; 26 (2): pp44-44 .
- 2) 松尾千恵美, 横山和子: ベースメーカー挿入・パーキンソン病患者への脊椎麻酔(1症例報告). PHARMACONESTHESIOLOGY 2000 ; 12 (2): pp133-135 .
- 3) 志賀麻記子, 横山和子: 脊椎麻酔針(2種類)による Differential Blockの違い. 臨床麻酔 2000 ; 24 (10): pp1587-1590 .
- 4) 南須原宏城, 近江禎子, 横山和子: 0.5%等比重ブピバカイン4.0mlを脊椎麻酔に用いた際の薬液注入速度と麻酔高について. 麻酔 2000 ; 49 (12): pp1363-1366 .

(3) エッセイ:

- 1) 近江禎子: リレー随筆. Anet 2001 ; 5 (2): 33-34 .

(4) 総説:

- 1) 横山和子: 麻酔科への警鐘. 麻酔 2000 ; 49 (6): 595-595 .

(5) 追加分研究報告書：

- 1) Masuda R¹⁾, Inoue T¹⁾, Yokoyama K, Omi S, Shiga M (¹⁾Chiba-Hokusou Hosp.): Effects of Epidural Local Anaesthetic for Gastrointestinal Function in Postoperative Analgesia with Morphine . The International Monitor 1998 ; 10 (3): 127-127 .
- 2) Omi S, Shiga M, Yokoyama K : Onset-side of Spinal Anaesthesia with 0. 5% Plain Bupivacaine in the Lateral Decubitus Position . The International Monitor 1998 ; 10 (3): 90-90 .
- 3) Yokoyama Y, Koiwa M¹⁾, Takahashi S²⁾(¹⁾Kasukabe-syuwa Hosp. , ²⁾Nippon Medical School, Orthopedic Surgery): Extent and Duration of Isobaric Spinal Anesthesia by using New Open-end Pencil Point Spinal Needle . The International Monitor 1998 ; 10 (3): 91-91 .
- 4) 横山和子：酸素濃度計および麻酔ガス濃度計の精度．麻酔器の安全対策に関する研究 [昭和60年度厚生科学研究費補助金 (新医療技術研究事業) による] 報告書 1986 ; 23-25 .
- 5) 益田律子¹⁾, 横山和子 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): 星状神経節ブロックに合併した頸椎化膿性椎体椎間板炎の臨床的検討 . ペインクリニック 1999 ; 20 (2): 170-175 .

(6) 特別寄稿：

- 1) 横山和子：米国局所麻酔学会 (ASRA) に出席して . LISA 2000 ; 7 (6): 632-632 .
- 2) 横山和子：WCA 便り：「第12回世界麻酔学会」印象記 . LISA 2000 ; 7 (8): 886-887 .

著 書

- 1) 横山和子：〔分担〕脊椎麻酔．専門医のための麻酔科学レビュー2000 (天羽敬祐 (東京医科歯科大学名誉教授 , 東北大学名誉教授) , 2000 ; pp139-143, 総合医学社 .
- 2) 横山和子：〔分担〕脊椎麻酔．専門医のための麻酔科学レビュー2001 (天羽敬祐 (東京医科歯科大学名誉教授 , 東北大学名誉教授) , 2001 ; pp115-120, 総合医学社 .

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 近江禎子, 横山和子, Sasanka SD ¹⁾(¹⁾シンガポール国立大学麻酔科): 低流量麻酔：私はこうしている . 日本麻酔学会第47回大会, 2000 . 4 .

(2) 一般講演：

- 1) Omi S, Yokoyama K, Iino O, Nakai A¹⁾(¹⁾Dept. of Obstetrics and Gynecology, Tama -Nagayama Hosp.): Maternal and Umbilical Cord Blood Glucose Under Regional Anesthesia during Cesarean Section Delivery . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 2) Shibasaki Y, Nakai A¹⁾, Yokoyama K (¹⁾Dept. of Obstetrics and Gynecology, Tama-Nagayama Hosp.): - Phenyl-N-Tert-Butyl Nitron (PBN) Improve Recovery of Brain Energy State in Immature Rats Following Intrauterine Ischemia . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 3) Yokoyama K, Omi S, Mori H¹⁾(¹⁾Dept. of Surgery, Kusakabe Hosp.): The Effect of Positive Pressure Ventilation on the Spread of 3ml Test Dose in Thoracic Epidural Space . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 4) Yokoyama K, Koiwa M¹⁾(¹⁾Dept. of Orthopedics, Kusakabe Hosp.): The Safety and Efficacy of New Type of Spinal Needle Open-End Spinal Needle . 12th World Congress of Anaesthesiologists (Montreal), 2000 . 6 .
- 5) 横山和子, 近江禎子：硬膜外麻酔における test-dose 3. 0 ml の広がりについて：気道内圧の影響 . 日本麻酔学会第47回大会, 2000 . 4 .
- 6) 近江禎子, 横山和子, 飯野 治：硬麻または硬脊麻 (CSE) 下における帝王切開時の母体と臍帯血の血糖と電

解質値について．日本麻酔学会第47回大会，2000．4．

- 7) 南須原宏城，横山和子，山田光輝，石原之法，松尾千恵美，飯野 治，柴崎敬乃，平田清貴¹⁾(¹⁾多摩永山病院薬剤科): プロポフォールの麻酔導用量における体脂肪率の影響について．日本麻酔学会第47回大会，2000．4．
- 8) 横山和子: 合併症を有する超高齢者に対する等比重0.5% bupivacaineによる脊椎麻酔．日本麻酔・薬理学会第22回学術大会，2000．6．
- 9) 近江禎子，Tat-Leang L¹⁾，横山和子(¹⁾シンガポール国立大学病院麻酔科): 日帰り麻酔における包皮輪状切除術に対するNSAID座薬の術後鎮痛への有用性．日本麻酔・薬理学会第22回学術大会，2000．6．
- 10) 栗野啓子¹⁾，志賀麻記子，横山和子(¹⁾竹林病院ペインクリニック): 外傷後の難治性創傷に直線偏光近赤外線照射治療が有効であった3症例．日本ペインクリニック学会第34回大会，2000．7．
- 11) 松尾千恵美，横山和子: 脊椎麻酔下にCAPDカテ抜去・再留置術を施行した慢性腎不全患者の1症例．第40回日本麻酔学会関東甲信越地方会，2000．9．
- 12) 柴崎敬乃，山田光輝，柴田明佳¹⁾(¹⁾多摩永山病院中央検査室): 脊椎麻酔針への表皮常在菌付着はあるか．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 13) 中井章人¹⁾，谷内良成¹⁾，越野立夫¹⁾，柴崎敬乃，横山和子，朝倉啓文²⁾(¹⁾多摩永山病院産婦人科，²⁾付属病院産婦人科): 母体体温変化が子宮内虚血再灌流による新生仔脳障害に及ぼす影響について．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 14) 益田律子，井上哲夫¹⁾，山口真人¹⁾，横山和子，近江禎子: 帝王切開術における等比重脊椎麻酔薬の有用性．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．
- 15) 横山和子，小岩政人¹⁾，近江禎子(¹⁾春日部病院): 等比重0.5% bupivacaine脊椎麻酔100症例の検討．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．
- 16) 近江禎子，横山和子: 頸椎前方固定術後移植骨の挿管困難となった症例の経験．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．
- 17) 山田光輝，石原之法，松尾千恵美，川島 健¹⁾(¹⁾東京女子医科大学付属第二病院整形外科): 顎関節症治療に咬筋圧痛点浸潤麻酔が有効であった2症例．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．
- 18) 飯野 治，近江禎子，横山和子: 帝王切開術に対する0.5%等比重ブピバカイン脊椎麻酔の検討．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．
- 19) 近江禎子，横山和子: 帝王切開術に対する硬膜外併用脊椎麻酔の当院における現状．第13回日本局所麻酔学会総会，2000．11．
- 20) 飯野 治: 帝王切開術に対する0.5%等比重ブピバカイン脊椎麻酔の検討．第14回日本医大麻酔科学教室付属四病院集談会，2001．1．
- 21) 飯野 治，近江禎子，横山和子: 簡易ヘモグロビン測定装置ヘモキューヘモグロビンTMの有用性．第13回三多摩麻酔懇話会，2001．3．

(3) 市民講座:

- 1) 横山和子: 手術を安全に受けたいあなたに: 局所麻酔の利点と欠点．日本臨床麻酔学会第20回大会，2000．10．

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

付属病院および多摩永山病院との連携により、「外科侵襲に対する生体防御反応の調整・抑止」，「硬膜外麻酔・脊椎麻酔の生体への影響および管理法・手技」をテーマとした臨床研究が継続されていることに変わりはない。

具体的には，手術室，病室，外来（ペインクリニック）など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践主義

の研究開発が必要であると考えられる。実践目標には、患者の苦痛の除去、QOLの改善はもとより、医師側の治療への協力・助力となる方向での配慮が重要なほうまででもない。鎮痛法（術後疼痛、難治性疼痛、脊椎麻酔、神経ブロック）の向上に向けた研究は、この意味で継続して行われるべきであろう。

産科麻酔後の鎮痛法、プロポフォール麻酔による鎮静度の評価、慢性疼痛患者の痛覚認識の特徴、電気痙攣療法の麻酔管理、麻酔中の気道の保護などに関する新たな知見が得られるるところである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamaguchi M, Masuda R, Ikeda K, Wajima Z, Imanaga K, Inoue T, Ogawa R¹⁾ (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical school): Pain perception in patients with persistent neuropathic pain and the effects of relaxation . Management of Pain ; A World Perspective : Proceedings of Satellite of 9th Congress of the Pain Clinic 2000 ; 221-225 .
- 2) Masuda R, Inoue T, Tanuma K¹⁾, Kanda N²⁾, Yamaguchi M, Ikeda K (¹⁾Dept. of 2nd Anatomy, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Anatomy, Veterinary Med., Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture & Technology): Gene related pediatric arthralgia in childhood : A possible autosomal dominant arthralgia in a Japanese family . Management of Pain ; A world Perspective : Proceedings of Satellite of 9th Congress of the Pain Clinic 2000 ; 177-181 .
- 3) Wajima Z, Shitara T¹⁾, Inoue T, Ogawa R¹⁾ (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Severe lightning pain after subarachnoid block in a patient with neuropathic pain of central origin : Which drug is best to treat the pain? . The clinical Journal of Pain 2000 ; 16 (3) : 265-269 .
- 4) Wajima Z : Inhibition of spinal protein kinase C blocks substance P-mediated hyperalgesia . Brain Research 2000 ; 877 (2) : 314-321 .
- 5) Wajima Z, Inoue T, Yoshikawa T, Imanaga K, Ogawa R¹⁾ (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Changes in hemodynamic variables and catecholamine levels after rapid increase in sevoflurane or isoflurane concentration with or without nitrous oxide under endotracheal intubation . Journal of Anesthesia 2000 ; 14 (4) : 175-179 .
- 6) 小倉 明, 今永和幸, 吉河達祐¹⁾, 輪嶋善一郎, 益田律子, 井上哲夫 (¹⁾博慈会病院麻酔科): 上腹部手術中に原因不明の高カリウム血症により心停止となり蘇生しえなかった1例 . 蘇生 2000 ; 19 (2) : 151-155 .

(2) 総説：

- 1) 益田律子：脊椎麻酔の禁忌を検証する . LiSA 2000 ; 7 (5) : 444-449 .
- 2) 井上哲夫：硬膜外への薬物の誤投与 . ペインクリニック 2000 ; 21 (5) : 813-814 .

著書

- 1) 益田律子：〔分担〕くも膜下・硬膜外鎮痛法 . ペインクリニックのためのキーワード100 (小川節郎), 2000 ; pp272-275, 真興交易 (株) 医書出版部 .

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 井上哲夫：よく使われる麻酔薬 . 第4回千葉麻酔科医会市民講座, 2000 . 6 .
- 2) 井上哲夫：困難気道の管理：とくに器具について . 東京麻酔専門医会リフレッシャーコース2000, 2000 . 7 .
- 3) 井上哲夫：人工呼吸療法 . 3学会合同呼吸療法士認定更新のための講習会, 2001 . 2 .

(2) シンポジウム :

1) 益田律子 : 21世紀に向けての脊椎麻酔薬 . 第40回日本麻酔学会関東甲信越地方会 , 2000 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) Ogura A¹⁾, Inoue T, Wajima Z, Yoshikawa T²⁾, Imanaga K (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital): The Epidural Puncture Using Paramedian Approach . 8th Annual Meeting European Society of Anaesthesiologists (ESA)(Vienna), 2000 . 4 .
- 2) Yamaguchi M , Masuda R , Ikeda K , Wajima Z , Imanaga K , Inoue T , Ogawa R¹⁾(¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Pain perception in patients with persistent neuropathic pain and the effects of relaxation . International Symposium Satellite of the 9th Congress of the Pain Clinic (Tokyo), 2000 . 7 .
- 3) Masuda R , Inoue T , Tanuma K¹⁾, Kanda N²⁾, Yamaguchi M , Ikeda K (¹⁾Dept. of 2nd Anatomy, Nippon Medical school , ²⁾Dept. of Anatomy, Veterinary Medicine, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture & Technology): Gene related periodic arthralgia in childhood : A case report involving a Japanese family . International Symposium : Satellite of 9th congress of the Pain Clinic (Tokyo), 2000 . 7 .
- 4) Masuda R , Inoue T , Yokoyama K¹⁾, Ohmi S¹⁾(¹⁾Dept. of Anesthesiology, Tamagayama Hospital, Nippon Medical School): Effects of neuraxial morphine on postoperative analgesia and oxygen saturation after cesarean section . XIX Annual ESRA (the European Society of Regional Anaesthesia) Congress (Roma), 2000 . 9 .
- 5) Wajima Z , Yoshikawa T¹⁾, Ogura A²⁾, Imanaga K , Inoue T (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital , ²⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Intravenous colforsin daropate prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction . American Society of Anesthesiologists 2000 Annual Meeting (San Francisco), 2000 . 10 .
- 6) Ogura A¹⁾, Wajima Z , Yoshikawa T²⁾, Imanaga K , Inoue T (¹⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital): Incidence of Complications Related to Epidural Catheterization Using the Paramedian Approach . 2000 Annual Meeting, American Society of Anesthesiologists (ASA)(San Francisco), 2000 . 10 .
- 7) Wajima Z , Yoshikawa T¹⁾, Ogura A²⁾, Imanaga K , Shiga T , Inoue T , Ogawa R³⁾(¹⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital , ²⁾Yale University , ³⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Intravenous prostaglandin E1 prevents thiamylal-fentanyl-induced bronchoconstriction in humans . 75th clinical and scientific congress of the international anesthesia research society (IARS)(Florida), 2001 . 3 .
- 8) Wajima Z , Yoshikawa T¹⁾, Ogura A²⁾, Imanaga K , Shiga T , Inoue T , Ogawa R³⁾(¹⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital , ²⁾Yale University , ³⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Comparison of propofol alone, sevoflurane alone and propofol combined with sevoflurane as anesthetic agents for electroconvulsive therapy . 75th clinical and scientific congress of the international anesthesia research society (IARS)(San Francisco), 2001 . 3 .
- 9) Wajima Z , Yoshikawa T¹⁾, Ogura A²⁾, Imanaga K , Shiga T , Inoue T , Ogawa R³⁾(¹⁾Dept. of Anesthesiology, Hakujuikai General Hospital , ²⁾Yale University , ³⁾Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Effects of diltiazem on hemodynamics and seizure duration during electroconvulsive therapy . 75th clinical and scientific congress of the international anesthesia research society (IARS)(San Francisco), 2001 . 3 .
- 10) 山口真人 , 今永和幸 , 輪嶋善一郎 , 池田健次 , 益田律子 , 井上哲夫 : 疼痛患者の知覚痛覚認知機能に対する Relaxation の効果 . 日本麻酔学会第47回大会 , 2000 . 4 .
- 11) 吉河達祐¹⁾, 輪嶋善一郎 , 小倉 明²⁾, 井上哲夫 : プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対するクロニジンの効果 . 日本麻酔学会第47回大会 , 2000 . 4 .

- 12) 輪嶋善一郎, 吉河達祐¹⁾, 小倉 明²⁾, 井上哲夫, 小川 龍²⁾(¹⁾博慈会記念総合病院麻酔科, ²⁾日本医科大学付属病院麻酔科): 脊椎麻酔時における phantom sensation について: 第1報; a qualitative systematic review. 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 13) 益田律子, 井上哲夫, 池田健次, 輪嶋善一郎, 今永和幸: くも膜下・硬膜外モルヒネによる帝王切開術後鎮痛効果と術後SpO₂値の変動. 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 14) 小倉 明¹⁾, 輪嶋善一郎, 今永和幸, 吉河達祐²⁾, 井上哲夫, 小川 龍¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院麻酔科, ²⁾博慈会総合病院麻酔科): 旁正中法による硬膜外カテーテル挿入時の異なる椎間レベルでの合併症出現率の比較. 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 15) 今永和幸, 山口真人, 輪嶋善一郎, 吉河達祐¹⁾, 池田健次, 益田律子, 井上哲夫, 小倉 明²⁾: 開心術中フェンタニル使用量の違いによる術後痛への影響. 日本ペインクリニック学会第34回大会, 2000. 7.
- 16) 井上哲夫, 今永和幸: 水蒸気透過膜を応用した麻酔用呼吸回路の吸気加湿効果. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 17) 益田律子, 井上哲夫, 山口真人, 横山和子¹⁾, 近江禎子¹⁾(¹⁾多摩永山病院麻酔科): 帝王切開術における等比重脊椎麻酔薬の有用性. 日本臨床麻酔学会第20回大会, 2000. 10.
- 18) 田沼久美子¹⁾, 田沼 裕²⁾, 斉藤敏之¹⁾, 二見長一郎¹⁾, 益田律子, 神田尚俊³⁾(¹⁾日本医科大学解剖学第2, ²⁾帝京大学医学部解剖学, ³⁾農業工業大学農学部家畜解剖学): 全内臓逆位症例の臨床所見とその家族の染色体について. 第105回日本解剖学会総会全国学術集会, 2001. 2.
- 19) 吉河達祐, 西邑信男, 井上哲夫, 小川 龍: Fastrack による気管内挿管の循環動態に関する検討. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

18．救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック]

研究概要

平成12年度の研究概要を班別に述べる．

1. 外傷班：

Damage controlにおけるTAEの適応と位置付けについて，過去の症例をもとに，再検討した．また，ACSにおける経時的膀胱内圧測定や減圧開腹時の管理，腹壁の再建法など治療戦略の検討を行った．

2. 熱傷班：

本年度は，

- 1) 広範囲熱傷における人工真皮の臨床的有用性を評価するために，過去5年間の救命率を比較し，有用性を検討，
- 2) 感染症対策の治療戦略の研究を行った．
- 3) 小範囲熱傷においても整容上の研究，
- 4) 厚生省ミレニアムプロジェクトの班員となり，同种植皮の研究，
- 5) 国際協力としてモンゴルへ医師2名を派遣し，治療を行った．

3. 脳外科班：

論文では横田助教授のcritical care medicineへの掲載があり，学位論文が佐藤医員，直江院生から提出された．主な学会発表では，野手助教授の脳神経外科コンgresでの発表，佐藤医員の脳外科総会のシンポ，布施医員の救急医学総会でのフォーラムセッションでの発表が行われた．

4. 災害班：

災害地におけるプレフィルドシリンジの有用性を基礎的および臨床的に論文とした．実際の災害医療活動としては，班員が国際緊急援助隊として参加した台湾地震，モザンビーク洪水を論文としてまとめた．また，病院における災害訓練の評価方法を検討し発表した．

5. 感染症班：

救命救急センターにおける多剤耐性緑膿菌の検出状況と発生因子を調査した．また，これらに対するゲンチアナ・パイオレットの抗菌作用の検討を行い，in vitroで良好な結果を得た．

6. 整形班：

脊髄損傷の機能的予後因子であろうと思われる髄液中マーカーを測定し検証を行った．また，手術の手技的には白蓋骨折に対するPfannenstiel incisionによる前方経腹膜外侵入法による有用性についての症例を重ねて模索した．

7. 中毒班：

付属病院，付属多摩永山病院の中毒例，特に外国薬やインターネットを利用した症例について実態調査を行った．また，Position Statementによる胃洗浄等の適応について現在検討中である．

8. 病態生理：

各種侵襲病態における血中IL-18の測定．熱傷症例における尿中ウリナスタチンの測定を行い，病態への関与を解析した．また，敗血症におけるナトリウム利尿ペグチド濃度の変動とその意義，免疫状態の指標としての単球HLA-DRの発現率の検討を行った．

9. 基礎研究班：

外傷性出血性ショック後のARDS/MOFの発現における保存血の役割を明らかにした．現在，保存血中のlipid mediatorsについて同定している．

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Koike K, Mochizuki T, Kushimoto S, Shibata Y, Koido Y, Tsujii A, Yamamoto Y: Microalbuminuria correlates with endothelial injury and multiple organ dysfunction. : A preliminary study . 日救急医学会誌 2000 ; 11 : 261-268 .
- 2) Koike K, Yamamoto Y, Hori Y¹⁾, Ono T¹⁾(¹⁾シオノギ製薬株式会社): Group II A phospholipase A₂ mediates lung injury in intestinal ischemiareperfusion . Ann Surg 2000 ; 232 : 90-97 .
- 3) Koike K, Yamamoto Y, Peterson VM¹⁾, Emmett M¹⁾(¹⁾コロラド大学外科学教室): Effects of interleukin-6 therapy on serum acute phase proteins in a murine model of thermal injury . 熱傷 2000 ; 26 : 123-129 .
- 4) Yoshida D, Sugisaki Y, Tamaki T, Saitoh N, Node Y, Shimura T, Teramoto A: Intracranial malignant meningioma with abdominal metastases associated with hypoglycemic shock : a case report . Journal of Neuro-Oncology 2000 ; 47 : 51-58 .
- 5) Asari Y¹⁾, Koido Y²⁾, Nakamura K³⁾, Yamamoto Y²⁾, Ohta M⁴⁾(¹⁾School of Medicine, Kitasato University, ²⁾Nippon Medical School, ³⁾Ministry of Foreign Affairs, Japan, ⁴⁾Osaka Prefectural Senri Critical Care Medicine Center): Analysis of Medical Needs on Day 7 after the Tsunami Disaster in Papua New Guinea . Pre-hospital and Disaster Medicine 2000 ; 15 (2) : 81-85 .
- 6) 野手洋治: Neuroimaging Quiz : pilocytic astrocytoma . Clinical Neuroscience 2001 ; 19 : 93-94 .
- 7) Ninomiya N, Koido Y, Yamamoto Y: Aseptic Efficacy of Prefilled Syringes in a Polluted Environment . prehospital and Disaster Medicine 2001 ; 16 (1) : 14-17 .
- 8) 本間正人: TAT, SFMC . 救急医 24 (4) : 417-418 .
- 9) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 辺見 弘: アンケート調査による東京奥多摩地区における救急ヘリコプター搬送の心理的評価 . 日本航空医療学会雑誌 1 (1) : 38-46 .
- 10) 久志本成樹, 山本保博, 松園幸雅, 柴田泰史¹⁾, 相星淳一, 宮内雅人 (¹⁾付属病院中央検査部): 各種病態における単球HLA-DR発現率モニタリングの臨床的検討 . 日本救急医学会雑誌 2000 2000 ; 11 (12) : 710-711 .
- 11) 野手洋治, 高橋 弘, 志村俊郎, 寺本 明: 画像上鑑別診断に苦慮した鞍上部神経膠腫の2例 . 臨床放射線 2000 ; 45 (8) : 953-957 .
- 12) 佐藤秀貴, 野手洋治, 荒木 尚, 大橋一善, 原田尚重, 山本保博: 先天性胆道閉鎖症に合併した Vitamin K 欠乏による頭蓋内出血の1例 . Neurosurg Emerg 5 2000 ; 77-80 .
- 13) 宮内雅人, 二宮宣文, 山本保博: 救命救急医療における毒物中毒 . 臨床検査 2000 ; 44 (12) : 99-102 .
- 14) 川井 真, 原 義明, 大泉 旭, 野崎正太郎, 山本保博: 多発外傷における骨折の治療 . 整形 災害外科 2000 ; 43 (9) : 975-979 .
- 15) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 前田容子, 山本保博, 大塚敏文: 国際空港における外国人に対する救急活動 . 救急医療ジャーナル 2000 ; 8 (3) : 16-18 .
- 16) 小井土雄一, 山本保博: 時間外診療: 救命救急センターとして . 総合臨床 2000 ; 49 (7) : 1951-1957 .
- 17) 玉置智規¹⁾, 柴田泰史²⁾, 野手洋治³⁾, 山本保博³⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾付属病院中央検査部, ³⁾救急医学): 重症頭部外傷における代謝性アシドーシスの病態生理: ケトン体と乳酸に着目して . 脳神経外科 2000 ; 28 (7) : 623-629 .
- 18) 小井土雄一, 二宮宣文, 山本保博: 救命救急用プレフィルドシリンジの災害医療現場における有用性について: アンケート調査から . 日本集団災害医学会誌 2000 ; 5 (1) : 22-28 .
- 19) 小井土雄一, 二宮宣文, 山本保博: 救命救急用プレフィルドシリンジの災害医療現場における有用性について: アンケート調査から . 2000 ; 5 (1) : 22-28 .

- 20) 牧野俊郎, 小井土雄一, 吉田竜介, 山本保博, 原田尚重, 平間久雄: 改良型マスクなし食道閉鎖式エアウェイの開発と臨床的考察. 日本医事新報 2000 ; 3985 : 37-40 .
- 21) 松園幸雅, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: 救急外来におけるMRI診断: スポーツによる臓器損傷を中心に. 臨床スポーツ医学・臨時増刊号 2000 ; 17 : 164-165 .
- 22) 二宮宣文, 根本香代¹⁾, 岡村忠夫¹⁾, 山本保博⁽¹⁾日本医科大学薬理学): Lipopolysaccharideのモルモット腸管収縮抑制作用. 日救急医学会誌 2000 ; 11 (11): 651-659 .
- 23) 岸 泰宏¹⁾, 村岡真理²⁾, 黒澤 尚¹⁾, 小井土雄一³⁾, 山本保博³⁾, 矢崎誠一⁴⁾, 長尾 健⁴⁾, 小島卓也⁵⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院神経科, ²⁾東京都立広尾病院神経科, ³⁾日本医科大学救急医学, ⁴⁾日本大学救急医学, ⁵⁾日本大学精神医学): 救命救急センターに勤務する救急医の燃えつき (burnout), うつ症状, ならびにクオリティー・オブ・ライフ (QOL). 総合病院精神医学 2000 ; 12 (2): 135-143 .
- 24) 原田尚重, 新井正徳, 久志本成樹, 山本保博: 最新の救命救急医療 (2) 腹部外傷: Damage control Surgery と Abdominal compartment syndrome. Medical postgraduates 2000 ; 38 (4): 25 (270) -30 (275) .
- 25) 二宮宣文, 小井土雄一, 山本保博: 救命救急用プレフィルドシリンジの有用性について: 迅速性の観点から. 救急医学 2000 ; 24 (13): 1868-1874 .
- 26) 佐藤秀貴, 野手洋治, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 池田幸穂: くも膜下出血患者における脳脊髄液および血清中S-100 蛋白の測定: 機能予測の予後. 救急・集中治療 2001 ; 13 (1): 147-148 .
- 27) 小川 令, 百束比古, 三橋 清, 大木琴美, 野手洋治: 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫の1症例. 形成外科 2001 ; 44 (3): 257-264 .
- 28) 原田尚重, 小池 薫: 腹腔内穿刺法. 麻酔の How To : 技術編 2001 ; 204-205 .
- 29) 中間正人, 大友康裕, 井上潤一, 原口義座, 辺見 弘: 災害時におけるヘリコプター搬送: 大型ヘリコプターを用いた災害訓練の経験から. 日集団災医学会誌 2001 ; 5 : 121-128 .
- 30) 小井土雄一¹⁾, 近藤久禎¹⁾, 多田章美²⁾, 宮崎朋子³⁾, 嶋田英子⁴⁾, 毛塚良江⁵⁾, 山岸 勉⁶⁾, 中田敬司⁷⁾, 三浦喜美男⁸⁾, 伏見勝利⁸⁾, 藤谷浩至⁸⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾日本医科大学救急医学教室, ²⁾豊中渡辺病院, ³⁾JMTDR登録看護婦, ⁴⁾北里大学病院, ⁵⁾済生会宇都宮病院, ⁶⁾JMTDR登録調整員, ⁷⁾広島文教女子大学生生活科学科, ⁸⁾国際協力事業団): 国際災害救援医療への取り組みと問題点: 台湾地震災害における国際緊急援助隊の医療活動を通して. 日本職業・災害医学会会誌 2001 ; 49 (2): 130-135 .
- 31) 小井土雄一: 救急患者と成人病: 救急疾患に対する成人病の関与. 臨床成人病 2001 ; 31 (3): 277-282 .
- 32) 松園幸雅, 野口裕幸, 山本保博: 最新の救命救急医療 (4): 血液浄化法. MEDICAL POSTGRADUATES 2001 ; 39 (2): 29 (117) -32 (120) .
- (2) 研究報告書:
- 1) 近藤久禎¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 中田啓司²⁾, 多田章美³⁾, 毛塚良江⁴⁾, 宮崎朋子⁵⁾, 嶋田英子⁶⁾, 山岸 勉⁵⁾, 藤谷浩至⁷⁾, 三浦喜美男⁷⁾, 伏見勝利⁷⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾日本医科大学救急医学教室, ²⁾広島文京女子大学, ³⁾豊中渡辺病院, ⁴⁾済生会宇都宮病院, ⁵⁾国際緊急援助隊登録, ⁶⁾北里大学附属病院, ⁷⁾国際協力事業団): 台湾地震災害救済国際緊急援助隊医療チームの活動. 日集団災医学会誌 2001 ; 5 (2): pp143-152 .
- 2) 和田 清¹⁾, 宮内雅人⁽¹⁾国立精神神経センター): 薬物乱用・依存等の疫学的研究: 救命センターにおける薬物乱用依存等の実態に関する研究. 平成12年度厚生科学研究費補助金 (医薬安全総合研究事業) 2001 .
- (3) 研究速報:
- 1) 柴田泰史¹⁾, 小池 薫²⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾, 久志本成樹²⁾, 加地正人²⁾, 山本保博²⁾(¹⁾付属病院中央検査部, ²⁾救急医学): 全身性炎症反応症候群における血清 lipopolysaccharide-binding protein濃度の検討. 日救急医学会誌 2000 ; 11 (6): 291-292 .
- 2) 柴田泰史¹⁾, 小池 薫²⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾, 久志本成樹, 加地正人, 山本保博⁽¹⁾日本医科大学臨床検査室): 全身性炎症反応症候群における lipopolysaccharide-binding protein濃度の検討. 日救急医学会誌 2000 ; 11

(6): 291-292 .

(4) 症例報告:

- 1) 佐藤秀貴, 野手洋治, 荒木 尚, 大橋一善, 原田尚重, 山本保博: 先天性胆道閉鎖に合併したvitamine K欠乏による頭蓋内出血例. Neurosurgical Emergency 2000 ; 5 : 81-84 .
- 2) 霧生信明, 大友康裕, 本間正人, 徳永尊彦, 井上潤一, 加藤 宏, 松島俊介, 原口義座, 辺見 弘: 最近経験した十二指腸静脈瘤破裂の3例. 日救急医学会関東誌2000 2000 ; 21 : 50-51 .
- 3) 大友康裕, 井上潤一, 本間正人, 徳永尊彦, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘: 気管支損傷に対する肺葉切除施行後の呼吸不全においてECLAを施行した2例. 日救急医学会関東誌2000 2000 ; 21 : 150-151 .
- 4) 小笠原智子, 井上潤一, 大友康裕, 徳永尊彦, 加藤 宏, 石川誠彦, 辺見 弘: 脾性胸水の1例. 日救急医学会関東誌2000 2000 ; 21 : 166-167 .
- 5) 加藤 宏, 本間正人, 井上潤一, 原口義座, 辺見 弘, 倉本憲明: CTガイド経皮的ドレナージが有用であった化膿性腸腰筋膿瘍の1例. 日救急医学会誌 2001 ; 12 : 121-124 .

(5) 症例報告:

- 1) 柿沼敏行, 大友康裕, 井上潤一, 本間正人, 徳永尊彦, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘: 気管支損傷に対する肺葉切除施行後の呼吸不全においてECLAを施行した2例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2000 ; 21 (1): 150-151 .

(6) 総説:

- 1) 本間正人, 辺見 弘: 21世紀の日本の外傷医療: 米国の外傷医療から学ぶべきもの. 日外傷会誌 15 (2): 78-96 .
- 2) 吉田竜介: いわゆる「ガイドライン2000」の位置付けについて. 日救急医学会誌 2000 ; 11 (11): 665 .
- 3) 久志本成樹: PIC, D-dimer. 救急医学 2000 2000 ; 24 (4): 419-420 .
- 4) 登坂正規, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 四肢の血管損傷を合併する創傷処置. 救急医学 2000 2000 ; 24 (11): 1523-1527 .
- 5) 水谷 崇, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 木山輝郎, 山本保博, 久志本成樹, 松本 尚, 犬塚 祥, 益子邦洋, 大塚敏文, 辺見 弘: 上部消化管損傷の処置: とくに十二指腸損傷に対するpyloric exclusionの有用性について. 救急医学 2000 2000 ; 24 (11): 1567-1571 .
- 6) 原田尚重, 新井正徳¹⁾, 久志本成樹, 山本保博⁽¹⁾ (山梨県立中央病院救命救急センター): 最新の救命救急医療 (2): 頭部外傷Damage control surgeryとabdominal compartment syndrome. Medical Postgraduates 2000 2000 ; 38 (4): 270-275 .
- 7) 木村昭夫, 青砥泰二, 西澤健司, 山本保博: 重症熱傷症例における緑膿菌感染と対策. 感染と抗菌薬 2000 ; 3s1 : 102-107 .
- 8) 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 頭部外傷の最新治療. MEDICAL POSTGRADUATES 2000 ; 38 (3) .
- 9) 山本保博: 災害医療とは何か. 婦長主任/新事情 2000 ; 5 (94): 31-35 .
- 10) 大友康裕¹⁾: 指標の正しい理解と使い方 Revised Trauma Score (RTS). 救急医学2000 2000 ; 24 : 460 .
- 11) 大友康裕¹⁾: 症状から見た緊急検査の進め方: 検査の鉄則とpitfall溺水 (淡水・海水溺水). 救急医学 2000 2000 ; 24 : 610-612 .
- 12) 井上潤一, 本間正人, 加藤 宏, 徳永尊彦, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘, 荒井他嘉司: 当センターにおけるヘリコプター搬送患者の収容状況について. 東京医師会誌 2000 ; 53 : 514-519 .
- 13) 二宮宣文: 国際的災害活動および協力の実態. Emergency nursing 2000 ; 13 (7): 25-29 .
- 14) 山本保博: 日本中毒学会と臨床中毒スペシャリスト. 中毒研究 2000 ; 13 (3): 287-289 .
- 15) 柴田泰史¹⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部, ²⁾ 救急医学): 乱用薬物の検査. LAB-TOPICS 2000 ; 21 (3): 1-3 .

- 16) 鈴木博子¹⁾, 山本保博 (¹⁾精神医学): 日本医科大学附属病院高度救命救急センターにおける自殺企図者の実態 . 医学のあゆみ 2000 ; 194 (6): 560-562 .
- 17) 辺見 弘, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 徳永尊彦, 小笠原智子, 荒井他嘉司 : 特集 ; ドクターヘリによる救急搬送のあり方 : 消防ヘリによる救急搬送 . 救急医療ジャーナル 2000 ; 18-21 .
- 18) 越智元郎, 大友康裕, 水野義之, 田中健次, 漢那朝雄, 戸田年総, 中川和之 : 草の根型の救急医療情報ネットワークについて . 臨床と研究2000 2000 ; 77 : 1503-1507 .
- 19) 山本保博 : 救急医療と救急業務の将来展望について . 東京消防 2000 ; 79 (9): 38-42 .
- 20) 佐藤秀貴, 横田裕行¹⁾, 山本保博 (¹⁾多摩永山病院救命救急センター): 最新の救命救急医療 (1) 頭部外傷 . Medical Postgraduates 2000 ; 38 (3): 35-38 .
- 21) 山本保博 : 日本中毒学会の現状と役割 . 日外会誌 2000 ; 101 (11): 764-766 .
- 22) 山本保博, 横田裕行¹⁾ (¹⁾多摩永山病院救命救急センター): 救急医療と臓器提供 . 肝胆脾 2000 ; 41 (6): 951-958 .
- 23) 大友康裕¹⁾, 辺見 弘, 徳永尊彦, 井上潤一, 廣瀬脩二 : 広域災害救急医療情報システムの今後の課題 : 有珠山噴火時の運用状況を通して . 日救急医学会誌2000 2000 ; 21 : 212-213 .
- 24) 吉田竜介, 寺田泰蔵¹⁾, 山本保博, 前川和彦²⁾ (¹⁾公立昭和病院救命救急センター , ²⁾東京大学救急医学): 米国の病院前救護体制におけるメディカルコントロールおよび本邦における問題点と今後の対応について . 救急医療ジャーナル 2001 ; 47 (9): 11-14 .
- 25) 吉田竜介, 寺田泰蔵¹⁾, 山本保博, 前川和彦²⁾ (¹⁾公立昭和病院救命救急センター , ²⁾東京大学救急医学): 病院前救護におけるメディカルコントロールについて : 米国 prehospital care 事情の調査結果から . 現代医療 2001 ; 33 (3): 735-740 .
- 26) 大泉 旭, 川井 真, 山本保博 : 最新の救命救急医療 (3) : 四肢骨折 . Medical postgraduates 2001 ; 39 (1): 29-34 .
- 27) 山本保博 : 熱傷を中心とした救急医学教育 . 救急医学 2001 ; 25 (1): 75-77 .
- 28) 大友康裕¹⁾ : 大規模災害時の救急医療 . Emergency Nursing 2001 2001 ; 14 : 130-140 .
- 29) 野口裕幸, 久志本成樹, 小池 薫, 小井土雄一, 山本保博 : 急性血液浄化における当院高度救命救急センターでの臨床工学技士の役割 . ICUとCCU 2001 ; 25 (別冊): 563-564 .
- 30) 二宮宣文 : 海外在留邦人の救急医療 . 海外勤務と健康 2001 ; (13): 41-45 .
- 31) 二宮宣文 : ヨーロッパ視察を終えて . 月刊消防 2001 ; 23 (5): 11-16 .

著 書

- 1) 山本保博 : [監修] 国際災害看護マニュアル , 2000 ; 真興交易 (株) 医書出版部 .
- 2) 加藤 宏 : [自著] 股関節・大腿骨頭骨折 . 救急医学 第24巻第3号 救急整形外傷マニュアル (川井 真), 2000 ; pp329-332 , へるす出版 .
- 3) 加藤 宏 : [自著] 大腿骨頭骨骨折 . 救急医学 第24巻第3号 救急整形外傷マニュアル (川井 真), 2000 ; pp333-334 , へるす出版 .
- 4) 大友康裕 : [分担] 災害の初動期における活動マニュアル 3-IV . 救急医療体制 . 災害の初動期における活動マニュアル (山本 保博), 2000 ; pp35-44 , へるす出版 .
- 5) 加藤 宏, 野崎正太郎, 大泉 旭, 原 義明, 川井 真, 山本保博 : [共著] 後方骨盤輪損傷の治療 . 別冊整形外科 No. 37 外傷治療の controversies , 2000 ; pp89-92 , 南江堂 .
- 6) 山本保博 : [監修] 第17回救急救命士国家試験問題回答・解説集 , 2000 ; へるす出版 .
- 7) 大友康裕 : [分担] 第17回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 . 第17回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 , 2000 ; pp62-94 , へるす出版 .

- 8) 小池 薫：〔分担〕第17回救命救急士国家試験問題 解答・解説集（第66問～第100問）. 第17回救命救急士国家試験問題 解答解説集（山本 保博），2000；へるす出版．
 - 9) 牧野俊郎，山本保博，黒川 顕，小池 薫，大友康裕，吉田竜介，富岡譲二：〔共著〕第17回救命救急士国家試験問題 解答・解説集．第17回救命救急士国家試験問題 解答解説集，2000；へるす出版．
 - 10) 加藤 宏，野崎正太郎，辺見 弘，原 義明，山本保博：〔共著〕仙腸関節脱臼の治療方針．日本職業・災害医学誌 第48巻第4号，2000；pp313-317，日本職業災害医学会．
 - 11) 山本保博：〔監修〕第18回救命救急士国家試験問題解答・解説集，2000；へるす出版．
 - 12) 大友康裕：〔分担〕救急医療ハンドブック：薬の選び方，使い方：II-16 肝性昏睡．救急医療ハンドブック-薬の選び方，使い方-（黒川 顕），2000；pp223-232，中外医学社．
 - 13) 大友康裕：〔分担〕実践 外傷初療学 第2部 3-16 腹膜炎：管腔臓器損傷，臍損傷．実践 外傷初療（石原 晋），2000；pp207-223，永井書店．
 - 14) 大友康裕：〔分担〕実践 外傷初療学 第2部 3-17 横隔膜損傷．実践外傷初療（石原 晋），2000；pp224-235，永井書店．
 - 15) 大友康裕：〔分担〕実践 外傷初療学 第2部 3-19 腹部コンパートメント症候群．実践外傷初療（石原 晋），2000；pp246-254，永井書店．
 - 16) 大友康裕：〔分担〕実践 外傷初療学 第2部 3-22 外傷開放創の初期治療（破傷風予防，感染予防）．実践外傷初療（石原 晋），2000；pp264-269，永井書店．
 - 17) 大友康裕：〔分担〕第18回救命救急士国家試験問題 解答・解説集．第18回救命救急士国家試験問題 解答・解説集，2000；pp61-92，へるす出版．
 - 18) 小池 薫：〔分担〕第18回救命救急士国家試験問題 解答・解説集（第66問～第100問）. 第18回救命救急士国家試験問題 解答解説集（山本 保博），2000；へるす出版．
 - 19) 小池 薫：〔分担〕第18回救命救急士国家試験問題 解答・解説集（第66問～第100問）. 第18回救命救急士国家試験問題 解答解説集（山本 保博），2000；へるす出版．
 - 20) 牧野俊郎，山本保博，黒川 顕，小池 薫，大友康裕，吉田竜介，富岡譲二：〔共著〕第18回救命救急士国家試験問題 解答・解説集．第18回救命救急士国家試験問題 解答解説集，2000；へるす出版．
 - 21) 大泉 旭，川井 真，山本保博：〔共著〕骨盤骨折．実践外傷初療学（石原 晋編），2000；pp137-146，永井書店．
 - 22) 山本保博：〔監修〕救急現場のピットフォール《1》，2001；荘道社．
 - 23) 山本保博，山下 衛¹⁾，鶴飼 卓²⁾（¹⁾筑波大学臨床医学系病院診療グループ，²⁾兵庫県立西宮病院）：〔共著〕急性中毒．今日の治療指針2001，2001；pp1021-1037，医学書院．
 - 24) 二宮宣文：〔分担〕血栓・塞栓除去法（フォガティール・カテーテル）．今日の治療指針，2001；pp69-69，医学書院．
 - 25) 山本保博：〔監修〕救急現場のピットフォール《2》，2001；荘道社．
- (1) 分担：
- 1) 久志本成樹：出血傾向対策．クリティカルケアマニュアル. 池松裕子，道又元裕，布宮 伸，田中行夫 編，2000；pp207-208，東京，照林社．
 - 2) 久志本成樹，山本保博：多発外傷の初期診療および重症度の評価．救急医療カラーアトラス. 龍村俊樹 編著，2001；pp680-695，大阪，医薬ジャーナル社．
 - 3) 久志本成樹：腹痛．研修医のための最新救命救急 Manual. 大塚敏文 編，2001；pp82-85，東京メディカルジャーナル社．
 - 4) 久志本成樹：偶発性低体温症．研修医のための最新救命救急 Manual. 大塚敏文 編，2001；pp178-183，東京，メディカルジャーナル社．

学会発表

(1) 会長講演：

- 1) 山本保博：皮膚の再生と促進から見た重傷熱傷の治療戦略．第26回日本熱傷学会総会・学術集会，2000．6．

(2) 特別講演：

- 1) Kawai M, Yamamoto Y：Blood purification in critical care．2nd International Congress of Emergency Medicine (Costa Rica), 2000．11．
- 2) 山本保博：災害の場における精神医療の重要性．第8回日本精神科救急医学会総会，2000．9．
- 3) 大友康裕：外傷外科医から見た腹部外傷診断：現状と今後の課題．第10回救急放射線研究会，2000．9．
- 4) 川井 真：被爆患者の治療．東北麻酔・救命救急研究会，2000．10．

(3) 招待講演：

- 1) Yamamoto Y：The Role of Designated Disaster Hospital During Major Disasters in Japan．8th International Conference on Emergency Medicine (Boston, USA), 2000．5．
- 2) Yamamoto Y：Crush Syndrome．Second International Congress of Emergency Medicine (Costa Rica), 2000．11．
- 3) Kawai M, Yamamoto Y：Recreational Drug Abuse in Japan．2nd International Congress of Emergency Medicine (Costa Rica), 2000．11．

(4) シンポジウム：

- 1) Koike K：Excessive fibrinolysis in patients with severe head injury (role of alpha 2-plasmin inhibitor and factor VIII)．The 29th Educational & Scientific Symposium, society of Critical Care Medicine (Orlando, Florida, USA), 2000．2．
- 2) 吉田竜介，寺田泰蔵¹⁾，山本保博，前川和彦²⁾(¹⁾公立昭和病院救命救急センター，²⁾東京大学救急医学)：米国Prehospital CareにおけるMedical Controlの展開(Medical Controlの諸要素の分析)．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 3) 辺見 弘，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，徳永尊彦，荒井他嘉司：病院から救急現場へ(ドクターカー，ヘリコプター運用の課題と展望 東京消防庁の救急仕様ヘリによる搬送と効果判定)．第3回日本臨床救急医学会，2000．4．
- 4) 加藤 宏，松浦知史，真鍋公二，川井 真，大泉 旭，原 義明，野崎正太郎：骨盤骨折：出血性ショックを伴った骨盤骨折の初期治療(pelvic C-clampの使用経験)．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 5) 荒木 尚，佐藤秀貴，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博：小児重傷頭部外傷に対する低体温療法(長期施行例の検討)．第3回日本脳低温療法研究会，2000．7．
- 6) 荒木 尚，佐藤秀貴，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博：小児重傷頭部外傷に対する低体温療法(長期施行例の検討)著しい頭蓋内圧亢進を呈しつつ生存し得た重傷頭部外傷の一男児例．第28回日本小児神経外科学会，2000．9．
- 7) 荒木 尚，佐藤秀貴，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博：Retrospective evaluation of prolonged mild hypothermia therapy for severe head injury in children．第28回日本小児神経外科学会，2000．9．
- 8) 佐藤秀貴：低体温療法の再評価．第59回脳神経外科学会総会，2000．10．
- 9) 小井土雄一，近藤久禎，多田章美¹⁾，宮崎朋子²⁾，嶋田英子³⁾，毛塚良江⁴⁾，山岸 勉⁵⁾，中田敬司⁶⁾，三浦喜美男⁶⁾，伏見勝利⁶⁾，藤谷浩至⁶⁾(¹⁾豊中渡辺病院，²⁾JMTDR登録看護婦，³⁾北里大学病院，⁴⁾済生会宇都宮病院，⁵⁾JMTDR登録調整員，⁶⁾国際協力事業団)：台湾地震災害における国際緊急援助隊の医療活動報告．第48回日本職業・災害医学会，2000．12．
- 10) 山本保博：各施設におけるコーディネーションの実際と現状と今後の組織移植コーディネーションの在り方．第3回東日本臓器・組織移植研究会学術集会，2001．2．

- 11) 本間正人：「21世紀の医療を考える」アメリカにおけるNBCテロ災害対策の現状．日本病院会 病院の医療の質を考えるセミナー，2001．3．
- 12) 本間正人，大友康裕，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，原口義座，辺見 弘：米国における外傷医療の質を維持する機構...外傷センター施設基準と質の改善活動．第15回日本外傷学会，2001．5．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 川井 真，吉田竜介，二宮宣文，小井土雄一，山本保博：当救命救急センターにおけるチームワークによる医療事故防止対策．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 2) 小井土雄一，岸 泰宏¹⁾，大友康裕，木村昭夫，犬塚 祥，勝見 敦，松田 潔，平間久雄，今 明秀，高橋 聡，山本保博^{(1) 神経科}：救急医の労働環境とメンタルヘルスの検討．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 3) 小井土雄一，岸 泰宏，大友康裕，木村昭夫，犬塚 祥，勝見 敦，松田 潔，平間久雄，今 明秀，高橋 聡，山本保博：救急医療従事者の労働環境：救急医の労働環境とメンタルヘルスの検討．第3回日本臨床救急医学会，2000．4．
- 4) 佐藤秀貴：パネルneurosurgeons challenging new frontier．第20回脳神経外科コンgres総会，2000．5．
- 5) 野口裕幸，久志本成樹，小池 薫，小井土雄一，山本保博：急性血液浄化における当院高度救命救急センターでの臨床工学士の役割．第11回日本急性血液浄化学会，2000．10．
- 6) 佐藤秀貴：低体温療法の再評価．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
- 7) 大友康裕，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，原口義座，辺見 弘：多発外傷患者の来院時所見より見た重症度評価：外傷患者予後予測指標としての来院時血中乳酸値，来院時RTS (Revised Trauma Score)，および来院時体温の有用性．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
- 8) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，井上潤一：パネルディスカッション9；救急医療の現状と問題点 外傷患者の救命率を向上させるには(外傷センター整備の意義)．第62回日本臨床外科学会，2000．11．
- 9) 杉本勝彦，森村尚登，勝見 敦，小井土雄一，山本保博，太田宗夫⁽¹⁾日本集団災害医学会2002年FIFAワールドカップ大会災害対策委員会準備委員)：「2002年FIFAワールドカップ大会における集団災害医療体制計画作成のためのガイドライン」作成作業経過．第6回日本集団災害医学会総会，2001．2．
- 10) 吉田竜介，小池 薫，佐藤格夫，山本保博：救急疾患におけるIL-18の動態(腹膜炎症例を中心に)．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．3．
- 11) 小池 薫，吉田竜介，小井土雄一，柴田泰史，野口裕幸，望月 徹，久志本成樹，川井 真，山本保博：熱傷患者における尿中アルブミン・クレアチニン比．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 12) 野手洋治，佐藤秀貴，中林基明，荒木 尚，山本保博：重症くも膜下出血に対する治療成績におけるEBM．第4回日本臨床医学会総会，2001．4．
- (6) ワークショップ：
- 1) 増野智彦，小池 薫，佐藤格夫，望月 徹，柴田泰史，野口裕幸，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，山本保博，勝又聖夫，南 正康：多臓器障害患者における血清セレン濃度の測定．第27回日本集中治療学会総会，2000．3．
- 2) 山本保博，小井土雄一：3次救急を中心とした救急現場の卒後研修．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 3) 望月 徹，小井土雄一，吉田竜介，小池 薫，山本保博：救命救急センターにおけるポータブルHEPAフィルター空気清浄機設置の必要性について．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 4) 松園幸雅，山本保博，川井 真，二宮宣文，松田 潔，新井正徳，尾本健一郎：救急救命士の病院内実習(大学病院と地方都市施設の比較)．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
- 5) 大友康裕，辺見 弘，廣瀬脩二，伊坂正明，荒井他嘉司，土居弘幸¹⁾(¹⁾厚生省健康政策局指導課)：ワークショップ；広域災害・救急医療情報システムの効果的運用法 広域災害・救急医療情報システムの現状と今後の

課題．第3回日本臨床救急医学会，2000．4．

- 6) 望月 徹，小井土雄一，吉田竜介，小池 薫，山本保博：救命救急センターにおけるポータブルHEPAフィルター空気清浄機設置の必要性について（救急医療従事者のための感染予防対策）．第3回日本臨床救急医学会総会，2000．4．
 - 7) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏：骨盤外傷の治療戦略：救命から機能予後まで 重度骨盤骨折（直腸損傷合併，開放性）に対する開腹下内腸骨動脈塞栓術の有効性．第14回日本外傷学会，2000．5．
 - 8) 吉田竜介，宮内雅人，久志本成樹，小井土雄一，山本保博：第三次救急医療施設での腹部救急疾患における保険診療の問題点．第35回日本腹部救急医学会総会，2000．9．
 - 9) 島田 靖，山本保博，黒川 顕，益子邦洋，横田裕行，二宮宣文，小井土雄一，近藤久禎：病院における災害訓練の評価．第6回日本集団災害医学会総会，2001．2．
- (7) 一般講演：
- 1) Kusimoto S, Yamamoto Y, Shibata Y : Implications of fibrinogenolysis in patients with severe head injury . Society of Critical Care Medicine, 30th Educational and Scientific Symposium (San Francisco, CA, USA), 2000 . 2 .
 - 2) Kushimoto K, Shibata Y, Koike K, Yamamoto Y : Excessive fibrinolysis in patients with severe head injury : role of alpha2-plasmin inhibitor and factor, XIII . The 29th Educational & Scientific Symposium, Society of Critical Care Medicine (Orlando, Florida, USA), 2000 . 2 .
 - 3) Yoshida R, Koike K, Tsujii A, Kawai M, Yamamoto Y : Serum interleukin-18 measurement in burn patients . The 32nd Annual Meeting of American Burn Association (Las Vegas, USA), 2000 . 3 .
 - 4) Koike K, Masuno T, Sato N, Mochizuki T, Kushimoto S, Koido Y, Kawai M, Yamamoto Y : Microalbuminuria correlates with endothelial injury and multiple organ dysfunction in surgical patients . The 32nd Annual Meeting of the Surgical Infection Society (Providence, Rhode Island, USA), 2000 . 4 .
 - 5) Homma M : Radiological Emergency in Japan . National Disaster Medical System conference 2000 (Las Vegas, U. S. A.), 2000 . 5 .
 - 6) Sato N, Koike K, Masuno T, Mochizuki T, Kushimoto S, Koido Y, Kawai M, Yamamoto Y : Serum Interleukin-18 concentrations in patients with multiple organ dysfunction . The 23rd Annual conference on Shock (Snowbird, Utah, USA), 2000 . 6 .
 - 7) Matsuura Y, Koike K, Tsujii A, Kushimoto S, Yamamoto Y : A murine model of intestinal ischemia-reperfusion for studying remote organ dysfunction . The 23rd Annual conference on Shock (Snowbird, Utah, USA), 2000 . 6 .
 - 8) Yamamoto Y, Ninomiya N, Makino T : Standarization of Triage Tags in Japan . Fifth Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Vancouver, British Columbia CANADA), 2000 . 9 .
 - 9) Koido Y¹⁾, Kondo H¹⁾, Tada A²⁾, Miyazaki T³⁾, Shimada E⁴⁾, Kezuka Y⁵⁾, Yamazaki T⁶⁾, Nakata K⁶⁾, Miura K⁷⁾, Fushimi K⁷⁾, Fujiya K⁷⁾ (¹⁾ Nippon Medical School , ²⁾ Toyonaka Watanabe Hospital , ³⁾ JMTDR Registered Nurse , ⁴⁾ Kitasato University , ⁵⁾ Saiseikai Utsunomiya Hospital , ⁶⁾ JMTDR Registered Coordinator , ⁷⁾ Japan Internatioal Cooperation Agency): JDR Medical Team's Relief Activities following the Earthquake Disaster in Taiwan . Fifth Asia-Pacific Conference on Disaster Medicine (Vancouver, British Columbia, CANADA), 2000 . 9 .
 - 10) Ninomiya N, Yamamoto Y : Training Medical Personnel for Disaster Medicine . Fifth Asia-Pacific Conference in Disaster Medicine (Canada), 2000 . 9 .
 - 11) Aiboshi J, Ernest M¹⁾, Jeffrey J¹⁾, Douglas T¹⁾, Garret Z¹⁾, David C¹⁾, Rick G¹⁾, Christopher S¹⁾ (¹⁾ De-

- partment of Surgery, Denver): Substitution of polymerized hemoglobin for stored blood prevents pathological interactions of vascular endothelium with neutrophil . The 60th Annual Meeting of the American Association for the Surgery of Trauma (San Antonio, Texas, U. S. A.), 2000 . 10 .
- 12) Koike K , Kajiyama H , Nojima Y , Mochizuki T , Masuno T , Sato N , Kushimoto S , Koido Y , Kawai M , Yamamoto Y : Elevated serum sulfite concentration in septic patients . The 34th Annual Meeting of the Association for Academic Surgery (Tampa, Florida, USA), 2000 . 11 .
 - 13) Homma M : Sarin gas attacks in Japan . National Disaster Medical System conference 2000 (Las Vegas, U. S. A.), 2000 . 12 .
 - 14) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 小池 薫, 野手洋治, 山本保博, 寺本 明: 小児重傷頭部外傷に対する低体温療法(長期施行例の検討). 第59回日本脳神経外科学会総会,
 - 15) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 興味ある画像所見を呈した慢性硬膜下血腫急性憎悪の1例. 第23回日本脳神経CI学会総会, 2000 . 1 .
 - 16) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 横田裕行, 山本保博: 遅発性外傷性小脳内出血の検討. 第6回日本脳神経外科救急研究会, 2000 . 1 .
 - 17) 小池 薫, 久志本成樹, 勝見 敦, 増野智彦, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博: septic shock に対するPMX カラムの有効性の検討(多施設臨床研究プロトコール). 第4回エンドトキシン血症治療研究会, 2000 . 1 .
 - 18) 松園幸雅, 高山康広, 小池 薫, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 6倍網状自家移植と人工真皮(テルダーミス)被覆により救命しえた85%広範囲熱傷の1例. 第8回日本熱傷学会関東地方会, 2000 . 1 .
 - 19) 大森見布江, 大木更一郎, 登坂直規, 原田尚重, 小井土雄一, 小池 薫, 山本保博: PCPSが有効であった near drowning の一救命例. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000 . 2 .
 - 20) 柴田泰史, 野本剛史, 野村克章, 小池 薫, 久志本成樹, 山本保博: 集中治療患者におけるLipopolysaccharide Binding Proteinの検討. 第48回日本救急医学会関東地方会, 2000 . 2 .
 - 21) 小池 薫, 佐藤格夫, 増野智彦, 望月 徹, 柴田泰史, 野口裕幸, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 多臓器障害患者における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害. 第27回日本集中治療学会総会, 2000 . 3 .
 - 22) 東和 明, 小池 薫, 小林辰輔, 望月 徹, 柴田泰史, 久志本成樹, 犬塚 祥, 小井土雄一, 川井 真, 益子邦洋, 山本保博: 熱傷患者におけるスーパー抗原の測定. 第27回日本集中治療学会総会, 2000 . 3 .
 - 23) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 野手洋治, 川井 真, 山本保博: 脳梁病変を合併し遷延性意識障害を呈した敗血症性多臓器不全の1例. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000 . 4 .
 - 24) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 急性硬膜外血腫における予後不良因子の検討. 第23回日本神経外傷学会, 2000 . 4 .
 - 25) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 興味ある画像所見を呈した高血圧性橋出血の2症例. 第25回日本脳卒中学会, 2000 . 4 .
 - 26) 久志本成樹, 山本保博, 小井土雄一, 小池 薫: 重症頭部外傷におけるsecondary 2plasmin inhibitor deficiencyによる過剰線溶の役割. 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
 - 27) 増野智彦¹⁾, 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史²⁾, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾, 勝又聖夫³⁾, 南 正康³⁾(¹⁾救急医学, ²⁾付属病院中央検査部, ³⁾衛生学・公衆衛生学講座): 外科手術症例における血清セレン濃度の測定. 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
 - 28) 佐藤秀貴: くも膜下出血患者における脳脊髄液および血清中S-100 蛋白の測定. 第29回脳卒中外科学会, 2000 . 4 .
 - 29) 佐藤格夫, 小池 薫, 増野智彦, 望月 徹, 野口裕幸, 柴田泰史, 小井土雄一, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 多臓器障害患者におけるIL-18の測定. 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .

- 30) 久志本成樹, 山本保博, 小井土雄一, 小池 薫: 重症頭部外傷におけるsecondary 2-plasmin inhibitor deficiencyにおける過剰線溶の役割. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 31) 松浦有里子, 小池 薫, 辻井厚子, 久志本成樹, 山本保博: マウスにおける小腸虚血・再灌流モデル. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 32) 小池 薫, 増野智彦, 佐藤格夫, 望月 徹, 柴田泰史, 野口裕幸, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 外科手術症例における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 33) 久志本成樹, 小池 薫, 山本保博, 佐藤格夫, 柴田泰史, 宮内雅人: ICUにおける単球HLA-DR発現率モニタリングの意義. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 34) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 大橋一善, 山本保博, 寺本 明: "Platform accident"の臨床的研究. 第23回日本神経外傷学会, 2000. 4.
- 35) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 大橋一善, 山本保博: "Platform accident"の臨床的検討. 第3回臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 36) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 大橋一善, 山本保博, 寺本 明: 脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血重傷患者に対する脳室ドレナージ術の検討. 第25回日本脳卒中学会総会, 2000. 4.
- 37) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 寺本 明: 重症くも膜下出血患者に対する治療成績の検討. 第29回日本脳卒中外科学会, 2000. 4.
- 38) 登坂直規, 二宮宣文, 小井土雄一, 山本保博: 救急隊教育のためのシミュレーションソフトの開発. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 39) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 野手洋治, 川井 真, 山本保博: 脳梁病変を合併し遷延性意識障害を呈した敗血症性多臓器不全の1例. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 40) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: Emergency room thoracotomy 症例についての検討. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 41) 小井土雄一, 加地正人, 久志本成樹, 本間正人, 井上潤一, 犬塚 祥, 大友康裕, 益子邦洋, 辺見 弘, 山本保博: 胸部大動脈損傷に対するPCPS補助循環下緊急手術の5症例. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 42) 富岡譲二¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 野手洋治²⁾, 小井土雄一²⁾, 二宮宣文²⁾, 山本保博²⁾(¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 高度救命救急センター): ポリヴィア共和国における邦人多発外傷症例の治療と帰国搬送の経験. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 43) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 松本多絵, 野手洋治, 山本保博: 著しい頭蓋内亢進を呈しつつ生存し得た重傷頭部外傷の一男児例. 第14回神経救急研究会, 2000. 5.
- 44) 荒木 尚, 久志本成樹, 小池 薫, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 重症頭部外傷におけるIL-18の測定. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 45) 野手洋治, 山本保博: platform accident. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 46) 大泉 旭, 川井 真, 加藤 宏, 原 義明, 野崎正太郎, 山本保博: 脊髄損傷症例における機能的予後因子としてのNeuron-specific enolase (NSE) の検討. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 47) 宮内雅人, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本: Emergency Room Thoracotomy 症例についての検討. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 48) 宮内雅人, 佐藤格夫, 大木更一郎, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 高齢者で多くの合併症を併発しながら救命しえた広範囲熱傷の1例. 第26回日本熱傷学会総会・学術集会, 2000. 6.
- 49) 吉田竜介, 小池 薫, 辻井厚子, 大木更一郎, 松園幸雅, 川井 真, 山本保博: 熱傷症例における血清Interleukin-18値の測定. 第26回日本熱傷学会総会, 2000. 6.
- 50) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 大橋一善, 野手洋治, 山本保博: 急激なダイエットにより発症した脳幹梗塞

の1例．第49回救急関東地方会，2000．6．

- 51) 増野智彦¹⁾，小池 薫¹⁾，佐藤格夫¹⁾，望月 徹¹⁾，柴田泰史²⁾，野口裕幸¹⁾，久志本成樹¹⁾，小井土雄一¹⁾，川井 真¹⁾，山本保博¹⁾，勝又聖夫³⁾，南 正康³⁾(¹⁾救急医学，²⁾付属病院中央検査部，³⁾衛生学・公衆衛生学講座)：熱傷患者における血清セレン濃度の測定．第26回日本熱傷学会総会，2000．6．
- 52) 山本信章¹⁾，野口裕幸(¹⁾順天堂大学浦安病院臨床工学室)：機械的人工呼吸中におけるF & P MR730型加温加湿器の最適設定の模索．第22回日本呼吸療法医学会，2000．6．
- 53) 小池 薫，山本保博，Peterson VM¹⁾，Emmett M¹⁾(¹⁾コロラド大学外科学教室)：熱傷後のIL-1治療が急性反応タンパク産生に及ぼす影響．第26回日本熱傷学会総会，2000．6．
- 54) 吉田竜介，小池 薫，辻井厚子，大木更一郎，松園幸雅，川井 真，山本保博：熱傷患者における血清IL-18値の測定．第26回日本熱傷学会総会，2000．6．
- 55) 荒木 尚，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博：急激なダイエットによる脳幹梗塞の1例．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 56) 大泉 旭，川井 真，加藤 宏，原 義明，野崎正太郎，山本保博，白井康正：上腕骨近位骨折に対する髓内釘固定の治療経験．第26回日本骨折治療学会，2000．6．
- 57) 宮内雅人，大森見布江，鈴木崇生，小井土雄一，吉田竜介，山本保博：外国薬服用による中毒症例の検討．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 58) 後藤真弓，富岡譲二，木村昭夫，玉井英世：国立国際医療センター救急部における覚醒剤使用者の検討．第22回日本中毒学会総会，2000．7．
- 59) 宮内雅人，富岡譲二，仁平 信¹⁾，林田真喜子¹⁾，大野曜吉¹⁾，黒川 顕，山本保博(¹⁾法医学)：最近5年間に当救命救急センターに搬送された急性薬物中毒症例の実態．第22回日本中毒学会，2000．7．
- 60) 荒木 尚，佐藤秀貴，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博，寺本 明：小児重傷頭部外傷に対する低体温療法(長期施行例の検討)．第68回日本医科大学医学会，2000．9．
- 61) 久志本成樹，山本保博：頭部外傷急性期病態における過剰線溶：secondary 2-plasmin inhibitorの関与．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 62) 柴田泰史¹⁾，小池 薫²⁾，野本剛史¹⁾，里村克章¹⁾，久志本成樹²⁾，山本保博²⁾(¹⁾付属病院中央検査部，²⁾救急医学)：集中治療患者における血清lipopolysaccharide-binding protein濃度の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 63) 野口裕幸，山本信章¹⁾(¹⁾順天堂大学浦安病院臨床工学室)：加温加湿器F&P社MR410と各種人工鼻との比較．第10回日本呼吸管理学会，2000．9．
- 64) 山本信章¹⁾，野口裕幸(¹⁾順天堂大学浦安病院臨床工学室)：加温加湿器F&P社MR850の有用性について．第10回日本呼吸管理学会，2000．9．
- 65) 小池 薫，佐藤格夫，増野智彦，望月 徹，柴田泰史，野口裕幸，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，山本保博：多臓器不全患者における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮障害．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 66) 荒木 尚，佐藤秀貴，中林基明，小池 薫，野手洋治，山本保博：小児重傷頭部外傷に対する低体温療法(長期施行例の検討)．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 67) 吉田竜介，小池 薫，辻井厚子，松園幸雅，川井 真，山本保博：熱傷症例における血清Interleukin-18値の測定．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 68) 佐藤格夫，小池 薫，吉田竜介，増野智彦，望月 徹，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，山本保博：多臓器障害患者におけるIL-18の測定．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 69) 野口裕幸，上田康晴，久志本成樹，小井土雄一，小池 薫，山本保博：従来の加温加湿器と各種人工鼻との比較に関して．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 70) 野手洋治, 寺本 明: 前頭蓋底手術後の骨欠損に対してhydroxyapatite ceramicsを用いた頭蓋形成術. 第5回日本脳腫瘍外科学会, 2000. 9.
- 71) 二宮宣文, 山本保博, 根本香代, 岡村忠夫: Lipopolysaccharideのモルモット腸管収縮抑制作用. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 72) 上田康晴: 診断および治療に難渋した重傷ARDSの1症例. 第1回東京CCM感染症フォーラム, 2000. 10.
- 73) 上田康晴, 大森見布江, 松園幸雄, 小井土雄一, 山本保博: 長期集中治療を必要とした間質性肺炎の1例. 第9回集中治療医学会関東地方会, 2000. 10.
- 74) 野手洋治, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 中林基明, 山本保博, 寺本 明: Platform accidentにおける頭部外傷患者の臨床的特徴. 第59回日本脳神経外科学会総会, 2000. 10.
- 75) 野手洋治, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 中林基明, 山本保博, 寺本 明: 高齢者脳血管障害患者のリハビリテーションとその転帰に関する検討. 第59回日本脳神経外科学会, 2000. 10.
- 76) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 77) 増野智彦, 小池 薫, 佐藤格夫, 望月 徹, 柴田泰史, 野口裕幸, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 集中治療患者にセレン補充療法は必要か. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 78) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 小池 薫, 久志本成樹, 野手洋治, 山本保博: 急性頭部外傷におけるIL-18の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 79) 久志本成樹, 小池 薫, 柴田泰史, 山本保博: 高度侵襲下における単球HLA-DR発現率モニタリングの意義. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 80) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 山本保博: 国際空港における外国人に対する救急医療. 第46回日本宇宙航空環境医学会, 2000. 11.
- 81) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 山本保博: 国際空港における外国人に対する救急医療. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 82) 柴田泰史¹⁾, 小池 薫²⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾, 久志本成樹²⁾, 吉田竜介²⁾, 鈴木崇生²⁾, 山本保博²⁾(¹⁾付属病院中央検査部, ²⁾救急医学): 外傷患者における血清Interleukin-18値の検討(外傷の重症度および炎症反応との関連性について). 第28回日本救急学会総会, 2000. 11.
- 83) 原田尚重, 中林基明, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 横田裕行, 野手洋治, 山本保博: 当施設における高齢者くも膜下出血の現状と手術適応の検討. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 84) 増野智彦¹⁾, 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史²⁾, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾, 勝又聖夫³⁾, 南 正康³⁾: 集中治療患者にセレン補充療法は必要か. 第28回日本救急学会総会, 2000. 11.
- 85) 小池 薫, 梶山 浩, 三橋秀基, 野島美久, 望月 徹, 増野智彦, 佐藤格夫, 野口裕幸, 柴田泰史, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: 敗血症患者における血清亜硫酸濃度の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 86) 桑野稔啓, 小池 薫, 甲斐田博, 原 正樹, 繁田稔之, 長田正久¹⁾, 須藤 訓¹⁾, 藤崎壽路, 三浦靖彦²⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学, ²⁾鳳生会藤立病院): 航空機利用で肺梗塞を発症した3例(Economy Seat Syndrome). 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 87) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 久志本成樹, 小池 薫, 野手洋治, 山本保博, 横田裕行: 重傷頭部外傷におけるIL-18の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 88) 柴田泰史, 小池 薫, 野本剛史, 里村克章, 久志本成樹, 吉田竜介, 鈴木崇生, 山本保博: 外傷患者における血清 Interleukine-18値の検討(外傷の重症度および炎症反応との関連性について). 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.

- 89) 鈴木崇生, 小池 薫, 柴田泰史, 久志本成樹, 吉田竜介, 山本保博: 外傷患者における血清 Interleukine-18 値の検討 (集中治療における重症度との関連性について). 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 90) 吉田竜介, 小池 薫, 佐藤格夫, 荒木 尚, 柴田泰史, 山本保博: 腹膜炎症例における Interleukin-18 値の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 91) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 92) 宮田広樹, 小池 薫, 岸 大輔, 片山志郎, 平野公晟, 管谷甫子, 山本保博: 集中治療患者におけるバンコマイシン体内動態の検討. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 93) 望月 徹, 佐治 守, 工廣紀斗司, 登坂直規, 小池 薫, 松本 尚, 原 義明, 片田正一, 益子邦洋, 大国寿士, 山本保博: 局所感染病巣の耐性菌に対する色素剤治療の有効性. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 94) 和田英夫, 森 美貴, 兼兎敏浩, 登 勉, 珠玖 洋, 丸藤 哲, 朝倉栄策, 射場敏明, 内山俊正, 川杉和夫, 小池 薫, 岡本好司: DIC 診断における Global Test の評価 (他施設での検討). 第23回日本血栓止血学会総会, 2000. 11.
- 95) 中間正人, 大友康裕, 徳永尊彦, 井上潤一, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘: アメリカ・メリーランド州における「メディカルコントロール」の現状. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 96) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博: platform accident の臨床的研究. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 97) 中林基明, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 野手洋治, 山本保博: 頭蓋内圧モニタリング時の鎮静剤としてのプロポフォールの使用. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 98) 宮内雅人, 小池 薫, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 山本保博: DNA チップを利用したラット肝虚血再灌流障害モデルの病態の分子生物学的解析. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 99) 加藤 宏, 大友康裕, 中間正人, 井上潤一, 小笠原智子, 柿沼敏行, 原口義座, 辺見 弘, 川井 真, 大泉旭, 原 義明, 野崎正太郎, 山本保博: 脊髄麻痺を伴った頸椎損傷の治療 (早期神経除圧の意義について). 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 100) 二宮宣文, 小井土雄一, 山本保博, 石井達男¹⁾, 青木政幸²⁾(¹⁾白髭橋病院, ²⁾緊急患者搬送コーディネーター): 国際患者搬送におけるデジタルカメラを利用したテレメディスン. 第7回日本航空医療学会, 2000. 11.
- 101) 二宮宣文, 山本保博, 山口孝治¹⁾, 甲斐達朗¹⁾, 金田正樹¹⁾, 小原真理子¹⁾, 中野京子¹⁾(¹⁾日本集団災害医学学会): 災害教育とトリアージタッグ: セミナーアンケート調査より. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 102) 野崎正太郎, 原田尚重, 松園幸雅, 中林基明, 大泉 旭, 川井 真, 山本保博: 創傷治癒における低出力超音波パルス照射の有用性. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 103) 中林基明, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 野手洋治, 山本保博: 頭蓋内圧モニタリング時の鎮静剤としてのプロポフォールの使用. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 104) 上田康晴: Propofol 鎮静は本当に有用か?: アンケート調査結果から考察する. 2000年救急医学フォーラム, 2000. 12.
- 105) 久志本成樹, 柴田泰史¹⁾, 山本保博, 小池 薫, 小井土雄一, 川井 真, 佐藤秀貴(¹⁾付属病院中央検査部): 頭部外傷急性期における過剰線溶. 第11回バイオメディカルフォーラム, 2000. 12.
- 106) 柴田泰史¹⁾, 小池 薫, 久志本成樹, 野本剛史¹⁾, 野村克章¹⁾, 山本保博(¹⁾付属病院中央検査部): エンドスベックESテストMK (改良法) を用いた血中エンドトキシン測定の臨床的検討. 第5回エンドトキシン血症治療研究会, 2001. 1.
- 107) 外木守雄, 上条 穂, 潮田高志, 奥原康行, 藤平弘子, 森崎重規, 蔵本千夏, 渡辺 裕, 山根源之, 小池 薫, 山本保博, 荒木久美子, 山根 瞳: 救命救急センターにおけるオーラルケアの有効性について. 第15回千葉集中治療研究会, 2001. 1.

- 108) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第9回日本熱傷学会関東地方会, 2001. 2.
- 109) 小井土雄一, 瀬尾憲正¹⁾, 浅利 靖²⁾, 近藤久禎, 中田敬司³⁾, 今野孝雄⁴⁾, 大塚 恵⁵⁾, 近藤貴之, 山本保博 (¹⁾自治医科大学麻酔科学, ²⁾北里大学救命救急医学, ³⁾広島文教女子短大生活科, ⁴⁾我孫子聖仁会病院, ⁵⁾聖マリアンナ医科大学東横病院, ⁶⁾国際緊急援助隊事務局): 国際緊急援助隊医療チームにおける研修の在り方. 第6回日本集団災害医学会総会, 2001. 2.
- 110) 恩田秀賢, 上田康晴, 大泉 旭, 松園幸雄, 倉重二郎, 吉田竜介, 山本保博: 腎不全にて発症し肺出血を認めた microscopic PN の1例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 111) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 鈴木崇生, 野手洋治, 山本保博: 気脳症, 痙攣で発症した前頭洞骨腫の1例. 第50回救急関東地方会, 2001. 2.
- 112) 原田尚重, 久志本成樹, 野崎正太郎, 塚本剛志, 二宮宣文, 山本保博: 偽膜性腸炎による ACS の例. 日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 113) 本間正人, 井上潤一, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘: アメリカにおける NBC テロ対策訓練... NCR-2000 テロ対策訓練を見学して. 第6回日本集団災害医学会, 2001. 2.
- 114) 登坂直規, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 小池 薫, 山本保博: 敗血症症例における血漿 BNP 濃度測定とその意義. 第5回 CCM 輸液・栄養研究会, 2001. 2.
- 115) 亀川禎央, 小井土雄一, 楠 正典, 登坂直規, 井上幸彦, 小池 薫, 山本保博: 洋上救急にて搬送された三日熱マラリアの1例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 116) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第9回日本熱傷学会関東地方会, 2001. 2.
- 117) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第2回侵襲と生体反応研究会, 2001. 3.
- 118) 上田康晴, 山本保博, 横田裕行, 黒川 顕: 救命救急センターにおける長期プロポフォル持続鎮静の検討. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 119) 上田康晴, 松園幸雄, 大森見布江, 鈴木崇生, 相星淳一, 小井土雄一, 山本保博: きわめて重症な呼吸不全患者に対してプロポフォル持続鎮静を長期間施行した1例. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 120) 吉田竜介, 望月 徹, 山本保博: 当院 HIV 用針刺し事故対応マニュアルの問題点と対策. 第75回日本感染症学会総会, 2001. 3.
- 121) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 小池 薫, 野手洋治, 山本保博: 小児重傷頭部外傷に対する低体温療法 (長期施行例の検討). 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.
- 122) 久志本成樹: 敗血症・多臓器不全と BNP. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.
- 123) 松園幸雅, 山本保博, 吉田竜介, 小井土雄一, 久志本成樹, 原田尚重: 嚢胞内出血を来した脾嚢胞の1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 124) 小井土雄一, 小池 薫, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 熱傷患者における尿中ウリナスタチン濃度の測定. 第2回侵襲と生態反応研究会, 2001. 3.
- 125) 岡島史宣, 山本保博, 原田尚重, 相星淳一, 久志本成樹, 小池 薫, 吉田竜介, 小井土雄一: 腹腔動脈, 上腸間膜動脈閉塞症に対しステントグラフトにて救命しえた1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 126) 荒木 尚, 佐藤秀貴, 中林基明, 小池 薫, 野手洋治, 山本保博, 横田裕行, 黒川 顕: 小児重傷頭部外傷に対する低体温療法. 第24回日本神経外傷学会, 2001. 3.
- 127) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 小林士郎, 志村俊郎, 玉置智規, 寺本 明: テント上脳動脈瘤手術に合併した小脳出血の検討. 第24回日本脳神経 CI 学会総会, 2001. 3.
- 128) 野手洋治, 佐藤秀貴, 中林基明, 荒木 尚, 山本保博, 小林士郎, 志村俊郎, 玉置智規, 寺本 明: 天幕上脳

動脈瘤手術に合併した小脳出血例の検討．第30回日本脳卒中の外科学会，2001．3．

- 129) 野手洋治，佐藤秀貴，中林基明，荒木 尚，村田憲一，山本保博，寺本 明：高齢者脳血管障害患者の長期予後に関する検討．第26回日本脳卒中学会総会，2001．3．
- 130) 本間正人，井上潤一，徳永尊彦，大友康裕，原口義座，辺見 弘：アメリカ・メリーランドにおける救急医療体制とメディカルコントロール．第4回日本臨床救急医学会総会，2001．4．

(8) 公開講座：

- 1) 小池 薫：外傷・熱傷・多臓器不全．第7回東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科公開講座，2000．6．

(9) オーラルプレゼンテーション：

- 1) 箱田 滋，大友康裕，瀬尾憲正：コロンビア共和国地震災害に対する国際緊急援助隊医療チームの活動とその問題点．第3回日本臨床救急医学会，2000．4．
- 2) 徳永尊彦，井上潤一，本間正人，大友康裕，原口義座，辺見 弘：東海村核燃料施設臨界事故における災害派遣医療活動について．第3回日本臨床救急医学会，2000．4．
- 3) 井上潤一，本間正人，徳永尊彦，松島俊介，石川誠彦，大友康裕，原口義座，荒井他嘉司：東京都における救急ヘリコプター（ドクターヘリ）の運用状況：消防・防災ヘリコプターをドクターヘリとして活用する．第3回日本臨床救急医学，2000．4．
- 4) 井上潤一，大友康裕，加藤 宏，本間正人，徳永尊彦，原口義座，辺見 弘：胸腔鏡下肺縫合術を施行した胸部刺創による肺損傷の1例．第14回日本外傷学会，2000．5．
- 5) 小井土雄一，加地正人，久志本成樹，本間正人，井上潤一，犬塚 祥，大友康裕，益子邦洋，辺見 弘，山本保博：胸部大動脈損傷に対するPCPS補助循環下緊急手術の5症例．第14回日本外傷学会，2000．5．
- 6) 柿沼敏行，大友康裕，井上潤一，本間正人，徳永尊彦，加藤 宏，石川誠彦，原口義座，辺見 弘：気管支損傷に対する肺葉切除施行後の呼吸不全においてECLAを施行した2例．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 7) 石川誠彦，加藤 宏，松木健一，大友康裕，徳永尊彦，井上潤一，小笠原智子，柿沼敏行，原口義座，辺見 弘：4，5趾のみで歩行可能となった足部高度挫滅創の1例．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 8) 小笠原智子，井上潤一，大友康裕，徳永尊彦，柿沼敏行，加藤 宏，石川誠彦，原口義座，辺見 弘：腭性胸水の1例．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 9) 井上潤一，大友康裕，本間正人，徳永尊彦，石川誠彦，原口義座，柴崎厚次，寺田忠正，辺見 弘：東京消防庁ドクターヘリの経験．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 10) 大友康裕，辺見 弘，徳永尊彦，井上潤一，廣瀬脩二，伊坂正明，荒井他嘉司：広域災害救急医療情報システムの今後の課題：有珠山噴火時の運用状況を通して．第49回日本救急医学会関東地方会，2000．6．
- 11) 井上潤一，本間正人，小笠原智子，加藤 宏，太田圭亮，石川誠彦，後藤義孝，徳永尊彦，大友康裕，原口義座，辺見 弘：消防・防災ヘリコプターによるドクターヘリの運用経験．第7回日本航空医療学会，2000．11．
- 12) 井上潤一，本間正人，小笠原智子，加藤 宏，太田圭亮，石川誠彦，後藤義孝，徳永尊彦，大友康裕，原口義座，辺見 弘：アンケート調査による東京奥多摩地区における救急ヘリコプター搬送の心理的評価．日本航空医療学会雑誌2000，2000．11．
- 13) 太田圭亮，大友康裕，井上潤一，本間正人，徳永尊彦，加藤 宏，小笠原智子，柿沼敏行，石川誠彦，後藤義孝，池見圭一郎，篠原 豊，田邊晴山，原口義座，辺見 弘：多発心刺創の一救命例．第50回日本救急医学会関東地方会，2001．2．
- 14) 吉岡早戸，大友康裕，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，小笠原智子，柿沼敏行，太田圭亮，石川誠彦，後藤義孝，池見圭一郎，篠原 豊：シミュレーションソフトの災害対応への応用．第50回日本救急医学会関東地方会，2001．2．
- 15) 田邊晴山，太田圭亮，大友康裕，本間正人，徳永尊彦，井上潤一，加藤 宏，小笠原智子，柿沼敏行，石川誠彦

- 彦, 後藤義孝, 池見圭一郎, 篠原 豊: 遅発性に呼吸停止に陥ったバスタ剤中毒の1例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 16) 池見圭一郎, 加藤 宏, 大友康裕, 本間正人, 徳永尊彦, 井上潤一, 小笠原智子, 柿沼敏行, 太田圭亮, 石川誠彦, 後藤義孝, 篠原 豊, 田邊晴山: 咽後膿瘍に続発した頸部硬膜外膿瘍の1例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- (10) オーラルプレゼンテーション:
- 1) 加藤 宏, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 小笠原智子, 柿沼敏行, 原口義座, 辺見 弘: 脊髄麻痺を伴った頸椎損傷の治療(早期神経除圧の意義について). 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- (11) ビデオセッション:
- 1) 佐藤秀貴: IC superior hypophyseal artery aneurysmの1例. 関東脳神経外科懇話会, 2000. 12.
- (12) ポスター:
- 1) 吉田竜介, 小池 薫, 佐藤格夫, 荒木 尚, 柴田泰史, 山本保博: 腹膜炎症例における血清Interleukin-18値の測定. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 9.
- (13) ポスターセッション:
- 1) 野崎正太郎, 原田尚重, 松園幸雅, 中林基明, 大泉旭, 川井 真, 山本保博: 創傷治療における低出力超音波パルス照射の有用性. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- (14) 記念講演:
- 1) 山本保博: 21世紀における災害医療. 第9回全国救急隊員シンポジウム, 2001. 2.
- (15) 診療と研究のビューポイント:
- 1) 小池 薫, 山本保博: 小腸虚血・再灌流が誘発する遠隔臓器障害とホスホリパーゼA2. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.
- 2) 佐藤格夫, 小池 薫, 増野智彦, 望月 徹, 野口裕幸, 柴田泰史, 小井土雄一, 久志本茂樹, 川井 真, 山本保博: 多臓器障害患者におけるIL-18の測定. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- (16) 特別プログラム:
- 1) 小池 薫: 「私の海外留学」アメリカ・コロラド大学への留学経験. 第9回日本熱傷学会関東地方会, 2001. 2.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究業績

論文

- (1) 原著:
- 1) Yokota H, Yamamoto Y¹⁾, Naoe Y, Sato H, Unemoto K¹⁾, Kurokawa A (¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター): Measurement of cortical cellular pH by intracranial tomometer in severe head injury. Crit Care Med 2000; 28: 3275-3280.
- 2) 箕輪良行¹⁾, 林 寛之²⁾, 今 明秀³⁾, 本松 茂, 横田裕行 (¹⁾船橋私立医療センター, ²⁾福井県立病院, ³⁾川口市立医療センター): プライマリケア外傷初期治療 (Primary care trauma life supprt, PTLIS) コースの開発. 日外傷会誌 2000; 14: 6-14.
- 3) 小笠原智子¹⁾, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 横田裕行 (¹⁾国立病院東京災害医療センター): 頭部外傷後に体温異常をきたした1例. 日本神経救急研究会雑誌 2000; 13: 66-68.
- 4) 横田裕行, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 杉原秀人¹⁾, 久保田稔¹⁾ (¹⁾多摩永山病院中央検査室): 脳死判定前における聴性脳幹反応 (ABR) 測定の意義. 第13回日本脳死・脳蘇生研究会誌 2000; 24: 14-15.
- 5) 小野寺謙吾, 加地正人, 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 高橋 聡, 直江康孝, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 中野

渡雄一，島田 靖：開放性骨盤骨折で直腸損傷，会陰裂傷に対して一次縫合閉鎖を試みた1例．THERAPEUTIC RESEARCH 2000；21：2880-2885．

- 6) 鶴町好司¹⁾，清 一哲¹⁾，小野寺謙吾²⁾，中野綿雄一，直江康孝，弥富俊太郎，中村敏弘，加地正人，高橋 聡，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕²⁾(¹⁾附属病院高度救命救急センター)：多発性外傷，出血性ショックにてTAE施行後，腎，後腹膜潰瘍およびMOFを生じた1例．THERAPEUTIC RESEARCH 2000；21：2825-2831．
- 7) 加地正人，鶴町好司¹⁾，弥富俊太郎，直江康孝，中村敏弘，横田裕行，黒川 顕(¹⁾武蔵野赤十字病院)：共性ソーダ服用により広範な食道狭窄を来した1例．日本救急医学会関東地方会誌 2000；21：104-105．
- 8) 加地正人，大森見布江¹⁾，牧 真彦²⁾，島田 靖¹⁾，直江康孝¹⁾，弥富俊太郎¹⁾，中村敏弘¹⁾，高橋 聡¹⁾，畝本恭子¹⁾，横田裕行¹⁾，黒川 顕¹⁾(¹⁾附属病院高度救命救急センター，²⁾山梨県立中央病院)：鈍的外傷から心ヘルニアを呈した1例．日本救急医学会関東地方会誌 2000；21：148-149．
- 9) 中林基明¹⁾，横田裕行，山本保博¹⁾(¹⁾附属病院高度救命救急センター)：重症頭部外傷における内頸静脈酸素飽和度を利用した脳血管反応性の測定．救急・集中治療 2001；13：103-104．

(1) 研究報告書：

- 1) 小川 明¹⁾，神崎 仁²⁾，神野哲夫³⁾，北原健二⁴⁾，黒岩義之⁵⁾，竹内一夫⁶⁾，竹下 浩⁷⁾，田代邦雄⁸⁾，貫井英明⁹⁾，前原忠行¹⁰⁾，横田裕行(¹⁾岩手医科大学脳神経外科，²⁾慶應義塾大学耳鼻咽喉科，³⁾藤田保健衛生大学脳神経外科，⁴⁾慈恵医科大学眼科，⁵⁾横浜市立大学神経内科，⁶⁾杏林大学脳神経外科，⁷⁾宇部短期大学，⁸⁾北海道大学神経内科，⁹⁾山梨医科大学脳神経外科，¹⁰⁾順天堂大学放射線科)：厚生省「脳死判定上の疑義に解釈に関する研究班」平成11年度報告書．日本医師会雑誌 2000；124：pp1813-1826．
- 2) 大島伸一¹⁾，加藤 治²⁾，菊池耕三²⁾，小中節子²⁾，田中信一郎³⁾，寺岡 慧⁴⁾，中村信之⁵⁾，原 美幸⁶⁾，安行由美子²⁾，横田裕行⁷⁾，吉永和正⁸⁾(¹⁾名古屋大学，²⁾日本臓器移植ネットワーク，³⁾国立岡山病院，⁴⁾東京女子医科大学，⁵⁾沖縄県立中央病院，⁶⁾藤田保健衛生大学，⁷⁾日本医科大学救命救急センター，⁸⁾兵庫医科大学)：平成12年度厚生省科学研究費補助金「心停止下での臓器提供マニュアル作成に関する研究」．平成12年度厚生省科学研究報告書 2000．

(2) 総説：

- 1) 横田裕行，畝本恭子，黒川 顕，山本保博¹⁾(¹⁾附属高度救命救急センター)：臓器の移植に関する法律に則った脳死判定における神経学的所見のとり方．救急医 2000；24：1493-1499．
- 2) 黒川 顕：意識障害への救急対応：脳ヘルニアの緊急処置．レジデントノート 2000；2：107-110．
- 3) 横田裕行：突然の意識障害をきたした外傷症例．レジデントノート 2000；1(6)：7-8．
- 4) 横田裕行：救急医療における病診連携(疾患別にみた転送のタイミング)脳血管障害．カレントセラピー 2000；18：43-49．
- 5) 横田裕行，黒川 顕：ICP, CPP指標の正しい理解と使い方．救急医 2000；24：392-393．
- 6) 横田裕行：脳血管障害 救急医療における病診連携．カレントセラピー 2000；18：395-401．
- 7) 横田裕行，直江康孝，畝本恭子，黒川 顕：失神．救急医 2000；24：508-510．
- 8) 加地正人，横田裕行：各科における輸液薬の選択と適正使用．救命救急における輸液．治療薬 2000；5：80-84．
- 9) 横田裕行：頭部・脊髄外傷の初期治療．JIM 2000；10：641-648．
- 10) 佐藤秀貴，横田裕行，山本保博¹⁾(¹⁾附属病院高度救命救急センター)：最新の救急医療：頭部外傷．Medical Postgraduates 2000；38：206-238．
- 11) 山本保博¹⁾，横田裕行(¹⁾附属病院高度救命救急センター)：肝移植の現状と展望：救急医療と臓器提供．肝胆膵 2000；41：651-958．
- 12) 横田裕行，黒川 顕，山本保博¹⁾(¹⁾附属病院高度救命救急センター)：わが国における脳死の発生と臓器提供

者の登録．救急医 2000；24：1765-1768．

- 13) 黒川 顕：糖尿病性昏睡の輸液管理指標．救急医 2000；24：490-491．
- 14) 黒川 顕：症状からみた緊急検査の進め方：めまい．救急医 2000；24：506-507．
- 15) 畝本恭子，黒川 顕：転帰を良くするための急性期からのケア：脳血管障害．Emergency Nursing 2000；13：18-23．
- 16) 平田清貴，赤堀文昭，黒川 顕⁽¹⁾日本医科大学付属病院薬剤科，⁽²⁾麻布大学薬理学研究会)：急性中毒：的確な治療のためにクロルヘキシジン・グルコネート(マスキン)．救急医 2001；25：225-226．
- 17) 黒川 顕：医療事故発生時の対応：病院・病棟管理者の立場から．Emergency Nursing 2001；14：108-116．

著 書

- 1) 横田裕行：〔自著〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル99，2000；pp40-43，メディカルレビュー．
- 2) 横田裕行：〔共著〕頭部外傷と脳循環．脳脊髄外傷(高倉公明，斉藤 勇，佐藤 潔)，2000；pp38-43，メディカルレビュー．
- 3) 横田裕行：〔共著〕頭部外傷．実践外傷初療学(石原 普)，2000；pp153-163，永井書店 大阪．
- 4) 横田裕行：〔共著〕頭蓋内圧亢進．救急医療ハンドブック(黒川 顕)，2000；pp28-33，中外医学社．
- 5) 横田裕行：〔共著〕痙攣．救急医療ハンドブック(黒川 顕)，2000；pp34-41，中外医学社．
- 6) 横田裕行：〔共著〕頭部外傷．実践外傷初療学(石原 普)，2000；pp153-163，永井書店．
- 7) 横田裕行：〔共著〕頭蓋内圧効果療法．今日の治療指針(多賀須幸男，尾形悦郎，山口 徹，北原光夫)，2000；pp6-7，医学書院．
- 8) 横田裕行：〔共著〕頭蓋内圧効果療法．今日の治療指針 ポケット版(多賀須幸男，尾形悦郎，山口 徹，北原光夫)，2000；pp6-7，医学書院．
- 9) 黒川 顕：〔エディトリアル〕救急治療ハンドブック 薬の選び方 使い方，2000；中外医学社．
- 10) 黒川 顕：〔分担〕クモ膜下出血．救急治療ハンドブック 薬の選び方，使い方(黒川 顕)，2000；pp273-278，中外医学社．
- 11) 黒川 顕：〔分担〕シアン中毒．救急治療ハンドブック 薬の選び方，使い方(黒川 顕)，2000；pp273-278，中外医学社．
- 12) 黒川 顕：〔分担〕不穏・不眠時の薬の使い方．救急治療ハンドブック 薬の選び方，使い方(黒川 顕)，2000；pp309-315，中外医学社．
- 13) 高橋 聡：〔分担〕小児科手術における局所麻酔薬の使い方．救急治療ハンドブック(黒川 顕)，2000；pp347-354，中外医学社．
- 14) 畝本恭子：〔分担〕外傷性頭蓋内出血．救急治療ハンドブック(黒川 顕)，2000；pp111-120，中外医学社．
- 15) 横田裕行，山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター)：〔共著〕頭痛，めまい．救急現場のピットフォー(山本保博)，2001；pp98-106，荘道社．
- 16) 黒川 顕：〔分担〕酸・アルカリ中毒．今日の治療指針，2001；pp132-132，医学書院．
- 17) 黒川 顕：〔エディトリアル〕急性中毒 的確な治療のために，2001；pp125-125，救急医学．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 横田裕行：神経疾患の治療から見た救命救急センターの役割．第3回信州神経救急フォーラム，2000．5．

(2) シンポジウム：

- 1) 猪鹿倉恭子，横田裕行，直江康孝，小野寺謙吾，中野渡雄一，弥富俊太郎，中村敏弘，加地正人，富岡譲二，

- 高橋 聡, 黒川 顕: 瀰慢性脳損傷に対する低体温療法. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 2) 畝本恭子, 横田裕行, 直江康孝, 中林基明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 野手洋治¹⁾, 黒川 顕, 山本保博, 寺本 明²⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 同脳神経外科): 重症クモ膜下出血のprimary brain damage に対する術後軽度低体温療法の効果. 第3回日本脳低体温療法研究会, 2000. 7.
- 3) 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行²⁾, 野手洋治¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 中林基明¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 多摩永山病院救命救急センター): 重症頭部外傷に対する低体温療法の再評価. 第59回日本脳神経外科総会, 2000. 10.
- (3) パネルディスカッション:
- 1) 中村敏弘, 島田 靖, 清 一哲¹⁾, 弥富俊太郎, 小野寺謙吾, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター): QOLを考慮した高齢者集中治療はいかにあるべきか: 老人専門病院, 老人施設, 救急隊従事者に対するアンケート調査から高齢者治療の問題点を考える. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- (4) 一般講演:
- 1) 北橋章子, 黒川 顕, 横田裕行, 高橋 聡, 中村敏弘, 弥富俊太郎, 直江康孝, 小野寺謙吾, 島田 靖: 固いパンの嚥下後に発症した咽頭, 顔面・頸部膿瘍の1例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2000. 2.
- 2) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 同脳神経外科): 脳血管内皮損傷からみた高齢者急性期頭部外傷の特徴. 第13回日本老年脳神経外科研究会, 2000. 4.
- 3) 横田裕行, 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 中林基明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 野手洋治¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 同脳神経外科): 脳血管内皮損傷からみた高齢者急性期頭部外傷の特徴. 第23回日本神経外傷学会, 2000. 4.
- 4) 横田裕行, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 中村敏弘, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕, 杉浦啓一¹⁾, 小澤秀夫¹⁾(¹⁾ 日本光電株式会社): 救急車搭載を想定した反射型パルスオキシメーターと2電極心電図計の試作. 第3回日本臨床救急医学会, 2000. 4.
- 5) 高橋 聡, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 横山隆捷¹⁾(¹⁾ 横山記念病院): 尾骨折に合併した骨盤内膿瘍の1例. 第3回日本臨床救急医学会, 2000. 4.
- 6) 小野寺謙吾, 黒川 顕, 横田裕行, 畝本恭子, 高橋 聡, 加地正人, 弥富俊太郎, 直江康孝, 中野渡雄一, 鶴町好司, 清 一哲: 両側踵部開放性骨折より急激な経過で両側下肢の壊死, 敗血症を来し救命し得た aeromonas group の1例. 第3回日本臨床救急医学会, 2000. 4.
- 7) 猪鹿倉恭子, 直江康孝, 中林基明¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 横田裕行, 野手洋治¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾ 付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 同脳神経外科): 破裂脳動脈瘤による重症クモ膜下出血に対する脳低体温療法の応用と限界. 第25回日本脳卒中学会, 2000. 4.
- 8) 加地正人, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 中間哲郎, 小野寺謙吾, 島田 靖, 直江康孝, 畝本恭子, 黒川 顕, 山本保博¹⁾(¹⁾ 高度救命救急センター): 救急初療室での外科的アプローチの意義. 第40回臨床救急学会, 2000. 4.
- 9) 猪鹿倉恭子, 清 一哲, 直江康孝, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 横田裕行, 黒川 顕: lateral medullary segment に発生した shared AICA-PICA trunk aneurysm の1例. 第14回日本神経救急研究会, 2000. 5.
- 10) 黒川 顕, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 中村敏弘, 加地正人, 畝本恭子, 高橋 聡, 横田裕行: 当科におけるインフォームドコンセントの現状と問題点. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 11) 高橋 聡, 清 一哲, 横堀将司, 島田 靖, 牧 真彦, 小野寺謙吾, 横田裕行, 黒川 顕: 多摩永山病院初のヘリコプターによる患者搬送の意義と問題点. 日本医科大学医学会第101回例会, 2000. 5.
- 12) 横田裕行: 脳死について. 平成12年度臓器移植セミナー, 2000. 5.

- 13) 加地正人, 中村敏弘, 弥富俊太郎, 中野渡雄一, 小野寺謙吾, 横田裕行, 黒川 顕: Moribund chest trauma におけるERT/DCの検討. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 14) 富岡譲二, 横田裕行, 黒川 顕, 野手洋治¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): ホリビア共和国における邦人外傷症例の治療と帰国搬送の経験. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.
- 15) 加地正人, 大森見布江, 牧 真彦, 島田 靖, 中野渡雄一, 中村敏弘, 直江康孝, 弥富俊太郎, 高橋 聡, 横田裕行, 黒川 顕: 心ヘルニアにて心原性ショックを来した救急室開胸の1救命例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 16) 小野寺謙吾, 清 一哲, 島田 靖, 中野渡雄一, 加地正人, 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 開放性骨盤骨折3例の検討. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 17) 弥富俊太郎, 大森見布江, 清 一哲, 小野寺謙吾, 加地正人, 中村敏弘, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 小腸ポリープが原因で腸重積をきたした1例. 第49回救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 18) 横山隆捷¹⁾, 木下雅道¹⁾, 山本保博²⁾, 黒川 顕, 横田裕行, 小井土雄一²⁾, 高橋 聡(¹⁾横山記念病院, ²⁾付属病院高度救命救急センター): 軽微な外傷により直腸損傷から骨盤内膿瘍を来した1症例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 19) 布施 明¹⁾, 小南修史²⁾, 小関一英¹⁾, 直江康孝, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕(¹⁾川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾千葉北総病院脳神経外科): 左中大脳動脈閉塞を伴った同領域脳動静脈奇形の1例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 20) 中野渡雄一, 牧 真彦, 直江康孝, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: influenza A virus感染によりRhabdomyolysisを来した1例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 21) 中村敏弘, 清 一哲, 大森見布江, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 弥富俊太郎, 直江康孝, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 3次救急医療現場における入院患者の高齢化: 当センターの過去10年間を振り返って. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 22) 高橋 聡, 島田 靖, 小野寺謙吾, 中野渡雄一, 直江康孝, 加地正人, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕, 松田潔¹⁾, 宮崎善史¹⁾(¹⁾山梨県立中央病院救命救急センター): ヘリポートを持たない施設におけるヘリコプター搬送の1経験例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 23) 横田裕行, 牧 真彦, 島田 靖, 弥富俊太郎, 中村敏弘, 直江康孝, 高橋 聡, 畝本恭子, 黒川 顕: 孤立性脳幹死と鑑別困難であった重症脳幹障害の1例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 24) 塩津正己, 緋田雅美, 野口 素, 富岡譲二, 横田裕行, 黒川 顕, 野手洋二¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): スクウィーズング, 人工鼻加湿が有用であった長時間航空機搬送の1経験例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 25) 中林基明¹⁾, 横田裕行, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): 重症頭部外傷例における内頸静脈酸素飽和度測定を利用した脳血管反応性の測定. 第6回日本脳代謝モニタリング研究会, 2000. 7.
- 26) 平田清貴¹⁾, 村田和也¹⁾, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕(¹⁾多摩永山病院救命救急センター): 急激なショック, アシドーシス, ADRSにより死亡したchlorhexiine gluconate服用例. 第22回日本中毒学会総会, 2000. 7.
- 27) 平田清貴¹⁾, 村田和也¹⁾, 仁平 信²⁾, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕(¹⁾付属病院薬剤科, ²⁾法医学): NACとDCPAを注射し, 急性腎不全となった1救命例. 第22回日本中毒学会総会, 2000. 7.
- 28) 猪鹿倉恭子, 横田裕行, 直江康孝, 中林基明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 野手洋治¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター, ²⁾同脳神経外科): primary brain damageに対する術後軽度脳低体温療法の効果. 第3回日本脳低体温療法研究会, 2000. 7.
- 29) 川村豪嗣, 小野寺謙吾, 直江康孝, 中村敏弘, 島田 靖, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: 血液透析, 腹膜透析施行中の脳内出血症例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 30) 谷内七三子, 中間哲郎, 中野渡雄一, 加地正人, 弥富俊太郎, 高橋 聡, 畝本恭子, 横田裕行, 黒川 顕: EB

virus感染が疑われ脳幹症例を来した1例．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 31) 福家伸夫¹⁾，瀧 健治²⁾，横田裕行^(1) 帝京大学市原病院集中治療センター，²⁾ 佐賀医科大学救急医学教室)：インドネシア震災における医療活動．第14回千葉県重症患者管理研究会，2000．9．
 - 32) 弥富俊太郎，島田 靖，小野寺謙吾，加地正人，高橋 聡，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：持続動注法にて著効なく開腹ドレナージに至った重症急性膵炎の1例．第26回過大侵襲研究会，2000．10．
 - 33) 横田裕行：救命救急センターにおける脳血管障害の現状．平成12年度鹿屋地区内科医会秋季学術集会，2000．10．
 - 34) 直江康孝，畝本恭子，牧 真彦¹⁾，中間哲郎，中林基明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，横田裕行，黒川 顕，山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター)：重症頭部外傷に対する脳低体温療法の再評価：頭蓋内圧亢進を伴わない症例について．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
 - 35) 横田裕行，島田 靖，中野渡雄一，弥富俊太郎，直江康孝，中村敏弘，高橋 聡，畝本恭子，黒川 顕，山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター)：エンドトキシン吸着カラム (PMX) 前後のヒト心房性利尿ペプチド (HANP) の変化．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
 - 36) 荒木 尚¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，久志本成樹¹⁾，小池 薫¹⁾，野手洋治¹⁾，山本保博¹⁾，横田裕行²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 多摩永山病院救命救急センター)：重症頭部外傷におけるIL-18の測定．第28回日本救急医学会総会，2000．11．
 - 37) 横田裕行：脳死について．平成12年度臓器移植セミナー，2000．11．
 - 38) 中間哲郎，黒川 顕，横田裕行，畝本恭子，弥富俊太郎，直江康孝，加地正人，中野渡雄一，北橋章子：EBウイルス感染によりADEMを来した1例．第50回日本救急医学会関東地方会，2001．2．
 - 39) 小野寺謙吾，中村敏弘，中間哲郎，弥富俊太郎，直江康孝，小野寺謙吾，島田 靖：極度の飢餓状態からMOFに陥った1例．第30回東京医科大学・日本医科大学救命救急合同カンファレンス，2001．2．
 - 40) 小野寺謙吾，黒川 顕，横田裕行，畝本恭子，高橋 聡，加地正人，中村敏弘，直江康孝，弥富俊太郎，中野渡雄一，島田 靖，中間哲郎：当施設における重症膵炎7例の検討．第36回日本腹部救急医学会総会，2001．3．
 - 41) 荒木 尚¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，中林基明¹⁾，小林 薫¹⁾，野手洋治¹⁾，山本保博¹⁾，横田裕行，黒川 顕 (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター)：小児重症外傷に対する低体温療法．第24回日本神経外傷学会，2001．3．
- (5) コメントーター：
- 1) 横田裕行：脳血管障害と脳代謝モニタリング．第6回日本脳代謝モニタリング研究会，2000．7．
- (6) ポスター：
- 1) 横田裕行，直江康孝，猪鹿倉恭子，黒川 顕，中林基明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，野手洋治¹⁾，小林士郎²⁾，寺本 明²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 同脳神経外科)：高齢者頭部外傷の特徴と問題点：重症化と予後不良の原因．第59回日本脳神経外科総会，2000．10．
 - 2) 横田裕行，直江康孝，猪鹿倉恭子，黒川 顕，中林基明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，小川理郎¹⁾，野手洋治¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター)：頸椎・頸髄損傷における椎骨・総頸動脈損傷の検討．第59回日本脳神経外科総会，2000．10．
 - 3) 猪鹿倉恭子，直江康孝，中林基明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，布施 明¹⁾，横田裕行，野手洋治¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，寺本 明²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 同脳神経外科)：クモ膜下出血に対する脳低体温療法の再検討：完了例と非完了例の比較．第59回日本脳神経外科総会，2000．10．
 - 4) 猪鹿倉恭子，直江康孝，中林基明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，布施 明¹⁾，横田裕行，野手洋治¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，寺本 明²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター，²⁾ 同脳神経外科)：クモ膜下出血に合併した神経原性肺水腫の周術期，予後への影響．第59回日本脳神経外科総会，2000．10．

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の救急医療機関として平成6年1月に開設された。

その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害拠点病院に、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。近年は救急患者のヘリ搬送ネットワークの構築も行い、平成11年4月には救命救急センターに認定され、各種学会において活発な活動を行っている。研究テーマとしては、救急医療ならびに災害医療システムの研究・開発、新しい心肺脳蘇生法の開発、多発外傷の病態生理、特に臓器相関の解明、重症熱傷や気道熱傷の病態解明、急性中毒の病態生理の解明ならびに敗血症、SIRS、多臓器不全の病態解明、感染制御、救急医学教育学の研究等がある。またプレホスピタルケアの充実を目指し、北総救命会においての救急隊員に対する講習会、北総救命会フォーラムの開催を通じてのメディカルコントロールの確立にも力を入れている。さらに本学が中心になって推進している産学共同事業（北総メディカルコンプレックス）にも積極的に参加し、新たな価値の創造をめざしている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hisashi M, Yoshihiro N¹⁾, Kohjiro H¹⁾, Keizo S¹⁾(¹⁾ Department of Critical Care Medicine, School of Medicine, Kanazawa University): Blunt Carotid Artery Injury After Accidental Neck Compression: Report of a Case. SURGERY TODAY 2000; 30: 477-480.
- 2) 牧野俊郎¹⁾, 前田容子²⁾, 浅野悦洋³⁾, 益子邦洋, 恵志正輝⁴⁾, 山本保博⁵⁾, 大塚敏文⁶⁾(¹⁾ 新東京国際空港クリニック, ⁵⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ⁶⁾ 日本医科大学理事長): 国際空港における外国人に対する救急活動. 救急医療ジャーナル 2000; 8(3): 16-18.
- 3) 益子邦洋, 岡田芳明¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 葛西 猛¹⁾(¹⁾ NPO「救急ヘリネットワーク」): NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)」の設立と今後の展望. プレホスピタル・ケア 2000; 13(3): 22-25.
- 4) 有賀 徹¹⁾, 井上徹英¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 益子邦洋, 山本修三²⁾, 梅里良正²⁾, 鈴木荘太郎²⁾, 伊藤弘人²⁾, 前田幸宏²⁾(¹⁾ 日本救急医学会診療の質評価指標に関する委員会, ²⁾ 日本病院管理学会クリニカルインディケータに関する研究会): 救急医療における質の評価. 病院 2000; 59(8): 690-696.
- 5) 益子邦洋, 魚谷増男¹⁾, 岡田芳明¹⁾, 葛西 猛¹⁾, 清水喜由¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 本條喜紀¹⁾(¹⁾ NPO「救急ヘリ病院ネットワーク」, ⁶⁾ 東京災害医療センター): NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)」の立ち上げとこれからの展望. 日航医会誌 2000; 1(1): 47-52.
- 6) 酒主敦子, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 倉田 潔, 犬塚 祥, 益子邦洋: 胸腹部X線写真で確認困難であった異物誤飲の1例. 日本救急医会関東誌 2000; 21: 46.
- 7) 山口康弘, 丸山正明, 工廣紀斗司, 牧 真彦, 高山泰広, 高橋明子, 小柳正雄, 原 義明, 倉田 潔, 望月徹, 犬塚 祥, 益子邦洋: 消火器用薬剤吸入により急性呼吸不全を呈した1症例. 千葉県救急医療研究会記録集 2000; 3: 32-33.

(2) 研究報告書：

- 1) 大塚敏文¹⁾, 円山啓司¹⁾, 益子邦洋, 宮坂雄平¹⁾, 水嶋 豪¹⁾, 吉武祥夫¹⁾(¹⁾ 交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究委員会): 交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究報告. 交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究報告書 2000.
- 2) 小濱啓次¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 山中郁男¹⁾, 益子邦洋, 神波 豊¹⁾, 入江正剛¹⁾, 田辺八洲男¹⁾, 田村正博¹⁾, 古川定昭¹⁾(¹⁾ 旅客自動車の運転手に対する応急救護処置教育の在り方に関する調査研究班): 旅客自動車の運転手に対する応急救護処置教育の在り方に関する調査研究報告. 旅客自動車の運転手に対する応急救護処置教育

の在り方に関する調査研究報告書 2000 .

- 3) 大塚敏文¹⁾, 島崎修次¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 桂田菊嗣¹⁾, 澤田祐介¹⁾, 松原 泉¹⁾, 小濱啓次¹⁾, 益子邦洋, 山口和範¹⁾(¹⁾救命効果検証委員会): 平成11年度救命効果検証委員会中間報告 . 平成11年度救命効果検証委員会中間報告書 2000 .
- 4) 益子邦洋: エイズ救急医療体制の確立と問題点 . 公開シンポジウム公式レポート: エイズ医療体制の確立を目指して 2000 .
- 5) 大蔵 泉¹⁾, 赤羽弘和¹⁾, 桑原雅夫¹⁾, 吉本堅一¹⁾, 岡野道治¹⁾, 蓮花一己¹⁾, 益子邦洋, 杉山雅洋¹⁾, 杉山武彦¹⁾(¹⁾交通事故の長期予測および効果的な交通安全計画策定に関する調査研究班): 交通事故の長期予測及び効果的な交通安全計画策定に関する調査研究報告 . 交通事故の長期予測及び効果的な交通安全計画策定に関する調査研究報告書 2000 .
- 6) 堀野定雄¹⁾, 安部正人²⁾, 岩倉成志³⁾, 益子邦洋 (¹⁾神奈川大学工学部, ²⁾神奈川工科大学工学部, ³⁾芝浦工業大学): 車両安全基準策定のための基礎調査 . 車両安全基準策定のための基礎調査報告書 2000 .
- 7) 小濱啓次¹⁾, 猪口貞樹¹⁾, 上田守三¹⁾, 岡田真人¹⁾, 荻野隆光¹⁾, 奥村 徹¹⁾, 加来信雄¹⁾, 杉山 貢¹⁾, 濱口雅博¹⁾, 野口 宏¹⁾, 益子邦洋 (¹⁾厚生科学研究「災害時における広域搬送のシステム作りに関する研究」班): 災害時における広域搬送のシステム作りに関する研究報告 . 災害時における広域搬送のシステム作りに関する研究報告書: ドクターヘリコプター 2001 .
- 8) 朝日信夫¹⁾, 大北 昭¹⁾, 小林輝幸¹⁾, 島田耕一¹⁾, 畑山紀郎¹⁾, 羽生田俊¹⁾, 藤堂景茂¹⁾, 藤橋孝彰¹⁾, 前川和彦¹⁾, 益子邦洋, 松原 泉¹⁾, 満尾 正¹⁾(¹⁾救急業務高度化推進委員会): 救急業務高度化推進委員会報告 . 救急業務高度化推進委員会報告書 2001 .
- 9) 有賀 徹¹⁾, 井上徹英¹⁾, 伊藤弘人¹⁾, 梅里良正¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 鈴木荘太郎¹⁾, 前田幸宏¹⁾, 益子邦洋, 山本修三¹⁾(¹⁾心筋梗塞, 脳卒中などにおける効果的な診療評価指標と登録手法の開発に関する研究班): 心筋梗塞, 脳卒中などにおける効果的な診療評価指標と登録手法の開発に関する研究報告 . 心筋梗塞, 脳卒中などにおける効果的な診療評価指標と登録手法の開発に関する研究報告書 2001 .
- 10) 大塚敏文¹⁾, 島崎修次¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 桂田菊嗣¹⁾, 澤田祐介¹⁾, 松原 泉¹⁾, 小濱啓次¹⁾, 益子邦洋, 山口和範¹⁾, 小林輝幸¹⁾, 野草芳一¹⁾, 濱田和雄¹⁾, 上杉茂仁¹⁾, 石塚 栄¹⁾(¹⁾救命効果検証委員): 救命効果検証委員会報告 . 救命効果検証委員会報告書 2001 .
- 11) 島崎修次¹⁾, 山本修三²⁾, 小林国男³⁾, 相川直樹⁴⁾, 益子邦洋, 石原 哲⁵⁾, 信川益明⁶⁾(¹⁾杏林大学医学部救急医学教室, ²⁾済生会神奈川県病院, ³⁾帝京大学救命救急センター, ⁴⁾慶應義塾大学医学部救急部, ⁵⁾白鬚橋病院, ⁶⁾杏林大学医学部総合医療学教室): 評価指標に関する調査研究 . 三次救急医療施設における医療情報データベースの基盤整備と二次救急医療体制の確立と評価方法の開発に関する研究 (平成12年度総括・分担研究報告) 2001 ; pp69-102 .

(3) 総説 :

- 1) Mashiko K : How best to utilize triage tags . Asian Med J 2000 ; 43 (6): 249-253 .
- 2) 益子邦洋: 救命救急センターが評価される時代の到来 . アスカ21 2000 ; 9 (2): 10-11 .
- 3) 工廣紀斗司, 益子邦洋: 腹水 . 救急医 2000 ; 24 : 565-567 .
- 4) 工廣紀斗司, 益子邦洋: 米国における曝露防止プラン . 救急医 2000 ; 24 : 637-640 .
- 5) 益子邦洋: 特殊災害に対する救急医療 . 近代消防 2000 ; 38 (9): 43-47 .
- 6) 益子邦洋: 我が国におけるプレホスピタルケアの現状と将来の展望 . アスカ21 2000 ; 9 (3): 10-11 .
- 7) 益子邦洋, 岡田芳明¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 葛西 猛¹⁾, 浅利 靖, 池田寿昭, 河野元嗣, 杉山 貢, 須崎紳一郎, 松本孝夫 (¹⁾NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」): NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク (HEM-Net)」設立の経緯と将来展望 . 救急医療ジャーナル 2000 ; 8 (4): 22-24 .
- 8) 益子邦洋, 犬塚 祥, 小川理郎, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 丸山正明, 田中啓次: 救急医療用ヘリコ

- ブター搬送システムの構築と将来の展望．日臨救医誌 2000；3：309-314．
- 9) 益子邦洋：航空機災害時の医療救護活動とトリアージ．印旛市郡医師広報 2000；27：1-7．
 - 10) 益子邦洋：米国心臓病協会，心肺蘇生と心血管緊急症治療のためのガイドライン2000を発表．アスカ21 2000；9(4)：12-13．
 - 11) 犬塚 祥：カリウム補正の指標．救急医 2000；24(4)：426-427．
 - 12) 松本 尚：診断的腹腔洗浄法(DPL)．救急医 2000；24(4)：463-463．
 - 13) 原 義明：脂肪塞栓症候群の重症度指標．救急医 2000；24(4)：469-470．
 - 14) 益子邦洋：救急医療における指標(criteria)の重要性．救急医 2000；24(4)：373-373．
 - 15) 工廣紀斗司：救急医薬品の実践的計算法．レジデントノート 2000；2(1)：100-107．
 - 16) 工廣紀斗司：Shock!．レジデントノート 2000；2(2)：90-99．
 - 17) 望月 徹：日射病・熱射病・熱中症の予防と処置．JIM 2000；10(8)：685-687．
 - 18) 工廣紀斗司：Standard Precautions!(標準感染予防策)．レジデントノート 2000；2(3)：89-97．
 - 19) 松本 尚，益子邦洋：剣状突起下心嚢開窓術．救急医 2000；24(10)：1276-1277．
 - 20) 原 義明，川井 真¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：多発外傷に伴う四肢骨折．エマージェンシーナーシング 2000；13(13)：41-47．
 - 21) 工廣紀斗司：抗菌薬の適正使用．レジデントノート 2000；2(5)：119-128．
 - 22) 益子邦洋，松本 尚，望月 徹：救急の基本知識I：蘇生法，呼吸循環管理，輸液と輸血．産と婦 2001；68(1)：91-102．
 - 23) 益子邦洋：今改めて，「救急医療は医師や病院内だけのものではない」ことを思う．エマージェンシーナーシング 2001；14(1)：1．
 - 24) 益子邦洋：安全な車選び，どうしてますか?．アスカ21 2001；10(1)：12-13．
 - 25) 工廣紀斗司：意識障害あり!(Altered Mental Status and Coma)．レジデントノート 2001；2(6)：104-112．

著 書

- 1) 益子邦洋：〔分担〕胸部外傷．Emergency Bible：救急診療のすべて(島崎修次，平出 敦，坂本哲也，木村昭夫)，2000；pp210-211，メディカルレビュー社．
- 2) 大塚敏文¹⁾，益子邦洋，大友康裕²⁾，横田裕行³⁾，木村昭夫⁴⁾，小井土雄一⁵⁾(¹⁾日本医科大学理事，²⁾国立病院東京災害医療センター救命救急センター，³⁾日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター，⁴⁾国立国際医療センター，⁵⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター：〔翻訳〕アトラス応急処置マニュアル，2000；南江堂．
- 3) 益子邦洋：〔監訳〕学校内での救急処置(益子邦洋)，2000；セントジョンアンピュランスジャパン協会．
- 4) 益子邦洋：〔自著〕やけど．ヘルシーメモ，2000；NHKサービスセンター．
- 5) 益子邦洋：〔分担〕スパイロメータ．救急看護必携：検査データの読み方(坂田育弘)，2000；pp196-198，メディカ出版．
- 6) 原 義明，川井 真¹⁾，益子邦洋，山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター)：〔分担〕四肢骨折．実践外傷初療学(石原 晋編著)，2000；pp198-206，永井書店．
- 7) 益子邦洋：〔分担〕胸部外傷に対する開胸術の適応．今日の治療指針2001(多賀谷幸男，尾形悦郎，山口 徹，北原光夫)，2001；pp25-26，医学書院．
- 8) 益子邦洋：〔分担〕心外傷によるショック．クリティカルケア SIRS・ショック・MODS(相川直樹，青木克憲)，2001；pp189-198，医学書院．

- 9) 益子邦洋, 松本 尚, 片田正一: [分担] 腹部血管損傷 (Abdominal Vascular Trauma). 救急医療カラーアトラス (龍村俊樹), 2001 ; pp632-641, 医療ジャーナル社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 益子邦洋: 航空機災害におけるトリアージと顎顔面外傷. 平成12年度三郡歯科医師会講演会, 2000. 9.
- 2) 益子邦洋: 救命救急と輸血. 第18回宮城臨床輸血研究会, 2000. 10.
- 3) 益子邦洋: 新しい心肺蘇生法ガイドライン: 地域の蘇生率向上を目指して. 徳島市医師会・徳島市民病院病診連携講演会, 2001. 2.

(2) 教育講演:

- 1) 益子邦洋: 救急外来でのトリアージ. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 2) 益子邦洋: 救命救急医療の医療事務. 全国国保連合会研修会, 2000. 9.
- 3) 益子邦洋: 外傷傷病者の観察・判断の要点と適切な処置. 第1回北総救命会フォーラム, 2000. 11.
- 4) 益子邦洋: 救命救急医療の現状. 平成12年度全国国保連合会審査委員会研修会, 2001. 2.

(3) シンポジウム:

- 1) 益子邦洋, 魚谷増男¹⁾, 岡田芳明¹⁾, 葛西 猛¹⁾, 川島喜代志¹⁾, 篠田伸夫¹⁾, 清水善由¹⁾, 辺見 弘¹⁾, 本條喜紀¹⁾, 宮内恒幸¹⁾(¹⁾NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」): NPO法人「救急ヘリ病院ネットワーク」設立後の活動と将来展望. 第7回日本航空医療学会, 2000. 11.
- 2) 益子邦洋, 有賀 徹¹⁾, 上嶋権兵衛¹⁾, 山本修三¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 井上 徹¹⁾, 鈴木荘太郎²⁾, 梅里良正²⁾, 伊藤弘人²⁾, 前田幸宏²⁾(¹⁾日本救急医学会診療の質評価指標に関する委員会, ²⁾日本病院管理学会クリニカルインディケータの開発に関する研究会): 三次救急医療機関の機能を評価する指標の開発と今後の課題. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 益子邦洋: 21世紀の安全な交通社会の形成に向けて. 第19回交通安全シンポジウム, 2000. 9.

(5) ワークショップ:

- 1) 望月 徹, 小井土雄一¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 小池 薫¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): 救命救急センターにおけるポータブルHEPAフィルター空気清浄機設置の必要性について. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.

(6) 一般講演:

- 1) 松本 尚, 酒主敦子, 岡田一郎, 高橋明子, 田辺晴山, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 丸山正明, 益子邦洋: ダメージコントロールが有効であった腹部多臓器損傷の1症例. 第3回日本臨床救急医学会総会, 2000. 4.
- 2) 山口康弘, 丸山正明, 工廣紀斗司, 牧 真彦, 高山泰広, 高橋明子, 小柳正雄, 原 義明, 倉田 潔, 犬塚 祥, 益子邦洋: 消火器用薬剤吸入により急性呼吸不全を呈した1症例. 第3回千葉県救急医療研究会, 2000. 4.
- 3) 廣瀬敦視, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 理論値を超える大量輸液にも関わらず急性腎不全に陥った広範囲熱傷の1症例. 第1回千葉急性血液浄化研究会, 2000. 5.
- 4) 小井土雄一¹⁾, 加地正人¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 本間正人²⁾, 井上潤一²⁾, 犬塚 祥, 大友康裕²⁾, 益子邦洋, 辺見弘²⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター, ²⁾国立病院東京災害医療センター救命救急センター): 胸部大動脈損傷に対するPCPS補助循環下緊急手術の5症例. 第14回日本外傷学会, 2000. 5.

- 5) 片田正一, 廣瀬敦視, 藤岡多恵, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 上腸間膜動脈塞栓症および左大腿動脈塞栓症を同時に発症した1症例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 6) 松本 尚, 工廣紀斗司, 廣瀬敦視, 藤岡多恵, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 望月 徹, 片田正一, 益子邦洋, 谷口 巧¹⁾(¹⁾金沢大学医学部附属病院救急部): ダメージコントロールとPCPSが有効であった重症肺損傷の1例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 7) 小柳正雄, 林 幹彦, 赤石諭史, 廣瀬敦視, 山口康弘, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 鈍的外傷による出血性ショックに対して集学的治療が奏効した1例. 第14回千葉県重症患者管理研究会, 2000. 9.
- 8) 赤石諭史, 林 幹彦, 廣瀬敦視, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: LPG凍傷の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 9) 廣瀬敦視, 林 幹彦, 赤石諭史, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: IABOを用いた出血性ショックにおける輸液管理. 第1回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2000. 10.
- 10) 林 幹彦, 赤石諭史, 廣瀬敦視, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 片田正一, 松本 尚, 望月 徹, 益子邦洋: 重篤な肺挫傷に対して分離肺換気が功を奏した1例. 第26回過大侵襲研究会, 2000. 10.
- 11) 片田正一, 益子邦洋, 廣瀬敦視, 山口康弘, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹: 当救命救急センターに搬入された心大血管損傷例の治療成績と検討. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 12) 松本 尚, 廣瀬敦視, 山口康弘, 小柳正雄, 工廣紀斗司, 原 義明, 望月 徹, 片田正一, 益子邦洋: 腹部・骨盤外傷による出血性ショックに対する大動脈遮断戦略. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 13) 望月 徹, 佐治 守¹⁾, 工廣紀斗司, 登坂直規²⁾, 小池 薫²⁾, 松本 尚, 原 義明, 片田正一, 益子邦洋, 大国寿士³⁾, 山本保博²⁾(¹⁾千葉北総病院薬剤科, ²⁾付属病院高度救命救急センター, ³⁾老人病研究所免疫部門): 局所感染病巣の耐性菌に対する染色剤治療の有効性. 第28回日本救急医学会総会, 2000. 11.
- 14) 上野 亮¹⁾, 村上大介¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 小原邦彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 畑 典武¹⁾, 山内茂生²⁾, 西村泰司³⁾, 益子邦洋(¹⁾千葉北総病院集中治療室, ²⁾同胸部・心臓血管・呼吸器外科, ³⁾同血液浄化センター): 感染性心内膜炎の1例. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000. 12.
- 15) 佐治 守¹⁾, 薄木玲子¹⁾, 稲本正之¹⁾, 片岡博邦¹⁾, 葉山修陽²⁾, 柳下照子³⁾, 岡本直人³⁾, 望月 徹, 工廣紀斗司, 益子邦洋, 大国寿士⁴⁾(¹⁾千葉北総病院薬剤部, ²⁾同内科, ³⁾同中央検査室, ⁴⁾微生物学・免疫学): Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) Pseudomonas aeruginosaに対するGentian violetとAcrinolとの併用による殺菌効果の検討. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000. 12.
- 16) 佐藤優子, 松本 尚, 工廣紀斗司, 望月 徹, 原 義明, 小柳正雄, 片田正一, 廣瀬敦視, 長汐千秋, 赤石諭史, 恩田秀賢, 益子邦洋: PCPSの導入により救命し得た気管支(IIIb), 肺(IIa + Ib)心(IIa)損傷の1例. 第15回千葉集中治療研究会, 2001. 1.
- 17) 片田正一, 益子邦洋, 赤石諭史, 恩田秀賢, 林 幹彦, 廣瀬敦視, 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 松本 尚, 望月 徹: 航空機旅行時に発症する危険な肺塞栓症(エコノミークラス症候群)の経験例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 18) 廣瀬敦視, 松本 尚, 片田正一, 原 義明, 工廣紀斗司, 小柳正雄, 赤石諭史, 恩田秀賢, 林 幹彦, 望月 徹, 益子邦洋: 陰囊全切除を要したFournier症候群の経験例. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.
- 19) 小柳正雄, 原 義明, 工廣紀斗司, 廣瀬敦視, 松本 尚, 片田正一, 赤石諭史, 恩田秀賢, 林 幹彦, 望月 徹, 益子邦洋: 外傷におけるペースト状骨補填剤の応用. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.

(7) ワークショップ講演：

- 1) 望月 徹，益子邦洋，工廣紀斗司，松本 尚，片田正一，原 義明，小柳正雄，廣瀬敦視，赤石諭史，恩田秀賢，林 幹彦，近藤久禎¹⁾，島田 靖²⁾，二宮宣文³⁾，小井土雄³⁾，山本保博³⁾(¹⁾放射線医学総合研究所，²⁾日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター，³⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：基幹災害医療センターとしての教育・研修の成果と今後の課題．第6回日本集団災害医学会総会，2001．2．

19．形成外科学講座

[付属病院形成外科]

研究概要

本年度は昨年引き続きケロイドの基礎研究において遺伝子レベルでの解析がさらに進展した。また皮弁研究においては、1991年より当教室が世界に先駆けて開発してきた真皮下血管網皮弁についての研究において、当院およびベトナムでの多数の手術経験、血管造影を用いた死体による基礎研究を重ね、さらなる新知見を提示した。またフッ化水素をはじめとする化学損傷に関する研究、また体内異物に関するNMRを用いた基礎研究においても成果を得た。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 高 建華¹⁾, 百束比古, 王 春梅, 青木 律⁽¹⁾ (中国第一軍医大学南方病院形成外科): Narrow Pedicled Skin Flapの生着に関する実験的研究: 薄い皮弁における皮膚茎の幅による生着域の変化及びその結果の厚い皮弁との比較. 日形会誌 2000; 20: 223-238.
- 2) 王 春梅, 百束比古, 浅野伍朗¹⁾ (⁽¹⁾病理学第2): 肥厚性癬痕及びケロイド体質の分子遺伝学的解析. 日形会誌 2000; 21: 241-246.
- 3) 河原理子, 百束比古, 青木 律, 三橋 清, 村上正洋, 小川 令: 当科における小児熱傷の検討 第1報 形成外科初診患者について. 熱傷 2000; 26(2): 57-62.
- 4) 小川 令, 百束比古, 三橋 清, 大木琴美, 野手洋治¹⁾ (⁽¹⁾救急医学): 50歳女性の前頭骨に発生した骨肉腫の1症例. 形成外科 2000; 44(3): 257-264.
- 5) 高 建華¹⁾, 百束比古, 王 春梅, 青木 律⁽¹⁾ (中国第一軍医大学南方病院形成外科): Narrow Pedicled Skin Flapの生着に関する実験的研究: 薄い皮弁における皮膚茎の幅による生着域の変化およびその結果の厚い皮弁との比較. 日形会誌 2000; 20(4): 233-238.
- 6) 百束比古, 秋元正宇: 顔面癬痕拘縮における遊離皮弁移植とその応用. 形成外科 2000; 43(8): 775-783.
- 7) 平井 隆¹⁾, 井上尚子¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ (第二病院形成外科): 脱毛レーザー照射後に生じた上口唇部肥厚性癬痕の治療経験. 形成外科 2000; 43(9): 927-930.
- 8) 岩切 致, 百束比古, 青木 律, 青木見佳子¹⁾ (⁽¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科): 皮膚腫瘍のExcisional Biopsyにおける人工真皮の有用性. 日形会誌 2000; 20(11): 665-670.
- 9) 王 春梅, 百束比古, 岩切 致, 青木 律, 三橋 清, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (⁽¹⁾法医学): 1H-NMR法を用いた癬痕組織の代謝学的分析. Progress in Medicine 2000; 20(11).
- 10) 村上正洋, 百束比古: 巾着縫合法による顔面皮膚悪性腫瘍の治療. Skin Cancer 2000; 15(3): 299-304.
- 11) 王 春梅, 百束比古, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾ (⁽¹⁾病理学第2): 肥厚性癬痕と耳ケロイド体質の分子遺伝学的解析. 日本未病システム学会誌 2001; 7(1).
- 12) 木田橋久明, 百束比古, 青木 律, 三橋 清, 井上幸彦, 青木見佳子¹⁾, 宮下次廣²⁾ (⁽¹⁾皮膚科, ²⁾放射線科): 再発, 転移を反復したマイボーム腺癌の1例. 形成外科 2001; 44(1): 59-63.
- 13) 大木琴美, 百束比古, 三橋 清¹⁾, 青木 律, 小川 令⁽¹⁾ (マリクリニック): 微小血管束付加真皮下血管網皮弁により再建した項部膿皮症の1例. 形成外科 2001; 44(2): 171-177.
- 14) 小川 令, 井上幸彦, 百束比古: 肋間動脈皮膚穿通枝付加真皮下血管網皮弁における背部皮膚穿通枝の臨床的検討. 日本マイクロサージャリー学会誌 2001; 14(1): 32-37.

- 15) 王 春梅, 百束比古, 岩切 致, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾(¹⁾病理学第2): ケロイド及び肥厚性癬痕における p53 遺伝子多形性の解析. 第5回ケロイド・肥厚性癬痕研究会記録集 2001.

(2) 総説:

- 1) 村上正洋, 百束比古: 微小血管付加による新しい皮弁の開発. 医学のあゆみ 2000; 195(3): 214-215.

著 書

- 1) 百束比古: [分担] 9. 大転子部の再建 a. 筋弁・筋皮弁による再建. 臀部・会陰部の再建と褥瘡の治療: 最近の進歩 形成外科 ADVANCE シリーズ (波利井 清紀), 2000; pp143-150, 克誠堂.
- 2) 百束比古: [分担] Secondary vascularized hair bearing island flap による有毛部再建. 各種局所皮弁による顔面の再建: 最近の進歩 形成外科 ADVANCE シリーズ, 2000; pp198-204, 克誠堂.
- 3) 百束比古: [分担] 注入異物除去術. 美容外科手術プラクティス 2 (市田正成 他), 2000; pp405-407, 文光堂.
- 4) 百束比古: [分担] 形成外科領域. 内視鏡手術の術中管理とトラブルシューティング (小川 龍), 2000; pp113-122, 真興交易 (株) 医書出版部.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 青木 律, 百束比古, 青木見佳子¹⁾, 秋元正宇²⁾, 岩切 致 (¹⁾皮膚科, ²⁾千葉北総病院形成外科): 当科における皮膚悪性腫瘍の治療戦略 Strategy P (P戦略) について. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 2) 川井 真¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 山本保博¹⁾, 百束比古 (¹⁾付属病院高度救命救急センター): 高度救命救急センターからみた形成外科の役割. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 3) 村上正洋, 百束比古, 大木更一郎¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): 小児熱傷患者の長期結果から得た問題点と初期治療へのフィードバック. 第26回日本熱傷学会総会, 2000. 6.
- 4) 百束比古, 大木更一郎¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾, 村上正洋 (¹⁾付属病院高度救命救急センター): 高度救命救急センターでの外傷治療における形成外科専門医の役割と養成に向けて. 第25回日本外科系連合会, 2000. 6.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 青木 律, 百束比古, 山本保博¹⁾, 川井 真¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): 広範囲熱傷患者の精神予後. 第26回日本熱傷学会, 2000. 6.
- 2) 平井 隆¹⁾, 井上尚子¹⁾, 土佐真美子¹⁾, 百束比古 (¹⁾第二病院形成外科): レーザーの長期結果と課題. 第23回日本美容外科学会総会, 2000. 9.

(3) セミナー:

- 1) 秋元正宇: 皮膚用接着剤の美容外科領域における有用性について. 第79回日本美容外科学会学術集会, 2000. 9.

(4) 一般講演:

- 1) Oki K, hyakusoku H, Oki K, Ishimaru S, Kawahara S: Fistula closure by cryopreserved allogenic vascular bundle transplantation; an experimental study in rabbits. The 5th Japan-Korea congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2000. 4.
- 2) Inoue S, Hyakusoku H, Murakami M, Ogawa R: Usefulness of the intercostal perforators for microvascular augmentation of subdermal vascular network flaps. The 5th Japan-Korea congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2000. 4.

- 3) Kawahara S, Hyakusoku H, Inoue S, Yamamura M, Hirakawa K¹⁾(¹⁾Department of Forensic medicine, Nippon Medical School): New diagnostic method and surgical treatment for the patients with late complications after augmentation mammoplasty. The 5th Japan-Korea congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2000. 4.
- 4) Aoki R, Hyakusoku H, Gao J¹⁾, Pennington D²⁾(¹⁾Nan-fang Hospital, Guang-Zhou, China, ²⁾Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia): Long term follow-ups of the microvascular augmented occipito-cervico-dorsal (OCD) subdermal vascular network (SVN) flaps for cervical burn scar contracture. The 5th Japan-Korea congress of Plastic and Reconstructive Surgery, 2000. 4.
- 5) Aoki R, Hyakusoku H, Hirada T¹⁾, Nakagawa H¹⁾(¹⁾Department of dermatology, Jichi Med.): Flash lamp method for the treatment of pigmented lesions. The 15th International congress of plastic, reconstructive and aesthetic surgery (Tokyo), 2000. 4.
- 6) Ogawa R, Hyakusoku H, Inoue S, Murakami M: Clinical Application of Intercostal Cutaneous Perforators for Microvascular Augmented Subdermal Vascular Network (super-thin) Flaps. The 11th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (JINAN), 2000. 10.
- 7) Wang C, Ishimaru S, Hyakusoku H, Asano G¹⁾, Nakazawa N¹⁾(¹⁾Department of Pathology, Nippon Medical School): PREDISPOSITION OF P53 GENE POLYMORPHISM TO RESIST AGAINST KELOID AND HYPERTROPHIC SCAR. The 11th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (JINAN), 2000. 10.
- 8) Murakami M, Hyakusoku H: Treatment for skin defect after facial skin tumor excision with Purse-string suture technique. The 11th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (JINAN), 2000. 10.
- 9) 大木更一郎, 百束比古: 冷凍同種血管付き組織弁作製の試み. 第30回日本創傷治療学会, 2000.
- 10) 後藤宙人, 村上正洋, 青木 律, 百束比古, 青木見佳子¹⁾, 服部怜美¹⁾, 黒田周一²⁾(¹⁾皮膚科, ²⁾北村山公立病院形成外科): アポクリン腺癌の2例. 第224回日本形成外科学会東京地方会, 2000. 2.
- 11) 植草協子¹⁾, 平川慶子¹⁾, 井上幸彦, 津野久幸²⁾, 櫻井智司²⁾, 仁平 信¹⁾, 百束比古, 大野曜吉¹⁾(¹⁾法医学, ²⁾日本電子株式会社): SR-MAS NMR法による体内埋入異物の分析. 第84次日本法医学学会総会, 2000. 4.
- 12) 小川 令, 荒川亮介¹⁾, 青木 律, 三橋 清, 百束比古(¹⁾神経科): 形成外科領域におけるデジタルカメラ利用法の光学的検討. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 13) 小川 令, 大木更一郎¹⁾, 大木琴美, 三橋 清, 百束比古, 山本保博¹⁾(¹⁾付属病院高度救命救急センター): 吸収性ポリ乳酸プレート (FIXSORBR-MX) を用いて再建した顔面骨多発骨折症例の経験. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 14) 岩切 致, 百束比古, 三橋 清, 糸井由里恵, 岩切加奈¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): TFL 穿通枝皮弁による大転子部褥瘡の再建. 第2回日本褥瘡学会, 2000. 5.
- 15) 石丸さやか, 百束比古, 青木 律, 佐野和史, 岩田友希江, 大久保暁司: 内胸動静脈肋間穿通枝を付加した広頸筋真皮下血管網皮弁の検討. 第43回形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 16) 村上正洋¹⁾, 百束比古(¹⁾北村山公立病院形成外科): グルコン酸カルシウム動脈内注入療法が効果的であったフック化水素酸損傷の1例. 第220回日本形成外科学会東京地方会, 2000. 5.
- 17) 秋元正宇¹⁾, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): 形成外科における卒前・卒後教育の現状と課題: オーストラリアにおける研修システムと比較して. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 18) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 平川慶子¹⁾(¹⁾法医学): 乳房埋入異物のMRI画像による識別法の開発. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 19) 井上幸彦, 百束比古, 青木 律, 佐野和史: 微小血管束付加OCD真皮下血管網皮弁の成績と長期結果. 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000. 5.
- 20) 土佐真美子¹⁾, 井上尚子¹⁾, 平井 隆¹⁾, 百束比古(¹⁾第二病院形成外科): 全身に散在し多様な臨床像を呈し

- た多発石灰化上皮腫の1例．第43回日本形成外科学会総会・学術集会，2000．5．
- 21) 秋元正宇¹⁾，青木 律，百束比古⁽¹⁾千葉北総病院形成外科): 口唇裂術後癍痕に対するレーザーピーリング．第43回日本形成外科学会総会・学術総会，2000．5．
- 22) 千明美保¹⁾，秋元正宇¹⁾，黒田周一¹⁾，百束比古⁽¹⁾千葉北総病院形成外科): Erich型アーチバーのチタニウムスクリューを用いた装着．第43回日本形成外科学会総会・学術総会，2000．5．
- 23) 山本 達¹⁾，百束比古⁽¹⁾東戸塚記念病院形成外科): 白線ヘルニアの1例．第43回日本形成外科学会総会・学術総会，2000．5．
- 24) 小川 令，大木琴美，三橋 清，百束比古: 熱傷後肥厚性癍痕に対するシリコンゲルシート(エフシートR)の使用経験．第26回日本熱傷学会総会・学術集会，2000．6．
- 25) 岩切加奈¹⁾，五十嵐司²⁾，青木見佳子²⁾，竹崎伸一²⁾，川名誠司²⁾，仲田幸世³⁾，糸井由里恵³⁾，岩切 致³⁾(¹⁾総合会津中央病院皮膚科，²⁾日本医科大学皮膚科，³⁾総合会津中央病院形成外科): 多発する皮膚腫瘍から砒素中毒を疑った2例．第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会，2000．6．
- 26) 大久保暁司，青木 律，糸井由里恵，岩田友希江，百束比古，青木見佳子¹⁾，川名誠司¹⁾(¹⁾皮膚科): -IL2を含めた集学的治療を行ったMHEの長期生存例．第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会，2000．6．
- 27) 岩田友希江，百束比古，青木 律，佐野和史，石丸さやか，大久保暁司: 肛囲Paget病に対する我々の治療法．第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会，2000．6．
- 28) 五十嵐司¹⁾，川名誠司¹⁾，青木 律，百束比古⁽¹⁾皮膚科): 鼻翼の基底細胞癌の1手術例．第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会，2000．6．
- 29) 村上正洋，百束比古: 巾着縫合法による顔面皮膚悪性腫瘍の治療．第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会，2000．6．
- 30) 宮田美穂，百束比古，青木 律，三橋 清，石丸さやか，河原理子: コットン不織布支持体付キチン不織布の使用経験．第26回日本熱傷学会総会・学術集会，2000．6．
- 31) 石丸さやか，青木 律，河原理子，百束比古: 炭酸ガスレーザーによるラット熱傷創モデル．第26回日本熱傷学会総会・学術集会，2000．6．
- 32) 青木 律，百束比古: 表在性色素性病変に対する新しい光療法: フラッシュランプ療法について．第25回日本外科系連合会，2000．6．
- 33) 村上正洋，百束比古，黒田周一¹⁾(¹⁾北村山公立病院形成外科): フッ化水素酸による化学損傷の2例．第5回山形形成外科懇話会，2000．7．
- 34) 二神綾子¹⁾，青木見佳子¹⁾，石丸さやか，山本 達，百束比古，川名誠司¹⁾(¹⁾皮膚科): 皮膚腫瘍の2例: 類血管線維性組織球腫か?．第16回日本皮膚病理組織学会，2000．7．
- 35) 小川 令，井上幸彦，百束比古: 肋間動脈皮膚穿通枝付加真皮下血管網皮弁における背部穿通枝の臨床的検討．第27回日本マイクロサージャリー学会・学術集会，2000．8．
- 36) 村上正洋，百束比古，青木 律，大木更一郎，岩田友希江，大久保暁司: 広範囲下腿部陥凹癍痕のthin free DIEA flapによる再建．第27回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2000．8．
- 37) 村上正洋，百束比古，高 建華¹⁾，青木 律，井上幸彦⁽¹⁾中国第一軍医大学南方病院整形外科): 微小血管束付加OCD真皮下血管網皮弁20例の長期結果．第27回日本マイクロサージャリー学会学術集会，2000．8．
- 38) 小川 令，村上正洋，百束比古，矢島裕徳¹⁾(¹⁾北村山公立病院耳鼻咽喉科): 総鼻腔に達した眼窩内木片異物の1例．第222回日本形成外科学会東京地方会，2000．9．
- 39) 小川 令，荒川亮介¹⁾，青木 律，三橋 清，百束比古⁽¹⁾付属病院神経科): 形成外科の視点から検討したデジタルカメラの選択．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 40) 王 春梅，百束比古，浅野伍朗¹⁾，中沢南堂¹⁾(¹⁾病理学第2): p53遺伝子cxon-4, codon72の多型性とケロイドおよび肥厚性癍痕について．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 41) 秋元正宇¹⁾, 千明美保¹⁾, 青木 律, 百束比古⁽¹⁾ (千葉北総病院形成外科): CO2レーザーによる口唇裂術後瘢痕のカモフラージュ. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 42) 千明美保¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 宮田美穂¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ (千葉北総病院形成外科): Erich型アーチバーの顎骨への直接固定. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 43) 百束比古: 私の片側唇裂手術法の変遷と歴史. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 44) 姜 平, 百束比古, 王 春梅, 村上正洋, 高 建華¹⁾ (中国広州南方病院形成外科): 前外側大腿皮弁を用いた頭頸部再建の経験. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 45) 大木更一郎, 河原理子, 大木琴美, 百束比古: Cryopreserved allogenic vascular bundleによる瘻孔閉鎖の可能性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 46) 大久保暁司, 村上正洋, 百束比古, 石井和博¹⁾ (大浜第一病院形成外科): 頭部乳頭状皮膚炎の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 47) 糸井由里恵, 村上正洋, 百束比古, 黒田周一¹⁾ (北村山公立病院形成外科): 顔面皮膚悪性腫瘍の治療に用いた巾着縫合の経験. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 48) 村上正洋, 百束比古, 秋元正宇¹⁾, 山本 達²⁾, 嘉陽宗隆³⁾ (千葉北総病院形成外科, ²⁾ 東戸塚記念病院形成外科, ³⁾ 大浜第一病院形成外科): 瘢痕拘縮の再建法としてのMulti-lobed propellar flap methodの有用性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 49) 岩田友希江, 百束比古, 青木 律, 佐野和史, 石丸さやか, 大久保暁司: 肛囲に及んだpaget病に対する我々の治療法. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 50) 青木 律: 広範囲熱傷救命患者に対するメイクアップセラピー. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 51) 石丸さやか, 青木 律, 河原理子, 百束比古: ラット熱傷モデル: 炭酸ガスレーザーを用いた1法. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 52) 大木更一郎, 小川 令, 大木琴美, 百束比古: 人工真皮を用いた血管付き組織弁作製の試み. 第9回日本形成外科学会総会基礎学術総会, 2000. 9.
- 53) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 平川慶子¹⁾ (法医学): 我が国における乳房異物合併症の総括と新たなチェックリスト作成の提唱. 第23回美容外科学会総会, 2000. 9.
- 54) 河原理子, 百束比古, 井上幸彦, 平川慶子¹⁾ (法医学): MRI画像による乳房埋入異物の識別法の開発と化学分析との照合結果についての考察. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 55) 土佐真美子¹⁾, 井上尚子¹⁾, 平井 隆¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古⁽¹⁾ (第二病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理部門): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する組織学的研究. 第9回日本形成外科学会基礎学術総会, 2000. 10.
- 56) 王 春梅, 百束比古, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾ (病理学第2): ケロイド, 肥厚性瘢痕とp53タンパク及びその関連因子の発現動態. 第9回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000. 10.
- 57) 王 春梅, 百束比古, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾ (病理学第2): ケロイド及び肥厚性瘢痕におけるp53遺伝子多型性の解析. 第9回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000. 10.
- 58) 土佐真美子: 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する組織学的研究. 第9回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000. 10.
- 59) 王 春梅, 百束比古, 村上正洋, 石丸さやか, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾ (病理学第2): ケロイドおよび肥厚性瘢痕におけるp53遺伝子多型性の分析. 第11回日本医科大学外国人留学者研究会, 2000. 11.
- 60) 石丸さやか, 百束比古, 杉立彰夫¹⁾, 斉藤和好¹⁾ (岩手医科大学第1外科): 抗MRSA剤徐放化の試み: フィブリン塊を用いて. 第22回日本バイオマテリアル学会, 2000. 11.
- 61) 村上正洋, 百束比古, 青木 律, 大木更一郎: 頬部皮膚軟部組織欠損再建に使用した皮弁の検討. 第18回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2000. 11.
- 62) 姜 平, 百束比古, 王 春梅, 青木 律, 高 建華: ePTFEを用いた軟部組織充填の経験. 第11回日本医

科大学外国人留学者研究会, 2000 . 11 .

- 63) 大久保暁司, 百束比古, 青木 律, 土佐真美子, 石丸さやか, 岩切 致¹⁾(¹⁾会津中央病院形成外科): 小児の上口唇に生じた海綿状血管腫2例の手術経験 . 第18回頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2000 . 11 .
- 64) 井上幸彦, 百束比古, 青木 律: 下口唇のVerrucous carcinomaより口腔粘膜のSquamous cell carcinomaへ進展した1例 . 第18回頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 2000 . 11 .
- 65) 小川 令, 石丸さやか, 青木 律, 百束比古: Posterior thigh flapを用いて再建した臀部肛囲熱傷の1例 . 第223回日本形成外科学会東京地方会, 2000 . 12 .
- 66) 王 春梅, 百束比古, 村上正洋, 石丸さやか, 浅野伍朗¹⁾, 手塚 潔¹⁾, 中沢南堂¹⁾(¹⁾病理学第2): p53タンパクおよびその関連因子の発現動態とケロイド・肥厚性瘢痕の発生プロセス . 第30回日本創傷治癒学会, 2000 . 12 .
- 67) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 千明美保¹⁾, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): 新しい皮膚創閉鎖法: 皮膚用接着剤の臨床適応 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 68) 秋元正宇¹⁾, 千明美保¹⁾, 黒田周一¹⁾, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): 皮膚用接着剤(ダーマボンド)の強度試験 . 第223回日本形成外科学会東京地方会, 2000 . 12 .
- 69) 大木更一郎¹⁾, 石丸さやか, 西川みどり, 村上正洋, 青木 律, 百束比古(¹⁾総会津中央病院): 下顎骨関節突起高位骨折に対する吸収性スクリュー固定法 . 第223回日本形成外科学会東京地方会, 2000 . 12 .
- 70) 石丸さやか, 百束比古, 杉立彰夫¹⁾, 斉藤和好¹⁾(¹⁾岩手医科大学第1外科): 薬物担持性創傷治癒材料開発の試み: 架橋フィブリン塊利用 . 第30回日本創傷治癒学会, 2000 . 12 .
- 71) 小川 令, 村上正洋, 西川みどり, 百束比古: Nuss法による漏斗胸手術に内視鏡を用いた1例 . 第4回日本医科大学内視鏡懇話会, 2001 . 1 .
- 72) 王 春梅, 百束比古, 石渡俊行¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾(¹⁾病理学第2): 肥厚性瘢痕素因と耳ケロイド体質の分子遺伝学的解析 . 日本未病システム学会, 2001 . 1 .
- 73) 村上正洋, 百束比古, 小川 令, 西川みどり: Nuss法による漏斗胸術後に創部MRSA感染を併発した1例 . 第6回形成外科内視鏡手術研究会, 2001 . 1 .
- 74) 石丸さやか, 内谷栄一, 小川 令, 百束比古, 青木 律, 村上正洋: 酢酸による化学損傷の2例 . 第9回日本熱傷学会関東地方会, 2001 . 2 .
- 75) 王 春梅, 百束比古, 岩切 致, 浅野伍朗¹⁾, 中沢南堂¹⁾(¹⁾病理学第2): ケロイド及び肥厚性瘢痕におけるp53遺伝子多型性の解析 . 第7回ケロイド・肥厚性瘢痕研究会, 2001 . 3 .
- 76) Hyakusoku H, Murakami M: Vascular augmented subdermal vascular network flaps (SVN) flaps . The 11th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery, 2000 . 10 .
- 77) 青木 律, 百束比古, 岩切 致¹⁾, 青木見佳子²⁾, 五十嵐司²⁾, 川名誠司²⁾, 青木恵里²⁾, 岩切加奈³⁾(¹⁾総会津中央病院形成外科, ²⁾日本医科大学皮膚科, ³⁾総会津中央病院皮膚科): 皮膚悪性腫瘍のexcisional biopsy後皮膚欠損創に対する人工真皮の有用性 . 第16回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術大会, 2000 . 6 .

[第二病院形成外科]

研究概要

臨床面においては, 近年進歩の著しいレーザー治療に関連して, 従来から行われてきた色素性皮膚疾患の治療に加え, skin resurfacingおよび除皺, 脱毛など多方面への応用を試み種々の新知見を得たためその成果を学会で報告した. また研究面においては, 正常皮膚ならびにケロイド由来の培養線維芽細胞に電子線照射を行い, 照射前後の細胞周期制御因子の動態の解析を行うことでケロイド発生機序の解明をすすめている.

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著：

- 1) 尾見徳弥¹⁾, 本田光芳¹⁾, 川名誠司²⁾, 加藤篤衛²⁾, 平井 隆, 浅野伍朗³⁾(¹⁾クイーンズスクエア医療レーザーセンター, ²⁾付属病院皮膚科, ³⁾病理第2: 病理組織学観点から見たルビーレーザーとアレキサンドライトレーザーのレーザー脱毛における効果の相違. *Aesthetic Dermatology* 2000 ; 10 (3): 65-69 .

(1) 原著：

- 1) 平井 隆, 井上尚子, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科): 脱毛レーザー照射後に生じた上口唇部肥厚性癬痕の治療経験. *形成外科* 2000 ; 43 (9): 927-930 .

著書

- 1) 平井 隆: [分担] レーザー治療時における皮膚冷却法の実際. *トータルアンチエイジング: 最新抗老化療法の実際* (谷野隆三郎), 2001 ; pp31-40, メディカルコア .

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 平井 隆: よりよい治療結果を得るために (レーザー治療の今後の課題). 第23回日本美容外科学会総会, 2000 . 9 .

(2) 一般講演：

- 1) 土佐眞美子, 平井 隆, 井上尚子, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科): 全身に散在し多様な臨床像を呈した多発性石灰化上皮腫の1例. 第43回日本形成外科学会総会, 2000 . 5 .
- 2) 尾見徳弥¹⁾, 本田光芳¹⁾, 川名誠司¹⁾, 加藤篤衛¹⁾, 平井 隆(¹⁾付属病院皮膚科): レーザー脱毛におけるルビーレーザーとアレキサンドライトレーザーの組織学的効果の相違. 第18回日本美容皮膚科学会学術大会, 2000 . 8 .
- 3) 加藤篤衛¹⁾, 尾見徳弥²⁾, 平井 隆, 川名誠司¹⁾, 浅野伍朗³⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾クイーンズスクエア医療レーザーセンター, ³⁾病理第2): レーザー脱毛における組織学的変化の検討. 第23回日本美容外科学会総会, 2000 . 9 .
- 4) 尾見徳弥¹⁾, 加藤篤衛²⁾, 平井 隆, 川名誠司²⁾, 浅野伍朗³⁾(¹⁾クイーンズスクエア医療レーザーセンター, ²⁾付属病院皮膚科, ³⁾病理第2): レーザー脱毛における病理組織学的観点から見た機種間の効果の相違点. 第23回日本美容外科学会総会, 2000 . 9 .
- 5) 土佐眞美子, 井上尚子, 平井 隆, 川並汪一¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾老人病研究所, ²⁾付属病院形成外科): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する組織学的研究. 第9回日本形成外科学会基礎学術集会, 2000 . 10 .
- 6) 重光剛志¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 小熊哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 平井 隆, 松本光司²⁾(¹⁾第二病院消化器科, ²⁾同病理部): 腹壁に発生した原発性平滑筋肉腫の1例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000 . 11 .
- 7) 加藤篤衛¹⁾, 尾見徳弥¹⁾, 川名誠司¹⁾, 平井 隆, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾病理第2): レーザー脱毛の機種間における相違点の組織学的検討. 第762回日本皮膚科学会東京地方会, 2001 . 3 .

(3) 学会主催市民公開講座：

- 1) 平井 隆: しわをとる. 第23回日本美容外科学会総会, 2000 . 9 .

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

皮膚用接着剤の力学的強度に関する研究を行い、縫合系に匹敵する強度をもつ新しい接着法である Reinforcement Combination Method を開発し、発表した。縫合系痕を残さないタイオーバー法である jerry-fish type tie over method の研究、臨床応用を行った。また、有限要素法による皮膚手術のコンピュータシミュレーションの研究を継続して行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Osawa S¹⁾, Nishimura T¹⁾, Akimoto M, Abe H¹⁾, Hamasaki T¹⁾, Kuroda S (¹⁾千葉北総病院泌尿器科): Repair of a fistula between the bladder and the perineal skin by femoral gracilis flap interposition . International Journal of Urology 2001 ; 8 (1): 80-82 .
- 2) 百束比古¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 顔面瘢痕拘縮における遊離皮弁移植とその応用 . 形成外科 2000 ; 43 (8): 775-783 .

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木見佳子²⁾, 秋元正宇, 岩切 致¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 付属病院皮膚科): 当科における皮膚悪性腫瘍の治療戦略：Strategy P (P戦略) について . 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000 . 5 .

(2) セミナー：

- 1) 秋元正宇：皮膚用接着剤の美容外科領域における有用性について . 第79回日本美容外科学会学術集会, 2000 . 9 .

(3) 一般講演：

- 1) 秋元正宇, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 口唇裂術後瘢痕に対するレーザーピーリング . 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000 . 5 .
- 2) 千明美保, 秋元正宇, 黒田周一, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): Erich型アーチバーのチタニウムスクリューを用いた装着 . 第43回日本形成外科学会・学術集会, 2000 . 5 .
- 3) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 形成外科における卒前・卒後教育の現状と課題：オーストラリアにおける研修システムと比較して . 第43回日本形成外科学会総会・学術集会, 2000 . 5 .
- 4) 秋元正宇, 千明美保, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): CO²レーザーによる口唇裂術後瘢痕のカモフラージュ . 第68回日本医科大学医学部総会, 2000 . 9 .
- 5) 千明美保, 秋元正宇, 宮田美穂, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): Erich型アーチバーの顎骨への直接固定 . 第68回日本医科大学医学部総会, 2000 . 9 .
- 6) 村上正洋¹⁾, 百束比古¹⁾, 秋元正宇, 山本 達²⁾, 嘉陽宗隆³⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 東戸塚記念病院形成外科, ³⁾ 大浜第一病院形成外科): 瘢痕拘縮の再建法としての Multi-lobed propellar flap method の有用性 . 第68回日本医科大学医学部総会, 2000 . 9 .
- 7) 秋元正宇, 千明美保, 黒田周一, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 皮膚用接着剤 (ダーマボンド) の強度試験 . 第223回日本形成外科学会東京地方会, 2000 . 12 .
- 8) 宮田美穂, 秋元正宇, 千明美保, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 新しい皮膚創閉鎖法：皮膚用接着剤の臨床適応 . 日本医科大学医学部第102回例会, 2000 . 12 .

20. 付属病院付置施設等

[付属病院集中治療室]

研究概要

第28回日本集中治療学会総会が日本医科大学第一内科高野照夫教授の主催で、平成13年3月8日から10日まで、東京ドームホテルで開催された。これは早川弘一前学長が昭和61年に第13回総会を主催して以来15年ぶりのことである。テーマは21世紀の集中治療 ~ Science, Medicine, Art ~ で、連日会場が立ち見のほどの盛況であった。

平成12年度、集中治療室では循環器学、呼吸器学、集中治療学、などに関する臨床的研究を行った。循環器学では重症心不全の特殊治療（左室ペーシング、左室形成術、僧帽弁形成術など）やモバイルガンマカメラやNICOを用いた評価、難治性不整脈に対するニフェカレントの効果や緊急カテーテルアブレーション、急性冠症候群に対する血栓吸引療法（レスキュー）、吸引血栓の病的解析などの報告がなされ、呼吸麻酔科学では急性肺障害に対する新しい治験がいくつか報告された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takagi G, Kiuchi K¹⁾, Endo T, Yamamoto T, Sato N, Nejima J¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of internal medicine): Alpha-human atrial natriuretic peptide, carperitide, reduces infarct size but not arrhythmias after coronary occlusion/reperfusion in dogs. *J Cardiovasc Pharmacol* 2000 ; 36 : 22-30 .
- 2) Asai K, Kudej RK, Shen YT, Yang GP, Takaji G, Kudej AB, Geng YJ, Sato N, Nazareno JB, Vatern DE, Natividad F, Bishop SP, Vatern SF : Peripheral vascular endothelial dysfunction and apoptosis in old monkeys. *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 2000 ; 20 : 1493-1499 .
- 3) Kudej RK, Zhang XP, Ghaleh B, Huang CH, Jackson JB, Kudej AB, Sato N, Sato S, Vatern SF : Enhanced cAMP-induced nitric oxide-dependent coronary dilation during myocardial stunning in conscious pigs. *Am j Physiol* 2000 ; 279 : H2967-2974 .
- 4) 山本 剛, 笠神康平, 高山英男, 大野則彦¹⁾, 坪 宏一, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾ (¹⁾ 内科第1, ²⁾ 放射線科): 血栓の色調からみた急性肺血栓塞栓症の臨床的特徴. *脈管学* 2000 ; 40 (9): 639-639 .
- 5) 高山守正¹⁾, 田中啓治, 河口正雄, 林田憲明, 住吉徹哉, 癸生川恵一, 斉藤 徹, 中村 泰, 斉藤克己, 田村勤, 坂井 誠, 村上幹高, 長尾 建, 内山隆史, 本江純子, 吉野秀郎, 木村 満, 一色高明, 相良耕一, 本宮武司, 山口 徹, 中西成元, 笠貫 宏, 木村佑介, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 内科第1): 東京都CCUネットワークの1998年実績報告：現在の問題点とその解決について. *Therapeutic Research* 2000 ; 21 (10): 2385-2391 .
- 6) 大野則彦¹⁾, 笠神康平, 高山守正¹⁾, 上村竜太¹⁾, 設楽敏郎, 関戸司久, 池崎弘行, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 内科第1): 高齢者急性心筋梗塞の急性期治療と退院後の活動性について. *Therapeutic Research* 2000 ; 21 (10): 2443-2447 .
- 7) 田中啓治, 佐藤直樹 : 急性心不全の新たな治療戦略とhANP. *心臓* 2001 ; 33 (1): 55-59 .

(2) 総説：

- 1) 田中啓治 : 特集 ” 指標の正しい使い方 . CVP, PCWP ”. *救急医* 2000 ; 24 (1): 384-384 .

- 2) 田中啓治, 石井庸介¹⁾(¹⁾外科第2): 心原性ショックの集中治療, PCPS. Heart View 2000; 4(3): 88-93.
- 3) 田中啓治, 関戸司久¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 特集”透析患者における心合併症, 虚血性心疾患: 初期治療と循環器医へのコンサルティングのタイミング. 腎と透析 2000; 48(3): 325-329.
- 4) 田中啓治, 安武正弘: 急性心不全の管理, 基本的治療. レジデントノート 2000; 2(3): 22-30.
- 5) 佐藤直樹, 高山守正¹⁾(¹⁾内科第1): 慢性心不全の診断. レジデントノート2 2000; 2(3): 31-38.
- 6) 田島廣之, 隈崎達夫¹⁾, 村田 智, 川俣博志, 岡島雄史, 市川和雄, 高山守正²⁾, 田中啓治, 高野照夫²⁾(¹⁾放射線科,²⁾内科第1): 血栓溶解療法とthrombectomy: 急性肺血栓塞栓症を中心として. 臨床放射線 2000; 45(6): 719-724.
- 7) 田中啓治, 藤井正大: 補助循環: IABPとPCPS. 循環器科 2000; 49: 28-34.
- 8) 安武正弘, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 心筋梗塞(急性期)治療のガイドライン. 治療学 2000; 34(6): 623-632.
- 9) 佐藤直樹, 高山守正¹⁾(¹⁾内科第1): “特集”心不全の診断・治療の要点とピットフォール 急性・慢性病態における対応の実際”. レジデントノート 2000; 2(3): 31-38.
- 10) 山本 剛, 高山守正¹⁾(¹⁾内科第1): 心循環系のモニタリング: 中心静脈圧・Swan-Ganzカテーテル・動脈圧モニタリングによる診断: (救急・集中治療における低侵襲的診断法・治療法). 集中治療 2000; 12(臨時増刊号): 13-21.
- 11) 佐藤直樹: 難治性心不全の薬物治療戦略. 循環器科 2001; 49: 7-14.

著 書

- 1) 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): [共著] IABPに関するABC “内科医からみたIABPの適応とその応用”(IABP研究会), 2000; pp39-51, エムイータイムス.
- 2) 田中啓治: [監修] 不整脈: 救急治療ハンドブック(黒川 顕編), 2000; pp159-167, 中外医学社.
- 3) 田中啓治: [監修] 肺水腫: 救急治療ハンドブック(黒川 顕編), 2000; pp168-178, 中外医学社.
- 4) 安武正弘, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): [分担] 心筋梗塞急性期治療薬としての 遮断薬. 遮断薬のすべて(編集: 荻原俊男, 築山久一郎, 横山光宏), 2000; pp198-203, 先端医学社.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 田中啓治: 心不全に対する最新の内科治療とその限界. 第13回日光カンファレンス, 2000. 6.

(2) シンポジウム:

- 1) 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 重症心不全治療の進歩 補助循環と心臓置換(経皮的心肺補助法(PCPS)無効あるいは依存の極めて難治な心不全の病態と対策). 第21回日本循環制御医学会総会, 2000. 5.
- 2) 池崎弘之, 竹田晋浩, 田中啓治, 井上哲夫¹⁾, 小川 龍²⁾(¹⁾千葉北総病院麻酔科,²⁾附属病院麻酔科): 危機的呼吸障害患者の管理心不全時の低酸素症(心原性肺水腫, 低酸素症). 第22回日本呼吸療法医学会学術総会, 2000. 6.
- 3) 安武正弘: 切迫梗塞の病態と治療(不安定狭心症と非Q波梗塞の診断と治療). 第20回CCU研究会, 2000. 11.

(3) セミナー:

- 1) 田中啓治: 重症心不全の最新の治療. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000. 9.

(4) ワークショップ:

- 1) 池崎弘之, 竹田晋弘, 安武正弘, 佐藤直樹, 高野照夫¹⁾, 小川 龍²⁾, 田中啓治(¹⁾内科第1,²⁾麻酔科): 背側肺障害に対するIntrapulmonary Percussion Ventilationの効果(急性肺障害). 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.

- 2) 笠神康平, 安武正弘, 山本 剛, 佐藤直樹, 高山英男, 坏 宏一, 亀山幹彦, 竹田晋浩, 池崎弘之, 田中啓治, 高山守正¹⁾, 清野精彦¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 重症心不全例のドブタミン, 塩酸コルホルシンドロハートに対する反応(治療指針の指標として)心不全の治療. 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.
 - 3) 佐藤直樹, 田中啓治, 安武正弘, 山本 剛, 笠神康平, 高山英男, 坏 宏一, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 難治性心不全に対する成長ホルモン急性投与の効果(心不全の治療). 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.
- (5) 一般講演:
- 1) Sato N, Tanaka K, Asai K¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾内科第1): Comparison of inotropic agents that act on components of β -adrenergic receptor signaling pathway in conscious dogs with heart failure. COE international symposium; Cardiac function Osaka 2001 (大阪), 2001. 2.
 - 2) Yamamoto T, Kasagami Y, Akutsu K, Takayama H, Sato N, Yasutake M, Tanaka K: Acute coronary syndromes develop in proportion to atherosclerotic plaque burden. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
 - 3) Tanaka K, Yasutake M, Sato N, Akutsu K, Yamamoto T, Kasagami Y, Kameyama M: Analysis of clinical course in patient with pericardial hematoma following acute aortic dissection. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
 - 4) Sato N, Tanaka K, Yasutake M, Yamamoto T, Kasagami Y, Takayama H, Akutsu K, Kameyama M, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of internal Medicine): Effectiveness of the Adijunctive Therapy with Growth Hormone in Severe Heart Failure Patients. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
 - 5) Kasagami Y, Yamamoto T, Takayama H, Akutsu K, Kameyama M, Sato N, Yasutake M, Tanaka K, Takayama M¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾First department of internal medicine): Long term outcome of acute viral myocarditis comparison between fulminant and nonfulminat cases. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
 - 6) Takayama H, Tanaka K, Kato T¹⁾, Takano T¹⁾, Hayakawa H¹⁾(¹⁾The First Department of Internal Medicine): Usefulness of nifekalant, a new lkr blocker, for refractory, life-threatening arrhythmias. 第65回日本循環器学会学術集会, 2001. 3.
 - 7) 竹永清人¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 山本 剛, 藤岡幹雄¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 清野精彦¹⁾, 高野照夫¹⁾, 高山守正¹⁾, 関戸司久, 笠神康平, 上村竜太¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘(¹⁾内科第1): 肥大型心筋症における血中脳性利尿ペプチド値と左室内閉塞の関係. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
 - 8) 緒方憲一¹⁾, 大野則彦¹⁾, 笠神康平, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 急性冠症候群における心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験の有用性に関する検討. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
 - 9) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 笠神康平, 関戸司久¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 藤田進彦¹⁾, 山本 剛, 桜井 薫¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 再灌流不良例における冠内圧評価の意義. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
 - 10) 緒方憲一¹⁾, 大野則彦¹⁾, 笠神康平, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 急性冠症候群以外で心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験が陽性となる病態の検討. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
 - 11) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 笠神康平, 関戸司久¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 加藤浩司¹⁾, 坏 宏一, 藤田進彦¹⁾, 山本 剛, 桜井 薫¹⁾, 中込明裕¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 新世代冠動脈ステントの使用は急性冠症候群への治療に有効か(旧世代ステント使用時期との初期および長期成績の比較. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
 - 12) 高山守正¹⁾, 安武正弘, 大井田史継¹⁾, 深見健一²⁾, 榎田光夫³⁾, 武藤 誠⁴⁾, 竹永清人⁵⁾, 本間 博⁵⁾, 草間芳樹⁵⁾, 高野照夫⁵⁾(¹⁾獨協医科大学心血管肺内科, ²⁾岩手医科大学第二内科, ³⁾国立国際医療センター,

- 4) 埼玉県立循環器呼吸器病センター, 5) 内科第1): 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔心筋焼灼術の初期および長期成績. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
- 13) 緒方憲一¹⁾, 大野則彦¹⁾, 笠神康平, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 清野精彦¹⁾, 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 重症心不全における心臓型脂肪酸結合蛋白迅速検出試験による心筋障害の検出と病態の分析. 第64回日本循環器学会総会学術集会, 2000. 4.
- 14) 中西一浩¹⁾, 竹田晋弘, 寺嶋克幸¹⁾, 小川 龍¹⁾(¹⁾麻酔科): 手術侵襲により活性化される交感神経副腎系と炎症性サイトカイン値の関係. 第47回日本麻酔学会総会, 2000. 4.
- 15) ジハド ズレイガート, 田中啓治, 上村竜太¹⁾, 高山英男, 笠神康平, 山本 剛, 石井庸介²⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 矢島俊巳¹⁾, 落 雅美²⁾, 田中茂夫²⁾, 高野照夫¹⁾, 布施 明³⁾(¹⁾内科第1, ²⁾外科第2, ³⁾川口市立医療センター): 剥離内膜の左室内嵌頓により仮性大動脈弁閉鎖不全をきたした急性大動脈解離. 第176回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 6.
- 16) 竹永清人¹⁾, 高山守正¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 石川正也¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 本間 博¹⁾, 関戸司久¹⁾, 上村竜太¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾, 山本 剛, 笠神康平, 佐藤直樹, 安武正弘(¹⁾内科第1): 閉塞性肥大型心筋症への経皮的中隔心筋焼灼術の臨床成績. 第9回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2000. 6.
- 17) 加藤浩司¹⁾, 高山守正¹⁾, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 石川正也¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 藤岡幹雄¹⁾, 山本 剛, 笠神康平, 佐藤直樹, 安武正弘, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 冠動脈ステント留置術の長期成績(各種ステントにおける急性冠病変(ACS)と慢性冠狭窄(非ACS)との差違). 第9回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2000. 6.
- 18) 石川正也¹⁾, 高山守正¹⁾, 森田典成¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 上村竜太¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 笠神康平, 藤岡幹雄¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 中込明裕¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): いわゆる”たこつぼ心筋症”の成因の検討(回復期アセチルコリン(Ach)負荷による多枝冠動脈攣縮を生じた3例). 第9回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2000. 6.
- 19) 吉川雅智¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 高山守正¹⁾, 石川正也¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 藤岡幹雄¹⁾, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾, 山本 剛, 笠神康平, 上村竜太¹⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治(¹⁾内科第1): 慢性冠狭窄例における待期的冠動脈ステント留置術の長期成績の検討(ステント世代による長期成績の比較). 第9回日本心臓血管インターベンション学会学術集会, 2000. 6.
- 20) 掃部弘行¹⁾, 今泉貴敬¹⁾, 畑 典武¹⁾, 緒方憲一²⁾, 田中啓治, 岩原信一郎³⁾, 清野精彦²⁾, 木内 要²⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院集中治療部, ²⁾内科第1, ³⁾海老名総合病院循環器センター): H-FABP測定による急性心筋梗塞の診断・迅速判定法カットオフ値に関する検討. 第20回日本心筋梗塞研究会, 2000. 7.
- 21) 斉藤サビーネ京子, 高山英男, 竹田晋浩, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 中込明裕¹⁾, 高野照夫¹⁾, 田島廣之²⁾, 林 宏光²⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾内科第1, ²⁾放射線科): 上腸間膜動脈単離による虚血性腸炎を呈した1例. 第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2000. 8.
- 22) 幸田修典, 四維東州, 池崎弘之, 竹田晋浩, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫¹⁾, 小川 龍²⁾(¹⁾内科第1, ²⁾麻酔科): 集中治療室における非侵襲的人工呼吸器BiPAP使用に関する1考察. 第15回日本医工学治療学会, 2000. 8.
- 23) 長汐千秋, 山本 剛, 池崎弘之, 高山英男, 大野則彦¹⁾, 安武正弘, 田中啓治, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): Pilsicainide中毒によるincessant型心室頻拍に対して持続的血液濾過透析(CHDF)が有効であった維持透析患者の1例. 第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2000. 8.
- 24) 中山暢子¹⁾, 池崎弘之, 竹田晋弘, 宮下正男²⁾, 笹島耕一²⁾, 高野照夫³⁾, 小川 龍¹⁾, 田中啓治(¹⁾麻酔科, ²⁾外科第1, ³⁾内科第1): 食道癌術後における呼吸器感染起因菌の検出. 第9回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2000. 8.

- 25) 加藤浩司¹⁾, 古明地弘和¹⁾, 椎葉邦人¹⁾, 小林義典¹⁾, 清野精彦¹⁾, 高野照夫¹⁾, 佐藤直樹, 佐藤秀貴²⁾(¹⁾内科第1, ²⁾高度救命救急センター): 心筋炎, 心内膜炎, 脳炎を合併し, 意識障害, DIC, 心室頻拍を呈したACTH単独欠損症の1例. 第484回日本内科学会関東地方会, 2000. 9.
- 26) 谷合信彦¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 峯田 章¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 平方敦史¹⁾, 吉村和泰¹⁾, シリカン山田¹⁾, 右田 真²⁾, 池崎弘之, 設楽敏朗, 寺嶋克之(¹⁾外科第1, ²⁾小児科): 本学第1例目の生体部分肝移植. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 27) 掃部弘行¹⁾, 畑 典武¹⁾, 水野杏一²⁾, 緒方憲一³⁾, 田中啓治, 清野精彦³⁾, 高野照夫³⁾(¹⁾千葉北総病院集中治療部, ²⁾同内科, ³⁾内科第1): 急性心筋梗塞におけるH-FABP高値遷延症例の臨床像と予後に関する検討. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000. 9.
- 28) 竹永清人¹⁾, 高山守正¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 佐藤直樹, 藤岡幹雄¹⁾, 中込明裕¹⁾, 安武正弘, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 経皮的中隔心筋焼灼術前後の血清BNP値減少は左室内圧較差減少を反映する. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000. 9.
- 29) 吉川雅智¹⁾, 高山守正¹⁾, 竹永清人¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 笠神康平, 中込明裕¹⁾, 安武正弘, 本間 博¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 閉塞性肥大型心筋症への中隔心筋焼灼術による左室構築ならびに心エコー図所見の推移. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000. 9.
- 30) 笠神康平, 山本 剛, 大野則彦¹⁾, 高山英男, 佐藤直樹, 安武正弘, 高山守正¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 最近5年間の急性心筋炎の短期および長期予後について. 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000. 9.
- 31) 笠神康平, 高山守正¹⁾, 石川正也¹⁾, 山本 剛, 佐藤直樹, 安武正弘, 中込明裕¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 田中啓治, 高野照夫¹⁾, 川本雅司²⁾, 落 雅美³⁾(¹⁾内科第1, ²⁾病理第1, ³⁾外科第2): Degenerated Saphenous Vein Graftへの冠動脈形成術にてコレステリン・クリスタルの末梢飛散を証明し得た1例. 第177回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 10.
- 32) 美浦和代, 山本 剛, 伊藤尚子, 高井恵美子, 笠神康平, 大野則彦¹⁾, 高山英男, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 林 明聡¹⁾, 森田典成¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 小林義典¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 重症心不全に伴う難治性心房粗細動に対し房室結節焼灼, 心房心室順次ペーシングにより, 血行動態の改善をみた急性心筋梗塞の1例. 第177回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 10.
- 33) 高山英男, 田中啓治, 佐藤直樹: 20年間に当CCUに収容した慢性心不全急性増悪患者の病態. 第38回日本臨床生理学会総会, 2000. 11.
- 34) 小林 剛, 佐藤直樹, 高山英男, 富樫晃祥: 重症虚血性心不全に対するドブタミン反応性をモバイルガンマカメラによって評価した1例. 第178回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 12.
- 35) 神戸 将, 塚 宏一, 田中啓治, 寺西宣央, 藤井正大, 石井庸介¹⁾, 別所竜蔵, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾(¹⁾外科第2): 心タンポナーデを伴ったintramural hematomaの1例. 第179回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2001. 2.
- 36) 中込明裕¹⁾, 青木 聡¹⁾, 山根吉人¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 藤岡幹雄¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正¹⁾, 塚 宏一, 笠神康平, 山本 剛, 佐藤直樹, 安武正弘, 田中啓治, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 安定狭心症患者においてC-Reactive Proteinが急性冠症候群進展に関与する. 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.
- 37) 清宮泰嗣¹⁾, 水野杏一¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 富村正登¹⁾, 上村竜太¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 井野 威¹⁾, 田中啓治, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院循環器センター, ²⁾内科第1): 急性冠症候群におけるプラーク破裂部位および形態の検討. 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.
- 38) 藤田宏子¹⁾, 池崎弘之, 竹田晋弘, 四維東州¹⁾, 鈴木かやの²⁾, 二神生爾³⁾, 佐藤直樹, 安武正弘, 高野照夫⁴⁾, 小川 龍¹⁾, 田中啓治(¹⁾麻酔科, ²⁾皮膚科, ³⁾内科第3, ⁴⁾内科第1): 多臓器不全を伴った血球貧食症候群を集中治療により救命し得た1症例. 第28回集中治療学会総会, 2001. 3.
- 39) 清水 淳¹⁾, 坂本篤裕¹⁾, 中西一浩¹⁾, 竹田晋弘, 池崎弘之, 田中啓治, 小川 龍¹⁾(¹⁾麻酔科): 濃厚赤血球

輸血時に白血球除去フィルターに起因すると思われるショック症状を示した1例．第28回集中治療学会総会，2001．3．

- 40) 山本 剛，笠神康平，高山英男，坏 宏一，亀山幹彦，佐藤直樹，安武正弘，田中啓治，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾(¹⁾内科第1，²⁾放射線科): 血栓の色調からみた急性肺血栓塞栓症の臨床的特長．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 41) 坏 宏一，子島 潤¹⁾，木内 要¹⁾，高山守正¹⁾，亀山幹彦，高山英男，笠神康平，山本 剛，佐藤直樹，安武正弘，田中啓治，高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): B型大動脈解離の慢性管理(いつどのような症状に手術をするか?)．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 42) 笠神康平，山本 剛，高山英男，坏 宏一，亀山幹彦，佐藤直樹，池崎弘之，竹田晋弘，安武正弘，高山守正¹⁾，田中啓治，高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 当CCUにおける最近10年間の急性心筋炎の短期および長期予後について．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 43) 高山英男，田中啓治，大野則彦¹⁾，山本 剛，笠神 康平，佐藤直樹，安武正弘，加藤貴雄¹⁾，高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 緊急治療の必要な頻脈性上室性不整脈に対するnifekalantの使用経験．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 44) 森田典成¹⁾，小林義典¹⁾，相澤瑞穂¹⁾，安部純子¹⁾，平澤泰宏¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，林 明聡¹⁾，宮内靖史¹⁾，大村和子¹⁾，平山悦之¹⁾，加藤貴雄¹⁾，高野照夫¹⁾，大野則彦¹⁾，高山英男，田中啓治(¹⁾内科第1): 長期間持続した上室性頻拍症による心不全に対し，緊急カテーテルアブレーションが成功した1例．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 45) 田中啓治，木村裕子¹⁾，松田裕之¹⁾，品田卓郎¹⁾，掃部弘行¹⁾，今泉孝敬¹⁾，牧野俊郎²⁾(¹⁾千葉北総病院集中治療部，²⁾新東京国際空港クリニック): いわゆるeconomy class syndromeの病態について．第97回日本内科学会総会，2000．4．

(6) ランドテーブルディスカッション:

- 1) 山本 剛，笠神康平，高山英男，大野則彦¹⁾，坏 宏一，佐藤直樹，安武正弘，田中啓治，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾(¹⁾内科第1，²⁾放射線科): 血栓の色調からみた急性肺血栓塞栓症の臨床的特長．第41回日本脈管学会総会，2000．11．
- 2) 中西一浩¹⁾，清水 淳¹⁾，池崎弘之，竹田晋弘，安武正弘，本間 博²⁾，高山守正²⁾，田中啓治，小川 龍¹⁾，高野照夫²⁾(¹⁾麻酔科，²⁾内科第1): 周術期循環動態に対するドブタミン負荷エコーの有用性(心疾患患者の非心臓手術)．第28回集中治療学会総会，2001．3．
- 3) 畑 典武¹⁾，今泉孝敬¹⁾，田中啓治，草間芳樹²⁾，水野杏一¹⁾，小原俊彦¹⁾，大場崇芳¹⁾，掃部弘行¹⁾，品田卓郎¹⁾，高野照夫¹⁾(¹⁾千葉北総病院循環器センター，²⁾内科第1): economy class syndromeの集中治療と長期予後(肺血栓塞栓症への対策)．第28回集中治療学会総会，2001．3．

[付属病院病理部]

研究概要

第一病院統合に伴う暫定定員1名を含めて病理医は3名(1名は9月からシアトルのワシントン大学に留学中)の病理診断業務を中心とした小所帯の部署であり，今年も，病理学教室を初め，各領域の研究者との共同研究が主体となった．しかし，研究対象となる宝の山に囲まれている特典を活かして，僅かではあるが，技師を初め，自主学習学生を含めての前向きの活動が定着して来た年でもある．

心血管系では，弁膜病変の病態・病因の解析に向けての研究が田村助教授を中心に継続されているが，カリキュラムとしての"自主学習"から発展したpost-自主学習とも言うべき(真の意味での自主学習)学生を中心とした研究が定着し，今年も学会発表，論文としての纏めも進行中である．新年度も次の学年が頑張っており楽しみである．

*H. pylori*と消化器疾患に関する研究は、温助手、病理部兼務医の山田助教授（病理第2）を中心に海外との共同研究を継続、地理病理学的展開が進行中である。

腎炎の発症進展機構の解明に向けての研究は、病理学教室の腎臓班との研究を継続しているが、共焦点レザ顕微鏡を駆使した3次元解析もゆっくりではあるが進展が見られた。生検・剖検症例を用いた解析も継続中である。

リンパ腫を中心とした造血管器疾患の領域では、学内外の血液病理医の協力を得て発足したリンパ腫勉強会（千駄木）も隔月から毎月になり23回を越えた。参加機関も更に増え意見交換の場として定着、幅の広い勉強会へ発展しつつある。多くの症例が集積され今年度も稀少症例を報告出来たが、更に研究へ展開を計っている。

細胞診の分野でも、技師を中心に日常業務の中から拾い上げた貴重な症例の報告に加え、研究への取り組みの成果が少しずつ纏まって来た。

分子生物学的な研究に関しては、各領域の研究者との共同研究を積極的に推進する体制を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watarai Y, Satoh H, Matubara M, Asakawa K, Kamaguchi H, Nagai S, Murase Y, Yokoyama M¹⁾, Kimura G²⁾, Tamura K, Sugisaki Y (¹⁾病理学第2, ²⁾泌尿器科学): Comparison of urine cytology between the ileal conduit and Indiana pouch. *Acta Cytologica* 2000 ; 44 (5): 748-751 .
- 2) Endo T¹⁾, Katsuta Y¹⁾, Kimura Y¹⁾, Kikuchi A¹⁾, Aramaki T¹⁾, Takano T¹⁾, Tajima H²⁾, Fukuda Y³⁾, Sugisaki Y (¹⁾内科学第1, ²⁾放射線科, ³⁾病理学第1): Variant form of Churg-Straus syndrome : Initial temporal non giant cell arteritis followed by asthma. Is this a distinct clinicopathological entity? . *Hum Pathol* 2000 ; 31 (9): 1169-1171 .
- 3) Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Kitamura H¹⁾, Ishizai M¹⁾, Ohashi R, Sugisaki Y, Yamanaka N (¹⁾病理学第1): Compliment-mediated killing of mesangial cells in experimental glomerulonephritis : Cell death by a combination of apoptosis and necrosis . *Nephron* 2000 ; 86 (2): 152-160 .
- 4) 吉村明修¹⁾, 田邊 潤²⁾, 田村浩一, 高野照夫²⁾, 清野精彦²⁾, 片山泰朗³⁾, 草間芳樹²⁾, 高崎雄司¹⁾, 高山守正²⁾, 木内 要²⁾, 川本雅司⁴⁾, 岸田 浩²⁾ (¹⁾内科学第4, ²⁾内科学第1, ³⁾内科学第2, ⁴⁾病理学第1): 慢性反復性血栓塞栓による肺高血圧症により卵円孔開存を介した右 左シャントを生じた1例 . *内科* 2000 ; 86 (2): 389-398 .
- 5) 松原美幸, 川本雅司¹⁾, 渡會泰彦, 杉崎祐一 (¹⁾病理学第1): 過敏性肺臓炎の気管支洗浄液に出現する異型リンパ球の検討 . *J. Jpn. Soc. Clin. Cytol.* 2000 ; 39 : 408-409 .
- 6) 清野精彦¹⁾, 石川昌弘¹⁾, 福間長和¹⁾, 阿部信二¹⁾, 吉村明修²⁾, 山崎峰雄³⁾, 坂本静樹³⁾, 杉原 仁⁴⁾, 田村浩一, 高野照夫¹⁾, 山中宣昭⁵⁾, 川本雅司⁵⁾, 佐藤直樹¹⁾ (¹⁾内科学第1, ²⁾内科学第4, ³⁾内科学第2, ⁴⁾内科学第3, ⁵⁾病理学第1): 間質性肺炎, 心機能低下など多彩な臨床症状を呈し筋ジストロフィーと考えられた1例 . *内科* 2001 ; 87 (2): 356-367 .

(2) 総説：

- 1) Nishiyama Y²⁾, Nejima J¹⁾, Watanabe A³⁾, Kotani E¹⁾, Sakaiai N³⁾, Hatomchi A⁴⁾, Shinkai H⁴⁾, Kiuchi K¹⁾, Tamura K, Shimada T³⁾, Takano T¹⁾, Katayama Y²⁾ (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾内科学第2, ³⁾生化学第2, ⁴⁾千葉大学医学部皮膚科): Ehlers-Danlos syndrome type IV with a unique point mutation in COL3A1 and familial phenotype of myocardial infarction without organic coronary stenosis . *J Int Med* 2000 ; 44 (5): 748-751 .
- 2) 田村浩一, Victor JF¹⁾ (¹⁾NHLB. NIH): (特集 : 同種弁, 異種弁, 自己弁置換の臨床) 異種弁, 同種弁, 移植自己弁の病理 . *胸部外科* 2000 ; 53 (4): 262-268 .

著 書

(1) 追加分著書 :

- 1) Yamanaka N¹⁾, Wen M (¹⁾病理学第1): Properties of diabetic glomerulosclerosis . Dibetic Nephropathy : From Bench to Bedside (Arakawa Masaki), 2001 ; pp18-27 , 旭光社 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 山中宣昭¹⁾, 温 敏 (¹⁾病理学第1): 糖尿病性腎症 . 第15回新潟腎シンポジウム , 2000 . 7 .

(2) 一般講演 :

- 1) Kawamoto M¹⁾, Matsubara M, Sugisaki Y (¹⁾1st Department of pathology): Cytological evaluation of atypical lymphocytes in bronchoalveolar lavage fluid of hypersensitivity pneumonitis . American Thoracic Society 2000, 96th International Conference (Toronto), 2000 . 5 .
- 2) Yokoyama M¹⁾, Watarai Y , Wen M , Tamura K , Sugisaki Y , Asano G¹⁾(¹⁾病理学第2): Fine needle aspiration cytology (FNAC) in superficial lymphadenopathy . XXIII International Congress of the International Academy of Pathology (Nagoya, Japan), 2000 . 10 .
- 3) Mori T¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Ohashi R¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾(¹⁾病理学第1): Hepatocyte growth factor (HGF) stimulates endothelial cell proliferation and accelerates angiogenic glomerular capillary repair in experimental progressive glomerulonephritis (GN) . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Tronto, Canada), 2000 . 11 .
- 4) Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mori T¹⁾, Ohashi R¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾(¹⁾病理学第1): Vascular endothelial cell growth factor 165 (VEGF165) enhances glomerular capillary repair and accelerates the recovery from experimental progressive glomerulonephritis (GN) . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Tronto, Canada), 2000 . 11 .
- 5) Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Ohashi R¹⁾, Mori T¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾(¹⁾病理学第1): Caspase-3 independent apoptotic DNA fragmentation in tubular epithelial cell necrosis after ischemia-reperfusion injury . American Society of Nephrology, 33rd Annual Meeting (Tronto, Canada), 2000 . 11 .
- 6) 田村浩一 , 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一 , 朔 敬²⁾(¹⁾病理学第1 , ²⁾新潟大学歯学部口腔病理学): 大動脈二尖弁についての臨床病理学的検討 . 第89回日本病理学会総会 , 2000 . 4 .
- 7) 山田宣孝¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 温 敏 , 田村浩一 , 杉崎祐一 , 松久威史²⁾(¹⁾病理学第2 , ²⁾多摩永山病院内視鏡科): 地域 , 民族差による *H. Pylori* 感染と粘膜萎縮 , 腸上皮化生の関係の組織学的検討 (第3報) . 第89回日本病理学会総会 , 2000 . 4 .
- 8) 温 敏 , 杉崎祐一 , 王 培榮¹⁾, 山中宣昭¹⁾(¹⁾病理学第1): 糸球体門部小血管増生と糖尿病性腎症の病理所見の連続性 . 第89回日本病理学会総会 , 2000 . 4 .
- 9) 杉崎祐一 , 温 敏 , 並松茂樹 , 前田美穂¹⁾, 浅野 健¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾小児科 , ²⁾病理学第2): 脾原発 CD56 + NK cell lymphoma の1例 . 第89回日本病理学会総会 , 2000 . 4 .
- 10) 杉崎祐一 , 温 敏 , 石崎正通¹⁾, 益田幸成¹⁾, 清水 章¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 山中宣昭¹⁾(¹⁾病理学第1): 共焦点レーザー顕微鏡による腎糸球体の三次元的解析 : 単離糸球体 , ブロック法による検討 . 第43回日本腎臓学会学術総会 , 2000 . 5 .
- 11) 益田幸成¹⁾, 清水 章¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 森 貴博¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一 , 山中宣昭¹⁾(¹⁾病理学第1): Thy-1 + ハブ毒腎炎における傷害糸球体の硬化進展過程 . 第43回日本腎臓学会学術総会 , 2000 . 5 .
- 12) 横山宗伯¹⁾, 松原美幸 , 杉崎祐一 , 浅野伍朗¹⁾, 北川泰之²⁾, 白井康正²⁾(¹⁾病理学第2 , ²⁾整形外科): 中足骨に発生した平滑筋肉腫の1例 . 第33回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 , 2000 . 7 .

- 13) 谷地 織¹⁾, 酒井 拓¹⁾, 吉田有里¹⁾, 北村光信¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一, 山中宣昭²⁾(¹⁾日本医科大学学生,
²⁾病理学第1): 横紋筋融解症: 剖検例における臨床病理学的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 14) 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 北村博司¹⁾, 石崎正通¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 森 貴博¹⁾, 山中宣昭¹⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1): 補体依存性糸球体メサングウム細胞死: apoptotic DNA fragmentation を伴った cell necrosis. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 15) 杉崎祐一, 温 敏, 石崎正通¹⁾, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 山中宣昭¹⁾, 山下和雄²⁾(¹⁾病理学第1, ²⁾解剖学第1): 共焦点レーザー顕微鏡による病態の三次元解析: 実験腎炎(Thy1腎炎)に見る糸球体構造の特異性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 16) 中山智子¹⁾, 川本雅司¹⁾, 土屋眞一²⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1, ²⁾長野県がん検診救急センター): Invasive micropapillary carcinoma の component を認めた乳癌の2例. 第119回東京病理集談会, 日本病理学会 関東支部 交見会, 2000. 12.

(3) 展示:

- 1) 村瀬幸宏, 並松茂樹, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: 当院における甲状腺濾胞性腫瘍の細胞診についての検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 2) 永井祥子, 浅川一枝, 田村浩一, 杉崎祐一: 当院における乳腺細胞診についての検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 3) 釜口晴美, 松原美幸, 尾崎正行, 田村浩一, 杉崎祐一, 川本雅司¹⁾(¹⁾病理学第1): 術中迅速診断時に捺印細胞診の併用が有用であった顆粒膜細胞腫の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 4) 佐藤春明, 鈴木あかね, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一: 尿細胞保存液(ウリキープ)の体腔液細胞診への応用. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 5) 並松茂樹, 尾崎正行, 渡会泰彦, 田村浩一, 杉崎祐一, 安藤 哲¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 自動免疫染色装置による診断精度の向上と効率化の試み: ペンタナNXシステムの使用経験について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 6) 藤田千歳¹⁾, 矢野 侃¹⁾, 今村 洋²⁾, 古川清憲³⁾, 杉崎祐一, 前田昭太郎⁴⁾(¹⁾荒川区がん予防センター, ²⁾東京女子医大付属第二病院外科, ³⁾付属病院第一外科, ⁴⁾多摩永山病院病理部): 検診で発見された乳癌11例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 7) 石野三智男¹⁾, 押田恵美子¹⁾, 三橋 太¹⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾, 渡会泰彦(¹⁾付属病院中央検査部): 当検査室における悪性異型細胞検出例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.

[付属病院中央検査部]

研究概要

当中央検査部は我が国の中で膨大な処理実績を誇り、学術研究面では本年度も積極的に取り組み年毎に充実した成果を生み出している。この着実なる多くの業績が検査部での確かな自信に繋がり、記念すべき21世紀を迎えた上での新たなスタートとして、より良い環境構成として計り知れない影響をもたらすものと確信している。

今年度における各分野の活動概要は下記の通りである。PCR法を用いた抗酸菌・クラミジアトラコマティス・淋菌・HCV-RNA測定, Clostridium difficile・ESBLs産生菌の検出やロタウィルス抗原の検索, EDTA依存偽性血小板減少症への対応, 造血前駆物質分析法による幹細胞測定と評価, 全自動化学発光装置による超微量物質検出と評価, 肝膿瘍からの赤痢アメーバ検出, 日本海裂頭条虫の動向と検出状況, 尿中悪性異型細胞検出とその対応, イムノクロマトグラフィ-を用いたHBs抗原・HBs抗体検出, EIA法による抗DNA抗体測定法の模索, 全自動凝固検査稼働の実現とその効果, ワ-ファリン服用患者や肝移植時の凝固学的重要性とその対応, 内分泌分野ではTSH, FT4, FT3新規検出法の検討, 血液製剤の使用状況と管理対策や資料提供, 尿中アルブミン・クレアチ

ニン比, 血中セレン・Lipopolysaccharide binding protein・亜硫酸・エンドトキシン検出, ケトン体・乳酸の動向, 単球HLA-DR発現率モニタリング, 薬物乱用検査や抗菌薬状況について, 迅速法に関する模索と臓器移植による免疫抑制剤測定とモニタリングへの取り組み, 管理分野では経済効果の検討と一連のシステム化に関する模索を常に行い, 施設管理上では細菌学的院内清浄度チェックの実施を各種委員会への学術的協力, 公共機関を通じた首都圏の精度管理状況の調査指導協力など, 極めて多岐にわたり広範囲な活動が行われた.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Koike K¹⁾, Mochizuki T¹⁾, Kushimoto S¹⁾, Shibata Y, Koido Y¹⁾, Tsujii A¹⁾, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾救急医学): Microalbuminuria Correlates with Endothelial Injury and Multiple Organ Dysfunction: A preliminary Study. 日救急医学会誌 2000; 11(6): 261-268.
- 2) 小長谷勝利¹⁾, 橋本政子(¹⁾日本医学技術専門学校): 未病システムにおける臨床検査のありかた. 日本未病システム学会雑誌 2000; 6(2).
- 3) 木村昭夫, 青砥泰二¹⁾, 西澤健司²⁾, 山本保博(¹⁾中央検査部, ²⁾薬剤部): 各科領域におけるカルバペナム系抗菌薬の使い方, 9) 熱傷~重症熱傷症例における緑膿菌感染と対策. 感染と抗菌薬 2000; 13: 102-107.
- 4) 三橋 太, 村上尚子, 野本剛史, 里村克章: 全自動化学発光免疫装置 'ARCHITECT i2000' によるAFP・Total-PSA 測定の評価. 臨床検査機器・試薬 2000; 23(5): 413-419.
- 5) 玉置智規¹⁾, 柴田泰史, 野手洋治²⁾, 山本保博²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾救急医学): 重傷頭部外傷における代謝性アシドーシスの病態生理: ケトン体と乳酸に着目して. 脳神経外科 2000; 28(7): 623-629.
- 6) 高木 豊, 常木美智子, 長尾敦子, 小林弘美, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: コアグレックス 800による複合凝固因子測定の検討. 臨床検査, 機器・試薬 2001; 24(1): 81-86.

(2) One Point Advice:

- 1) 中村祐三, 里村克章: EDTA 依存偽性血小板減少症と思われる患者の血小板の求め方. 内科学総合雑誌 Medical Practice 2000; 17(5): 874-874.

(3) 研究速報:

- 1) 柴田泰史, 小池 薫¹⁾, 野本剛史, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 加地正人¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 全身性炎症反応症候群における血清Lipopolysaccharide-binding protein濃度の検討. 日救急医学会誌 2000; 11(6): 291-292.
- 2) 久志本成樹¹⁾, 山本保博¹⁾, 松園幸雄¹⁾, 柴田泰史, 相星淳一¹⁾, 宮内雅人¹⁾(¹⁾救急医学): 各種病態における単球HLA-DR発現率モニタリングの臨床的検討. 日救急医学会誌 2000; 11(12): 710-711.

(4) 総説:

- 1) 柴田泰史, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 乱用薬物の検査. LAB-TOPICS 2000; 21(3): 1-3.

著書

- 1) 野本剛史: [分担]平成12年度版. 第19回東京都衛生検査所精度管理事業報告書(東京都立衛生研究所), 2001; 東京都衛生局医療計画部.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Kushimoto S¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Shibata Y(¹⁾救急医学): Implications of fibrinogenolysis in patients with severe head injury. Society of critical care medicine, 30th international educational & scientific symposium.

(San Francisco), 2001 . 2 .

- 2) 小池 薫¹⁾, 増野智彦¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 外科手術症例における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮傷害 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 3) 増野智彦¹⁾, 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾, 勝又聖夫²⁾, 南 正康²⁾(¹⁾救急医学, ²⁾衛生学・公衆衛生学): 外科手術症例における血清セレン濃度の測定 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 4) 佐藤格夫¹⁾, 小池 薫¹⁾, 増野智彦¹⁾, 望月 徹¹⁾, 野口裕幸¹⁾, 柴田泰史, 小井土雄一¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 多臓器障害患者におけるIL-18の測定 . 第100回日本外科学会総会, 2000 . 4 .
- 5) 久志本成樹¹⁾, 小池 薫¹⁾, 山本保博¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 柴田泰史, 宮内雅人¹⁾(¹⁾救急医学): CUにおける単球HLA-DR発現率モニタリングの意義 . 第3回日本臨床救急医学会, 2000 . 4 .
- 6) 福田高久, 高木 豊, 中島弘美, 間宮一夫, 岸美智子, 萩原直久, 野本剛史: ワーファリン服用者についての対応: 第3報: 受付から結果報告まで . 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 7) 篠山明宏, 園部一成, 青砥泰二, 橋本政子, 野本剛史: 当院におけるESBLs産生菌検出法の検討 . 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 8) 小長谷勝利¹⁾, 橋本政子(¹⁾日本医学技術専門学校): 在宅検査の普及と臨床検査技師の役割 . 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 9) 中島弘美, 岸美智子, 長尾敦子, 間宮一夫, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史: 全自動血液凝固分析装置コアグレックス800の基礎的検討(第1報): 特に凝固時間法について . 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 10) 長尾敦子, 岸美智子, 中島弘美, 間宮一夫, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史: 全自動血液凝固分析装置コアグレックス800の基礎的検討(第2報): 特にラテックス凝集法について . 第49回日本臨床衛生検査学会, 2000 . 5 .
- 11) 高木 豊, 岸美智子, 長尾敦子, 中島弘美, 間宮一夫, 萩原直久, 野本剛史: 全自動血液凝固分析装置コアグレックス800の基礎的検討(第3報): 特に合成基質法について . 第49回日本臨床衛生検査技師会, 2000 . 5 .
- 12) 増野智彦¹⁾, 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾, 勝又聖夫²⁾, 南 正康²⁾(¹⁾救急医学, ²⁾衛生学・公衆衛生学): 熱傷患者における血清セレン濃度の測定 . 第26回日本熱傷学会総会, 2000 . 6 .
- 13) 福田高久, 野本剛史, 里村克章: イムノクロマトグラフィー法によるHBs抗原, HBs抗体検出試薬の基礎的検討 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 14) 小相澤美香, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章: EIA法による抗DNA抗体測定の有用性について . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 15) 田島克美, 中島 愛, 村上尚子, 野本剛史, 里村克章: TSH, FT4, FT3測定に関する検討 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 16) 吉野早恵子, 亀山澄子, 植田貴子, 高橋亜紀子, 福田高久, 野本剛史, 里村克章: 付属病院における診療科別血液製剤の使用状況 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 17) 園部一成, 青砥泰二, 橋本政子, 野本剛史, 里村克章, 濃沼政美¹⁾(¹⁾薬剤部): 当院における毒素産生Clostridium difficileの検出と使用抗菌薬の関連性 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 18) 川上直美, 橋本政子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: PCR法における抗酸菌検出法の検討 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 19) 前田良子, 橋本政子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: PCR法によるクラミジアトラコマチス, 淋菌検出法の検討 . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .

- 20) 渡部明子, 橋本政子, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章: 糞便中口タウウイルス抗原検出用キットの比較検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 21) 橋本政子, 前田良子, 川上直美, 野本剛史, 里村克章: PCR自動分析装置「コバスアンプリコア」におけるHCV-RNA測定装置の評価. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 22) 岩上正明¹⁾, 片山志郎¹⁾, 平野公晟¹⁾, 青砥泰二, 野本剛史, 里村克章 (¹⁾薬剤部): 日本医科大学付属病院における抗菌剤の使用動向. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 23) 中村祐三, 野本剛史, 里村克章: IMIチャンネルを利用した造血前駆細胞 (HPC) 分析システムを含めた他法との幹細胞 (CD34陽性細胞) 測定の評価について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 24) 三橋 太, 野本剛史, 里村克章: 当院における寄生虫検出例. 第2報: 肝膿瘍からの赤痢アメーバ検出例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 25) 梨本みどり, 三橋 太, 野本剛史, 里村克章: 当院における寄生虫検出例. 第1報: 日本海裂頭条虫感染例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 26) 石野三智男, 押田恵美子, 三橋 太, 野本剛史, 里村克章, 渡会泰彦¹⁾(¹⁾病理部): 当検査室における悪性異型細胞検出例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 27) 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 福田節子, 野本剛史, 里村克章: LZテスト栄研CRPの基礎的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 28) 小林弘美, 岸美智子, 長尾敦子, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: 全自動血液行彥分析装置コアグレックス800の有用性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 29) 長尾敦子, 岸美智子, 小林弘美, 高木 豊, 福田高久, 萩原直久, 野本剛史, 里村克章: ワーファリン服用者への対応アンケート調査集計結果. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 30) 柴田泰史, 小池 薫, 野本剛史, 里村克章, 久志本成樹, 山本保博: 集中治療患者における血清Lipopolysaccharide-binding protein濃度の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 31) 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 増野智彦¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 多臓器障害患者における尿中アルブミン・クレアチニン比と血管内皮傷害. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 32) 佐藤格夫¹⁾, 小池 薫¹⁾, 増野智彦¹⁾, 望月 徹¹⁾, 野口裕幸¹⁾, 柴田泰史, 小井土雄一¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 多臓器障害患者におけるIL-18の測定. 第35回日本腹部救急医学会総会, 2000. 9.
- 33) 岸美智子, 長尾敦子, 小林弘美, 寺尾幸重, 高木 豊, 萩原直久, 野本剛史: コアグレックス: 800におけるトロンボテスト及びヘパラスチンテスト測定について. 第37回関東甲信地区医学検査学会, 2000. 10.
- 34) 長尾敦子, 岸美智子, 小林弘美, 高木 豊, 福田高久, 萩原直久, 野本剛史: ワーファリン服用者についての対応 (第4報) アンケート調査集計結果の年齢による比較. 第37回関東甲信地区医学検査学会, 2000. 10.
- 35) 柴田泰史, 小池 薫¹⁾, 野本剛史, 里村克章, 久志本成樹¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 鈴木崇生¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 外傷患者における血清 Interleukin-18値の検討: 外傷の重傷度および炎症反応との関連について. 第28回日本救急学会総会, 2000. 11.
- 36) 鈴木崇生¹⁾, 小池 薫¹⁾, 柴田泰史, 久志本成樹¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 外傷患者における血清 Interleukin-18値の検討: 集中治療における重傷度との関連性について. 第28回日本救急学会総会, 2000. 11.
- 37) 増野智彦¹⁾, 小池 薫¹⁾, 佐藤格夫¹⁾, 望月 徹¹⁾, 柴田泰史, 野口裕幸¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 川井 真¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 集中治療患者にセレン補充療法は必要か. 第28回日本救急学会総会, 2000. 11.
- 38) 久志本成樹¹⁾, 小池 薫¹⁾, 柴田泰史, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 高度侵襲下における単球HLA-DR発現率

ニタリングの意識．第28回日本救急学会総会，2000．11．

- 39) 小池 薫¹⁾，梶山 浩¹⁾，三橋秀基¹⁾，望月 徹¹⁾，増野智彦¹⁾，佐藤格夫¹⁾，野口裕幸¹⁾，柴田泰史，久志本成樹¹⁾，小井土雄一¹⁾，川井 真¹⁾，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：敗血症患者における血清亜硫酸濃度の測定．第28回日本救急学会総会，2000．11．
- 40) 吉田竜介¹⁾，小池 薫¹⁾，佐藤格夫¹⁾，荒木 尚¹⁾，柴田泰史，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：腹膜炎症例における血清 Interleukin-18 値の測定．第28回日本救急学会総会，2000．11．
- 41) 橋本政子，田村哲彦¹⁾，新谷文隆²⁾，小長谷勝利³⁾(¹⁾ 壮健タムラ薬局，²⁾ クラヤ薬局，³⁾ 日本医学技術専門学校)：薬局・薬店における臨床検査に関するアンケート調査．第7回日本未病システム学会，2001．1．
- 42) 柴田泰史，小池 薫¹⁾，久志本成樹¹⁾，野本剛史，里村克章，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：エンドスベックESテストMK(改良法)を用いた血中エンドトキシン測定の臨床的検討．第5回エンドトキシン血症治療研究会，2001．1．
- 43) 小池 薫¹⁾，吉田竜介¹⁾，増野智彦¹⁾，小井土雄一¹⁾，柴田泰史，野口裕幸¹⁾，望月 徹¹⁾，久志本成樹¹⁾，川井 真¹⁾，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：熱傷患者における尿中アルブミン・クレアチニン比(生体恒常機構の破綻と集中治療)．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．

[付属病院薬剤部]

研究概要

医療法では、「良質な医療を効率よく国民に提供すること」を求めている。「医療の質」については、患者の安全管理が最も重要と考えられており、薬物療法における患者の安全管理は、薬剤師の最重要業務と考えている。また、「効率的な医療の提供」は今後ますます求められる課題であり、医薬品を通じた医療の効率化への薬剤師の役割は重要である。薬剤部では今年度も、「良質で効率的な医療の提供」を基本スタンスとした業務を展開し、その業務から派生した問題を中心に研究を行った。まず病棟薬剤業務に関しては、「視覚障害者に対する用法・用量指示の方法」「バンコマイシンの体内動態」「ミダゾラムの体内動態」「ワルファリンと健康食品プロポリスとの薬物相互作用」「熱傷面積を考慮した投与設計の必要性」、病棟業務の標準化に関する研究から「フォーカスチャージングを用いた薬剤管理指導業務」など多くの発表を行った。また継続的な研究テーマである容器へのインスリン吸着の問題については「プレフィルドシリンジ製剤の有用性に関する検討」、ペインコントロールについては「癌性疼痛管理における副作用対策」という演題で発表した。今問題となっている薬剤による医療過誤防止対策については、薬剤部各部署で検討し実践した結果をまとめ発表した。その他、日本病院管理学会において「リスクマネジメントへの病院薬剤師の取り組み」「病院薬剤師業務の医療薬学的評価」と題する発表、薬科大学との共同研究による発表なども行った。

今年度は、例年以上の研究業績を残すことができた。特に原著論文数が増加していることは好ましく、今後も論文数の増加に努めたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katayama S, Nishizawa K, Hirano M, Yamamura S¹⁾, Momose Y¹⁾(¹⁾ Pharmaceutical Sciences of Toho University) : Effect of polaprezinc on healing of acetic acidinduced stomatitis in hamsters . J. pharm. pharmaceut. Sci 2000 ; 3 (1): 114-117 .
- 2) Katayama S, Yamamura S¹⁾(¹⁾ Pharmaceutical Sciences of Toho University) : Treatment with Zinc Preparation for Severe Gingivostomatitis . Physicians' Therapy Manual 2000 ; 11

13) .

- 3) Ise Y, Katayama S, Hirano M, Aoki T¹⁾, Narita M¹⁾, Suzuki T¹⁾ (¹⁾ Pharmaceutical Science of Hoshi University): Effects of fluvoxamine on morphine-induced inhibition of gastrointestinal transit, antinociception and hyperlocomotion in mice . Neuroscience Letters 2001 ; 299 : 29-32 .
- 4) 伊勢雄也, 内田 亨, 片山志郎, 平野公晟, 鈴木 勉¹⁾ (¹⁾ 星薬科大学薬学部): Focus Chartingを用いた薬剤管理指導 . Pharm D 2000 ; 2 (2): 71-76 .
- 5) 伊勢雄也, 本城和義, 太田みどり, 宋 静香, 田未来, 高瀬知永, 岸 大輔, 宮田広樹, 古宮理絵, 片山志郎, 平野公晟, 恩田光子¹⁾, 鈴木 勉²⁾ (¹⁾ 広島国際大学医療福祉学部, ²⁾ 星薬科大学薬学部): 注射薬供給業務における薬剤師の役割; 注射薬の適正使用への介入による医療費の節減 . Pharm D 2000 ; 2 (4): 71-72 .
- 6) 西澤健司, 平野公晟: 注射薬の混合方法と注意点, 配合禁忌 . Medical Practice 2000 ; 17 : 99-105 .
- 7) 菅谷量俊, 渡部史子, 中嶋基広, 西澤健司, 平野公晟, 福生吉裕¹⁾ (¹⁾ 内科第2): 市販薬 (OTC薬) ・健康食品と医薬品との併用に関する実態調査 . 日本未病システム学会誌 2000 ; 6 (2): 75-77 .

(2) 総説:

- 1) 片山志郎, 平野公晟: 栄養輸液と副作用 (ビタミン欠乏). 治療薬 2000 ; 5 (2): 55-59 .
- 2) 岸 大輔, 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟: 高度救命救急センターにおける薬剤師業務の現状 . 東京病院薬剤師会雑誌 2000 ; 49 (6): 629-633 .
- 3) 堀川佳津美¹⁾, 村田和也¹⁾, 佐々木茂²⁾, 越野立夫²⁾, 鈴木 健³⁾, 長澤紘一³⁾, 平田清貴 (¹⁾ 多摩永山病院薬剤科, ²⁾ 同産婦人科, ³⁾ 同内科): 更年期障害におけるベンゾジアゼピン系薬剤の適正使用 . 日病薬誌 2001 ; 37 (1): 55-58 .
- 4) 西澤健司: トルコ国西部地震災害援助から考える薬剤師の役割 . 都薬雑誌 2001 ; 23 (3): 17-22 .

著 書

- 1) 秋元成太¹⁾, 堀内和孝¹⁾, 西澤健司 (¹⁾ 泌尿器科): [分担] 正しい処方箋の書き方 . 泌尿器科外来処方マニュアル (秋元成太, 堀内和孝), 2001 ; pp2-4, 医学書院 .

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Ise Y, Katayama S, Hirano M, Narita M¹⁾, Suzuki T¹⁾ (¹⁾ Pharmaceutical Science of Hoshi University): Modulation of opioidergic system on mecamylamine-precipitated nicotine-withdrawal aversion in rats . 第68回日本医科大学医学会総会, 2000 . 9 .
- 2) 岸 大輔, 片山志郎, 宮田広樹, 平野公晟: 救命救急センターにおける薬剤師の役割 . 第32回東京都病院薬剤師会実務研修会, 2000 . 5 .
- 3) 西澤健司, 菅谷量俊, 川瀬晴子, 平野公晟: 熱傷面積を考慮した投与設計の有用性; アミノグリコシド系抗菌薬について . 第17回日本TDM学会, 2000 . 5 .
- 4) 伊勢雄也, 片山志郎, 平野公晟: 注射薬適正使用における医療経済学的効果 . 第81回関東私立医大病院薬剤部研究会, 2000 . 6 .
- 5) 伊勢雄也, 田未来, 岸 大輔, 本城和義, 宮田広樹, 高瀬知永, 太田みどり, 宋 静香, 古宮理絵, 片山志郎, 平野公晟, 恩田光子¹⁾ (¹⁾ 広島国際大学医療福祉学部): 注射薬供給業務における薬剤師の役割 . 第8回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2000 . 7 .
- 6) 太田みどり, 片山志郎, 平野公晟, 本城和義, 宮田広樹: 癌疼痛緩和ケアと薬剤師の役割 . 第8回クリニカルファーマシーシンポジウム, 2000 . 7 .
- 7) 加藤あゆみ, 西澤健司, 井澤淑子, 中嶋基広, 五味麻子, 川島あゆみ, 平野公晟, 太田隆文¹⁾ (¹⁾ 東京理科大学薬学部): 視覚障害患者に対する用法用量指示方法の検討 . 第8回クリニカルファーマシーシンポジウム,

2000 . 7 .

- 8) 本城和義, 片山志郎, 平野公晟, 工藤翔二¹⁾(¹⁾内科第4): 癌疼痛緩和ケアとチーム医療. 日本病院薬剤師会関東ブロック第30回学術大会, 2000 . 8 .
- 9) 岸 大輔, 片山志郎, 平野公晟: 救命救急センターにおける薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会関東ブロック第30回学術大会, 2000 . 8 .
- 10) 濃沼政美, 西澤光代, 瀬尾 誠, 平野公晟: 付属病院における製剤業務の役割(2). 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 11) 岩上正明, 片山志郎, 平野公晟, 青砥泰二¹⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾(¹⁾中央検査部): 日本医科大学付属病院における抗菌剤の使用動向. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 12) 田未来, 片山志郎, 伊勢雄也, 宋 静香, 岸 大輔, 本城和義, 宮田広樹, 古宮理絵, 岩上正明, 平野公晟: 注射薬調剤におけるリスクマネジメントへの取り組み. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 13) 多田けい子, 川瀬晴子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 当院におけるDI業務の検討(第3報). 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 14) 高瀬知永, 五味麻子, 佐治名保子, 西澤健司, 平野公晟: 調剤業務におけるリスクマネジメントへの取り組み. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 15) 園部一成¹⁾, 青砥泰二¹⁾, 橋本政子¹⁾, 野本剛史¹⁾, 里村克章¹⁾, 濃沼政美(¹⁾中央検査部): 当院における毒素産生 Clostridium difficile の検出と使用抗菌薬の関連性. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000 . 9 .
- 16) 瀬尾 誠, 濃沼政美, 高瀬知永, 本城和義, 西澤光代, 平野公晟: 製剤の品質確保における病院薬剤師の役割(1). 第10回日本病院薬学会年会, 2000 . 10 .
- 17) 内田 亨, 伊勢雄也, 片山志郎, 西澤健司, 平野公晟: Focus Charting を用いた薬剤管理指導業務(その2): チェック方式を用いた薬剤管理指導歴作成の有用性(標準化と効率化)について. 第10回日本病院薬学会年会, 2000 . 10 .
- 18) 渡邊暁洋, 片山志郎, 宮田広樹, 石原朋子, 平野公晟: 癌性疼痛管理における副作用対策と症例報告. 第10回日本病院薬学会年会, 2000 . 10 .
- 19) 西澤光代, 濃沼政美, 瀬尾 誠, 平野公晟: リスクマネジメントへの病院薬剤師の取り組み(2). 第38回日本病院管理学会学術総会, 2000 . 11 .
- 20) 伊勢雄也, 片山志郎, 内田 亨, 平野公晟: 病院薬剤業務の医療経済学的評価. 第38回日本病院管理学会学術総会, 2000 . 11 .
- 21) 宮田広樹, 小池 薫¹⁾, 岸 大輔, 片山志郎, 平野公晟, 山本保博¹⁾, 菅家甫子²⁾(¹⁾救急医学, ²⁾共立薬科大学薬学部): 集中治療患者におけるバンコマイシン体内動態の検討. 第28回日本救急医学会総会, 2000 . 11 .
- 22) 菅谷量俊, 平野公晟, 福生吉裕¹⁾(¹⁾内科第2): ワルファリン投与患者のプロポリス服用により凝固異常を認めた1例. 第7回日本未病システム学会, 2001 . 1 .
- 23) 濃沼政美, 西澤光代, 瀬尾 誠, 平野公晟: プレフィルドシリンジ製剤の有用性に関する検討(1). 日本薬学会第121年会, 2001 . 3 .
- 24) 瀬尾 誠, 濃沼政美, 西澤光代, 片山志郎, 平野公晟: プレフィルドシリンジ製剤の有用性に関する検討(2). 日本薬学会第121年会, 2001 . 3 .
- 25) 多田けい子, 川瀬晴子, 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 患者への薬品情報提供内容についての検討; 日米における比較. 日本薬学会第121年会, 2001 . 3 .
- 26) 平田清貴, 中野渡雄一¹⁾, 松本宜明²⁾, 深沢陽子²⁾, 清水万紀子²⁾, 中林基明¹⁾, 上田康晴¹⁾, 福岡正道²⁾, 平野公晟, 黒川 顕¹⁾, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学, ²⁾昭和薬科大学薬学部): 集中治療管理中患者におけるミダゾラムの体内動態に関する検討. 日本薬学会第121年会, 2001 . 3 .
- 27) 山村重雄¹⁾, 西澤健司, 片山志郎, 平野公晟, 百瀬弥寿徳¹⁾, 高山幸三²⁾(¹⁾東邦大学薬学部, ²⁾星薬科大学薬

学部): データマイニングを応用した抗菌薬の体内動態の予測と可視化の試み(その1). 日本薬学会第121年会, 2001. 3.

28) 西澤健司, 山村重雄¹⁾, 片山志郎, 平野公晟, 百瀬弥寿徳¹⁾, 高山幸三²⁾(¹⁾東邦大学薬学部, ²⁾星薬科大学薬学部): データマイニングを応用した抗菌薬の体内動態の予測と可視化の試み(その2). 日本薬学会第121年会, 2001. 3.

29) 平田清貴, 中野渡雄一¹⁾, 松本宜明²⁾, 深沢陽子²⁾, 清水万紀子²⁾, 横田裕行¹⁾, 福岡正道²⁾, 平野公晟, 黒川頭¹⁾, 山本保博³⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター, ²⁾昭和薬科大学薬学部, ³⁾高度救命救急センター): 集中治療中の患者におけるフルコナゾールのミダゾラム代謝に及ぼす影響. 第28回日本集中治療医学会総会, 2001. 3.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

日本経済の景気低迷が続き、臨床検査を取り巻く状況も年々厳しいものがある。その中で少しでも収益性を高め、臨床側のニーズに答えるべく、日々努力を重ねている。

今年度もドブタミン負荷心エコーを中心に継続的な研究を行っている。新規検査項目の導入にも力を入れ、四肢血流量測定、グルコースクランプ(人工膵臓)、心疾患リハビリテーションを取り入れた。特に心疾患リハビリテーションでは、近年のリハビリテーション医学の重要性に伴い、スタッフの育成にも力を入れ、積極的な講習会、学会への参加により心臓リハビリテーション指導士の資格者を増やしている。このような包括的医療としてのリハビリテーション医学が年々注目されてきており、トレッドミルやエルゴメーターのような負荷心機能検査と同様に、医師と協力し、メディカルスタッフの一員として医療の現場での位置づけも今後ますます重要視されてきている。

研究業績

論文

(1) 原著:

1) 草間芳樹¹⁾, 本間 博, 高橋直人¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 斎藤 勉¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾(¹⁾内科学第1): ドブタミン負荷心エコー法の有用性と問題点; 有意冠動脈病変の検出, 梗塞部壁運動改善予測能について. 心臓 2000; 32(2): 42-44.

(2) 総説:

1) 草間芳樹¹⁾, 馬淵浩輔¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 本間 博, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 心筋梗塞領域誘導での運動誘発ST上昇の原因および上昇パターンの分析による検討. 心電図 2001; 21(3): 263-269.

著書

1) Honma H, Hayakawa H¹⁾(¹⁾内科学第1): [共著] Non-invasive quantification/localisation of myocardial ischemia. Advances in Noninvasive Electrocardiographic Monitoring Techniques, 2000; pp211-216, Kluwer Academic Publishers.

学会発表

(1) 一般講演:

1) Ohno T¹⁾, Honma H, Matsuzaki T, Ohtsuka T¹⁾, Sakurai K¹⁾, Nishigaki R¹⁾, Kusama Y¹⁾, Munakata K¹⁾, Kishida H¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾内科学第1): Usefulness of ultrasonic tissue characterization and dobutamine stress echocardiography for prediction of functional recovery in chronic left ventricular ischemic dysfunction.

11th Annual Scientific Sessions, American Society of Echocardiography (Chicago), 2000 . 6 .

- 2) 伊藤恵子¹⁾, 本間 博, 大塚俊昭¹⁾, 大野忠明¹⁾, 西垣龍太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫¹⁾, 松崎つや子 (¹⁾内科学第1): 慢性虚血性心疾患における無収縮分画の壁運動改善予測ultrasonic integrated backscatterとドプタミン負荷心エコー法の有用性 . 第11回日本心エコー図学会, 2000 . 4 .
- 3) 大野忠明¹⁾, 本間 博, 西垣龍太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫¹⁾, 松崎つや子 (¹⁾内科学第1): 経静脈的コントラスト心エコー法による局所心筋内還流の定量的評価の検討 . 第48回日本心臓病学会学術集会, 2000 . 9 .

[付属病院看護部]

研究概要

1. 集中治療領域では, モニタリングを活用して循環動態に悪影響を及ぼさない体位変換を検討した . 口腔ケアの教育効果をスタッフの意識変化やケアへの影響から検証した . BiPAP装着患者看護基準の活用とその評価について検討した . アロマテラピーを活用し, 看護婦の夜勤後の疲労緩和についてその効果を検証した . 心臓カテーテルのバス作成を通し, 検査後の抗生剤の有効性について検討した .
2. 救命救急領域では, リハビリテーション過程にある回復意欲のない熱傷患者の看護, 高齢で慢性疾患を持つ広範囲熱傷患者の看護について事例検討した . 救命救急センターに搬送されたクリティカルな状態にある患者の家族援助, その出来事が家族システムの健康に及ぼす影響について検討した . 脳卒中患者の意識回復過程に焦点をあて, 障害認識時の看護について検討した . 救命救急センターに勤務する新人看護婦のストレス要因分析とその経過を検証した . オールケア時の声門下腔への洗浄液流入防止のため, 電動給吸ブラシ活用の効果を検証した .
3. Y2Kに関連した取り組みを通して, 誤作動問題を検討した .

研究業績

論文

- 1) 佐藤憲明: 出血性ショック . 月間ナーシング Vol. 20 No. 6 2000 ; 44-46 .
- 2) 磯由美子: 出血性ショック時の看護 . 月間ナーシング Vol. 20 No. 6 2000 ; 47-49 .
- 3) 菊田直美, 竹田秀子, 宮戸千佳子: 糖尿病で食事療法を受けている患者とのコミュニケーション . ナーシングカレッジ Vol. 4 No. 6 2000 ; 59-63 .
- 4) 山下いずみ: 肺癌で化学療法を受ける患者とのコミュニケーション . ナーシングカレッジ Vol. 4 No. 7 2000 ; 68-72 .
- 5) 榊 由里: 家族のケアと看護者の心のケア : 家族が急死したとき . Emergency Nursing Vol. 13 No. 7 2000 ; 797-800 .
- 6) 榊 由里: 救急看護領域における質的研究 . Emergency Nursing Vol. 13 No. 11 2000 ; 1367-1371 .
- 7) 榊 由里: 大学・大学院を卒業 再び臨床に戻って . Emergency Nursing Vol. 14 No. 3 2001 ; 208-212 .

著書

- 1) 小森邦子: [分担] 在宅酸素療法 . 在宅医療 介護基本手技マニュアル, 2000 ; pp306-319, 永井書店 .
- 2) 石鍋和子, 橋本真弓, 渡辺智子, 江口有子, 長谷川幸子: [分担] 妄想・幻覚症状のある精神分裂病患者とのコミュニケーション . ナーシングカレッジ Vol. 5 No. 1, 2000 ; pp59-63, 医学芸術社 .
- 3) 早坂百合子: [分担] 急性中毒 . 救急看護Q&A, 2000 ; pp228-232, 照林社 .
- 4) 早坂百合子: [分担] 患者と家族の心理 . 救急看護, 2001 ; pp85-90, 医歯薬出版社 .
- 5) 磯由美子: [分担] 緊急検査 . 救急看護, 2001 ; pp31-37, 医歯薬出版社 .

6) 藤田昌久：〔分担〕輸血管理・薬品管理 患者死亡時の対応．救急看護，2001；pp34-38，医歯薬出版社．

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 早坂百合子：当院における脳死臓器マニュアルの作成（シンポジウム）．第49回 日本救急医学会関東地方会看護部会，2000．6．

(2) ワークショップ：

1) 佐藤憲明：口腔ケアにおける洗浄液下気道流入とその予防法の検討（ワークショップ）．第28回 日本集中治療医学会総会 看護部会，2001．3．

(3) 一般講演：

- 1) 背戸陽子，田口涼子，木村まみ，磯由美子，藤田昌久，早坂百合子：リハビリに向けて精神疾患を持つ患者へのアプローチ：自殺企図症例を通して．第26回 日本熱傷学会，2000．5．
- 2) 木村まみ，背戸陽子，田口涼子，磯由美子，藤田昌久，早坂百合子：高齢者広範囲熱傷患者の看護：慢性疾患を持ち合併症を併発した症例を通して．第26回 日本熱傷学会，2000．5．
- 3) 岩佐有華，大貫朋子：高度救命救急センターにおいてクリティカルな状態にある患者に対し，家族が主体となってケアしていくことの意味．第49回 日本救急医学会関東地方会 看護部会，2000．6．
- 4) 福土真由美，海老真穂，佐藤憲明，早坂百合子：脳卒中患者の意識回復過程における障害認識：障害認識時の看護の在り方．第49回 日本救急医学会関東地方会 看護部会，2000．6．
- 5) 鈴木良子，佐藤憲明，竹原典子，稗田多恵，森田恵美子：新人看護婦が抱くストレスの要因分析．第49回 日本救急医学会関東地方会 看護部会，2000．6．
- 6) 伊藤博希，木野毅彦：Y2K誤作動問題から学んだ教訓．第49回 日本救急医学会関東地方会 看護部会，2000．6．
- 7) 竹原典子，佐藤憲明，稗田多恵，森田恵美子：新人看護婦のストレスとその経過．第3回 日本救急看護学会，2000．11．
- 8) 榊 由里：救命救急医療を要する出来事が家族システムの健康に及ぼす影響．第20回 日本看護科学学会学術集会，2000．12．
- 9) 大貫朋子，山上典子，内海清乃，山中鮎子，新宅好美，安積幸代，磯崎奈津子，小林 梢，大橋留美，早坂百合子：救命センターに於ける家族援助を考える：家族の意思決定を促すアプローチを試みて．第50回 日本救急医学会関東地方会 看護部会，2001．2．
- 10) 笹森裕子，坪田さつき，原 千鶴：集中治療室における循環動態が不安定な患者のモニタリングを活用した体位変換の検討．第28回 集中治療医学会総会，2001．3．
- 11) 竹内真奈美，橋本牧子，高橋真理，鈴木智恵子，原 千鶴：口腔ケアにおけるスタッフ教育の効果．第28回 集中治療医学会総会，2001．3．
- 12) 土橋夕香，高橋邦子，飯嶋淳子，鈴木智恵子，原 千鶴：BiPAP装着患者の看護基準の活用とその評価．第28回 集中治療医学会総会，2001．3．
- 13) 伊藤恭子，遠藤晴子，大平雅子，原 千鶴：看護婦の疲労緩和に対するアロマセラピー効果の検証：2交代勤務夜勤の仮眠時に導入して．第28回 集中治療医学会総会，2001．3．
- 14) 織田（古山）景子，木野毅彦：心臓カテーテルのパスを作成するにあたって：心臓カテーテルの抗生剤の有効性についての検討．第28回 集中治療医学会総会，2001．3．
- 15) 伊藤睦美，佐藤憲明，村上美乃枝，相馬順子，中川仁美，菅 由紀，稲田保治，大橋さくら，萩口紗千子，横山知代：電動給吸ブラシを用いたオーラルケアの検討：声門下腔への垂れ込み率を評価して．第28回 日本集中治療医学会総会 看護部会，2001．3．

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線技術部門は、診療用画像検査および放射線治療を扱う部門である。一般撮影、CT、MRI、RI、血管撮影および放射線治療等に関する研究を日常的に行っており、その成果を積極的に学会に報告している。

1、RI部門では、心電図同期心筋SPECTデータによる左室容量の解析方法について検討をおこなった。

2、MRI部門では、心臓、胸部領域における血流によるartifactを低減したT2強調画像を撮像するsequenceを改良し、T1強調画像を撮像可能なsequenceを開発した。また、造影剤を使用する胸部MRAにおいて鎖骨下動脈に認めることがあるartifactによる狭窄について、その発生原因を解明した。放射線技術部門は、診療用画像検査全般を扱う部門であり、正確な画像診断を行えるためのよりよい画像を提供することを第1に考え、「より良い画像を撮像（撮影）するための撮像（撮影）技術」をテーマに、技師長の指導により研究に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント1．東京放射 2000；47（551）：54-59．
- 2) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント2．東京放射 2000；47（552）：49-55．
- 3) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント3．東京放射 2000；47（553）：49-56．
- 4) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント4．東京放射 2000；47（554）：44-50．
- 5) 土橋俊男：ピギナーのためのMR検査：Q & A．日放線技会誌 2000；56（8）：1016-1025．
- 6) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント5．東京放射 2000；47（555）：42-50．
- 7) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント6．東京放射 2000；47（556）：36-44．
- 8) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント7．東京放射 2000；47（557）：48-54．
- 9) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント8．東京放射 2000；47（558）：38-47．
- 10) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント9．東京放射 2000；47（559）：42-49．
- 11) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント10．東京放射 2001；48（560）：40-49．
- 12) 土橋俊男：基礎講座：MRIを理解するためのチェックポイント11．東京放射 2001；48（562）：37-45．
- 13) 土橋俊男：腹部MRI・MRAのアーチファクト：発生原因と対策．アールティ 2001；5：16-18．

著書

- 1) 土橋俊男：〔分担〕MRA撮像技術．放射線医療技術学叢書（18）：MR撮像技術，2000；pp128-141，社団法人 日本放射線技術学会．

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 土橋俊男：ピギナーのためのMR検査：Q & A．第56回日本放射線技術学会，2000．4．

(2) 一般講演：

- 1) 佐藤聡子，尾科隆司，浅野恭司，小菅 豊，鈴木 健：心電図同期心筋SPECTにおける左室容量算出に関する基礎的研究：血流欠損および壁厚可変ファントムを用いた検討．第56回日本放射線技術学会，2000．4．
- 2) 土橋俊男，岩崎 淳，松本 剛，榎 利夫，森 克彦，鈴木 健：Triple Inversion Recovery法を用いたBlack Blood T1強調画像の検討．第56回日本放射線技術学会，2000．4．
- 3) 松本 剛，土橋俊男，榎 利夫，岩崎 淳，森 克彦，鈴木 健：造影三次元MR angiographyにおけるsus-

ceptibility artifact の検討 . 第 28 回秋季日本放射線技術学会 , 2000 . 10 .

(3) 技術フォーラム :

- 1) 土橋俊男 : よりよい画像を得るための撮像技術 : その 1 : MRI の 3 つの分解能 (時間分解能 , 空間分解能 , コントラスト分解能) について . 第 75 回日本放射線技術学会東京部会技術フォーラム , 2001 . 3 .

[日本医科大学腎クリニック]

研究概要

診療・教育・研究は、内科学第 2 (腎臓内科) が担当 . 付属第一病院からの移設物品 (含む 5 台の透析機器) と、最新鋭透析機器 15 台 (総計 20 床) から一つ一つ計画を立て、平成 9 ~ 10 年度は hardware の確立に明け暮れ、平成 11 年度から software の整備に移り、経営が一応軌道にのった頃から、段階的研究 5 年計画を立てた .

I. 腎不全患者 QOL の向上を目指した治療体系の確立

- a.) 透析骨症 ; 今までの腎機能低下と骨吸収 / 形成マーカーの検討に加え、透析患者の血清中の各種骨代謝マーカー (BAP , BGP , PICP , ICTP , TRACP) を経時的に測定、全身型 DXA (QDR-2000 ; Hologic 社製) による骨密度などで、骨生検 (結果診断) では得られない治療経過を把握し報告している . 今後、骨芽細胞上の Osteoclast differentiation factor (ODF) を阻害すると言われている osteoprotegerin (OPG) の測定を計画している .
- b.) 透析アミロイド症 ; 約 2g/週 (150 ~ 200mg/日) 体内合成される 2MG 値の血清中経過と、各種透析膜での透析除去特性、6 ヶ月毎の AGEs (CML) 及びサイトカインの測定と、超音波による大腿骨頸部表面と関節包との距離測定、破壊性頸椎症の画像的診断 (MRI) で予防的治療の確立 .
- c.) endotoxine-free 透析液を確立し、on-line HDF を行い、導入期からの透析アミロイド症発症の前向き研究を行っている .
- d.) 透析中の循環動態の研究 ; 透析前後での心拍出量 (CO) , 循環血液量 (BV) を実測 (パルス式色素希釈法 ; 日本光電) し、一酸化窒素 (NO₂ , NO₃) , endothelin 1 , 血液粘度 , Ht 値変動 , 血液温度変化 , RR interval などに加えて DM ・ non-DM 間 , 透析液 Na 濃度差間 , 治療モード間などで検討している .

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Kase R , Bierfreund U , Klein A , Kolter T , Utsumi K , Itoh K , Sandhoff K , Sakuraba H (¹ department of Clinical Genetics, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science , ² Kekule-Institute fur Organische Chemie und Biochemia der Universitat Bonn) : Characterization of two β -galactosidase mutants (Q279E and R301Q) found in an atypical variant of Fabry disease . Biochimica et Biophysica Acta 2000 ; 1501 : 227-235 .

(2) 総説 :

- 1) 河邊満彦 , 飯野靖彦 : 長期透析合併症・偶発症の病態と治療 : 凝固・線溶系 . 腎と透析 (増刊号 : 慢性腎不全のすべて-2000) 2000 ; 49 (307) : 712-716 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 内海甲一 , 加瀬良一 , 高田大輔 , 金子朋広 , 中村 正 , 河邊満彦 , 飯野靖彦 , 片山泰朗 (¹ 東京都臨床医学総合研究所) : アンチセンスオリゴ DNA を用いたファブリー病のモデル作製 . 第 43 回日本腎臓学会学術総会 , 2000 . 5 .

- 2) 河邊満彦, 工藤正道, 内海甲一, 中村 正, 飯野靖彦, 片山泰朗: 当施設における A T1 拮抗薬 candesartan の使用経験. 第43回日本腎臓学会学術総会, 2000. 5.
- 3) 内海甲一, 加瀬良一, 中村 正, 高田大輔, 金子朋広, 河邊満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗⁽¹⁾ (東京都臨床医学総合研究所): 維持透析患者におけるファブリー病の頻度. 第45回日本透析医学会学術集会, 2000. 6.
- 4) 河邊満彦, 工藤正道, 内海甲一, 中村 正, 飯野靖彦, 片山泰朗: 慢性維持透析患者における plasma Free Pentosidine と食事との検討. 第45回日本透析医学会学術集会, 2000. 6.
- 5) 岡田牧子, 高田大輔, 王 恒維, 中村 正, 柏木哲也, 金子朋広, 清水光義, 松信精一, 河邊満彦, 飯野靖彦, 片山泰朗: サルコイドーシスの腹膜病変によって腹膜透析の施行が困難となった1例. 第30回日本腎臓学会東部学術大会, 2000. 11.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当施設は、1972年の開設以来、丸山千里先生が開発されたSSM（人型結核菌体抽出物質）による癌の免疫療法を研究の中心課題としている。SSMの治験登録患者は、2001年3月31日現在、350,286例に達しており、丸山先生のご逝去後も、一日に新患が50名を超えることもあり、再来・郵送を含めると400名以上の患者を迎えている。SSMは有償治験薬という形で供給されているが、実際には治療薬として使用されていることを考慮し、主治医からの経過報告を基に画一的使用に限定せず個別に使用法を検討している。この研究の結果、当初のSSM-A、SSM-Bの交互隔日法から、A単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで、化学療法・放射線療法などの副作用軽減や一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある。1979年から2000年末までの登録患者累積数243,626例のうち、23,373例がSSM使用期間が3年以上の長期生存例である。その多くがSSM使用開始時点で進行期癌であったにも拘わらず、良好な一般状態（Performance Status）を維持しつつ長期延命していることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられ、その治療状況や成績について検討・報告を重ねている。現在は、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers（BRM）としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な症例数を基にした臨床生命表による検討と、SSMの作用が期待できる背景要因の検討を行っている。また、SSMの経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sakamoto S¹⁾, Okayasu I²⁾, Iida K, Fujita K, Yarimizu T³⁾, Nagasawa H⁴⁾ (1) Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, 2) Department of Pathology, Kitasato University School of Medicine, 3) 3rd Internal Medicine, Oita Medical University, 4) Experimental Animal Research Laboratory, Meiji University): Polysaccharides Extracted from Human Tubercle Bacilli (Specific Substance of Maruyama) Reduces Carcinogenesis in Murine Ulcerative Colitis. Anticancer Res 2000; 20: 4295-4300.
- 2) 新村秀一¹⁾, 飯田和美, 平井敏之⁽¹⁾ (成蹊大学): 丸山ワクチン投与15万症例の分析. データマイニング・シンポジウム論文集 2000; 7-16.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 新村秀一¹⁾，飯田和美，平井敏之（¹⁾成蹊大学）：丸山ワクチン15万症例の決定木による分析．データマイニング・シンポジウム，2000．10．

(2) 一般講演：

- 1) 飯田和美，平井敏之，後藤博一，新井愛彦，岩城弘子，宮崎定活，橋本英洋，藤田敬四郎：当施設における結核菌体抽出物質（SSM）使用登録癌患者の現況（第22報）．第38回日本癌治療学会総会，2000．9．

21. 第二病院付置施設等

[第二病院消化器病センター]

研究概要

消化器病センターは1989年より日本医科大学付属第二病院の診療科として診療を開始し、1991年独立した診療科として運営細則が制定された。初代部長三樹 勝教授、二代目部長馬越正通教授指導のもと、消化器外科医および消化器内科医の協力にて、消化器疾患全般の診断から治療まで幅広く診療を行ってきた。1998年4月、第三代部長に森山雄吉教授が着任し、消化器外科、内科、内視鏡の各専門分野の充実が進み、臨床面だけでなく、臨床腫瘍学および消化器病学の基礎研究にも力を入れている。

研究内容：1) 消化器癌の集学的治療、2) 腸閉塞の保存的・外科的治療、3) 再建法・吻合法の工夫、4) 消化管穿孔に対する大網移植術、5) 低侵襲性手術の導入（各種腹腔鏡下手術、胸腔鏡下食道切除術）、6) 鏡視下手術の技術改良と適応拡大、7) 消化管・胆道・血管内ステント治療、8) 自己血輸血、9) 増殖因子阻害による大腸癌抑制、10) 肝細胞癌の発癌に関する研究（老人病研究施設との合同研究）、11) 胃癌、大腸癌の免疫組織化学および分子生物学的研究、12) ヘリコバクター・ピロリと上部消化管病変（胆汁逆流、微量元素との関連）、13) Laser capture microdissectionによるCGH解析法、14) 胆石、胆汁の微量元素分析、15) 食道癌放射線感受性に関する基礎研究、16) 電子内視鏡画像処理と病理組織所見との比較、17) functional dyspepsiaの病態生理、18) 血液浄化法（血漿交換、PMX）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe M¹⁾, Ishiwata T²⁾, Nisigai K²⁾, Moriyama Y¹⁾, Asano G²⁾ (¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School , ²⁾Department of the 2nd Pathology): Overexpression of keratinocyte growth factor in cancer cells and enterochromaffin cells in human colorectal cancer . pathology International 2000 2000 ; 50 (5): 363-372 .
- 2) Obara K¹⁾, Yokoyama M²⁾, Asano G¹⁾, Tnanka S : Evaluation of myc and chromosome 8copy number in colorectal cancer using interphase cytogenetics . int J Oncol 2001 ; 18 (1): 223-239 .
- 3) 塩谷 猛¹⁾, 須田雍夫²⁾, 田中洋一²⁾, 内田健二²⁾ (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター , ²⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 胃癌を含む3臓器以上の重複癌の臨床病理学的検討 . 癌の臨床 2000 ; 46 (2): 116-120 .
- 4) 塩谷 猛¹⁾, 橋口陽二郎²⁾, 関根 毅²⁾, 坂本裕彦²⁾, 小林純哉²⁾, 内田健二²⁾, 田中洋一²⁾, 竹内 脩²⁾, 須田雍夫²⁾, 出雲俊之³⁾, 大倉康男³⁾ (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター , ²⁾埼玉県立がんセンター腹部外科 , ³⁾同臨床病理部): 大腸イレウスを初発症状とした膵尾部癌の1例 . 埼玉県医学会雑誌 2000 ; 34 (4): 627-631 .
- 5) 塩谷 猛¹⁾, 須田雍夫²⁾, 桑島良夫³⁾, 内田健二²⁾, 田中洋一²⁾ (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター , ²⁾埼玉県立がんセンター腹部外科 , ³⁾埼玉県立がんセンター臨床病理部): 胃癌を含む3臓器におけるthymidylate synthaseの発現について . 日本臨床外科学会雑誌 2000 ; 61 (4): 867-872 .
- 6) 塩谷 猛¹⁾, 橋口陽二郎²⁾, 田中洋一²⁾, 出雲俊之³⁾, 関根 毅²⁾ (¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター , ²⁾埼玉県立がんセンター腹部外科 , ³⁾同臨床病理部): 胃悪性リンパ腫, 日本住血吸虫症を合併した直腸カルチノイドの1例 . 日本臨床外科学会雑誌 2000 ; 61 (5): 1266-1270 .

- 7) 渋谷哲男¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 森山雄吉¹⁾(¹⁾第二病院消化器病センター): 肛門周囲膿瘍, 痔瘻の診断と治療. 日本医事新報 2000 ; 18 (25): 3976-3976 .
- 8) 小峯 修¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 渡辺善正¹⁾, 小熊将之¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司²⁾, 山本泰一²⁾(¹⁾第二病院消化器病センター, ²⁾同病理部): 十二指腸内分泌細胞癌の1例. 手術 2000 ; 54 : 1303-1307 .
- 9) 塩谷 猛¹⁾, 橋口陽二郎²⁾, 大倉康男³⁾, 関根 毅²⁾(¹⁾日本医科大学付属第二病院消化器病センター, ²⁾埼玉県立がんセンター腹部外科, ³⁾同臨床病理部): 子宮癌放射線治療後に発症した直腸癌の5例. 日本消化器外科学会誌 2000 ; 33 (11): 1854-1858 .
- 10) 千原直人¹⁾, 内藤英二¹⁾, 重田明子¹⁾, 小峯 修¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 松本光司²⁾, 伊藤正秀¹⁾, 森山雄吉¹⁾(¹⁾第二病院消化器病センター, ²⁾同病理部): 尋常性天疱瘡患者の食道静脈瘤硬化療法中食道粘膜剥離を生じ治療に難渋した1例. progress of Digestive Endoscopy 2000 ; 57 (2): 90-91 .
- 11) 徳永 昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 小野寺浩之¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 的場康德²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾第二病院消化器病センター): 消化管創傷治療: 消化性潰瘍修復および吻合創治療. Connective Tissue 2000 ; 32 : 351-359 .
- 12) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 的場康德²⁾, 森山雄吉²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾第二病院消化器病センター): 大網被覆術と創傷治療. 消化性潰瘍: 基礎と臨床 2001 ; 104-109 .

(2) 総説:

- 1) 渋谷哲男¹⁾, 小熊将之¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 森山雄吉¹⁾(¹⁾第二病院消化器病センター): 経腸栄養の実際, Medical Practice, 輸液実践ガイド. 輸液実践ガイド 2000 ; 17 : 177-184 .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 的場康德, 鈴木洋一, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 内藤英二, 小熊将之, 渋谷哲男, 森山雄吉: 空腸狭窄に対するステント治療の経験. 第779回外科集談会, 2000. 12.

(2) 一般講演:

- 1) Itoh M¹⁾, Tsunoda S¹⁾, Koyama M¹⁾, Shigeta A¹⁾, Rikukawa H¹⁾, Yoshimori M¹⁾, Date H¹⁾, Takigawa M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Komazaki T¹⁾, Moriyama Y¹⁾(¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School): Natural appearance of colon tumors detected by an immunological stool occult blood test. 1st report ; Investigation of cancer cases detected at the first total colonoscopy . TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (Shanghai China), 2000 . 5 .
- 2) Naito E¹⁾, Komine O¹⁾, Komasaki T¹⁾, Shigeta A¹⁾, Kurihara Y¹⁾, Watanabe M¹⁾, Matoba Y¹⁾, Itoh M¹⁾, Shibuya T¹⁾, Moriyama Y¹⁾(¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School): The examination of the inflammatory bowel disease which presented stenotic change . TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (Shanghai China), 2000 . 5 .
- 3) Watanabe M¹⁾, Isiwata T²⁾, Komine O¹⁾, Sigeta A¹⁾, Kurihara Y¹⁾, Naito E¹⁾, Ito M¹⁾, Sibuya T¹⁾, Moriyama Y¹⁾, Asano G²⁾(¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School , ²⁾Department of the Second Pathology): Overexpression of Kerattinocyte Growth Factor in Human Colorectal Cancer . TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (shanghai China), 2000 . 5 .
- 4) Kurihara Y¹⁾, Komine O¹⁾, Shigeta A¹⁾, Komasaki T¹⁾, Watanabe M¹⁾, Naito E¹⁾, Ito M¹⁾, Shibuya T¹⁾, Moriyama Y¹⁾(¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School): A case of Pseudo-Meigs Syndrome Caused by Colon Carcinoma . TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (Shanghai China), 2000 . 5 .
- 5) Shigeta A¹⁾, Itoh M¹⁾, Naitoh E¹⁾, Watanabe M¹⁾, Kurihara Y¹⁾, Komazaki T¹⁾, Komine O¹⁾, Suyama I¹⁾,

- Koyama M¹⁾, Moriyama Y¹⁾(¹⁾Center for Digestive Diseases, Second Hospital of Nippon Medical School): The Treatments for multiple, early colorectal cancers. TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (Shanghai China), 2000. 5.
- 6) Komazaki T¹⁾, Itoh M¹⁾(¹⁾Center for Digestive Diseases, Second Hospital of Nippon Medical School): Natural appearance of colon tumors detected by an immunological stool occult blood test 2nd report: Examination and comparison of the increase group and the decrease group at the number of colon polyp. TheVth Sino-Japan Biennial Congress of Coloproctology (Shanghai China), 2000. 5.
- 7) Watanabe M¹⁾, Maejima K¹⁾, Matsunobu T¹⁾, Naito E¹⁾, Moriyama Y¹⁾(¹⁾Center for Digestive Disease, Second Hospital of Nippon Medical School): Video Assisted Thracoscopic Esophagectomy Performed in Two Elderly Patients with Esophageal Carcinoma. 5th Asia-pacific Congress of Endoscopic Surgery (Manila Philippines), 2001. 2.
- 8) 渡辺昌則, 石渡俊行¹⁾, 塩谷 猛, 駒崎敏昭, 吉野雅則, 渋谷哲男, 森山雄吉, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2): 大腸癌における Keratinocyte growth factor (KGF) およびレセプターの過剰発現の意義. 第100回日本外科学会総会, 2000. 4.
- 9) 吉野雅則, 内山喜一郎¹⁾, 原 一郎²⁾, 金沢秀典³⁾, 大矢 徹⁴⁾, 渡部英之⁵⁾, 渋谷哲男, 森山雄吉(¹⁾海老名総合病院, ²⁾原クリニック, ³⁾金沢医院, ⁴⁾日産玉川病院, ⁵⁾大宮共立病院): 肝亜区域切除後難治性大量腹水に対し経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術(TIPs)が著効した1例. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 10) 小山雅章, 永井尚生¹⁾, 伊藤正秀, 江見 充¹⁾, 森山雄吉(¹⁾日本医科大学老人病研究所): 肝細胞癌における第16番染色体短腕上の共通欠失領域の同定. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 11) 重田明子, 森山雄吉, 内藤英二, 三樹 勝¹⁾, 田中幹夫²⁾(¹⁾白石中央病院, ²⁾日本医科大学化学): 胆嚢胆汁中微量元素クロミウム量の意義: 日・タイ両国の比較. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 12) 中曽根豊¹⁾, 田中洋一¹⁾, 小林照忠¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 関根毅¹⁾, 大倉康男²⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾同臨床病理部): 内視鏡的粘膜切除術で治療した食道顆粒細胞腫の1例. 第259回日本消化器病学会関東支部例会, 2000. 5.
- 13) 網倉克己¹⁾, 小林照忠¹⁾, 中曽根豊¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 関根 毅¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 消化器癌の癌性腹膜炎に伴う腸閉塞に対する外科治療. 第777回外科集談会, 2000. 6.
- 14) 駒崎敏昭, 渋谷哲男, 小熊将之, 的場康德, 塩谷 猛, 森山雄吉, 松本光司¹⁾(¹⁾第二病院病理部): 膵漿液性嚢胞腺腫の1例. 第25回日本外科系連合学会学術集会, 2000. 6.
- 15) 渋谷哲男, 内山喜一郎¹⁾, 小熊将之, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 星野有哉, 小原邦彦, 吉野雅則, 小峯 修, 駒崎敏昭, 千原直人, 重光剛志, 森山雄吉, 松本光司¹⁾(¹⁾第二病院病理部): 大腸癌におけるnm23, p53, DCCの発現およびmicrosatellite instability (MSI)の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 16) 小熊将之, 渋谷哲男, 渡辺昌則, 塩谷 猛, 星野有哉, 小峯 修, 重光剛志, 千原直人, 小泉正樹, 森山雄吉: 上部消化管癌手術における貯血式自己血輸血の有用性の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 17) 塩谷 猛, 山田雄介, 駒崎敏昭, 栗原雄司, 星野有哉, 渡辺昌則, 小熊将之, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司¹⁾(¹⁾第二病院病理部): sm胃癌におけるPCNA, Ki67, c-erbB-2, p-53の発現と臨床病理学的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 18) 栗原雄司, 駒崎敏昭, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉, 川並汪一¹⁾(¹⁾日本医科大学老人病研究所): Laser Capture Microdissection法を用いたCGH解析. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 19) 小林照忠¹⁾, 田中洋一¹⁾, 内田健二¹⁾, 中曽根豊¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 関根毅¹⁾, 大倉康男²⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾同臨床病理部): 異所性胃粘膜より発生した早期十二指腸球部癌の1例. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.

- 20) 西村洋治¹⁾, 関根 毅¹⁾, 小林照忠¹⁾, 中曾根豊¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 橋口陽二郎¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾, 赤木 究¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 高齢者大腸癌におけるゲノムの不安定性. 第53回大腸癌研究会, 2000. 7.
- 21) 右田隆之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 小林光伸¹⁾, 小林照忠¹⁾, 岩村太郎, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 関根 毅¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 当科における消化管穿孔例の検討. 第17回埼玉医学会, 2000. 7.
- 22) 松生愛彦¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 渡辺昌則, 呂 月平¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 森山雄吉, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2): 大腸癌におけるFibroblast growth factor-10 (FGF-10)の発現の検討. 第59回日本癌学会総会, 2000. 9.
- 23) 小山雅章, 永井尚生, 伊藤正秀, 森山雄吉, 江見 充¹⁾(¹⁾日本医科大学老人病研究所): 大腸癌におけるDPC/SMAD4遺伝子の分子生物学的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 24) 小原邦彦, 森山雄吉, 渋谷哲男: FISH法による大腸癌における癌遺伝子増幅の検出. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 10.
- 25) 小山雅章¹⁾, 永井尚生¹⁾, 伊藤正秀, 江見 充¹⁾, 森山雄吉(¹⁾日本医科大学老人病研究所): 大腸癌におけるSMAD4遺伝子のゲノム解析. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 26) 小山雅章, 永井尚生¹⁾, 江見 充¹⁾(¹⁾日本医科大学老人病研究所): 肝細胞癌における第16番染色体短腕上1-cM共通欠失領域の同定. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 27) 重田明子, 森山雄吉, 三樹 勝¹⁾, 田中幹夫²⁾(¹⁾白石中央病院, ²⁾日本医科大学化学): 胆石中微量元素クロミウム量の意義. 第8回日本消化器関連学会週間DDW2000, 2000. 10.
- 28) 的場康徳, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 内藤英二, 森山雄吉: 悪性胆道閉塞に対するSTENT治療後の再閉塞症例の検討. 第42回日本消化器病学会大会, 2000. 10.
- 29) 西村洋治¹⁾, 関根 毅¹⁾, 小林照忠¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 田中洋一¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 下部消化管手術の閉腹における皮下連続埋没縫合の試み. 第55回日本大腸肛門病学会総会, 2000. 10.
- 30) 岩村太郎, 田中洋一¹⁾, 右田隆之¹⁾, 内田健二¹⁾, 小林光伸¹⁾, 小林照忠¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 関根 毅¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 著名な口側浸潤と上縦隔リンパ節転移を認めた食道浸潤胃癌の1切除例. 第18回埼玉外科医学会, 2000. 10.
- 31) 吉村成子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 森山雄吉, 徳永 昭¹⁾, 松倉則夫¹⁾(¹⁾外科第1): 減圧症に罹患したプロフェッショナルレクリエーションダイバーの分析. 第33回日本高気圧環境医学会総会, 2000. 11.
- 32) 松田範子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 平方敦史¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 森山雄吉, 田尻 孝¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉村成子¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾外科第1, ²⁾病理第2): 肝障害ラット肝切後の残肝再生に及ぼす高圧酸素療法と脾摘の効果. 第33回日本高気圧環境医学会総会, 2000. 11.
- 33) 小熊将之, 渋谷哲男, 塩谷 猛, 亀谷 肇, 小峯 修, 千原直人, 重光剛志, 森山雄吉: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)を合併した多発胃癌の1手術例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 34) 塩谷 猛¹⁾, 星野有哉¹⁾, 小峯 修¹⁾, 山田雄介¹⁾, 鈴木洋一¹⁾, 重光剛志¹⁾, 千原直人¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内藤英二¹⁾, 小熊将之¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司²⁾(¹⁾第二病院病理部): 原発性虫垂悪性腫瘍の3例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 35) 松信哲朗¹⁾, 内藤英二¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 小山雅章¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 伊藤正秀¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司¹⁾(¹⁾第二病院病理部): 同時性三重複癌(食道・胃・肺)の1例. 第33回神奈川県消化器病医学会総会, 2000. 11.
- 36) 的場康徳, 塩谷 猛, 内藤英二, 伊藤正秀, 渋谷哲男, 森山雄吉: 消化管穿孔における緊急上部消化管内視鏡検査の意義. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.

- 37) 右田隆之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 小林光伸¹⁾, 小林照忠¹⁾, 岩村太郎¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 内田健二¹⁾, 関根 毅¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科): 表在型類基底細胞癌の3例. 第44回食道色素研究会, 2000. 11.
- 38) 駒崎敏昭, 渋谷哲男, 内藤英二, 渡辺昌則, 的場康徳, 千原直人, 森山雄吉, 松本光司¹⁾, 内山喜一郎²⁾(¹⁾日本医科大学付属第二病院病理部, ²⁾海老名総合病院): 肝 sclerosing hemangioma の1例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 39) 前島顕太郎, 渡辺昌則, 重田明子, 小泉正樹, 内藤英二, 伊藤正秀, 森山雄吉: 胃全摘後吻合部再発ステント治療に工夫を要した1例. 第19回神奈川胃癌治療研究会, 2000. 12.
- 40) 小泉正樹, 渡辺昌則, 松信哲朗, 水谷 聡, 塩谷 猛, 的場康徳, 内藤英二, 森山雄吉: TS-1 投与9症例の検討. 第19回神奈川胃癌治療研究会, 2000. 12.
- 41) 小林照忠¹⁾, 内田健二¹⁾, 小林光伸¹⁾, 岩村太郎, 右田隆之¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 関根 毅¹⁾, 中島哲男²⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター腹部外科, ²⁾同放射線科): 胃癌術後出血をIVRで止血救命した1例. 第779回外科集談会, 2000. 12.
- 42) 渡辺昌則, 村上雅彦¹⁾, 前島顕太郎, 松信哲朗, 内藤英二, 森山雄吉(¹⁾昭和大学第2外科): 胸腔鏡下食道切除術(VATS-E)の2例. 第4回日本医科大学内視鏡手術懇話会, 2001. 1.
- 43) 小峯 修, 塩谷 猛, 星野有哉, 内藤英二, 尾形昌男, 渡辺昌則, 栗原雄司, 渋谷哲男, 森山雄吉, 松本光司¹⁾(¹⁾第二病院病理部): 虫垂悪性腫瘍の検討. 第54回大腸癌研究会, 2001. 1.
- 44) 山田雄介, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉: 外科治療を要した妊娠合併膵炎の1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 45) 栗原雄司, 千原直人, 塩谷 猛, 渋谷哲男, 森山雄吉: 上部消化管造影が契機となって発症した外傷性横隔膜ヘルニアの1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 46) 南部弘太郎, 森山雄吉, 渋谷哲男, 小熊将之, 小峯 修, 鈴木洋一, 勝部康弘¹⁾, 松本光司²⁾, 山本泰一¹⁾(¹⁾第二病院小児科, ²⁾同病理部): S状結腸に穿破した小児急性虫垂炎の1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.
- 47) 小泉正樹, 渋谷哲男, 小熊将之, 森山雄吉, 深見武彦¹⁾(¹⁾第二病院産婦人科): 周産期に発症した粗景部静脈瘤の1例. 第36回日本腹部救急医学会総会, 2001. 3.

[第二病院リハビリテーションセンター]

研究概要

リハビリテーション科では脳外科, 神経内科, 整形外科, 小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり, 患者層は多彩であるとともに, スタッフも医師をはじめ理学療法士, 作業療法士, 言語療法士, ソシアルワーカー, 看護婦といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている. 研究面にもこのことが反映され, 各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている.

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ, またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている.

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている. 言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている. ソシアルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akiyama N : Herpes zoster infection complicated by motor paralysis . J Dermatol 2000 ; 27 (4) : 252-257 .
- 2) Akiyama N , Ishikawa S , Takeuchi T : Ultrasonographic evaluation of the influence of different postures on diaphragmatic motion in mechanically ventilated patients . Eur J Ultrasound 2000 ; 11 (3) : 205-211 .
- 3) 高橋祥子 , 小野内健司 , 谷口 洋 , 松井和隆 , 井上聖啓 : Wallenberg 症候群 : 見落としてはならない脳血管障害 : 失語症について , Parkinson 病の 1 例 . 東京内科医会誌 2000 ; 16 (1) : 55-63 .
- 4) 大矢亜野 , 長田優香 , 来栖宏二 , 竹内孝仁 : 脳室腹腔短絡術による腹部および多彩な合併症を生じた 1 例 . Clinical Rehabilitation 2000 ; 9 (9) : 933-936 .
- 5) 長田優香 , 大矢亜野 , 穠山尚子 , 高橋祥子 , 竹内孝仁 : 解離性大動脈瘤術後の脊髄障害に対するリハビリテーション : 良好な ADL を得た 2 例から . Clinical Rehabilitation 2000 ; 9 (10) : 1034-1037 .

(2) 研究報告書：

- 1) 竹内孝仁 : 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画 . 川崎市 2000 .
- 2) 竹内孝仁 : 老人保健福祉計画 介護保険事業計画 平成 12 年度～ 16 年度 . 新宿区 2000 .
- 3) 竹内孝仁 : 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 . 横浜市 2000 .
- 4) 竹内孝仁 : 寝たきり予防総合戦略に関する研究事業 : 地域リハビリテーション懇談会 . (財) 日本公衆衛生協会 2000 .

(3) 総説：

- 1) 竹内孝仁 : ケアプランのたて方と医師の役割 . 日本醫事新報 2000 ; (3963) : 37-40 .
- 2) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : アセスメントとは何か～ニーズへの考察から～ . GP ネット 2000 ; (5) : 40-42 .
- 3) 竹内孝仁 : モニタリングの重要性と実践のヒント . 介護保険情報 2000 ; (5) : 28-32 .
- 4) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : 実践論としてのニーズ 普遍的ニーズについて . GP ネット 2000 ; (6) : 50-52 .
- 5) 竹内孝仁 : 施設ケアに期待すること : 老年性痴呆のケアの創設を (老年性痴呆のケア) . CLINICIAN 2000 ; 47 (491) : 65-68 .
- 6) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : アセスメントの具体的な進め方 . GP ネット 2000 ; (7) : 60-62 .
- 7) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : アセスメントの具体的な進め方 (2) . GP ネット 2000 ; (8) : 54-56 .
- 8) 竹内孝仁 : 介護保険と地域での生活 . 関節外科 2000 ; 19 (9) : 79-82 .
- 9) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : アセスメントの具体的な進め方 (3) . GP ネット 2000 ; (9) : 50-52 .
- 10) 竹内孝仁 : アセスメントと看護計画の枠組みを再構築し , サービスの信頼回復を . GP ネット 2000 ; (10) : 26-30 .
- 11) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : チームワークのつくり方 . GP ネット 2000 ; (10) : 50-52 .
- 12) 穠山尚子 : 拘縮はなぜ起こるのか . 臨床老年看護 2000 ; 7 (5) : 8-11 .
- 13) 竹内孝仁 : 老人保健法に基づく機能訓練事業の日常生活 : 自立度に及ぼす効果に関する研究 . 日公衛誌 2000 ; 47 (9) : 792-800 .
- 14) 竹内孝仁 : 褥瘡 (床ずれ) を治す食事と生活 . ハナさん 2000 ; (5) .
- 15) 竹内孝仁 : 竹内孝仁のケアマネジメント原論 : モニタリングの重要性 . GP ネット 2000 ; (11) : 48-50 .

- 16) 竹内孝仁：介護保険下におけるコミュニティケアの課題と展望．総合ケア 2000；10（11）：8-15．
- 17) 竹内孝仁：「障害の受容」と「対等な関係」をめぐって（前編）．ケアマネジャー 2000；（12）：70-74．
- 18) 竹内孝仁：「ふれあい・いきいきサロン」を展開し，社協活動の起爆剤に．NORMA（ノーマ）社協情報 2000；（11）：12．
- 19) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論：苦情への対応とその効用．GPネット 2000；（12）：44-46．
- 20) 竹内孝仁：「選択」の時代．リハビリテーション研究 2000；（105）：1．
- 21) 竹内孝仁，穂山尚子：介護予防と閉じこもり．総合ケア 2000；11（1）：6-21．
- 22) 竹内孝仁：寝たきり・痴呆にさせない介護予防とは何か．総合ケア 2000；11（1）：22-35．
- 23) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論：セルフケアマネジメント．GPネット 2000；（1）：48-51．
- 24) 竹内孝仁：私のケアマネジメント論：ケアマネジャーは詐欺師？．ケアマネジャー 2001；（1）：9．
- 25) 竹内孝仁：「障害の受容」と「対等な関係」をめぐって（後編）．ケアマネジャー 2001；（1）：70-75．
- 26) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論：サービスの「選択」と利用者「主体」．GPネット 2001；（2）：54-57．
- 27) 竹内孝仁：行為障害の臨床的構造：認知リハビリテーションへの作業療法試論．作業療法ジャーナル 2001；35（2）：165-167．
- 28) 竹内孝仁：賢い消費者への道：サービスの健全な発展のために．総合ケア 2001；11（3）：50-55．
- 29) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論：ケアマネジメントの場：コミュニティケア．GPネット 2001；（3）：56-58．
- 30) 竹内孝仁：在宅リハビリテーションの方法．Home Care Medicine 2001；（3）：6-8．
- 31) 竹内孝仁：「ケアの社会化」をめぐって．別冊総合ケア 介護支援専門員 2001；109-128．
- 32) 竹内孝仁：竹内孝仁のケアマネジメント原論：「困難事例」への援助（1）．GPネット 2001；（4）：34-36．
- 33) 竹内孝仁：在宅医療Q & A．Home Care Medicine 2001；（4）：33．

著 書

- 1) 竹内孝仁，川村次郎：〔編集〕義肢装具学 第2版．義肢装具学 第2版，2000；医学書院．
- 2) 竹内孝仁：〔自著〕事例研究：介護保険給付対象外事例 対応困難事例．TAKEUCHI 実践ケア学セミナー，2000；医歯薬出版．
- 3) 竹内孝仁：〔編集〕リハビリテーション概論．介護福祉士選書4，2000；健帛社．
- 4) 竹内孝仁：〔編集〕ケアマネジメントとケアプランの実際Ⅰ・Ⅱ．看護者・介護者のためのカセットブック講座，2000；関西看護出版．
- 5) 竹内孝仁：〔分担〕訪問リハビリテーション方法論．介護支援専門員 基本テキスト 第2巻，2000；pp370-382，（財）長寿社会開発センター．
- 6) 竹内孝仁：〔分担〕通所リハビリテーション方法論．介護支援専門員 基本テキスト 第2巻，2000；pp425-431，（財）長寿社会開発センター．
- 7) 竹内孝仁：〔分担〕気づいてわかるケアの根拠．高齢者を知る事典，2000；pp92-93，厚生科学研究所．
- 8) 竹内孝仁，白澤政和，橋本泰子：〔共著〕ケアマネジメント概論．ケアマネジメント概論，2000；中央法規出版．
- 9) 竹内孝仁，白澤政和，橋本泰子：〔共著〕ケアマネジメントの実践と展開．ケアマネジメントの実践と展開，2000；中央法規出版．
- 10) 竹内孝仁：〔自著〕事例研究：痴呆性高齢者の在宅ケアマネジメント．TAKEUCHI 実践ケア学セミナー3，2000；医歯薬出版．
- 11) 竹内孝仁：〔共著〕リハビリテーション医学．リハビリテーション医学，2000；医歯薬出版．

- 12) 竹内孝仁：〔共著〕海外と日本のケアマネジメント．海外と日本のケアマネジメント，2000；中央法規出版．
- 13) 竹内孝仁：〔分担〕体験でつづる 介護の知恵袋．体験でつづる 介護の知恵袋（NHK福祉番組取材班編），2000；旬報社．
- 14) 竹内孝仁：〔分担〕つらさから喜びへ 私のリハビリ体験．つらさから喜びへ 私のリハビリ体験（NHK福祉番組取材班編），2000；旬報社．
- 15) 竹内孝仁：〔編集〕リハビリテーション論．介護福祉士養成講座4（福祉士養成講座編集委員会），2001；中央法規出版．
- 16) 竹内孝仁：〔監修〕Q&A 楽しく学ぶホームヘルパーの知識．Q&A 楽しく学ぶホームヘルパーの知識，2001；中央法規出版．
- 17) 穠山尚子：〔分担〕V-1 医学の基礎知識．Q&A 楽しく学ぶホームヘルパーの知識，2001；pp264-281，中央法規出版．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 新貝尚子：単語の読字成績に心像性効果が著明に認められた左利き右半球損傷例．第3回認知神経心理学研究会，2000．8．

(2) 一般講演：

- 1) 木村義徳，宮田光明，丸山玲子，榎本雪絵，井上直子，竹内孝仁：口頭指示下での膝屈伸運動と上肢組み合わせ運動による酸素摂取量の比較検討．第35回理学療法士学会，2000．5．
- 2) 榎本雪絵，木村義徳，宮田光明，丸山玲子，井上直子，竹内孝仁：Listeria-Monocytogenesにより髄膜炎を呈した1症例の理学療法の経験．第35回理学療法士学会，2000．5．
- 3) 丸山玲子，榎本雪絵，木村義徳，宮田光明，井上直子，竹内孝仁：大腿骨頸部骨折術後在宅生活者のハンドヘルドダイナモメーターによる下肢筋力測定．第35回理学療法士学会，2000．5．
- 4) 川本篤希¹⁾，石川 聡²⁾，高野義久²⁾，穠山尚子，石川麻子³⁾，松田久雄⁴⁾（¹⁾東大阪病院外科，²⁾東大阪病院リハビリテーション科，³⁾姫路赤十字病院麻酔科，⁴⁾東大阪病院泌尿器科）：超音波を用いた横隔膜運動の評価（健康人）．第37回日本リハビリテーション医学会学会，2000．6．
- 5) 佐藤 卓¹⁾，川本篤希¹⁾，石川 聡²⁾，高野義久²⁾，穠山尚子，石川麻子³⁾（¹⁾東大阪病院外科，²⁾東大阪病院リハビリテーション科，³⁾姫路赤十字病院麻酔科）：超音波を用いた横隔膜運動の評価（非開胸腹部手術）．第37回日本リハビリテーション医学会学会，2000．6．
- 6) 今西幸雄¹⁾，石川 聡²⁾，高野義久²⁾，穠山尚子，石川麻子³⁾，松田久雄⁴⁾（¹⁾東大阪病院外科，²⁾東大阪病院リハビリテーション科，³⁾姫路赤十字病院麻酔科，⁴⁾東大阪病院泌尿器科）：超音波を用いた横隔膜運動の評価（脳卒中患者）．第37回日本リハビリテーション医学会学会，2000．6．
- 7) 穠山尚子，中野恭一¹⁾，藤原 誠¹⁾，石川 聡²⁾（¹⁾兵庫医科大学リハビリテーションセンター，²⁾東大阪病院リハビリテーション科）：超音波を用いた横隔膜運動の評価（ベンチレーター依存患者）．第37回日本リハビリテーション医学会学会，2000．6．
- 8) 長田優香，大矢亜野，竹内孝仁：細菌性脳実質炎，脳膿瘍，脳血流低下など多彩な脳障害を生じた感染性心内膜炎患者のリハビリテーションの経験．第37回日本リハビリテーション医学会学会，2000．6．
- 9) 望月秀樹，富田義昭，熊耳さやか，竹内孝仁，長田優香：行為障害の評価の試み．第33回日本作業療法学会，2000．6．
- 10) 富田義昭，望月秀樹，熊耳さやか，長田優香，竹内孝仁：当院における摂食・嚥下障害に対する取り組み．第33回日本作業療法学会，2000．6．
- 11) 穠山尚子，竹内孝仁，高橋祥子，長田優香，大矢亜野，望月秀樹，新貝尚子：胃瘻栄養から経口摂取が可能と

なった陳旧性脳出血症例の経験．第14回日本リハビリテーション医学会関東地方会，2000．7．

- 12) 亀山尚子，竹内孝仁，高橋祥子，長田優香，大矢亜野：多発外傷を伴った両側上腕骨頭骨折のリハビリテーション経験．第15回日本リハビリテーション医学会関東地方会，2000．10．
- 13) 亀山尚子，竹内孝仁，長田優香，高橋祥子，大矢亜野：脳卒中慢性期に尿失禁の改善した3例の経験と考察．第16回日本リハビリテーション医学会関東地方会，2000．12．
- 14) 亀山尚子，石川 聡，竹内孝仁，長田優香，高橋祥子，大矢亜野：超音波を用いた横隔膜運動の評価5 COPD症例における試み．第17回日本リハビリテーション医学会関東地方会，2001．2．

[第二病院病理部]

研究概要

これまでと同様に，外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体である．また，平成8年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが，リアルタイムに患者の既往歴の検索を行うことが出来ると同時に，各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易であることから，疾患の統計学的な解析を計画している．スタッフ（医師2名，技師5名）の少ない当病理部としては，各分野への細分化された研究を充分に行うことは出来ないが，それぞれの得意分野（松本：肝臓および臓器移植，山本：皮膚疾患および軟部腫瘍など）から徐々に研究を進展させてゆきたいと考えている．

また，これまでの年報でも述べたが，平成5年より続けている群馬大学との共同研究（1）臓器移植の際の保存再灌流障害（肺，肝臓，小腸，心臓）に関する研究，（2）NHBD（non-heart beating donor）からの臓器移植に関する研究は，昨年度に引き続き国内外で高い評価を得たが，さらに課題を進展させ継続中である．

また，平成7年より慶応大学医学部で，平成9年より日本大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続して行っているが，昨年より本学でも生体肝移植が行われるようになり，付属病院病理部と共同して臨床病理学的な検討に協力している．学内外の症例を積み重ねることにより，今後さらに活発に行われるであろう臓器移植に対応の出来る体制を整えて行きたい．

研究業績

論文

（1）原著：

- 1) Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Iwanami K , Sunose Y¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K , Muramoto M²⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室，²⁾藤沢薬品)：Optimal End Point of FR167653 Administration and Expressoin of Interleukin-8 Messenger RNA on Extended Liver Resection with Ischemia in Dog . J Am Coll Surg 2000 ; 191 (3) : 251-258 .
- 2) Tanahashi Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Matsumoto K , Aiba M¹⁾, Sunose Y¹⁾, Ohwada S¹⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：The Effects of Steroids on Pulmonary Ischemia-Reperfusion Injury in Dogs . Kitakanto Med J 2000 ; 50 (3) : 209-214 .
- 3) Yoshinari D¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Matsumoto K , Kawashima Y¹⁾, Koyama T¹⁾, Ohwada S¹⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：Effects of dual inhibitor of tumor necrosis factor- and interleukin-1 on lipopolysaccharide-induced lung injury in rats : Involvement of the p38 mitogen-activated protein kinase pathway . Crit Care Med 2000 ; 29 (3) : 628-634 .
- 4) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Matsumoto K , Muramoto M²⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室，²⁾藤沢薬品)：The effect of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in rats . J

Heart Lung Transplant 2000 ; 19 (4) : 377-383 .

- 5) Mohara J¹⁾, Oshima K¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FK409 Ameliorates Ischemia-Reperfusion Injury in Heart Transplantation Following 12-Hour Cold Preservation . J Heart Lung Transplant 2000 ; 19 (7) : 694-700 .
- 6) Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Sunose Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Ohwada S¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Oriuchi N¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653 Ameliorates Pulmonary Damage in Ischemia-Reperfusion Injury in a Canine Lung Transplantation Model . J Heart Lung Transplant 2000 ; 19 (9) : 879-886 .
- 7) Mohara J¹⁾, Oshima K¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FK409 enhances posttransplant cardiac function following 12-hour cold preservation . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2407-2408 .
- 8) Kasahara M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Aiba M¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Kawate S¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effect of FK3311 on Ischemia-Reperfusion Injury in Canine pulmonary Models . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2430-2431 .
- 9) Sunose Y , Takeyoshi I , Ohwada S , Iwazaki S , Aiba M , Tomizawa N , Tsutsumi H , Kawashima Y , Ogawa T , Kawate S , Kasahara M , Oriuchi N , Matsumoto K , Morishita Y (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of FR167653 on Ischemia-Reperfusion Injury in Canine Lung Transplantation Models . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2435-2436 .
- 10) Takeyoshi I¹⁾, Tanahashi Y¹⁾, Aiba M¹⁾, Sunose Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Iwanami K¹⁾, Kasahara M¹⁾, Kawate S¹⁾, Ogawa T¹⁾, Ohwada S¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Spontaneous Nitric Oxide (FK409) Ameliorates pulmonary Ischemia-Reperfusion Injury in Dogs . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2428-2429 .
- 11) Takeyoshi I¹⁾, Sunose Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Aiba M¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Kasahara M¹⁾, Kawate S¹⁾, Ogawa T¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The Effect of Cyclooxygenase-2 Inhibitor (FK3311) on Ischemia-Reperfusion Injury with Hepatectomy in Dogs . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2322-2323 .
- 12) Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Sunose Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Matsumoto K , Muramoto M²⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室,²⁾藤沢薬品): The Expression of IL-8 mRNA and Infiltration of Neutrophils with FR167653 Administration on Extended Liver Resection with Ischemia in Dogs . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2316-2317 .
- 13) Iwazaki S¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR128998 Ameliorates Liver Injury After Ischemia-Reperfusion with Extended Liver Resection in Dogs . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2314-2315 .
- 14) Otani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Yoshinari D¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of FK409 on pulmonary Ischemia-Reperfusion Injury in Rats . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 2426-2427 .
- 15) Fujisaki S¹⁾, Kimuzuka K¹⁾, Park E¹⁾, Tomita R¹⁾, Fukuzawa M¹⁾, Matsumoto K (¹⁾日本大学医学部第一外科学教室): Immunohistochemical analysis in the extracellular matrix during acute rejection of small bowel grafts in rats . Transplant Proc 2000 ; 32 (7) : 1316-1317 .
- 16) Iwazaki S¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Aiba M¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K , Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR128998 (a PAF Receptor Antagonist)

- Counters the Increased Pulmonary Vascular Resistance Associated with Ischemia-Reperfusion Injury in the Canine . *Lung Int J Angiol* 2001 ; 10 (1): 10-14 .
- 17) Sunose Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Kawata K¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of cyclooxygenase-2 inhibitor FK3311 on ischemia-reperfusion injury in a canine total hepatic vascular exclusion model . *J Am Coll Surg* 2001 ; 192 (1): 54-62 .
- 18) Mohara J¹⁾, Oshima K¹⁾, Aiba M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of Celsior solution on 12-hour cardiac preservation in comparison with University of Wisconsin solution . *J Cardiovasc Surg* 2001 ; 42 (1): 187-192 .
- 19) Sunose Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Kawata K¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Kasahara M¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Selective cyclooxygenase-2 inhibitor ameliorates warm ischemia-reperfusion injury of the canine liver . *Transplant Proc* 2001 ; 33 (1-2): 862-863 .
- 20) Kobayashi M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Yoshinari D¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Koyama T¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ohwada S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653 ameliorates ischemia-reperfusion injury of the rat liver through P38 mitogen-activated protein kinase pathway . *Transplant Proc* 2001 ; 33 (1-2): 865-866 .
- 21) Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Aiba M¹⁾, Kasahara M¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Celsior is superior to UW for graft preservation from non-heart-beating donors in a canine liver transplantation model . *Transplant Proc* 2001 ; 33 (1-2): 922-923 .
- 22) Iwazaki S¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR128998 ameliorates liver injury in extended liver resection with ischemia in dogs . *Hepatogastroenterology* 2001 ; 48 (37): 197-202 .
- 23) Kawata K, Takeyoshi I, Iwanami K, Sunose Y, Aiba M, Ohwada S, Matsumoto K, Morishita Y (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of FK409 on small bowel ischemia-reperfusion injury in dogs . *Transplant Proc* 2001 ; 33 (1-2): 883-884 .
- 24) Sunose Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawata K¹⁾, Tokumine M¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Ohwada S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of FK3311 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in a canine model . *J Surg Res* 2001 ; 95 (2): 167-173 .
- 25) Mohara J¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Tokumine M¹⁾, Aizaki M¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The optimal pressure for initial flushout in heart procurement with the UW solution . *J Heart Lung Transplant* 2001 ; 20 (2): 181-182 .
- 26) Yoshinari D¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Matsumoto K, Kawashima Y¹⁾, Koyama T¹⁾, Ohwada S¹⁾, Morishita Y¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of a dual inhibitor of Tumor necrosis factor- α and interleukin-1 on lipopolysaccharide-induced lung injury in rats : Involvement of the p38 mitogen-activated protein kinase pathway . *Crit Care Med* 2001 ; 29 (3): 628-633 .
- 27) 君塚 圭¹⁾, 藤崎 滋¹⁾, 朴 英智¹⁾, 福澤正洋¹⁾, 松本光司 (¹⁾ 日本大学医学部第一外科学教室): ラット小腸移植急性拒絶時の Extracellular Matrix および Matrix Metalloproteinase-2, 9 の発現に関する免疫組織学的検討 . *日本移植学会雑誌* 2001 ; 36 (1): 12-19 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kawashima Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Otani Y¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Yoshinari D¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653, an inhibitor of TNF- α and IL-1 production, attenuates the ischemia and reperfusion injury of the rat lung through p38 mitogen activated protein kinase signal pathway . The 20th Annual Meeting of the International Society of Heart and Lung Transplantation (Osaka), 2000 . 4 .
- 2) Sunose Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Aiba M¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Oriuchi N¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The effect of cyclooxygenase inhibitor, FK3311, on ischemia-reperfusion injury in canine lung transplantation . The 20th Annual Meeting of the International Society of Heart and Lung Transplantation (Osaka), 2000 . 4 .
- 3) Mohara J¹⁾, Oshima K¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FK409 ameliorates ischemia-reperfusion injury in heart transplantation following 12-hr cold preservation . The 20th Annual Meeting and Scientific Sessions of International Society for Heart and Lung Transplantation (Osaka), 2000 . 4 .
- 4) Tsutsumi H¹⁾, Oshima K¹⁾, Mohara J¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Aizaki M¹⁾, Tokumine M¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Successful Orthotopic Cardiac Transplantation following 24-Hour Preservation using a Hypothermic Perfusion Apparatus in Canine Hearts . The 20th Annual Meeting of the International Society of Heart and Lung Transplantation (Osaka), 2000 . 4 .
- 5) Ohwada S¹⁾, Sunose Y¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kasahara M¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Aiba M¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Advantage of Celsior solution in graft preservation from non-heart-beating donors in canine liver transplantation model . The 18th International Congress of the Transplantation Society (Rome), 2000 . 6 .
- 6) Kobayashi M¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Yoshinari D¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ohwada S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): FR167653 ameliorates ischemia-reperfusion injury of the rat liver through p38 mitogen-activated protein kinase signal pathway . The 18th International Congress of the Transplantation Society (Rome), 2000 . 8 .
- 7) Sunose Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Tsutsumi H¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Iwazaki S¹⁾, Kawata K¹⁾, Tokumine M¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The protective effects of FK3311 on ischemia-reperfusion injury in canine total hepatic exclusion models . The 18th International Congress of the Transplantation Society (Rome), 2000 . 8 .
- 8) Yoshinari D¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Koibuchi Y¹⁾, Ohwada S¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Effects of a dual inhibitor of TNF- α and IL-1 β on lipopolysaccharide-induced lung injury in rats . 21th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine (Brussels), 2001 . 3 .
- 9) Kawata K¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Iwanami K¹⁾, Sunose Y¹⁾, Aiba M¹⁾, Matsumoto K, Ohwada S¹⁾, Morishita Y¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): The Effects of Nitric Oxide Donor (FK409) on Small Bowel Ischemia-Reperfusion Injury in Dogs . The 18th International Congress of the Transplantation Society (Rome), 2000 . 8 .
- 10) 松本光司, 山本泰一, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): 胸腺カルチノイド腫瘍2例の免疫組織学的検討 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 11) 山本泰一, 松本光司, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): 乳頭部原発癌の2例 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 12) 堤 裕史¹⁾, 大島清宏¹⁾, 茂原 淳¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 相崎雅弘¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): TNF- 及びIL- 産生阻害剤FR167653の心筋保護効果：群大式保存装置を用い

ての評価．第24回日本心筋保護・心臓保存研究会，2000．4．

- 13) 堤 裕史¹⁾，大嶋清宏¹⁾，茂原 淳¹⁾，竹吉 泉¹⁾，相崎雅弘¹⁾，徳峰雅彦¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：群馬大学式冠灌流装置を用いた24時間心保存の研究：同所性移植実験を通して．第18回日本心臓移植研究会，2000．4．
- 14) 茂原 淳¹⁾，大嶋清宏¹⁾，堤 裕史¹⁾，徳峰雅彦¹⁾，相崎雅弘¹⁾，竹吉 泉¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：NO donor (FK 409) は心筋虚血再灌流障害を軽減する．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 15) 徳峰雅彦¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，岩崎 茂¹⁾，須納瀬豊¹⁾，堤 裕史¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：肺虚血再灌流におけるNa-H pump inhibitor, FR 183998の効果．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 16) 大谷嘉己¹⁾，竹吉 泉¹⁾，吉成大介¹⁾，川島吉之¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：ラットの肺虚血再灌流障害におけるNOドナー (FK409)の有効性．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 17) 小林光伸¹⁾，竹吉 泉¹⁾，吉成大介¹⁾，川島吉之¹⁾，大和田進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：ラット肝虚血再灌流障害に対するIL-1 及びTNF- の関与とその産生阻害剤の効果．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 18) 富沢直樹¹⁾，大和田進¹⁾，須納瀬豊¹⁾，堤 裕史¹⁾，岩崎 茂¹⁾，饗場正明¹⁾，竹吉 泉¹⁾，川島吉之¹⁾，笠原群生¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：心停止ドナーから保存肝移植の実験的研究保存液としてのCelsior液とUW液の比較．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 19) 岩崎 茂¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，須納瀬豊¹⁾，堤 裕史¹⁾，川島吉之¹⁾，富沢直樹¹⁾，川手 進¹⁾，笠原群生¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：血行遮断を伴う拡大肝切除におけるPlatelet-activation Factor (PAF)拮抗剤FR128998の効果．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 20) 須納瀬豊¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，堤 裕史¹⁾，富沢直樹¹⁾，織内 登¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：肺移植におけるCyclooxygenase2抑制の有効性について；選択的拮抗剤FK3311を用いて．第100回日本外科学会総会，2000．4．
- 21) 斉藤良明，太田吉男，大庭孝男，長澤由英，大塚俊司，山本泰一，松本光司：再発を繰り返した筋上皮癌の1例．第41回日本臨床細胞学会総会，2000．5．
- 22) 長澤由英，太田吉男，大庭孝男，斉藤良明，大塚俊司，山本泰一，松本光司，山下浩二¹⁾，久吉隆郎¹⁾(¹⁾外科学第2)：診断に苦慮した縦隔原発悪性腫瘍の2例．第41回日本臨床細胞学会総会，2000．5．
- 23) 沼野香世子¹⁾，畑三恵子¹⁾，北村 伸²⁾，川名誠司¹⁾，松本光司²⁾，内藤善哉³⁾，浅野伍朗³⁾(¹⁾皮膚科学，²⁾内科学第2，³⁾病理学第2)：Ross syndromeの1例．第99回日本皮膚科学会総会，2000．5．
- 24) 藤崎 滋¹⁾，君塚 圭¹⁾，朴 英智¹⁾，越永従道¹⁾，野中倫明¹⁾，三宅 洋¹⁾，富田涼一¹⁾，福澤正洋¹⁾，松本光司(¹⁾日本大学医学部第一外科学教室)：小腸移植拒絶反応におけるLymphoid rich organとしての特異性．第37回日本小児外科学会総会，2000．6．
- 25) 小林 光伸¹⁾，竹吉 泉¹⁾，吉成大介¹⁾，川手 進¹⁾，富沢直樹¹⁾，武市 卒之¹⁾，鯉淵幸生¹⁾，小山 透¹⁾，川島 吉之¹⁾，大和田進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：肝虚血再灌流傷害におけるp38 MAPK活性の変動とFR167653の効果．第18回日本肝移植研究会，2000．7．
- 26) 小林光伸¹⁾，竹吉 泉¹⁾，吉成大介¹⁾，鯉淵幸生¹⁾，小山 透¹⁾，川島吉之¹⁾，大和田進¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：ラット肝虚血再灌流障害に対するTNF, IL-1産生阻害剤FR167653の有効性とp38MAPKinaseの関与．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．
- 27) 川田 清¹⁾，竹吉 泉¹⁾，岩波弘太郎¹⁾，須納瀬豊¹⁾，饗場正明¹⁾，松本光司，大和田進¹⁾，森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室)：小腸の虚血再灌流障害に対するNO donor (FK409)の有効性．第55回日本消化器外科学会総会，2000．7．

- 28) 堤 裕史¹⁾, 大和田進¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 岩崎 茂¹⁾, 饗場正明¹⁾, 笠原群生¹⁾, 川島吉之¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 川手進¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 心停止ドナーからの肝移植モデルにおける保存液の検討 (Celsior 液と UW 液の比較について). 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 29) 須納瀬豊¹⁾, 大和田進¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 笠原群生¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 川島吉之¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 川手 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 心停止ドナーからの小腸移植におけるエンドセリン受容体拮抗剤 (TAK-044) の有効性. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 30) 君塚 圭¹⁾, 藤崎 滋¹⁾, 朴 英智¹⁾, 富田涼一¹⁾, 福澤正洋¹⁾, 松本光司(¹⁾日本大学医学部第一外科学教室): ラット小腸急性拒絶モデルにおける細胞外マトリックス及びMMP-2の発現に関する免疫組織学的検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 31) 塩谷 猛¹⁾, 山田雄介¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 星野有哉¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小熊将之¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司(¹⁾第二病院消化器センター): sm胃癌におけるPCNA, Ki-67, c-erbB-2, p53の発現と臨床病理学的の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 32) 渋谷哲男¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 小熊将之¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 星野有哉¹⁾, 小原邦彦¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峰修¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 重光剛志¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司(¹⁾第二病院消化器センター): 大腸癌におけるnm23, p53, DCCの発現及びmicrosatellite instability (MSI) の検討. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000. 7.
- 33) 山田 寛, 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 長澤由英, 大塚俊司, 山本泰一, 松本光司, 佐藤雅史¹⁾, 久吉隆郎²⁾(¹⁾放射線医学, ²⁾外科学第2): 肺原発アミロイド症の1例. 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000. 9.
- 34) 朴 英智¹⁾, 藤崎 滋¹⁾, 君塚 圭¹⁾, 富田涼一¹⁾, 福澤正洋¹⁾, 松本光司(¹⁾日本大学医学部第一外科学教室): ラット小腸移植拒絶反応におけるMAcCAM-1発現の変化について. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 35) 須納瀬豊, 竹吉 泉, 大和田進, 堤 裕史, 川田 清, 笠原群生, 松本光司, 森下靖雄(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 心停止ドナーからの小腸移植におけるエンドセリン受容体抑制の有効性について. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 36) 徳峰雅彦¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 岩崎 茂¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): Na-H pump inhibitor, FR183998の廢墟血再灌流での有効性第. 36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 37) 大谷嘉己¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 吉成大介¹⁾, 小林光伸¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): ラットは依拠血再灌流傷害に対するcyclooxygenase-2選択的阻害剤 (FK3311) の効果. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 38) 橋本直樹¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 饗場正明¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 肺移植におけるcyclooxygenase-2抑制の効果について. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 39) 相崎雅弘, 竹吉 泉, 松本光司, 大嶋清宏, 茂原 淳, 徳峰雅彦, 森下靖雄(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 灌流装置を用いた12時間心保存におけるUW液とCelsior液の心保護効果. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 40) 堤 裕史¹⁾, 大嶋清宏¹⁾, 茂原 淳¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 相崎雅弘¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 群馬大学式保存装置を用いた24時間保存心の同所性移植実験. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 41) 川田 清, 竹吉 泉, 岩波弘太郎, 須納瀬豊, 饗場正明, 大和田進, 松本光司, 森下靖雄(¹⁾群馬大学医学部第二外科学教室): 小腸虚血再灌流傷害に対するNO donor (FK409) の有用性. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.

- 42) 吉成大介, 竹吉 泉, 小林光伸, 松本光司, 大和田進, 森下靖雄⁽¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 肝移植時の TNF-a および IL-1 産生阻害剤 FR167653 の UW 液への添加剤としての有効性. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 43) 君塚 圭, 藤崎 滋, 朴 英智, 福澤正洋, 松本光司⁽¹⁾ (日本大学医学部第一外科学教室): ラット小腸急性拒絶モデルにおける細胞外マトリックス蛋白および Matrix Metaproteinase-2 の発現に関する検討. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 44) 茂原 淳, 堤 裕史, 徳峰雅彦, 相崎雅弘, 竹吉 泉, 石川 進, 松本光司, 森下靖雄⁽¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): UW 液を用いた心保存における適切な初期灌流圧についての検討. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 45) 君塚 統¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 大和田進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 肺虚血再灌流後の肺水腫の評価における 99mTc ヒト血清アルブミンシンチグラフィの有効性. 第36回日本移植学会総会, 2000. 10.
- 46) 堤 裕史¹⁾, 大島清宏¹⁾, 茂原 淳¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 相崎雅弘¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 群大式臓器保存装置を用いた24時間心保存の可能性について: 同所性移植実験を通しての検討. 第38回日本人工臓器学会総会, 2000. 10.
- 47) 茂原 淳¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 相崎雅彦¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 初期灌流圧が心保存に与える影響: UW 液を用いた12時間保存心移植実験を通しての評価. 第53回日本胸部外科学会, 2000. 10.
- 48) 吉成大介¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 小林光伸¹⁾, 大和田進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): ラット肝移植における p38 MAPK 阻害剤の臓器保存液への添加剤としての有効性. 第16回群馬移植研究会, 2000. 11.
- 49) 吉成大介¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 小林光伸¹⁾, 松本光司, 大和田進¹⁾, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 肝移植時の TNF- α 及び IL-1 産生阻害剤, FR167653 の UW 液への添加剤としての有効性. 第27回日本低温医学会総会, 2000. 11.
- 50) 塩谷 猛¹⁾, 星野有哉¹⁾, 小峯 修¹⁾, 山田雄介¹⁾, 鈴木洋一¹⁾, 重光剛志¹⁾, 千原直人¹⁾, 駒崎敏昭¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 内藤英二¹⁾, 小熊將之¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司⁽¹⁾ (第二病院消化器センター): 原発性虫垂悪性腫瘍の3例. 第62回日本臨床外科学会総会, 2000. 11.
- 51) 橋本直樹¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 戸塚 統¹⁾, 大和田進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 肺の虚血再灌流傷害に対する bradykinin B2 receptor antagonist (FR173657) の効果. 第17回日本肺および心肺移植研究会, 2001. 1.
- 52) 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 星野有哉¹⁾, 内藤英二¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 松本光司⁽¹⁾ (第二病院消化器センター): 虫垂悪性腫瘍の検討. 第54回大腸癌研究会, 2001. 1.
- 53) 茂原 淳¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 徳峰雅彦¹⁾, 相崎雅彦¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 心保存における初期灌流. UW 液を用いての至適灌流圧についての検討. 第31回日本心臓血管外科学会, 2001. 2.
- 54) 茂原 淳¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 大木 茂¹⁾, 小池則匡¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (群馬大学医学部第二外科学教室): 心移植における cyclooxygenase 2 抑制の有効性について: 同所性移植モデルを用いての評価. 第19回日本心臓移植研究会, 2001. 2.

[第二病院中央検査室]

研究概要

近年、臨床検査は保険点数上の絡みを含め、ルーテイン測定項目としては頭打ちの状況である。

一方、臨床検査の自動化が進む中で、新機種の傾向として同機種上で、生化学、内分泌、免疫学的検査が測定可能となり、経済性を重視したスポット項目測定機種、また緊急時に最重要とされる感染症測定機種と現況に求められている機種が開発されている。

今般、日常における検査水準を24時間維持し、より多くの情報提供する目的で、国内で初めて輸血時の交差試験、不規則抗体、血液型の同時測定機の導入を計ったので維持を含め報告する。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 井梅和美, 井上雅則, 新宅孝征, 島田洋一¹⁾(¹⁾第二病院血液室): Auto Vueによる輸血検査の24時間体制. 第48回日本輸血学会, 2000. 5.
- 2) 花出 豊, 井上雅則, 井梅和美, 新宅孝征, 松岡和彦, 島田洋一¹⁾(¹⁾第二病院血液室): 自己血輸血の新たな試み. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 3) 畑 哲, 小伊藤保雄, 吉田美和, 新宅孝征, 松岡和彦: 化学発光自動分析装置『スフィアライト』の基礎的検討 第一報/腫瘍マーカー(CEA, CA-19-9, NSE). 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 4) 吉田美和, 小伊藤保雄, 畑 哲, 新宅孝征, 松岡和彦: 化学発光自動分析装置『スフィアライト』の基礎的検討 第二報/ホルモン(TSH・FT3・FT4・T3・T4). 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 5) 田村朋美, 隠岐和美, 森本 進, 新宅孝征, 松岡和彦: CH50測定自動化の検討とその有用性. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 6) 成定昌昭, 井出尚子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦: 尿比重, 浸透圧の相関関係における1考察. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 7) 津金香代子, 臼井一城, 吉岡美香, 中島由美子, 菅原 通, 新宅孝征, 松岡和彦: MDA-180によるFDP定量試薬ラテックス OT-2FDPの基礎的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 8) 鈴木久美, 山賀節子, 西島美輝子, 越谷美由紀, 荒井誠一, 渡部紀子, 狩野貴子, 新宅孝征, 松岡和彦, 渋谷哲男¹⁾, 内田拓実²⁾, 櫛方美文²⁾, 宗像一雄²⁾(¹⁾第二病院超音波検査室室長, ²⁾同内科): 弁疾患, 調律異常での左房容積への影響についての検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 9) 野本恵子, 鈴木憲康, 坂倉剛志, 新宅孝征, 松岡和彦, 久吉隆郎¹⁾, 日置正文¹⁾, 佐藤雅史²⁾(¹⁾同外科, ²⁾同放射線科): 非定型抗酸菌症 Mycobacterium Xenopiの1症例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 10) 井梅和美, 井上雅則, 花出 豊, 新宅孝征, 島田洋一¹⁾(¹⁾第二病院血液室): 全自動輸血検査System導入(Auto Vue)による24時間体制. 第41回東北医学検査学会, 2000. 10.

[第二病院薬剤科]

研究概要

「21世紀の医薬品のあり方に関する懇談会」の最終報告書にあわせて、付属第二病院薬剤科は「適正な薬物療法の実践」を目標に「患者QOLへの薬剤師の関わり」という平成8年以来の継続テーマで医療現場に参画し、今年も実践での研究発表を行った。

適正使用を行うための医薬品情報を如何にドグメンテーションするかを研究すると共に、医療事故がクロ - ズアッ

プされている今日、医療の現場において医師看護婦等医療スタッフから我々病院薬剤師の業務がどの様に評価されているかについても調査研究を行った。

適正使用はもちろんのこと、誤投薬防止のためのリスクマネージャーとして自覚と認識を持った活動を行っていく所存である。

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 渋谷正則：日本ファーマシューティカル・ケア研究会のフォローアップセミナー活動．2000年日米医学医療セミナー，2000．12．

(2) セミナー：

- 1) 小坂好男：医薬品情報の実際．平成12年度神奈川県病院薬剤師会学術情報委員会スキルアップセミナー，2000．9．
- 2) 小坂好男：DI業務の実際．神奈川県病院薬剤師会実務者研修セミナー，2001．2．

(3) 一般講演：

- 1) 佐藤数馬，小坂好男，菊池有道，山岸茂樹²⁾，久吉隆郎²⁾，日置正文²⁾，小坂橋弘枝³⁾(¹⁾第二病院外科，²⁾同看護部)：患者QOLへの薬剤師の関わり(第VI報)：癌患者への関わり・外科病棟．第8回クリニカルファーマシーシンポジウム，2000．7．
- 2) 野口周作，佐藤数馬，園部直美，毛利多嘉江，小坂好男，菊池有道：患者QOLへの薬剤師の関わり(第VII報)：薬剤管理指導業務に対する医療従事者からの評価．第10回日本病院薬学会，2000．10．

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，病理学教室から大学院生が病理部に配属され，また臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり，さらにタイ国病理学者の留学以外にも中国より留学中の整形外科医を大学院生及び研究生として迎え，研究部門もさらに充実してきた．現在の主な研究テーマは以下の通りである．

- (1) 乳腺腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立，2) 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について，3) 転移性乳癌の臨床病理学的研究（特に接着因子と基底膜分解酵素について）
- (2) 骨軟部腫瘍；1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用），2) Solitary fibrous tumor 及び GIST (gastro intestinal stromal tumor) について
- (3) 子宮癌；1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法．
- (4) リンパ節病変；1) リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ，2) リンパ節病変の分子生物学的検索，3) 悪性リンパ腫の細胞診断学．
- (5) 体腔液の細胞診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：とくにセルブロック法

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 吉岡正智¹⁾，前田昭太郎，片山博徳，松田 健²⁾，内田英二³⁾，秋丸琥甫³⁾，田尻 孝³⁾，田中宣威⁴⁾，恩田昌彦³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科，²⁾ 同 消化器科，³⁾ 外科学第1，⁴⁾ 千葉北総病院外科)：膵 Solid-Pseudopapillary Tumor の臨床病理学的特徴と外科的治療：本邦報告302例と自験6例について．胆と膵 2000；22(1)：45-52．
- 2) 細根 勝，佐藤雅史¹⁾，前田昭太郎 (¹⁾ 第二病院放射線科)：悪性リンパ腫の病理分類：分類の基本理念と新 WHO 分類．画像診断 2000；20(4)：460-476．
- 3) 北川泰之¹⁾，白井康正¹⁾，角田 隆¹⁾，丸山晴久¹⁾，浅野伍朗²⁾，前田昭太郎，横山宗伯²⁾ (¹⁾ 整形外科，²⁾ 病理学第2)：粘液型脂肪肉腫の治療と問題点．日本整形外科学会雑誌 2000；74(6)：S1082．
- 4) 前田昭太郎，阿部久美子，日吾美栄子：検体処理と標本作製：1．穿刺吸引細胞診 / 非吸引細胞診．臨床検査 2000；44(11)：1242-1246．
- 5) 細根 勝，前田昭太郎，飯田信也¹⁾，片山博徳，江上 格¹⁾，浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科，²⁾ 病理学第2)：乳腺疾患の術中迅速診断：今日的意義と問題点．病理と臨床 2001；19(1)：32-45．

(2) 症例報告：

- 1) Matuda T¹⁾，Okihama Y¹⁾，Egami K²⁾，Wada M²⁾，Yoshioka M²⁾，Maeda S，Onda M³⁾ (¹⁾ Department of Gastroenterology, Tama-Nagayama，²⁾ Department of Surgery, Tama-Nagayama，³⁾ First Department of Surgery)：Complete Cure of Malignant Lymphoma of the Stomach with a Huge Adrenal Lesion Achieved by Preoperative Chemotherapy and Surgery：Report of a Case．Surgery Today 2001；31：62-67．
- 2) 杉崎祐一¹⁾，細根 勝，橋本綱子²⁾，会田邦晴³⁾，田近賢二⁴⁾ (¹⁾ 付属病院病理部，²⁾ 病理学第1，³⁾ 外科学第1，⁴⁾ 内科学第3)：イレウスにて発症し，腸管悪性リンパ腫が疑われた granulocytic sarcoma．J Nippon Med Sch 2000；67(5)：392-395．
- 3) 北川泰之¹⁾，白井康正¹⁾，玉井健介¹⁾，浅野伍朗²⁾，前田昭太郎，横山宗伯²⁾ (¹⁾ 整形外科，²⁾ 病理学第2)：

臀部軟部腫瘍の1例．日本整形外科学会雑誌 2000；74(6)：S1029．

- 4) 村上隆介¹⁾，小林由子¹⁾，小倉順子¹⁾，中澤 賢¹⁾，玉井 仁¹⁾，山本 鼎¹⁾，細根 勝，町田 稔²⁾，隈崎達夫²⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科，²⁾放射線医学)：後腹膜気管支性囊腫の1例．腹部画像診断アトラスV 2000；5：112-113．
- 5) 小林由子¹⁾，村上隆介¹⁾，小倉順子¹⁾，杉崎健一¹⁾，中澤 賢¹⁾，玉井 仁¹⁾，山本 鼎¹⁾，三田俊二²⁾，前田昭太郎，隅崎達夫³⁾(¹⁾多摩永山病院放射線科，²⁾同産婦人科，³⁾放射線医学)：卵巣Hepatoid Carcinomaの1例．腹部画像診断アトラスV 2000；5：190-191．
- 6) 越野立夫¹⁾，佐々木茂¹⁾，中井章人¹⁾，横田明重¹⁾，三田俊二¹⁾，大屋敦子¹⁾，神戸 仁¹⁾，三宅秀彦¹⁾，高橋肇¹⁾，谷内良成¹⁾，関谷伊久乃¹⁾，国重隆生¹⁾，永野玲子¹⁾，細根 勝，前田昭太郎(¹⁾多摩永山病院産婦人科)：子宮内膜細胞診が陽性であったnormal sized ovarian carcinoma症例．J Nippon Med Sch 2001；68(2)：198-201．
- 7) 中村慶春¹⁾，江上 格¹⁾，吉岡正智¹⁾，和田雅世¹⁾，山村 進¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，内田英二²⁾，田尻孝²⁾，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科第1)：膵・胆管合流異常に合併した胆嚢adenomyomatosisの3例．日本消化器外科学会雑誌 2001；34(3)：229-233．

(3) 総説：

- 1) 前田昭太郎，片山博徳，淺野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2)：細胞診：現状の問題点と今後の方向性：9．国際交流．臨床検査 2000；44(11)：1202-1204．
- 2) 前田昭太郎，劉 愛民¹⁾，小黒辰夫²⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設，²⁾千葉北総病院病理部)：新技術・周辺領域技術の応用と展開 6．電子顕微鏡．臨床検査 2000；44(11)：1445-1449．
- 3) 細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，淺野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2)：判定の実際：27．リンパ節：悪性リンパ腫．臨床検査 2000；44(11)：1381-1388．

学会発表

(1) 追加分一般講演：

- 1) 山本英希¹⁾，松島申治¹⁾，山村 進¹⁾，鈴木成治¹⁾，江上 格¹⁾，細根 勝，前田昭太郎，田中茂夫²⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科学第2)：前縦隔原発と考えられる悪性黒色腫の1例．第113回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1999．2．
- 2) 平塚哲郎¹⁾，二生生爾¹⁾，三宅一昌¹⁾，和田 謙²⁾，津久井拓²⁾，細根 勝，秋元敏雄³⁾，坂本長逸¹⁾，小林正文²⁾(¹⁾内科第3，²⁾実験動物管理室)：動物モデルを用いたNSAIDs胃粘膜障害におけるHP感染症の役割に対する検討．第5回日本ヘリコバクター学会，1999．6．
- 3) 中村義春¹⁾，江上 格¹⁾，松島申治¹⁾，和田雅世¹⁾，山本英希¹⁾，水谷 崇¹⁾，飯田信也¹⁾，藤田逸郎¹⁾，山田岳史¹⁾，秋谷行宏¹⁾，池田研吾¹⁾，加藤圭介¹⁾，吉岡正智¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，内田英二²⁾，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科学第1)：膵体尾部欠損症に合併した膵solid and cystic tumorの1切除例．第30回日本膵臓学会大会，1999．10．
- 4) 山田岳史¹⁾，江上 格¹⁾，松島申治¹⁾，渡辺秀裕¹⁾，和田雅世¹⁾，山本英希¹⁾，水谷 崇¹⁾，飯田信也¹⁾，藤田逸郎¹⁾，中村慶春¹⁾，秋谷行宏¹⁾，吉岡正智¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，田中宣威²⁾，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科学第1)：大腸癌術後副腎転移に1切除例．第61回日本臨床外科学会総会，1999．11．
- 5) 飯田信也¹⁾，恩田昌彦¹⁾，徳永 昭¹⁾，池田研吾¹⁾，平本義浩²⁾，木山輝郎²⁾，松倉則夫²⁾，江上 格¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科学第1)：ヒト十二指腸潰瘍治癒過程における増殖因子ならびにその受容体の局在，発現の解析．第29回創傷治癒研究会，1999．12．

(2) 特別講演：

- 1) 前田昭太郎：乳癌診断上の問題点：病理側からの提言．第15回山陰乳癌研究会，2000．9．

2) 前田昭太郎：穿刺吸引細胞診の有用性と問題点．第21回日本臨床細胞学会沖縄県支部学術集会，2001．2．

(3) セミナー：

1) Maeda S：Aspiration Cytology VS core Needle Breast Biopsy：Case 7-8．XXIII international Congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY and 14th World Congress of ACADEMIC AND ENVIRONMENTAL PATHOLOGY，2000．10．

2) Maeda S：Pitfalls in Fine Needle Aspiration Cytology：Pitfalls in FNA cytology of the breast．XXIII international Congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY and 14th World Congress of ACADEMIC AND ENVIRONMENTAL PATHOLOGY，2000．10．

3) Maeda S：Diagnostic Points in Cytopathology．XXIII international Congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY and 14th World Congress of ACADEMIC AND ENVIRONMENTAL PATHOLOGY，2000．10．

4) Mernyei M¹⁾，Maeda S，Nemoto N²⁾(¹⁾Nihon University, School of Medicine, Dept. of Pathology，²⁾SRL, inc.，Dept. of Pathology)：FNA cytology of breast The role of preoperative FNA in predicting prognosis．XXIII International Congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY and 14th World Congress of ACADEMIC AND ENVIRONMENTAL PATHOLOGY，2000．10．

(4) ワークショップ：

1) Sugano H¹⁾，Maeda S，Katayama H，Isobe H，Asano G²⁾(¹⁾Medical Student, Nippon Medical School，²⁾Department of Pathology, Nippon Medical School)：The role of core needle biopsy in diagnosing breast tumor．The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology，2001．1．

2) Mernyei M¹⁾，Nemoto N¹⁾，Maeda S(¹⁾Nihon University, School of Medicine, Dept of Pathology)：One year experience in Telecytology．The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology，2001．1．

3) Maeda S，Katayama H，Isobe H：A case of amelanotic melanoma of the mediastinum．The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology，2001．1．

4) Liu A¹⁾，Maeda S，Katayama H，Isobe H(¹⁾Central Institute for Electron Microscopic Researches)：A case of small cell neuroendocrine carcinoma in the vulva．The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology，2001．1．

5) Fujita C¹⁾，Maeda S(¹⁾Division of cytology, Arakawa City Cancer Prevention Center)：A case of Normalized ovary carcinoma syndrome revealed by cervical smear screening in mass surveys．The Seventh Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology and The First Annual Congress of Thai Society of Cytology，2001．1．

(5) 一般講演：

1) Matsushima S¹⁾，Egami K¹⁾，Amamoto H¹⁾，Yamamura S¹⁾，Suzuki S¹⁾，Ishizuka T¹⁾，Teramoto T¹⁾，Oguri T¹⁾，Hagiwara N¹⁾，Ikeda K¹⁾，Miyamoto M¹⁾，Hosone M，Maeda S，Yoshioka M¹⁾，Tanaka S²⁾(¹⁾Dept. of Surgery, Tamanagayama Hospital，²⁾2nd Dept. of Surgery)：Evaluation of VATS for the mediastinal tumor．7th World Congress of Endoscopic Surgery, Singapore，2000．6．

2) Hosone M，Maeda S，Katayama H，Isobe H，Asano G¹⁾(¹⁾Department of Pathology, Nippon Medical School)：Pulmonary Marginal Zone B-cell Lymphoma of MALT Type with CD5 Expression．XXIII International Congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGY and 14th World Congress of ACADEMIC AND ENVIRONMENTAL PATHOLOGY，2000．10．

- 3) Liu A¹⁾, Azuma K, Katayama H, Hosone M, Maeda S, Sawada N²⁾, Sun Y²⁾, Nitou Z²⁾, Yokoyama M²⁾, Asano G²⁾ (¹⁾Central Institute for EM Researches and Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School): Utility of Electron Microscopic Evaluation (EM) in Fine Needle Aspiration Cytology . XXIII International congress of THE INTERNATIONAL ACADEMY OF PATHOLOGUY and 14th World Congress of ACADEMIC AND INTERNATIONAL PATHOLOGY, 2000 . 10 .
- 4) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 澤田名美枝¹⁾, 孫 宇良¹⁾, 越野立夫²⁾, 十蔵寺新³⁾, 劉 愛民⁴⁾, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2, ²⁾多摩永山病院産婦人科, ³⁾東府中病院産婦人科, ⁴⁾中央電子顕微鏡研究施設): A SIMPLE CELL BLOCK METHOD FOR AN ENDOMETRIAL CYTOLOGY DIAGNOSIS . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 5) 前田昭太郎, 磯部宏昭, 片山博徳, 細根 勝, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): The utility of intraoperative rapid diagnosis by FNA cytology for pancreatic tumors : Tow point puncture method . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 6) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Wada K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Tsukui T¹⁾, Miyake K¹⁾, Akamatsu T¹⁾, Hosone M, Sakamoto C¹⁾, Kobayashi M¹⁾ (¹⁾3rd depart. of internal medicine): COX-2protects gastric mucosa against damage caused by NSAID in Helicobacter pylori-infected Mongolian gerbils . 第8回日本消化器関連学会, 2000 . 10 .
- 7) 細根 勝, 前田昭太郎, 澤田名美枝¹⁾, 片山博徳, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): びまん性心膜中皮腫の一部検例 : Pathologic and Radiologic Correlation . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 8) 劉 愛民¹⁾, 東 敬子, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎, 澤田名美枝²⁾, 孫 宇良²⁾, 淺野伍朗²⁾ (¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2): 穿刺吸引細胞診 (FNAC) における電顕の有用性 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 9) 澤田名美枝¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 山王なほ子²⁾, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2, ²⁾多摩永山病院脳神経外科): 側頭骨に発生した軟骨芽細胞腫の1例 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 10) 孫 宇良¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 澤田名美枝¹⁾, 片山博徳, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): 大量胸水を契機に、濾胞性からびまん性への移行が示唆されたB細胞性複合リンパ腫の1例 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 11) 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 磯部宏昭, 阿部久美子, 日吾美栄子, 淺野伍朗¹⁾, 山王直子²⁾, 山本英希³⁾ (¹⁾病理学第2, ²⁾多摩永山病院脳外科, ³⁾同外科): 縦隔悪性黒色腫の1例 . 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000 . 5 .
- 12) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): 血管免疫芽球形T細胞性リンパ腫の細胞像 : 捺印像と穿刺吸引像の比較 . 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000 . 5 .
- 13) 磯部宏昭, 細根 勝, 前田昭太郎, 原 博, 片山博徳, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 淺野伍朗¹⁾, 江上 格²⁾ (¹⁾病理学第2, ²⁾多摩永山病院外科): 腭尾部形成不全に発生したsolid and cystic tumorの1例 . 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000 . 5 .
- 14) 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎, 長島和郎²⁾, 寺本 明³⁾ (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾北海道大学医学部病理, ³⁾脳神経外科): 後頭蓋窩のMeningeal hemangiopericytomaの1例 . 第18回日本脳腫瘍病理学会, 2000 . 5 .
- 15) 寺本 忠¹⁾, 江上 格¹⁾, 飯田信也¹⁾, 佐々部一¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 前田昭太郎 (¹⁾多摩永山病院外科): 胃癌を合併した左腋窩異所性乳癌に1例 . 第8回日本乳癌学会総会, 2000 . 5 .
- 16) 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾脳神経外科): 側頭骨に発生したchondroblastomaの1例 . 第41回日本神経病理学会総会, 2000 . 6 .

- 17) 東 敬子, 前田昭太郎, 山本英希¹⁾, 江上 格¹⁾, 山王直子²⁾, 志村俊郎²⁾, 森 修³⁾, 劉 愛民⁴⁾, 淺野伍朗⁴⁵⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同脳神経外科, ³⁾千葉北総病院病理部, ⁴⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁵⁾病理学第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕の検索を中心として. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 18) 菅野華子¹⁾, 淺野伍朗²⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 飯田信也³⁾, 江上 格³⁾ (¹⁾医学部4年, ²⁾病理学第2, ³⁾多摩永山病院外科): 乳腺腫瘍に対する針生検 (core needle biopsy) の役割. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 19) 劉 愛民¹⁾, 淺野伍朗²⁾, 横山宗伯²⁾, 内藤善哉²⁾, 小黒辰夫³⁾, 東 敬子, 前田昭太郎 (¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2, ³⁾千葉北総病院病理部): 電顕検索の併用が有用であった穿刺吸引細胞診の症例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 20) 前田昭太郎, 東 敬子, 山王なほ子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 劉 愛民²⁾, 淺野伍朗³⁾ (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾病理学第2): Solitary fibrous tumor と考えられる後頭蓋窩腫瘍の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 21) 細根 勝, 前田昭太郎, 小林由子¹⁾, 長澤紘一²⁾, 淺野伍朗³⁾ (¹⁾多摩永山病院放射線科, ²⁾同内科, ³⁾病理学第2): Radiologic-Pathologic correlation による心膜中皮腫剖検例の解析. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 22) 東 敬子, 前田昭太郎, 山本英希¹⁾, 江上 格¹⁾, 山王直子²⁾, 志村俊郎²⁾, 森 修³⁾, 劉 愛民⁴⁾, 淺野伍朗⁵⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同脳神経外科, ³⁾千葉北総病院病理部, ⁴⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁵⁾病理学第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕の検索を中心として. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 23) 藤田千歳¹⁾, 矢野 侃¹⁾, 今村 洋²⁾, 古川清憲³⁾, 杉崎祐一⁴⁾, 前田昭太郎 (¹⁾荒川がん予防センター, ²⁾東京女子医大附属第二病院外科, ³⁾付属病院第1外科, ⁴⁾同病理部): 検診で発見された乳癌11例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 24) 三田俊二¹⁾, 神戸 仁¹⁾, 永野玲子¹⁾, 中井章人¹⁾, 佐々木茂¹⁾, 越野立夫¹⁾, 磯部宏昭, 東 敬子, 片山博徳 (¹⁾多摩永山病院産婦人科): Small cell neuroendocrine carcinoma と診断された外陰癌の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 25) 澤田名美枝¹⁾, 淺野伍朗¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 孫 宇良¹⁾, 李 仙峰¹⁾, 片山博徳, 前田昭太郎 (¹⁾病理学第2): Solitary fibrous tumor (SFT) と Hemangiopericytoma (HPC) の臨床病理学的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 26) Sun Y¹⁾, Asano G¹⁾, Naito Z¹⁾, Sawada N¹⁾, Li X¹⁾, Katayama H, Maeda S (¹⁾The Second Department of Pathology): Immunohistochemical Study in Benign and Malignant Solitary Fibrous Tumor. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 27) 片山博徳, 前田昭太郎, 横山宗伯¹⁾, 淺野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2): 細胞診における国際交流. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 28) 山崎道生¹⁾, 金澤隆三郎¹⁾, 山王直子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 細根 勝, 前田昭太郎 (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾付属病院脳神経外科): 側頭骨に発生した chondroblastoma の1治験例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 29) 劉 愛民¹⁾, 東 敬子, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎, 横山宗伯²⁾, 内藤善哉²⁾, 淺野伍朗²⁾ (¹⁾日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾同病理学第2): 穿刺吸引細胞診材料に対する電顕の検索が有用であった原発性副腎皮質癌の1例. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000. 9.
- 30) 前田昭太郎, 東 敬子, 山王直子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 劉 愛民²⁾, 淺野伍朗³⁾ (¹⁾多摩永山病院脳神経外科, ²⁾中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾病理学第2): 後頭蓋窩の hemangiopericytoma : like tumor の1例. 第32回日本電

子臨床顕微鏡学会総会，2000．9．

- 31) 松久威史¹⁾，日下部史郎¹⁾，前田昭太郎，山田宣孝²⁾(¹⁾多摩永山病院内視鏡科，²⁾病理学第2): *Helicobacter pylori*除菌後にみられる食道，胃，十二指腸病変の観察．第16回胃炎研究会，2000．11．
- 32) 細根 勝：Core Needle Biopsyが有用であった乳腺原発悪性リンパ腫の1例．第7回多摩乳腺懇話会，2000．11．
- 33) 中村慶春¹⁾，江上 格¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，和田雅世¹⁾，飯田信也¹⁾，藤田逸郎¹⁾，鈴木成治¹⁾，寺本 忠¹⁾，小栗剛¹⁾，細根 勝，前田昭太郎，恩田昌彦²⁾(¹⁾多摩永山病院外科，²⁾外科学第1): 不明熱により発症した胆嚢腺扁平上皮癌の1例．第62回臨床外科学会，2000．11．
- 34) 三田俊二¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，磯部宏昭，東 敬子(¹⁾多摩永山病院産婦人科): 外陰部より発生したSmall cell Neuroendocrine carcinomaの1例．第39回日本臨床細胞学会秋期大会，2000．11．
- 35) 日下部史郎¹⁾，芳村昇治¹⁾，井上泰夫¹⁾，松久威史¹⁾，前田昭太郎(¹⁾多摩永山病院内視鏡科): プロトンポンプ・インヒビターの投与により*Helicobacter pylori*偽陰性を示した胃潰瘍例の検討．日本医科大学医学会第102回例会，2000．12．

(6) 追加分スライドカンファレンス：

- 1) 前田昭太郎：子宮体癌．日本臨床細胞学会東京支部第18回学術集会，1999．6．

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は，臨床検査学の進歩のなかで，新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し，新検査法の実現を追っている．また，日常の臨床検査全体の精度管理，検査方法および迅速測定を実施し，各種の検査における臨床との関連を見つつ，質の向上と検査測定法の確立を目指している．

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著：

- 1) 萩原利彦¹⁾，高本雄治²⁾，柴田明佳，沼田千鶴¹⁾，小林正幸³⁾，菅野重治⁴⁾(¹⁾麻布大学環境保健学部，²⁾サッポロビールプラント事業部，³⁾第一精密開発部，⁴⁾千葉大学医学部): 画像処理を用いた発育終末点の新しい判定法．日化療会誌 1998；46(3): 107-111．

(1) 原著：

- 1) 柴田明佳，田所久子，鈴木純子，佐藤知枝，池野廣幸，鈴木 健，萩原利彦¹⁾，福山正文²⁾(¹⁾麻布大学獣医学部基礎科学部門，²⁾麻布大学環境保健学部微生物部門): 酵母様真菌選択分離培地の有用性．医学検査 2000；49(5): 808-813．

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 中澤 宏，渡部百合子，恩田怜子，池野廣幸，鈴木 健：巨大血小板を呈したITPの血小板直径曲線．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
- 2) 鈴木純子，柴田明佳，真下 恵，佐藤知枝，菊地英子，池野廣幸，鈴木 健：抗酸菌検査法の検討(塗抹，培養法およびPCR法について)．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 3) 柴崎敬乃¹⁾, 山田光輝¹⁾, 柴田明佳⁽¹⁾ (多摩永山病院麻酔科): 脊椎麻酔針への表皮常在菌付着はあるか. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 4) 井口輝彦, 浅井信治, 手塚尚美, 相澤泰与, 恩田怜子, 池野廣幸, 鈴木 健: 第三世代のHCV抗体試薬における判定保留例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 5) 佐藤綾子, 井上一夫, 久保田稔, 田所久子, 手島浩恵, 杉原秀人, 水谷行伸, 酒井貴史, 佐藤寛之, 池野廣幸, 鈴木 健, 沖濱裕司, 松田 健: 腓頭部に仮性嚢胞を伴った慢性腓炎の1例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 6) 井上 淳, 菅野由紀, 藤木直美, 相澤 正, 徳原美子, 池野廣幸, 鈴木 健: 総IgE値/特異IgE値乖離例の検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 7) 徳原美子, 井上 淳, 菅野由紀, 藤木直美, 相澤 正, 池野廣幸, 鈴木 健: 糖尿病検査項目自動分析機「DM-JACK」の基礎的検討. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.

[多摩永山病院薬剤科]

研究概要

病院薬剤師は医療の担い手として位置づけられ、医療チームの一員として医薬品の適正使用及び患者のQOL向上の推進に努めている。当薬剤科としてもそれらの役割を遂行することを目標として研究、努力している。その中で、薬剤管理指導業務において患者の薬の理解度チェック表を考案しその理解度に応じた薬の説明を行うなど医薬品の適正使用を研究テーマとして研究、発表を行った。また内科の協力を得て薬剤師による喘息外来を実施し多くの患者のQOL向上に寄与するとともに薬科大学と共同してQOL向上、医薬品の適正使用に関する研究、発表を行った。

現在、病院薬剤師は人員配置基準などにより厳しい環境にある中、これらの研究を通して医療チームの一員として診療に貢献することが出来るよう努力していきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 宿前貴子: 第3番目のヒスタミン受容体(H₃receptor)へのアプローチ. 都薬雑誌 2000; 22(5): 4-10.
- 2) 宿前貴子: ポルフィリン症患者と薬. カレントセラピー 2000; 18(7): 183-186.
- 3) 堀川佳津美, 村田和也, 佐々木茂¹⁾, 越野立夫¹⁾, 鈴木 健²⁾, 長澤紘一²⁾, 平田清貴³⁾ (¹⁾産婦人科学, ²⁾内科学, ³⁾付属病院薬剤科): 更年期障害におけるベンゾジアゼピン系薬剤の適正使用. 日本病院薬剤師会雑誌 2001; 37(1): 55-58.
- 4) 伊藤淳雄, 松平健平¹⁾, 朝倉俊成²⁾, 亀井淳三³⁾, 村田正弘⁴⁾ (¹⁾東京都済生会糖尿病臨床研究センター, ²⁾大田西ノ内病院薬剤部, ³⁾星薬科大学, ⁴⁾明治薬科大学): 脳梗塞を伴う薬物理解の低い患者に関する1症例の検討. Pharm D 2001; 3(2): 36-44.

(2) 総説:

- 1) 亀山明美, 藤中祐美子, 村田和也: 気管支喘息治療薬と患者への医薬品情報提供. 薬局 2000; 51(10): 2195-2210.
- 2) 伊藤淳雄, 村田和也: 糖尿病治療薬. 薬局 2000; 51(11): 2386-2410.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 亀山明美, 藤中祐美子, 木本陶子, 稲葉育弘, 伊藤淳雄, 村田和也: 当院入院患者に対する薬剤管理指導業務

- における処方理解度に関する考察．第8回クリニカルファーマシーシンポジウム，2000．7．
- 2) 藤中祐美子，澤井規己，亀山明美，伊藤淳雄，村田和也，雪吹周生¹⁾，鈴木 健¹⁾，長澤紘一¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科)：当院内科外来における成人気管支喘息患者に対する教育指導マニュアルの実践とその成果に関する考察．第8回クリニカルファーマシーシンポジウム，2000．7．
 - 3) 高田雅史，木本陶子，畝本賜男，伊藤淳雄，村田和也，小栗 剛¹⁾，寺本 忠¹⁾，江上 格¹⁾，吉岡正智¹⁾(¹⁾多摩永山病院外科)：炎症性腸疾患に対する5-Aminosalicylic acid (5-ASA) 製剤の効果．日本病院薬剤師会関東ブロック第30回学術大会，2000．8．
 - 4) 伊藤淳雄，村田和也：脳梗塞を伴う薬物理解の低い老患者に関する症例報告．Pharm D 糖尿病カンファレンス，2000．8．
 - 5) 成田延幸¹⁾，村山純一郎¹⁾，明石貴雄¹⁾，西谷篤彦¹⁾，鷲見正宏¹⁾，阿部和史¹⁾，並木徳之¹⁾，小清水美千子¹⁾，佐伯康弘¹⁾，豊川志保子¹⁾，中山博幸¹⁾，橋本ひろ美¹⁾，前 彰¹⁾，村田和也，吉尾 隆¹⁾，平野公晟，八木下将也，細田順一(¹⁾東京都病院薬剤師会第二教育研修部)：薬学生4週間実習を実施して：各施設での取り組み方について．日本病院薬剤師会関東ブロック第30回学術大会，2000．8．
 - 6) 亀山明美，藤中祐美子，木本陶子，稲葉育弘，伊藤淳雄，村田和也：薬剤管理指導施行患者における服薬指導のあり方に関する考察．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 7) 藤中祐美子，澤井規己，亀山明美，伊藤淳雄，村田和也，雪吹周生¹⁾，鈴木 健¹⁾，長澤紘一¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科)：薬剤師による成人気管支喘息への教育指導．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 8) 富岡勝世，宿前貴子，村田和也：DTPによる適正使用のための冊子の自製．第10回日本病院薬学会，2000．10．
 - 9) 澤井規己，藤中祐美子，亀山明美，伊藤淳雄，村田和也，雪吹周生¹⁾，長澤紘一¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科)：薬剤師による喘息外来教育指導の試みとその成果．第10回日本病院薬学会，2000．10．
 - 10) 村田和也，村山純一郎¹⁾，明石貴雄¹⁾，西谷篤彦¹⁾，鷲見正宏¹⁾，阿部和史¹⁾，並木徳之¹⁾，小清水美千子¹⁾，佐伯康弘¹⁾，豊川志保子¹⁾，中山博幸¹⁾，成田延幸¹⁾，橋本ひろ美¹⁾，前 彰¹⁾，吉尾 隆¹⁾，平野公晟，八木下将也，細田順一(¹⁾東京都病院薬剤師会第二教育研修部)：薬学生4週間実習を実施して(4)：東京都病院薬剤師会の取り組み方について．第10回日本病院薬学会，2000．10．
 - 11) 亀山明美，藤中祐美子，木本陶子，稲葉育弘，伊藤淳雄，村田和也：入院患者に対する治療薬理解度におけるQOL向上の検討．第2回薬物療法QOL研究会学術大会，2001．1．
 - 12) 藤中祐美子，澤井規己，亀山明美，伊藤淳雄，村田和也，雪吹周生¹⁾，鈴木 健¹⁾，長澤紘一¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科)：薬剤師による外来成人気管支喘息患者に対するQOL向上の検討．第2回薬物療法QOL研究会学術大会，2001．1．
 - 13) 森田茂英¹⁾，雪吹周生²⁾，村田和也，鈴木 健²⁾，新 博次²⁾，長澤紘一²⁾，寺沢孝明¹⁾(¹⁾東京薬科大学大学院総合医療薬学講座，²⁾多摩永山病院内科)：狭心症患者の薬物治療とQOL；PCI・CABGの既往の有無による相違．第35回日本成人病学会，2001．1．
 - 14) 横田修一¹⁾，雪吹周生²⁾，村田和也，長澤紘一²⁾，池田俊也³⁾，坂巻弘之³⁾，寺沢孝明¹⁾(¹⁾東京薬科大学大学院総合医療薬学講座，²⁾多摩永山病院内科，³⁾慶應大学)：気管支喘息の自己管理における薬剤師の指導効果．日本薬学会第121年回，2001．3．
 - 15) 森田茂英¹⁾，雪吹周生²⁾，畝本賜男，伊藤淳雄，宿前貴子，村田和也，長澤紘一²⁾，寺沢孝明¹⁾(¹⁾東京薬科大学大学院総合医療薬学講座，²⁾多摩永山病院内科)：外来狭心症患者のQOLと薬物療法；PCI・CABGに既往の有無による相違：薬剤師の患者指導の評価も含めて．日本薬学会第121年回，2001．3．

[多摩永山病院看護部]

研究概要

- 1) リスク管理下におけるリハビリテーションの実施により、関節拘縮を起こさず、患者の残存機能の低下予防を実証した。
- 2) 気管切開中の患者において、気圧、湿度の著しい環境変化に対しスクウィーミング、加湿により対応できた症例を報告した。
- 3) 低体温療法を実施する場合、設定温度に患者体温、室温が与える影響を調査した。
- 4) 3次救急施設における効果的な災害訓練を実施する為に必要な条件を検討した。
- 5) 受持ち看護婦は患者の退院についてどのようにかかわっているのか、また、退院指導に関わる看護婦と患者との認識の違いを明らかにした。
- 6) 整形外科の分野における患者の訴えの内容と、本当の患者の思いを知る手がかりを得る為に調査を行い示唆を得ることができた。
- 7) シムス位が背側肺障害の改善にどのような効果があるか、また、その予防的効果の有無について検証した。

研究業績

著書

- 1) 本多広子, 小林信子, 佐々木亜希, 松本富美子, 松本ふきこ, 塩津正巳, 緋田雅美, 野口 素: 背側肺障害の予防と改善における前方45°シムス位の有効性. ハートナーシング, 2000; pp39-43, メディカ出版。

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 塩津正巳, 緋田雅美, 野口 素, 富岡譲二¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 野手洋治²⁾, 二宮宣文²⁾, 山本保博²⁾
(¹⁾多摩永山病院救命救急センター, ²⁾附属病院救命救急センター): スクウィーミング, 人工鼻加湿が有用であった長時間航空機搬送の1経験例. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 2) 後藤 円, 森園英子, 岩瀬絵利子, 石ヶ森重之, 緋田雅美, 野口 素: 低体温療法の体温コントロールにおける適性ブランケット温と室温の検討. 第49回日本救急医学会関東地方会, 2000. 6.
- 3) 黒石多佳子, 山村有紀子, 小島知子, 猪股宏美: 整形外科患者における不満の訴えにひそむ本質的問題の分析. 第31回日本看護学会: 成人看護II, 2000. 8.
- 4) 佐藤明美, 後藤由香, 植田友美, 中山かすみ, 阿部清美: 高齢者の退院指導 看護者・患者間の受け止め方の相違に関する調査. 第31回日本看護学会, 老人看護, 日本看護協会, 2000. 10.
- 5) 山本裕之, 石ヶ森重之, 石川秀一, 塩津正巳, 野口 素, 島田 靖¹⁾, 横田裕行¹⁾, 黒川 顕¹⁾: 3次救急施設のNsからみた災害シュミレーションの必要性を考える. 第2回日本救急看護学会, 2000. 11.
- 6) 佐々木愛, 後藤 円, 森迫いずみ, 熊谷真青吏, 塩津正巳, 緋田雅美, 野口 素: 急性期におけるリハビリテーションの有効性. 第50回日本救急医学会関東地方会, 2001. 2.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院内科]

研究概要

内科4教室から医局員の派遣を受け、臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌及び呼吸器疾患とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では、虚血性心疾患が中心、心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡、血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価、再狭窄の機序を研究中である。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断及び肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では、CT、MRI検査による各種筋疾患の経時変化、治療効果の検討、及び電気生理検査による中枢、末梢神経疾患の定量的評価、検討を行っている。

腎臓では、蛋白尿から急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食堂蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

内分泌では、甲状腺を中心にFGFとの関連を研究している。

呼吸器では、肺癌に対する併用療法、及び各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析、検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kishida T¹⁾, Yonezawa M, Shibata Y, Tanaka S, Shinozawa I, Hoshino T, Tatsuguti A, Feng L, Sato J, Fujimori S, Yoshida Y, Sakamoto C, Kobayashi M (¹⁾ Third dept. of int. med., Nippon medical school): Risk of colorectal cancer in patients with hematologic disease . J. Gastroenterol Hepatol 2000 ; 15 : 1272-1276 .
- 2) Mizuno K, Sakai S, Yokoyama S, Ohba T, Uemura R, Seimiya Y, Takano M, Tanabe J, Tomimura M, Imaizumi T, Ma SM, Inami S, Okamoto K, Hata N : Percutaneous transluminal angioplasty during coronary intervention . Diagnostic and Therapeutic Endoscopy 2000 ; 7 (11) : 15-20 .
- 3) Emoto N, Shimizu K, Onose H, Ishii S, Sugihara H, Wakabayashi I : A subpopulation of fibroblast growth factor-2-binding heparan sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas . Thyroid 2000 ; 10 (10) : 843-849 .
- 4) 岡島史宣, 江本直也, 石井新哉, 小野瀬裕之, 榎原善之, 吉澤雅史, 若林一二, 横山真也, 水野杏一, 今泉孝敬, 田中啓治¹⁾(¹⁾ 付属病院集中治療室): 心不全と高度肝機能障害を呈し甲状腺クリーゼと考えられた1例 . 医学と薬学 2000 ; 44 (2) : 265-269 .
- 5) 高野雅充, 水野杏一 : 急性心筋梗塞に対する冠動脈ステント留置直後に no reflow 現象をきたし、その診断に血管内視鏡が有用であった1例 . The Circulation Frontier 2000 ; 4 (4) : 54-57 .
- 6) 琴寄 誠¹⁾, 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 小林正文¹⁾(¹⁾ 内科第3): 食事中につかえ感を訴える患者の食道運動異常について . 日平滑筋会誌 2000 ; 4 (2) : J43-J46 .

- 7) 酒井俊太, 水野杏一: 血管内視鏡: 血管内超音波法. 循環器専門医 2000 ; 17 (4): 13-18 .
- 8) 掃部弘行, 品田卓朗, 小原俊彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 田中啓治¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 川群抗不整脈薬塩酸ニフェカランが急性心筋梗塞患者の血行動態に及ぼす影響. 心臓 2000 ; 32 (5): 124-130 .
- 9) 日野光紀¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 杣 知行¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 本橋典久¹⁾, 真崎義隆¹⁾, 五味渕誠¹⁾, 工藤翔二²⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器センター, ²⁾内科第4): 急性呼吸不全患者に対する人工呼吸器装着下気管支肺胞洗浄法の有用性と安全性について. 気管支 2001 ; 23 (1): 15-23 .

(2) 症例報告:

- 1) 杣 知行¹⁾, 竹田雄一郎¹⁾, 秋山佳子¹⁾, 鈴木直仁¹⁾, 川田 博¹⁾, 鈴木恒雄¹⁾, 三輪哲義²⁾, 那須道世³⁾, 工藤宏一郎¹⁾(¹⁾国立国際医療センター呼吸器科, ²⁾同血液内科, ³⁾同病理科): 肺水腫による急性呼吸不全で発症したPrimary macroglobulinemiaの1例. 日呼吸学誌 2000 ; 38 (7): 518-525 .
- 2) 杣 知行¹⁾, 竹田雄一郎¹⁾, 田辺正樹¹⁾, 秋山佳子¹⁾, 鈴木恒雄¹⁾, 矢野 真²⁾, 稲垣敬三²⁾, 森田豊彦³⁾, 原敏彦⁴⁾, 工藤宏一郎¹⁾(¹⁾国立国際医療センター呼吸器科, ²⁾同呼吸器外科, ³⁾同病理科, ⁴⁾同放射線科核医学): 肺多発性病変の診断に18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomographyが有用であった1症例. 日呼吸学誌 2000 ; 38 (11): 854-859 .

(3) 総説:

- 1) 上原隆志¹⁾, 御子柴路朗²⁾, 太田雅嗣²⁾, 森真由美²⁾, 桂 秀樹¹⁾, 山田浩一¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 荒木健彦¹⁾, 後藤里江¹⁾, 木田厚瑞¹⁾, 江崎行芳³⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科, ²⁾同血液内科, ³⁾同病理部): 肺結核後の慢性膿胸に合併した非ホジキン悪性リンパ腫の1例. THE LUNG perspectives 2000 ; 8 (2): 140-144 .
- 2) 高野雅充, 水野杏一: 冠動脈疾患合併症時の治療. 治療 2000 ; 82 (5): 136 (1608) -140 (1612) .
- 3) 水野杏一: 急性冠症候群: 国際的視野に立った展望. Mebio 2000 ; 17 (7): 90-91 .
- 4) 栗田 明¹⁾, Chaitman BR²⁾, 水野杏一, 藤田正俊, 高瀬凡平¹⁾(¹⁾防衛医科大学, ²⁾セントルイズ大学): 21世紀における虚血性心疾患の治療戦略. Mebio 2000 ; 17 (7): 100-103 .
- 5) 水野杏一: 心臓病治療の最前線. Heart Net 2000 ; 8 (10): 1-3 .
- 6) 後藤里江¹⁾, 桂 秀樹¹⁾, 山田浩一¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 荒木健彦¹⁾, 上原隆志¹⁾, 木田厚瑞¹⁾, 江崎行芳²⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科, ²⁾同病理部): 慢性関節リウマチの経過中に発症した高齢者サルコイドーシスの1剖検例. THE THE LUNG perspectives 2000 ; 8 (4): 418-424 .
- 7) 岡松健太郎, 水野杏一: 心血管インターベンションをガイドするC. 心血管内視鏡. Heart View 2000 ; 4 (12): 20 (1324) -24 (1328) .
- 8) 上原隆志¹⁾, 木田厚瑞¹⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科): 慢性閉塞性肺疾患とびまん性汎細気管支炎. Medicina 2001 ; 38 (2): 323-327 .
- 9) 水野杏一: 心臓財団虚血性心疾患セミナー: 冠動脈内視鏡. HEART 心臓 2001 ; 33 (3): 253-254 .
- 10) 掃部弘行, 畑 典武, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 急性心筋梗塞による急性肺水腫: 肺水腫発生のメカニズムと呼吸管理について. 救急・集中治療 2001 ; 13 (3): 310-316 .
- 11) 大場崇芳, 水野杏一: 血管内視鏡の適応と問題点: 冠動脈に対する血管内腔所見. 医学のあゆみ 2001 ; vol. 197 (5): 443-449 .
- 12) 掃部弘行, 水野杏一: ACSのRisk Stratification: 急性冠症候群における危険度の階層化. Heart View 2001 ; 5 (6): 32 (720) -37 (725) .
- 13) 横山真也, 水野杏一: 局在病変を観察する: 治療で何が変わったか. Heart View 2001 ; 5 (2): 18 (178) -26 (183) .
- 14) 水野杏一: 新しい方法による動脈硬化診断. 循環器疾患-state of arts- (別冊, 医学のあゆみ) 2001 ; Ver. 2 : 325-327 .

著 書

- 1) 水野杏一：〔自著〕冠攣縮と冠血管モデリング．医学のあゆみ 別冊（三浦 傳，矢部喜正），2000；pp84-87，医歯薬出版．
- 2) 葉山修陽：〔分担〕血小板機能 腎と透析．慢性腎不全のすべて-2000 vol 49，2000；pp705-707，東京医学社．
- 3) 日野光紀¹⁾，工藤翔二²⁾（¹⁾千葉北総病院呼吸器センター，²⁾内科第4）：〔共著〕老人医療呼吸器疾患肺癌．看護のための最新医学講座，2001；pp270-274，中山書店．

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 高野雅充，酒井俊太，平澤泰宏，田邊 潤，稲見茂信，掃部弘行，清宮康嗣，大場崇芳，横山真也，富村正登，小倉宏道，今泉孝敬，草間茂樹，山内茂生，水野杏一：冠動脈インターベンション後のプラークの安定化．6回日本血管内治療学会総会，2000．7．
- 2) 水野杏一：内視鏡で動脈硬化を診る．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 3) 横山真也，酒井俊太，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，富村正登，上村竜太，水野杏一：冠動脈インターベンションにおける血管内視鏡の寄与．14回日本心臓血管内視鏡学会，2000．10．
- 4) 水野杏一：虚血性心疾患に対するレーザーを含む血管内治療．21回日本レーザー医学会総会，2000．11．
- 5) 高野雅充，酒井俊太，岡松健太郎，清宮康嗣，掃部弘行，横山真也，大場崇芳，富村正登，上村竜太，馬 淑梅，畑 典武，水野杏一：血管内視鏡による冠動脈インターベンション時合併症の予測とその対策．脈管学会，2000．11．

(2) パネルディスカッション：

- 1) 畑 典武，今泉孝敬，田中啓治¹⁾，草間芳樹，小原俊彦，大場宗芳，掃部弘行，品田卓朗，高野照夫¹⁾，水野杏一（¹⁾内科第1）：economy class syndromeの集中治療と長期予後．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 2) 水野杏一：急性冠症候群の病態と化学迅速診断法：急性冠症候群の病態について．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．

(3) セミナー：

- 1) 水野杏一：血管内視鏡からみた不安定プラーク．28回日本救急医学会総会，2000．11．

(4) 一般講演：

- 1) Ono Y¹⁾，Hibino S²⁾，Sibuya M²⁾，Kudoh S²⁾（¹⁾千葉北総病院呼吸器センター，²⁾内科第4）：Relationship between integrins and organ-specific metastasis in a highly metastatic lung cancer cell line．9th World Conference on Lung Cancer (Tokyo, Japan)，2000．9．
- 2) Ma S，Ohba T，Sakai S，Tomimura M，Yokoyama S，Inami S，Takano M，Tanabe J，Hirasawa Y，Uemura R，Ino T，Seimiya K，Imaizumi T，Hata N，Mizuno K：The importance of hypertension as a asymptomatic endothelial injury factor in．3rd China-Japan Jpint Hypertension Symposium (Beijing)，2000．10．
- 3) Emoto N，Onose H，Shimizu K¹⁾，Wakabayashi I（¹⁾Department of Surgery）：A subpopulation of FGF-2 binding heparan sulfate is lost in human papillary thyroid carcinomas．12th International Thyroid Congress (Kyoto)，2000．10．
- 4) Mizuno K，Inami S，Sakai S，Yokoyama S，Ohba T，Seimiya K，Takano M，Tanabe J，Tomimura M，Ma SM，Hata N，Ino T：Diabetes mellitus and hypertension are important clinical determinants of silent plaque disruption．AHA Scientific sessions 2000 (New Orleans)，2000．11．

- 5) Takano M, Mizuno K, Uemura R, Tomimura M, Yokoyama S, Ohba T, Seimiya K, Okamatu K : Coronary Artery Distensibility and Plaque Disruption . American College of Cardiology (Orlando, USA), 2001 . 3 .
- 6) Yokoyama S, Mizuno K, Okamatu K, Seimiya K, Takamo M, Ohba T, Tomimura M, Uemura R, Ino T : How Long Should We Antiplatelet Agents in Emergent Stenting of Acute Myocardial Infarction? . American College of Cardiology (Orlando, USA), 2001 . 3 .
- 7) Ohba T, Mizuno K, Seimiya K, Takano M, Yokoyama S, Uemura R, Sakai S, Kusama Y, Ino T, Hata N, Shinada T, Hiarasawa Y, Tanabe J, Tajika K, Kamon H : Acute Coronary Syndrome Is Not Local Vascular Accident, but Pan-Coronary Process . American College of Cardiology (Orlando, USA), 2001 . 3 .
- 8) Okamatu K, Seimiya K, Kamon H, Yokoyama S, Ohba T, Tomimura M, Uemura R, Ma S, Sakai S, Hata N, Mizuno K : Mechanical characteristics of vulnerable plaques : comparison of distensibility between yellow and white plaques . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 9) Takano M, Okamatu K, Seimiya K, Kamon H, Yokoyama S, Ohba T, Tomimura M, Uemura R, Ma S, Sakai S, Hata N, Mizuno K : Why does positive remodeling of coronary artery induce unstable clinical presentations? . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 10) Ma S, Miura H, Toyota T, Olamatu K, Kamon H, Takano M, Seimiya K, Yokoyama S, Ohba T, Hata N, Mizuno K : The importance of Hypertension as an Asymptomatic PlaqueRupture Factor in Acute Coronary Syndrome (ACS) Patients . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 11) Sano J, Mizuno K, Inami S, Okamatu K, Sakai S : Effects of green tea intake on prevention of coronary artery disease . The 65th Scientific Meeting the Japanese Circulation Society , 2001 . 3 .
- 12) 高野雅充, 酒井俊太, 田邊 潤, 平澤康宏, 稲見茂信, 清宮康嗣, 掃部弘行, 大場崇芳, 横山真也, 富村正登, 小林利行, 小倉宏道, 今泉孝敬, 水野杏一: 黄色プラークは脆弱か? プラークの色調によるPTCA後の内膜障害の差: 血管内視鏡による検討 . 64回日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 13) 酒井俊太, 田邊潤, 平澤康宏, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 小林利行, 小倉宏道, 水野杏一, 品田卓郎, 掃部弘行, 今泉孝敬, 田中啓治¹⁾(¹⁾ 付属病院集中治療室): 冠動脈インターベンションにおける血管内視鏡施行の寄与 . 64回日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 14) 横山真也, 酒井俊太, 平澤康宏, 田邊 潤, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 富村正登, 小林利行, 小倉宏道, 掃部弘行, 今泉孝敬, 水野杏一: 梗塞部と非梗塞部におけるステント留置部の新生内膜被覆過程の差異 . 64回日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 15) 酒井俊太, 水野杏一: 診断 血管内視鏡・血管内超音波法 . 64回日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 16) 清宮康嗣, 酒井俊太, 品田卓郎, 今泉孝敬, 草間芳樹, 田邊 潤, 平澤康宏, 高野雅充, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 上村竜太, 小倉宏道, 井野 威, 水野杏一: 同一部位のPTCAおよびステント再狭窄にて急性冠症候群となった症例の血管内視鏡所見 . 16回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 2000 . 4 .
- 17) 琴寄 誠¹⁾, 岩切勝彦, 林 良紀, 石川久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 坂本長逸, 小林正文 (¹⁾ 内科第3): 健診受診者における胸やけに関する検討 . 第86回日本消化器病学会総会, 2000 . 4 .
- 18) 日野光紀¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 杣 知行¹⁾, 小俣雅念¹⁾, 田中庸介¹⁾, 本橋典久¹⁾, 堀江秀治¹⁾, 五味洸誠¹⁾, 葉山修陽²⁾, 工藤翔二³⁾(¹⁾ 千葉北総病院呼吸器センター, ²⁾ 院内感染症対策委員, ³⁾ 内科第4): 医療関係者に対するツベルクリン反応, BCG接種歴調査と二段階ツベルクリン反応の検討 . 第75回日本結核病学会総会, 2000 . 4 .
- 19) 杣 知行¹⁾, 日野光紀¹⁾, 本橋典久¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 五味洸誠¹⁾, 工藤翔二²⁾(¹⁾ 千葉北総病院呼吸器センター, ²⁾ 内科第4): BDPからフルチカゾン (FP) へ変更した喘息症例の呼吸機能と使用感の検討 . 第12回日本アレルギー学会春期臨床大会, 2000 . 4 .
- 20) 大園英一¹⁾, 栗原 怜²⁾, 小野田教高²⁾, 大和田一博²⁾, 櫻井祐成²⁾, 須賀 優²⁾, 葉山修陽³⁾, 飯野靖彦³⁾, 米

- 島秀夫²⁾(¹⁾春日部秀和クリニック,²⁾春日部秀和病院,³⁾日本医科大学腎臓内科): 末期腎不全患者におけるテロメア長の短縮. 第43回日本腎臓学会総会, 2000. 5.
- 21) 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸, 米澤真興, 柴田喜明, 田中 周, 篠沢 功, 佐藤 順, 吉田 豊, 坂本長逸¹⁾, 小林正文¹⁾(¹⁾内科第3): 大腸腺腫および大腸進行癌患者の平均赤血球容積を中心とした赤血球計数の検討. 第97回日本内科学会総会, 2000. 5.
- 22) 小俣雅稔¹⁾, 日野光紀¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 柚 知行¹⁾, 田中庸介¹⁾, 本橋典久¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 工藤翔二²⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器センター,²⁾内科第4): LIPを合併した皮膚筋炎の1例. 第139回日本呼吸器学会関東地方会, 2000. 5.
- 23) 谷口宏史, 井野 威, 加藤良人, 平澤康宏, 田邊 潤, 高野雅充, 清宮康嗣, 横山真也, 大場崇芳, 富村正登, 上村竜太, 小倉宏道, 酒井俊太, 水野杏一, 品田卓郎, 掃部弘行, 畑 典武, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 一過性に徐脈頻脈症候群様心電図を呈したhypereosinophilic syndromeの1例. 176回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000. 6.
- 24) 御園恒一郎¹⁾, 片山靖史¹⁾, 田口雪江¹⁾, 久島英二¹⁾, 阿部裕行¹⁾, 葉山修陽, 西村泰史¹⁾, 工廣紀斗司²⁾, 益子邦洋²⁾(¹⁾千葉北総病院血液浄化療法室,²⁾同救命救急センター): CHDF, エンドトキシン吸着併用療法により救命し得た広範囲な熱傷をきたした重症症例. 第45回日本透析医学会学術集会, 2000. 6.
- 25) 二俣 健, 岡島史宜, 楠 正典, 稲見光春, 三井啓吾, 橘美紀子, 檜原義之, 琴寄 誠, 小野瀬裕之, 藤森俊二, 吉沢雅史, 岸田輝幸: 直腸潰瘍, 直腸腔瘻を形成し, 出血性ショックを来した1例. 第70回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2000. 6.
- 26) 江本直也, 清水一雄¹⁾, 小野瀬裕之, 石井新哉, 杉原 仁, 若林一二(¹⁾外科第2): 甲状腺乳頭癌におけるFGF活性制御因子として作用するヘパラン硫酸の組成解析. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 27) 小野瀬裕之, 石井新哉, 江本直也, 清水一雄¹⁾, 若林一二(¹⁾外科第2): 甲状腺手術の血中FGF-2濃度と与える効果. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 28) 桂 秀樹¹⁾, 山田浩一¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 上原隆志¹⁾, 荒木健彦¹⁾, 後藤里江¹⁾, 木田厚瑞¹⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科): クリティカルパスを用いた包括的呼吸リハビリテーションプログラムの有効性に関する検討. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 29) 桂 秀樹¹⁾, 山田浩一¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 上原隆志¹⁾, 荒木健彦¹⁾, 後藤里江¹⁾, 若林律子¹⁾, 木田厚瑞¹⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科): 高齢者COPD患者のhealth-related quality of life評価におけるvisual analogue scaleによるQOLスコアの有用性に関する検討. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 30) 茂木 孝¹⁾, 後藤里江¹⁾, 荒木健彦¹⁾, 上原隆志¹⁾, 山田浩一¹⁾, 桂 秀樹¹⁾, 木田厚瑞¹⁾, 熊坂利夫¹⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科): 高齢者連続剖検肺による肺気腫と肺腫瘍の関連についての研究. 第42回日本老年医学会学術集会, 2000. 6.
- 31) 横山真也, 酒井俊太, 平澤泰宏, 田邊 潤, 稲見茂信, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 富村正登, 小倉宏道, 今泉孝敬, 草間茂樹, 山内茂生, 水野杏一: 血管内視鏡所見によるステント再狭窄予測の検討. 6回日本血管内治療学会総会, 2000. 7.
- 32) 大場崇芳, 酒井俊太, 品田卓郎, 平澤泰宏, 田邊 潤, 掃部弘行, 清宮康嗣, 高野雅充, 横山真也, 富村正登, 小倉宏道, 今泉孝敬, 草間茂樹, 山内茂生, 水野杏一: 糖尿病患者におけるステント留置後再狭窄の規定因子: 血管内エコーによる検討. 6回日本血管内治療学会総会, 2000. 7.
- 33) 日野光紀¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 柚 知行¹⁾, 田中庸介¹⁾, 本橋典久¹⁾, 鈴木淳子¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 真崎義隆¹⁾, 大秋美治²⁾, 益子邦洋³⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器センター,²⁾同病理部,³⁾同救命救急センター): 消化管出血が死因であった小細胞肺癌の二剖検例. 第九回東葛肺癌研究会, 2000. 7.
- 34) 日野光紀¹⁾, 小野 靖¹⁾, 小久保豊¹⁾, 柚 知行¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 本橋典久¹⁾, 鈴木淳子¹⁾, 真崎義隆¹⁾, 五味淵誠¹⁾, 大秋美治²⁾, 工藤翔二³⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器病センター,²⁾同病理部,³⁾内科第4):

- downhill esophageal varices の出血が死因であった肺小細胞癌の1剖検例．第142回日本肺癌学会地方会，2000．7．
- 35) 柚 知行¹⁾，日野光紀¹⁾，小野 靖¹⁾，小久保豊¹⁾，田中庸介¹⁾，小俣雅稔¹⁾，本橋典久¹⁾，松本¹⁾，五味淵誠¹⁾，工藤翔二²⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器センター，²⁾内科第4): MDSに発症した重症レジオネラ肺炎の1例．第140回日本呼吸器学会関東地方会，2000．7．
- 36) 荒木健彦¹⁾，桂 秀樹¹⁾，山田浩一¹⁾，茂木 孝¹⁾，上原隆志¹⁾，後藤里江¹⁾，木田厚瑞¹⁾(¹⁾東京都老人医療センター呼吸器科): 後期高齢者サルコイドーシスの3例．第140回日本呼吸器学会関東地方会，2000．7．
- 37) 大場崇芳，酒井俊太，田邊 潤，平澤泰宏，高野雅充，清宮康嗣，横山真也，富村正登，上村竜太，井野 威，畑 典武，水野杏一: 糖尿病患者におけるステント留置後再狭窄の規定因子: 血管内エコーによる検討．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 38) 馬 淑梅，大場崇芳，酒井俊太，富村正登，横山真也，稲見茂信，高野雅充，田邊 潤，平澤康宏，上村竜太，井野 威，清宮康嗣，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一: 無症候性プラーク崩壊における糖尿病，高血圧の重要性．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 39) 高野雅充，田邊 潤，平澤泰宏，清宮康嗣，横山真也，大場崇芳，富村正登，上村竜太，酒井俊太，井野 威，水野杏一: 急性冠症候群の責任冠動脈になぜPositive Remodelingが多いのか?: 血管内超音波ならびに血管内視鏡による検討．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 40) 掃部弘行，畑 典武，水野杏一，緒方憲一¹⁾，田中啓治¹⁾，清野精彦¹⁾，高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1): 急性心筋梗塞に対するステント留置後の効果: 血管内視鏡による内膜の経時的観察におけるH-FABP高値遷延症例の臨床像と予後に関する検討．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 41) 横山真也，酒井俊太，田邊 潤，平澤泰宏，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，富村正登，上村竜太，井野 威，水野杏一: AMI急性期のステント留置後の抗血小板療法はいつまで必要か?．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 42) 田邊 潤，酒井俊太，平澤康宏，高野雅充，清宮康嗣，大場崇芳，横山真也，富村正登，上村竜太，井野 威，今泉孝敬，畑 典武，水野杏一: 急性心筋梗塞に対するステント療法遠隔期心事故減少の機序: 冠動脈内膜の経時的観察による検討．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 43) 森山 岳¹⁾，小野 靖¹⁾，日野光紀¹⁾，小久保豊¹⁾，田中庸介¹⁾，小俣雅稔¹⁾，本橋典久¹⁾，五味淵誠¹⁾，葉山修陽³⁾，大秋美治²⁾(¹⁾千葉北総病院呼吸器センター，²⁾同病理部，³⁾同腎臓内科): MPO-ANCA陽性びまん性肺出血の3例．第10回千葉膠原病研究会，2000．9．
- 44) 横山真也，水野杏一，荒井恒憲，宮本 明，宮原健吾¹⁾(¹⁾京都埋蔵研究所): 冠動脈内視鏡の色彩的考察．14回日本心臓血管内視鏡学会，2000．10．
- 45) 清宮康嗣，平澤康宏，田邊 潤，三浦洋司，豊田孝志，馬 淑梅，高野雅充，大場崇芳，横山真也，富村正登，上村竜太，今泉孝敬，井野 威，畑 典武，水野杏一: 無症候性プラーク崩壊の血管内視鏡および臨床的特徴．14回日本心臓血管内視鏡学会，2000．10．
- 46) 横山真也，水野杏一，荒井恒憲，宮本 明，宮原健吾¹⁾(¹⁾京都埋蔵研究所): 冠動脈内視鏡の色彩的考察．14回日本心臓血管内視鏡学会，2000．10．
- 47) 江本直也，清水一雄¹⁾，小野瀬裕之，若林一二(¹⁾外科第2): 甲状腺乳頭癌におけるFGF活性制御因子として作用するヘパラン硫酸の組成変化とFGF-2の動員．第59回日本癌学会総会，2000．10．
- 48) 小野田教高¹⁾，栗原 怜¹⁾，大和田一博¹⁾，櫻井祐成¹⁾，大園英一¹⁾，須賀 優¹⁾，米島秀夫¹⁾，葉山修陽(¹⁾春日部秀和病院腎臓内科): ネフローゼ状態が自然軽快したIgA腎症の1例．第30回日本腎臓学会東部学術大会，2000．11．
- 49) 王 恒維，森 貴博²⁾，大沢弘和¹⁾，清水 章²⁾，葉山修陽，飯野靖彦¹⁾(¹⁾内科第2，²⁾病理第1): 膜性腎症にIgA腎症が合併したと考えられた1例．第30回日本腎臓学会東部学術大会，2000．11．
- 50) 栗原 怜¹⁾，小野田教高¹⁾，櫻井祐成¹⁾，大和田一博¹⁾，須賀 優¹⁾，大園英一¹⁾，葉山修陽，清水 章²⁾

- (¹)春日部秀和病院腎臓内科,²)病理第1):シクロホスファミドパルス療法で急速に呼吸不全が悪化したANCA関連腎炎の1例.第30回日本腎臓学会東部学術大会,2000.11.
- 51)武井寛之,大沢弘和,駒場祐一,葉山修陽,清水 章¹),森 貴博¹),飯野靖彦²),片山泰朗²)(¹)病理第1,²)内科第2):クモ膜下出血を合併したWegener肉芽腫の1例.第30回日本腎臓学会東部学術大会,2000.11.
- 52)清宮康嗣,品田卓郎,豊田隆志,三浦洋司,岡松健太郎,高野雅充,掃部弘行,大場崇芳,横山真也,上村竜太,富村正登,今泉孝敬,畑 典武,山内茂生,水野杏一:左右冠動脈にて異なる冠攣縮形態を呈した急性心筋梗塞の1例.178回日本循環器学会関東甲信越地方会,2000.12.
- 53)田近研一郎,品田卓郎,大場崇芳,村上大介,上野 亮,小原俊彦,今泉孝敬,畑 典武,掃部弘行,清宮康嗣,水野杏一:多臓器不全を伴い治療に難渋した感染症心内膜炎の1例.178回日本循環器学会関東甲信越地方会,2000.12.
- 54)三浦洋司,豊田隆志,高野雅充,清宮康嗣,掃部弘行,横山真也,大場崇芳,上村竜太,富村正登,井野 威,畑 典武,水野杏一,斎藤 勉,岸田 浩,高野照夫¹)(¹)内科第1):冠攣縮性狭心症のVasoreactivityに対する流血中Macrophage-Colony Stimulating Factorの関与.14回日本冠疾患学会学術集会,2000.12.
- 55)上村竜太,平澤泰宏,高野雅充,清宮康嗣,横山真也,大場崇芳,富村正登,今泉孝敬,井野 威,畑 典武,水野杏一:急性心筋梗塞における急性期冠内圧測定から慢性期左室機能の回復を予期できるか.14回日本冠疾患学会学術集会,2000.12.
- 56)高野雅充,横山真也,平澤泰宏,清宮康嗣,掃部弘行,大場崇芳,富村正登,上村竜太,馬 淑梅,今泉孝敬,畑 典武,井野 威,水野杏一:冠動脈内視鏡の新しい試み.14回日本冠疾患学会学術集会,2000.12.
- 57)角岡真帆¹),二俣 健,楠 正典,三井啓吾,榎原義之,琴寄 誠,中塚雄久,藤森俊二,吉沢雅史,岸田輝幸,柏原 元²),富樫晃祥,石川紀行,横井公良,田中宣威(¹)千葉北総病院内科,²)同外科):原発性胆汁性肝硬変(PBC)と大腸癌を合併した1例.第71回日本消化器内視鏡学会関東地方会,2000.12.
- 58)日野光紀¹),柳下照子¹),嶋崎千壽¹),葉山修陽¹)(¹)千葉北総病院感染症対策委員会):千葉北総病院における1年間の抗酸菌検出現況と定期外検診の適応について.日本医科大学医学会第102回例会,2000.12.
- 59)加藤英治¹),小野 靖¹),小久保豊¹),柚 知行¹),小俣雅稔¹),田中庸介¹),市野浩三¹),日野光紀¹),五味洵誠¹)(¹)千葉北総病院呼吸器センター):人工呼吸器を要した重症Legionella肺炎の2例.日本医科大学医学会第102回例会,2000.12.
- 60)鈴木世孝¹),真崎義隆¹),田畑美弥子¹),佐地嘉章¹),山内茂生¹),五味洵誠¹),小野 靖²),加藤英治²),日野光紀²)(¹)千葉北総病院血管呼吸器外科,²)同内科):急速に進行した肺膿瘍の1例.日本医科大学医学会第102回例会,2000.12.
- 61)栗林英彦¹),榎本達治¹),倉根修二¹),水谷英明¹),上村なつ¹),白杵二郎¹),宮本晴子¹),阿部信二¹),吉村明修¹),工藤翔二¹),根井貴仁²),小俣雅稔²),日野光紀²)(¹)内科第4,²)千葉北総病院呼吸器センター):多彩な肺病変を合併したAIDSの1例.日本医科大学医学会第102回例会,2000.12.
- 62)市野浩三¹),田中 庸介¹),小俣雅稔¹),柚 知行¹),小久保豊¹),小野 靖¹),日野光紀¹),五味洵誠¹),真崎義隆¹),鈴木世孝¹),大秋美治²)(¹)千葉北総病院呼吸器センター,²)同病理部):外科的手術にて確定診断の得られたpleomorphic adenomaの1例.第十回東葛肺癌研究会,2001.1.
- 63)水野杏一:血管内超音波にて特徴的なinflammatoryを認めた炎症性大動脈瘤の1例.第179回日本循環器学会関東甲信越地方会,2001.2.
- 64)日野光紀¹),嶋崎千壽¹),後藤誠子¹),松丸雪江¹),渡辺郷美¹),葉山修陽¹)(¹)千葉北総病院院内感染症対策委員会):医療関係者に対するツベルクリン反応,BCG接種歴調査と二段階ツベルクリン反応の検討.第16回日本環境感染学会総会,2001.2.
- 65)荒木健彦¹),桂 秀樹¹),山田浩一¹),茂木 孝¹),上原隆志¹),後藤里江¹),木田厚瑞¹)(¹)東京都老人医療センター呼吸器科):CREST症候群の関与が疑われる気管支拡張症の1例.第143回日本呼吸器学会関東地方

会，2001．2．

- 66) 馬 淑梅，水野杏一：急性冠症候群患者における無症候性プラーク崩壊発生因子としての高血圧の重要性．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 67) 清宮康嗣，水野杏一：急性冠症候群におけるプラーク破裂部位および形態の検討．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 68) 田邊 潤，水野杏一：急性心筋梗塞に対するステント留置療法の有用性について：血管内視鏡による検討．第28回日本集中治療医学会総会，2001．3．
- 69) 城所 葉，小野瀬裕之，江本直也：甲状腺機能の改善とともに血糖コントロールが改善したパセドー病合併1型糖尿病の1例．第11回臨床内分泌Update，2001．3．
- 70) 金澤弥千代¹⁾，吉川栄省¹⁾，岸 泰宏¹⁾，小野瀬裕之，江本直也（¹⁾千葉北総病院神経科）：甲状腺ホルモン補充後も鬱状態からの改善に無痙攣性通電療法を必要とした橋本病の1例．第11回臨床内分泌Update，2001．3．

(5) インターナショナルセッション：

- 1) Mizuno K, Sakai S, Tomimura M, Yokoyama S, Ohba T, Inami S, Tanabe J, Takano M, Hirasawa Y, Ogura H, Seimiya K : The effect of flavastatin on plasma level of oxidized low density lipoprptein . 64回日本循環器学会総会，2000．4．
- 2) Sakai S, Tanabe J, Hirasawa Y, Inami S, Seimiya K, Takano M, Yokoyama S, Ohba T, Tomimura M, Kobayashi T, Ogura H, Imaizumi T, Mizuno K : Stabilization of unstable plaque by stent placement in patients with acute coronary syndromes : Insights from serial angioscopic follow-up . 64回日本循環器学会総会，2000．4．

(6) ビジュアルワーク：

- 1) 水野杏一，酒井俊太，上村竜太，横山真也，高野雅充，大場崇芳：冠動脈内視鏡：インターベンションガイドランスとしての有用性．48回日本心臓病学会，2000．9．

(7) ポスターセッション：

- 1) 清宮康嗣，水野杏一，田邊 潤，平澤康宏，高野雅充，大場崇芳，横山真也，富村正登，小倉宏道，酒井俊太，品田卓郎，掃部弘行，今泉孝敬，田中啓治¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室)：急性冠症候群におけるプラーク破裂部位の検討．64回日本循環器学会総会，2000．4．
- 2) 大場崇芳，酒井俊太，田邊 潤，平澤康宏，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，横山真也，富村正登，小林利行，小倉宏道，水野杏一，品田卓郎，掃部弘行，今泉孝敬，田中啓治¹⁾(¹⁾付属病院集中治療室)：急性冠症候群と炎症性疾患との関連：血管内視鏡による検討．64回日本循環器学会総会，2000．4．
- 3) 田邊 潤，平澤康宏，高野雅充，清宮康嗣，横山真也，大場崇芳，富村正登，小倉宏道，水野杏一，酒井俊太：内膜の経時的観察による急性心筋梗塞に対するステント療法の有用性の検討．32回日本動脈硬化学会総会，2000．6．
- 4) 清宮康嗣，田邊 潤，平澤康宏，高野雅充，大場崇芳，横山真也，富村正登，上村竜太，酒井俊太，井野 威，水野杏一：急性冠症候群におけるプラーク破綻部位の検討．48回日本心臓病学会，2000．9．
- 5) 馬 淑梅，大場崇芳，酒井俊太，富村正登，横山真也，上村竜太，畑 典武，井野 威，水野杏一：急性冠症候群患者における無症候性内膜傷害発症因子としての高血圧の重要性．23回日本高血圧学会，2000．10．
- 6) 岡松健太郎，品田卓郎，豊田隆志，三浦洋司，掃部弘行，高野雅充，清宮康嗣，横山真也，大場崇芳，富村正登，上村竜太，小原俊彦，今泉孝敬，井野 威，畑 典武，水野杏一：梗塞責任部位の同定に血管内視鏡が有用であった1例．17回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，2000．10．

(8) ポスターセッション：

- 1) 平澤康宏，田邊 潤，稲見茂信，高野雅充，清宮康嗣，大場崇芳，横山真也，富村正登，酒井俊太，水野杏一：フルバスタチンの血漿酸化LDLに対する効果．32回日本動脈硬化学会総会，2000．6．

- 2) 稲見茂信, 横山真也, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 富村正登, 酒井俊太, 井野 威, 畑 典武, 水野杏一: 茶カテキンの酸化LDLに対する効果. 32回日本動脈硬化学会総会, 2000. 6.
- 3) 横山真也, 酒井俊太, 平澤康宏, 田邊 潤, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 富村正登, 上村竜太, 小倉宏道, 井野 威, 水野杏一: gfx スtentとMultilink スtentにおける新生内膜被覆過程の経時的差異. 9回日本心血管インターベンション学会, 2000. 6.

[千葉北総病院集中治療部]

研究概要

日本医科大学付属千葉北総病院集中治療部では、急性心筋梗塞、不安定狭心症、うっ血性心不全、重症不整脈などの心疾患の他、急性大動脈解離、肺血栓塞栓症、急性腎不全、急性呼吸不全などを主体に診療ならびに研究活動を行っている。

- (1) 急性冠症候群 急性心筋梗塞ならびに不安定狭心症の病態把握の一つとして、発症と感染症との関係を究明すべく研究活動を行っている。急性冠症候群の発症には様々な因子が係わるが、発症前の感染症の有無について冠動脈内視鏡所見を題材に研究し、発表を続けている。さらに、炎症性サイトカインの関連についても研究中である。
- (2) 急性大動脈解離 大動脈解離に伴う様々な合併症、予後につき豊富な症例をもとに研究を継続中である。特に胸水貯溜および炎症性サイトカインの関与についてユニークな研究を開始している。
- (3) 肺血栓塞栓症 新東京国際空港クリニックとの連携で、本邦ではイニシアティブをとり病態の解明ならびに治療方法、予後の研究を行い、内外に発表している。近年、エコノミークラス症候群としてマスコミにも紹介されているが、一般国民への啓蒙もマスメディアを通じて積極的に行っている。
- (4) 人工補助装置 本施設では人工補助装置が充実しており、人工呼吸器をはじめIABP, PCPS, 血液浄化療法について使用基準ならびにより有効な使用方法を研究している。今後とも日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター、循環器センター、呼吸器センター、血液浄化センターをはじめ、近隣の医療施設と密接な関係を保ちつつ、重症患者の救命・管理についての臨床研究を継続したいと考えている。
- (5) その他 医療技術はめざましく発展しているが、新薬および医療材料の開発が今後も要求される。これら医療技術・新薬の開発についても豊富な症例と経験をもとに貢献したいと考えている。また研究棟の開設に伴い基礎的研究についても意欲的に計画を始めている。

研究業績

論文

- (1) 原著：
 - 1) Mizuno K¹⁾, Sakai S¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohba T¹⁾, Uemura R¹⁾, Seimiya Y¹⁾, Takano M¹⁾, Tanabe J¹⁾, Tomimura M¹⁾, Imaizumi T¹⁾, Ma Shu M¹⁾, Inami S¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Hata N (¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School : Percutaneous Transluminal Angioscopy during Coronary Intervention . Diagnostic and Therapeutic Endoscopy 2000 ; 7 : 15-20 .
 - 2) 掃部弘行, 品田卓郎, 小原俊彦, 今泉孝敬, 畑 典武, 田中啓治¹⁾, 加藤貴雄³⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 内科第1): III 群抗不整脈薬塩酸ニフェカラントが急性心筋梗塞患者の血行動態に及ぼす影響. 心臓 2000 ; 32 (suppl. 5): 124-130 .
 - 3) 畑 典武: 発症早期の冠動脈再灌流療法が奏効し、心機能障害を最小限に抑制できた急性冠症候群の50歳、男性. Cardio 2001 ; 3 (3): 2-6 .
- (2) 総説：
 - 1) 大場崇芳, 水野杏一¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院内科): 血管内視鏡による血管内腔表面プラーク像の評価. 日本臨床増

刊号 (高脂血症) 2000 ; 上 : 863-866 .

- 2) 掃部弘行¹⁾, 畑 典武, 高野照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾内科第1): 急性心筋梗塞による肺水腫 . 集中治療 2001 ; 13 (3): 310-316 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Hata N, Takano M, Miura H, Toyota T, Yodogawa K²⁾, Inami S, Matsuda H¹⁾, Suzuki Y¹⁾, Kunimi T¹⁾, Kishida H¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾Internal Medicine, Nippon Medical School): Clinical significance of ATP-sensitive K⁺ channel ; Nicorandil and sulfonylurea in diabetic angina pectoris (Acute Coronary Syndrome). 7th. World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics (Florence), 2000 . 7 .
- 2) 高野雅充¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳, 富村正登¹⁾, 上村竜太¹⁾, 馬 淑梅¹⁾, 畑 典武, 井野 威¹⁾, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科): 血管内視鏡による冠動脈インターベンション時合併症とその対策 . 第41回日本脈管学会総会, 2000 . 11 .

(2) パネルディスカッション :

- 1) 畑 典武, 今泉孝敬, 田中啓治¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 水野杏一²⁾, 小原俊彦, 大場崇芳, 掃部弘行, 品田卓郎, 高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1, ²⁾千葉北総病院内科): Economy Class Syndromeの集中治療と長期予後 (肺血栓症への対策 ; 発症予防と急性期治療, 予後改善へ). 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) Takano M¹⁾, Mizuno K¹⁾, Uemura R¹⁾, Tomimura M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohba T, Seimiya K¹⁾, Okamatsu K¹⁾(¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School): Coronary artery distensibility and plaque disruption . 50th ACC (Orlando), 2001 . 3 .
- 2) Ohba T¹⁾, Mizuno K¹⁾, Seimiya K¹⁾, Takano M¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Uemura R¹⁾, Sakai S¹⁾, Kusama Y²⁾, Ino T¹⁾, Hata N, Shinada T, Hirasawa Y¹⁾, Tanabe J¹⁾, Tajika K¹⁾, Kamon H¹⁾(¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Internal Medicine, Nippon Medical School): Acute coronary syndrome is not local vascular accident, but pan-coronary process . 50th ACC (Orlando), 2001 . 3 .
- 3) Takano M¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Seimiya K¹⁾, Kamon H¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohba T, Tomimura M¹⁾, Uemura R¹⁾, Ma SM¹⁾, Sakai S¹⁾, Hata N, Mizuno K¹⁾(¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School): Mechanical characteristics of vulnerable plaques : comparison of distensibility between yellow and white plaques . 第65回日本循環器学会総会, 2001 . 3 .
- 4) Takano M¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Seimiya K¹⁾, Kamon H¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohba T, Tomimura M¹⁾, Uemura R¹⁾, Ma SM¹⁾, Sakai S¹⁾, Hata N, Mizuno K¹⁾(¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School): Why does positive remodeling of coronary artery induce unstable clinical presentations? . 第65回日本循環器学会総会, 2001 . 3 .
- 5) Ma SM¹⁾, Miura H¹⁾, Toyota T¹⁾, Okamatsu K¹⁾, Kamon H¹⁾, Takano M¹⁾, Seimiya K¹⁾, Yokoyama S¹⁾, Ohba T, Tomimura M¹⁾, Uemura R¹⁾, Ohara T, Hata N, Mizuno K¹⁾(¹⁾ Internal Medicine, Chiba Hokusoh hospital, Nippon Medical School): The importance of Hypertension as an Asymptomatic Plaque Rupture Factor in Acute Coronary Syndrome (ACS) Patients . 第65回日本循環器学会総会, 2001 . 3 .
- 6) 大場崇芳¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 加藤良人¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 横山真也¹⁾, 富村正登¹⁾, 小林利行¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 今泉孝敬, 山内茂生²⁾, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾同胸部外科): 急性冠症候群発生と炎症性疾患との関連 : 血管内視鏡による検討 . 第64回日本循環器学会総会, 2000 . 4 .
- 7) 谷口宏史¹⁾, 井野 威¹⁾, 加藤良人¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 富村正登¹⁾, 上村竜太¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 水野杏一¹⁾, 品田卓郎, 掃部弘行, 畑 典武, 高野

- 照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院内科,²⁾内科第1):一過性に徐脈頻脈症候群様心電図を呈した hyereosinophilic syndrome の1例.第176回日本循環器学会関東甲信越地方会,2000.6.
- 8) 清宮康嗣¹⁾,酒井俊太¹⁾,堀江 格¹⁾,品田卓郎²⁾,田邊 潤¹⁾,平澤泰宏¹⁾,掃部弘行,高野雅充¹⁾,大場崇芳¹⁾,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,上村竜太¹⁾,今泉孝敬,畑 典武,井野 威¹⁾,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):同一部位でのPTCAおよびステント再狭窄にて急性冠症候群となった症例の血管内視鏡所見.第18回循環器合同カンファレンス,2000.6.
- 9) 大場崇芳¹⁾,酒井俊太¹⁾,品田卓郎,平澤泰宏¹⁾,田邊 潤¹⁾,掃部弘行,清宮康嗣¹⁾,高野雅充¹⁾,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,小倉宏道¹⁾,今泉孝敬,草間芳樹,山内茂生²⁾,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科,²⁾同胸部外科):糖尿病患者におけるステント留置後再狭窄の規定因子:血管内エコーによる検討.第6回日本血管内治療学会,2000.7.
- 10) 掃部弘行,今泉孝敬,畑 典武,緒方憲一¹⁾,田中啓治¹⁾,岩原信一郎¹⁾,清野精彦¹⁾,木内 要¹⁾,高野照夫¹⁾(¹⁾内科第1):H-FABP測定による急性心筋梗塞の診断・迅速判定法カットオフ値に関する検討.第20回心筋梗塞研究会,2000.7.
- 11) 大場崇芳¹⁾,酒井俊太¹⁾,馬 淑梅¹⁾,椎葉邦人¹⁾,堀江 格¹⁾,谷口宏史¹⁾,平澤泰宏¹⁾,田邊 潤¹⁾,品田卓郎,掃部弘行,清宮康嗣¹⁾,高野雅充¹⁾,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,上村竜太¹⁾,今泉孝敬²⁾,山内茂生³⁾,井野 威¹⁾,畑 典武,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科,²⁾同胸部外科):炎症は急性冠症候群の発生因子となりうるか?.第36回六甲カルディアク・セミナー,2000.8.
- 12) 田近研一郎,椎葉邦人,谷口宏史,品田卓郎,掃部弘行,大場崇芳,今泉孝敬,畑 典武,清宮康嗣¹⁾,井野威¹⁾,葉山修陽¹⁾,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):治療に難渋した感染性心内膜炎の1例.第14回千葉県重症患者管理研究会,2000.9.
- 13) 大場崇芳¹⁾,酒井俊太¹⁾,田邊 潤¹⁾,平澤泰宏¹⁾,高野雅充¹⁾,清宮康嗣¹⁾,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,上村竜太¹⁾,井野 威¹⁾,畑 典武,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):糖尿病患者におけるステント留置後再狭窄の規定因子(血管内エコーによる検討).第48回日本心臓病学会学術集会,2000.9.
- 14) 馬 淑梅¹⁾,大場崇芳¹⁾,酒井俊太¹⁾,富村正登¹⁾,横山真也¹⁾,稲見茂信¹⁾,高野雅充¹⁾,田邊 潤¹⁾,平澤泰宏¹⁾,上村竜太¹⁾,井野 威¹⁾,清宮康嗣¹⁾,今泉孝敬,畑 典武,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):無症候性プラーク崩壊における糖尿病,高血圧の重要性.第48回日本心臓病学会学術集会,2000.9.
- 15) 掃部弘行¹⁾,畑 典武,水野杏一¹⁾,緒方憲一³⁾,清野精彦²⁾,高野照夫²⁾(¹⁾千葉北総病院内科,²⁾内科第1):急性心筋梗塞におけるH-FABP高値遷延症例の臨床像と予後に関する検討.第48回日本心臓病学会学術集会,2000.9.
- 16) 田邊 潤¹⁾,酒井俊太¹⁾,平澤泰宏¹⁾,高野雅充¹⁾,清宮康嗣¹⁾,大場崇芳,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,上村竜太¹⁾,井野 威¹⁾,今泉孝敬,畑 典武,水野杏一¹⁾(¹⁾付属千葉北総病院内科):急性心筋梗塞に対するステント療法遠隔期心事故減少の機序(冠動脈内膜の経時的観察による検討).第48回日本心臓病学会学術集会,2000.9.
- 17) 大場崇芳,酒井俊太¹⁾,馬 淑梅¹⁾,椎葉邦人¹⁾,堀江 格¹⁾,谷口宏史¹⁾,平澤泰宏¹⁾,田邊 潤¹⁾,品田卓郎¹⁾,掃部弘行¹⁾,清宮康嗣²⁾,高野雅充²⁾,横山真也²⁾,富村正登²⁾,上村竜太¹⁾,山内茂生²⁾,井野 威¹⁾,水野杏一²⁾(¹⁾千葉北総病院内科,³⁾同胸部外科):第2世代ステント留置後の遠隔期再狭窄部の検討.第41回日本脈管学会総会,2000.11.
- 18) 清宮康嗣¹⁾,水野杏一¹⁾,田邊 潤¹⁾,平澤泰宏¹⁾,高野雅充¹⁾,大場崇芳,横山真也¹⁾,富村正登¹⁾,上村竜太¹⁾,酒井俊太¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):急性冠症候群におけるプラーク破裂部位および形態の検討.第41回日本脈管学会総会,2000.11.
- 19) 田近研一郎,品田卓郎,掃部弘行,清宮康嗣¹⁾,大場崇芳,村上大介,上野 亮,小原俊彦,今泉孝敬,畑典武,水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科):多臓器不全を伴い治療に難渋した感染性心内膜炎の1例.第178回

日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000 . 12 .

- 20) 清宮康嗣¹⁾, 品田卓郎, 豊田隆志¹⁾, 三浦洋司¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅充¹⁾, 掃部弘行¹⁾, 大場崇芳, 横山真也¹⁾, 上村竜太¹⁾, 富村正登¹⁾, 今泉孝敬, 畑 典武, 山内茂生²⁾, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾同胸部外科): 左右冠動脈にて異なる冠攣縮形態を呈した急性心筋梗塞の1例 . 第178回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2000 . 12 .
- 21) 上野 亮, 村上大介, 品田卓郎, 大場崇芳, 小原俊彦, 今泉孝敬, 畑 典武¹⁾, 山内茂生¹⁾, 西村泰司²⁾, 益子邦洋³⁾(¹⁾千葉北総病院胸部外科, ²⁾同血液浄化センター, ³⁾同救命救急センター): 感染性心内膜炎の1例 . 日本医科大学医学会第102回例会, 2000 . 12 .
- 22) 品田卓郎, 村上大介, 上野 亮, 大場崇芳, 小原俊彦, 今泉孝敬, 山内茂生¹⁾, 畑 典武(¹⁾千葉北総病院胸部外科): 前脊髄動脈症候群を併発したと思われる感染性心内膜炎の1例 . 千葉CCM研究会, 2000 . 12 .
- 23) 大場崇芳, 今泉孝敬, 品田卓郎, 小原俊彦, 畑 典武, 豊田隆志¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 掃部弘行¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 富村正登¹⁾, 上村竜太²⁾, 佐野純子²⁾, 水野杏一¹⁾, 新井 悟²⁾, 森 修²⁾, 大秋美治²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾同病理部): RESCUE カテーテルによる冠動脈血栓吸引が奏効し, 興味ある病理組織像が得られた1例 . 第19回循環器合同カンファレンス, 2001 . 1 .
- 24) 馬 淑梅¹⁾, 大場崇芳²⁾, 酒井俊太¹⁾, 富村正登¹⁾, 横山真也¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高野雅充¹⁾, 田邊 潤¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 上村竜太¹⁾, 井野 威¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 今泉孝敬, 畑 典武, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科): 急性冠症候群患者における無症候性プラーク崩壊発症因子としての高血圧の重要性 . 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .
- 25) 田邊 潤¹⁾, 上村竜太¹⁾, 富村正登¹⁾, 横山真也¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 畑 典武¹⁾, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科): 急性心筋梗塞に対するステント留置療法の有用性について . 血管内視鏡による検討 . 第28回日本集中治療医学会総会, 2001 . 3 .

[千葉北総病院病理部]

研究概要

昨年のお病棟開床及び新駅開通により, 現在でも検体数の漸増傾向が見られるなか, 開院以来の方針である病理部に提出される症例を用いて, 病理組織診断に寄与する臨床病理学的な検討を引き続き行っている . また, 臨床研究棟の新設に伴い, より基礎的な研究の開始に向けた準備も検討中である .

- 1) 当院産婦人科及び放射線科と共同して, 女性器腫瘍(子宮頸癌, 卵巣腫瘍)を中心とした臨床病理学的解析を実施中である .
- 2) アルツハイマー病及び難治性癲癇を中心とする中枢神経疾患について, その発生機構の解析及び病理形態学的解析を法医学教室, 病理学第二講座などとの共同研究により継続中である .

研究業績

論文

[1999 年度追加分]

原著 :

- 1) 三枝順子, 小黒辰夫: 試料作成法におけるティッシュカセットに対する工夫 . 病理技術 1999 ; 60 : 9-9 .

(1) 原著 :

- 1) Soma H¹⁾, Yamada K¹⁾, Osawa H¹⁾, Hata T¹⁾, Oguro T, Kudo M²⁾(¹⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology, Saitama Medical School, ²⁾ Dept. of Pathology, Tokyo Medical University): Identification of Gaucher Cells in

- the Chorionic Villi Associated with Recurrent Hydrops Fetalis . Placenta 2000 ; 21 (4) : 412-416 .
- 2) Okada S¹⁾, Ohaki Y , Kawamura T²⁾, Hayashi T³⁾, Kumazaki T³⁾(¹⁾Dept. of Radiology, Chiba-Hokusoh Hospital , ²⁾Dept. of Obstetrics and Gynecology, Chiba-Hokusoh Hospital , ³⁾Dep. of Radiology, Nippon Medical School): Cystic struma ovarii : Imaging findings . J Comput Assist Tomogr 2000 ; 24 (3) : 413-415 .
 - 3) Yamazaki M¹⁾, Arai Y¹⁾, Baba M²⁾, Iwatsubo T²⁾, Mori O , Katayama Y¹⁾, Oyanagi K³⁾(¹⁾Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , ²⁾Dep. of Pharmacology, Univ. of Tokyo , ³⁾Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience): -Synuclein inclusions in amygdalla in the brains of patients with Parkinsonism-dementia complex of Guam . J. Neuropathol Exp Neurol 2000 ; 59 (7) : 585-591 .
 - 4) Ito H¹⁾, Nishimura T¹⁾, Abe H¹⁾, Oka F¹⁾, Miura T¹⁾, Uchikoba T¹⁾, Oaki Y (¹⁾Dept. of Urology, Nippon Medical School): Adenocarcinoma of the prostate with ectopic antidiuretic hormone production ; A case report . Hinyokika Kyo 2000 ; 46 (7) : 499-503 .
 - 5) Mori O , Ohaki Y , Oguro T , Shimizu H , He Q , Arai S , Yamazaki Y¹⁾, Asano G²⁾(¹⁾2nd Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , ²⁾2nd Dept. of Pathology, Nippon Medical School): Adhesion molecule detection in a case of early cerebral malaria : immunohistochemical and electron microscopic findings . Human Pathol 2000 ; 31 (9) : 1175-1178 .
 - 6) Uchihara T¹⁾, Nakamura A¹⁾, Yamazaki M²⁾, Mori O (¹⁾Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience , ²⁾Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Tau-positive neurons in corticobasal degeneration and Alzheimer disease-Distinction by thiazin red and silver impregnation . Acta Neuropathol (Berl) 2000 ; 100 (4) : 385-389 .
 - 7) Kanazawa R¹⁾, Kogure K¹⁾, Kominami S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A²⁾, Mori O (¹⁾Dept. of Neurosurgery. Chiba-Hokusoh Hospital , ²⁾Dept. of Neurosurgery, Nippon Medical School): Ependymal cyst producing alpha-fetoprotein, Case Report . J Neurosurg 2000 ; 93 (4) : 682-685 .
 - 8) Murai Y¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Mizunari T¹⁾, Ohaki Y , Adachi K²⁾, Teramoto A²⁾(¹⁾Dept. of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Neurosurgery, Nippon medical School): Spontaneous regression of a germinoma in the pineal body after placement of a ventriculoperitoneal shunt : Case report . J Neurosurg 2000 ; 93 (5) : 884-886 .
 - 9) Mori O , Yamazaki M¹⁾, Ohaki Y , Arai Y¹⁾, Oguro T , Shimizu H , Asano G²⁾(¹⁾Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Pathology, Nippon Medical School): Mitochondrial encephalomyopathy with lactic acidosis and stroke like episodes (MELAS) with prominent degeneration of the intestinal wall and cactus-like cerebellar pathology . Acta Neuropathol (Berl) 2000 ; 100 (6) : 712-717 .
 - 10) Uchihara T¹⁾, Nakamura A¹⁾, Nagaoka U¹⁾, Yamazaki M²⁾, Mori O (¹⁾Dep. of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience , ²⁾Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School): Dual enhancement of double immunofluorescent signals by CARD : Participation of ubiquitin in during formation of neurofibrillary tangles . Histochem. Cell Biol. 2000 ; 114 (6) : 447-451 .
 - 11) Arai Y¹⁾, Yamazaki M¹⁾, Mori O , Muramatsu H²⁾, Asano G²⁾, Katayama Y¹⁾(¹⁾2nd. Dept. of Internal Medicine, Nippon Medical School , ²⁾2nd. Dept. of Pathology, Nippon Medical School): -Synuclein-positive structures in cases with sporadic Alzheimer disease : morphology and its relationship to tau-aggregation . Brain Res 2001 ; 888 (2) : 287-296 .
 - 12) 福元 晃¹⁾, 池園哲郎¹⁾, 中溝宗永¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 中嶋博史¹⁾, 横島一彦¹⁾, 大秋美治 , 八木聰明¹⁾(¹⁾耳鼻咽喉科): 上顎洞血腫の3症例 . 耳鼻・頭頸外科 2000 ; 72 (10) : 665-670 .
 - 13) 小黒辰夫 , 大秋美治 , 浅野伍朗¹⁾, 海老名卓三郎²⁾, 渡邊乾二³⁾(¹⁾病理第2 , ²⁾宮城県がんセンター研究所免疫疫学部門 , ³⁾岐阜大学大学院連合農学研究科): 腫瘍血管網形成における線維芽細胞の役割に関する超微形態

学的研究．臨床電顕誌 2001；33（2）：131-135．

- 14) 小黒辰夫，大秋美治，淺野伍朗¹⁾，海老名卓三郎²⁾，渡邊乾二³⁾(¹⁾病理第2，²⁾宮城県立がんセンター研究所免疫学部門，³⁾岐阜大学大学院連合農学研究科)：腫瘍血管新生におけるオボムチンの抑制効果に関する超微形態学的ならびに免疫組織学的研究．臨床電顕誌 2001；33（2）：89-99．

著書

- 1) 前田昭太郎¹⁾，劉愛民²⁾，小黒辰夫(¹⁾多摩永山病院病理部，²⁾中央電子顕微鏡研究施設)：〔分担〕新技術，周辺領域技術の応用と展開：電子顕微鏡．臨床検査，2000；pp1445-1449，医学書院．

学会発表

(1) 追加分一般講演：

- 1) 龜山孝二¹⁾，長谷場健²⁾，手塚潔¹⁾，王若皎¹⁾，町田稔¹⁾，恩田宗彦¹⁾，森修，淺野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2，²⁾法医学)：冠動脈の粥腫皮破壊を伴う脂質蓄積と疎水環境における平滑筋細胞のアルコール脱水素酵素(ADH)発現．第31回日本動脈硬化学会総会，1999．6．
- 2) 山下直行¹⁾，田中宣威¹⁾，京野昭二¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀨谷知子¹⁾，松本智司¹⁾，井上松応¹⁾，大川敬一¹⁾，石塚朋樹¹⁾，工藤秀徳¹⁾，山下精彦¹⁾，大秋美治，恩田昌彦²⁾(¹⁾千葉北総病院外科，²⁾外科第1)：術前に診断しえた胃GISTの1例．第68回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1999．6．
- 3) 本橋典久¹⁾，小久保豊¹⁾，瀨尾宣嗣¹⁾，田中庸介¹⁾，上原隆志¹⁾，柚知行¹⁾，橋元恭士¹⁾，日野光紀¹⁾，真崎義隆²⁾，五味洵誠²⁾，大秋美治，工藤翔二³⁾(¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同胸部外科，³⁾内科第4)：進行性の四肢筋力低下で発症，その後急激なII型呼吸不全を呈し診断に難渋した肺小細胞癌の1例．第125回日本肺癌学会地方会，1999．6．
- 4) 日野光紀¹⁾，小久保豊¹⁾，橋元恭士¹⁾，柚知行¹⁾，上原隆志¹⁾，田中庸介¹⁾，本橋典久¹⁾，瀨尾宣嗣¹⁾，五味洵誠²⁾，真崎義隆²⁾，大秋美治(¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同胸部外科)：若年女子に発症した縦隔型卵黄囊腫瘍の1例．第7回東葛肺癌研究会，1999．6．
- 5) 徳山権一¹⁾，磯田麻里¹⁾，石川正也¹⁾，品田卓郎¹⁾，清宮康嗣¹⁾，松田裕之¹⁾，今泉孝敬¹⁾，田中啓治¹⁾，大秋美治(¹⁾千葉北総病院集中治療部)：肩甲部痛で発症し，骨格筋と心筋にgiant cellの浸潤をみとめた劇症型心筋炎の1例．第172回日本循環器学会関東甲信越地方会，1999．6．
- 6) 本橋典久¹⁾，小久保豊¹⁾，小俣雅稔¹⁾，田中庸介¹⁾，柚知行¹⁾，橋元恭士¹⁾，小野靖¹⁾，日野光紀¹⁾，真崎義隆²⁾，五味洵誠²⁾，葉山修陽¹⁾，大秋美治，白杵二郎³⁾，工藤翔二³⁾(¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同胸部外科，³⁾付属病院第4内科)：NSIPの経過中に膜性腎症を合併した1例．第135回日本呼吸器学会関東地方会，1999．7．
- 7) 岡田進¹⁾，内山史生¹⁾，井上幸平¹⁾，安藤順¹⁾，趙圭一¹⁾，伊藤公一郎¹⁾，保坂純郎¹⁾，大秋美治，河村堯²⁾，隈崎達夫³⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科，²⁾同産婦人科，³⁾付属病院放射線科)：嚢胞状卵巣甲状腺腫の画像診断．第27回日本磁気共鳴医学会大会，1999．9．
- 8) 山下直行¹⁾，田中宣威¹⁾，京野昭二¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀨谷知子¹⁾，松本智司¹⁾，井上松応¹⁾，大川敬一¹⁾，石塚朋樹¹⁾，工藤秀徳¹⁾，山下精彦¹⁾，大秋美治，恩田昌彦²⁾(¹⁾千葉北総病院外科，²⁾外科第1)：術後4年目に横行結腸に孤立性再発を来した胃癌の1例．第41回日本消化器学会総会，1999．10．
- 9) 真崎義隆¹⁾，五味洵誠¹⁾，日野光紀²⁾，大秋美治(¹⁾千葉北総病院胸部外科，²⁾同内科)：原発性肺癌の癌細胞に対するEpstein-Barr virus感染の検討．第40回日本肺癌学会総会，1999．11．
- 10) 堀江修治¹⁾，本橋典久¹⁾，小俣雅稔¹⁾，田中庸介¹⁾，柚知行¹⁾，小久保豊¹⁾，小野靖¹⁾，日野光紀¹⁾，真崎義隆²⁾，五味洵誠²⁾，工藤翔二³⁾，大秋美治(¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同胸部外科，³⁾内科第4)：気道分泌物を分析し得た気管支胆嚢ろうの1例．第91回日本気管支学会関東支部会，1999．12．

11) 瀬谷知子¹⁾, 川野陽一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 山下精彦¹⁾, 京野昭二¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 大秋美治, 恩田昌彦²⁾ (¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾外科第1): 2度の出血性ショックをきたした大腸憩室の1例. 第34回日本腹部救急医学会総会, 2000. 3.

(2) シンポジウム:

1) 森 修, 大秋美治, 長谷場健¹⁾, 亀山孝次²⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾法医学, ²⁾病理学第2): The co-expression of class III Alcohol dehydrogenase (ADH) and β -amyloid (A β) in senile plaques in the brains of Alzheimer's disease. 第56回日本電子顕微鏡学会, 2000. 5.

(3) 一般講演:

- 1) Kamoi S¹⁾, Ohaki Y, Matsushita N¹⁾, Kawamura T¹⁾, Araki T²⁾ (¹⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Nippon Medical School): Predictors of intra-arterial chemotherapy Response of Uterine Cervical Carcinoma in Biopsies Obtained Pre-and 3 days Post-Chemotherapy. XVI FIGO World Congress (Washington D. C.), 2000. 9.
- 2) Kamoi S¹⁾, Ohaki Y, Satomi M¹⁾, Matsushita N¹⁾, Kawamura T¹⁾, Araki T²⁾ (¹⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Nippon Medical School): Epithelioid Trophoblastic Tumor of the Uterus. XXIII international Congress of the international Academy of Pathology (Nagoya), 2000. 10.
- 3) Kamoi S¹⁾, Ohaki Y, Satomi M¹⁾, Kawamura T¹⁾, Araki T²⁾ (¹⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Gynecology and Obstetrics, Nippon Medical School): An Application of Alpha-Inhibin for the Diagnosis of Pulmonary Trophoblastic Embolism. XXIII International Congress of the International Academy of Pathology (Nagoya), 2000. 10.
- 4) 森 修, 鈴木恒道¹⁾, 真柳佳昭²⁾, 渡辺英樹²⁾ (¹⁾東京警察病院病理部, ²⁾同脳神経外科): 難治性てんかんの外科病理: Dual pathology と微小形成不全に関して. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 5) 金 恩京¹⁾, ガジザデ モハマッド¹⁾, 清水 一¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 大秋美治, 武村民子²⁾, 川並汪一¹⁾ (¹⁾老人病研究所分子病理部門, ²⁾日本赤十字医療センター病理部): 原発性肺腺癌における肺胞毛細血管内皮細胞の形質転換と VEGF との関係. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 6) 清水 一¹⁾, ガジザデ モハマッド¹⁾, 新井 悟, 金 恩京¹⁾, 大秋美治, 武村民子²⁾, 長島幹夫¹⁾, 川並汪一¹⁾ (¹⁾老人病研究所分子病理部門, ²⁾日本赤十字医療センター病理部): 細気管支肺胞上皮癌に発現する VEGF について. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 7) 清水 一¹⁾, 永島幹夫¹⁾, 栗原雄二²⁾, 金 恩京¹⁾, 藤原正和¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 新井 悟, 森山雄吉²⁾, 川並汪一¹⁾ (¹⁾老人病研究所分子病理部門, ²⁾第二病院消化器病センター): Feasibility of Laser Capture Microdissection of Immunostained Cells for Molecular Analysis. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 8) 清水 一¹⁾, 金 恩京¹⁾, 新井 悟, 大秋美治, 川並汪一¹⁾ (¹⁾老人病研究所分子病理部門): Prognostic Role of p16INK4 Expression in Bronchiolo-alveolar Carcinoma. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 9) 森 修, 鈴木恒道¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 渡辺英樹³⁾, 真柳佳昭³⁾ (¹⁾東京警察病院病理部, ²⁾病理学第2, ³⁾同脳神経外科): 難治性てんかんの外科病理: Dual pathology と微小形成不全に関して. 第89回日本病理学会総会, 2000. 4.
- 10) 新井裕至¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 森 修, 片山泰朗²⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾病理学第2, ²⁾内科第2): β -synuclein 陽性構造物を辺縁系に局限して認めた Alzheimer 型痴呆 (ATD) の臨床病理学的検討: Lewy 小体型痴呆 (DLB) との異同. 第41回日本神経学会総会, 2000. 5.
- 11) 阿部俊之¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 伊藤尚子¹⁾, 弘末卓也¹⁾, 大下知子¹⁾, 松下径広¹⁾, 五十嵐俊夫¹⁾, 若月雅美¹⁾, 河村堯¹⁾, 新井 悟, 森 修, 大秋美治 (¹⁾千葉北総病院産婦人科): 人工造脛後に子宮筋腫を合併した Rokitan-sky 症候群の1例. 日本医科大学医学学会第101回例会, 2000. 5.

- 12) 松澤こず恵, 大秋美治, 小黒辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 安藤 哲, 新井 悟, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 転移及び浸潤性発育を示した脾solid cystic tumorの1例. 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000. 6.
- 13) 鴨井青龍¹⁾, 大秋美治, 松下径広¹⁾, 小西英喜¹⁾, 河村 堯¹⁾, 森 修, 新井 悟, 松本光司²⁾(¹⁾千葉北総病院産婦人科学, ²⁾第二病院病理部): 高用量MPA療法中における子宮内膜癌の病理組織及び細胞所見の経時的変化(第2報). 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000. 6.
- 14) 岡田 進¹⁾, 内山史生¹⁾, 井上幸平¹⁾, 石原真木子¹⁾, 大秋美治, 河村 堯¹⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科, ²⁾付属病院放射線科): 卵巣類皮嚢胞腫に合併した腫瘍の検討. 第28回日本磁気共鳴医学会大会, 2000. 6.
- 15) 大場崇芳¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 品田卓郎¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 畑 典武¹⁾, 豊田隆志²⁾, 岡松健太郎²⁾, 掃部弘行²⁾, 清宮康嗣²⁾, 高野雅充²⁾, 横山真也²⁾, 富村正登²⁾, 上村竜太²⁾, 佐野純子²⁾, 水野杏一²⁾, 新井 悟, 森 修, 大秋 美治(¹⁾千葉北総病院集中治療部, ²⁾同内科): RESCUEカテーテルによる冠動脈血栓吸引が奏効し, 興味ある病理組織像が得られた1例. 第19回循環器合同カンファランス, 2000. 6.
- 16) 河本陽子¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 小黒辰夫, 清水秀樹, 大秋美治, 鴨井青龍²⁾, 河村 堯²⁾(¹⁾病理学第2, ²⁾千葉北総病院産婦人科): Placental site trophoblastic tumor (PSTT) が疑われた子宮体部腫瘍の1例. 第41回日本臨床細胞学会総会, 2000. 6.
- 17) 森 修, 大秋美治, 長谷場健¹⁾, 亀山孝次²⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾法医学, ²⁾病理学第2): Class III alcohol dehydrogenaseのヒト脳における免疫組織化学的局在. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 18) 山崎峰雄¹⁾, 山崎昌子²⁾, 森 修, 大秋美治, 浅野伍朗³⁾(¹⁾付属病院第2内科, ²⁾初石病院内科, ³⁾病理学第2): 精神症状, 緩徐進行性失語で発症した上位運動ニューロン障害優位のALSの1剖検例: 痴呆を伴うALSの1型か?. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 19) 山崎峰雄¹⁾, 巻淵隆夫, K-M Chen, 森 修, 小柳清光(¹⁾付属病院第2内科): パーキンソンニズム, 痴呆, 眼球運動障害を呈し, 視床下核, 淡蒼球外節黒質に神経細胞脱落と神経原線維変化を認め, tuft-shaped astrocytes, argyrophilic grainsを認めた1980年剖検Guam症例. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 20) 新井裕至¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 森 修, 村松浩美¹⁾, 浅野伍朗¹⁾(¹⁾病理学第2, ²⁾付属病院第2内科): -synuclein陽性構造物を辺縁系に局限して認めたAlzheimer型痴呆の臨床病理学的検討: Lewy小体型痴呆との異同. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 21) 内原俊記¹⁾, 中村綾子¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 森 修(¹⁾東京都神経科学総合研究所神経病理, ²⁾付属病院第2内科): アルツハイマー病海馬におけるタウ蛋白沈着の多様性: Thiazin Redを用いた蛍光免疫二重染色によるpretangle neuronの特徴. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 22) 内原俊記¹⁾, 中村綾子¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 森 修(¹⁾東京都神経科学総合研究所神経病理, ²⁾付属病院第2内科): Thiazin Redを用いた蛍光三重染色の試み タウ蛋白線維化に関するエピトープの同定をめざして. 第41回日本神経病理学会, 2000. 6.
- 23) 鴨井青龍¹⁾, 里見操緒¹⁾, 武内 務¹⁾, 松下径広¹⁾, 太田雄治郎²⁾, 米山剛一²⁾, 河村 堯¹⁾, 荒木 勤²⁾, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院産婦人科, ²⁾付属病院産婦人科): Epithelioid trophoblastic tumorの1例. 第29回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2000. 7.
- 24) 劉 愛民¹⁾, 浅野伍朗²⁾, 横山宗伯²⁾, 内藤善哉²⁾, 小黒辰夫, 東 敬子³⁾, 前田昭太郎³⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2, ³⁾多摩永山病院病理部): 電顕検索の併用が有用であった穿刺吸引細胞診の症例. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 25) 東 敬子¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 山本英希²⁾, 江上 格²⁾, 山王直子²⁾, 志村俊郎²⁾, 森 修, 劉 愛民³⁾, 浅野伍朗⁴⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾同脳神経外科, ³⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁴⁾病理学第2): 縦隔原発メラニン欠乏性悪性黒色腫の1例: 電顕の検索を中心として. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.

- 26) Arai R¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Arai S, Shimizu H¹⁾, Kawanami O¹⁾(¹⁾老人病研究所分子病理): Comparative Genomic Hybridization of Cisplatin-Resistant Ovarian Carcinoma Cells. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 27) 並松茂樹¹⁾, 尾崎正行¹⁾, 渡会泰彦¹⁾, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 安藤 哲(¹⁾ 附属病院病理部): 自動免疫染色装置による診断精度の向上と効率化の試み: ペンタナNXシステムの使用経験について. 第68回日本医科大学医学会総会, 2000. 9.
- 28) 新井 悟, 大秋美治, 森 修, 小黑辰夫, 松本智司¹⁾, 田中宣威¹⁾, 浅野伍朗²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾病理学第2): 腭漿液性微小嚢胞性腺腫の免疫組織化学的ならびに超微形態学的検討 PAM染色を応用した電子顕微鏡学的検索の導入. 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会ならびに学術講演会, 2000. 9.
- 29) 森 修, 長谷場健¹⁾, 亀山孝二²⁾, 大秋美治, 浅野伍朗²⁾(¹⁾法医学, ²⁾病理学第2): Alzheimer病(AD) 脳内Ab-peptideと共発現するclass III alcohol dehydrogenase(ADH3). 第18回日本痴呆学会総会, 2000. 9.
- 30) 鴨井青龍¹⁾, 松下径広¹⁾, 河村 堯¹⁾, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 赤坂久美, 三枝順子, 安藤 哲, 松澤こず恵(¹⁾千葉北総病院産婦人科): 乳頭状発育を示す子宮頸癌の細胞診断学的, 組織学的特徴: 乳頭状扁平上皮癌を中心に. 第39回日本臨床細胞学会秋季大会, 2000. 11.
- 31) 弘末卓也¹⁾, 阿部俊之¹⁾, 松下径広¹⁾, 五十嵐俊夫¹⁾, 若月雅美¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 河村 堯¹⁾, 新井 悟, 森 修, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院産婦人科): 高齢者に発症した卵巣類内膜癌合併卵黄嚢腫瘍の1例. 日本産婦人科学会千葉地方部会平成12年度冬季学術講演会, 2001. 1.
- 32) 市野浩三¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 柚 知行¹⁾, 小久保豊¹⁾, 小野 靖¹⁾, 日野 光紀¹⁾, 鈴木世孝²⁾, 真崎義隆²⁾, 五味淵誠²⁾, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾同胸部外科): 外科的手術にて確定診断が得られた pleomorphic adenomaの1例. 第10回東葛肺癌研究会, 2001. 1.
- 33) 新井 悟, 森 修, 大秋美治, 日野光紀¹⁾, 五味淵誠²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾同胸部外科): 肺膿瘍により発生した気管支内腫瘍の1例. 第15回日本病理学会関東支部千葉地区集会, 2001. 3.
- 34) 鴨井青龍¹⁾, 新井 悟, 森 修, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院産婦人科): 稀有な組織像を呈した卵巣腫瘍の1例. 第15回日本病理学会関東支部千葉地区集会, 2001. 3.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

当中央検査室では臨床検査の著しい進歩の中で, 新しい検査法や技術を検討および習得し, 臨床への有用性と応用を研究の目的とし, 特に検査精度の向上と迅速対応検査に主眼をおいて活動してきた.

今後, まますます進歩するであろうと推測される臨床検査領域の学術的・技術的習得を積極的にを行い, 日常の臨床検査への導入を視野に入れて活動していく予定である.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 稲川美実, 大 恵理子, 石渡統夫, 町田幸雄, 亀山雅弥, 飯野幸永: 自動輸血検査システムの比較検討: 4社4機種 の同時検討. 私立医科大学臨床検査技師会誌 KAMERADEN 2000; (31): 32-35.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 石渡統夫, 稲川美実: カラム法・ウェル法を用いた不規則性抗体スクリーニングの比較検討. 第68回日本医科

大学医学会総会，2000．9．

2) 稲川美実，石渡統夫：血中IgM濃度とABO式血液型ウラ試験凝集反応の検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

(2) 一般講演：

1) 石渡統夫，岡本直人，町田幸雄：ABO血液型ウラ試験と血中IgMの関係についての検討(第1報)．第49回日本臨床衛生検査学会，2000．5．

2) 佐治 守¹⁾，薄木玲子¹⁾，稲本正之¹⁾，片岡博邦¹⁾，葉山修陽²⁾，下照子³⁾，岡本直人³⁾，望月 徹⁴⁾，工廣紀斗司⁴⁾，益子邦洋⁴⁾，大國寿士⁵⁾(¹⁾千葉北総病院薬剤科，²⁾同内科，³⁾同中央検査室，⁴⁾同救命救急センター，⁵⁾微生物学・免疫学)：Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) と *Pseudomonas aeruginosa* に対する Gentianviolet と Acrinol の併用による殺菌効果の検討．日本医科大学医学会第102回例会，2000．12．

3) 日野光紀¹⁾，下照子²⁾，嶋崎千壽³⁾，葉山修陽¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同中央検査室，³⁾同看護部)：千葉北総病院における1年間の抗菌薬検出状況と定期外検診の適応．日本医科大学医学会第102回例会，2000．12．

[千葉北総病院薬剤科]

研究概要

本年度は，MRSAに関する細菌学的な検討を行った．

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Saji M, Fujii K¹⁾, Ohkuni H²⁾, Irie N¹⁾, Osono E³⁾, Kato F¹⁾(¹⁾東邦大・薬・微生物化学，²⁾老人病研究所・免疫，³⁾内科第2)：Synergistic bactericidal effects of acrinol and tetracycline against *Pseudomonas aeruginosa*．J Infect Chemother 2000；(6)：86-92．

2) Osano E¹²³⁾，Takahashi M²⁾，Kurihara S¹⁾，Ohwada K¹⁾，Sakurai Y¹⁾，Onoda N¹⁾，Takeuchi M¹⁾，Yoneshima H¹⁾，Hayama N³⁾，Iino Y³⁾，Saji M，Shikita R⁴⁾，Takahashi H²⁾，Ohkuni H⁵⁾(¹⁾春日部秀和病院，²⁾微生物・免疫，³⁾内科第2，⁴⁾付属病院検査室，⁵⁾老人病研究所・免疫)：Effect of "isolating hemodialysis" on prevent of methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* cross-infection inn a hemodialysis unit．Clin Nephrol 2000；53：128-133．

(2) 総説：

1) 浜田康次：脳研究最前線．薬局 2000；51(4)：122-123．

2) 浜田康次：私流・学会の楽しみ方．ナーシング・トゥデイ 2000；15(6)：64-64．

3) 浜田康次：外資全面参入前夜．薬局 2000；51(6)：162-163．

4) 浜田康次：IT革命．薬局 2000；51(7)：128-129．

5) 浜田康次：教育改革．薬局 2000；51(8)：128-129．

6) 浜田康次：脳代謝改善薬．薬局 2000；51(9)：136-137．

7) 浜田康次：企画力．薬局 2000；51(10)：136-137．

8) 浜田康次：薬と体の知識 ～ ．主任&中堅 2000；10：26-31．

9) 浜田康次：病院建築．薬局 2000；51(11)：154-155．

10) 浜田康次：医療制度改革．薬局 2000；51(12)：126-127．

11) 浜田康次：薬と体の知識 ～ ．主任&中堅 2000；10(2)：29-34．

12) 浜田康次：臨床薬剤師のためのインタビューフォームの読み方．千葉県病院薬剤師会会報 2001；(132)：

著 書

- 1) 浜田康次, 増原慶壮¹⁾, 加賀谷肇²⁾, 吉岡ゆうこ³⁾(¹⁾ 聖マリアンナ病院, ²⁾ 横浜南部病院, ³⁾ ネオフィスト研究所): [編集] カルテと検査値 病態を解く, 2000; pp1-136, Hospha .
- 2) 浜田康次, 小清水敏昌¹⁾, 望月眞由美²⁾, 成田久美¹⁾, 佐藤直子³⁾, 阿部和史⁴⁾, 宇田和夫⁵⁾, 岡本清司⁶⁾, 大塚尚武⁶⁾(¹⁾ 順天堂大学付属順天堂浦安病院, ²⁾ 北里大学薬学部, ³⁾ 東邦大学付属佐倉病院, ⁴⁾ 都立府中病院, ⁵⁾ ファーコス, ⁶⁾ 福神): [分担] 服薬指導の基本的考え方・実践・服薬説明ガイド, 2001; pp2-15, 薬事日報社 .

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 浜田康次: 臨床薬剤師のための IF の読み方. 千葉県病院薬剤師会中堅薬剤師研修会, 2000. 11 .

(2) 一般講演:

- 1) 望月 徹¹⁾, 佐治 守, 工廣紀斗司¹⁾, 登坂直規¹⁾, 小池 薫¹⁾, 松本 薫¹⁾, 原 義明¹⁾, 片田正一¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 大国寿士²⁾, 山本保博(¹⁾救急医学科, ²⁾老人病研究所・免疫): 局所感染病巣の耐性菌に対する色素剤治療の有効性. 第28回日本救急医学総会, 2000. 11 .
- 2) 佐治 守, 薄木玲子, 稲本正之, 片岡博邦, 葉山修陽¹⁾, 下照子²⁾, 岡本直人²⁾, 望月 徹³⁾, 工廣紀斗司³⁾, 益子邦洋³⁾, 大国寿士⁴⁾(¹⁾内科第2, ²⁾千葉北総病院中央検査室, ³⁾救急医学科, ⁴⁾老人病研究所・免疫): *Methicillin-resistant Staphylococcus aureus* (MRSA) と *Pseudomonas aeruginosa* に対する gentian violet と acrinol との併用による殺菌効果の検討. 日本医科大学医学会第102回例会, 2000. 12 .

[千葉北総病院中央画像検査室]

研究概要

中央画像検査室では, 診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから, それぞれの画像検査についての研究を進めている.

一般撮影部門では, CR の画像処理パラメータの条件に関する検討や骨密度測定の精度向上及び撮影時の誠意の研究開発を各診療科との連携において行っている. 透視撮影部門では胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究が進められている.

MRI 検査部門では造影3DMRA の血流背景信号の抑制 による検出能の改善, クエン酸アンモニウム製剤を用いた消化管信号の除去技術では特に MRCP 撮像において新たな知見が得られた. MR ミエログラフィおよび FRFSE 法における肩関節の新しい撮像法の開発, DWI における motion probing gradient (MPG) の依存性に関する研究が進められている.

CT 検査部門では3D-CT の信頼性の向上を目的に設定条件の検討が進んでいる.

RI では SPECT における呼吸動態と心筋の信号検出能との関係に対する検討, 循環器系の研究を行っている. 特に MRI 検査部門では, 日本放射線技術学会において年間最優秀論文賞をはじめ数々の賞を受ける等の目覚ましいものがあり, 本年度においても優秀論文に送られる滝内賞を受賞している.

今後の課題としては放射線治療部門に伴う治療技術の研究や画像診断を総合的に取り扱った研究がある.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 加藤丈司, 渡辺典男, 川村義彦：single shot fast short TI inversion recovery法を用いたsingle thick slice MR myelography . 日放線技会 2000 ; 56 (2) : 304-306 .

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 丸山智之：ピギナーのための骨撮影 . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 フレッシュアップセミナー , 2000 . 4 .
- 2) 丸山智之：CRにおけるMulti周波数処理：新時代のX線単純写真 . 第23回日本放射線技術学会東京部会 技術シンポジウム , 2000 . 10 .

(2) 一般講演：

- 1) Saitoh H , Sakurai M , Nakamura A , Arima K , Makino H , Kawamura Y , Cho K , Kumita S , Okada S , Kumazaki T : Relationship between wall thickness and count density of left ventricle on ^{99m}Tc myocardial SPECT images . The VIIth. Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology & The IVth. International Congress of Nuclear Oncology (Istanbul, Turkey) , 2000 . 10 .
- 2) Makino H , Sakurai M , Nakamura A , Saitoh H , Arima K , Kawamura Y , Cho K , Kumita S , Okada S , Kumazaki T : Maximum-Likelihood reconstruction with Order Subsets in myocardial SPECT for reducing abdominal scatter artifacts . The VIIth. Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology & The IVth. International Congress of Nuclear Oncology (Istanbul, Turkey) , 2000 . 10 .
- 3) Sakurai M , Nakamura A , Saitoh H , Arima K , Makino H , Kawamura Y , Cho K , Kumita S , Okada S , Kumazaki T : Pseudo-deficits of the anterior wall on ^{99m}Tc MIBI myocardial SPECT images using 180-degree reconstruction . The VIIth. Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology & The IVth. International Congress of Nuclear Oncology (Istanbul, Turkey) , 2000 . 10 .
- 4) Arima K , Sakurai M , Nakamura A , Saitoh H , Makino H , Kawamura Y , Cho K , Kumita S , Okada S , Kumazaki T : Left ventricular volume determination using ECG-gated ²⁰¹Tl/¹²³I BMIPP dual myocardial SPECT and QGS program . The VIIth. Asia and Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology & The IVth. International Congress of Nuclear Oncology (Istanbul, Turkey) , 2000 . 10 .
- 5) 齋藤晴美 , 富里謙一 , 吉澤賢史 , 加藤丈司 , 川村義彦：MR cine (2D fast card法) を用いた心臓三次元表示および心機能評価の試み . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 , 2000 . 4 .
- 6) 渡辺典男 , 丸山智之 , 加藤丈司 , 吉澤賢史 , 川村義彦 , 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科) : 胸部断層撮影におけるマルチ周波数処理の有用性 . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 , 2000 . 4 .
- 7) 吉澤賢史 , 渡辺典男 , 丸山智之 , 川村義彦 , 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科) : 下肢静脈造影のCRの有用性 . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 , 2000 . 4 .
- 8) 丸山智之：患者さんに優しい撮影技術：筋・靭帯を意識したCR (Multi周波数処理) . 第70回日本放射線技術学会東京部会 技術フォーラム , 2000 . 4 .
- 9) 丸山智之 , 渡辺典男 , 川村義彦：Multi周波数処理を用いた喉頭撮影の検討 . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 , 2000 . 4 .
- 10) 水野正之 , 原田耕次 , 理崎貴博 , 渡辺英樹 , 渡辺典男 , 川村義彦：入力信号の違いにおけるQCA analysis systemの信頼性 . 第56回日本放射線技術学会総会学術大会 , 2000 . 4 .
- 11) 河原崎昇 , 高岡慎市 , 今井 豪 , 菅沼一男 , 渡辺典男 , 川村義彦：三次元線量重畳積分 (Convolution Super-

- position) モデルを用いた線量分布の基礎的検討: 位置決めCT 画像データにおける評価. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
- 12) 高岡慎市, 菅沼一男, 河原崎昇, 今井 豪, 渡辺典男, 川村義彦: 三次元線量重畳積分 (Convolution Superposition) を用いた基礎的検討: RANDO Phantom を使用した線量比較. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 13) 松丸和弘, 中野 徹, 有馬光一, 田村 京, 川村義彦: X線CTにおけるt検定を用いた低コントラスト分解能の検討. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 14) 加藤丈司, 富里謙一, 齋藤晴美, 吉澤賢史, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): fast inversion recovery 法を用いたMR myelographyの撮像条件の最適化. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 15) 富里謙一, 加藤丈司, 齋藤晴美, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): fast recovery fast spin echo (FRFSE) 法における3D肩関節arthrographyへの応用. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 16) 加藤丈司, 富里謙一, 中村亜矢, 齋藤晴美, 吉澤賢史, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): single-shot fast inversion recovery を用いたMR-cholangiopancreatography. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 17) 富里謙一, 加藤丈司, 齋藤晴美, 吉澤賢史, 渡辺典男, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): diffusion tensor image (DTI) における motion probing gradient (MPG) の依存性. 第56回日本放射線技術学会総会学術大会, 2000. 4.
 - 18) 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦: マルチ周波数処理によるアーチファクトの抑制. 日本放射線技術学会東京部会春期学術研究発表会, 2000. 5.
 - 19) 高岡慎市, 渡辺典男, 丸山智之, 菅沼一男, 河原崎昇, 川村義彦: Multi-Objective Frequency Processing を用いたLinac Graphyの検討. 第54回日本放射線技術学会東京部会春期学術研究発表会, 2000. 5.
 - 20) 水野正之, 中野 徹, 原田耕次, 川村義彦, 水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科): 心電同期Subtractionの有用性. 第17回循環器合同カンファランス, 2000. 6.
 - 21) 齋藤晴美, 有馬光一, 牧野仁美, 櫻井 実, 川村義彦: QGSにおける至適画像再構成フィルタの検討: 心筋積カウントとカットオフ周波数の関係. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 22) 有馬光一, 櫻井 実, 齋藤晴美, 牧野仁美, 川村義彦: 2核種同時収集(²⁰¹Tl+¹²³I)によるQGS解析の評価. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 23) 櫻井 実, 齋藤晴美, 有馬光一, 牧野仁美, 川村義彦: 3検出器ガンマカメラにおける^{99m}Tc, ¹²³I 2核種同時収集について: 検出器ごとのenergy window設定によるアーチファクトと至適window. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 24) 渡辺典男, 丸山智之, 吉澤賢史, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): マルチ周波数処理による濃度分布の補正: 下肢静脈を中心とした造影像について. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 25) 水野正之, 理崎貴博, 渡辺英樹, 原田耕次, 川村義彦: 心電同期Subtractionを用いたQCA analysisの試み. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 26) 丸山智之, 渡辺典男, 吉澤賢史, 川村義彦, 岡田 進: Multi周波数処理による周波数特性の補正. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 27) 高岡慎市, 渡辺典男, 丸山智之, 河原崎昇, 菅沼一男, 今井 豪, 川村義彦: Linac GraphyにおけるMulti-Objective Frequency Processingの有用性. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.
 - 28) 松丸和弘, 中野 徹, 田村 京, 土井杏梨, 川村義彦: X線CTにおける低コントラスト分解能評価法の検討. 第28回日本放射線技術学会秋季学術大会, 2000. 10.

- 29) 齋藤晴美, 汲田伸一郎, 櫻井 実, 中村亜矢, 有馬光一, 牧野仁美, 川村義彦, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫: 心拍同期心筋SPECTにおける心筋集積と壁厚の変化率の比較: ファントムによる検討. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 30) 中村亜矢, 汲田伸一郎, 櫻井 実, 有馬光一, 齋藤晴美, 牧野仁美, 川村義彦, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫: QGSプログラムによる心機能の比較: 2検出器 vs 3検出器. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 31) 有馬光一, 汲田伸一郎, 櫻井 実, 中村亜矢, 齋藤晴美, 牧野仁美, 川村義彦, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫: ^{201}Tl / ^{123}I BMIPP 2核種同時心拍同期心筋SPECTを用いた心機能評価: ファントムによる検討. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 32) 牧野仁美, 汲田伸一郎, 櫻井 実, 中村亜矢, 齋藤晴美, 有馬光一, 川村義彦, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫: 心筋SPECT像への腹部散乱線の影響: FBP vs. OSEM. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 33) 櫻井 実, 汲田伸一郎, 中村亜矢, 有馬光一, 齋藤晴美, 牧野仁美, 川村義彦, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫: 心筋SPECT像における前壁偽欠損の検討: 右室による吸収の効果と再構成法による検討. 第40回日本核医学会総会, 2000. 11.
- 34) 崎崎貴博, 水野正之, 渡辺英樹, 原田耕次, 川村義彦: 撮影管電圧の違いによる周波数処理を用いたQCA analysisの有用性. 第23回日本放射線技術学会東京部会秋季学術研究発表会, 2000. 11.
- 35) 土井杏梨, 松丸和弘, 中野 徹, 田村 京, 川村義彦: X線CTにおけるCNRを用いた低コントラスト分解能評価法の検討: 関心領域による影響. 第23回日本放射線技術学会東京部会秋季学術研究発表会, 2000. 11.
- 36) 丸山智之: 腰痛. 第12回フォーシーズンズフォーラム, 2001. 3.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

歯科治療の中でレーザー治療の応用方法として、炭酸ガスレーザーは、強い熱作用を持ち、組織透過性が低く、治療部位以外の周囲の組織へのダメージが少ないレーザーとして治療に応用されている。その治療効果として、軟組織への蒸散、止血、切開、メラニン除去への有用性、また、硬組織への歯周外科時の根面処理への応用についての基礎的、臨床的研究。近年行われている歯周組織再生療法 (Gided Tissue Regeneration) の応用方法として、架橋アルギン酸、CAPセメントなどの移植材を用いたの検討およびインプラント治療への応用について基礎的、臨床的研究。有病者や身体障害者における口腔衛生管理は重要な課題となっており、介護用の注水・吸引機能付き歯ブラシを応用した口腔衛生管理についての研究など。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 鴨井久博, 小倉喜一郎¹⁾, 佐藤 勉²⁾, 丹羽源男²⁾, 鴨井久一¹⁾ (¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室, ²⁾同歯学部衛生学教室): Histological Changes in Oral Mucosa in Zinc-Deficient Rats: Focusing on Periodontal Tissue. J. Dent. Hlth. 2001; 51: 185-190.
- 2) 草間雅之¹⁾, 鴨井久博, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久一¹⁾ (¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): エナメルマトリックスタンパク質によるイヌ露出歯根面被覆への応用. 日口腔インプラント会誌 2001; 14(1): 7-21.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 鴨井久博: 炭酸ガスレーザーにおける歯周治療への応用. 第15回日本歯科産業学会, 2000. 7.

(2) 一般講演 :

- 1) 我妻瑞穂¹⁾, 鴨井久博, 佐藤 聡¹⁾, 仲谷 寛¹⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): CO₂レーザーによる歯肉蒸散効果について. 第112回日本歯科保存学会春季学会, 2000. 4.
- 2) 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久博, 我妻瑞穂¹⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): CO₂レーザーの歯周治療への応用と実際. 第19回日本歯科医学学会総会, 2000. 5.
- 3) 根津雅彦¹⁾, 鴨井久博, 我妻瑞穂¹⁾, 和崎佳子¹⁾, 菅又 香¹⁾, 西田 篤¹⁾, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): イヌ露出歯根面被覆へのエナメルマトリックス蛋白質(エムドゲイン)の応用. 第43回春季日本歯周病学会総会, 2000. 5.
- 4) 長谷川洋子¹⁾, 鴨井久博, 我妻瑞穂¹⁾, 菅又 香¹⁾, 和崎佳子¹⁾, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): 同種血液由来因子添加コラーゲン(テルダーミス)の歯周組織再生療法への応用. 第43回春季日本歯周病学会総会, 2000. 5.
- 5) 西田篤史¹⁾, 鴨井久博, 我妻瑞穂¹⁾, 吉岡奈保¹⁾, 山井由香¹⁾, 根津雅彦¹⁾, 和崎佳子¹⁾, 菅又 香¹⁾, 佐藤昭¹⁾, 佐藤 聡¹⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室): エナメルマトリックス蛋白質(エムドゲイン)によるイヌ露出歯根面被覆への応用: 免疫組織科学的検索. 第43回秋季日本歯周病学会総会, 2000. 10.
- 6) 小倉喜一郎¹⁾, 鴨井久博, 佐藤 勉²⁾, 丹羽源男²⁾, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学歯学部歯周病学教室, ²⁾同衛生学教室): 亜鉛欠乏ラットにおける歯周組織変化について. 第49回日本口腔衛生学会総会, 2000. 10.

〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

1. 老人病研究所

[病理学部門]

研究概要

I】血管生物学的な形態観察

1) 組織レベルでの血管内皮細胞と癌 昨年に引き続き原発性肺癌が肺泡領域へ浸潤することにより、肺泡本来の thrombomodulin- (TM) rich type から von Willebrand factor (vWf) -reactive endothelium の性格を獲得すること、そして時間の経過と共にこの内皮細胞の phenotype は vWf-rich に転換すること、同時に血管の新生が発現する事実を電子顕微鏡的にも明らかにした。この phenotypic transformation は、癌細胞が主役を演じ vascular endothelial growth factor (VEGF) の isoform VEGF165 が癌細胞より分泌され肺泡毛細血管が活性化されて血管新生に関わる事実を明らかにした。現在肺泡壁の microdissection 法により関与するメッセンジャー RNA を分析中である。VEGF とその受容体さらに別の因子が介入するものと考えている。

II】in vitro 系での細胞の特徴

1) A549 の発現する TM を抑制と細胞増生能 TM mRNA に対する antisense-oligodeoxynucleotide (ODN) を A549 にトランスフェクションすると、TM のタンパク発現は抑制され、同細胞の増生能は有意に低下した。TM が細胞増生に深く関与するが、細胞内シグナル伝達機能上どのような作用をするのかが次の課題となる。

2) microarray 法による細胞の活性化反応 ケロイド皮膚は電子線照射によりその発育が臨床的に抑制されることが分かっている。そこでケロイドと正常皮膚より線維芽細胞を取り出し実際に電子線照射後経時的に細胞周期を制御する因子の 60 分後の発現を認めた。その microarray を現在実施中である。

3) comparative genomic hybridization (CGH) 法によるゲノムの変化 食道癌、肺癌、胃癌、白血病の制癌剤治療には multidrug resistance (MDR), multidrug resistance-related protein (MRP) の gene が関与し薬剤耐性を持つこと、肺癌では A549 が他の腺癌遺伝子の変移と大きく異なることを明らかにしつつある。形態形成との関連性を検討中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawanami O , Jin E , Ghazizadeh M , Fujiwara M , Jiang L , Nagashima M , Shimizu H , Takemura T¹⁾ , Ohaki Y²⁾ , Arai S²⁾ , Gomibuchi M³⁾ , Takeda K⁴⁾ , Yu ZX⁴⁾ , Ferrans VJ⁴⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center , ²⁾ Surgical Pathology Section, Hokuso Hospital , ³⁾ 2nd Department of surgery, Hokusou Hospital , ⁴⁾ NHLBI, NIH, USA) : Heterogeneous distribution of thrombomodulin and von Willebrand factor in endothelial cells in the human pulmonary microvessels . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2) : 118-125 .
- 2) Shen GH , Ghazizadeh M , Kawanami O , Shimizu H , Jin E , Araki T¹⁾ , Sugisaki Y²⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology , ²⁾ Surgical Pathology Section) : Prognostic significance of vascular endothelial growth factor expression in human ovarian carcinoma . Br J Cancer 2000 ; 83 (2) : 196-203 .
- 3) Fujiwara M , Jin E , Ghazizadeh M , Kawanami O : An In Vitro model to Evaluate regulatory mechanisms of antigen expression by normal pulmonary vessel endothelial cells . Microvasc Res 2001 ; 61 : 215-219 .
- 4) Imai J¹⁾ , Ghazizadeh M , Naito Z¹⁾ , Asano G¹⁾ (¹⁾ Dept of Pathology) : Immunohistochemical expression of T, Tn and sialyl-Tn antigens and clinical outcome in human breast carcinoma . Anticancer Res 2001 ; 21

(2B): 1327-1334 .

- 5) Ozaki N¹⁾, Ishizaki M²⁾, Ghazizadeh M, Yamanaka N²⁾(¹⁾ Dept of Ophthalmology , ²⁾ Dept of Pathology): Apoptosis mediates decrease in cellularity during the regression of Arthus reaction in cornea . Brit J Ophthalmology 2001 ; 85 (5) : 613-219618 .

(2) 総説 :

- 1) Jin E , Kawanami O : Unique distribution of von Willebrand factor andt hrombomodulin in endothelial cells of human pulmonary microvessels . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (2) : 64-65 .
2) Arai R , Ghazizadeh M , Kawanami O : Comparative genomic hybridization analysis of cisplatin-resistant ovarian carcinoma cells . J Nippon Med Sch 2000 ; 67 (6) : 416-417 .

著 書

- 1) 川並汪一, 武村民子¹⁾(¹⁾日赤医療センター病理): [共著] 気管支喘息における気道リモデリング (特集: 気道リモデリングに関与する細胞と治療への展望). アレルギー科, 2000 ; pp487-493, 科学評論社 .
2) 川並汪一: [分担] トロンボモジュリン . Key Word 1999-2000 呼吸器疾患 (山木戸道郎, 日和田邦夫, 小倉剛), 2000 ; pp132-133, 先端医学社 .
3) 川並汪一: [分担] 樹状細胞と呼吸器疾患 (特集: アレルギーにおける樹状細胞). アレルギー・免疫, 2000 ; pp22-32, 医薬ジャーナル社 .
4) 川並汪一: [分担] 肺好酸球性肉芽腫 (ランゲルハンス細胞性組織球症). Annual Review 呼吸器, 2001 ; pp142-151, 中外医学社 .

学会発表

(1) 追加分一般講演 :

- 1) Shen GH, Ghazizadeh M, Araki T¹⁾(¹⁾産婦人科学): Vascular permeability factor or vascular endothelial growth factor expression and microvessel density in human ovarian carcinomas . 6th Hong Kong International cancer congress, 4th Research Postgraduate symposium (Hong Kong), 1999 . 6 .

(2) 特別講演 :

- 1) 川並汪一: 肺の微小血管内皮細胞の領域別特異性と病態下におけるその転換機序 . 第20回気道分泌研究会, 2000 . 5 .

(3) 一般講演 :

- 1) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O : In vitro Model on the Expression of Thrombomodulin and vWf in the normal Human Endothelial Cells . 96th American Thoracic Society International Conference, (Toronto, Canada.), 2000 . 5 .
2) Jin E, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Jiang L, Nagashima M, Ohaki Y¹⁾, Gomibuchi M²⁾, Takemura T³⁾, Kawanami O (¹⁾Surgical Pathology Section, Hokuso Hospital, ²⁾2nd Department of surgery, Hokusou Hospital, ³⁾Department of Pathology, Japan Red Cross Hospital Center): Phenotypic transformation of the alveolar capillary endothelium in areas of neoplastic invasion of primary lung adenocarcinoma . ALA/ATS International conference, (Toronto, Canada), 2000 . 5 .
3) Kawanami O, Jin E, Ghazizadeh M, Fujiwara M, Jiang L, Shimizu H, Arai S¹⁾, Ohaki Y¹⁾(¹⁾Surgical Pathology Section, Hokuso Hospita): INeoplastic invasion of primary adenocarcinoma induces phenotypic alteration to alveolar capillary endothelium in the lung . XIth International vascular biology meeting (Geneva, Switzerland), 2000 . 9 .
4) Fujiwara M, Jin E, Ghazizadeh M, Kawanami O : Effect of Cytokines on the Expression of Thrombomod-

ulin and vWf in the Normal Lung Human Endothelial Cells In vitro . XIth International Vascular Biology Meeting (Geneva, Switzerland), 2000 . 9 .

- 5) Jin E, Jiang L, Shimizu H, Fujiwara M, Ghazizadeh M, Kawanami O : Expression control of thrombomodulin and vWf in the microvessel endothelium in bleomycin-induced fibrotic lungs in C57BL/mouse . XIth International vascular biology meeting (Geneva, Switzerland), 2000 . 9 .
- 6) ガジザデ モハマッド, 清水 一, 永島幹夫, 栗原雄司¹⁾, 金 恩京, 藤原正和, 枝川聖子, 新井 悟²⁾, 森山雄吉¹⁾, 川並汪一 (¹⁾第二病院消化器病センター, ²⁾千葉北総病院病理部): Feasibility of laser capture microdissection of immunostained cells for molecular analysis . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 7) ガジザデ モハマッド, 清水 一, 金 恩京, 新井 悟¹⁾, 川並汪一 (¹⁾千葉北総病院病理部): Prognostic role of p16INK4 expression in bronchiolo-alveolar carcinoma . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 8) Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Inoue K¹⁾, Shimizu H, Egawa S, Jin E, Todome Y²⁾, Ohkuni H²⁾, Kawanami O (¹⁾Central Institute for Electron Microscopic Researches, ²⁾Department of Immunology and Infectious Diseases): Ultrastructure of human chromosomes by transmission electron microscopy . 第32回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 2000 . 5 .
- 9) Arai R, Ghazizadeh M, Arai S¹⁾, Shimizu H, Kawanami O (¹⁾千葉北総病院病理部): Comparative genomic hybridization of cisplatin-resistant ovarian carcinoma cells . 第68回日本医科大学医学部総会, 2000 . 9 .
- 10) ガジザデ モハマッド, 川並汪一, 荒木 勤¹⁾, 清水 一, 小西英喜¹⁾, 金 恩京, 永島幹夫 (¹⁾産婦人科学): Detection of differentially expressed genes in cisplatin-resistant ovarian carcinoma cells by cDNA microarray analysis . 第59回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 11) 清水 一, ガジザデ モハマッド, 新井 悟¹⁾, 金 恩京, 大秋美治¹⁾, 武村民子²⁾, 永島幹夫, 川並汪一 (¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾日赤医療センター病理部): 細気管支肺胞上皮癌に発現する VEGF について . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 12) 金 恩京, ガジザデ モハマッド, 清水 一, 枝川聖子, 大秋美治¹⁾, 武村民子²⁾, 川並汪一 (¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾日赤医療センター病理部): 原発性肺腺癌における肺胞毛細血管内皮細胞の形質転換と VEGF との関係 . 第89回日本病理学会総会, 2000 . 4 .
- 13) 清水 一, 永島幹夫, ガジザデ モハマッド, 金 恩京, 新井 悟¹⁾, 大秋美治¹⁾, 武村民子²⁾, 川並汪一 (¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾日赤医療センター病理部): Laser Capture Microdissection (LCM) 法を用いた Bronchioloalveolar carcinoma における VEGF-isoform の解析 . 第59回日本癌学会総会, 2000 . 10 .
- 14) 土佐真美子¹⁾, 井上尚子¹⁾, 平井 隆¹⁾, 川並汪一, 百束比古¹⁾ (¹⁾形成外科学): 真皮下血管網皮弁の生着過程に関する組織学的研究 . 第9回日本形成外科学会学術集会, 2000 . 10 .

[生化学部門]

研究概要

細胞の中から老化や病気の原因を探る 老人病研究所生化学部門の部門名には、「生化学」という名がついているが、生化学だけでなく、最新のバイオテクノロジーを駆使して、老化や病気の原因を細胞の中から探っている。とくに細胞内小器官のミトコンドリアはエネルギー合成だけでなく様々な機能を持ち、多くの病気や老化現象に関わっている。ミトコンドリア機能を重視しながら、病気の原因と対策を開発しようとする点に研究室の特色がある。

研究テーマは

(1) ミトコンドリアと核のクロストーク

ミトコンドリアに異常が生じた時に核はどのように反応し、細胞を維持しようとするのか？オルガネラ間の相互作用を明らかにする目的で新規遺伝子を分離した。

(2) アルツハイマー病の危険因子

アルツハイマー病をはじめとする脳変性疾患におけるミトコンドリアの役割を中心に研究している。アルデヒド代謝や酸化ストレスに注目しており、アルデヒド脱水素酵素欠損がアルツハイマー病の危険因子であることを明らかにし、研究成果はマスコミでも頻繁にとりあげられている。

(3) 蛋白治療

遺伝子治療に対して「蛋白治療」という言葉を使っている。細胞死を防御する蛋白質を投与して、脳虚欠や肝疾患、筋疾患などの多くの疾患治療や臓器移植のための臓器維持などに寄与しようとするものです。遺伝子を変えて新しい蛋白を作ったり、その蛋白を細胞内にいれることができるような成果をあげている。

(4) ミトコンドリア脳筋症

ミトコンドリア遺伝子の変異によってミトコンドリア脳筋症という遺伝子病が生じる。ミトコンドリア遺伝子は核遺伝子とは別の挙動を示すので、他の疾患とは異なる特徴がある。原因究明から治療法の開発が现阶段の目標である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimokata H¹⁾, Yamada Y²⁾, Nakagawa Y³⁾, Okubo R⁴⁾, Saido T⁵⁾, Funakoshi A⁶⁾, Miyasaka K⁶⁾, Ohta S, Tsujimoto G⁷⁾, Tanaka M⁸⁾, Ando F¹⁾, Niino N¹⁾ (¹⁾ Dept. of Epidemiology, National Institute for Longevity Science, ²⁾ Dept. of Geriatric Research National Institute for Longevity Sciences, ³⁾ Thrid Dept. of Internal Medicine Kagoshima University School of Medicine, ⁴⁾ Laboratory for Proteolytic Neuroscience RIKEN brain science institute, ⁵⁾ Dpet. of Digestive Nationa IKyushu Cancer Center, ⁶⁾ Dept. of Clinical Physiology tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ⁷⁾ Dept. of Molecular Cell Pharmacology National Children's Medical Research Center, ⁸⁾ Dept. of Gne Therapy, Gifu International Institute of Biothechnology): Distribution of Geriatric Disease-Related genotypes in the National Institute for Longevity Sciences, Longitudinal Study of Aging (NILS-LSA). J Epidemiol 2000 ; 10 (1): 46-55 .
- 2) Yamada M¹⁾, Mizuguchi M²⁾, Nishimaki K, Takasima S³⁾, Ikeda K⁴⁾, Ohta S, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Dept. of Pathology, Brain Research Institute, Niigata Univ, ²⁾ Dept of Pediatrics, Jichi Med Sch, ³⁾ Dept of Mental Retardation and Birth Defect Research, National Institute of Neuroscience, ⁴⁾ Dept of Ultrastructure and Histochemistry, Tokyo Institute of Psychiatry): Localization of Bcl-x in the developing and adult rat central nervous system . J Neurosci Res 2000 ; 60 : 468-477 .
- 3) Kamino K, Nagasaka K, Imagawa M¹⁾, Yamamoto H²⁾, Yoneda H³⁾, Ueki A⁴⁾, Kitamura S⁵⁾, Namekata K⁶⁾, Miki T⁷⁾, Ohta S (¹⁾ Dept of Psychiatry, Hyogo Prectural Amagasaki Hospit, ²⁾ Dept of Int Med, Osaka Municipal Kohsaiin Hospit, ³⁾ Dept of Neuropsychiatry, Osaka Med College, ⁴⁾ Dept of Neurol, Omiya Med Center, Jichi Med Sch, ⁵⁾ Dept of Int MedII, Nippon Med Sch, ⁶⁾ Dept of Neuropathol, Graduate Sch, Fac of Med, Univ of Tokyo, ⁷⁾ Dept of Geriatric Med, Ehime Univ Sch of Med): Deficiency in Mitochondrial Aldehyde Dehydrogenase Increases the Risk for Late-Onset Alzheimer's Disease in the Japanese Population . Biochem Biophy Res Commun 2000 ; 273 : 192-196 .
- 4) Nanbu-Wakao R, Asoh S, Nishimaki K, Tanaka R, Ohta S : Bacterial Cell death induced by human pro-apoptotic Bax is blocked by an RNaseE mutant that functions in an anti-oxidant pathway . Genes Cells 2000 ; 5 : 155-167 .
- 5) Yasukawa T, Hino T²⁾, Suzuki T¹²⁾, Watanabe K¹²⁾, Ueda T²⁾, Ohta S (¹⁾ Dept of Chemistry and Biotechnology, Graduate Sch of Engineering, Univ of Tokyo, ²⁾ Dept of Integrated Biosciences, Graduate Sch of Frontier Sciences, Univ of Tokyo): A pathogenic point mutation reduces stability of mitochondrial mutant

tRNA^{Leu}. Nucl Acids Res 2000 ; 28 (19): 3779-3784 .

- 6) Hatanaka Y¹⁾, Kamino K, Fukuo K¹⁾, Mistuda N¹⁾, Nishiwaki-Ueda Y¹⁾, Sato N¹⁾, Satoh T¹⁾, Yamamoto H¹⁾, Yoneda H²⁾, Imagawa M³⁾, Miki T⁴⁾, Ohta S, Ogihara T¹⁾ (¹⁾ Dept of Geriatric Med, Univ of Osaka, ²⁾ Dept of Neuropsychiatry, Osaka Med College, ³⁾ Dept of Psychiatry, Hyogo Prefectural Amagasaki Hospit, ⁴⁾ Dept of Geriatric Med, Ehime Univ Sch of Med): Low density lipoprotein receptor-related protein gene polymorphisms and risk for late-onset Alzheimer's disease in a Japanese population . Clinical Genet 2000 ; 58 : 319-323 .
- 7) Asoh S, Ohtsu T, Ohta S : The Super Anti-apoptotic Factor Bcl-xFNK Constructed by Disturbing Intramolecular Polar Interactions in Rat Bcl-xL . J Biol Chem 2000 ; 275 (47): 37240-37245 .

(2) 総説 :

- 1) Ohta S : Pore-Forming Structure and Bifunction of the Pro-Apoptotic Factor, Bax . Apoptosis (Its roles and mechanism) 2000 ; 65-84 .
- 2) 麻生定光, 太田成男: ミトコンドリアと細胞死: 神経細胞死をめぐって (細胞の生と死). Clinical Neuroscience (編集: 後藤文男, 寺本明, 金澤一郎, 宮田雄平, 岡本幸市, 有田秀穂) 中外医学社 2000 ; 18 (4): 42-44 .
- 3) 紙野晃人, 太田成男: アルツハイマー病とミトコンドリア機能 . カレントセラピー ライフメディコ社 2000 ; 18 (4): 121-124 .
- 4) 安川武宏, 渡辺公綱^{1), 2)}, 太田成男 (¹⁾ 東大院・工学, ²⁾ 東大院・新領域): ミトコンドリア病発症研究の新しいアプローチ: ミトコンドリア tRNA アンチコドンの異常 . 化学と生物 (日本農芸化学会編) 2000 ; 38 (11): 714-721 .
- 5) 太田成男: ミトコンドリア異常とその意義: ALDH2 遺伝子の関連解析 . 臨床神経 2001 ; 40 : 87-89 .

著 書

- 1) 太田成男: [分担] 老化におけるミトコンドリアの関与 . 臨床フリーラジカル研究会編 - 老化とフリーラジカル, 2000 ; pp51-54, 老化とフリーラジカル .
- 2) 太田成男: [分担] アポトーシスにおけるミトコンドリアの関与 . 臓器別アポトーシス証明法 (大槻勝紀, 小路武彦, 渡辺慶一編集), 2000 ; pp395-403, 南江堂 .
- 3) 太田成男, 安川武宏, 上田卓也¹⁾ (¹⁾ 東京大学院・新領域): [分担] ミトコンドリア病と tRNA . RNA 研究の最前線 - RNA と蛋白質の複合機能 (志村令郎, 渡辺公綱 編), 2000 ; pp188-197, シュプリンガー・フェアラーク東京 .
- 4) 麻生定光, 太田成男: [分担] ミトコンドリア障害とアポトーシス . アポトーシスと疾患-中枢神経疾患編 (水野美邦編集), 2000 ; pp182-195, 医薬ジャーナル .
- 5) 太田成男: [翻訳] 脳と筋肉を襲うミトコンドリア病 . ゲノム科学がひらく医療 (別冊 日経サイエンス, 日経サイエンス編集部 編), 2000 ; pp134-143, 日経サイエンス社 .
- 6) 太田成男: [翻訳] 老化の体系的理論 . 老化のバイオロジー-Biology of Aging- (Robert Arking), 2000 ; pp385-413, メディカルサイエンスインターナショナル .
- 7) 瀬名秀明, 太田成男: [共著] ミトコンドリアと生きる, 2000 ; 角川書店 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Asou S, Ohtsu T, Ohta S : The super anti-apoptotic factor Bcl-xFNK 「 a novel mutant of rat Bcl-xL with a gain-of-function phenotype 」 . Miami 2001 Nature Biotechnology Winter Symposia (Miami), 2001 . 2 .

- 2) 太田成男：ミトコンドリア異常とその意義．第41回日本神経学会総会，2000．5．
- 3) 太田成男：ミトコンドリア tRNA 遺伝子の体細胞変異の蓄積 多検体解析．第73回日本生化学会大会，2000．10．
- 4) 太田成男，石橋佳朋，向井有理，麻生定光，宗像可枝¹⁾，後藤雄一¹⁾(¹⁾国立精神神経センター神経研)：MIDAS：ミトコンドリア DNA の損傷を感知する新規因子．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．

(2) 一般講演：

- 1) 紙野晃人，太田成男，三木哲郎¹⁾(¹⁾愛媛大学医学部老人科)：晩期発症型アルツハイマー病 (LOAD) におけるミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素 (ALDH2) 欠損の遺伝的関連と発症年齢に対する影響．第41回日本神経学会総会，2000．5．
- 2) 安川武宏，鈴木 勉^{1),2)}，上田卓也^{1),2)}，太田成男，渡辺公綱^{1),2)}(¹⁾東大院・工・化生命，²⁾東大院・新領域・先端生命)：変異ミトコンドリア tRNA 修飾欠損に起因するミトコンドリア病の分子機構の解明．第2回 RNA 学会年会，2000．7．
- 3) 杉本 泉¹⁾，安川武宏，鈴木 勉¹⁾，林 純一²⁾，太田成男，渡辺公綱¹⁾(¹⁾東大院・新領域・先端生命，²⁾筑波大・生物科)：ミトコンドリア病に見られる変異ミトコンドリア tRNA の解析．第2回 RNA 学会年会，2000．7．
- 4) 金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男：DLST 遺伝子がアルツハイマー病に関与する分子機構．第19回日本痴呆学会，2000．9．
- 5) 太田成男，紙野晃人，西槇貴代美：ミトコンドリア ALDH2 酵素活性欠損とアルツハイマー病．第19回日本痴呆学会，2000．9．
- 6) 日野成実¹⁾，安川武宏，鈴木 勉^{1),2)}，渡辺公綱^{1),2)}，太田成男，上田卓也^{1),2)}(¹⁾東大院・創域，²⁾東大院・工)：乳児致死性心筋症由来点変異をもつミトコンドリア tRNA^{lle} の異常な不安定性の解析．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 7) 安田知永，西槇貴代美，紙野晃人，太田成男：ミトコンドリア型アルデヒド脱水素酵素欠損型の神経細胞死誘導．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 8) 金森 崇，西槇貴代美，紙野晃人，高田威一^{1),2)}，桑原知子^{1),3)}，藁科雅岐¹⁾，多比良和誠^{1),3)}，太田成男(¹⁾工技院・融合研，²⁾筑波大・応用生物化学系，³⁾東大院・工)：sDLST (C 端側 DLST) による神経細胞死の防御とアルツハイマー病への関与．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 9) 向井有理，石橋佳朋，麻生定光，太田成男：MIDAS：ミトコンドリア DNA の障害を感知してミトコンドリア複製を促進する新規因子．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 10) 田邊真理子¹⁾，中野恭子¹⁾，中河志朗²⁾，太田成男，松田貞幸³⁾(¹⁾鹿児島女子短大・生化，²⁾鹿児島大・医・解剖 1，³⁾鹿屋体育大・生物)：ヒト DLST 遺伝子の多型について．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 11) 安田雅弘，麻生定光，尾崎大也，太田成男：スーパーアポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白を用いた in vivo 細胞死を抑制する protein therapy への応用．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．
- 12) 尾崎大也，安田雅弘，麻生定光，武内俊次¹⁾，白井康正¹⁾，太田成男(¹⁾整形外科学)：スーパーアポトーシス抑制因子 Bcl-xFNK 蛋白導入によるスライス培養軟骨細胞の維持．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．

[疫学部門]

研究概要

神経内分泌学を中心として生体の機能制御機構を研究する．本年度の成果を下記に示す．

1) Corticotropin-releasing factor 受容体 (CRFR-1) 蛋白のラット脳内での発現は，mRNA の発現と解離する部位があること，CRFR-1 蛋白発現が視床下部室傍核ではストレスや浸透圧刺激により調節を受けていることを明らかに

した。

2) 視床下部CRFR-1遺伝子の発現は、CRFにより直接up-regulateされること、カテコールアミンやアセチルコリン等の神経伝達物質によって調節されることを示した。

3) 成長ホルモン(GH)分泌パターンを決定するアンドロゲンの作用部位は視索前野にあり、アンドロゲンがGHの標的ニューロン(オートフィードバック)に直接作用するものでないことが示された。

4) GHは視床下部細胞においてSTAT5, MAPKのリン酸化を促進し、細胞内ネガティブレギュレーターであるCIS, SOCS3の転写を誘導した。視床下部細胞でもGH細胞内シグナル伝達の一部には肝細胞と同様の系の活性化による機序があることがわかった。

5) 新しい神経ペプチド、プロラクチン分泌促進ペプチドおよびグレリンの生理的作用と特性を検討中である。

6) 甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子として同定したELKSがalternative splicingによって組織特異的に様々なmRNAを発現していることを明らかにした。

7) 多施設共同研究として、文部省学術フロンティア事業「多因子性疾患の遺伝要因解明・学際的共同研究プロジェクト」に参加した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tamura H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Kamegai J¹⁾, Minami S, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾Dept. Med., Nippon Med. Sch.): Masculinizing effect of dihydrotestosterone on growth hormone secretion is inhibited in ovariectomized rats with anterolateral deafferentation of the medial basal hypothalamus or in intact female rats. *J. Neuroendocrinol* 2000; 12: 369-375.
- 2) Chikada N¹⁾, Imaki T, Harada S¹⁾, Nakajima K¹⁾, Yoshimoto T¹⁾, Naruse M¹⁾, Demura H¹⁾, Minami S, Takano K¹⁾ (¹⁾Dept. Med., Tokyo Women's Med. Univ.): Distribution of c-fos mRNA in the brain following intracerebroventricular injection of nitric oxide (NO)-releasing compound: possible role of NO in central cardiovascular regulation. *J. Neuroendocrinol* 2000; 12: 1112-1123.
- 3) Imaki J¹⁾, Onodera H²⁾, Tsuchiya K³⁾, Imaki T, Mochizuki T³⁾, Mishima T¹⁾, Yamashita K¹⁾, Yoshida K⁴⁾, Sakai M⁵⁾ (¹⁾Dept. Anatomy, Nippon Med. Sch., ²⁾Dept. Anesthesiology, Nippon Med. Sch., ³⁾Kidney Center, Tokyo Women's Med. Univ., ⁴⁾Dept. Ophthalmol., ⁵⁾Dept. Biochem., Hokkaido Univ., Sch. Med.): Developmental expression of maf-1 messenger ribonucleic acids in rat kidney by in situ hybridization histochemistry. *Biochem. Biophys. Res. Comm* 2000; 272: 777-782.
- 4) Chikada N¹⁾, Imaki T, Harada S¹⁾, Nakajima K¹⁾, Naruse M¹⁾, Yoshimoto T¹⁾, Seki T¹⁾, Tanabe A¹⁾, Takano K¹⁾ (¹⁾Dept. Med., Tokyo Women's Med. Univ.): A defect of lipopolysaccharide (LPS)-induced nitric oxide synthase (NOS) gene expression in the paraventricular nucleus (PVN) of Lewis rats. *Endocr. J* 2000; 47: 221-229.
- 5) Imaki T, Katsumata H, Miyata M¹⁾, Naruse M²⁾, Imaki J³⁾, Minami S (¹⁾Dept. Physiol., Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾Dept. Med., Tokyo Women's Med. Univ., ³⁾Dept. Anatomy Nippon Med. Sch.): Expression of corticotropin-releasing factor (CRF), urocortin, and CRF type 1 receptors in hypothalamic-hypophyseal systems under osmotic stimulation. *J. Neuroendocrinol* 2001; 13: 328-338.
- 6) Imaki T, Tsushima T¹⁾, Hizuka N¹⁾, Odagiri E¹⁾, Murata Y¹⁾, Suda T²⁾, Takano K¹⁾ (¹⁾Dept. Med., Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾Dept. Med., Hiroasaki Univ.): Postoperative plasma cortisol levels predict long-term outcome in patients with Cushing's disease and determine which patients should be treated with pituitary irradiation after surgery. *Endocr. J* 2001; 48(1): 53-62.

- 7) 今城俊浩, 成瀬光栄¹⁾, 田辺晶代¹⁾, 原田章子¹⁾, 近田直子¹⁾, 出村 博¹⁾(¹⁾東京女子医大内科): Preclinical Cushing症候群でのコルチゾールの分泌動態の検討: ACTH依存性から自律性分泌への移行. ACTH RELATED PEPTIDES 2000; 10: 213-222.
- 8) 大岩晶子¹⁾, 今城俊浩, 成瀬光栄¹⁾, 吉本貴宣¹⁾, 原田章子¹⁾, 近田直子¹⁾, 出村 博¹⁾, 山田正三²⁾(¹⁾東京女子医大内科, ²⁾虎の門病院脳神経外科): 無症候性下垂体梗塞により臨床症状およびホルモン値の改善をみたCushing病の1例. ACTH RELATED PEPTIDES 2000; 10: 251-260.
- 9) 木村真人¹⁾, 南 史朗, 森 隆夫¹⁾, 鈴木博子¹⁾, 鈴木秀朗¹⁾, 下田健吾¹⁾, 小宅理佳子¹⁾, 木村美保¹⁾, 遠藤俊吉¹⁾(¹⁾精神医学): うつ病患者におけるデキサメサゾン: CRH負荷試験の検討. ACTH RELATED PEPTIDES 2000; 10: 89-96.
- 10) 今城俊浩, 近田直子¹⁾, 高野加寿恵¹⁾(¹⁾東京女子医大内科): 下垂体性Cushing病に対する術後放射線療法の効果: 術後の血中コルチゾール(F)濃度との関係. ACTH RELATED PEPTIDES 2000; 11: 117-123.

著 書

- 1) 今城俊浩: [分担] CRH受容体. 7回膜貫通型受容体研究の新展開(佐藤公道・赤池昭紀), 2001; pp85-89, 医歯薬出版.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 今城俊浩, 高野加寿恵¹⁾(¹⁾東京女子医大内科): ACTH産生腫瘍の長期予後: 術後内分泌検査との関連・術後放射線の効果. 第10回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2001. 2.
- 2) 今城俊浩, 笠木陽子, 勝又晴美, 小西俊一郎, 宮田麻理子¹⁾, 南 史朗(¹⁾東京女子医大第1生理学): ストレス伝達におけるCRF受容体の役割. 第78回日本生理学会大会, 2001. 3.

(2) 一般講演:

- 1) Minami S, Tokita R, Nakata T, Sakai Y, Imaki J¹⁾, Imaki T(¹⁾Dept. Anatomy, Nippon Med. Sch.): Growth hormone induces cytokine-inducible SH2 protein 3 (CIS3/SOCS3) gene expression in the rat hypothalamus. 11th International Congress of Endocrinology (Sydney), 2000. 10.
- 2) Imaki T, Tsushima T¹⁾, Hizuka N¹⁾, Odagiri E¹⁾, Murata Y¹⁾, Suda T²⁾, Takano K¹⁾(¹⁾Dept. Med., Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾Dept. Med., Hirosaki Univ. Sch. Med.): Long-term outcome of Cushing's disease following transsphenoidal surgery and pituitary irradiation after surgery. 11th International Congress of Endocrinology (Sydney), 2000. 10.
- 3) Tokita R, Imaki J¹⁾, Nakata T, Imaki T, Minami S(¹⁾Dept. Anatomy, Nippon Med. Sch.): Microinjection of dihydrotestosterone into the preoptic area masculinizes GH secretory profiles in ovariectomized rats. 11th International Congress of Endocrinology (Sydney), 2000. 10.
- 4) Miyata M¹⁾, Hayashi T¹⁾, Imaki T, Wu D²⁾, Kawakami Y¹⁾(¹⁾Dept. Physiol., Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾Dept. Genetic Develop. Biol. Univ. Connecticut Health Center): Alteration of pain responses induced by formalin test in mice lacking phospholipase C-4. 30th Annual Meeting of Society for Neuroscience (New Orleans), 2000. 10.
- 5) 南 史朗, 時田玲子, 中田朋子, 今城純子¹⁾, 小野寺英貴²⁾, 今城俊浩(¹⁾解剖学第1, ²⁾麻酔科): ラット脳内のCIS3 mRNA: 成長ホルモンによる発現調節. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 6) 今城俊浩, 勝又晴美, 時田玲子, 南 史朗: 視床下部でのCorticotropin-releasing factor 1型受容体(CRFR-1)蛋白と遺伝子の発現: 拘束ストレス及び浸透圧刺激による変化. 第73回日本内分泌学会学術総会, 2000. 6.
- 7) 時田玲子, 今城純子¹⁾, 中田朋子, 小西俊一郎, 今城俊浩, 南 史朗(¹⁾解剖学第1): アンドロゲンは視索前

- 野に作用してラットの雄型の成長ホルモン拍動性分泌を形成する．第73回日本内分泌学会学術総会，2000．6．
- 8) 南 史朗，笠木陽子，時田玲子，中田朋子，今城純子¹⁾，栄 兼作，今城俊浩⁽¹⁾解剖学第1): 成長ホルモン cytokine-inducible SH2 proteinsの発現誘導第27回日本神経内分泌学会．第27回日本神経内分泌学会，2000．10．
- 9) 今城俊浩，宮田麻理子¹⁾，勝又晴美，笠木陽子，小西俊一郎，南 史朗⁽¹⁾東京女子医大生理学): Corticotropin-releasing factor (CRF) 1型受容体 (CRFR-1) 様免疫活性のラット脳内での分布: CRFR-1 mRNAの分布との比較．第27回日本神経内分泌学会，2000．10．
- 10) 清水利康¹⁾，成瀬光栄¹⁾，田辺晶代¹⁾，安達千佳¹⁾，高木佐知子¹⁾，吉本貴宣¹⁾，関 敏郎¹⁾，今城俊浩，高野加寿恵¹⁾(¹⁾東京女子医大内科): 組織中ウロテンシンII mRNAの発現動態: 易卒中高血圧自然発症ラットと正常血圧ラットの比較．第4回日本心臓血管内分泌代謝学会総会，2000．11．
- 11) 中田朋子，横田 隆¹⁾，笠木陽子，江見 充¹⁾，南 史朗⁽¹⁾分子生物学): 甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子ELKSの発現とELKSタンパク質の解析．第23回日本分子生物学会年会，2000．12．

[分子生物学部門]

研究概要

本学部門は，日本医科大学大学院分子生物学科目であるとともに，丸子アイソトープおよび組換えDNA実験施設を兼ねている．現在26名の研究者（教職員6名，学内・学外からのポスドク・院生・研究生他20名）が日夜，本学学術フロンティア推進事業・共同研究推進センターとしてヒト疾患の病因解明と診断法の開発に取り組んでいる．

ヒトゲノムプロジェクト（文部省ゲノムサイエンス研究，文部省総合がん総括班研究）: 乳癌，肝癌，膀胱癌，甲状腺癌の検体を用いて，高頻度な異常を見出した染色体についてこれらの癌の発生進展に関わる癌抑制遺伝子の同定を目指している．原因遺伝子の存在位置を限局化し，YAC, BAC, PACなどのクローンでカバーした後，ゲノムシークエンシングを行い，エキソン予測法とcDNA発現プロファイル解析を行い，17q25.1領域からDMC1, UBE2, DMHC, SRP68, また4q21領域からJNK3A1など，種々のヒトがんにて発現消失を示す新規遺伝子をクローニングした．

ヒトDNA多型（SNP）解析プロジェクト（未来開拓研究推進事業，厚生省長寿科学研究，厚生省特定疾患）: 骨粗鬆症，高脂血症，高血圧症の候補遺伝子について，ゲノム上の数万種類のSNP=1塩基多型マーカーを用いることにより発症，進展および種々の薬剤感受性に関与する遺伝子を探索している．

乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断（文部省がん診断治療研究，同基盤(c)，厚生省がん研究助成金）: 乳癌手術5年間の追跡調査と遺伝子解析により，no（リンパ節転移陰性）乳癌，n1, 2（リンパ節転移陽性）乳癌の各々において術後予知因子となる染色体欠失を同定した．これらの結果を踏まえ，平成12年夏より癌研附属病院および長野県下の主幹病院と連携し，毎週約12症例（年間600症例）の乳癌の遺伝子診断を実施し，臨床サイドへ遺伝子診断の結果を報告している．

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Koyama M, Nagai H, Bando K, Matsumoto S, Tajiri T¹⁾, Onda M¹⁾, Ito M²⁾, Moriyama Y²⁾, Emi M⁽¹⁾ Dept. Surg. I, ²⁾ Ctr. Digest. Dis., Second Hosp.): New Target Region of Allelic Loss in Hepatocellular Carcinomas within a 1-cM Interval on Chromosome 6q23. J. Hepatol. 2000 ; 32 : 85-90 .
- 2) Iida A, Emi M, Matsuoka R¹⁾, Inazawa J²⁾, Ohashi H³⁾, Fukushima Y⁴⁾, Nakamura Y⁵⁾ (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ. , ²⁾ Tokyo Med. Dent. Univ. , ³⁾ Saitama Child. Med. Ctr. , ⁴⁾ Shinshu Univ. , ⁵⁾ IMS,

- Univ. Tokyo): Disruption in the human UVRAG/DHTX gene at 11q13.5 associated with left-right axis malformations. *Hum. Genet.* 2000 ; 106 : 277-287 .
- 3) Kitamura Y , Shimizu K¹⁾ , Tanaka S¹⁾ , Ito K²⁾ , Emi M (¹⁾Dept. Surgery II , ²⁾Ito Hosp.): Association of Allelic Loss on 1q, 4p, 7q, 9p, 9q, and 16q with Postoperative Death in Papillary Thyroid Carcinoma . *Clin. Cancer Res.* 2000 ; 6 : 1819-1825 .
 - 4) Utada Y , Emi M , Yoshimoto M¹⁾ , Kasumi F¹⁾ , Akiyama F¹⁾ , Sakamoto G¹⁾ , Haga S²⁾ , Kajiwara T²⁾ , Nakamura Y³⁾ (¹⁾Cancer Inst. , ²⁾Tokyo Women's Med. Univ. , ³⁾IMS, Univ. Tokyo): Allelic Loss at 1p34-36 Predicts Poor Prognosis in Node-negative Breast Cancer . *Clin. Cancer Res.* 2000 ; 6 : 3193-3198 .
 - 5) Matsumoto S , Minobe K , Utada Y , Furukawa K¹⁾ , Onda M¹⁾ , Sakamoto G²⁾ , Kasumi F²⁾ , Nakamura Y³⁾ , Emi M (¹⁾Dept. Surgery I , ²⁾Cancer Inst. , ³⁾IMS, Univ. Tokyo): Loss of heterozygosity at 3p24-p25 as a prognostic factor in breast cancer . *Cancer Lett.* 2000 ; 152 : 63-69 .
 - 6) Nakajima T , Iwaki K , Kodama T¹⁾ , Inazawa J²⁾ , Emi M (¹⁾Univ. Tokyo , ²⁾Tokyo Med. Dent. Univ.): Genomic structure and chromosomal mapping of the human Site-1 protease (S1P) gene . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 212-217 .
 - 7) Ogawa S¹⁾ , Hosoi T²⁾ , Shiraki M³⁾ , Orimo H²⁾ , Emi M , Muramatsu M⁴⁾ , Ouchi Y¹⁾ , Inoue S¹⁾ (¹⁾Univ. Tokyo , ²⁾Tokyo Metropol. Geriat. Hosp. , ³⁾Res. Inst. Prac. Involu. Dis. , ⁴⁾Saitama Med. Sch.): Association of Estrogen Receptor Gene Polymorphism with Bone Mineral Density . *Biochem. Biophys. Res. Comm.* 2000 ; 269 : 537-541 .
 - 8) Wu L¹⁾ , Hopkins P¹⁾ , Xin Y¹⁾ , Stephenson S¹⁾ , Williams R¹⁾ , Nobe Y , Kajita M , Nakajima T , Emi M (¹⁾Univ. Utah): Co-segregation of elevated LDL with a novel mutation (D92K) of the LDL receptor in a kindred with multiple lipoprotein abnormalities . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 154-158 .
 - 9) Yoshida K¹⁾ , Ishigami T , Nakazawa I , Ohno A¹⁾ , Tamura K¹⁾ , Fukuoka M¹⁾ , Mizushima S¹⁾ , Umemura S¹⁾ (¹⁾Yokohama City Univ.): Association of essential hypertension in elderly Japanese with I/D polymorphism of the angiotensin-converting enzyme (ACE) gene . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 294-298 .
 - 10) Nakajima T , Iwaki K , Hamakubo T¹⁾ , Kodama T¹⁾ , Emi M (¹⁾Univ. Tokyo): Genomic structure of the gene encoding human 3-hydroxy-3-methyl-glutaryl coenzyme A reductase : comparison of exon/intron organization of sterol-sensing domains among four related genes . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 284-289 .
 - 11) Ikeda K¹⁾ , Sato M¹⁾ , Tsutsumi O²⁾ , Tsuchiya F¹⁾ , Tsuneizumi M , Emi M , Imoto I³⁾ , Inazawa J³⁾ , Muramatsu M¹⁾ , Inoue S¹⁾ (¹⁾Saitama Med. Sch. , ²⁾Univ. Tokyo , ³⁾Tokyo Med. Dent. Univ.): Promoter analysis and chromosomal mapping of human EBAG9 gene . *Biochem. Biophys. Res. Comm.* 2000 ; 273 : 654-660 .
 - 12) Ogawa S¹⁾ , Emi M , Shiraki M²⁾ , Hosoi T³⁾ , Ouchi Y¹⁾ , Inoue S¹⁾ (¹⁾Univ. Tokyo , ²⁾Res. Inst. Prac. Involu. Dis. , ³⁾Tokyo Metropol. Geriat. Hosp.): Association of estrogen receptor (ESR) gene polymorphism with blood pressure . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 327-330 .
 - 13) Orimo H¹⁾ , Nakajima E¹⁾ , Yamamoto M¹⁾ , Ikejima M¹⁾ , Emi M , Shimada T¹⁾ (¹⁾Dept. Biochem.): Association between single nucleotide polymorphisms in the hMSH3 gene and sporadic colon cancer with microsatellite instability . *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 228-230 .
 - 14) Nishimine M¹⁾ , Konishi N¹⁾ , Yamamoto K¹⁾ , Nagai H , Emi M , Kirita T¹⁾ , Sugimura M¹⁾ (¹⁾Dept. Biochem.): Epigenetic alterations in methylation in oral squamous cell carcinoma cell lines detected by two-dimensional gel electrophoresis . *Int. J. Oncol.* 2000 ; 17 : 743-747 .
 - 15) Ezura Y , Chakravarti S²⁾ , Oldberg A³⁾ , Chervoneva I¹⁾ , Birk D¹⁾ (¹⁾Thomas Jefferson Univ. , ²⁾Johns Hopkins Univ. , ³⁾Univ. Lund): Differential Expression of Lumican and Fibromodulin Regulate Collagen

Fibrillogenesis in Developing Mouse Tendons . J. Cell Biol. 2000 ; 151 : 779-787 .

- 16) Utada Y , Haga S¹⁾ , Kajiwara T¹⁾ , Kasumi F²⁾ , Sakamoto G²⁾ , Nakamura Y³⁾ , Emi M (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ. , ²⁾ Cancer Inst. , ³⁾ IMS, Univ. Tokyo): Mapping of Target Regions of Allelic Loss in Primary Breast Cancers to 1-cM intervals on genomic contigs at 6q21 and 6q25. 3 . Jpn. J. Cancer Res. 2000 ; 91 : 293-300 .
- 17) Fukino K , Teramoto A¹⁾ , Adachi K¹⁾ , Takahashi H¹⁾ , Emi M (¹⁾ Dept. Neurosurg.): A family with Hydrocephalus as a Complication of Cerebellar Hemangioblastoma : Identification of Pro157Leu Mutation in the VHL Gene . J. Hum. Genet. 2000 ; 45 : 47-51 .
- 18) Tsukamoto K , Yoshida H¹⁾ , Watanabe S¹⁾ , Suzuki T¹⁾ , Miyao M²⁾ , Hosoi T²⁾ , Orimo H¹⁾ , Emi M (¹⁾ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , ²⁾ Univ. Tokyo): Association of Bone Mineral Density with Polymorphism of the Human Matrix Gla protein locus in elderly women . J. Bone. Miner. Metab. 2000 ; 18 : 27-30 .
- 19) Saeki R¹⁾ , Nagai H , Kaneko S¹⁾ , Unoura M¹⁾ , Yamanaka N²⁾ , Okamoto E²⁾ , Kobayashi K¹⁾ , Matsubara K³⁾ (¹⁾ Kanazawa Univ. , ²⁾ Hyogo Med. Coll. , ³⁾ Nara Inst. Sci. Tech.): Intratumoral Genomic Heterogeneity in Human Hepatocellular Carcinoma Detected by Restriction Landmark Genomic Scanning . J. Hepatol. 2000 ; 33 : 99-105 .
- 20) Kurose K , Mine N , Doi D¹⁾ , Ota Y¹⁾ , Yoneyama K¹⁾ , Konishi H¹⁾ , Araki T¹⁾ , Emi M (¹⁾ Dept. Obs. Gyn.): Novel Gene Fusion of COX6C at 8q22-23 to HMGIC at 12q15 in a Uterine Leiomyoma . Genes, Chrom. Cancer. 2000 ; 27 : 303-307 .
- 21) Kitamura Y , Shimizu K¹⁾ , Tanaka S¹⁾ , Ito K²⁾ , Emi M (¹⁾ Dept. Surg. , ²⁾ Ito Hosp.): Allelotyping of Anaplastic Thyroid Carcinoma : Frequent Allelic Losses on 1q, 9p, 11, 17, 19p, and 22q . Genes, Chrom. Cancer. 2000 ; 27 : 244-251 .
- 22) Nagai H , Sugiyama T¹⁾ , Yoshikawa H²⁾ , Kim Y³⁾ , Yeo S⁴⁾ , Konishi N⁵⁾ , Matsubara K⁶⁾ (¹⁾ Osaka Univ. , ²⁾ Akita Univ. , ³⁾ KIST , ⁴⁾ Kyungpook Nat. Univ. , ⁵⁾ Nara Med. Univ. , ⁶⁾ Nara Inst. Sci. Tech.): Genomic DNA analyses of Spontaneous hepatocellular carcinomas in LEC rat liver using a new technique . Oncol. Reports 2000 ; 7 : 315-318 .
- 23) Yokota T , Nakata T , Minami S , Inazawa J¹⁾ , Emi M (¹⁾ Tokyo Med. Dent. Univ.): Genomic organization and chromosomal mapping of ELKS, a gene rearranged in a papillary thyroid carcinoma . J. Hum. Genet. 2000 ; 45 : 6-11 .
- 24) Keicho N¹⁾ , Ohashi J¹⁾ , Tamiya G²⁾ , Nakata K³⁾ , Taguchi Y⁴⁾ , Azuma A⁵⁾ , Ohishi N¹⁾ , Emi M , Park M⁶⁾ , Inoko H²⁾ , Tokunaga K¹⁾ , Kudoh S⁵⁾ (¹⁾ Univ. Tokyo , ²⁾ Tokai Univ. , ³⁾ Toranomon Hosp. , ⁴⁾ Tenri Hosp. , ⁵⁾ Dept. Intern. Med. , ⁶⁾ Seoul Nat. Univ.): Fine localization of a major disease-susceptibility locus for diffuse panbronchiolitis . Am. J. Hum. Genet. 2000 ; 66 : 501-507 .
- 25) Utada Y , Haga S¹⁾ , Kajiwara T¹⁾ , Kasumi F²⁾ , Sakamoto G²⁾ , Nakamura Y³⁾ , Emi M (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ. , ²⁾ Cancer Inst. , ³⁾ IMS, Univ. Tokyo): Allelic Loss at the 8p22 Region as a Prognostic Factor in Large and Estrogen Receptor-Negative Breast Carcinomas . Cancer 2000 ; 88 : 1410-1416 .
- 26) Tsukamoto K , Orimo H¹⁾ , Hosoi T¹⁾ , Miyao M¹⁾ , Ota N , Nakajima T , Yoshida H²⁾ , Watanabe S²⁾ , Suzuki T²⁾ , Emi M (¹⁾ Univ. Tokyo , ²⁾ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol.): Association of Bone Mineral density with Polymorphism of the Human Calcium-Sensing Receptor Locus . Calcif. Tissue Int. 2000 ; 66 : 181-183 .
- 27) Ota N , Hunt S²⁾ , Nakajima T , Suzuki T³⁾ , Hosoi T³⁾ , Hosoi T³⁾ , Orimo H³⁾ , Orimo H³⁾ , Shirai Y¹⁾ , Emi M (¹⁾ Dept. Orthoped. , ²⁾ Univ. Utah , ³⁾ Tokyo Metropol. Inst. Gerontol.): Linkage of human tumor necrosis factor-alpha to human osteoporosis by sib-pair analysis . Genes, Immunity. 2000 ; 1 : 260-264 .

- 28) Miyao M¹⁾, Hosoi T¹⁾, Emi M, Nakajima T, Inoue S¹⁾, Hoshino S¹⁾, Shiraki M³⁾, Orimo H¹²⁾, Ouchi Y¹²⁾ (¹⁾ Univ. Tokyo, ²⁾ Tokyo Metropol. Geriat. Hosp., ³⁾ Res. Inst. Prac. Involu. Dis.): Association of bone mineral density with a dinucleotide repeat polymorphism at the calcitonin locus. *J. Hum. Genet.* 2000 ; 45 : 346-350 .
- 29) Emi M, Hirayama T, Tsuji M¹⁾, Hata A²⁾ (¹⁾ Hokkaido Cent. Hosp., ²⁾ Asahikawa Med. Sch.): Novel mutations of the LDL Receptor Gene in Familial Hypercholesterolemia Pedigress in Hokkaido. *Lipoprot. Metab. Atherogen.* 2000 ; 1 : 48-50 .
- 30) Bando K, Nagai H, Matsumoto S, Koyama M, Kawamura N, Tajiri T¹⁾, Onda M¹⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Surg.): Identification of a 1-Mb Common Region at 16q24. 1-24. 2 Deleted in Hepatocellular Carcinoma. *Genes, Chrom. Cancer.* 2000 ; 28 : 38-44 .
- 31) Kim YS¹⁾, Yoo HS¹⁾, Lee KT¹⁾, Goh SH¹⁾, Jung HS¹⁾, Oh SW¹⁾, Baba M²⁾, Yasuda T³⁾, Matsubara K³⁾, Nagai H (¹⁾ KRIBB, ²⁾ Mie Univ., ³⁾ Osaka Univ.): Detection of genetic alterations in the human gastric cancer cell lines by two-dimensional analysis of genomic DNA. *Int. J. Oncol.* 2000 ; 17 : 297-308 .
- 32) Iwasaki H, Ota N, Nakajima T, Shinohara Y, Kodaira M, Kajita M, Emi M : Five novel single-nucleotide polymorphisms of human interferon gamma identified by sequencing the entire gene. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 32-34 .
- 33) Hirano A, Nagai H, Harada H, Terada Y, Haga S¹⁾, Kajiwara T¹⁾, Emi M (¹⁾ Tokyo Women's Med. Univ.): Nine novel single-nucleotide polymorphisms of the Intergrin beta4 gene in the Japanese population. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 35-37 .
- 34) Kajita M, Iwasaki H, Ota N, Shinohara Y, Kodaira M, Nakajima T, Emi M : Novel single nucleotide polymorphisms of the human Colony-stimulating factor 2 (CSF2) identified by sequencing entire gene. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 48-49 .
- 35) Shinohara Y, Iwasaki H, Ota N, Nakajima T, Kodaira M, Kajita M, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitasato Univ.): Novel single nucleotide polymorphisms of human nuclear factor kappa-B 2 identified by sequencing the entire gene. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 50-52 .
- 36) Nagai H, Emi M, Matsubara K¹⁾, Kim YS²⁾, Konishi N³⁾, Fujimoto J⁴⁾, Baba M⁵⁾, Pineau P⁶⁾, Buendia MA⁶⁾ (¹⁾ Nara Inst. Sci. Tech., ²⁾ KIST, ³⁾ Nara Med. Univ., ⁴⁾ Hyogo Med. Coll., ⁵⁾ Mie Univ., ⁶⁾ Inst. Pasteur): Inactivation of SSI-1, a JAK/STAT inhibitor, in human hepatocellular carcinomas, as revealed by two-dimensional electrophoresis. *J. Hepatol.* 2001 ; 34 : 416-421 .
- 37) Keicho N¹⁾, Emi M, Kajita M, Matsushita I¹⁾, Nakata K¹⁾, Azuma A²⁾, Ohishi N³⁾, Kudoh S²⁾ (¹⁾ Int. Med. Ctr. Jpn., ²⁾ Dept. Intern. Med. IV, ³⁾ Univ. Tokyo): Overestimated frequency of a possible emphysema-susceptibility allele when microsomal epoxide hydrolase is genotyped by the conventional polymerase chain reaction-based method. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 96-98 .
- 38) Kurose K, Mine N, Iida A, Araki T¹⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Obs. Gyn.): Three aberrant splicing variants of the HMGIC gene transcribed in uterine leiomyomas. *Genes, Chrom. Cancer.* 2001 ; 30 : 212-217 .
- 39) Kurose K, Araki T¹⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Obs. Gyn.): Leiomyoma of the uterus. *Cancer Res. Encyclop.* 2001 .
- 40) Harada H, Nagai H, Mine N, Terada Y, Fujiwara H, Mikami I, Tsuneizumi M, Yabe A, Miyazaki K, Yokota T, Imoto I¹⁾, Inazawa J¹⁾, Emi M (¹⁾ Tokyo Med. Dent. Univ.): Molecular cloning, tissue expression, and chromosomal assignment of a novel gene encoding a subunit of the human signal-recognition particle. *J. Hum. Genet.* 2001 ; 46 : 70-75 .
- 41) Mine N, Kurose K, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾, Nagai H, Emi M (¹⁾ Dept. Obs. Gyn.): Fusion of a Sequence from HEI10 (14q11) to the HMGIC gene at 12q15 in a Uterine Leiomyoma. *Jpn. J. Cancer Res.* 2001 ; 92 :

135-139 .

- 42) Harada H , Nagai H , Tsuneizumi M , Mikami I , Sugano S¹⁾ , Emi M (¹⁾IMS, Univ. Tokyo): Identification of DMC1, a novel gene in the TOC region on 17q25. 1, that shows loss of expression in multiple human cancers . J. Hum. Genet. 2001 ; 46 : 90-95 .
- 43) Gemma A¹⁾ , Seike Y¹⁾ , Seike M¹⁾ , Uematsu K¹⁾ , Kurimoto F¹⁾ , Hibino S¹⁾ , Yoshimura A¹⁾ , Shibuya M¹⁾ , Kudoh S¹⁾ , Emi M (¹⁾Dept. Intern. Med. IV): Genomic Structure of the Human MAD2 Gene and Mutation Analysis in Human Breast and Lung Cancers . Lung Cancer. 2001 ; 32 : 289-295 .
- 44) Mikami I , Harada H , Nagai H , Tsuneizumi M , Nobe Y , Koizumi K¹⁾ , Sugano S²⁾ , Tanaka S¹⁾ , Emi M (¹⁾Dept. Surg. II , ²⁾IMS, Univ. Tokyo): Down-regulation in multiple human cancers of a novel gene, DMHC from 17q25. 1 that encodes an integral membrane protein . Jpn. J. Cancer Res. 2001 ; 92 : 1-6 .
- 45) Hirano A , Utada Y , Haga S¹⁾ , Kajiwara T¹⁾ , Sakamoto G²⁾ , Kasumi F²⁾ , Nakamura Y³⁾ , Emi M (¹⁾Tokyo Women's Med. Univ. , ²⁾Cancer Inst. , ³⁾IMS, Univ. Tokyo): Allelic Losses as Prognostic Markers for Breast Cancers . Int. J. Clin. Oncol. 2001 ; 6 : 6-12 .
- 46) Hirano A , Emi M , Tsuneizumi M , Utada Y , Yoshimoto M¹⁾ , Kasumi F¹⁾ , Akiyama F¹⁾ , Sakamoto G¹⁾ , Haga S²⁾ , Kajiwara T²⁾ , Nakamura Y³⁾ (¹⁾Cancer Inst. , ²⁾Tokyo Women's Med. Univ. , ³⁾IMS, Univ. Tokyo): Allelic Losses of loci at 3p25. 1, 8p22, 13q12, 17p13. 3 and 22q13 Correlate with Postoperative Recurrence in Breast Cancer . Clin. Cancer Res. 2001 ; 7 : 876-882 .
- 47) Ota N , Nakajima T , Suzuki T²⁾ , Hosoi T²⁾ , Orimo H²⁾ , Inoue S³⁾ , Shirai Y¹⁾ , Emi M (¹⁾Dept. Orthoped. , ²⁾Tokyo Metropol. Inst. Gerontol. , ³⁾Univ. Tokyo): A nucleotide variant in the promoter region of the interleukin-6 gene associated with decreased bone-mineral density . J. Hum. Genet. 2001 ; 46 : 267-272 .
- 48) Yokota T , Nagai H , Harada H , Mine N , Terada Y , Fujiwara H , Yabe A , Miyazaki K , Emi M : Identification, tissue expression, and chromosomal position of a novel gene encoding human ubiquitin-conjugating enzyme E2-230k . Gene 2001 ; 267 : 95-100 .
- 49) Nakazawa I , Nakajima T , Ishigami T¹⁾ , Umemura S¹⁾ , Emi M (¹⁾Yokohama City Univ.): Human calcitonin receptor-like receptor for Adrenomedullin : genomic structure, eight single nucleotide polymorphisms, and haplotype analysis . J. Hum. Genet. 2001 ; 46 : 132-136 .
- 50) Hirano A , Nagai H , Harada H , Haga S¹⁾ , Kajiwara T¹⁾ , Emi M (¹⁾Tokyo Women's Med. Univ.): Two novel single-nucleotide polymorphisms of the Caspase-9 (CASP9) gene in the Japanese population . Genes, Immunity. 2001 ; 2 : 117-118 .

(2) 総説 :

- 1) 永井尚生 , 原田晴仁 , 江見 充 : 癌遺伝子・癌抑制遺伝子 (特集 : 乳癌の診断と治療). 日本臨牀 2000 ; 58 : 25-29 .
- 2) 歌田貴仁 , 江見 充 : 染色体欠失の遺伝子診断 (特集 : 乳癌の診断と治療). 日本臨牀 2000 ; 58 : 473-477 .
- 3) 原田晴仁 , 永井尚生 , 江見 充 : 乳癌悪性度の遺伝子診断 (特集 : 乳癌診療の最前線). 癌の臨床 2000 ; 46 : 485-490 .
- 4) 平野 明 , 峯 伸也 , 藤原博通 , 江見 充 : 性ホルモン依存性癌 (特集 : 老化とエストロゲン). Geriatric Medicine 2000 ; 38 : 627-631 .
- 5) 永井尚生 , 江見 充 : 遺伝性手掌足底角化異常症 (特集 : 遺伝性腫瘍症II). 日本臨牀 2000 ; 58 : 141-144 .
- 6) 平野 明 , 歌田貴仁 , 霞富士雄¹⁾ , 中村祐輔²⁾ , 江見 充 (¹⁾癌研・乳腺外科 , ²⁾東大・医科研): 乳癌術後再発の遺伝子診断 (特集 : DNA マイクロアレイのがん医療への応用). 血液・腫瘍科 2000 ; 41 : 134-139 .
- 7) 峯 伸也 , 北村 裕 , 江見 充 : 子宮筋腫 , 甲状腺乳頭癌における融合遺伝子異常 . (特集 : 融合遺伝子と癌化機構). Molecular Medicine 2000 ; 37 : 806-812 .

- 8) 中島敏晶, 江見 充: 高脂血症.(特集: ポストゲノム心血管病I). 分子心血管病 2000; 1: 67-74.
- 9) 永井尚生, 原田晴仁, 江見 充: がん: 遺伝的機構と遺伝医学.(特集: ゲノム時代の遺伝医学). Molecular Medicine 2000; 37: 1268-1279.
- 10) 三上巖, 永井尚生, 原田晴仁, 江見 充: 単一塩基多型解析法と遺伝性腫瘍への応用.(特集: 遺伝性腫瘍症I). 日本臨牀 2000; 58: 34-38.
- 11) 常泉道子, 江見 充: 乳癌における再発の遺伝子診断. 乳癌の臨床 2000; 15: 512-518.
- 12) 中島敏晶, 江見 充: ゲノム研究の現況 最新・分子動脈硬化学. メディカルレビュー社 2000; 1: 199-207.
- 13) 江面陽一, 江見 充: 慢性関節リウマチに伴う骨粗鬆症における遺伝子マーカーの意義(特集: リウマチと骨粗鬆症). CLINICAL CALCIUM 2001; 11: 60-63.

著 書

- 1) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 江見 充: [分担] 新女性医学体系(特集: 28. 遺伝の基礎と臨床). がんと遺伝子, 2000; pp271-280, 中山書店.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) Emi M, Hirano A, Tsuneizumi M, Mikami I, Nagahata T, Nakamura Y¹⁾(¹⁾IMS, Univ. Tokyo): Molecular Diagnosis of Breast and Thyroid Cancer. The 3rd HUGO Pacific Meeting and the 4th Asia-Pacific Conference on Human Genetics (Shanghai), 2000. 10.
- 2) 江見 充, 常泉道子: 乳癌の遺伝子診断. 静岡県乳癌研究会, 2000. 1.
- 3) 江見 充: 乳癌予後と遺伝子との相関. 第57回癌研究会乳癌臨床研究会, 2000. 7.
- 4) 江見 充: 組換えDNA実験の初歩. 第10回人類遺伝学会・遺伝医学セミナー, 2000. 9.
- 5) 江見 充, 霞富士雄¹⁾, 伊藤公一²⁾, 中村祐輔³⁾(¹⁾癌研・病院, ²⁾伊藤病院, ³⁾東大・医科研・ヒトゲノム): 乳癌・甲状腺癌予後のDNA診断. 第59回日本癌学会, 2000. 10.

(2) 一般講演:

- 1) Nagai H, Mine N, Mikami I, Fujiwara H, Terada Y, Miyazaki K, Yabe A, Kajita M, Yokota T, Harada H, Iida A, Sugano S¹⁾, Emi M (¹⁾IMS, Univ. Tokyo): Isolation of novel candidate genes in TOC region at 17q25. 1. The 92nd AACR (New Orleans), 2000. 3.
- 2) Hirano A, Haga S¹⁾, Utada Y, Kasumi F²⁾, Sakamoto G²⁾, Imamura H¹⁾, Watanabe O¹⁾, Kinoshita J¹⁾, Kajiwara T¹⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (¹⁾Tokyo Women's Med. Univ., ²⁾Cancer Inst., ³⁾IMS, Univ. Tokyo): Allelic Losses of 3p25. 1, 8p22, 13q12, 17p13. 3 and 22q13 Loci Correlate with Postoperative Recurrence in Breast Cancer. The 92nd AACR (New Orleans), 2000. 3.
- 3) Emi M, Hirano A, Tsuneizumi M, Nagahata T, Mikami I, Kasumi F¹⁾, Nakamura Y²⁾(¹⁾Cancer Inst., ²⁾IMS, Univ. Tokyo): Genomic alteration as prognostic markers in breast and thyroid cancer. 5th Joint Conference of the American Association for Cancer Research and the Japanese Cancer Association (Maui), 2001. 2.
- 4) 平野 明, 芳賀駿介¹⁾, 歌田貴仁, 霞富士雄²⁾, 坂元吾偉³⁾, 梶原哲郎¹⁾, 中村祐輔⁴⁾, 江見 充(¹⁾東京女子医大・二病・外科, ²⁾癌研・乳腺外科, ³⁾癌研・乳腺病理, ⁴⁾東大・医科研・ヒトゲノム): 乳癌の予後因子としての染色体欠失. 第101回日本外科学会, 2000. 4.
- 5) 小山雅章, 永井尚生, 伊藤正秀¹⁾, 江見 充, 森山雄吉¹⁾(¹⁾第二病院・消化器病センター): 肝細胞癌における第16番染色体短腕上の共通欠失領域の同定. 第86回日本消化器病学会総会, 2000. 4.
- 6) 平野 明, 常泉道子, 歌田貴仁, 芳賀駿介¹⁾, 梶原哲郎¹⁾, 霞富士雄²⁾, 坂元吾偉³⁾, 中村祐輔⁴⁾, 江見 充

- (¹東京女子医大・二病・外科,²癌研・乳腺外科,³癌研・乳腺病理,⁴東大・医科研・ヒトゲノム): 乳癌におけるヒト染色体6q25.3領域のゲノム異常解析. 第8回日本乳癌学会総会, 2000. 5.
- 7) 歌田貴仁, 芳賀駿介¹), 梶原哲郎¹), 横田 隆, 平野 明, 吉本賢隆²), 霞富士雄²), 秋山 太³), 坂元吾偉³), 中村祐輔⁴), 江見 充(¹東京女子医大・二病・外科,²癌研・乳腺外科,³癌研・乳腺病理,⁴東大・医科研・ヒトゲノム): 第8番染色体短腕(8p22)のLOHによる乳癌予後診断. 第8回日本乳癌学会総会, 2000. 5.
- 8) 常泉道子, 原田晴仁, 三上 巖, 数井暉久¹), 江見 充(¹浜松医大・一外): cDNA プロファイリングによる新規癌関連候補遺伝子の検索. 第8回日本乳癌学会総会, 2000. 5.
- 9) 小川純人¹), 星野眞二郎¹), 細井孝之¹²), 白木正孝³), 折茂 肇²), 江見 充, 井上 聡¹), 大内耐義¹)(¹東大・加齢医学,²東京都老人医療セ,³成人病診療研究所): エストロゲン受容体 (ER) 遺伝子多型の骨量に及ぼす影響. 第18回日本骨代謝学会, 2000. 7.
- 10) 平野 明, 歌田貴仁, 永井尚生, 芳賀駿介¹), 梶原哲郎¹), 霞富士雄²), 坂元吾偉³), 江見 充(¹東京女子医大・二病・外科,²癌研・乳腺外科,³癌研・乳腺病理): 乳癌における6q25.3領域のゲノム解析. 第10回乳癌基礎研究会, 2000. 8.
- 11) 江見 充, 島田 隆¹)(¹生化学第2): 遺伝子解析研究の倫理対応: 遺伝子診断と遺伝子研究の区分化. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 12) 永井尚生, 寺田淑恵, 峯 伸也, 藤原博通, 宮崎久美, 矢部 彩, 梶田満子, 横田 隆, 原田晴仁, 江見 充: ゲノムシークエンスによる第4番染色体長腕の肝癌関連遺伝子. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 13) 原田晴仁, 三上 巖, 常泉道子, 菅野純夫¹), 永井尚生, 江見 充(¹東大・医科研・癌ウイルス): 癌細胞株におけるTOC (Tylosis with oesophageal cancer) (17q25) ESTの発現異常の検討. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 14) 岩崎公典, 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 梶田満子, 井上 聡¹), 細井孝之²), 鈴木隆雄²), 中島敏晶³), 井ノ上逸朗³), 江見 充(¹東大・老年科,²東京都老人総合研,³東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨量規定候補遺伝子のSNPの解析. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 15) 吉田祥子, 吹野晃一¹), 足立好司¹), 原田晴仁, 永井尚生, 寺本 明¹), 江見 充(¹脳神経外科): 脳腫瘍株で発現消失したJNK3A1遺伝子のゲノムの構造解析. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 16) 梶田満子, 岩崎公典, 中島敏晶¹), 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 井ノ上逸朗¹), 江見 充(¹東大・医科研・ゲノム情報応用): 一塩基伸長によるSNPタイピング法の検討. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 17) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 小西英喜¹), 荒木 勤¹), 永井尚生, 江見 充(¹産婦人科学): 子宮平滑筋腫における高頻度なHMGI-Cの遺伝子融合異常. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 18) 三上 巖, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 小泉 潔¹), 田中茂夫¹), 菅野純夫²), 江見 充(¹外科学第2,²東大・医科研・癌ウイルス): 癌細胞株を用いたEST発現解析による17q25上の新規癌関連候補遺伝子のクローニング. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 19) 常泉道子, 永井尚生, 原田晴仁, 井本逸勢¹), 稲澤譲治¹), 井上 聡²), 数井暉久³), 江見 充(¹東京医歯大・難治研,²東大・老年科,³浜松医大・一外): ヒトEBAG9遺伝子の構造解析および癌細胞株や乳癌における遺伝子異常の検討. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 20) 藤原博通, 永井尚生, 井本逸勢¹), 稲澤譲治¹), 大垣憲司²), 羽瀧友則³), 小川 修⁴), 秋元成太²), 江見 充(¹東京医歯大・難治研,²泌尿器科,³秋田大・泌,⁴京都大・泌): 膀胱癌細胞株における9q32上1cMのホモ接合性欠失領域の同定化. 第10回メディカルジェネティクス研究会, 2000. 9.
- 21) 寺田淑恵, 永井尚生, 井本逸勢¹), 稲澤譲治¹), 桃井真理子²), 坂東功一, 田尻 孝³), 恩田昌彦³), 江見 充(¹東京医歯大・難治研,²自治医大・小児科,³第一外科): 小児肝腫瘍における染色体4番長腕のintestinal

- deletionの分子解析．第10回メディカルジェネティクス研究会，2000．9．
- 22) 太田信孝，中島敏晶¹⁾，鈴木隆雄²⁾，吉田英世²⁾，細井孝之³⁾，折茂 肇⁴⁾，白井康正⁵⁾，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，²⁾都老人研・疫学，³⁾都老人医療センター，⁴⁾都老人研): 骨粗鬆症のTNFA遺伝子座におけるsib-pair解析．第10回メディカルジェネティクス研究会，2000．9．
 - 23) 仲沢一郎，中島敏晶¹⁾，石上友章²⁾，原田晴仁，永井尚生，梅村 敏²⁾，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，²⁾横浜市大・第二内科): アドレノメデュリン受容体構成遺伝子群のSNPs解析．第10回メディカルジェネティクス研究会，2000．9．
 - 24) 仲沢一郎，中島敏晶¹⁾，原田晴仁，永井尚生，梅村 敏²⁾，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，²⁾横浜市大・第二内科): Tissue-Type Plasminogen Activator (TPA) 遺伝子上のSNPsとAlu挿入欠失多型．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 25) 篠原靖智，岩崎公典，太田信孝，小平美奈，梶田満子，中島敏晶¹⁾，井ノ上逸朗¹⁾，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): ゲノムシーケンスによる骨粗鬆症候補遺伝子のSNPの検出．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 26) 阿竹智子，岩崎公典，梶田満子，篠原靖智，中島敏晶¹⁾，原田晴仁，永井尚生，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): Gene Scanを用いたSNP解析の条件検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 27) 古口智子，永井尚生，峯 伸也，藤原博通，寺田淑恵，宮崎久美，矢部 彩，阿竹智子，横田 隆，坂東功一，江見 充: 肝臓における4q21欠失領域のゲノムシーケンシング．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 28) 小平美奈，岩崎公典，篠原靖智，梶田満子，中島敏晶¹⁾，原田晴仁，永井尚生，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 新鮮および凍結した全血からのDNA抽出における溶媒層分画法と疎水カラム法の比較．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 29) 矢部 彩，永井尚生，寺田淑恵，峯 伸也，宮崎久美，古口智子，阿竹智子，藤原博通，横田 隆，江見 充: 17q25.1上のTOC (Tylosis with oesophageal cancer) 原因遺伝子領域のゲノムシーケンシング．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 30) 坂東功一，永井尚生，寺田淑恵，松本智司¹⁾，田尻 孝¹⁾，恩田昌彦¹⁾，江見 充⁽¹⁾外科第1): 肝臓における第16番染色体長腕の欠失地図の作製．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 31) 北村 裕，清水一雄²⁾，伊藤公一³⁾，高橋真佐司¹⁾，田中茂夫²⁾，江見 充⁽¹⁾湯河原厚生年金病院・外科): 甲状腺濾胞癌における染色体欠失と術後予後．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 32) 長嶋武光，永井尚生，土屋真一¹⁾，霞富士雄²⁾，江見 充⁽¹⁾長野県がん検診セ，²⁾癌研・病院): 乳癌術後予後の病理遺伝子診断システムの構築．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 33) 小山雅章，永井尚生，伊藤正秀¹⁾，森山雄吉¹⁾，江見 充⁽¹⁾第二病院・消化器病センター): 大腸癌におけるDPC4/SMAD4遺伝子の分子生物学的検討．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 34) 野辺由紀子，梶田満子，江見 充，Hopkins P¹⁾(¹⁾ユタ大学): 高脂血症大家系内の多様な表現型への修飾遺伝子の関与．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 35) 太田信孝，中島敏晶¹⁾，鈴木隆雄²⁾，吉田英世²⁾，細井孝之⁴⁾，折茂 肇⁴⁾，白井康正⁵⁾，江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，²⁾都老人研・疫学，³⁾都老人医療センター・内分泌内科，⁴⁾都老人研，⁵⁾整形外科): sib-pair解析による骨粗鬆症の原因遺伝子座の同定．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 36) 平野 明，永井尚生，原田晴仁，芳賀駿介¹⁾，梶原哲郎¹⁾，江見 充⁽¹⁾東京女子医大・二病・外科): インテグリン 4遺伝子におけるアミノ酸置換を伴う一塩基多型 (SNPs) の同定．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．
 - 37) 寺田淑恵，永井尚生，井本逸勢¹⁾，稲澤譲治¹⁾，桃井真理子²⁾，坂東功一，田尻 孝³⁾，恩田昌彦³⁾，江見 充⁽¹⁾東京医歯大・難治研，²⁾自治医大・小児科，³⁾外科第一): 小児肝腫瘍における遺伝子異常の解析．第68回日本医科大学医学会総会，2000．9．

- 38) 藤原博通, 永井尚生, 井本逸勢¹⁾, 稲澤譲治¹⁾, 大垣憲司²⁾, 羽瀨友則³⁾, 小川 修⁴⁾, 秋元成太²⁾, 江見 充 (¹⁾東京医歯大・難治研, ²⁾泌尿器科, ³⁾秋田大・泌, ⁴⁾京都大・泌): 膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失領域の9q32上1cMへの限定化. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 39) 常泉道子, 永井尚生, 原田晴仁, 井本逸勢¹⁾, 稲澤譲治¹⁾, 井上 聡²⁾, 数井暉久³⁾, 江見 充 (¹⁾東京医歯大・難治研, ²⁾東大・老年科, ³⁾浜松医大・一外): 乳癌におけるEBAG9遺伝子の異常. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 40) 三上 巖, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 小泉 潔¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 菅野純夫²⁾, 江見 充 (¹⁾第二外科学, ²⁾東大・医科研・癌ウイルス): Cell lineを用いたEST発現解析において発現異常を呈する17q25上の新規癌関連候補遺伝子の単離. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 41) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小西英喜¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 永井尚生, 江見 充 (¹⁾産婦人科学): 子宮平滑筋腫に新たに見い出されたHMGIC遺伝子との遺伝子融合. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 42) 梶田満子, 岩崎公典, 中島敏晶¹⁾, 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 井ノ上逸朗¹⁾, 江見 充 (¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 塩基伸長法による骨粗鬆症候補遺伝子SNPタイピングの検討. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 43) 横田 隆, 永井尚生, 原田晴仁, 峯 伸也, 宮崎久美, 矢部 彩, 久吉隆郎¹⁾, 日置正文¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充 (¹⁾外科第2): 食道癌および乳癌に関わる17q25. 1のTOC領域からの新規ヒトユビキチン代謝酵素遺伝子の単離. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 44) 吉田祥子, 吹野晃一, 足立好司¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 原田晴仁, 永井尚生, 寺本 明¹⁾, 江見 充 (¹⁾脳神経外科): 脳腫瘍株におけるJNK3A1遺伝子のゲノムの構造と発現解析. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 45) 岩崎公典, 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 梶田満子, 井上 聡¹⁾, 細井孝之²⁾, 鈴木隆雄²⁾, 中島敏晶³⁾, 井ノ上逸朗³⁾, 江見 充 (¹⁾東大・老年科, ²⁾都老人総合研, ³⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨粗鬆症候補遺伝子のSNPによる解析. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 46) 原田晴仁, 三上 巖, 常泉道子, 吹野晃一¹⁾, 永井尚生, 江見 充 (¹⁾脳神経外科): cDNAプロファイリングによるTOC (Tylosis with oesophageal cancer) 領域 (17q25) の新規癌関連遺伝子の検索. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 47) 永井尚生, 峯 伸也, 寺田淑恵, 藤原博通, 宮崎久美, 矢部 彩, 梶田満子, 古口智子, 阿竹智子, 横田 隆, 原田晴仁, 江見 充: 第4番染色体長腕の肝癌関連遺伝子の検索. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 48) 江見 充, 島田 隆¹⁾ (¹⁾生化第2): 遺伝子解析研究の倫理対応Δ遺伝子診断と遺伝子研究の差別化. 第68回日本医科大学医学学会総会, 2000. 9.
- 49) 永井尚生, 峯 伸也, 藤原博通, 寺田淑恵, 宮崎久美, 矢部 彩, 梶田満子, 横田 隆, 原田晴仁, 江見 充: 4q21領域のゲノムシーケンシングによる肝癌関連遺伝子の検索. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 50) 平野 明, 歌田貴仁, 永井尚生, 芳賀駿介¹⁾, 梶原哲郎¹⁾, 霞富士雄²⁾, 坂元吾偉³⁾, 江見 充 (¹⁾東京女子医大・二病・外科, ²⁾癌研・乳腺外科, ³⁾癌研・乳腺病理): 乳癌における6q25. 3のゲノム解析と遺伝子単離. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 51) 小山雅章, 永井尚生, 伊藤正秀¹⁾, 江見 充, 森山雄吉¹⁾ (¹⁾第二病院消化器病センター): 大腸癌におけるSMAD4遺伝子のゲノム解析. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 52) 横田 隆, 永井尚生, 原田晴仁, 峯 伸也, 宮崎久美, 矢部 彩, 江見 充: 17q25. 1のTOC領域からの新しいユビキチン代謝酵素遺伝子の単離. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 53) 原田晴仁, 常泉道子, 三上 巖, 永井尚生, 菅野純夫¹⁾, 江見 充 (¹⁾東大・医科研・癌ウイルス): cDNAプロファイリングによるTOC (Tylosis with oesophageal cancer) 領域 (17q25) の新規癌関連遺伝子の単離. 第59回日本癌学会, 2000. 10.

- 54) 藤原博通, 永井尚生, 大垣憲司¹⁾, 羽淵友則²⁾, 小川 修³⁾, 窪田吉信⁴⁾, 秋元成太¹⁾, 江見 充⁽¹⁾泌尿器科,
2) 秋田大・泌, 3) 京都大・泌, 4) 横浜市大・泌): 膀胱癌細胞株における9q32-33 Homozygous deletion領域からの新規癌関連遺伝子の単離. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 55) 三上 巖, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 田中茂夫¹⁾, 菅野純夫²⁾, 江見 充⁽¹⁾外科第2, ²⁾東大・医科研・癌ウイルス): 肺癌などの癌細胞株で発現異常を呈する17q25上の新規膜貫通タンパク遺伝子のクローニング. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 56) 常泉道子, 原田晴仁, 永井尚生, 井本逸勢²⁾, 稲澤譲治²⁾, 井上 聡³⁾, 数井暉久¹⁾, 江見 充⁽¹⁾浜松医大・一外, ²⁾東京医歯大・難治研, ³⁾東大・老年科): ヒトEBAG9遺伝子の構造解析および乳癌における遺伝子増幅の検討. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 57) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 土居大祐¹⁾, 太田雄治郎¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小西英喜¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 永井尚生, 江見 充⁽¹⁾産婦人科学): 子宮平滑筋腫におけるHMGI-C遺伝子との新規遺伝子融合. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 58) 弦間昭彦¹⁾, 清家正博¹⁾, 清家曜子¹⁾, 栗本太嗣¹⁾, 竹中 圭¹⁾, 植松和嗣¹⁾, 吉村明修¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 江見 充⁽¹⁾内科第4): ヒトがんにおけるM期チェックポイント関連遺伝子の異常解析. 第59回日本癌学会, 2000. 10.
- 59) 江見 充, 島田 隆¹⁾(¹⁾生化第2): 遺伝子解析研究の倫理対応ム遺伝子診断と遺伝子研究の差別化. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 60) 永井尚生, 藤原博通, 峯 伸也, 寺田淑恵, 宮崎久美, 矢部 彩, 梶田満子, 古口智子, 阿竹智子, 横田 隆, 原田晴仁, 江見 充: 4q21領域における肝癌関連遺伝子の検索. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 61) 原田晴仁, 三上 巖, 常泉道子, 菅野純夫¹⁾, 永井尚生, 江見 充⁽¹⁾東大・医科研・癌ウイルス): cDNAプロファイリングによるTOC (Tylosis with oesophageal cancer) (17q25)領域の新規癌関連遺伝子の検索. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 62) 岩崎公典, 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 梶田満子, 井上 聡¹⁾, 細井孝之²⁾, 鈴木隆雄²⁾, 中島敏晶³⁾, 井ノ上逸朗³⁾, 江見 充⁽¹⁾東大・老年科, ²⁾都老人総合研, ³⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): SNP開発による骨粗鬆症候補遺伝子の解析. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 63) 吉田祥子, 吹野晃一, 足立好司¹⁾, 原田晴仁, 永井尚生, 寺本 明¹⁾, 江見 充⁽¹⁾脳神経外科): 4q21領域のJNK3A1遺伝子構造と脳腫瘍株における発現異常. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 64) 横田 隆, 永井尚生, 原田晴仁, 峯 伸也, 宮崎久美, 矢部 彩, 久吉隆郎¹⁾, 日置正文¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 江見 充⁽¹⁾外科第2): 17q25乳癌・食道癌欠失領域のゲノムシーケンシングによる新規ヒトユビキチン代謝酵素遺伝子の単離. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 65) 梶田満子, 岩崎公典, 中島敏晶¹⁾, 太田信孝, 篠原靖智, 小平美奈, 井ノ上逸朗¹⁾, 江見 充⁽¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用): 骨粗鬆症候補遺伝子の一塩基伸長法によるSNPタイピングの検討. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 66) 峯 伸也, 黒瀬圭輔, 小西英喜¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 永井尚生, 江見 充⁽¹⁾産婦人科学): 子宮平滑筋腫の発生へのHMGI-C遺伝子融合の関与. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 67) 三上 巖, 原田晴仁, 常泉道子, 永井尚生, 小泉 潔¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 菅野純夫²⁾, 江見 充⁽¹⁾外科第2, ²⁾東大・医科研・癌ウイルス): 癌細胞株で発現異常を呈する17q25上の新規癌関連候補遺伝子の単離. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 68) 常泉道子, 永井尚生, 原田晴仁, 井本逸勢¹⁾, 稲澤譲治¹⁾, 井上 聡²⁾, 数井暉久³⁾, 江見 充⁽¹⁾東京医歯大・難治研, ²⁾東大・老年科, ³⁾浜松医大・一外): 癌細胞株と乳癌症例におけるEBAG9遺伝子の遺伝子異常の解析. 日本人類遺伝学会第45回大会, 2000. 10.
- 69) 藤原博通, 永井尚生, 井本逸勢¹⁾, 稲澤譲治¹⁾, 大垣憲司²⁾, 羽淵友則³⁾, 小川 修⁴⁾, 秋元成太²⁾, 江見 充⁽¹⁾東京医歯大・難治研, ²⁾泌尿器科, ³⁾秋田大・泌, ⁴⁾京都大・泌): 膀胱癌細胞株におけるホモ接合性欠失

領域の9q32上1cMへの限定化．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．

- 70) 寺田淑恵，永井尚生，井本逸勢¹⁾，稲澤謙治¹⁾，桃井真里子²⁾，坂東功一，田尻 孝³⁾，恩田昌彦³⁾，江見 充^(¹⁾東京医歯大・難治研，⁽²⁾自治医大・小児科，⁽³⁾外科第1)：小児にみられた肝腫瘍における染色体異常の検索．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 71) 平野 明，永井尚生，原田晴仁，芳賀駿介¹⁾，梶原哲郎¹⁾，江見 充^(¹⁾東京女子医大・二病・外科)：インテグリン 4 遺伝子の一塩基多型 (SNPs) の同定．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 72) 太田信孝，白井康正¹⁾，中島敏晶²⁾，鈴木隆雄³⁾，吉田英世³⁾，細井孝之⁴⁾，折茂 肇⁴⁾，江見 充^(¹⁾整形外科，⁽²⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，⁽³⁾都老人研・疫学，⁽⁴⁾都老人医療センター)：同胞対解析による骨粗鬆症とTNFA座の連鎖．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 73) 仲沢一郎，中島敏晶¹⁾，石上友章²⁾，原田晴仁，永井尚生，梅村 敏²⁾，江見 充^(¹⁾東大・医科研・ゲノム情報応用，⁽²⁾横浜市大・第二内科)：血圧調節因子受容体CRLRおよびRAMP2の遺伝子構造とSNP多型．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 74) 野辺由紀子，梶田満子，江見 充，Hopkins J¹⁾(⁽¹⁾ユタ大学)：高脂血症大家系内の多様な表現型への修飾遺伝子の関与．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 75) 小山雅章，永井尚生，江見 充：肝細胞癌における第16番染色体短腕上1-cM共通欠失領域の同定．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 76) 長幡武光，永井尚生，土屋真一¹⁾，霞富士雄²⁾，江見 充^(¹⁾長野県がん検診セ，⁽²⁾癌研・病院)：乳癌術後予後の病理遺伝子診断システムの構築．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 77) 北村 裕，清水一雄²⁾，伊藤公一³⁾，高橋真佐司¹⁾，田中茂夫²⁾，江見 充^(¹⁾湯河原厚生年金病院・外科，⁽²⁾第二外科，⁽³⁾伊藤病院)：甲状腺濾胞癌における染色体欠失と術後予後．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 78) 坂東功一，永井尚生，寺田淑恵，松本智司，田尻 孝¹⁾，恩田昌彦¹⁾，江見 充^(¹⁾外科第1)：肝癌における第16番染色体長腕の欠失地図の作製．日本人類遺伝学会第45回大会，2000．10．
- 79) 吹野晃一，田原重志¹⁾，山王直子¹⁾，江見 充，寺本 明¹⁾(⁽¹⁾脳神経外科)：日本人散発性下垂体腺腫におけるMEN1遺伝子の解析．第59回日本脳神経外科学会，2000．10．
- 80) 立澤孝幸¹⁾，横田 隆，吹野晃一，江見 充，門山 茂¹⁾，福谷竜太¹⁾，杉浦和朗¹⁾(⁽¹⁾東京労災病院)：家族性脊髄上位腫瘍ゲノムにおける第22番染色体長腕の欠失．第59回日本脳神経外科学会，2000．10．
- 81) 永井尚生，江見 充：肝硬変症における遺伝子及びゲノムDNA変化の解析．第4回日本肝臓学会，2000．10．
- 82) 寺田淑恵，永井尚生，坂東功一，田尻 孝¹⁾，恩田昌彦¹⁾，江見 充^(¹⁾外科第1)：小児肝腫瘍における遺伝子異常．第4回日本肝臓学会，2000．10．
- 83) 中田朋子，横田 隆，笠木陽子，江見 充，南 史朗：甲状腺乳頭癌でc-retと融合している遺伝子ELKSの発現とELKS-c-retタンパク質の解析．第23回日本分子生物学会，2000．12．

[臨床部門]

研究概要

当部門は大坂元久1名なので，以下大坂の研究テーマである．

I. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で，慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している．とくに自律神経の関連から検討している．従来は予想されていても実証できなかった自律神経の1Hz以下の揺らぎに高血圧，腎血流に関わる成分があることを発見した．これを指標として高血圧の薬物療法の新しい枠組みを考案する予定である．

II. 京大大学生理研の野間教授と心筋イオンチャンネルのモデルを考案することを目指している．この実現には高次元カオスの次元解析が必要であることが予備研究で判明した．従来は低次元にしか応用できないと考えられていた

Box-counting法を、高次元でも計算できるように拡張することに成功した (Int J Mod Phys C).

III. 心房細動の発生機序を独自に考案した相互情報量をもちいて研究している .

IV. 非線形現象に興味があり, 1999年にDNAの塩基配列のくり返し構造の1/f揺らぎについてのモデルを考案した (Physica D).

今後はDNAの進化に関するモデルについても精力的に研究する予定である .

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Osaka M, Ito N¹⁾ (¹⁾ Department of Applied Physics, School of Engineering, The University of Tokyo : Local box counting to determine fractal dimension of high-order chaos . Int J Mod Phys C 2000 ; 11 : 1519-1526 .
- 2) Shimizu S1, Osaka M, Saitoh H1, Atarashi H1, Takano T1 (¹⁾ First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School : Quantitative analysis of termination of vagally induced canine atrial fibrillation by mutual information . Jap Circ J 2001 ; 65 : 111-116 .
- 3) 大坂元久 : DNA塩基配列に見られる1/fゆらぎの生成モデル . 日臨生理会誌 2000 ; 30 : 255-258 .

(2) 総説 :

- 1) 佐方克史¹⁾, 熊谷裕生¹⁾, 大坂元久, 松浦友一¹⁾, 大島直紀¹⁾, 早川弘一²⁾, 猿田亨男¹⁾ (¹⁾ 慶応義塾大学医学部腎臓内科, ²⁾ 日本医科大学内科第1) : スペクトル解析により分析した腎交感神経活動と血圧および腎血流量との相関は, 正常血圧と高血圧ラットとで異なる . 血圧 2000 ; 7 : 663-669 .

著書

- 1) 大坂元久 : 生命現象のゆらぎ . 国際高等研究所学術出版, 2000 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大坂元久 : 時間循環血圧研究における非線形解析 . 第2回時間循環血圧研究会, 2000 . 7 .
- 2) 大坂元久 : 循環器疾患とカオス . 第10回循環器セラピューティック・フォーラム, 2000 . 10 .
- 3) 大坂元久 : 生命現象のゆらぎと複雑性 . 第7回日本時間生物学会, 2000 . 11 .

(2) シンポジウム :

- 1) 大坂元久 : 生命現象のゆらぎ . 複雑多様系シンポジウム, 2001 . 1 .

(3) 一般講演 :

- 1) Kumagai H¹⁾, Sakata K¹⁾, Osaka M, Matsuura T¹⁾, Oshima N¹⁾, Hayakawa H²⁾, Saruta T¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, ²⁾ First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School : Correlation of renal sympathetic nerve activity and blood pressure assessed by spectral analysis in conscious rats . 18th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Chicago), 2000 . 8 .
- 2) Sakata K¹⁾, Kumagai H¹⁾, Osaka M, Oshima N¹⁾, Matsuura T¹⁾, Saruta T¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine : Low-frequency components of renal sympathetic nerve activity are tightly coupled with blood pressure and renal blood flow in conscious hypertensive rats . 2000 APS Conference (Iowa), 2000 . 8 .
- 3) 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 大坂元久, 相沢瑞穂¹⁾, 阿倍純子¹⁾, 森田典成¹⁾, 林 明聡¹⁾, 大村和子¹⁾, 平山悦之¹⁾, 佐々部典子¹⁾, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科第1) : 房室結節伝

導時間変動の周波数解析 房室結節に対する自律神経活動の影響の定量化．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．

- 4) 佐方克史¹⁾，熊谷裕生¹⁾，松浦友一¹⁾，大島直紀¹⁾，猿田亨男¹⁾，大坂元久，早川弘一²⁾¹⁾慶応義塾大学医学部腎臓内科，²⁾日本医科大学内科第1：無麻酔高血圧ラットでは交感神経活動と血圧のクロススペクトルのコヒーレンスが亢進している．第64回日本循環器学会学術集会，2000．4．
- 5) 熊谷裕生¹⁾，佐方克史¹⁾，大坂元久，松浦友一¹⁾，大島直紀¹⁾，今井正樹¹⁾，早川弘一²⁾，猿田亨男¹⁾¹⁾慶応義塾大学医学部腎臓内科，²⁾日本医科大学内科第1：線形ならびに非線形解析による，腎交感神経活動と血圧および腎血流量との相関関係：正常血圧と高血圧ラットとの比較．第1回Neurocardiology Workshop，2000．7．

付 表

各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1. 平成 12 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究者代表	所属・職	交付額 (千円)	研究課題
特定領域研究(A)(1)		太田 成男	老人病研究所・教授	48,500	RNA 高次機能の分子基盤
特定領域研究(A)(2)		西野 朋子	生化学第一・助手	1,417	複合反応中心をもつ金属フラビン蛋白群の構造と機能
"		岩崎 俊雄	生化学第一・講師	1,800	古細菌コハク酸脱水素酵素複合体の構造機能解析
"		麻生 定光	老人病研究所・助教授	1,500	ジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素遺伝子由来ペプチドによる神経細胞死制御機構
特定領域研究(B)(2)		池島三与子	生化学第二・講師	9,000	MutS ヘテロダイマーによるミスマッチ認識機構の解析
"		西野 武士	生化学第一・教授	4,100	金属が関与するセンサーとスイッチのケミカルバイオロジー
"		西野 武士	生化学第一・教授	14,900	活性酸素種による遺伝子発現誘導の分子基盤
特定領域研究(C)(2)		原田 晴仁	老人病研究所・助手	6,000	細胞内代謝遺伝子の SNP 解析による動脈硬化症の遺伝解析
"		宮田 雄平	薬理学・教授	3,400	運動ニューロン生存活性をもつ RNA の構造と機能の解析
"		原田 晴仁	老人病研究所・助手	3,000	癌細胞株を用いた cDNA2 プロファイリングによる新規癌関連遺伝子の検索
"		坂本 長逸	内科学第三・教授	4,600	新規蛋白質 tomoregulin の消化器癌への作用とシグナル伝達
"		江見 充	老人病研究所・教授	12,000	体系的遺伝子異常解析に基づく乳癌・甲状腺癌の遺伝子診断法の開発
"		島田 隆	生化学第二・教授	11,000	HIV ベクターの開発
基盤研究(B)(1)一般		坂本 長逸	内科学第三・教授	8,800	EGF 様構造と follistatin 様構造から成る新規蛋白質の消化管における役割
基盤研究(B)(2)一般		西野 武士	生化学第一・教授	2,800	フリーラジカルを生成する金属フラビン酵素の構造と機能
"	"	佐久間康夫	生理学第一・教授	600	レポータ遺伝子による脳内エストロゲン受容体陽性ニューロンの同定と機能解析
"	"	長谷場 健	法医学・講師	5,200	細胞防御系ハウスキーピング酵素 Class ADH のアルコール代謝における役割
"	"	川並 汪一	老人病研究所・教授	4,200	肺の微小血管内皮細胞の cDNA 作製と特異プローブの検討
"	"	南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	9,900	サリンおよびサリン合成時の副生成物による長期的人体影響に関する研究
"	"	太田 成男	老人病研究所・教授	7,600	神経変性疾患の危険因子としてのミトコンドリアに蓄積するアルデヒド関連化合物の役割

"	"	荒木 勤	産婦人科学・教授	5,500	胎児脳のischemic preconditioningによる虚血耐性発現機構
"	"	八木 聡明	耳鼻咽喉科学・教授	3,700	前庭性眼球運動の両眼同時記録とその3次元解析
基盤研究(C)(2)一般		清水 一雄	外科学第二・教授	100	永続的甲状腺機能低下症に対する甲状腺移植の基礎的研究と臨床応用
"	"	杉本 啓治	解剖学第一・助教授	500	血管内皮細胞の伸展刺激に対する応答反応系
"	"	加藤 昌克	生理学第一・助教授	700	視床下部ペプチド含有ニューロンのレポータ遺伝子による標識と機能解析
"	"	麻生 定光	老人病研究所・助教授	1,000	ミトコンドリアの機能の低下を識別する核遺伝子の転写制御機構
"	"	浅野 健	小児科学・講師	1,000	薬剤耐性癌種に対するトポイソメラーゼ 遺伝子導入による遺伝子治療
"	"	津久井 拓	内科学第三・講師	600	ヒトパピローマウイルスを特異的に認識するT細胞の誘導とそのエピトープの解析
"	"	新井 桂子	生理学第二・講師	700	高血圧発症におけるアミロライド感受性ナトリウムチャネルの関与様式の解析
"	"	松倉 則夫	外科学第一・助教授	1,000	自家発生動物胃癌モデルを用いた胃癌遺伝子治療の研究
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	1,100	内耳自己免疫傷害性疾患の発症機序の研究
"	"	今城 純子	解剖学第一・講師	500	ラット大脳皮質におけるc-fos発現の日内変動とその発現機構
"	"	長島 隆	哲学・倫理学・助教授	700	ドイツ観念論(シェリング,ヘーゲルを中心とする)における自然哲学の研究
"	"	平野 大地	内科学第二(リウマチ科)・助手	1,300	自己免疫疾患発症の分子機構の解明およびその制御
"	"	和田 謙	内科学第三・助手	1,700	新規 follistatin 様蛋白質の各種消化管病変における機能解析
"	"	小山 雅章	外科学第一(消化器病センター)・助手	1,300	肝細胞癌の第16番染色体短腕におけるヘテロ接合性の消失(LOH)の解析
"	"	弦間 昭彦	内科学第四・講師	1,100	樹立したヒト肺癌高転移株による高転移能の機序の解明
"	"	安武 正弘	内科学第一・講師	1,100	心筋ミトコンドリアNa ⁺ /H ⁺ 交換系とCa ²⁺ イオン動態, redox状態との関連
"	"	新 博次	内科学第一・助教授	1,600	心房電気生理学的特徴におけるrenin-angiotensin系の役割
"	"	丸 栄一	生理学第二・助教授	1,100	熱性けいれんおよびてんかん焦点形成における神経ペプチドの役割に関する実験的研究
"	"	猪口 孝一	内科学第三・助教授	1,200	慢性骨髄性白血病進展に関わるアポトーシス制御遺伝子とc-kit遺伝子

"	"	清水 章	病理学第一・助手	900	同種腎移植における免疫寛容(トランス導入と移植臓器における免疫応答の特異性)
"	"	芝崎 保	生理学第二・教授	700	中枢神経系におけるCRFを中心とするストレス反応調節機構の解析
"	"	南 史朗	老人病研究所・教授	1,000	成長ホルモンの拍動性分泌におけるアンドロゲンの意義
"	"	亀谷 純	内科学第三・講師	1,700	Growth Hormone Secretagogue受容体の遺伝子発現調節
"	"	木山 輝郎	外科学第一・助手	1,500	創傷治癒におけるストレス蛋白(HSP70)の誘導と線維芽細胞活性化の調節機構
"	"	加藤 俊二	外科学第一・助手	700	抗癌剤感受性及び術後薬剤性肝障害発生の個人差と薬物解毒酵素の遺伝的個体差との関連
"	"	永井 尚生	老人病研究所・助教授	1,300	段階的肝発癌における分子機構の解析
"	"	笹島 耕二	外科学第一・助教授	700	可溶性TNFレセプターによる敗血症の病態解明と治療
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	500	悪性グリオーマ細胞における微小管蛋白の微小管阻害剤投与時の細胞内動態
"	"	小池 薫	救急医学・講師	1,300	多臓器不全の病態解明をめざした動物モデルの構築とその評価
"	"	坂本 篤裕	麻酔科学・助教授	700	一酸化窒素および一酸化炭素変動からみたショック時の循環系変動とその対策
"	"	木村 剛	泌尿器科学・助教授	1,200	ホルモン不応性前立腺癌の細胞増殖因子の究明
"	"	近藤 幸尋	泌尿器科学・助教授	1,400	膀胱癌における発癌・増殖因子としてのメタロチオネインの役割の究明
"	"	米山 芳雄	産婦人科学・講師	1,700	胎児アデノシンの tumor necrosis factor-産性抑制機構の研究
"	"	澤 倫太郎	産婦人科学・講師	1,100	アデノシンによる胎児心筋の虚血耐性メモリー獲得機構
"	"	明樂 重夫	産婦人科学・講師	700	ラット胎仔視床下部CRFmRNAの感染ストレスに対する応答へのNOSの関与
"	"	鈴木 俊治	産婦人科学・講師	1,600	アデノシン作動薬による胎児脳低温の導入
"	"	ルビー・パワ ンカール	耳鼻咽喉科学・講師	1,600	アレルギー性鼻炎局所でのIgE産生DEPによるアレルギー性炎症の増悪の機序
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	900	好酸球性炎症における気道構築細胞(特に線維芽細胞)の役割について
"	"	鈴木 秀典	薬理学・助教授	1,100	神経因性疼痛に対するGDNF関連分子による治療法の開発の基礎的研究
"	"	西谷 里美	生物学・講師	900	変動環境におけるプレフォーマーションの意義:北極圏のムカゴトラノオを例として

"	"	近藤 保彦	生理学第一・助手	1,200	雌ラットの性的動機づけと嗅覚神経系による調節
"	"	折茂 英生	生化学第二・助教授	1,800	ヒト骨芽細胞におけるアルカリホスファターゼ遺伝子の脂溶性ビタミンによる発現調節
"	"	阿部 靖子	生化学第一・講師	2,000	細胞内レドックス制御機構におけるヘム結合蛋白質 HBP23 の機能解析
"	"	大野 曜吉	法医学・教授	1,600	Aconitine・Tetrodotoxin 混合投与時の生体内薬物動態の解明
"	"	真下 啓子	法医学・助手	1,700	エタノールによるミトコンドリアの融合と巨大化 培養心筋細胞を用いた数量的解析
"	"	三宅 一昌	内科学第三・助手	1,800	胃粘膜に誘導された COX2 粘膜保護作用の解析と選択的 COX2 阻害剤の影響
"	"	吾妻安良太	内科学第四・講師	1,200	間質性肺炎における血管内皮細胞接着阻止, 組織浸潤抑制による基礎的治療研究
"	"	福田 悠	病理学第一・助教授	2,900	プレオマイシン肺線維症におけるマトリックスメタロプロテアーゼ-2 の役割
"	"	五十嵐博中	内科学第二・講師	1,000	多核磁気共鳴法を用いた脳賦活時のエネルギー代謝の解明
"	"	片山 泰朗	内科学第二・教授	1,900	脳虚血耐性現象のメカニズムの解明 Caspase の関与
"	"	山本 剛	内科学第一・助手	2,300	心不全進展時における高親和性受容体, アレスチン, 及び受容体キナーゼの役割
"	"	中込 明裕	内科学第一・助手	1,300	心不全患者の単球 TNF- α 産生における CRP の関与
"	"	佐藤 直樹	内科学第一・助手	2,000	心不全進展過程における延髄のイミダゾリン1受容体と α 2アドレナリン受容体の変化
"	"	勝部 康弘	小児科学・講師	2,200	血管平滑筋における酸素感受性イオンチャンネルに関する研究
"	"	深澤 隆治	小児科学・助手	1,500	増殖因子 Neuregulin と心筋緻密層形成不全, 心筋リモデリングとの関係の解明
"	"	田島 廣之	放射線医学・助教授	2,000	致命的急性肺血栓塞栓症に対する血栓塞破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究
"	"	保坂 純郎	放射線医学・講師	500	超音波検査による下肢静脈血流および弁機能の解析 静脈疾患危険因子の同定
"	"	横室 茂樹	外科学第一・助手	900	胆管上皮の癌化に対するサイトカイン IL-6, HGF, TGF- β 1 の役割
"	"	秋丸 琥甫	外科学第二・助教授	2,500	腹膜を用いた門脈再建
"	"	寺本 明	脳神経外科学・教授	1,800	下垂体 incidentaloma の臨床・組織学的検討
"	"	山王 直子	脳神経外科学・講師	1,500	下垂体腺腫の機能分化・増殖における転写活性因子と各種受容体の相互作用に関する研究

	"	竹田 晋浩	麻酔科学・助手	1,600	ケミカルメディエーターによる延髄呼吸中枢抑制メカニズムの解明
	"	池崎 弘之	麻酔科学・助手	900	微小循環不全に対する抗炎症剤の果たす役割の解明
	"	小川 龍	麻酔科学・教授	2,300	ショック及び臓器不全発生機序における一酸化炭素ラジガルの役割
	"	石川 源	産婦人科学・助手	2,000	胎児虚血心筋における No Reflow 現象の制御
	"	百束 比古	形成外科学・教授	2,200	ケロイド, 非厚性癬痕の分子病態の解明: 無癬痕外科治療をめざし
	"	程 久美子	薬理学・助教授	1,800	ショウジョウバエをモデルとしたステロイドホルモンによるアポトーシス誘導機構の解析
萌芽的研究	"	北村 純一	内科学第二(リハビリテーション科)・講師	700	脳卒中片麻痺における運動関連脳電位の発生源のダイポール推定
	"	南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	800	妊娠出産に伴う母体側要因の研究: ドパミン及びプロスタグランジン代謝を中心として
	"	北村 伸	内科学第二・助教授	700	TH 遺伝子を導入したヒト羊膜細胞を用いたパーキンソン病に対する細胞移植治療
	"	右田 真	小児科学・講師	1,000	ヒト羊膜細胞をキャリアーとする酵素欠損症に対する遺伝子導入細胞移植治療の検討
	"	鈴木かやの	皮膚科学・助手	700	アトピー性皮膚炎のストレスによる増悪機序の神経内分泌学および免疫学的解析
	"	佐久間康夫	生理学第一・教授	1,400	トランスジェニックラットにおけるエストロゲン受容体陽性ニューロンの選択的破壊
奨励研究(A)	"	渡邊 淳	生化学第二・助手	1,000	トリプレット病におけるミスマッチ修復遺伝子の関与及び治療に関する研究
	"	藤原 正和	老人病研究所・助手	600	肺微小血管内皮細胞の分子生物学的レベルでの特徴づけ
	"	八島 正明	内科学第一・助手	500	心室細動波の光学的マッピングによる除細動至適時期の推定
	"	高木 亮	放射線医学・講師	600	脳動脈瘤破裂の予測: 多検出器型 CT を用いた瘤内血流解析
	"	小野瀬裕之	内科学第三・助手	700	甲状腺癌の増殖と転移における細胞外マトリックス・プロテオグリカンと成長因子の役割
	"	周東 祐仁	内科学第三・助手	1,000	成長ホルモン分泌促進ペプチドの視床下部における作用の解析
	"	松本 智司	外科学第一・助手	800	原発性肝癌における第4番染色体長腕の高精度欠失地図の作成
	"	太組 一郎	脳神経外科学・助手	500	脳下垂体腺腫の分泌小胞成熟過程における基礎的研究
	"	山口 文雄	脳神経外科学・講師	600	神経膠腫における dominant-negative FGFR の欠損

"	大坪 保雄	産婦人科学・助手	900	胎児脳循環自働能における一酸化窒素の意義
"	土佐眞美子	形成外科学・助手	1,100	新しい樹脂鋳型標本を用いた真皮下血管網皮弁における3次元的血管新生の研究
"	岩崎 俊雄	生化学第一・講師	1,100	一酸化窒素合成酵素活性中心の構造機能解析
"	濱田 知宏	生理学第一・助手	1,100	エストロゲンによるロードシス反射発現に伴う視床下部ニューロン興奮特性の変化
"	李 卿	衛生学・公衆衛生学・講師	900	有機リン農薬によるNK細胞及び細胞傷害性T細胞活性低下とそのメカニズム
"	横瀬 紀夫	内科学第三・助手	1,100	老化によるナチュラルキラー細胞活性の低下に関する基礎的検討
"	山口 博	内科学第二・助手	1,800	脳梗塞超急性期の灌流MRIによる脳循環動態の評価と梗塞巣および臨床症状の進展予測
"	浅井 邦也	内科学第一・助手	700	心不全進展過程における性ホルモンの役割
"	植田 高弘	小児科学・助手	1,300	NOD/SCIDマウスを用いたヒト造血幹細胞の体外増幅法の研究
"	町田 稔	放射線医学・助手	1,000	光感受性物質ヘマトポルフィリンを用いた不安定プラーク形成過程の早期検出および阻害
"	村上 隆介	放射線医学・講師	600	造影剤による急性腎不全発現に関する研究 特に血管作動性物質の関与について
"	渡辺 昌則	外科学第一(消化器病センター)・助手	600	大腸癌における線維芽細胞増殖因子グループとレセプターの発現に関する研究
"	三上 巖	外科学第二・助手	1,100	肺癌新規癌抑制遺伝子の単離
"	田原 重志	脳神経外科学・助手	1,500	脳下垂体腺腫におけるホルモンの開口分泌を制御する因子に関する基礎的研究
"	渡邊 健一	耳鼻咽喉科学・助手	1,100	誘導型一酸化窒素合成酵素阻害によるシスプラチンの蝸牛障害軽減の試み
"	中島 英逸	生化学第二・助手	1,000	インテグラーゼ活性を利用した非ウイルス性遺伝子組込みベクターの開発
"	山本 直之	解剖学第二・講師	900	中脳のゴナドトロピン放出ホルモン細胞への入力

2. 平成 12 年度科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

	研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研 究 課 題 名
1	高市 真一 生物学	基盤研究(A)	嶋田 敬三 東京都立大学	亜鉛バクテリオクロロフィルを持つ細菌の光合成機構の研究
2	高橋 秀実 微生物学・免疫学	特定領域研究(1)	内山 卓 京都大学医学部	エイズ制御のための基礎研究柱2. HIV感染症の病態と免疫
3	仁平 信 法医学	基礎研究(B)	小嶋 亨 広島大学医学部	ネットワークによる薬毒物検査法のデータベース化に関する研究
4	林田眞喜子 法医学	基礎研究(B)	小嶋 亨 広島大学医学部	ネットワークによる薬毒物検査法広島大学医学部のデータベース化に関する研究
5	太田 成男 老人病研究所	特定領域研究(C)	井原 康夫 東京大学大学院医学研究科	脳科学の先端的研究
6	江見 充 老人病研究所	特定領域研究(C)	中村 祐輔 東京大学医科研	ヒトゲノム構造解析

補助金額合計 17,500,000 円

3. 平成 12 年度厚生省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

	研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研 究 課 題 名
1	芝崎 保 生理学第二	分担	中枢性摂食異常症調査研究・中尾一和・京都大学医学部	中枢性摂食異常症に関する調査研究
2	芝崎 保 生理学第二	分担	長寿科学総合研究事業・寒川 賢治・国立循環病センター	新規ホルモン・グレリンの生理的意義と老化における役割の解明
3	福田 悠 病理学第一	分担	特定疾患対策研究事業・工藤 翔二・日本医科大学	突発性間質性肺炎の細胞分子病態に基づく疾病の病態に応じた治療法の開発研究
4	高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業・竹森 利忠・国立感染症研究所	HIV 感染予防に関する研究
5	木村 哲彦 医療管理学	主任	障害保健福祉総合研究事業	身体障害者福祉法における障害認定のあり方に関する研究
6	木村 哲彦 医療管理学	主任	厚生省精神神経疾患研究	生馬シュミレータの開発
7	木村 哲彦 医療管理学	主任	医療技術評価総合	アウトカムによるリハビリテーション病院の機能評価に関する研究開発
8	木村 哲彦 医療管理学	分担	医療技術評価総合・白井 康正・日本医科大学	腰痛の EBM
9	江見 充 老人病研究所	分担	がん研究助成金・津田 均・国立がんセンター	がんの予後因子決定および治療適応・決定のための遺伝子診断に関する研究
10	江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究・折茂 肇・東京都老人医療センター	骨粗しょう症における原因遺伝子の検索と遺伝疫学的解析
11	江見 充 老人病研究所	分担	特定疾患研究・北 徹・京都大学大学院医学研究系	原発性高脂血症調査研究

12	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究委託事業・ 荒畑喜一・国立精神神経センター	筋ジストロフィー及び関連疾患の 臨床病態解明と治療法開発に関する 研究
13	太田 成男 老人病研究所	分担	ヒトゲノム・再生医療等研究事業	脳血管障害およびパーキンソン病 の遺伝子多型の同定に関する研究
14	太田 成男 老人病研究所	分担	長寿医療研究委託事業・下方 浩 史・国立療養所中部病院・長寿医 療研究センター	老化および老年病に関する遺伝子 の分子疫学的研究
15	大庭 建三 内科学第一	分担	長寿科学総合研究事業・井藤 英 吉・東京都多摩老人医療センター	高齢者糖尿病を対象とした前向き 大規模臨床介入研究
16	及川 眞一 内科学第三	分担	特定疾患調査研究・北 徹・ 京都大学大学院	原発性高脂血症調査研究
17	及川 眞一 内科学第三	分担	健康科学総合研究事業・松澤 佑 次・大阪大学大学院	多施設共同糖尿病研究
18	工藤 翔二 内科学第四	主任	特定疾患対策臨床調査研究	びまん性肺疾患の臨床調査研究
19	工藤 翔二 内科学第四	主任	特定疾患対策重点研究事業	突発性間質性肺炎の細胞分子病態 に基づく疾病の病態に応じた治療 法の開発研究
20	吾妻安良太 内科学第四	分担	特定疾患対策重点研究事業・ 工藤 翔二・日本医科大学	突発性間質性肺炎の細胞分子病態 に基づく疾病の病態に応じた治療 法の開発研究
21	松倉 則夫 外科学第一	主任	がん研究助成金	胃がんの発生・進展に関わる要因 の把握とその診療への応用に関する 研究
22	加藤 俊二 外科学第一	分担	がん研究助成金・安井 弥・ 広島大学医学部	胃および食道の前がん性病変と発 がん感受性の分子病理学的研究
23	村上 睦美 小児科学	分担	子ども家庭総合研究事業・伊藤 拓・国立小児病院	小児難治性腎尿路疾患の病因・病 態の解明, 早期発見, 管理・治療 に関する研究
24	村上 睦美 小児科学	分担	厚生科学研究厚生省医薬安全総合 研究事業・大西 鐘壽・香川医科 大学小児科	小児薬物療法における医薬品の適 正使用の問題点の把握及び対策に 関する研究
25	大木由加志 小児科	分担	子ども家庭総合研究事業・松浦 信夫・北里大学医学部	小児糖尿病・生活習慣病の発症要 因, 治療, 予防に関する研究
26	黒澤 尚 精神医学	主任	障害保健福祉総合研究事業	精神科と他診療科との連携に関する 研究
27	岸 泰宏 精神医学	主任	障害保健福祉総合研究事業	自殺の実態および自殺予防策の検 討に関する研究
28	茨木 信博 眼科学	分担	医療技術評価総合研究事業・ 小原 喜隆・独協医科大学	科学的根拠に基づく白内障診療ガ イドラインの策定に関する研究
29	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	特定疾患対策研究研究事業	前庭機能異常調査研究
30	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	感覚器障害及び免疫・アレルギー 等研究事業・今野 昭義・千葉大 学医学部	花粉症に対する各種治療法に関する 科学的根拠を踏まえた評価研究
31	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	医療技術評価総合研究事業・馬場 廣太郎・独協医科大学	アレルギー性鼻炎の科学的根拠に 基づく医療によるガイドライン策 定に関する研究
32	ルビー・パワンカール 耳鼻咽喉科学	分担	創薬等ヒューマンサイエンス研究 事業・斉藤 博久・国立小児病院	鼻粘膜におけるマスト細胞の機能的 分化に関する研究

33	富山 俊一 耳鼻咽喉科学	分担	特定疾患対策研究研究事業・八木 聰明・日本医科大学	前庭機能異常調査研究
34	山本 保博 救急医学	主任	新興・再興感染症研究事業	大規模感染症発生時の緊急対応の あり方に関する研究
35	黒川 顕 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業・吉岡 敏治・大阪府立病院	中毒情報の自動収集, 自動提供シ ステムの構築とそのパイロットス タディ
36	横田 裕行 救急医学	分担	ヒトゲノム再生医療研究事業・ 大島 伸一・名古屋大学医学部	心停止下での臓器提供に関する提 供施設マニュアル作成
37	横田 裕行 救急医学	分担	臓器移植の社会基盤に向けての研 究	臓器移植に関する救急医の態度・ 役割・義務に関する国際比較
38	益子 邦洋 救急医学	分担	医療技術評価総合研究事業・島崎 修次・杏林大学医学部	三次救急医療施設における医療情 報データベースの基盤整備と二次 救急医療体制の確立と評価方法の 開発に関する研究
39	益子 邦洋 救急医学	分担	特別研究事業	急性心筋梗塞, 脳卒中などにおけ 効果的な診療評価指標と登録手法の 開発
40	望月 徹 救急医学	分担	新興・再興感染症研究事業・山本 保博・日本医科大学	大規模感染症発生時の緊急対応の あり方に関する研究

補助金合計額 146,124,860 円

4. 平成 12 年度その他省庁, 自治体, 財団による研究助成金等の交付状況

	研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1	佐久間康夫 生理学第一	(財)豊田理化学研究所	研究助成	ガス性化合物 NO の生体機能
2	芝崎 保 生理学第二	(財)喫煙科学研究財団	研究助成	ニコチンによる食欲抑制機序に 関する解析
3	新井 桂子 生理学第二	(財)成長科学協会	研究助成	グレリンの成長ホルモン分泌調 節およびエネルギー調節機構に おける役割
4	鈴木 秀典 薬理学	科学技術新興事業団	研究助成	抑制性シナプス可塑性の分子機 構の解明とその応用
5	高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学協力研究費	サルを用いた細胞性免疫の誘導
6	高橋 秀実 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス財 団	エイズ医薬品等開発 研究	生体内のリアルタイムの情報に 基づいた HIV ウイルス特異的 T 細胞の試験管内再構築技術の確 立
7	高橋 秀実 微生物学・免疫学	科学技術庁	戦略的基礎研究推進 事業	生体防御のメカニズム
8	木村 哲彦 医療管理学	(財)テクノエイド協会	福祉用具調査研究助 成	高齢下肢骨折患者の ADL 向上 と自立
9	江見 充 老人病研究所	日本学術新興会	未来開発学術研究	体系的 SNP 解析に基づく骨粗 しょう症発症に関する遺伝的要 因
10	勝又 俊弥 内科学第二	博慈会	研究助成	脳血管痴呆の発現メカニズムの 研究

11	猪口 孝一 内科学第三	高橋産業経済研究財団	研究助成	IFN 難治性慢性骨髄性白血病の P51, FasR 異常とシグナル伝達分子の同定
12	工藤 翔二 内科学第四	(財)日本公衆衛生協会	研究助成	大気中粒子状物質の呼吸器系に及ぼす影響に関する研究
13	工藤 翔二 内科学第四	東京都衛生局		特殊疾病の発症因子除去療法に関する研究
14	工藤 翔二 内科学第四	環境省	呼吸器系疾患健康影	東京都八丈町における調査響評価指標研究班
15	工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	喫煙と呼吸器系	肺癌発生母地としての突発性肺線維症の遺伝子不安定性解析
16	村田 朗 内科学第四	公害健康被害補償予防協会	気管支喘息等の保健指導等に関する調査研究	高齢者の気管支喘息, 気管支炎肺気腫の保健指導等に関する研究
17	村田 朗 内科学第四	医科学応用研究財団	調査研究助成	呼吸器疾患に伴って発生する咳嗽の治療効果判定のための客観的指標となる非侵襲的咬漱カウンターシステム開発研究
18	吾妻安良太 内科学第四	公害健康被害補償予防協会		大気中粒子状物質の呼吸器系に及ぼす実験的研究
19	勝部 康弘 小児科	日本心臓血圧研究振興会		動脈管に存在する酸素感受性カリウムチャンネルに関する分子生物学的研究
20	八木 聡明 耳鼻咽喉科	日本私立学校振興・共済事業団	新技術開発研究	急速眼球運動の高速度ビデオ撮影とその解析システムの開発
21	八木 聡明 耳鼻咽喉科	日本私立学校振興・共済事業団	高度化推進特別経費	自己免疫性内耳炎の病態解明
22	大久保公裕 耳鼻咽喉科	東京都衛生局医療福祉部	東京都花粉症対策	アレルギー性鼻炎の経舌下口腔粘膜減感作治療研究
23	ルビー・パワンカール 耳鼻咽喉科	Tata Reserch Foundation	Medical Reserch Grant	Epidemiology of Allergic Rhinitis
24	ルビー・パワンカール 耳鼻咽喉科	Inst. of Allergy	Epidemiological Res. Grant	Environmental Pollution and Allergy
25	山本 保博 救急医学	(財)救急振興財団	救急救命の高度化推進に関する調査研究事業	救急車の機能性, 安全性の向上に関する調査研究
26	松本 尚 救急医学	(財)救急振興財団	調査研究事業	救急事業の高度化とメディカルコントロール体制の基盤作りに関する調査研究

補助金合計額 176,398,800 円

5. 平成 12 年度各種補助金の交付状況一覧 [内訳]

(単位：千円)

項 目	平成 12 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
科学研究費補助金 交付金額		286,817	286,817
私立大学研究設備整備費補助金			
・ 研究設備	26,499	25,392	51,891
・ 情報関係設備			
計	26,499	25,392	51,891
私立学校施設整備費補助金			
・ 研究施設			
・ 研究装置	79,511	58,402	137,913
・ 教育装置	26,145	26,145	52,290
・ 学内 LAN 装置			
・ 創造教育装置(10 年度で廃止)			
・ マルチメディア装置	14,437	5,562	19,999
計	120,093	90,109	210,202
経常費補助金・特別補助 高度化推進特別経費			
・ 大学院重点特別経費	61,700	54,700	116,400
・ ティーチング・アシスタント経費	4,100	4,100	8,200
・ 教育研究交流事業費	0	705	705
・ 大学院の基盤整備	0	291,690	291,690
・ 研究機能の強化(研究基盤の充実)	0	27,651	27,651
・ " (共同研究)	68,800	68,700	137,500
・ リサーチ・アシスタント, ポスト・ドクター支援経費	37,800	37,800	75,600
・ 研究施設・設備等の運営(研究所等)	2,721	27,600	30,321
・ " (大型設備等)	5,279	4,900	10,179
情報化推進特別経費			
・ 情報処理関係設備(借入)	9,668	9,660	19,328
・ 教育学術情報ネットワーク	14,575	14,500	29,075
・ 教育研究用ソフトウェア	2,487	2,450	4,937
・ 教育学術情報データベース等の開発	10,000	10,000	20,000
国際交流特別経費			
・ 外国人教員による教育		1,000	1,000
・ アジア諸国語教育			0
・ 外国大学等との学生・教員の交流			0
・ 海外研修派遣	1,668	1,617	3,285
・ 外国人留学生の受入れ		5,967	5,967
大学改革推進特別経費[11 年度から組替]			
・ 大学改革推進経費	3,599	1,700	5,299
・ 特色ある教育研究	6,274	5,500	11,774
計	159,871	501,540	661,411
学術研究振興資金 総合計	10,042	5,000	15,042
総合計	316,505	908,858	1,225,363

各種補助金の交付状況一覧(内訳)(再掲)

(単位：千円)

項 目	平成 12 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
ハイテク・リサーチセンター整備事業			
文・研・設(研究設備)			
文・施・設(研究施設)			
" (研究装置)			
経常費補助金特別補助(共同研究)	20,000	20,000	40,000
計	20,000	20,000	40,000
学術フロンティア推進事業			
文・研・設(研究設備)			
経常費補助金特別補助(共同研究)	48,800	48,700	97,500
計	48,800	48,700	97,500
新技術開発研究			
経常費補助金特別補助	14,144	14,100	28,244
計	14,144	14,100	28,244
バイオベンチャー研究開発経費			
経常費補助金特別補助	20,000	20,000	40,000
計	20,000	20,000	40,000

あ と が き

本学では、今、教員選考に際しての選考資料として研究業績のみならず、教育や診療での実績を加える作業が進行中であり、近く現実化すると予想される。これは医科大学の使命である診療、教育、研究のそれぞれの面での実績を同等に評価することにもなり、好ましい動きである。現在国立大学の改革が進んでいる中、本学は私立医科大学であるという利点を生かして、国立大学医学部はもちろんのこと他の私立医科大学には無い本学の独自性を診療、教育、研究面でさらにしっかりと築いていく必要がある。このためにも多面的に評価された教員のパワーが必要である。

毎年刊行されているこの研究業績年報は研究成果を収めたものであり、本学の研究面での足跡を示している。今年度の業績集を見ても前年度よりもさらに英文原著論文が増え、依然右肩上がりが続いており、本学の研究の確実な勢いを実感することができる。

この研究業績年報には付表として文部科学省科学研究費を始めとする各種研究助成金の取得状況についてのページが組まれている。これは、原著論文の発表が研究業績の中心をなすものであるが、文部科学省科学研究費を始めとする各種研究助成金の取得も各研究者の研究業績の一部をなすものと考えられているからである。国は今年度から若手研究者の科学研究費の申請種目を二つに分け、優秀な若手研究者への助成金を増額している。これは、若手研究者の活躍に期待し、その育成を促すものと理解されるが、本学での若手研究者を対象とした奨励研究の採択件数はまだ充分とは言えない。この背景には申請件数自体の少なさがある。各種助成金の取得は、個々の研究者のみならず大学に対する評価にも繋がる。自分の研究費は自分で取得するという精神からも、大学の将来を支えたり外部へ発展する可能性を有している本学の若手研究者には、研究の質を高めることはもちろんのこと、各種研究助成金の取得にも積極的に力を注いで頂きたい。一方で、我々は、本学の若手研究者が研究面でさらに活躍、発展できる環境作りを心掛けていきたい。

研究委員会委員長 芝崎 保

平成13年 12 月 5 日 印 刷

平成13年 12 月 10 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113 8602 東京都文京区千駄木 1 1 5

T E L 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114 0024 東京都北区西ヶ原 3 46 10

T E L 03 (3910) 4 3 1 1 5